

令和 6 年度川崎市子ども・若者調査

報告書

令和 7 年 3 月

川崎市

目次

第1章 調査の概要

(1) 調査の目的	7
(2) 調査の実施方法等	7
(3) 調査項目	7
(4) 調査票の回収状況	8
(5) 前回調査の概要	9
(6) 集計の視点	10
(7) 調査結果の見方・留意点	10
(8) 標本誤差	11

第2章 0～6歳保護者に関する調査結果

第1節 保護者（世帯）の属性及び状況	15
(1) 世帯の属性	15
(2) 世帯の状況	23
(3) 保護者の最終学歴・就労状況	25
第2節 経済的困難の状況	33
(1) 世帯の所得状況	33
(2) 世帯の家計状況	37
(3) 各支援制度の利用状況	50
第3節 保護者の状況	56
(1) 保護者の精神状態や考え方	56
(2) 保護者の悩みごと	78
(3) 保護者の相談相手の有無等	87
第4節 子育ての状況	100
(1) 保護者と子どもとの関わり	100
(2) 子どもの幼児教育・保育	107

第3章 小学生・中学生の子を持つ保護者に関する調査結果

第1節 保護者（世帯）の属性及び状況	139
(1) 世帯の属性	139
(2) 世帯の状況	148
(3) 保護者の最終学歴・就労状況	154
第2節 経済的困難の状況	177
(1) 世帯の所得状況	177
(2) 世帯の家計状況	188
(3) 各支援制度の利用状況	224
第3節 保護者の状況	230
(1) 保護者の精神状態や考え方	230

（２）保護者の悩みごと	278
（３）保護者の相談相手の有無等	287
第４節 子育ての状況	312
（１）保護者と子どもとの関わり	312
（２）子どもに対する将来展望	427
（３）保護者から見た子どもの状況	466

第４章 小学生・中学生に関する調査結果

第１節 子どもの属性	507
（１）子どもの属性	507
第２節 子どもの日常生活	508
（１）基本的生活習慣	508
（２）子どもの居場所	524
（３）悩みや心配ごと、相談相手の有無	574
第３節 子どもの学校生活	584
（１）学習状況	584
（２）課外活動の状況	611
第４節 子どもの状況	618
（１）子どもの精神状態や考え方	618
（２）将来展望	713
第５節 ヤングケアラーについて	744
（１）家族の世話や家事等の状況	744
（２）ヤングケアラーの可能性	747
（３）ヤングケアラーの生活状況	750
（４）「ヤングケアラー」という言葉の認知度	766

第５章 若者（16～30歳）に関する調査結果

第１節 若者の属性	771
（１）回答者の属性	771
第２節 若者の生活	775
（１）地域活動等への参加状況	775
（２）自由時間の過ごし方	786
（３）経済的な生活状況	789
第３節 若者の意識等	796
（１）関心のあること	796
（２）進学希望	799
（３）仕事を選ぶ際に重要だと思うこと	802
（４）将来に対する考え方や自己肯定感等	820
（５）理想とする生き方	834
（６）つらい経験	838

（7）精神状態や考え方	844
（8）生活の満足度	852
（9）悩みや心配事、相談相手の有無	855
第4節 ヤングケアラー及び結婚・出産について	874
（1）ヤングケアラーについて	874
（2）結婚・出産についての考え（18歳以上が回答）	898

使用した調査票

（1）0～6歳の子を持つ親	915
（2）小学校2年生の子を持つ親	934
（3）小学校5年生の子ども	954
（4）小学校5年生の子を持つ親	968
（5）中学校2年生の子ども	988
（6）中学校2年生の子を持つ親	1002
（7）16～30歳の子ども・若者	1022

第 1 章

調査の概要

第1章 調査の概要

(1) 調査の目的

川崎市の子ども・若者や子育て家庭を対象に、生活状況や生活意識、行政に対する意識等についての調査を多面的に実施することにより、次期「川崎市子ども・若者の未来応援プラン」策定（令和7年度予定）の際の基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査の実施方法等

ア 調査対象者、対象者数、配布方法等

区分	調査対象	対象者数	配布方法	回答方法
調査Ⅰ	0～6歳の子を持つ親	3,000人	郵送	インターネット
調査Ⅱ	小学校2年生の子を持つ親	3,000人	郵送	郵送またはインターネット
	小学校5年生の子ども	3,000人	郵送	郵送またはインターネット
	小学校5年生の子を持つ親	3,000人	郵送	郵送またはインターネット
	中学校2年生の子ども	3,000人	郵送	郵送またはインターネット
	中学校2年生の子を持つ親	3,000人	郵送	郵送またはインターネット
調査Ⅲ	16～30歳の子ども・若者	3,000人	郵送	インターネット

※ 対象者については、令和6年9月15日時点の川崎市住民基本台帳から無作為抽出した。

※ 調査Ⅱの対象者については、依頼状と調査票を郵送し、郵送での回答とインターネットでの回答の2つの回答手段から選択してもらった。

※ 調査Ⅱのうち、小学校5年生と中学校2年生に係る調査については、親と子は同一世帯を対象とした。

イ 調査期間

令和6年11月22日から令和7年1月7日まで

(3) 調査項目

ア 保護者に対する調査項目 ※調査Ⅰ・Ⅱ

① 基本情報

世帯人員、居住区・年数、生活状況、学歴、就労・所得状況など

② 利用施設、子育て情報 ※調査Ⅰのみ

日中の預け先、利用している子育てサービス、子育て情報など

③ 子どもの日常生活・学校生活

子どもの生活習慣、放課後の過ごし方など

④ 子どもとの関わり方や子どもの将来展望

子どもとの関わり方、希望する学歴（調査Ⅱのみ）、希望する働き方（調査Ⅱのみ）など

⑤ 子育てに関する悩みや現在の気持ち

生活や子どもの発達、将来等に関する悩み、保護者の精神状態など

イ 子ども（小５・中２）に対する調査項目 ※調査Ⅱ

① 基本情報

性別、居住区

② 日常生活・学校生活

生活習慣、学習習慣、放課後の過ごし方（居場所、部活動等の有無）など

③ 将来展望や現在の気持ち

希望する学歴、将来の夢、精神状態など

④ ヤングケアラーについて

家族の世話や家事をしているか、世話や家事の内容、生活への影響など

ウ 子ども・若者（16～30歳）に対する調査項目 ※調査Ⅲ

① 基本情報

性別、居住区、学歴

② 日常生活等

地域活動等への参加状況、生活状況など

③ 将来展望や現在の気持ち

希望する学歴、理想とする生き方や職業観、自己肯定感や現在の関心ごと、過去の経験、悩みごとの相談先、精神状態など

④ ヤングケアラーについて

家族の世話や家事をしているか、世話や家事の内容、生活への影響など

⑤ 結婚・出産に対する考え方（18歳以上）

結婚していない理由、今後持つつもりの子どもの数など

（４）調査票の回収状況

有効回答数、有効回答率は以下のとおりである。

区分	調査対象	配布数	有効回答数	有効回答率
調査Ⅰ	０～６歳の子を持つ親	３,０００人	１,９９３人	６６.４％
調査Ⅲ	１６～３０歳の子ども・若者	３,０００人	１,０７９人	３６.０％

区分	調査対象	配布数	有効回答数	親子マッチング組数 (マッチング率)
			有効回答率	
調査Ⅱ	小学校２年生の子を持つ親	３,０００人	２,０５１人	
			６８.４％	
	小学校５年生の子ども	３,０００人	１,５４７人	１,４７２組 (４９.１％)
			５１.６％	
	小学校５年生の子を持つ親	３,０００人	１,８０５人	
			６０.２％	
	中学校２年生の子ども	３,０００人	１,３８４人	１,２８４組 (４２.８％)
			４６.１％	
	中学校２年生の子を持つ親	３,０００人	１,７０６人	
			５６.９％	

(5) 前回調査の概要

ア 調査対象者、対象者数、配布方法等

区分	調査対象	対象者数	配布方法	回答方法
調査Ⅰ	0～6歳の子を持つ親	3,000人	郵送	郵送
調査Ⅱ	小学校2年生の子を持つ親	3,295人	学校配布	学校回収
	小学校5年生の子ども	3,105人	学校配布	学校回収
	小学校5年生の子を持つ親	3,105人	学校配布	学校回収
	中学校2年生の子ども	3,482人	学校配布	学校回収
	中学校2年生の子を持つ親	3,482人	学校配布	学校回収
調査Ⅲ	16～30歳の子ども・若者	3,000人	郵送	インターネット

※ 調査Ⅰ及び調査Ⅲの対象者については、令和2年10月15日時点の川崎市住民基本台帳から無作為抽出した。

※ 調査Ⅱの対象者については、区ごとに在籍数等を勘案し、無作為抽出した学校の対象学年（小学2年生、小学5年生及び中学2年生）の全学級に配布した。

※ 調査Ⅱのうち、小学校5年生と中学校2年生に係る調査については、親と子は同一世帯を対象とした。

イ 調査期間

令和2年11月16日から令和2年12月7日まで

ウ 調査票の回収状況

区分	調査対象	配布数	有効回答数	有効回答率
調査Ⅰ	0～6歳の子を持つ親	3,000人	2,223人	74.1%
調査Ⅲ	16～30歳の子ども・若者	3,000人	1,184人	39.5%

区分	調査対象	配布数	有効回答数	親子マッチング組数 (マッチング率)
			有効回答率	
調査Ⅱ	小学校2年生の子を持つ親	3,295人	2,839人	
			86.2%	
	小学校5年生の子ども	3,105人	2,638人	2,615組 (84.2%)
			85.0%	
	小学校5年生の子を持つ親	3,105人	2,633人	
			84.8%	
	中学校2年生の子ども	3,482人	2,811人	2,800組 (80.4%)
			80.7%	
	中学校2年生の子を持つ親	3,482人	2,825人	
			81.1%	

（６）集計の視点

ア 所得分類の考え方

本報告書では、世帯の年間所得合計額（いわゆる可処分所得¹）について、令和４年国民生活基礎調査による等価可処分所得²の中央値（254 万円）及び貧困線³（127 万円）を基準に、貧困線未満の等価可処分所得の世帯を「分類Ⅰ」、貧困線以上等価可処分所得の中央値未満の世帯を「分類Ⅱ」、中央値以上の等価可処分所得の世帯を「分類Ⅲ」の３つの区分に分類した。

なお、本調査における等価可処分所得の算出にあたっては、選択肢の金額に幅があるため、選択肢の中央値を平均値とし、2,000 万円以上と回答したものは一律「2,000 万円」として計算した⁴。（例えば、世帯人員が４人で、本調査で回答した年間所得合計額が「500 万円～550 万円未満」の場合、等価可処分所得は「262.5 万円」であり、「分類Ⅲ」に該当する。）

●令和４年国民生活基礎調査に基づいた所得分類

分類Ⅰ (国の貧困線未満)	分類Ⅱ (国の貧困線以上中央値未満)	分類Ⅲ (中央値以上)
127 万円未満	127 万円以上 254 万円未満	254 万円以上

（７）調査結果の見方・留意点

- ① 図表中の「n」（number of case の略）は各設問の回答者数を示し、比率算出の基数である。
- ② 図表中の「SA」（Single Answer の略）は最もあてはまる選択肢一つ選んで○をつける設問である。
- ③ 図表中の「NA」（Numerical Answer の略）は年齢や人数など、数値を直接回答する設問である。
- ④ 図表中の「MA」（Multiple Answer の略）はあてはまる選択肢すべてに○をつける設問である。
- ⑤ 図表中の「LA」（Limited Answer の略）は回答数に制限をつける設問である（「3LA」の場合は３つまで選択してもらう）。
- ⑥ 集計は百分率とし、小数点第２位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても 100.0%にならない場合がある。
- ⑦ 回答の比率（％）は、その設問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると 100.0%を超えることがある。
- ⑧ クロス集計時に、基数（n）が 50 未満の場合は、参考値とみなし該当属性に対するコメントは控え、比較対象から除外している場合がある。
- ⑨ クロス集計時に、基数（n）が 10 未満の場合は、比率が動きやすく分析には適さないため、除外している場合がある。
- ⑩ クロス集計について、分析の軸となる設問の回答の「無回答」は表示していない。また、全体は単純集計の結果から無回答を除いたものを母数としているので、分析軸に表記した回答者数の合計

¹ 可処分所得とは、収入から税金・社会保険料等を差し引き、手当等を加えた、いわゆる手取り収入をいう。

² 等価可処分所得とは、世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得をいう。

³ 国民生活基礎調査による貧困線とは、等価可処分所得の中央値の半分の額をいう。貧困線の算出方法は、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づいている。なお、貧困線を下回る等価可処分所得に該当する者の割合を相対的貧困率という。

⁴ 本調査では、アンケート調査票で世帯全体の収入額について、23 の選択肢（「50 万円未満」から「2,000 万円以上」まで。選択肢の幅は 50 万円単位（50 万円未満から 950～1,000 万円未満まで）、500 万円単位（1,000～1,500 万円未満から 2,000 万円以上まで）を設定し、いずれに該当するかを回答していただいた。

が、全体の件数と一致しないことがある。

- ⑪ 表中の記号△▼は全体の数値よりプラスマイナス5ポイント以上の差がある場合に表示しており、全体より5ポイント以上高い場合は△、5ポイント以上低い場合は▼を表示している。また、全体との差が5ポイントに満たない場合は「大きな差はみられない」としている。
- ⑫ 調査Ⅱは、前回調査と今回調査で対象者の抽出方法が違い、母集団が異なっているため、単純な比較はできない。(前回調査結果及び経年比較に関するコメントは参考として掲載)
- ⑬ 前回調査でも同様の質問を設けている場合は、今回調査の図表下に前回調査の図表を掲載し、経年変化を記載している。

(8) 標本誤差

標本誤差は回答者数と得られた結果の比率によって異なるが、無作為抽出法による場合の誤差(信頼度95%)は次の式によって得られる。

＜標本誤差算出式＞

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差 (無作為抽出法の場合)
N = 母集団全体
n = 比率算出の基数 (サンプル数)
P = 回答の比率

※Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算している。

今回の調査結果の場合、誤差及び信頼の範囲は下表のとおりであり、「ある設問の回答者数が2,000人で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は±2.19である」ということとなる。

回答比率 (P) n (回答者数)	90%又は 10%前後	80%又は 20%前後	70%又は 30%前後	60%又は 40%前後	50%前後
50	±8.49	±11.31	±12.96	±13.86	±14.14
100	±6.00	±8.00	±9.17	±9.80	±10.00
200	±4.24	±5.66	±6.48	±6.93	±7.07
500	±2.68	±3.58	±4.10	±4.38	±4.47
800	±2.12	±2.83	±3.24	±3.46	±3.54
1,000	±1.90	±2.53	±2.90	±3.10	±3.16
1,200	±1.73	±2.31	±2.65	±2.83	±2.89
1,500	±1.55	±2.07	±2.37	±2.53	±2.58
2,000	±1.34	±1.79	±2.05	±2.19	±2.24

※クロス集計時に、基数(n)が小さい数字になる場合は誤差が大きいため注意が必要である。

※ページ調整のため余白

第 2 章

0 ～ 6 歳保護者に関する調査結果

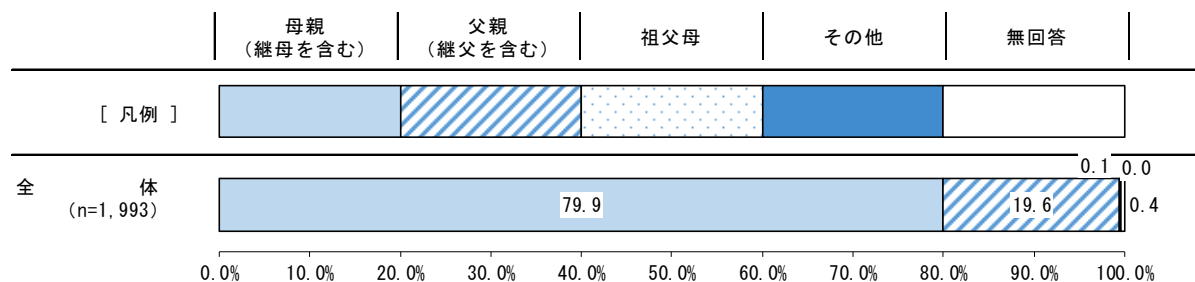
第1節 保護者（世帯）の属性及び状況

（1）世帯の属性

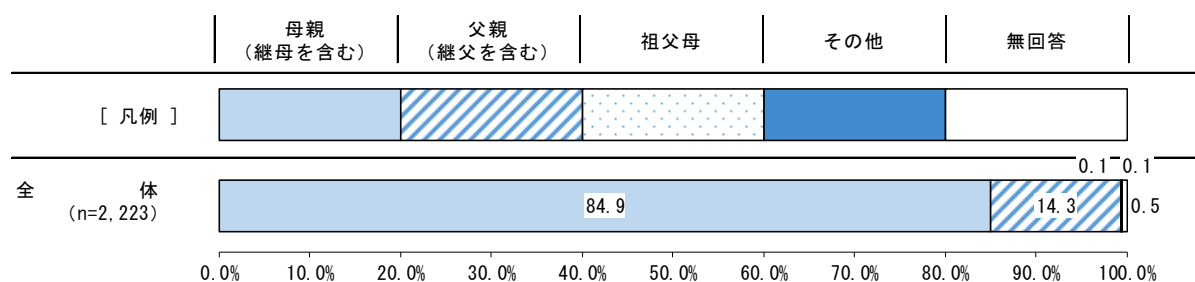
ア 回答者の属性【問21】（SA）

子どもからみた続柄を聞いたところ、「母親（継母を含む）」が79.9%で最も高くなっている。経年でみると、「母親（継母を含む）」が前回調査に比べて低く、「父親（継父を含む）」が前回調査に比べて高くなっている。

＜今回調査＞【図表 2-1 回答者の属性】



＜前回調査＞【図表 2-2 回答者の属性】

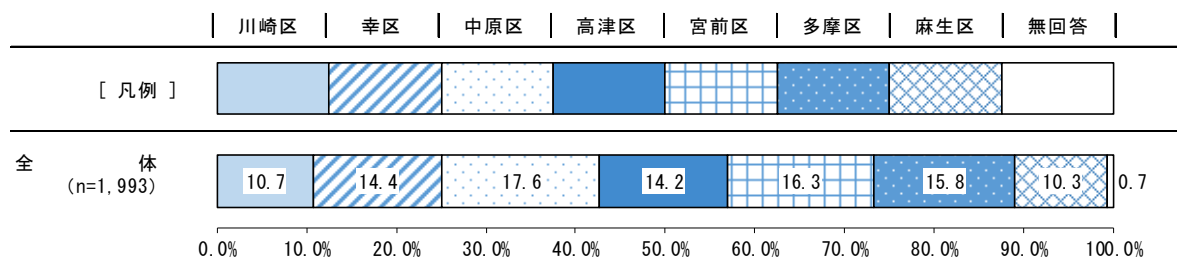


イ 居住区及び居住年数

① 居住区【問22】(SA)

居住区を聞いたところ、次のとおりとなった。

<今回調査>【図表 2-3 居住区】

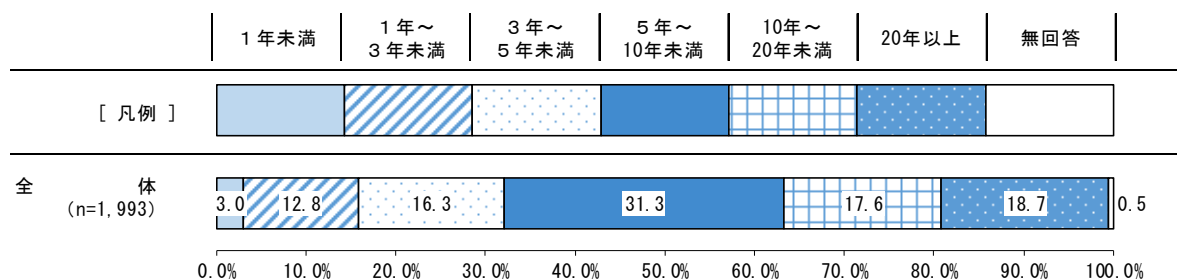


② 居住年数【問23】(SA)

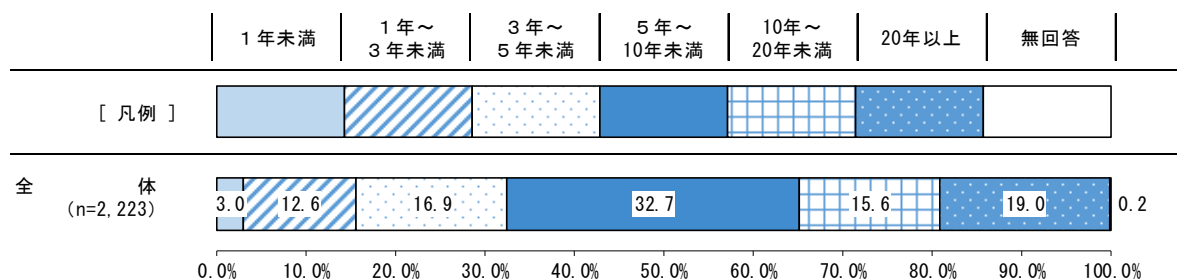
川崎市の居住年数を聞いたところ、「5年～10年未満」が31.3%で最も高く、次いで「20年以上」が18.7%、「10年～20年未満」が17.6%となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

<今回調査>【図表 2-4 居住年数】



<前回調査>【図表 2-5 居住年数】



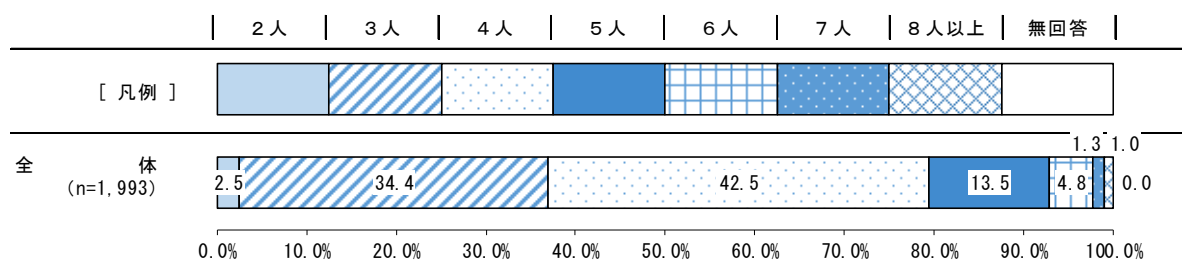
ウ 世帯構成

① 世帯人員【問25】(SA)

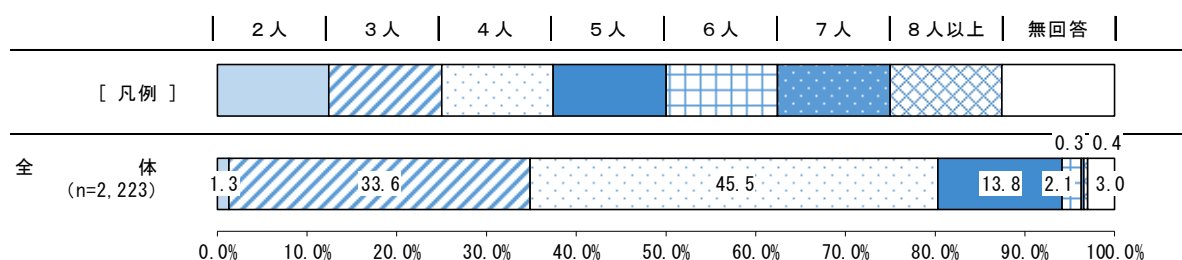
世帯人員を聞いたところ、「4人」が42.5%で最も高く、次いで「3人」が34.4%、「5人」が13.5%となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

<今回調査>【図表 2-6 世帯人員】



<前回調査>【図表 2-7 世帯人員】

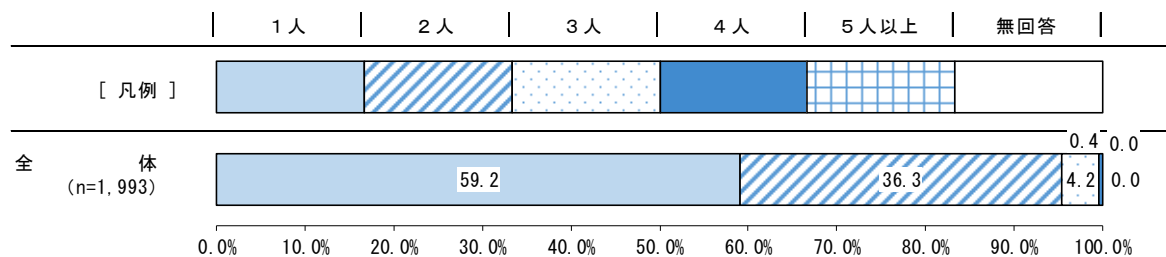


そのうち小学生未満の子どもの人数を聞いたところ、「1人」が59.2%で最も高く、次いで「2人」が36.3%、「3人」が4.2%となっている。

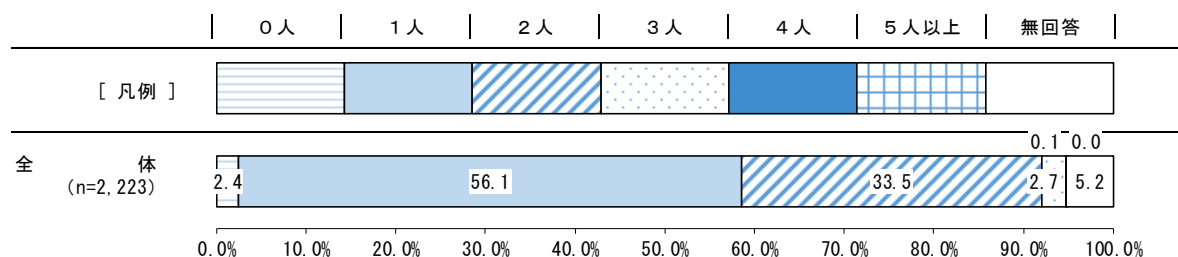
経年でみると、大きな差はみられない。

なお、前回調査は設問が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 2-8 小学生未満の子どもの人数】



＜前回調査＞【図表 2-9 0～5歳の子どもの人数】

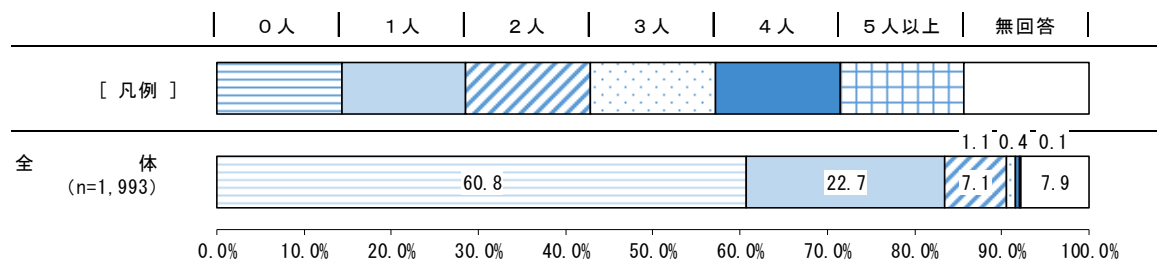


小学生以上 18 歳未満の子ども的人数を聞いたところ、「0 人」が 60.8%で最も高く、次いで「1 人」が 22.7%、「2 人」が 7.1%となっている。

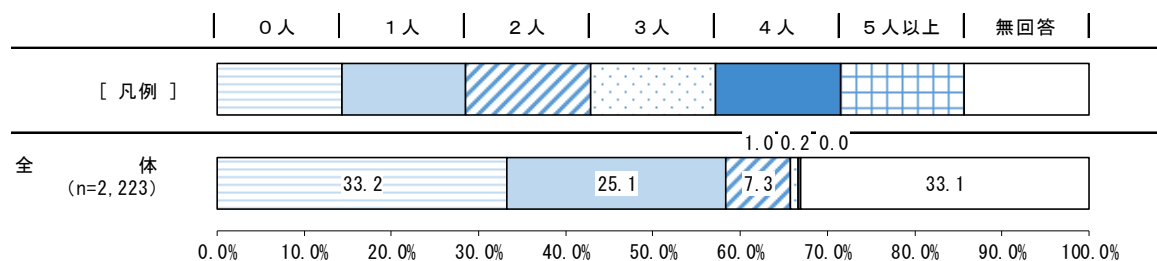
経年でみると、「0 人」が前回調査に比べて高くなっている。

なお、前回調査は設問が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 2-10 小学生以上 18 歳未満の子ども的人数】



<前回調査>【図表 2-11 6 歳以上の子ども的人数】

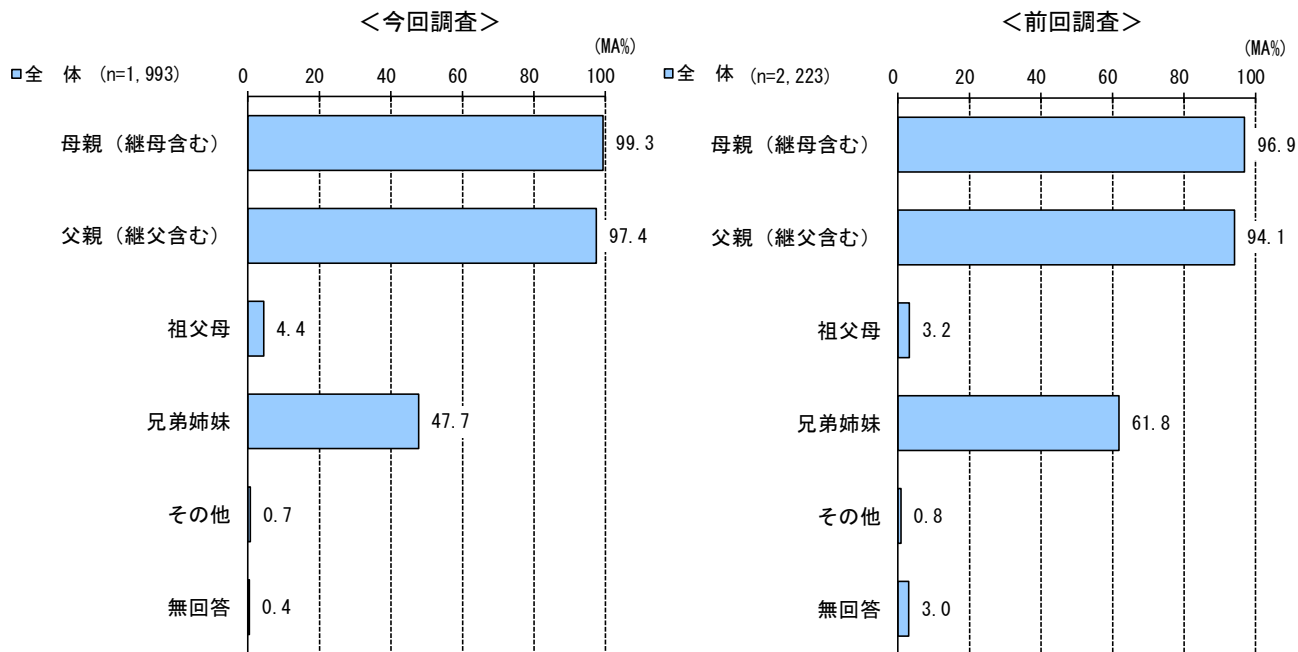


② 続柄【問26】(MA)

世帯人員で回答した世帯全員の続柄を複数回答で聞いたところ、「母親（継母含む）」が99.3%で最も高く、次いで「父親（継父含む）」が97.4%、「兄弟姉妹」が47.7%となっている。

経年でみると、「兄弟姉妹」が前回調査に比べて低くなっている。

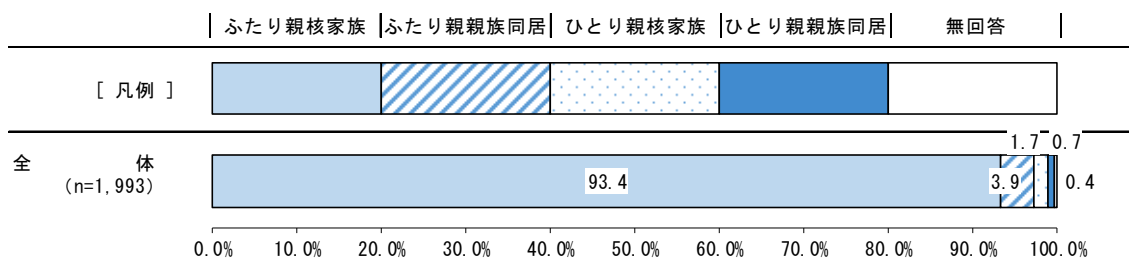
【図表 2-12 続柄（複数回答）】



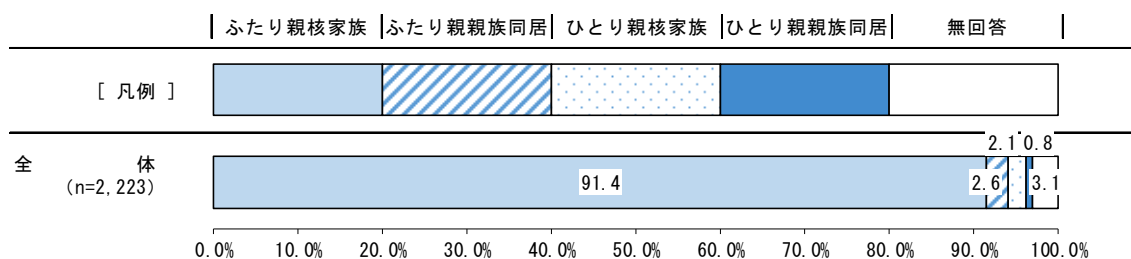
また、世帯全員の続柄の回答から、世帯構成を「ふたり親核家族」、「ふたり親親族同居」、「ひとり親核家族」、「ひとり親親族同居」、「無回答」の5つに分類した。その結果、「ふたり親核家族」が93.4%で最も高くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 2-13 世帯構成】



＜前回調査＞【図表 2-14 世帯構成】

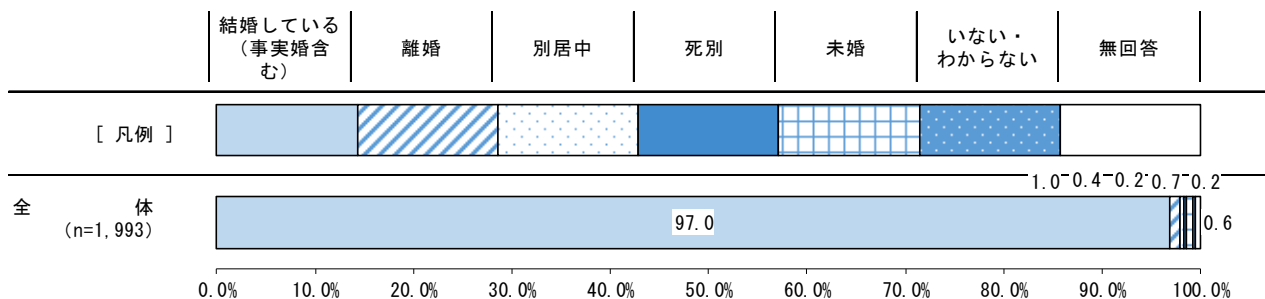


③ 婚姻状況【問24】(SA)

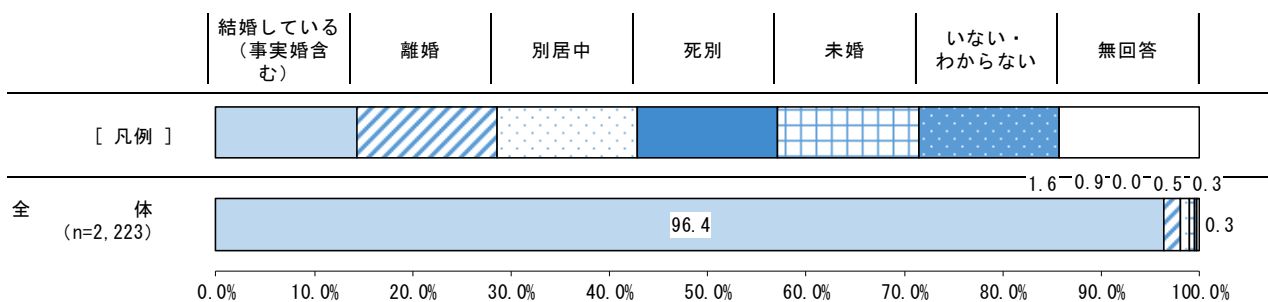
保護者の婚姻状況を聞いたところ、「結婚している（事実婚含む）」が 97.0%で最も高くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 2-15 婚姻状況】



＜前回調査＞【図表 2-16 婚姻状況】



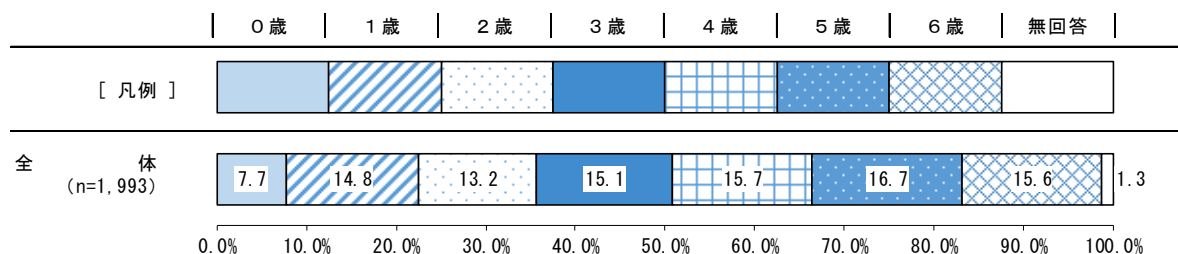
(2) 世帯の状況

ア 調査対象となる子どもの性別・年齢

① 子どもの年齢【問19（ア）】（SA）

子どもの年齢を聞いたところ、次のとおりとなった。

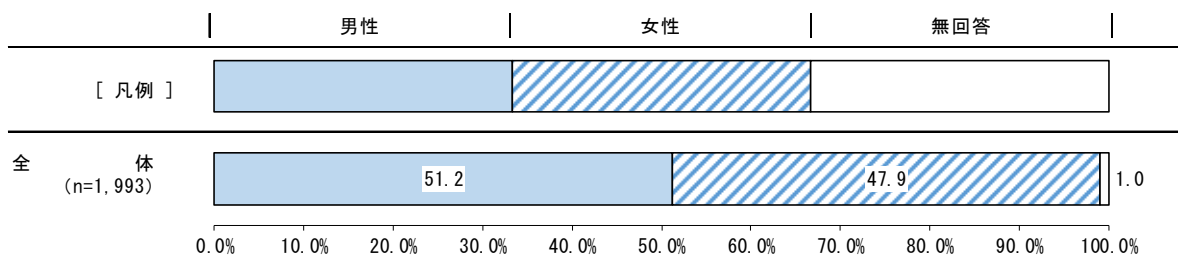
<今回調査>【図表 2-17 子どもの年齢】



② 子どもの性別【問19（イ）】（SA）

子どもの性別を聞いたところ、次のとおりとなった。

<今回調査>【図表 2-18 子どもの性別】

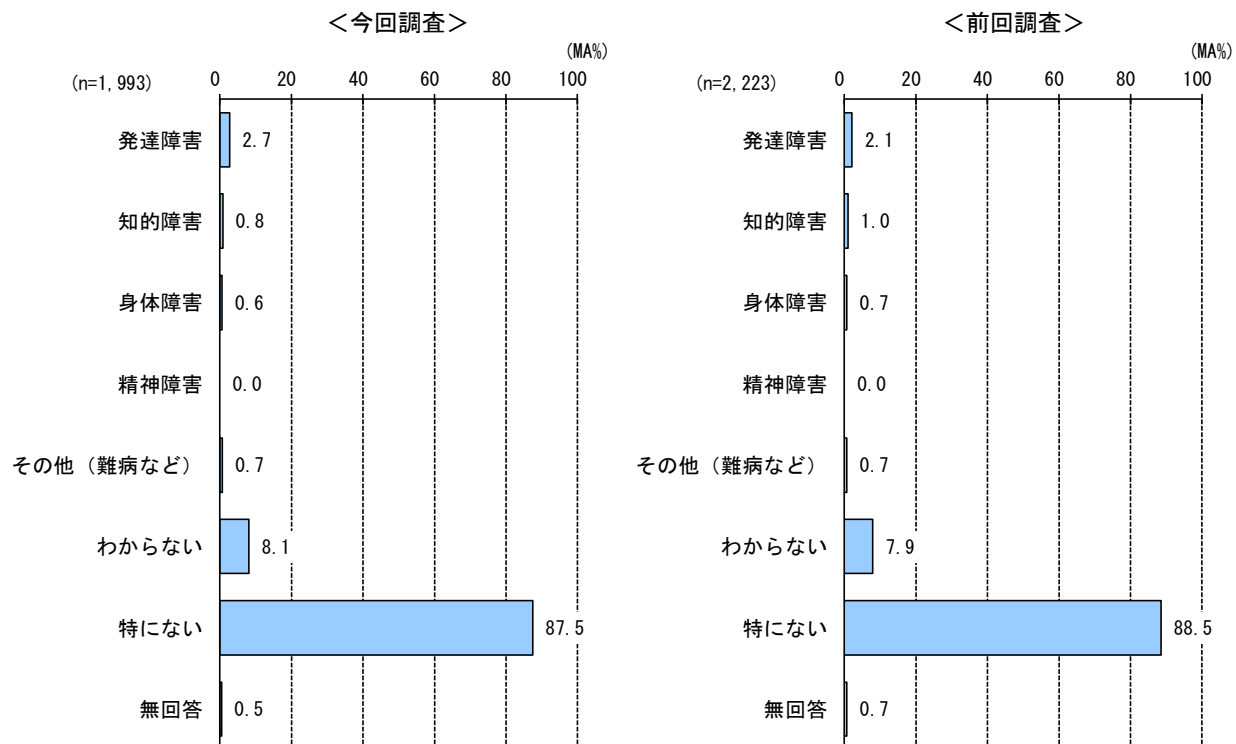


イ 調査対象となる子どもの障害の有無と種類【問20】（MA）

子どもの障害の有無と種類を複数回答で聞いたところ、「特にない」が 87.5%で最も高くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

【図表 2-19 調査対象となる子どもの障害の有無と種類（複数回答）】



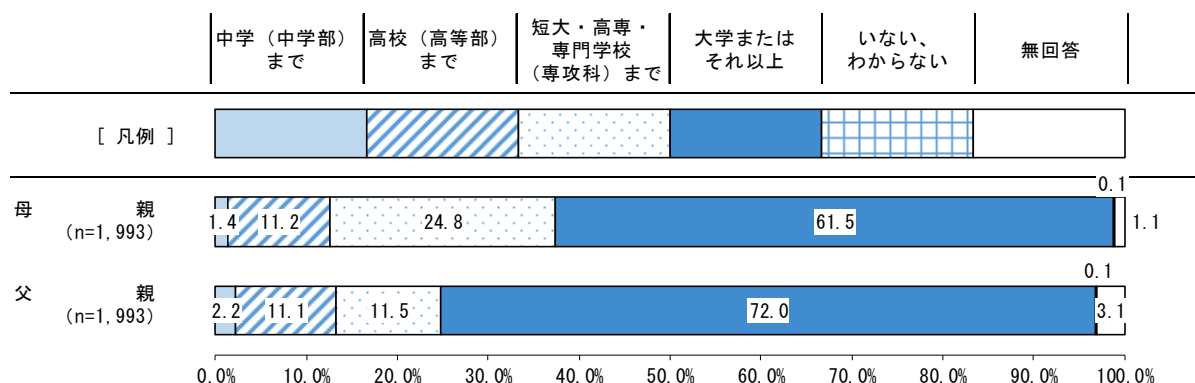
(3) 保護者の最終学歴・就労状況

ア 保護者の最終学歴【問29】(SA)

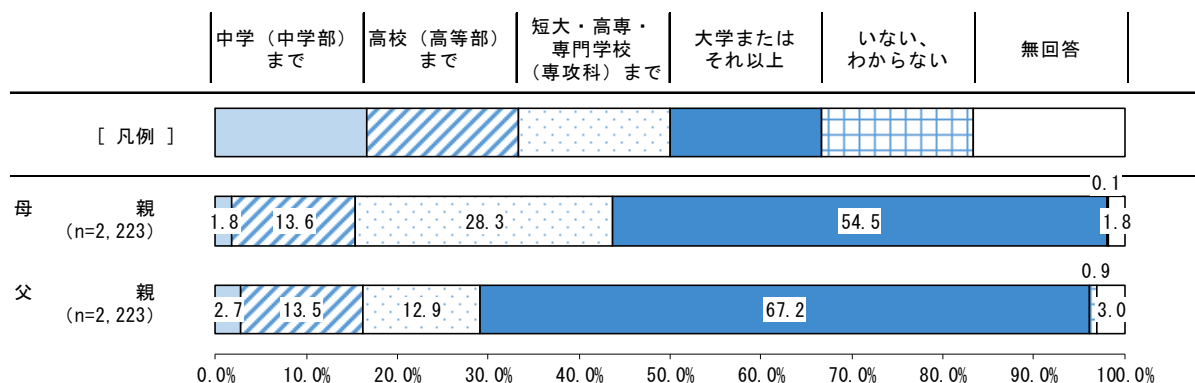
母親・父親の最終学歴を聞いたところ、『母親』『父親』ともに「大学またはそれ以上」(母親：61.5%、父親：72.0%) が最も高くなっている。

経年でみると、『母親』は「大学またはそれ以上」が前回調査に比べて高くなっている。

＜今回調査＞【図表 2-20 保護者の最終学歴】



＜前回調査＞【図表 2-21 保護者の最終学歴】



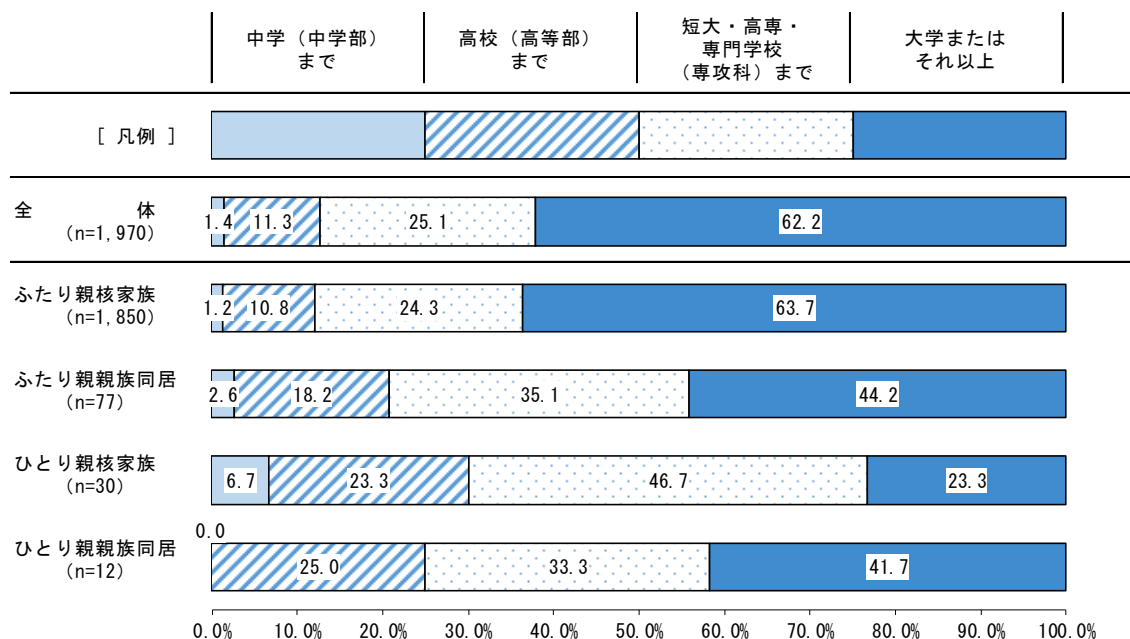
母親の最終学歴を世帯構成別にみると、『ふたり親親族同居』で「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」が 35.1%、「高校（高等部）まで」が 18.2%と、それぞれ全体に比べて高く、「大学またはそれ以上」が 44.2%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「大学またはそれ以上」は、『ふたり親核家族』で前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

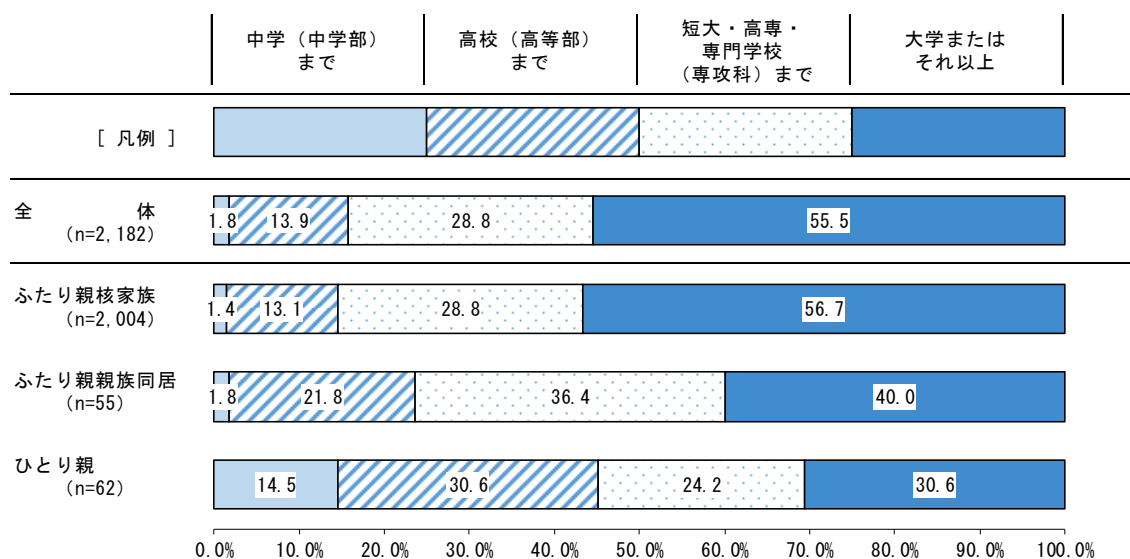
前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 2-22 母親の最終学歴】（世帯構成別）



※「いない、わからない」を除く

<前回調査>【図表 2-23 母親の最終学歴】（世帯構成別）



※「いない、わからない」を除く

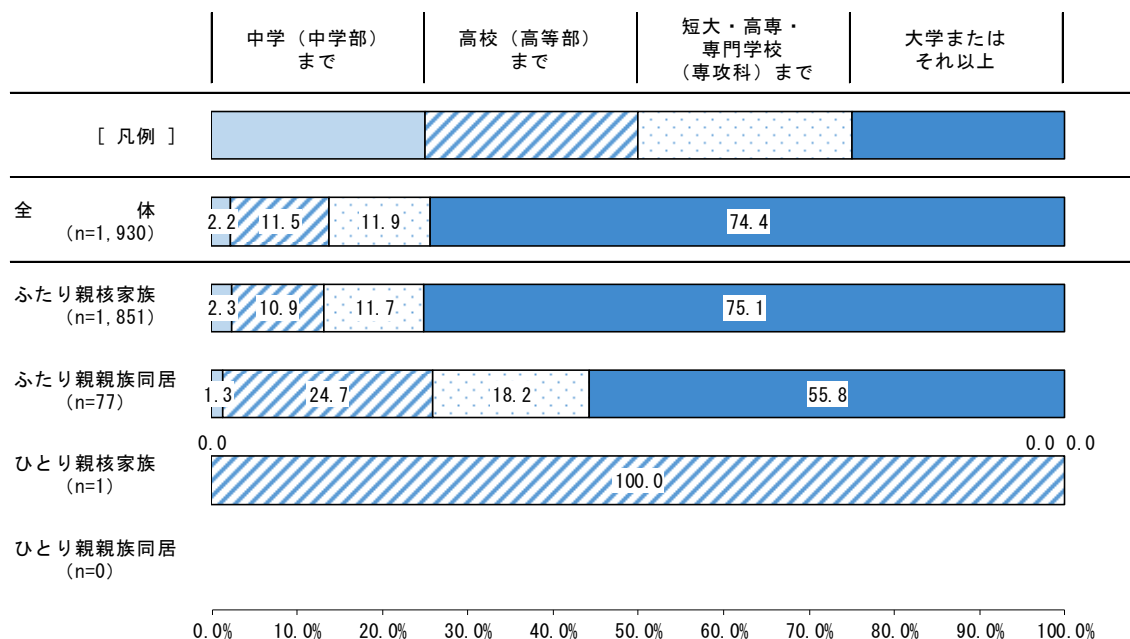
父親の最終学歴を世帯構成別にみると、『ふたり親親族同居』で「高校（高等部）まで」が24.7%、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」が18.2%と全体に比べて高く、「大学またはそれ以上」が55.8%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、『ふたり親親族同居』では「高校（高等部）まで」が前回調査に比べて低く、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

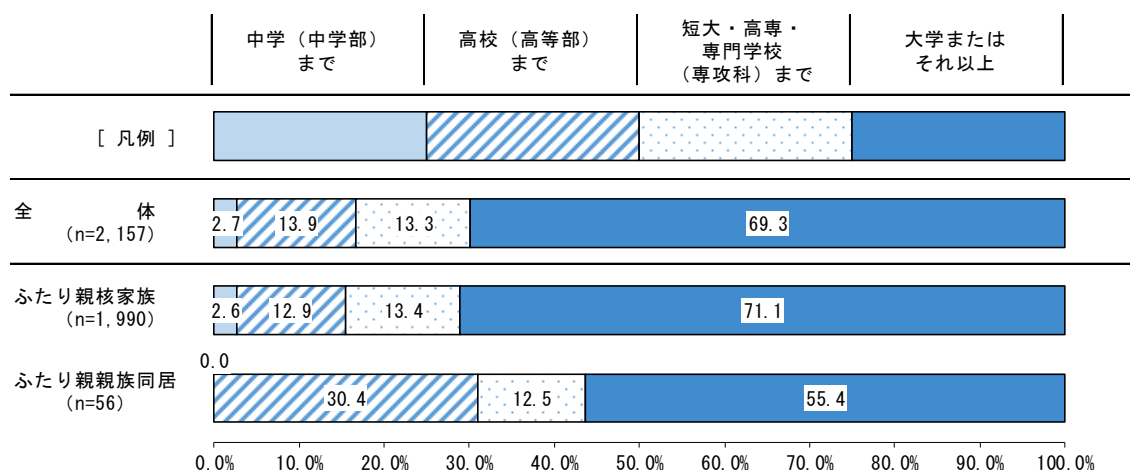
前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 2-24 父親の最終学歴】（世帯構成別）



※「いない、わからない」を除く

<前回調査>【図表 2-25 父親の最終学歴】（世帯構成別）



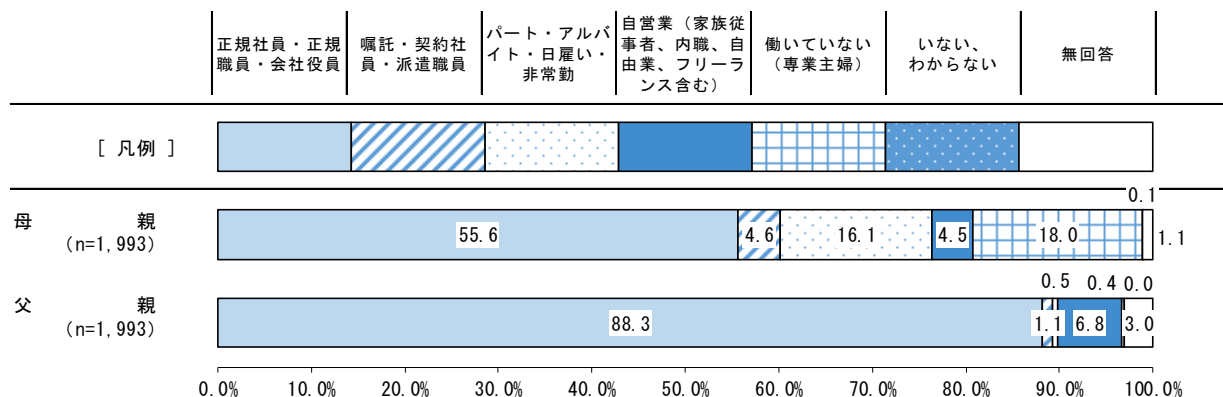
※「いない、わからない」を除く

イ 保護者の就労状況【問30】（SA）

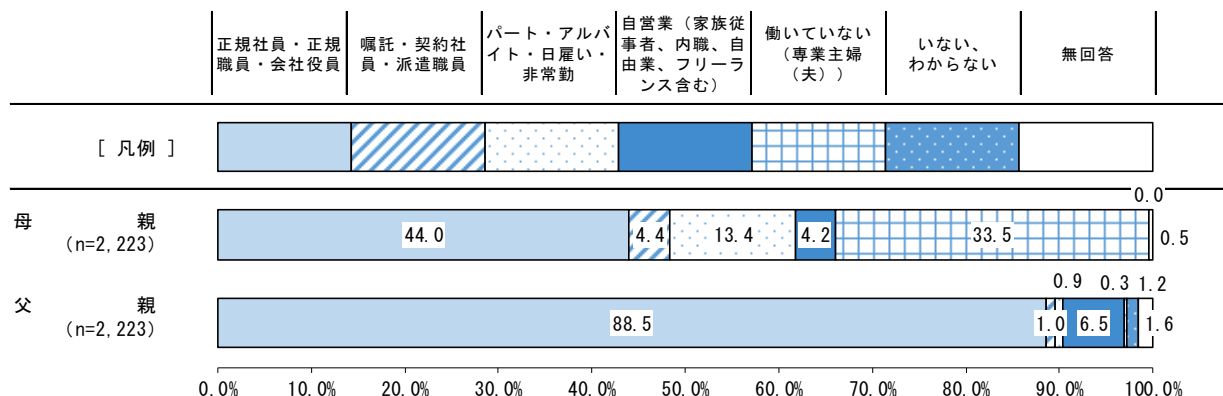
保護者の就労状況を聞いたところ、『母親』『父親』ともに「正規社員・正規職員・会社役員」（母親：55.6%、父親：88.3%）が最も高くなっている。また、『母親』については、「働いていない（専業主婦）」が18.0%と2番目に高く、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤」が16.1%と3番目に高くなっている。

経年でみると、『母親』では「正規社員・正規職員・会社役員」が前回調査に比べて高く、「働いていない（専業主婦）」が前回調査に比べて低くなっている。

＜今回調査＞【図表 2-26 保護者の就労状況】



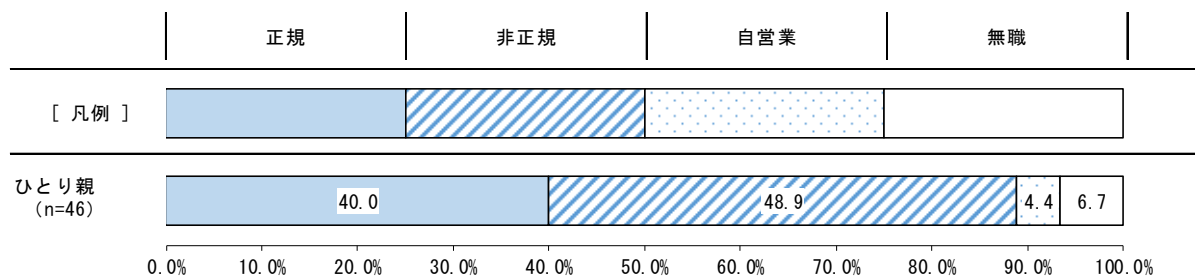
＜前回調査＞【図表 2-27 保護者の就労状況】



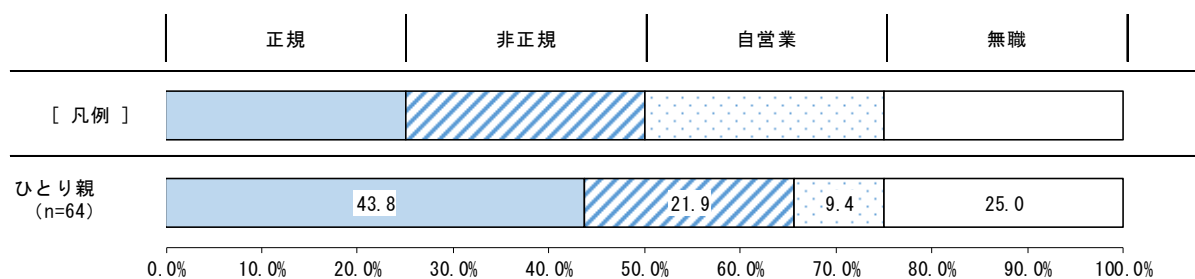
ひとり親世帯の就労状況をみると、「非正規」が 48.9%で最も高く、次いで「正規」が 40.0%、「無職」が 6.7%となっている。

サンプル数が 50 に満たないため、参考値とし、経年比較等を行わない。

＜今回調査＞【図表 2-28 ひとり親世帯の就労状況】



＜前回調査＞【図表 2-29 ひとり親世帯の就労状況】



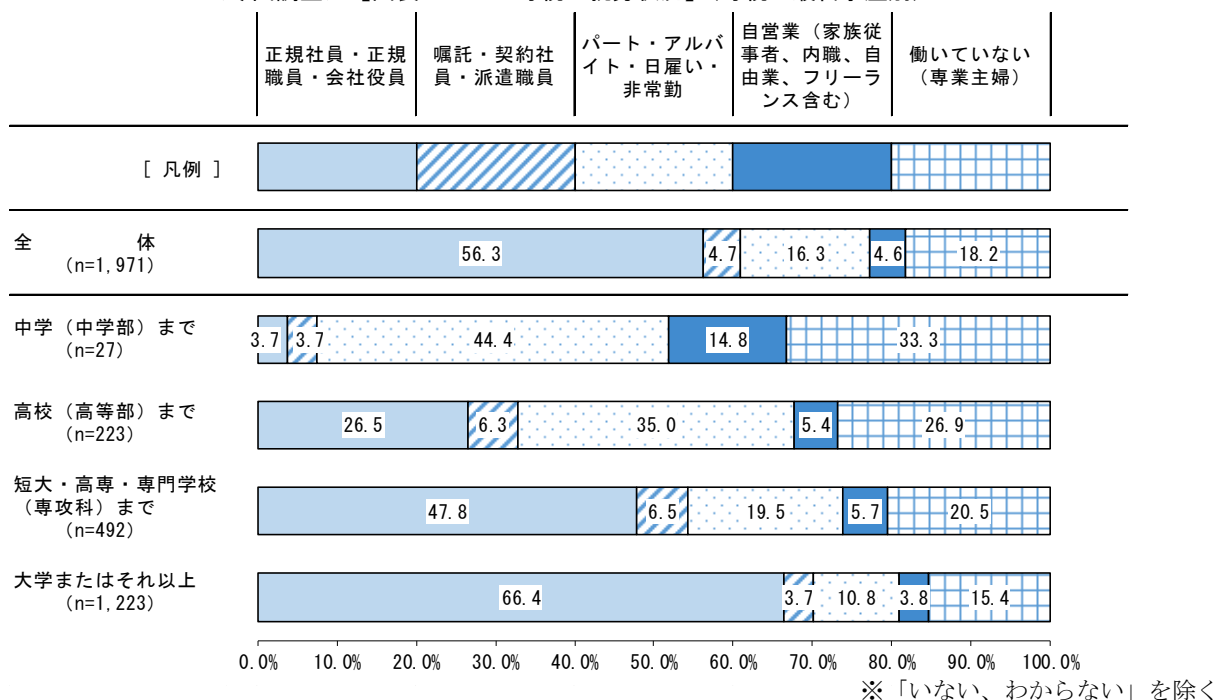
母親の就労状況を最終学歴別にみると、「正規社員・正規職員・会社役員」は『大学またはそれ以上』が 66.4%、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤」は『高校（高等部）まで』が 35.0%、「働いていない（専業主婦）」は『高校（高等部）まで』が 26.9%と、それぞれ全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「正規社員・正規職員・会社役員」は『短大・高専・専門学校（専攻科）まで』『大学またはそれ以上』で、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤」は『高校（高等部）まで』で、それぞれ前回調査に比べて高くなっている。また、「働いていない（専業主婦）」はいずれの最終学歴でも前回調査に比べて低くなっている。

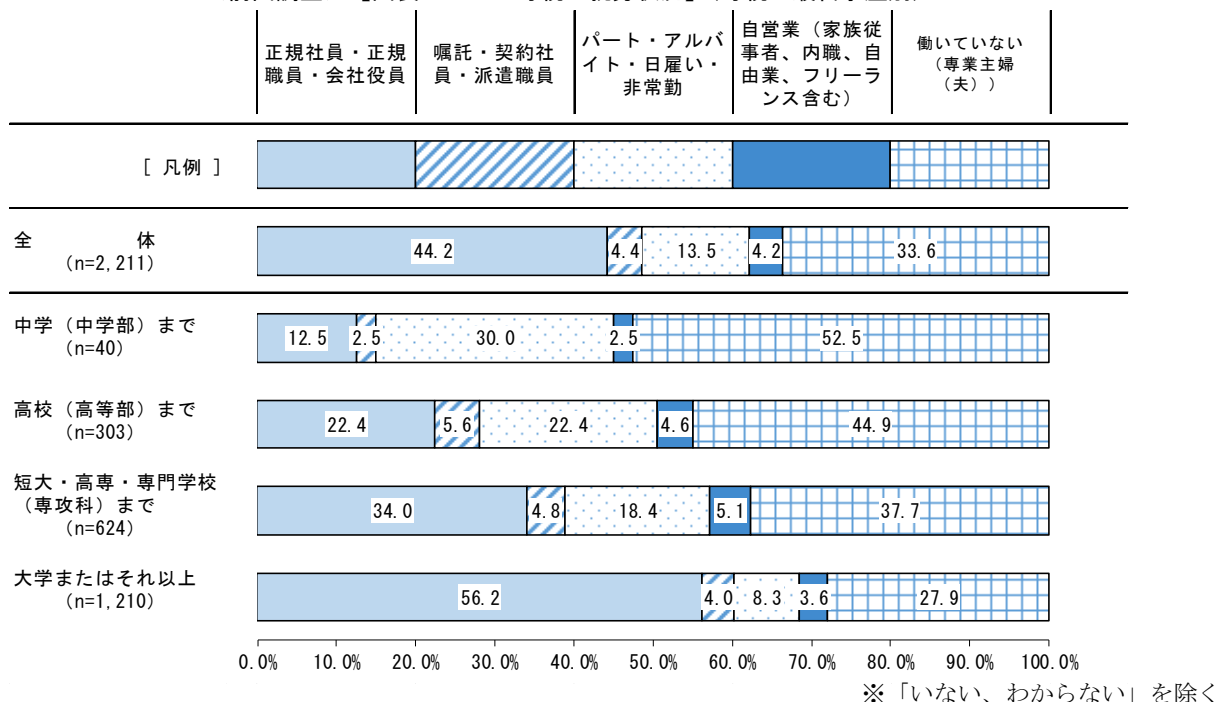
なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 2-30 母親の就労状況】（母親の最終学歴別）



<前回調査>【図表 2-31 母親の就労状況】（母親の最終学歴別）



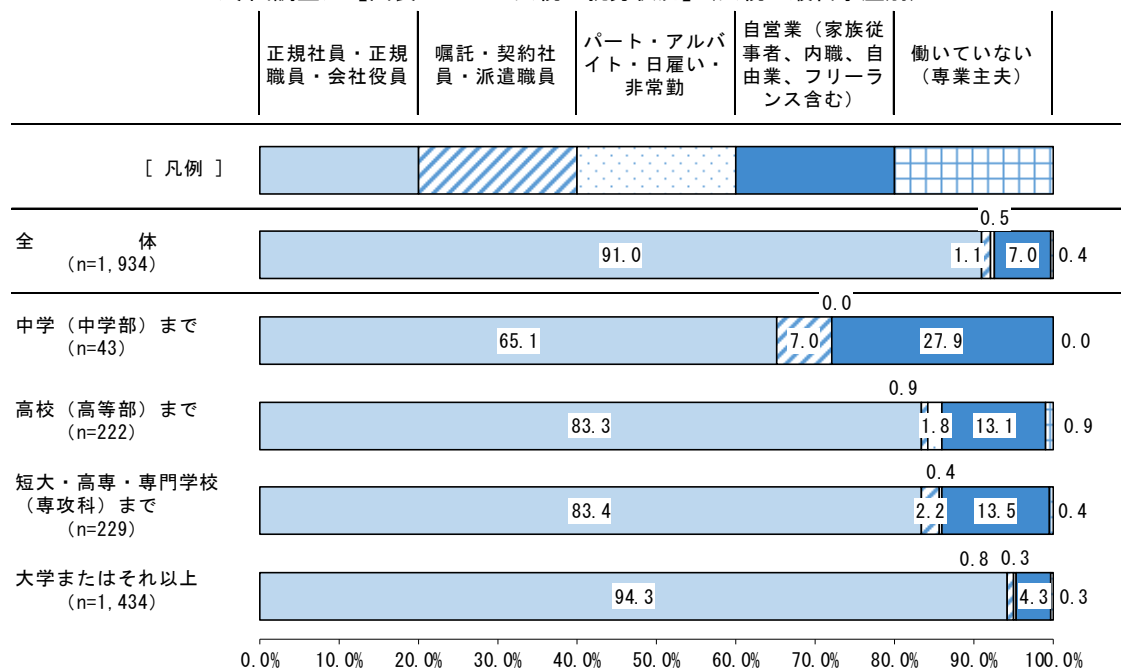
父親の就労状況を最終学歴別にみると、「自営業（家族従事者、内職、自由業、フリーランス含む）」は『高校（高等部）まで』が 13.1%、『短大・高専・専門学校（専攻科）まで』が 13.5%と、それぞれ全体に比べて高く、「正規社員・正規職員・会社役員」は『高校（高等部）まで』が 83.3%、『短大・高専・専門学校（専攻科）まで』が 83.4%と、それぞれ全体に比べて低くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

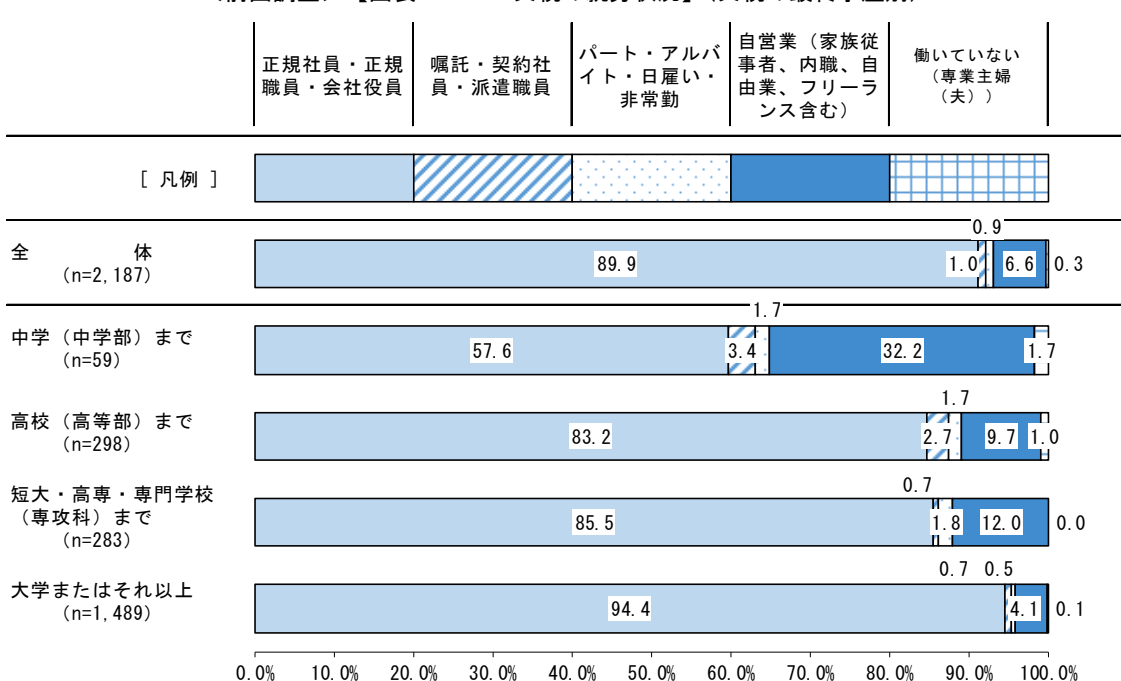
前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 2-32 父親の就労状況】（父親の最終学歴別）



※「いない、わからない」を除く

<前回調査>【図表 2-33 父親の就労状況】（父親の最終学歴別）



※「いない、わからない」を除く

ウ 働いていない理由【問31】（MA）

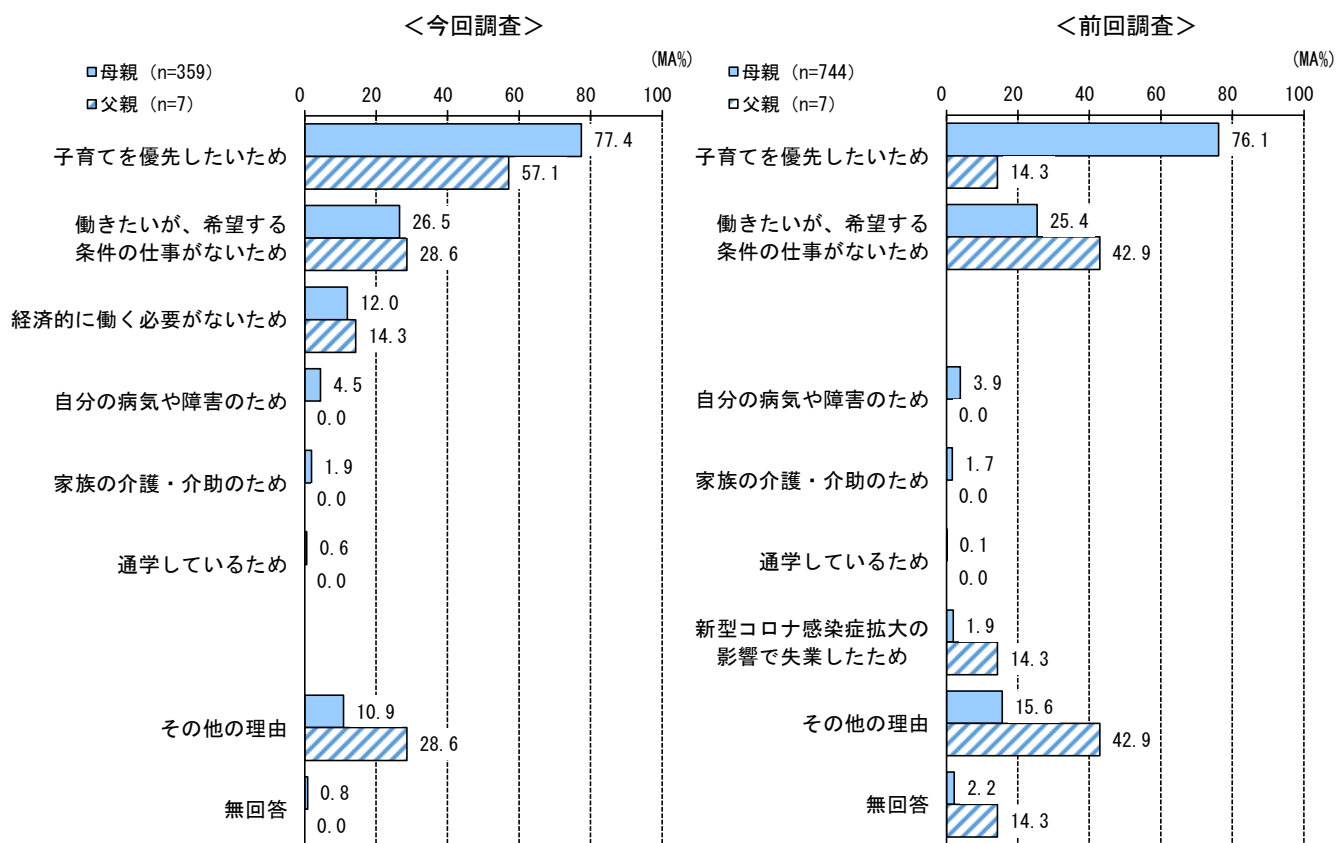
働いていない理由を複数回答で聞いたところ、『母親』では「子育てを優先したいため」が77.4%で最も高く、次いで「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」が26.5%、「経済的に働く必要がないため」が12.0%となっている。

経年でみると、『母親』では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 2-34 働いていない理由（複数回答）】



第2節 経済的困難の状況

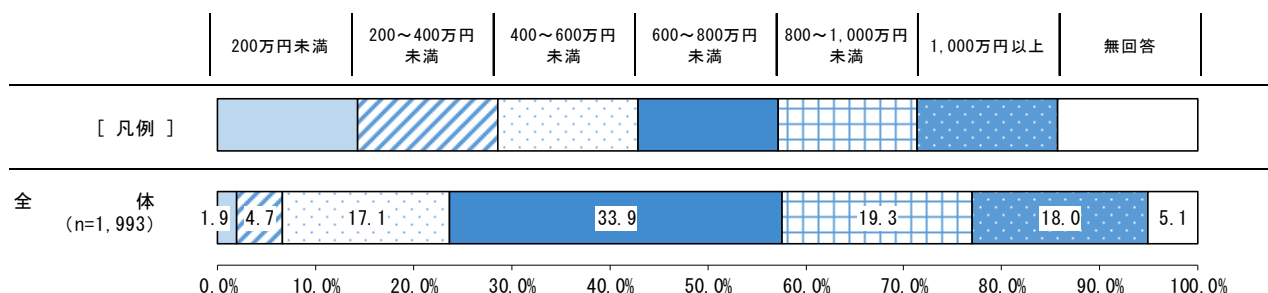
(1) 世帯の所得状況

ア 世帯の年間所得合計額【問32】(SA)

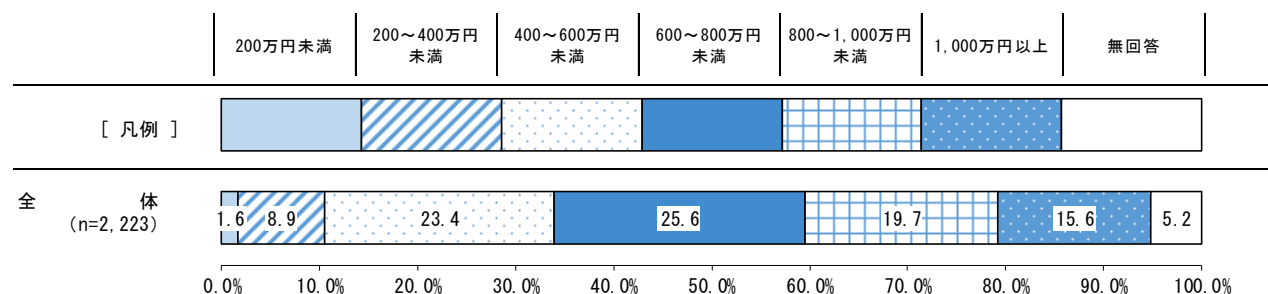
世帯の年間所得合計額を聞いたところ、「600～800 万円未満」が 33.9%で最も高く、次いで「800～1,000 万円未満」が 19.3%、「1,000 万円以上」が 18.0%となっている。

経年でみると、「400～600 万円未満」が前回調査に比べて低く、「600～800 万円未満」が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 2-35 世帯の年間所得合計額】



<前回調査>【図表 2-36 世帯の年間所得合計額】

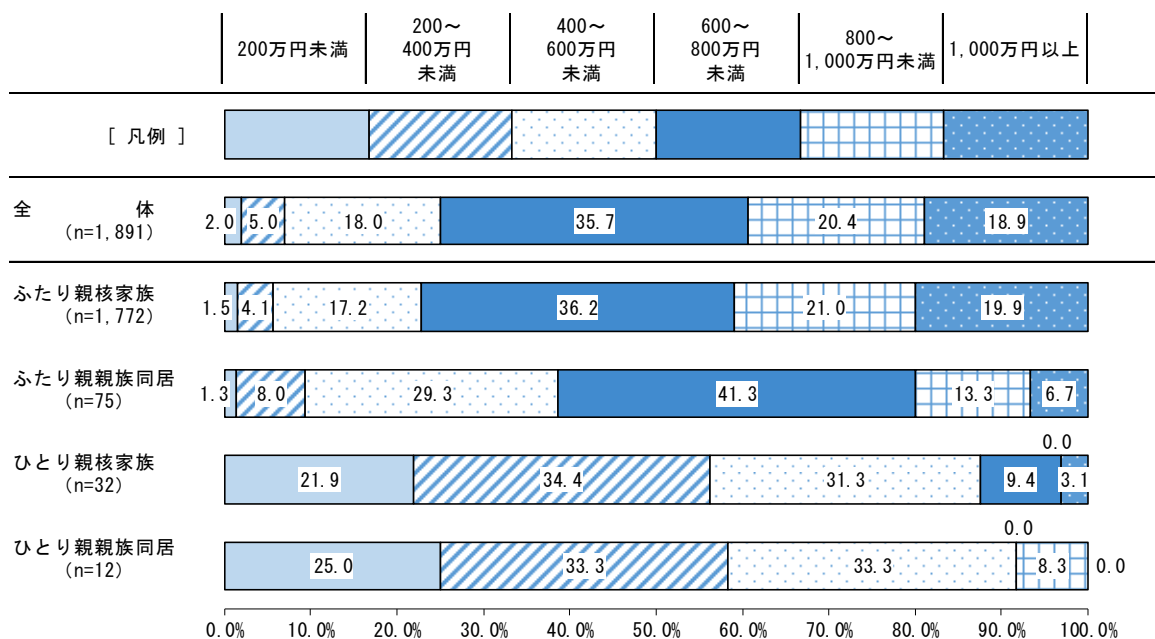


世帯の年間所得合計額を世帯構成別にみると、『ふたり親親族同居』で「400～600 万円未満」が 29.3%で、全体に比べて高くなっている。

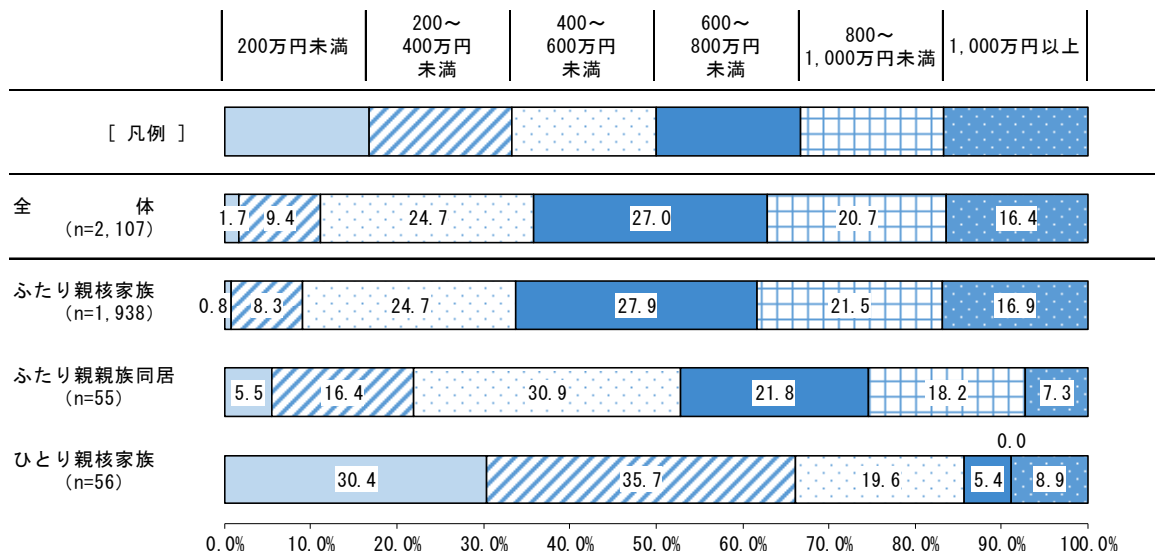
経年でみると、『ふたり親核家族』では「400～600 万円未満」が前回調査に比べて低く、「600～800 万円未満」が前回調査に比べて高くなっている。『ふたり親親族同居』では「600～800 万円未満」が前回調査に比べて高く、「200～400 万円未満」が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 2-37 世帯の年間所得合計額】（世帯構成別）



<前回調査>【図表 2-38 世帯の年間所得合計額】（世帯構成別）



イ 所得分類

【所得分類の考え方】

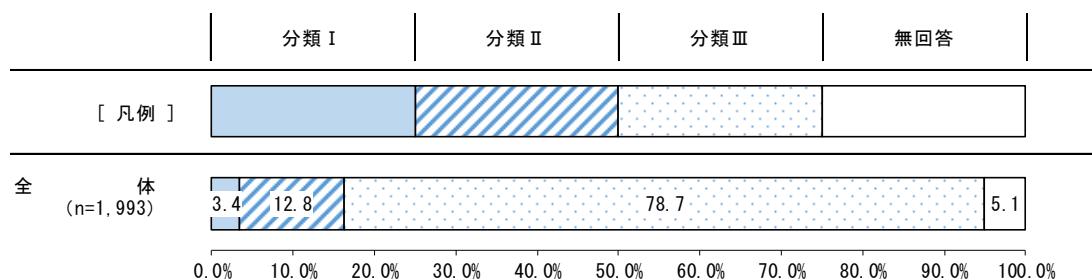
貧困線未満の等価可処分所得の世帯を「分類Ⅰ」、貧困線以上等価可処分所得の中央値未満の世帯を「分類Ⅱ」、中央値以上の等価可処分所得の世帯を「分類Ⅲ」の3つの区分に分類した。

詳細は第1章（6）集計の視点を参照。

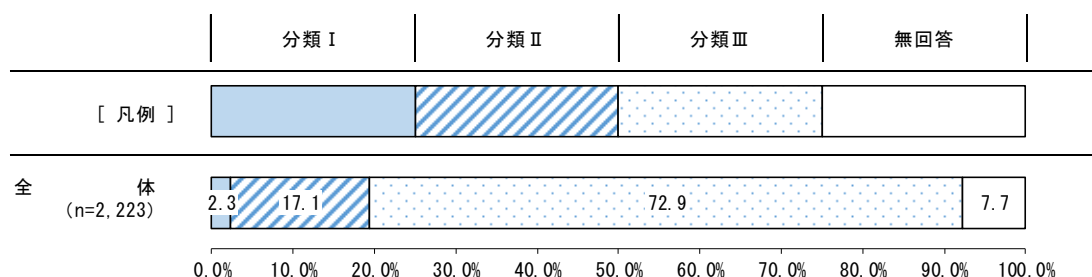
所得分類をみると、「分類Ⅲ」が78.7%で最も高く、次いで「分類Ⅱ」が12.8%、「分類Ⅰ」が3.4%となっている。

経年でみると、「分類Ⅲ」が前回調査に比べて高くなっている。

＜今回調査＞【図表 2-39 所得分類】



＜前回調査＞【図表 2-40 所得分類】

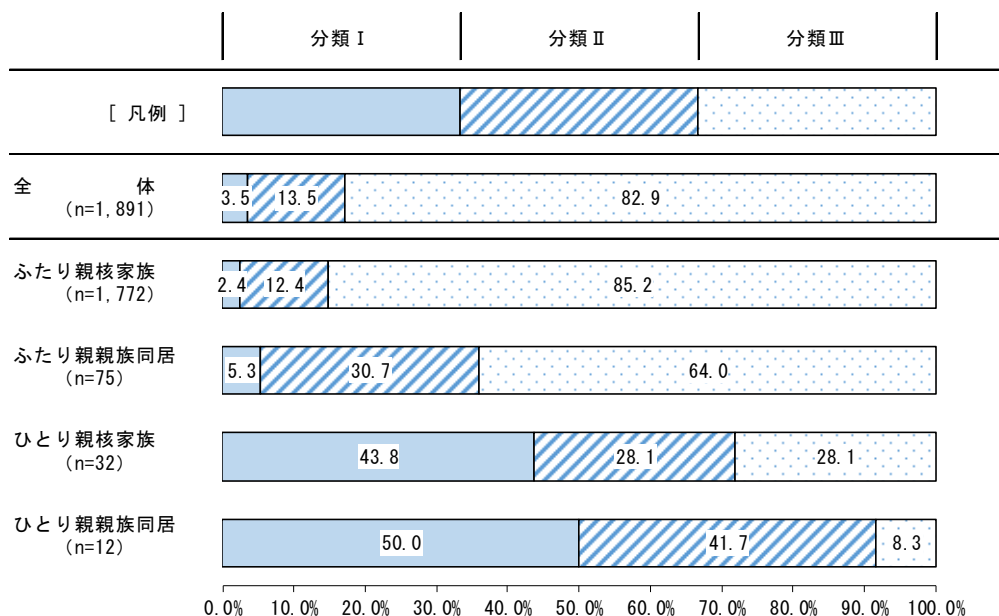


所得分類を世帯構成別にみると、『ふたり親親族同居』で「分類Ⅱ」が30.7%と、全体に比べて高くなっている。

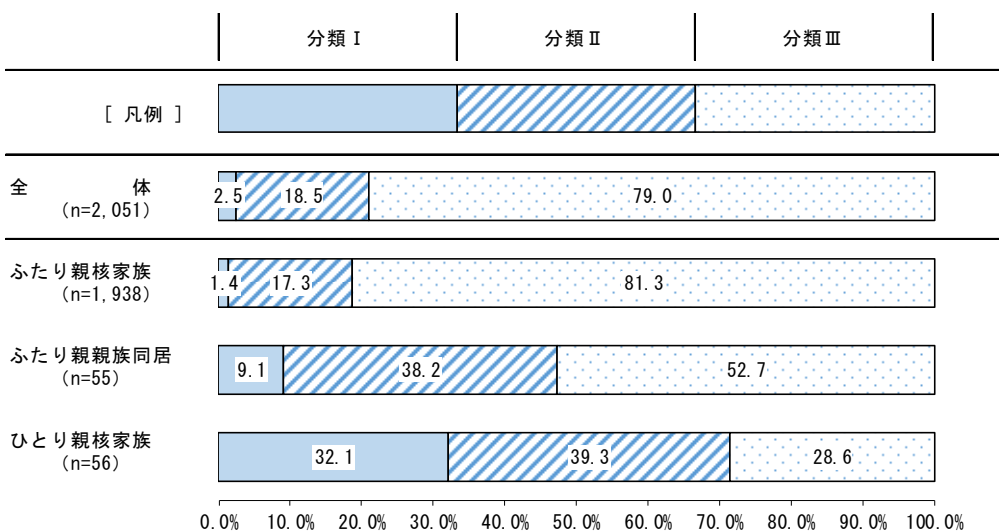
経年でみると、『ふたり親親族同居』は「分類Ⅱ」が前回調査に比べて低く、「分類Ⅲ」が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 2-41 所得分類】(世帯構成別)



<前回調査>【図表 2-42 所得分類】(世帯構成別)



(2) 世帯の家計状況

ア 公共料金等の未払いの経験【問33】(SA)

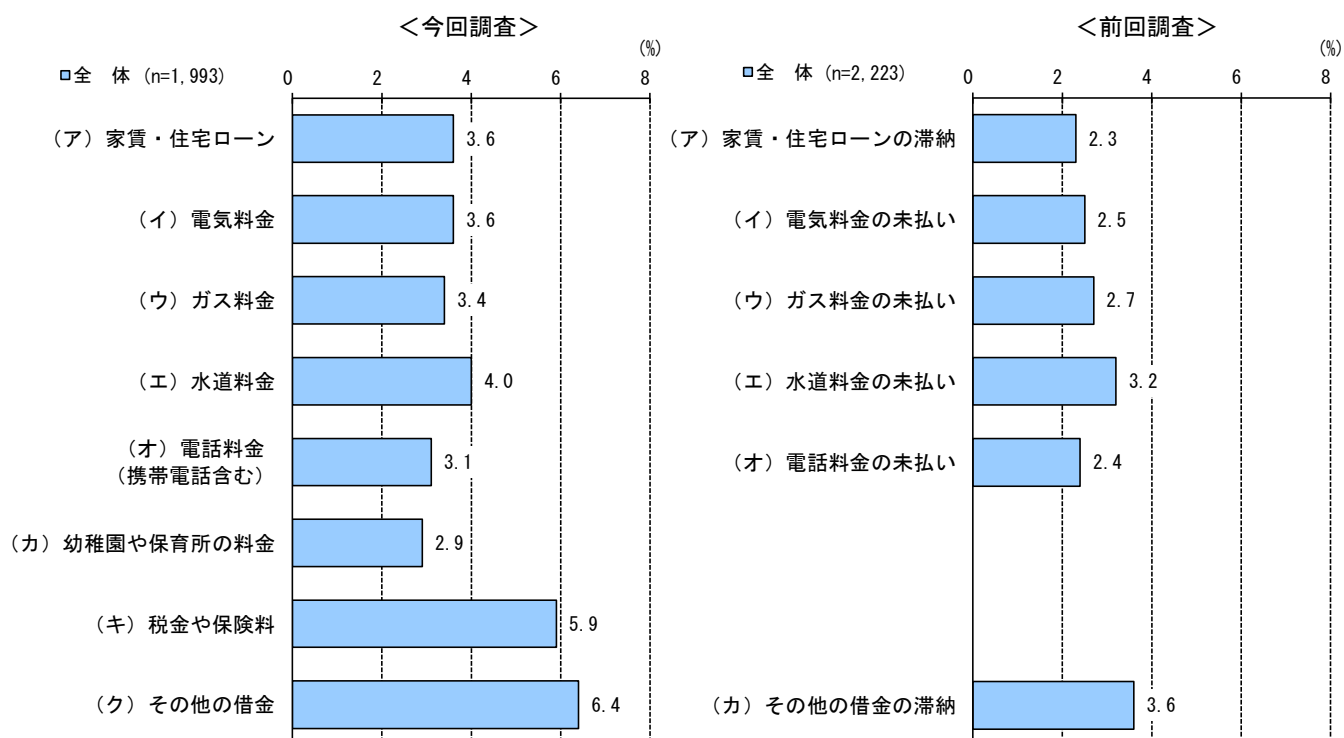
① 電気・ガス・水道等の未払いの有無

電気・ガス・水道等の未払いの有無を聞いたところ、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた『一度でもあった』は、「税金や保険料」が 5.9%と最も高くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 2-43 電気・ガス・水道等の未払いの有無『一度でもあった』】



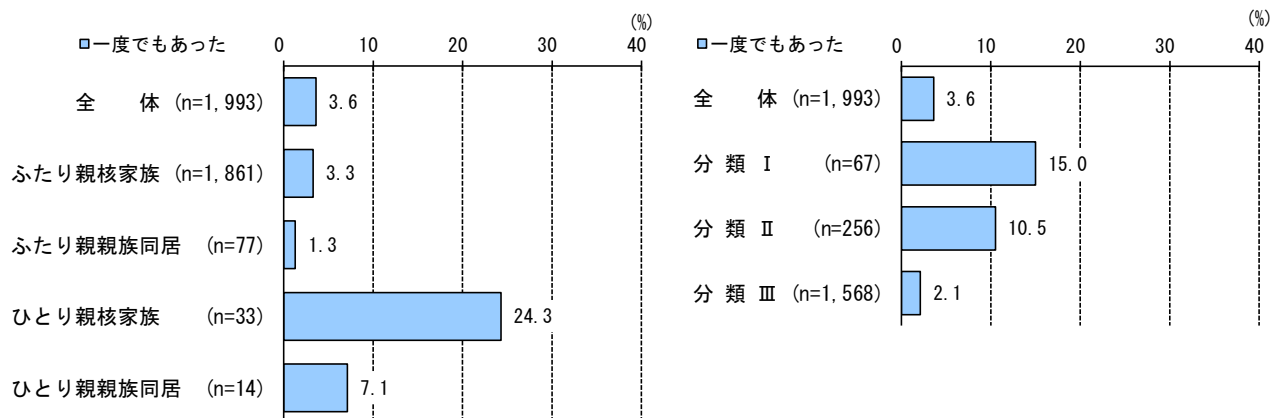
家賃・住宅ローンの未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（15.0%）、『分類Ⅱ』（10.5%）、『分類Ⅲ』（2.1%）の順に高くなっている。

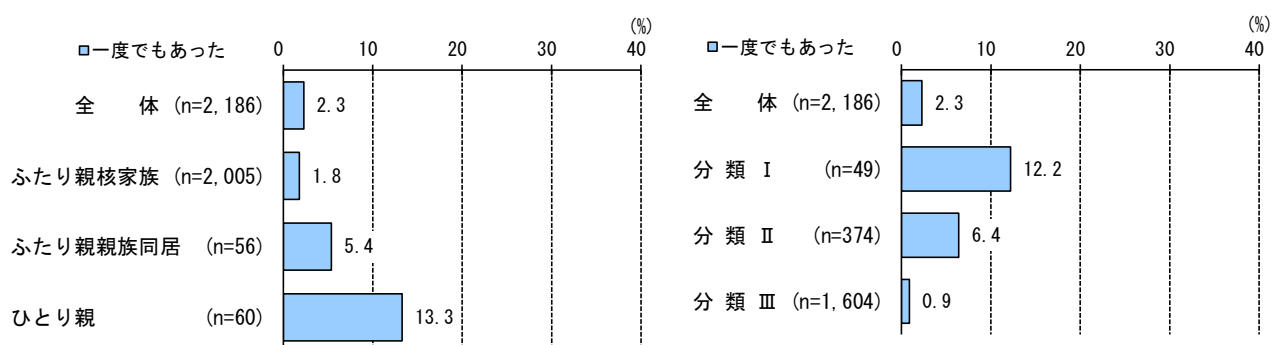
経年でみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 2-44 （ア）家賃・住宅ローンの未払いの有無】（世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 2-45 （ア）家賃・住宅ローンの未払いの有無】（世帯構成別、所得分類別）



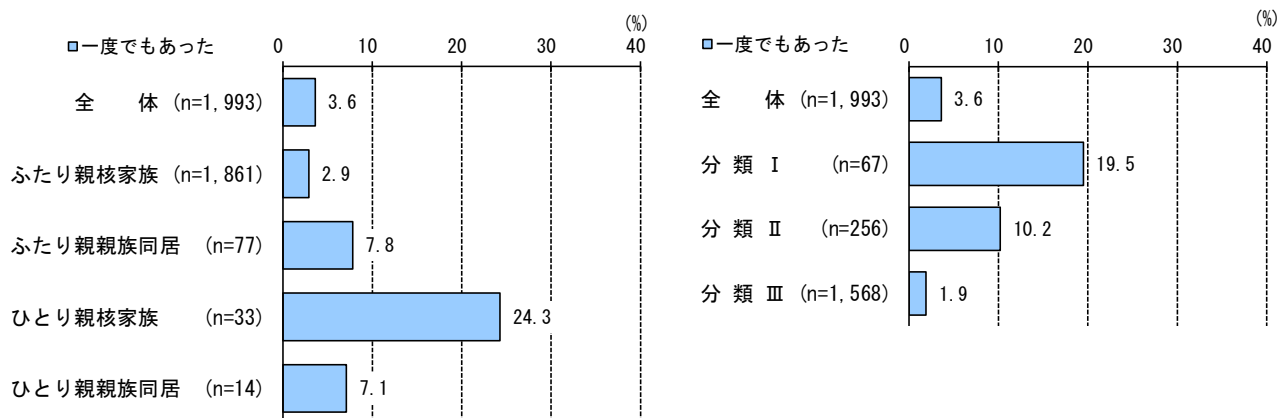
電気料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（19.5%）、『分類Ⅱ』（10.2%）、『分類Ⅲ』（1.9%）の順に高くなっている。

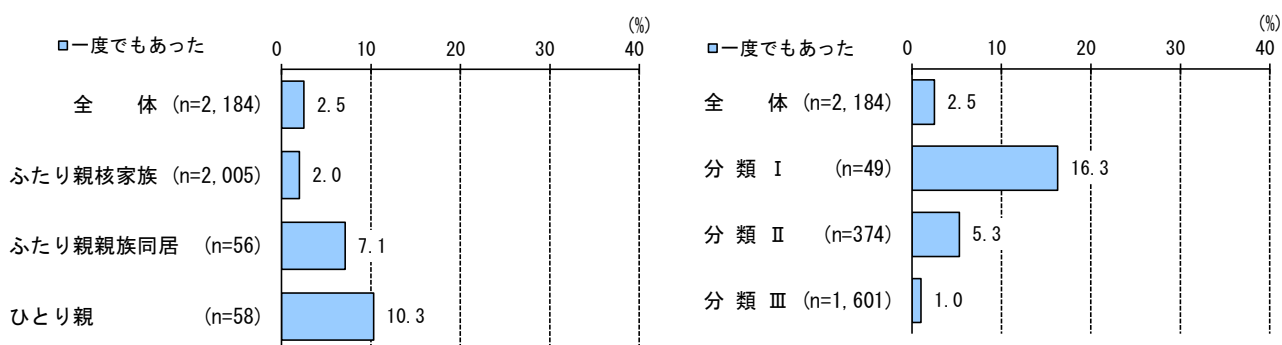
経年でみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 2-46 (イ) 電気料金の未払いの有無】（世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 2-47 (イ) 電気料金の未払いの有無】（世帯構成別、所得分類別）



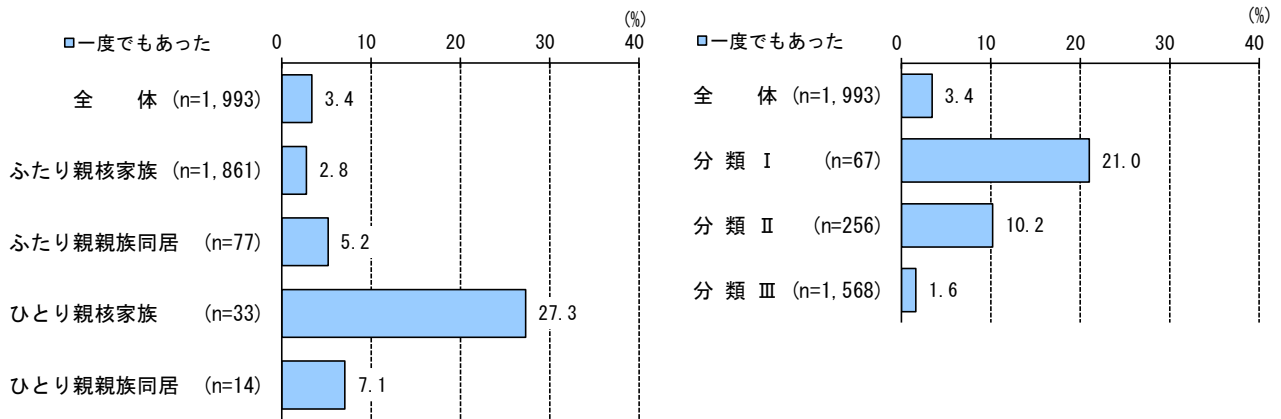
ガス料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（21.0%）、『分類Ⅱ』（10.2%）、『分類Ⅲ』（1.6%）の順に高くなっている。

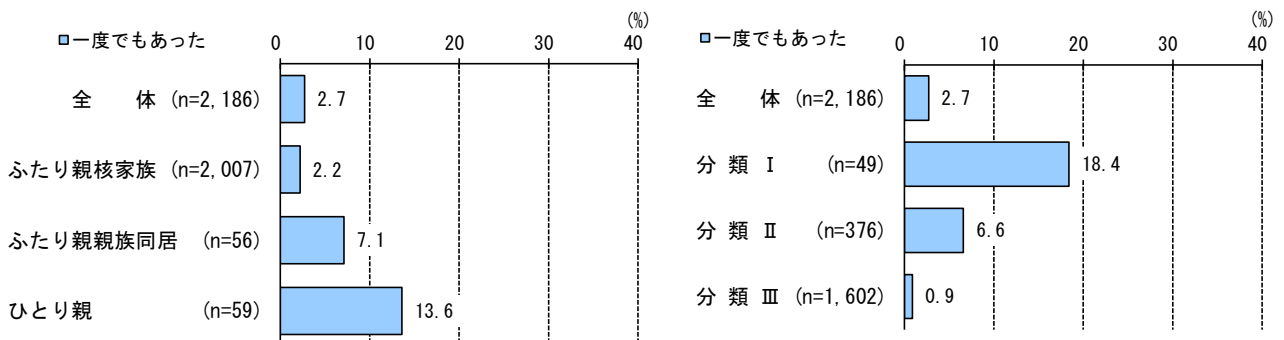
経年でみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 2-48 （ウ）ガス料金の未払いの有無】（世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 2-49 （ウ）ガス料金の未払いの有無】（世帯構成別、所得分類別）



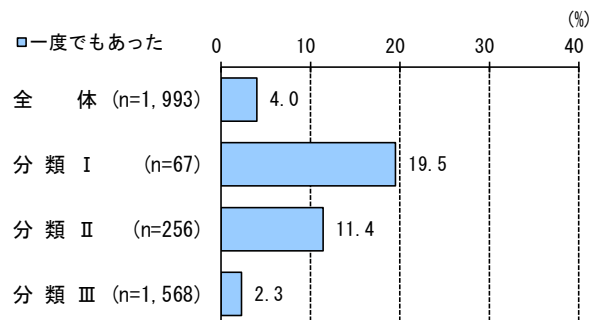
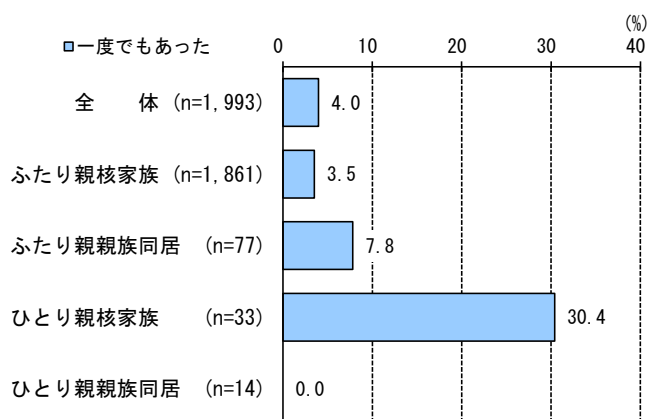
水道料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（19.5%）、『分類Ⅱ』（11.4%）、『分類Ⅲ』（2.3%）の順に高くなっている。

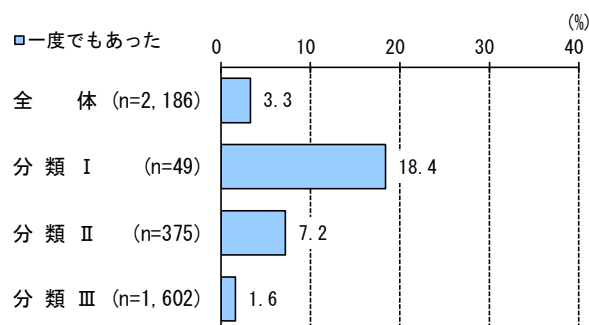
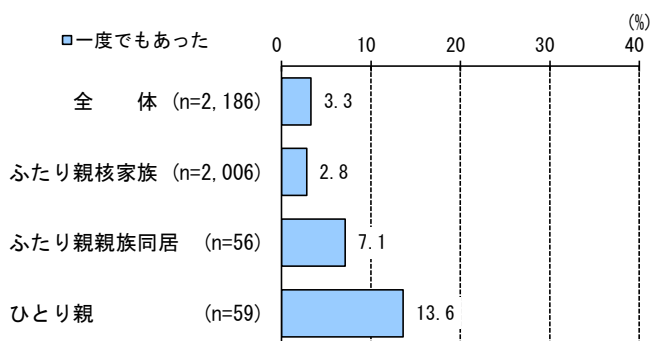
経年でみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 2-50 (エ) 水道料金の未払いの有無】（世帯構成別、所得分類別）

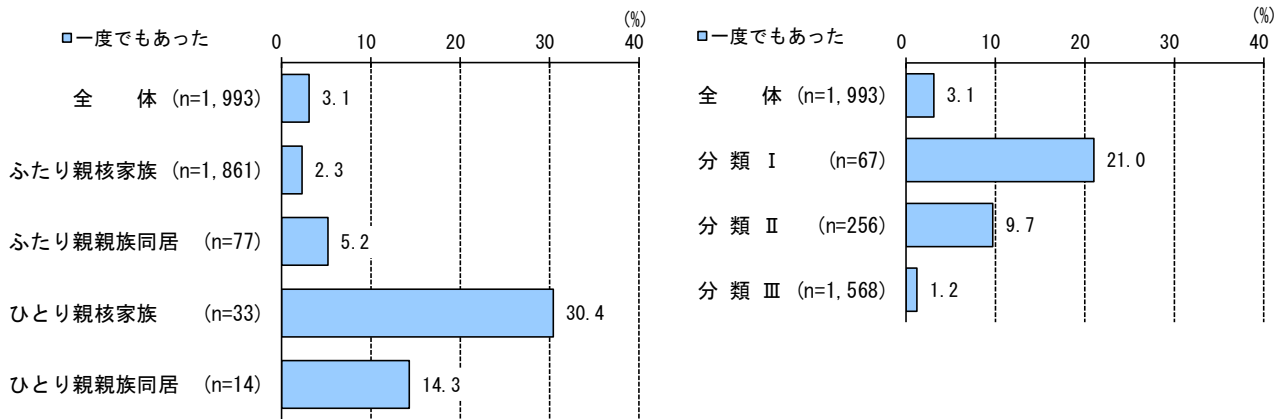


＜前回調査＞【図表 2-51 (エ) 水道料金の未払いの有無】（世帯構成別、所得分類別）

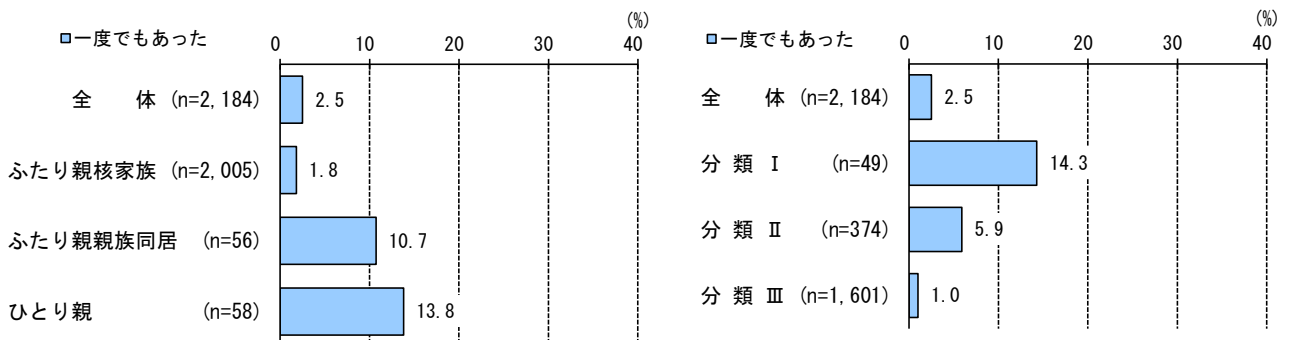


電話料金（携帯電話含む）の未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。
 所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（21.0%）、『分類Ⅱ』（9.7%）、『分類Ⅲ』（1.2%）の順に高
 くなっている。
 経年でみると、『ふたり親親族同居』で前回調査に比べて低くなっている。
 なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 2-52 （オ）電話料金（携帯電話含む）の未払いの有無】（世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 2-53 （オ）電話料金（携帯電話含む）の未払いの有無】（世帯構成別、所得分類別）



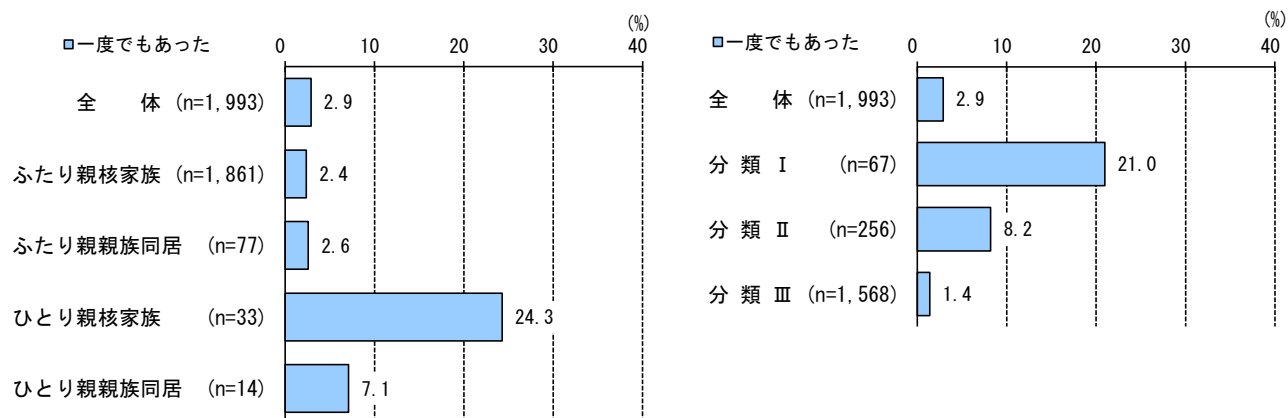
幼稚園や保育所の料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（21.0%）、『分類Ⅱ』（8.2%）、『分類Ⅲ』（1.4%）の順に高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査には、この設問は含まれていない。

<今回調査>【図表 2-54 （力）幼稚園や保育所の料金の未払いの有無】（世帯構成別、所得分類別）



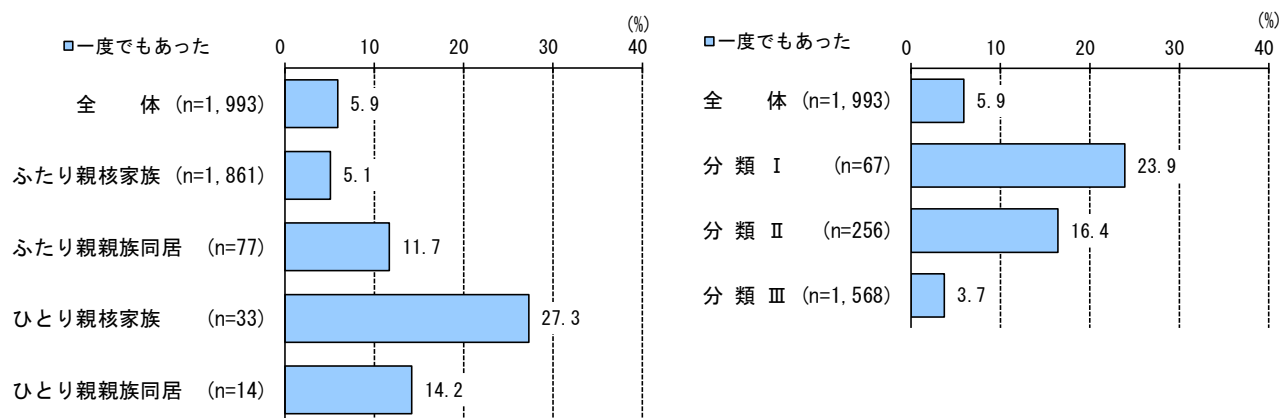
税金や保険料の未払いの有無を世帯構成別にみると、「ふたり親親族同居」が 11.7%と、全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（23.9%）、『分類Ⅱ』（16.4%）、『分類Ⅲ』（3.7%）の順に高くなっている。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

前回調査には、この設問は含まれていない。

＜今回調査＞【図表 2-55 （キ）税金や保険料の未払いの有無】（世帯構成別、所得分類別）



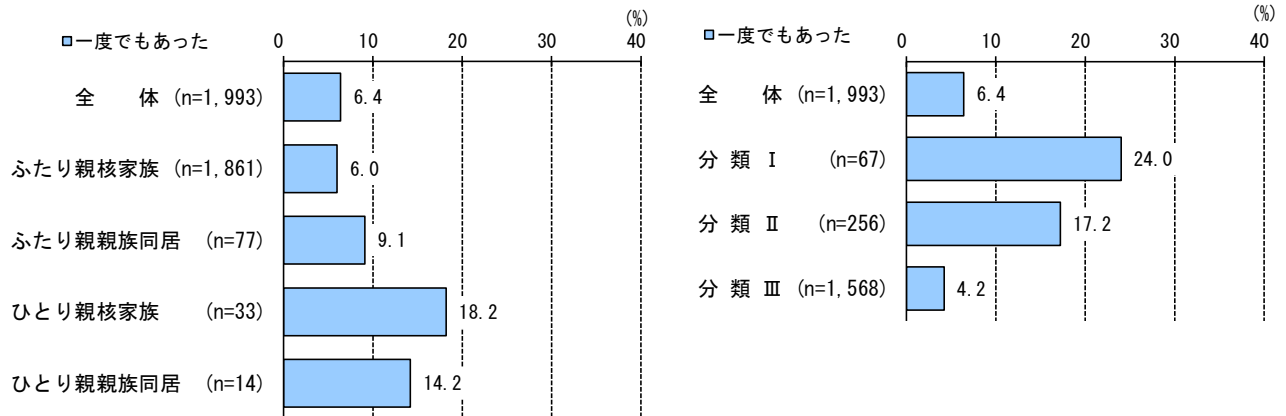
その他の借金の未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（24.0%）、『分類Ⅱ』（17.2%）、『分類Ⅲ』（4.2%）の順に高くなっている。

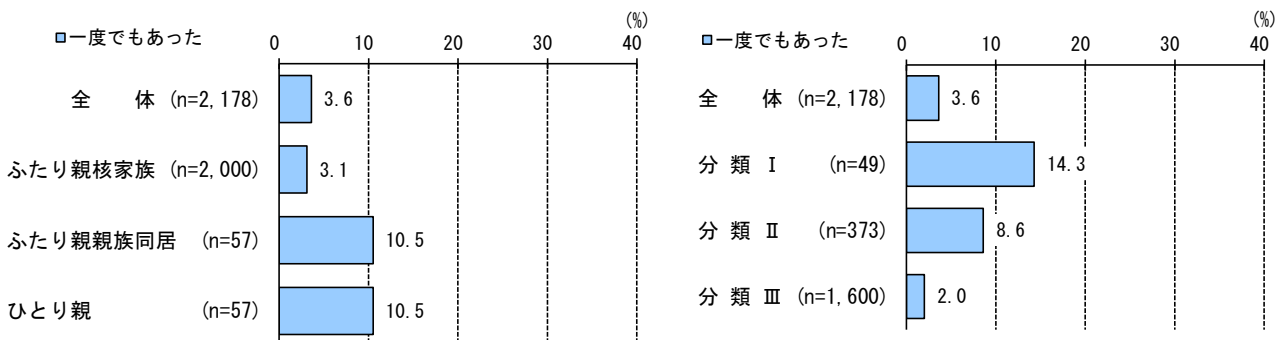
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問内容が異なるため、参考値とし、経年比較は行わない。

＜今回調査＞【図表 2-56 (ク) その他の借金の未払いの有無】（世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 2-57 (ク) その他の借金の未払いの有無】（世帯構成別、所得分類別）

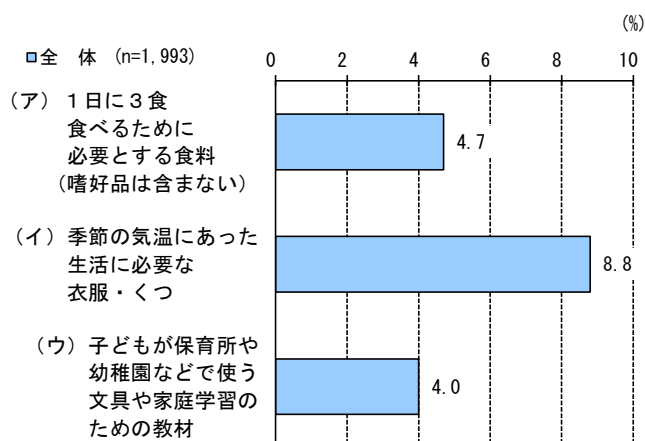


イ 生活必需品の購入状況【問34】（SA）

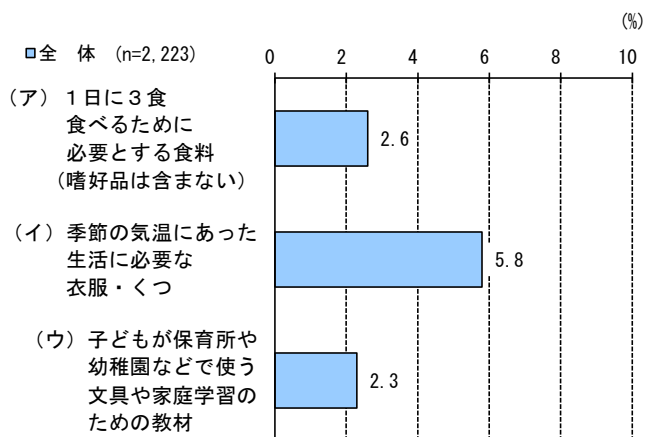
過去1年間において、食料や衣服などの生活必需品について、経済的な理由で買えなかった経験があったかを聞いたところ、経験があると答えた世帯、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた『一度でもあった』は「季節の気温にあった生活に必要な衣服・くつ」で8.8%と最も高くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

<今回調査>【図表 2-58 生活必需品の購入の有無『一度でもあった』】



<前回調査>【図表 2-59 生活必需品の購入の有無『一度でもあった』】



1日に3食食べるために必要とする食料が買えなかった経験を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

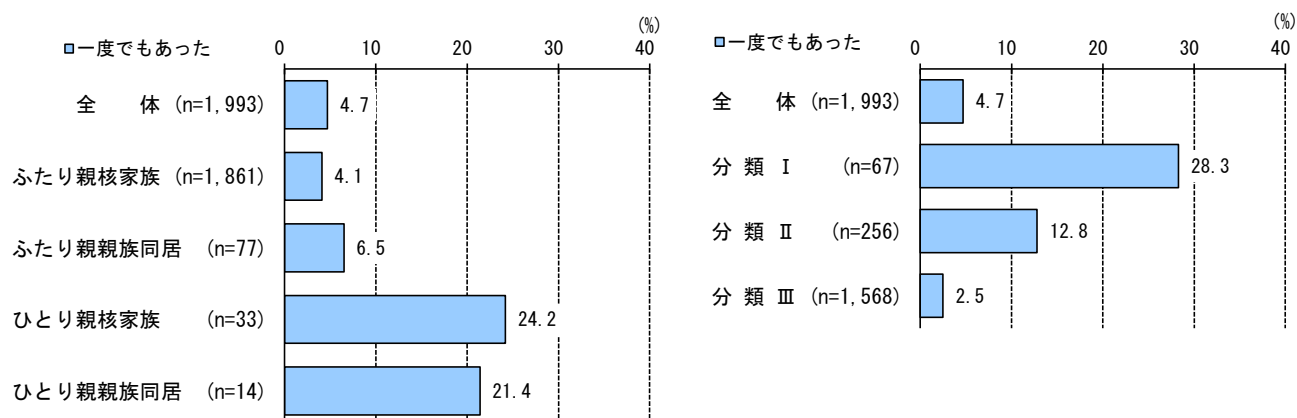
所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（28.3%）、『分類Ⅱ』（12.8%）、『分類Ⅲ』（2.5%）の順に高くなっている。

経年でみると、所得分類別では『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』で前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

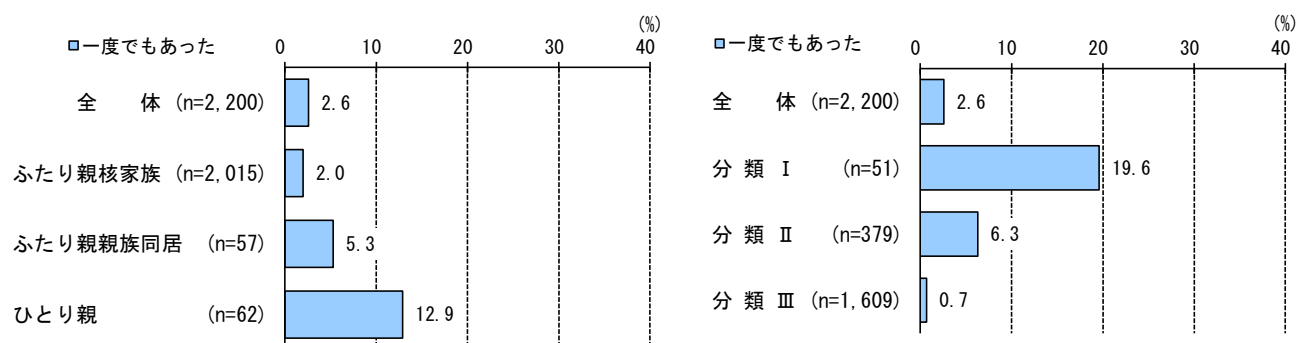
<今回調査>【図表 2-60 (ア) 1日3食食べるために必要な食料が買えなかった経験の有無】

(世帯構成別、所得分類別)



<前回調査>【図表 2-61 (ア) 1日3食食べるために必要な食料が買えなかった経験の有無】

(世帯構成別、所得分類別)



季節の気温にあった生活に必要な衣服・くつが買えなかった経験を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

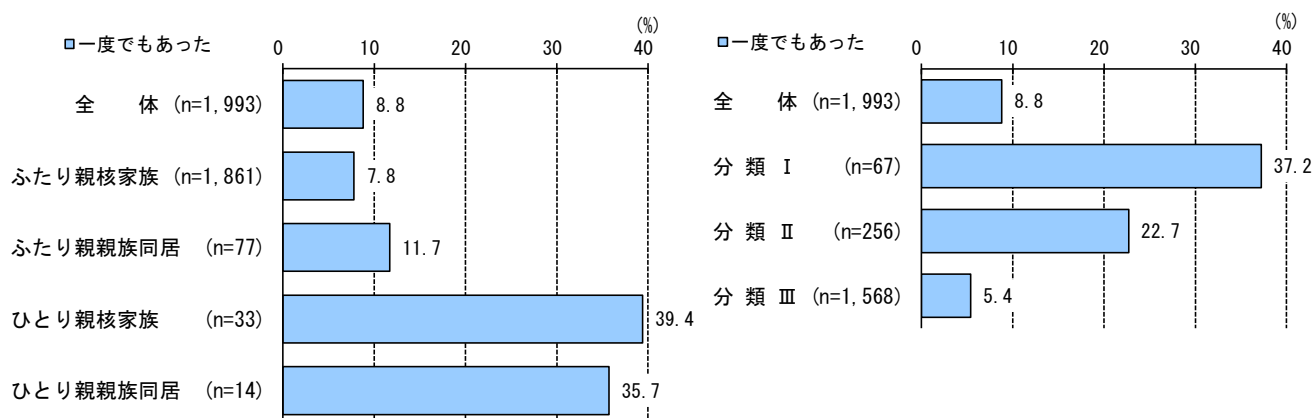
所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（37.2%）、『分類Ⅱ』（22.7%）、『分類Ⅲ』（5.4%）の順に高くなっている。

経年でみると、所得分類別では『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』で前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

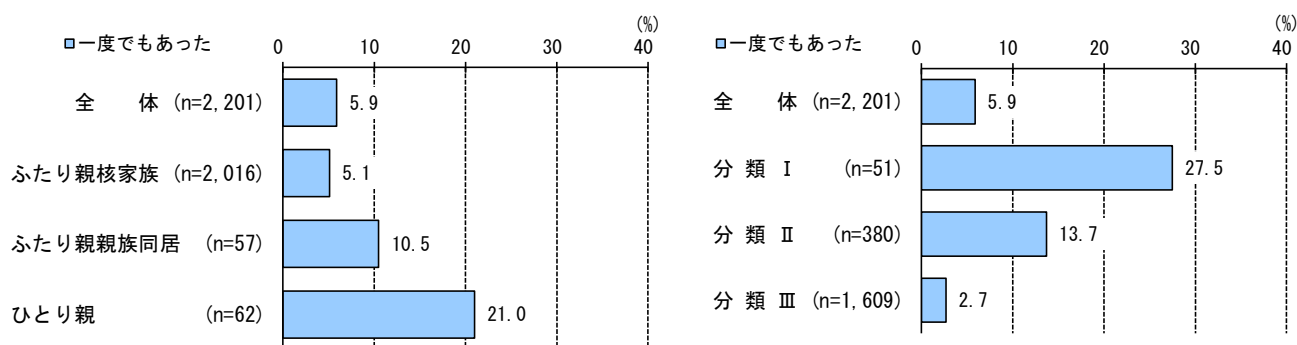
<今回調査>【図表 2-62 (イ) 季節の気温にあった生活に必要な衣服・くつが買えなかった経験の有無】

(世帯構成別、所得分類別)



<前回調査>【図表 2-63 (イ) 季節の気温にあった生活に必要な衣服・くつが買えなかった経験の有無】

(世帯構成別、所得分類別)



子どもが保育所や幼稚園などで使う文具や家庭学習のための教材が買えなかった経験を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

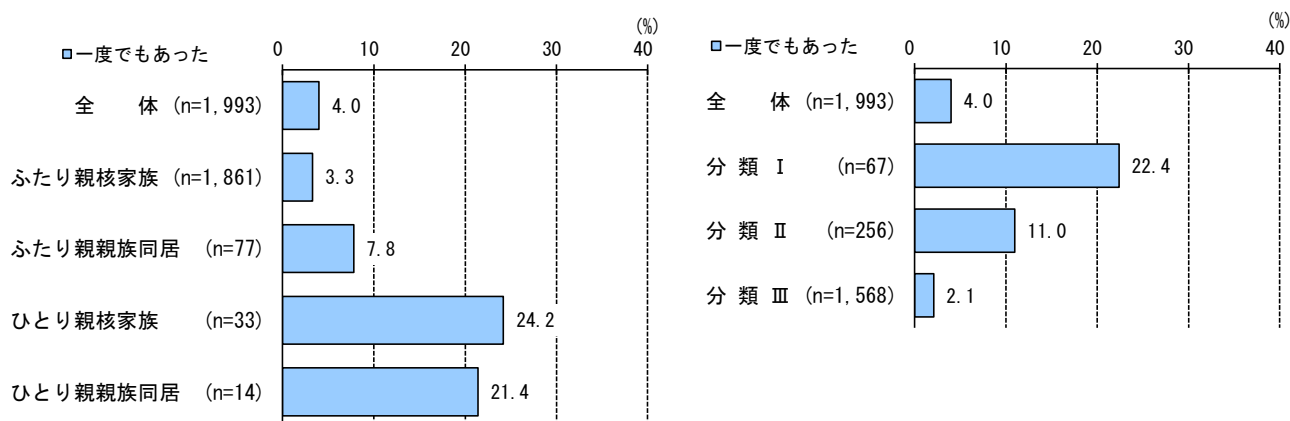
所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（22.4%）、『分類Ⅱ』（11.0%）、『分類Ⅲ』（2.1%）の順に高くなっている。

経年でみると、所得分類別では『分類Ⅱ』で前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

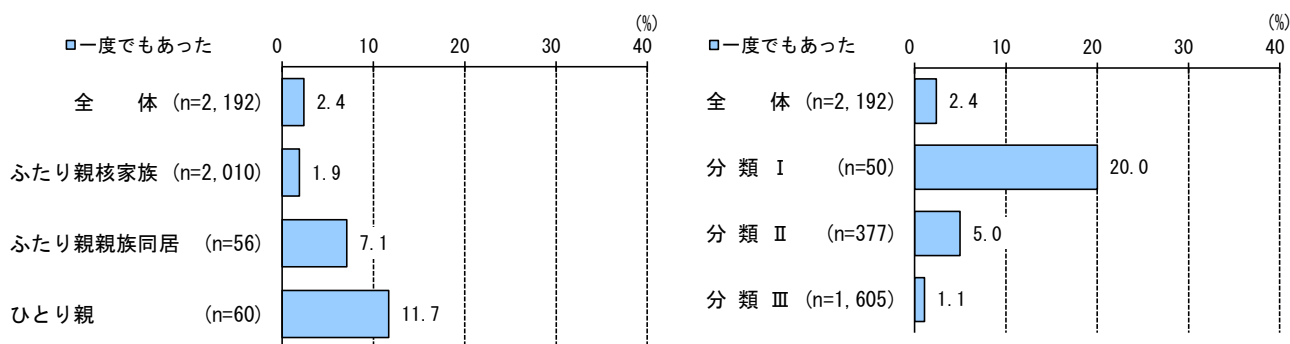
＜今回調査＞【図表 2-64 （ウ）子どもが学校などで使う文具や家庭学習のための教材が買えなかった経験の有無】

（世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 2-65 （ウ）子どもが学校などで使う文具や家庭学習のための教材が買えなかった経験の有無】

（世帯構成別、所得分類別）



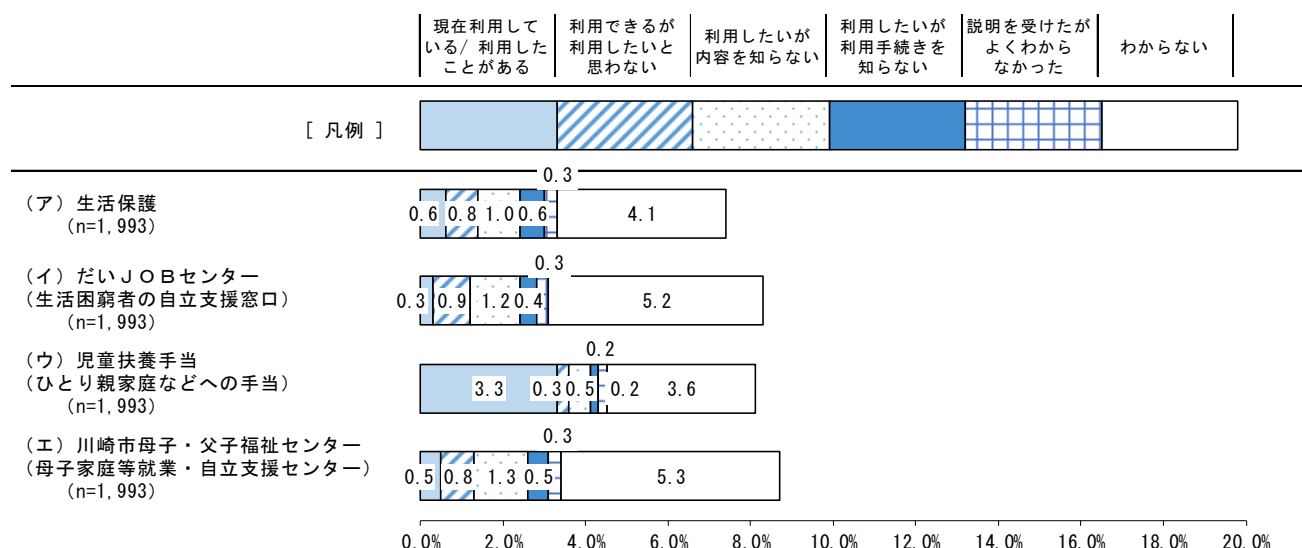
(3) 各支援制度の利用状況【問35】(SA)

各支援制度の利用状況を聞いたところ、「現在利用している／利用したことがある」は『児童扶養手当』が3.3%で最も高くなっている。

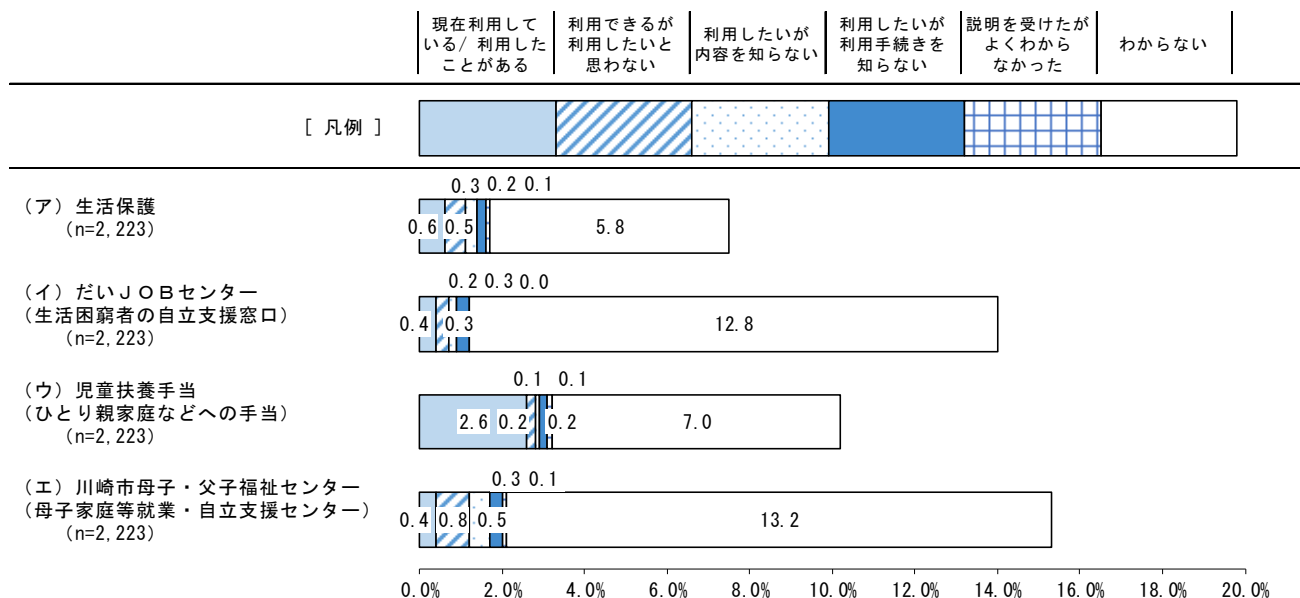
経年でみると、「わからない」は『だいJOBセンター』『川崎市母子・父子福祉センター』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、「制度の対象外」は図表から除外している。

<今回調査>【図表 2-66 各支援制度の利用状況】



<前回調査>【図表 2-67 各支援制度の利用状況】



ア 生活保護

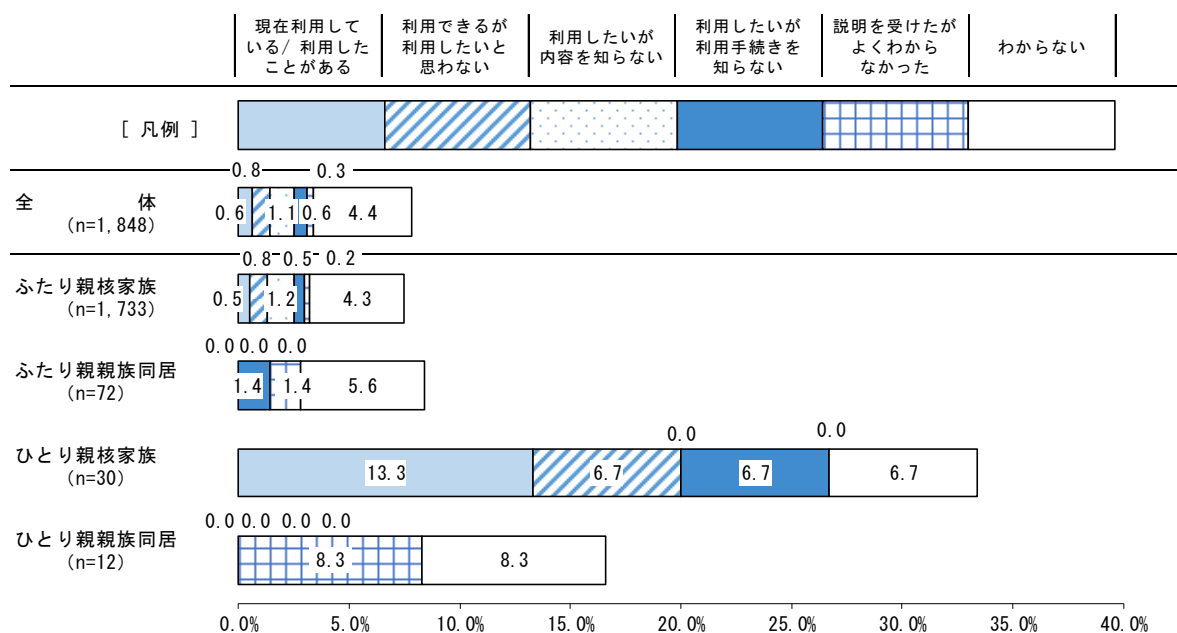
生活保護の利用状況を世帯構成別にみると、『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』では「わからない」(ふたり親核家族：4.3%、ふたり親親族同居：5.6%)が最も高くなっている。

経年でみると、『ふたり親親族同居』では「わからない」が前回調査に比べて低くなっている。

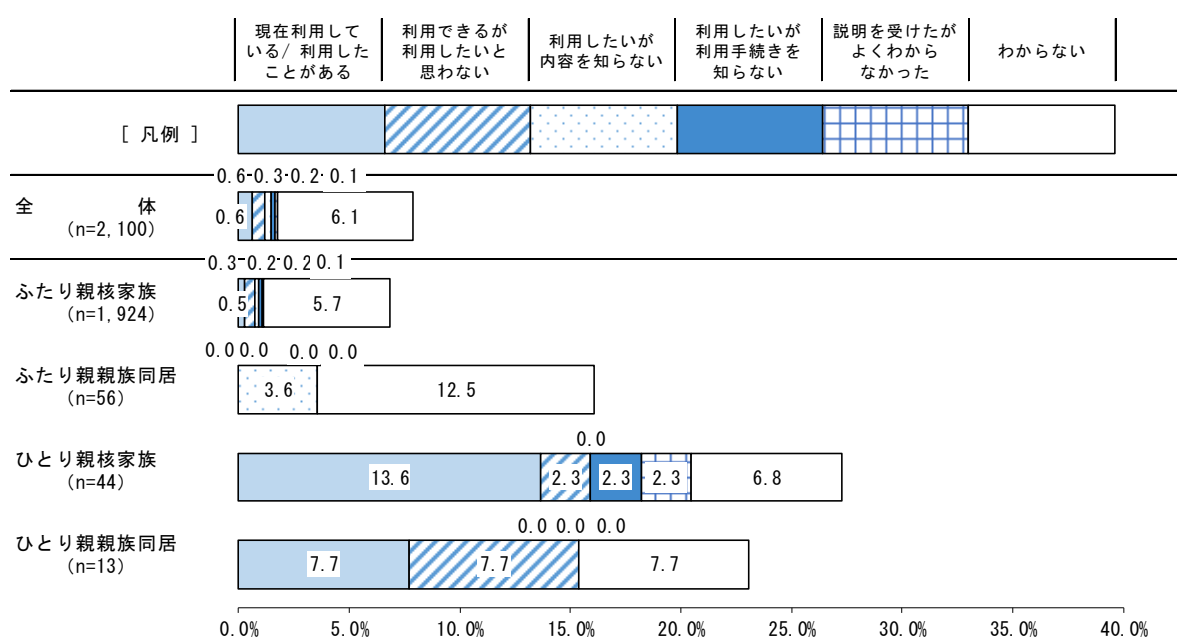
なお、「制度の対象外」は図表から除外している。

サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 2-68 (ア) 生活保護の利用状況】(世帯構成別)



<前回調査>【図表 2-69 (ア) 生活保護の利用状況】(世帯構成別)



イ だいJOBセンター（生活困窮者の自立支援窓口）

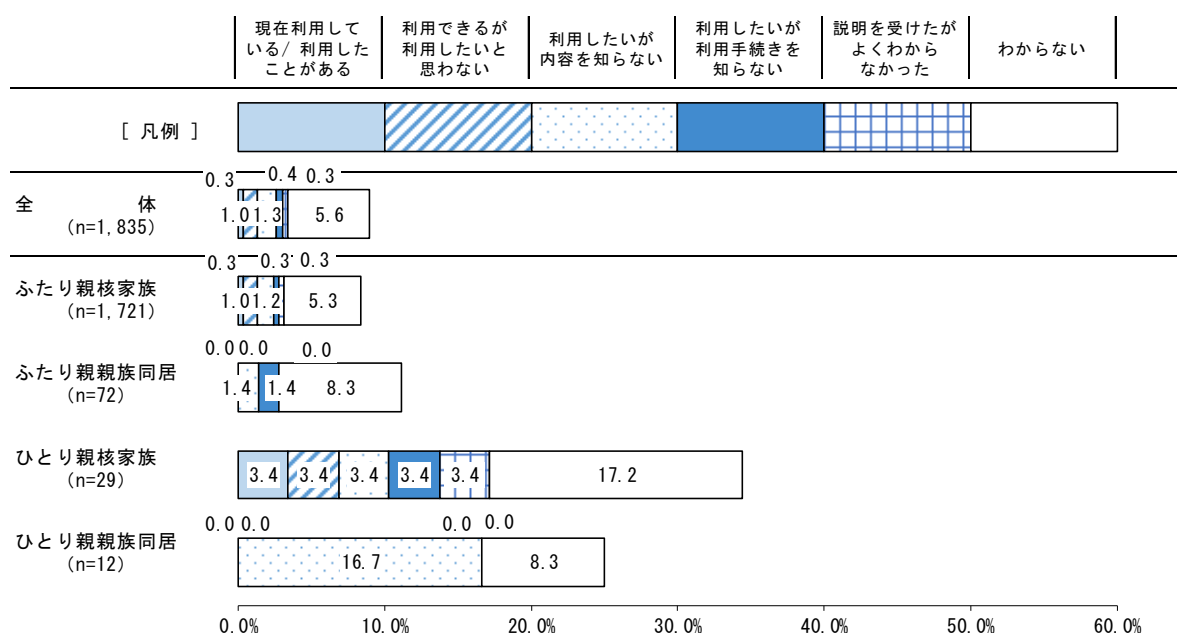
だいJOBセンターの利用状況を世帯構成別にみると、『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』では「わからない」（ふたり親核家族：5.3%、ふたり親親族同居：8.3%）が最も高くなっている。

経年でみると、『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』では「わからない」が前回調査に比べて低くなっている。

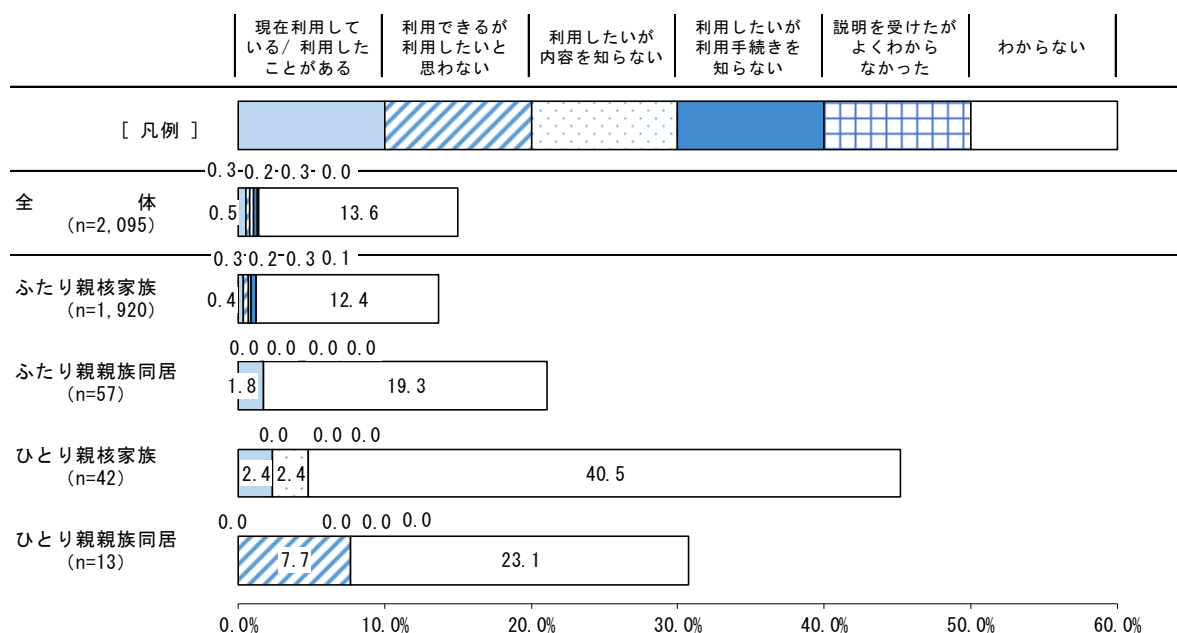
なお、「制度の対象外」は図表から除外している。

サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 2-70 （イ）だいJOBセンターの利用状況】（世帯構成別）



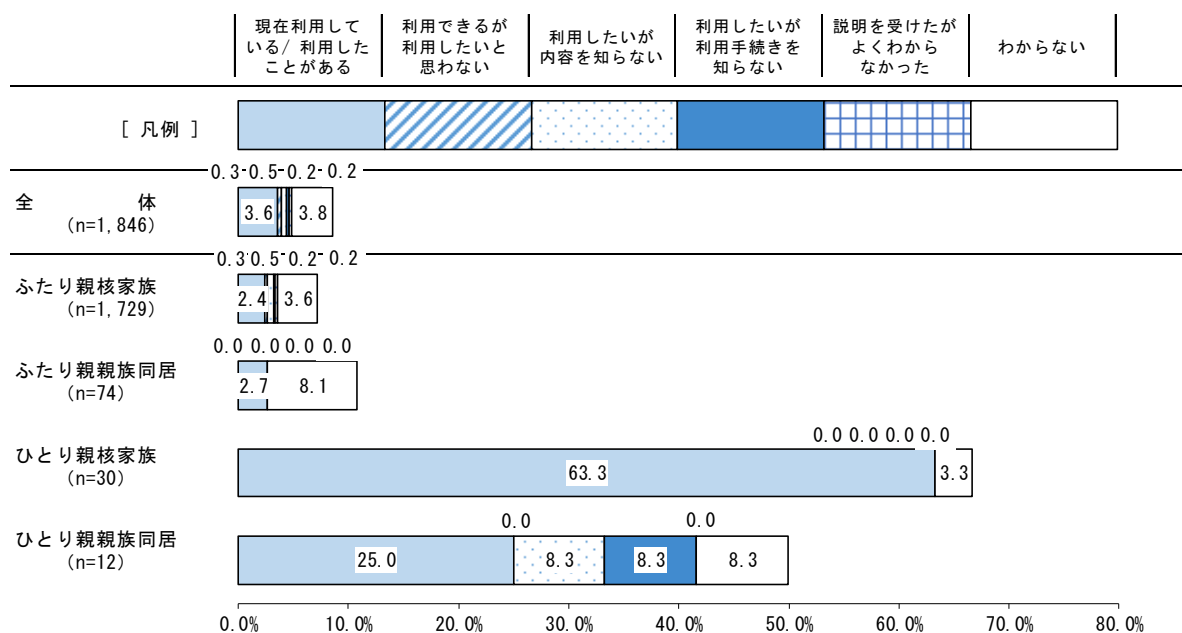
＜前回調査＞【図表 2-71 （イ）だいJOBセンターの利用状況】（世帯構成別）



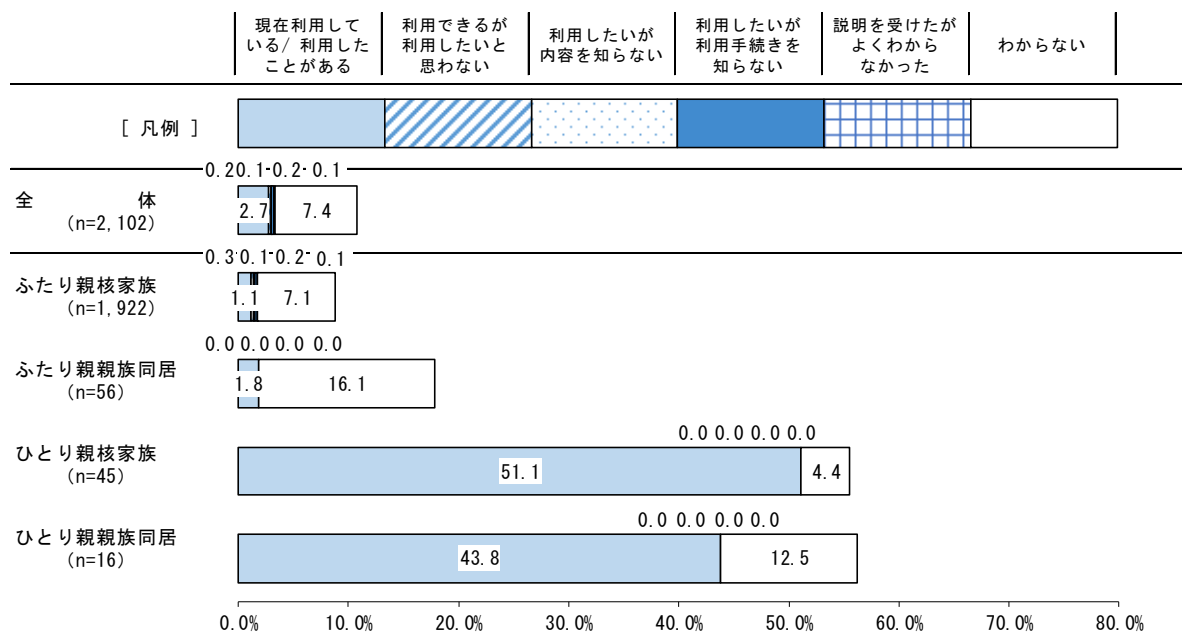
ウ 児童扶養手当（ひとり親家庭などへの手当）

児童扶養手当の利用状況を世帯構成別にみると、『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』では「わからない」（ふたり親核家族：3.6%、ふたり親親族同居：8.1%）が最も高くなっている。経年でみると、『ふたり親親族同居』では「わからない」が前回調査に比べて低くなっている。なお、「制度の対象外」は図表から除外している。サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 2-72 （ウ）児童扶養手当の利用状況】（世帯構成別）



<前回調査>【図表 2-73 （ウ）児童扶養手当の利用状況】（世帯構成別）



エ 川崎市母子・父子福祉センター（母子家庭等就業自立支援センター）

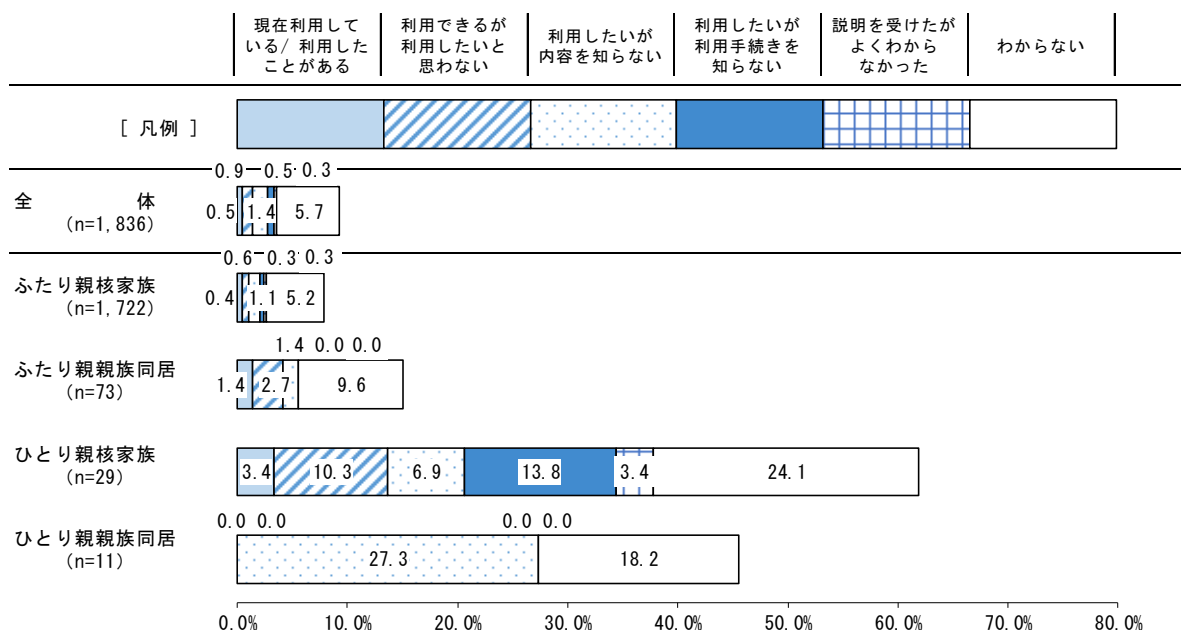
川崎市母子・父子福祉センターの利用状況を世帯構成別にみると、『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』では「わからない」（ふたり親核家族：5.2%、ふたり親親族同居：9.6%）が最も高くなっている。

経年でみると、『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』では「わからない」が前回調査に比べて低くなっている。

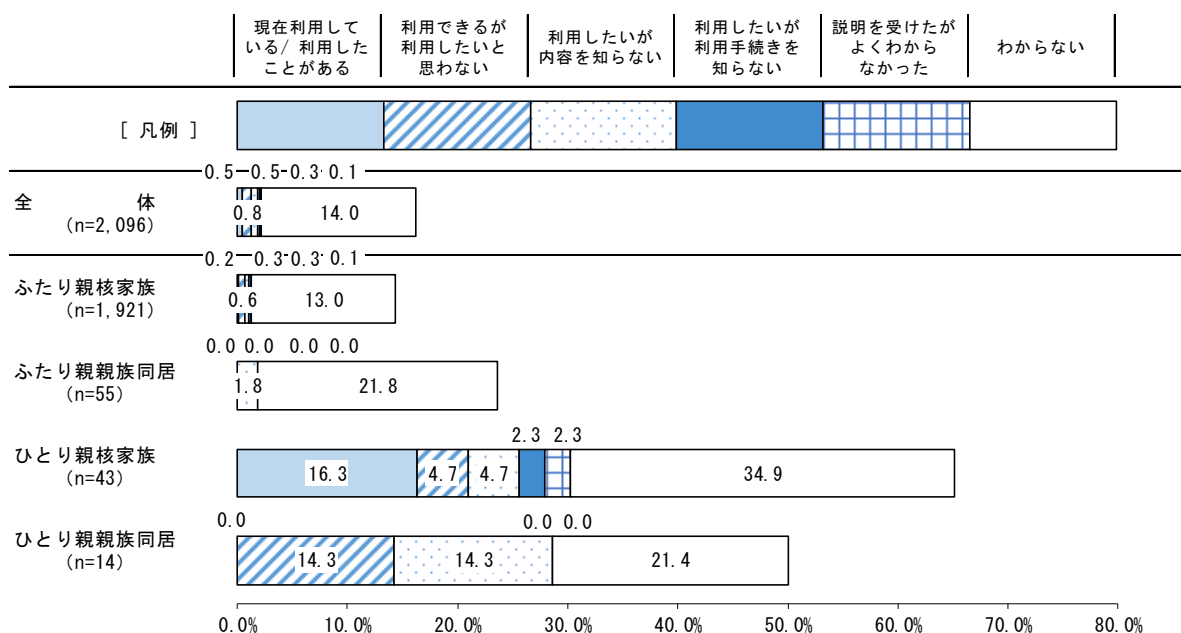
なお、「制度の対象外」は図表から除外している。

サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 2-74 （エ）川崎市母子・父子福祉センターの利用状況】（世帯構成別）



＜前回調査＞【図表 2-75 （エ）川崎市母子・父子福祉センターの利用状況】（世帯構成別）



※ページ調整のため余白

第3節 保護者の状況

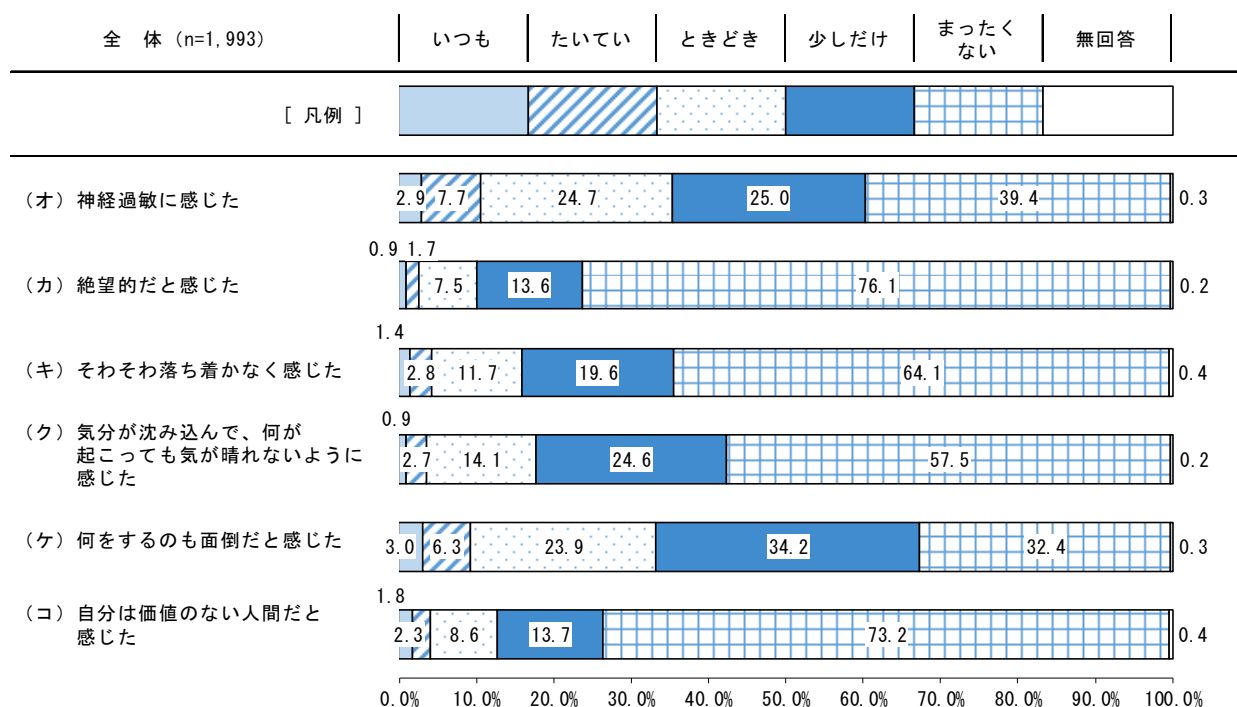
(1) 保護者の精神状態や考え方

ア 保護者の精神状態【問13 オ～コ】(SA)

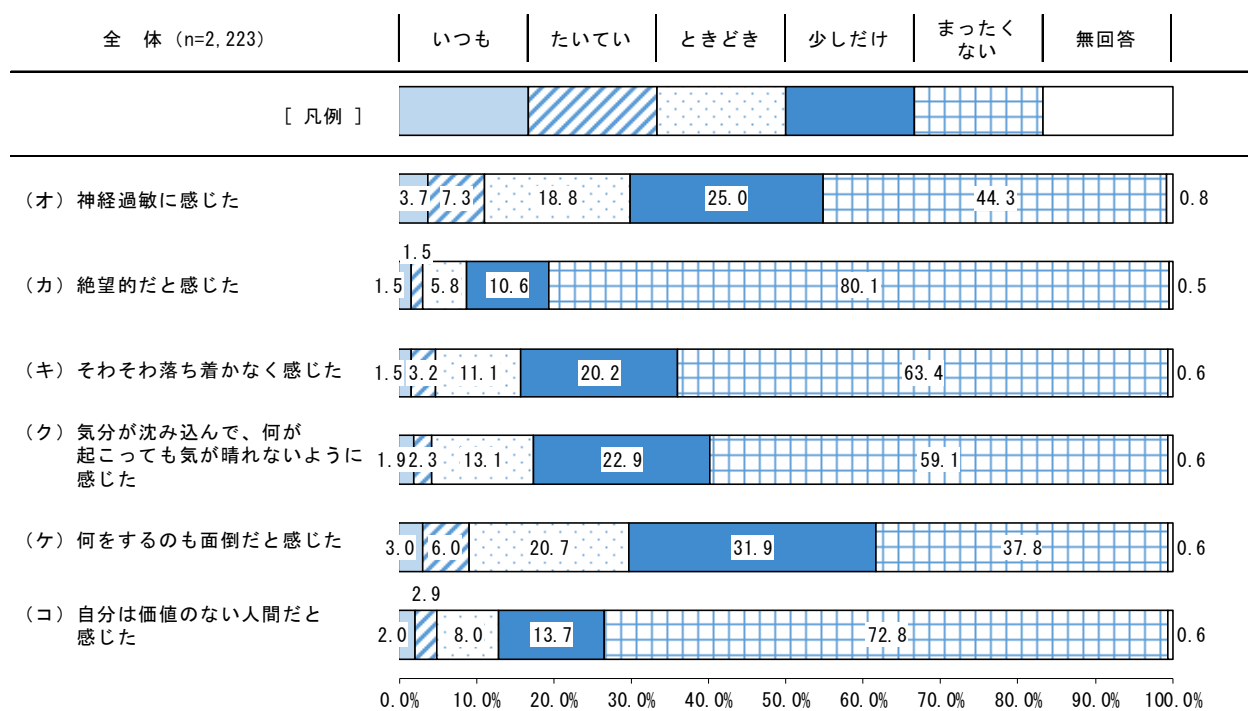
直近1か月間の保護者の精神状態や考え方を聞いたところ、「まったくない」の割合が『絶望的だと感じた』で76.1%と最も高く、次いで『自分は価値のない人間だと感じた』で73.2%となっている。

経年でみると、『神経過敏に感じた』は「ときどき」が前回調査に比べて高く、『何をするのも面倒だと感じた』は「まったくない」が前回調査に比べて低くなっている。

＜今回調査＞【図表 2-76 保護者の精神状態】



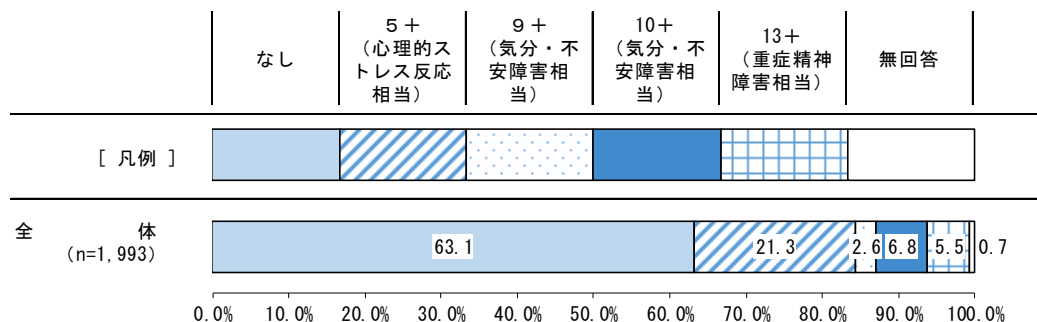
＜前回調査＞【図表 2-77 保護者の精神状態】



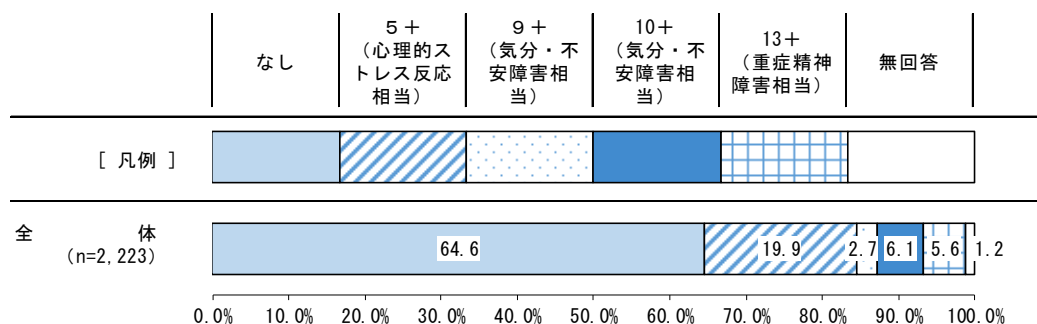
保護者の精神状態をうつ傾向を測る指標として普及されているK 6 指標¹に基づく分類で分けると、「なし」が 63.1%で最も高く、次いで「5+（心理的ストレス反応相当）」が 21.3%、「10+（気分・不安障害相当）」が 6.8%となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 2-78 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】



＜前回調査＞【図表 2-79 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】



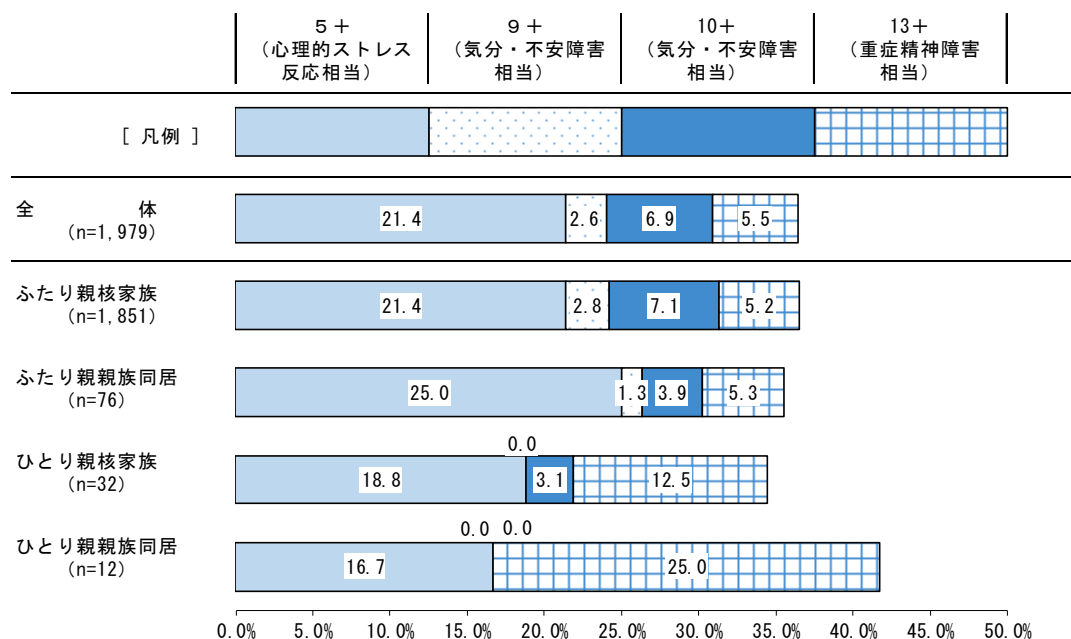
¹ K 6 指標は、米国の Kessler らによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されており、厚生労働省が実施する国民生活基礎調査においても用いられているものである。6つの質問について、5段階（「まったくない」（0点）、「少しだけ」（1点）、「ときどき」（2点）、「たいてい」（3点）、「いつも」（4点））で点数化を行い、その得点によって「重症精神障害相当」（13点以上）、「気分・不安障害相当」（9点以上及び10点以上）、「心理的ストレス反応相当」（5点以上）に分類され、合計点数が高いほど精神的な問題がより重い可能性があると考えられている。

K 6 指標に基づく抑うつ傾向について、世帯構成別にみると、『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』では「5+（心理的ストレス反応相当）」（ふたり親核家族：21.4%、ふたり親親族同居：25.0%）が最も高くなっている。

経年でみると、「5+（心理的ストレス反応相当）」は『ふたり親親族同居』で前回調査に比べて高く、「9+（気分・不安障害相当）」「10+（気分・不安障害相当）」は『ふたり親親族同居』で前回調査に比べて低くなっている。

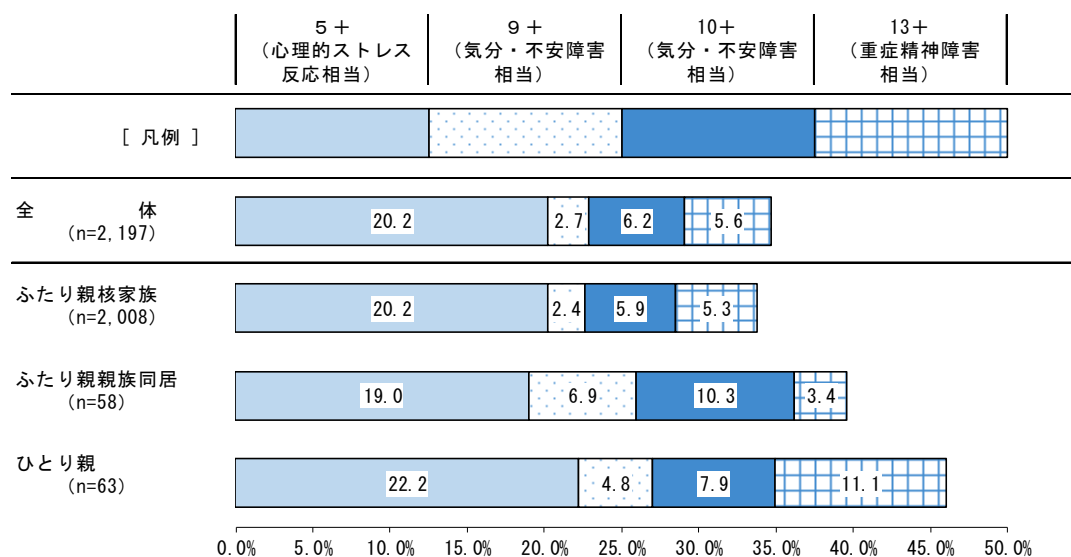
なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 2-80 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】（世帯構成別）



※「なし」を除く

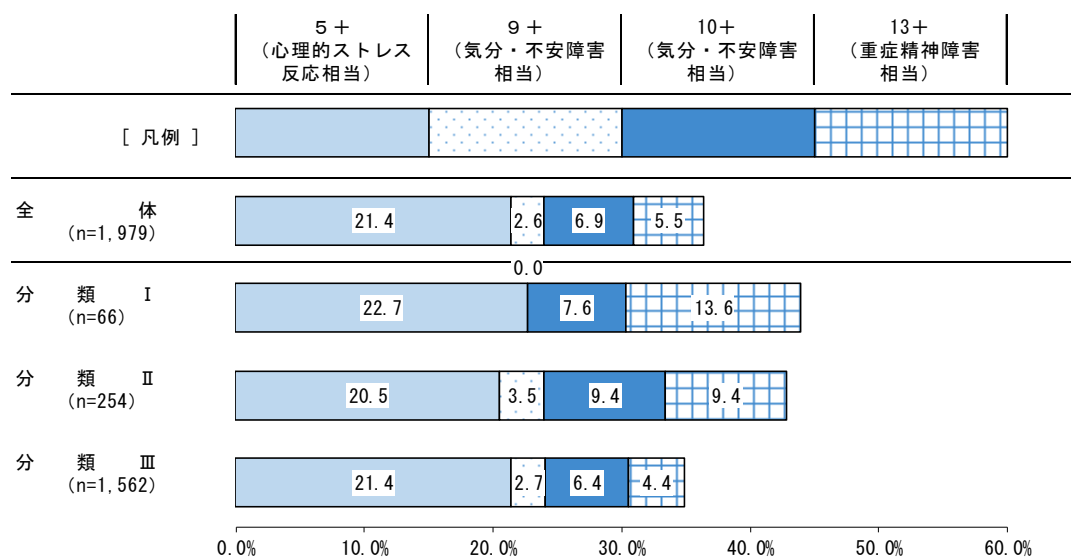
<前回調査>【図表 2-81 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】（世帯構成別）



※「なし」を除く

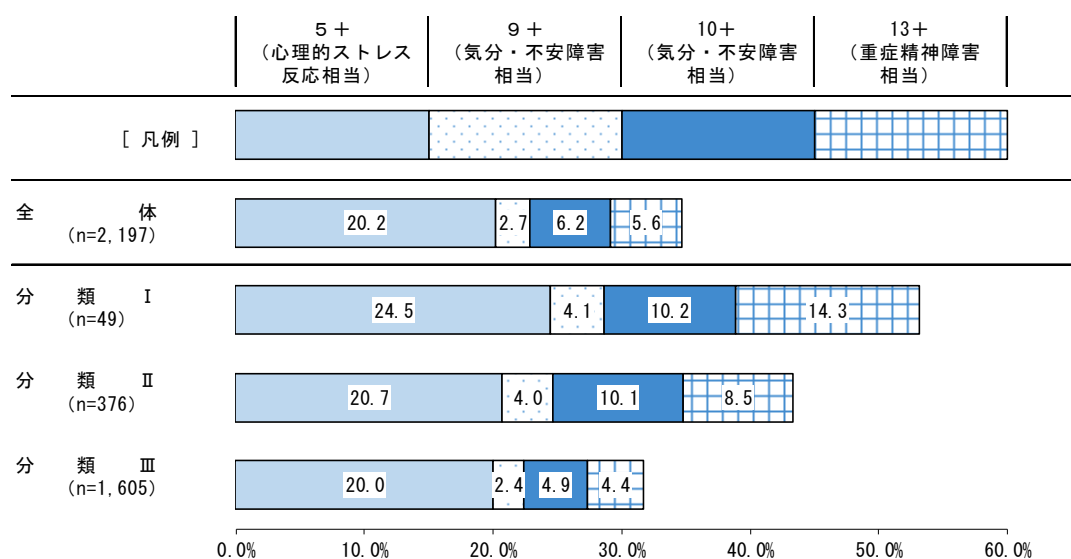
K 6 指標に基づく抑うつ傾向について、所得分類別にみると、「13+（重症精神障害相当）」では、『分類Ⅰ』が 13.6%と全体に比べて高くなっている。
 経年でみると、大きな差はみられない。

<今回調査>【図表 2-82 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】（所得分類別）



※「なし」を除く

<前回調査>【図表 2-83 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】（所得分類別）



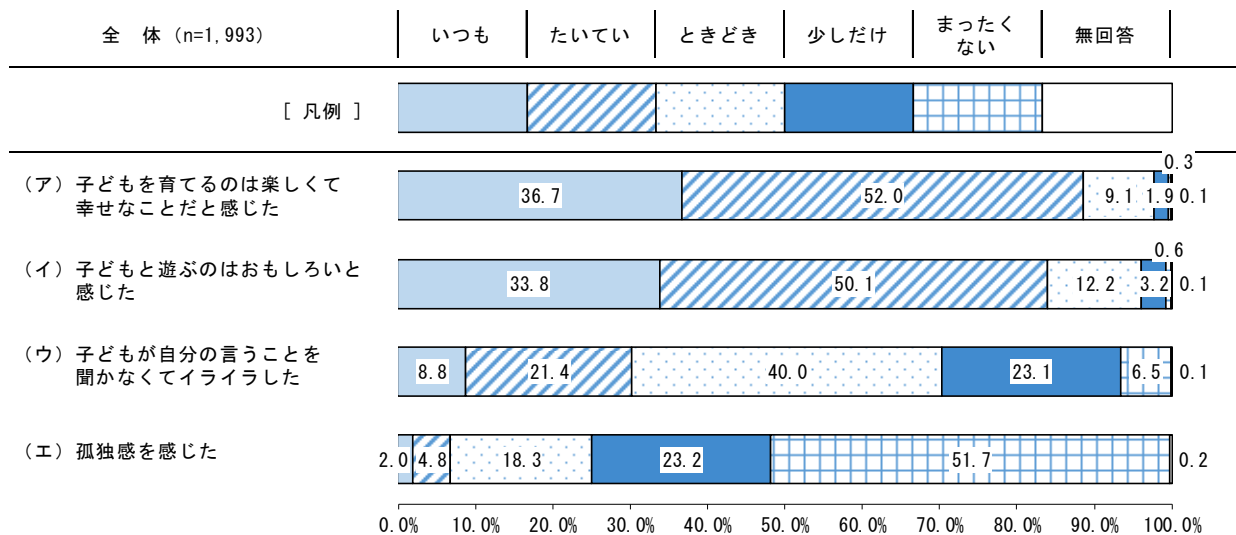
※「なし」を除く

イ 子育てに関する感情【問13 ア～エ】(SA)

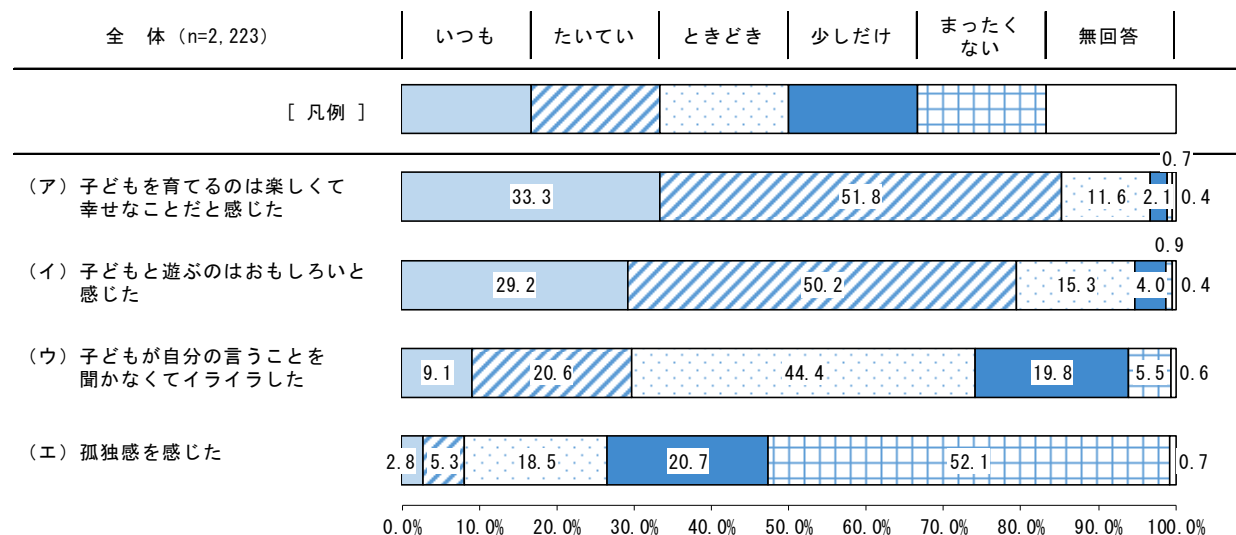
直近1か月間の子育てに関する感情を聞いたところ、「いつも」は『子どもを育てるのは楽しくて幸せなことだと感じた』が36.7%で最も高く、次いで『子どもと遊ぶのはおもしろいと感じた』が33.8%となっている。

なお、経年でみると、大きな差はみられない。

<今回調査>【図表 2-84 子育てに関する感情】



<前回調査>【図表 2-85 子育てに関する感情】



ウ 将来に対する考え方など【問9】(SA)

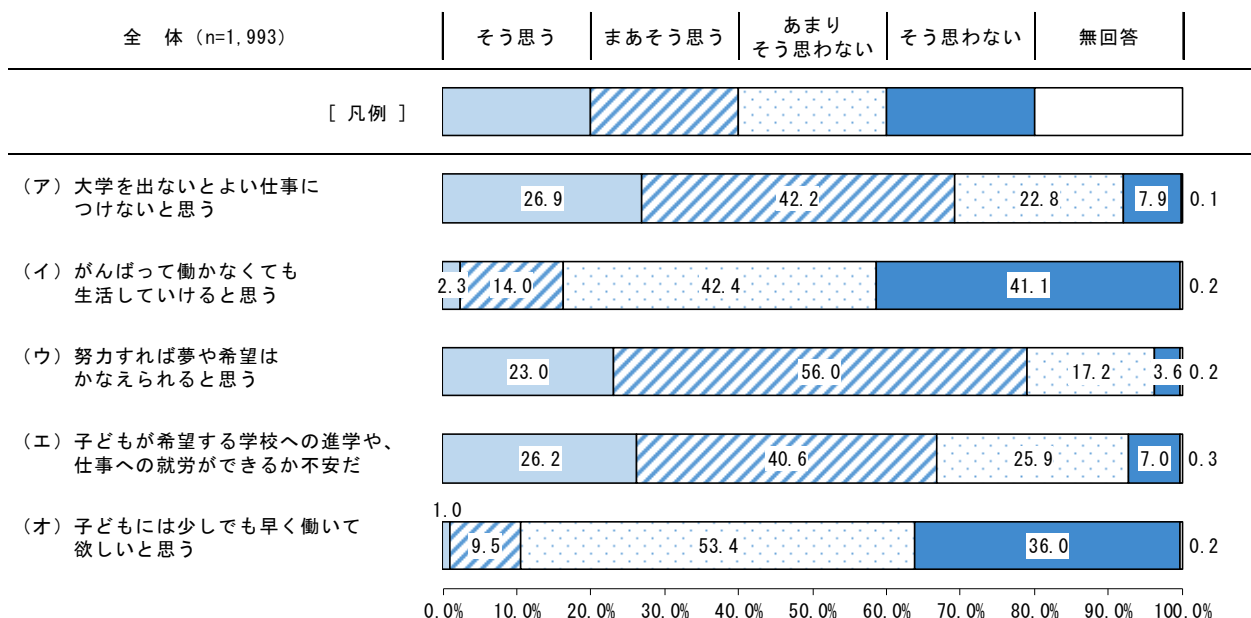
将来に対する考え方について聞いたところ、「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合は、『努力すれば夢や希望はかなえられると思う』が 79.0%で最も高く、次いで『大学を出ないとよい仕事につけないと思う』が 69.1%、『子どもが希望する学校への進学や、仕事への就労ができるか不安だ』が 66.8%となっている。

一方、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を足し合わせた割合は、『子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う』が 89.4%、『がんばって働かなくても生活していけると思う』が 83.5%となっている。

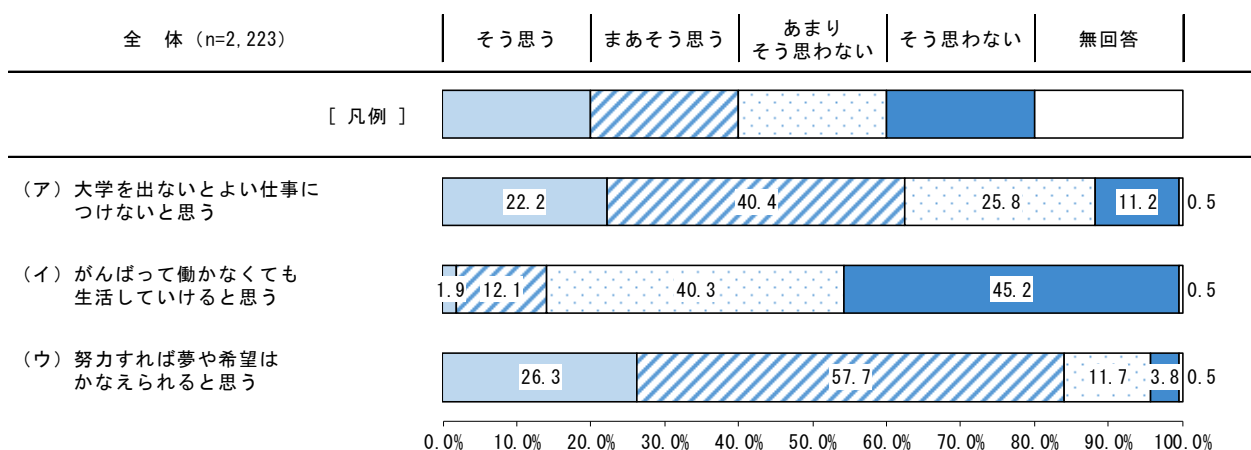
経年でみると、「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合が『大学を出ないとよい仕事につけないと思う』で前回調査に比べて高く、『努力すれば夢や希望はかなえられると思う』で前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 2-86 将来に対する考え方】



＜前回調査＞【図表 2-87 将来に対する考え方】

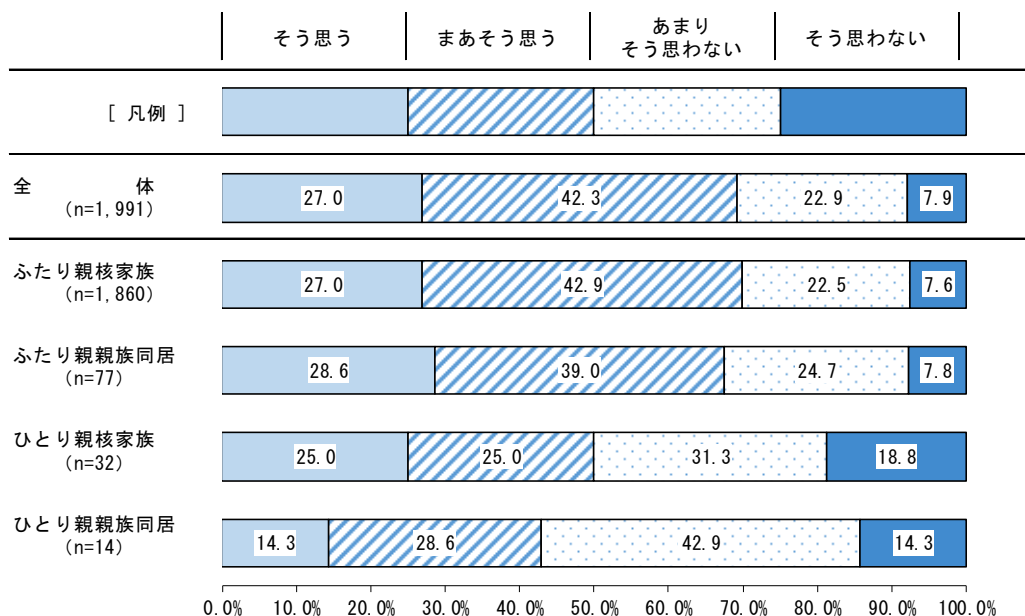


『大学を出ないとよい仕事につけないと思う』について、世帯構成別にみると「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合は、大きな差はみられない。

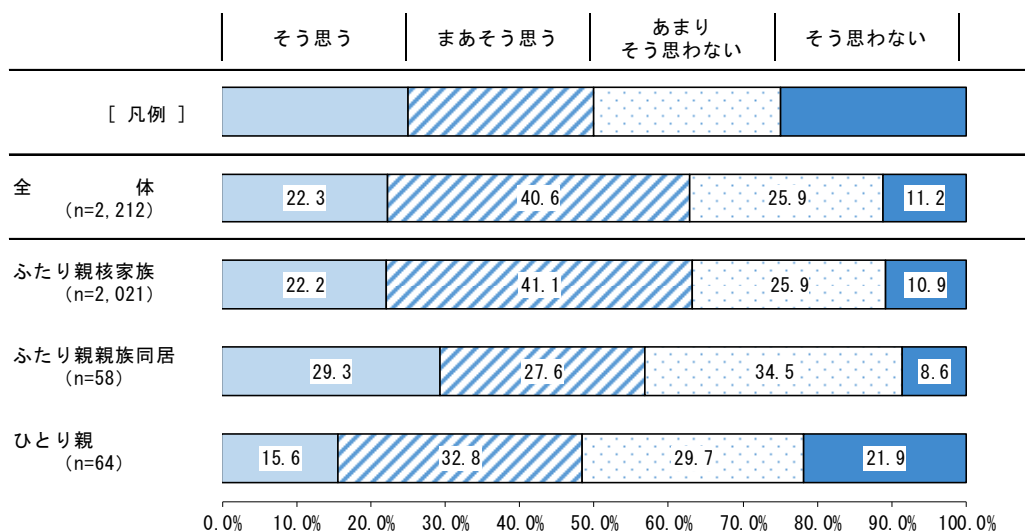
経年でみると、『ふたり親親族同居』では「まあそう思う」が前回調査に比べて高く、「あまりそう思わない」が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 2-88 (ア) 大学を出ないとよい仕事につけないと思う】(世帯構成別)



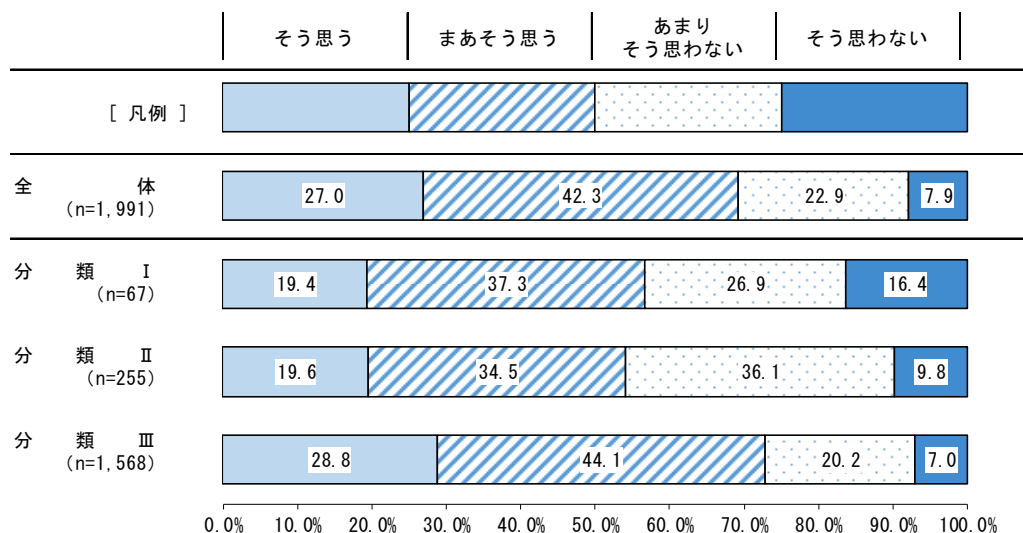
<前回調査>【図表 2-89 (ア) 大学を出ないとよい仕事につけないと思う】(世帯構成別)



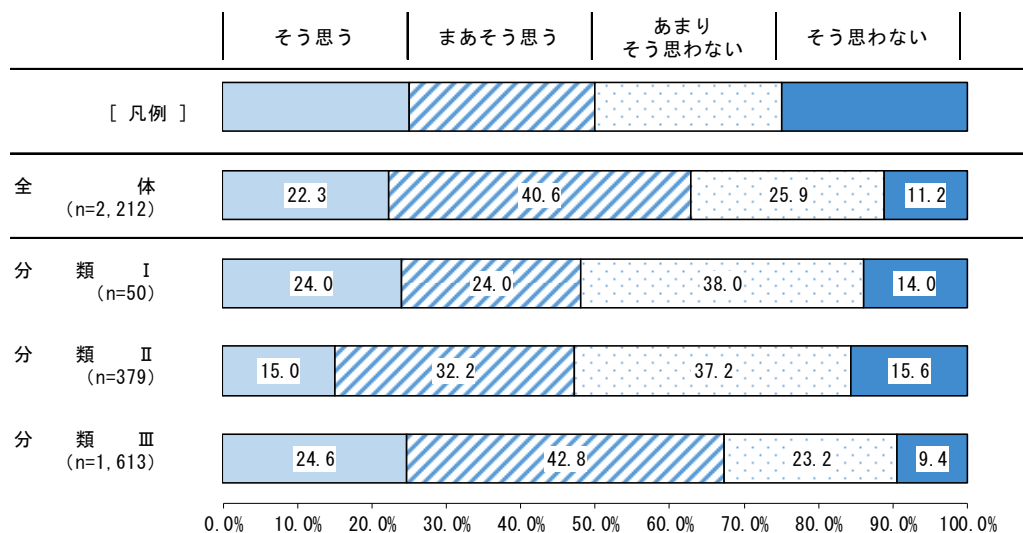
『大学を出ないとよい仕事につけないと思う』について、所得分類別にみると、「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合は、『分類Ⅰ』が56.7%、『分類Ⅱ』が54.1%と、全体に比べて低くなっている。

経年でみると、『分類Ⅰ』では「あまりそう思わない」が前回調査に比べて低く、「まあそう思う」が前回調査に比べて高くなっている。

＜今回調査＞【図表 2-90 (ア) 大学を出ないとよい仕事につけないと思う】(所得分類別)



＜前回調査＞【図表 2-91 (ア) 大学を出ないとよい仕事につけないと思う】(所得分類別)

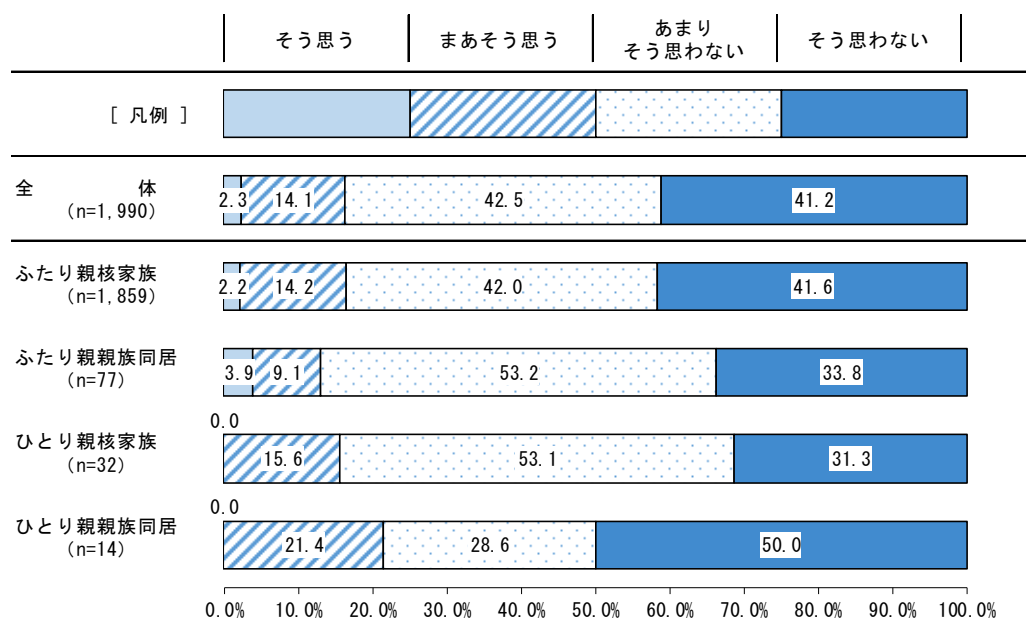


『がんばって働かなくても生活していけると思う』について、世帯構成別にみると「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合は、大きな差はみられない。

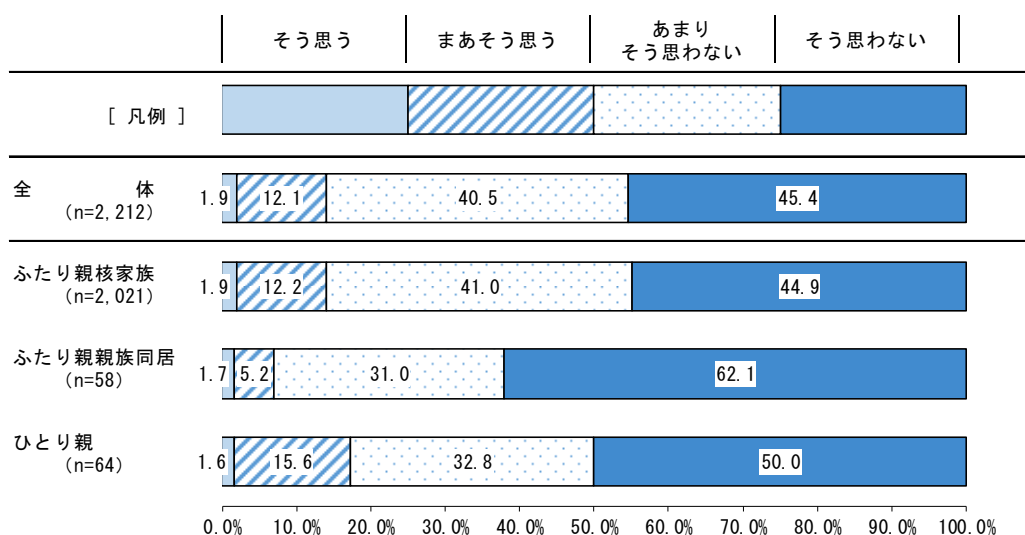
経年でみると、『ふたり親親族同居』では「あまりそう思わない」が前回調査に比べて高く、「そう思わない」が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 2-92 (イ) がんばって働かなくても生活していけると思う】(世帯構成別)



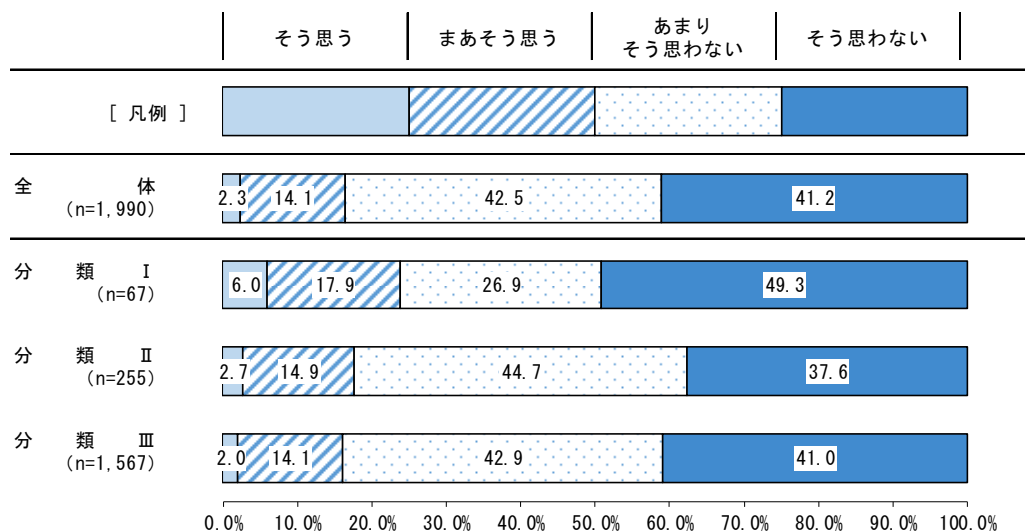
<前回調査>【図表 2-93 (イ) がんばって働かなくても生活していけると思う】(世帯構成別)



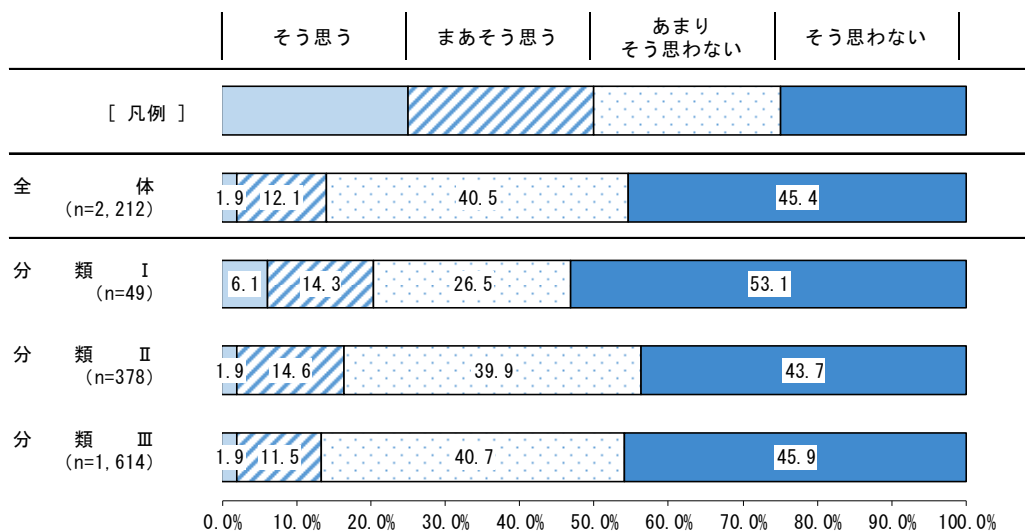
『がんばって働かなくても生活していけると思う』について、所得分類別にみると、「思う」と「まあ思う」を足し合わせた割合は、『分類Ⅰ』が 23.9%と、全体に比べて高くなっている。

経年でみると、『分類Ⅱ』では「そう思わない」が前回調査に比べて低くなっている。
なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 2-94 (イ) がんばって働かなくても生活していけると思う】(所得分類別)



<前回調査>【図表 2-95 (イ) がんばって働かなくても生活していけると思う】(所得分類別)

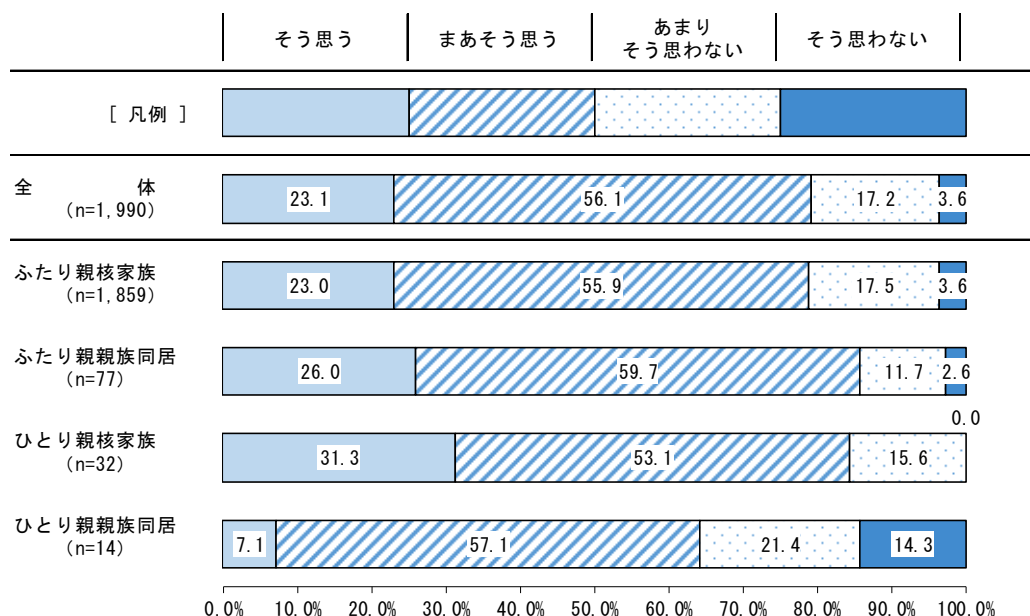


『努力すれば夢や希望はかなえられると思う』について、世帯構成別にみると「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合は、『ふたり親親族同居』が 85.7%と、全体に比べて高くなっている。

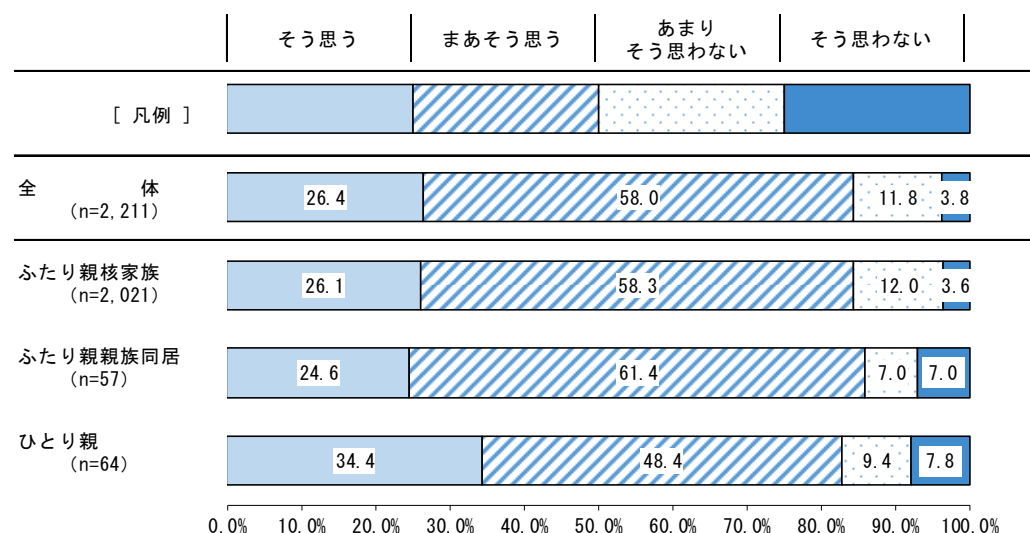
経年でみると、『ふたり親核家族』では「あまりそう思わない」が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 2-96 (ウ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】(世帯構成別)



<前回調査>【図表 2-97 (ウ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】(世帯構成別)

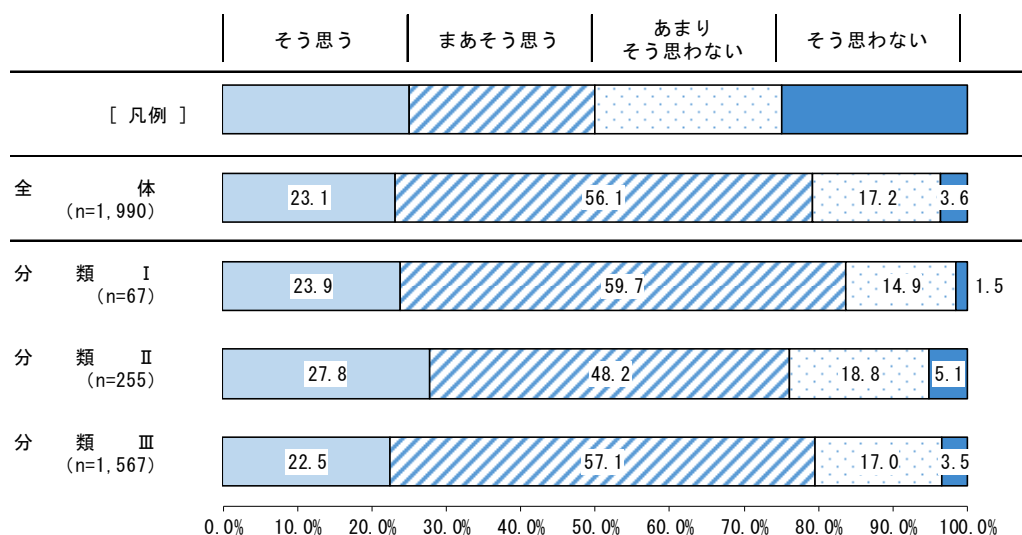


『努力すれば夢や希望はかなえられると思う』について、所得分類別にみると、「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合は、大きな差はみられない。

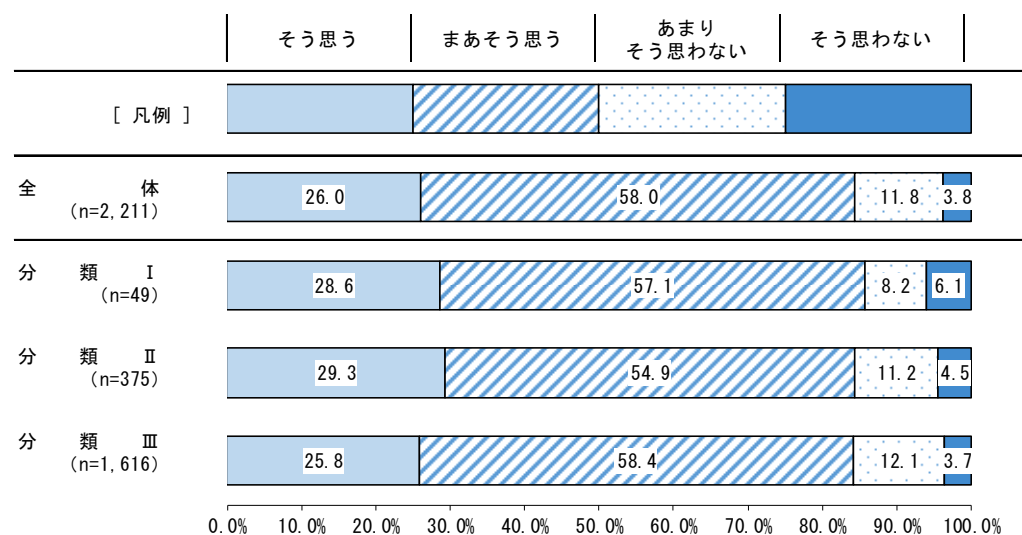
経年でみると、『分類Ⅱ』では「あまりそう思わない」が前回調査に比べて高く、『分類Ⅱ』では「まあそう思う」が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 2-98 (ウ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】(所得分類別)

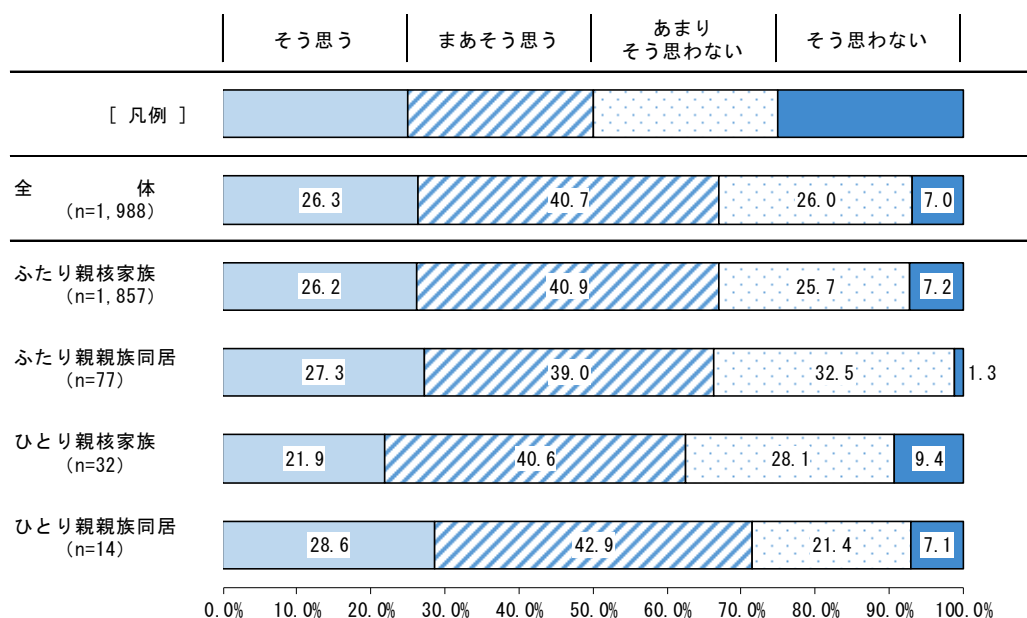


＜前回調査＞【図表 2-99 (ウ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】(所得分類別)



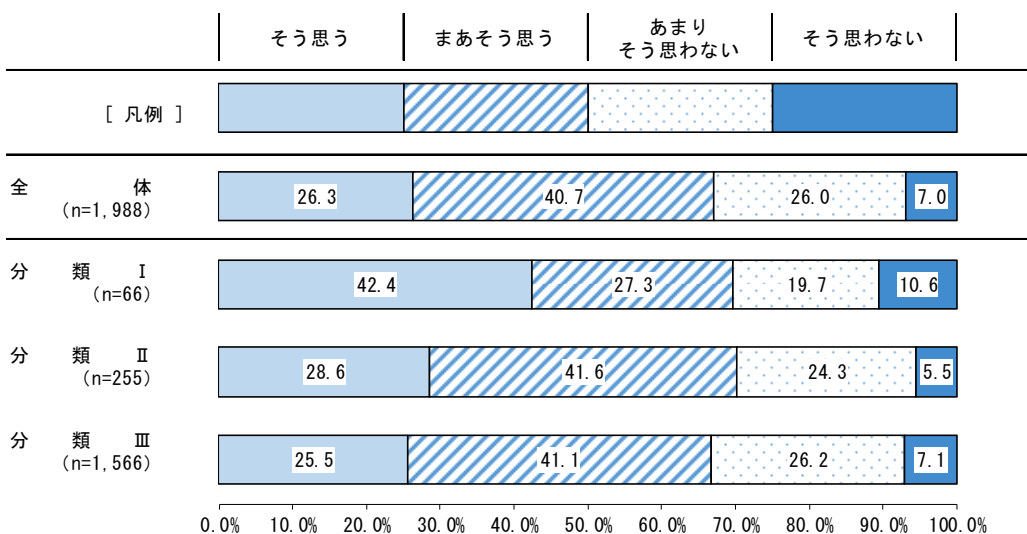
『子どもが希望する学校への進学や、仕事への就労ができるか不安だ』について、世帯構成別にみると、「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合は、大きな差はみられない。なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。前回調査には、この設問は含まれていない。

＜今回調査＞【図表 2-100 (エ) 子どもが希望する学校への進学や、仕事への就労ができるか不安だ】
(世帯構成別)



『子どもが希望する学校への進学や、仕事への就労ができるか不安だ』について、所得分類別にみると、「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合は、大きな差はみられない。なお、前回調査には、この設問は含まれていない。

＜今回調査＞【図表 2-101 (エ) 子どもが希望する学校への進学や、仕事への就労ができるか不安だ】
(所得分類別)

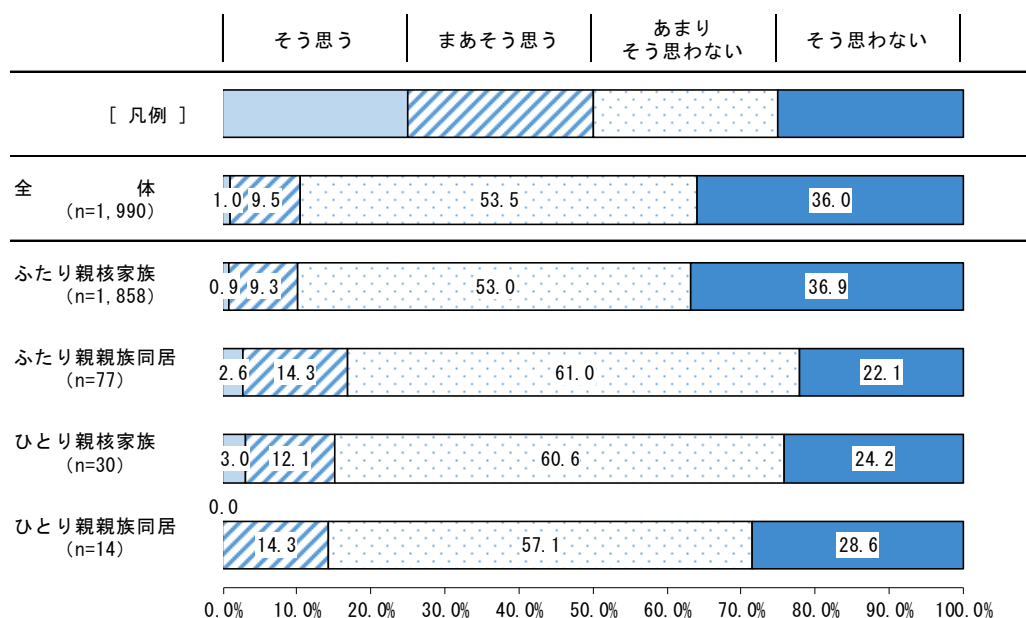


『子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う』について、世帯構成別にみると、「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合は、『ふたり親親族同居』が 16.9%と、全体に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

前回調査には、この設問は含まれていない。

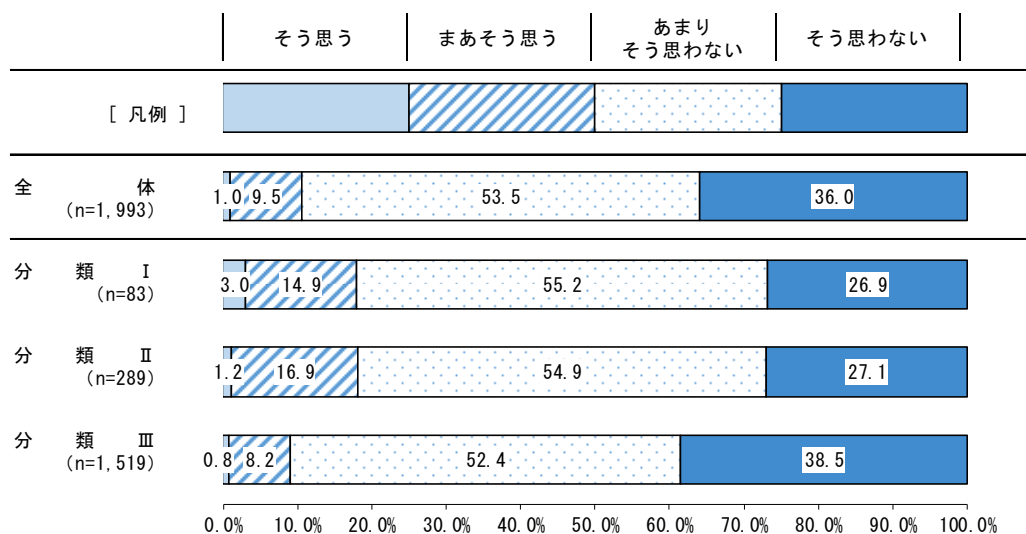
<今回調査>【図表 2-102 (オ) 子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う】(世帯構成別)



『子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う』について、所得分類別にみると、「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合は、『分類Ⅰ』が 17.9%、『分類Ⅱ』が 18.1%と、全体に比べて高くなっている。

なお、前回調査には、この設問は含まれていない。

<今回調査>【図表 2-103 (オ) 子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う】(所得分類別)



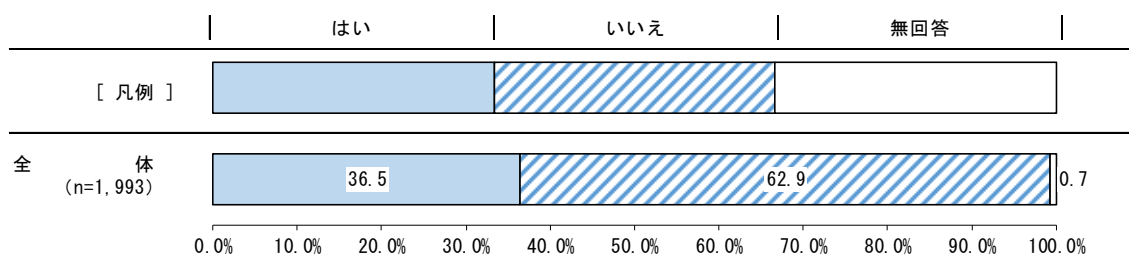
エ 新たに子どもを持つ意向

① 新たに子どもを持つ意向【問27】（SA）

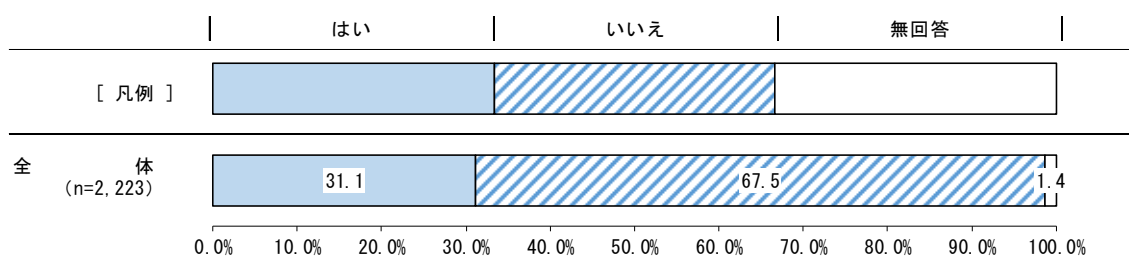
新たに子どもを持ちたいかどうかを聞いたところ、「いいえ」が62.9%で、「はい」の36.5%を上回っている。

経年でみると、「はい」は前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 2-104 新たに子どもを持つ意向】



<前回調査>【図表 2-105 新たに子どもを持つ意向】

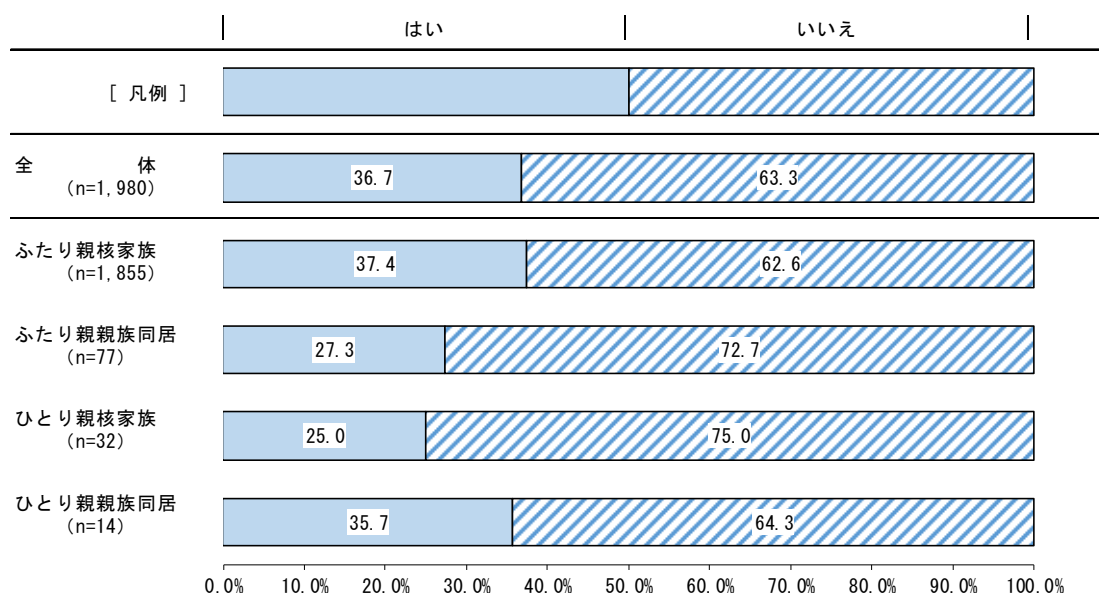


新たに子どもを持ちたいかどうかについて、世帯構成別にみると、「いいえ」と回答した割合は『ふたり親親族同居』が72.7%と、全体に比べて高くなっている。

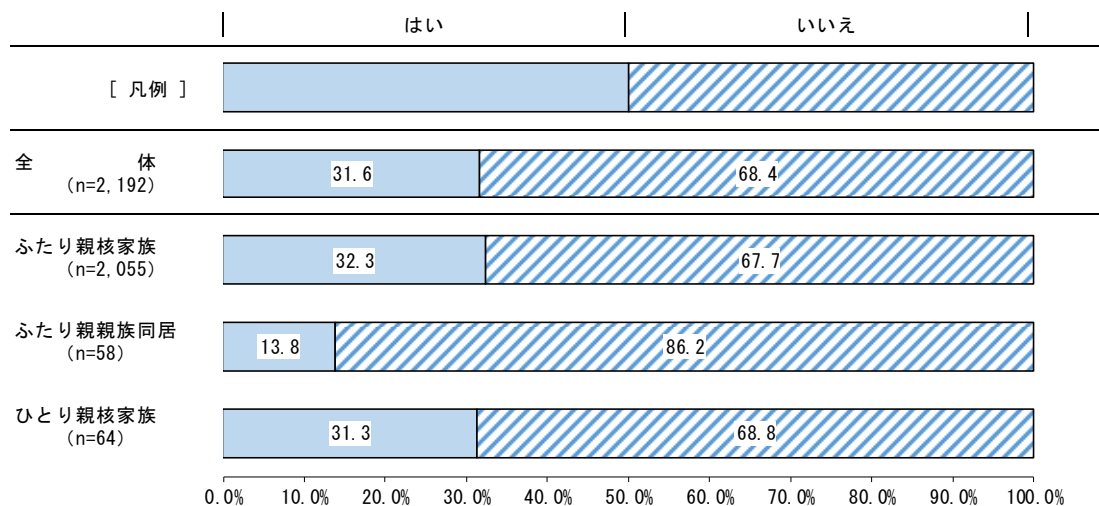
経年でみると、「はい」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』で前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 2-106 新たに子どもを持つ意向】(世帯構成別)

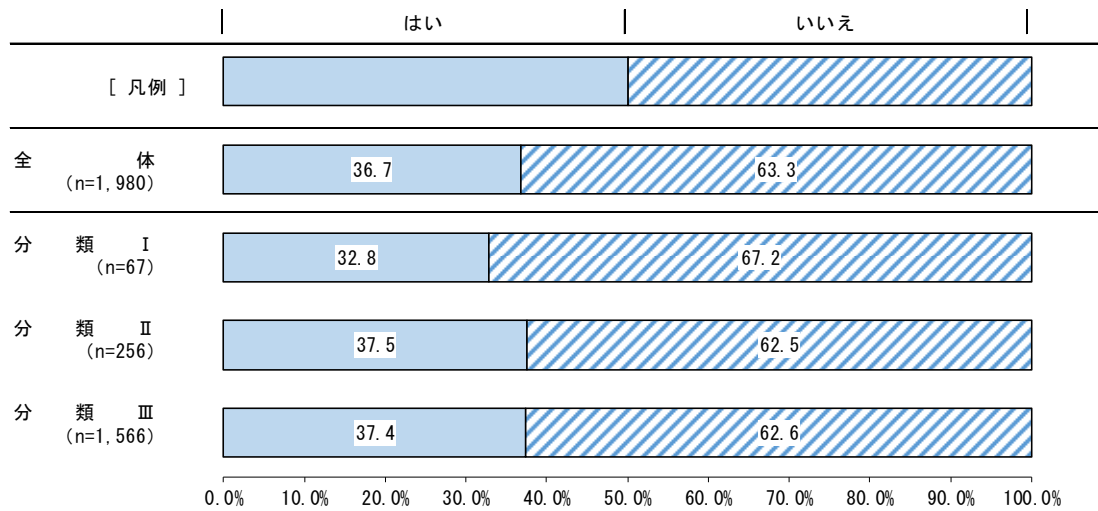


<前回調査>【図表 2-107 新たに子どもを持つ意向】(世帯構成別)

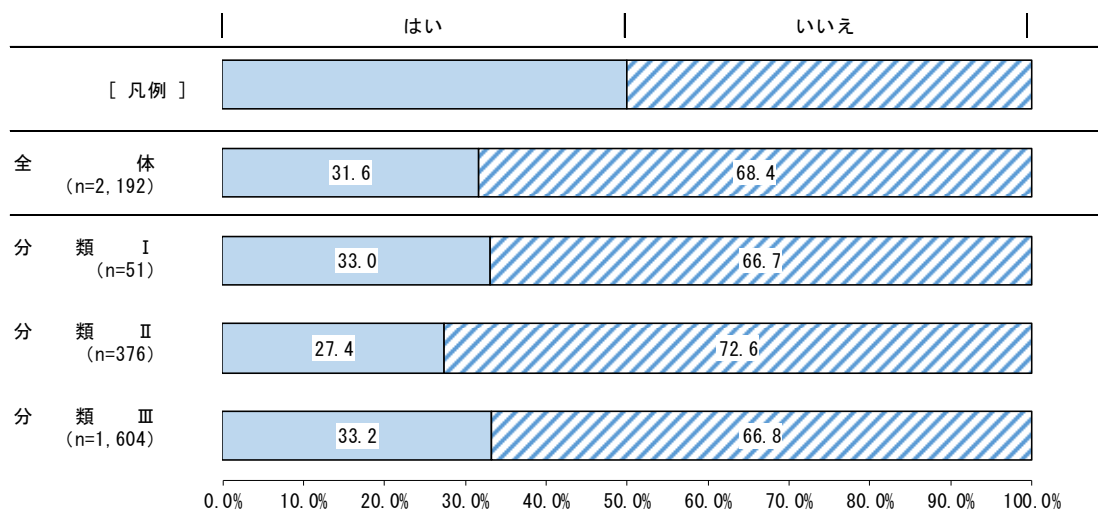


新たに子どもを持ちたいかどうかについて、所得分類別にみると、大きな差は見られない。
経年でみると、「はい」は『分類Ⅱ』で前回調査に比べて高くなっている。

＜今回調査＞【図表 2-108 新たに子どもを持つ意向】（所得分類別）



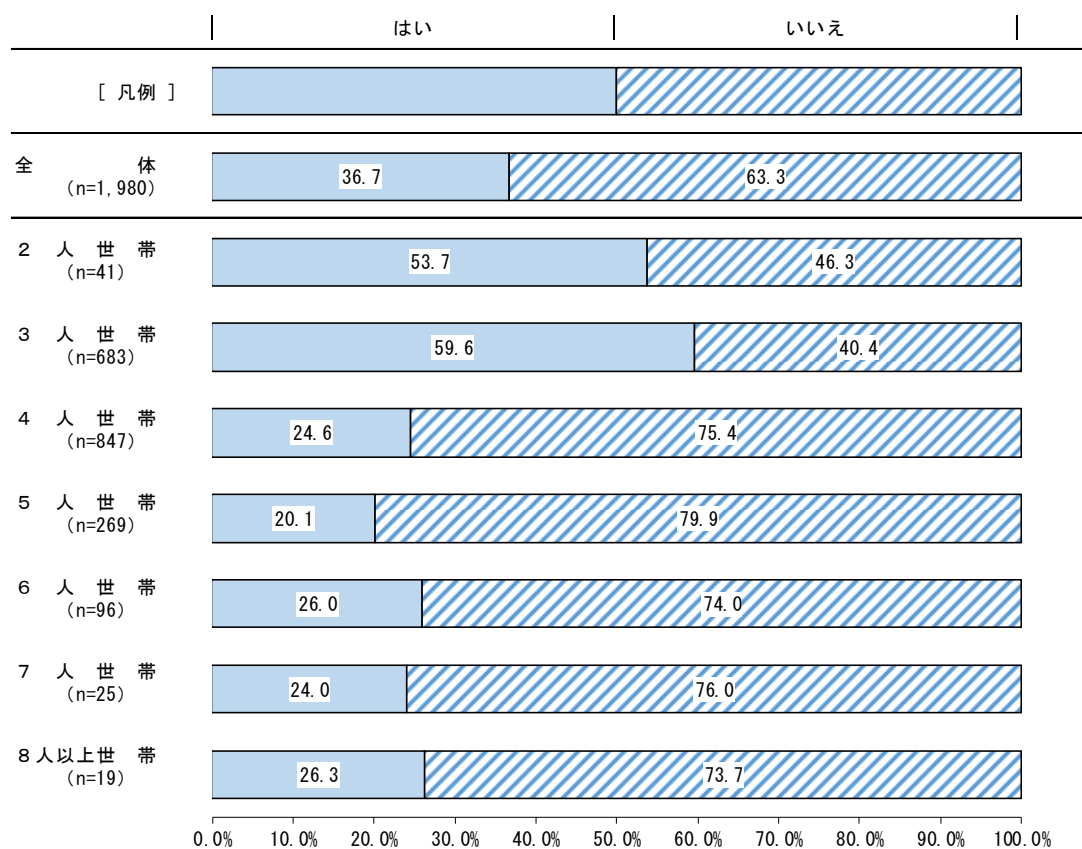
＜前回調査＞【図表 2-109 新たに子どもを持つ意向】（所得分類別）



新たに子どもを持ちたいかどうかについて、世帯人数別にみると、「はい」は『3人世帯』で、全体に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 2-110 新たに子どもを持つ意向】(世帯人数別)



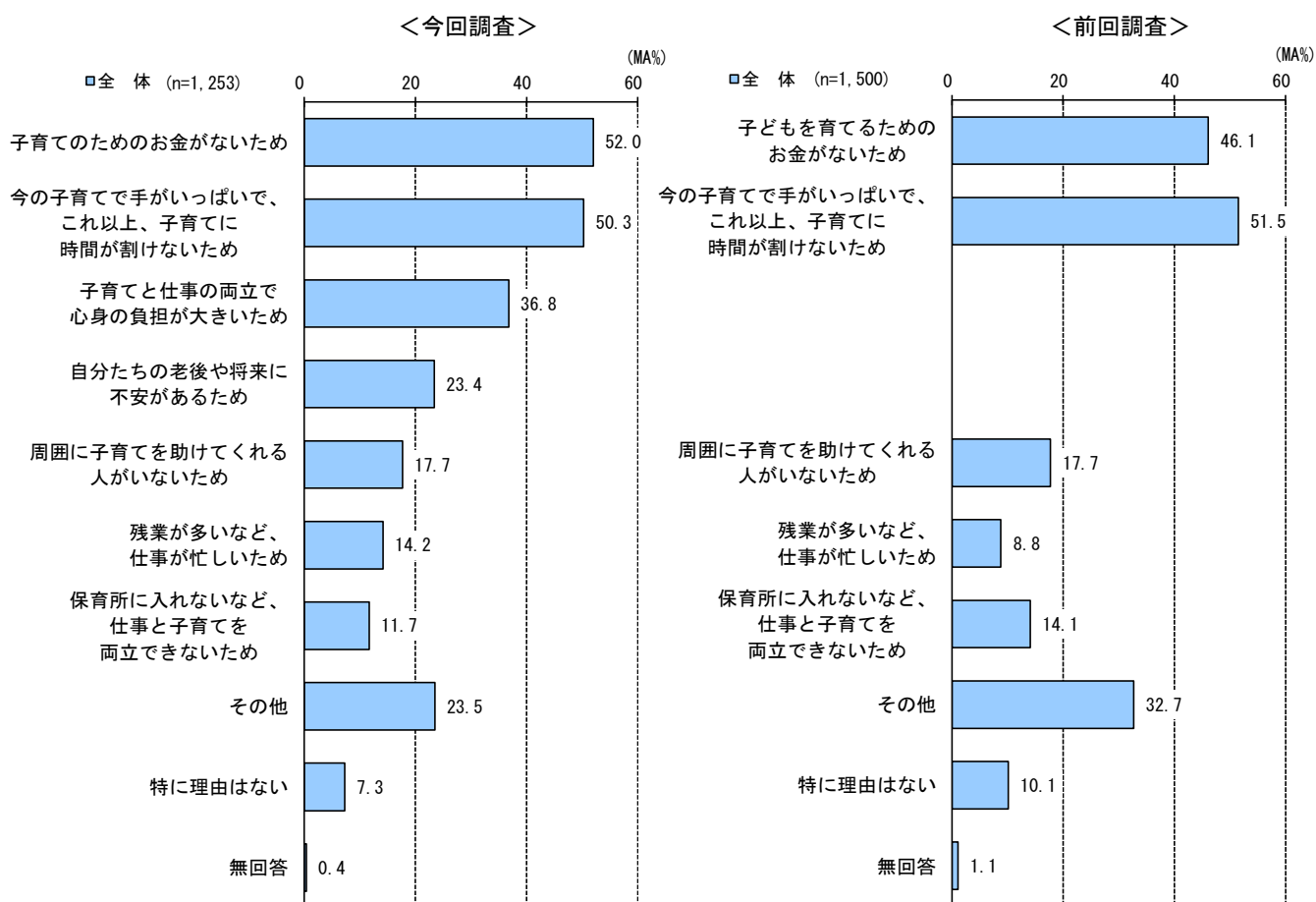
② 新たに子どもを持ちたいと思わない理由【問28】（MA）

新たに子どもを持ちたいと思わないと回答した方に、その理由を複数回答で聞いたところ、「子育てのためのお金がないため」が 52.0%で最も高く、次いで「今の子育てで手がいっぱい、これ以上、子育てに時間が割けないため」が 50.3%、「子育てと仕事の両立で心身の負担が大きいため」が 36.8%となっている。

経年でみると、「子育てのためのお金がないため」「残業が多いなど、仕事が忙しいため」が前回調査に比べて高くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 2-111 新たに子どもを持ちたいと思わない理由（複数回答）】



世帯構成別にみると、「自分たちの老後や将来に不安があるため」は『ふたり親親族同居』で 37.5%と、全体に比べて高くなっている。

子どもの人数別にみると、「保育所に入れないなど、仕事と子育てを両立できないため」は『1人』で 20.0%と、全体に比べて高くなっている。また、『3人以上』では「子育てと仕事の両立で心身の負担が大きい」「自分たちの老後や将来に不安があるため」「周囲に子育てを助けてくれる人がいないため」で、全体に比べて低くなっている。

ふたり親・核家族就労状況別にみると、「子育てと仕事の両立で心身の負担が大きい」は『共働き』で 42.7%、「今の子育てで手がいっぱい、これ以上、子育てに時間が割けないため」は『専業主婦（夫）』で 56.7%、「自分たちの老後や将来に不安があるため」は『専業主婦（夫）』で 30.4%と、それぞれ全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅱ』では「子育てのためのお金がないため」が 66.9%と全体に比べて高く、「今の子育てで手がいっぱい、これ以上、子育てに時間が割けないため」が 39.4%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、世帯構成別では、「子育てのためのお金がない」「残業が多いなど、仕事が忙しい」が『ふたり親核家族』で前回調査に比べて高くなっている。

子どもの人数別では、「子育てのためのお金がない」が『1人』と『2人』で前回調査に比べて高くなっている。

ふたり親・核家族就労状況別では、「子育てのためのお金がない」が『共働き』で前回調査に比べて高くなっている。

所得分類別では、「子育てのためのお金がない」「残業が多いなど、仕事が忙しい」が『分類Ⅱ』で前回調査に比べて高く、「今の子育てで手がいっぱい、これ以上、子育てに時間が割けない」が『分類Ⅱ』で前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回・前回調査＞【図表 2-112 新たに子どもを持ちたいと思わない理由（複数回答）】

（世帯構成別、子どもの人数別、ふたり親・核家族就労状況別、所得分類別）

単位：％

			母数 (n)	子育てのための お金がないため	今の子育てで手が いづればいけない ため	子育てと仕事の両立で 心身の負担が大きい ため	自分たちの老後や 将来に不安があるため	周囲に子育てを助けて くれる人がいないため	残業が多いなど、仕事 が忙しいため	保育所に入れないなど、 仕事と子育てを両立できない ため	その他	特に理由はない
今回調査	全体		1,248	52.2	50.5	36.9	23.5	17.8	14.3	11.8	23.6	7.3
	構世 成帯	ふたり親核家族	1,158	52.2	51.6	37.3	22.9	18.7	14.2	11.9	23.1	7.1
		ふたり親親族同居	56	55.4	▼ 39.3	35.7	△ 37.5	▼ 3.6	16.1	12.5	△ 28.6	10.7
		ひとり親核家族	24	▼ 45.8	▼ 20.8	▼ 12.5	▼ 16.7	▼ 8.3	▼ 8.3	▼ 4.2	△ 37.5	8.3
		ひとり親親族同居	8	△ 62.5	△ 62.5	△ 62.5	△ 37.5	▼ 12.5	△ 25.0	12.5	25.0	△ 12.5
	の 子 人 数 も	1人	305	52.1	49.2	39.7	26.9	22.0	17.7	△ 20.0	26.6	5.6
		2人	665	53.4	51.1	40.0	24.2	18.8	14.6	9.6	22.3	7.8
		3人以上	278	49.6	50.4	▼ 26.6	▼ 18.0	▼ 10.8	9.7	7.9	23.7	7.9
	就親ふ 況家・た 状族核	共働き	914	53.3	50.3	△ 42.7	20.9	17.7	16.5	12.6	23.0	7.4
		専業主婦（夫）	240	47.9	△ 56.7	▼ 17.1	△ 30.4	22.1	▼ 5.4	9.6	22.9	5.8
		その他（両方無職含む）	1	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0	-	-	-	-
	分所 類得	分類Ⅰ	44	△ 59.1	52.3	36.4	△ 29.5	13.6	13.6	△ 20.5	▼ 18.2	9.1
		分類Ⅱ	160	△ 66.9	▼ 39.4	33.1	25.6	16.3	15.6	13.8	23.1	3.8
		分類Ⅲ	978	49.7	52.0	38.1	23.1	18.1	14.3	11.6	23.5	8.1
前回調査	全体		1,483	46.7	52.1			17.9	8.9	14.2	33.1	10.2
	構世 成帯	ふたり親核家族	1,343	46.6	52.4			18.2	8.8	13.6	32.8	9.9
		ふたり親親族同居	49	46.9	▼ 46.9			▼ 12.2	8.2	16.3	△ 38.8	△ 16.3
		ひとり親	44	47.7	▼ 45.5			15.9	13.6	18.2	29.5	13.6
		の 子 人 数 も	1人	312	43.6	▼ 46.2			△ 23.1	10.3	△ 19.9	△ 38.1
	2人		834	48.0	52.9			18.7	9.8	14.1	28.8	11.5
	3人以上		292	45.9	55.8			▼ 10.6	4.8	▼ 6.5	△ 38.7	9.2
	就親ふ 況家・た 状族核	共働き	848	47.8	53.5			17.6	13.1	17.1	32.8	8.6
		専業主婦（夫）	482	45.4	50.8			19.5	▼ 1.2	▼ 7.9	33.0	11.6
		その他（両方無職含む）	0	-	-			-	-	-	-	-
	分所 類得	分類Ⅰ	34	△ 52.9	52.9			17.6	△ 14.7	△ 23.5	▼ 11.8	14.7
		分類Ⅱ	272	△ 61.4	51.8			18.0	4.0	16.2	▼ 27.6	7.4
		分類Ⅲ	1,058	42.5	51.4			18.1	10.3	12.6	35.1	10.6

（２）保護者の悩みごと

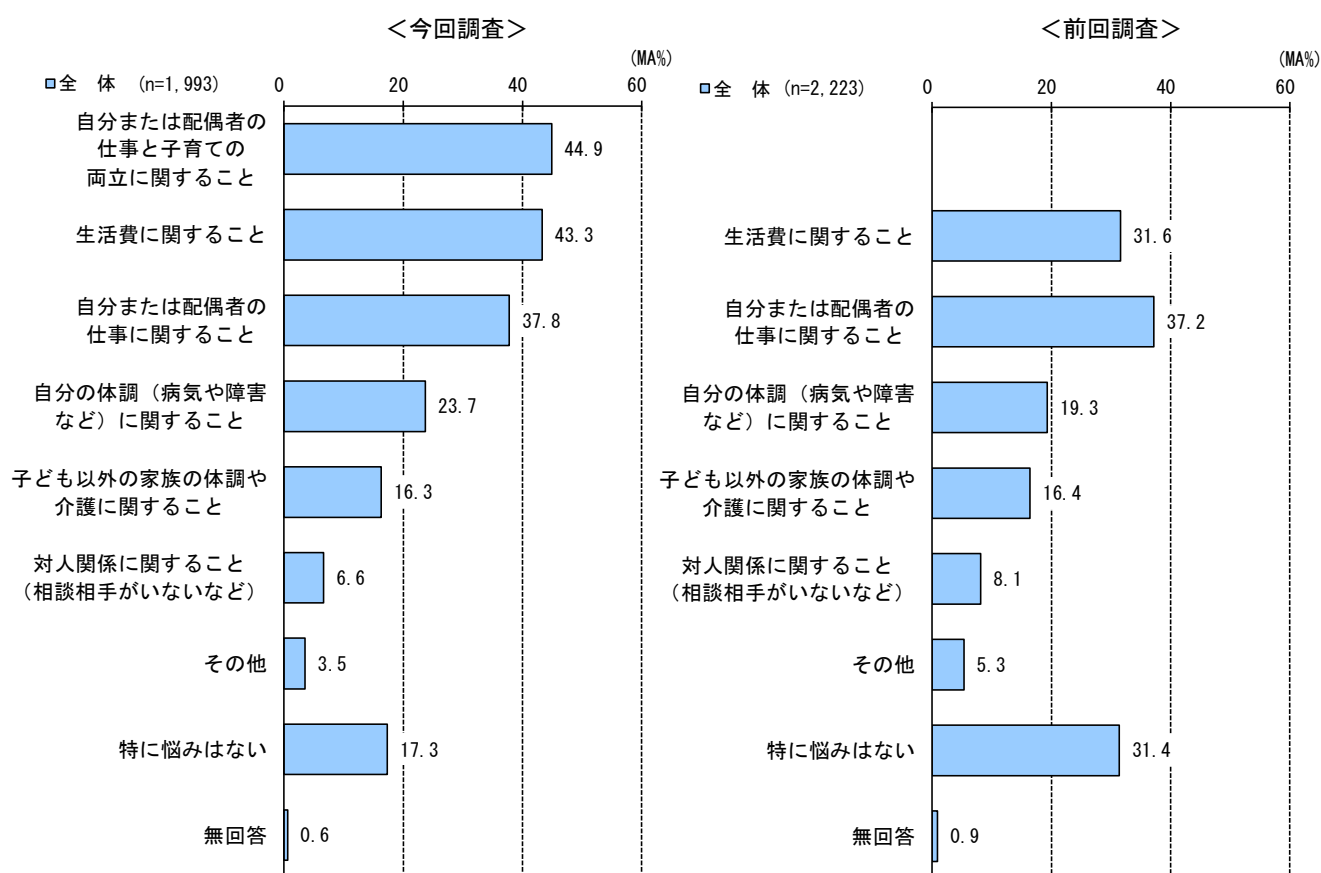
ア 保護者自身の生活に関する心配ごと・悩み【問14】（MA）

保護者自身の生活に関する心配ごと・悩みを複数回答で聞いたところ、「自分または配偶者の仕事と子育ての両立に関すること」が 44.9%で最も高く、次いで「生活費に関すること」が 43.3%、「自分または配偶者の仕事に関すること」が 37.8%となっている。また、「特に悩みはない」が 17.3%となっている。

経年でみると、「生活費に関すること」が前回調査に比べて高く、「特に悩みはない」が前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 2-113 保護者自身の生活に関する心配ごと・悩み（複数回答）】



世帯構成別にみると、『ふたり親親族同居』で「生活費に関すること」が 49.4%、「自分の体調（病気や障害など）に関すること」が 29.9%、「子ども以外の家族の体調や介護に関すること」が 29.9%で、それぞれ全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、「生活費に関すること」は『分類Ⅰ』で 68.7%、『分類Ⅱ』で 67.2%と、全体に比べて高くなっている。また、「自分または配偶者の仕事に関すること」は『分類Ⅱ』で 44.9%、「子ども以外の家族の体調や介護に関すること」は『分類Ⅰ』で 22.4%と、それぞれ全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では、「生活費に関すること」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』でそれぞれ前回調査に比べて高く、「対人関係に関すること（相談相手がないなど）」「子ども以外の家族の体調や介護に関すること」は『ふたり親親族同居』で、前回調査に比べて低くなっている。

所得分類別では、「生活費に関すること」は全ての分類で、「自分または配偶者の仕事に関すること」は『分類Ⅱ』で、「自分の体調（病気や障害など）に関すること」「子ども以外の家族の体調や介護に関すること」は『分類Ⅰ』で、それぞれ前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回・前回調査>【図表 2-114 保護者自身の生活に関する心配ごと・悩み（複数回答）】

（世帯構成別、所得分類別）

単位：％											
			母数 (n)	自分または配偶者の仕事と子育ての両立に関すること	生活費に関すること	自分または配偶者の仕事に関すること	自分の体調（病気や障害など）に関すること	子ども以外の家族の体調や介護に関すること	対人関係に関すること（相談相手がないなど）	その他	特に悩みはない
今回調査	全体		1,982	45.1	43.5	38.0	23.8	16.4	6.7	3.5	17.4
	構成帯	ふたり親核家族	1,853	45.8	42.4	38.2	23.6	15.9	6.3	3.5	17.7
		ふたり親親族同居	77	▼ 37.7	△ 49.4	40.3	△ 29.9	△ 29.9	10.4	2.6	16.9
		ひとり親核家族	32	▼ 28.1	△ 68.8	▼ 25.0	▼ 18.8	▼ 6.3	△ 12.5	3.1	▼ 6.3
		ひとり親親族同居	14	▼ 28.6	△ 78.6	▼ 28.6	△ 35.7	△ 21.4	-	△ 14.3	▼ 7.1
	分類得	分類Ⅰ	67	▼ 31.3	△ 68.7	35.8	25.4	△ 22.4	6.0	4.5	▼ 11.9
		分類Ⅱ	256	▼ 37.9	△ 67.2	△ 44.9	26.2	12.9	7.0	2.7	▼ 12.1
	分類Ⅲ	1,562	47.0	▼ 38.4	37.5	23.1	16.7	6.3	3.5	18.5	
前回調査	全体		2,203		31.9	37.5	19.5	16.6	8.2	5.3	31.6
	構成帯	ふたり親核家族	2,013		30.5	37.3	19.0	16.3	8.0	5.2	32.3
		ふたり親親族同居	58		△ 43.1	△ 44.8	△ 32.8	△ 36.2	△ 15.5	3.4	▼ 15.5
		ひとり親	64		△ 54.7	37.5	20.3	▼ 9.4	9.4	9.4	▼ 26.6
		分類得	分類Ⅰ	50		△ 56.0	△ 52.0	▼ 10.0	▼ 4.0	12.0	2.0
	分類Ⅱ		376		△ 52.7	39.1	22.9	17.8	9.6	5.1	▼ 20.7
	分類Ⅲ		1,608		▼ 25.3	36.8	18.5	16.5	7.8	5.2	34.7

イ 子どもに関する悩み

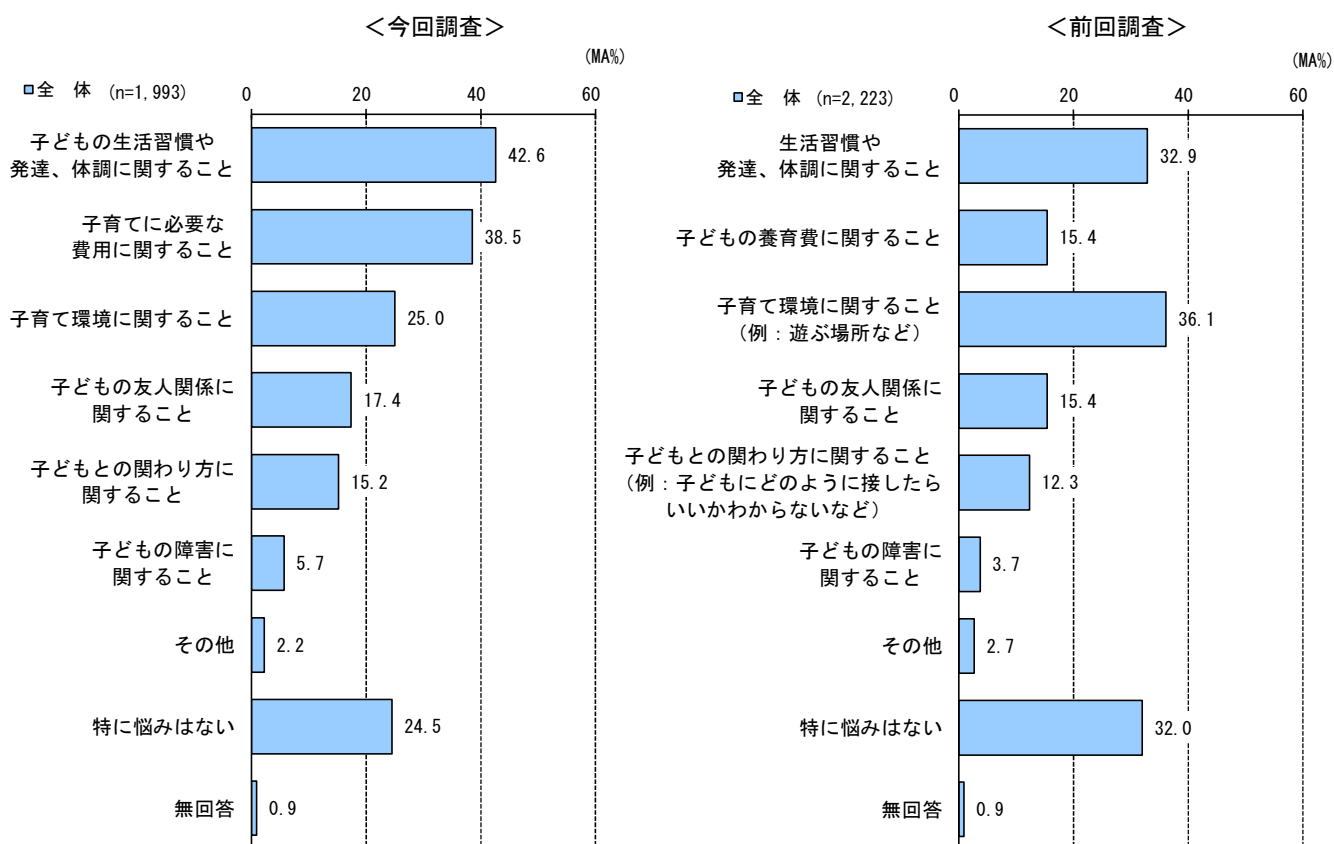
① 子どもや子育てに関する心配ごと・悩み【問15】(MA)

子どもや子育てに関する心配ごと・悩みを複数回答で聞いたところ、「子どもの生活習慣や発達、体調に関すること」が 42.6%で最も高く、次いで「子育てに必要な費用に関すること」が 38.5%、「子育て環境に関すること」が 25.0%となっている。

経年でみると、「子どもの生活習慣や発達、体調に関すること」「子育てに必要な費用に関すること」が前回調査に比べて高く、「子育て環境に関すること」「特に悩みはない」が前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 2-115 子どもや子育てに関する心配ごと・悩み（複数回答）】



世帯構成別にみると、『ふたり親親族同居』で「子どもの友人関係に関すること」が 24.7%と、全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、「子育てに必要な費用に関すること」は『分類Ⅰ』で 47.0%、『分類Ⅱ』で 53.7%と、それぞれ全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では、「子どもの生活習慣や発達、体調に関すること」「子育てに必要な費用に関すること」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』で、「子どもとの関わり方に関すること」は『ふたり親親族同居』で、それぞれ前回調査に比べて高く、「子育て環境に関すること」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』で、前回調査に比べて低くなっている。

所得分類別では、全ての分類で「子どもの生活習慣や発達、体調に関すること」「子育てに必要な費用に関すること」が前回調査に比べて高くなっている一方、「子育て環境に関すること」は前回調査に比べて低くなっている。また、「子どもとの関わり方に関すること」は『分類Ⅰ』で前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

＜今回・前回調査＞【図表 2-116 子どもや子育てに関する心配ごと・悩み（複数回答）】（世帯構成別、所得分類別）

単位：％

			母数 (n)	子どもの生活習慣や発達、 体調に関すること	子育てに必要な費用に 関すること	子育て環境に関すること	子どもの友人関係に 関すること	子どもとの関わり方に 関すること	子どもの障害に関すること	その他	特に 悩みは ない
今回調査	全体		1,975	43.0	38.8	25.3	17.5	15.3	5.7	2.2	24.7
	構世帯	ふたり親核家族	1,846	43.3	38.1	25.2	17.2	15.2	5.9	2.2	24.8
		ふたり親親族同居	77	41.6	42.9	22.1	△ 24.7	18.2	3.9	2.6	27.3
		ひとり親核家族	32	▼ 34.4	△ 53.1	25.0	▼ 9.4	▼ 9.4	3.1	3.1	21.9
		ひとり親親族同居	14	▼ 28.6	△ 71.4	△ 35.7	21.4	△ 21.4	—	—	▼ 14.3
	分所得	分類Ⅰ	66	43.9	△ 47.0	24.2	21.2	▼ 9.1	7.6	3.0	25.8
		分類Ⅱ	255	42.0	△ 53.7	23.9	17.3	12.9	5.9	0.8	▼ 18.8
		分類Ⅲ	1,559	43.2	35.9	25.7	17.4	16.4	5.6	2.4	25.3
前回調査	全体		2,203	33.2	14.5	36.4	15.5	12.4	3.7	2.8	32.3
	構世帯	ふたり親核家族	2,012	33.0	13.4	35.9	15.1	12.3	3.6	2.5	33.2
		ふたり親親族同居	58	▼ 27.6	19.0	△ 41.4	△ 27.6	12.1	—	3.4	▼ 25.9
		ひとり親	64	34.4	△ 39.1	△ 42.2	20.3	△ 18.8	7.8	△ 7.8	▼ 21.9
	分所得	分類Ⅰ	51	▼ 27.5	△ 23.5	▼ 31.4	15.7	△ 31.4	2.0	—	29.4
		分類Ⅱ	377	34.5	△ 22.5	37.1	17.8	12.2	5.6	3.2	27.6
		分類Ⅲ	1,604	32.4	12.3	36.0	15.1	11.7	3.2	2.7	33.8

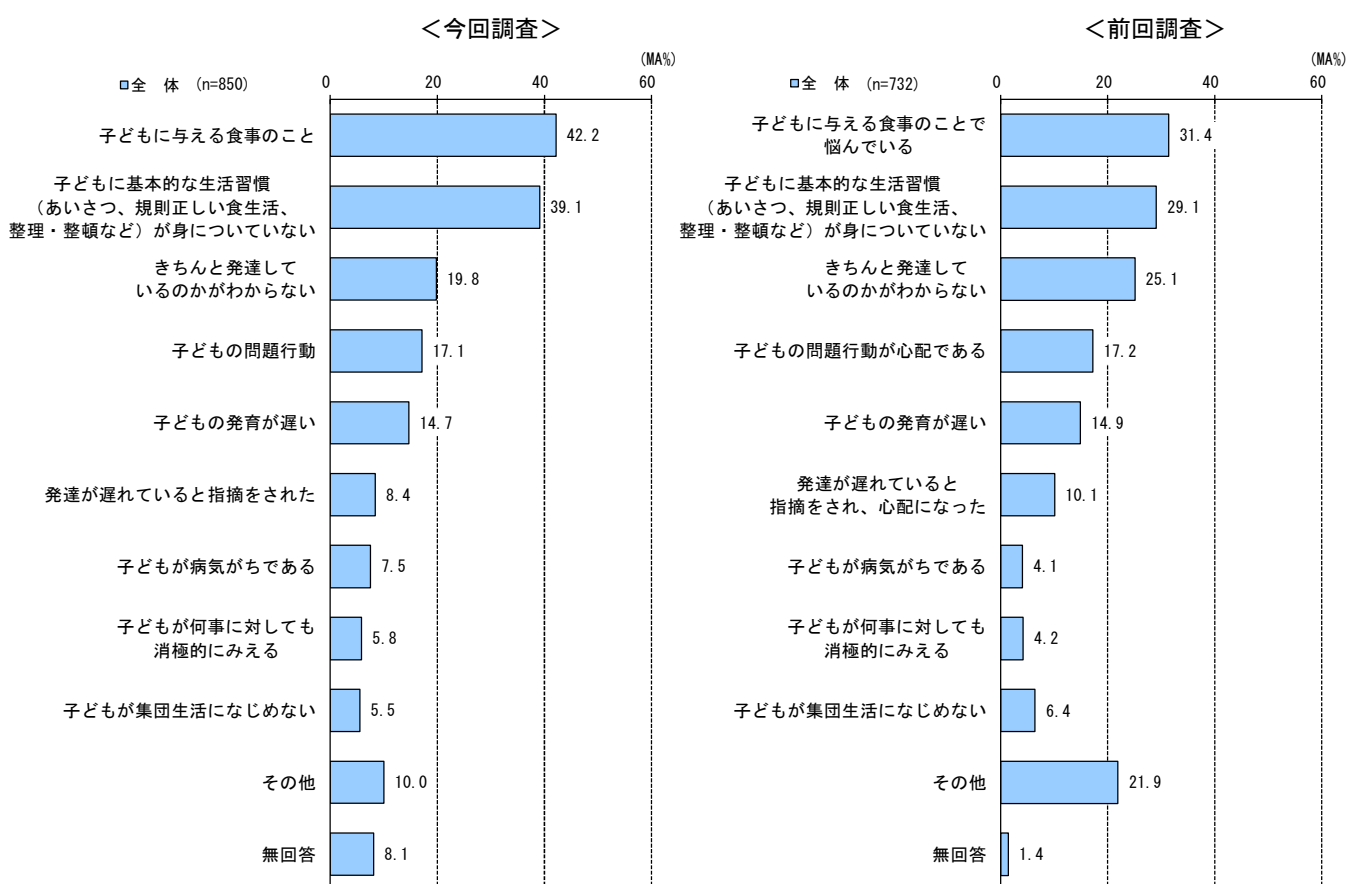
② 子どもの生活習慣や発達、体調に関する心配ごと・悩み【問16】(MA)

子どもや子育てに関する心配ごと・悩みのうち「子どもの生活習慣や発達、体調に関すること」に回答した方に、その心配ごと・悩みを複数回答で聞いたところ、「子どもに与える食事のこと」が 42.2%で最も高く、次いで「子どもに基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身についていない」が 39.1%、「きちんと発達しているのかがわからない」が 19.8%となっている。

経年でみると、「子どもに与える食事のこと」「子どもに基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身についていない」が前回調査に比べて高く、「きちんと発達しているのかがわからない」が前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 2-117 子どもの生活習慣や発達、体調に関する心配ごと・悩み（複数回答）】



世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、「子どもに与える食事のこと」「子どもに基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身についていない」は『分類Ⅱ』で 51.5%、54.5%と、それぞれ全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では、「子どもに与える食事のこと」「子どもに基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身についていない」は『ふたり親核家族』で前回調査に比べて高くなっている。

所得分類別では、『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』で「子どもに与える食事のこと」「子どもに基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身についていない」が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

＜今回・前回調査＞【図表 2-118 子どもの生活習慣や発達、体調に関する心配ごと・悩み（複数回答）】

（世帯構成別、所得分類別）

単位：％													
		母数 (n)	子どもに与える食事のこと	子どもに基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身についていない	きちんと発達しているのかわからない	子どもの問題行動	子どもの発育が遅い	発達が遅れていると指摘をされた	子どもが病気がちである	子どもが何事に対しても消極的にみえる	子どもが集団生活になじめない	その他	
今回調査	全体		781	46.0	42.5	21.5	18.6	16.0	9.1	8.2	6.3	6.0	10.9
	世帯構成	ふたり親核家族	734	45.9	42.4	22.1	18.1	16.1	9.3	7.8	6.4	6.1	11.3
		ふたり親親族同居	29	44.8	41.4	▼ 13.8	△ 24.1	13.8	3.4	3.4	3.4	3.4	6.9
		ひとり親核家族	11	△ 54.5	45.5	▼ 9.1	△ 27.3	18.2	△ 18.2	△ 36.4	9.1	9.1	－
		ひとり親親族同居	4	△ 75.0	△ 50.0	25.0	△ 25.0	△ 25.0	－	△ 25.0	－	－	－
	所得分類	分類Ⅰ	28	50.0	39.3	17.9	17.9	△ 28.6	△ 21.4	△ 25.0	10.7	3.6	14.3
分類Ⅱ		99	△ 51.5	△ 54.5	26.3	18.2	17.2	8.1	8.1	6.1	3.0	▼ 5.1	
分類Ⅲ		619	45.1	40.9	21.2	18.6	15.2	8.9	7.3	6.0	6.5	12.3	
前回調査	全体		722	31.9	29.5	25.5	17.5	15.1	10.2	4.2	4.3	6.5	22.2
	世帯構成	ふたり親核家族	655	31.8	28.7	25.5	16.9	15.3	10.1	4.3	4.4	6.6	22.1
		ふたり親親族同居	16	△ 50.0	△ 50.0	25.0	▼ 6.3	12.5	6.3	6.3	－	6.3	▼ 12.5
		ひとり親	22	27.3	27.3	▼ 18.2	△ 36.4	△ 22.7	△ 18.2	4.5	9.1	△ 13.6	22.7
	所得分類	分類Ⅰ	14	28.6	28.6	28.6	△ 35.7	14.3	14.3	－	－	－	△ 35.7
		分類Ⅱ	126	34.1	31.0	25.4	21.4	17.5	12.7	5.6	6.3	6.3	19.0
分類Ⅲ		515	31.5	28.9	25.6	15.0	14.8	9.5	4.3	4.3	7.2	22.1	

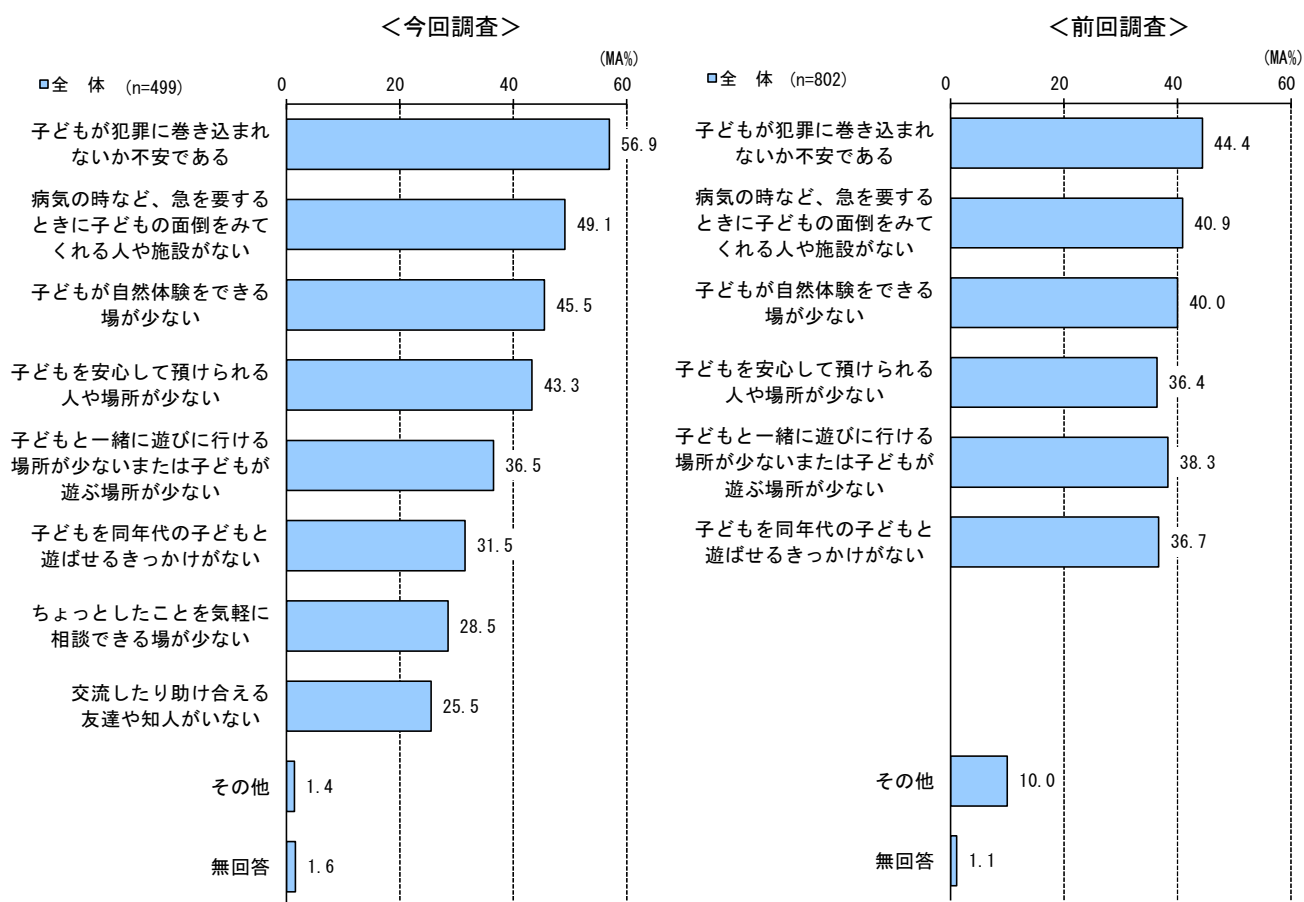
③ 子育て環境に関する心配ごと・悩み【問17】（MA）

子どもや子育てに関する心配ごと・悩みのうち「子育て環境に関すること」に回答した方に、その心配ごと・悩みを複数回答で聞いたところ、「子どもが犯罪に巻き込まれないか不安である」が 56.9%で最も高く、次いで「病気の時など、急を要するときに子どもの面倒をみしてくれる人や施設がない」が 49.1%、「子どもが自然体験をできる場が少ない」が 45.5%となっている。

経年でみると、「子どもが犯罪に巻き込まれないか不安である」「病気の時など、急を要するときに子どもの面倒をみしてくれる人や施設がない」「子どもが自然体験をできる場が少ない」「子どもを安心して預けられる人や場所が少ない」が前回調査に比べて高く、「子どもを同年代の子どもと遊ばせるきっかけがない」が前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 2-119 子育て環境に関する心配ごと・悩み（複数回答）】



世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、『分類Ⅱ』では「子どもを同年代の子どもと遊ばせるきっかけがない」が 45.9%、「交流したり助け合える友達や知人がいない」が 34.4%と、それぞれ全体に比べて高くなっている。

居住区別にみると、中原区では「子どもが自然体験をできる場が少ない」、高津区では「子どもが犯罪に巻き込まれないか不安である」「子どもを安心して預けられる人や場所が少ない」「ちょっとしたことを気軽に相談できる場が少ない」、宮前区では「子どもを安心して預けられる人や場所が少ない」、多摩区では「子どもと一緒に遊びに行ける場所が少ないまたは子どもが遊ぶ場所が少ない」「子どもを同年代の子どもと遊ばせるきっかけがない」、麻生区では「子どもと一緒に遊びに行ける場所が少ないまたは子どもが遊ぶ場所が少ない」が、それぞれ全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では、「子どもが犯罪に巻き込まれないか不安である」「病気の時など、急を要するときに子どもの面倒をみってくれる人や施設がない」「子どもが自然体験をできる場が少ない」は『ふたり親核家族』で前回調査に比べて高くなっている。

所得分類別では、『分類Ⅱ』で「子どもが犯罪に巻き込まれないか不安である」「病気の時など、急を要するときに子どもの面倒をみってくれる人や施設がない」「子どもが自然体験をできる場が少ない」が前回調査に比べて高くなっている。また、『分類Ⅲ』で「子どもが犯罪に巻き込まれないか不安である」「病気の時など、急を要するときに子どもの面倒をみってくれる人や施設がない」「子どもを安心して預けられる人や場所が少ない」が前回調査に比べて高く、「子どもを同年代の子どもと遊ばせるきっかけがない」が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

(世帯構成別、所得分類別、居住区別)

			母数 (n)	子どもが犯罪に巻き込まれないか 不安である	病気の時など、急を要するときに子 どもの面倒をみてくれる人や 施設がない	子どもが自然体験をできる場が 少ない	子どもを安心して預けられる人や 場所が少ない	子どもと一緒に遊びに 行ける場所が少ない または子どもが遊ぶ場所が少ない	子どもを同年代の子と 遊ばせるきっかけがない	ちよつとしたことを気軽に相談 できる場が少ない	交流したり助け合える友達や知人が いない	その他
今回調査	世帯構成	全体	491	57.8	49.9	46.2	44.0	37.1	32.0	28.9	25.9	1.4
		ふたり親核家族	458	57.9	50.9	46.5	43.4	37.6	31.9	27.7	24.5	1.3
		ふたり親親族同居	17	58.8	▼17.6	△52.9	▼29.4	41.2	29.4	△41.2	△47.1	5.9
		ひとり親核家族	8	▼37.5	△75.0	▼25.0	△87.5	▼12.5	-	△50.0	△37.5	-
		ひとり親親族同居	5	60.0	▼20.0	▼20.0	40.0	▼20.0	△80.0	△40.0	△40.0	-
	所得分類	分類Ⅰ	16	△75.0	△56.3	△56.3	△62.5	△43.8	31.3	△37.5	△43.8	-
		分類Ⅱ	61	57.4	45.9	▼41.0	41.0	▼29.5	△45.9	32.8	△34.4	-
		分類Ⅲ	392	56.4	50.0	46.9	43.4	38.3	29.3	28.3	24.2	1.5
	居住区	川崎区	41	△73.2	▼46.3	△63.4	▼31.7	▼29.3	29.3	▼14.6	▼19.5	2.4
		幸区	65	56.9	50.8	44.6	▼38.5	▼24.6	32.3	32.3	21.5	1.5
		中原区	93	58.1	50.5	△53.8	44.1	▼30.1	▼24.7	30.1	24.7	-
		高津区	68	64.7	50.0	47.1	△50.0	41.2	33.8	△36.8	26.5	1.5
		宮前区	79	60.8	53.2	48.1	△51.9	36.7	32.9	31.6	27.8	3.8
		多摩区	90	▼42.2	45.6	42.2	46.7	△46.7	△37.8	26.7	△32.2	1.1
		麻生区	52	57.7	53.8	▼25.0	▼32.7	△51.9	32.7	▼23.1	23.1	-
前回調査	世帯構成	全体	793	44.9	41.4	40.5	36.8	38.7	37.1			10.1
		ふたり親核家族	715	43.8	42.1	40.3	37.1	38.3	36.6			9.9
		ふたり親親族同居	24	△54.2	▼29.2	△54.2	▼29.2	△50.0	41.7			△25.0
	所得分類	ひとり親	26	△61.5	38.5	△46.2	△46.2	42.3	△50.0			▼3.8
		分類Ⅰ	15	△53.3	△53.3	△46.7	33.3	40.0	33.3			6.7
		分類Ⅱ	137	45.3	36.5	▼32.1	36.5	▼29.9	38.7			9.5
		分類Ⅲ	572	43.4	42.5	42.0	37.2	39.9	36.5			10.5

(3) 保護者の相談相手の有無等

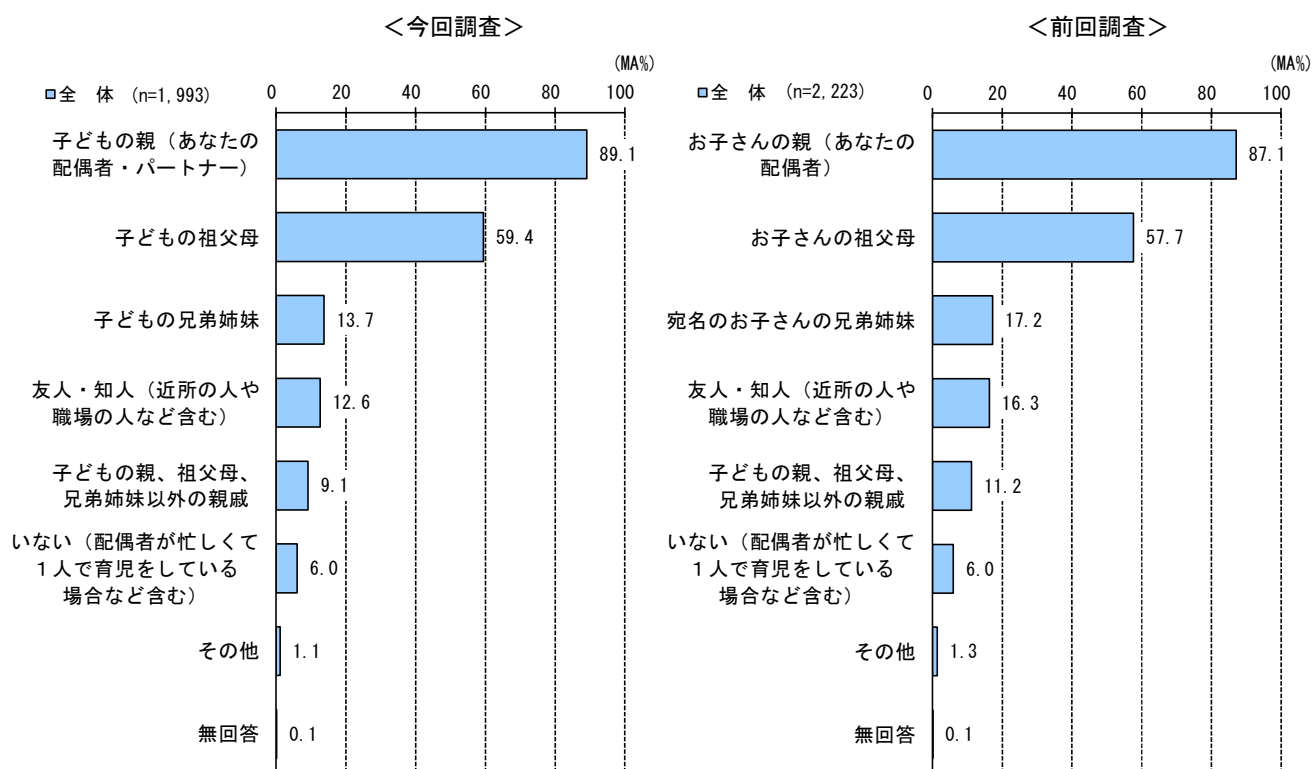
ア 普段の子育ての協力者【問10】(MA)

普段の子育ての協力者を複数回答で聞いたところ、「子どもの親（あなたの配偶者・パートナー）」が 89.1%で最も高く、次いで「子どもの祖父母」が 59.4%、「子どもの兄弟姉妹」が 13.7%となっている。また、「いない（配偶者が忙しくて1人で育児をしている場合など含む）」が 6.0%となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 2-121 普段の子育ての協力者（複数回答）】



世帯構成別にみると、『ふたり親親族同居』で「子どもの祖父母」が 88.3%と、全体に比べて高くなっている。

ふたり親・核家族就労状況別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』では「子どもの兄弟姉妹」が 23.1%、「子どもの親、祖父母、兄弟姉妹以外の親戚」が 15.4%、「友人・知人（近所の人や職場の人など含む）」が 20.0%と、それぞれ全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では、『ふたり親親族同居』は「子どもの親（あなたの配偶者・パートナー）」「子どもの祖父母」が前回調査に比べて高く、「子どもの兄弟姉妹」「子どもの親、祖父母、兄弟姉妹以外の親戚」が前回調査に比べて低くなっている。

ふたり親・核家族就労状況別では、大きな差はみられない。

所得分類別では、『分類Ⅰ』で「子どもの親（あなたの配偶者・パートナー）」「子どもの兄弟姉妹」「友人・知人（近所の人や職場の人など含む）」が前回調査に比べて高くなっている。また、『分類Ⅱ』で「子どもの兄弟姉妹」が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回・前回調査>【図表 2-122 普段の子育ての協力者（複数回答）】

（世帯構成別、ふたり親・核家族就労状況別、所得分類別）

			母数 (n)	配 偶 者 ・ 子 ど も の 親 （ あ な た の パ ー ト ナ ー ）	子 ど も の 祖 父 母	子 ど も の 兄 弟 姉 妹	兄 弟 姉 妹 の 親 、 祖 父 母 、 兄 弟 姉 妹 以 外 の 親 戚	友 人 ・ 知 人 （ 近 所 の 人 や 職 場 の 人 な ど 含 む ）	な い （ 配 偶 者 が 忙 し く 合 て な い ）
今 回 調 査	全体		1,970	90.1	60.1	13.9	9.2	12.8	6.0
	構 世 成 帯	ふたり親核家族	1,840	92.0	58.7	13.7	8.9	12.7	5.8
		ふたり親親族同居	77	89.6	△ 88.3	15.6	10.4	15.6	1.3
		ひとり親核家族	31	▼ 25.8	▼ 51.6	△ 19.4	12.9	12.9	△ 32.3
		ひとり親親族同居	14	—	△ 100.0	—	△ 28.6	▼ 7.1	—
	就 家 親 ・ 核 族 ・ た り 核 族 ・ 核 族	共働き	1,489	92.8	59.7	13.2	8.8	12.2	5.2
		専業主婦（夫）	343	88.3	54.5	16.0	9.0	14.9	8.2
		その他（両方無職含む）	1	—	—	—	—	—	△ 100.0
	分 所 類 得	分類Ⅰ	65	▼ 69.2	55.4	△ 23.1	△ 15.4	△ 20.0	10.8
		分類Ⅱ	253	85.4	61.3	15.0	12.3	16.2	7.5
		分類Ⅲ	1,553	91.7	59.7	13.0	8.2	12.0	5.7
前 回 調 査	全体		2,221	87.2	57.7	17.2	11.3	16.3	6.0
	構 世 成 帯	ふたり親核家族	2,030	89.8	56.7	16.8	11.0	16.3	5.9
		ふたり親親族同居	58	84.5	△ 77.6	△ 29.3	△ 17.2	17.2	3.4
		ひとり親	64	▼ 17.2	△ 70.3	15.6	△ 18.8	15.6	△ 14.1
	就 家 親 ・ 核 族 ・ た り 核 族 ・ 核 族	共働き	1,329	90.5	59.4	15.7	11.4	15.0	4.9
		専業主婦	679	88.1	▼ 51.4	19.1	10.2	18.6	8.0
		その他（両方無職含む）	1	△ 100.0	—	—	—	—	—
	分 所 類 得	分類Ⅰ	50	▼ 60.0	62.0	14.0	14.0	▼ 10.0	10.0
		分類Ⅱ	380	85.8	62.6	△ 24.5	15.3	19.2	6.3
		分類Ⅲ	1,619	89.3	55.9	15.0	10.1	15.3	5.9

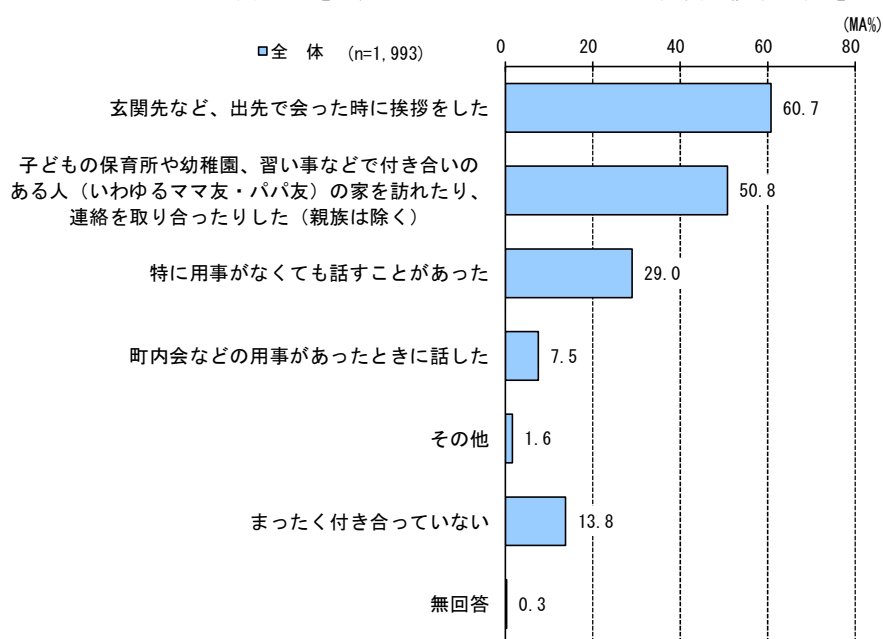
※「その他」を除く

イ 近所付き合いの程度【問11】（MA）

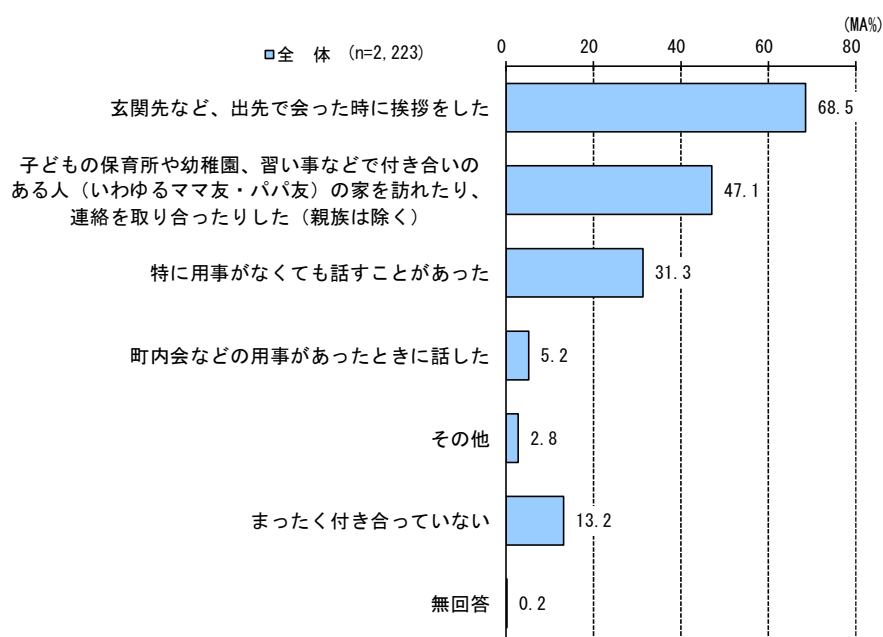
直近1か月間の近所付き合いの程度を複数回答で聞いたところ、「玄関先など、出先で会った時に挨拶をした」が60.7%で最も高く、次いで「子どもの保育所や幼稚園、習い事などで付き合いのある人（いわゆるママ友・パパ友）の家を訪れたり、連絡を取り合ったりした（親族は除く）」が50.8%、「特に用事がなくても話すことがあった」が29.0%となっている。また、「まったく付き合いしていない」が13.8%となっている。

経年でみると、「玄関先など、出先で会った時に挨拶をした」が前回調査に比べて低くなっている。

＜今回調査＞【図表 2-123 近所付き合いの程度（複数回答）】



＜前回調査＞【図表 2-124 近所付き合いの程度（複数回答）】



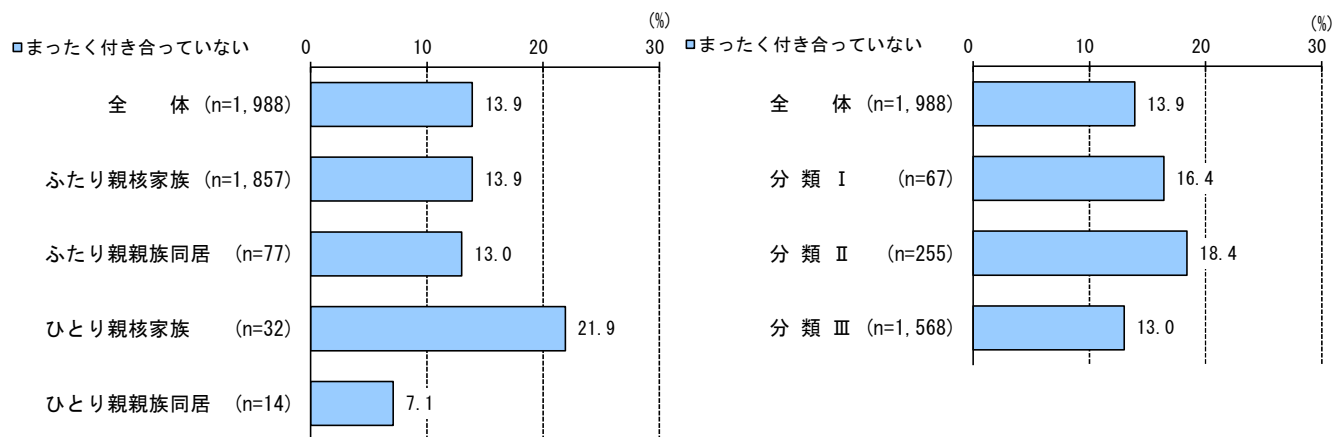
近所付き合いの程度のうち『まったく付き合いがない』と回答した人を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、大きな差はみられない。

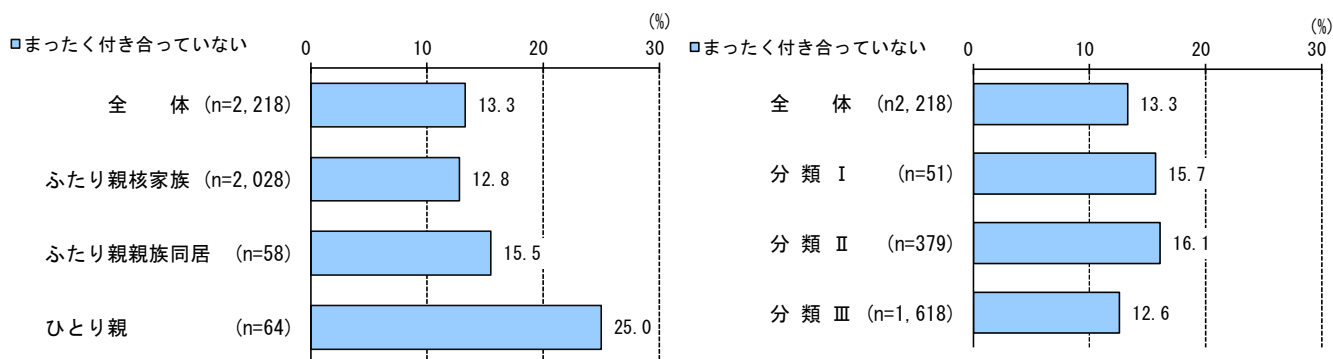
経年でみると、世帯構成別、所得分類別ともに、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 2-125 近所付き合いの程度『まったく付き合いがない』（世帯構成別、所得分類別）】



＜前回調査＞【図表 2-126 近所付き合いの程度『まったく付き合いがない』（世帯構成別、所得分類別）】



ウ 相談相手の有無

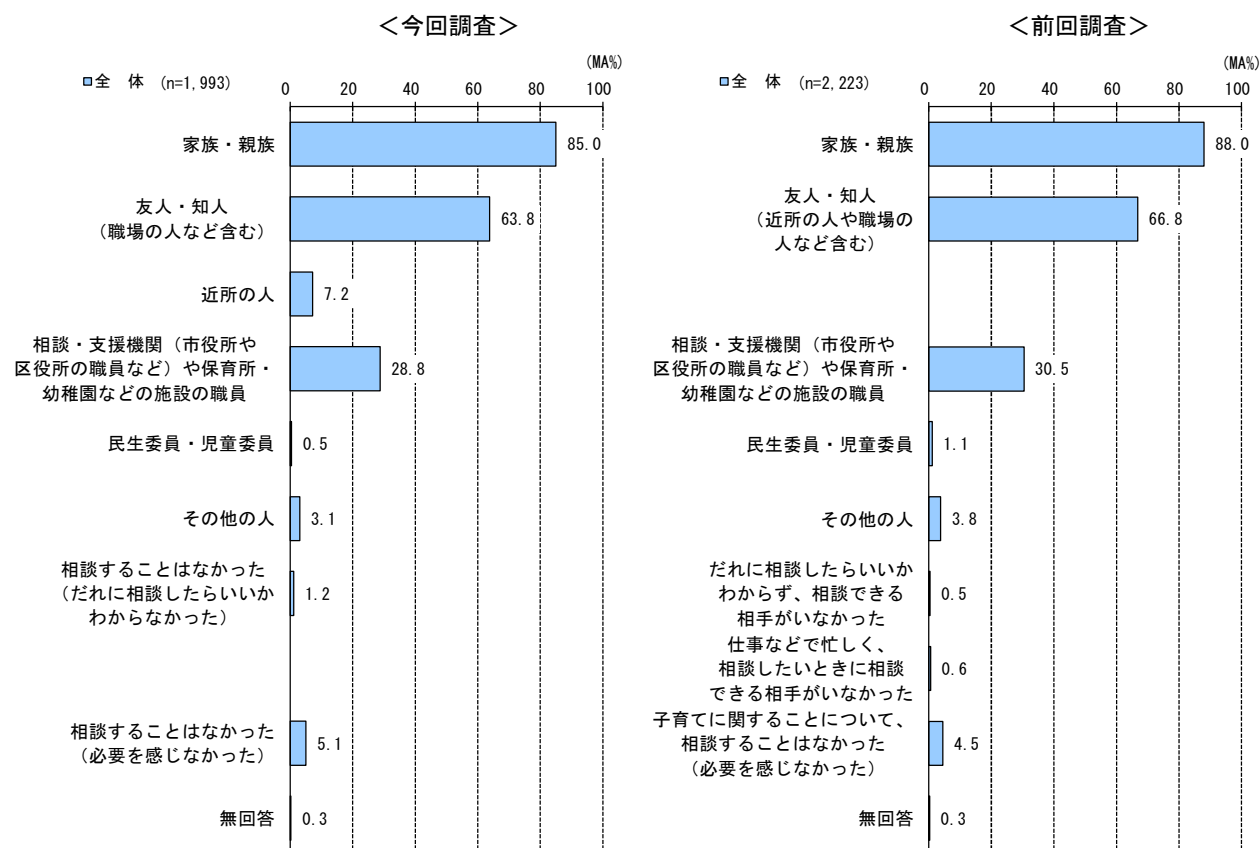
① 子育てに関する相談先【問12a】(MA)

子育てに関する相談先を複数回答で聞いたところ、「家族・親族」が85.0%で最も高く、次いで「友人・知人（職場の人など含む）」が63.8%、「相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や保育所・幼稚園などの施設の職員」が28.8%となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 2-127 子育てに関する相談先（複数回答）】



子育てに関する相談先について「相談することはなかった（だれに相談したらいいかわからなかった）」「相談することはなかった（必要を感じなかった）」と回答した保護者を世帯構成別、所得分類別にみると、大きな差はみられない。

経年でみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回・前回調査>【図表 2-128 子育てに関する相談先（複数回答）】（世帯構成別、所得分類別）

単位：％

			母数 (n)	わ（相談 かだれに ならな か相談 した こと はな か いた か	相 談 す る こ と は な か つ た か	相 手 が い な か つ た か	仕 事 な ど で 忙 し く 、 相 談 で き る か	相 談 す る こ と は な か つ た か （ 必 要 を 感 じ な か つ た ）
今回調査	全体		1,987	1.2				5.1
	世帯構成	ふたり親核家族	1,857	1.0				5.2
		ふたり親親族同居	77	2.6				1.3
		ひとり親核家族	32	3.1				6.3
		ひとり親親族同居	14	—				△ 14.3
	所得分類	分類Ⅰ	66	—				1.5
		分類Ⅱ	254	2.0				5.5
		分類Ⅲ	1,568	1.1				5.3
前回調査	全体		2,216	0.5	0.6			4.6
	世帯構成	ふたり親核家族	2,026	0.4	0.5			4.5
		ふたり親親族同居	58	1.7	3.4			3.4
		ひとり親	63	3.2	1.6			9.5
	所得分類	分類Ⅰ	50	2.0	2.0			—
		分類Ⅱ	379	1.1	0.5			5.0
		分類Ⅲ	1,616	0.3	0.6			4.5

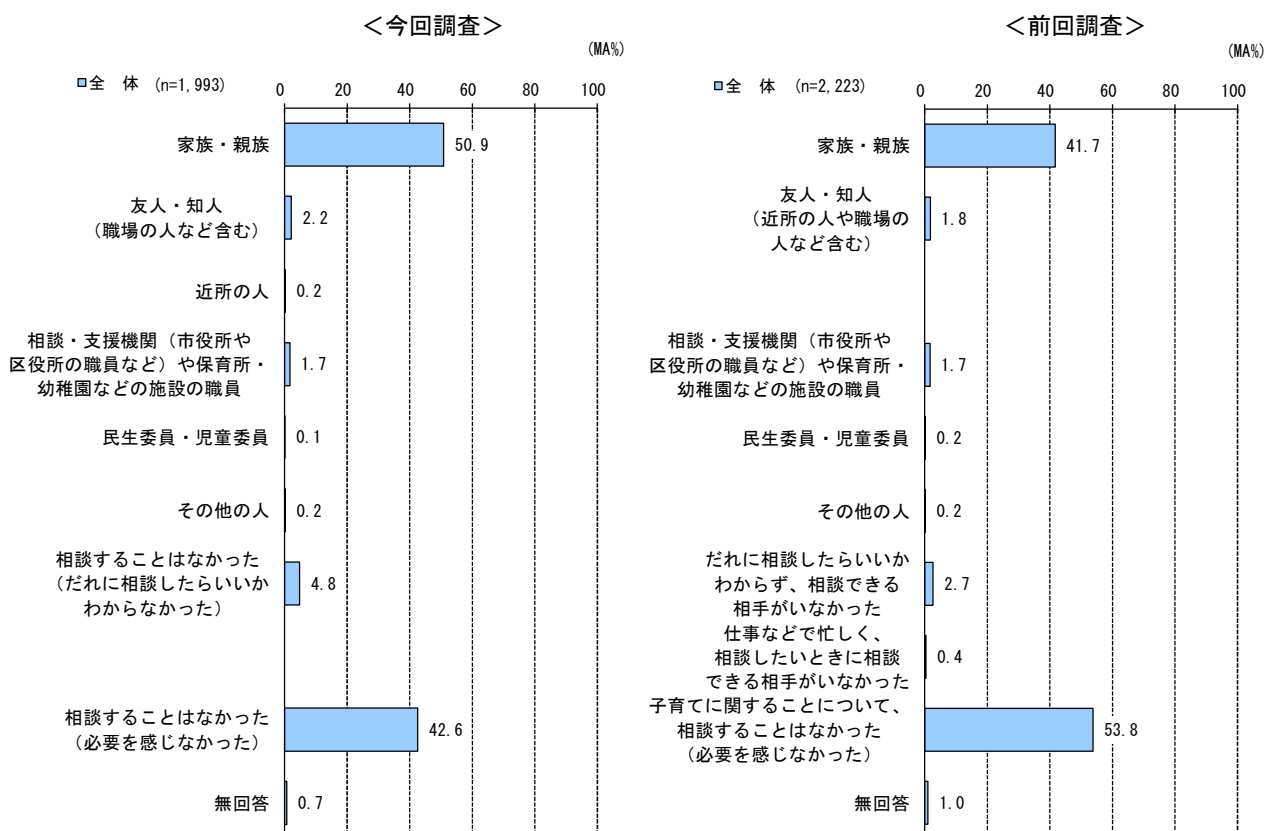
② いざという時のお金の援助相談先【問12b】(MA)

いざという時のお金の援助相談先を複数回答で聞いたところ、「家族・親族」が 50.9%で最も高く、次いで「相談することはなかった（必要を感じなかった）」が 42.6%、「相談することはなかった（だれに相談したらいいかわからなかった）」が 4.8%となっている。

経年でみると、「家族・親族」は前回調査に比べて高く、「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 2-129 いざという時のお金の援助相談先（複数回答）】



いざという時のお金の援助相談先について「相談することはなかった（だれに相談したらいいかわからなかった）」「相談することはなかった（必要を感じなかった）」と回答した保護者を世帯構成別にみると、『ふたり親親族同居』で「相談することはなかった（必要を感じなかった）」が35.5%と、全体に比べて低くなっている。

所得分類別にみると、「相談することはなかった（だれに相談したらいいかわからなかった）」は『分類Ⅰ』で13.4%、『分類Ⅱ』で10.6%と、それぞれ全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『ふたり親核家族』で、前回調査に比べて低くなっている。

所得分類別では、「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』で前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回・前回調査>【図表 2-130 いざという時のお金の援助相談先（複数回答）】（世帯構成別、所得分類別）

単位：％

			母数 (n)	わへ相 かだ談 られす なにか か	相談 する こと はな か つ た	相 手 が い と な か つ た	仕 事 な ど に 忙 し く 、 相 談 で き る	相 談 す る こ と は な か つ た （ 必 要 を 感 じ な か つ た ）
今回調査	全体		1,979		4.8			43.0
	世帯構成	ふたり親核家族	1,851		4.4			43.8
		ふたり親親族同居	76		3.9			▼ 35.5
		ひとり親核家族	32	△	21.9			▼ 21.9
		ひとり親親族同居	14	△	21.4			▼ 14.3
	所得分類	分類Ⅰ	67	△	13.4			▼ 19.4
		分類Ⅱ	255	△	10.6			▼ 22.7
		分類Ⅲ	1,561		3.5			47.1
前回調査	全体		2,201		2.8	0.5		54.3
	世帯構成	ふたり親核家族	2,013		2.4	0.4		55.8
		ふたり親親族同居	58	△	8.6	1.7		▼ 34.5
		ひとり親	62	△	9.7	-		▼ 37.1
	所得分類	分類Ⅰ	50	△	10.0	2.0		▼ 24.0
		分類Ⅱ	377	△	8.2	0.5		▼ 40.1
		分類Ⅲ	1,607		1.4	0.3		58.7

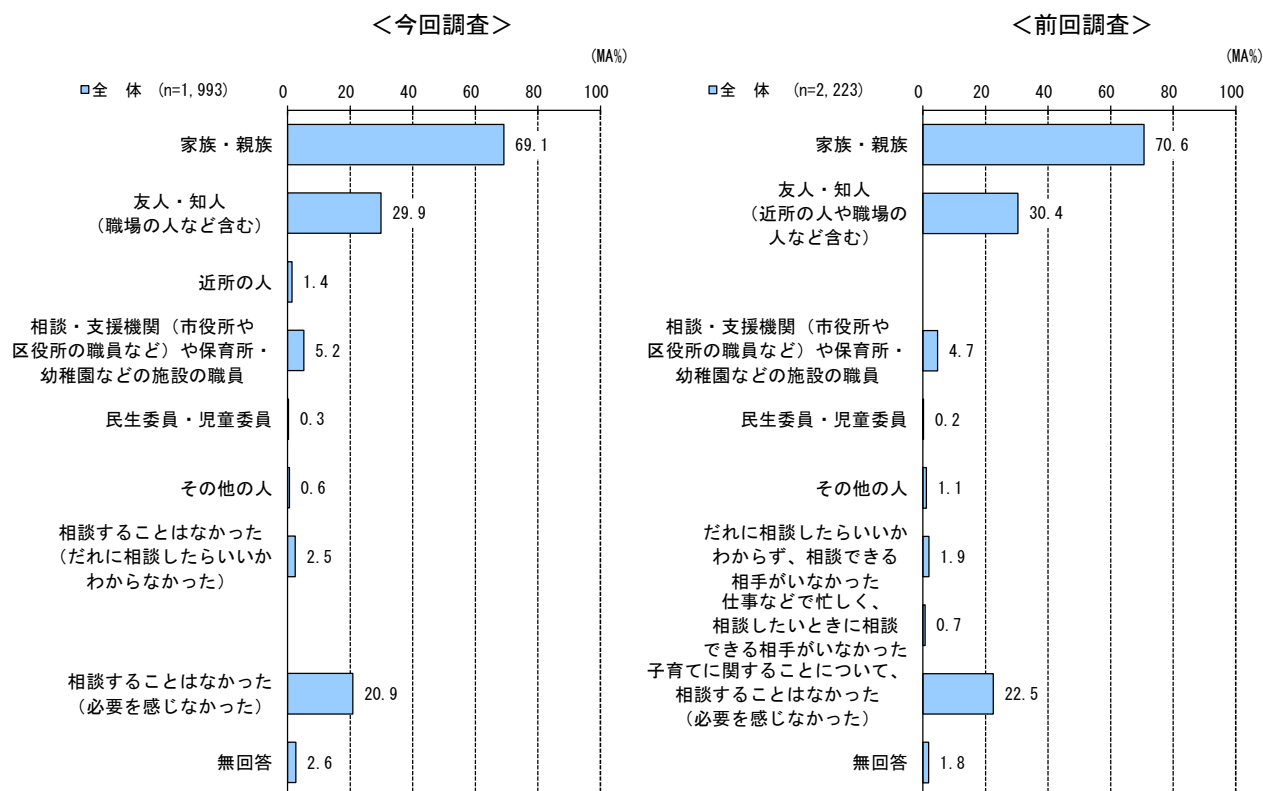
③ 子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先【問12c】(MA)

子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先を複数回答で聞いたところ、「家族・親族」が69.1%で最も高く、次いで「友人・知人（職場の人など含む）」が29.9%、「相談することはなかった（必要を感じなかった）」が20.9%となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 2-131 子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先（複数回答）】



子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先について「相談することはなかった（だれに相談したらいいかわからなかった）」「相談することはなかった（必要を感じなかった）」と回答した保護者を世帯構成別にみると、『ふたり親親族同居』で「相談することはなかった（必要を感じなかった）」が16.4%と、全体に比べて低くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』で「相談することはなかった（必要を感じなかった）」が7.8%と、全体に比べて低くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回・前回調査>【図表 2-132 子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先（複数回答）】

（世帯構成別、所得分類別）

		母数 (n)	わ（相 かだ られ すに な相 かつ た）	相 談 す る こ と は な ら な か い つ た か	相 し 手 が い と な き に な ら な か つ た 相 談 で き る 相 談	仕 事 な ど で 忙 し く 、 相 談 し な か つ た	（相 談 す る こ と は な か つ た ）
今回調査	全体	1,942	2.6				21.4
	構世	ふたり親核家族	1,819	2.4			21.8
	成帯	ふたり親親族同居	73	4.1			▼ 16.4
		ひとり親核家族	32	9.4			▼ 15.6
		ひとり親親族同居	12	-			▼ 8.3
	分所	分類Ⅰ	64	4.7			▼ 7.8
	類得	分類Ⅱ	247	5.3			19.0
		分類Ⅲ	1,539	2.1			22.5
前回調査	全体	2,184	1.9	0.7			22.9
	構世	ふたり親核家族	1,998	1.9	0.7		23.5
	成帯	ふたり親親族同居	57	1.8	-		▼ 14.0
		ひとり親	62	△ 9.7	1.6		▼ 12.9
	分所	分類Ⅰ	49	△ 6.1	2.0		▼ 10.2
	類得	分類Ⅱ	377	3.7	0.8		19.4
		分類Ⅲ	1,594	1.4	0.6		24.1

※ページ調整のため余白

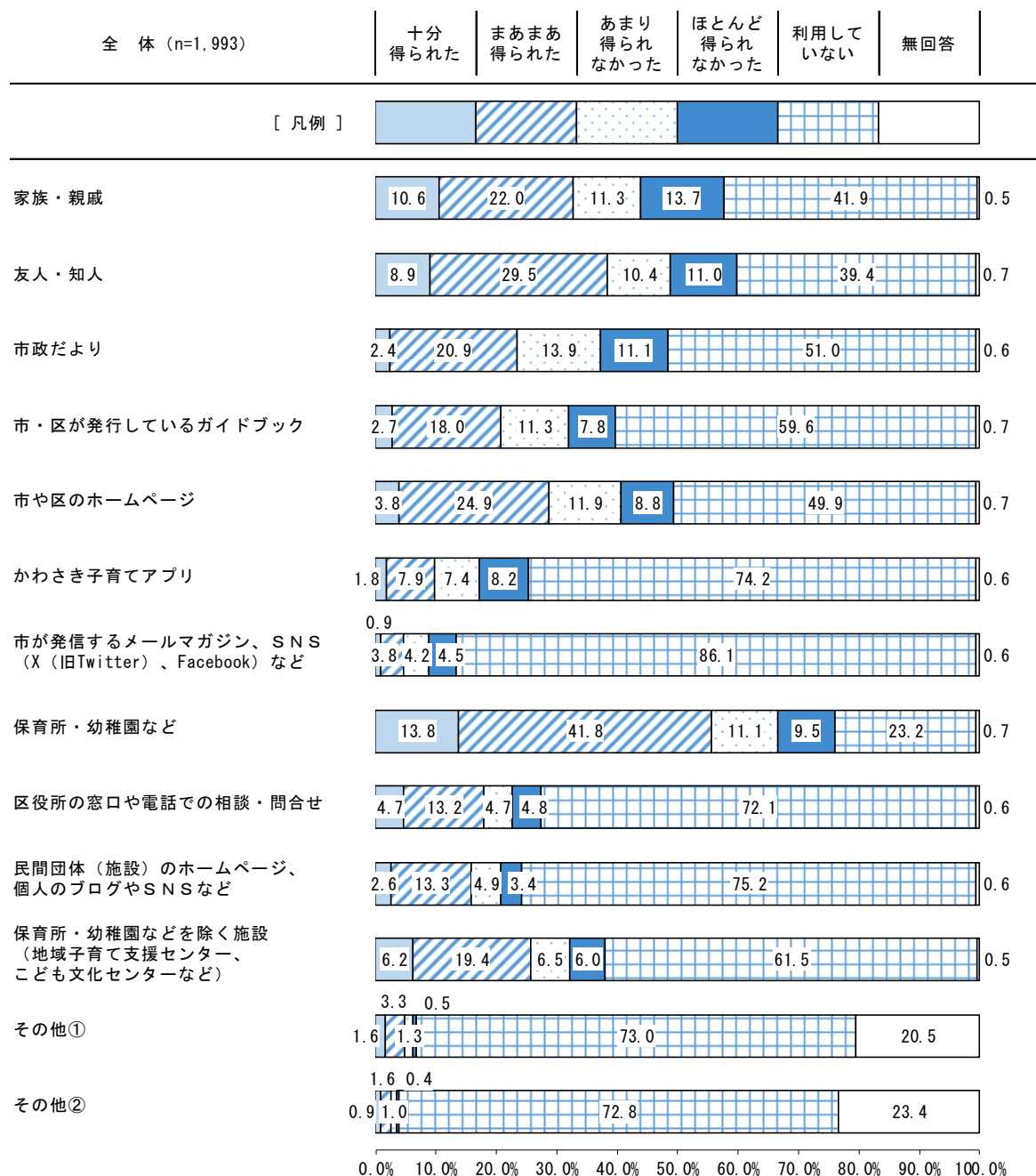
エ 子育て支援に関する情報の入手状況

① 子育て支援に関する情報の入手方法と情報量【問18】(SA)

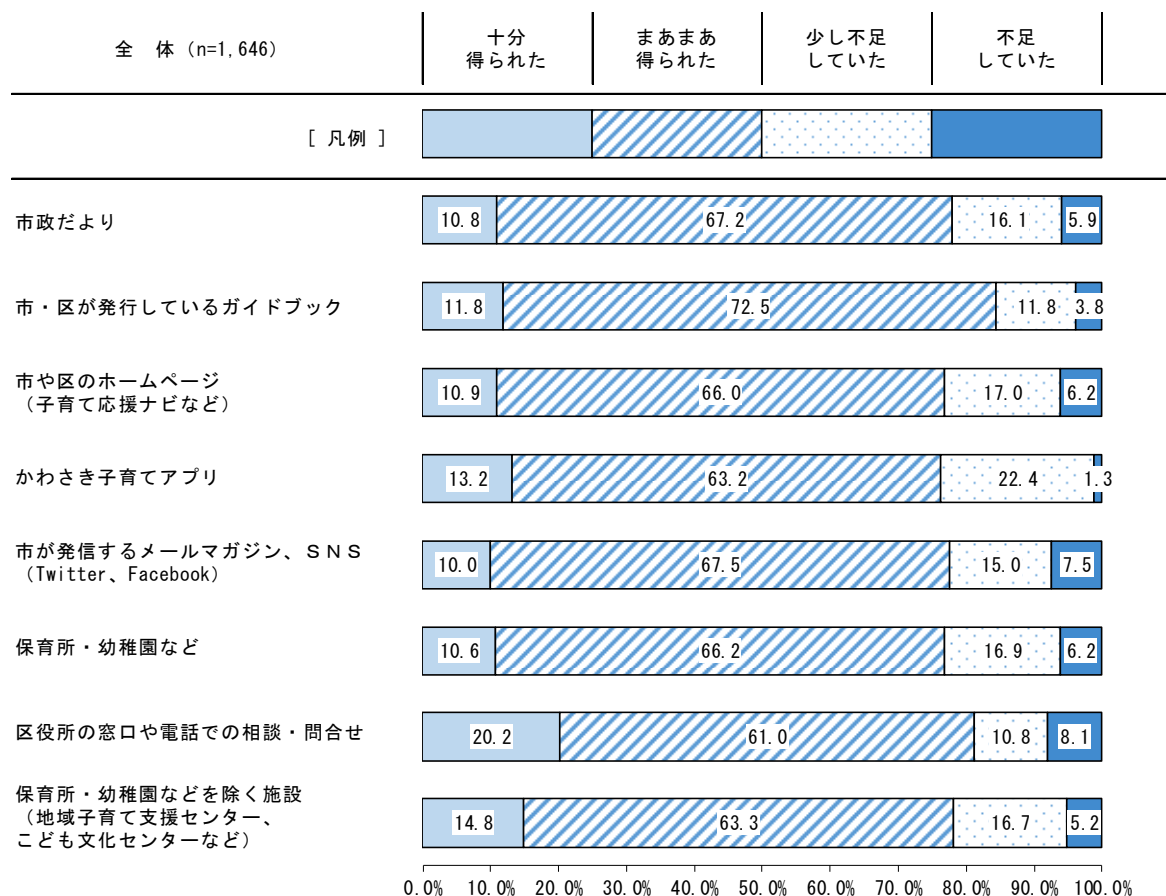
この1年間における子育てに関する情報の入手方法と情報量を聞いたところ、「十分得られた」「まあまあ得られた」を足し合わせた割合は「保育所・幼稚園など」が55.6%で最も高く、次いで「友人・知人」が38.4%、「家族・親戚」が32.6%となっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 2-133 子育てに関する情報の入手方法と情報量】



＜前回調査＞【図表 2-134 子育てに関する情報の入手方法と情報量】



第4節 子育ての状況

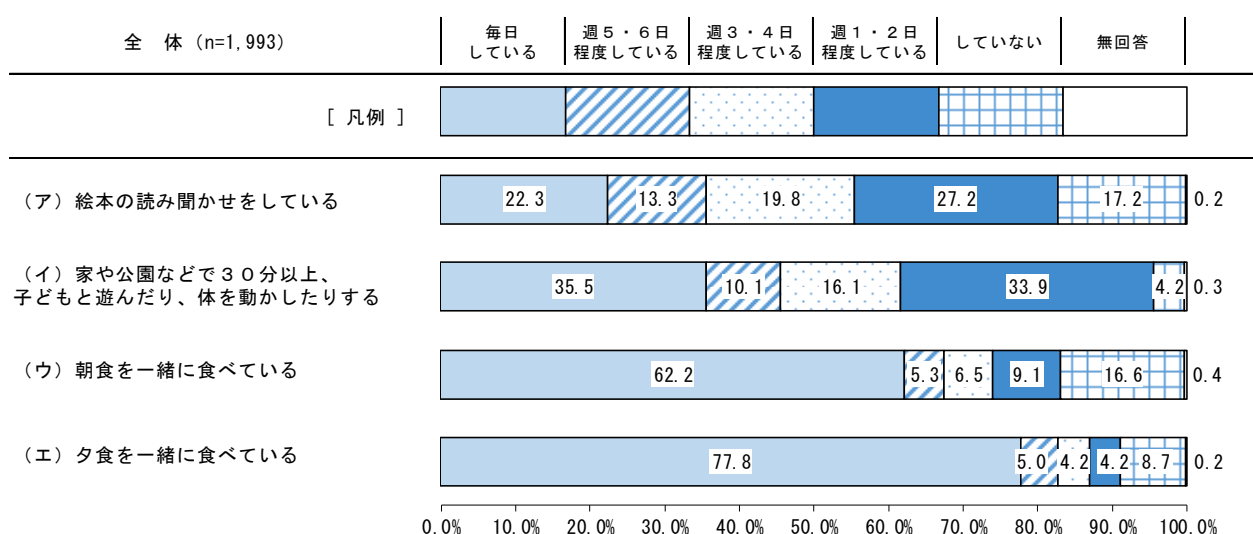
(1) 保護者と子どもとの関わり

ア 子どもとの関わり方【問7】(SA)

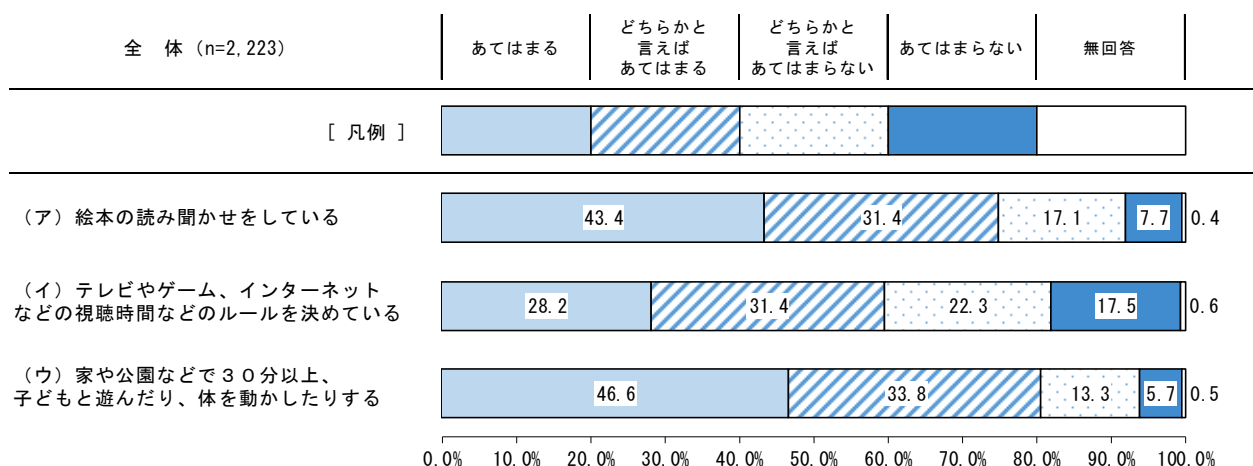
子どもとの関わり方を聞いたところ、「毎日している」が最も高いのは『夕食を一緒に食べている』(77.8%)、『朝食を一緒に食べている』(62.2%)、『家や公園などで30分以上、子どもと遊んだり、体を動かしたりする』(35.5%)となっている。また、『絵本の読み聞かせをしている』は「週1・2日程度している」が最も高くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 2-135 子どもとの関わり】



<前回調査>【図表 2-136 子どもとの関わり】

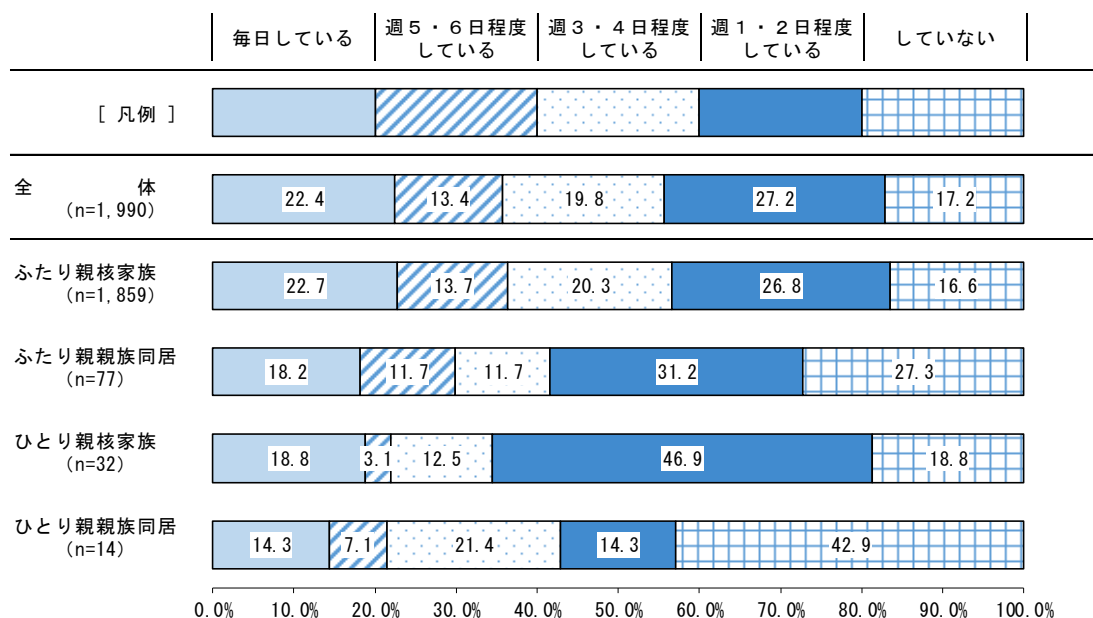


『絵本の読み聞かせをしている』を世帯構成別にみると、「週3・4日程度している」は『ふたり親親族同居』で11.7%と全体に比べて低く、「していない」は『ふたり親親族同居』で27.3%と全体に比べて高くなっている。

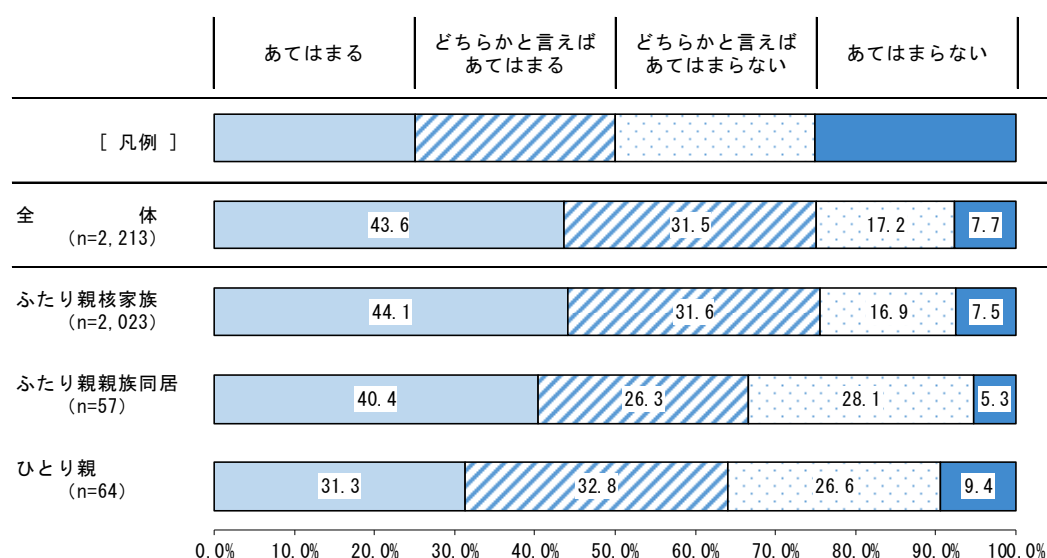
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 2-137 絵本の読み聞かせをしている】(世帯構成別)



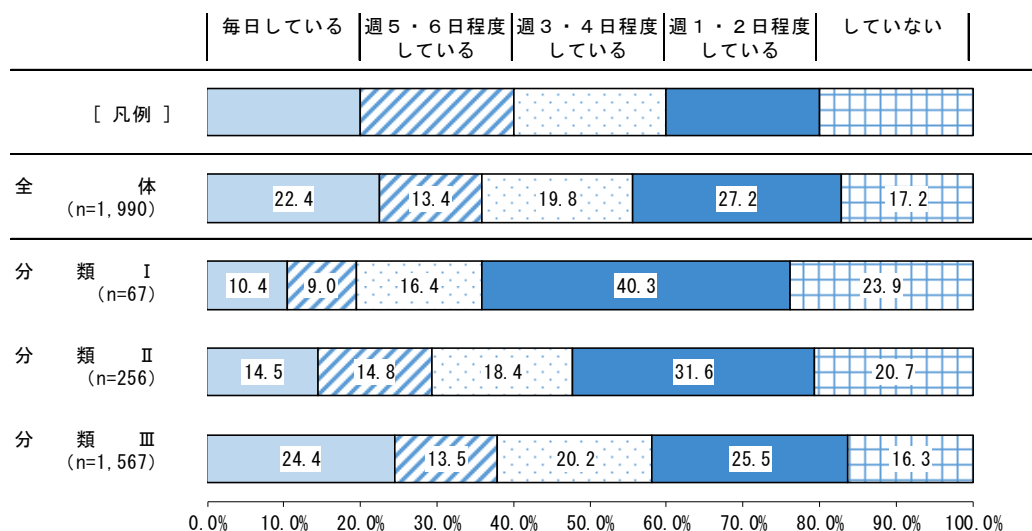
<前回調査>【図表 2-138 絵本の読み聞かせをしている】(世帯構成別)



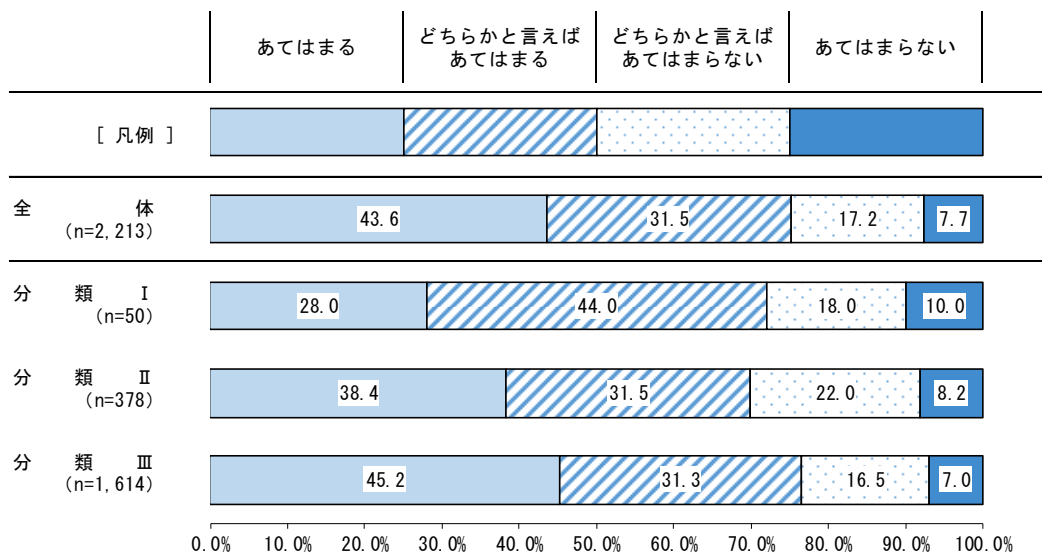
『絵本の読み聞かせをしている』を所得分類別にみると、「週1・2日程度している」は『分類Ⅰ』で40.3%、「していない」は『分類Ⅰ』で23.9%と、それぞれ全体に比べて高くなっている。また、「毎日している」は『分類Ⅰ』で10.4%、『分類Ⅱ』で14.5%と、それぞれ全体に比べて低くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 2-139 絵本の読み聞かせをしている】(所得分類別)

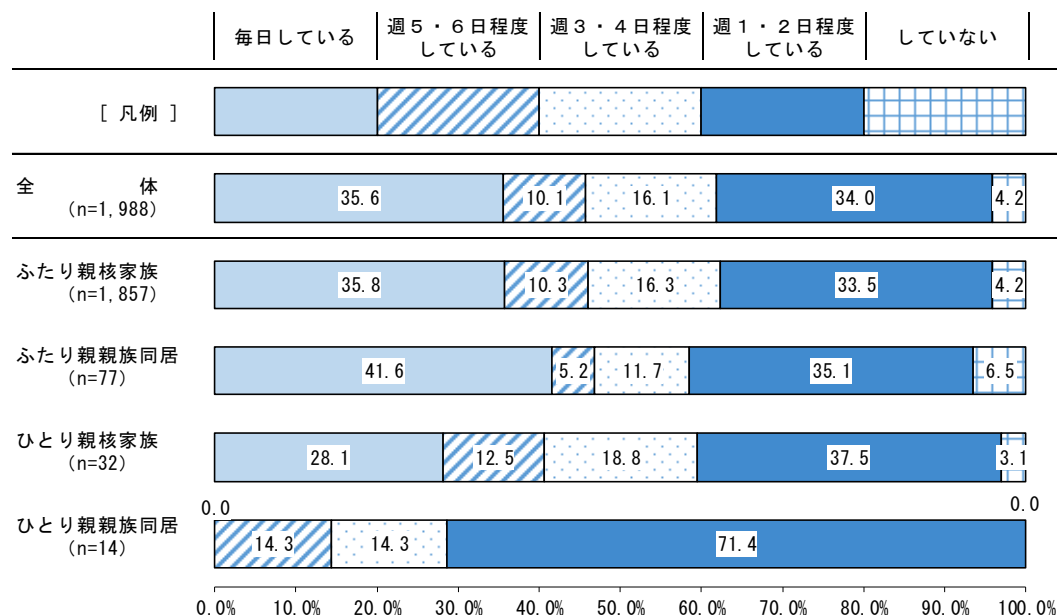


<前回調査>【図表 2-140 絵本の読み聞かせをしている】(所得分類別)

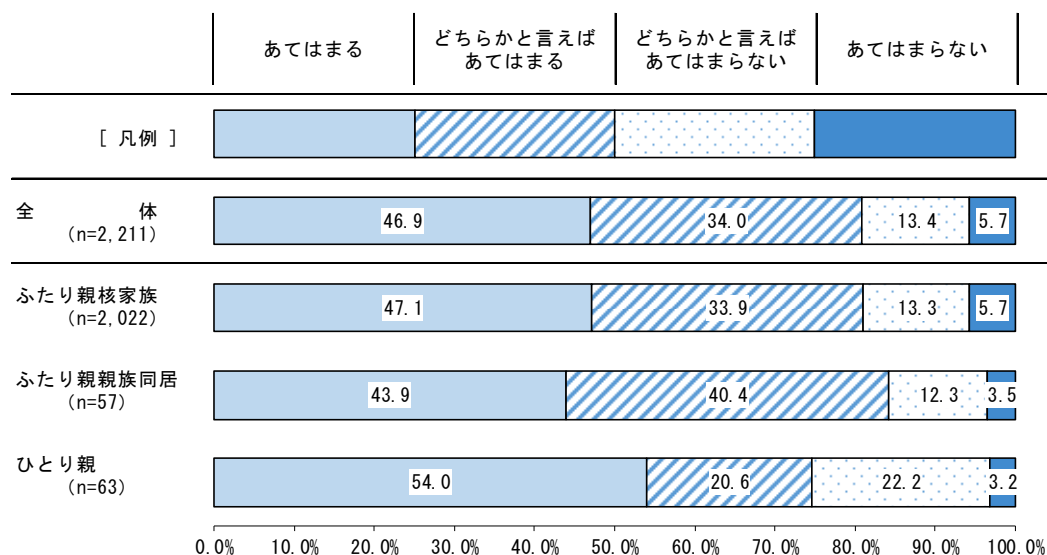


『家や公園などで 30 分以上、子どもと遊んだり、体を動かしたりする』を世帯構成別にみると、「毎日している」は『ふたり親親族同居』で 41.6%と、全体に比べて高くなっている。
 なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。
 前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 2-141 家や公園などで 30 分以上、子どもと遊んだり、体を動かしたりする】(世帯構成別)



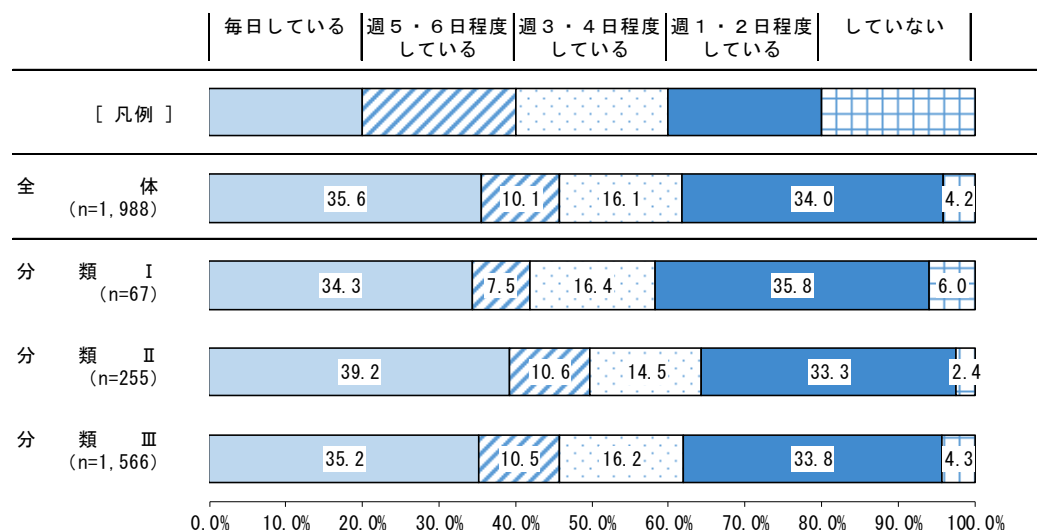
<前回調査>【図表 2-142 家や公園などで 30 分以上、子どもと遊んだり、体を動かしたりする】(世帯構成別)



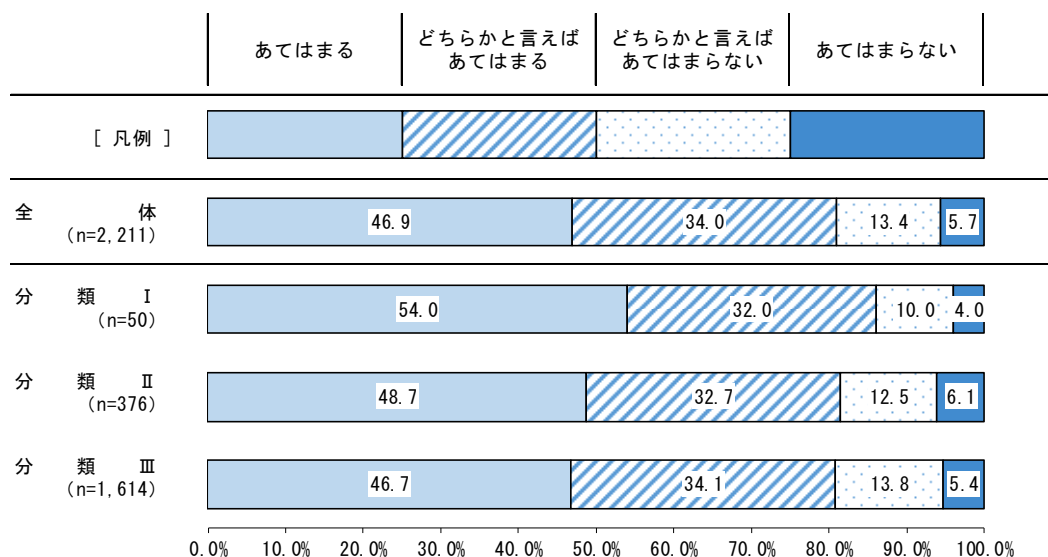
『家や公園などで 30 分以上、子どもと遊んだり、体を動かしたりする』を所得分類別にみると、大きな差はみられない。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 2-143 家や公園などで 30 分以上、子どもと遊んだり、体を動かしたりする】(所得分類別)

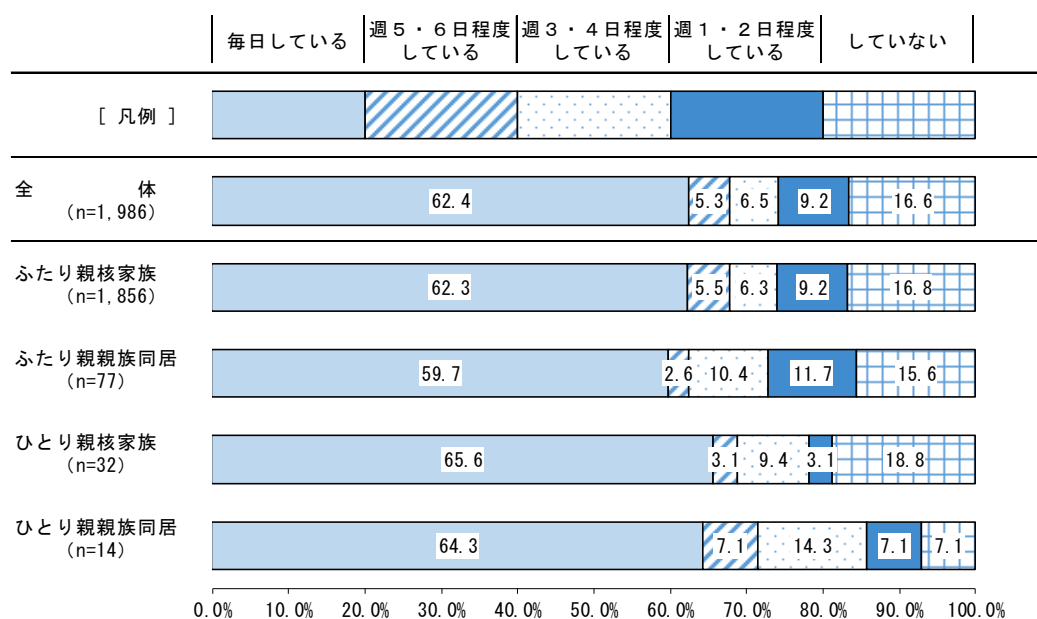


<前回調査>【図表 2-144 家や公園などで 30 分以上、子どもと遊んだり、体を動かしたりする】(所得分類別)



『朝食を一緒に食べている』を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。
 なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。
 前回調査には、この設問は含まれていない。

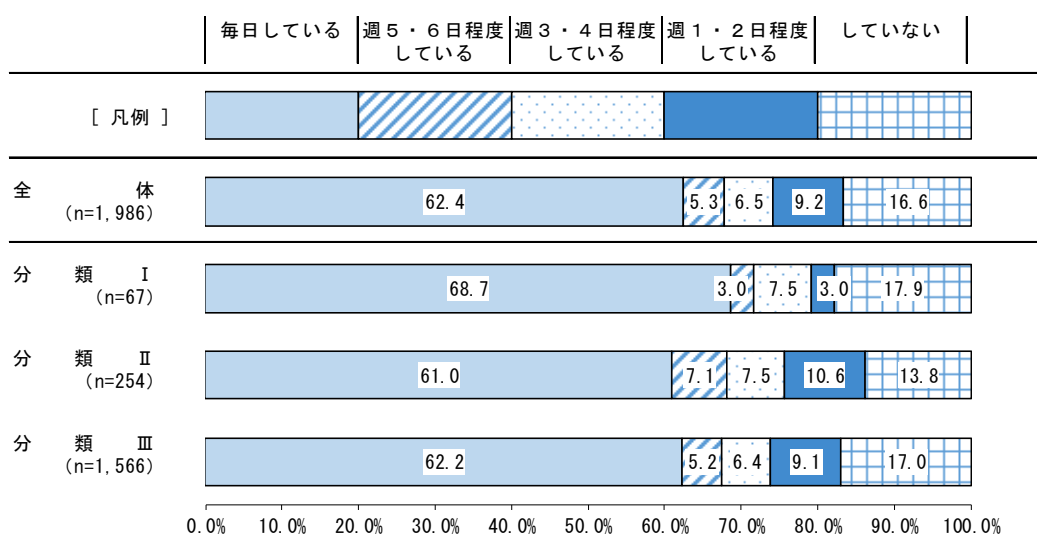
＜今回調査＞【図表 2-145 朝食を一緒に食べている】（世帯構成別）



『朝食を一緒に食べている』を所得分類別にみると、「毎日している」は『分類Ⅰ』で68.7%と全体に比べて高く、「週1・2日程度している」は『分類Ⅰ』で3.0%と全体に比べて低くなっている。

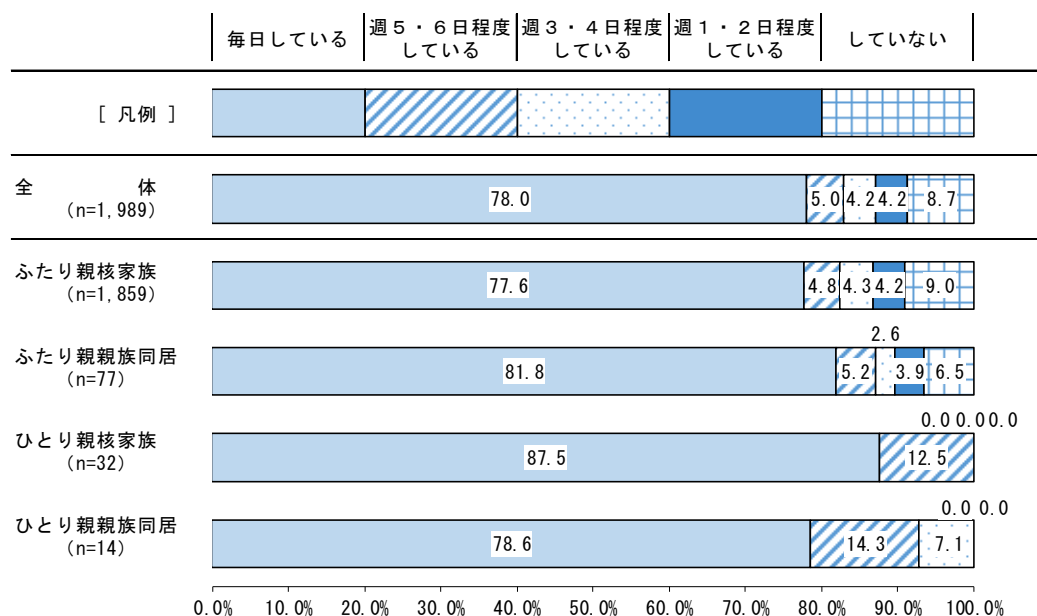
なお、前回調査には、この設問は含まれていない。

＜今回調査＞【図表 2-146 朝食を一緒に食べている】（所得分類別）



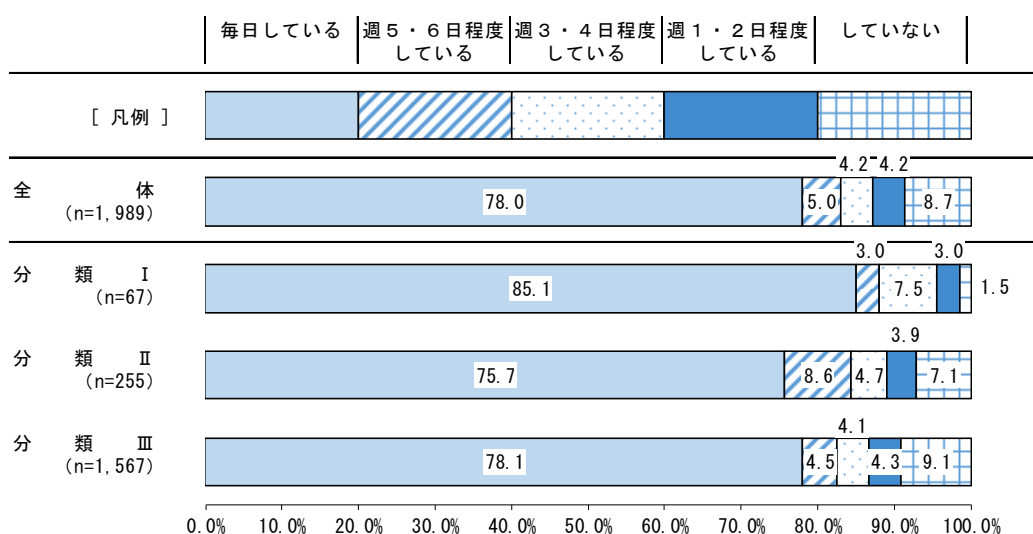
『夕食を一緒に食べている』を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。
 なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。
 前回調査には、この設問は含まれていない。

＜今回調査＞【図表 2-147 夕食を一緒に食べている】（世帯構成別）



『夕食を一緒に食べている』を所得分類別にみると、「毎日している」は『分類Ⅰ』で85.1%と全体に比べて高く、「していない」は『分類Ⅰ』で1.5%と全体に比べて低くなっている。
 なお、前回調査には、この設問は含まれていない。

＜今回調査＞【図表 2-148 夕食を一緒に食べている】（所得分類別）



（２）子どもの幼児教育・保育

ア 子どもの施設などの利用状況

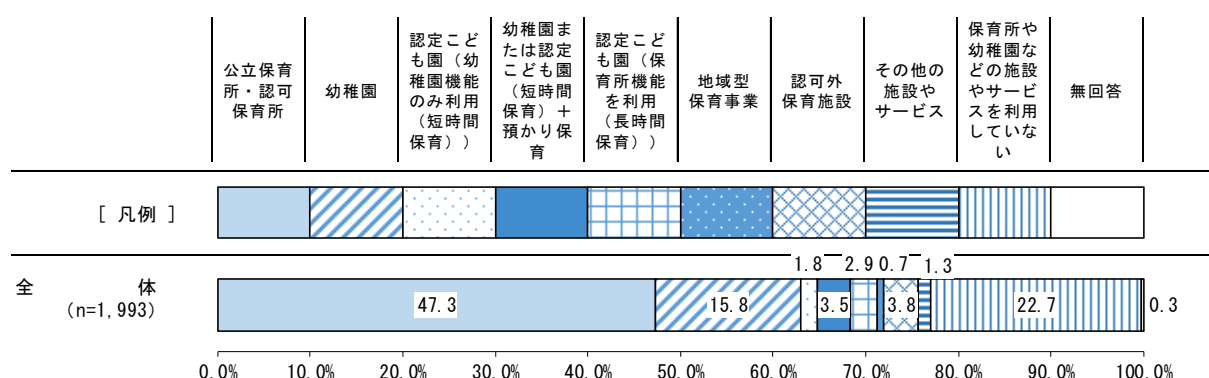
① 子どもが平日の日中に主に利用している施設など【問１】（SA）

子どもが平日の日中に主に利用している施設などを聞いたところ、「公立保育所・認可保育所」が 47.3%で最も高く、次いで「幼稚園」が 15.8%、「認可外保育施設」が 3.8%となっている。また、「保育所や幼稚園などの施設やサービスを利用していない」は 22.7%となっている。

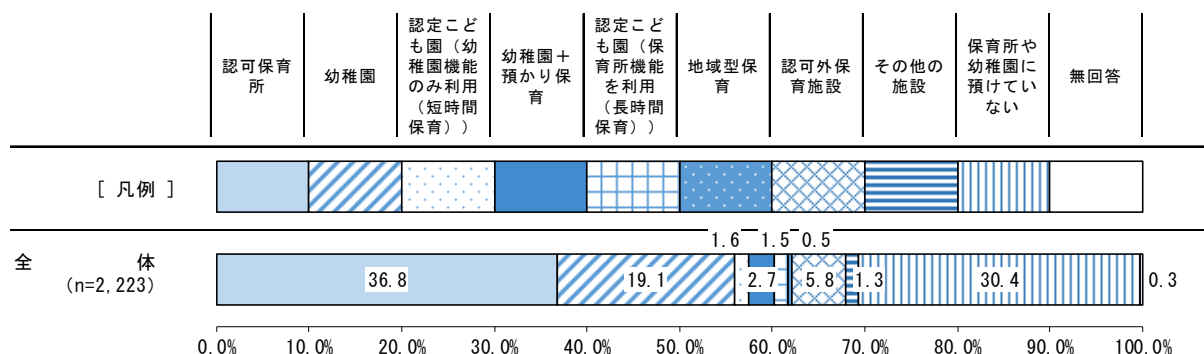
経年でみると、「公立保育所・認可保育所」が前回調査に比べて高く、「保育所や幼稚園などの施設やサービスを利用していない」が前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 2-149 子どもが平日の日中に主に利用している施設】



＜前回調査＞【図表 2-150 子どもが平日の日中に主に利用している施設】

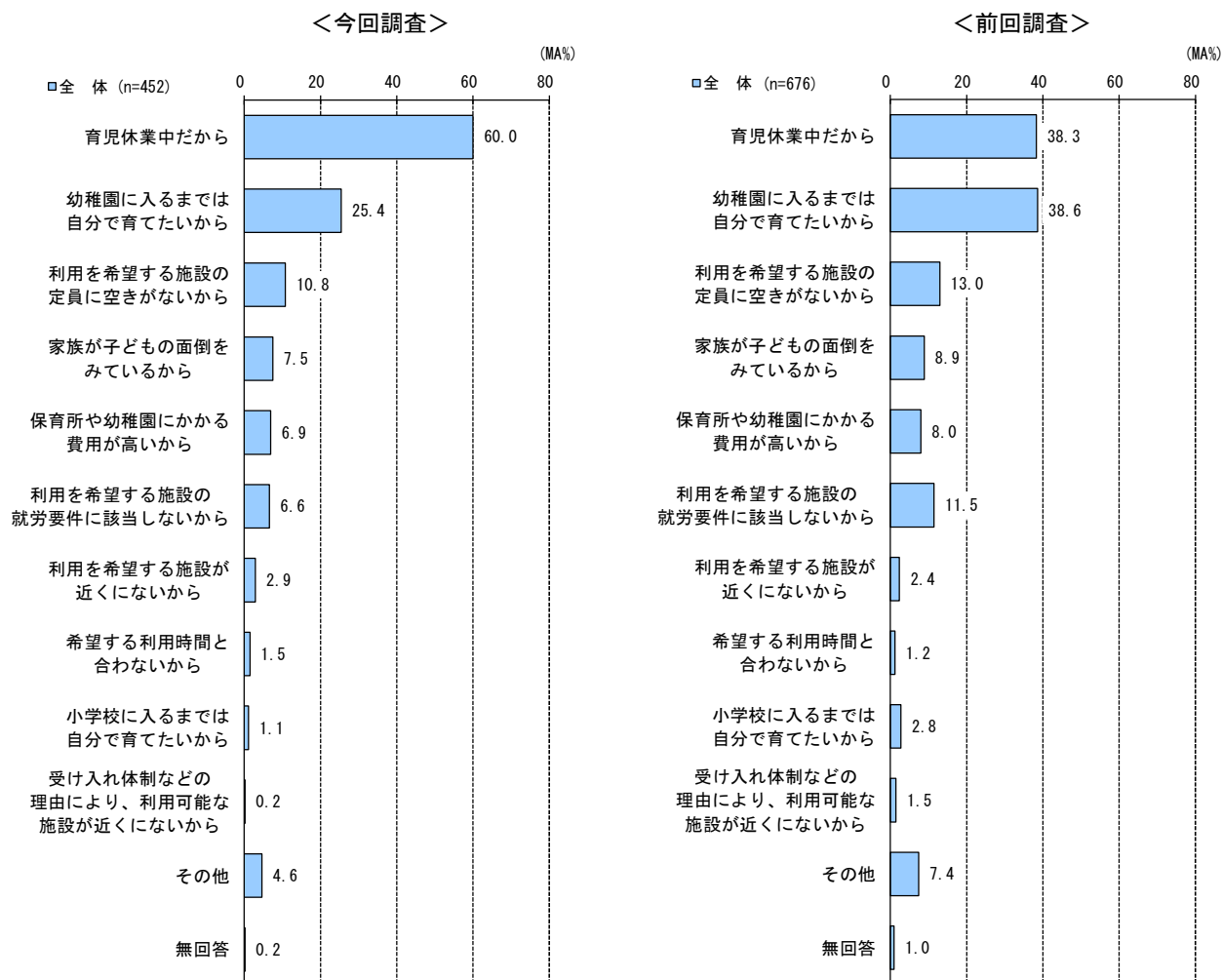


② 施設を利用していない理由【問2】(MA)

保育所や幼稚園などの施設やサービスを利用していないと回答した方に、その理由を複数回答で聞いたところ、「育児休業中だから」が60.0%で最も高く、次いで「幼稚園に入るまでは自分で育てたいから」が25.4%、「利用を希望する施設の定員に空きがないから」が10.8%となっている。

経年でみると、「育児休業中だから」が前回調査に比べて高く、「幼稚園に入るまでは自分で育てたいから」が前回調査に比べて低くなっている。

【図表 2-151 施設を利用していない理由（複数回答）】



世帯構成別にみると、『ふたり親核家族』では「利用を希望する施設の定員に空きがないから」が1.2%と、全体に比べて低くなっている。

ふたり親・核家族就労状況別にみると、『共働き』では「育児休業中だから」が85.2%、『専業主婦（夫）』では「幼稚園に入るまでは自分で育てたいから」が59.5%、「家族が子どもの面倒をみているから」「保育所や幼稚園にかかる費用が高いから」が14.9%、「利用を希望する施設の就労要件に該当しないから」が17.4%と、それぞれ全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、「育児休業中だから」は『分類Ⅲ』で65.7%、「幼稚園に入るまでは自分で育てたいから」は『分類Ⅱ』で36.4%、「利用を希望する施設の定員に空きがないから」は『分類Ⅱ』で18.2%と、それぞれ全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では『ふたり親核家族』は「育児休業中だから」が前回調査に比べて高く、「幼稚園に入るまでは自分で育てたいから」「利用を希望する施設の定員に空きがないから」「利用を希望する施設の就労要件に該当しないから」が前回調査に比べて低くなっている。

所得分類別では、『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』は「育児休業中だから」が前回調査に比べて高く、「幼稚園に入るまでは自分で育てたいから」「利用を希望する施設の就労要件に該当しないから」が前回調査に比べて低くなっている。また、『分類Ⅱ』では「保育所や幼稚園にかかる費用が高いから」が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回・前回調査＞【図表 2-152 施設を利用していない理由（複数回答）】

（世帯構成別、ふたり親・核家族就労状況別、所得分類別）

単位：％

			母数 (n)	育児休業中だから	幼稚園に入るまでは自分で育てたいから	利用を希望する施設の定員に空きがないから	家族が子どもの面倒をみているから	費用が高いから	保育所や幼稚園にかかる	利用を希望する施設から就労要件に該当しないから	利用を希望する施設が近くにないから	希望する利用時間と合わないから	小学校に入るまでは自分で育てたいから	受け入れ体制などの理由が近くにないから	その他
今回調査	全体			451	60.1	25.5	10.9	7.5	6.9	6.7	2.9	1.6	1.1	0.2	4.7
	世帯構成	ふたり親核家族	429	61.1	24.5	▼ 1.2	7.0	10.5	2.8	0.2	7.0	1.6	7.2	4.4	
		ふたり親親族同居	17	▼ 52.9	△ 47.1	▼ 5.9	△ 17.6	5.9	-	-	-	-	-	5.9	
		ひとり親核家族	3	-	-	△ 66.7	-	-	-	-	-	-	-	△ 33.3	
		ひとり親親族同居	1	-	△ 100.0	△ 100.0	-	-	-	△ 100.0	-	-	-	-	
	就業状況	共働き	305	△ 85.2	▼ 10.2	11.1	4.3	3.9	3.0	2.6	1.3	-	0.3	3.6	
		専業主婦（夫）	121	▼ 0.8	△ 59.5	9.1	△ 14.9	△ 14.9	△ 17.4	3.3	2.5	4.1	-	6.6	
		その他（両方無職含む）	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	所得分類	分類Ⅰ	8	▼ 37.5	▼ 12.5	△ 37.5	△ 25.0	▼ 0.0	△ 12.5	-	-	-	-	-	
		分類Ⅱ	66	▼ 39.4	△ 36.4	△ 18.2	7.6	9.1	7.6	6.1	3.0	1.5	-	7.6	
分類Ⅲ		350	△ 65.7	22.6	9.1	7.4	7.1	6.3	2.0	1.4	1.1	0.3	3.7		
前回調査	全体			669	38.7	39.0	13.2	9.0	8.1	11.7	2.4	1.2	2.8	1.5	7.5
	世帯構成	ふたり親核家族	627	39.2	39.1	12.3	9.1	7.8	11.6	2.1	1.1	2.9	1.4	7.3	
		ふたり親親族同居	16	▼ 25.0	△ 37.5	△ 37.5	6.3	6.3	△ 25.0	6.3	6.3	6.3	-	△ 12.5	
		ひとり親	14	▼ 14.3	42.9	△ 28.6	△ 14.3	△ 14.3	7.1	-	-	-	△ 7.1	7.1	
		就業状況	共働き	293	△ 80.5	▼ 10.9	14.0	4.8	4.1	▼ 4.1	1.7	1.0	1.0	-	5.8
	専業主婦（夫）		328	▼ 2.4	△ 64.0	11.0	13.1	11.3	△ 18.3	3.0	1.2	4.6	2.7	8.2	
	その他（両方無職含む）		1	△ 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△ 100.0	
	所得分類	分類Ⅰ	17	▼ 23.5	▼ 29.4	△ 29.4	△ 17.6	-	11.8	5.9	-	-	-	△ 17.6	
		分類Ⅱ	136	▼ 23.5	△ 45.6	16.9	10.3	△ 14.7	13.2	0.7	2.2	2.9	2.9	3.7	
		分類Ⅲ	481	△ 44.5	37.0	11.2	8.7	5.8	11.4	2.9	1.0	3.1	0.8	7.9	

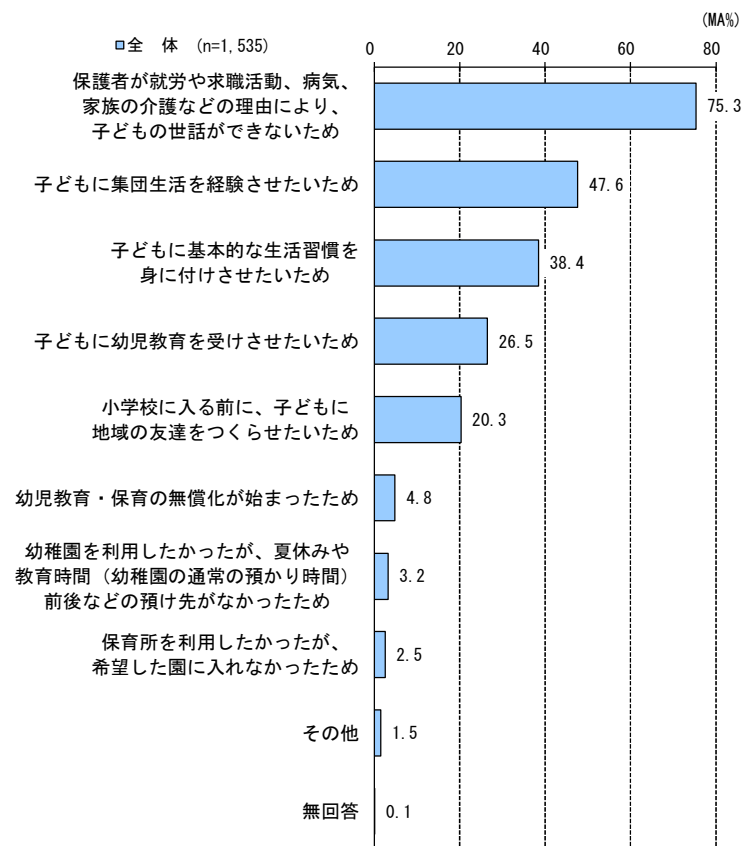
③ 子どもを施設などに預ける理由【問3】(MA)

子どもを施設などに預けていると回答した方に、預ける理由を複数回答で聞いたところ、「保護者が就労や求職活動、病気、家族の介護などの理由により、子どもの世話ができないため」が75.3%で最も高く、次いで「子どもに集団生活を経験させたいため」が47.6%、「子どもに基本的な生活習慣を身に付けさせたいため」が38.4%となっている。

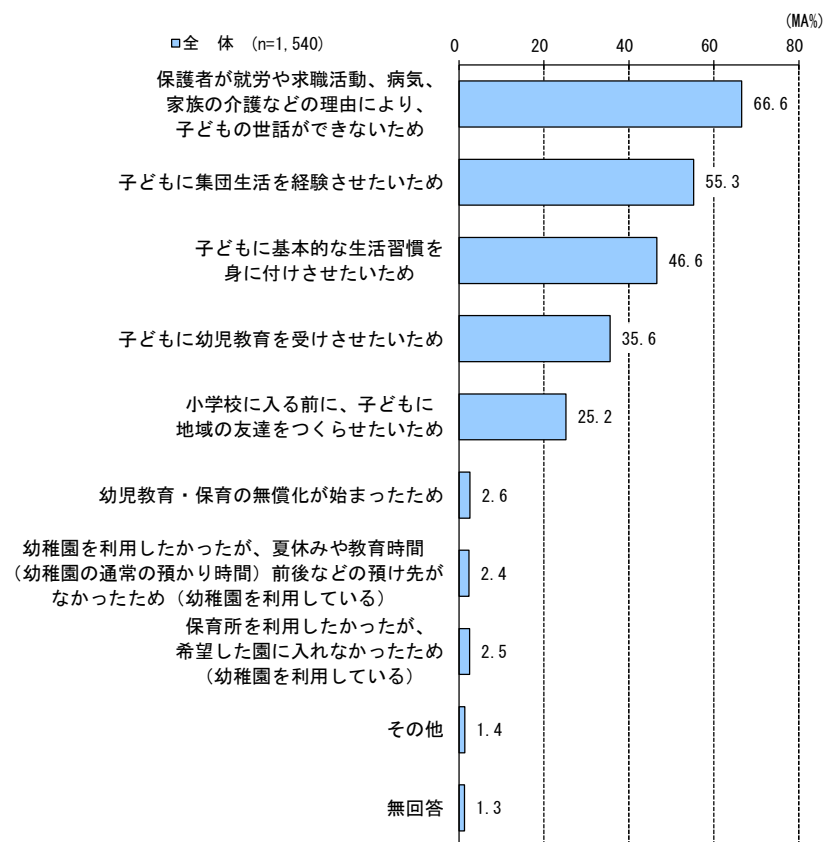
経年でみると、「保護者が就労や求職活動、病気、家族の介護などの理由により、子どもの世話ができないため」が前回調査に比べて高く、「子どもに集団生活を経験させたいため」「子どもに基本的な生活習慣を身に付けさせたいため」「子どもに幼児教育を受けさせたいため」が前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 2-153 子どもを施設などに預ける理由（複数回答）】



<前回調査>【図表 2-154 子どもを施設などに預ける理由（複数回答）】



利用施設別にみると、『保育所（地域型、認可外含む）』で「保護者が就労や求職活動、病気、家族の介護などの理由により、子どもの世話ができないため」が 97.0%と、全体に比べて高くなっている。

世帯構成別にみると、『ふたり親親族同居』で「子どもに基本的な生活習慣を身に付けさせたため」が 45.8%、「小学校に入る前に、子どもに地域の友達をつくらせたため」が 25.4%、「幼児教育・保育の無償化が始まったため」が 10.2%と、全体に比べて高くなっている。

ふたり親・核家族就労状況別にみると、『共働き』で「保護者が就労や求職活動、病気、家族の介護などの理由により、子どもの世話ができないため」、『専業主婦（夫）』で「子どもに集団生活を経験させたいため」「子どもに基本的な生活習慣を身に付けさせたいため」「子どもに幼児教育を受けさせたいため」「小学校に入る前に、子どもに地域の友達をつくらせたため」「幼児教育・保育の無償化が始まったため」が、それぞれ全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』で「子どもに集団生活を経験させたいため」が 39.0%と、全体に比べて低くなっている。

経年でみると、利用施設別では『幼稚園（預かり含む）』『認定こども園』で「保護者が就労や求職活動、病気、家族の介護などの理由により、子どもの世話ができないため」が前回調査に比べて高くなっている。

世帯構成別では、『ふたり親核家族』で「保護者が就労や求職活動、病気、家族の介護などの理由により、子どもの世話ができないため」が前回調査に比べて高くなっている。

ふたり親・核家族就労状況別では、『専業主婦（夫）』で「子どもに集団生活を経験させたいため」「子どもに基本的な生活習慣を身に付けさせたいため」「子どもに幼児教育を受けさせたいため」「小学校に入る前に、子どもに地域の友達をつくらせたため」が前回調査に比べて低くなっている。

所得分類別では、「保護者が就労や求職活動、病気、家族の介護などの理由により、子どもの世話ができないため」は『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』で前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回・前回調査>【図表 2-155 子どもを施設などに預ける理由（複数回答）】

（利用施設別、世帯構成別、ふたり親・核家族就労状況別、所得分類別）

単位：％

			母数 (n)	子どもの世話ができないため	保護者が就労や求職活動、病気、家族の介護などの理由により、	子どもに集団生活を経験させたため	子どもに基本的な生活習慣を身に付けさせたため	子どもに幼児教育を受けさせたため	小学校に入る前に、子どもに地域の友達をつくらせたため	幼児教育・保育の無償化が始まったため	幼稚園を利用したかったが、夏休みや教育時間（幼稚園の通常の預かり時間）前後などの預け先がなかったため	希望した園に入らなかったため	保育所を利用したかったが、	その他
今回調査	全体		1,533	75.4	47.7	38.4	26.5	20.4	4.8	3.2	2.5	1.5		
	施設 利用	保育所（地域型、認可外含む）	1,032	△ 97.0	▼ 34.9	▼ 26.3	▼ 8.5	▼ 12.3	1.9	4.1	1.4	0.8		
		幼稚園（預かり含む）	384	▼ 23.2	△ 80.5	△ 69.8	△ 71.6	△ 41.1	△ 10.7	1.0	3.6	1.6		
		認定こども園	92	▼ 62.0	△ 53.3	△ 47.8	△ 42.4	25.0	△ 13.0	3.3	△ 8.7	2.2		
	構世 成帯	ふたり親核家族	1,426	75.3	48.2	38.4	26.6	20.3	4.5	3.2	2.6	1.5		
		ふたり親親族同居	59	▼ 69.5	50.8	△ 45.8	25.4	△ 25.4	△ 10.2	3.4	1.7	3.4		
		ひとり親核家族	29	△ 89.7	▼ 17.2	▼ 27.6	▼ 20.7	▼ 13.8	△ 10.3	3.4	-	-		
		ひとり親親族同居	13	△ 92.3	▼ 38.5	▼ 23.1	23.1	▼ 15.4	-	-	-	-		
	就労 状況	親・ふたり核	共働き	1,200	△ 87.3	▼ 41.4	▼ 32.1	▼ 18.3	15.9	2.9	3.6	2.6	1.1	
		専業主婦（夫）	221	▼ 10.0	△ 85.5	△ 72.4	△ 71.5	△ 43.4	△ 12.7	1.4	2.7	3.6		
その他（両方無職含む）		1	△ 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-			
分所 類得	分類Ⅰ	59	71.2	▼ 39.0	39.0	△ 32.2	18.6	6.8	1.7	5.1	-			
	分類Ⅱ	189	73.5	47.6	38.6	25.4	24.3	8.5	1.6	2.6	2.1			
	分類Ⅲ	1,214	76.7	47.8	37.8	26.0	19.8	4.0	3.5	2.4	1.6			
前回調査	全体		1,520	67.5	56.1	47.2	36.1	25.5	2.6	2.4	2.6	1.4		
	施設 利用	保育所（地域型、認可外含む）	949	△ 98.0	▼ 36.7	▼ 29.3	▼ 12.0	▼ 12.5	1.4	3.8	0.3	0.8		
		幼稚園（預かり含む）	478	▼ 10.0	△ 92.5	△ 80.1	△ 81.8	△ 50.6	5.2	0.2	7.1	0.8		
		認定こども園	69	▼ 52.2	△ 66.7	△ 59.4	△ 58.0	△ 39.1	2.9	-	1.4	4.3		
	構世 成帯	ふたり親核家族	1,379	67.1	56.2	47.1	36.2	25.2	2.6	2.5	2.5	1.5		
		ふたり親親族同居	38	▼ 55.3	△ 71.1	△ 60.5	△ 44.7	△ 31.6	5.3	-	5.3	-		
		ひとり親	48	△ 87.5	▼ 45.8	▼ 41.7	▼ 27.1	△ 25.0	2.1	4.2	4.2	2.1		
	就労 状況	親・ふたり核	共働き	1,025	△ 87.2	▼ 43.9	▼ 35.9	▼ 22.3	▼ 17.3	2.0	3.3	1.9	1.3	
		専業主婦（夫）	338	▼ 6.2	△ 93.5	△ 80.5	△ 78.4	△ 49.1	4.4	0.3	4.4	2.4		
		その他（両方無職含む）	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
分所 類得	分類Ⅰ	33	△ 78.8	▼ 45.5	42.4	▼ 27.3	21.2	-	-	6.1	6.1			
	分類Ⅱ	240	▼ 58.3	△ 62.5	51.3	△ 42.5	△ 33.3	3.3	1.3	4.6	0.8			
	分類Ⅲ	1,116	69.1	54.7	46.1	35.2	24.2	2.5	3.0	2.1	1.5			

イ 施設を選ぶ際の状況

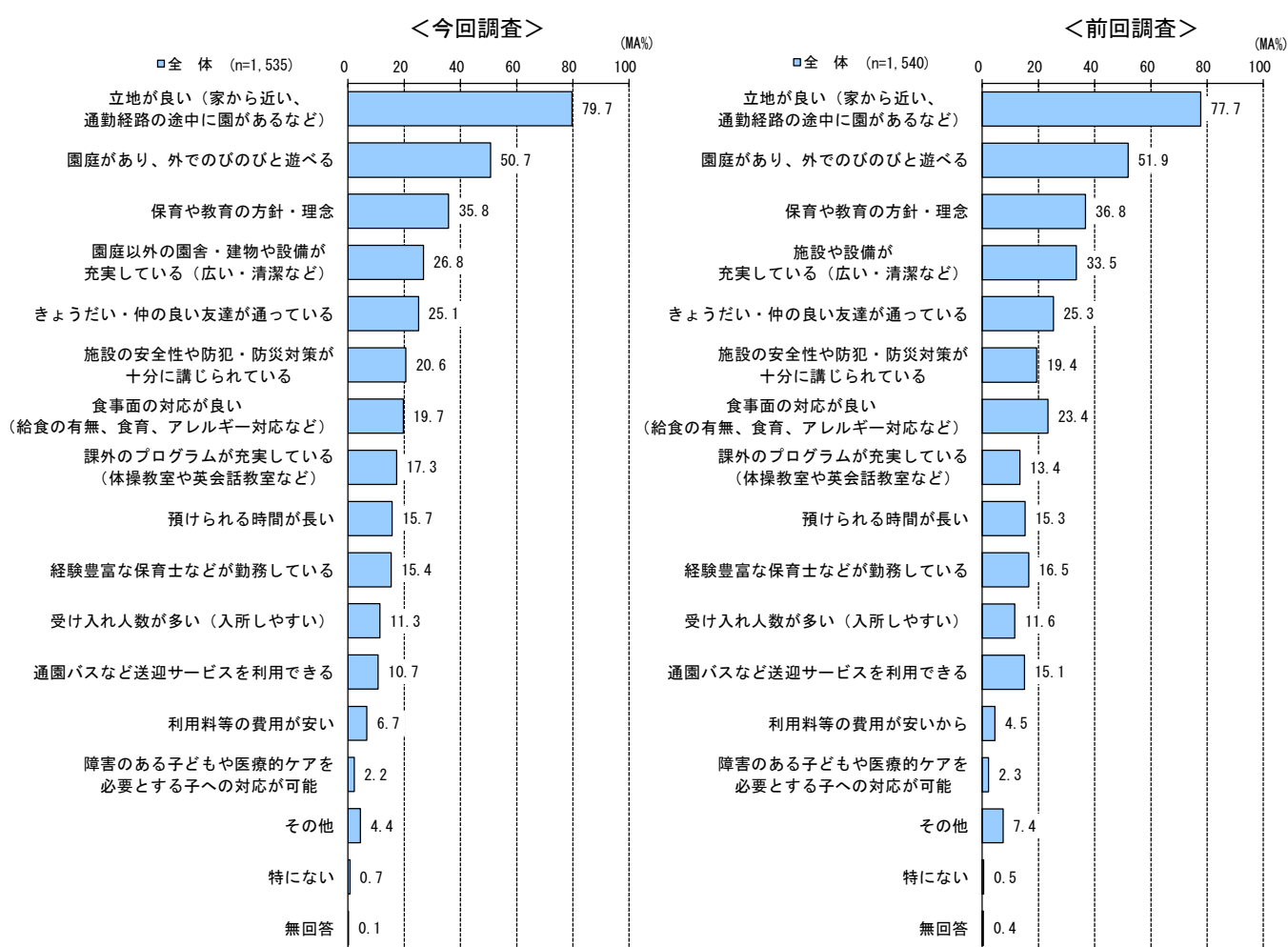
① 施設などを選ぶ際に重視した点【問4】(MA)

子どもを施設などに預けていると回答した方に、施設などを選ぶ際に重視した点を複数回答で聞いたところ、「立地が良い（家から近い、通勤経路の途中に園があるなど）」が79.7%で最も高く、次いで「園庭があり、外でのびのび遊べる」が50.7%、「保育や教育の方針・理念」が35.8%となっている。

経年でみると、「園庭以外の園舎・建物や設備が充実している（広い・清潔など）」が前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 2-156 施設などを選ぶ際に重視した点（複数回答）】



利用施設別にみると、『保育所（地域型、認可外含む）』では「立地が良い（家から近い、通勤経路の途中に園があるなど）」が、『幼稚園（預かり含む）』では「園庭があり、外でのびのびと遊べる」「保育や教育の方針・理念」「課外のプログラムが充実している（体操教室や英会話教室など）」「経験豊富な保育士などが勤務している」「通園バスなど送迎サービスを利用できる」が、『認定こども園』では「食事面の対応が良い（給食の有無、食育、アレルギー対応など）」で、それぞれ全体に比べて高くなっている。

世帯構成別にみると、『ふたり親親族同居』では「立地が良い（家から近い、通勤経路の途中に園があるなど）」が93.2%と、全体に比べて高くなっている。

ふたり親・核家族就労状況別にみると、『専業主婦（夫）』では「園庭があり、外でのびのびと遊べる」「保育や教育の方針・理念」「課外のプログラムが充実している（体操教室や英会話教室など）」「通園バスなど送迎サービスを利用できる」「障害のある子どもや医療的ケアを必要とする子への対応が可能」で、それぞれ全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』では「利用料等の費用が安い」で、全体に比べて高くなっている。

経年でみると、利用施設別では、『幼稚園（預かり含む）』では「課外のプログラムが充実している（体操教室や英会話教室など）」が前回調査に比べて高くなっている。

世帯構成別では、『ふたり親核家族』では「園庭以外の園舎・建物や設備が充実している（広い・清潔など）」が前回調査に比べて低くなっている。

ふたり親・核家族就労状況別では、『共働き』では「園庭以外の園舎・建物や設備が充実している（広い・清潔など）」が、『専業主婦（夫）』では「園庭があり、外でのびのびと遊べる」「保育や教育の方針・理念」「通園バスなど送迎サービスを利用できる」が、それぞれ前回調査に比べて低くなっている。

所得分類別では、『分類Ⅱ』では「預けられる時間が長い」が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回・前回調査＞【図表 2-157 施設などを選ぶ際に重視した点（複数回答）】

（利用施設別、世帯構成別、ふたり親・核家族就労状況別、所得分類別）

単位：％

			母数 (n)	な ど 通 立 地 が 良 い （ 家 か ら 近 い 、 道 路 の 中 に 園 が あ る ）	遊 園 地 が あ り 、 外 で の び の び と	保 育 や 教 育 の 方 針 ・ 理 念	（ 広 い ・ 清 潔 な ど ） 設 備 以 外 の 園 舎 ・ 建 物 や	通 き よ う だ い ・ 仲 の 良 い 友 達 が い る	十 分 に 講 じ ら れ て い る	防 犯 の 安 全 性 や 策 が あ る	施 設 の 有 無 ・ 食 育 、 ア レ ル ギ ー 対 応 な ど	食 事 面 の 対 応 が 良 い （ 給 食 の 有 無 、 食 育 、 英 会 話 教 室 な ど ）	課 外 の プ ロ グ ラ ム が あ る （ 体 操 教 室 や
今回調査	全体		1,534	79.8	50.7	35.9	26.9	25.2	20.6	19.7	17.3		
	施 利 設 用	保育所（地域型、認可外含む）	1,032	△ 87.5	46.9	▼ 30.4	25.4	24.7	20.1	20.4	14.5		
		幼稚園（預かり含む）	384	▼ 61.5	△ 62.0	△ 51.0	30.7	28.4	21.9	15.1	△ 24.0		
		認定こども園	93	▼ 74.2	52.7	36.6	26.9	21.5	19.4	△ 29.0	21.5		
	構 世 成 帯	ふたり親核家族	1,427	79.5	51.0	36.3	27.5	25.3	21.2	20.4	17.7		
		ふたり親親族同居	59	△ 93.2	52.5	32.2	23.7	25.4	▼ 10.2	15.3	13.6		
		ひとり親核家族	29	▼ 72.4	▼ 31.0	31.0	▼ 13.8	▼ 17.2	▼ 13.8	▼ 6.9	▼ 10.3		
		ひとり親親族同居	13	76.9	53.8	▼ 7.7	▼ 15.4	23.1	▼ 15.4	—	▼ 7.7		
	就 家 族 ・ 親 ふ た り 核 心 世 帯	共働き	1,200	82.8	49.4	34.1	26.9	25.1	21.0	20.8	16.7		
		専業主婦（夫）	222	▼ 61.7	△ 59.9	△ 48.2	31.1	25.7	23.0	18.0	△ 23.4		
		その他（両方無職含む）	1.0	△ 100.0	—	—	—	—	—	—	—		
	分 所 類 得	分類Ⅰ	59	▼ 71.2	45.8	▼ 30.5	▼ 8.5	27.1	25.4	20.3	16.9		
		分類Ⅱ	189	75.7	▼ 40.7	33.3	▼ 21.2	▼ 19.6	▼ 15.3	16.4	▼ 12.2		
		分類Ⅲ	1,215	80.8	51.9	36.0	28.8	25.7	21.6	20.2	18.2		
前回調査	全体		1,534	78.0	52.1	37.0	33.6	25.4	19.5	23.5	13.4		
	施 利 設 用	保育所（地域型、認可外含む）	955	△ 87.2	▼ 45.3	▼ 26.9	33.3	23.4	18.2	23.9	11.7		
		幼稚園（預かり含む）	484	▼ 60.7	△ 66.1	△ 56.8	33.3	△ 30.6	22.3	21.3	15.9		
		認定こども園	70	74.3	51.4	41.4	△ 40.0	▼ 18.6	17.1	△ 37.1	△ 24.3		
	構 世 成 帯	ふたり親核家族	1,389	78.3	52.1	37.4	33.3	25.7	19.2	24.1	13.1		
		ふたり親親族同居	41	▼ 70.7	▼ 43.9	34.1	29.3	▼ 19.5	△ 26.8	▼ 12.2	14.6		
		ひとり親	49	73.5	49.0	36.7	△ 44.9	▼ 12.2	20.4	▼ 18.4	14.3		
		ひとり親親族同居	13	76.9	53.8	▼ 7.7	▼ 15.4	23.1	▼ 15.4	—	▼ 7.7		
	就 家 族 ・ 親 ふ た り 核 心 世 帯	共働き	1,031	△ 83.8	47.8	32.2	33.9	25.1	17.8	25.3	13.5		
		専業主婦（夫）	342	▼ 61.7	△ 65.5	△ 53.5	32.2	28.1	22.5	21.3	12.6		
		その他（両方無職含む）	0	—	—	—	—	—	—	—	—		
	分 所 類 得	分類Ⅰ	34	▼ 64.7	50.0	▼ 29.4	38.2	▼ 17.6	△ 26.5	26.5	17.6		
		分類Ⅱ	242	73.1	56.2	37.6	33.5	29.3	18.6	21.9	11.6		
		分類Ⅲ	1,125	79.3	51.1	37.8	33.9	24.3	19.6	24.4	13.8		

単位：％

			母数 (n)	預けられる時間が長い	勤務している経験豊富な保育士などが	受け入れ人数が多い (入所しやすい)	通園バスなど送迎サービスを利用できる	利用料等の費用が安い	医療的ケアを必要とする子どもへの対応が可能	障害のある子どもや	その他	特にな
今回調査	全体		1,534	15.7	15.4	11.3	10.7	6.7	2.2	4.4	0.7	
	施設利用	保育所（地域型、認可外含む）	1,032	16.0	13.7	12.8	▼ 0.9	5.4	1.1	4.7	0.7	
		幼稚園（預かり含む）	384	14.8	△ 21.1	9.1	△ 35.4	8.6	5.2	2.3	-	
		認定こども園	93	17.2	11.8	▼ 5.4	18.3	7.5	1.1	4.3	-	
		構世帯	ふたり親核家族	1,427	15.3	15.5	11.8	10.9	6.4	2.3	4.5	0.7
	ふたり親親族同居	59	16.9	20.3	▼ 5.1	11.9	6.8	1.7	1.7	-		
	ひとり親核家族	29	△ 31.0	▼ 3.4	▼ 3.4	-	10.3	-	6.9	-		
	ひとり親親族同居	13	△ 23.1	15.4	15.4	7.7	△ 15.4	-	-	△ 7.7		
	就業状況	共働き	1,200	16.5	15.0	12.2	6.8	5.9	1.3	4.7	0.7	
		専業主婦（夫）	222	▼ 9.0	18.0	9.5	△ 32.9	9.0	△ 8.1	3.6	0.9	
その他（両方無職含む）		1.0	-	-	-	-	-	-	-	-		
分所類得	分類Ⅰ	59	15.3	15.3	6.8	11.9	△ 22.0	-	3.4	3.4		
	分類Ⅱ	189	18.5	▼ 9.5	9.5	6.9	6.9	0.5	4.2	0.5		
	分類Ⅲ	1,215	15.2	16.5	11.6	11.1	5.8	2.5	4.7	0.7		
前回調査	全体		1,534	15.4	16.6	11.6	15.1	4.6	2.3	7.4	0.5	
	施設利用	保育所（地域型、認可外含む）	955	17.2	15.9	13.1	▼ 0.8	5.1	0.8	8.4	0.6	
		幼稚園（預かり含む）	484	12.0	18.0	9.5	△ 40.7	3.3	3.7	5.4	-	
		認定こども園	70	17.1	15.7	7.1	△ 32.9	5.7	5.7	5.7	-	
		構世帯	ふたり親核家族	1,389	15.0	16.3	12.0	14.9	4.5	2.1	7.3	0.4
	ふたり親親族同居	41	△ 22.0	△ 24.4	▼ 4.9	△ 29.3	4.9	-	4.9	-		
	ひとり親	49	18.4	16.3	12.2	10.2	6.1	△ 8.2	△ 14.3	4.1		
	就業状況	共働き	1,031	17.9	15.3	13.1	▼ 6.3	4.7	1.0	7.9	0.4	
		専業主婦（夫）	342	▼ 6.4	19.6	8.8	△ 40.9	4.1	5.6	5.8	0.3	
		その他（両方無職含む）	0	-	-	-	-	-	-	-	-	
	分所類得	分類Ⅰ	34	11.8	17.6	14.7	▼ 8.8	△ 11.8	5.9	8.8	2.9	
		分類Ⅱ	242	13.2	19.4	9.5	16.1	7.0	3.3	9.5	0.4	
		分類Ⅲ	1,125	16.0	15.7	12.4	15.0	4.1	2.0	7.3	0.3	

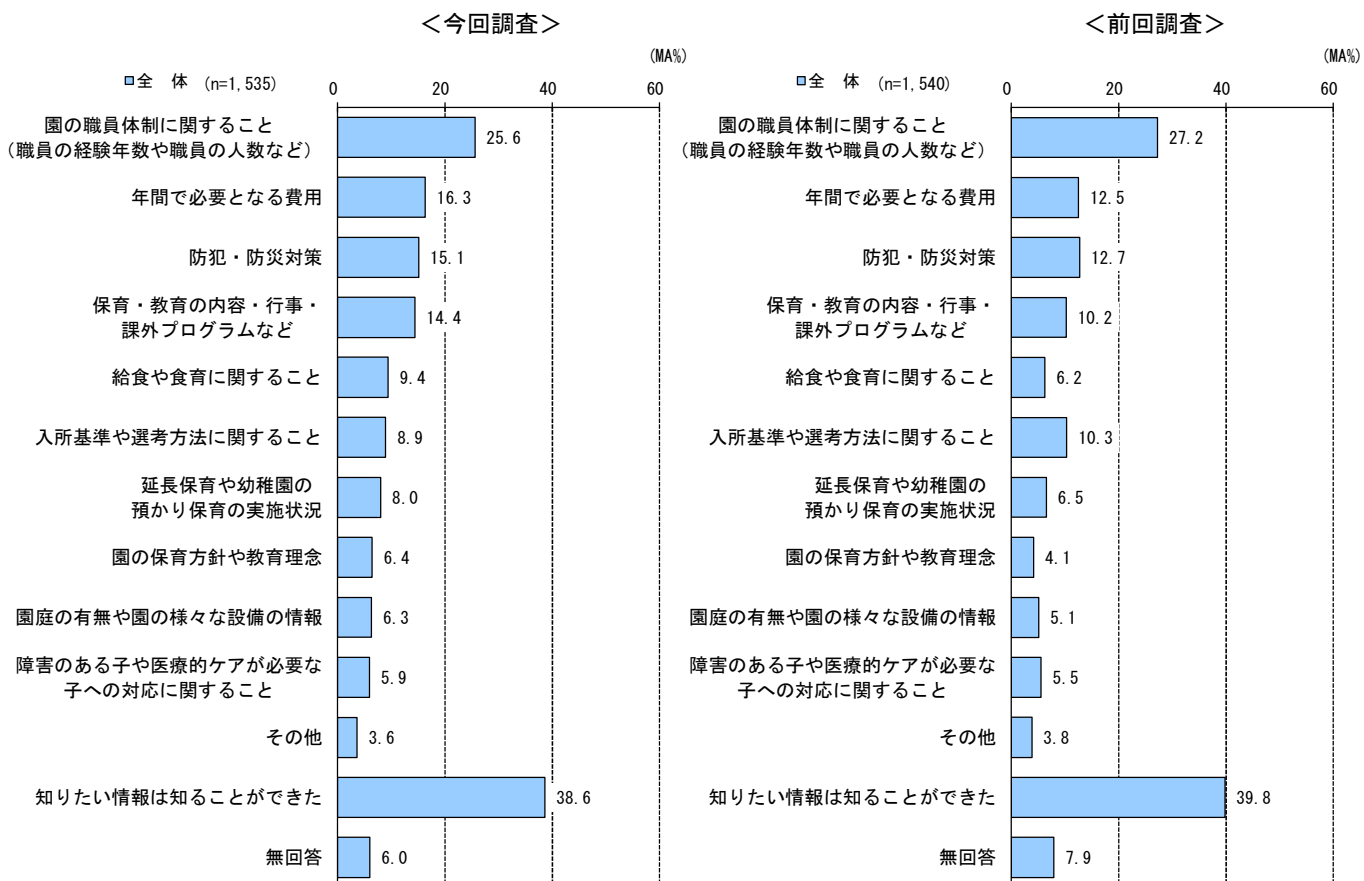
② 施設を選ぶ際に情報が不十分だと感じた点【問5】(MA)

子どもを施設などに預けていると回答した方に、施設を選ぶ際に情報が不十分だと感じた点を複数回答で聞いたところ、「知りたい情報は知ることができた」が 38.6%で最も高くなっている。

情報が不十分だと感じた点は「園の職員体制に関すること（職員の経験年数や職員の人数など）」が 25.6%で最も高く、次いで「年間で必要となる費用」が 16.3%、「防犯・防災対策」が 15.1%となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

【図表 2-158 施設を選ぶ際に情報が不十分だと感じた点（複数回答）】



世帯構成別にみると、『ふたり親親族同居』では「年間で必要となる費用」「保育・教育の内容・行事・課外プログラムなど」「給食や食育に関すること」で、全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』では「年間で必要となる費用」「保育・教育の内容・行事・課外プログラムなど」「給食や食育に関すること」「園の保育方針や教育理念」「園庭の有無や園の様々な設備の情報」で、全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では、大きな差はみられない。

所得分類別では、『分類Ⅱ』では「給食や食育に関すること」「園の保育方針や教育理念」「園庭の有無や園の様々な設備の情報」が前回調査に比べて高く、「知りたい情報は知ることができた」が前回調査に比べて低くなっている。『分類Ⅲ』では「保育・教育の内容・行事・課外プログラムなど」が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

<今回・前回調査>【図表 2-159 施設を選ぶ際に情報が不十分だと感じた点（複数回答）】

（世帯構成別、所得分類別）

単位：％

単位：%															
		母数 (n)	園の職員 の経験年数や 職員の人数など	年 間 で 必 要 と な る 費 用	防 犯 ・ 防 災 対 策	保 育 ・ 課 外 プ ロ グ ラ ム な ど	給 食 や 食 育 に 関 す る こ と	入 所 基 準 や 選 考 方 法 に 関 す る こ と	延 長 保 育 や 幼 稚 園 の 状 況	園 の 保 育 方 針 や 教 育 理 念	園 庭 の 有 無 や 園 の 様 々 な 設 備 の 情 報	障 害 の 有 無 や 子 の 健 康 に 関 す る こ と	そ の 他	知 り た い 情 報 は 知 る こ と が で き た	
今回調査	全体		1,443	27.2	17.3	16.1	15.3	10.0	9.5	8.5	6.9	6.7	6.3	3.8	41.1
	世帯 構成	ふたり親核家族	1,346	27.6	17.3	16.2	15.0	9.7	9.9	8.8	6.9	6.7	6.5	3.9	40.5
		ふたり親親族同居	54	16.7	△ 24.1	13.0	△ 20.4	△ 16.7	5.6	3.7	3.7	5.6	-	3.7	△ 48.1
		ひとり親核家族	28	28.6	▼ 10.7	14.3	17.9	3.6	-	3.6	10.7	7.1	3.6	-	△ 50.0
		ひとり親親族同居	9	△ 33.3	▼ 11.1	△ 22.2	△ 33.3	△ 33.3	11.1	11.1	11.1	△ 22.2	△ 22.2	-	44.4
	所得 分類	分類Ⅰ	53	30.2	△ 28.3	15.1	△ 26.4	△ 15.1	5.7	5.7	△ 17.0	△ 13.2	3.8	3.8	39.6
		分類Ⅱ	178	▼ 21.9	20.2	▼ 9.6	▼ 10.1	14.0	5.6	9.6	8.4	7.9	7.3	6.7	39.9
		分類Ⅲ	1,151	27.9	16.4	16.9	16.1	9.1	10.3	8.2	6.2	6.4	6.3	3.6	41.5
前回調査	全体		1,418	29.5	13.5	13.8	11.1	6.7	11.1	7.1	4.4	5.5	6.0	4.2	43.2
	世帯 構成	ふたり親核家族	1,284	30.4	13.8	14.3	10.7	6.9	11.3	6.9	4.5	5.5	5.9	3.8	43.0
		ふたり親親族同居	38	▼ 18.4	13.2	▼ 7.9	15.8	-	7.9	2.6	-	-	10.5	2.6	△ 52.6
		ひとり親	47	▼ 21.3	10.6	14.9	△ 17.0	8.5	10.6	△ 12.8	8.5	8.5	4.3	△ 14.9	44.7
		所得 分類	分類Ⅰ	31	29.0	△ 19.4	16.1	△ 22.6	9.7	12.9	9.7	6.5	9.7	△ 12.9	9.7
	分類Ⅱ		219	25.1	16.0	9.6	9.6	7.3	6.8	7.3	2.3	2.7	5.0	4.1	△ 49.8
	分類Ⅲ		1,058	30.7	12.9	14.6	11.0	6.5	12.4	6.9	4.9	5.7	6.0	3.8	42.2

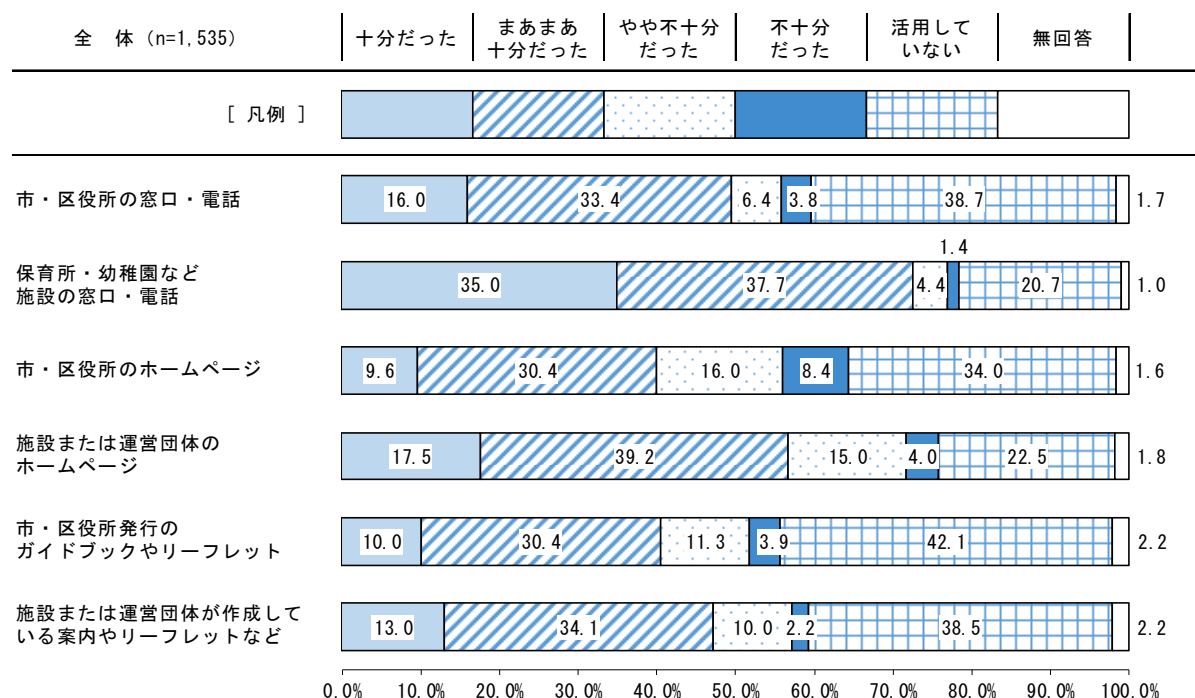
※ページ調整のため余白

③ 施設を選ぶ際の情報源と情報量【問6】(SA)

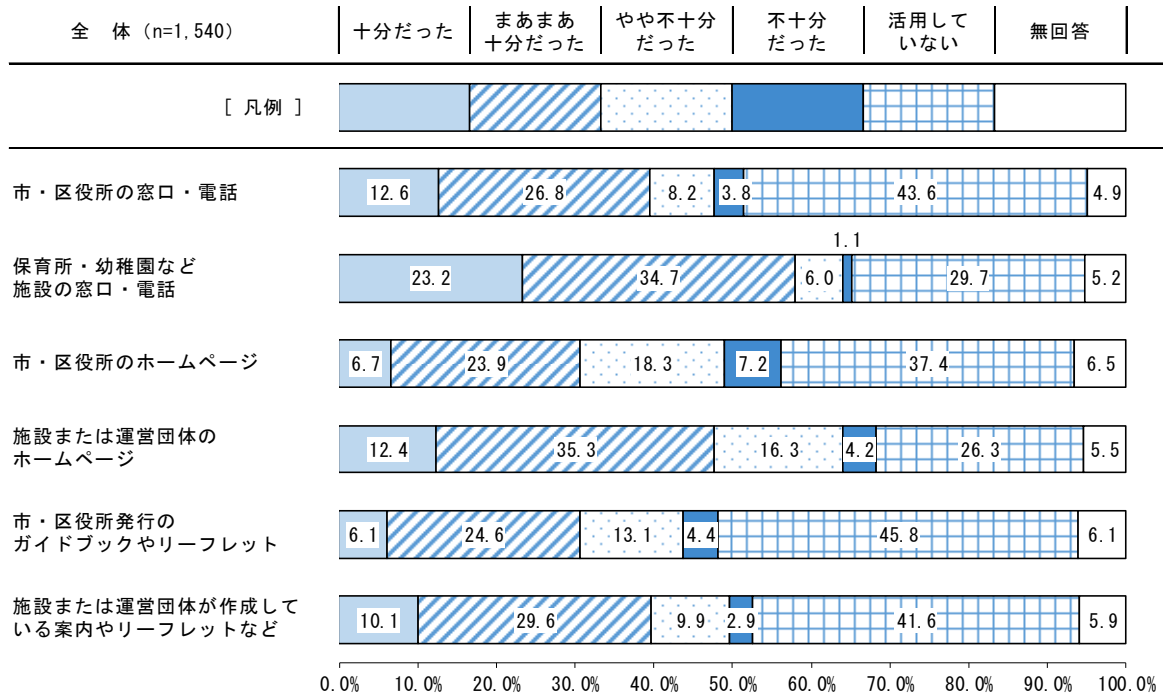
子どもを施設などに預けていると回答した方に、施設を選ぶ際の情報源と情報量の評価を聞いたところ、「十分だった」と「まあまあ十分だった」を足し合わせた割合は『保育所・幼稚園など施設の窓口・電話』が72.7%で最も高く、「やや不十分だった」と「不十分だった」を足し合わせた割合は『市・区役所のホームページ』が24.4%で最も高くなっている。

経年でみると、「十分だった」と「まあまあ十分だった」を足し合わせた割合は、全ての情報源で前回調査に比べて高くなっている。

＜今回調査＞【図表 2-160 施設を選ぶ際の情報源と情報量】



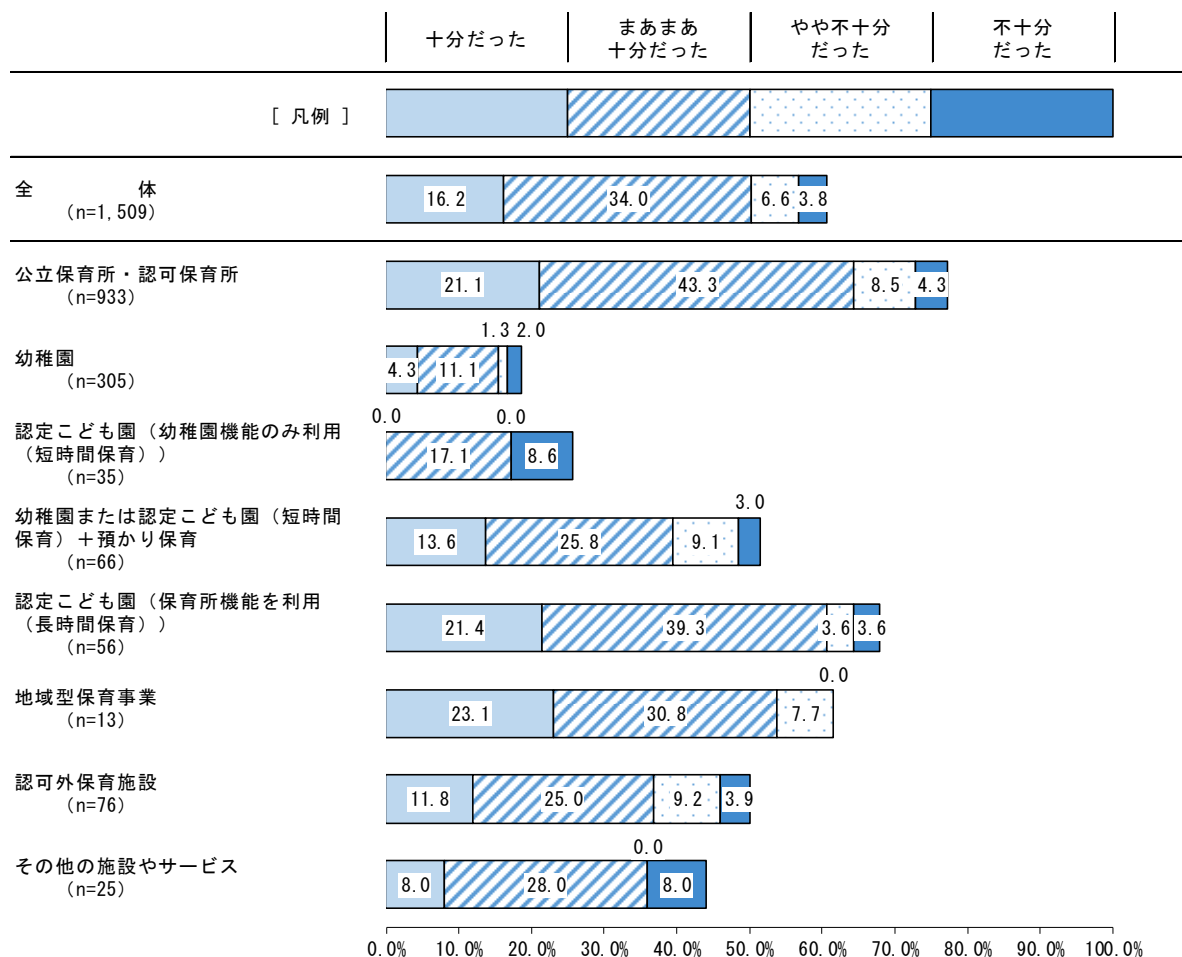
＜前回調査＞【図表 2-161 施設を選ぶ際の情報源と情報量】



「市・区役所の窓口・電話」を施設利用別にみると、「十分だった」と「まあまあ十分だった」を足し合わせた割合は『公立保育所・認可保育所』が 64.4%、『認定こども園（保育所機能を利用（長時間保育））』が 60.7%で、全体に比べて高くなっている。

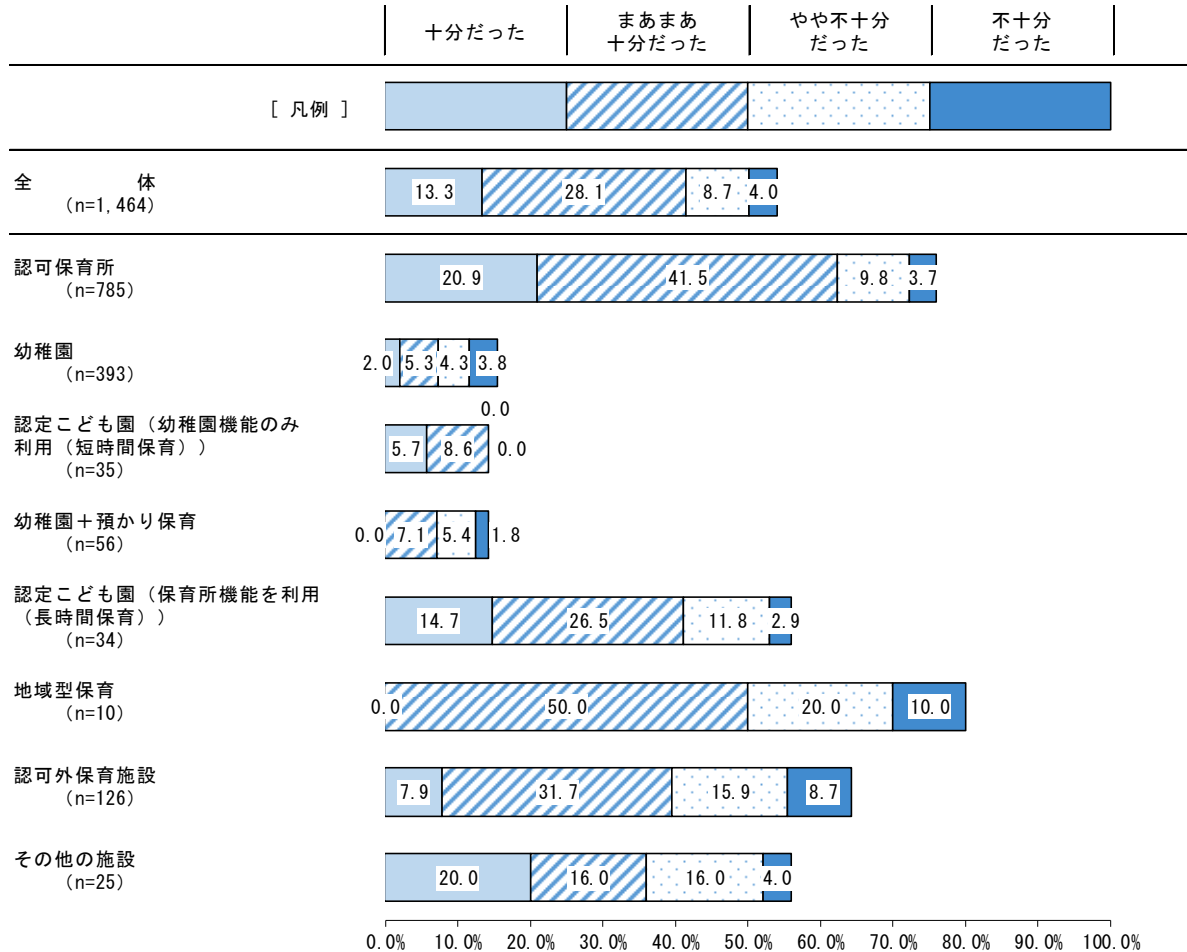
経年でみると、「十分だった」と「まあまあ十分だった」を足し合わせた割合は、『幼稚園』『幼稚園または認定こども園（短時間保育）＋預かり保育』で前回調査に比べて高くなっている。
なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 2-162 市・区役所の窓口・電話の情報について】（利用施設別）



※「活用していない」を除く

＜前回調査＞【図表 2-163 市・区役所の窓口・電話の情報について】（利用施設別）

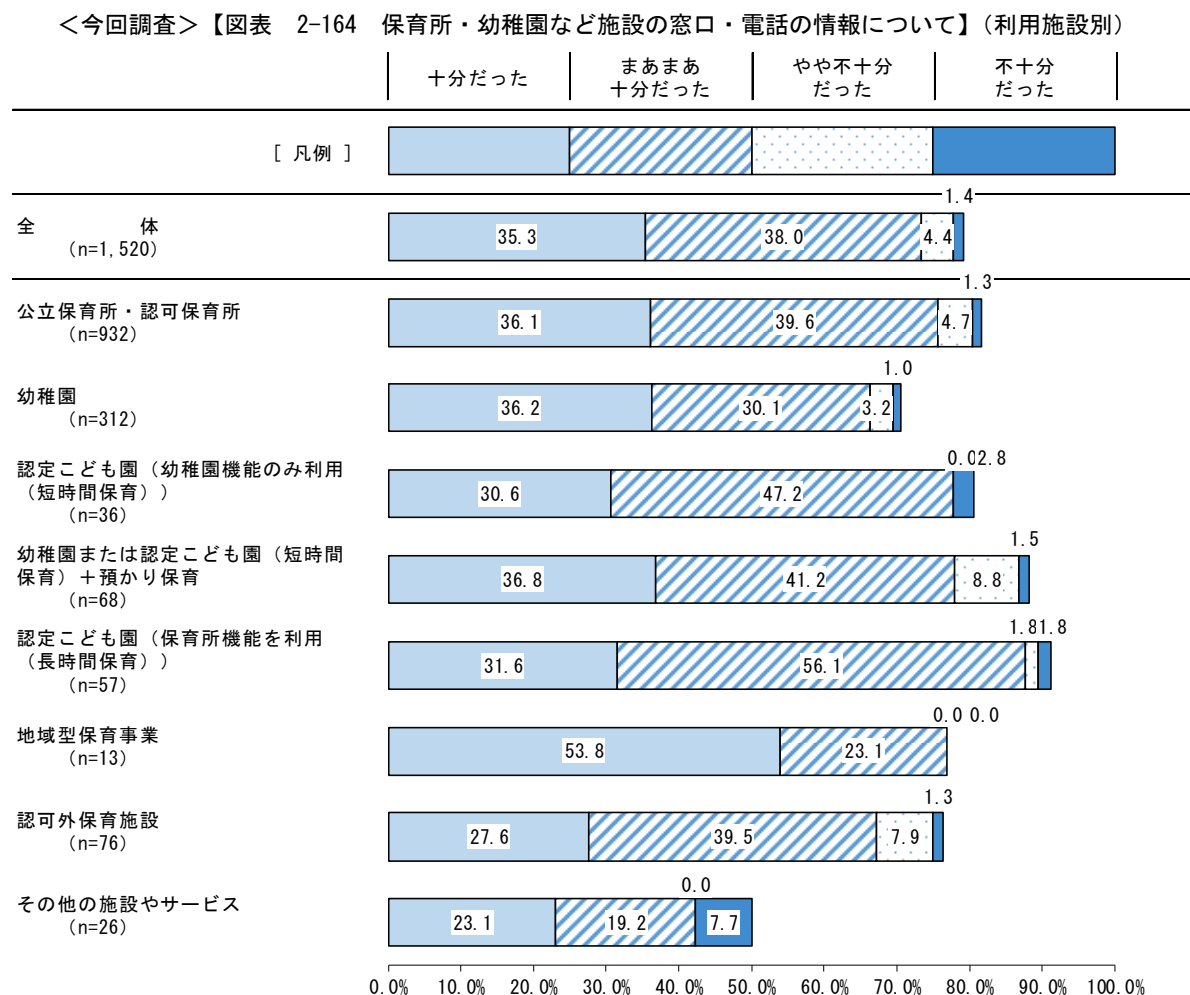


※「活用していない」を除く

「保育所・幼稚園など施設の窓口・電話」を施設利用別にみると、「十分だった」と「まあまあ十分だった」を足し合わせた割合は、『認定こども園（保育所機能を利用（長時間保育））』が87.7%で、全体に比べて高くなっている。

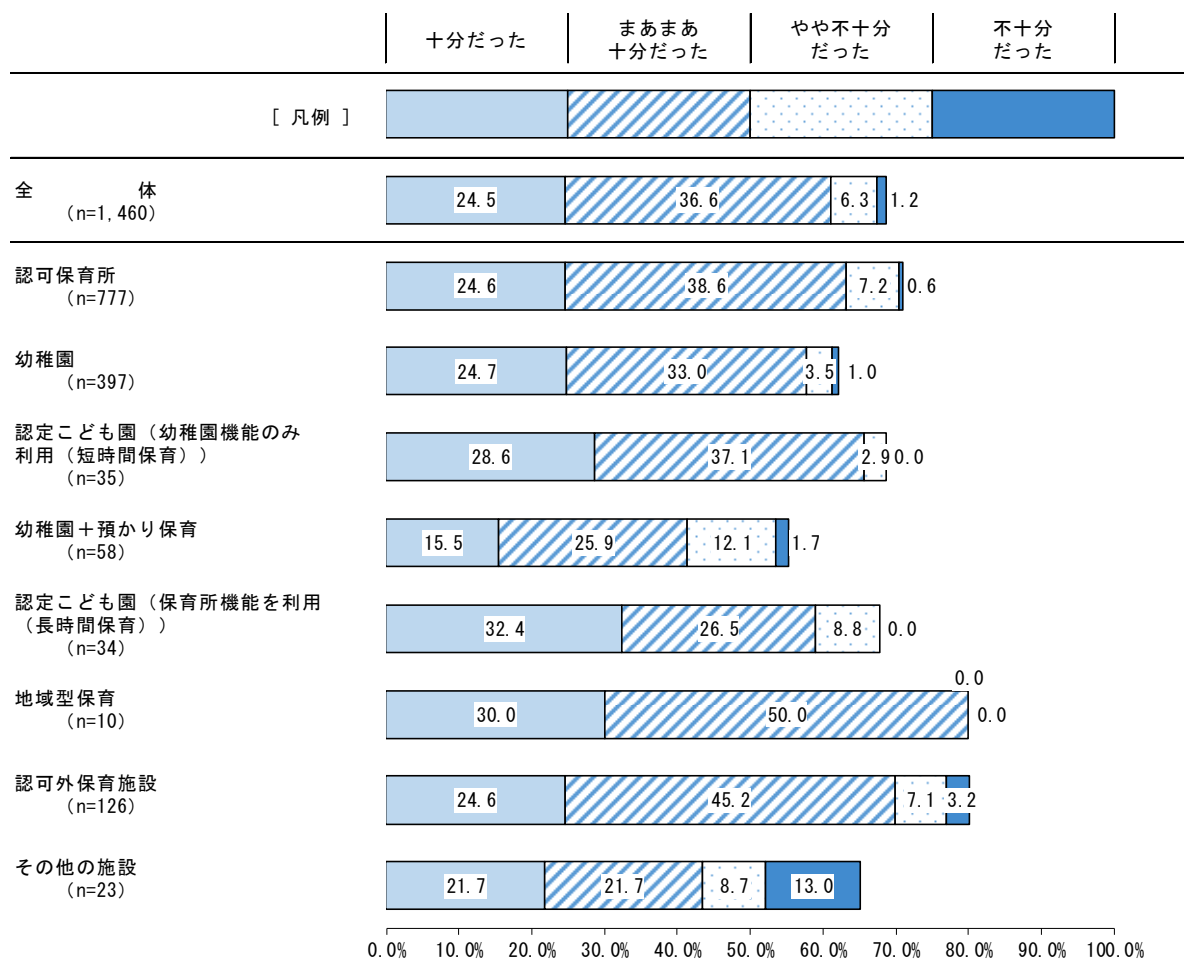
経年でみると、「十分だった」と「まあまあ十分だった」を足し合わせた割合は『公立保育所・認可保育所』『幼稚園』『幼稚園または認定こども園（短時間保育）＋預かり保育』で、前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。



※「活用していない」を除く

＜前回調査＞【図表 2-165 保育所・幼稚園など施設の窓口・電話の情報について】（利用施設別）

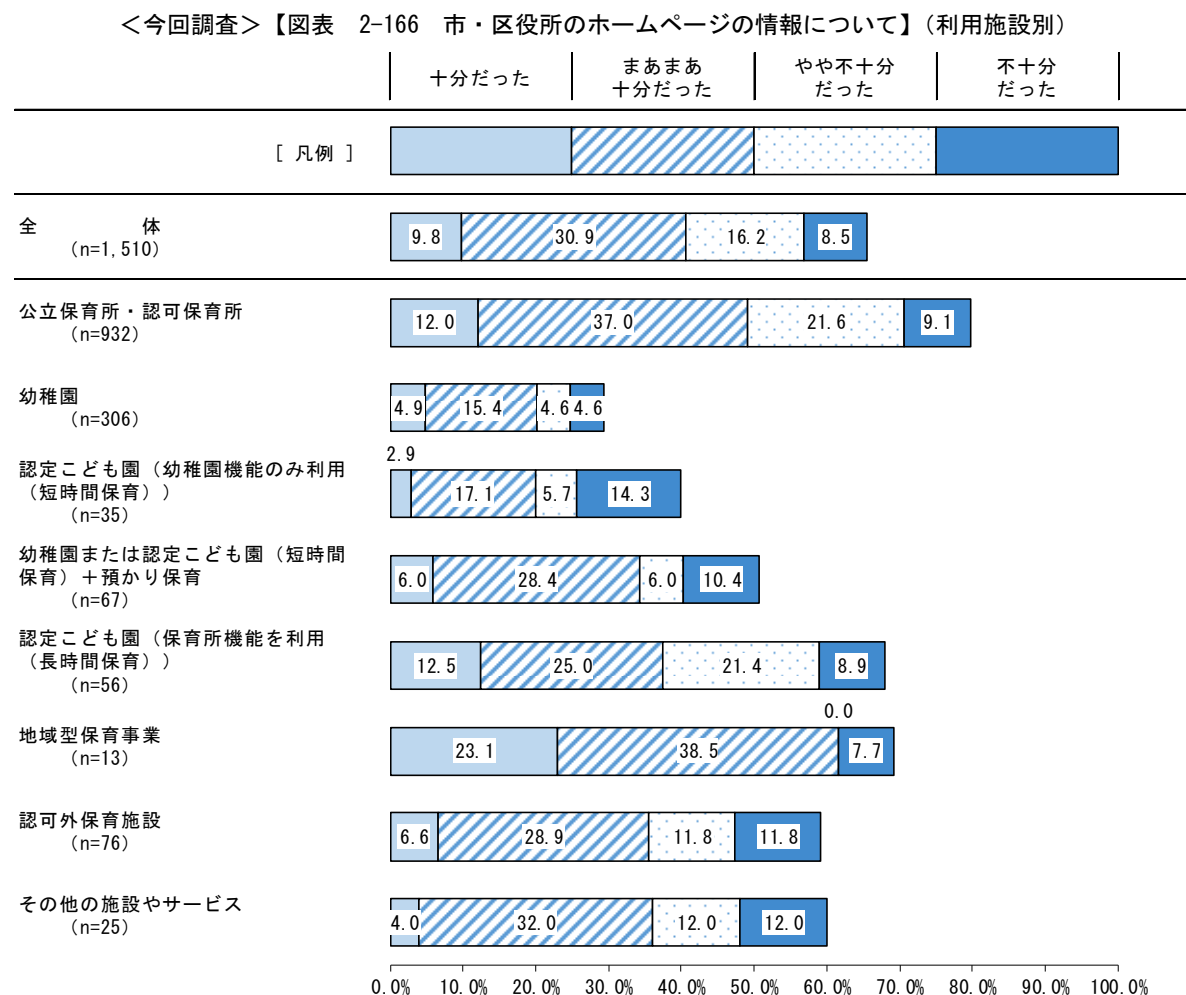


※「活用していない」を除く

「市・区役所のホームページ」を施設利用別にみると、「十分だった」と「まあまあ十分だった」を足し合わせた割合は、『公立保育所・認可保育所』が 49.0%で、全体に比べて高くなっている。

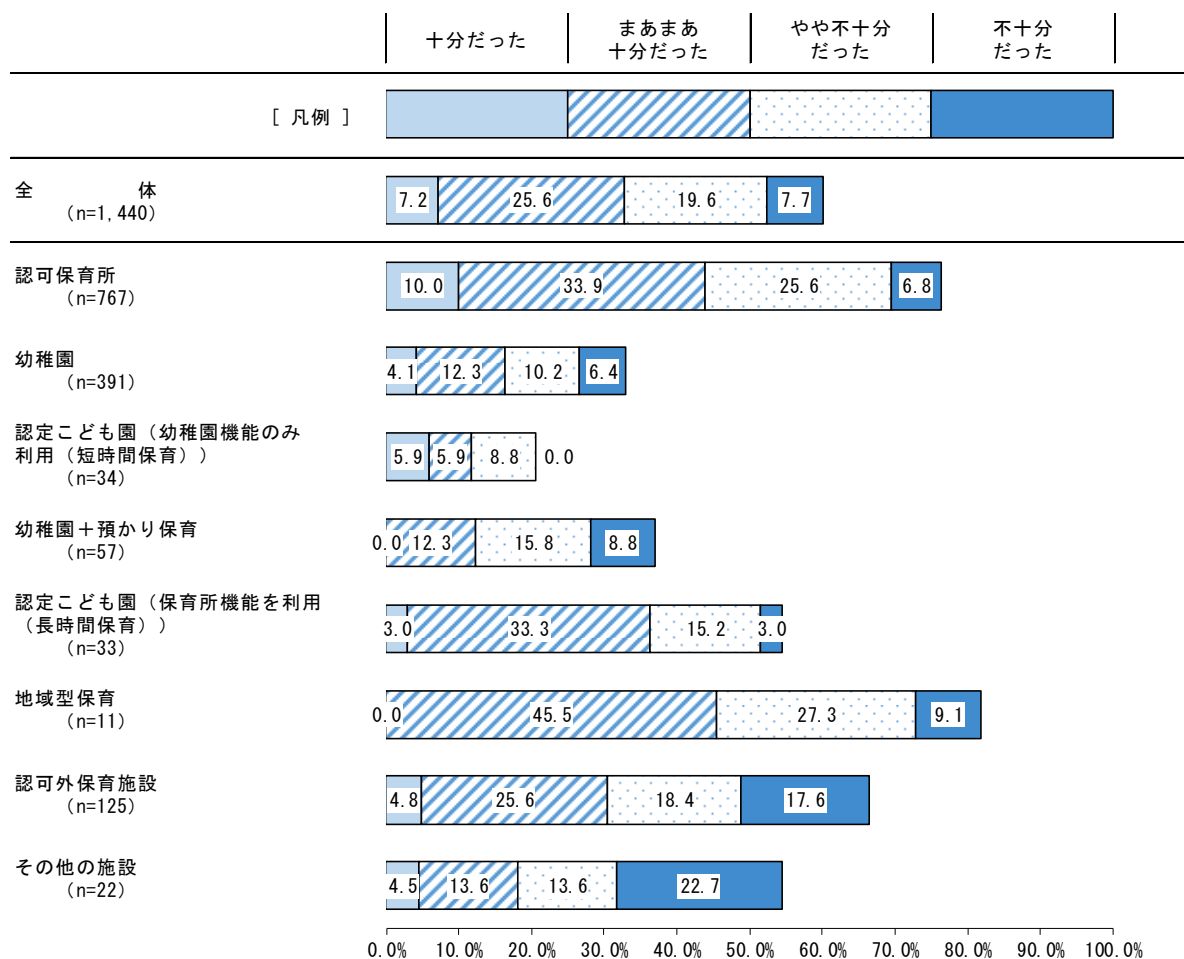
経年でみると、「十分だった」と「まあまあ十分だった」を足し合わせた割合は『公立保育所・認可保育所』『幼稚園または認定こども園（短時間保育）＋預かり保育』『認可外保育施設』で、前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。



※「活用していない」を除く

＜前回調査＞【図表 2-167 市・区役所のホームページの情報について】（利用施設別）



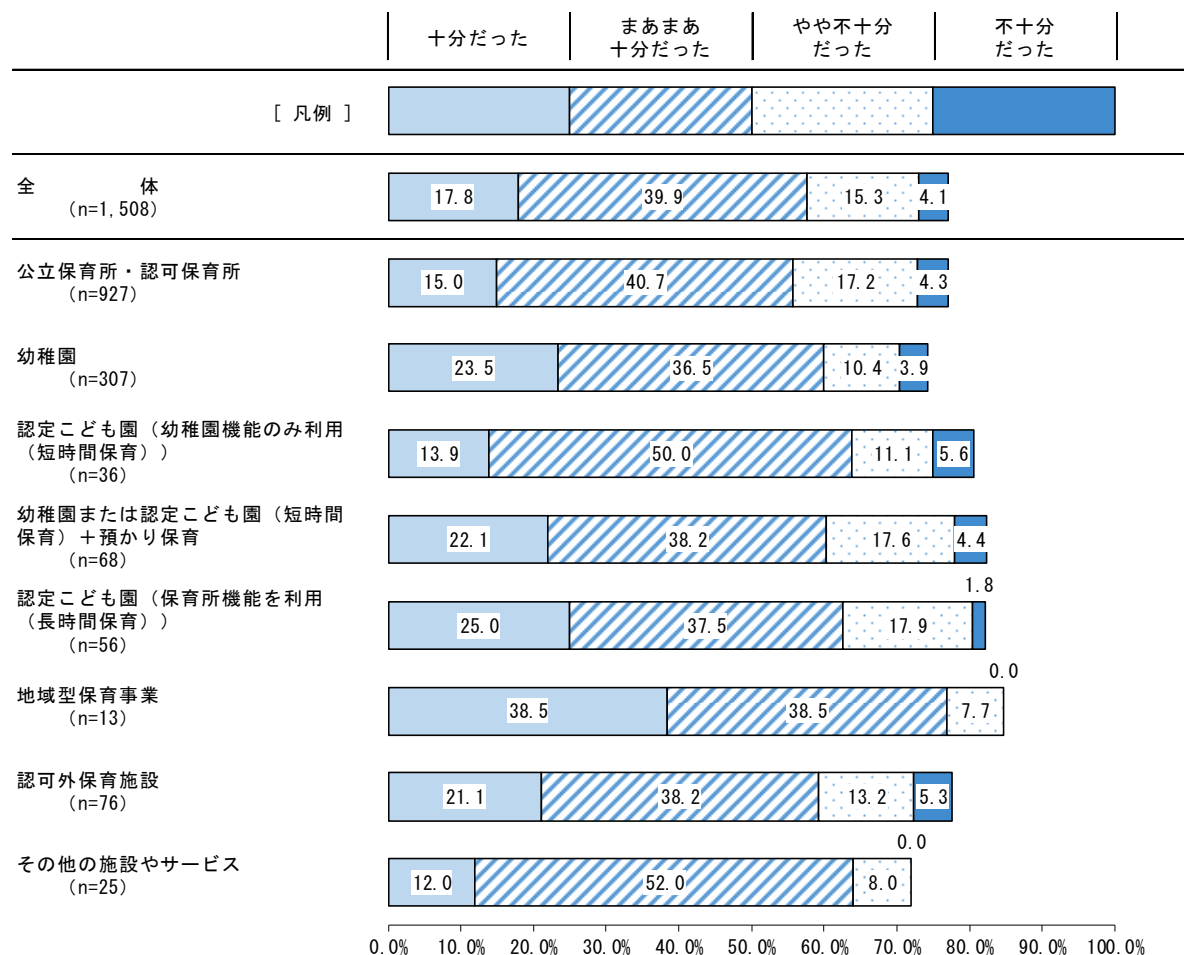
※「活用していない」を除く

「施設または運営団体のホームページ」を施設利用別にみると、「十分だった」と「まあまあ十分だった」を足し合わせた割合は、大きな差はみられない。

経年でみると、「十分だった」と「まあまあ十分だった」を足し合わせた割合は『公立保育所・認可保育所』『認可外保育施設』で、前回調査に比べて高くなっている。

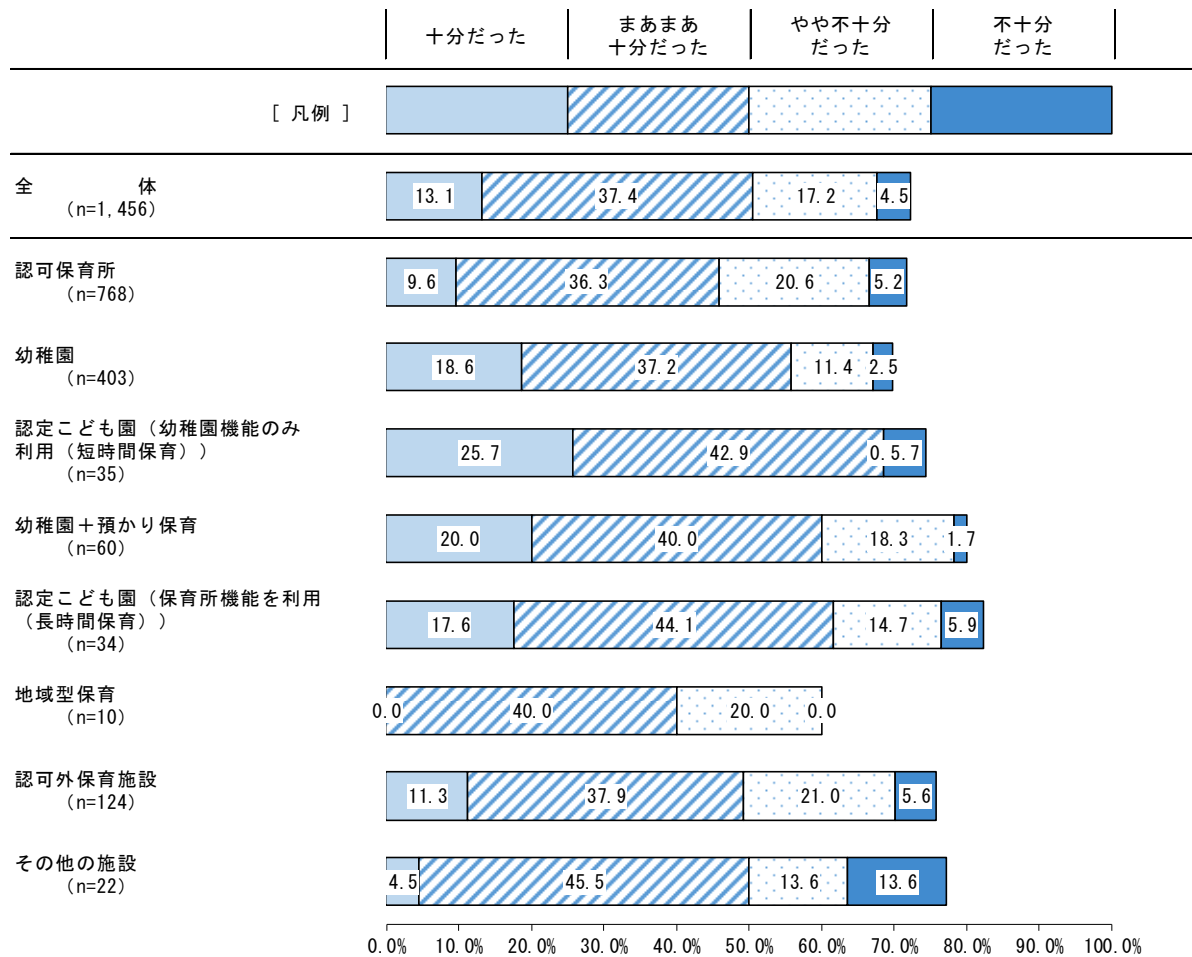
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 2-168 施設または運営団体のホームページの情報について】（利用施設別）



※「活用していない」を除く

＜前回調査＞【図表 2-169 施設または運営団体のホームページの情報について】（利用施設別）



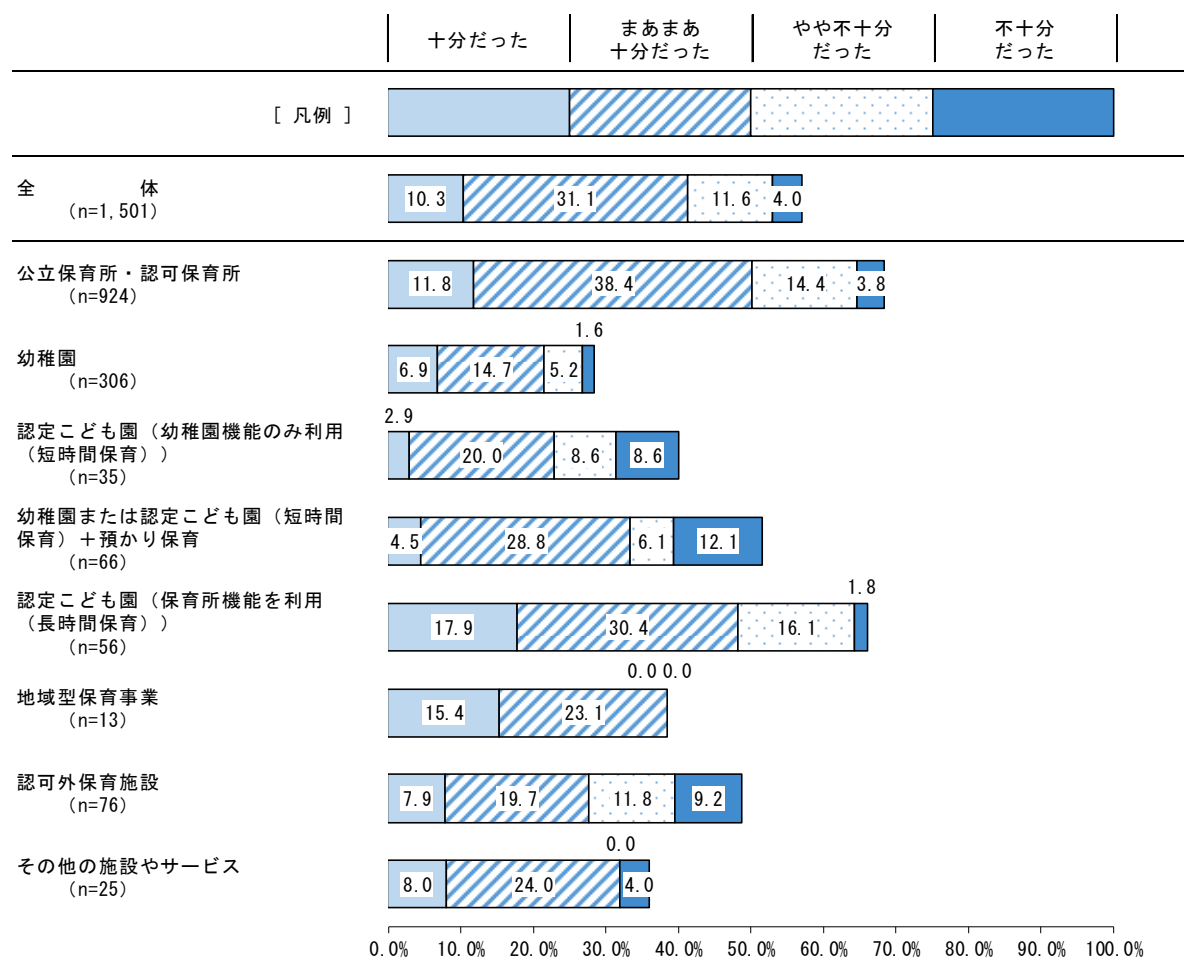
※「活用していない」を除く

「市・区役所発行のガイドブックやリーフレット」を施設利用別にみると、「十分だった」と「まあまあ十分だった」を足し合わせた割合は、『公立保育所・認可保育所』が 50.2%、『認定こども園（保育所機能を利用（長時間保育））』が 48.3%で、全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「十分だった」と「まあまあ十分だった」を足し合わせた割合は『公立保育所・認可保育所』『認定こども園（保育所機能を利用（長時間保育））』で、前回調査に比べて高くなっている。

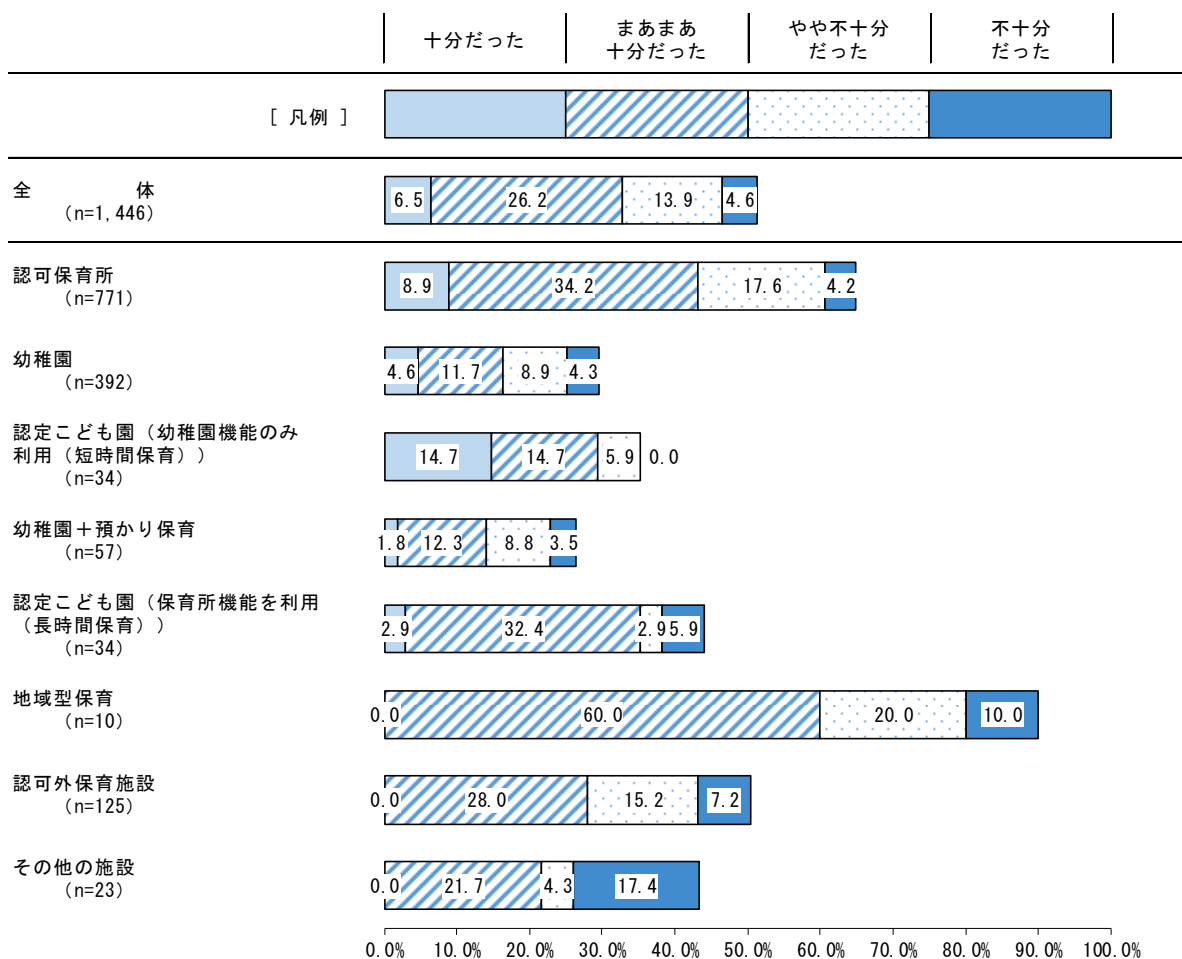
なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 2-170 市・区役所発行のガイドブックやリーフレットの情報について】（利用施設別）



※「活用していない」を除く

＜前回調査＞【図表 2-171 市・区役所発行のガイドブックやリーフレットの情報について】（利用施設別）



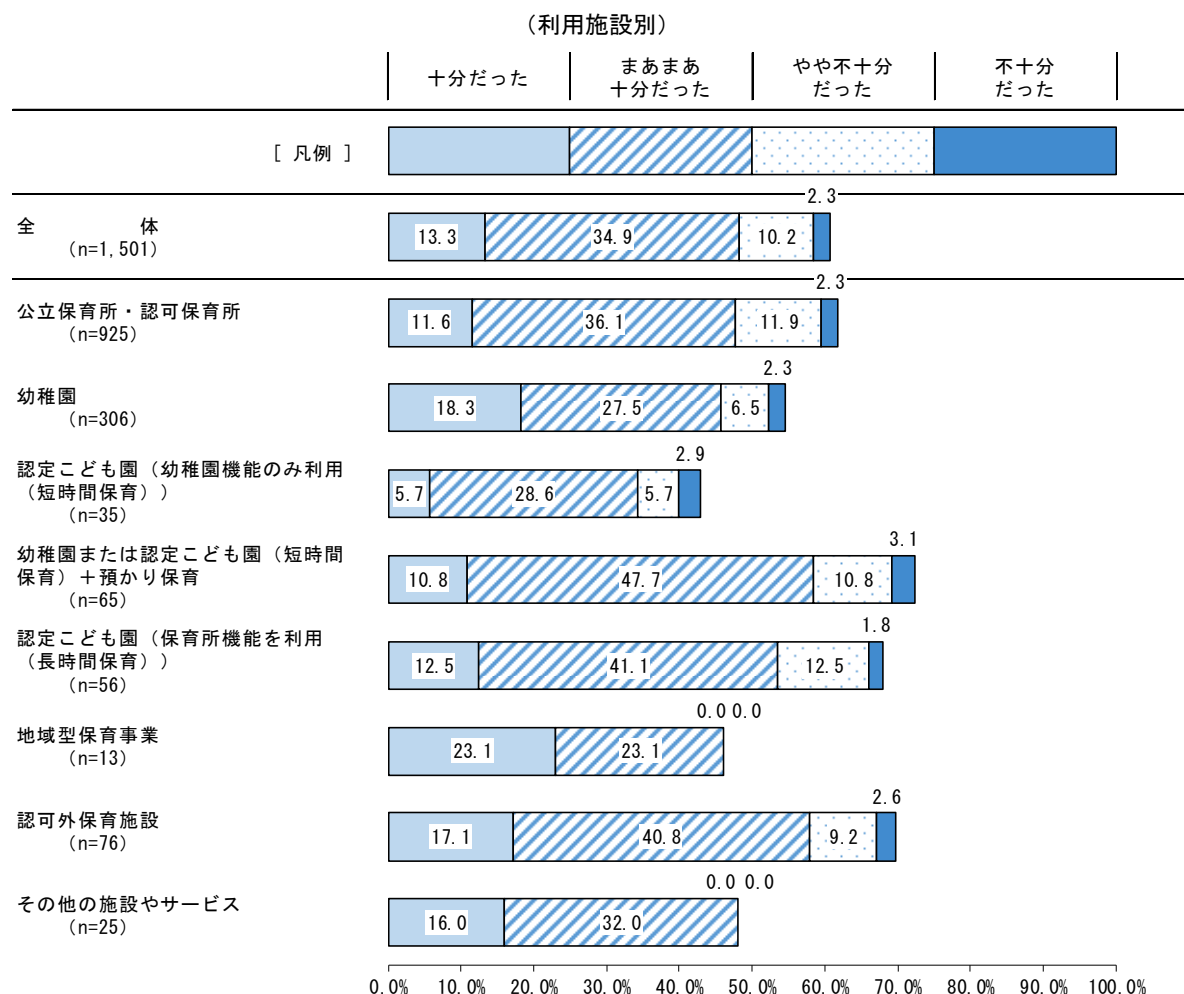
※「活用していない」を除く

「施設または運営団体が作成している案内やリーフレットなど」を施設利用別にみると、「十分だった」と「まあまあ十分だった」を足し合わせた割合は、『幼稚園または認定こども園（短時間保育）＋預かり保育』が 58.5%、『認可外保育施設』が 57.9%と、全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「十分だった」と「まあまあ十分だった」を足し合わせた割合は『公立保育所・認可保育所』『幼稚園または認定こども園（短時間保育）＋預かり保育』『認定こども園（保育所機能を利用（長時間保育））』『認可外保育施設』で、前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

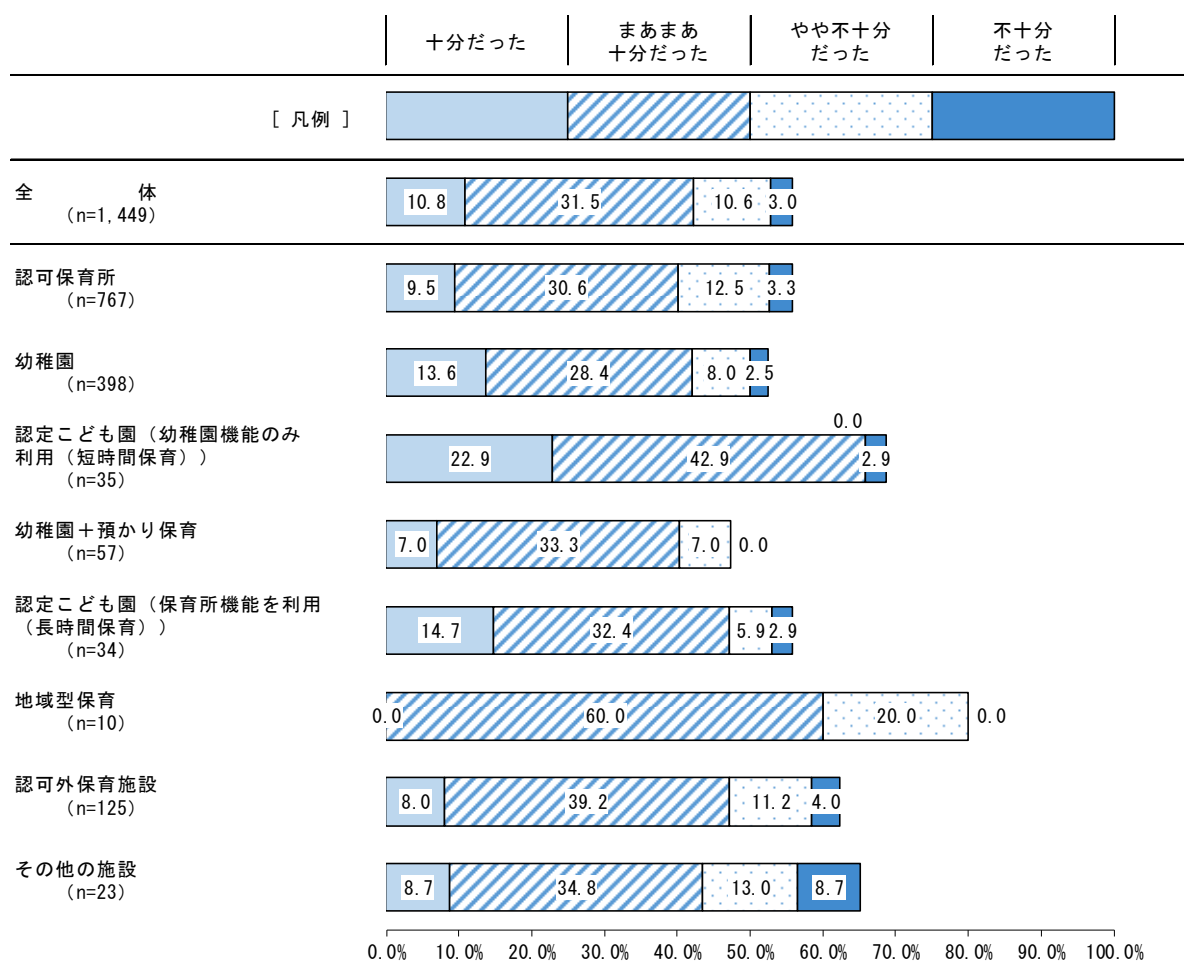
<今回調査>【図表 2-172 施設または運営団体が作成している案内やリーフレットなどの情報について】



※「活用していない」を除く

＜前回調査＞【図表 2-173 施設または運営団体が作成している案内やリーフレットなどの情報について】

(利用施設別)



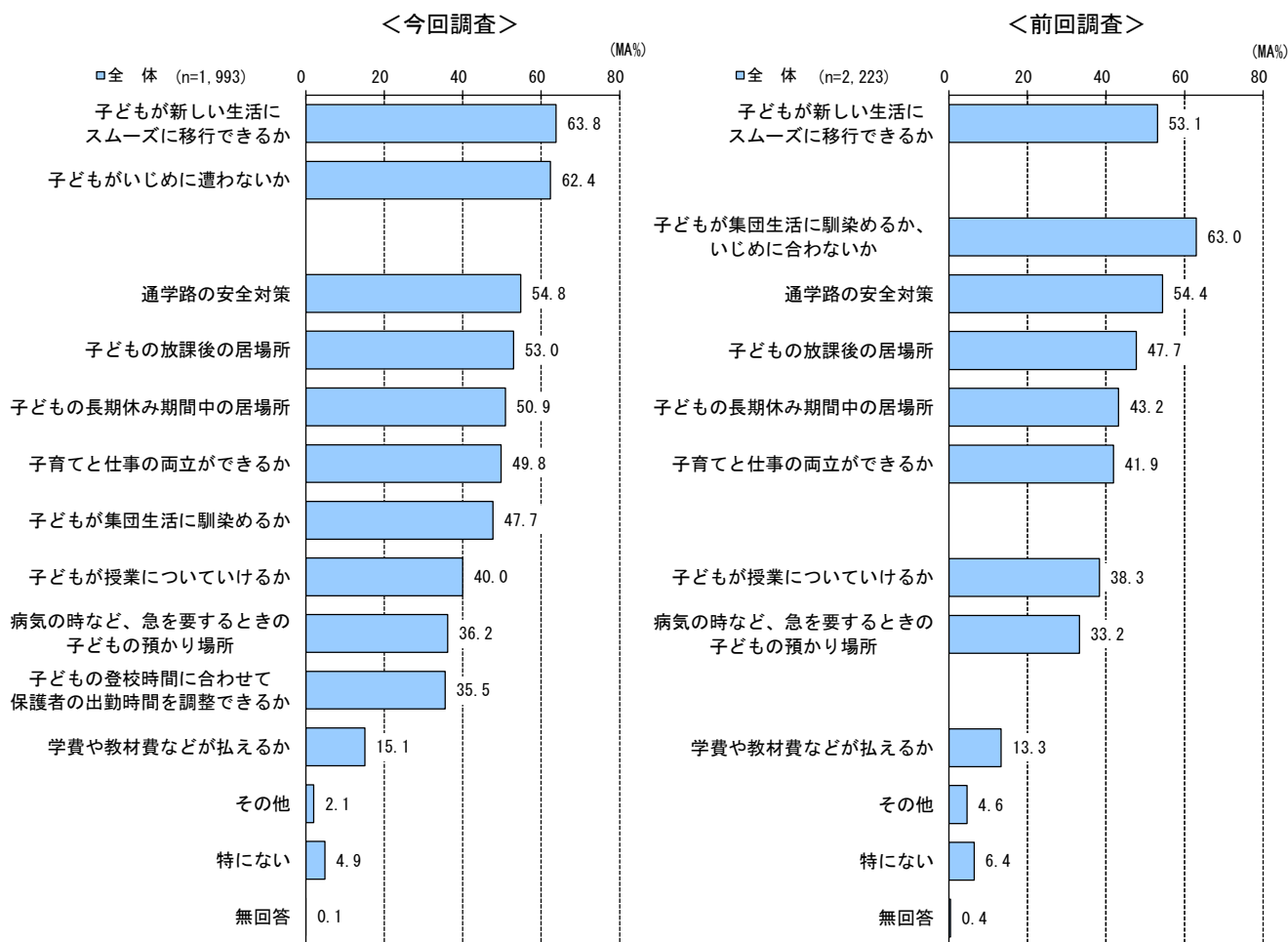
※「活用していない」を除く

ウ 子どもの小学校入学に向けて不安なこと【問8】(MA)

子どもの小学校入学に向けて不安なことを複数回答で聞いたところ、「子どもが新しい生活にスムーズに移行できるか」が63.8%で最も高く、次いで「子どもがいじめに遭わないか」が62.4%、「通学路の安全対策」が54.8%となっている。

経年でみると、「子どもが新しい生活にスムーズに移行できるか」「子どもの長期休み期間中の居場所」「子育てと仕事の両立ができるか」が前回調査に比べて高くなっている。

【図表 2-174 子どもの小学校入学に向けて不安なこと（複数回答）】



世帯構成別にみると、「子どもが授業についていけるか」は『ふたり親親族同居』で 46.8%と、全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、「学費や教材費などが払えるか」が『分類Ⅰ』で 37.3%、『分類Ⅱ』で 31.6%と、全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「子どもが新しい生活にスムーズに移行できるか」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』で、「子どもの放課後の居場所」「子どもの長期休み期間中の居場所」「子育てと仕事の両立ができるか」は『ふたり親核家族』で、それぞれ前回調査に比べて高く、「通学路の安全対策」「病気の時など、急を要するときの子どもの預かり場所」は『ふたり親親族同居』で、前回調査に比べて低くなっている。

所得分類別では、「子どもが新しい生活にスムーズに移行できるか」は『分類Ⅰ』『分類Ⅲ』で、「子どもの長期休み期間中の居場所」は『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』で、「子どもの放課後の居場所」は『分類Ⅱ』で、「子育てと仕事の両立ができるか」は『分類Ⅲ』で、それぞれ前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

<今回・前回調査>【図表 2-175 子どもの小学校入学に向けて不安なこと（複数回答）】

（世帯構成別、所得分類別）

単位：%																		
			母数 (n)	子どもが新しい生活に スムーズに移行できるか	子どもがいじめに 遭わないか	子どもが集団生活に馴染めるか、いじめに合わないか	通学路の安全対策	子どもの放課後の居場所	子どもの長期休み期間中の居場所	子どもが育てと仕事ができるか	子どもが集団生活に馴染めるか	子どもが授かるか	病気の時など、急を要する	子どもが登校時間に合せて保護者の出勤時間を調整できるか	学費や教材費などが払えるか	その他	特 に ない	
今回調査	世帯 構成 所得 分類	全体	1,991	63.9	62.5		54.9	53.0	50.9	49.9	47.7	40.1	36.3	35.5	15.1	2.1	4.9	
		ふたり親核家族	1,860	64.0	63.2		55.1	53.7	51.5	50.5	48.0	39.8	36.5	35.6	14.4	1.9	4.7	
		ふたり親親族同居	77	68.8	58.4		53.2	▼ 37.7	▼ 40.3	▼ 39.0	45.5	△ 46.8	▼ 24.7	▼ 26.0	19.5	5.2	7.8	
		ひとり親核家族	32	▼ 43.8	▼ 40.6		▼ 46.9	56.3	50.0	▼ 40.6	▼ 37.5	43.8	△ 50.0	△ 40.6	△ 40.6	3.1	6.3	
		ひとり親親族同居	14	▼ 57.1	▼ 35.7		50.0	△ 64.3	50.0	△ 57.1	▼ 21.4	▼ 7.1	35.7	△ 50.0	△ 28.6	-	7.1	
		分類Ⅰ	67	59.7	62.7		▼ 43.3	▼ 38.8	▼ 37.3	▼ 38.8	▼ 41.8	40.3	34.3	35.8	△ 37.3	3.0	3.0	
		分類Ⅱ	256	▼ 57.4	58.6		▼ 49.2	▼ 43.8	▼ 40.2	▼ 41.4	44.5	41.0	▼ 29.3	▼ 26.2	△ 31.6	1.2	6.6	
		分類Ⅲ	1,567	65.3	63.4		55.8	55.7	53.8	52.5	48.2	39.4	37.7	37.5	11.2	2.0	4.5	
前回調査	世帯 構成 所得 分類	全体	2,213	53.4		63.3	54.7	47.9	43.4	42.1		38.5	33.4		13.3	4.7	6.4	
		ふたり親核家族	2,022	53.3		63.4	54.6	47.9	43.1	41.9		37.7	33.1			12.2	4.7	6.5
		ふたり親親族同居	58	51.7		65.5	58.6	▼ 39.7	▼ 36.2	41.4		△ 50.0	31.0		△ 20.7	-	5.2	
		ひとり親	64	53.1		64.1	54.7	50.0	△ 48.4	▼ 34.4		△ 45.3	32.8		△ 37.5	6.3	6.3	
		分類Ⅰ	51	▼ 47.1		▼ 56.9	▼ 47.1	47.1	45.1	▼ 35.3		39.2	29.4		△ 33.3	2.0	△ 11.8	
		分類Ⅱ	379	56.2		66.0	55.4	▼ 35.4	▼ 31.4	37.2		△ 45.4	▼ 27.2		△ 25.6	5.0	6.6	
		分類Ⅲ	1,613	52.7		62.9	54.4	50.8	45.6	43.5		36.2	35.0		9.4	4.7	6.3	

※ページ調整のため余白

第 3 章

小学生・中学生の子を持つ保護者に関する調査結果

第1節 保護者（世帯）の属性及び状況

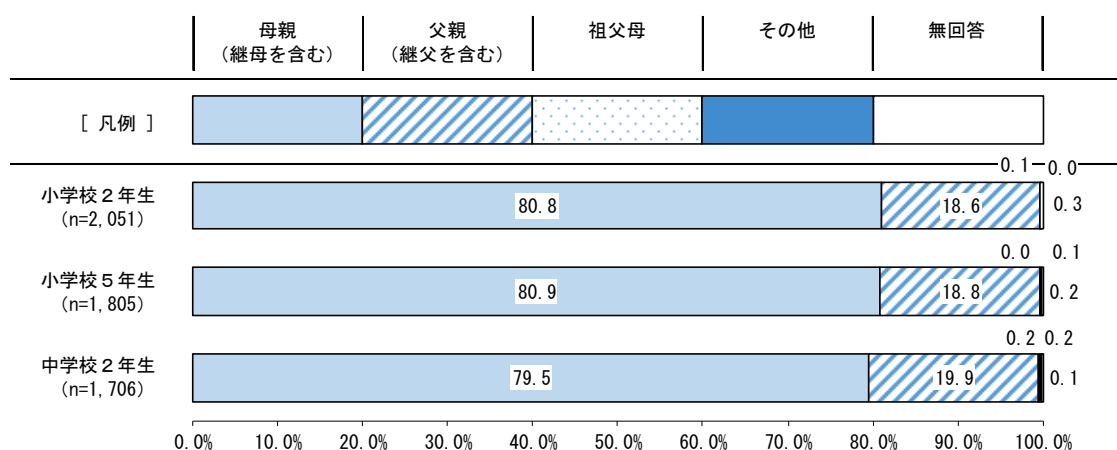
（1）世帯の属性

ア 回答者の属性【問22】（SA）

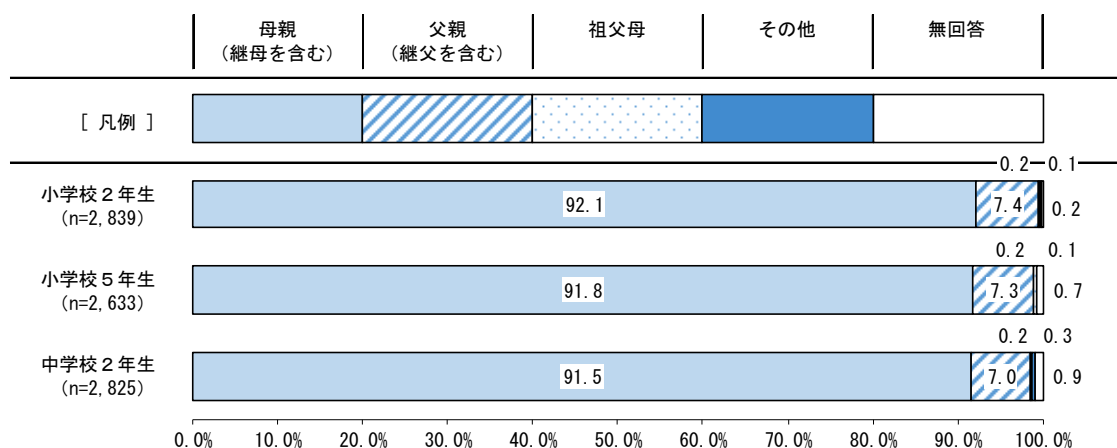
子どもからみた続柄を聞いたところ、いずれの学年でも「母親（継母を含む）」（小学校2年生：80.8%、小学校5年生：80.9%、中学校2年生：79.5%）が最も高くなっている。

経年でみると、いずれの学年でも「父親（継父を含む）」が前回調査に比べて高くなっている。

＜今回調査＞【図表 3-1 回答者の属性】



＜前回調査＞【図表 3-2 回答者の属性】

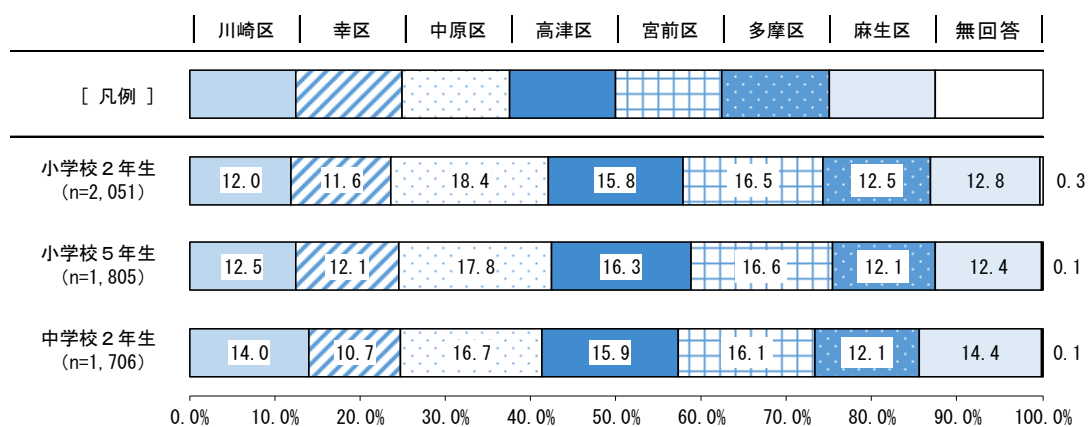


イ 居住区及び居住年数

① 居住区【問 23】(SA)

居住区を聞いたところ、次のとおりとなった。

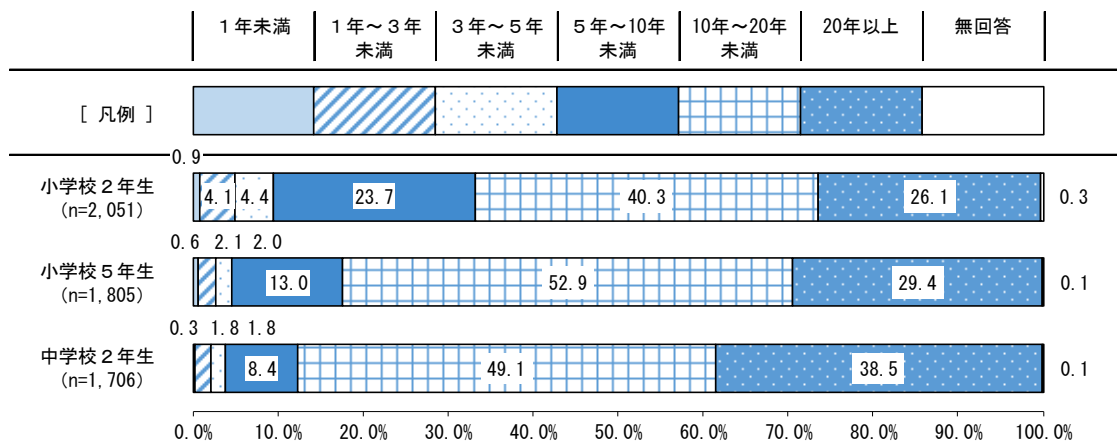
＜今回調査＞【図表 3-3 居住区】



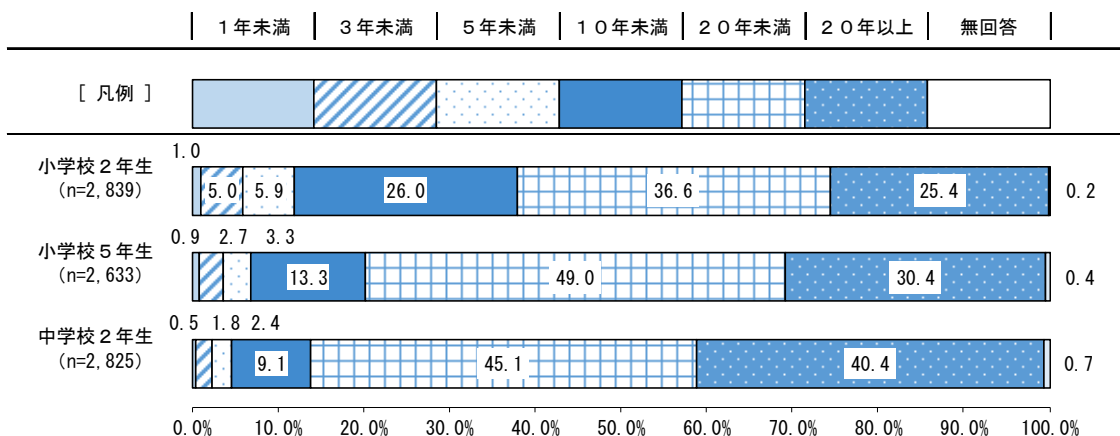
② 居住年数【問 24】（SA）

川崎市の居住年数を聞いたところ、いずれの学年でも「10 年～20 年未満」（小学校 2 年生：40.3%、小学校 5 年生：52.9%、中学校 2 年生：49.1%）が最も高く、次いで「20 年以上」（小学校 2 年生：26.1%、小学校 5 年生：29.4%、中学校 2 年生：38.5%）となっている。経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-4 居住年数】



＜前回調査＞【図表 3-5 居住年数】



ウ 世帯構成

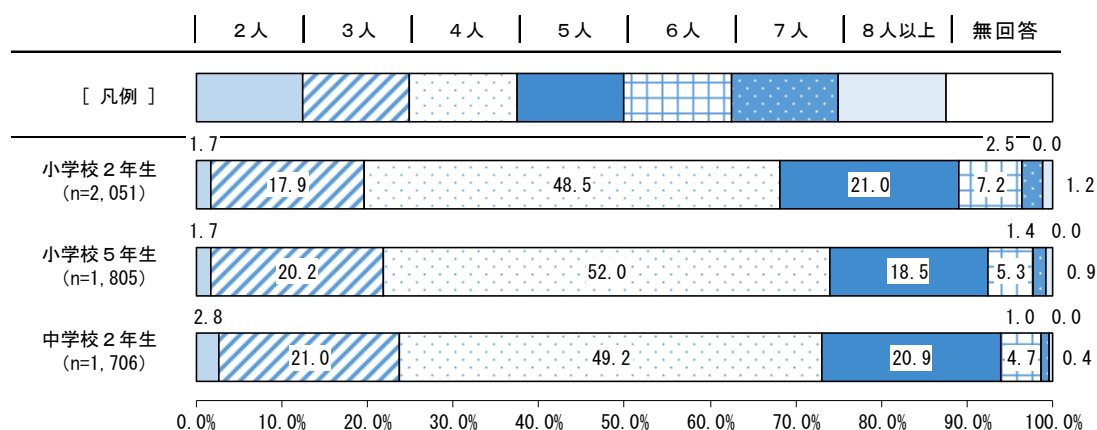
① 世帯人員【問 26】(NA)

世帯人員を聞いたところ、小学校2年生のいる世帯では「4人」が48.5%で最も高く、次いで「5人」が21.0%、「3人」が17.9%となっている。小学校5年生のいる世帯では「4人」が52.0%で最も高く、次いで「3人」が20.2%、「5人」が18.5%となっている。中学校2年生のいる世帯では「4人」が49.2%で最も高く、次いで「3人」が21.0%、「5人」が20.9%となっている。

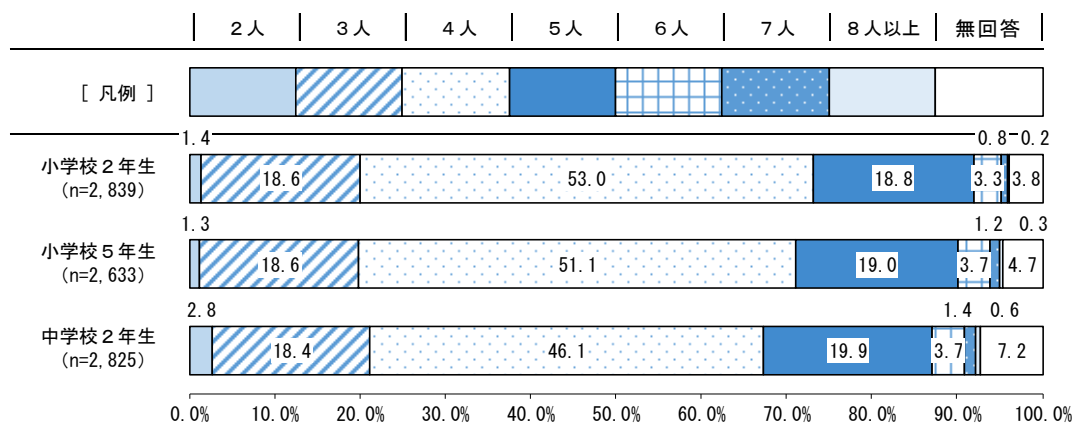
経年でみると、大きな差はみられない。

なお、前回調査は設問内容が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 3-6 世帯人員】



<前回調査>【図表 3-7 世帯人員】

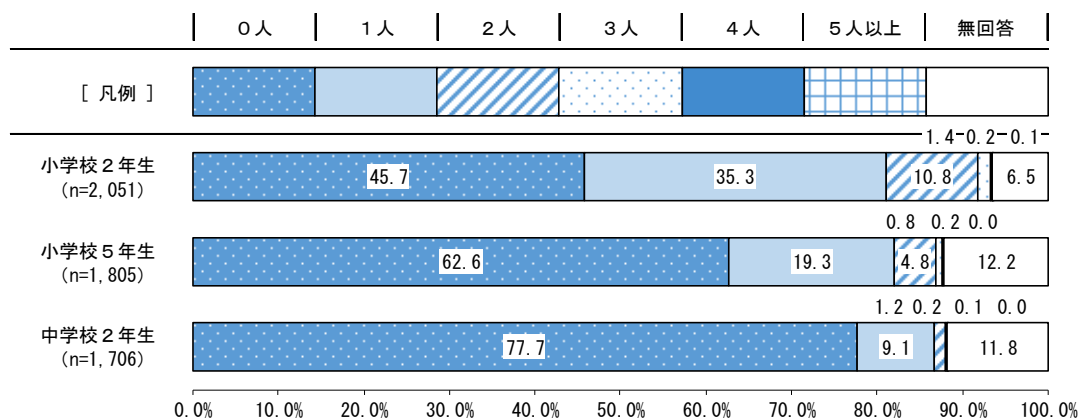


そのうち小学生未満の子どもの人数を聞いたところ、いずれの学年でも「0人」（小学校2年生：45.7%、小学校5年生：62.6%、中学校2年生：77.7%）が最も高く、次いで「1人」（小学校2年生：35.3%、小学校5年生：19.3%、中学校2年生：9.1%）、「2人」（小学校2年生：10.8%、小学校5年生：4.8%、中学校2年生：1.2%）となっている。

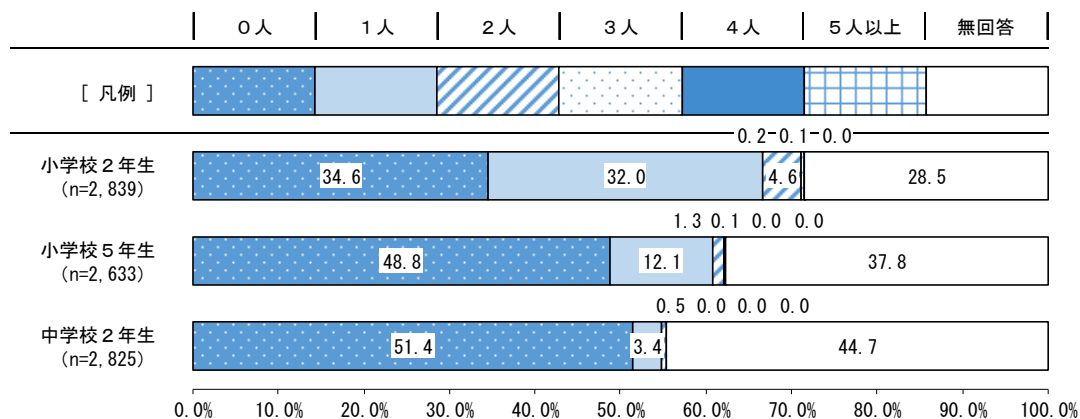
経年でみると、「0人」はいずれの学年でも前回調査に比べて高く、「1人」は小学校5年生のいる世帯と中学校2年生のいる世帯で前回調査に比べて高くなっている。「2人」は小学校2年生のいる世帯で前回調査に比べて高くなっている。

なお、前回調査は設問内容が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-8 小学生未満の子どもの人数】



＜前回調査＞【図表 3-9 0～5歳の子どもの人数】

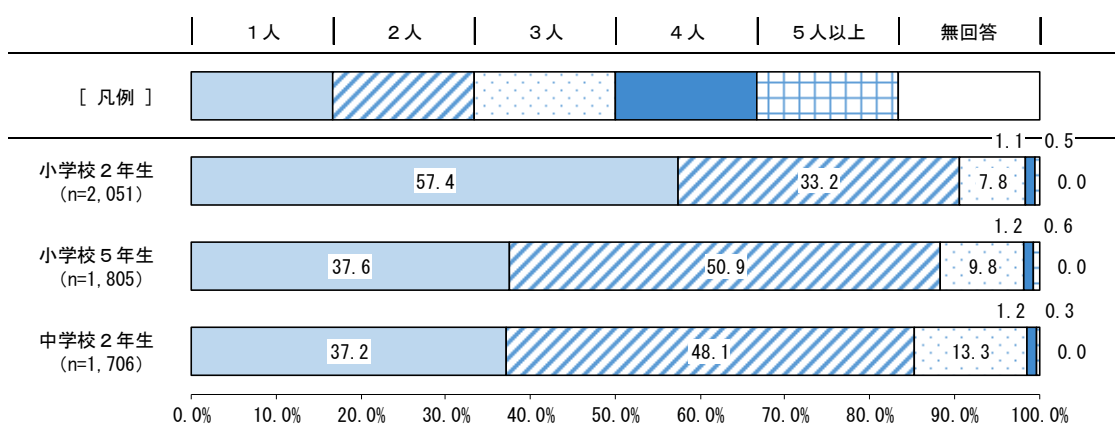


小学生以上の子どもの人数を聞いたところ、小学校2年生のいる世帯では「1人」が57.4%で最も高く、次いで「2人」が33.2%、「3人」が7.8%となっている。小学校5年生のいる世帯では「2人」が50.9%で最も高く、次いで「1人」が37.6%、「3人」が9.8%となっている。中学校2年生のいる世帯では「2人」が48.1%で最も高く、次いで「1人」が37.2%、「3人」が13.3%となっている。

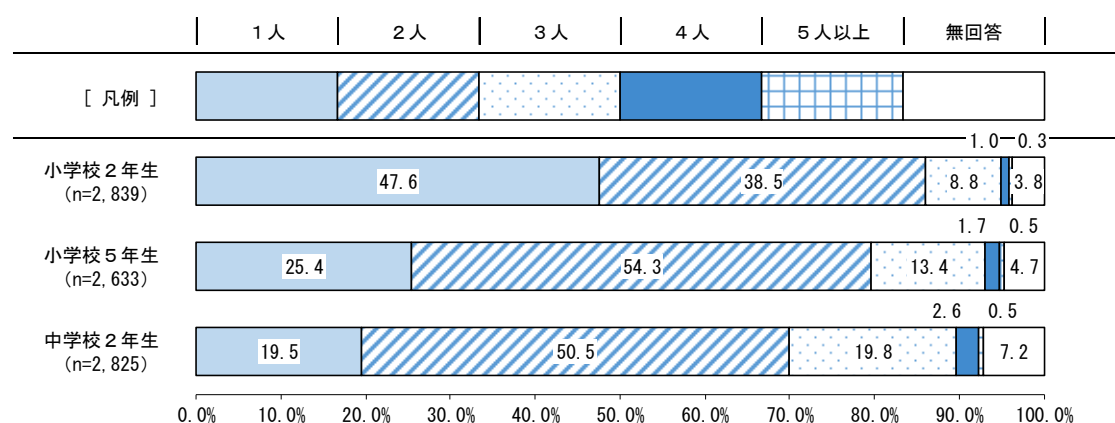
経年でみると、「1人」はいずれの学年でも前回調査に比べて高くなっている。「2人」は小学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて低くなっている。「3人」は中学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は設問内容が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 3-10 小学生以上18歳未満の子ども的人数】



<前回調査>【図表 3-11 6歳以上の子ども的人数】

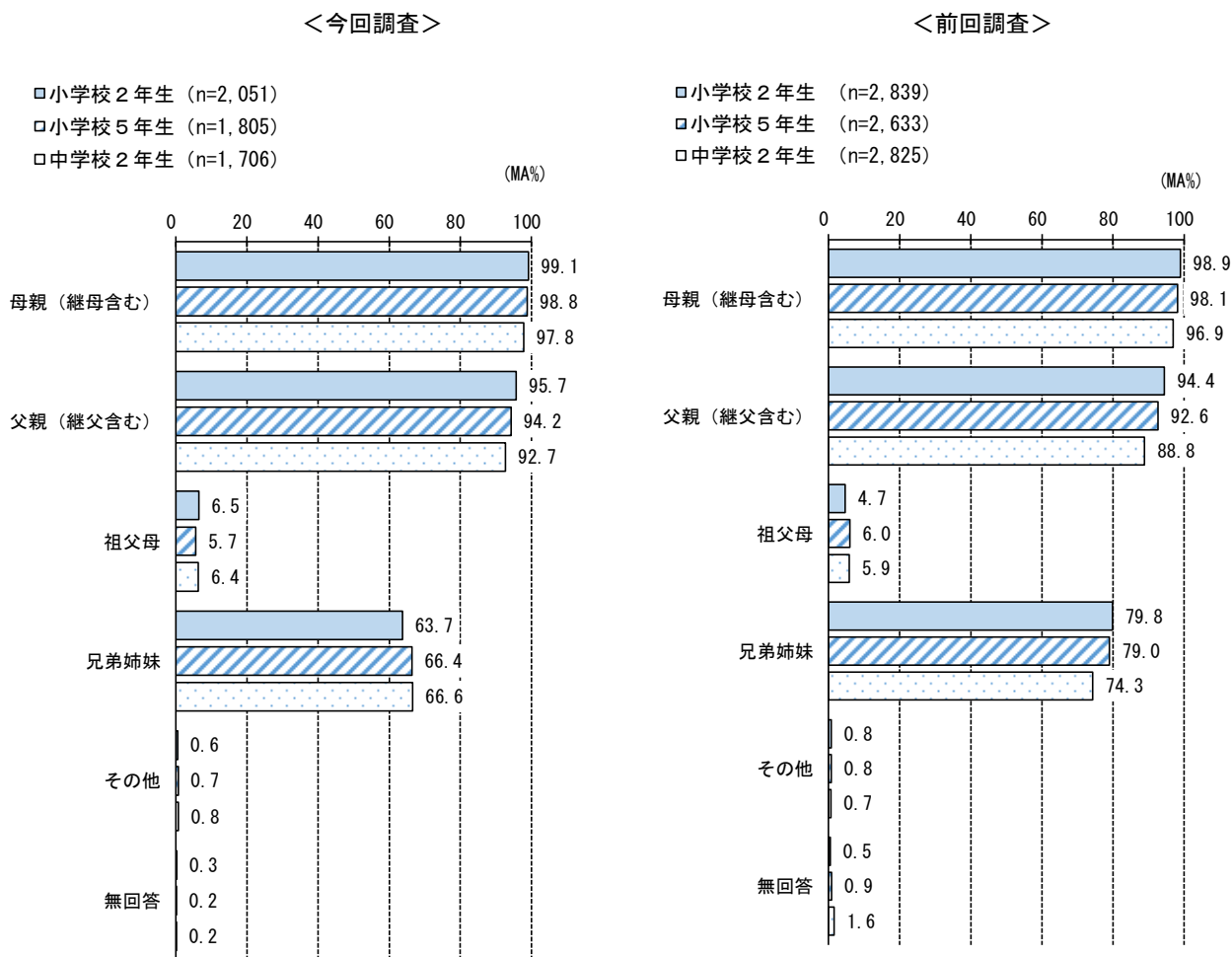


② 続柄【問 27】 (MA)

世帯人員で回答した世帯全員の続柄を複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「母親（継母含む）」（小学校2年生：99.1%、小学校5年生：98.8%、中学校2年生：97.8%）が最も高く、次いで「父親（継父含む）」（小学校2年生：95.7%、小学校5年生：94.2%、中学校2年生：92.7%）、「兄弟姉妹」（小学校2年生：63.7%、小学校5年生：66.4%、中学校2年生：66.6%）となっている。

経年でみると、いずれの学年でも「兄弟姉妹」が前回調査に比べて低くなっている。

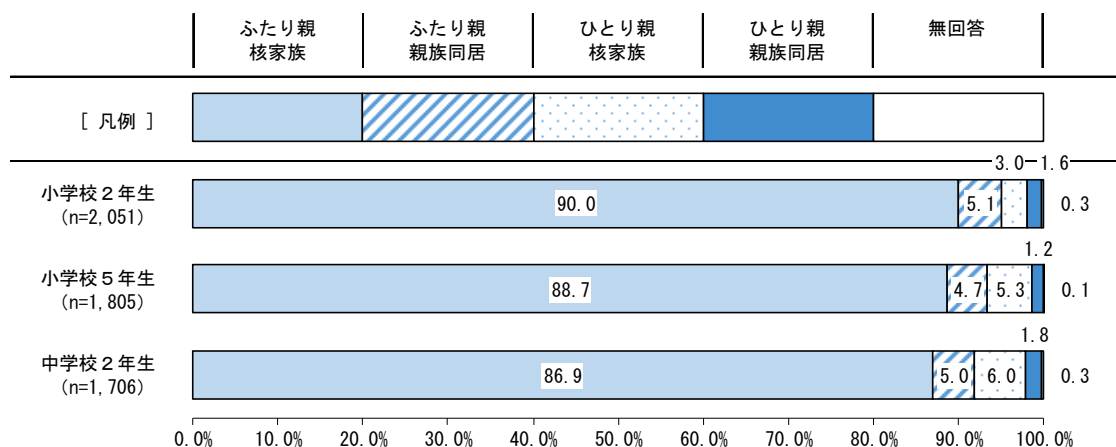
【図表 3-12 続柄（複数回答）】



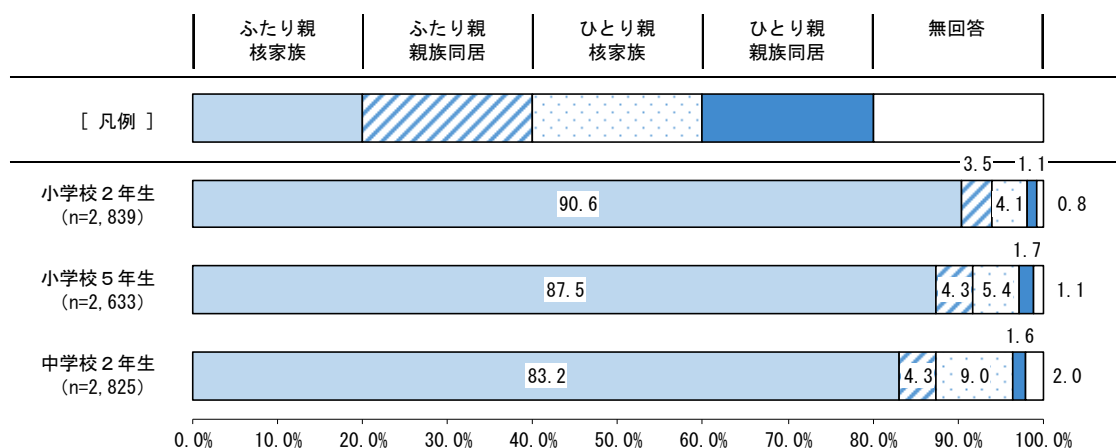
また、世帯全員の続柄の回答から、世帯構成を「ふたり親核家族」、「ふたり親親族同居」、「ひとり親核家族」、「ひとり親親族同居」、「無回答」の5つに分類した。その結果、いずれの学年でも「ふたり親核家族」（小学校2年生：90.0%、小学校5年生：88.7%、中学校2年生：86.9%）が最も高くなっている。なお、「親族同居」については、「祖父母」や「その他」で「(子どもの) 叔父や叔母」と回答した世帯を分類している。

経年でみると、大きな差はみられない。

<今回調査>【図表 3-13 世帯構成】



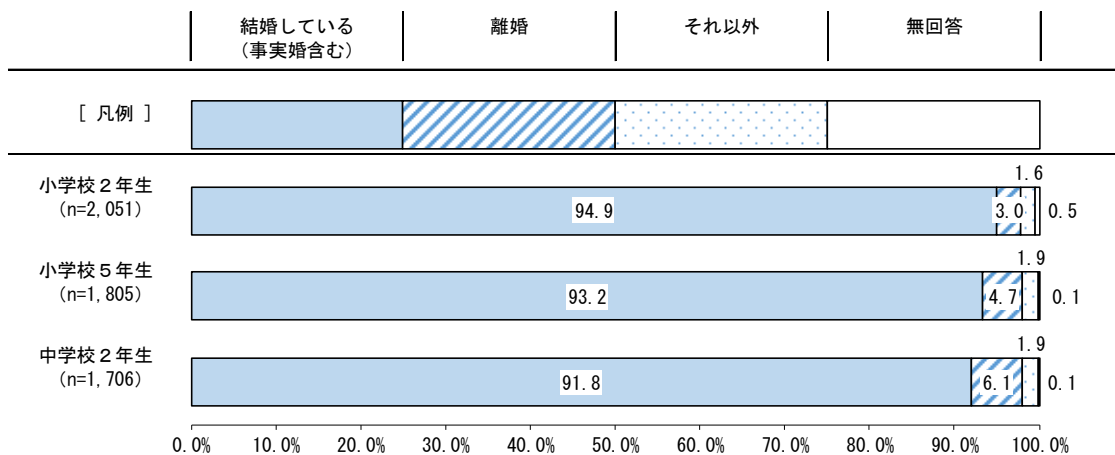
<前回調査>【図表 3-14 世帯構成】



③ 婚姻状況【問 25】(SA)

保護者の婚姻状況を聞いたところ、いずれの学年でも「結婚している（事実婚含む）」（小学校2年生：94.9%、小学校5年生：93.2%、中学校2年生：91.8%）が最も高くなっている。経年でみると、大きな差はみられない。

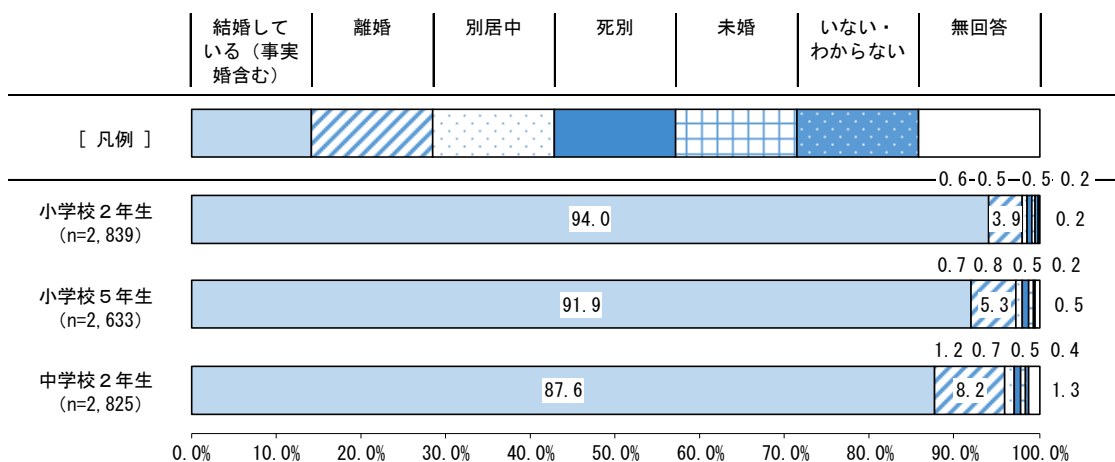
＜今回調査＞【図表 3-15 婚姻状況】



＜今回調査＞【図表 3-16 婚姻状況「それ以外」の内訳】

	n	別居中	死別	未婚	いない・わからない
小学校2年生	2,051	11 (0.5%)	4 (0.2%)	11 (0.5%)	8 (0.4%)
小学校5年生	1,805	20 (1.1%)	8 (0.4%)	5 (0.3%)	2 (0.1%)
中学校2年生	1,706	9 (0.5%)	11 (0.6%)	9 (0.5%)	5 (0.3%)

＜前回調査＞【図表 3-17 婚姻状況】

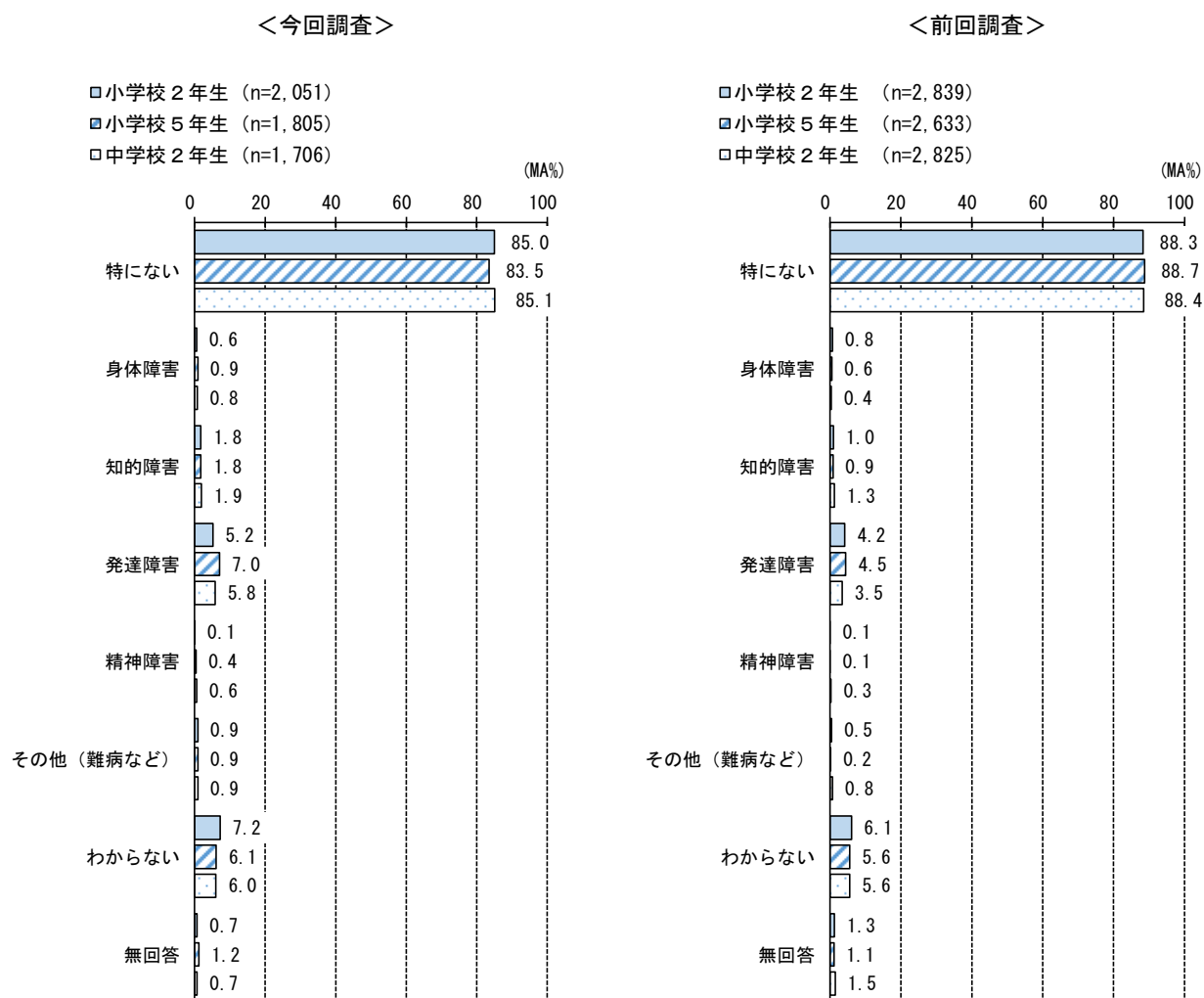


(2) 世帯の状況

ア 調査対象となる子どもの障害の有無と種類【問20】(MA)

子どもの障害の有無と種類を複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「特にない」(小学校2年生:85.0%、小学校5年生:83.5%、中学校2年生:85.1%)が最も高くなっている。経年でみると、小学校5年生では「特にない」が前回調査に比べて低くなっている。

【図表 3-18 調査対象となる子どもの障害の有無と種類(複数回答)】



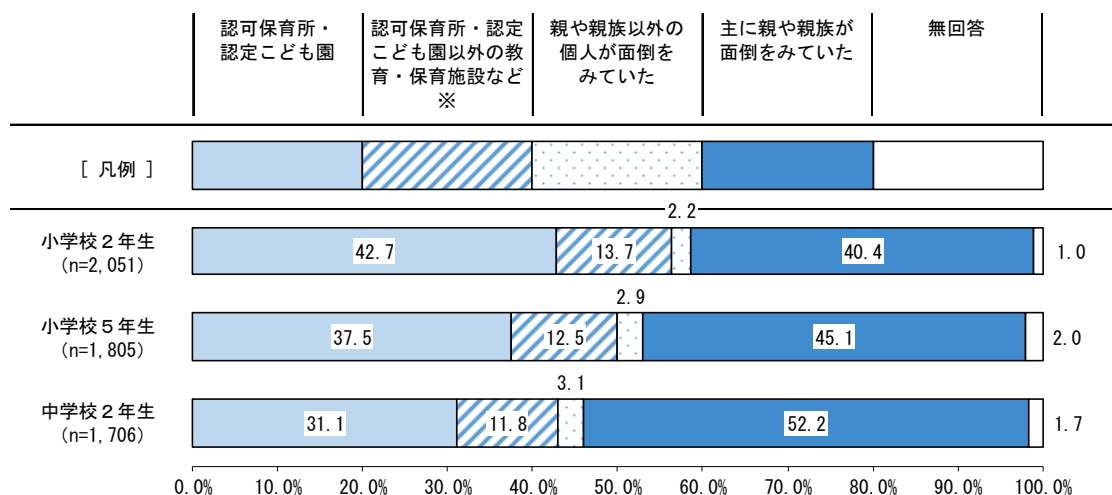
イ 調査対象となる子どもの未就学児期の日中の過ごし方【問21】（SA）

① 0～2歳

子どもが最も長く通っていた教育・保育施設等を聞いたところ、0～2歳の間では、「認可保育所・認定こども園」（小学校2年生：42.7%、小学校5年生：37.5%、中学校2年生：31.1%）は学年が低くなるにつれ割合が高くなっており、「主に親や親族が面倒をみていた」（小学校2年生：40.4%、小学校5年生：45.1%、中学校2年生：52.2%）は学年が高くなるにつれ割合が高くなっている。

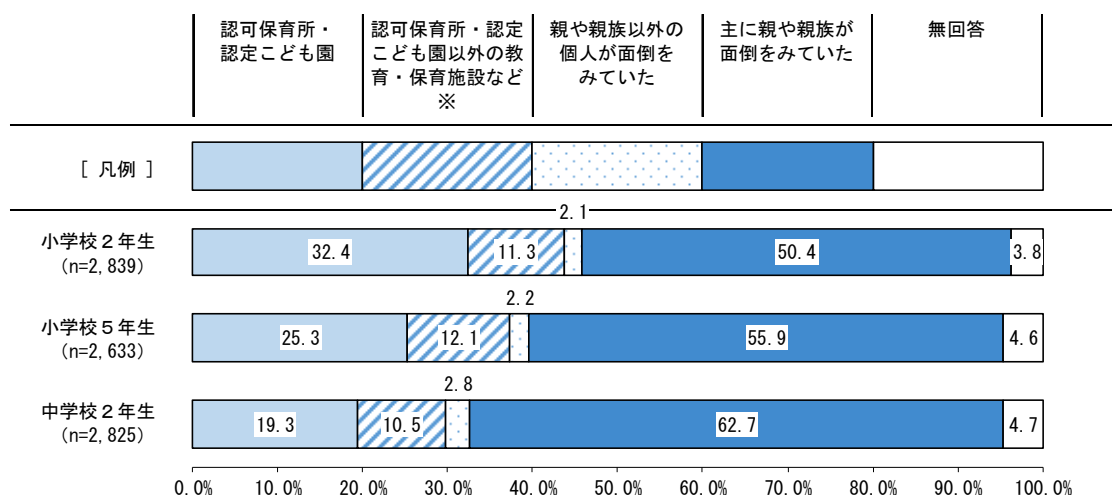
経年でみると、いずれの学年でも「認可保育所・認定こども園」が前回調査に比べて高く、「主に親や親族が面倒をみていた」が前回調査に比べて低くなっている。

＜今回調査＞【図表 3-19 調査対象となる子どもの未就学児期の日中の過ごし方（0～2歳）】



※幼稚園、川崎認定保育園、おなかま保育室など

＜前回調査＞【図表 3-20 調査対象となる子どもの未就学児期の日中の過ごし方（0～2歳）】



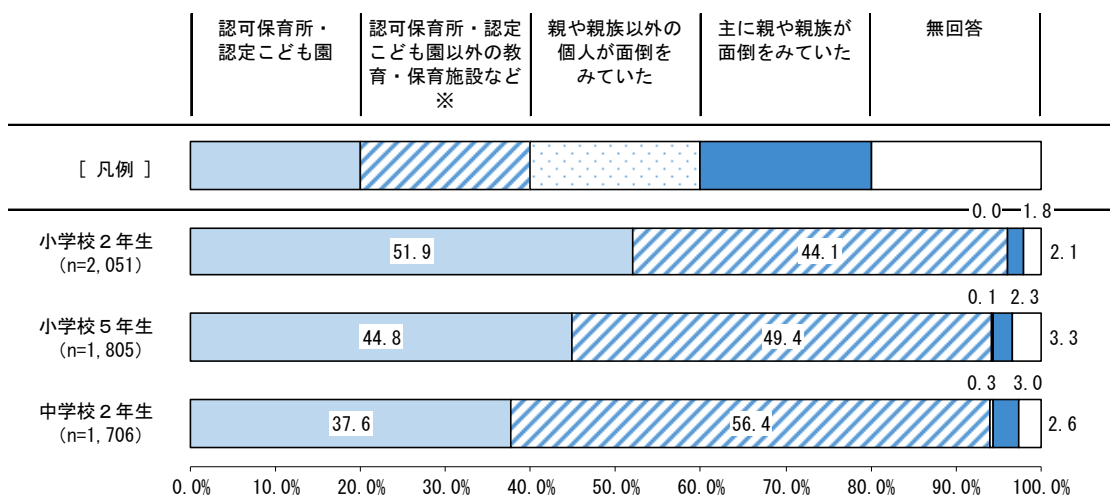
※幼稚園、川崎認定保育園、おなかま保育室など

② 3～5歳

3～5歳の間では、「認可保育所・認定こども園」（小学校2年生：51.9%、小学校5年生：44.8%、中学校2年生：37.6%）は学年が低くなるにつれ割合が高くなっており、「認可保育所・認定こども園以外の教育・保育施設など」（小学校2年生：44.1%、小学校5年生：49.4%、中学校2年生：56.4%）は学年が高くなるにつれ割合が高くなっている。

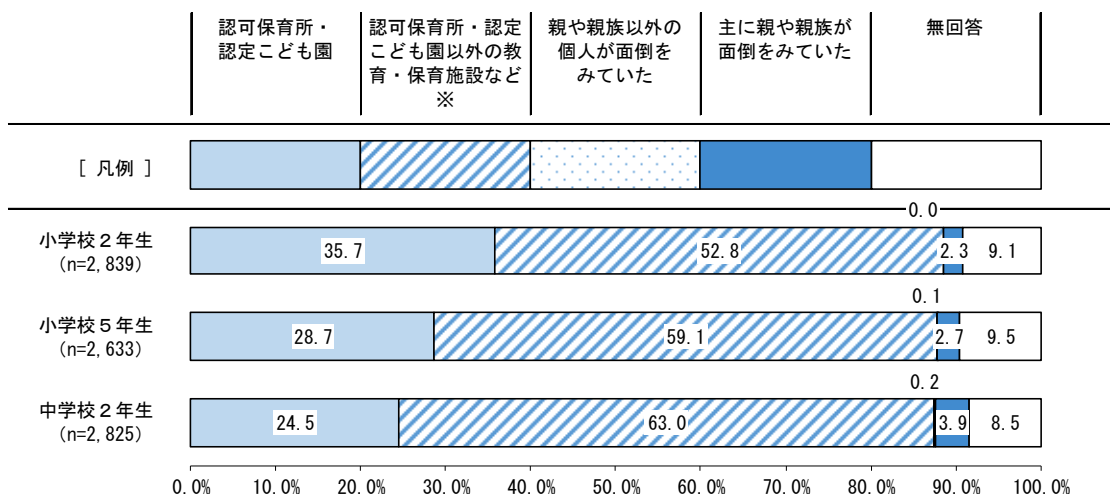
経年でみると、いずれの学年でも「認可保育所・認定こども園」が前回調査に比べて高く、「認可保育所・認定こども園以外の教育・保育施設など」が前回調査に比べて低くなっている。

<今回調査>【図表 3-21 調査対象となる子どもの未就学児期の日中の過ごし方（3～5歳）】



※幼稚園、川崎認定保育園、おなかま保育室など

<前回調査>【図表 3-22 調査対象となる子どもの未就学児期の日中の過ごし方（3～5歳）】



※幼稚園、川崎認定保育園、おなかま保育室など

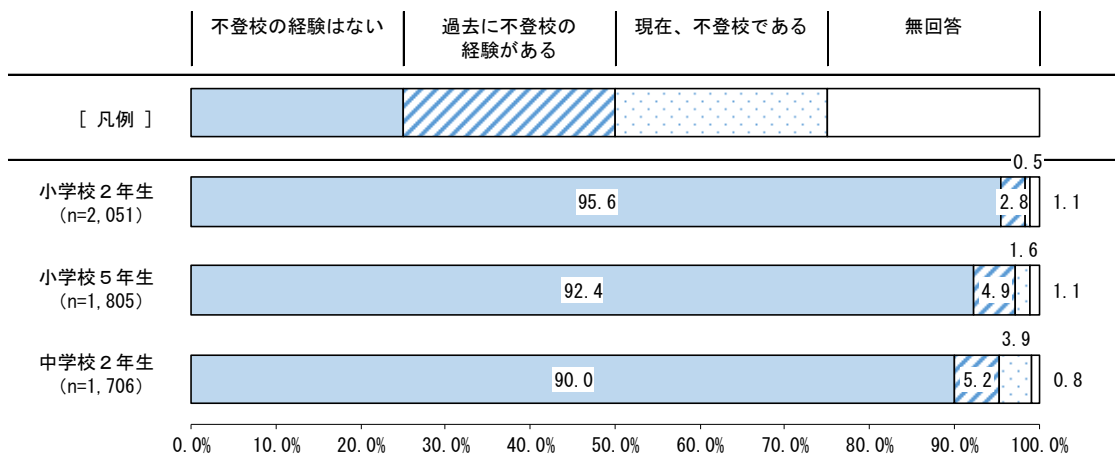
※ページ調整のため余白

ウ 調査対象となる子どもの不登校経験【問4】(SA)

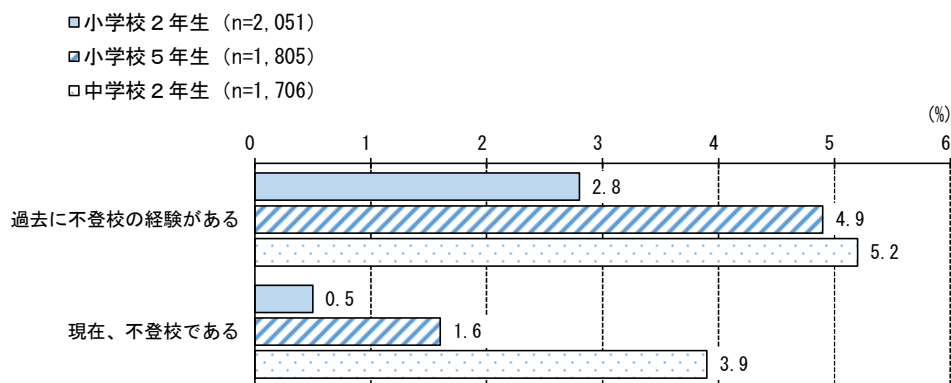
子どもの不登校の経験の有無を聞いたところ、いずれの学年でも「不登校の経験はない」(小学校2年生:95.6%、小学校5年生:92.4%、中学校2年生:90.0%)が最も高くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

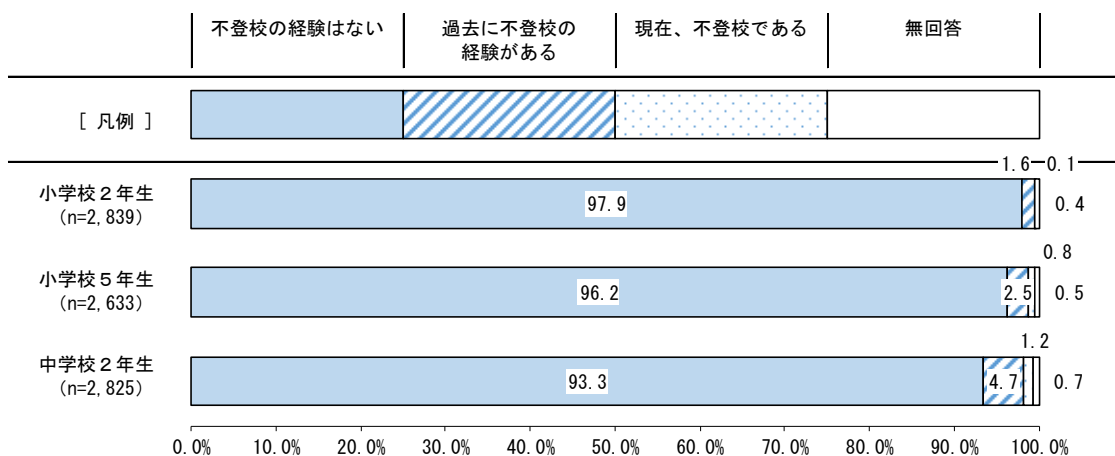
＜今回調査＞【図表 3-23 調査対象となる子どもの不登校経験】



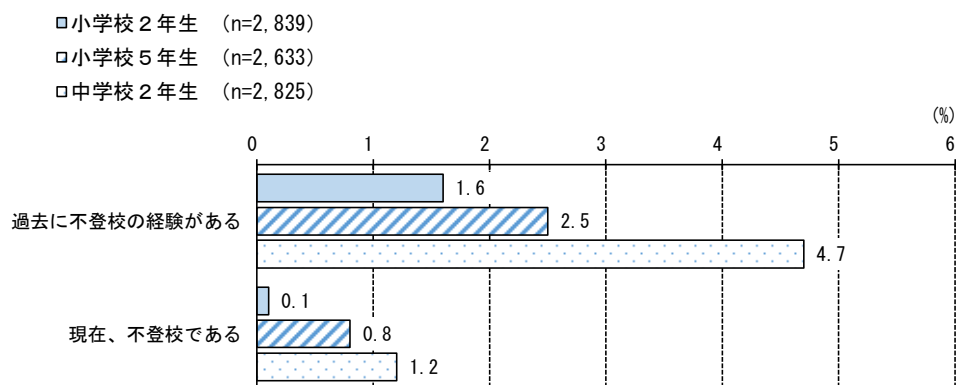
＜今回調査＞【図表 3-24 調査対象となる子どもの不登校経験（経験ありのみ抜粋）】



＜前回調査＞【図表 3-25 調査対象となる子どもの不登校経験】



＜前回調査＞【図表 3-26 調査対象となる子どもの不登校経験（経験ありのみ抜粋）】



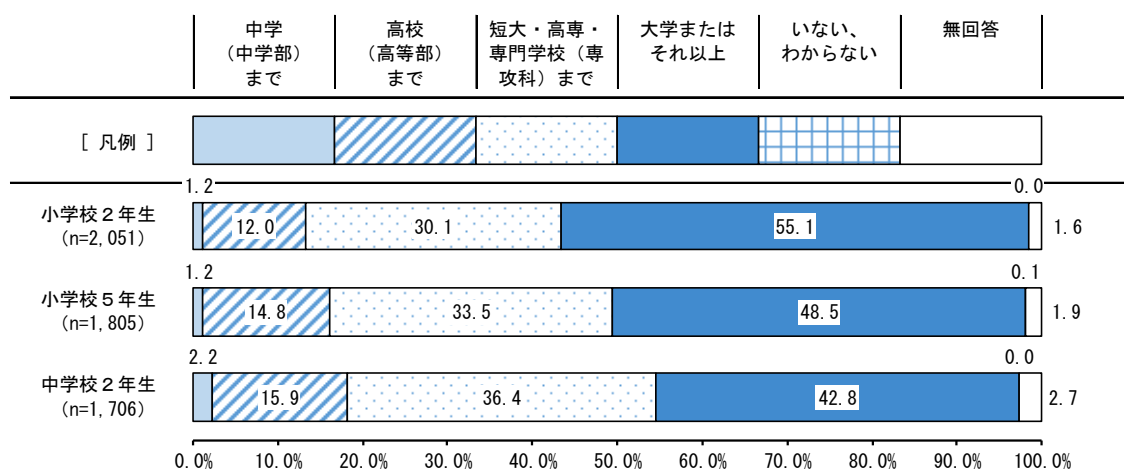
(3) 保護者の最終学歴・就労状況

ア 保護者の最終学歴【問28】(SA)

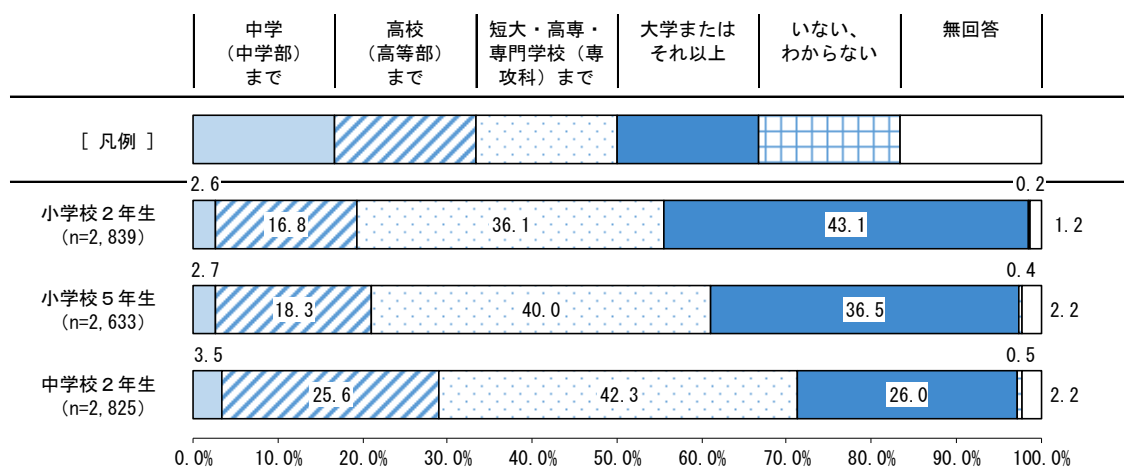
母親の最終学歴を聞いたところ、いずれの学年でも「大学またはそれ以上」(小学校2年生:55.1%、小学校5年生:48.5%、中学校2年生:42.8%)が最も高く、次いで「短大・高専・専門学校(専攻科)まで」(小学校2年生:30.1%、小学校5年生:33.5%、中学校2年生:36.4%)、「高校(高等部)まで」(小学校2年生:12.0%、小学校5年生:14.8%、中学校2年生:15.9%)となっている。

経年でみると、いずれの学年でも「大学またはそれ以上」が前回調査に比べて高く、「短大・高専・専門学校(専攻科)まで」が前回調査に比べて低くなっている。また、中学校2年生のいる世帯では「高校(高等部)まで」が前回調査に比べて低くなっている。

<今回調査>【図表 3-27 母親の最終学歴】



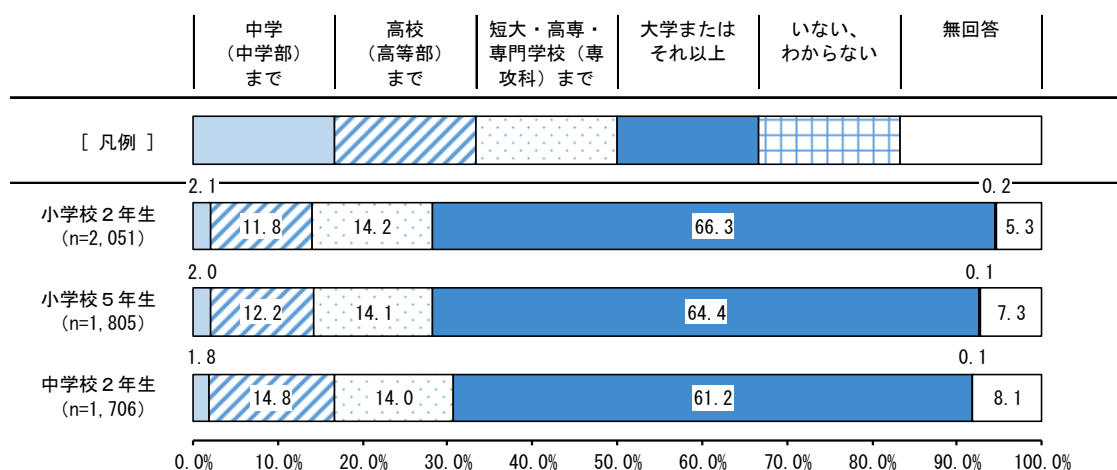
<前回調査>【図表 3-28 母親の最終学歴】



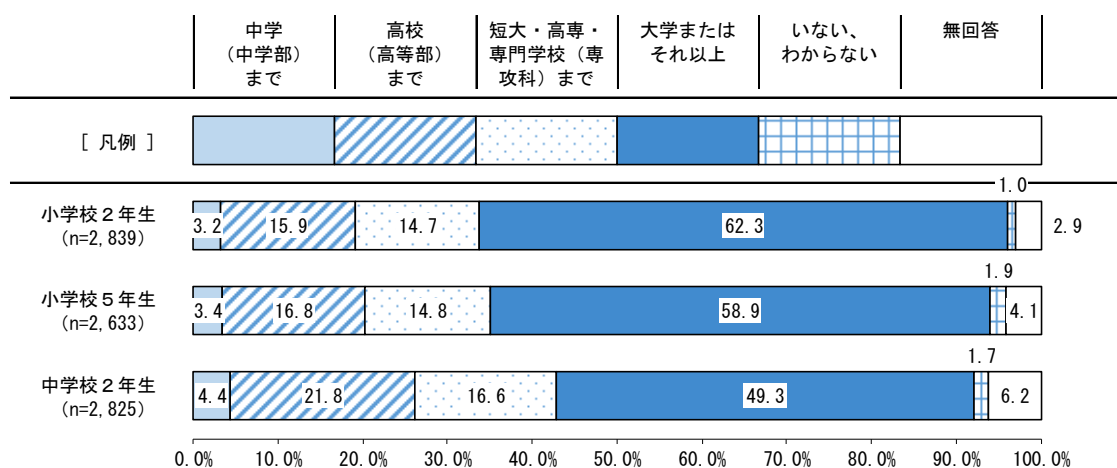
父親の最終学歴を聞いたところ、いずれの学年でも「大学またはそれ以上」（小学校2年生：66.3%、小学校5年生：64.4%、中学校2年生：61.2%）が最も高く、次いで小学校2年生のいる世帯と小学校5年生のいる世帯では「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」（小学校2年生：14.2%、小学校5年生：14.1%）、「高校（高等部）まで」（小学校2年生：11.8%、小学校5年生：12.2%）となっており、中学校2年生のいる世帯では「高校（高等部）まで」が14.8%、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」が14.0%となっている。

経年でみると、「大学またはそれ以上」は小学校5年生、中学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて高くなっている。また、中学校2年生のいる世帯では「高校（高等部）まで」が前回調査に比べて低くなっている。

＜今回調査＞【図表 3-29 父親の最終学歴】



＜前回調査＞【図表 3-30 父親の最終学歴】

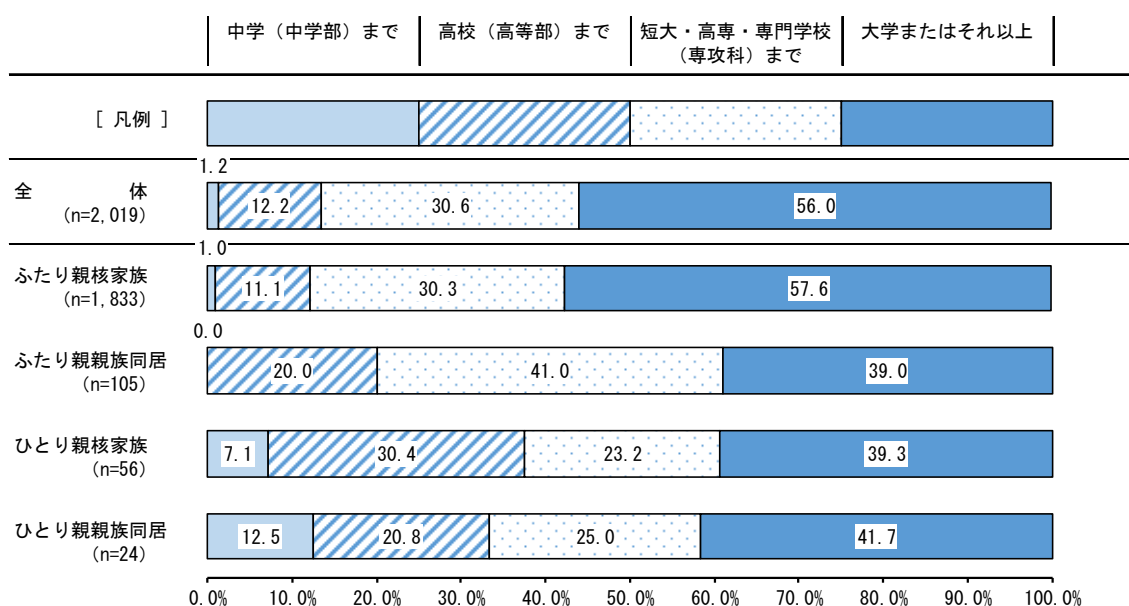


小学校2年生のいる世帯の母親の最終学歴を世帯構成別にみると、「中学（中学部）まで」は『ひとり親核家族』が7.1%と全体に比べて高く、「高校（高等部）まで」は『ふたり親親族同居』が20.0%、『ひとり親核家族』が30.4%と全体に比べて高くなっている。「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」は『ふたり親親族同居』が41.0%と全体に比べて高く、『ひとり親核家族』が23.2%と全体に比べて低くなっている。一方、「大学またはそれ以上」は『ふたり親親族同居』が39.0%、『ひとり親核家族』が39.3%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「中学（中学部）まで」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「高校（高等部）まで」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」は『ふたり親核家族』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。一方、「大学またはそれ以上」はいずれの世帯構成でも前回調査に比べて高くなっている。

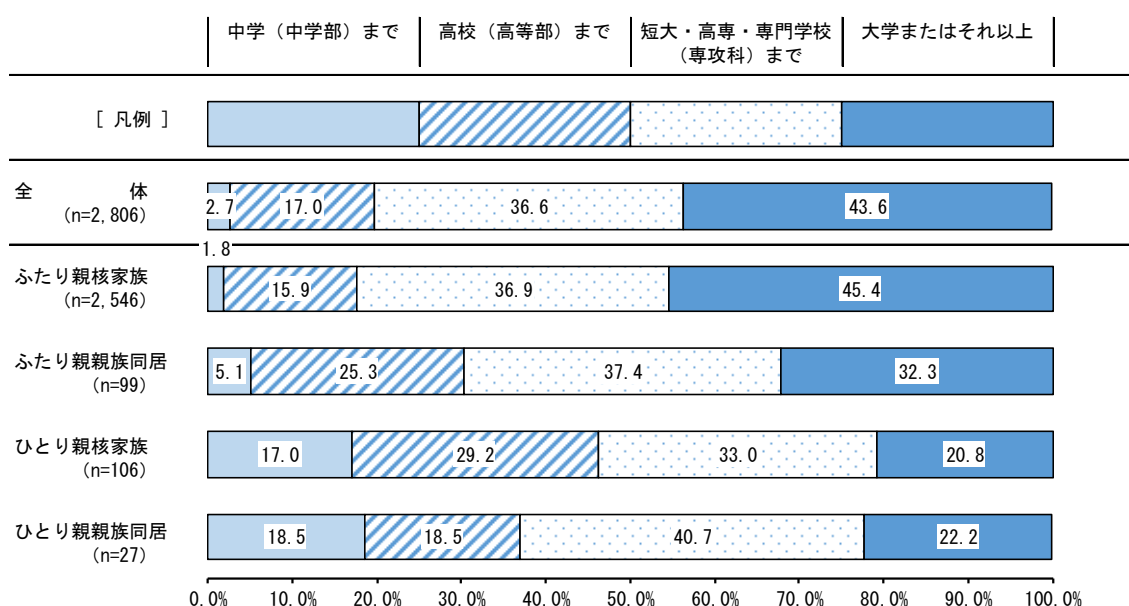
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-31 母親の最終学歴】（小学校2年生・世帯構成別）



※「いない、わからない」を除く

<前回調査>【図表 3-32 母親の最終学歴】（小学校2年生・世帯構成別）



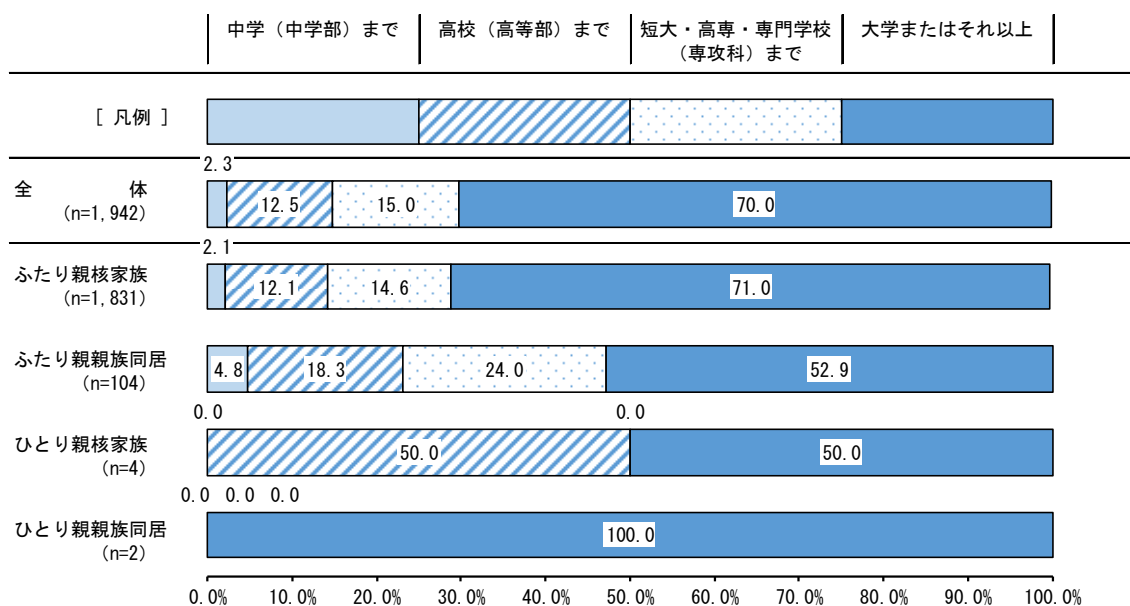
※「いない、わからない」を除く

小学校2年生のいる世帯の父親の最終学歴を世帯構成別にみると、『ふたり親親族同居』では「高校（高等部）まで」が18.3%と全体に比べて高く、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」が24.0%と全体に比べて高く、「大学またはそれ以上」が52.9%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、『ふたり親親族同居』では「高校（高等部）まで」が前回調査に比べて低く、「大学またはそれ以上」が前回調査に比べて高くなっている。

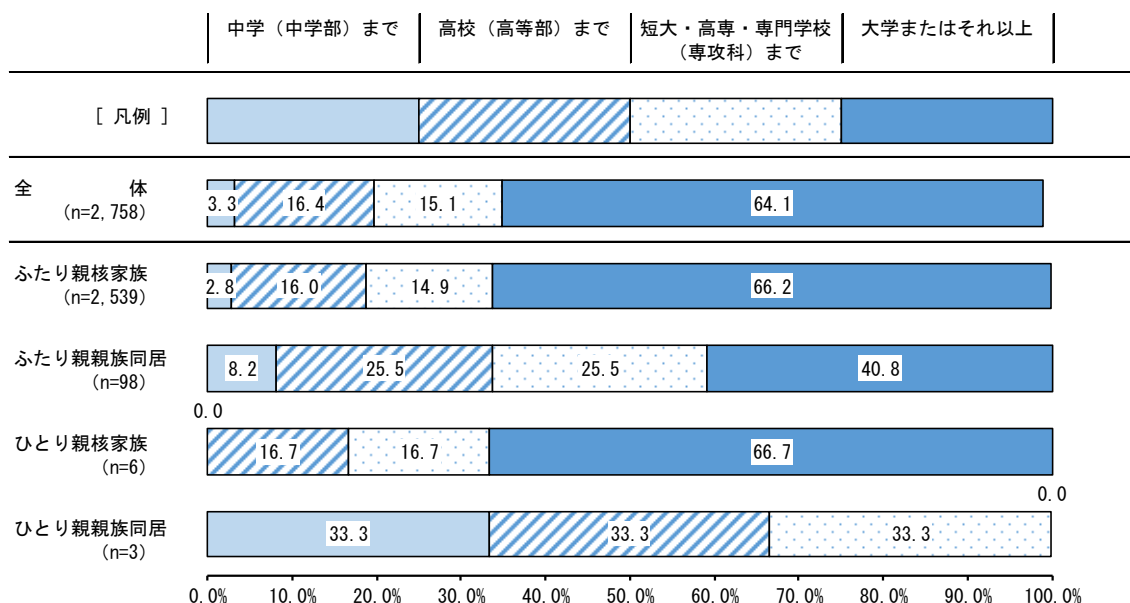
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-33 父親の最終学歴】（小学校2年生・世帯構成別）



※「いない、わからない」を除く

<前回調査>【図表 3-34 父親の最終学歴】（小学校2年生・世帯構成別）



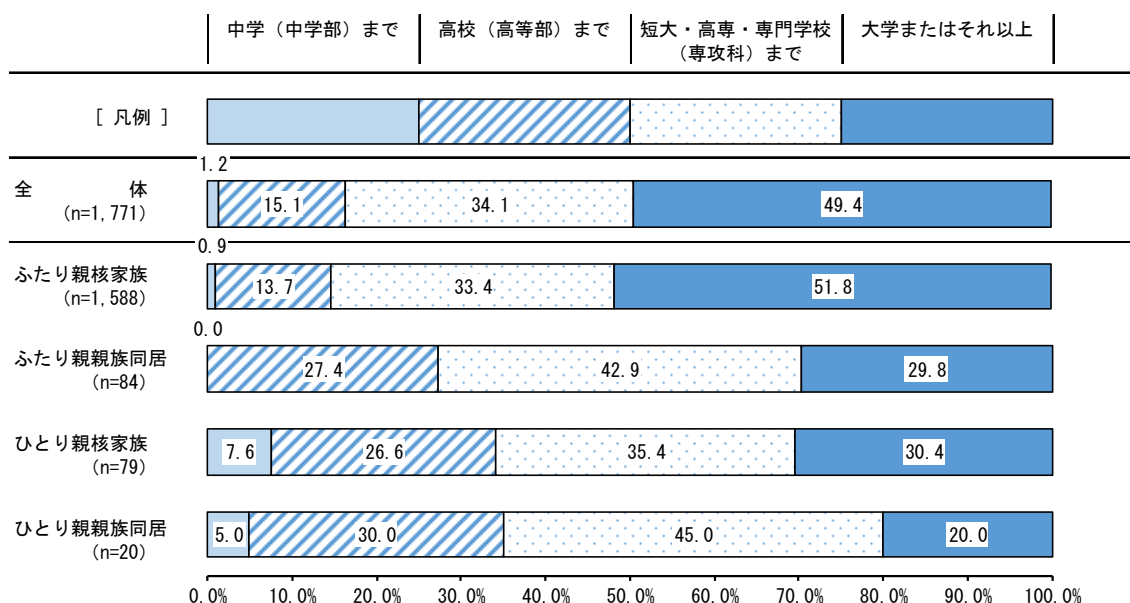
※「いない、わからない」を除く

小学校5年生のいる世帯の母親の最終学歴を世帯構成別にみると、「中学（中学部）まで」は『ひとり親核家族』が7.6%と全体に比べて高くなっている。「高校（高等部）まで」は『ふたり親親族同居』が27.4%、『ひとり親核家族』が26.6%と全体に比べて高く、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」は『ふたり親親族同居』が42.9%と全体に比べて高くなっている。一方、「大学またはそれ以上」は『ふたり親親族同居』が29.8%、『ひとり親核家族』が30.4%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「高校（高等部）まで」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」は『ふたり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。一方、「大学またはそれ以上」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

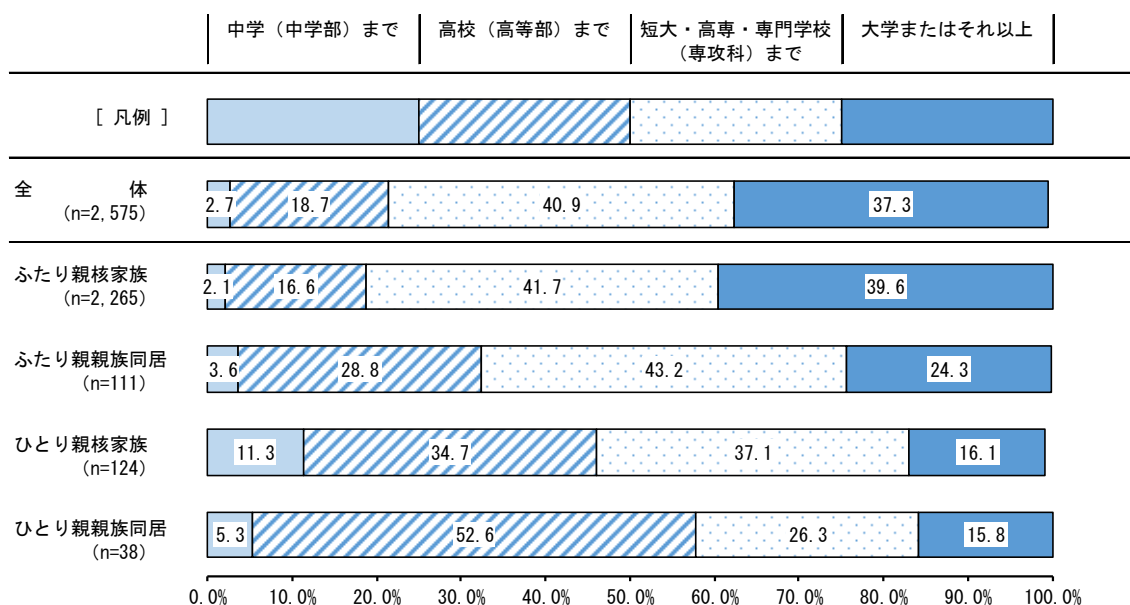
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-35 母親の最終学歴】（小学校5年生・世帯構成別）



※「いない、わからない」を除く

<前回調査>【図表 3-36 母親の最終学歴】（小学校5年生・世帯構成別）



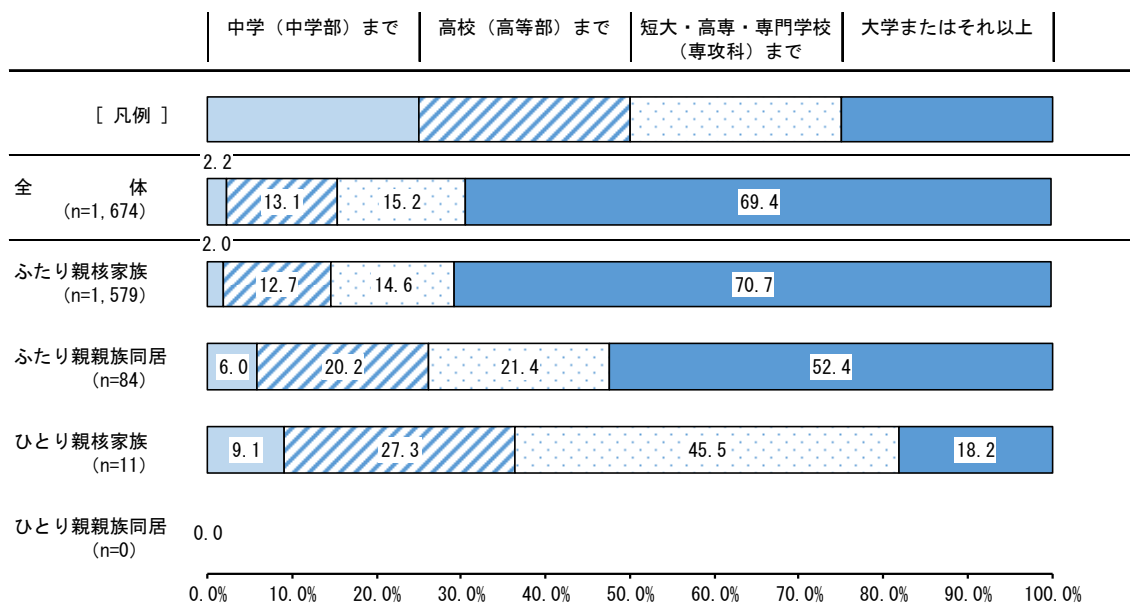
※「いない、わからない」を除く

小学校5年生のいる世帯の父親の最終学歴を世帯構成別にみると、『ふたり親親族同居』では「高校（高等部）まで」が20.2%と全体に比べて高く、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」が21.4%と全体に比べて高くなっている。一方、「大学またはそれ以上」が52.4%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「高校（高等部）まで」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。一方、「大学またはそれ以上」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。

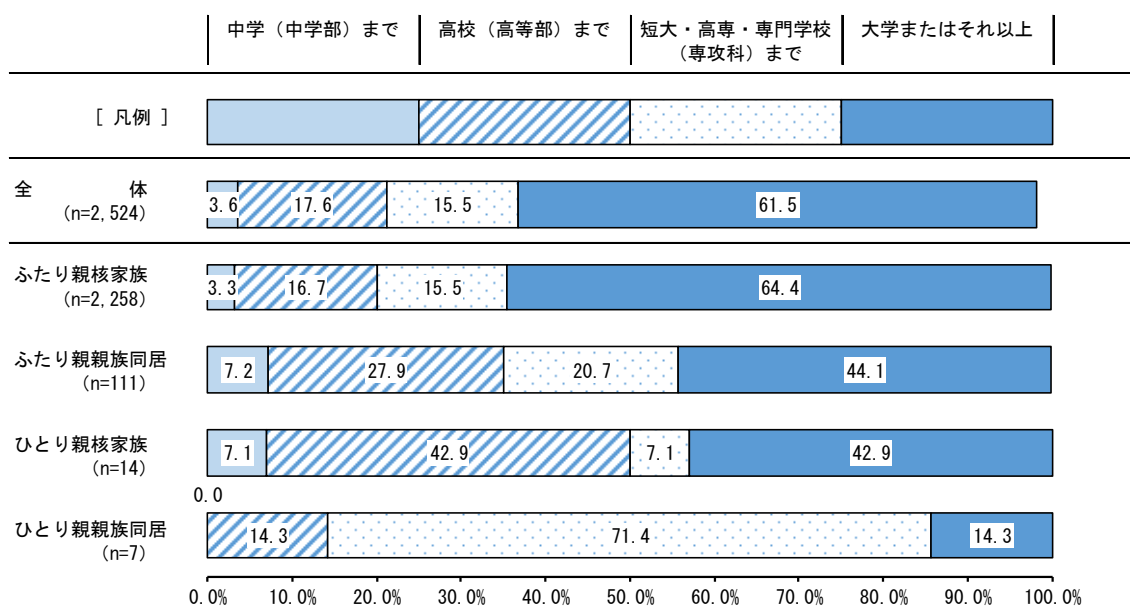
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-37 父親の最終学歴】（小学校5年生・世帯構成別）



※「いない、わからない」を除く

<前回調査>【図表 3-38 父親の最終学歴】（小学校5年生・世帯構成別）



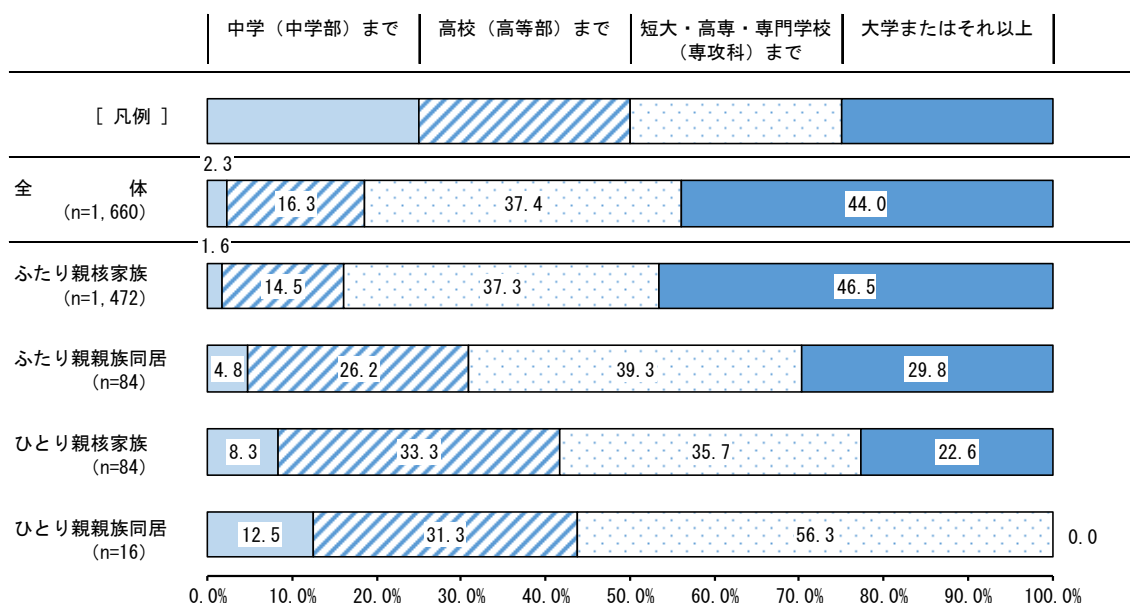
※「いない、わからない」を除く

中学校2年生のいる世帯の母親の最終学歴を世帯構成別にみると、「中学（中学部）まで」は『ひとり親核家族』が8.3%と全体に比べて高く、「高校（高等部）まで」は『ふたり親親族同居』が26.2%、『ひとり親核家族』が33.3%と全体に比べて高くなっている。一方、「大学またはそれ以上」は『ふたり親親族同居』が29.8%、『ひとり親核家族』が22.6%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「高校（高等部）まで」はいずれの世帯構成でも前回調査に比べて低く、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」は『ふたり親核家族』が前回調査に比べて低く、『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。「大学またはそれ以上」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。

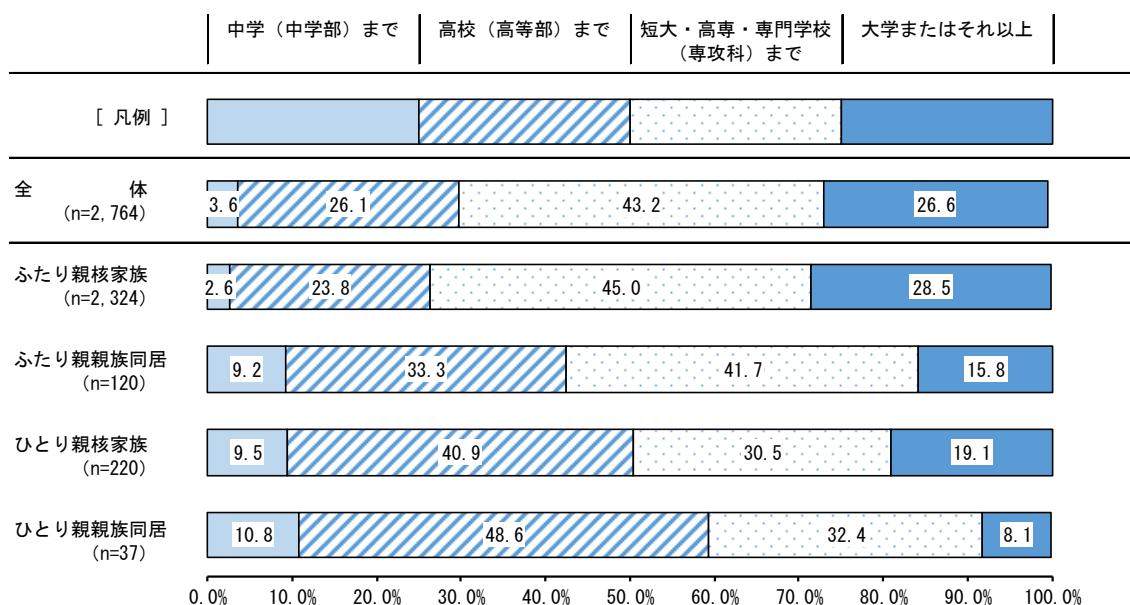
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-39 母親の最終学歴】（中学校2年生・世帯構成別）



※「いない、わからない」を除く

<前回調査>【図表 3-40 母親の最終学歴】（中学校2年生・世帯構成別）



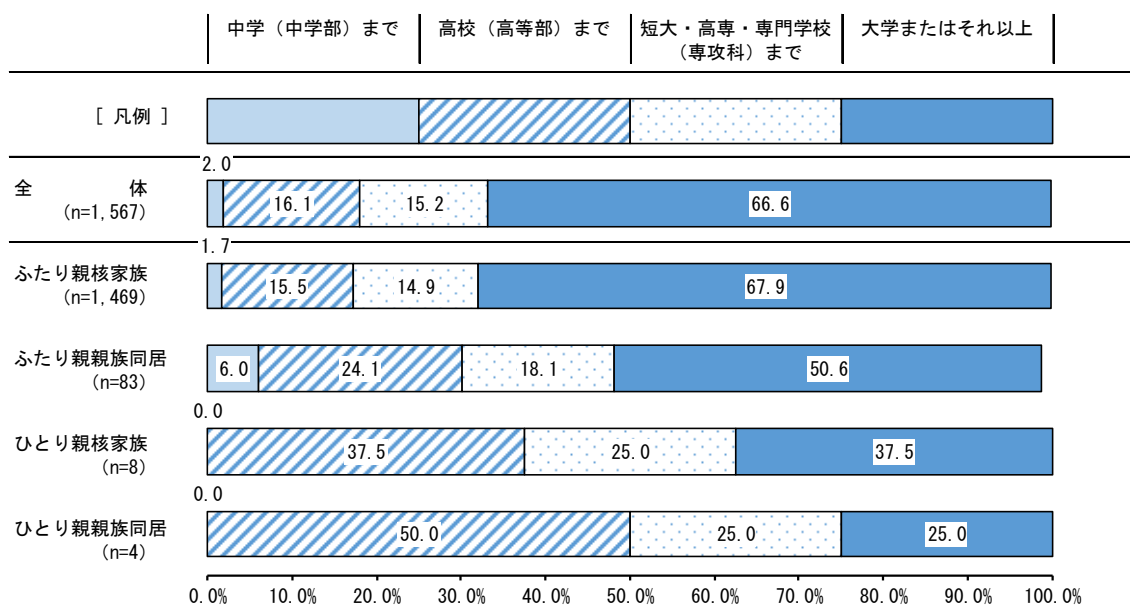
※「いない、わからない」を除く

中学校2年生のいる世帯の父親の最終学歴を世帯構成別にみると、『ふたり親親族同居』では「高校（高等部）まで」が24.1%と全体に比べて高く、「大学またはそれ以上」が50.6%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「高校（高等部）まで」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。「大学またはそれ以上」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。

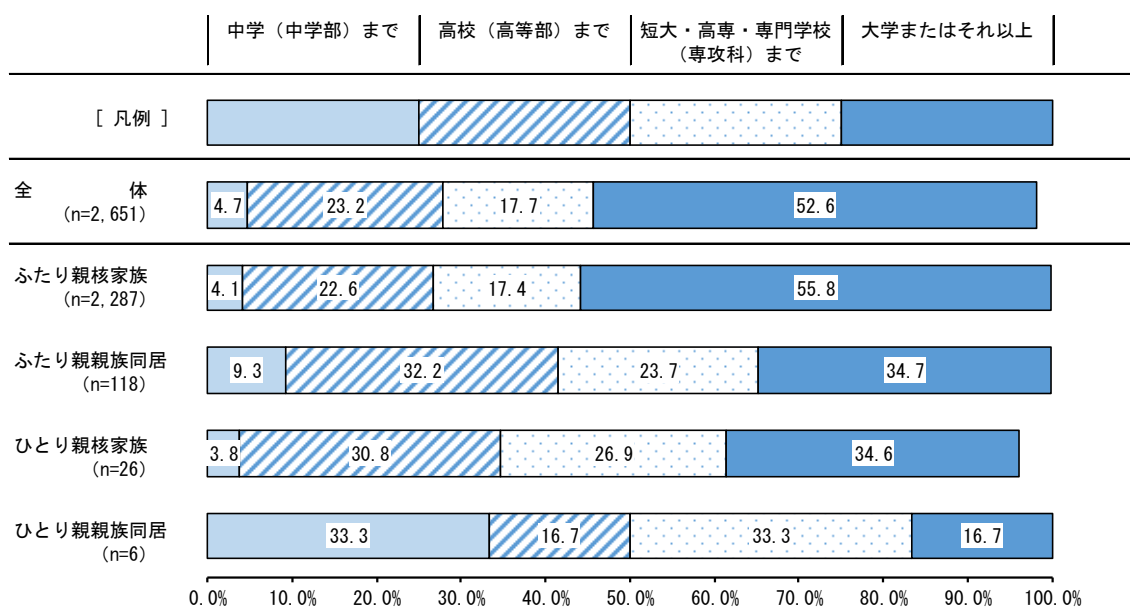
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-41 父親の最終学歴】（中学校2年生・世帯構成別）



※「いない、わからない」を除く

<前回調査>【図表 3-42 父親の最終学歴】（中学校2年生・世帯構成別）

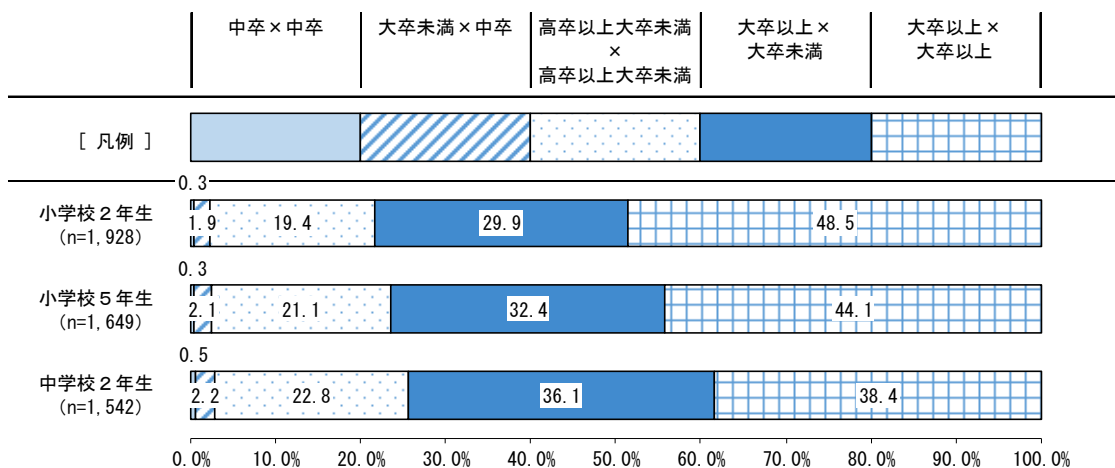


※「いない、わからない」を除く

ふたり親の最終学歴の組合せをみると、いずれの学年でも「大卒以上×大卒以上」（小学校2年生：48.5%、小学校5年生：44.1%、中学校2年生：38.4%）が最も高く、次いで「大卒以上×大卒未満」（小学校2年生：29.9%、小学校5年生：32.4%、中学校2年生：36.1%）、「高卒以上大卒未満×高卒以上大卒未満」（小学校2年生：19.4%、小学校5年生：21.1%、中学校2年生：22.8%）となっている。

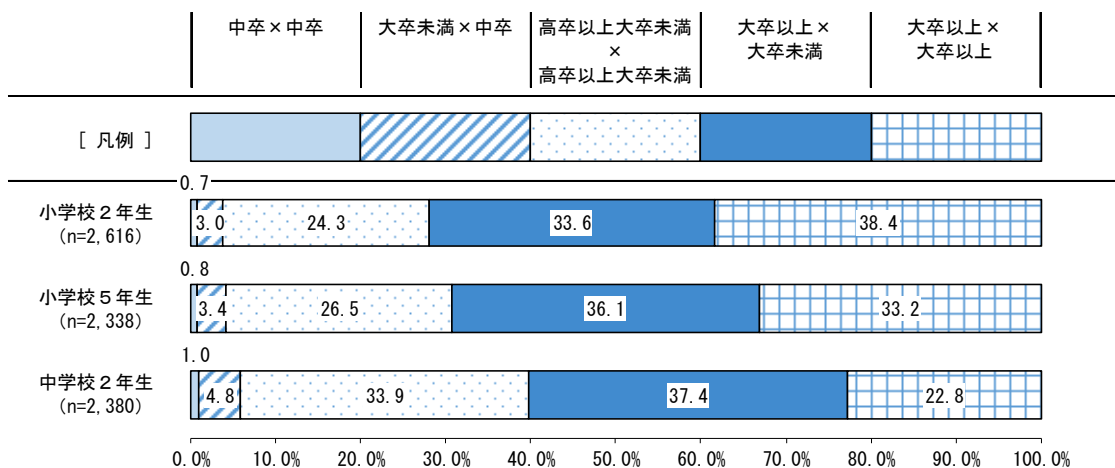
経年でみると、いずれの学年でも「大卒以上×大卒以上」は前回調査に比べて高くなっている。「高卒以上大卒未満×高卒以上大卒未満」は小学校5年生、中学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて低くなっている。

＜今回調査＞【図表 3-43 ふたり親の最終学歴の組合せ】



※「いない、わからない」を除く

＜前回調査＞【図表 3-44 ふたり親の最終学歴の組合せ】

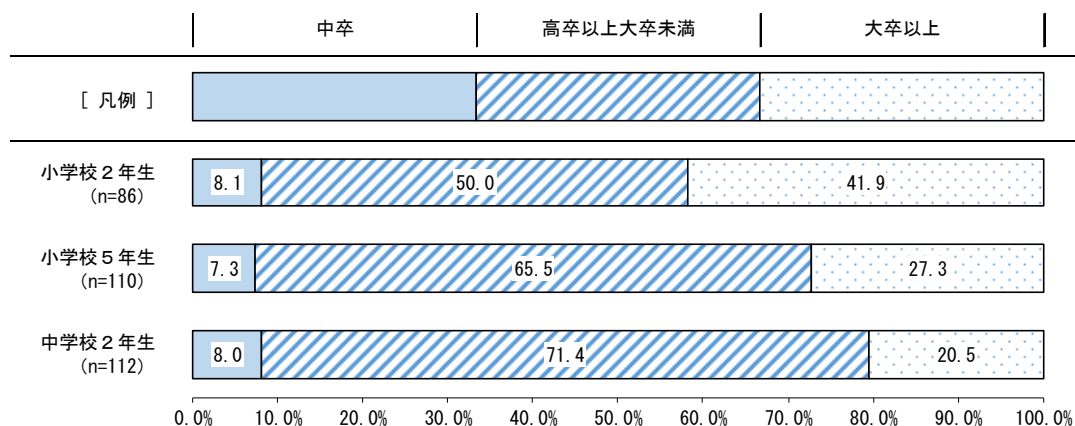


※「いない、わからない」を除く

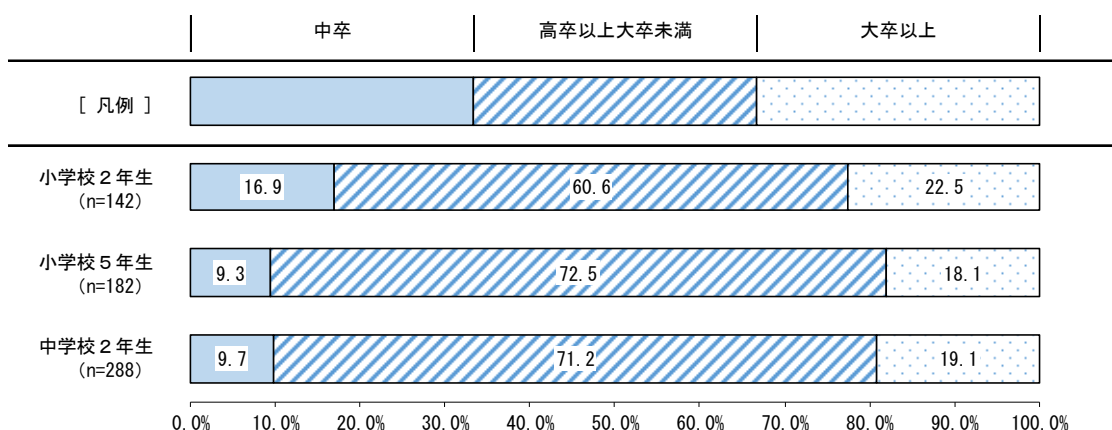
ひとり親の最終学歴をみると、いずれの学年でも「高卒以上大卒未満」（小学校2年生：50.0%、小学校5年生：65.5%、中学校2年生：71.4%）が最も高く、次いで「大卒以上」（小学校2年生：41.9%、小学校5年生：27.3%、中学校2年生：20.5%）となっている。

経年でみると、「中卒」は小学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて低く、「高卒以上大卒未満」は小学校2年生、小学校5年生のいる世帯が前回調査に比べて低くなっている。「大卒以上」は小学校2年生、小学校5年生のいる世帯が前回調査に比べて高くなっている。

＜今回調査＞【図表 3-45 ひとり親の最終学歴】



＜前回調査＞【図表 3-46 ひとり親の最終学歴】



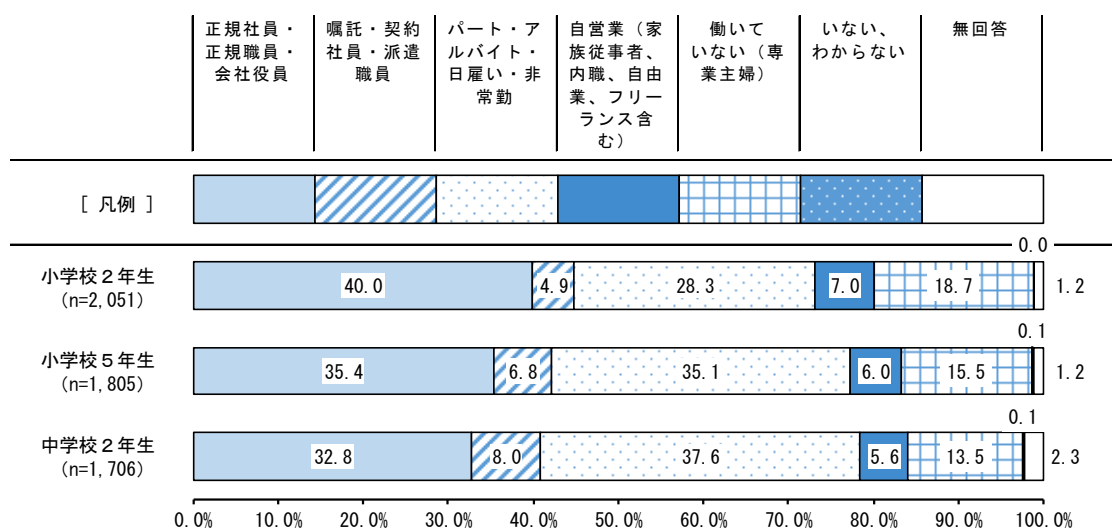
イ 保護者の就労状況

① 就労状況【問 29】(SA)

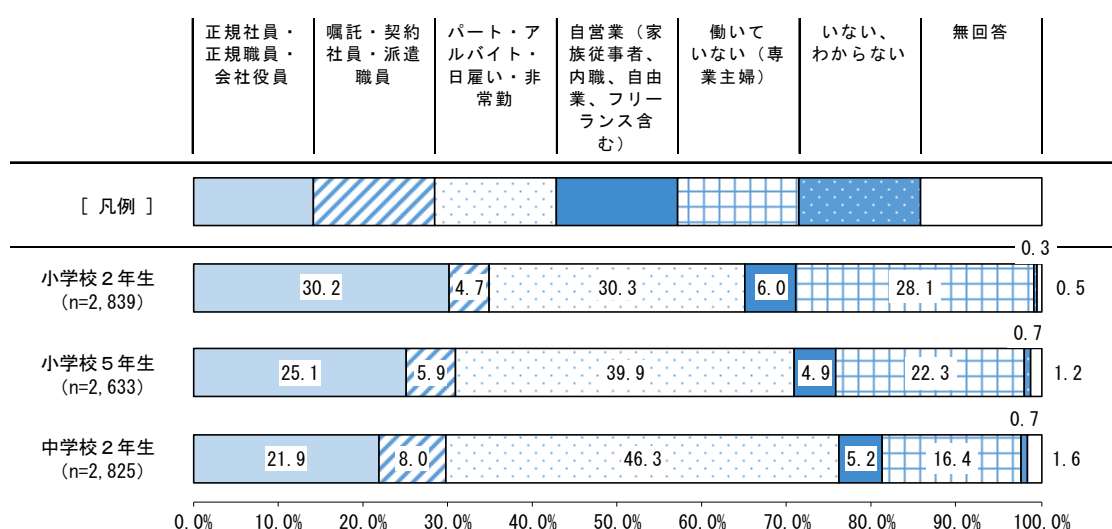
母親の就労状況を聞いたところ、小学校2年生のいる世帯と小学校5年生のいる世帯では「正規社員・正規職員・会社役員」(小学校2年生:40.0%、小学校5年生:35.4%)が最も高く、次いで「パート・アルバイト・日雇い・非常勤」(小学校2年生:28.3%、小学校5年生:35.1%)、「働いていない(専業主婦)」(小学校2年生:18.7%、小学校5年生:15.5%)となっている。中学校2年生のいる世帯では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤」が37.6%、「正規社員・正規職員・会社役員」が32.8%、「働いていない(専業主婦)」が13.5%となっている。

経年でみると、いずれの学年でも「正規社員・正規職員・会社役員」が前回調査に比べて高くなっている。小学校2年生、小学校5年生のいる世帯では「働いていない(専業主婦)」が前回調査に比べて低く、中学校2年生のいる世帯では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤」が前回調査に比べて低くなっている。

<今回調査>【図表 3-47 母親の就労状況】



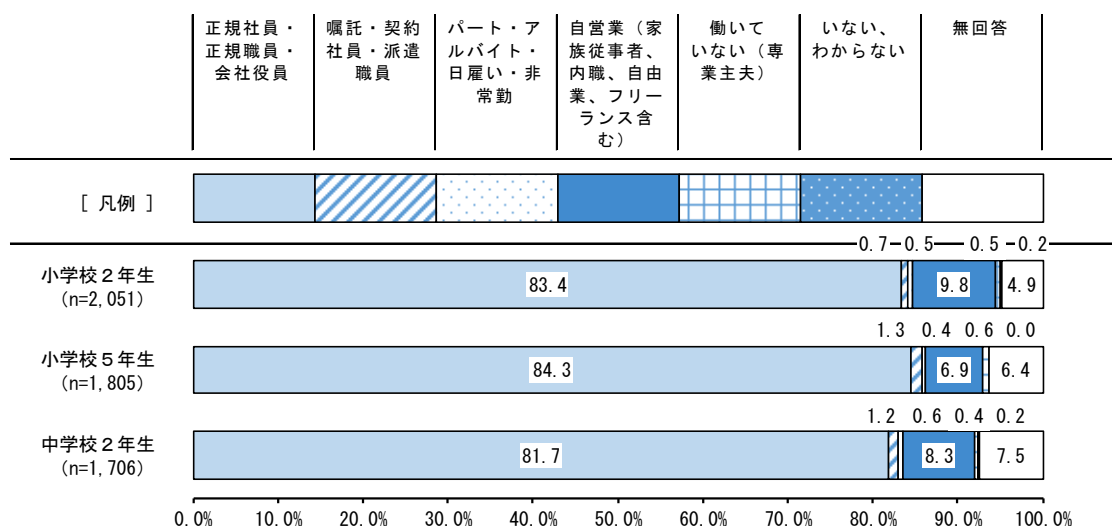
<前回調査>【図表 3-48 母親の就労状況】



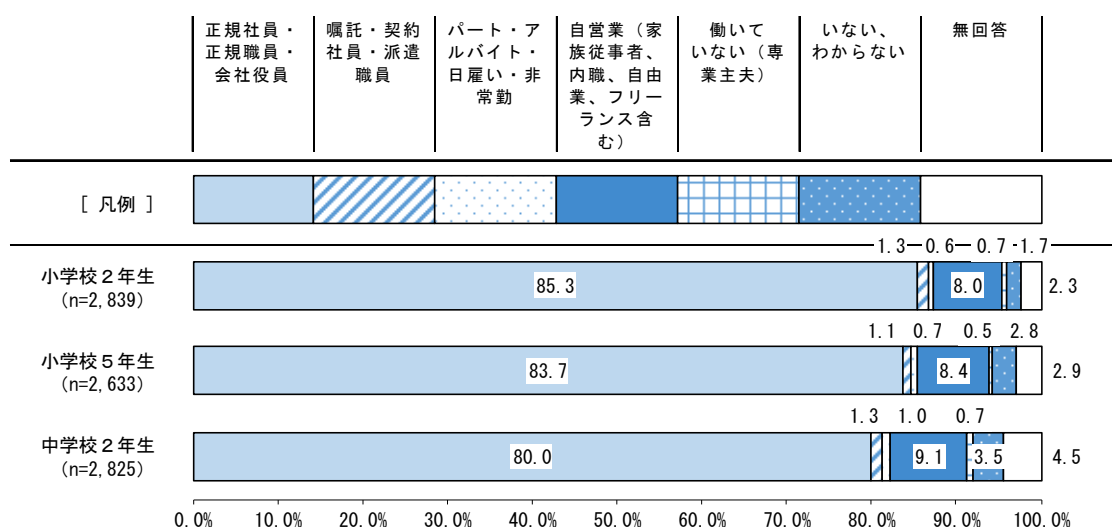
父親の就労状況を聞いたところ、いずれの学年でも「正規社員・正規職員・会社役員」（小学校2年生：83.4%、小学校5年生：84.3%、中学校2年生：81.7%）が最も高く、次いで「自営業（家族従事者、内職、自由業、フリーランス含む）」（小学校2年生：9.8%、小学校5年生：6.9%、中学校2年生：8.3%）となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

<今回調査>【図表 3-49 父親の就労状況】



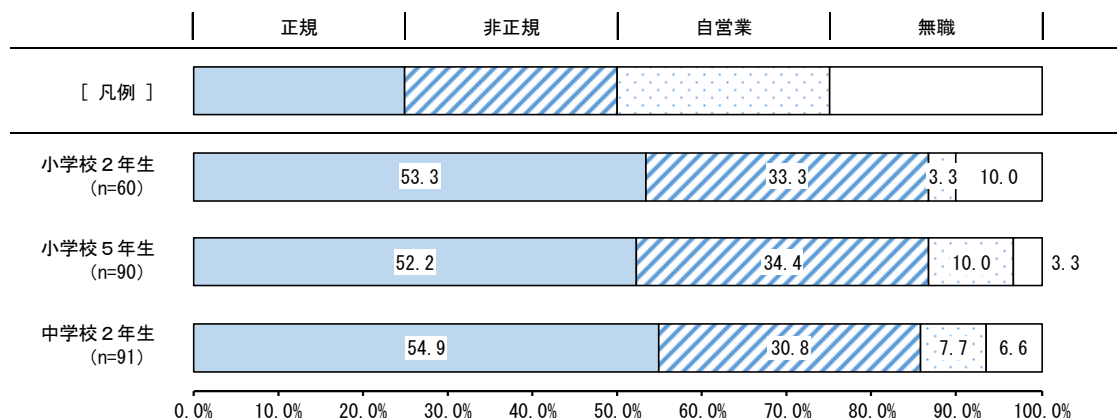
<前回調査>【図表 3-50 父親の就労状況】



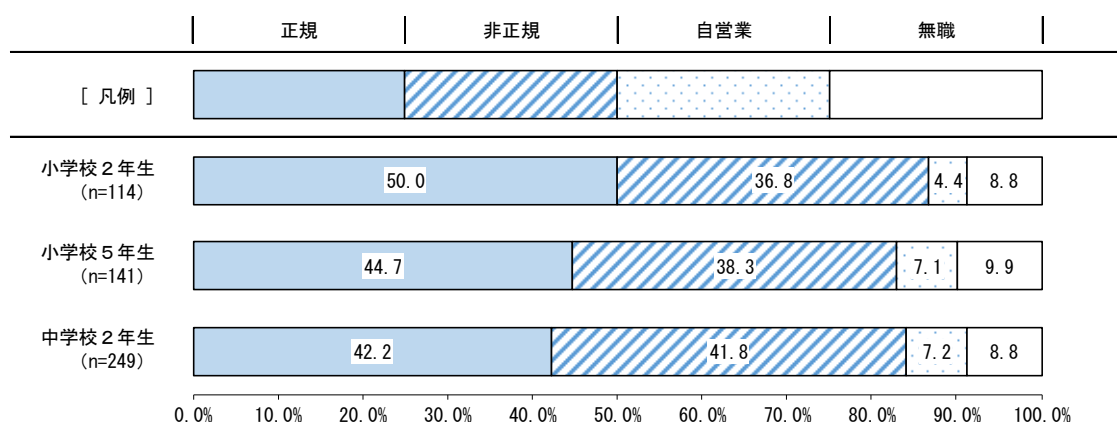
ひとり親世帯（核家族）の就労状況をみると、いずれの学年でも「正規」（小学校2年生：53.3%、小学校5年生：52.2%、中学校2年生：54.9%）が最も高く、次いで「非正規」（小学校2年生：33.3%、小学校5年生：34.4%、中学校2年生：30.8%）となっている。次いで小学校2年生のいる世帯では「無職」が10.0%、小学校5年生、中学校2年生のいる世帯では「自営業」（小学校5年生：10.0%、中学校2年生：7.7%）となっている。

経年でみると、「正規」は小学校5年生、中学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて高く、「非正規」は中学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて低くなっている。「無職」は小学校5年生のいる世帯が前回調査に比べて低くなっている。

<今回調査>【図表 3-51 ひとり親世帯（核家族）の就労状況】



<前回調査>【図表 3-52 ひとり親世帯（核家族）の就労状況】

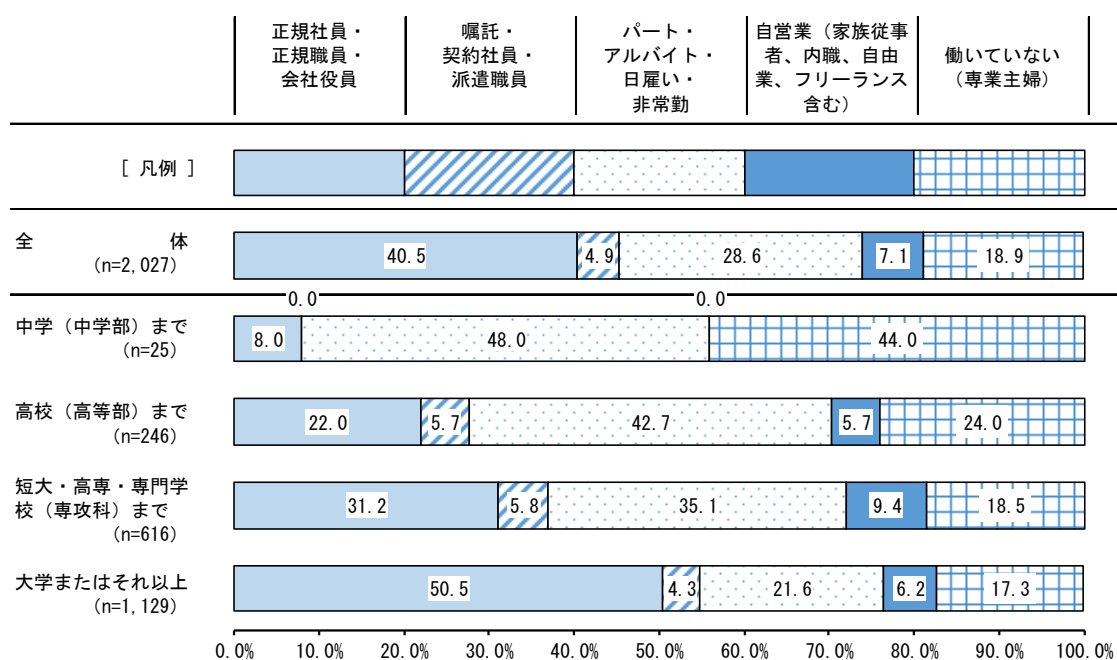


小学校2年生のいる世帯の母親の就労状況を最終学歴別にみると、「正規社員・正規職員・会社役員」は『大学またはそれ以上』が50.5%と全体に比べて高く、『高校（高等部）まで』が22.0%、『短大・高専・専門学校（専攻科）まで』が31.2%と全体に比べて低くなっている。「パート・アルバイト・日雇い・非常勤」は『高校（高等部）まで』が42.7%、『短大・高専・専門学校（専攻科）まで』が35.1%と全体に比べて高く、『大学またはそれ以上』が21.6%と低くなっている。「働いていない（専業主婦）」は『高校（高等部）まで』が24.0%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「正規社員・正規職員・会社役員」は『大学またはそれ以上』が前回調査に比べて高くなっている。「働いていない（専業主婦）」は『高校（高等部）まで』『短大・高専・専門学校（専攻科）まで』『大学またはそれ以上』が前回調査に比べて低くなっている。

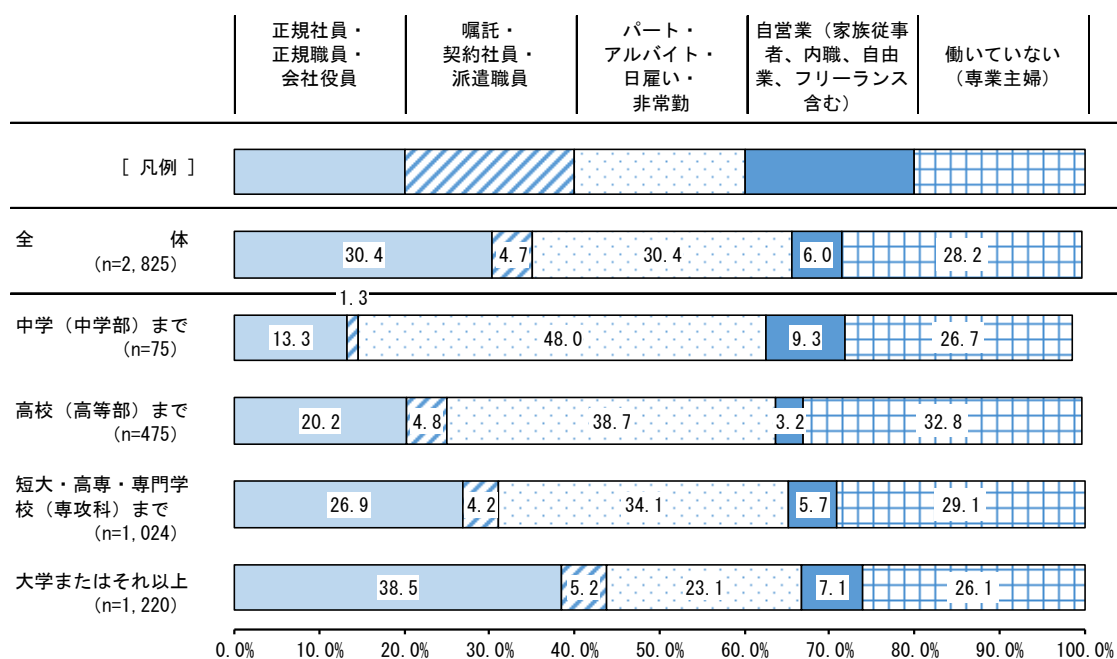
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-53 母親の就労状況】（小学校2年生・母親の最終学歴別）



※「いない、わからない」を除く

<前回調査>【図表 3-54 母親の就労状況】（小学校2年生・母親の最終学歴別）



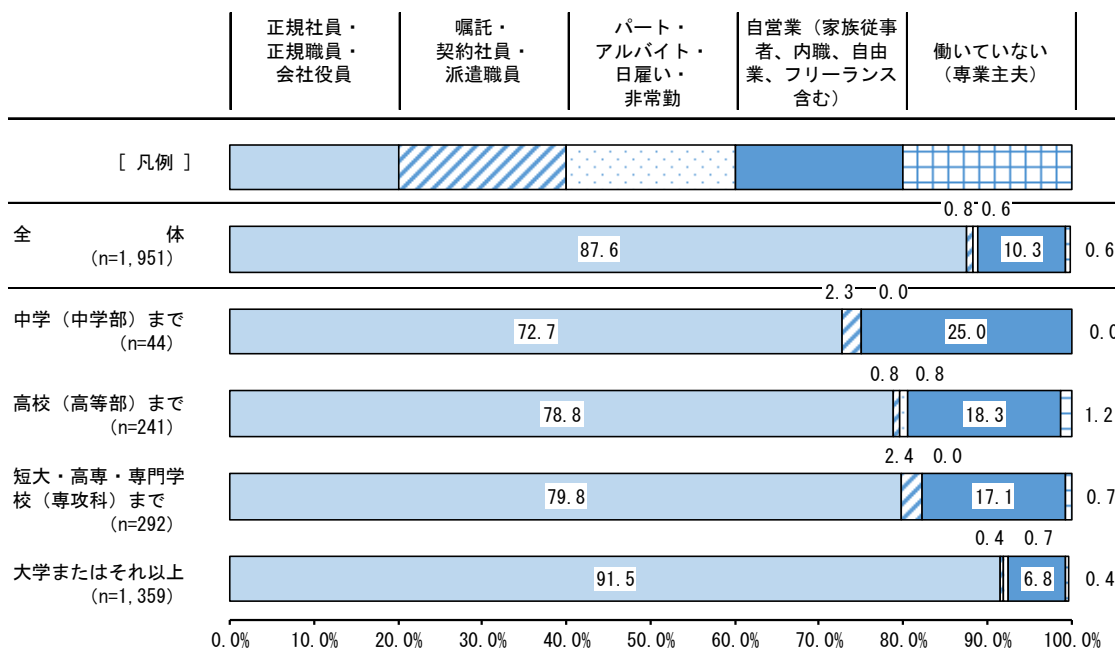
※「いない、わからない」を除く

小学校2年生のいる世帯の父親の就労状況を最終学歴別にみると、「正規社員・正規職員・会社役員」は『高校（高等部）まで』が78.8%、『短大・高専・専門学校（専攻科）まで』が79.8%と全体に比べて低くなっている。「自営業（家族従事者、内職、自由業、フリーランス含む）」は『高校（高等部）まで』が18.3%、『短大・高専・専門学校（専攻科）まで』が17.1%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、自営業（家族従事者、内職、自由業、フリーランス含む）」は『高校（高等部）まで』が前回調査に比べて高くなっている。

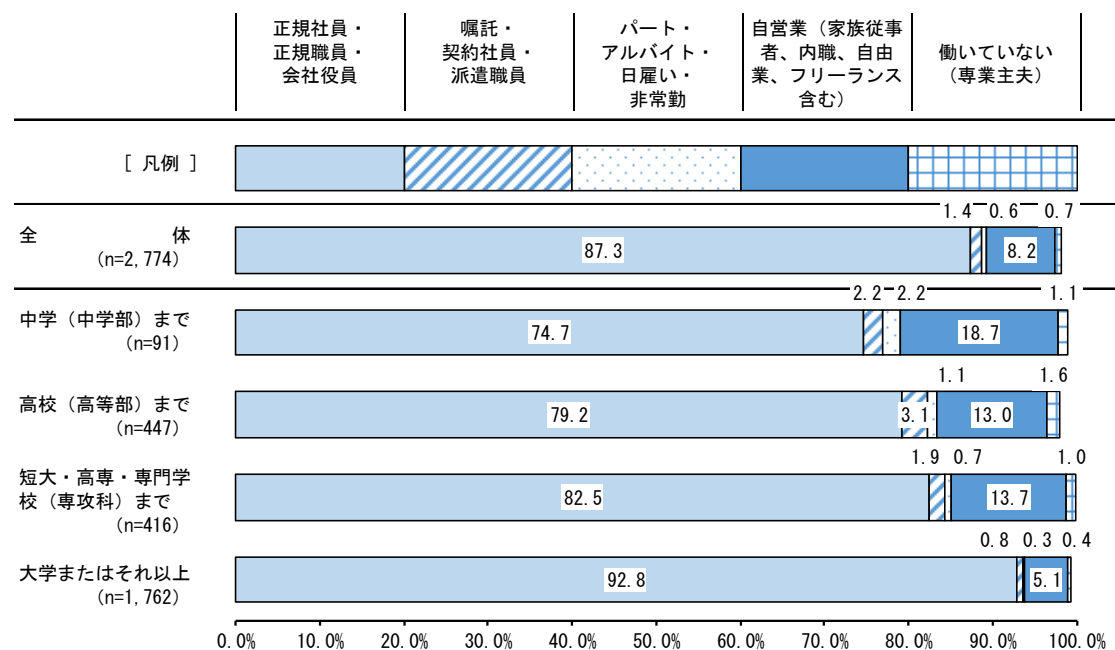
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-55 父親の就労状況】（小学校2年生・父親の最終学歴別）



※「いない、わからない」を除く

<前回調査>【図表 3-56 父親の就労状況】（小学校2年生・父親の最終学歴別）



※「いない、わからない」を除く

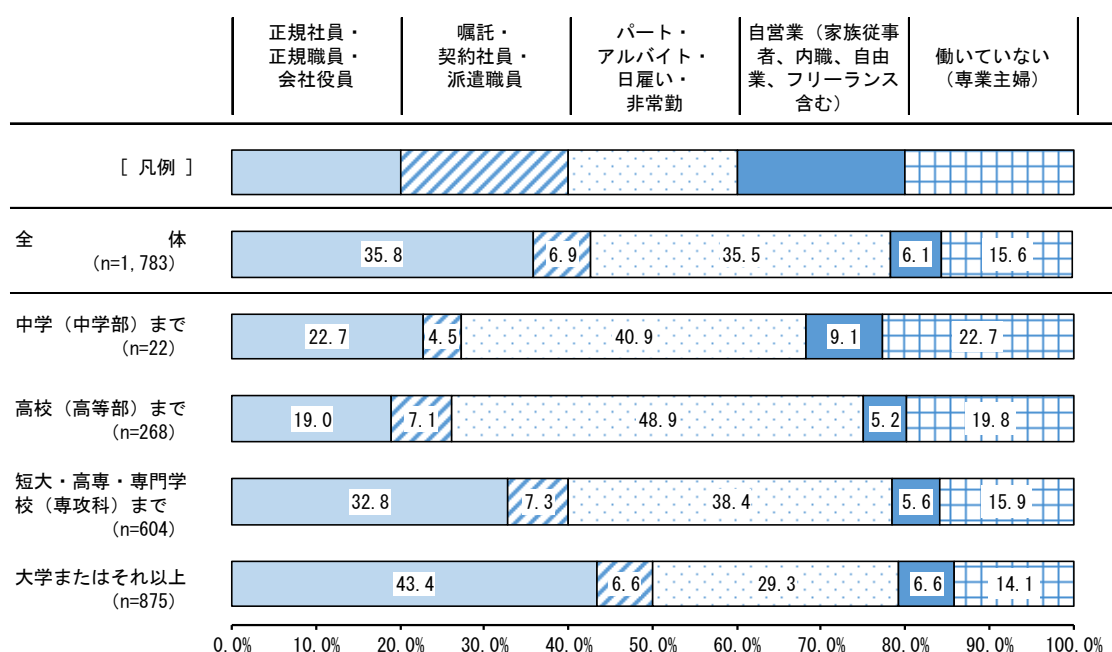
※ページ調整のため余白

小学校5年生のいる世帯の母親の就労状況を最終学歴別にみると、「正規社員・正規職員・会社役員」は『高校（高等部）まで』が19.0%と全体に比べて低く、『大学またはそれ以上』が43.4%と全体に比べて高くなっている。「パート・アルバイト・日雇い・非常勤」は『高校（高等部）まで』が48.9%と全体に比べて高く、『大学またはそれ以上』が29.3%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「正規社員・正規職員・会社役員」は『短大・高専・専門学校（専攻科）まで』『大学またはそれ以上』が前回調査に比べて高くなっている。「パート・アルバイト・日雇い・非常勤」は『短大・高専・専門学校（専攻科）まで』が前回調査に比べて低くなっている。「働いていない（専業主婦）」は『短大・高専・専門学校（専攻科）まで』『大学またはそれ以上』が前回調査に比べて低くなっている。

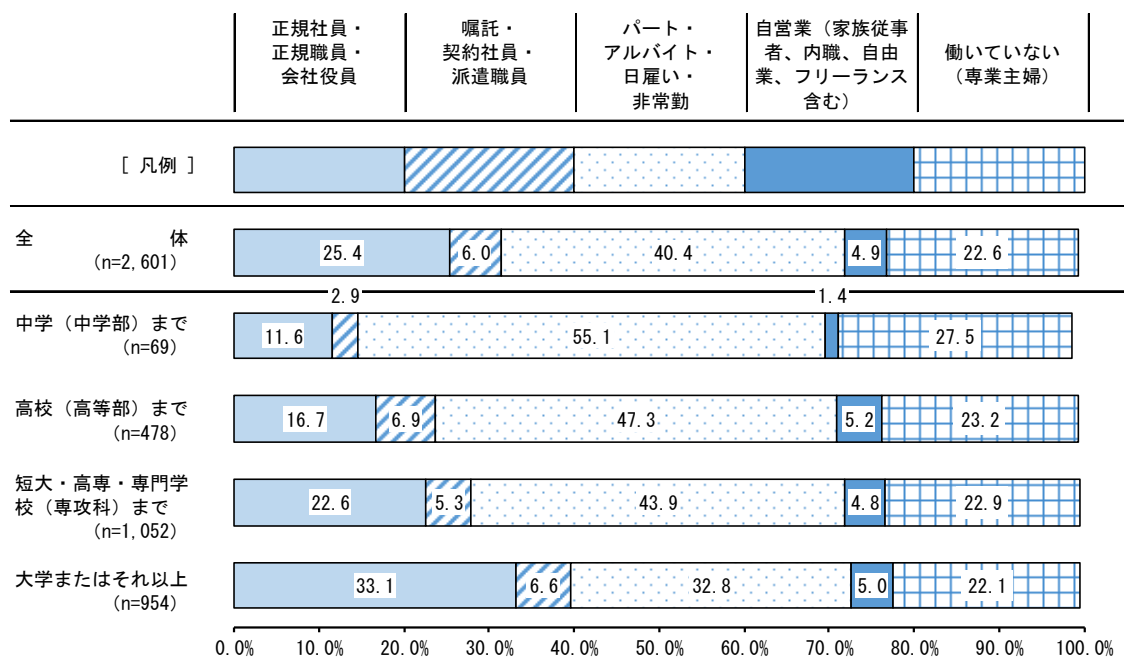
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-57 母親の就労状況】（小学校5年生・母親の最終学歴別）



※「いない、わからない」を除く

＜前回調査＞【図表 3-58 母親の就労状況】（小学校5年生・母親の最終学歴別）



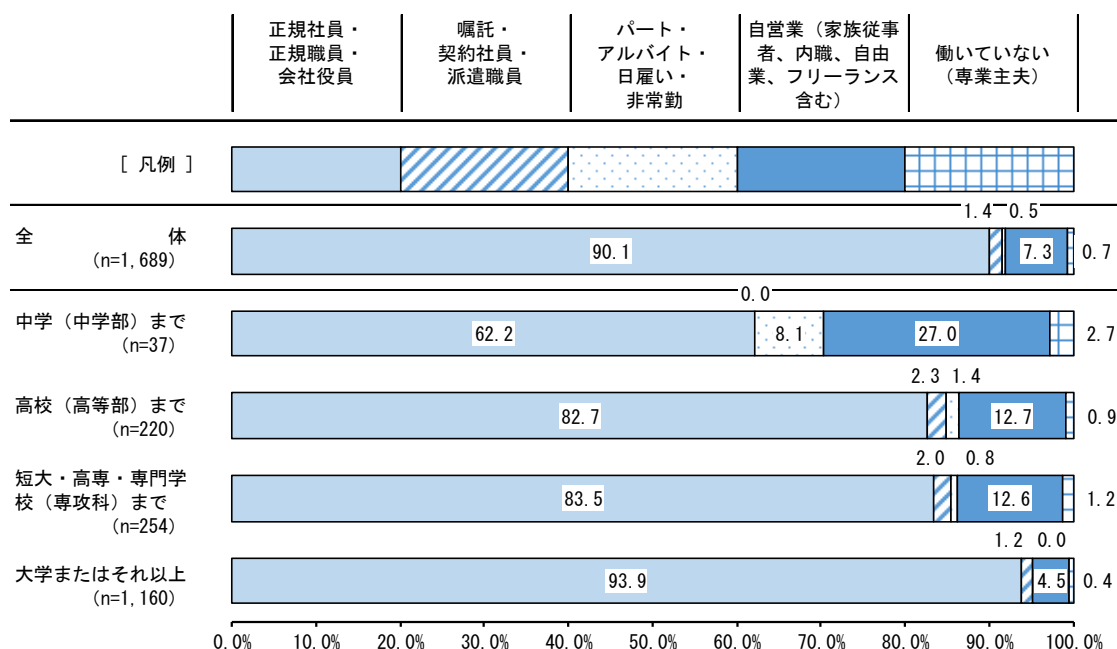
※「いない、わからない」を除く

小学校5年生のいる世帯の父親の就労状況を最終学歴別にみると、「正規社員・正規職員・会社役員」は『高校（高等部）まで』が82.7%、『短大・高専・専門学校（専攻科）まで』が83.5%と全体に比べて低くなっている。「自営業（家族従事者、内職、自由業、フリーランス含む）」は『高校（高等部）まで』が12.7%、『短大・高専・専門学校（専攻科）まで』が12.6%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

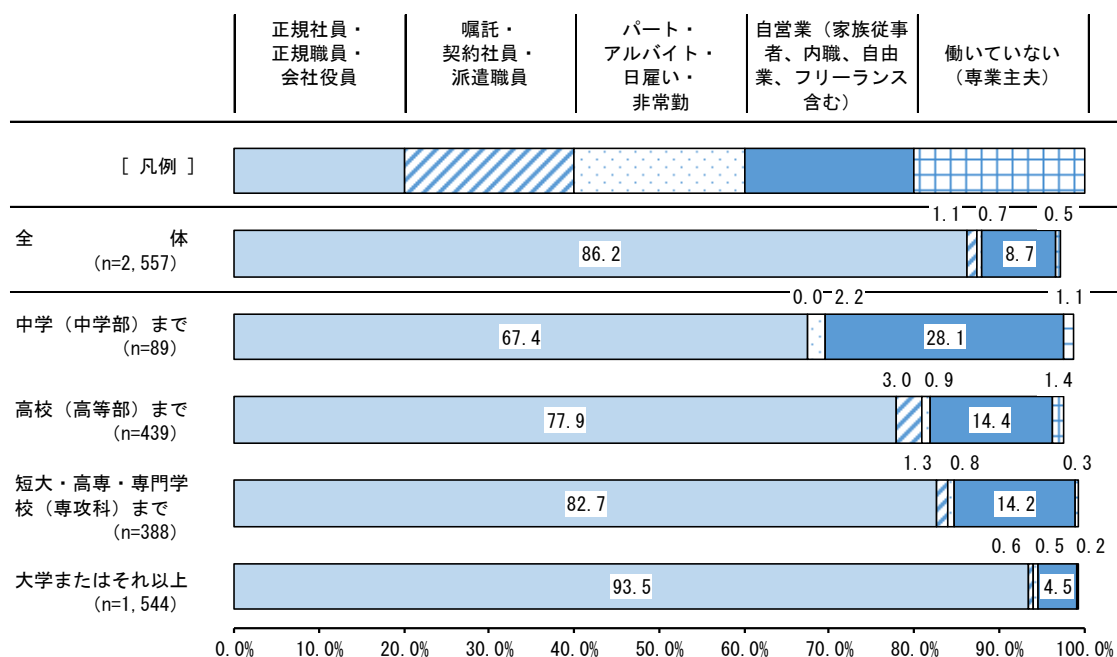
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-59 父親の就労状況】（小学校5年生・父親の最終学歴別）



※「いない、わからない」を除く

<前回調査>【図表 3-60 父親の就労状況】（小学校5年生・父親の最終学歴別）



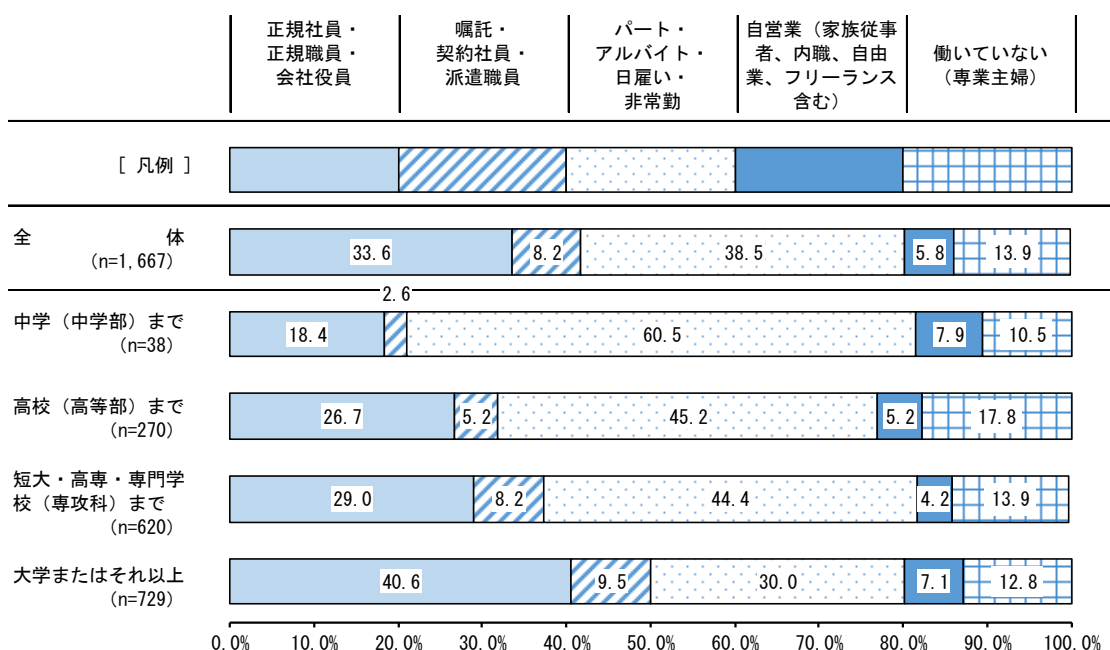
※「いない、わからない」を除く

中学校2年生のいる世帯の母親の就労状況を最終学歴別にみると、「正規社員・正規職員・会社役員」は『高校（高等部）まで』が26.7%と全体に比べて低く、『大学またはそれ以上』が40.6%と全体に比べて高くなっている。「パート・アルバイト・日雇い・非常勤」は『高校（高等部）まで』が45.2%、『短大・高専・専門学校（専攻科）まで』が44.4%と全体に比べて高く、『大学またはそれ以上』が30.0%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「正規社員・正規職員・会社役員」はいずれの最終学歴でも前回調査に比べて高くなっている。「パート・アルバイト・日雇い・非常勤」は『高校（高等部）まで』『大学またはそれ以上』が前回調査に比べて低くなっている。

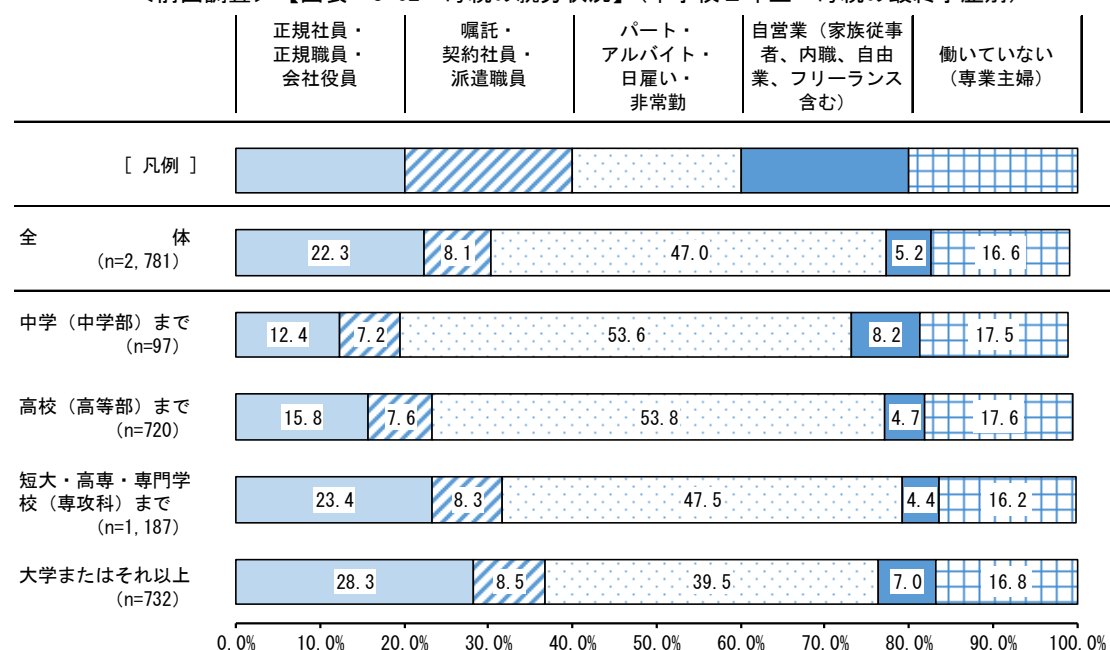
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-61 母親の就労状況】（中学校2年生・母親の最終学歴別）



※「いない、わからない」を除く

<前回調査>【図表 3-62 母親の就労状況】（中学校2年生・母親の最終学歴別）



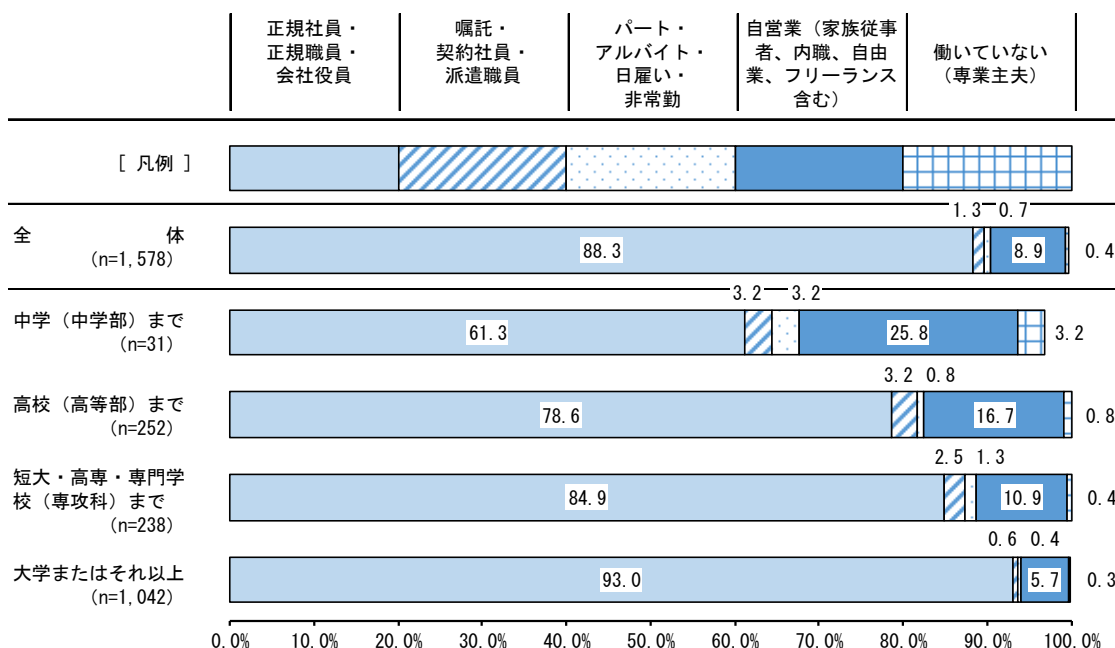
※「いない、わからない」を除く

中学校2年生のいる世帯の父親の就労状況を最終学歴別にみると、「正規社員・正規職員・会社役員」は『高校（高等部）まで』が78.6%と全体に比べて低く、「自営業（家族従事者、内職、自由業、フリーランス含む）」は『高校（高等部）まで』が16.7%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

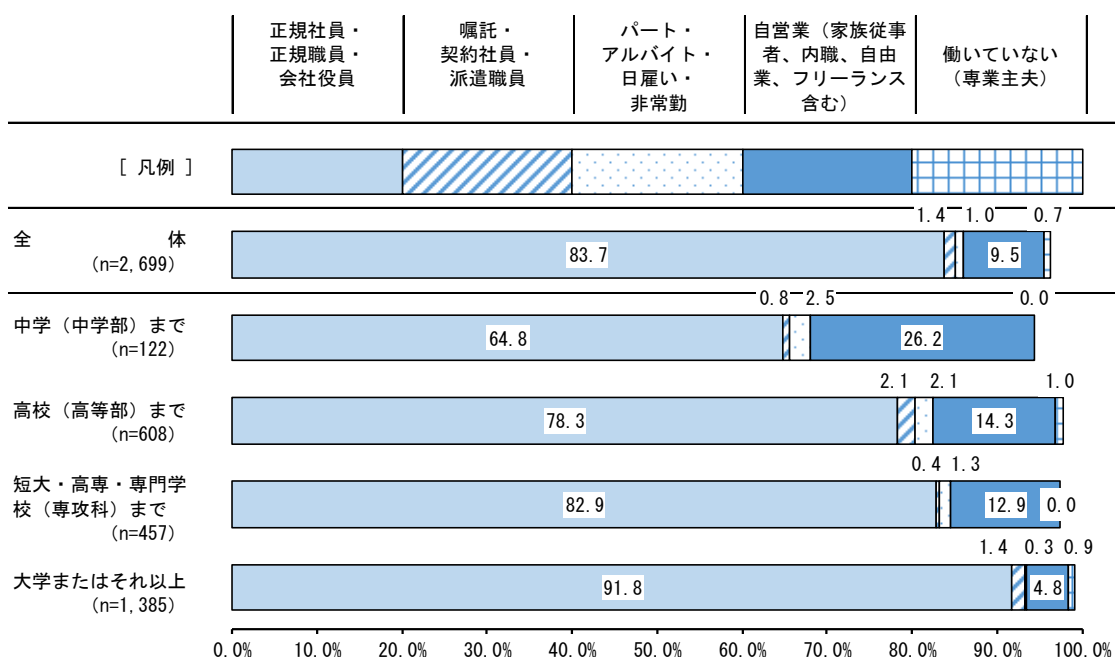
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-63 父親の就労状況】（中学校2年生・父親の最終学歴別）



※「いない、わからない」を除く

<前回調査>【図表 3-64 父親の就労状況】（中学校2年生・父親の最終学歴別）



※「いない、わからない」を除く

② 働いていない理由【問 29-1】(MA)

働いていないと回答した方に不就労の理由を複数回答で聞いたところ、「母親」ではいずれの学年でも「子育てを優先したいため」(小学校2年生：75.7%、小学校5年生：72.8%、中学校2年生：60.2%)が最も高く、次いで小学校2年生のいる世帯と小学校5年生のいる世帯では「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」(小学校2年生：30.0%、小学校5年生：21.9%)、「経済的に働く必要がないため」(小学校2年生：15.7%、小学校5年生：16.8%)となっており、中学校2年生のいる世帯では「経済的に働く必要がないため」が22.9%、「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」が21.2%となっている。

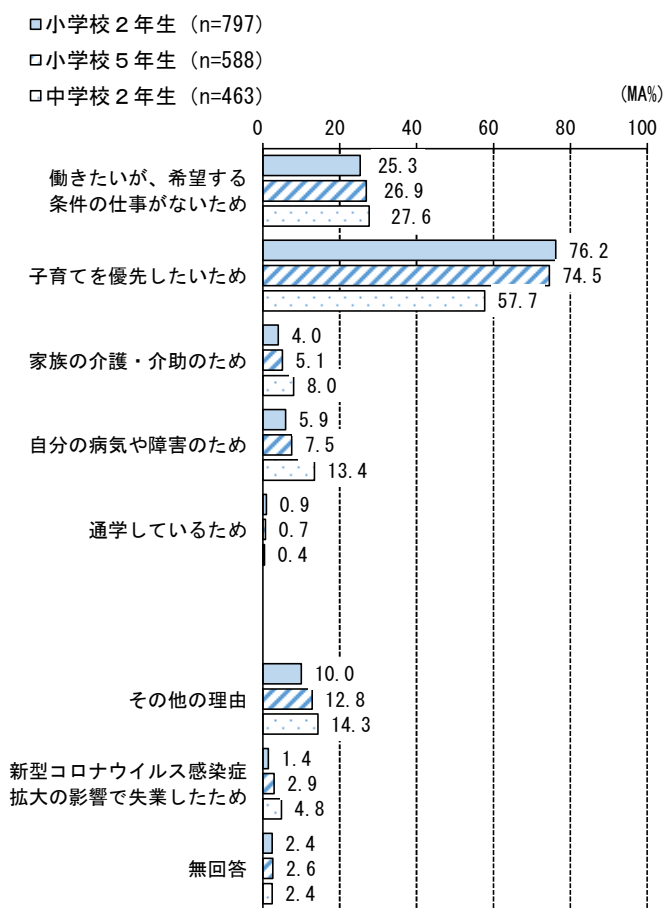
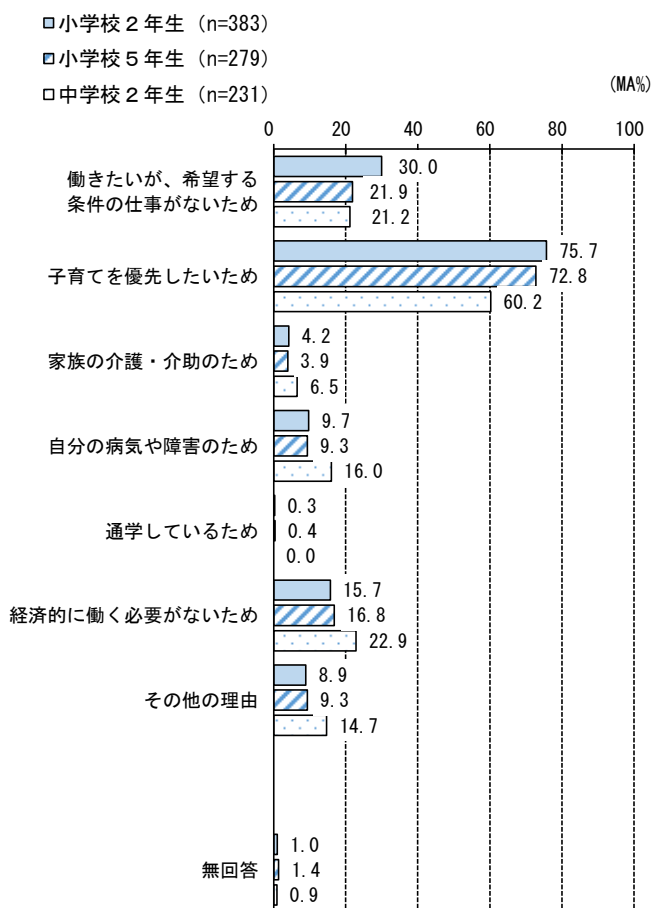
経年でみると、「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」は小学校5年生、中学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は設問内容が異なるため、参考値とする。

【図表 3-65 母親の働いていない理由(複数回答)】

<今回調査>

<前回調査>

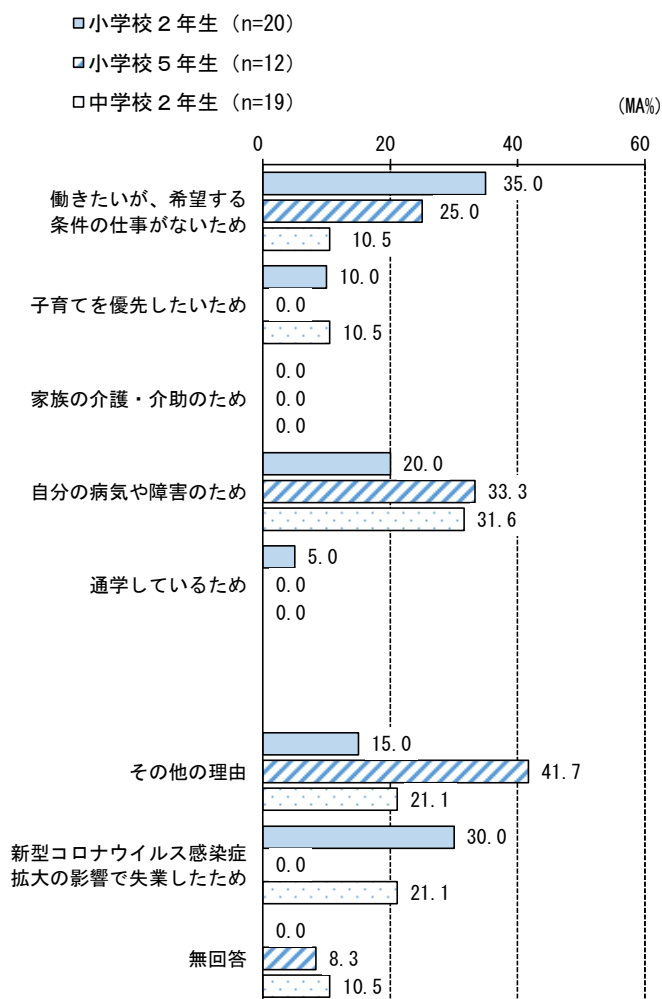
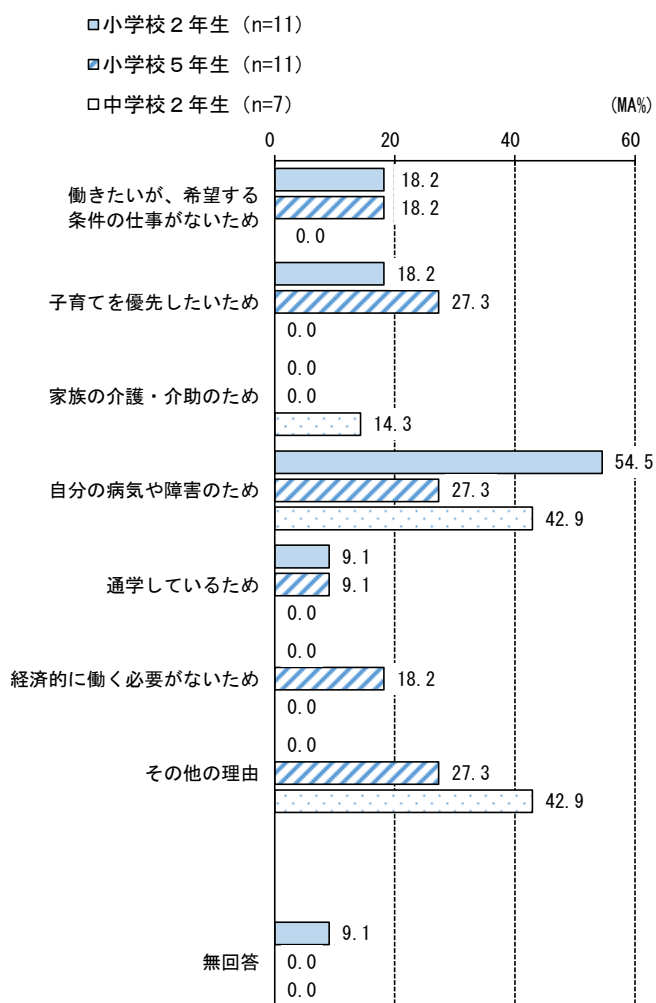


「父親」はサンプル数が50に満たないため参考値とする。

【図表 3-66 父親の働いていない理由（複数回答）】

<今回調査>

<前回調査>



第2節 経済的困難の状況

(1) 世帯の所得状況

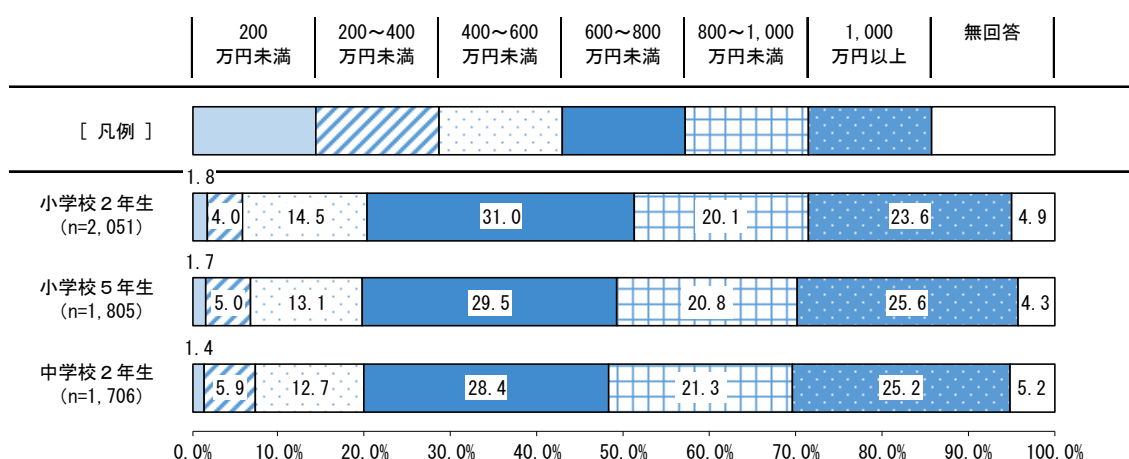
ア 世帯の年間所得合計額【問30】(SA)

世帯の年間所得合計額を聞いたところ、いずれの学年でも「600～800 万円未満」(小学校2年生：31.0%、小学校5年生：29.5%、中学校2年生：28.4%)が最も高く、次いで「1,000 万円以上」(小学校2年生：23.6%、小学校5年生：25.6%、中学校2年生：25.2%)、「800～1,000 万円未満」(小学校2年生：20.1%、小学校5年生：20.8%、中学校2年生：21.3%)となっている。

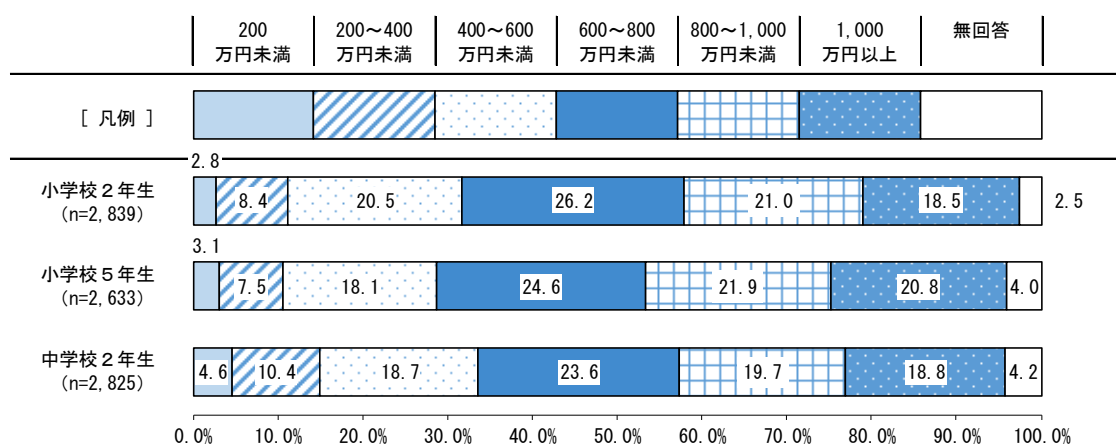
経年でみると、「400～600 万円未満」はいずれの学年でも前回調査に比べて低くなっている。「1,000 万円以上」は小学校2年生、中学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて高くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 3-67 世帯の年間所得合計額】



<前回調査>【図表 3-68 世帯の年間所得合計額】



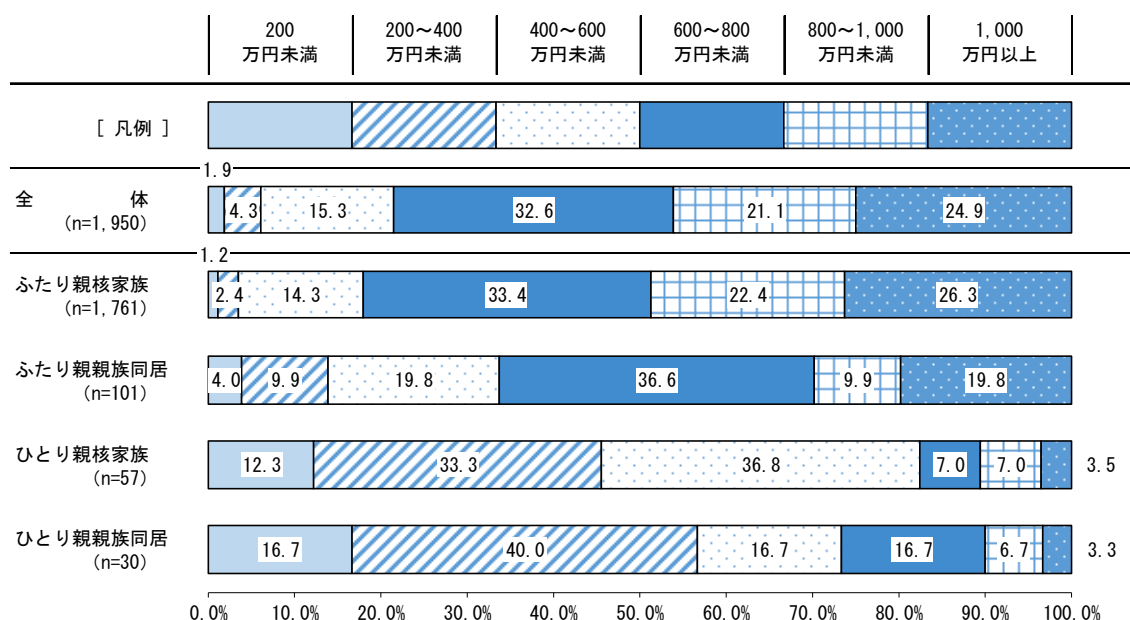
小学校2年生のいる世帯の年間所得合計額を世帯構成別にみると、「200 万円未満」は『ひとり親核家族』が 12.3%、「200～400 万円未満」は『ふたり親親族同居』が 9.9%、『ひとり親核家族』が 33.3%と全体に比べて高く、「400～600 万円未満」は『ひとり親核家族』が 36.8%と全体に比べて高くなっている。一方、「600～800 万円未満」は『ひとり親核家族』が 7.0%と全体に比べて低く、「800～1,000 万円未満」は『ふたり親親族同居』が 9.9%、『ひとり親核家族』が 7.0%と全体に比べて低く、「1,000 万円以上」は『ふたり親親族同居』が 19.8%、『ひとり親核家族』が 3.5%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「200 万円未満」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「200～400 万円未満」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「400～600 万円未満」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。「600～800 万円未満」「1,000 万円以上」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。

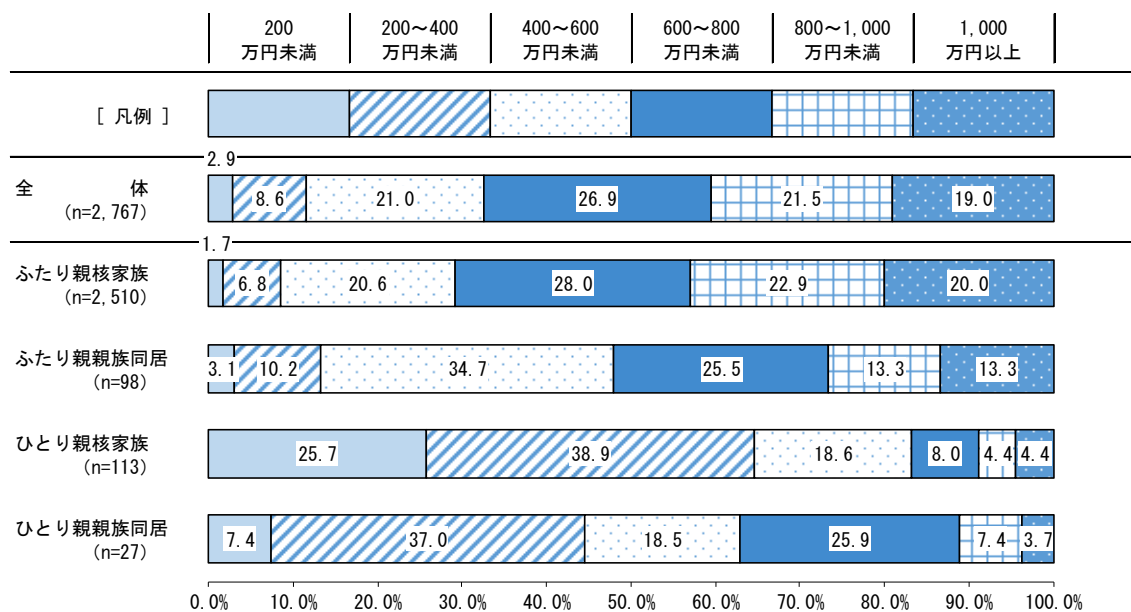
なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 3-69 世帯の年間所得合計額】(小学校2年生・世帯構成別)



＜前回調査＞【図表 3-70 世帯の年間所得合計額】（小学校2年生・世帯構成別）



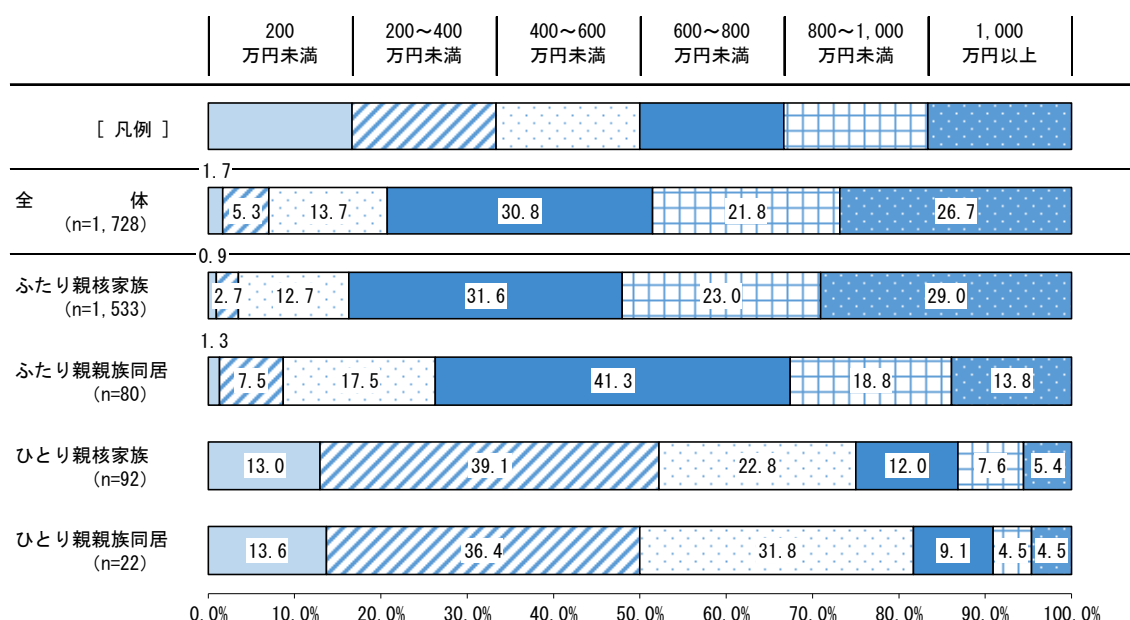
小学校5年生のいる世帯の年間所得合計額を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』では「200万円未満」が13.0%、「200～400万円未満」が39.1%、「400～600万円未満」が22.8%と全体に比べて高く、「600～800万円未満」が12.0%、「800～1,000万円未満」が7.6%、「1,000万円以上」が5.4%と全体に比べて低くなっている。『ふたり親親族同居』では「600～800万円未満」が41.3%と全体に比べて高く、「1,000万円以上」が13.8%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「200万円未満」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「400～600万円未満」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。「600～800万円未満」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高く、「800～1,000万円未満」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高く、「1,000万円以上」は『ふたり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

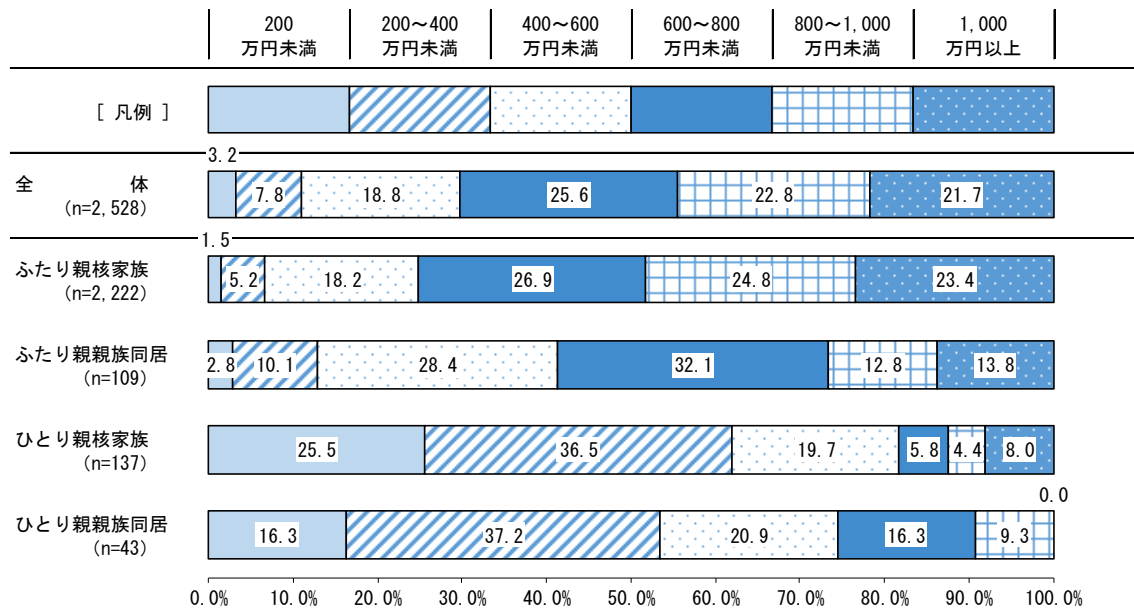
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 3-71 世帯の年間所得合計額】(小学校5年生・世帯構成別)



<前回調査>【図表 3-72 世帯の年間所得合計額】（小学校5年生・世帯構成別）



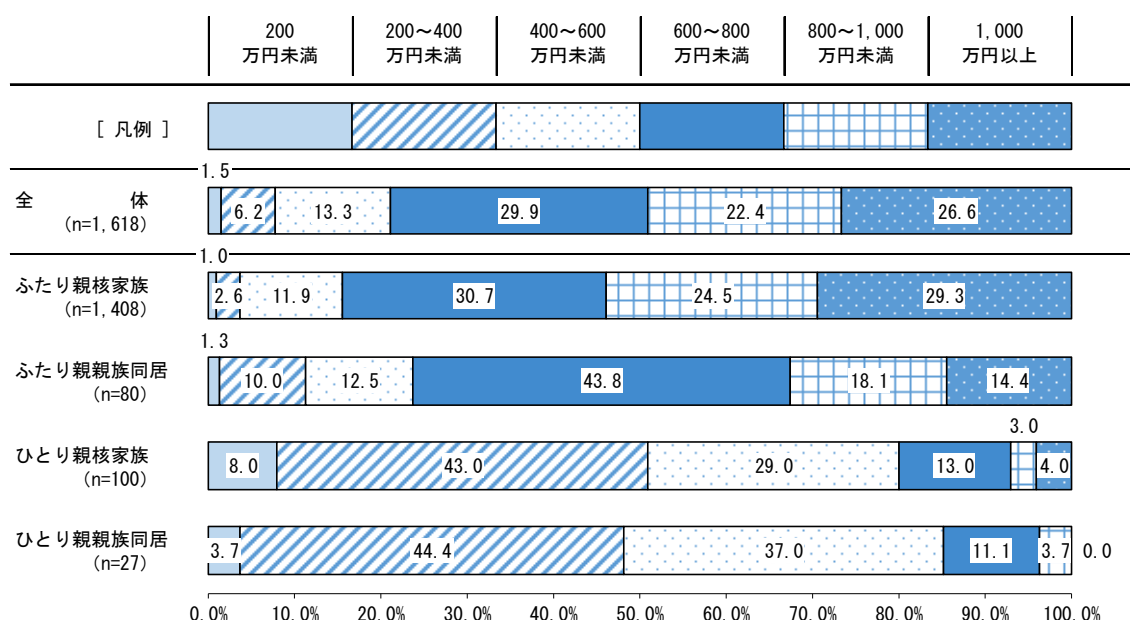
中学校2年生のいる世帯の年間所得合計額を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』では「200万円未満」が8.0%、「200～400万円未満」が43.0%、「400～600万円未満」が29.0%と全体に比べて高く、「600～800万円未満」が13.0%、「800～1,000万円未満」が3.0%、「1,000万円以上」が4.0%と全体に比べて低くなっている。『ふたり親親族同居』では「600～800万円未満」はが43.8%と全体に比べて高く、「1,000万円以上」が14.4%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「200万円未満」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「400～600万円未満」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。「600～800万円未満」は『ふたり親親族同居』『ふたり親核家族』が前回調査に比べて高く、「1,000万円以上」は『ふたり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

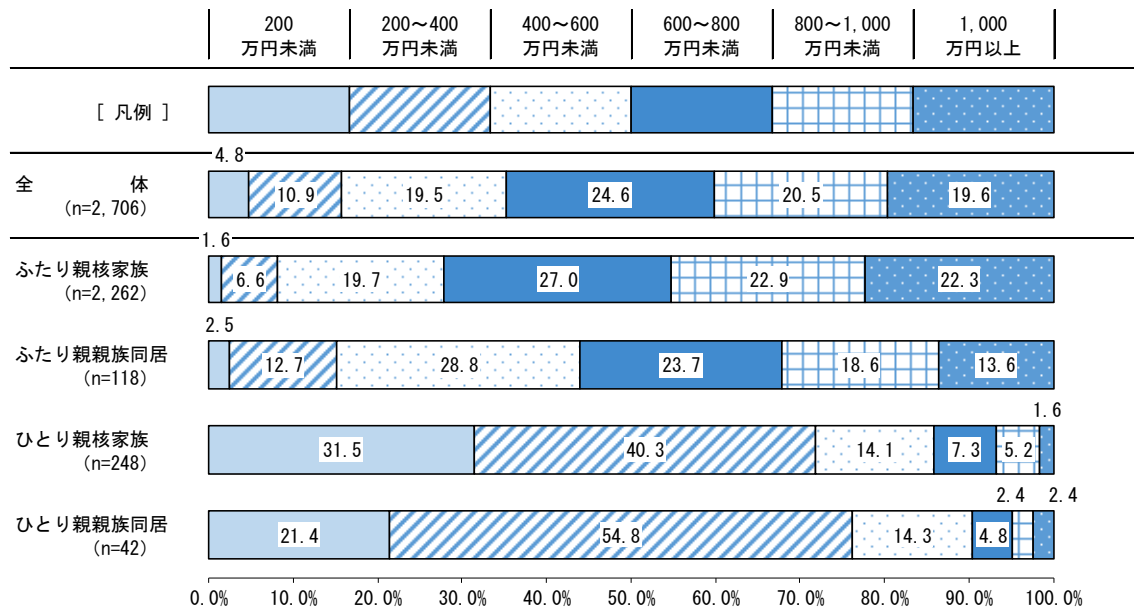
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 3-73 世帯の年間所得合計額】(中学校2年生・世帯構成別)



<前回調査>【図表 3-74 世帯の年間所得合計額】(中学校2年生・世帯構成別)



イ 所得分類【問30】（SA）

【所得分類の考え方】

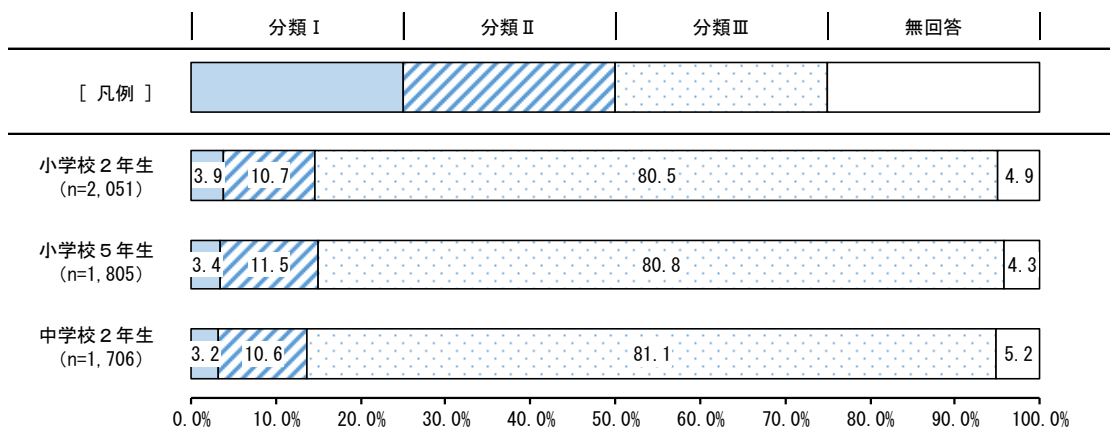
貧困線未満の等価可処分所得の世帯を「分類Ⅰ」、貧困線以上等価可処分所得の中央値未満の世帯を「分類Ⅱ」、中央値以上の等価可処分所得の世帯を「分類Ⅲ」の3つの区分に分類した。

詳細は第1章（6）集計の視点を参照。

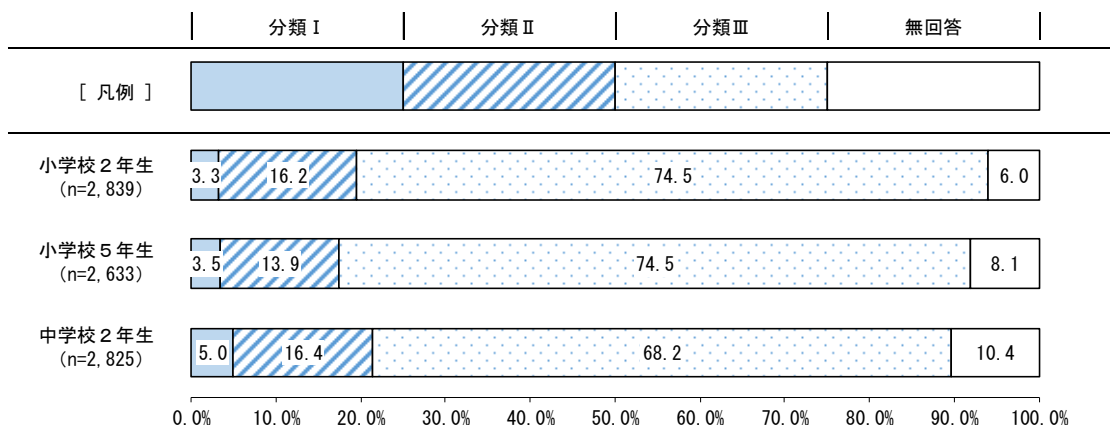
所得分類をみると、いずれの学年でも『分類Ⅲ』（小学校2年生：80.5%、小学校5年生：80.8%、中学校2年生：81.1%）が最も高く、次いで『分類Ⅱ』（小学校2年生：10.7%、小学校5年生：11.5%、中学校2年生：10.6%）、『分類Ⅰ』（小学校2年生：3.9%、小学校5年生：3.4%、中学校2年生：3.2%）となっている。

経年でみると、「分類Ⅱ」は小学校2年生、中学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて低く、「分類Ⅲ」はいずれの学年でも前回調査に比べて高くなっている。

＜今回調査＞【図表 3-75 所得分類】



＜前回調査＞【図表 3-76 所得分類】

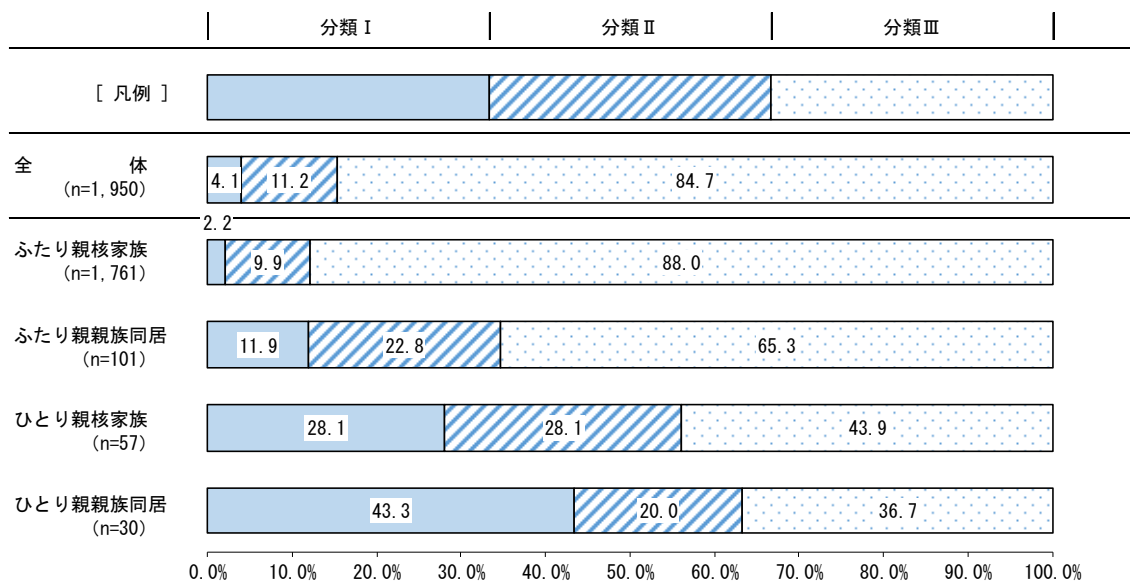


小学校2年生のいる世帯の所得分類を世帯構成別にみると、「分類Ⅰ」は『ふたり親親族同居』が11.9%、『ひとり親核家族』が28.1%と、全体に比べて高くなっている。また、「分類Ⅱ」は『ふたり親親族同居』が22.8%、『ひとり親核家族』が28.1%と、全体に比べて高くなっている。一方、「分類Ⅲ」は『ふたり親親族同居』が65.3%、『ひとり親核家族』が43.9%と、全体に比べて低くなっている。

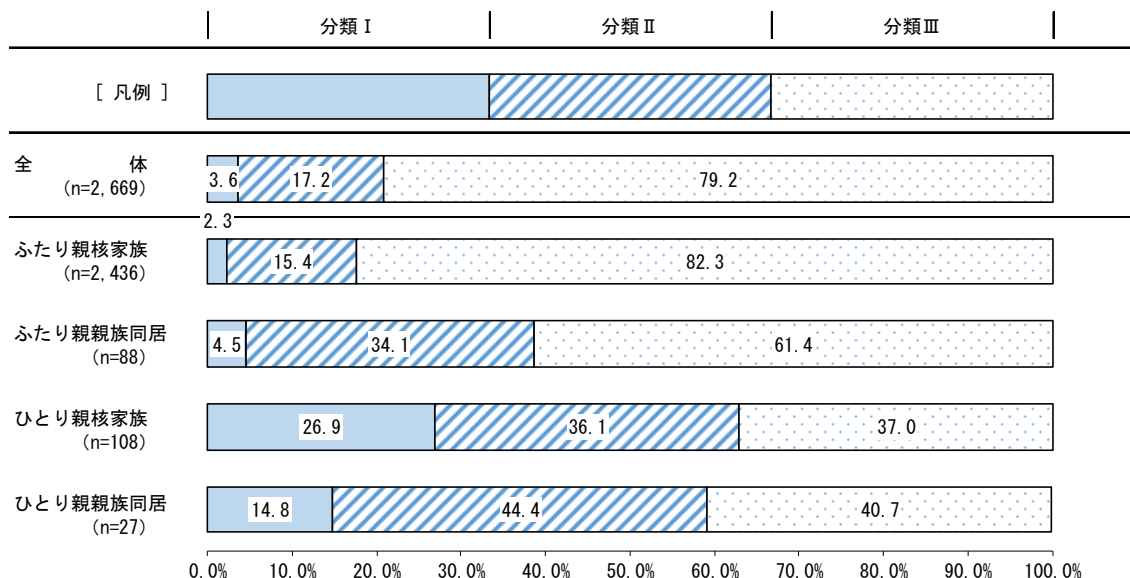
経年でみると、「分類Ⅰ」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高く、「分類Ⅱ」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-77 所得分類】(小学校2年生・世帯構成別)



<前回調査>【図表 3-78 所得分類】(小学校2年生・世帯構成別)

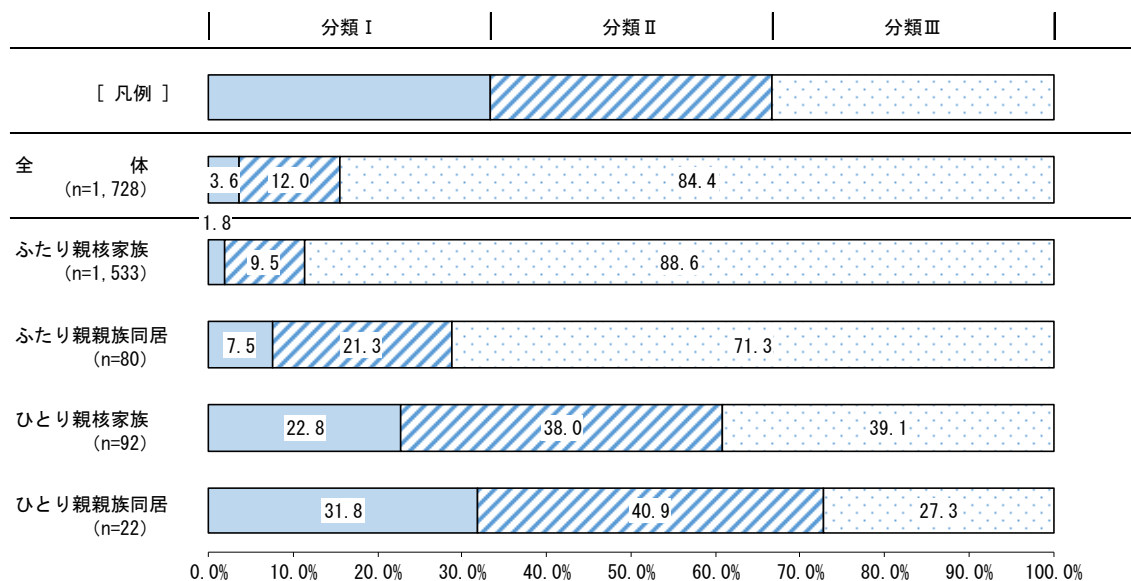


小学校5年生のいる世帯の所得分類を世帯構成別にみると、「分類Ⅰ」は『ひとり親核家族』が22.8%と、全体に比べて高くなっている。また、「分類Ⅱ」は『ふたり親親族同居』が21.3%、『ひとり親核家族』が38.0%と、全体に比べて高くなっている。一方、「分類Ⅲ」は『ふたり親親族同居』が71.3%、『ひとり親核家族』が39.1%と、それぞれ全体に比べて低くなっている。

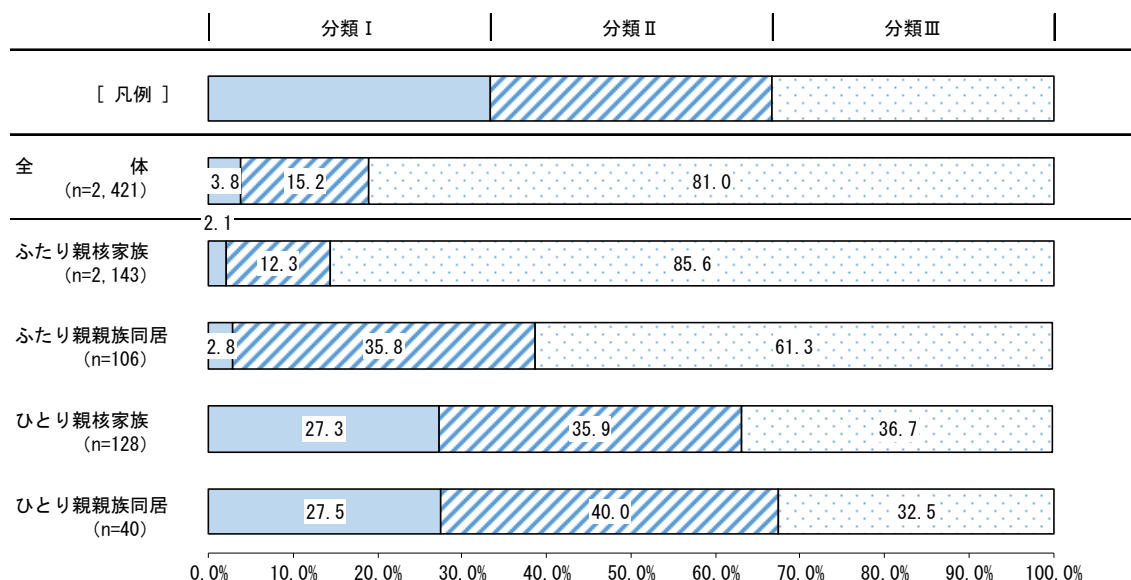
経年でみると、「分類Ⅱ」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、「分類Ⅲ」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-79 所得分類】（小学校5年生・世帯構成別）



<前回調査>【図表 3-80 所得分類】（小学校5年生・世帯構成別）

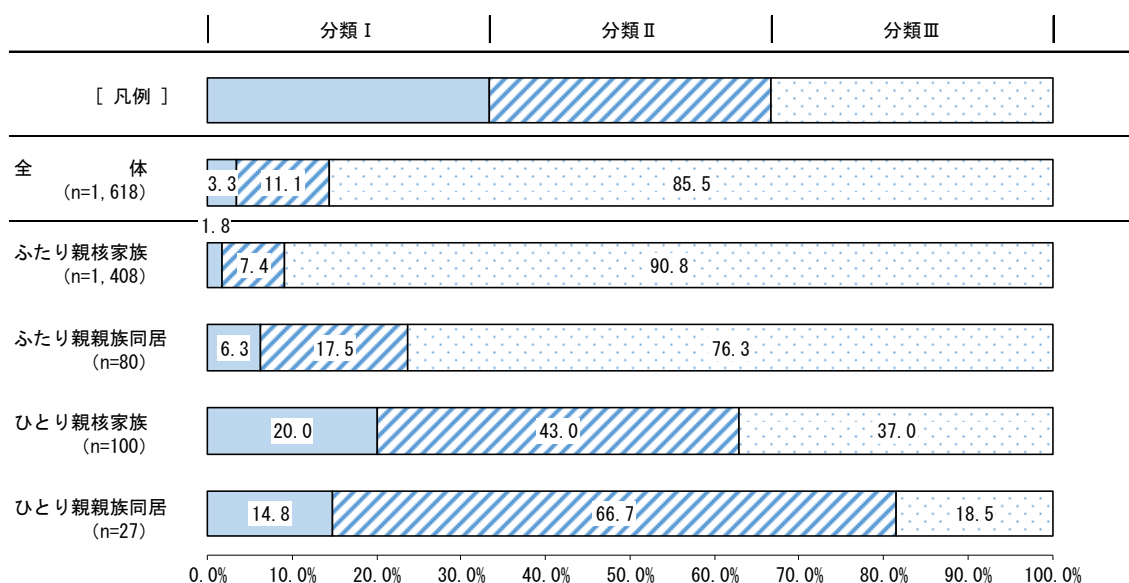


中学校2年生のいる世帯の所得分類を世帯構成別にみると、「分類Ⅰ」は『ひとり親核家族』が20.0%と、全体に比べて高くなっている。「分類Ⅱ」は『ふたり親親族同居』が17.5%、『ひとり親核家族』が43.0%と、全体に比べて高くなっている。一方、「分類Ⅲ」は『ふたり親核家族』が90.8%と全体に比べて高く、『ふたり親親族同居』が76.3%、『ひとり親核家族』が37.0%と、それぞれ全体に比べて低くなっている。

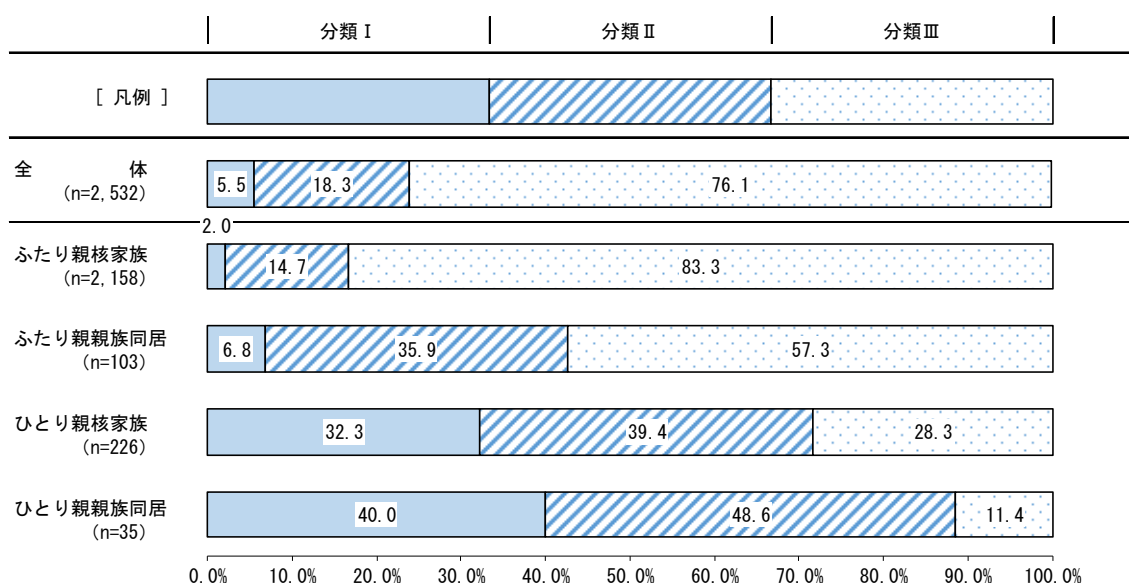
経年でみると、「分類Ⅰ」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「分類Ⅱ」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。「分類Ⅲ」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-81 所得分類】(中学校2年生・世帯構成別)



<前回調査>【図表 3-82 所得分類】(中学校2年生・世帯構成別)



(2) 世帯の家計状況

ア 公共料金等の未払いの経験【問31】(SA)

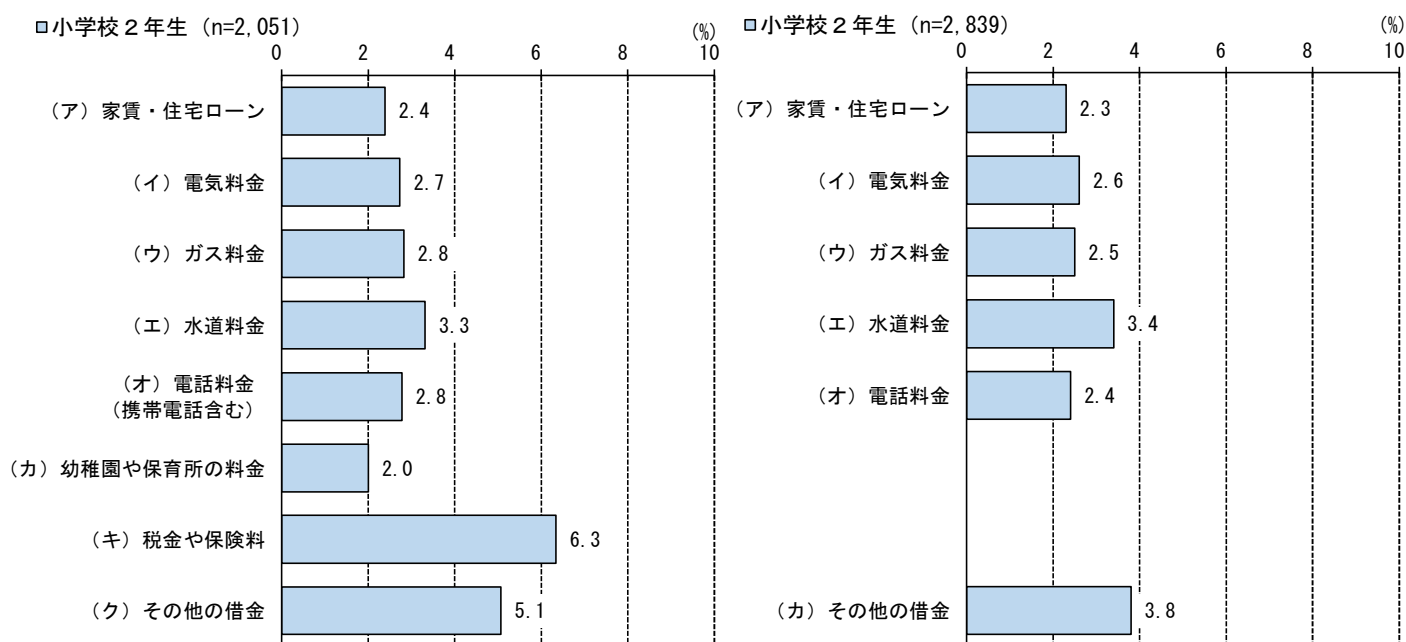
①-1 電気・ガス・水道等の未払いの有無（小学校2年生）

小学校2年生のいる世帯に電気・ガス・水道等の未払いの有無を聞いたところ、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた『一度でもあった』は、「税金や保険料」が6.3%と最も高くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 3-83 電気・ガス・水道等の未払いの有無『一度でもあった』】（小学校2年生）
 <今回調査> <前回調査>



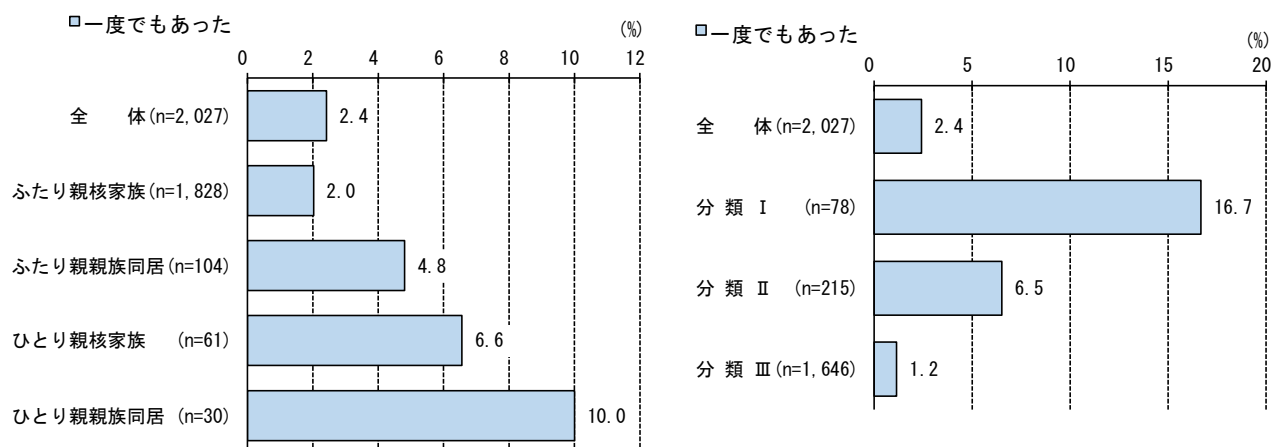
小学校2年生のいる世帯の家賃・住宅ローンの未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（16.7%）、『分類Ⅱ』（6.5%）、『分類Ⅲ』（1.2%）の順に高くなっている。

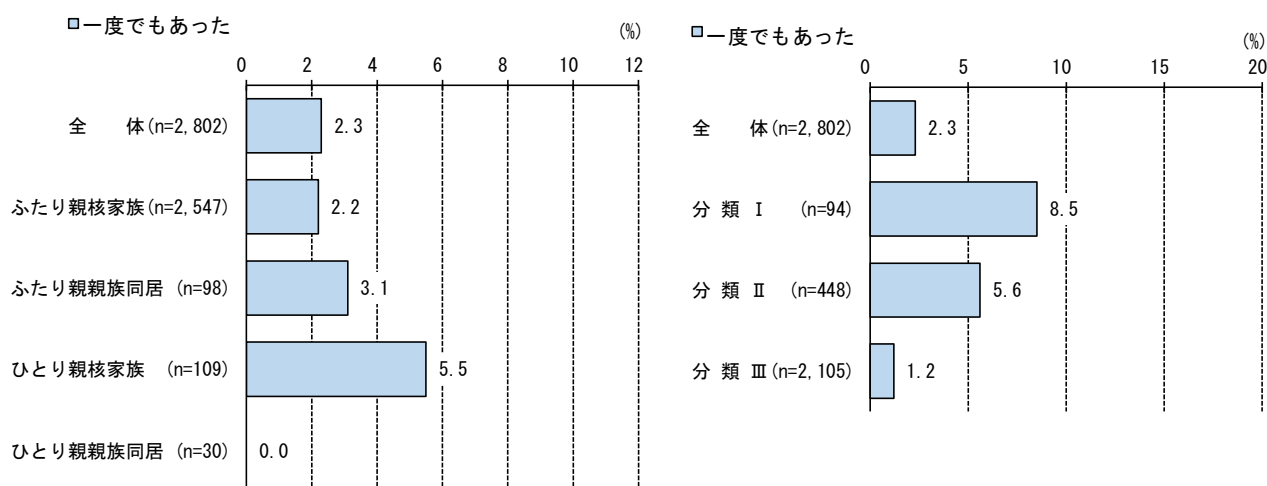
経年でみると、世帯構成別では大きな差はみられない。所得分類別では『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-84 (ア) 家賃・住宅ローンの未払いの有無】(小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



<前回調査>【図表 3-85 (ア) 家賃・住宅ローンの未払いの有無】(小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



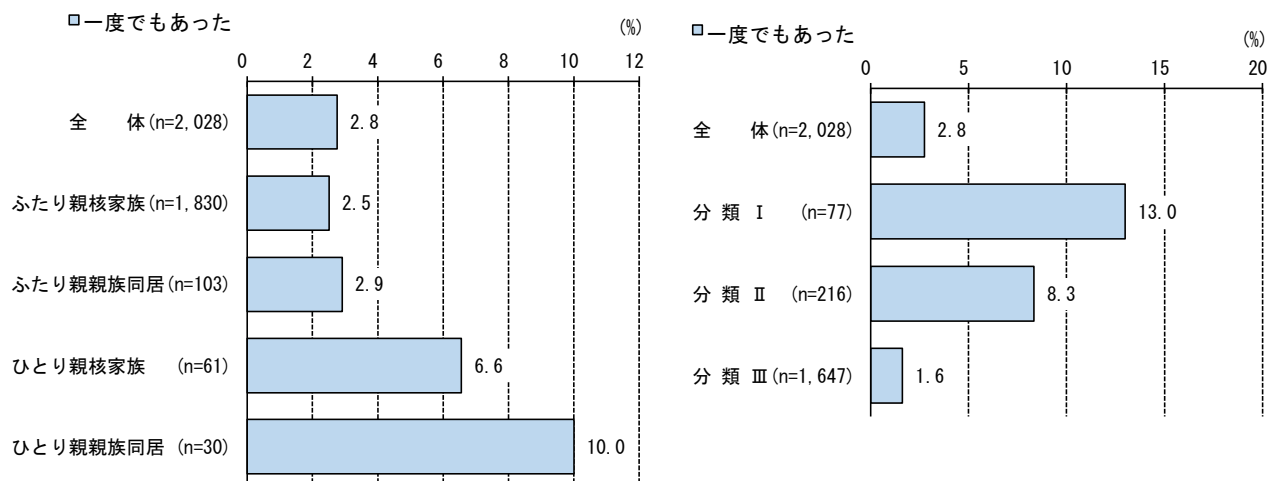
小学校2年生のいる世帯の電気料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（13.0%）、『分類Ⅱ』（8.3%）、『分類Ⅲ』（1.6%）の順に高くなっている。

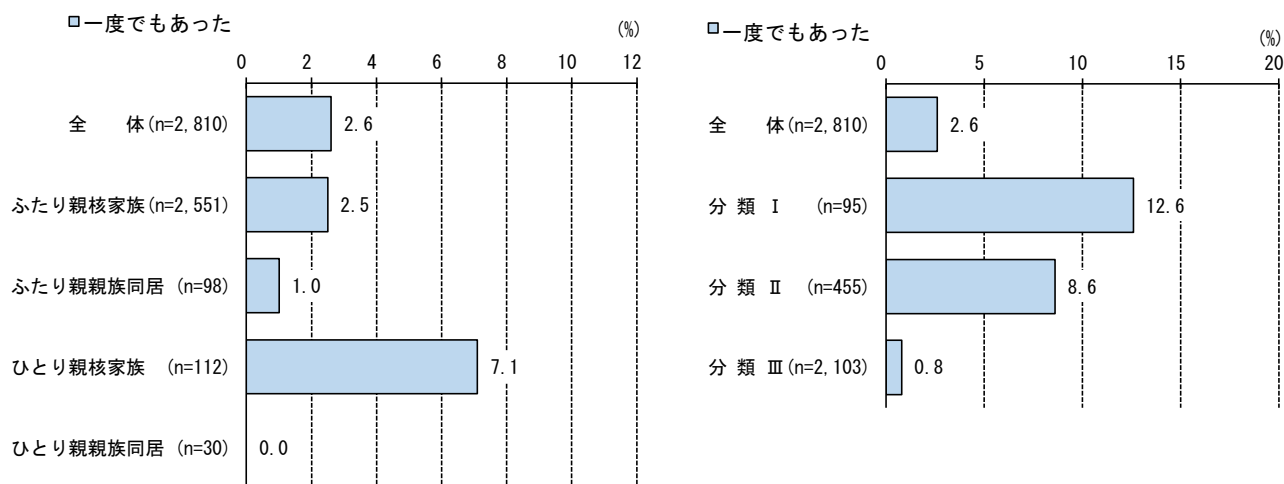
経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-86 (イ) 電気料金の未払いの有無】（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-87 (イ) 電気料金の未払いの有無】（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



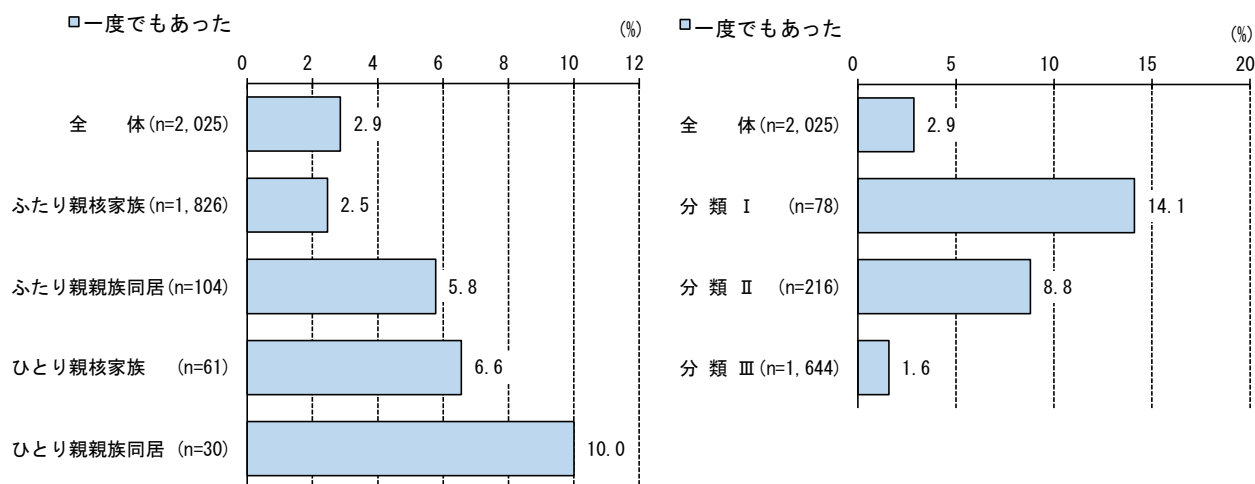
小学校2年生のいる世帯のガス料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（14.1%）、『分類Ⅱ』（8.8%）、『分類Ⅲ』（1.6%）の順に高くなっている。

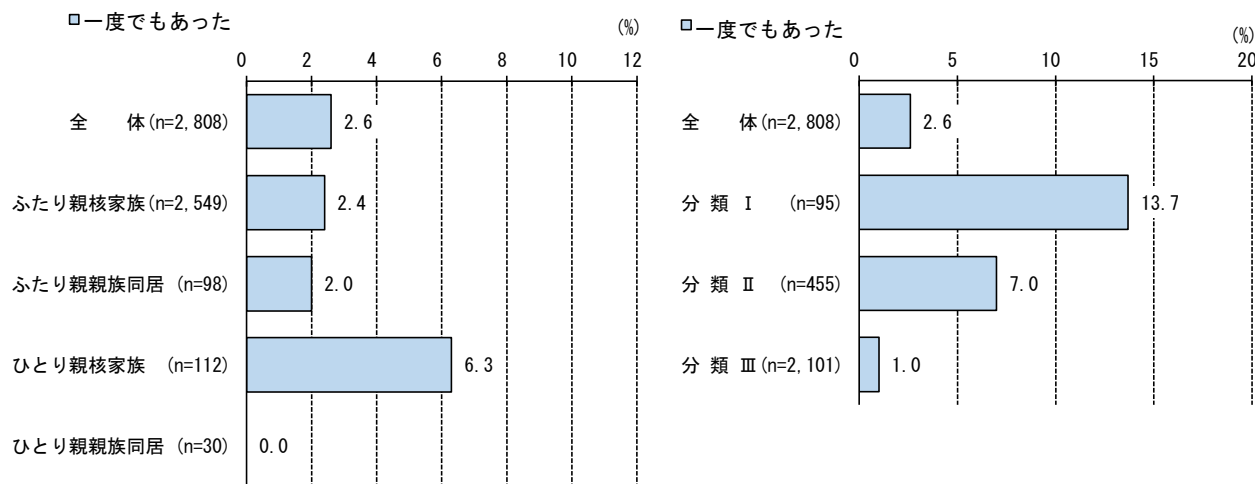
経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-88 （ウ）ガス料金の未払いの有無】（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-89 （ウ）ガス料金の未払いの有無】（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



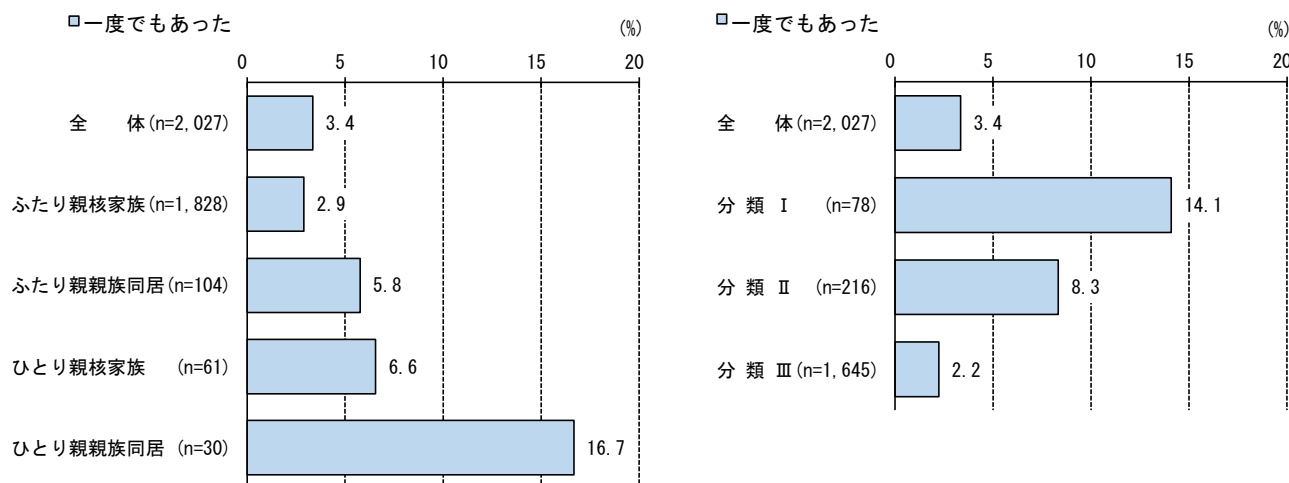
小学校2年生のいる世帯の水道料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（14.1%）、『分類Ⅱ』（8.3%）、『分類Ⅲ』（2.2%）の順に高くなっている。

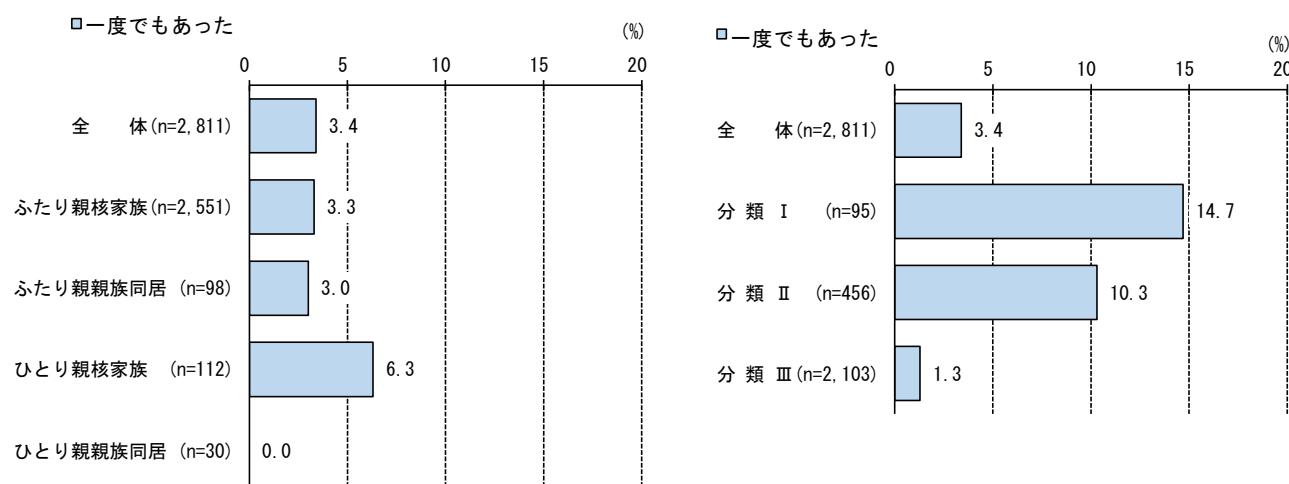
経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-90 (エ) 水道料金の未払いの有無】(小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



<前回調査>【図表 3-91 (エ) 水道料金の未払いの有無】(小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



小学校2年生のいる世帯の電話料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が9.8%と全体に比べて高くなっている。

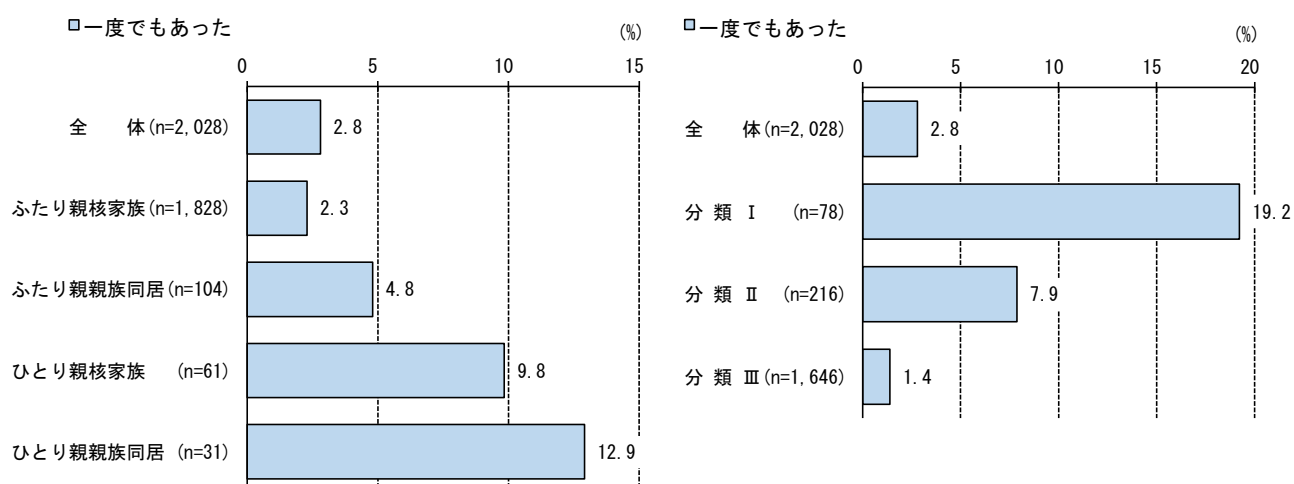
所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（19.2%）、『分類Ⅱ』（7.9%）、『分類Ⅲ』（1.4%）の順に高くなっている。

経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

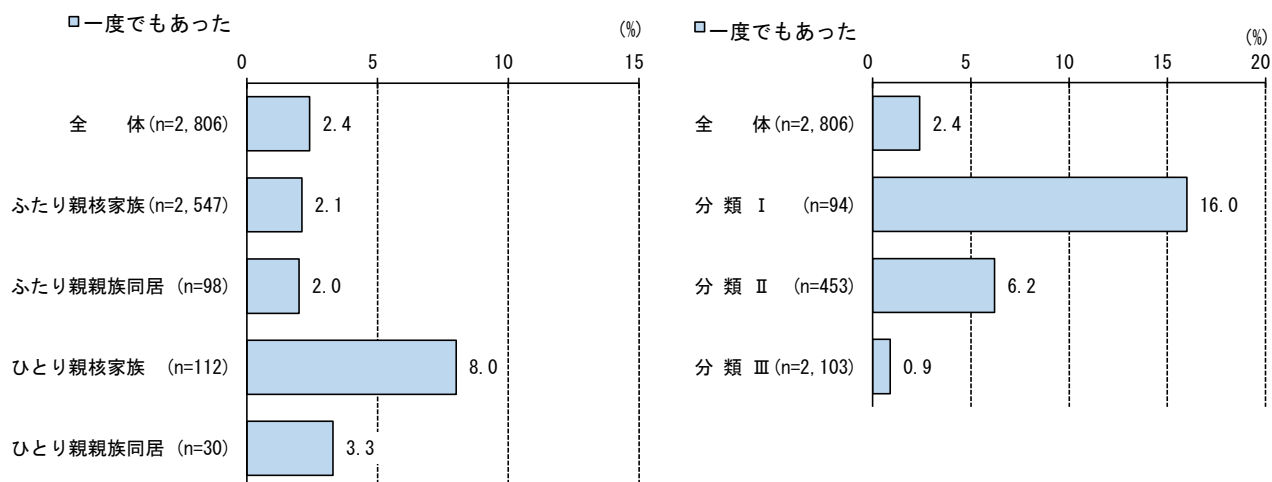
＜今回調査＞【図表 3-92 （オ）電話料金（携帯電話含む）の未払いの有無】

（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-93 （オ）電話料金（携帯電話含む）の未払いの有無】

（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



小学校2年生のいる世帯の幼稚園や保育所の料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

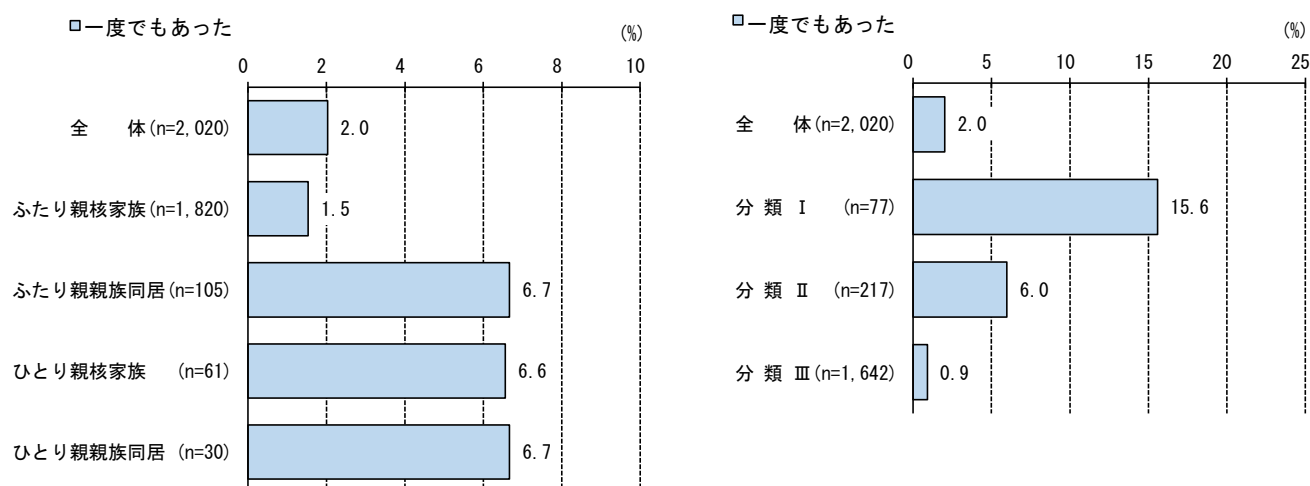
所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（15.6%）、『分類Ⅱ』（6.0%）、『分類Ⅲ』（0.9%）の順に高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査には、この設問は含まれていない。

＜今回調査＞【図表 3-94 （カ）幼稚園や保育所の料金の未払いの有無】

（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



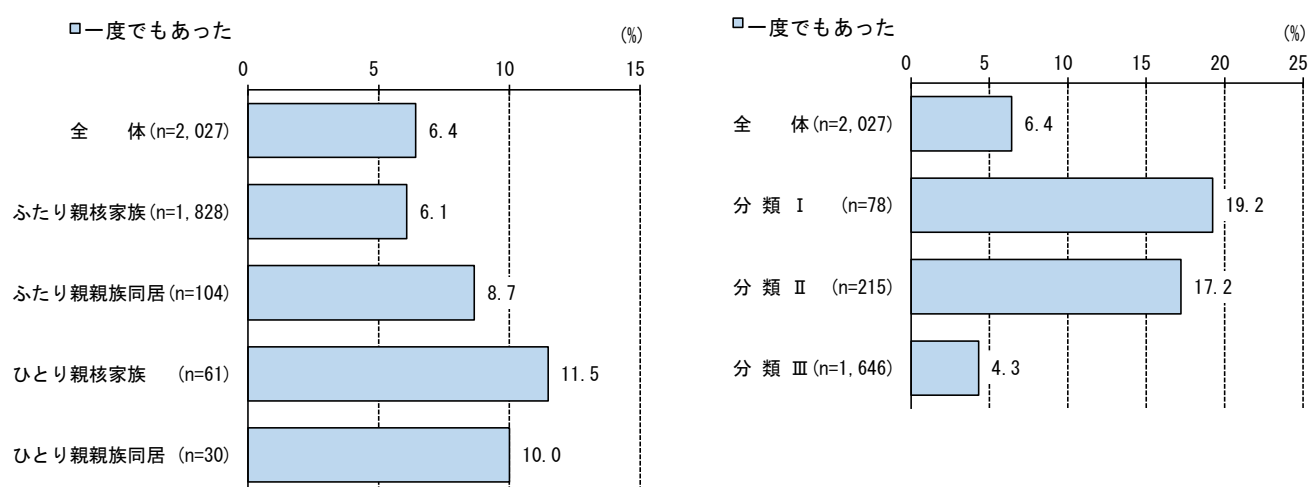
小学校2年生のいる世帯の税金や保険料の未払いの有無を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が11.5%と全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（19.2%）、『分類Ⅱ』（17.2%）、『分類Ⅲ』（4.3%）の順に高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査には、この設問は含まれていない。

＜今回調査＞【図表 3-95 （キ）税金や保険料の未払いの有無】（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



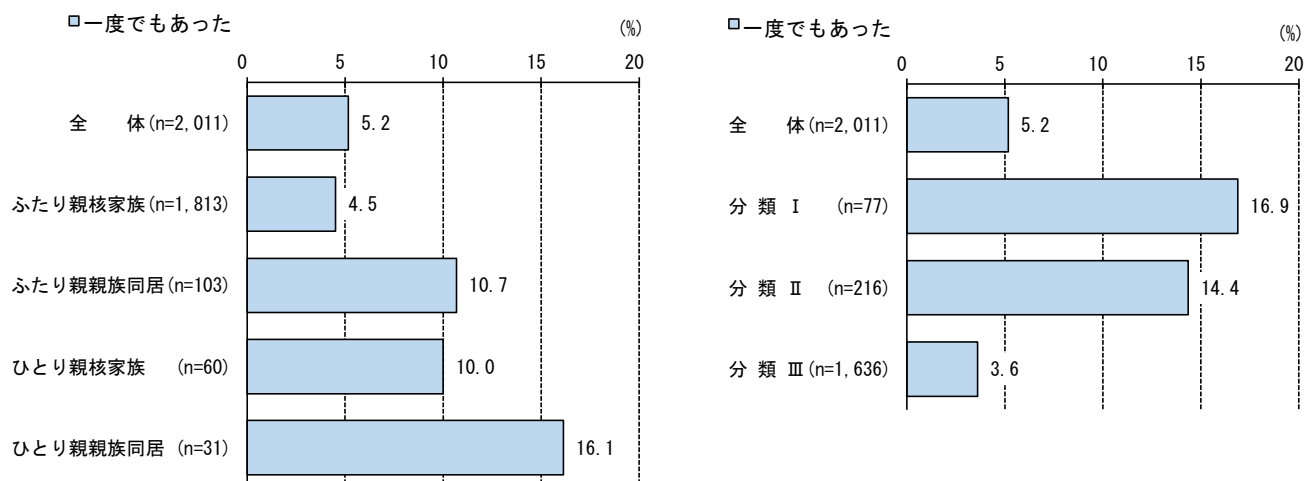
小学校2年生のいる世帯のその他の借金の未払いの有無を世帯構成別にみると、『ふたり親親族同居』が10.7%と、全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』(16.9%)、『分類Ⅱ』(14.4%)、『分類Ⅲ』(3.6%)の順に高くなっている。

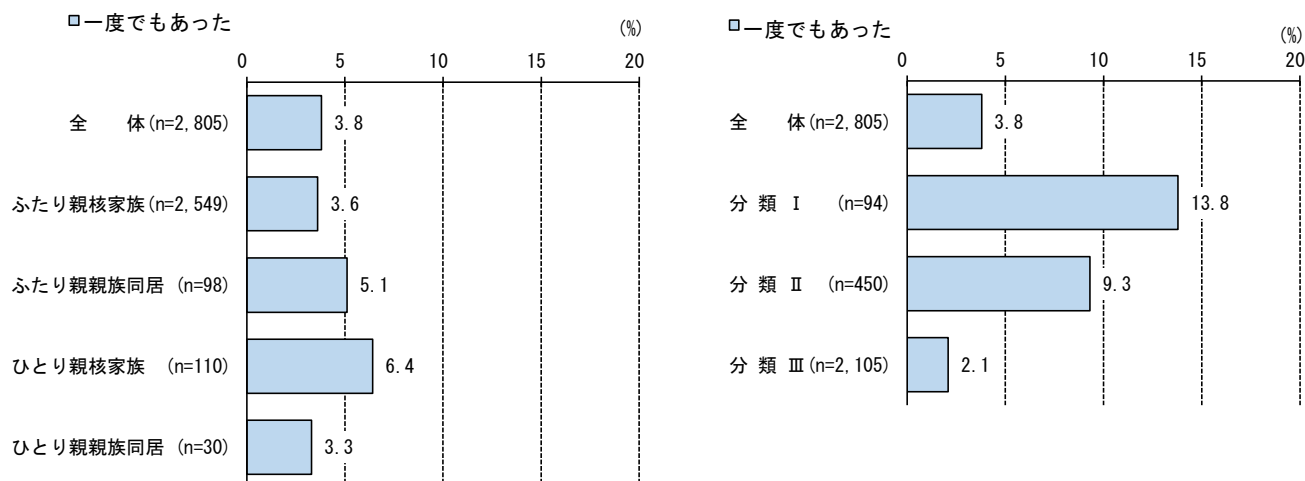
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問内容が異なるため、参考値とし、経年比較は行わない。

＜今回調査＞【図表 3-96 (ク) その他の借金の未払いの有無】(小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-97 (カ) その他の借金の未払いの有無】(小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



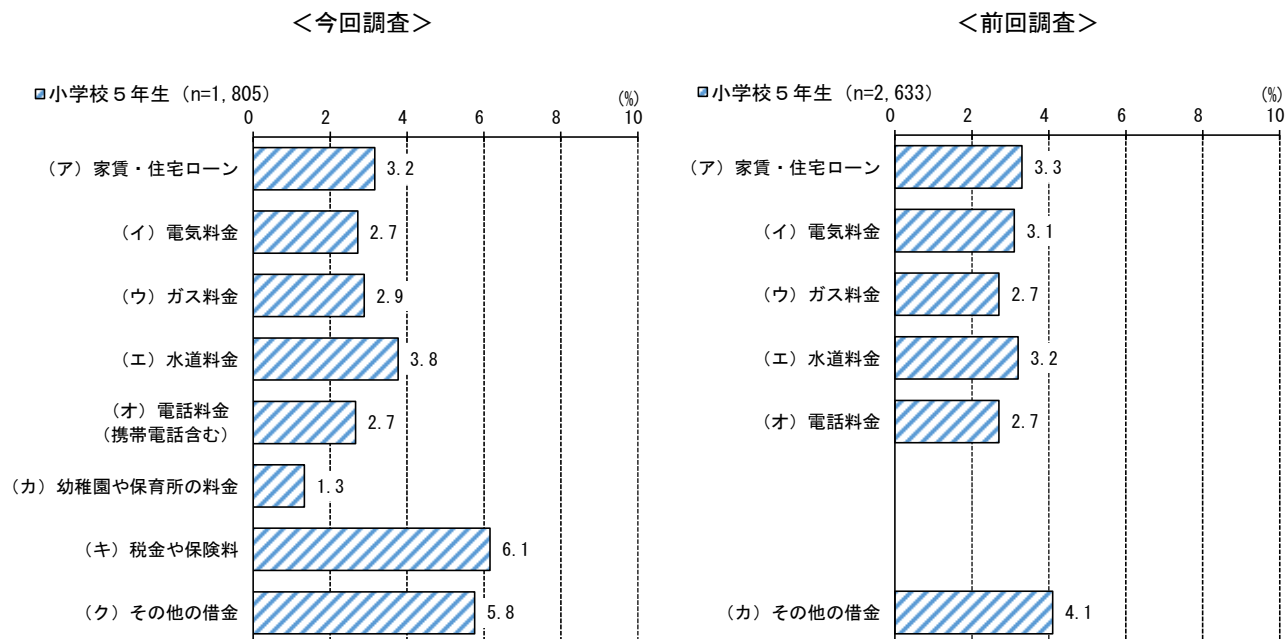
①-2 電気・ガス・水道等の未払いの有無（小学校5年生）

小学校5年生のいる世帯に電気・ガス・水道等の未払いの有無を聞いたところ、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた『一度でもあった』は、「税金や保険料」が6.1%と最も高くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 3-98 電気・ガス・水道等の未払いの有無『一度でもあった』】（小学校5年生）



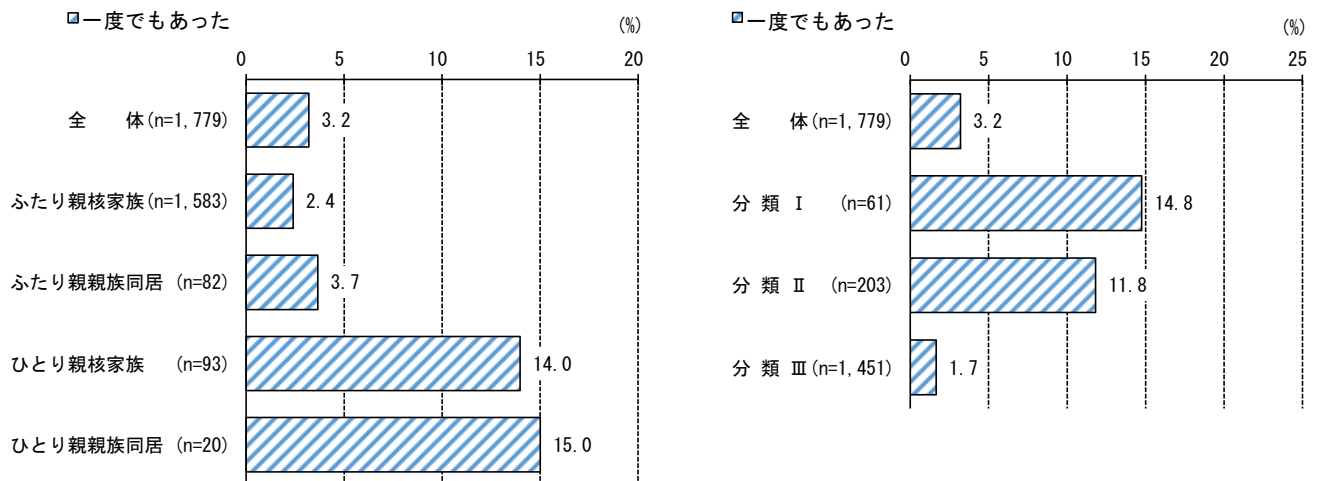
小学校5年生のいる世帯の家賃・住宅ローンの未払いの有無を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が14.0%と、全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』(14.8%)、『分類Ⅱ』(11.8%)、『分類Ⅲ』(1.7%)の順に高くなっている。

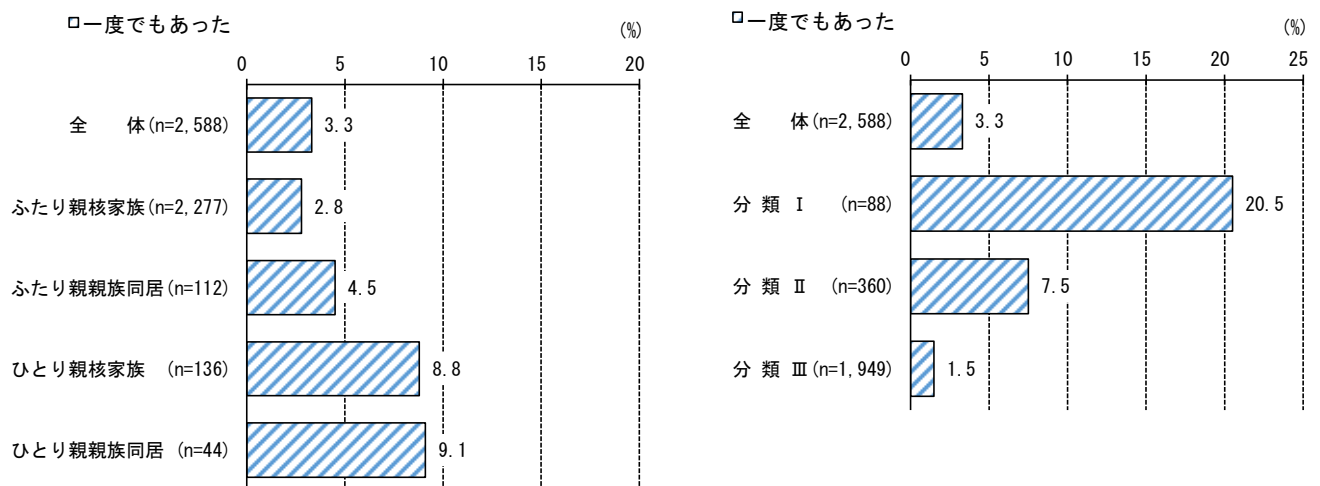
経年でみると、世帯構成別では『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。所得分類別では『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-99 (ア) 家賃・住宅ローンの未払いの有無】(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-100 (ア) 家賃・住宅ローンの未払いの有無】(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



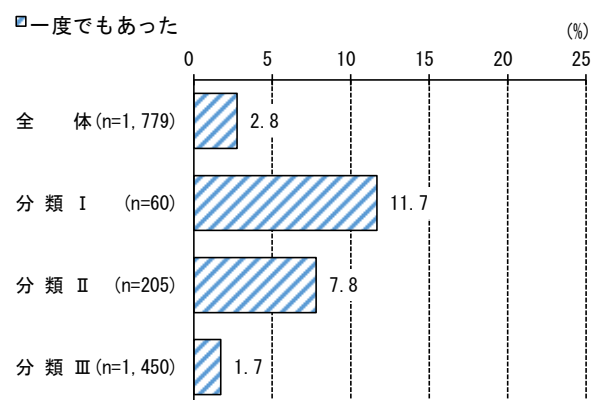
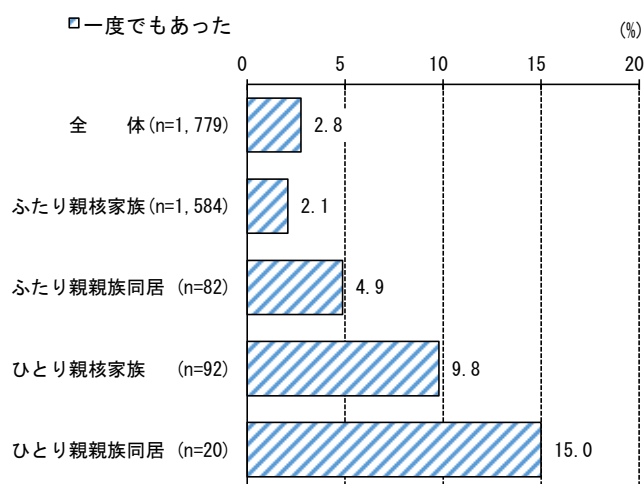
小学校5年生のいる世帯の電気料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が9.8%と、全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』(11.7%)、『分類Ⅱ』(7.8%)、『分類Ⅲ』(1.7%)の順に高くなっている。

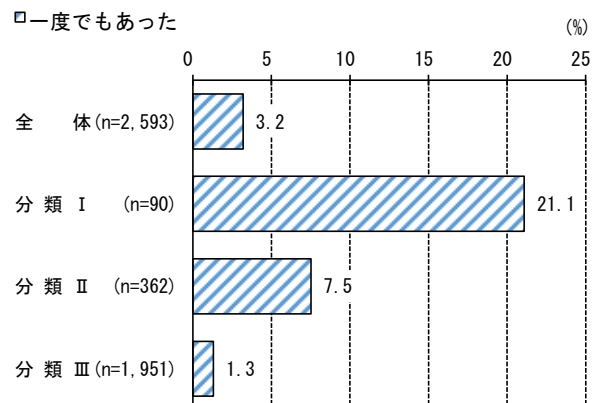
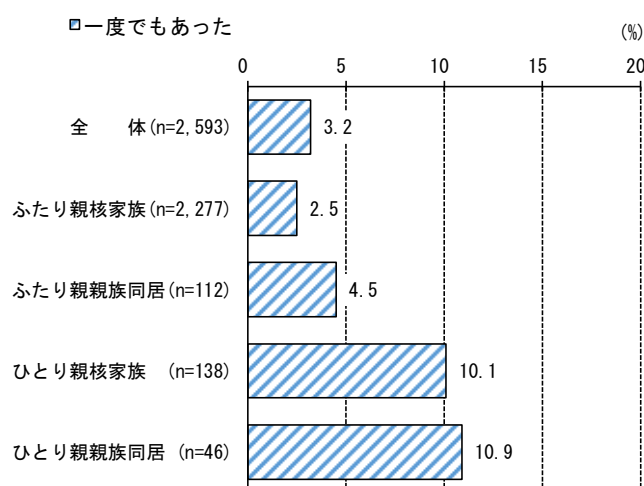
経年でみると、世帯構成別では大きな差はみられない。所得分類別では『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-101 (イ) 電気料金の未払いの有無】(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-102 (イ) 電気料金の未払いの有無】(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



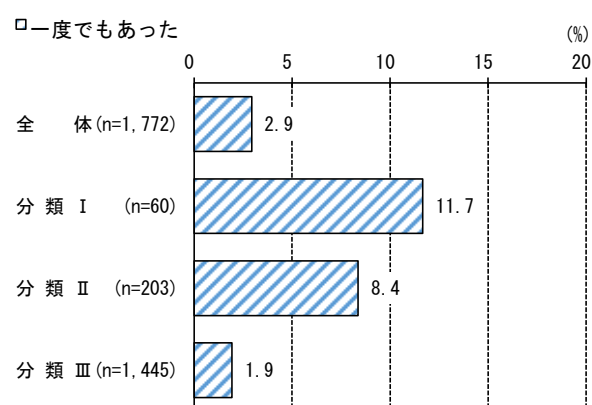
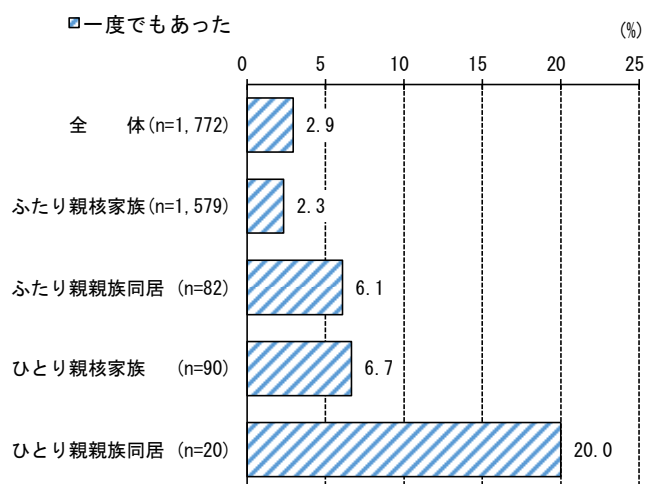
小学校5年生のいる世帯のガス料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（11.7%）、『分類Ⅱ』（8.4%）、『分類Ⅲ』（1.9%）の順に高くなっている。

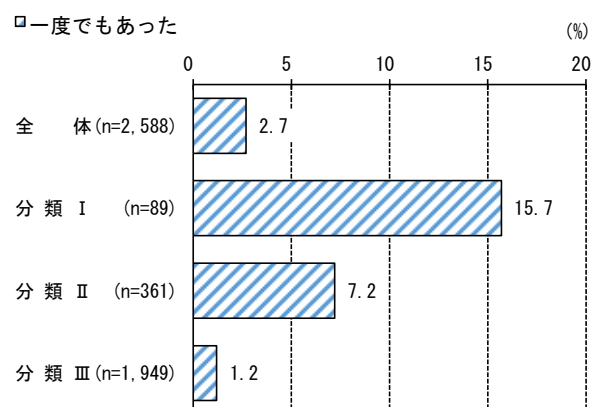
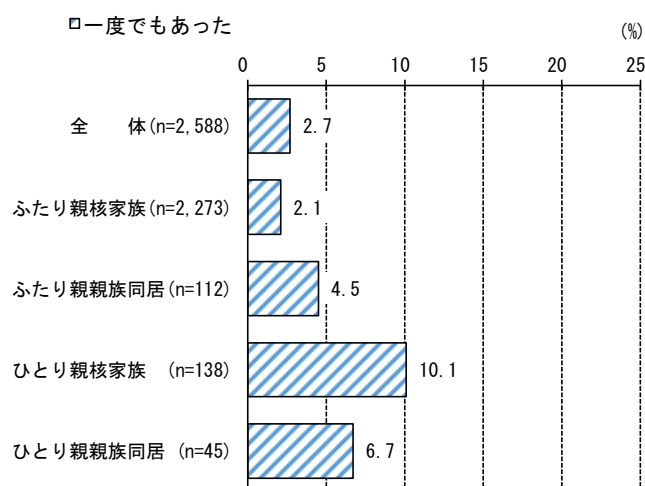
経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-103 (ウ) ガス料金の未払いの有無】（小学校5年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-104 (ウ) ガス料金の未払いの有無】（小学校5年生・世帯構成別、所得分類別）



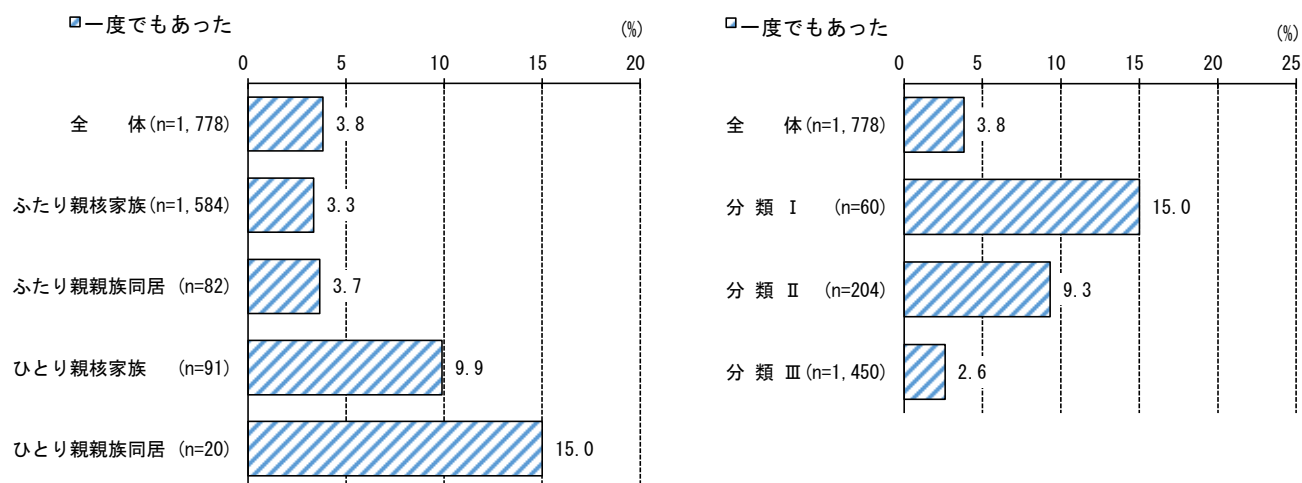
小学校5年生のいる世帯の水道料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が9.9%と、全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』(15.0%)、『分類Ⅱ』(9.3%)、『分類Ⅲ』(2.6%)の順に高くなっている。

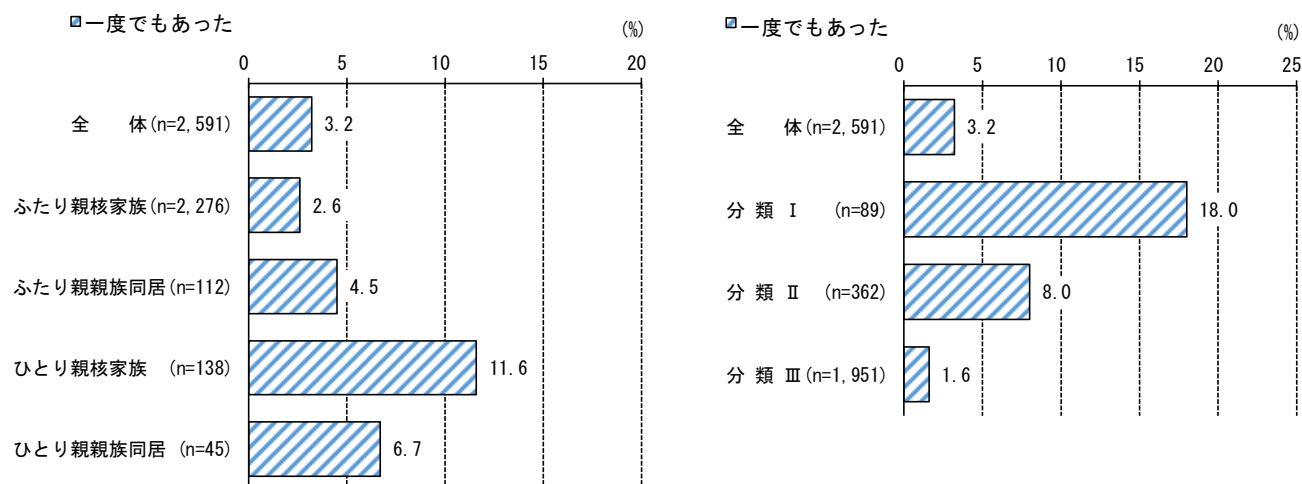
経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-105 (エ) 水道料金の未払いの有無】(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-106 (エ) 水道料金の未払いの有無】(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



小学校5年生のいる世帯の電話料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が7.7%と、全体に比べて高くなっている。

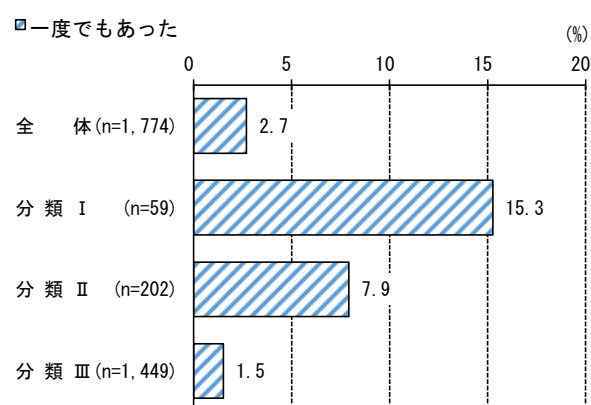
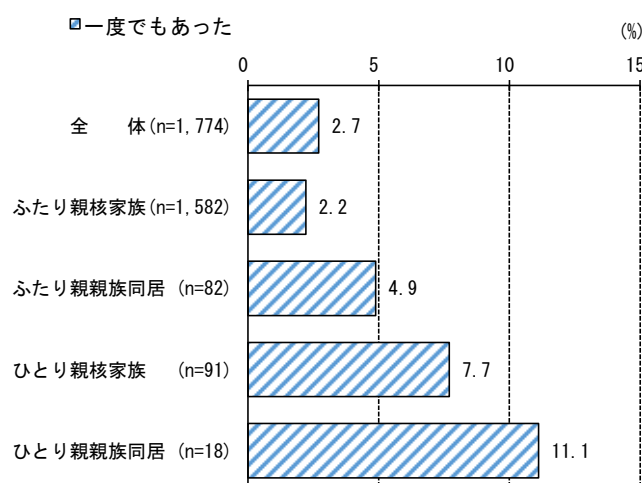
所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（15.3%）、『分類Ⅱ』（7.9%）、『分類Ⅲ』（1.5%）の順に高くなっている。

経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

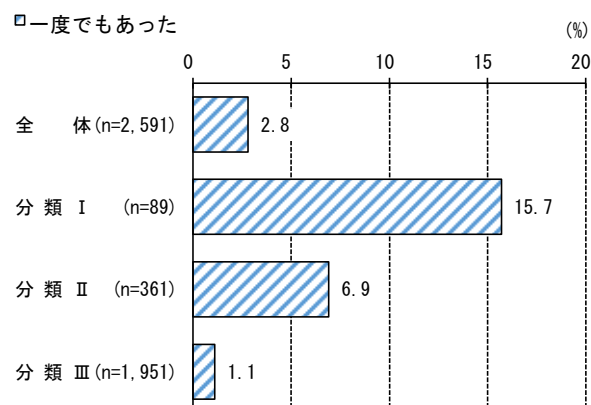
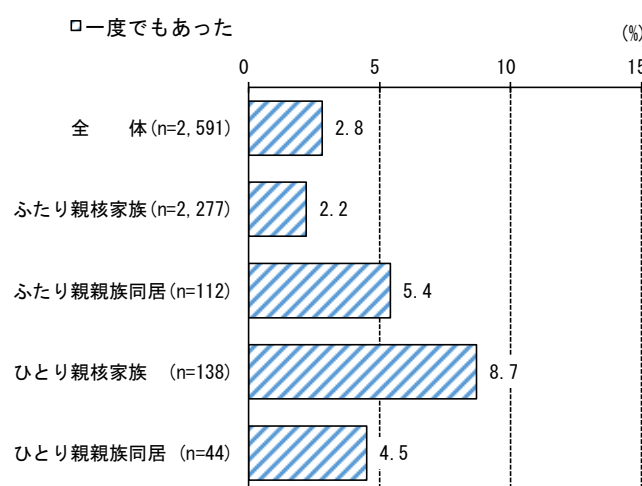
＜今回調査＞【図表 3-107 （オ）電話料金（携帯電話含む）の未払いの有無】

（小学校5年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-108 （オ）電話料金（携帯電話含む）の未払いの有無】

（小学校5年生・世帯構成別、所得分類別）



小学校5年生のいる世帯の幼稚園や保育所の料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が7.8%と、全体に比べて高くなっている。

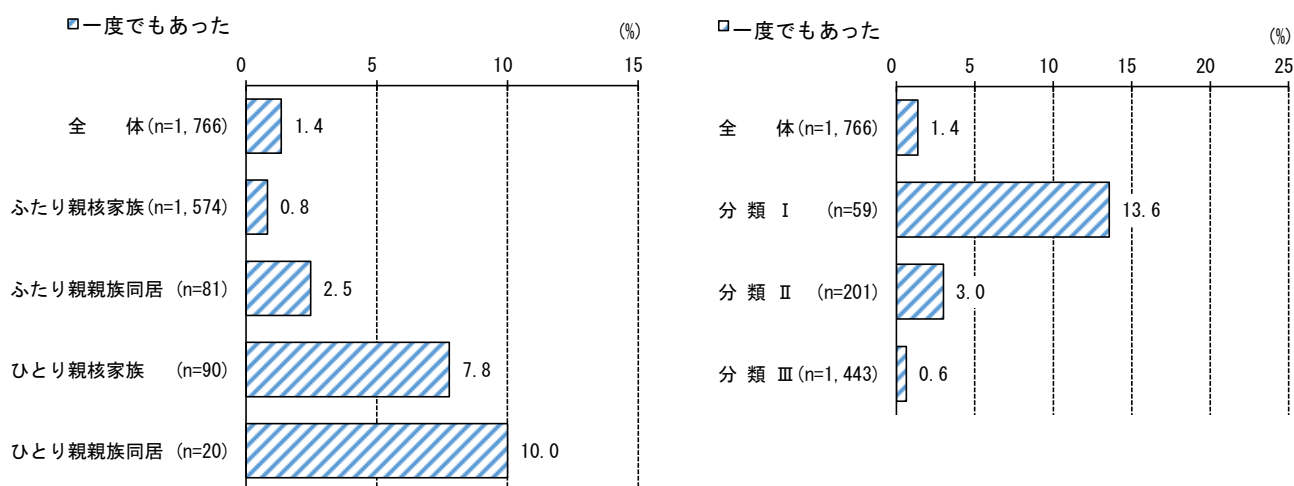
所得分類別にみると、『分類Ⅰ』(13.6%)、『分類Ⅱ』(3.0%)、『分類Ⅲ』(0.6%)の順に高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査には、この設問は含まれていない。

＜今回調査＞【図表 3-109 (力) 幼稚園や保育所の料金の未払いの有無】

(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



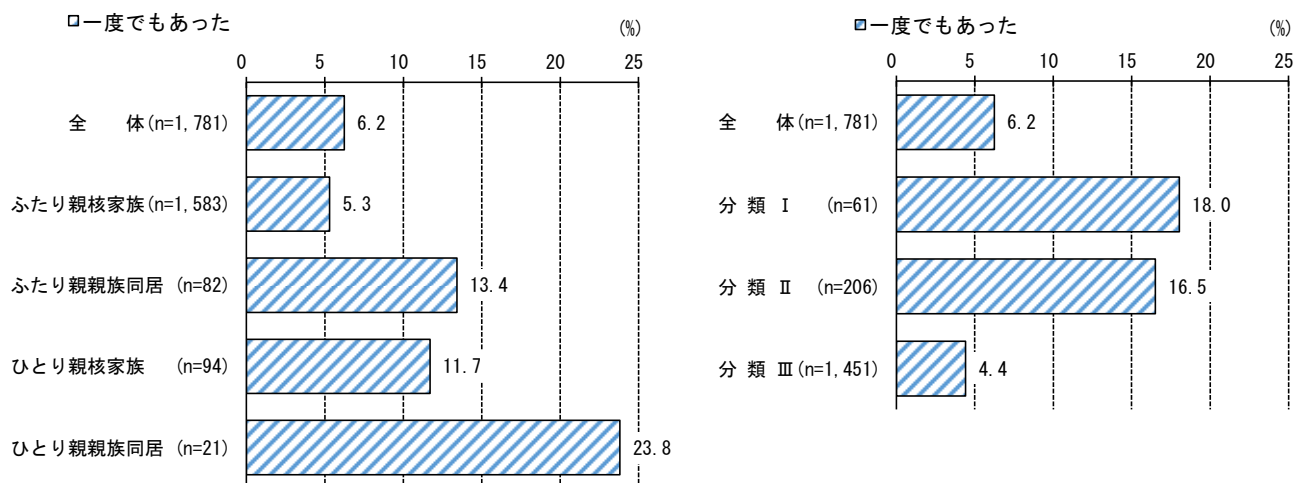
小学校5年生のいる世帯の税金や保険料の未払いの有無を世帯構成別にみると、『ふたり親親族同居』が13.4%、『ひとり親核家族』が11.7%と、全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』(18.0%)、『分類Ⅱ』(16.5%)、『分類Ⅲ』(4.4%)の順に高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査には、この設問は含まれていない。

＜今回調査＞【図表 3-110 (キ) 税金や保険料の未払いの有無】(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



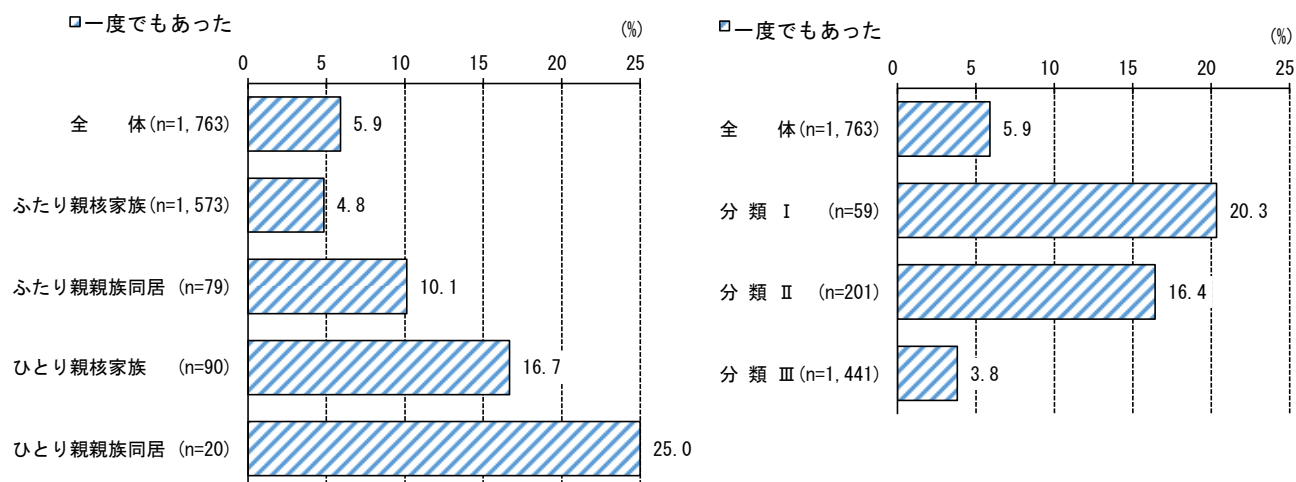
小学校5年生のいる世帯のその他の借金の未払いの有無を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が16.7%と、全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』(20.3%)、『分類Ⅱ』(16.4%)、『分類Ⅲ』(3.8%)の順に高くなっている。

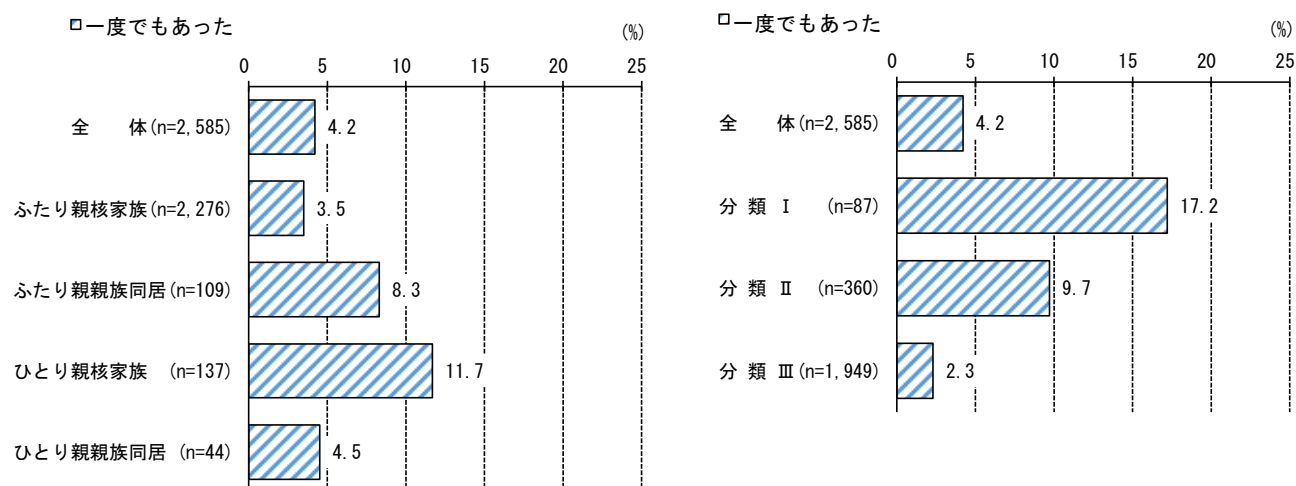
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問内容が異なるため、参考値とし、経年比較は行わない。

＜今回調査＞【図表 3-111 (ク) その他の借金の未払いの有無】(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-112 (カ) その他の借金の未払いの有無】(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



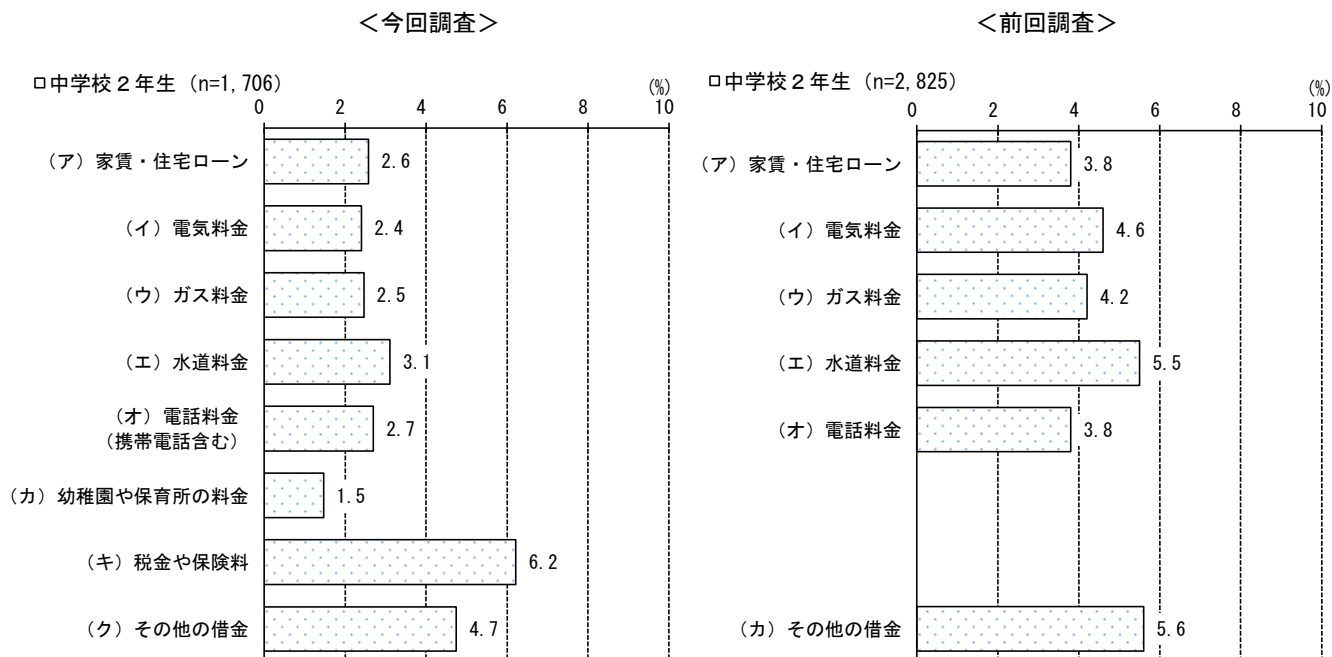
①-3 電気・ガス・水道等の未払いの有無（中学校2年生）

中学校2年生のいる世帯に電気・ガス・水道等の未払いの有無を聞いたところ、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた『一度でもあった』は、「税金や保険料」が6.2%と最も高くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 3-113 電気・ガス・水道等の未払いの有無『一度でもあった』】（中学校2年生）



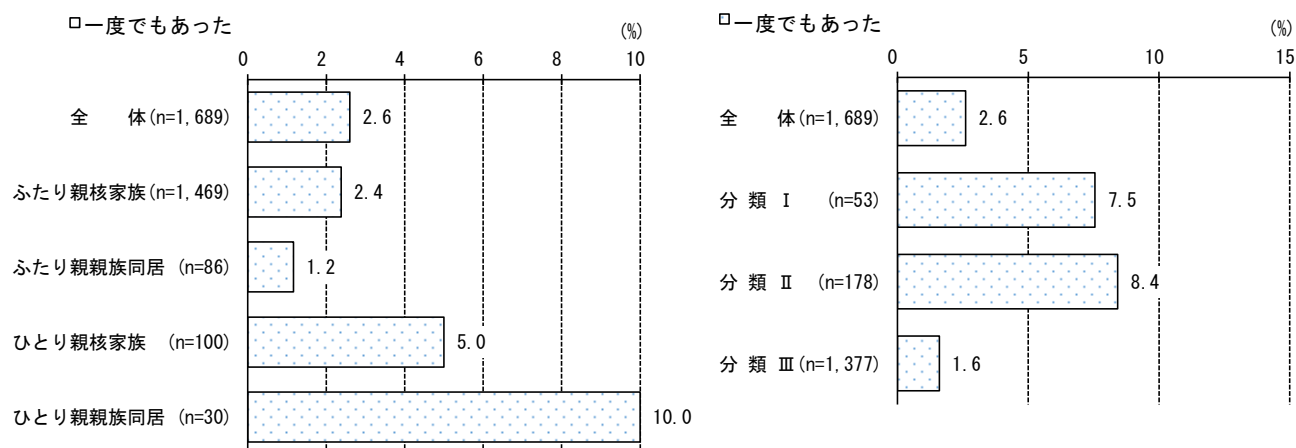
中学校2年生のいる世帯の家賃・住宅ローンの未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、『分類Ⅱ』（8.4%）、『分類Ⅰ』（7.5%）、『分類Ⅲ』（1.6%）の順に高くなっている。

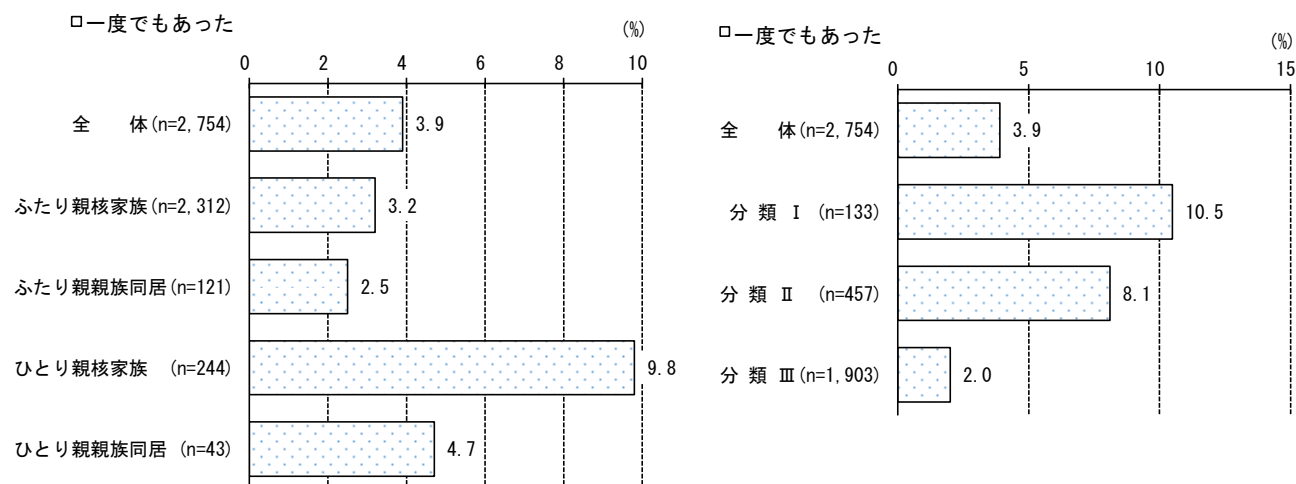
経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-114 （ア）家賃・住宅ローンの未払いの有無】（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-115 （ア）家賃・住宅ローンの未払いの有無】（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



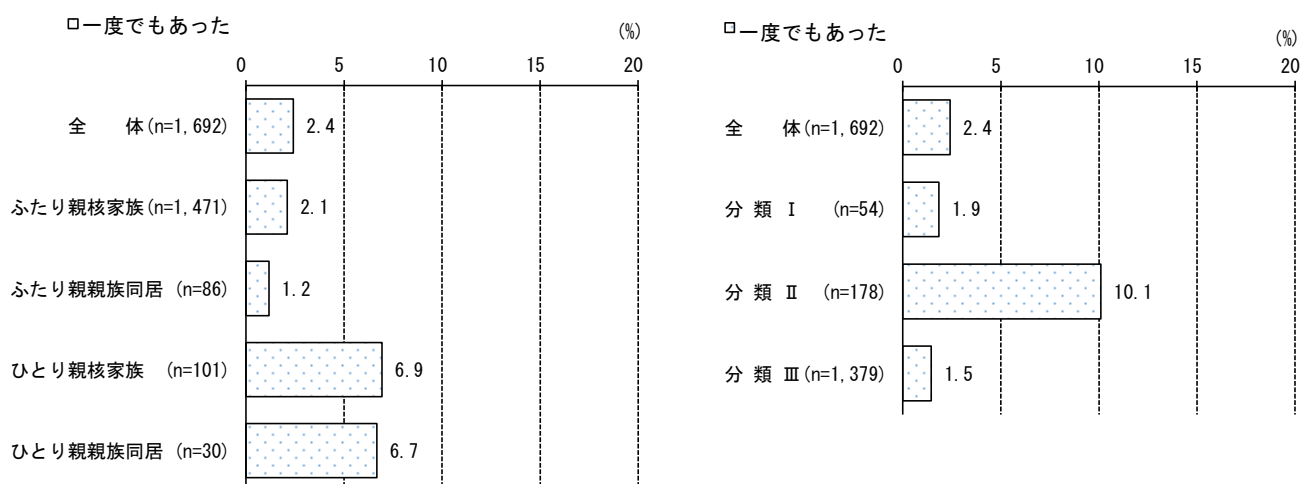
中学校2年生のいる世帯の電気料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、『分類Ⅱ』（10.1%）、『分類Ⅰ』（1.9%）、『分類Ⅲ』（1.5%）の順に高くなっている。

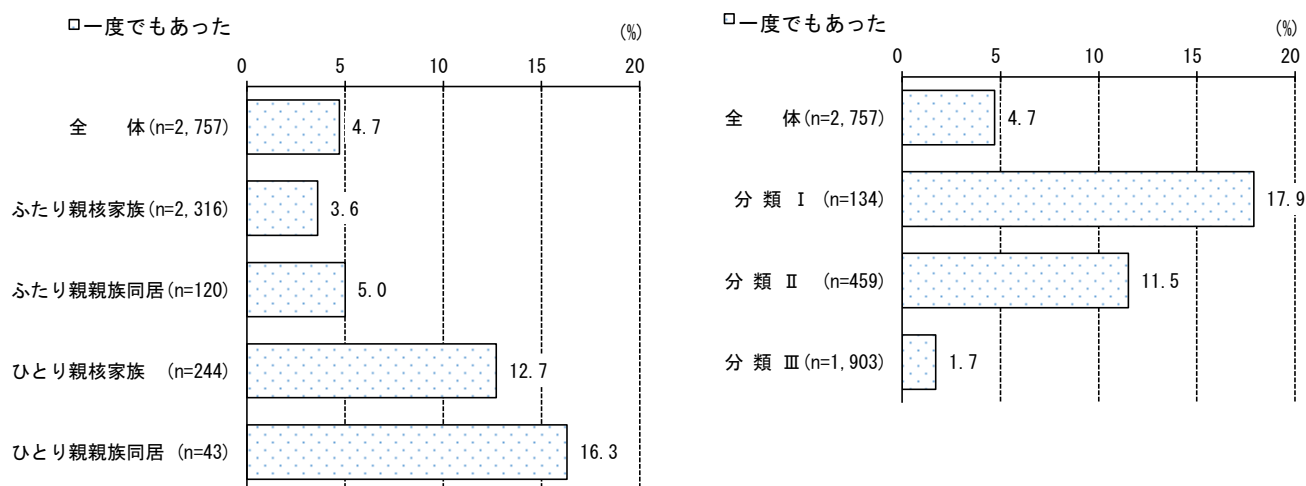
経年でみると、世帯構成別では『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。所得分類別では『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-116 （イ）電気料金の未払いの有無】（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-117 （イ）電気料金の未払いの有無】（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



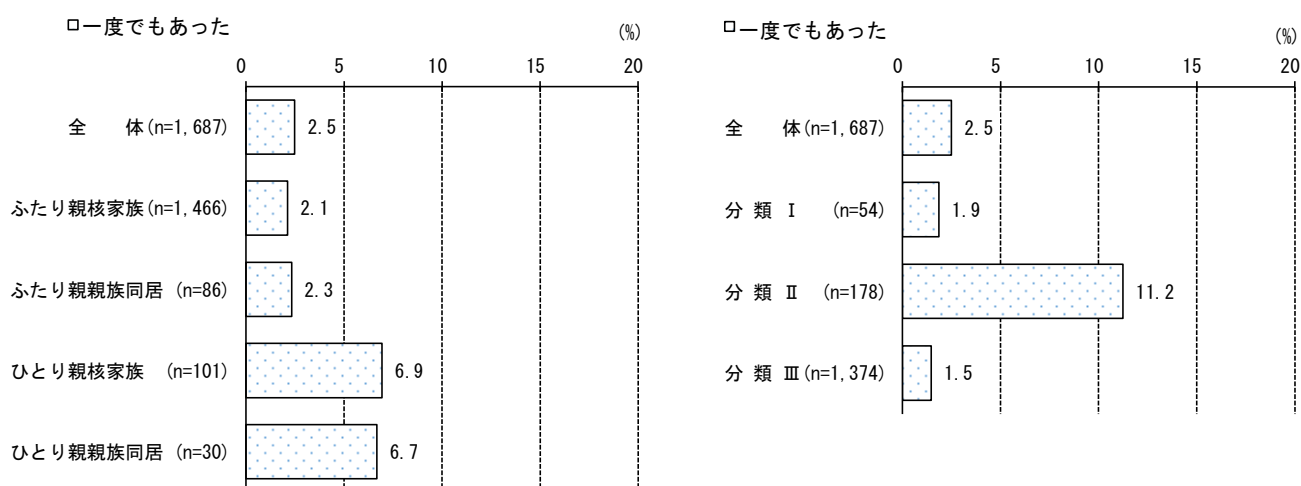
中学校2年生のいる世帯のガス料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、『分類Ⅱ』（11.2%）、『分類Ⅰ』（1.9%）、『分類Ⅲ』（1.5%）の順に高くなっている。

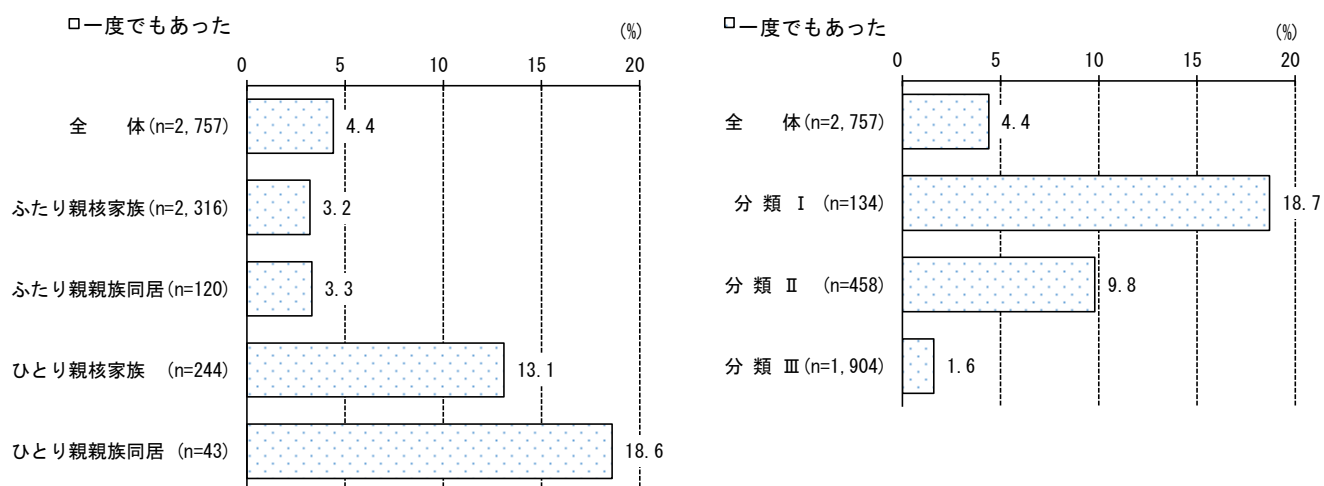
経年でみると、世帯構成別では『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。所得分類別では『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-118 （ウ）ガス料金の未払いの有無】中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-119 （ウ）ガス料金の未払いの有無】（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



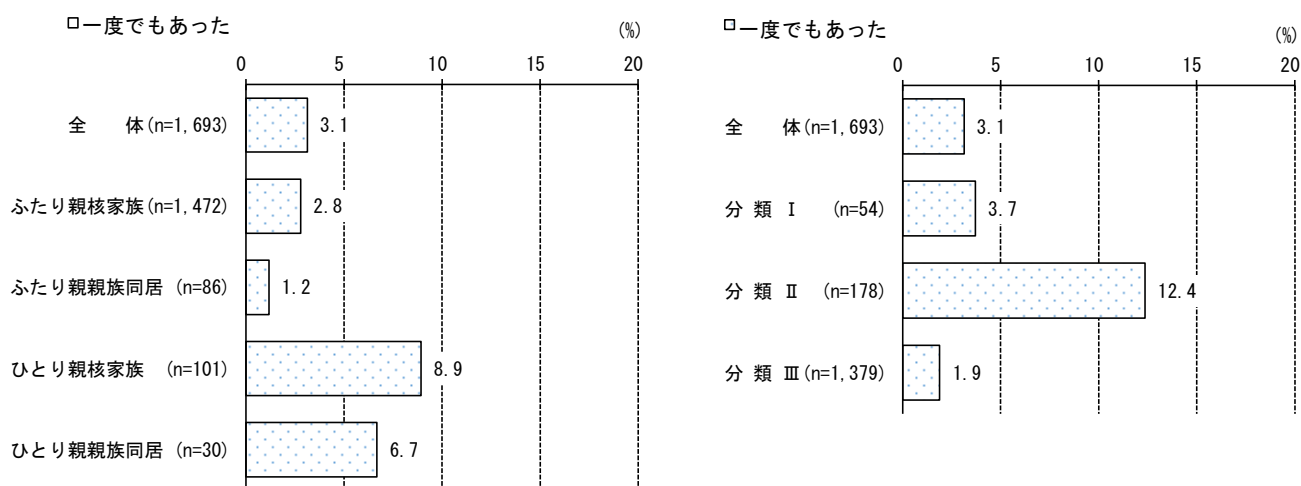
中学校2年生のいる世帯の水道料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が8.9%と全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅱ』(12.4%)、『分類Ⅰ』(3.7%)、『分類Ⅲ』(1.9%)の順に高くなっている。

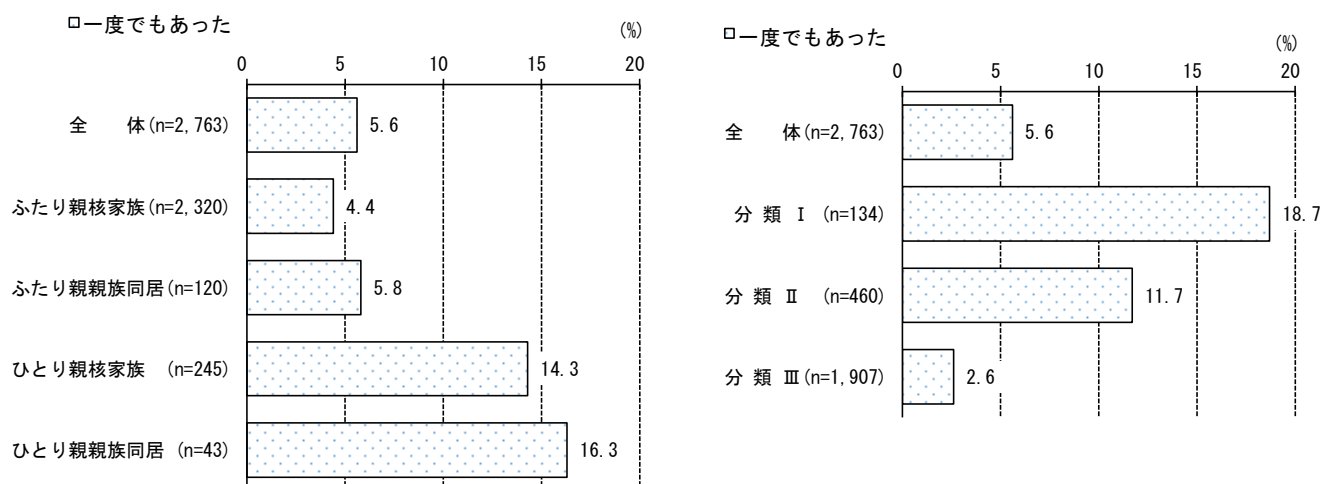
経年でみると、世帯構成別では『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。所得分類別では『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-120 (エ) 水道料金の未払いの有無】(中学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-121 (エ) 水道料金の未払いの有無】(中学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



中学校2年生のいる世帯の電話料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

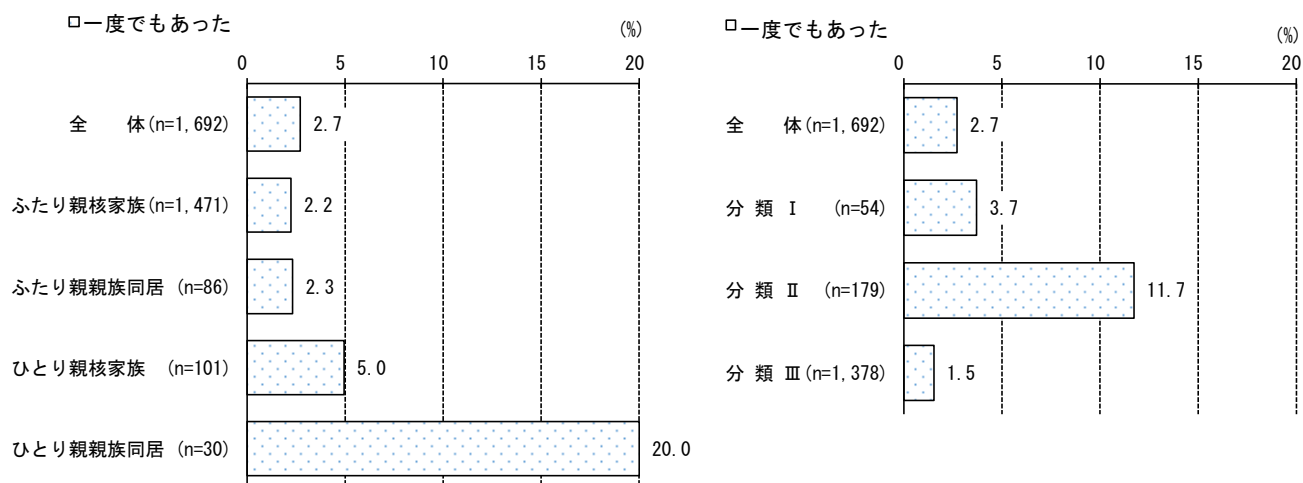
所得分類別にみると、『分類Ⅱ』（11.7%）、『分類Ⅰ』（3.7%）、『分類Ⅲ』（1.5%）の順に高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。所得分類別では『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

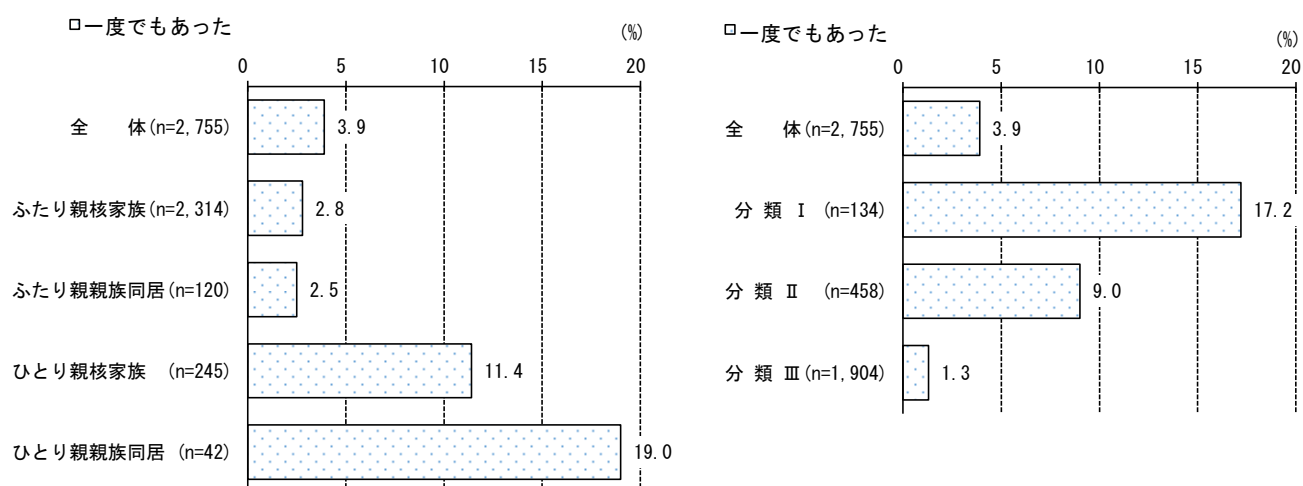
＜今回調査＞【図表 3-122 （オ）電話料金（携帯電話含む）の未払いの有無】

（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-123 （オ）電話料金（携帯電話含む）の未払いの有無】

（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



中学校2年生のいる世帯の幼稚園や保育所の料金の未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

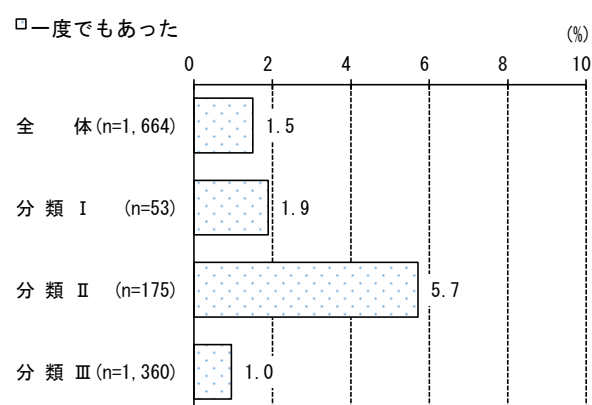
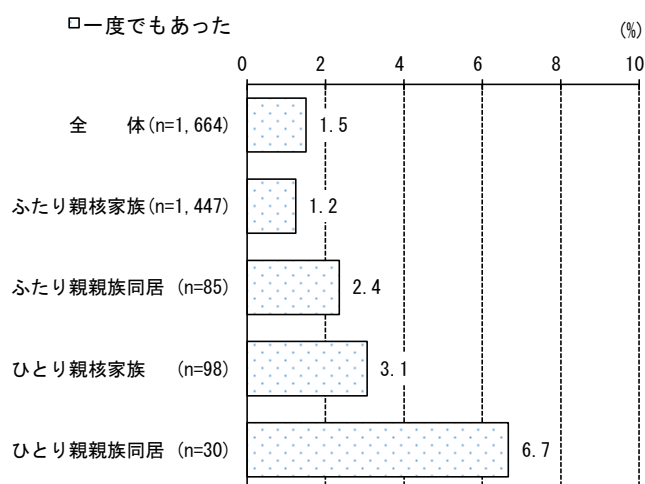
所得分類別にみると、『分類Ⅱ』（5.7%）、『分類Ⅰ』（1.9%）、『分類Ⅲ』（1.0%）の順に高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査には、この設問は含まれていない。

<今回調査>【図表 3-124 （カ）幼稚園や保育所の料金の未払いの有無】

（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



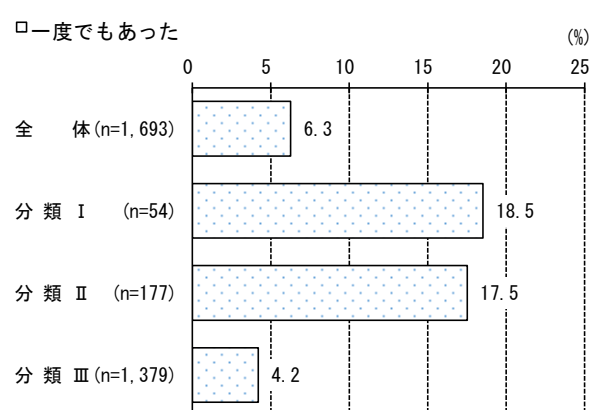
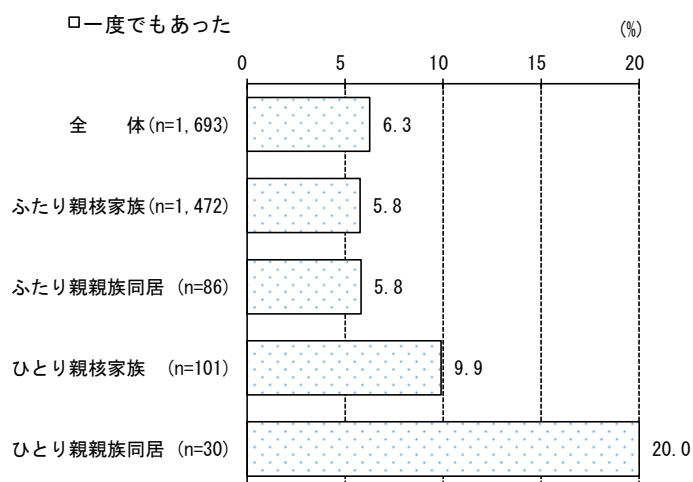
中学校2年生のいる世帯の税金や保険料の未払いの有無を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（18.5%）、『分類Ⅱ』（17.5%）、『分類Ⅲ』（4.2%）の順に高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査には、この設問は含まれていない。

<今回調査>【図表 3-125 （キ）税金や保険料の未払いの有無】（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



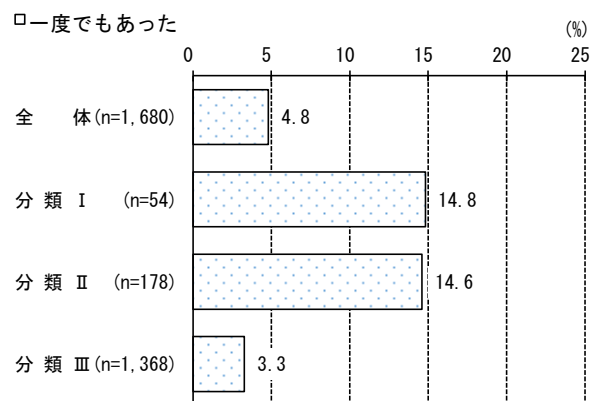
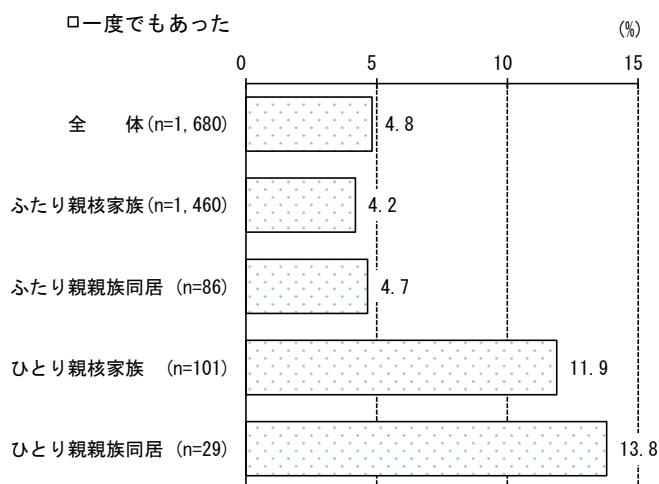
中学校2年生のいる世帯のその他の借金の未払いの有無を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が11.9%と全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（14.8%）、『分類Ⅱ』（14.6%）、『分類Ⅲ』（3.3%）の順に高くなっている。

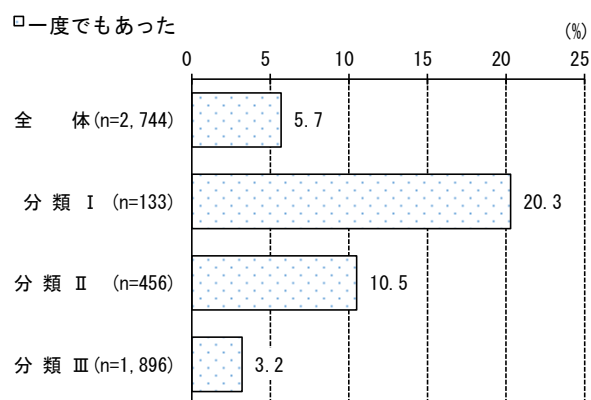
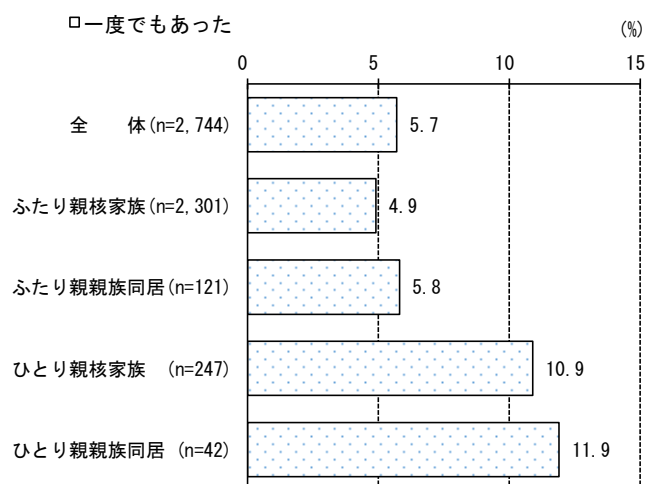
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問内容が異なるため、参考値とし、経年比較は行わない。

＜今回調査＞【図表 3-126 (ク) その他の借金の未払いの有無】（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-127 (カ) その他の借金の未払いの有無】（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



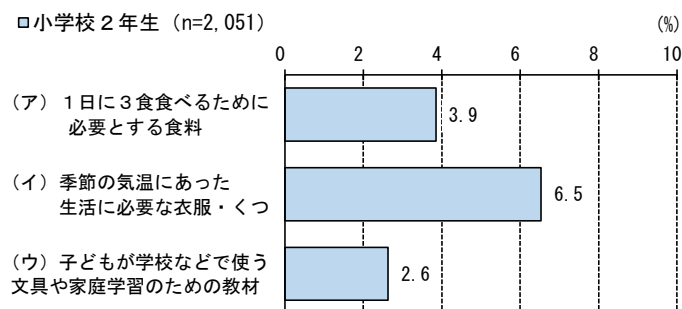
イ 生活必需品の購入状況【問32】（SA）

①-1 生活必需品の購入の有無（小学校2年生）

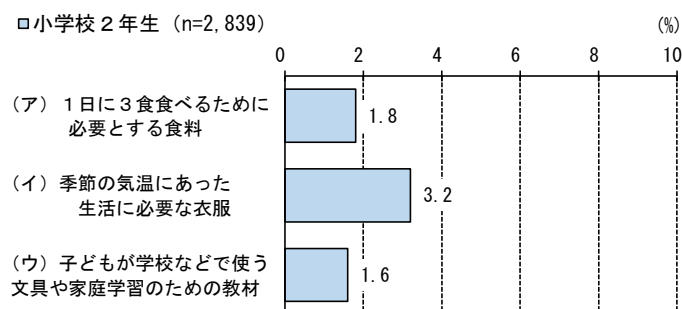
小学校2年生のいる世帯に過去1年間において、食料や衣服などの生活必需品について、経済的な理由で買えなかった経験があったかを聞いたところ、経験があると答えた世帯、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた『一度でもあった』は、「季節の気温にあった生活に必要な衣服・くつ」で6.5%と最も高くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-128 生活必需品の購入の有無『一度でもあった』】（小学校2年生）



＜前回調査＞【図表 3-129 生活必需品の購入の有無『一度でもあった』】（小学校2年生）



小学校2年生のいる世帯の経済的な理由で1日に3食食べるために必要な食料が買えなかった経験を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が16.4%と全体に比べて高くなっている。

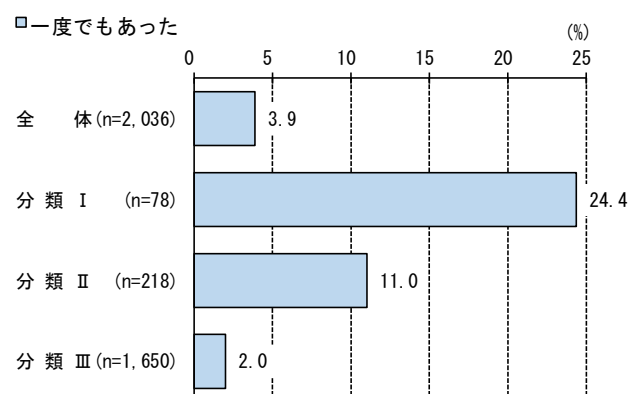
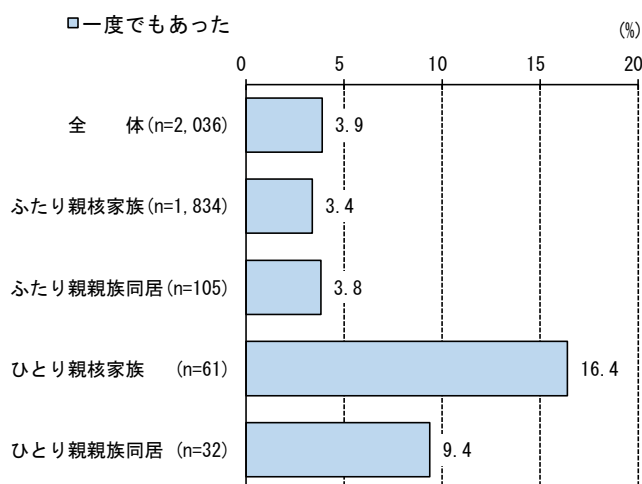
所得分類別にみると、『分類Ⅰ』(24.4%)、『分類Ⅱ』(11.0%)、『分類Ⅲ』(2.0%)の順に高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。所得分類別では『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

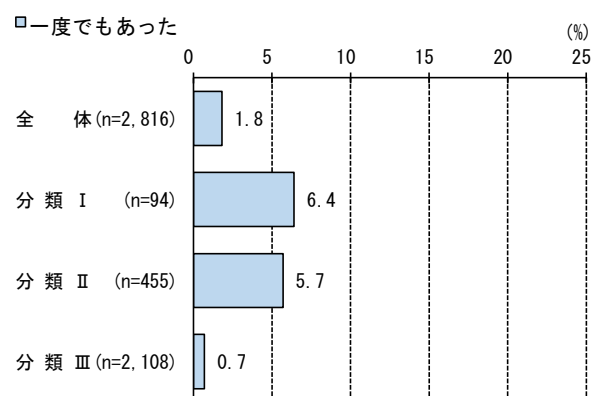
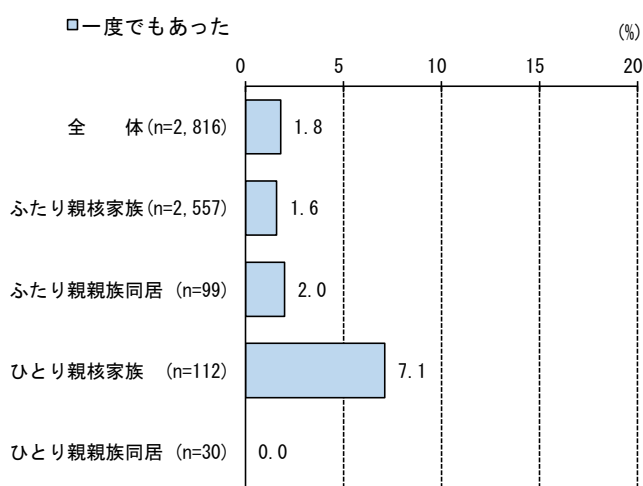
＜今回調査＞【図表 3-130 (ア) 1日3食食べるために必要な食料が買えなかった経験の有無】

(小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-131 (ア) 1日3食食べるために必要な食料が買えなかった経験の有無】

(小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



小学校2年生のいる世帯の経済的な理由で季節の気温にあった生活に必要な衣服・くつが買えなかった経験を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が23.0%と前回調査に比べて高くなっている。

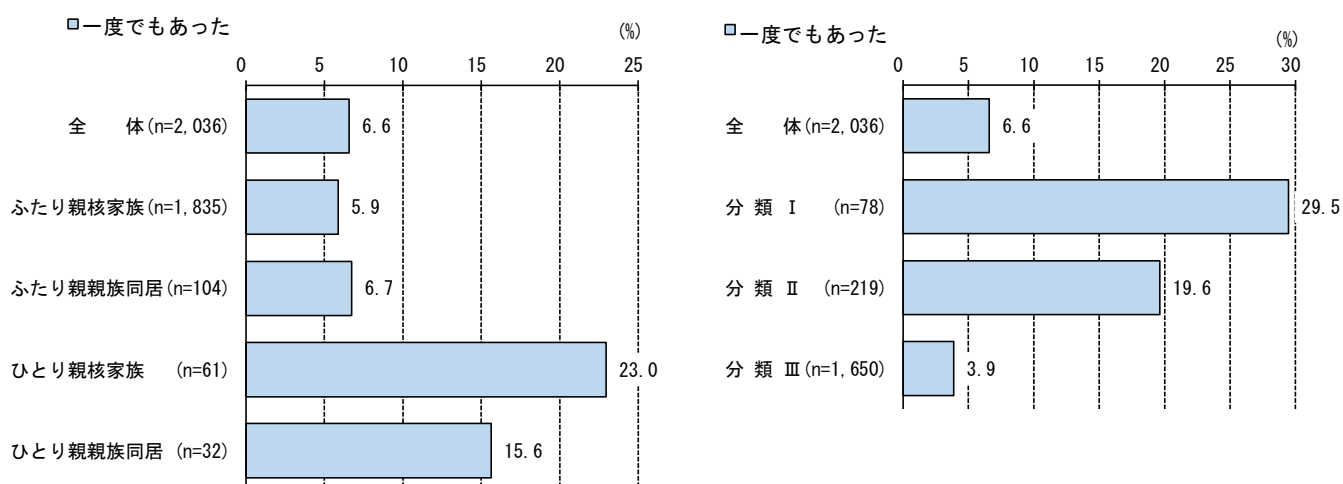
所得分類別にみると、『分類Ⅰ』(29.5%)、『分類Ⅱ』(19.6%)、『分類Ⅲ』(3.9%)の順に高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。所得分類別では『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

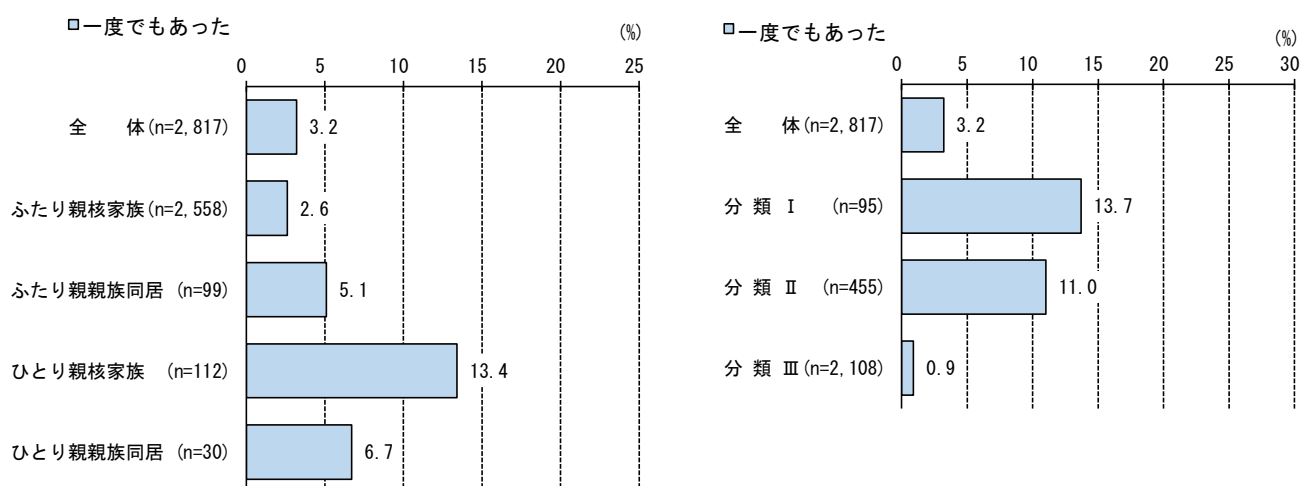
＜今回調査＞【図表 3-132 (イ) 季節の気温にあった生活に必要な衣服・くつが買えなかった経験の有無】

(小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-133 (イ) 季節の気温にあった生活に必要な衣服が買えなかった経験の有無】

(小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



小学校2年生のいる世帯の経済的な理由で子どもが学校などで使う文具や家庭学習のための教材が買えなかった経験を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が14.8%と全体に比べて高くなっている。

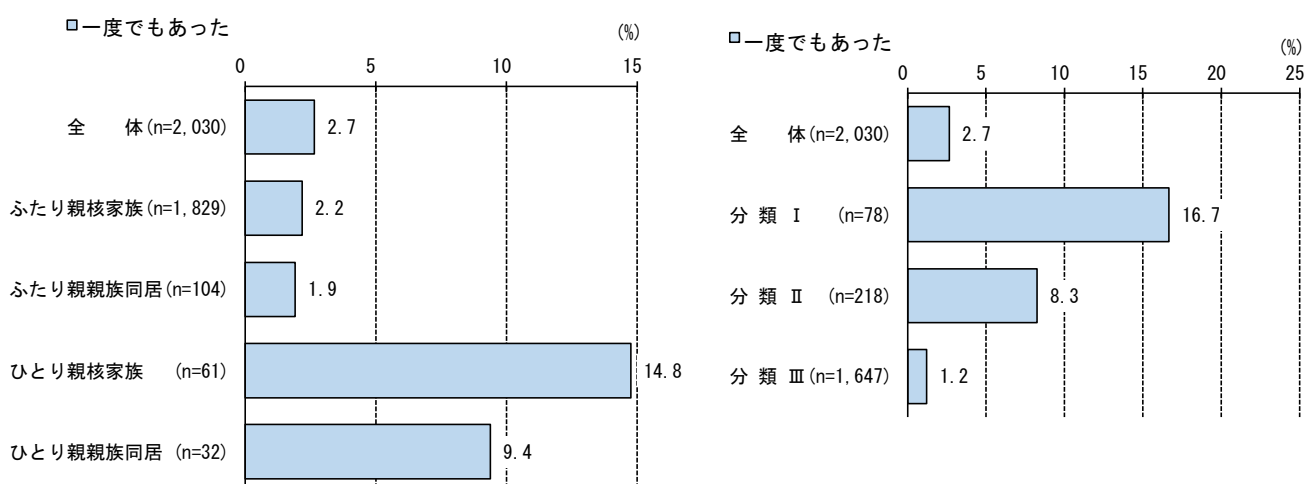
所得分類別にみると、『分類Ⅰ』(16.7%)、『分類Ⅱ』(8.3%)、『分類Ⅲ』(1.2%)の順に高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。所得分類別では『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

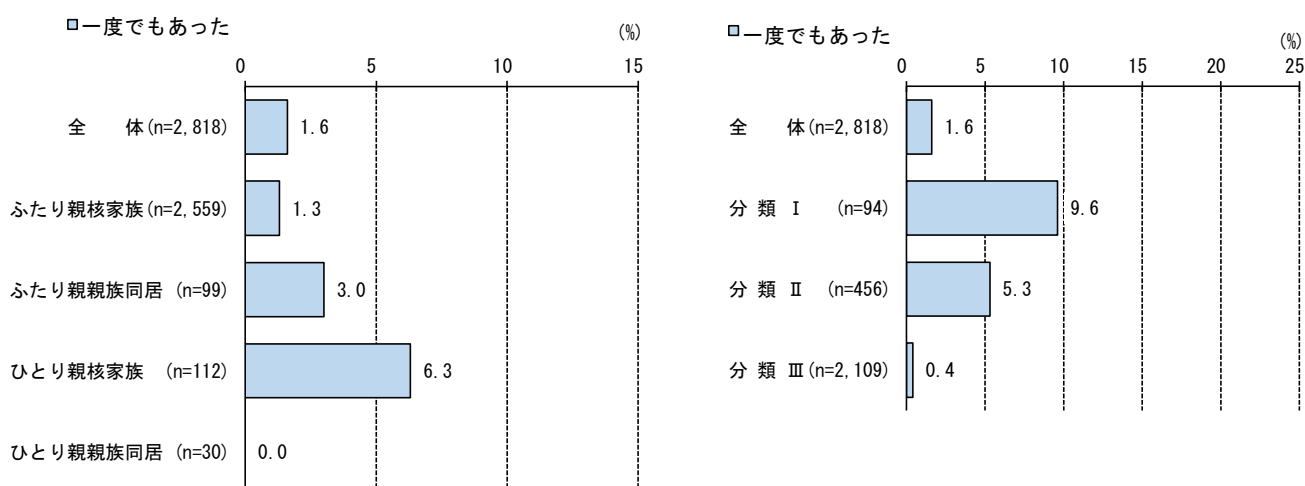
＜今回調査＞【図表 3-134 (ウ) 子どもが学校などで使う文具や家庭学習のための教材が買えなかった経験の有無】

(小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-135 (ウ) 子どもが学校などで使う文具や家庭学習のための教材が買えなかった経験の有無】

(小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)

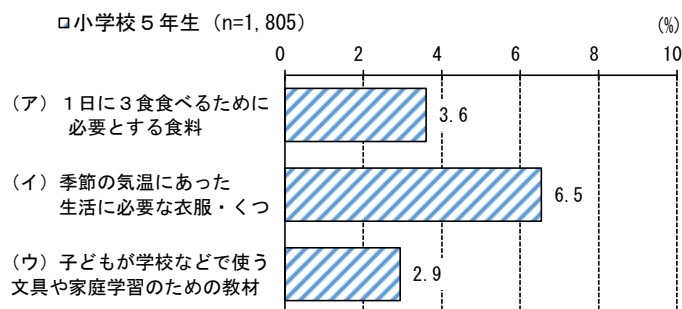


①-2 生活必需品の購入の有無（小学校5年生）

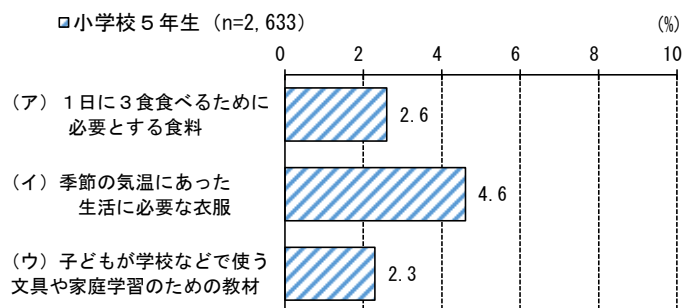
小学校5年生のいる世帯に過去1年間において、食料や衣服などの生活必需品について、経済的な理由で買えなかった経験があったかを聞いたところ、経験があると答えた世帯、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた『一度でもあった』は、「季節の気温にあった生活に必要な衣服・くつ」で6.5%と最も高くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-136 生活必需品の購入の有無『一度でもあった』】（小学校5年生）



＜前回調査＞【図表 3-137 生活必需品の購入の有無『一度でもあった』】（小学校5年生）



小学校5年生のいる世帯の経済的な理由で1日に3食食べるために必要な食料が買えなかった経験を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が17.9%と全体に比べて高くなっている。

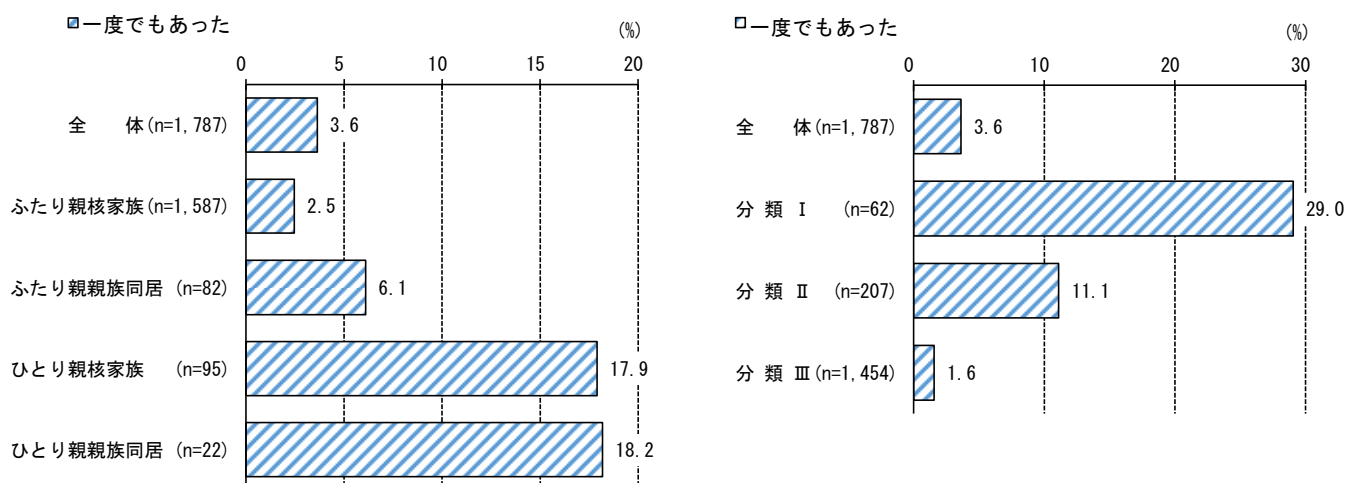
所得分類別にみると、『分類Ⅰ』(29.0%)、『分類Ⅱ』(11.1%)、『分類Ⅲ』(1.6%)の順に高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では大きな差はみられない。所得分類別では『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

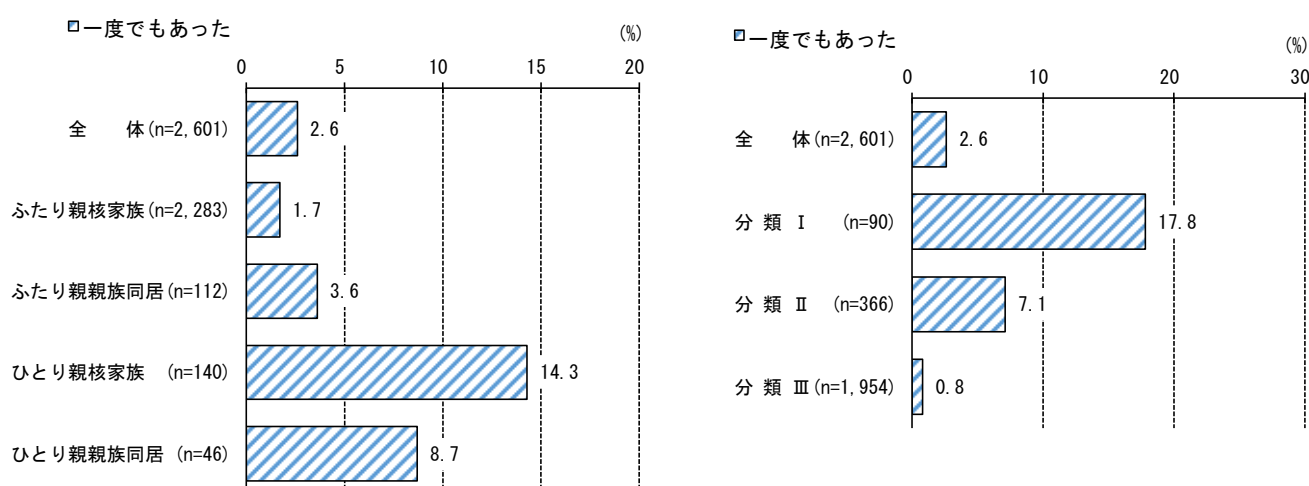
＜今回調査＞【図表 3-138 (ア) 1日3食食べるために必要な食料が買えなかった経験の有無】

(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-139 (ア) 1日3食食べるために必要な食料が買えなかった経験の有無】

(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



小学校5年生のいる世帯の経済的な理由で季節の気温にあった生活に必要な衣服・くつが買えなかった経験を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が27.4%と全体に比べて高くなっている。

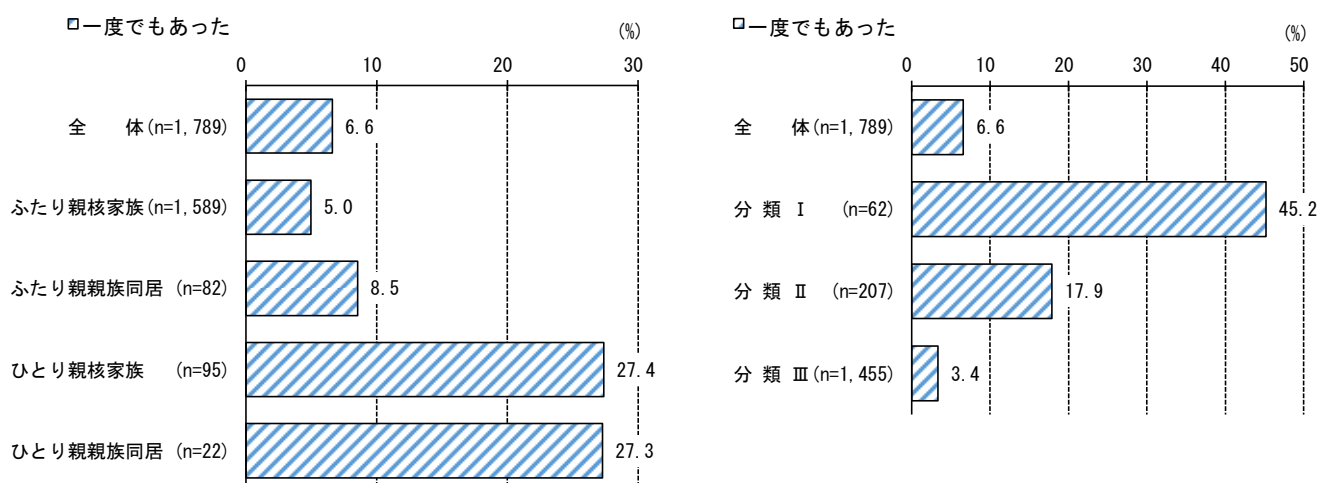
所得分類別にみると、『分類Ⅰ』（45.2%）、『分類Ⅱ』（17.9%）、『分類Ⅲ』（3.4%）の順に高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。所得分類別では『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

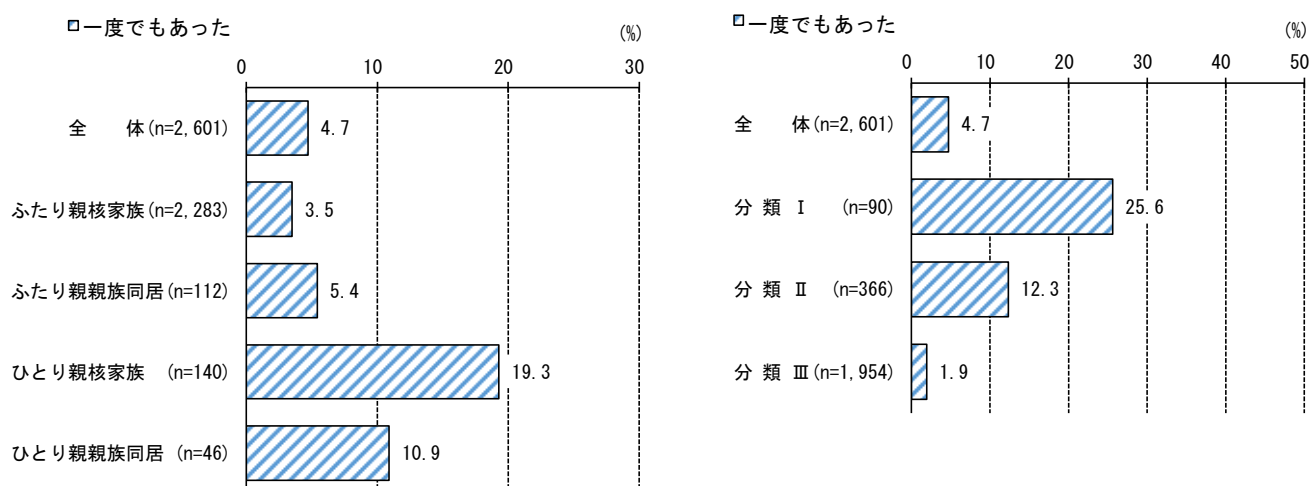
＜今回調査＞【図表 3-140 （イ）季節の気温にあった生活に必要な衣服・くつが買えなかった経験の有無】

（小学校5年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-141 （イ）季節の気温にあった生活に必要な衣服が買えなかった経験の有無】

（小学校5年生・世帯構成別、所得分類別）



小学校5年生のいる世帯の経済的な理由で子どもが学校などで使う文具や家庭学習のための教材が買えなかった経験を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が12.6%と全体に比べて高くなっている。

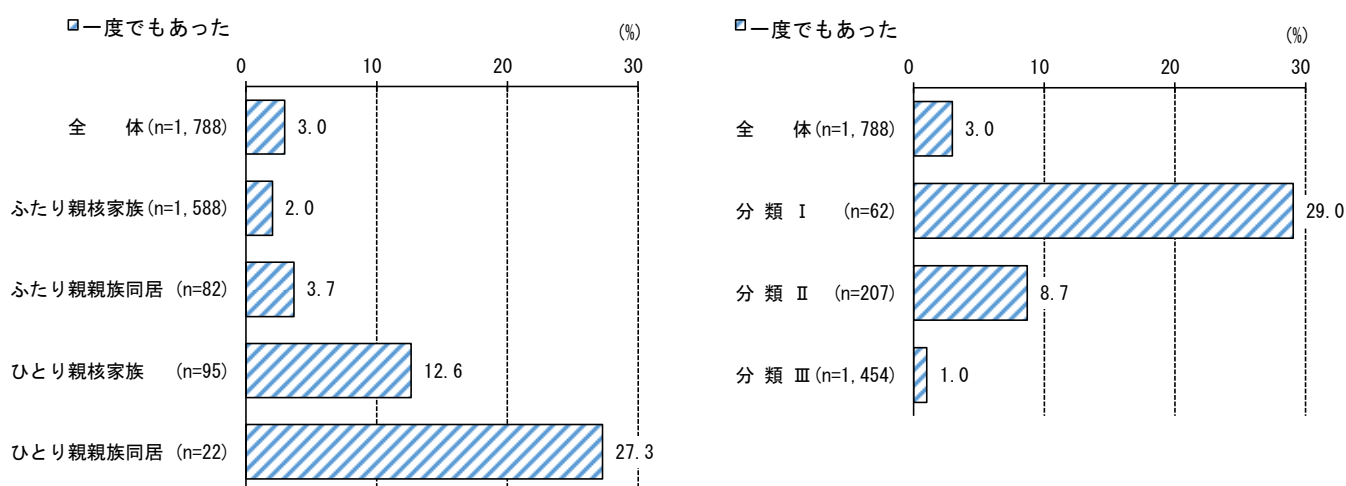
所得分類別にみると、『分類Ⅰ』(29.0%)、『分類Ⅱ』(8.7%)、『分類Ⅲ』(1.0%)の順に高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では大きな差はみられない。所得分類別では『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

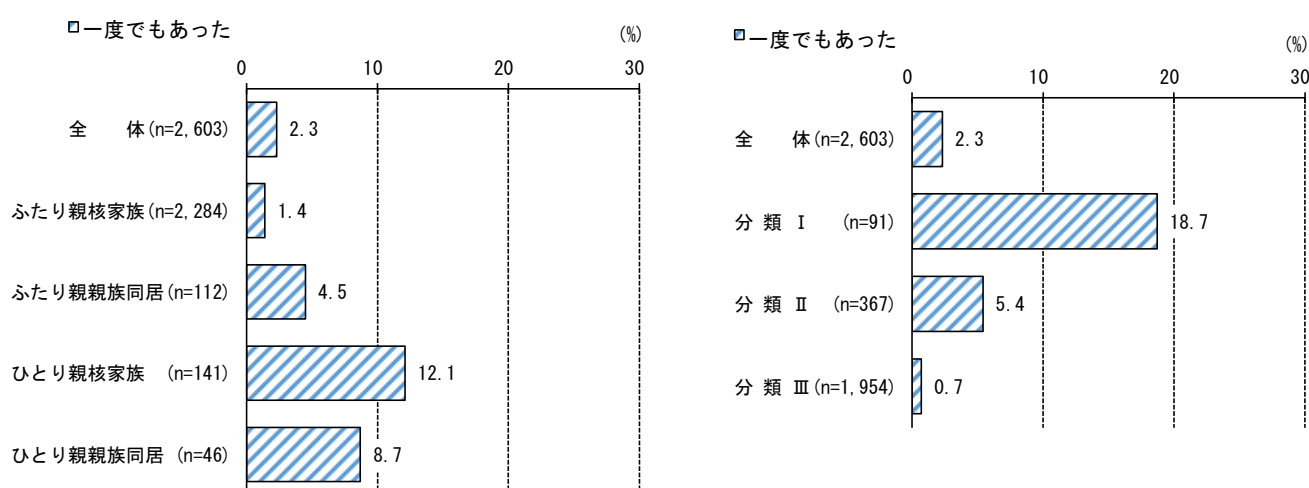
＜今回調査＞【図表 3-142 (ウ) 子どもが学校などで使う文具や家庭学習のための教材が買えなかった経験の有無】

(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-143 (ウ) 子どもが学校などで使う文具や家庭学習のための教材が買えなかった経験の有無】

(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)

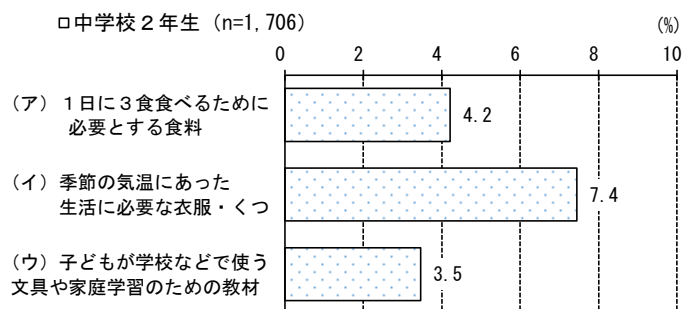


①-3 生活必需品の購入の有無（中学校 2 年生）

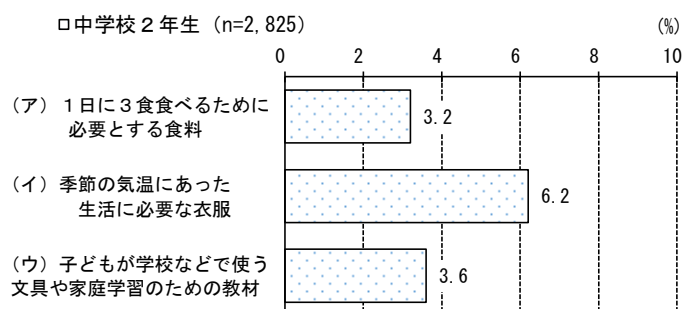
中学校 2 年生のいる世帯に過去 1 年間に於いて、食料や衣服などの生活必需品について、経済的な理由で買えなかった経験があったかを聞いたところ、経験があると答えた世帯、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合わせた『一度でもあった』は、「季節の気温にあった生活に必要な衣服・くつ」で 7.4% と最も高くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

<今回調査>【図表 3-144 生活必需品の購入の有無『一度でもあった』】（中学校 2 年生）



<前回調査>【図表 3-145 生活必需品の購入の有無『一度でもあった』】（中学校 2 年生）



中学校2年生のいる世帯の経済的な理由で1日に3食食べるために必要な食料が買えなかった経験を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が15.8%と全体に比べて高くなっている。

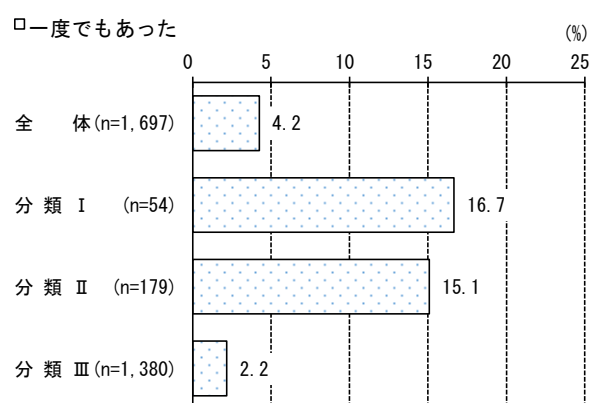
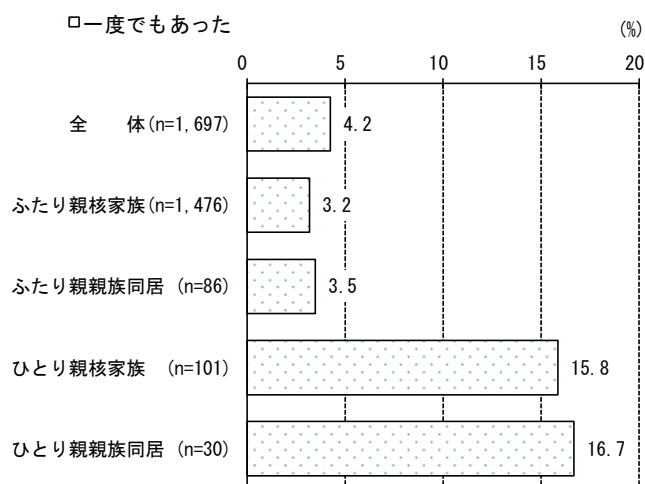
所得分類別にみると、『分類Ⅰ』(16.7%)、『分類Ⅱ』(15.1%)、『分類Ⅲ』(2.2%)の順に高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。所得分類別では『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

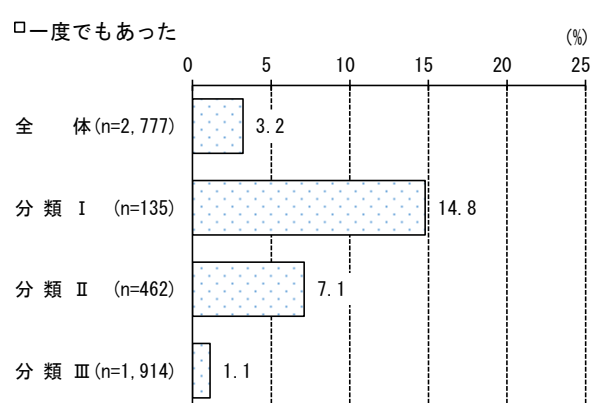
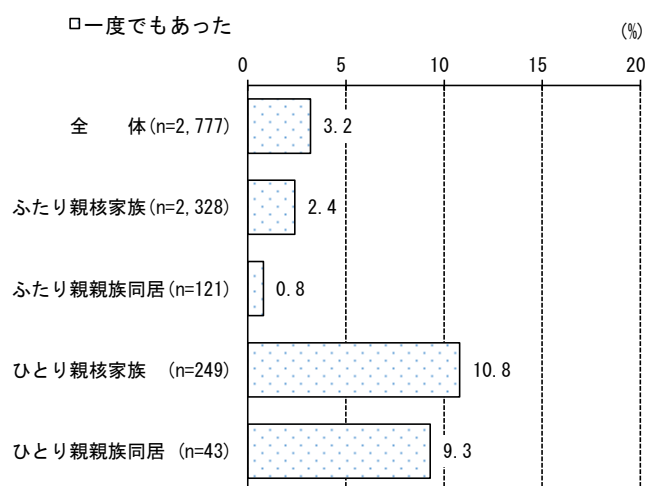
＜今回調査＞【図表 3-146 (ア) 1日3食食べるために必要な食料が買えなかった経験の有無】

(中学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-147 (ア) 1日3食食べるために必要な食料が買えなかった経験の有無】

(中学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



中学校2年生のいる世帯の経済的な理由で季節の気温にあった生活に必要な衣服・くつが買えなかった経験を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が21.6%と全体に比べて高くなっている。

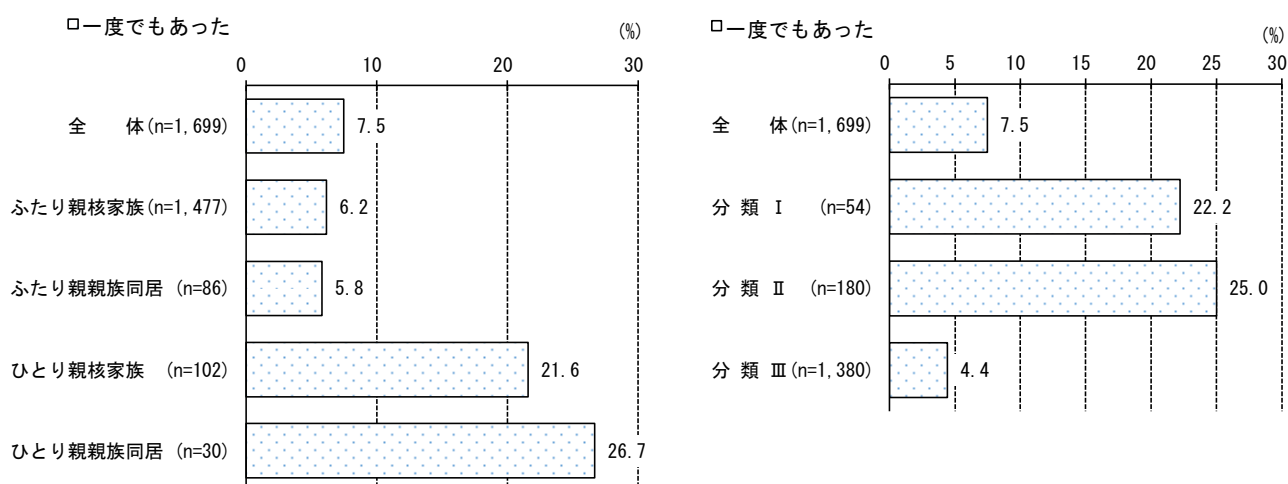
所得分類別にみると、『分類Ⅱ』（25.0%）、『分類Ⅰ』（22.2%）、『分類Ⅲ』（4.4%）の順に高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では大きな差はみられない。所得分類別では『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

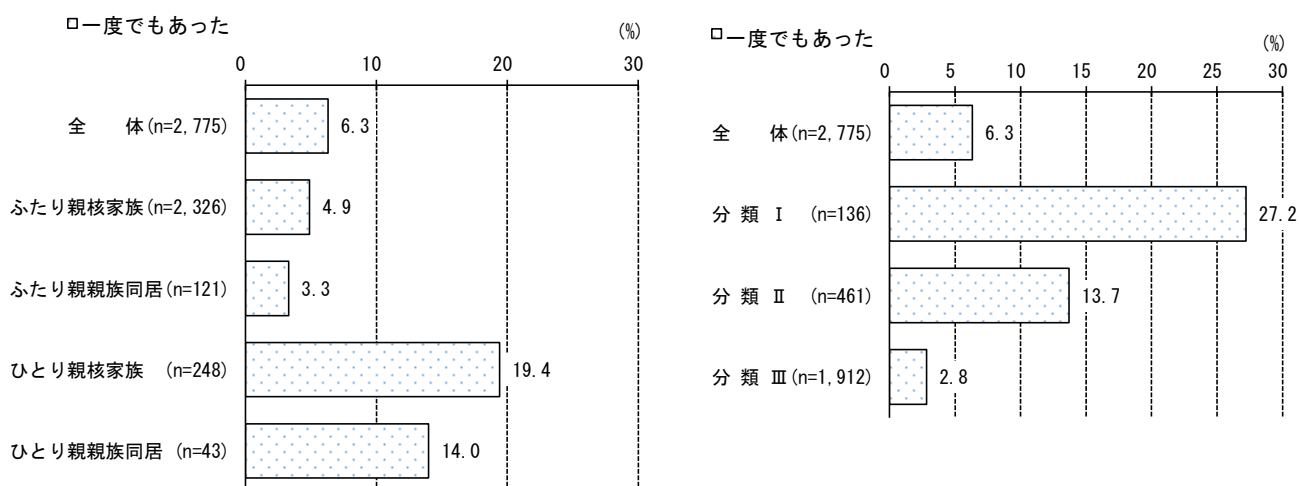
＜今回調査＞【図表 3-148 （イ）季節の気温にあった生活に必要な衣服・くつが買えなかった経験の有無】

（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-149 （イ）季節の気温にあった生活に必要な衣服が買えなかった経験の有無】

（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



中学校2年生のいる世帯の経済的な理由で子どもが学校などで使う文具や家庭学習のための教材が買えなかった経験を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が8.9%と全体に比べて高くなっている。

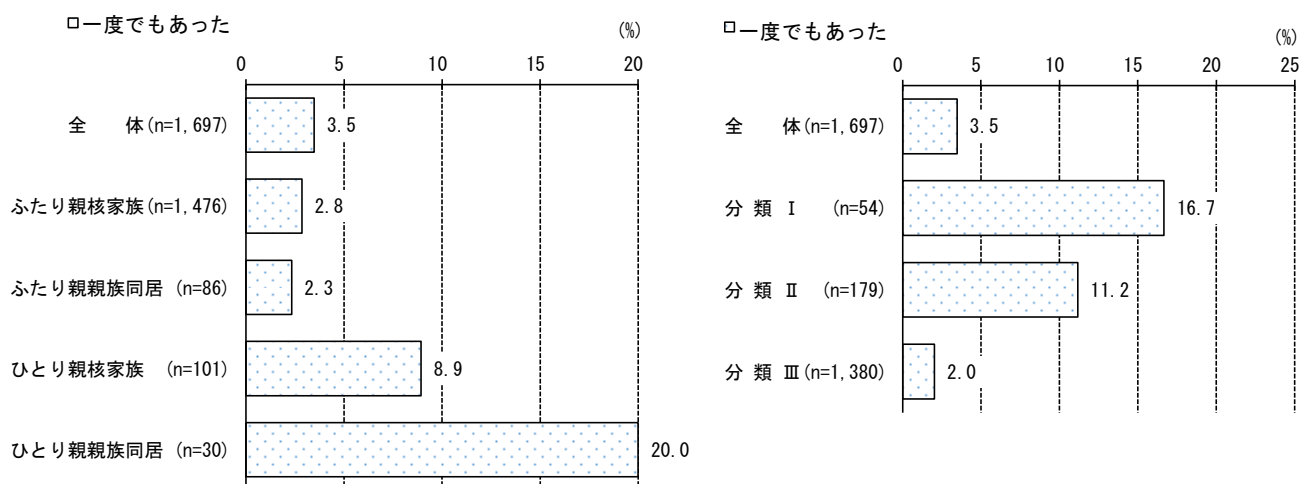
所得分類別にみると、『分類Ⅰ』(16.7%)、『分類Ⅱ』(11.2%)、『分類Ⅲ』(2.0%)の順に高くなっている。

経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

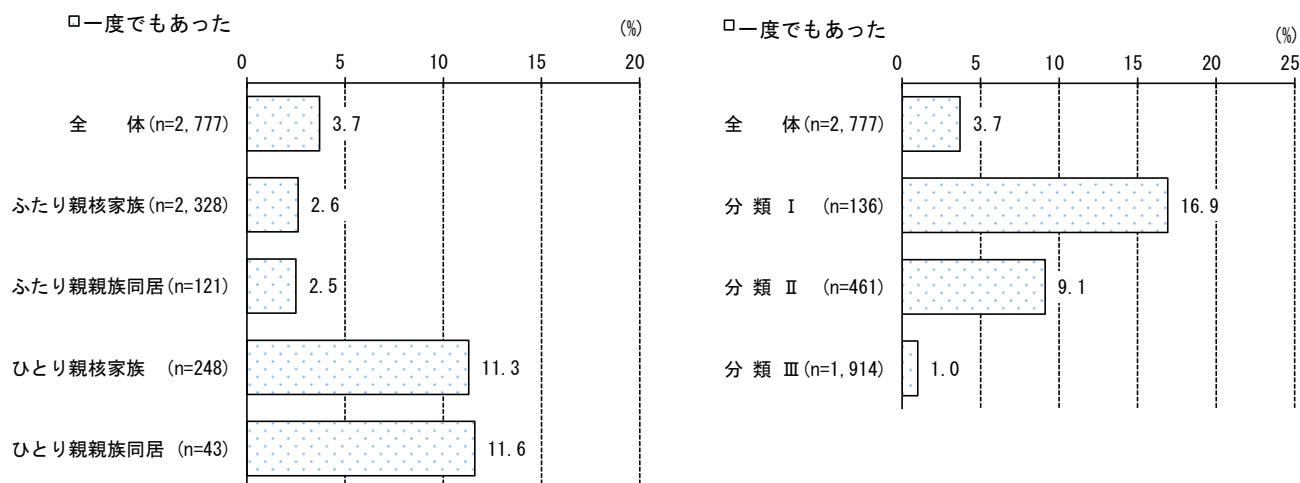
＜今回調査＞【図表 3-150 (ウ) 子どもが学校などで使う文具や家庭学習のための教材が買えなかった経験の有無】

(中学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-151 (ウ) 子どもが学校などで使う文具や家庭学習のための教材が買えなかった経験の有無】

(中学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



(3) 各支援制度の利用状況【問33】(SA)

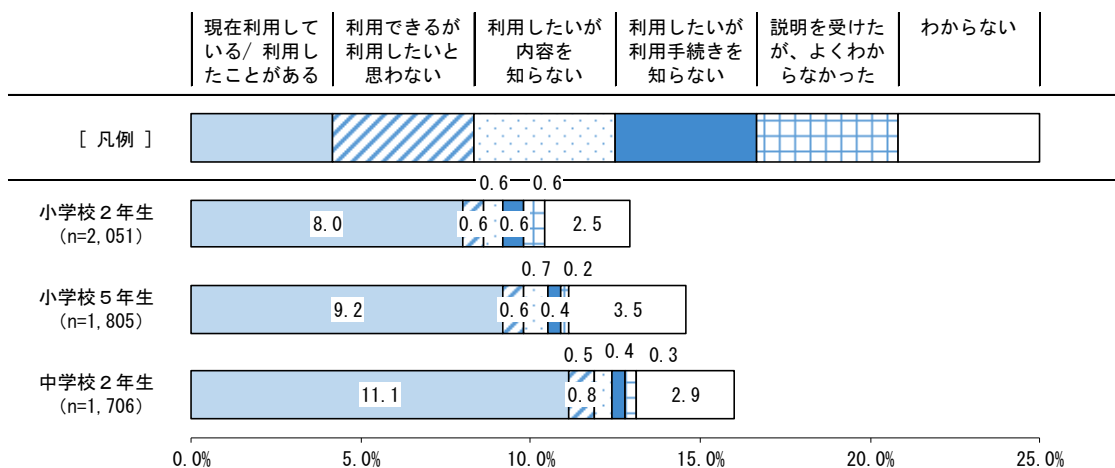
ア 就学援助

就学援助の利用状況を聞いたところ、いずれの学年でも「現在利用している/利用したことがある」(小学校2年生:8.0%、小学校5年生:9.2%、中学校2年生:11.1%)が最も高くなっている。

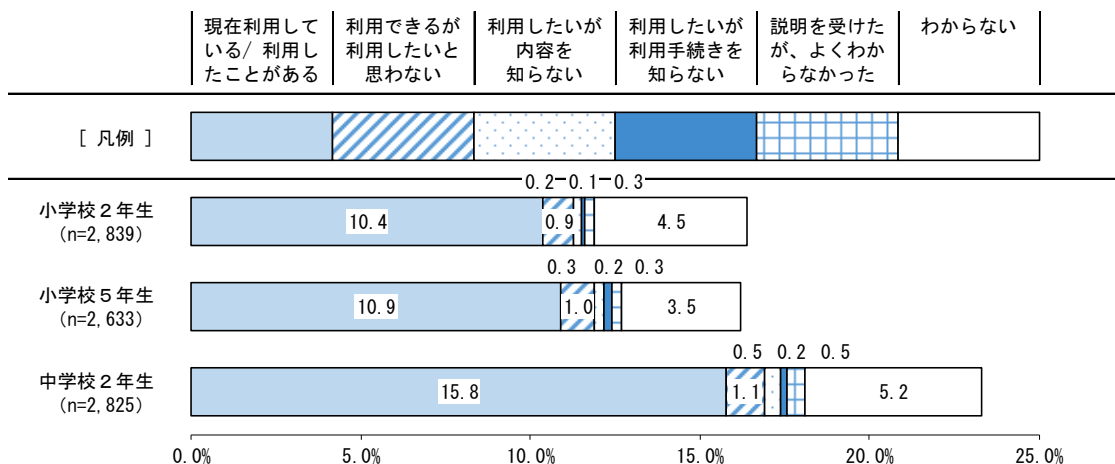
なお、「制度の対象外」は図表から除外している。

経年でみると、大きな差はみられない。

<今回調査>【図表 3-152 (ア) 就学援助の利用状況】



<前回調査>【図表 3-153 (ア) 就学援助の利用状況】



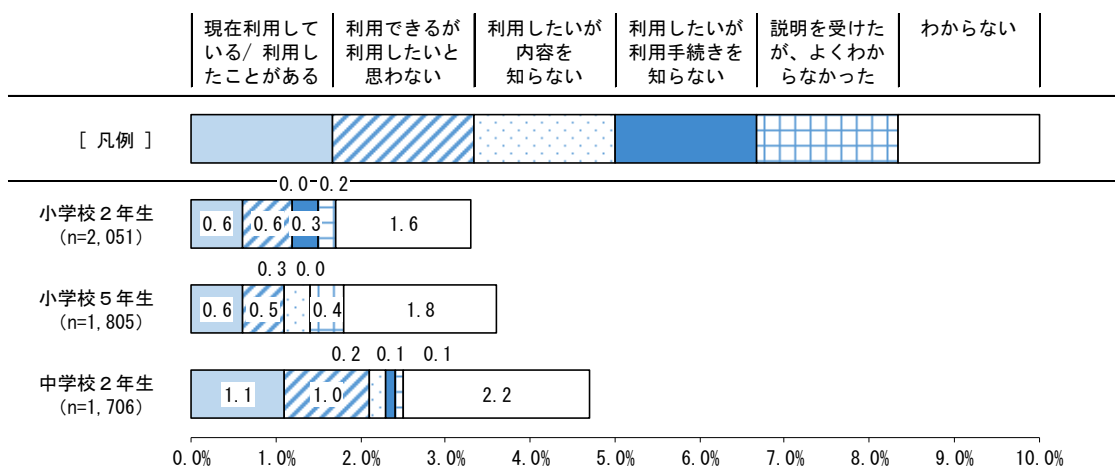
イ 生活保護

生活保護の利用状況を聞いたところ、いずれの学年でも「現在利用している/利用したことがある」（小学校2年生：0.6%、小学校5年生：0.6%、中学校2年生：1.1%）が最も高くなっている。小学校2年生のいる世帯では「利用できるが利用したいと思わない」も0.6%と同様に高くなっている。

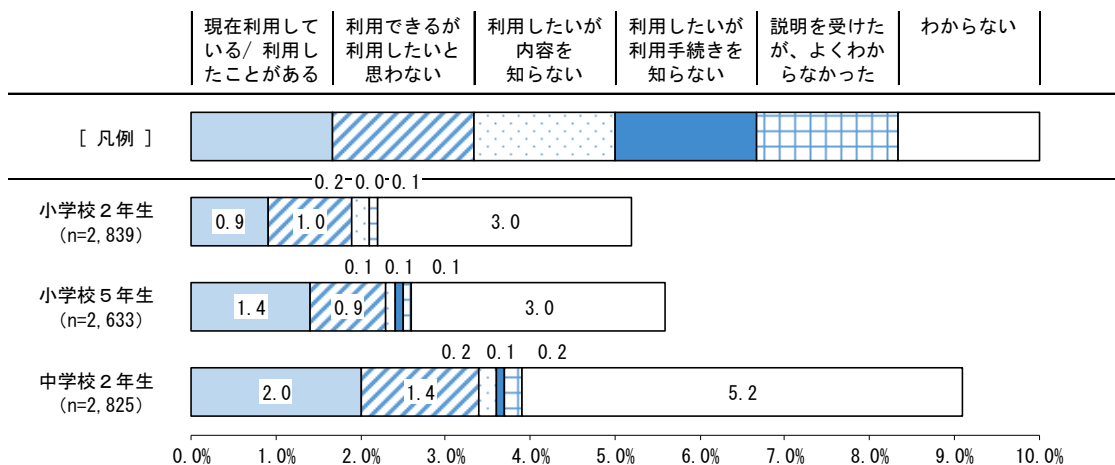
なお、「制度の対象外」は図表から除外している。

経年でみると、大きな差はみられない。

<今回調査>【図表 3-154 (イ) 生活保護の利用状況】



<前回調査>【図表 3-155 (イ) 生活保護の利用状況】



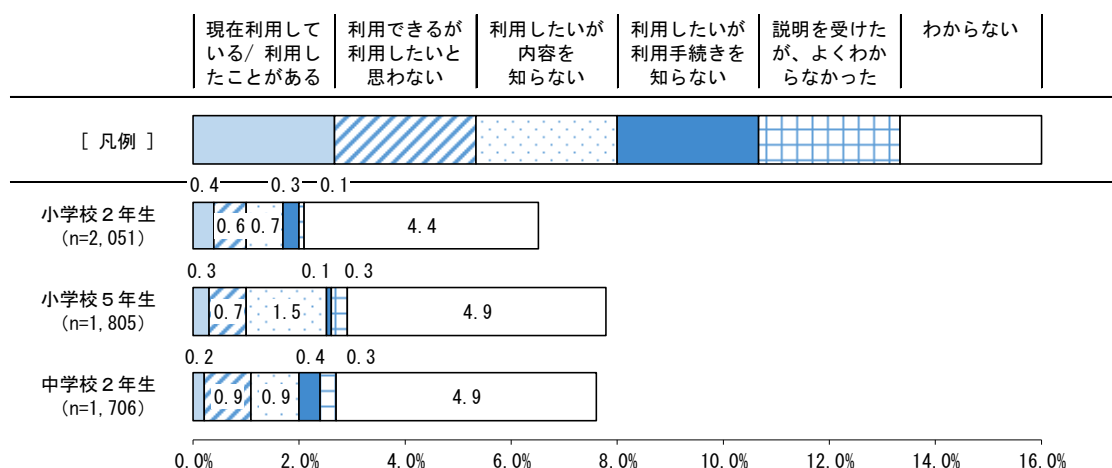
ウ だいJOBセンター（生活困窮者の自立支援窓口）

だいJOBセンター（生活困窮者の自立支援窓口）の利用状況を聞いたところ、いずれの学年でも「利用したいが内容を知らない」（小学校2年生：0.7%、小学校5年生：1.5%、中学校2年生：0.9%）が最も高くなっている。中学校2年生のいる世帯では「利用できるが利用したいと思わない」も0.9%と同様に高くなっている。

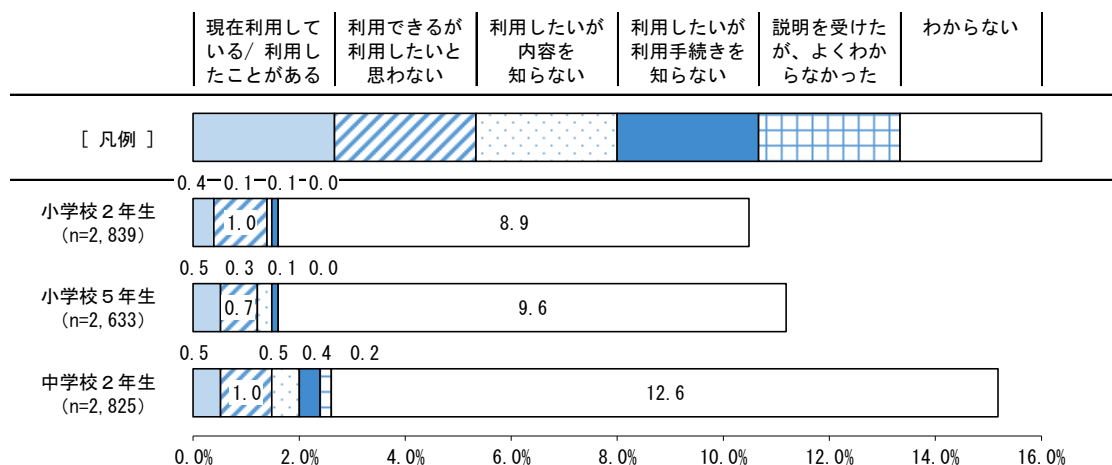
なお、「制度の対象外」は図表から除外している。

経年でみると、中学校2年生のいる世帯では「わからない」が前回調査に比べて低くなっている。

<今回調査>【図表 3-156 （ウ）だいJOBセンターの利用状況】



<前回調査>【図表 3-157 （ウ）だいJOBセンターの利用状況】



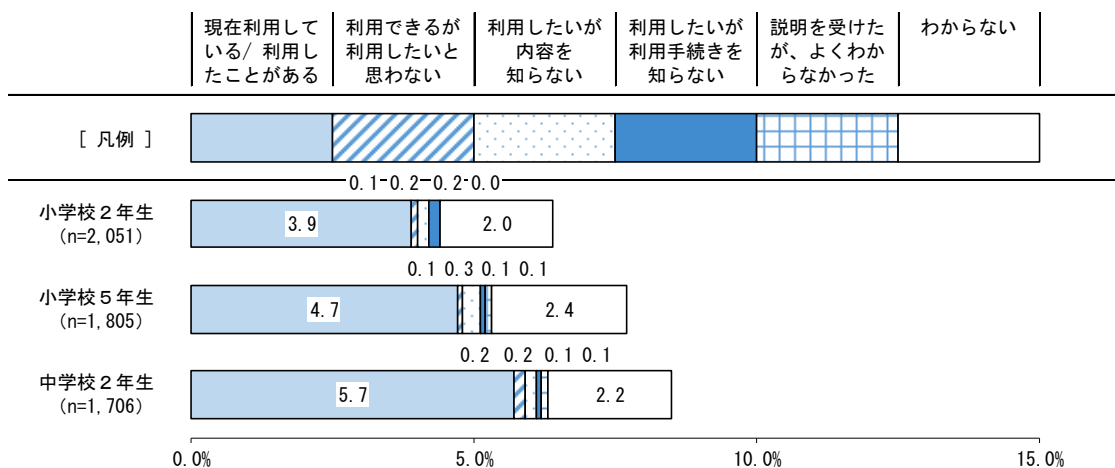
エ 児童扶養手当（ひとり親家庭などへの手当）

児童扶養手当（ひとり親家庭などへの手当）の利用状況を聞いたところ、いずれの学年でも「現在利用している/利用したことがある」（小学校2年生：3.9%、小学校5年生：4.7%、中学校2年生：5.7%）が最も高くなっている。

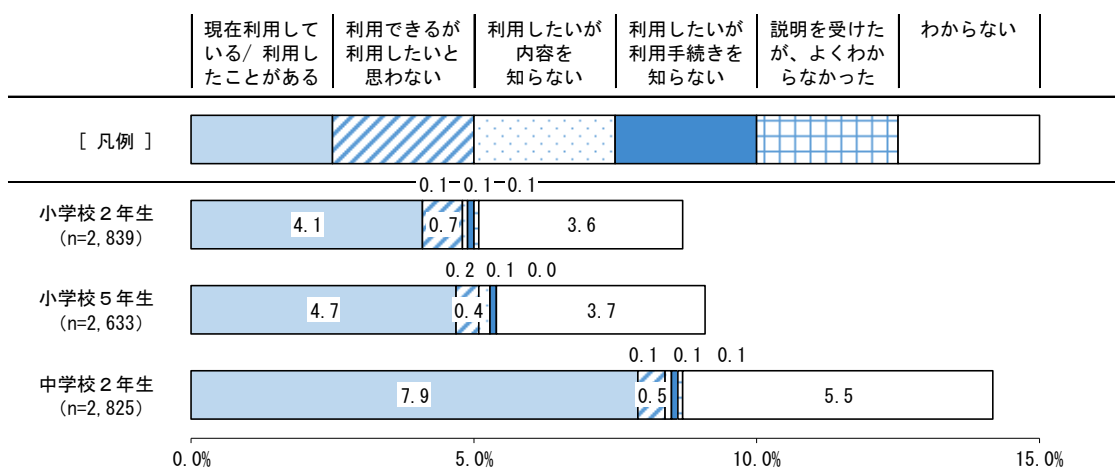
なお、「制度の対象外」は図表から除外している。

経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-158 （エ）児童扶養手当の利用状況】



＜前回調査＞【図表 3-159 （エ）児童扶養手当の利用状況】



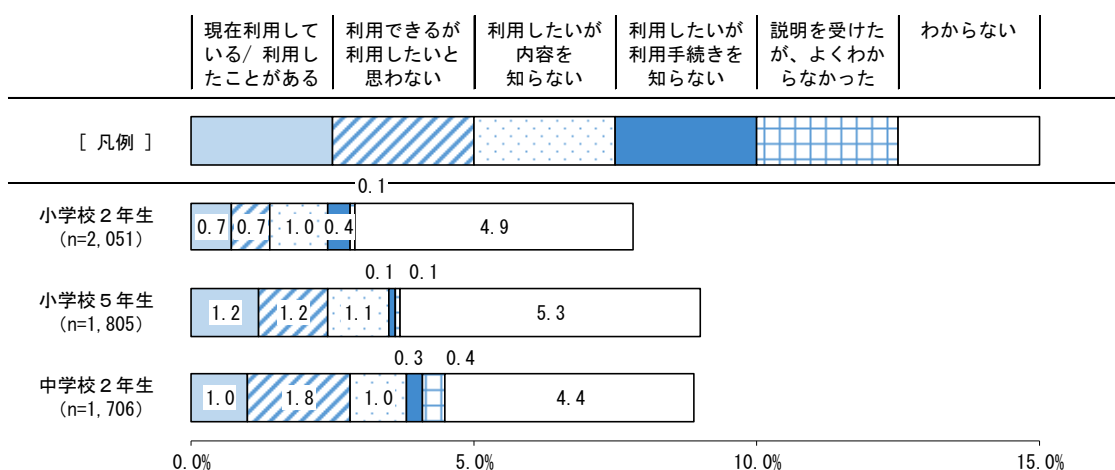
オ 川崎市母子・父子福祉センター（母子家庭等就業自立支援センター）

川崎市母子・父子福祉センター（母子家庭等就業・自立支援センター）の利用状況を聞いたところ、小学校2年生のいる世帯では「利用したいが内容を知らない」が1.0%で最も高く、小学校5年生のいる世帯と中学校2年生のいる世帯では「利用できるが利用したいと思わない」が最も高くなっている。小学校5年生のいる世帯では「現在利用している/利用したことがある」も1.2%と同様に高くなっている。

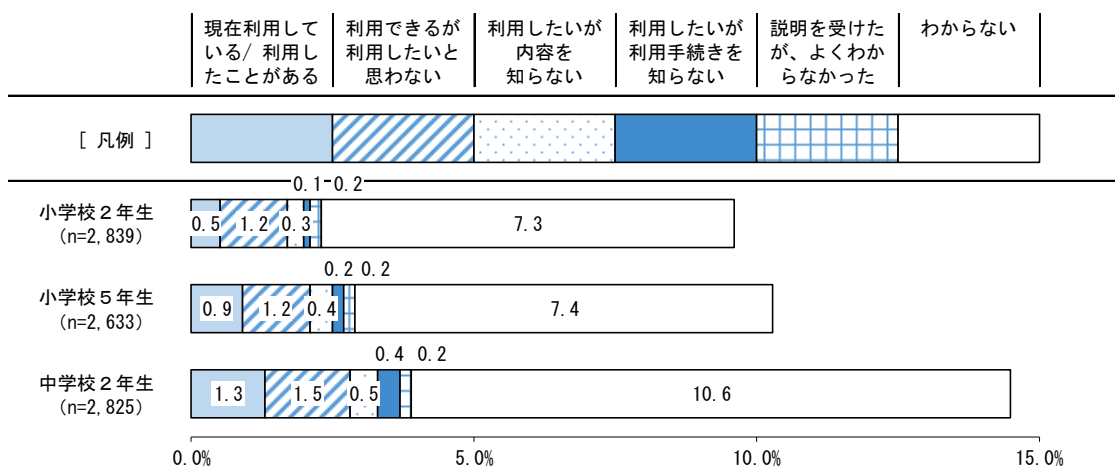
なお、「制度の対象外」は図表から除外している。

経年でみると、中学校2年生のいる世帯では「わからない」が前回調査に比べて低くなっている。

<今回調査>【図表 3-160 (オ) 川崎市母子・父子福祉センターの利用状況】



<前回調査>【図表 3-161 (オ) 川崎市母子・父子福祉センターの利用状況】



※ページ調整のため余白

第3節 保護者の状況

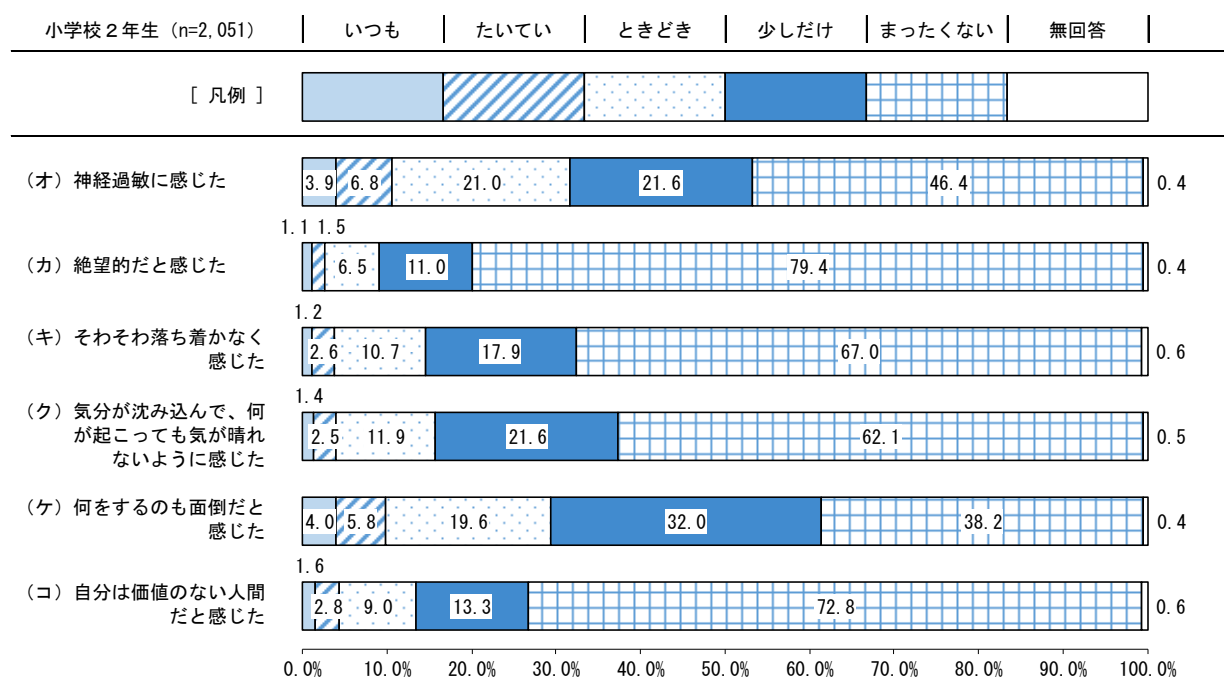
(1) 保護者の精神状態や考え方

ア 保護者の精神状態【問16 オ～コ】(SA)

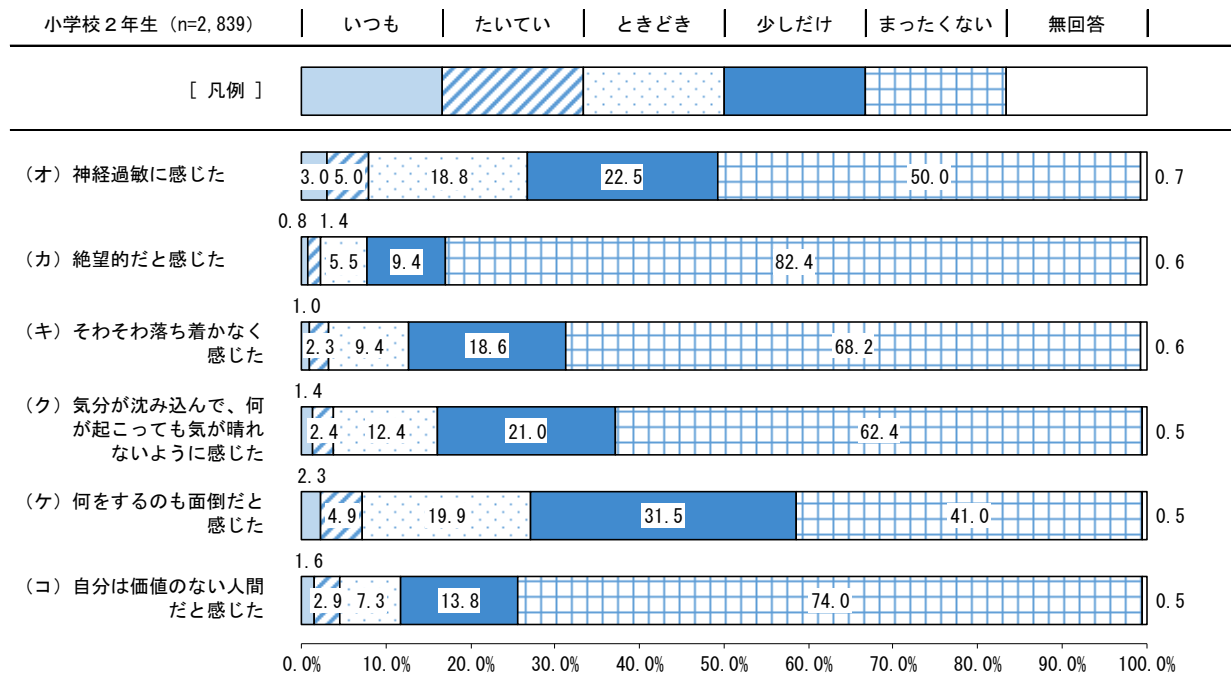
直近1か月間の保護者の精神状態や考え方を聞いたところ、いずれの学年でも「まったくない」の割合が『絶望的だと感じた』(小学校2年生：79.4%、小学校5年生：77.6%、中学校2年生：78.2%)で最も高く、次いで『自分は価値のない人間だと感じた』(小学校2年生：72.8%、小学校5年生：71.4%、中学校2年生：70.9%)となっている。

経年でみると、小学校2年生、小学校5年生のいる世帯では大きな差はみられない。中学校2年生のいる世帯では『(オ) 神経過敏に感じた』『(カ) 絶望的だと感じた』『(キ) そわそわ落ち着かなく感じた』『(ク) 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた』で「まったくない」が前回調査に比べて高くなっている。一方、『(オ) 神経過敏に感じた』『(キ) そわそわ落ち着かなく感じた』『(ク) 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた』で「ときどき」が前回調査に比べて低くなっている。

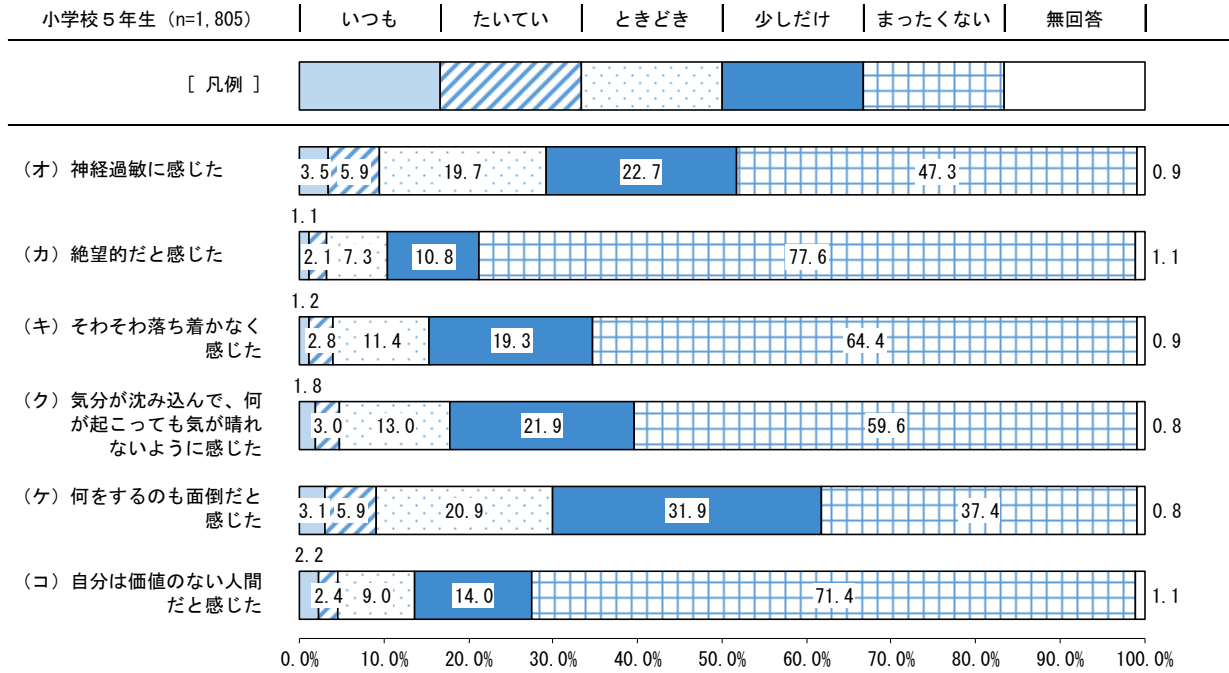
<今回調査>【図表 3-162 保護者の精神状態】(小学校2年生)



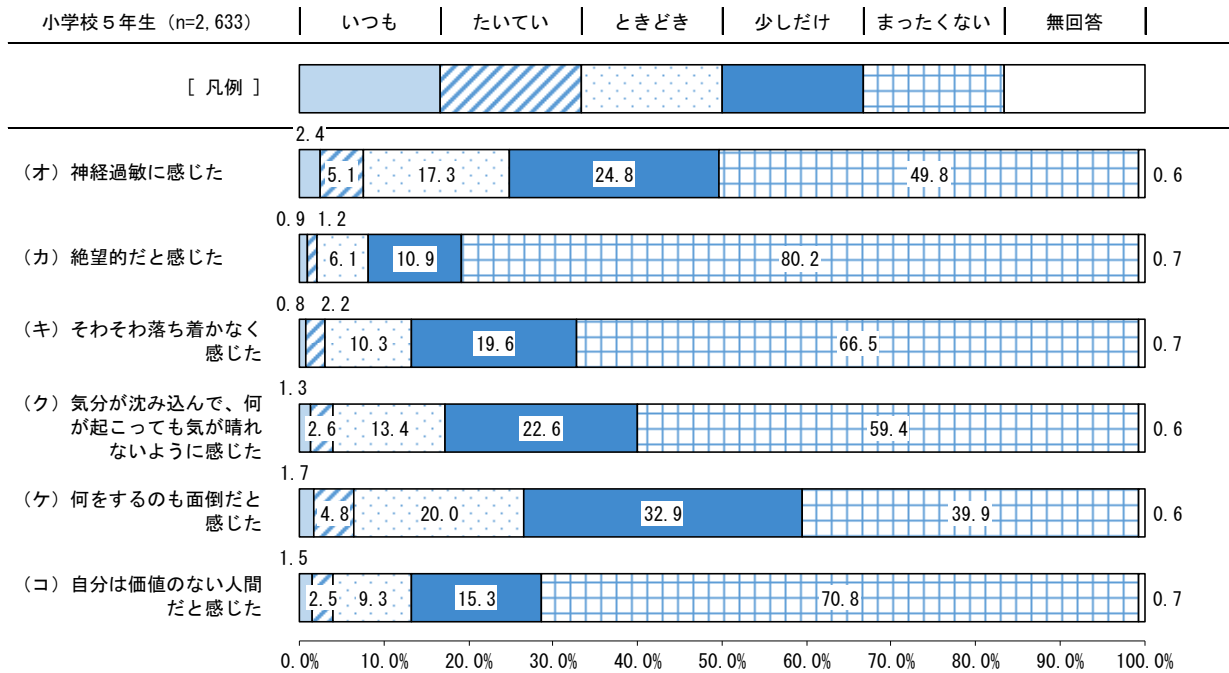
<前回調査>【図表 3-163 保護者の精神状態】（小学校2年生）



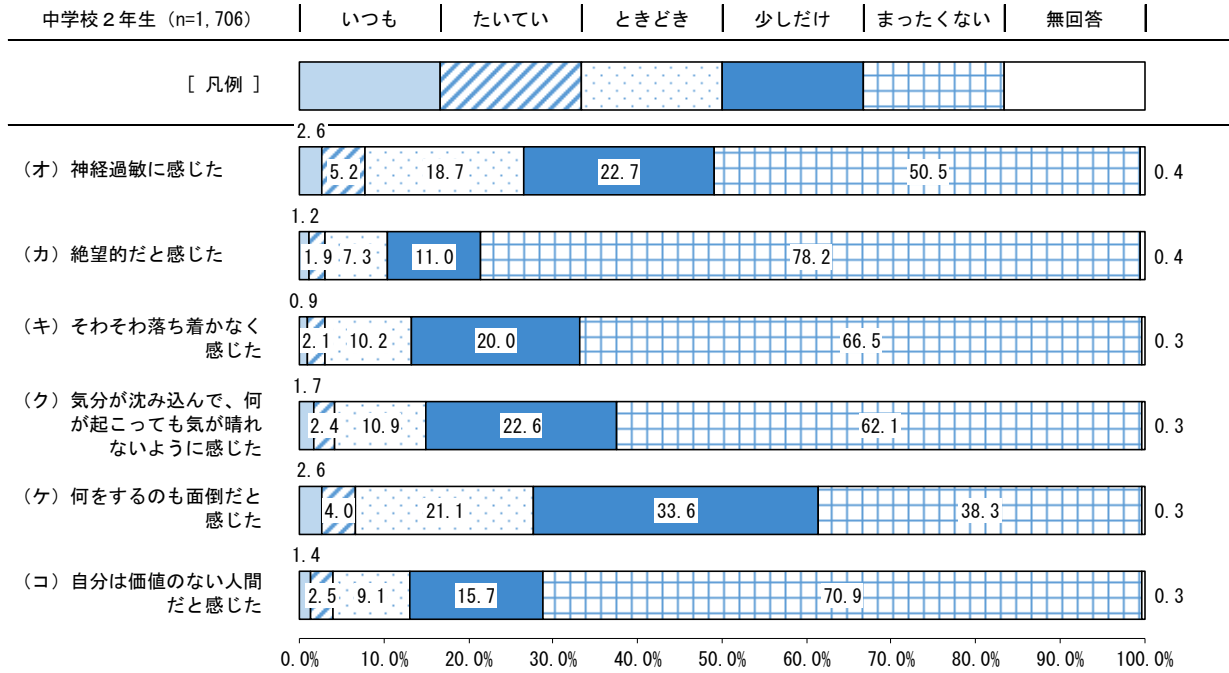
<今回調査>【図表 3-164 保護者の精神状態】(小学校5年生)



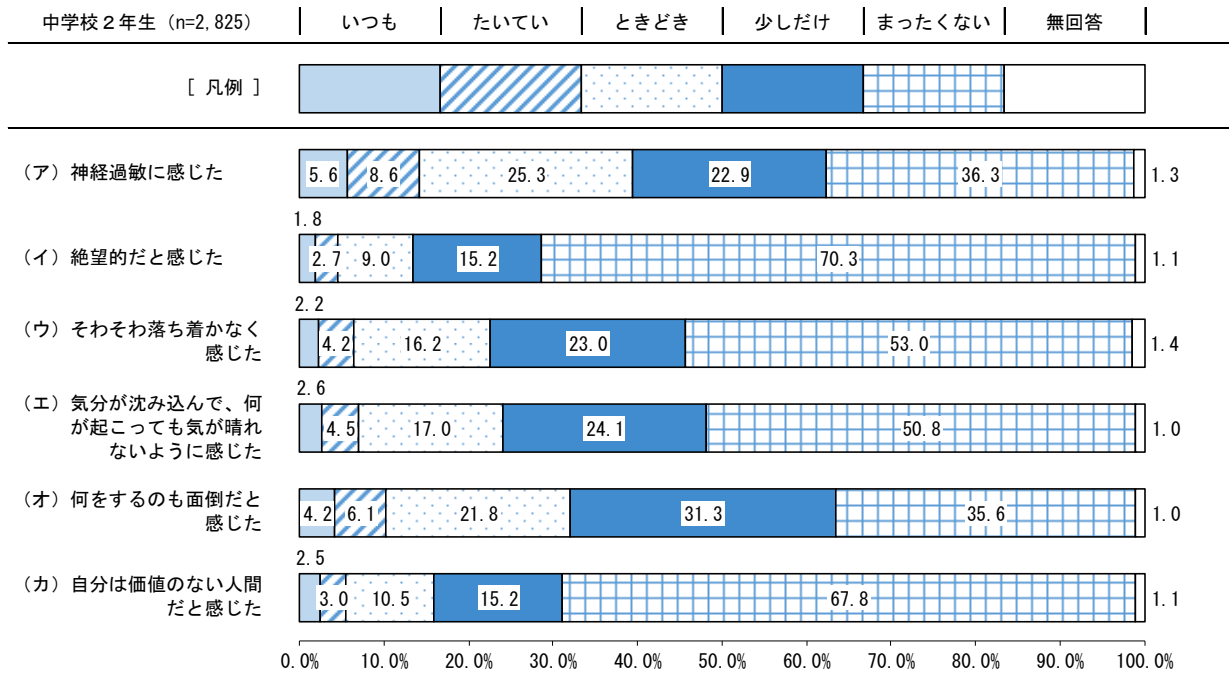
<前回調査>【図表 3-165 保護者の精神状態】(小学校5年生)



<今回調査>【図表 3-166 保護者の精神状態】(中学校2年生)



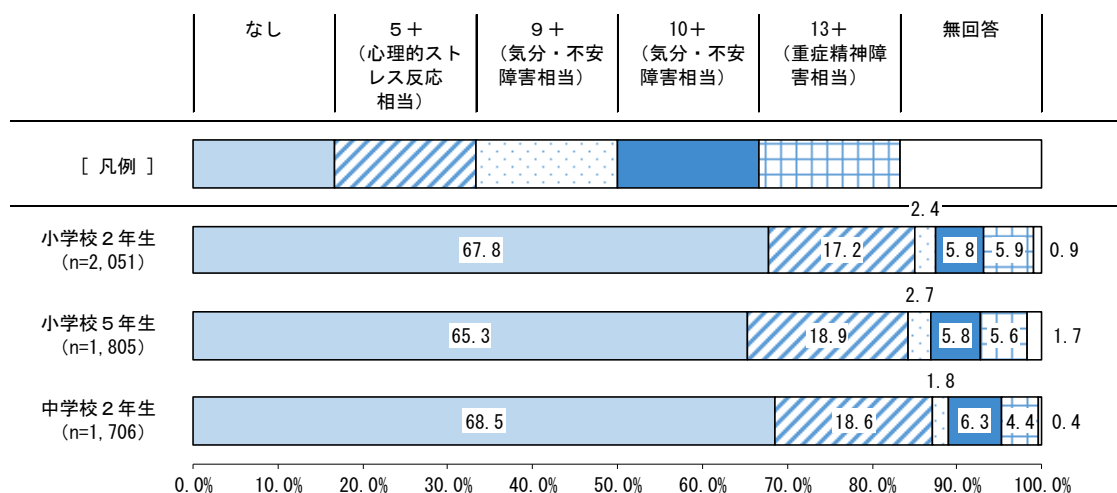
<前回調査>【図表 3-167 保護者の精神状態】(中学校2年生)



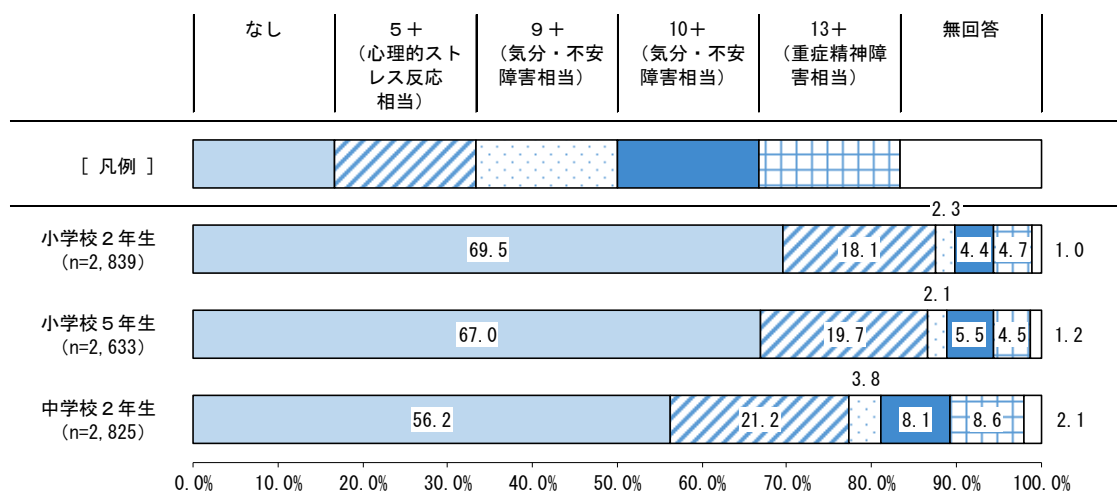
保護者の精神状態をうつ傾向を測る指標として普及されているK 6 指標¹に基づく分類で分けると、いずれの学年でも「なし」（小学校 2 年生：67.8%、小学校 5 年生：65.3%、中学校 2 年生：68.5%）が最も高く、次いで「5+（心理的ストレス反応相当）」（小学校 2 年生：17.2%、小学校 5 年生：18.9%、中学校 2 年生：18.6%）となっている。

経年でみると、中学校 2 年生のいる世帯では「なし」が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-168 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】



<前回調査>【図表 3-169 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】



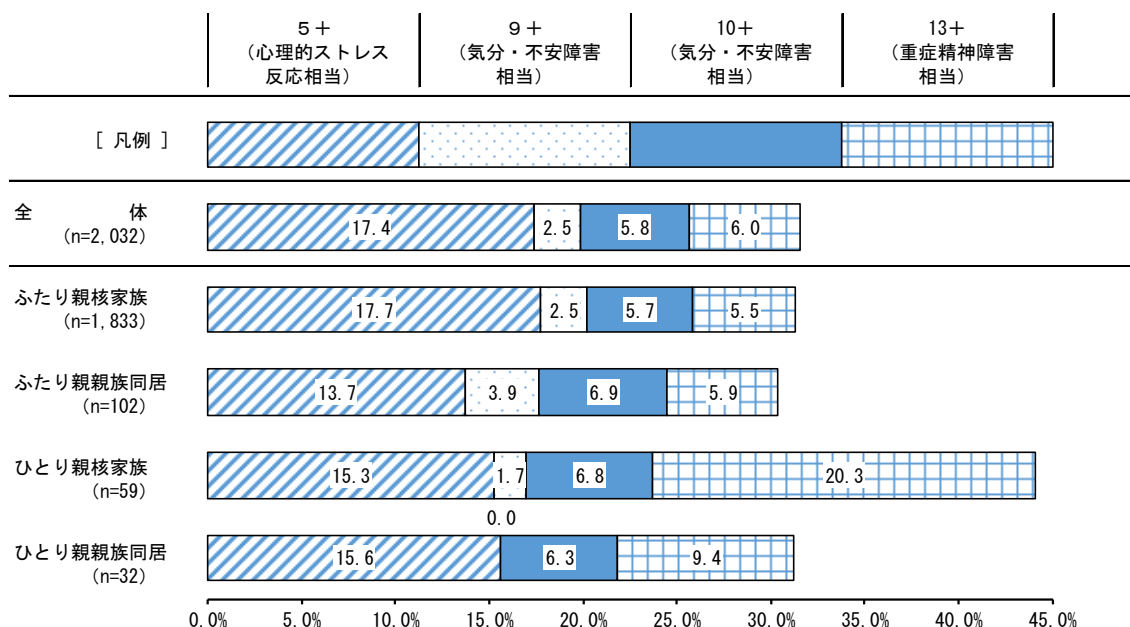
¹ K 6 指標は、米国の Kessler らによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されており、厚生労働省が実施する国民生活基礎調査においても用いられているものである。6つの質問について、5段階（「まったくない」（0点）、「少しだけ」（1点）、「ときどき」（2点）、「たいてい」（3点）、「いつも」（4点））で点数化を行い、その得点によって「重症精神障害相当」（13点以上）、「気分・不安障害相当」（9点以上及び10点以上）、「心理的ストレス反応相当」（5点以上）に分類され、合計点数が高いほど精神的な問題がより重い可能性があると考えられている。

K 6 指標に基づく抑うつ傾向について、小学校 2 年生のいる世帯の抑うつ傾向を世帯構成別にみると、「13+（重症精神障害相当）」は『ひとり親核家族』が 20.3%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「13+（重症精神障害相当）」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

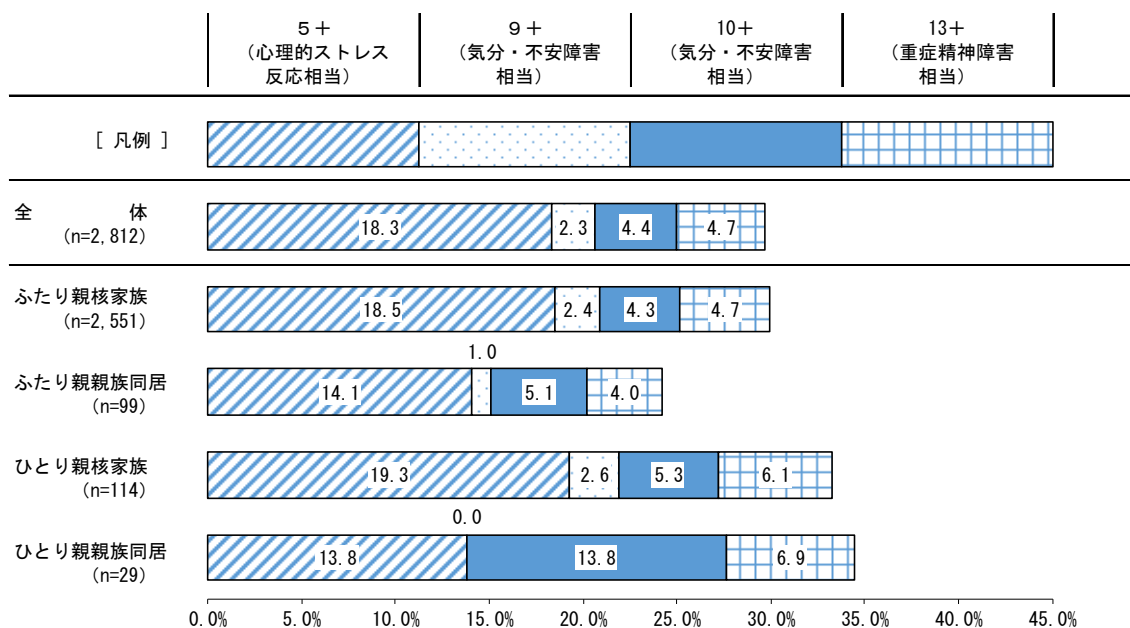
なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-170 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】（小学校 2 年生・世帯構成別）



※「なし」を除く

<前回調査>【図表 3-171 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】（小学校 2 年生・世帯構成別）



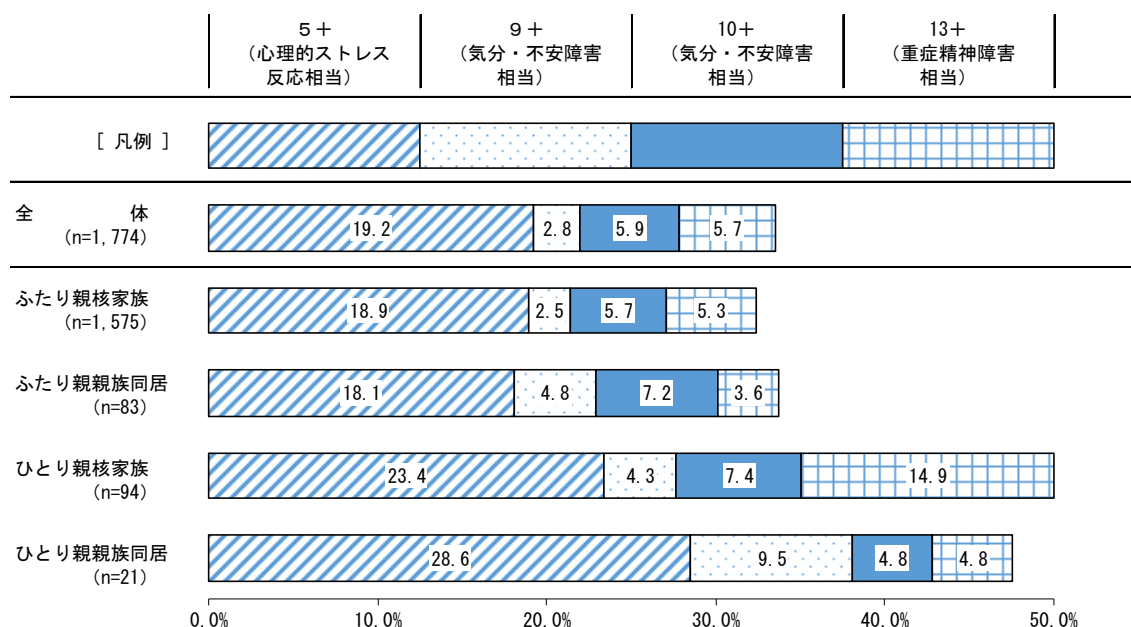
※「なし」を除く

K 6 指標に基づく抑うつ傾向について、小学校 5 年生のいる世帯の抑うつ傾向を世帯構成別にみると、「13+（重症精神障害相当）」は『ひとり親核家族』が 14.9%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

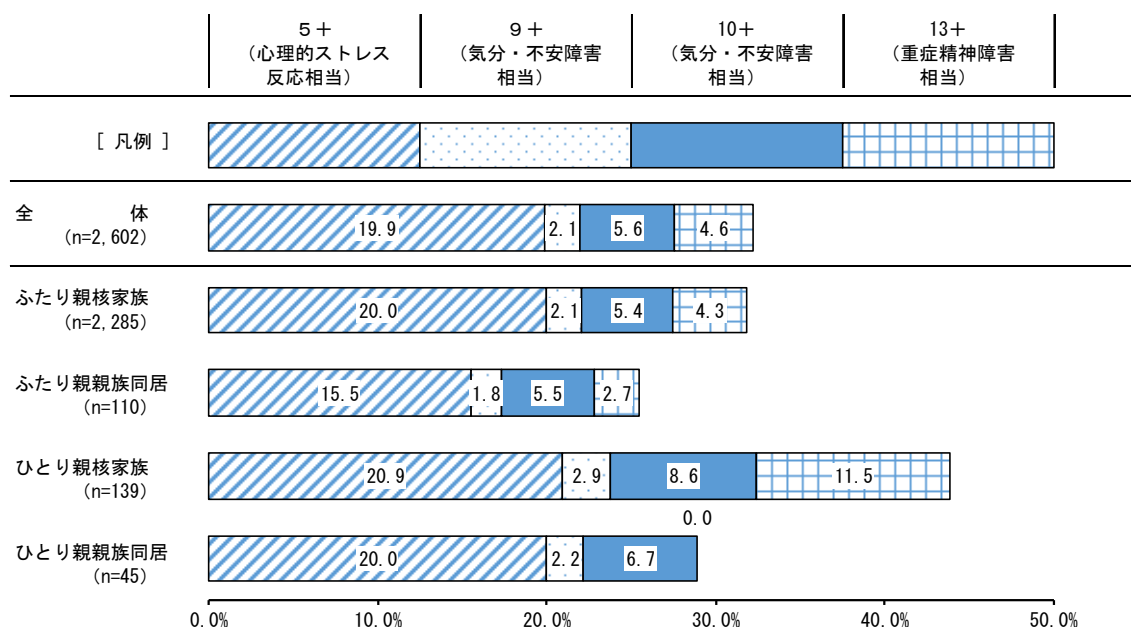
なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-172 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】（小学校 5 年生・世帯構成別）



※「なし」を除く

<前回調査>【図表 3-173 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】（小学校 5 年生・世帯構成別）



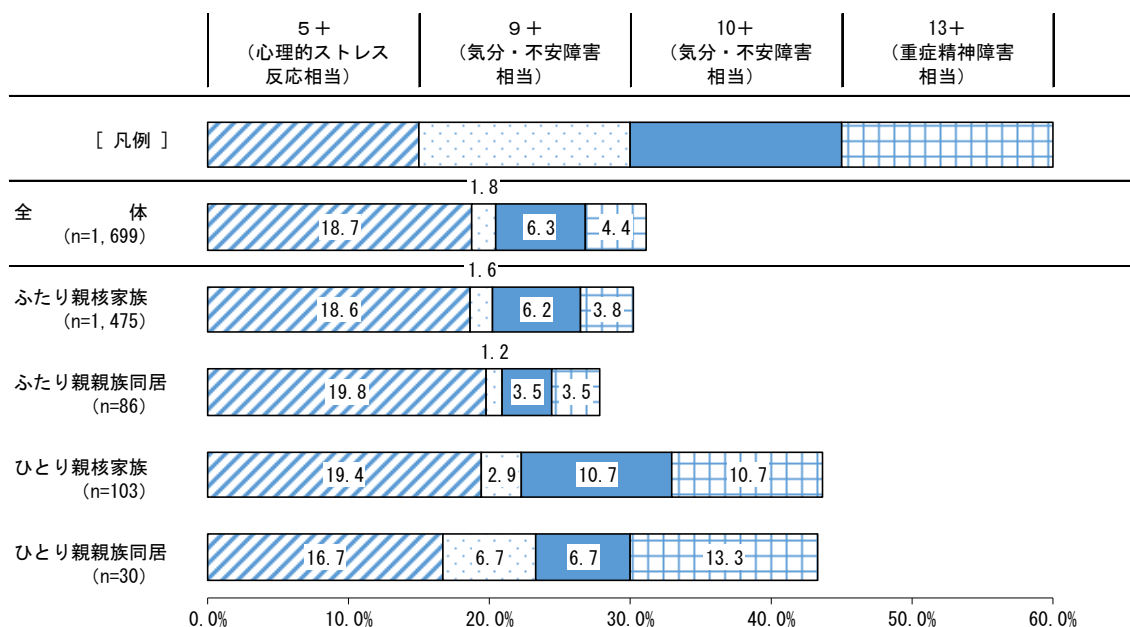
※「なし」を除く

K 6 指標に基づく抑うつ傾向について、中学校 2 年生のいる世帯の抑うつ傾向を世帯構成別にみると、「13+（重症精神障害相当）」は『ひとり親核家族』が 10.7%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「10+（気分・不安障害相当）」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。

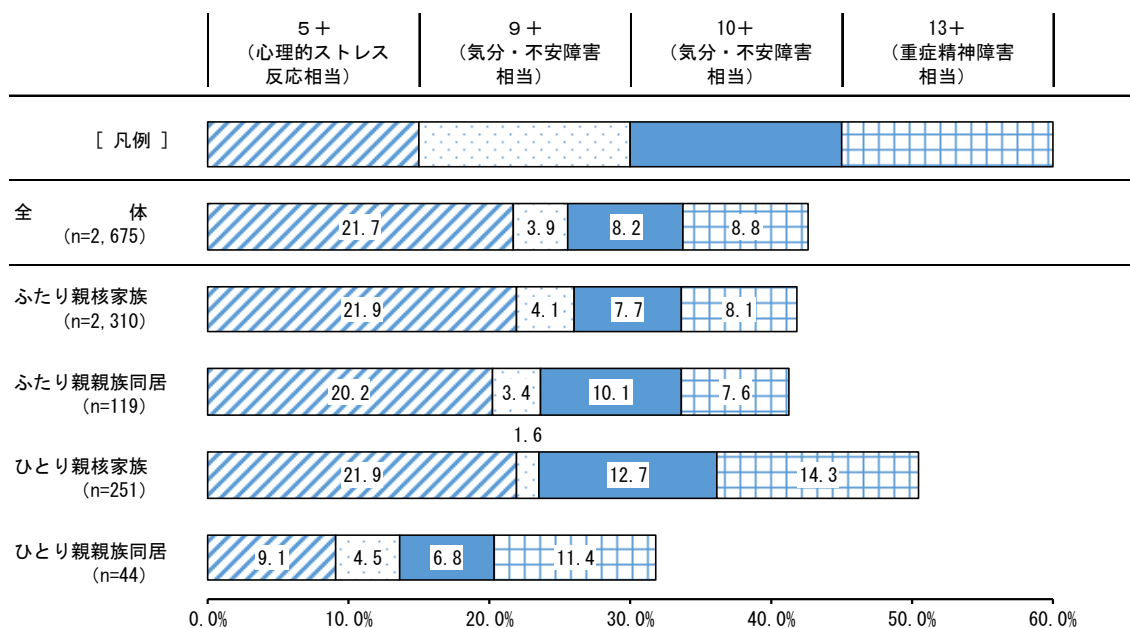
なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-174 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】（中学校 2 年生・世帯構成別）



※「なし」を除く

<前回調査>【図表 3-175 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】（中学校 2 年生・世帯構成別）

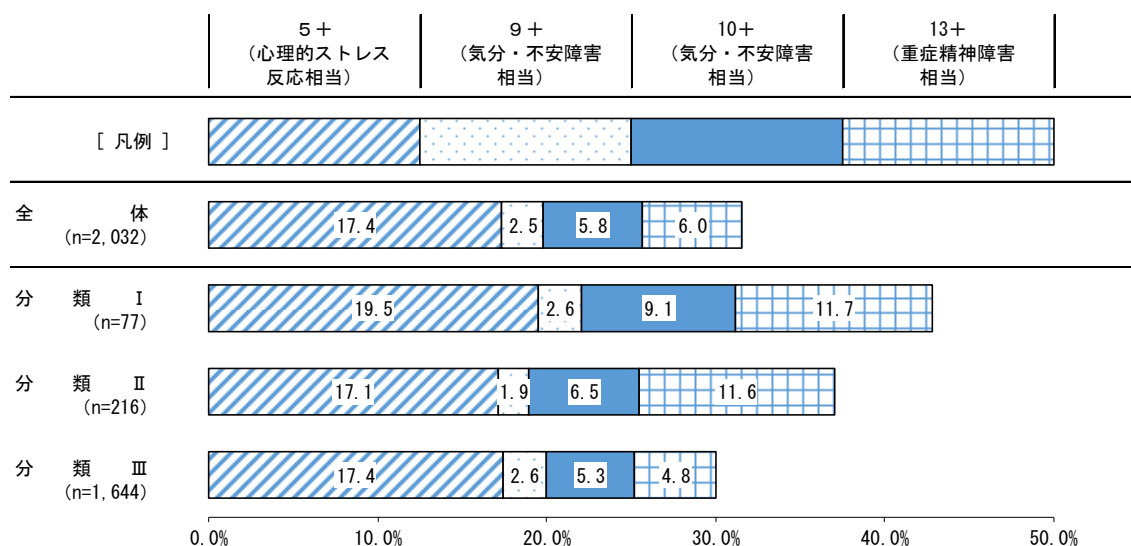


※「なし」を除く

K 6 指標に基づく抑うつ傾向について、小学校 2 年生のいる世帯の抑うつ傾向を所得分類別にみると、「13+（重症精神障害相当）」は『分類Ⅰ』が 11.7%、『分類Ⅱ』が 11.6%と全体に比べて高くなっている。

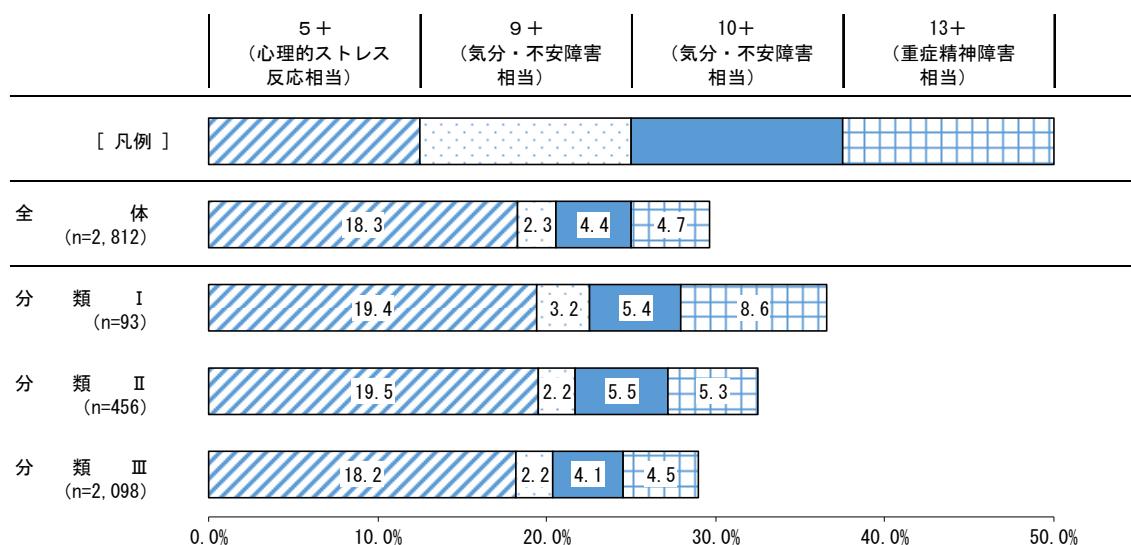
経年でみると、「13+（重症精神障害相当）」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-176 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】（小学校 2 年生・所得分類別）



※「なし」を除く

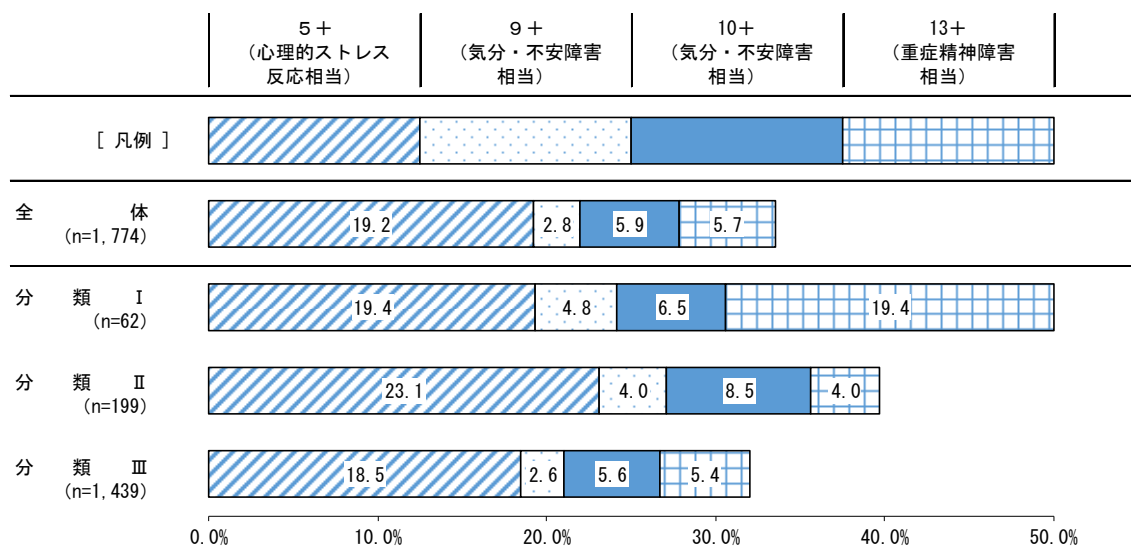
<前回調査>【図表 3-177 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】（小学校 2 年生・所得分類別）



※「なし」を除く

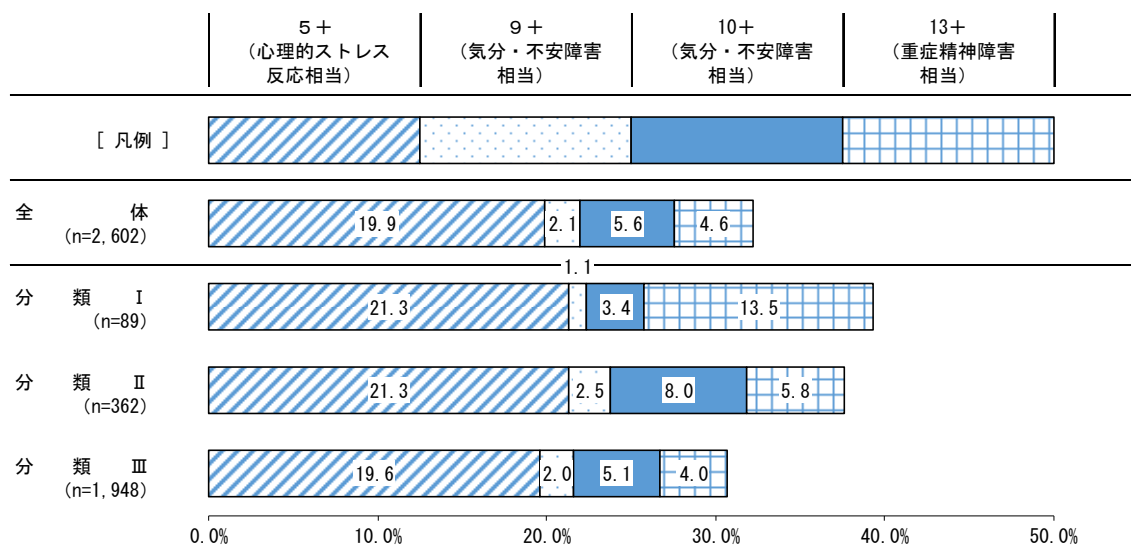
K 6 指標に基づく抑うつ傾向について、小学校 5 年生のいる世帯の抑うつ傾向を所得分類別にみると、「13+（重症精神障害相当）」は『分類Ⅰ』が 19.4%と全体に比べて高くなっている。経年でみると、「13+（重症精神障害相当）」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-178 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】（小学校 5 年生・所得分類別）



※「なし」を除く

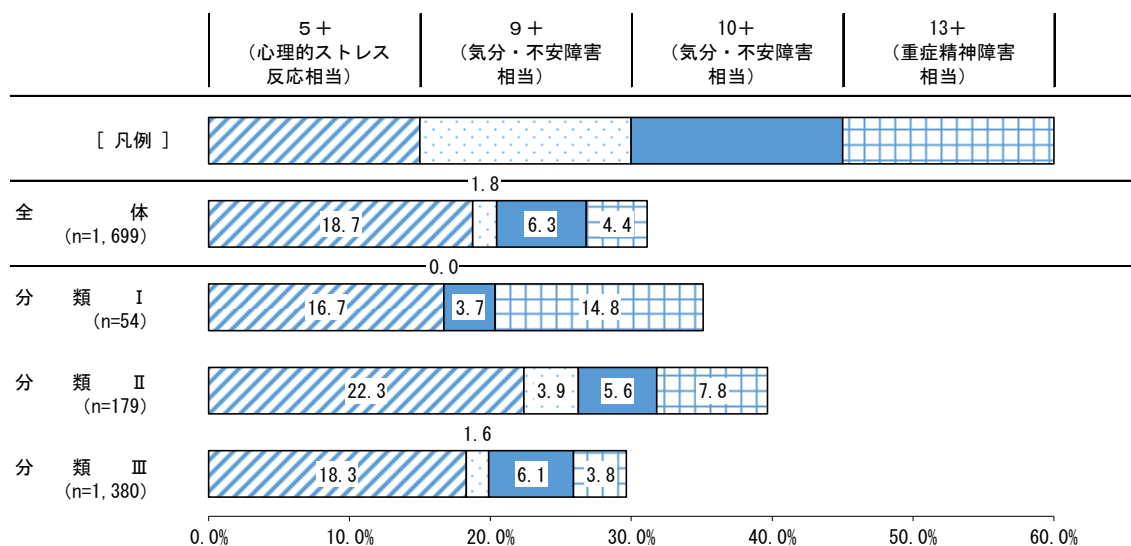
<前回調査>【図表 3-179 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】（小学校 5 年生・所得分類別）



※「なし」を除く

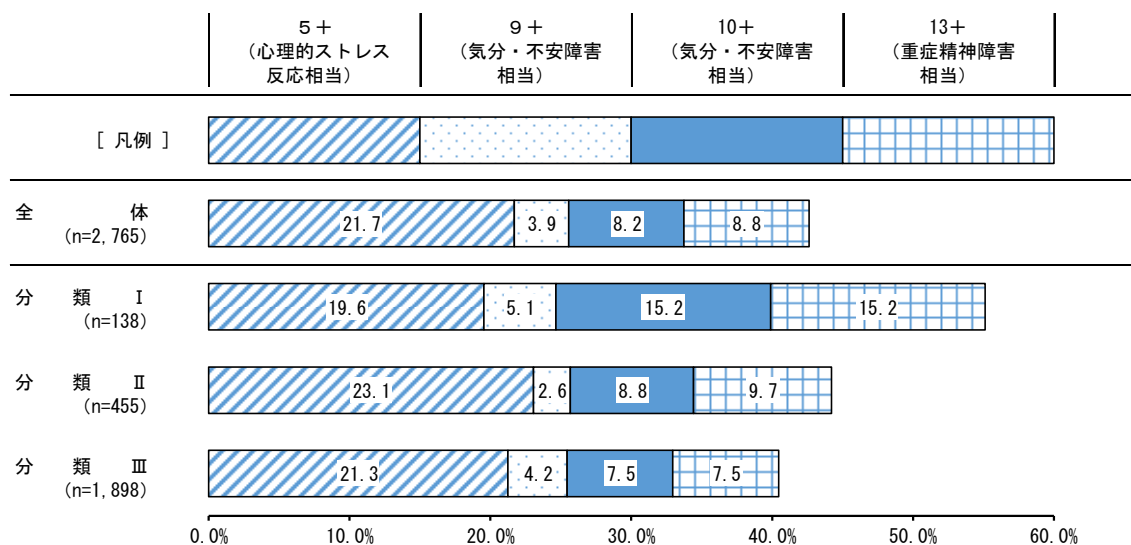
K 6 指標に基づく抑うつ傾向について、中学校 2 年生のいる世帯の抑うつ傾向を所得分類別にみると、「13+（重症精神障害相当）」は『分類Ⅰ』が 14.8%と全体に比べて高くなっている。経年でみると、「10+（気分・不安障害相当）」「9+（気分・不安障害相当）」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

<今回調査>【図表 3-180 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】（中学校 2 年生・所得分類別）



※「なし」を除く

<前回調査>【図表 3-181 K 6 指標に基づく抑うつ傾向】（中学校 2 年生・所得分類別）



※「なし」を除く

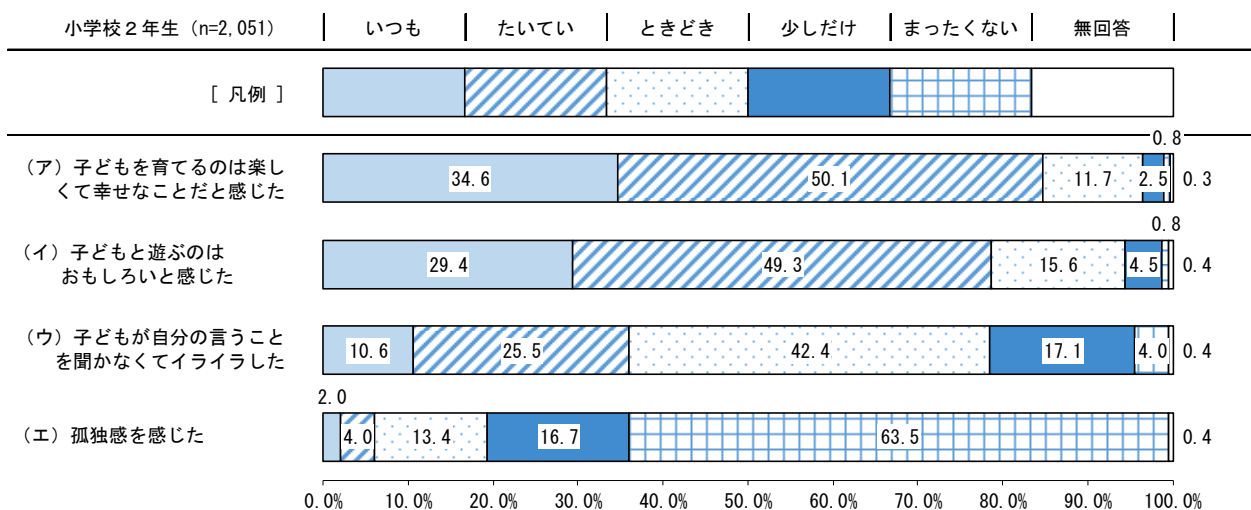
イ 子育てに関する感情【問16 ア～エ】(SA)

保護者の精神状態を聞いたところ、小学校2年生、小学校5年生のいる世帯ともに「いつも」は『子どもを育てるのは楽しくて幸せなことだと感じた』(小学校2年生：34.6%、小学校5年生：33.2%)が最も高く、次いで『子どもと遊ぶのはおもしろいと感じた』(小学校2年生：29.4%、小学校5年生：30.1%)となっている。

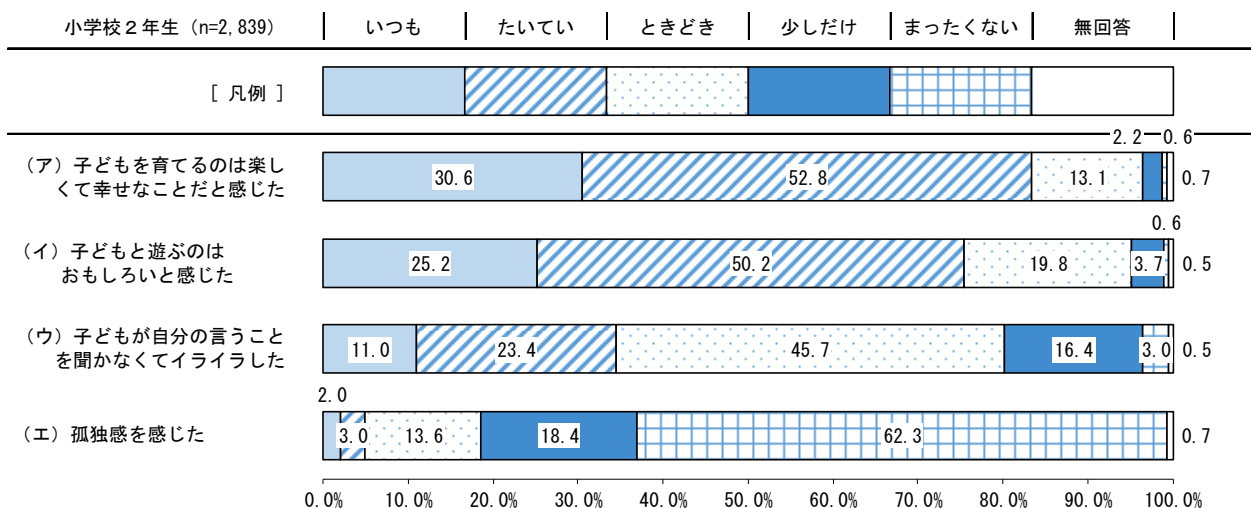
中学校2年生のいる世帯では「いつも」は『子どもと遊ぶのはおもしろいと感じた』が32.6%で最も高く、次いで『子どもを育てるのは楽しくて幸せなことだと感じた』が31.4%となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

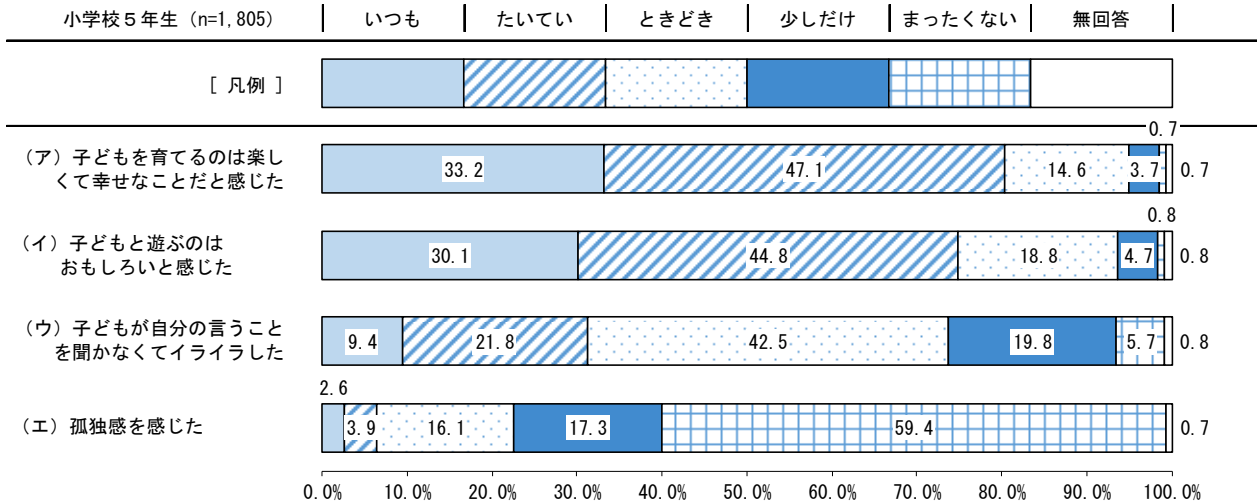
<今回調査>【図表 3-182 子育てに関する感情】(小学校2年生)



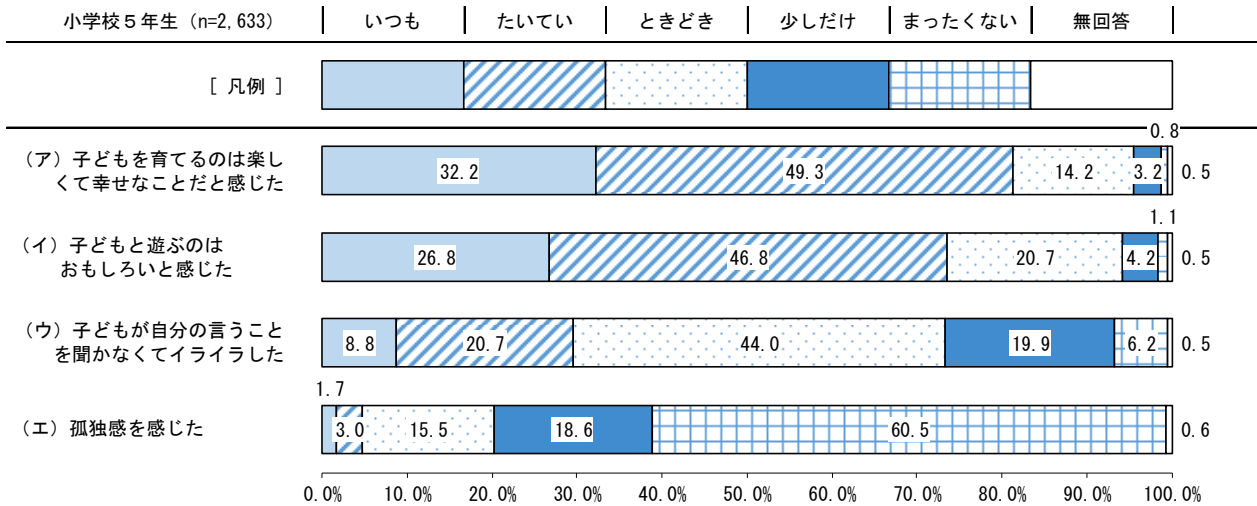
<前回調査>【図表 3-183 子育てに関する感情】(小学校2年生)



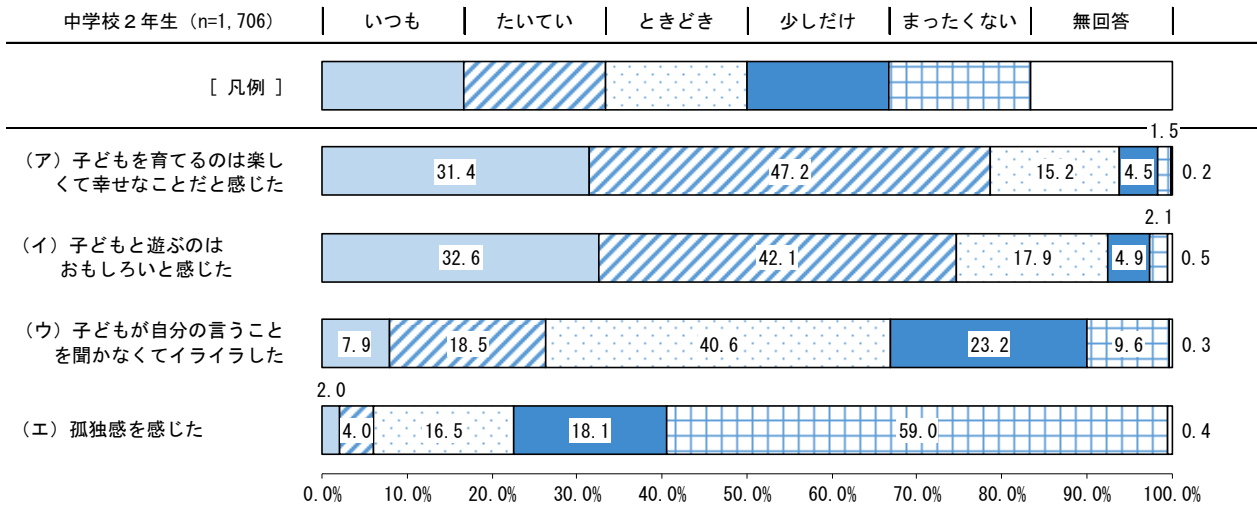
<今回調査>【図表 3-184 子育てに関する感情】（小学校5年生）



<前回調査>【図表 3-185 子育てに関する感情】（小学校5年生）



<今回調査>【図表 3-186 子育てに関する感情】（中学校2年生）



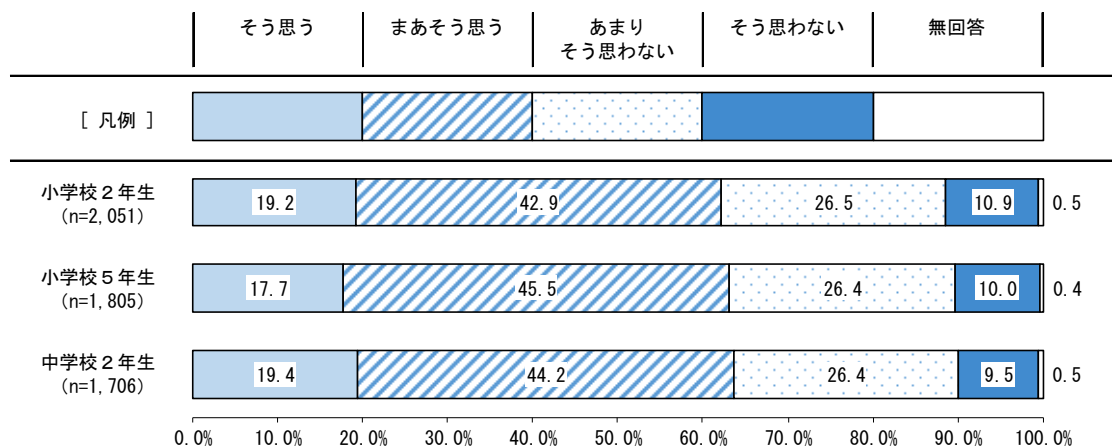
※中学校2年生は前回なし

ウ 将来に対する考え方など【問13】（SA）

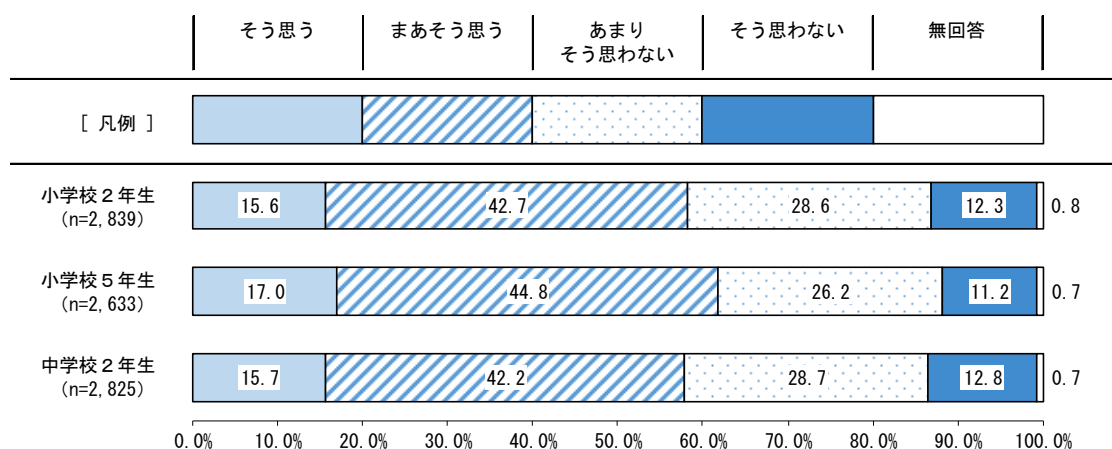
『大学を出ないとよい仕事につけないと思う』についてどう思うか聞いたところ、いずれの学年でも「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合が「あまりそう思わない」と「そう思わない」を足し合わせた割合を上回っている。

経年でみると、中学校2年生では「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合が前回調査に比べて高くなっている。

＜今回調査＞【図表 3-187 （ア）大学を出ないとよい仕事につけないと思う】



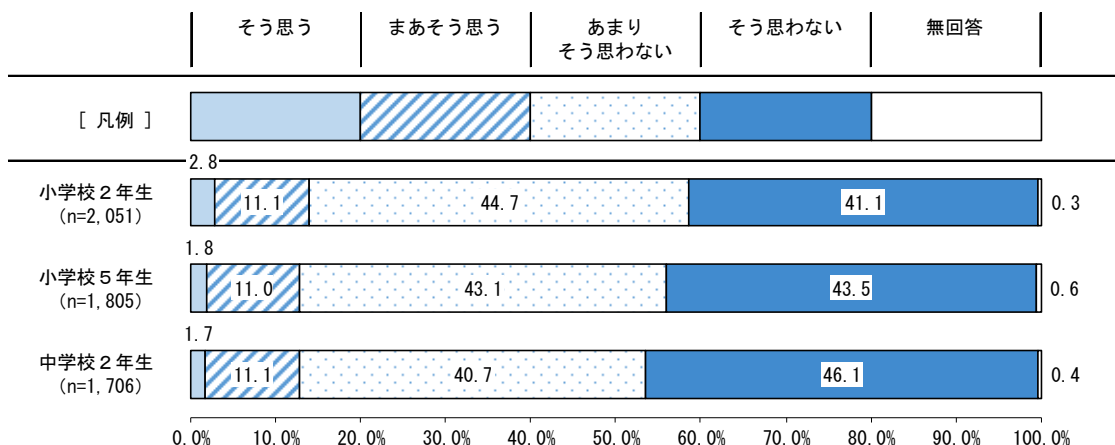
＜前回調査＞【図表 3-188 （ア）大学を出ないとよい仕事につけないと思う】



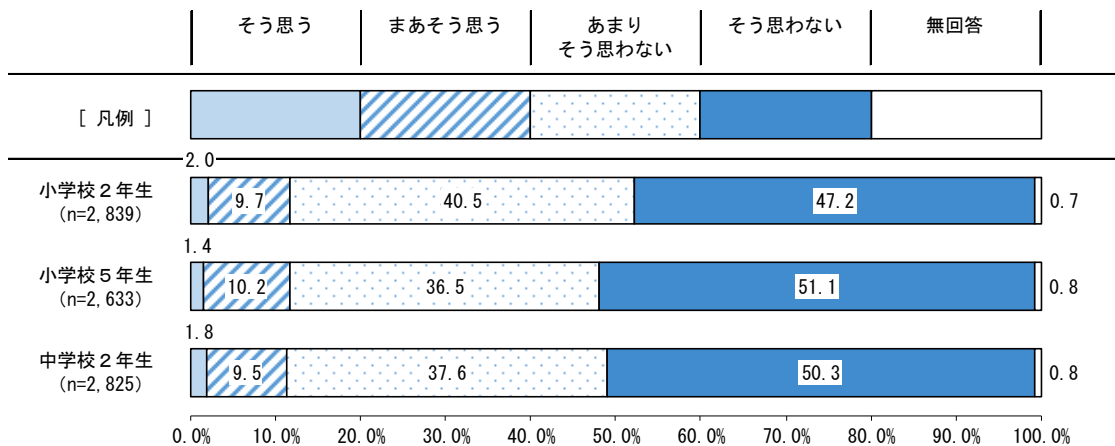
『がんばって働かなくても生活していけると思う』についてどう思うか聞いたところ、いずれの学年でも「そう思わない」と「あまりそう思わない」を足し合わせた割合が「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合を上回っている。

経年でみると、小学校2年生のいる世帯では「そう思わない」が前回調査に比べて低くなっている。小学校5年生のいる世帯では「あまりそう思わない」が前回調査に比べて高く、「そう思わない」が前回調査に比べて低くなっている。一方、「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合と「そう思わない」と「あまりそう思わない」を足し合わせた割合は大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-189 (イ) がんばって働かなくても生活していけると思う】



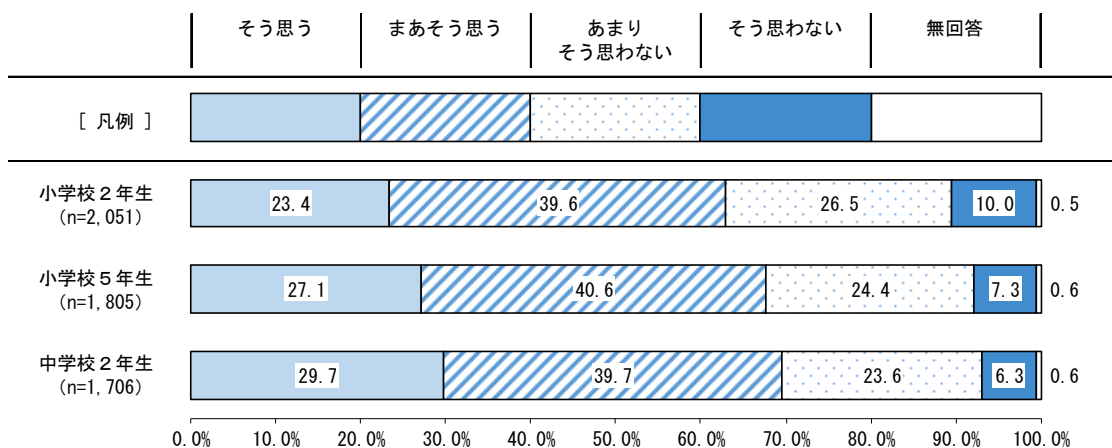
＜前回調査＞【図表 3-190 (イ) がんばって働かなくても生活していけると思う】



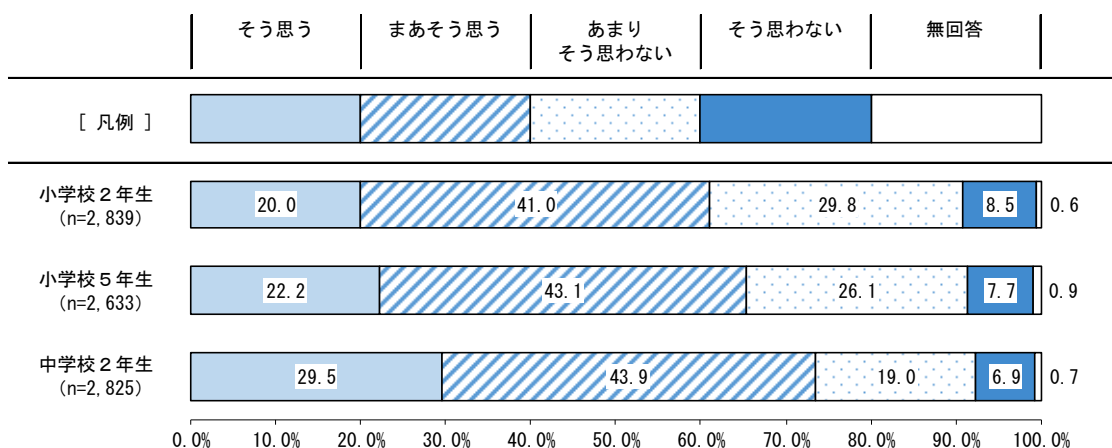
『子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ』についてどう思うか聞いたところ、いずれの学年でも「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合が「あまりそう思わない」と「そう思わない」を足し合わせた割合を上回っている。

経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-191 (ウ) 子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ】



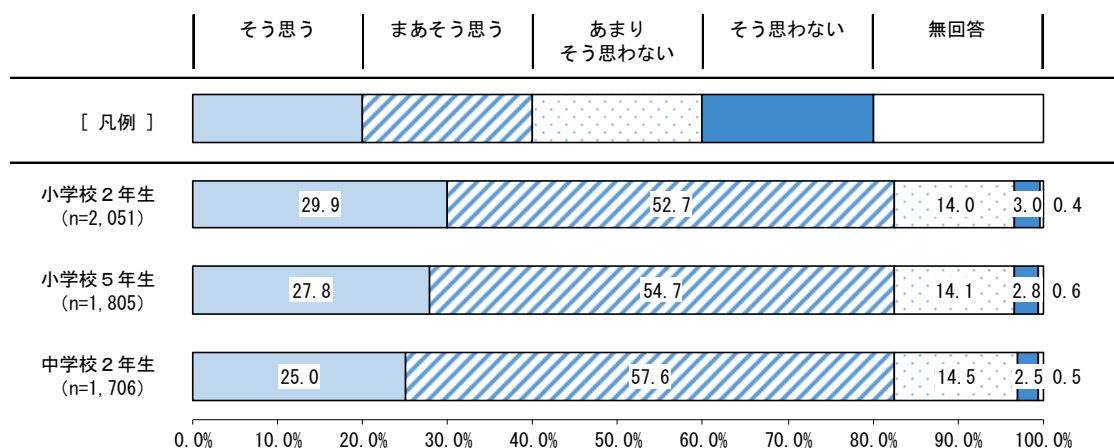
＜前回調査＞【図表 3-192 (ウ) 子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ】



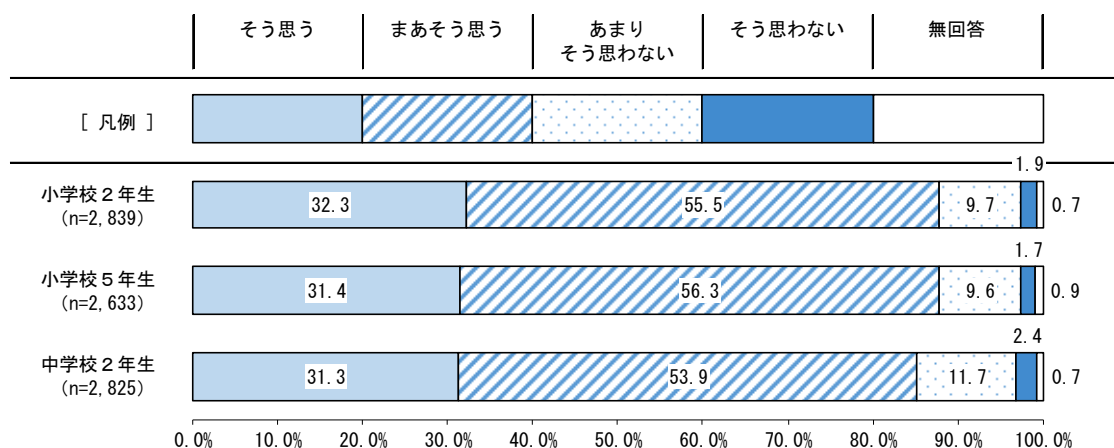
『努力すれば夢や希望はかなえられると思う』についてどう思うか聞いたところ、いずれの学年でも「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合が「あまりそう思わない」と「そう思わない」を足し合わせた割合を上回っている。

経年でみると、小学校2年生、小学校5年生のいる世帯では、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を足し合わせた割合が前回調査に比べて高くなっている。中学校2年生のいる世帯では「そう思う」が前回調査に比べて低くなっているが、「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合は大きな差はみられない。

<今回調査>【図表 3-193 (エ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】



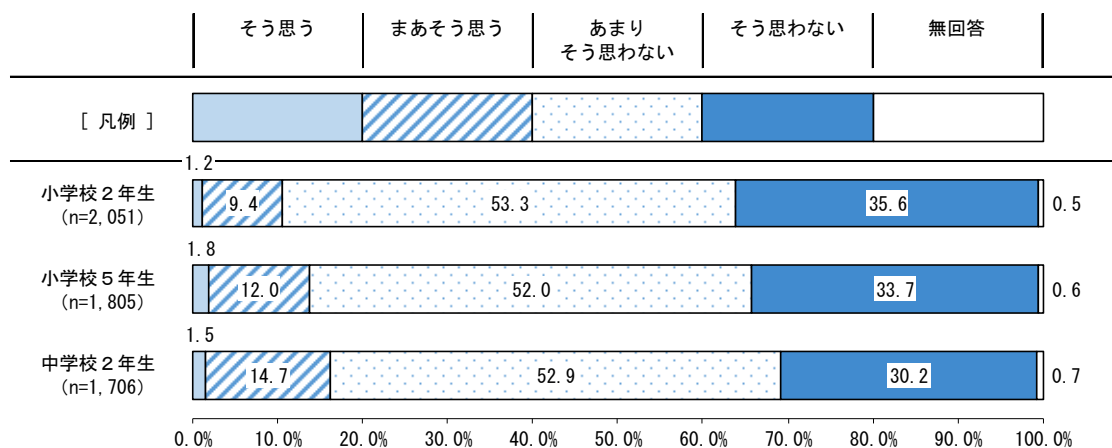
<前回調査>【図表 3-194 (エ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】



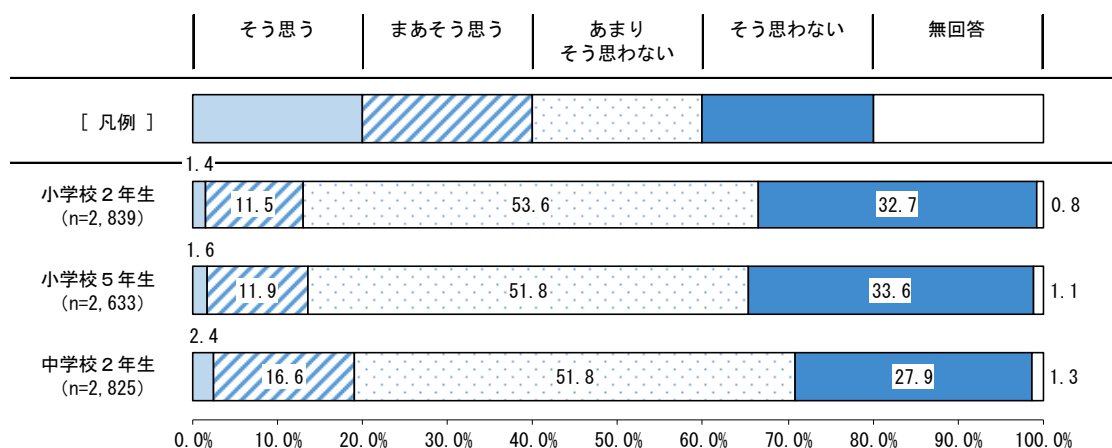
『子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う』についてどう思うか聞いたところ、いずれの学年でも「そう思わない」と「あまりそう思わない」を足し合わせた割合が「そう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた割合を上回っている。

経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-195 (オ) 子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う】



＜前回調査＞【図表 3-196 (オ) 子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う】

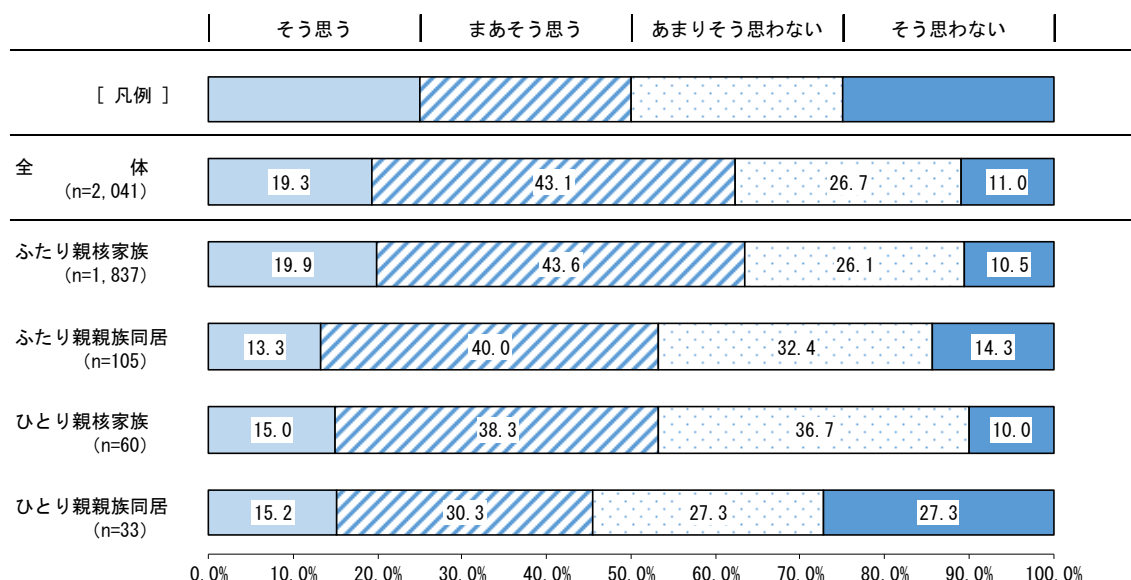


小学校2年生のいる世帯の『大学を出ないとよい仕事につけないと思う』という考えを世帯構成別にみると、「そう思う」は『ふたり親親族同居』が13.3%と全体に比べて低くなっている。「あまりそう思わない」は『ふたり親親族同居』が32.4%、『ひとり親核家族』が36.7%と全体に比べて高くなっている。

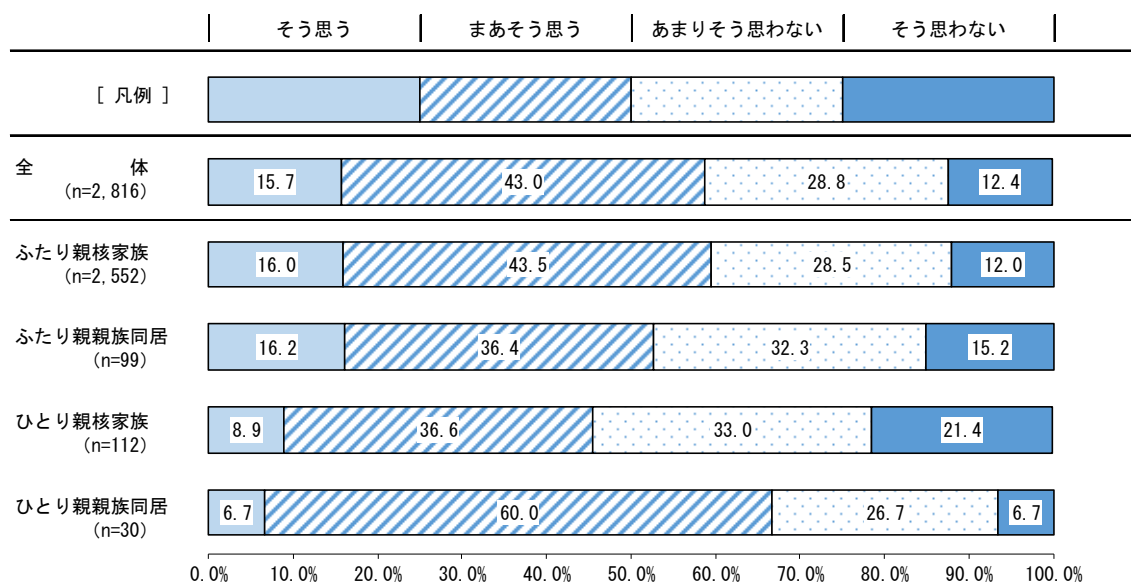
経年でみると、「そう思う」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高く、「そう思わない」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-197 (ア) 大学を出ないとよい仕事につけないと思う】(小学校2年生・世帯構成別)



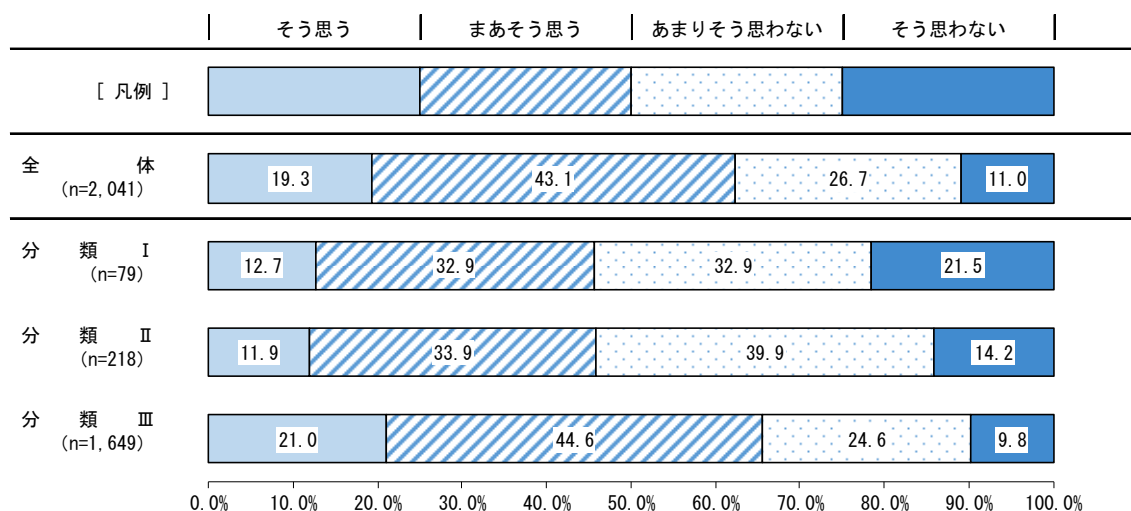
<前回調査>【図表 3-198 (ア) 大学を出ないとよい仕事につけないと思う】(小学校2年生・世帯構成別)



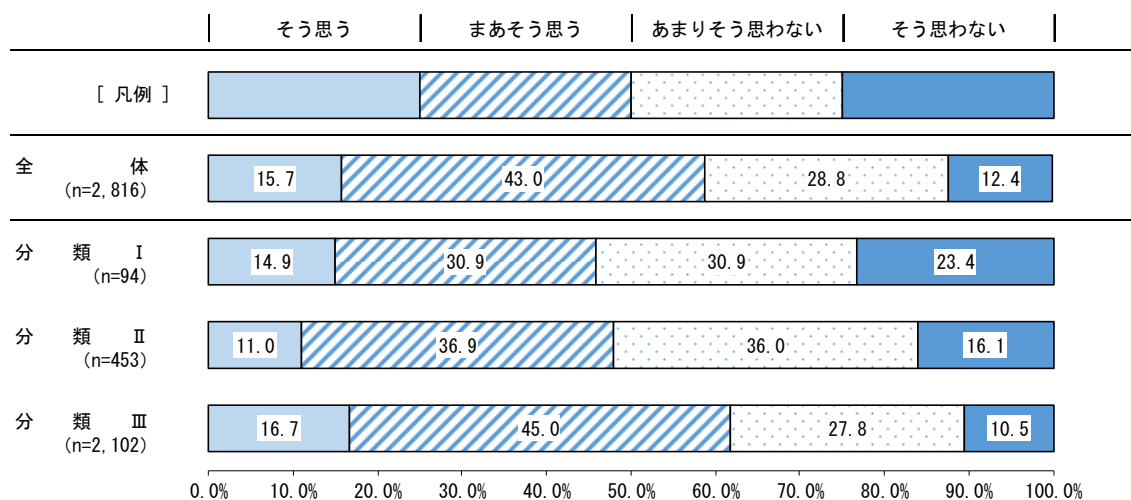
所得分類別にみると、「あまりそう思わない」は『分類Ⅰ』が32.9%、『分類Ⅱ』が39.9%と全体に比べて高くなっている。また、「そう思わない」は『分類Ⅰ』が21.5%と全体に比べて高くなっている。一方、「そう思う」は『分類Ⅰ』が12.7%、『分類Ⅱ』が11.9%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

<今回調査>【図表 3-199 (ア) 大学を出ないとよい仕事につけないと思う】(小学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-200 (ア) 大学を出ないとよい仕事につけないと思う】(小学校2年生・所得分類別)

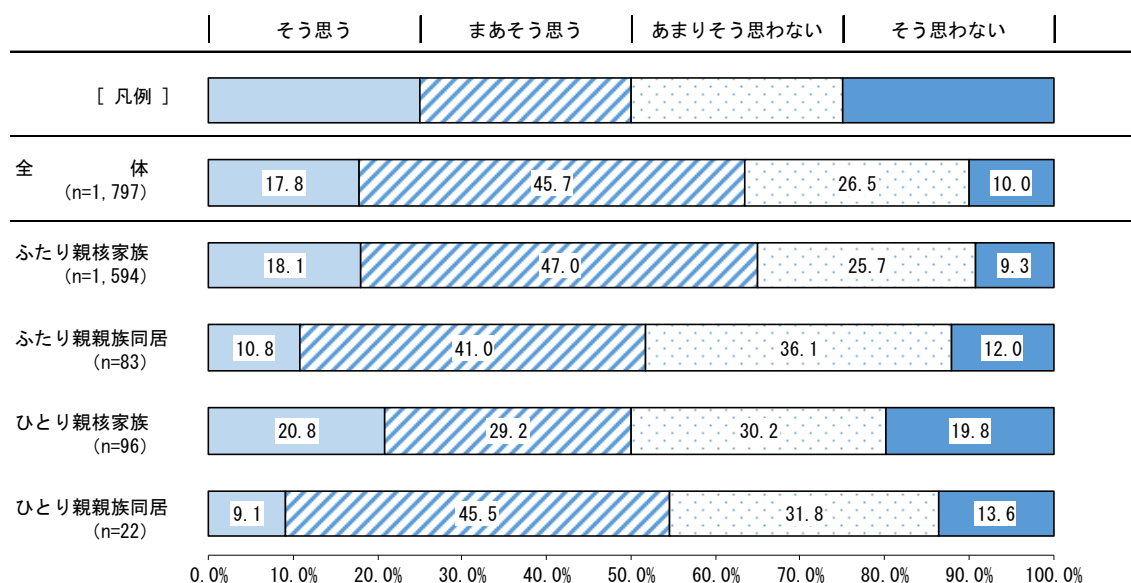


小学校5年生のいる世帯の『大学を出ないとよい仕事につけないと思う』という考えを世帯構成別にみると、「そう思う」は『ふたり親親族同居』が10.8%と全体に比べて低く、「まあそう思う」は『ひとり親核家族』が29.2%と全体に比べて低くなっている。「あまりそう思わない」は『ふたり親親族同居』が36.1%と全体に比べて高く、「そう思わない」は『ひとり親核家族』が19.8%と全体に比べて高くなっている。

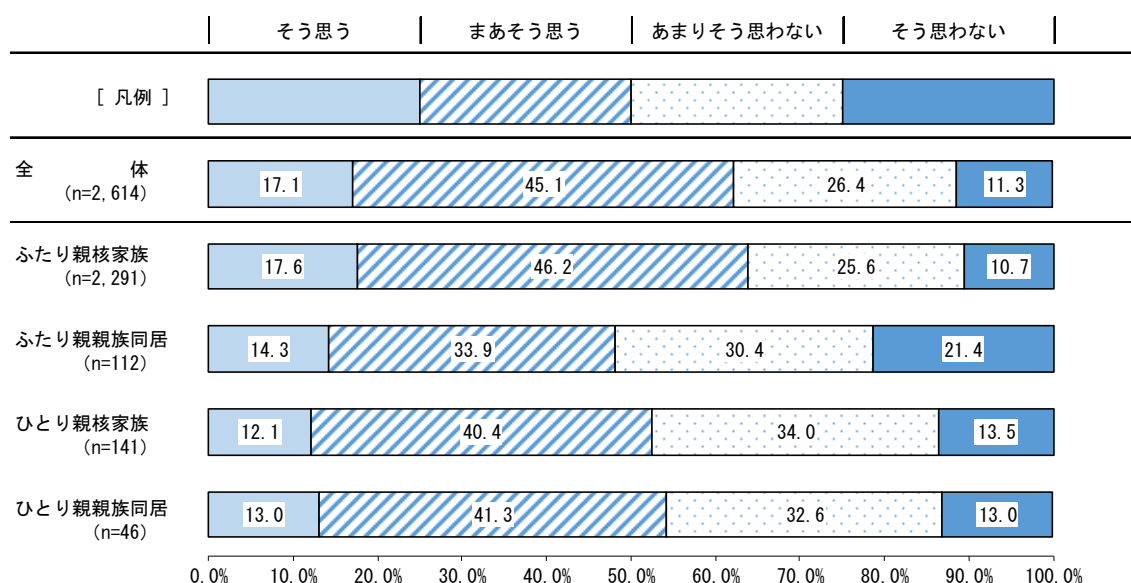
経年でみると、「そう思う」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高く、「まあそう思う」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高く、『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「あまりそう思わない」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。「そう思わない」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-201 (ア) 大学を出ないとよい仕事につけないと思う】(小学校5年生・世帯構成別)



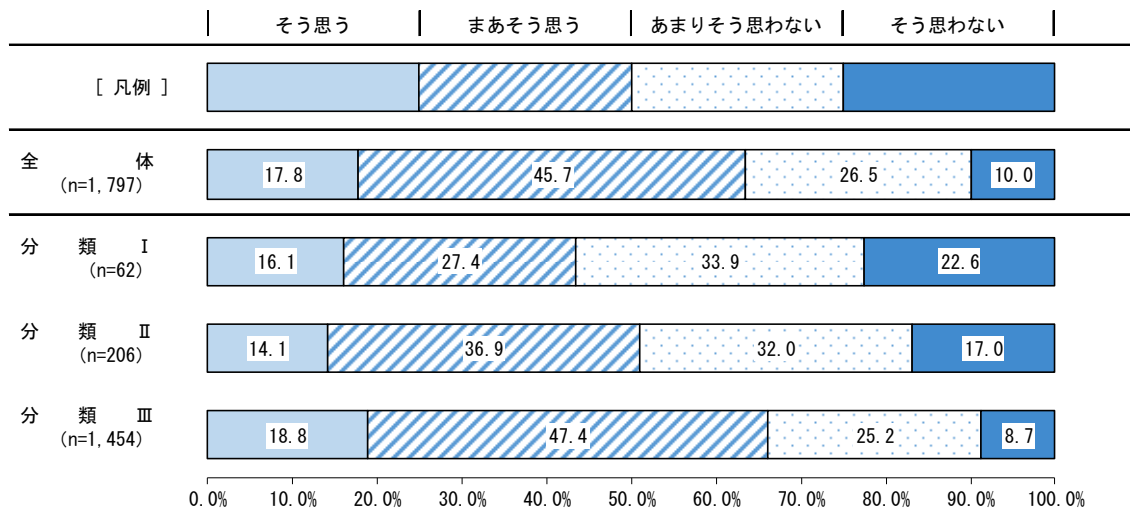
<前回調査>【図表 3-202 (ア) 大学を出ないとよい仕事につけないと思う】(小学校5年生・世帯構成別)



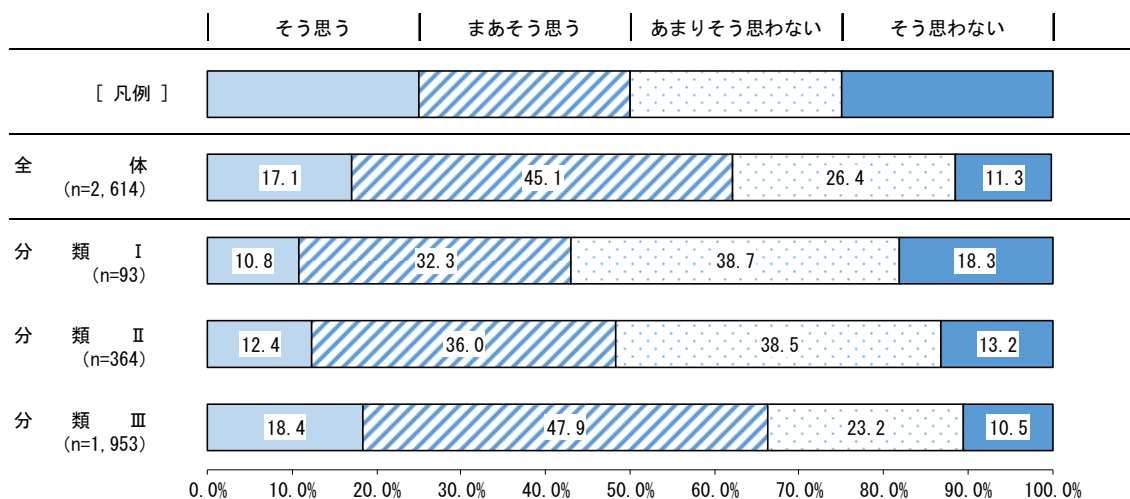
所得分類別にみると、「まあそう思う」は『分類Ⅰ』が27.4%、『分類Ⅱ』が36.9%と全体に比べて低くなっている。「あまりそう思わない」は『分類Ⅰ』が33.9%、『分類Ⅱ』が32.0%と全体に比べて高く、「そう思わない」は『分類Ⅰ』が22.6%、『分類Ⅱ』が17.0%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「そう思う」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高く、「あまりそう思わない」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低くなっている。

<今回調査>【図表 3-203 (ア) 大学を出ないとよい仕事につけないと思う】(小学校5年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-204 (ア) 大学を出ないとよい仕事につけないと思う】(小学校5年生・所得分類別)

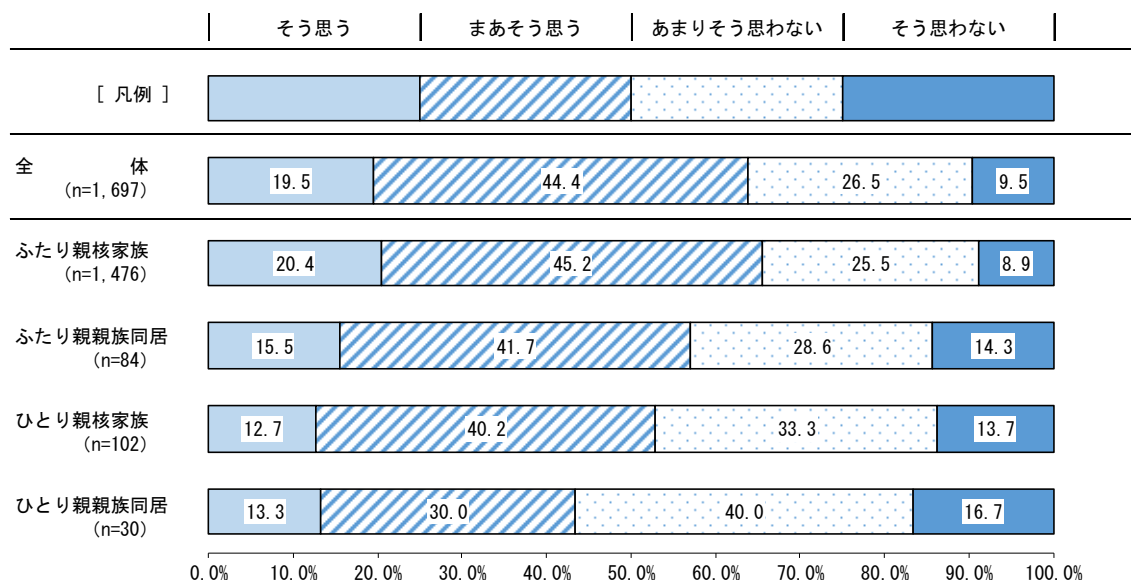


中学校2年生のいる世帯の『大学を出ないとよい仕事につけないと思う』という考えを世帯構成別にみると、「そう思う」は『ひとり親核家族』が12.7%と全体に比べて低く、「あまりそう思わない」は『ひとり親核家族』が33.3%と全体に比べて高くなっている。

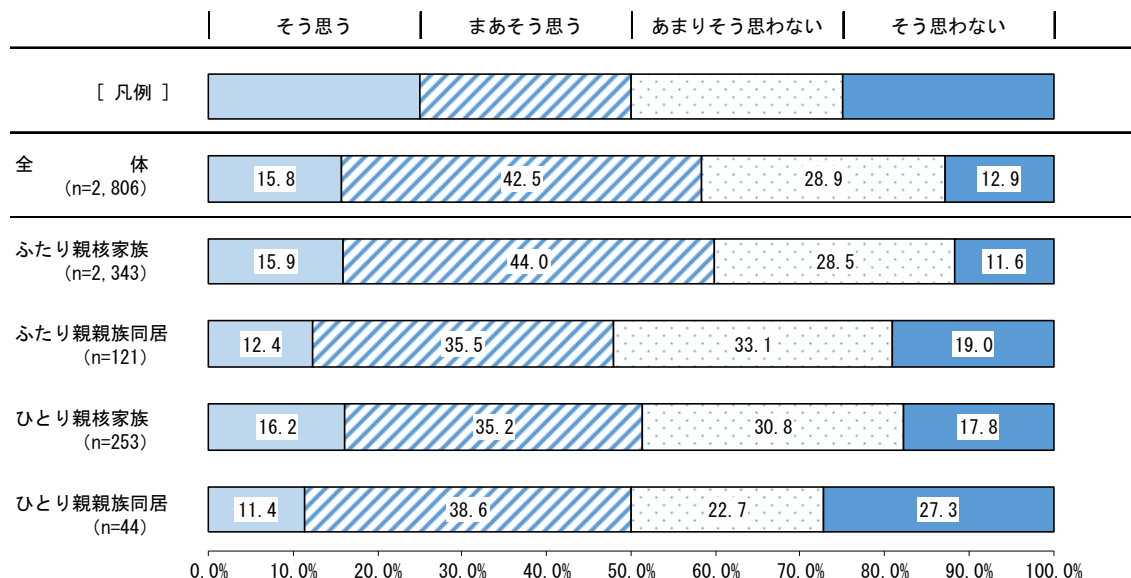
経年でみると、「まあそう思う」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-205 (ア) 大学を出ないとよい仕事につけないと思う】(中学校2年生・世帯構成別)



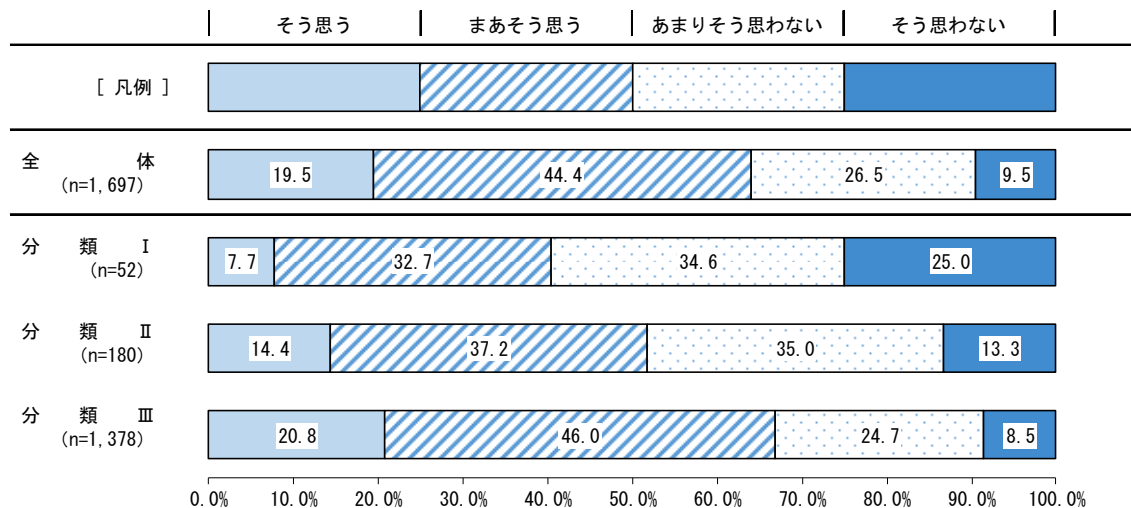
<前回調査>【図表 3-206 (ア) 大学を出ないとよい仕事につけないと思う】(中学校2年生・世帯構成別)



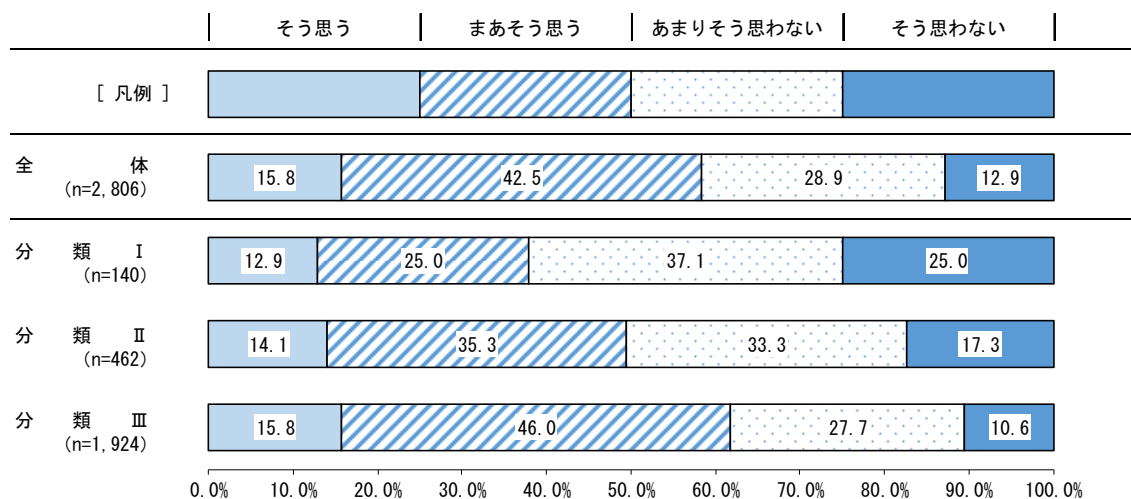
所得分類別にみると、「そう思う」は『分類Ⅰ』が7.7%、『分類Ⅱ』が14.4%と全体に比べて低く、「まあそう思う」は『分類Ⅰ』が32.7%、『分類Ⅱ』が37.2%と全体に比べて低くなっている。一方、「あまりそう思わない」は『分類Ⅰ』が34.6%、『分類Ⅱ』が35.0%と全体に比べて高く、「そう思わない」は『分類Ⅰ』が25.0%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「そう思う」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、『分類Ⅲ』が前回調査に比べて高くなっている。「まあそう思う」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-207 (ア) 大学を出ないとよい仕事につけないと思う】(中学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-208 (ア) 大学を出ないとよい仕事につけないと思う】(中学校2年生・所得分類別)

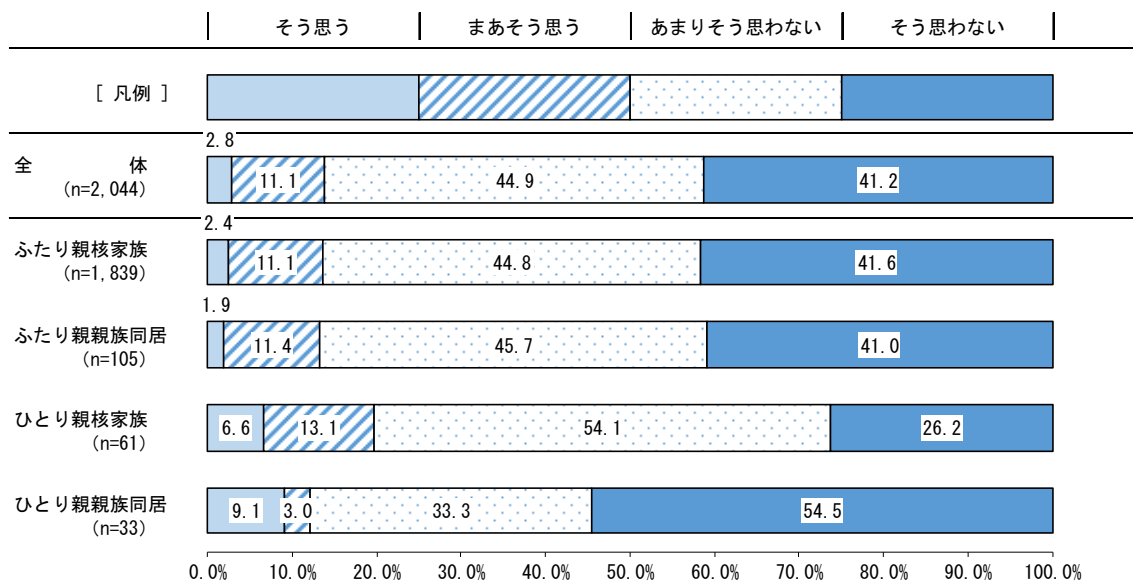


小学校2年生のいる世帯の『がんばって働かなくても生活していけると思う』という考えを世帯構成別にみると、「あまりそう思わない」は『ひとり親核家族』が54.1%と全体に比べて高くなっている。「そう思わない」は『ひとり親核家族』が26.2%と全体に比べて低くなっている。

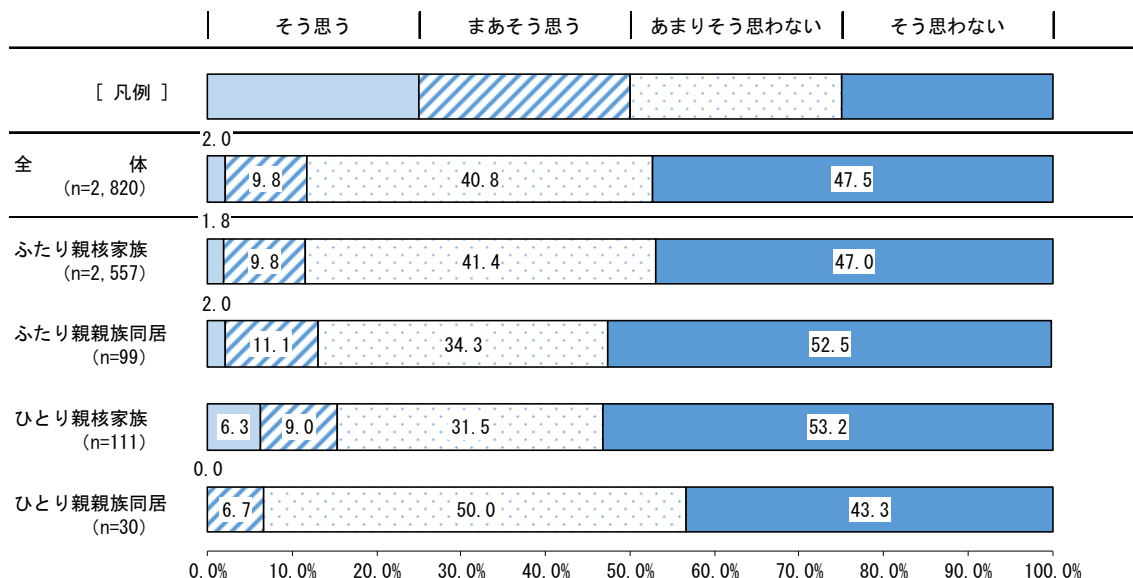
経年でみると、「あまりそう思わない」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高く、「そう思わない」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-209 (イ) がんばって働かなくても生活していけると思う】(小学校2年生・世帯構成別)



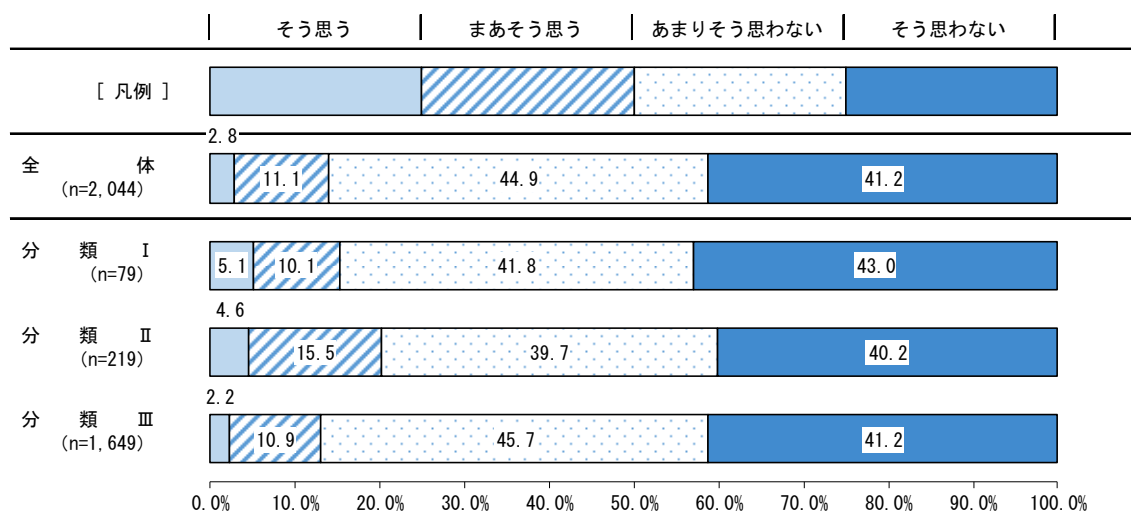
<前回調査>【図表 3-210 (イ) がんばって働かなくても生活していけると思う】(小学校2年生・世帯構成別)



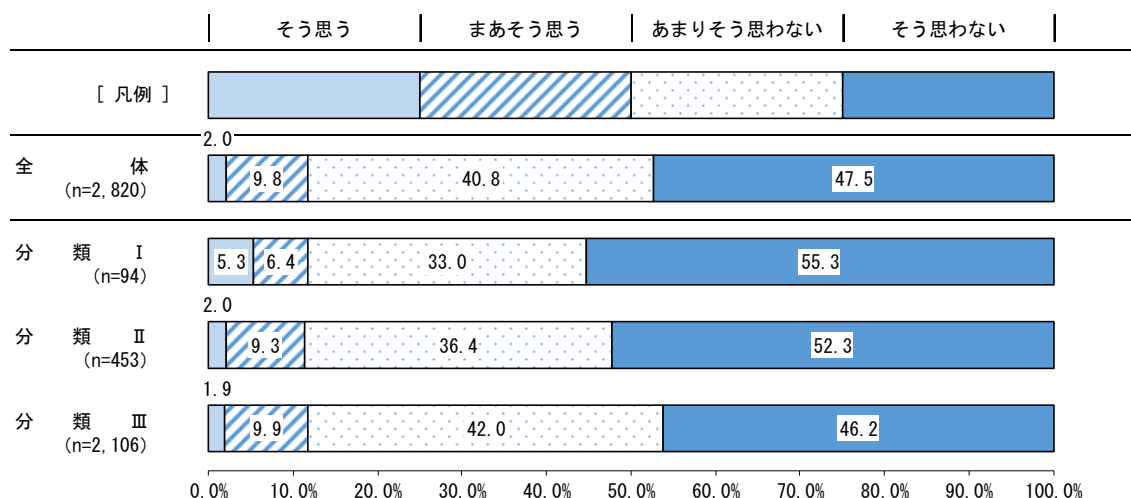
所得分類別にみると、「あまりそう思わない」は『分類Ⅱ』が39.7%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「まあそう思う」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高く、「あまりそう思わない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。「そう思わない」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて低くなっている。

<今回調査>【図表 3-211 (イ) ががんばって働かなくても生活していけると思う】(小学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-212 (イ) ががんばって働かなくても生活していけると思う】(小学校2年生・所得分類別)

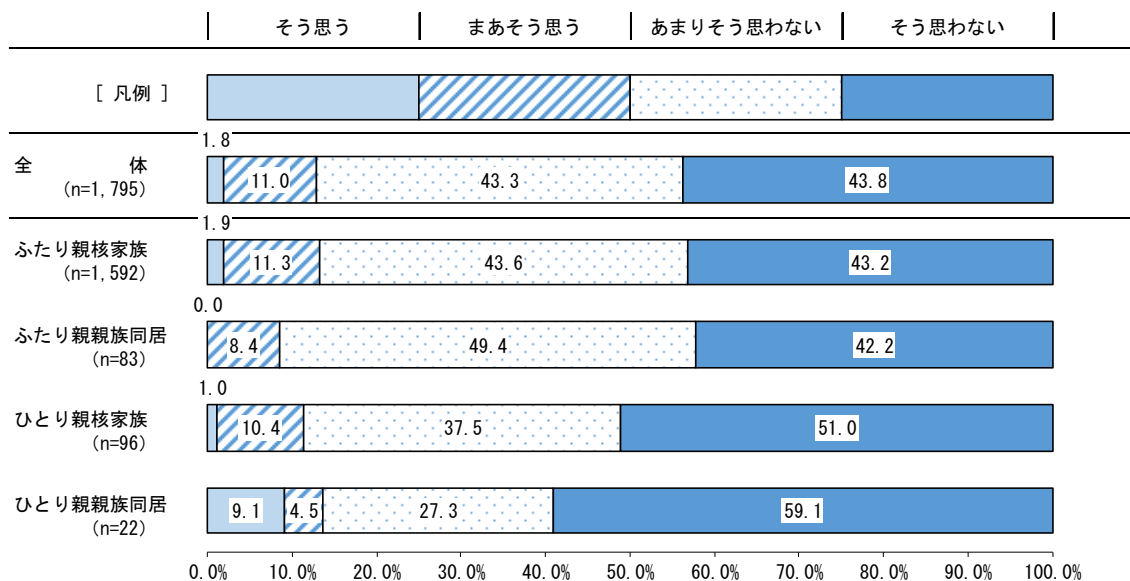


小学校5年生のいる世帯の『がんばって働かなくても生活していけると思う』という考えを世帯構成別にみると、「あまりそう思わない」は『ふたり親親族同居』が49.4%と全体に比べて高く、『ひとり親核家族』が37.5%と全体に比べて低くなっている。「そう思わない」は『ひとり親核家族』が51.0%と全体に比べて高くなっている。

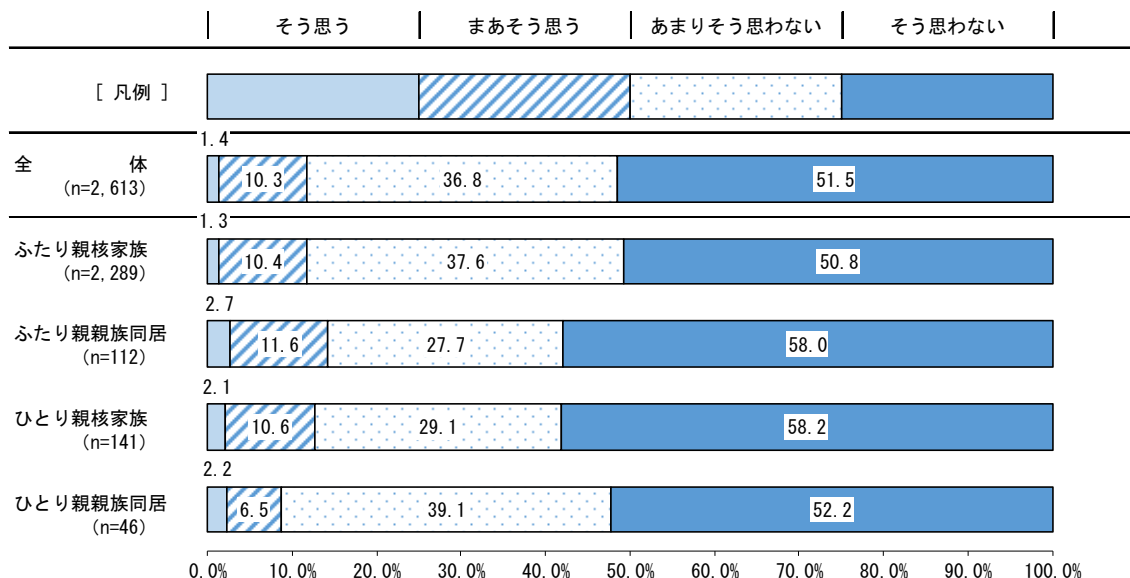
経年でみると、「あまりそう思わない」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高く、「そう思わない」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-213 (イ) がんばって働かなくても生活していけると思う】(小学校5年生・世帯構成別)



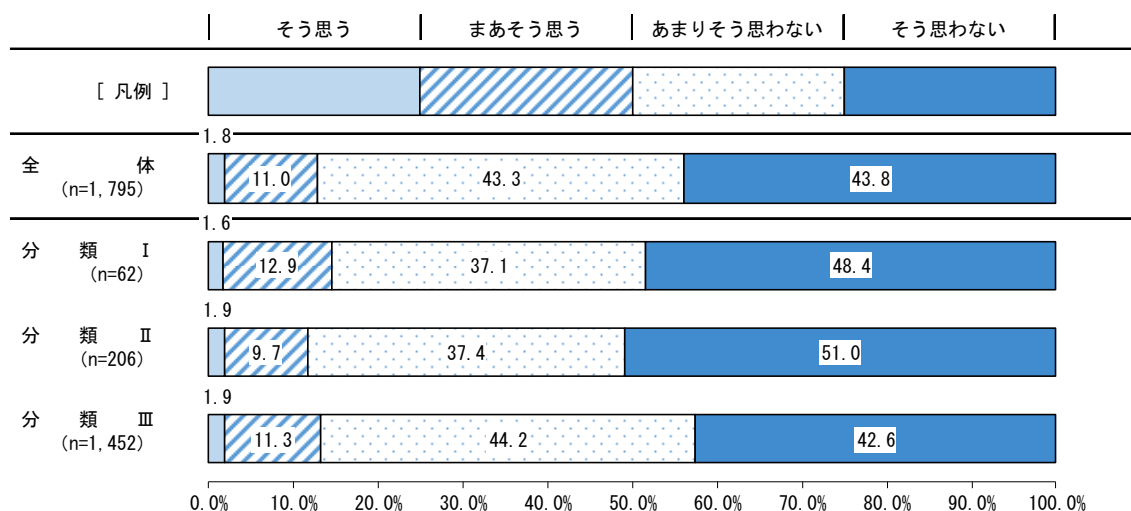
<前回調査>【図表 3-214 (イ) がんばって働かなくても生活していけると思う】(小学校5年生・世帯構成別)



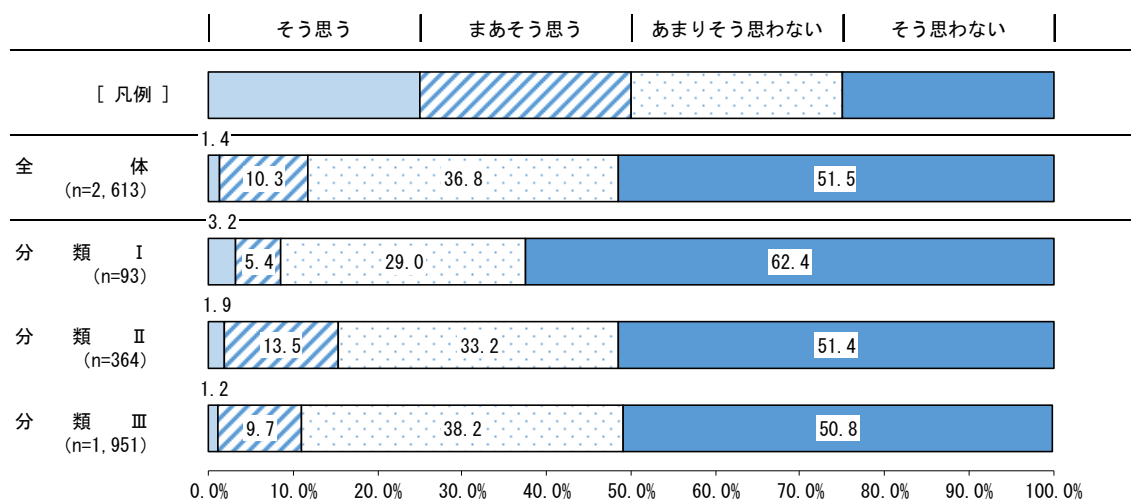
所得分類別にみると、「あまりそう思わない」は『分類Ⅰ』が37.1%、『分類Ⅱ』が37.4%と全体に比べて低く、「そう思わない」は『分類Ⅱ』が51.0%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「まあそう思う」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高く、「あまりそう思わない」は『分類Ⅰ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて高くなっている。「そう思わない」は『分類Ⅰ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低くなっている。

＜今回調査＞【図表 3-215 (イ) がんばって働かなくても生活していけると思う】(小学校5年生・所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-216 (イ) がんばって働かなくても生活していけると思う】(小学校5年生・所得分類別)

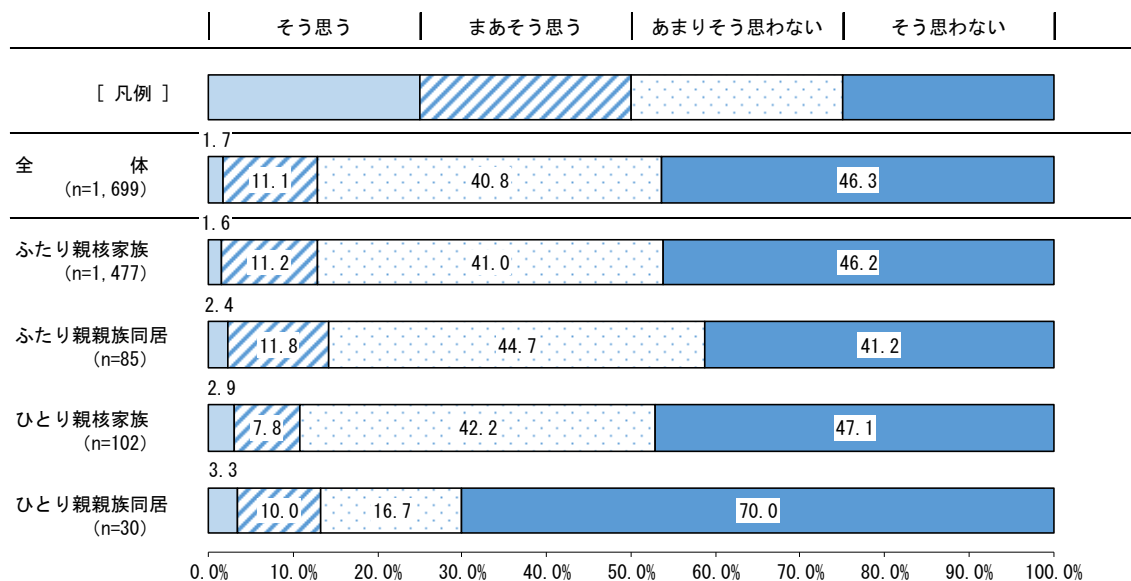


中学校2年生のいる世帯の『がんばって働かなくても生活していけると思う』という考えを世帯構成別にみると、「そう思わない」は『ふたり親親族同居』が41.2%と全体に比べて低くなっている。

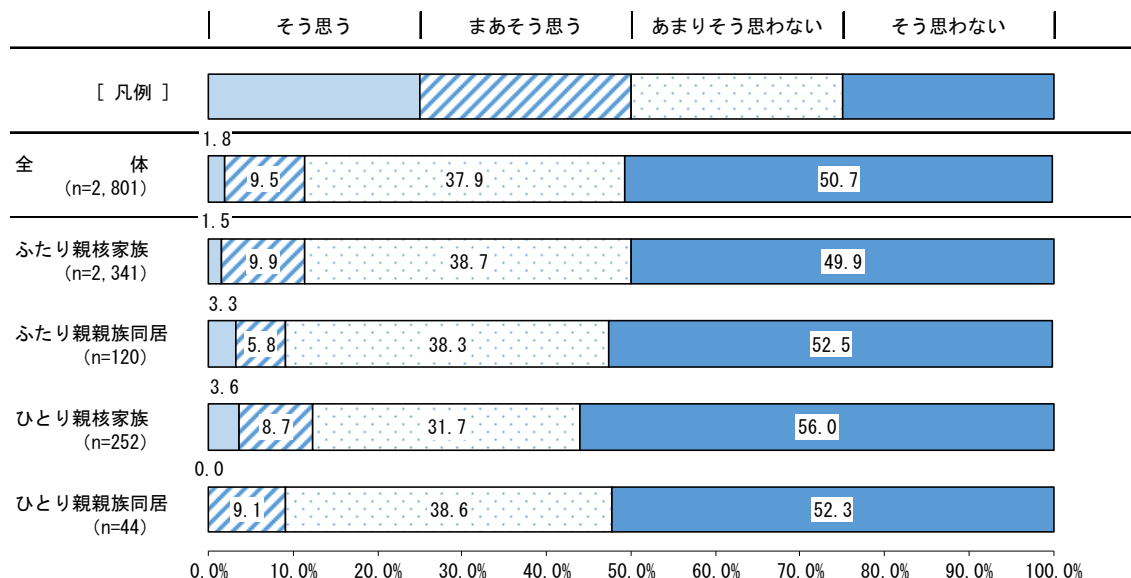
経年でみると、「まあそう思う」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。「あまりそう思わない」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高く、「そう思わない」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-217 (イ) がんばって働かなくても生活していけると思う】(中学校2年生・世帯構成別)

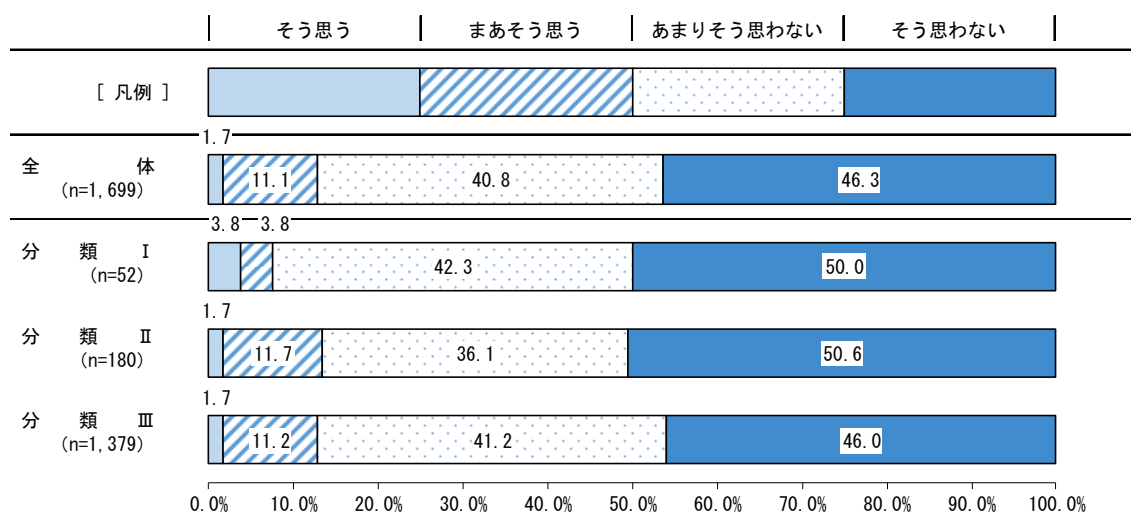


＜前回調査＞【図表 3-218 (イ) がんばって働かなくても生活していけると思う】(中学校2年生・世帯構成別)

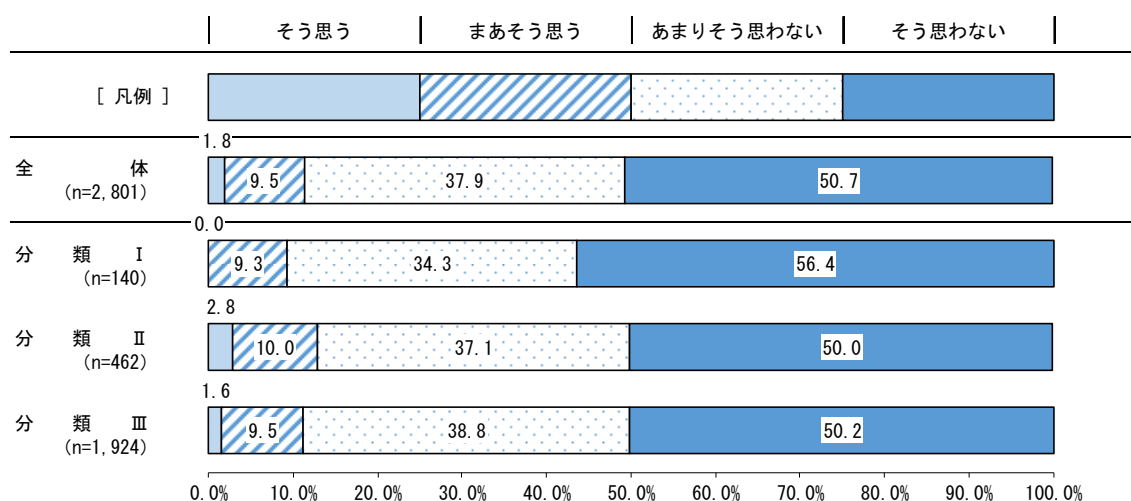


所得分類別にみると、「まあそう思う」は『分類Ⅰ』が 3.8%と全体に比べて低くなっている。
 経年でみると、『分類Ⅰ』では「まあそう思う」が前回調査に比べて低く、「あまりそう思わない」が前回調査に比べて高く、「そう思わない」が前回調査に比べて低くなっている。

<今回調査>【図表 3-219 (イ) ががんばって働かなくても生活していけると思う】(中学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-220 (イ) ががんばって働かなくても生活していけると思う】(中学校2年生・所得分類別)

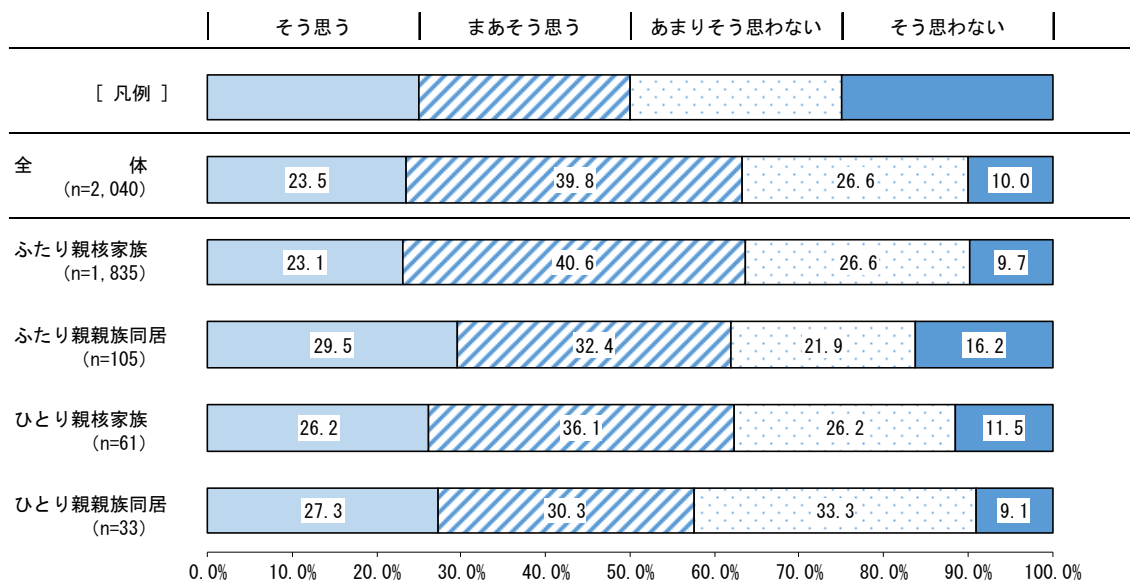


小学校2年生のいる世帯の『子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ』という考えを世帯構成別にみると、「そう思う」は『ふたり親親族同居』が29.5%と全体に比べて高くなっている。「まあそう思う」は『ふたり親親族同居』が32.4%と全体に比べて低くなっている。「そう思わない」は『ふたり親親族同居』が16.2%と全体に比べて高くなっている。

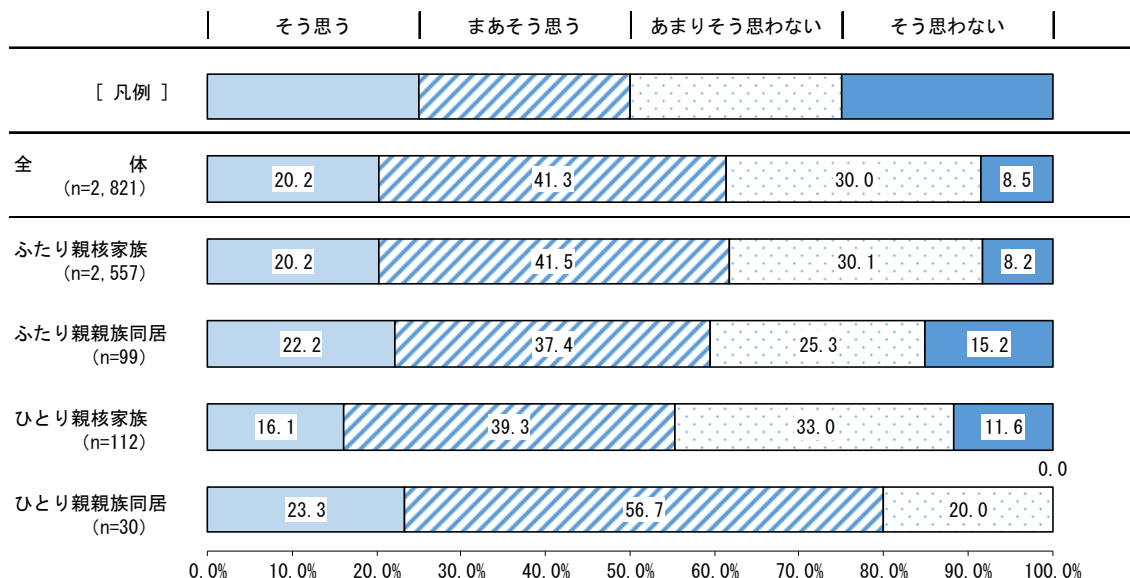
経年でみると、「そう思う」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。「まあそう思う」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、「あまりそう思わない」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-221 (ウ) 子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ】(小学校2年生・世帯構成別)



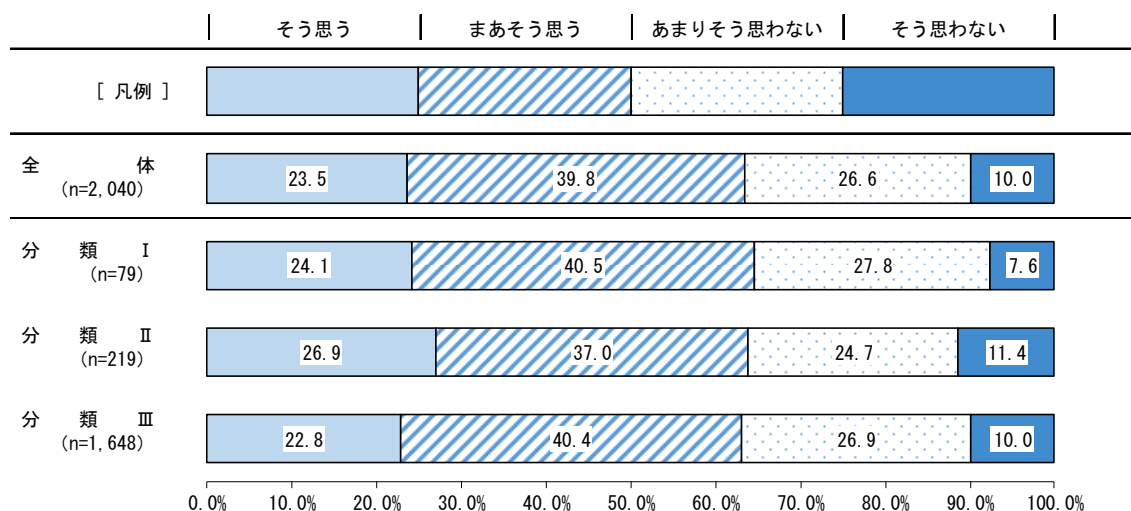
＜前回調査＞【図表 3-222 (ウ) 子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ】(小学校2年生・世帯構成別)



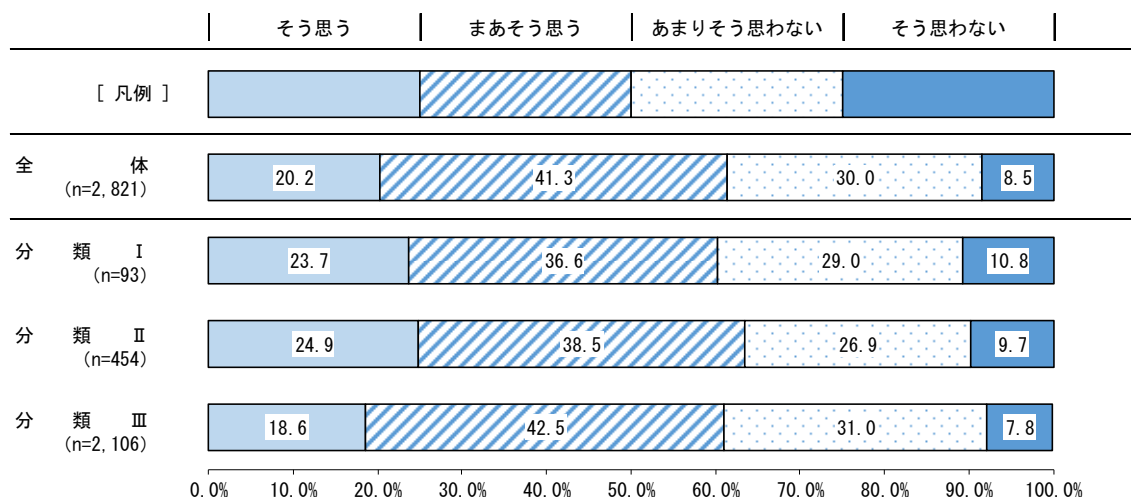
所得分類別にみると、大きな差はみられない。

経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-223 (ウ) 子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ】(小学校2年生・所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-224 (ウ) 子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ】(小学校2年生・所得分類別)

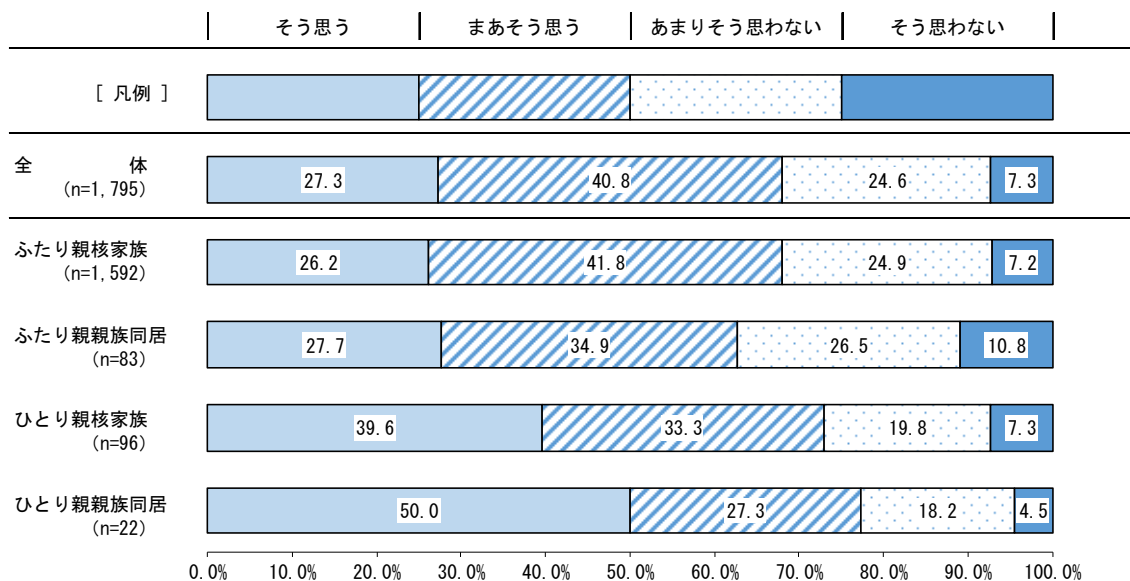


小学校5年生のいる世帯の『子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ』という考えを世帯構成別にみると、「そう思う」は『ひとり親核家族』が39.6%と全体に比べて高くなっている。「まあそう思う」は『ふたり親親族同居』が34.9%、『ひとり親核家族』が33.3%と全体に比べて低くなっている。

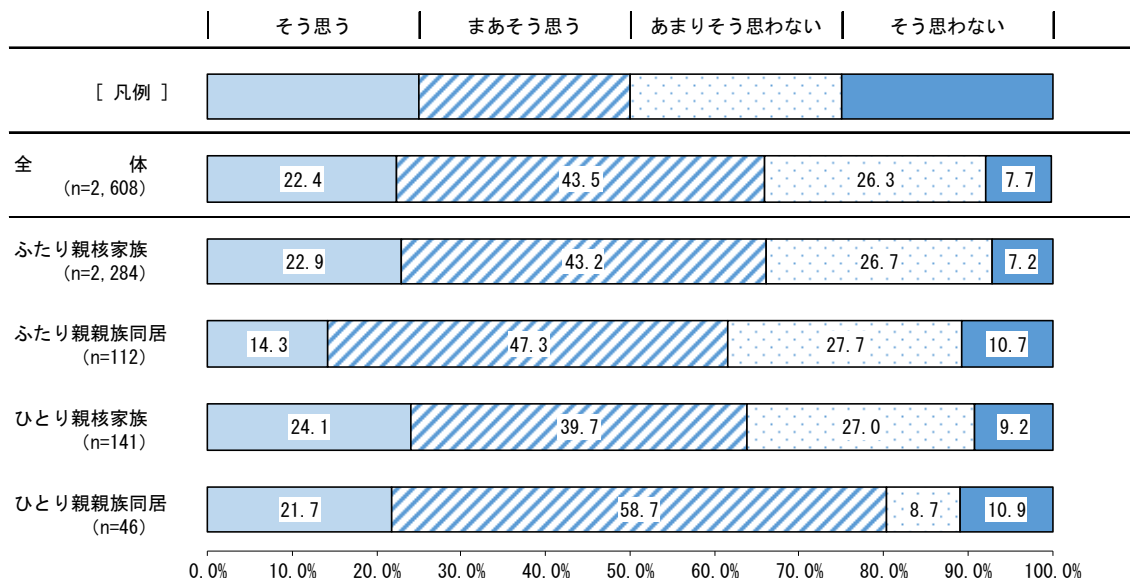
経年でみると、「そう思う」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。「まあそう思う」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「あまりそう思わない」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-225 (ウ) 子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ】(小学校5年生・世帯構成別)



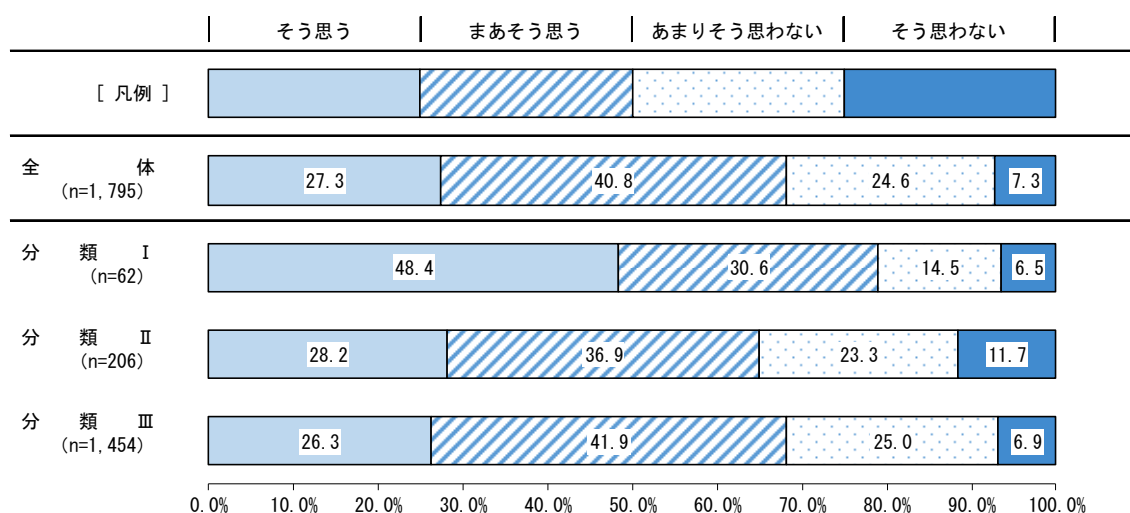
<前回調査>【図表 3-226 (ウ) 子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ】(小学校5年生・世帯構成別)



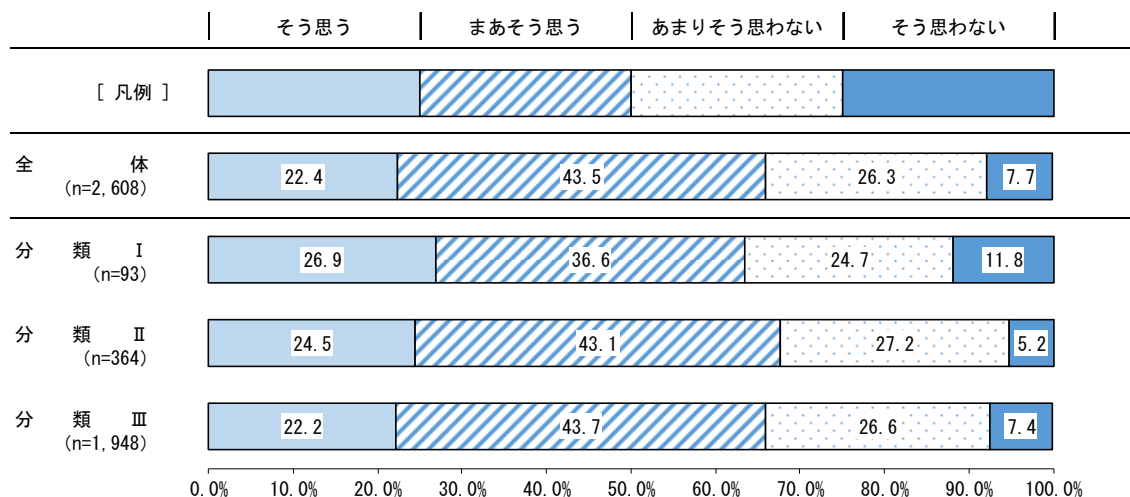
所得分類別にみると、「そう思う」は『分類Ⅰ』が 48.4%と全体に比べて高くなっている。一方、「まあそう思う」は『分類Ⅰ』が 30.6%と全体に比べて低くなっている。また、「あまりそう思わない」は『分類Ⅰ』が 14.5%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「そう思う」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。「まあそう思う」は『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低く、「あまりそう思わない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。「そう思わない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-227 (ウ) 子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ】(小学校5年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-228 (ウ) 子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ】(小学校5年生・所得分類別)

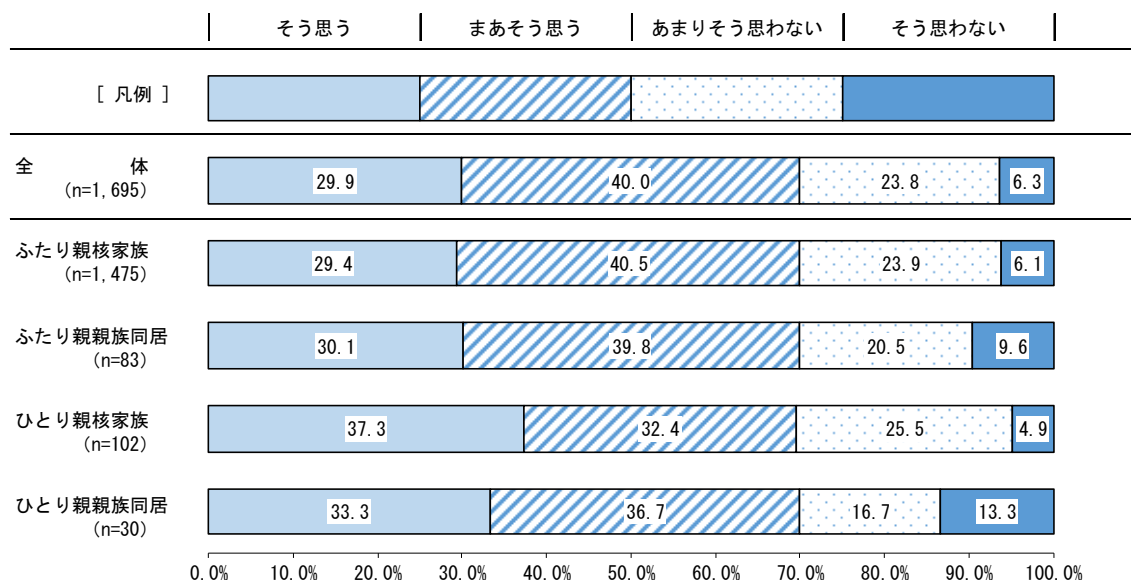


中学校2年生のいる世帯の『子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ』という考えを世帯構成別にみると、「そう思う」は『ひとり親核家族』が37.3%と全体に比べて高く、「まあそう思う」は『ひとり親核家族』が32.4%と全体に比べて低くなっている。

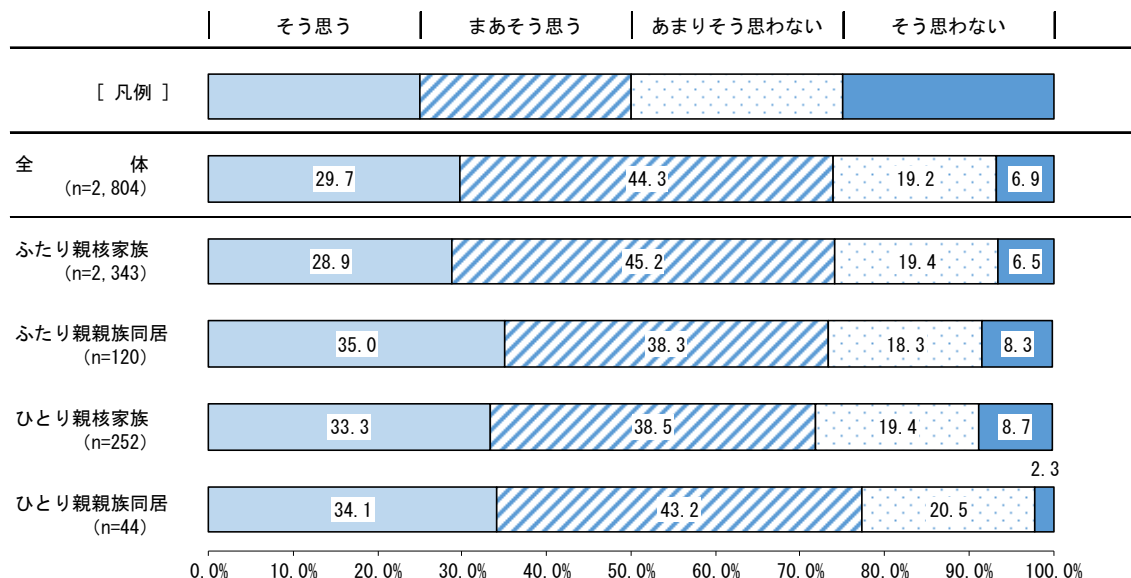
経年でみると、「まあそう思う」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「あまりそう思わない」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-229 (ウ) 子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ】(中学校2年生・世帯構成別)



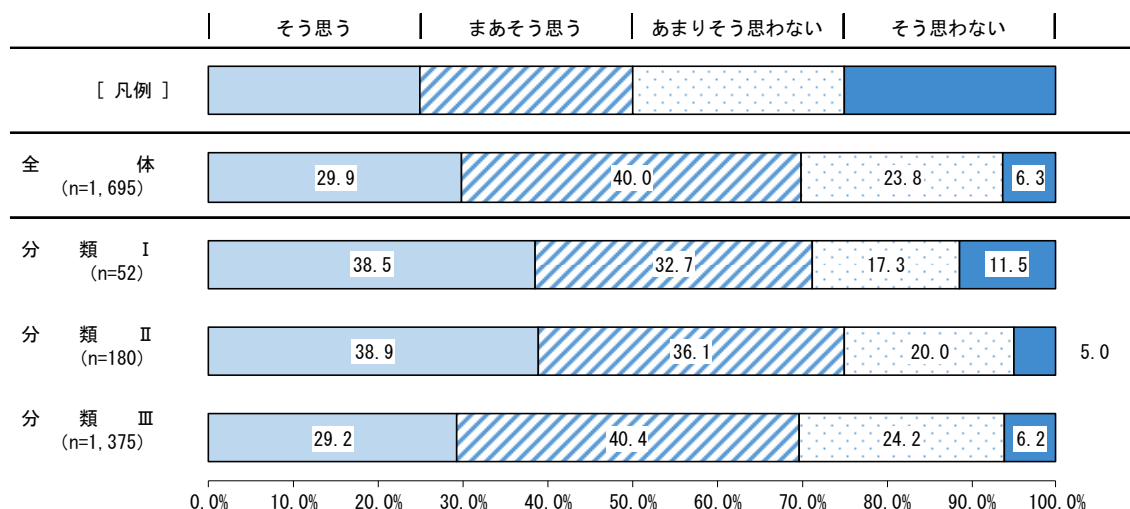
<前回調査>【図表 3-230 (ウ) 子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ】(中学校2年生・世帯構成別)



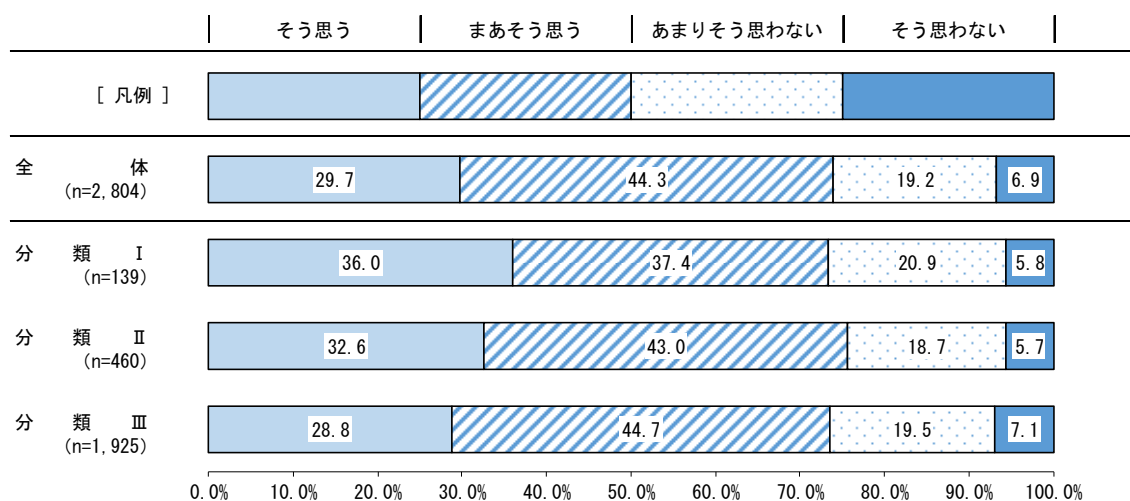
所得分類別にみると、「そう思う」は『分類Ⅰ』が38.5%、『分類Ⅱ』が38.9%と全体に比べて高くなっている。『分類Ⅰ』では「まあそう思う」が32.7%、「あまりそう思わない」が17.3%と全体に比べて低く、「そう思わない」が11.5%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「そう思う」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高く、「まあそう思う」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低く、「そう思わない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

＜今回調査＞【図表 3-231 (ウ) 子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ】(中学校2年生・所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-232 (ウ) 子どもが希望する学校や会社に入れるか不安だ】(中学校2年生・所得分類別)

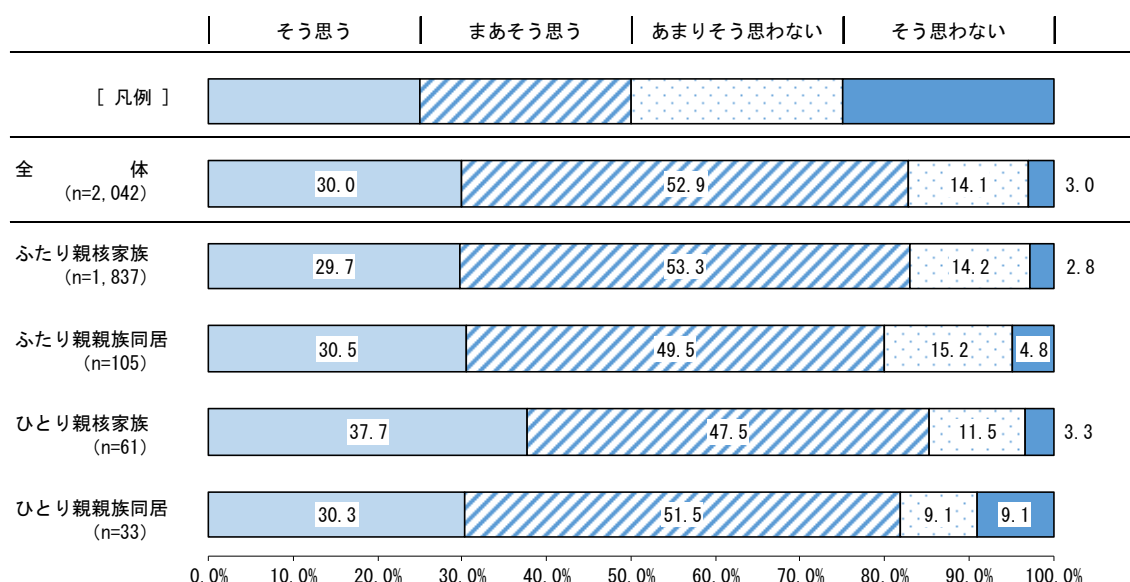


小学校2年生のいる世帯の『努力すれば夢や希望はかなえられると思う』という考えを世帯構成別にみると、「そう思う」は『ひとり親核家族』が37.7%と全体に比べて高く、「まあそう思う」は『ひとり親核家族』が47.5%と全体に比べて低くなっている。

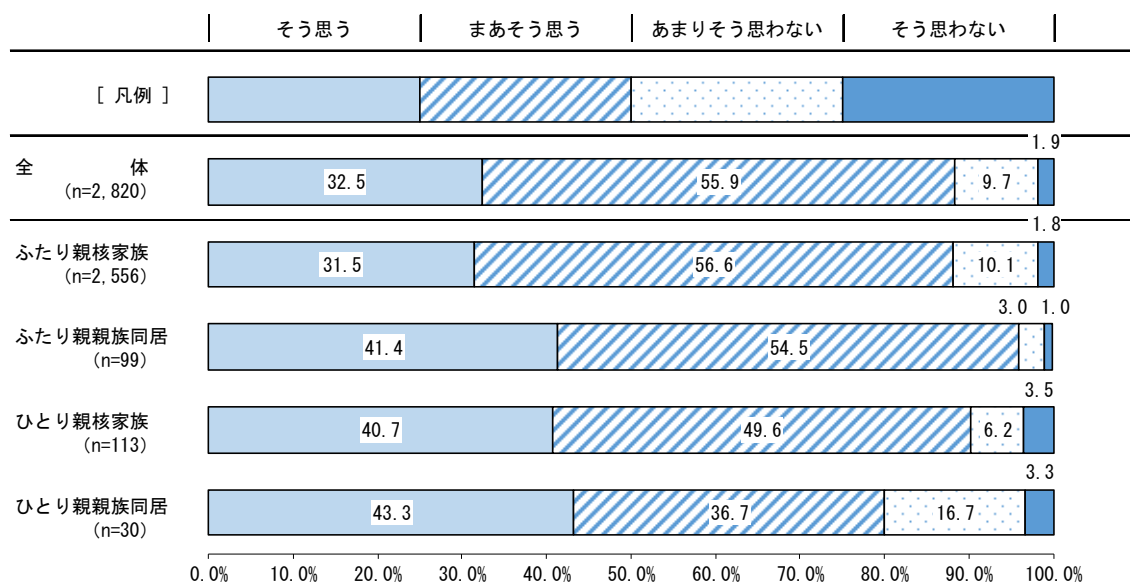
経年でみると、「そう思う」「まあそう思う」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、「あまりそう思わない」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-233 (エ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】(小学校2年生・世帯構成別)

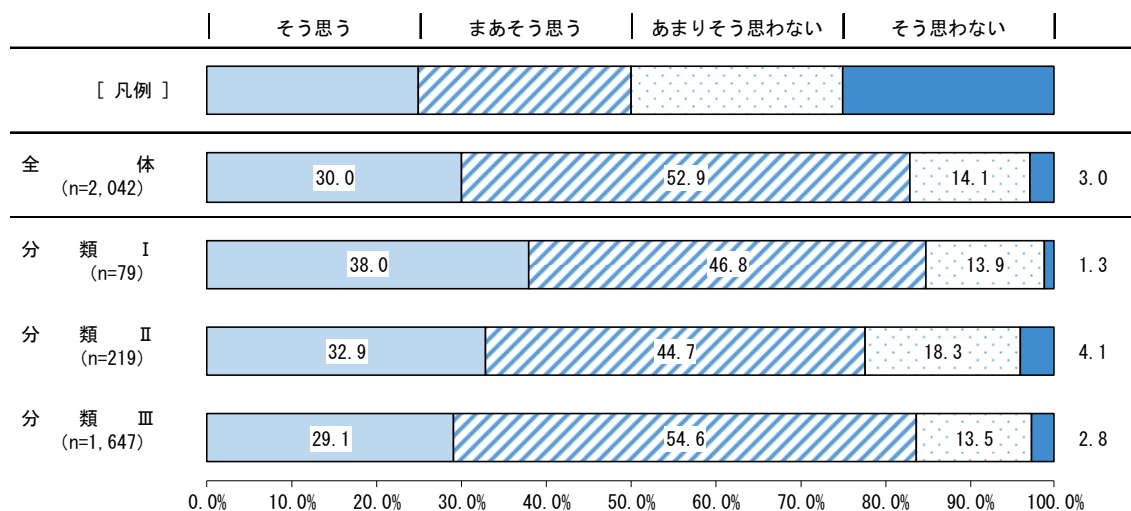


<前回調査>【図表 3-234 (エ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】(小学校2年生・世帯構成別)

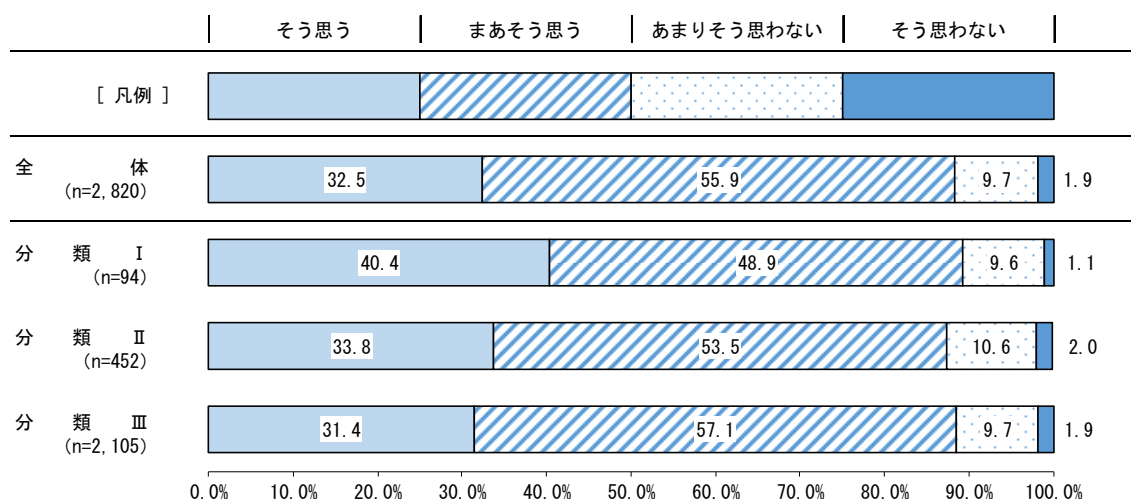


所得分類別にみると、「そう思う」は『分類Ⅰ』が 38.0%と全体に比べて高くなっている。
「まあそう思う」は『分類Ⅰ』が 46.8%、『分類Ⅱ』が 44.7%と全体に比べて低くなっている。
経年でみると、「まあそう思う」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低く、「あまりそう思わない」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-235 (エ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】(小学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-236 (エ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】(小学校2年生・所得分類別)

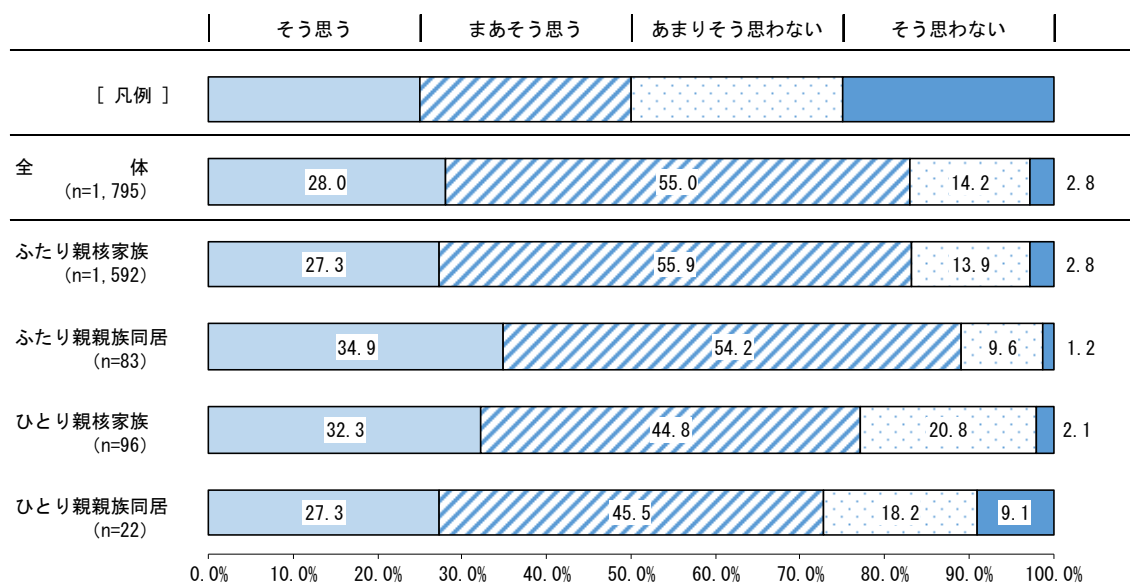


小学校5年生のいる世帯の『努力すれば夢や希望はかなえられると思う』という考えを世帯構成別にみると、「そう思う」は『ふたり親親族同居』が34.9%と全体に比べて高く、「まあそう思う」は『ひとり親核家族』が44.8%と全体に比べて低くなっている。「あまりそう思わない」は『ひとり親核家族』が20.8%と全体に比べて高くなっている。

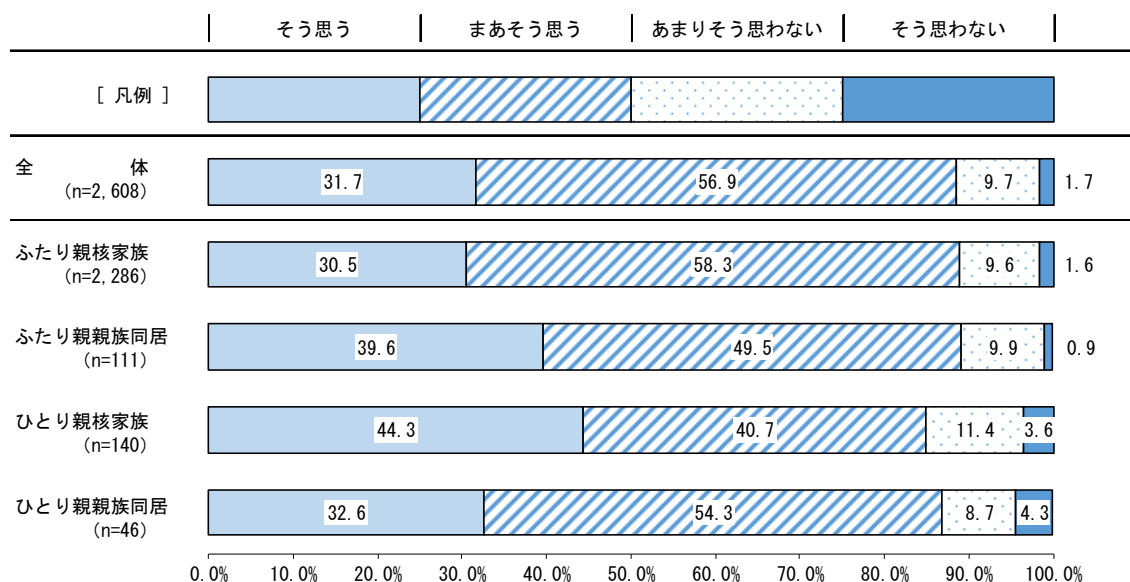
経年でみると、「そう思う」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「あまりそう思わない」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-237 (エ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】(小学校5年生・世帯構成別)



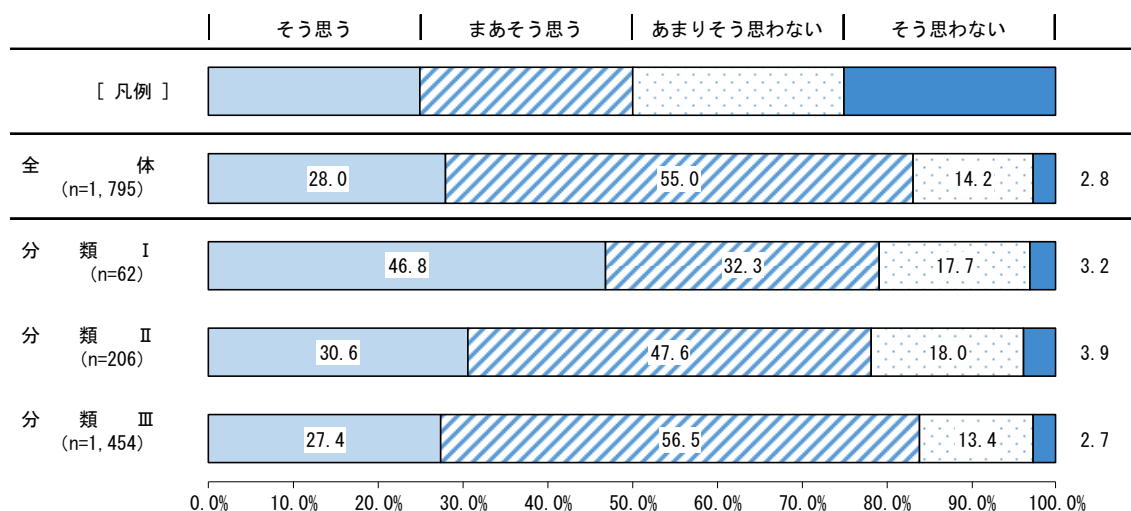
<前回調査>【図表 3-238 (エ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】(小学校5年生・世帯構成別)



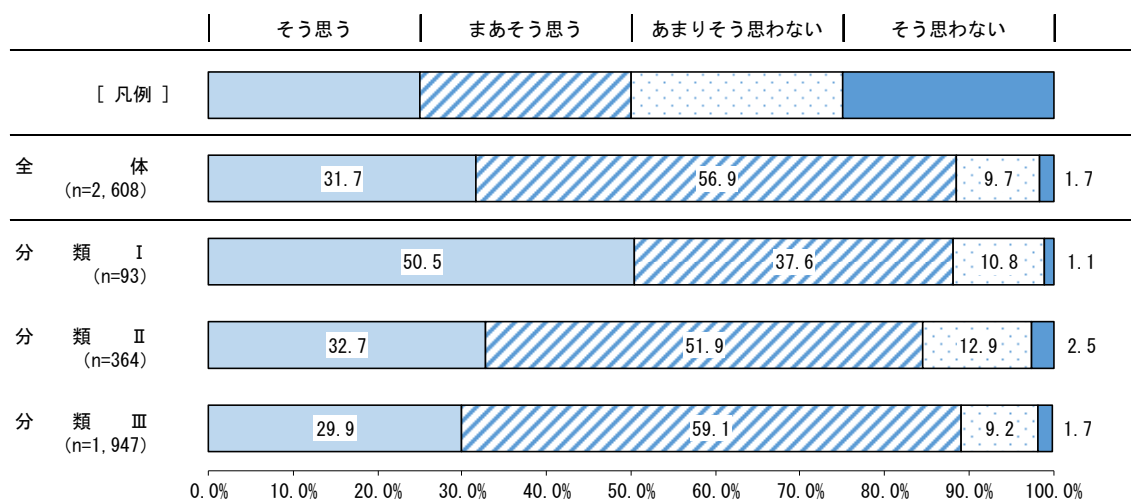
所得分類別にみると、「そう思う」は『分類Ⅰ』が46.8%と全体に比べて高くなっている。一方、「まあそう思う」は『分類Ⅰ』が32.3%、『分類Ⅱ』が47.6%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「まあそう思う」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、「あまりそう思わない」は『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-239 (エ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】(小学校5年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-240 (エ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】(小学校5年生・所得分類別)

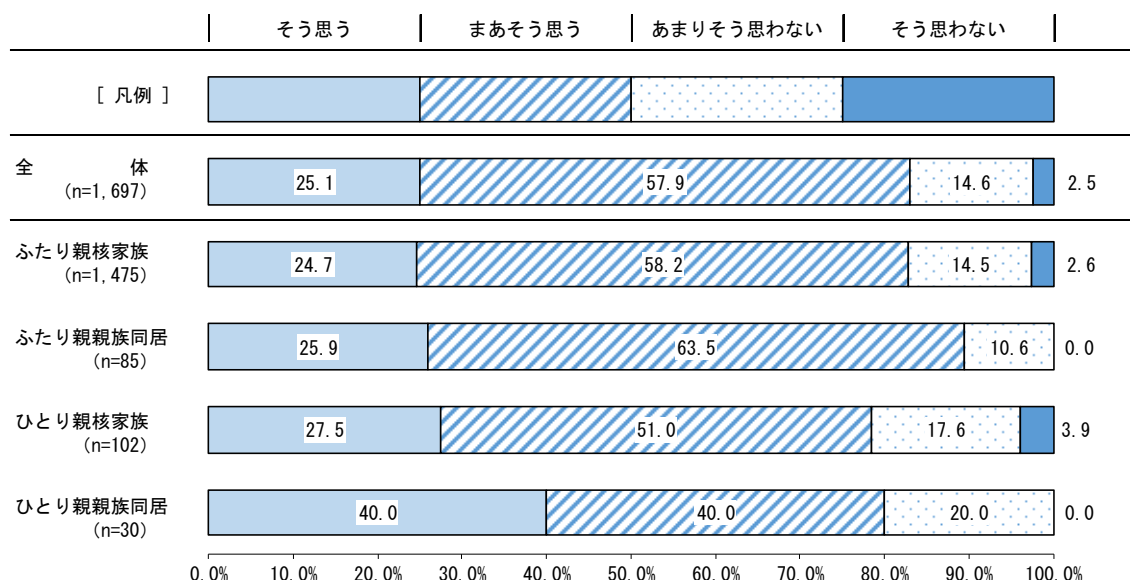


中学校2年生のいる世帯の『努力すれば夢や希望はかなえられると思う』という考えを世帯構成別にみると、「まあそう思う」は『ふたり親親族同居』が63.5%と全体に比べて高く、『ひとり親核家族』が51.0%と全体に比べて低くなっている。

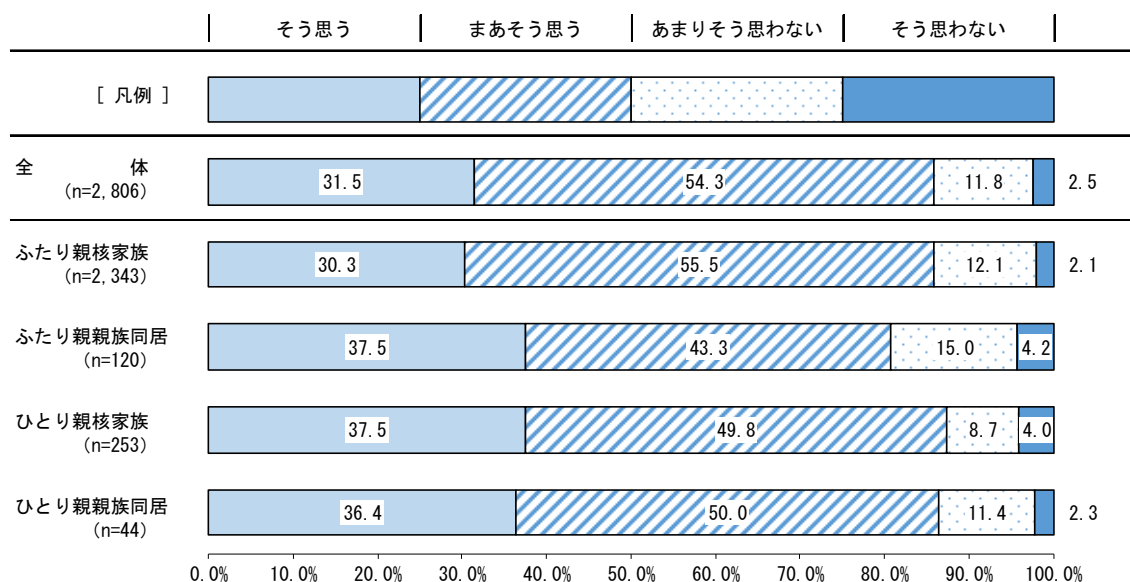
経年でみると、「そう思う」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「まあそう思う」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高く、「あまりそう思わない」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-241 (エ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】(中学校2年生・世帯構成別)



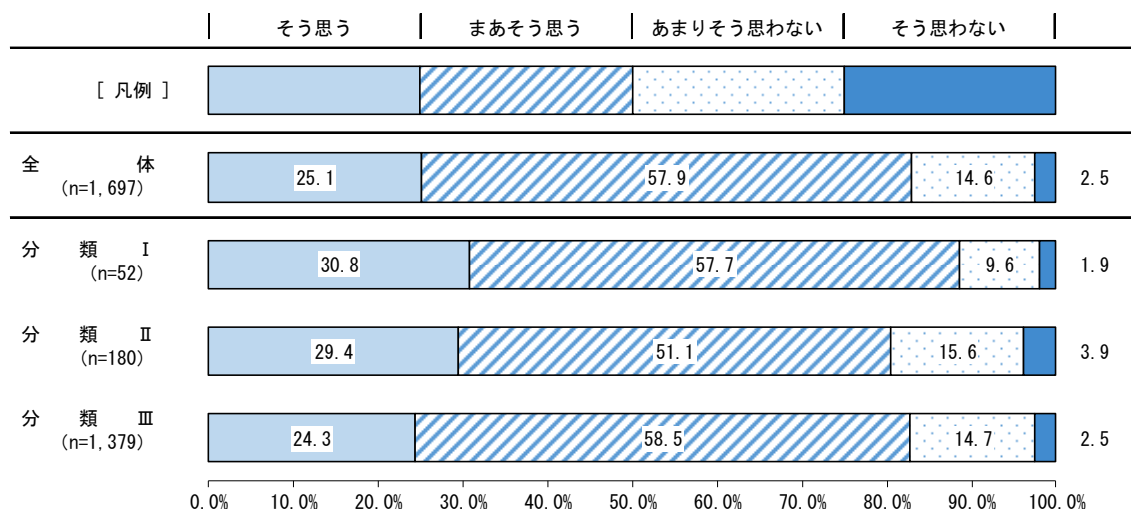
<前回調査>【図表 3-242 (エ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】(中学校2年生・世帯構成別)



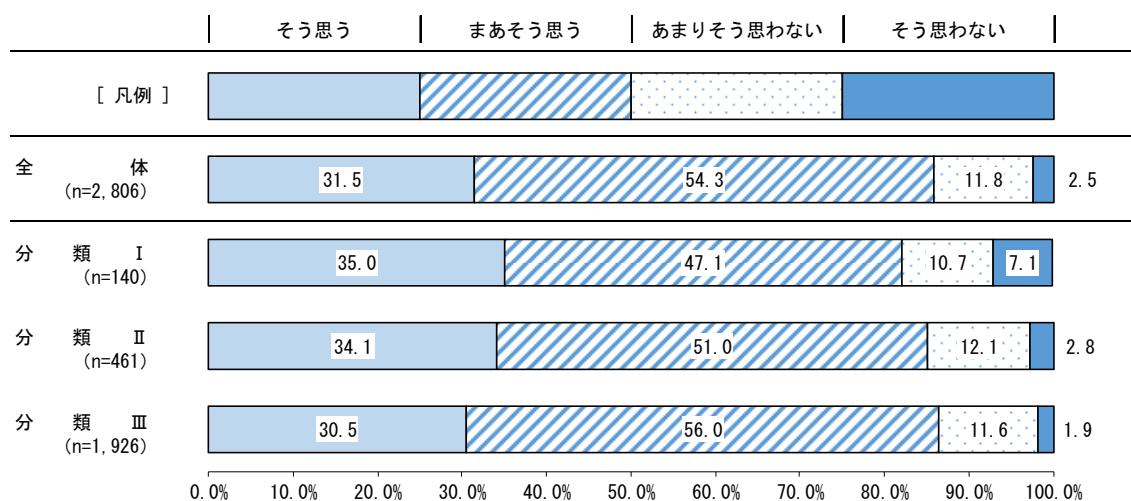
所得分類別にみると、「そう思う」は『分類Ⅰ』が 30.8%と全体に比べて高くなっている。「まあそう思う」は『分類Ⅱ』が 51.1%と前回調査に比べて低く、「あまりそう思わない」は『分類Ⅰ』が 9.6%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「そう思う」は『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低くなっている。「まあそう思う」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高く、「そう思わない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

<今回調査>【図表 3-243 (エ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】(中学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-244 (エ) 努力すれば夢や希望はかなえられると思う】(中学校2年生・所得分類別)

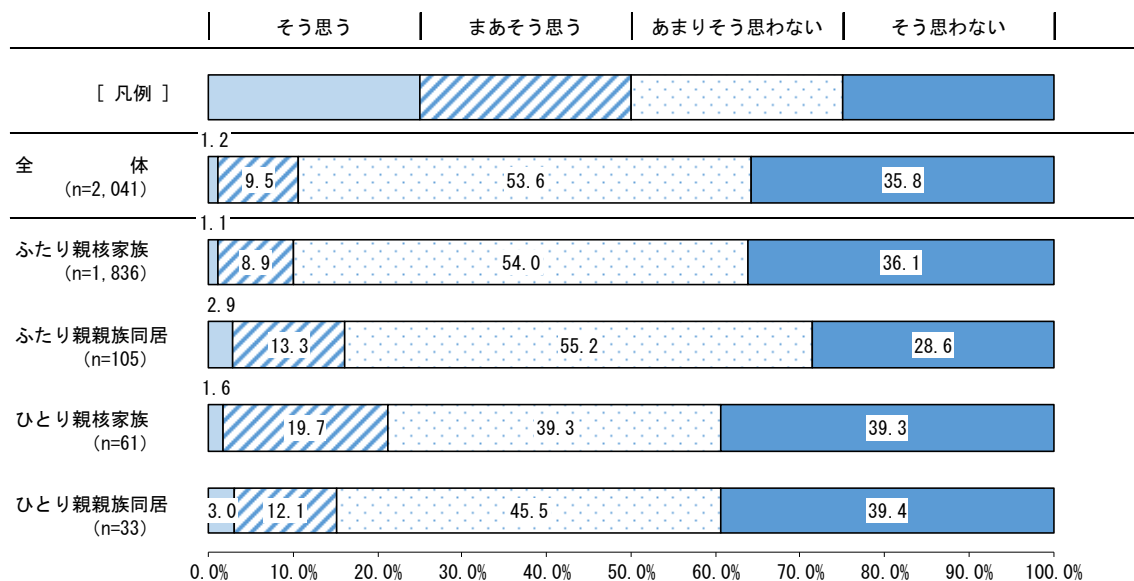


小学校2年生のいる世帯の『子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う』という考えを世帯構成別にみると、「まあそう思う」は『ひとり親核家族』が19.7%と全体に比べて高く、「あまりそう思わない」は『ひとり親核家族』が39.3%と全体に比べて低く、「そう思わない」は『ふたり親親族同居』が28.6%と全体に比べて低くなっている。

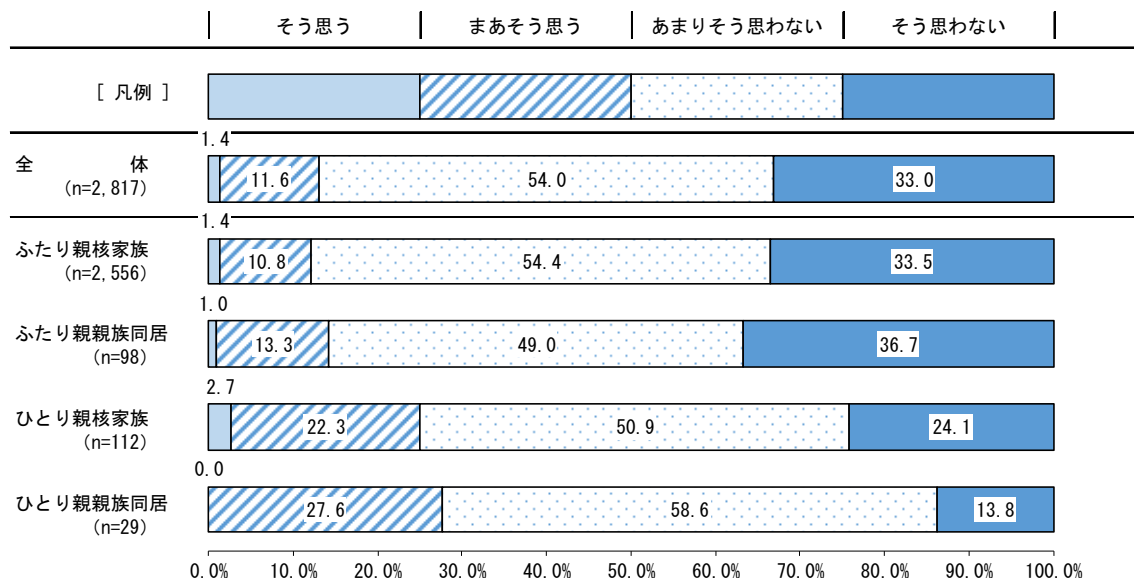
経年でみると、「あまりそう思わない」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高く、『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「そう思わない」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-245 (オ) 子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う】(小学校2年生・世帯構成別)



<前回調査>【図表 3-246 (オ) 子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う】(小学校2年生・世帯構成別)

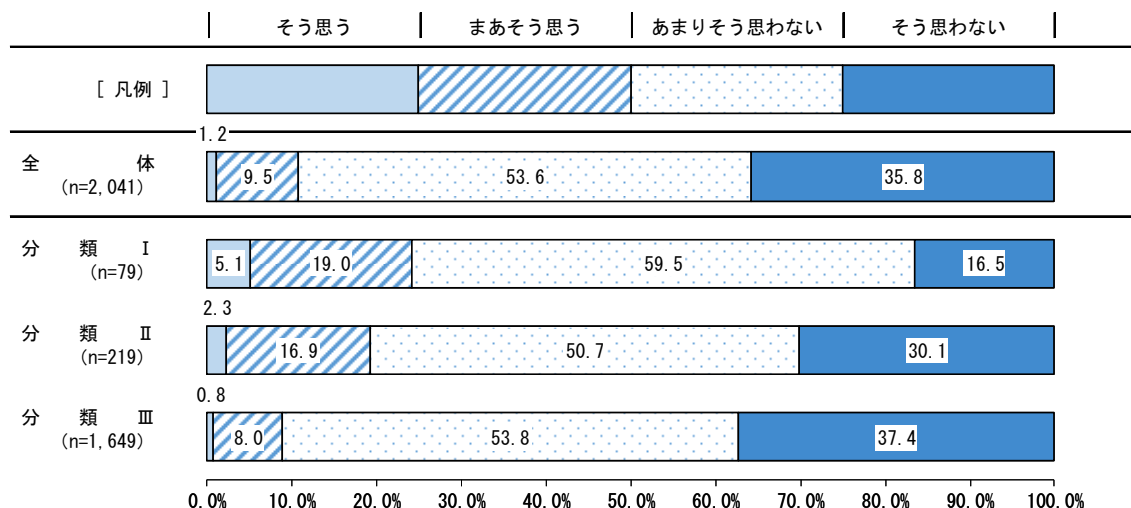


所得分類別にみると、「まあそう思う」は『分類Ⅰ』が19.0%、『分類Ⅱ』が16.9%と全体に比べて高くなっている。「あまりそう思わない」は『分類Ⅰ』が59.5%と全体に比べて高くなっている。一方、「そう思わない」は『分類Ⅰ』が16.5%、『分類Ⅱ』が30.1%と全体に比べて低くなっている。

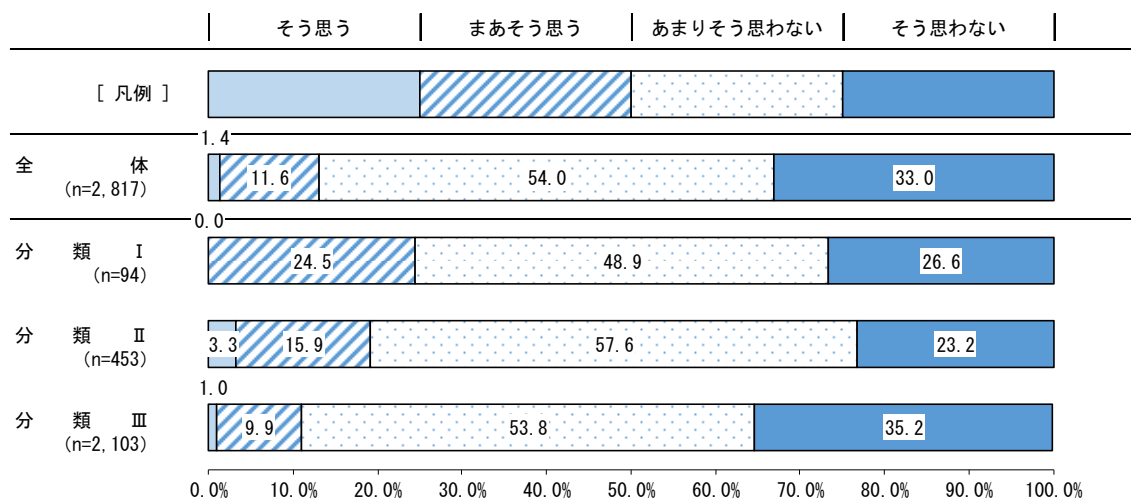
経年でみると、「まあそう思う」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、「あまりそう思わない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高く、『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低くなっている。

「そう思わない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-247 (オ) 子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う】(小学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-248 (オ) 子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う】(小学校2年生・所得分類別)

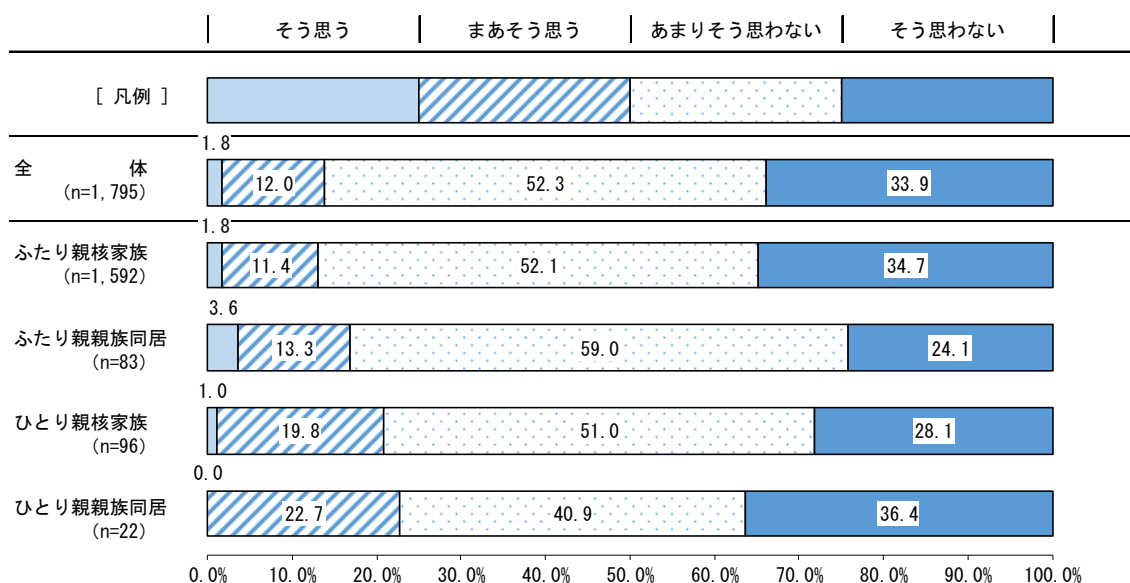


小学校5年生のいる世帯の『子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う』という考えを世帯構成別にみると、「まあそう思う」は『ひとり親核家族』が19.8%と全体に比べて高く、「あまりそう思わない」は『ふたり親親族同居』が59.0%と全体に比べて高くなっている。「そう思わない」は『ふたり親親族同居』が24.1%、『ひとり親核家族』が28.1%と全体に比べて低くなっている。

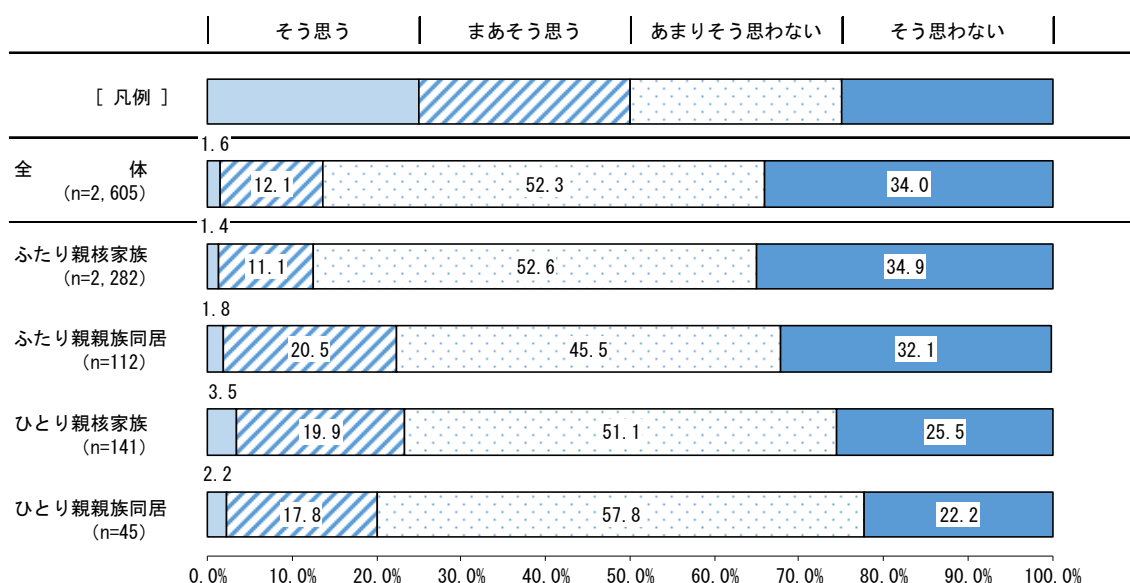
経年でみると、「まあそう思う」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、「あまりそう思わない」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高く、「そう思わない」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-249 (オ) 子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う】(小学校5年生・世帯構成別)



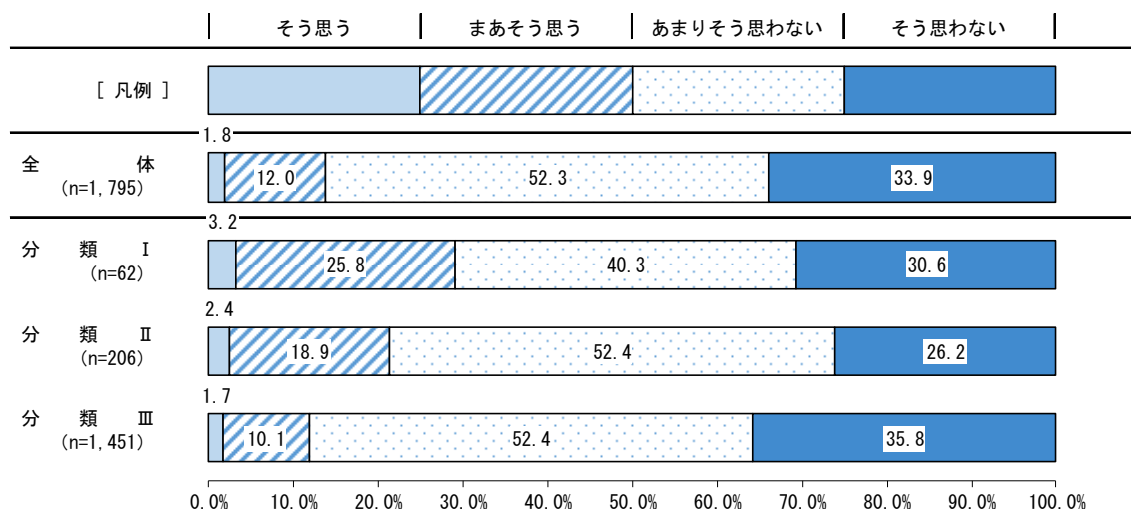
<前回調査>【図表 3-250 (オ) 子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う】(小学校5年生・世帯構成別)



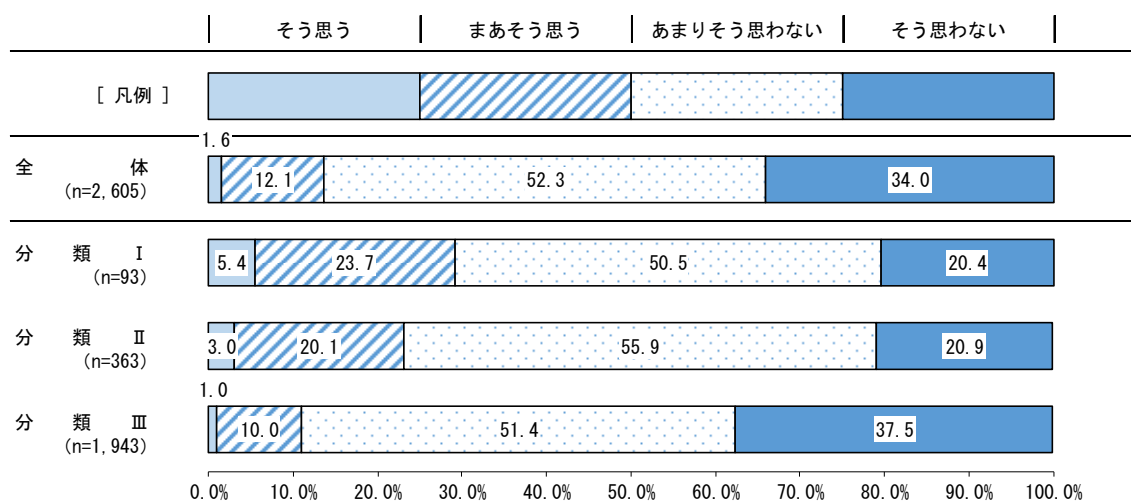
所得分類別にみると、「まあそう思う」は『分類Ⅰ』が25.8%、『分類Ⅱ』が18.9%と全体に比べて高くなっている。一方、「あまりそう思わない」は『分類Ⅰ』が40.3%と全体に比べて低くなっている。また、「そう思わない」は『分類Ⅱ』が26.2%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「あまりそう思わない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、「そう思わない」は『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-251 (オ) 子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う】(小学校5年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-252 (オ) 子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う】(小学校5年生・所得分類別)

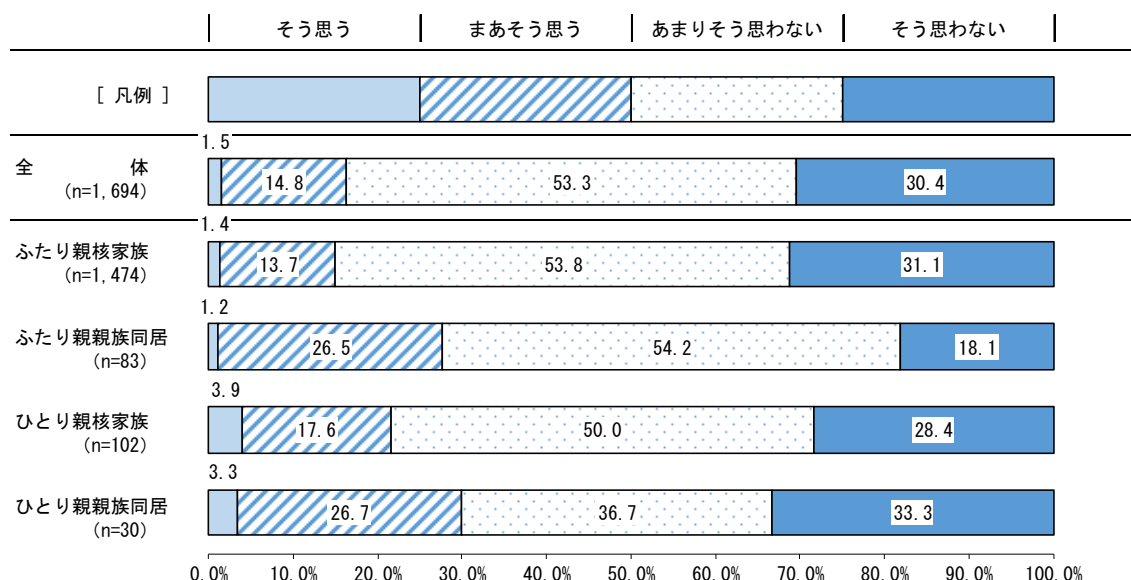


中学校2年生のいる世帯の『子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う』という考えを世帯構成別にみると、「まあそう思う」は『ふたり親親族同居』が26.5%と全体に比べて高くなっている。一方、「そう思わない」は『ふたり親親族同居』が18.1%と全体に比べて低くなっている。

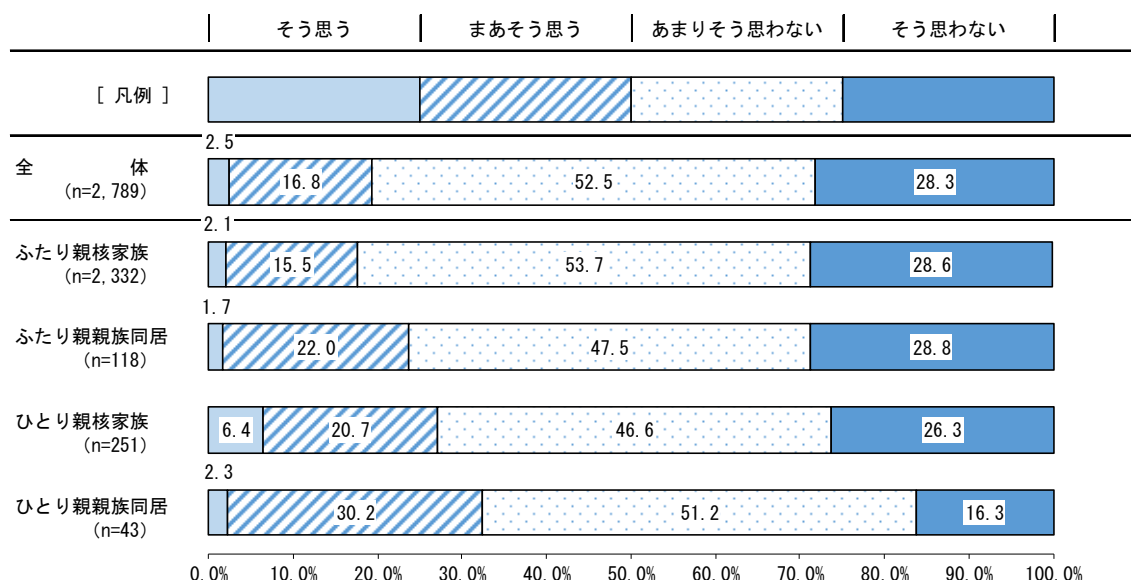
経年でみると、「あまりそう思わない」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高く、「そう思わない」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-253 (オ) 子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う】(中学校2年生・世帯構成別)



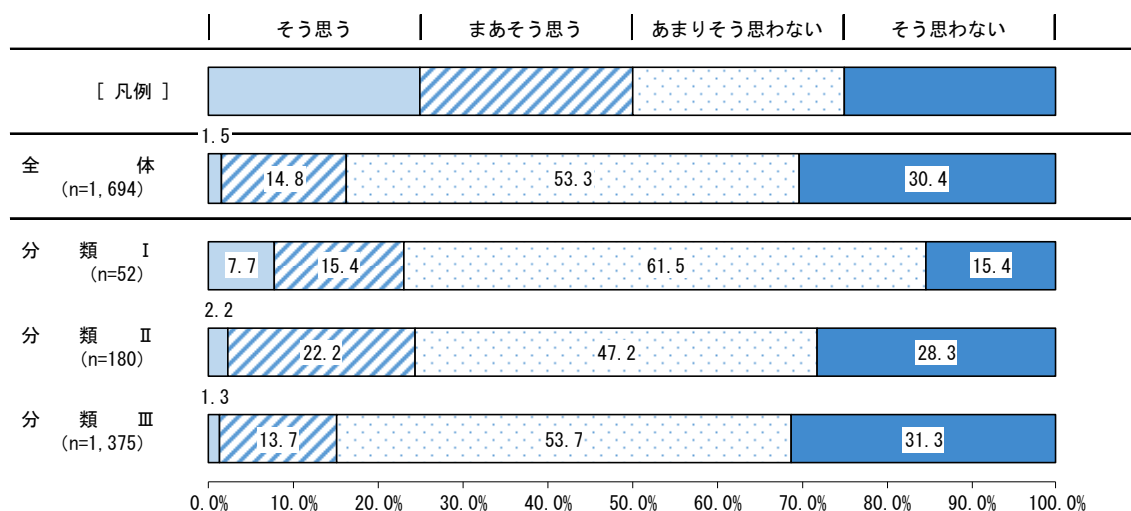
<前回調査>【図表 3-254 (オ) 子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う】(中学校2年生・世帯構成別)



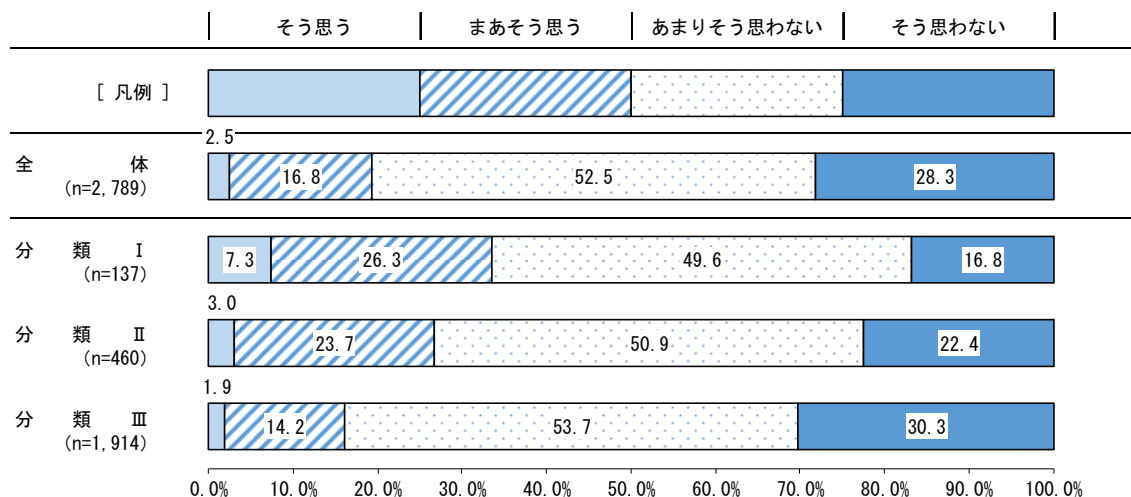
所得分類別にみると、「そう思う」は『分類Ⅰ』が 7.7%と全体に比べて高くなっている。「まあそう思う」は『分類Ⅱ』が 22.2%と全体に比べて高くなっている。「あまりそう思わない」は『分類Ⅰ』が 61.5%と全体に比べて高く、『分類Ⅱ』が 47.2%と全体に比べて低くなっている。「そう思わない」は『分類Ⅰ』が 15.4%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「まあそう思う」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、「あまりそう思わない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。「そう思わない」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-255 (オ) 子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う】(中学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-256 (オ) 子どもには少しでも早く働いて欲しいと思う】(中学校2年生・所得分類別)



（２）保護者の悩みごと

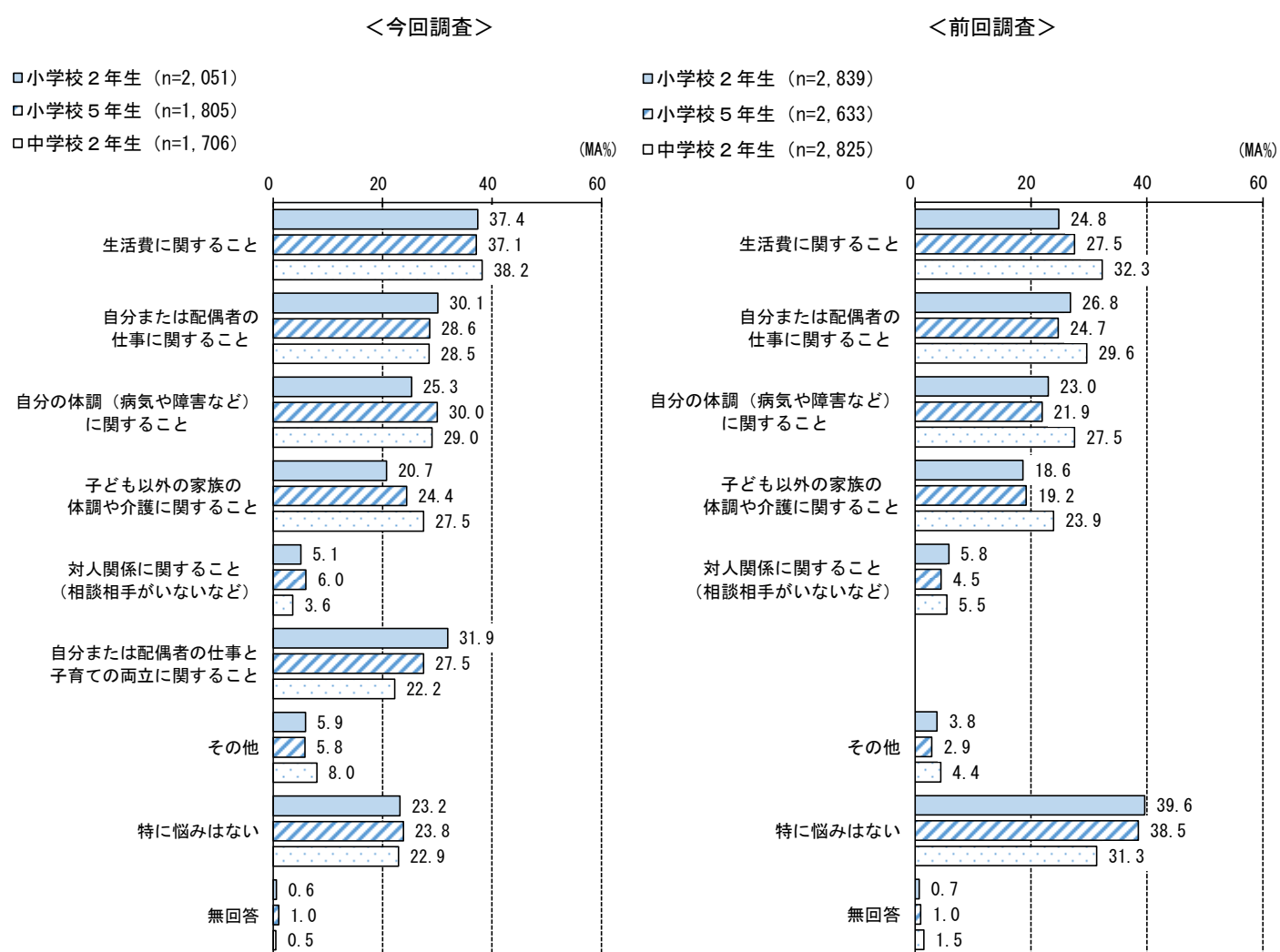
ア 保護者自身の生活に関する心配ごと・悩み【問17】（MA）

保護者自身の生活に関する心配ごと・悩みを複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「生活費に関すること」（小学校２年生：37.4％、小学校５年生：37.1％、中学校２年生：38.2％）が最も高くなっている。

経年でみると、「生活費に関すること」はいずれの学年でも前回調査に比べて高くなっている。「自分の体調（病気や障害など）に関すること」「子ども以外の家族の体調や介護に関すること」は小学校５年生のいる世帯が前回調査に比べて高くなっている。一方、「特に悩みはない」はいずれの学年でも前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 3-257 保護者自身の生活に関する心配ごと・悩み（複数回答）】



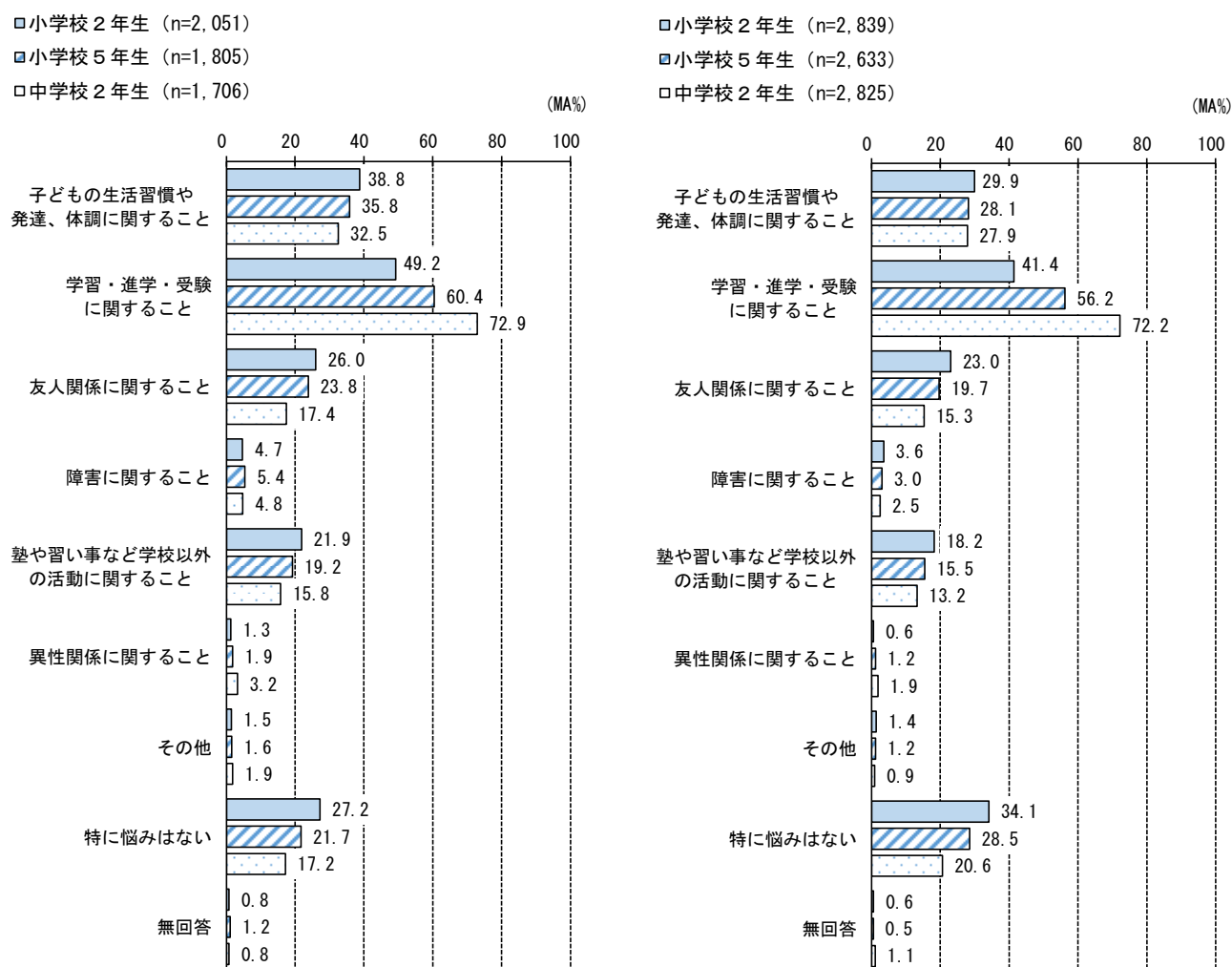
イ 子どもに関する心配ごと・悩み

① 子どもに関する心配ごと・悩み【問 18】(MA)

子どもに関する心配ごと・悩みを複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「学習・進学・受験に関すること」(小学校2年生：49.2%、小学校5年生：60.4%、中学校2年生：72.9%)が最も高く、次いで「子どもの生活習慣や発達、体調に関すること」(小学校2年生：38.8%、小学校5年生：35.8%、中学校2年生：32.5%)、「友人関係に関すること」(小学校2年生：26.0%、小学校5年生：23.8%、中学校2年生：17.4%)となっている。

経年でみると、小学校2年生、小学校5年生のいる世帯では「子どもの生活習慣や発達、体調に関すること」が前回調査に比べて高く、小学校2年生のいる世帯では「学習・進学・受験に関すること」が前回調査に比べて高くなっている。一方、小学校2年生、小学校5年生のいる世帯では「特に悩みはない」が前回調査に比べて低くなっている。

【図表 3-258 子どもに関する心配ごと・悩み(複数回答)】
 <今回調査> <前回調査>



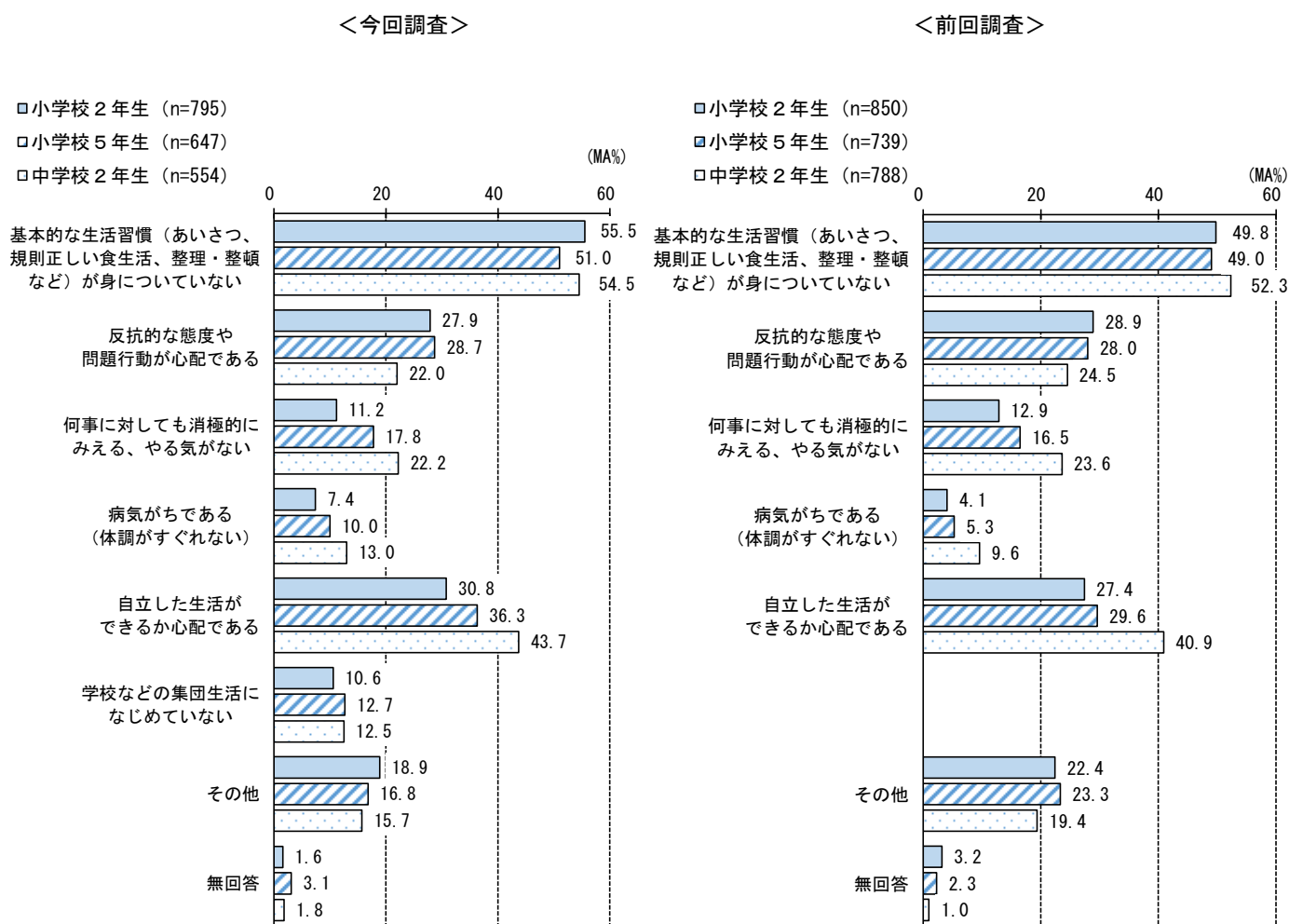
② 子どもの生活習慣や発達、体調に関する心配ごと・悩み【問 18-1】(MA)

子どもに関する心配ごと・悩みのうち「子どもの生活習慣や発達、体調に関すること」に回答した方に、その心配ごと・悩みを複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身についていない」（小学校2年生：55.5%、小学校5年生：51.0%、中学校2年生：54.5%）が最も高く、次いで「自立した生活ができるか心配である」（小学校2年生：30.8%、小学校5年生：36.3%、中学校2年生：43.7%）となっている。

経年でみると、「基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身についていない」は小学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて高くなっている。「自立した生活ができるか心配である」は小学校5年生のいる世帯が前回調査に比べて高くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 3-259 子どもの生活習慣や発達、体調に関する心配ごと・悩み（複数回答）】



③ 子どもの学習・進学・受験に関する心配ごと・悩み【問 18-2】(MA)

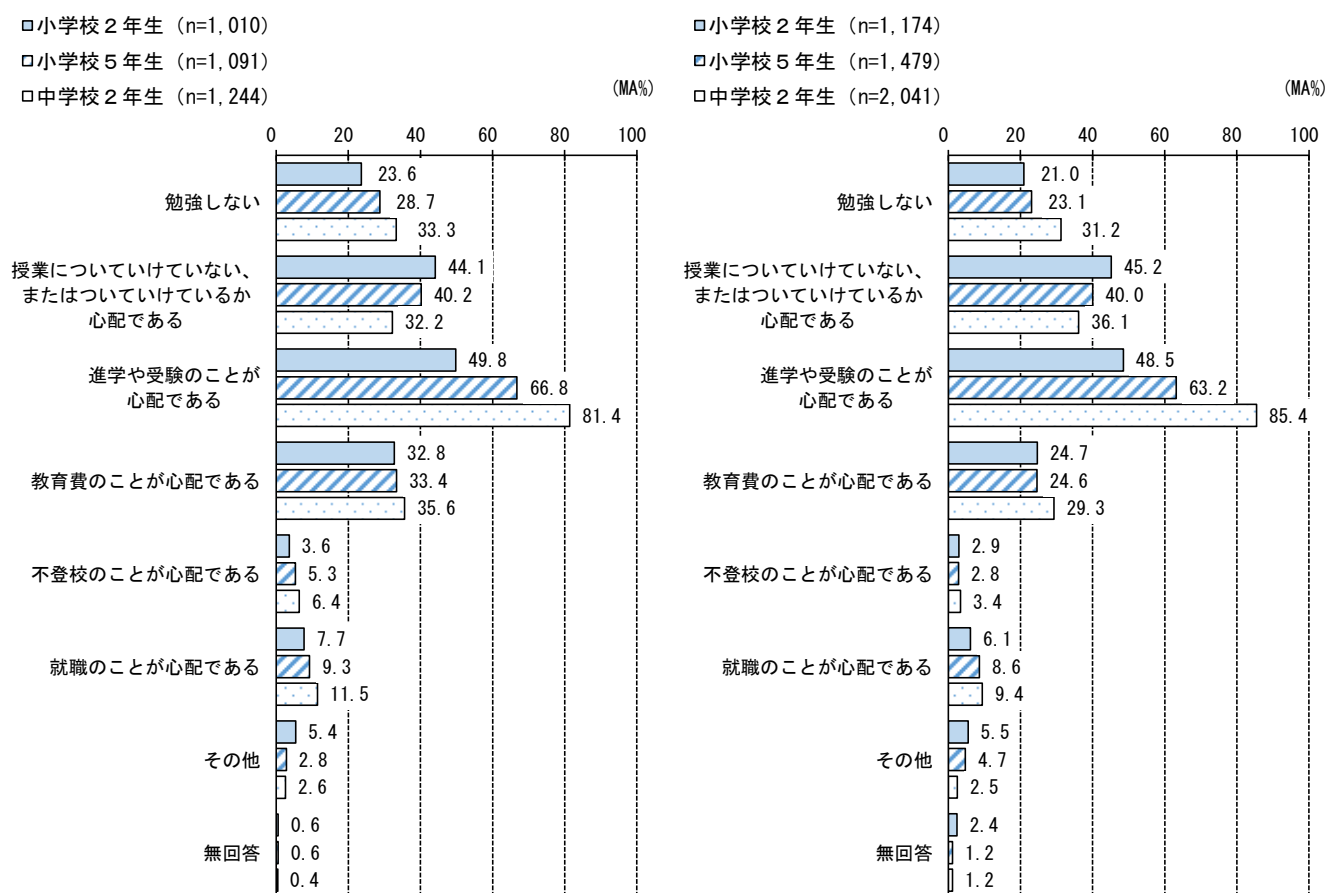
子どもに関する心配ごと・悩みのうち「学習・進学・受験に関すること」に回答した方に、その心配ごと・悩みを複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「進学や受験のことが心配である」(小学校2年生：49.8%、小学校5年生：66.8%、中学校2年生：81.4%)が最も高く、次いで小学校2年生のいる世帯と小学校5年生のいる世帯では「授業についていけない、またはついていけないか心配である」(小学校2年生：44.1%、小学校5年生：40.2%)となっており、中学校2年生のいる世帯では「教育費のことが心配である」が35.6%となっている。

経年でみると、いずれの学年でも「教育費のことが心配である」が前回調査に比べて高くなっている。また、小学校5年生のいる世帯では「勉強しない」が前回調査に比べて高くなっている。

【図表 3-260 子どもの学習・進学・受験に関する心配ごと・悩み(複数回答)】

<今回調査>

<前回調査>



ウ 子育てに関する悩み

① 子育てに関する心配ごと・悩み【問 19】(MA)

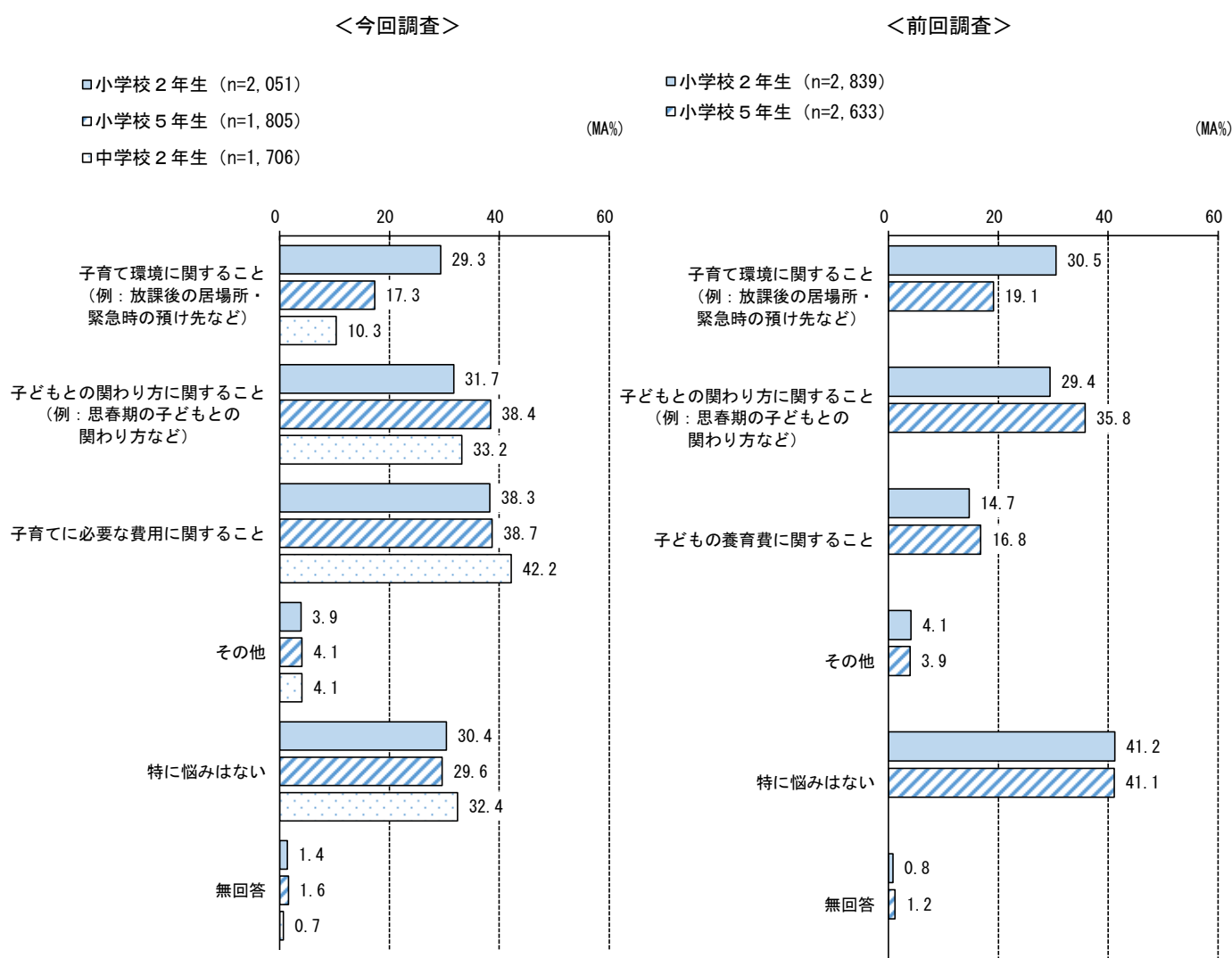
子育てに関する心配ごと・悩みを複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「子育てに必要な費用に関すること」(小学校 2 年生：38.3%、小学校 5 年生：38.7%、中学校 2 年生：42.2%) が最も高く、次いで「子どもとの関わり方に関すること」(小学校 2 年生：31.7%、小学校 5 年生：38.4%、中学校 2 年生：33.2%) となっている。

経年でみると、「子育てに必要な費用に関すること」は小学校 2 年生、小学校 5 年生のいる世帯が前回調査に比べて高く、「特に悩みはない」は小学校 2 年生、小学校 5 年生のいる世帯が前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

前回調査は中学校 2 年生の設問はない。

【図表 3-261 子育てに関する心配ごと・悩み(複数回答)】



② 子育て環境に関する心配ごと・悩み【問 19-1】(MA)

子育てに関する心配ごと・悩みのうち「子育て環境に関すること（例：放課後の居場所・緊急時の預け先など）」と回答した方に、心配ごと・悩みの内容を複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「子どもが犯罪に巻き込まれないか不安である」（小学校2年生：62.7%、小学校5年生：62.2%、中学校2年生：60.0%）が最も高く、次いで小学校2年生のいる世帯と小学校5年生のいる世帯では「子どもを安心して預けられる人や場所が少ない」（小学校2年生：45.4%、小学校5年生：44.2%）、中学校2年生のいる世帯では「病気の時など、急を要するときに子どもの面倒をみってくれる人や施設がない」が36.0%となっている。

経年でみると、「子どもと一緒に遊びに行ける場所が少ない、または子どもが遊ぶ場所が少ない（例：公園など）」は小学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて低くなっている。「子どもを安心して預けられる人や場所が少ない」は小学校2年生、小学校5年生のいる世帯が前回調査に比べて高くなっている。「病気の時など、急を要するときに子どもの面倒をみってくれる人や施設がない」は小学校5年生のいる世帯が前回調査に比べて高くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

前回調査は中学校2年生の設問はない。

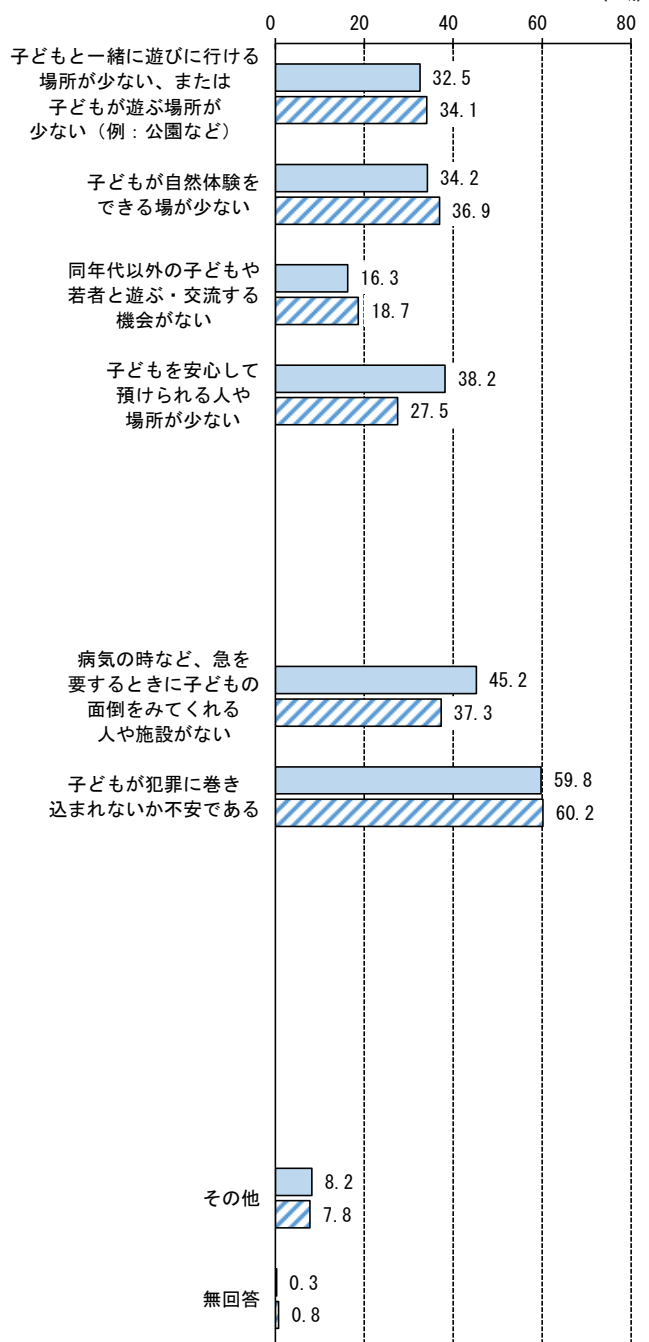
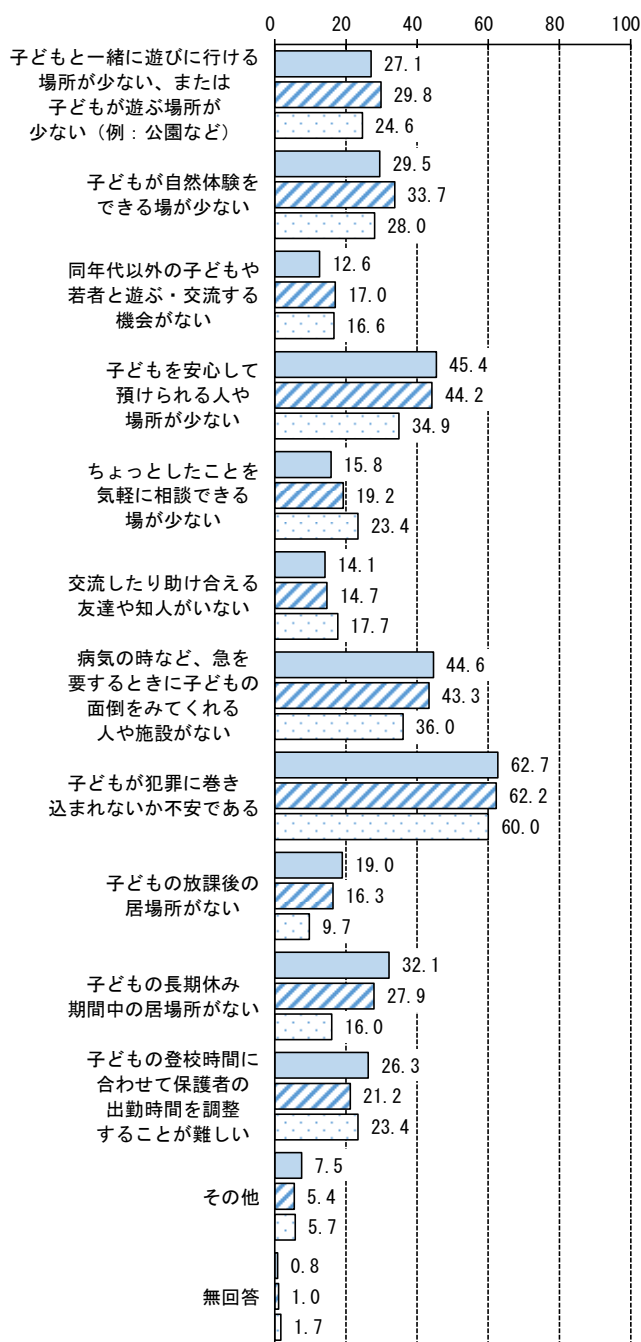
【図表 3-262 子育て環境に関する心配ごと・悩み（複数回答）】

<今回調査>

<前回調査>

□小学校2年生 (n=601)
 □小学校5年生 (n=312)
 □中学校2年生 (n=175)

□小学校2年生 (n=865)
 □小学校5年生 (n=502)



心配ごと・悩みの内容を居住区別にみると、小学校2年生のいる世帯では、「子どもと一緒に遊びに行ける場所が少ない、または子どもが遊ぶ場所が少ない」は『宮前区』『多摩区』が全体に比べて高く、『川崎区』『幸区』『中原区』が全体に比べて低くなっている。「子どもが自然体験をできる場が少ない」は『川崎区』『幸区』が全体に比べて高く、『麻生区』が全体に比べて低くなっている。「子どもを安心して預けられる人や場所が少ない」は『川崎区』が全体に比べて低くなっている。「ちょっとしたことを気軽に相談できる場が少ない」は『川崎区』が全体に比べて高く、『中原区』が全体に比べて低くなっている。「交流したり助け合える友達や知人がいない」は『高津区』が全体に比べて高く、『幸区』『麻生区』が全体に比べて低くなっている。「病気の時など、急を要するときに子どもの面倒をみってくれる人や施設がない」は『多摩区』が全体に比べて高く、『幸区』が全体に比べて低くなっている。「子どもが犯罪に巻き込まれないか不安である」は『川崎区』『幸区』『宮前区』が全体に比べて高く、『中原区』『麻生区』が全体に比べて低くなっている。「子どもの長期休み期間中の居場所がない」は『多摩区』が全体に比べて高く、『川崎区』が全体に比べて低くなっている。「子どもの登校時間に合わせて保護者の出勤時間を調整することが難しい」は『川崎区』が全体に比べて低くなっている。

<今回調査>【図表 3-263 子育て環境に関する心配ごと・悩み（複数回答）】（小学校2年生・居住区別）

単位：％														
		母数 (n)	子どもと一緒 に遊びに行け る場所が少な い、または子 どもが遊ぶ場 所が少ない	子どもが自然 体験をできる 場が少ない	同年代以外の 子どもと遊ぶ ・交流する機 会がない	子どもを安心 して預けられ る人や場所が 少ない	ちょっとした 場が少ないを 気軽に相談で きる場がある	交流したり助 け合える友達 や知人がいな い	病気の時など 、急を要する ときに子ども の面倒をみる 人への施設が ない	子どもが犯罪 に巻き込まれ ない不安であ る	子どもの放課 後の居場所が ない	子どもの長期 休み期間中の 居場所がない	子どもの登校 時間を調整す ることが難し い	その他
全体		596	27.3	29.7	12.8	45.8	15.9	14.3	45.0	63.3	19.1	32.4	26.5	7.6
居住地区	川崎区	75	▼ 18.7	△ 36.0	9.3	▼ 40.0	△ 29.3	17.3	41.3	△ 73.3	14.7	▼ 25.3	▼ 21.3	9.3
	幸区	63	▼ 19.0	△ 34.9	9.5	49.2	11.1	▼ 7.9	▼ 36.5	△ 68.3	19.0	33.3	27.0	▼ 1.6
	中原区	109	▼ 22.0	31.2	9.2	42.2	▼ 8.3	10.1	42.2	▼ 56.0	22.9	33.9	30.3	5.5
	高津区	92	31.5	33.7	15.2	45.7	18.5	△ 19.6	45.7	60.9	15.2	31.5	25.0	9.8
	宮前区	95	△ 36.8	25.3	16.8	50.5	14.7	17.9	47.4	△ 68.4	21.1	28.4	29.5	△ 12.6
	多摩区	81	△ 33.3	27.2	16.0	48.1	16.0	16.0	△ 54.3	67.9	22.2	△ 43.2	27.2	4.9
	麻生区	80	27.5	▼ 20.0	12.5	46.3	15.0	▼ 8.8	46.3	▼ 51.3	17.5	30.0	22.5	7.5

心配ごと・悩みの内容を居住区別にみると、小学校5年生のいる世帯では、『中原区』において、「同年代以外の子どもや若者と遊ぶ・交流する機会がない」「病気の時など、急を要するときに子どもの面倒をみてくれる人や施設がない」は全体に比べて高くなっている。「ちょっとしたことを気軽に相談できる場が少ない」は全体に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-264 子育て環境に関する心配ごと・悩み（複数回答）】（小学校5年生・居住区別）

単位：％														
		母数 (n)	子どもと一緒 に遊びに行け る場所が少な い、またはま たは子ども が遊ぶ場所 が少ない	子どもが自 然体験をで きる場が少 ない	同年代以外 の子どもや 若者と遊ぶ ・交流する 機会がない	子どもを安 心して預け られる人や 場所が少な い	ちよつとし たことを気 軽に相談で きる場が少 ない	交流したり 助け合える 友達や知人 がいない	病気の時な ど、急を要 するときに 子どもが面 倒をみてく れぬ人や施 設がない	子どもが犯 罪に巻き込 まれないか 不安である	子どもが放 課後の居場 所がない	子どもの長 期休み期間 中の居場所 がない	保護者の出 勤時間を調 整することが 難しい	その他
全体		309	30.1	34.0	17.2	44.7	19.4	14.9	43.7	62.8	16.5	28.2	21.4	5.5
居住地区	川崎区	44	▼ 20.5	△ 54.5	▼ 11.4	43.2	△ 25.0	13.6	▼ 38.6	63.6	13.6	▼ 22.7	▼ 13.6	6.8
	幸区	31	▼ 22.6	32.3	12.9	48.4	22.6	▼ 9.7	41.9	67.7	16.1	29.0	▼ 16.1	-
	中原区	62	25.8	33.9	△ 25.8	48.4	▼ 11.3	11.3	△ 51.6	61.3	21.0	32.3	21.0	4.8
	高津区	49	28.6	30.6	16.3	40.8	△ 26.5	16.3	▼ 34.7	67.3	18.4	24.5	20.4	6.1
	宮前区	41	△ 41.5	△ 41.5	△ 24.4	41.5	19.5	19.5	43.9	▼ 46.3	14.6	31.7	▼ 14.6	9.8
	多摩区	40	32.5	▼ 25.0	▼ 10.0	40.0	22.5	17.5	▼ 37.5	△ 72.5	17.5	30.0	△ 32.5	5.0
	麻生区	41	△ 39.0	▼ 19.5	14.6	48.8	▼ 9.8	17.1	△ 53.7	61.0	12.2	26.8	△ 31.7	4.9

中学校2年生のいる世帯ではサンプル数が50に満たないため、参考値とする。

<今回調査>【図表 3-265 子育て環境に関する心配ごと・悩み（複数回答）】（中学校2年生・居住区別）

単位：％														
		母数 (n)	子どもと一緒 に遊びに行け る場所が少な い、または子 どもが遊ぶ 場所が少ない	子どもが自然 体験をできる 場所が少ない	同年代以外の 子どもや若者 と遊ぶ・交流 する機会がな い	子どもを安心 して預けられ る人や場所が 少ない	ちょっとした ことを気軽に 相談できる場 が少ない	交流したり助 け合える友達 や知人がいな い	病気の時など 、急に要する ときに子ども の面倒をみて くれる人や施 設がない	子どもが犯罪 に巻き込まれ ない不安であ る	子どもの放課 後の居場所が ない	子どもの長期 休み期間中の 居場所がない	子どもの登校 時間を調整す ることが難し い	その他
全体		172	25.0	28.5	16.9	35.5	23.8	18.0	36.6	61.0	9.9	16.3	23.8	5.8
居住地区	川崎区	35	25.7	34.3	14.3	34.3	14.3	14.3	▼ 22.9	62.9	5.7	20.0	20.0	8.6
	幸区	16	25.0	31.3	18.8	37.5	18.8	18.8	43.8	▼ 50.0	18.8	▼ 6.3	18.8	－
	中原区	31	25.8	32.3	22.6	▼ 12.9	16.1	12.9	▼ 16.1	54.8	9.7	16.1	▼ 9.7	9.7
	高津区	21	23.8	33.3	23.8	△ 52.4	△ 52.4	△ 28.6	△ 57.1	66.7	4.8	9.5	28.6	－
	宮前区	26	26.9	23.1	7.7	△ 46.2	30.8	23.1	42.3	57.7	7.7	15.4	23.1	7.7
	多摩区	21	23.8	23.8	9.5	38.1	14.3	19.0	△ 47.6	△ 76.2	9.5	▼ 4.8	28.6	4.8
	麻生区	21	23.8	19.0	23.8	33.3	23.8	14.3	42.9	61.9	19.0	△ 33.3	△ 42.9	4.8

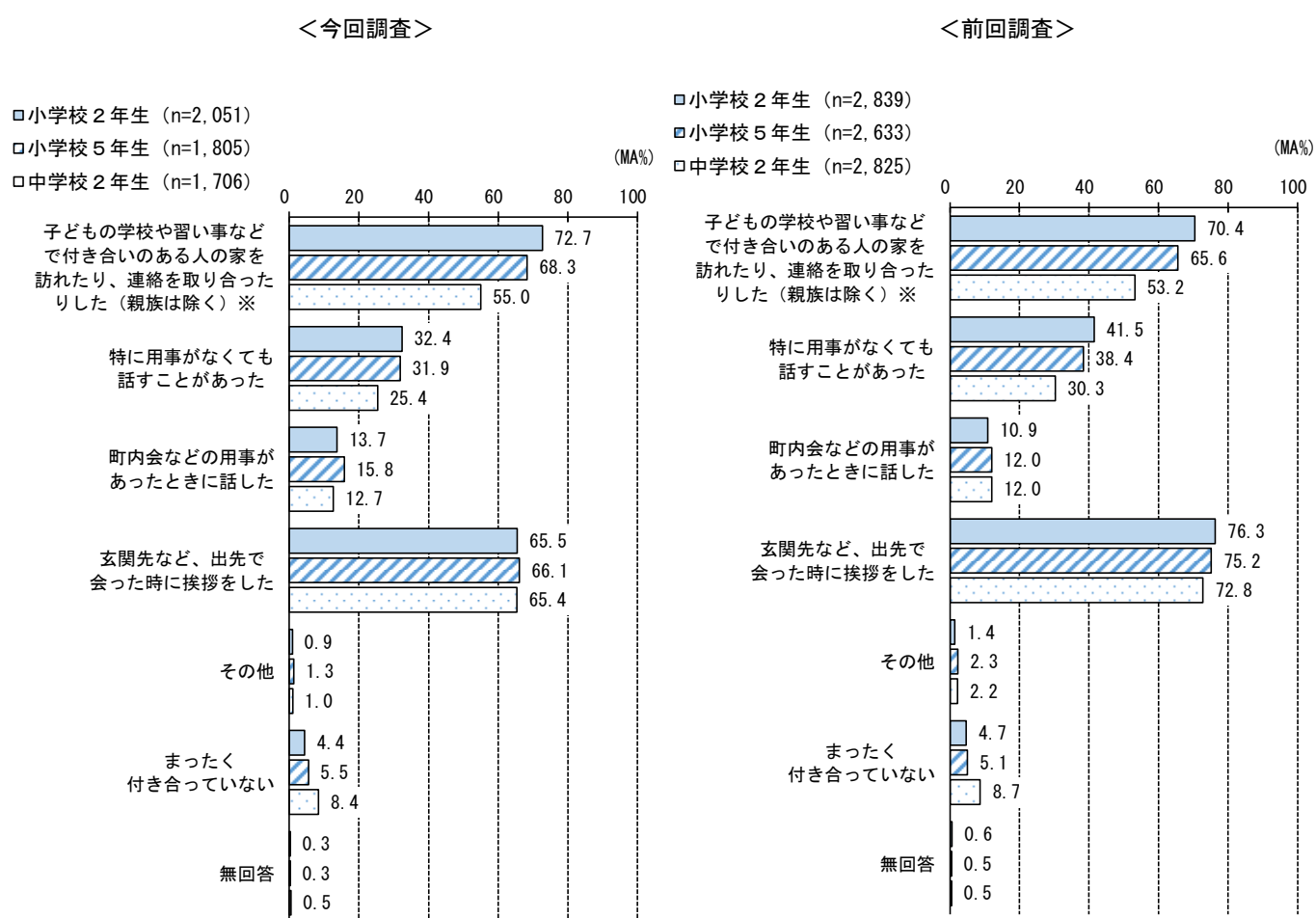
(3) 保護者の相談相手の有無等

ア 近所付き合いの程度【問14】(MA)

直近1か月間の近所付き合いの程度を複数回答で聞いたところ、小学校2年生のいる世帯と小学校5年生のいる世帯では「子どもの学校や習い事などで付き合いのある人（いわゆるママ友・パパ友）の家を訪れたり、連絡を取り合ったりした（親族は除く）」（小学校2年生：72.7%、小学校5年生：68.3%）、中学校2年生のいる世帯では「玄関先など、出先で会ったときに挨拶をした」が65.4%で最も高くなっている。

経年でみると、いずれの学年でも「玄関先など、出先で会ったときに挨拶をした」が前回調査に比べて低くなっている。また、小学校2年生、小学校5年生のいる世帯では「特に用事がなくても話することがあった」が前回調査に比べて低くなっている。

【図表 3-266 近所付き合いの程度（複数回答）】



小学校2年生のいる世帯の近所付き合いの程度のうち『まったく付き合いがない』と回答した人を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

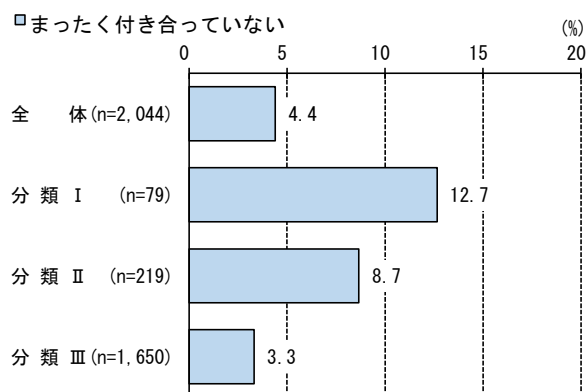
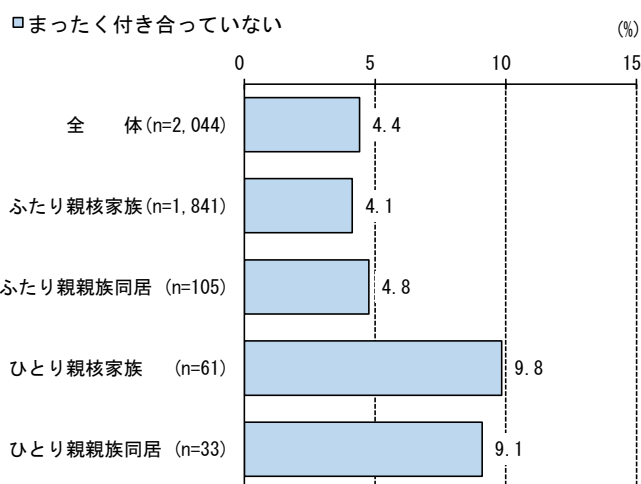
所得分類別にみると、『分類Ⅰ』が12.7%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では大きな差はみられない。所得分類別では『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

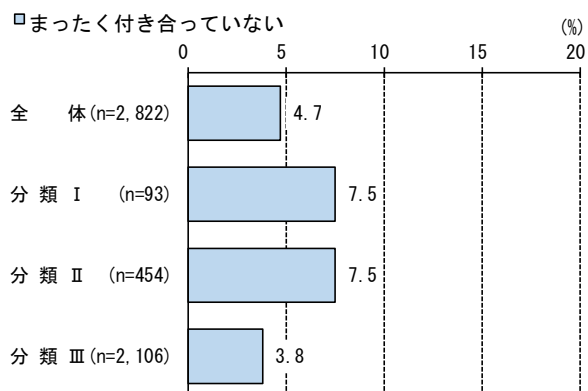
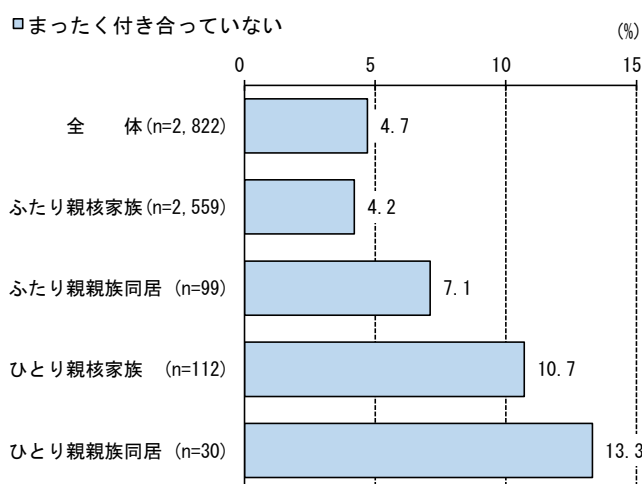
＜今回調査＞【図表 3-267 近所付き合いの程度『まったく付き合いがない』】

(小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-268 近所付き合いの程度『まったく付き合いがない』】

(小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



小学校5年生のいる世帯の近所付き合いの程度のうち『まったく付き合いがない』と回答した人を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が15.6%と全体に比べて高くなっている。

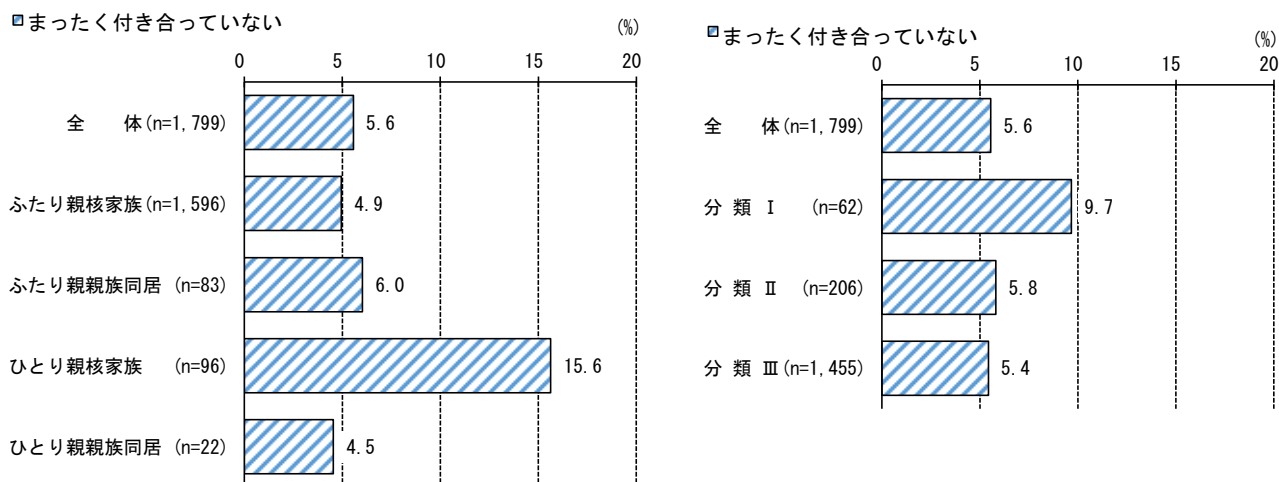
所得分類別にみると、大きな差はみられない。

経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

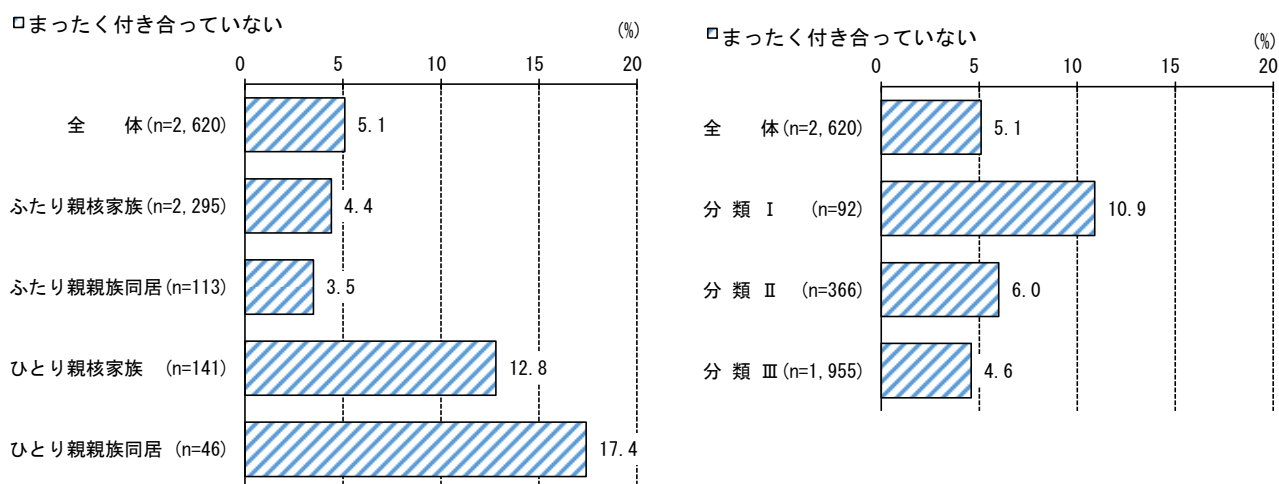
＜今回調査＞【図表 3-269 近所付き合いの程度『まったく付き合いがない』】

(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-270 近所付き合いの程度『まったく付き合いがない』】

(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



中学校2年生のいる世帯の近所付き合いの程度のうち『まったく付き合いがない』と回答した人を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』が17.8%と全体に比べて高くなっている。

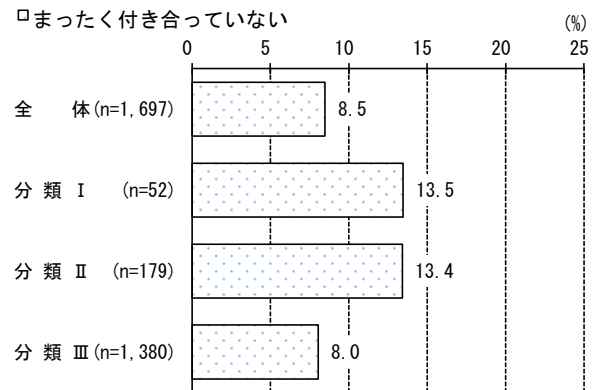
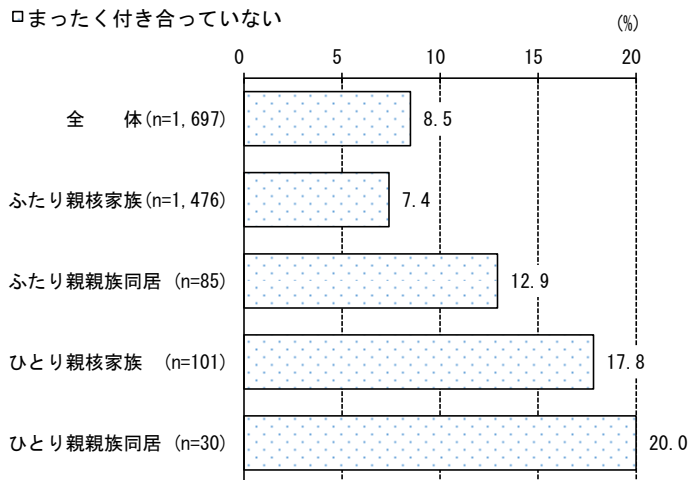
所得分類別にみると、『分類Ⅰ』が13.5%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では大きな差はみられない。所得分類別では『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

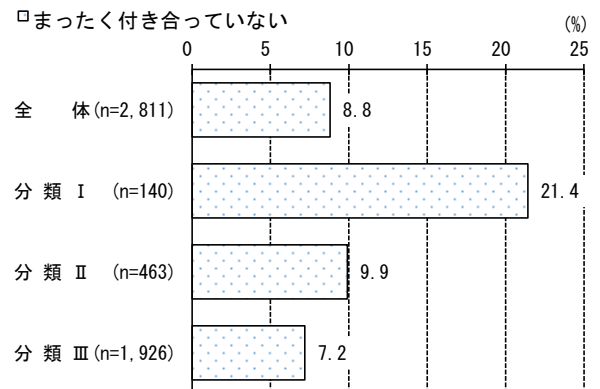
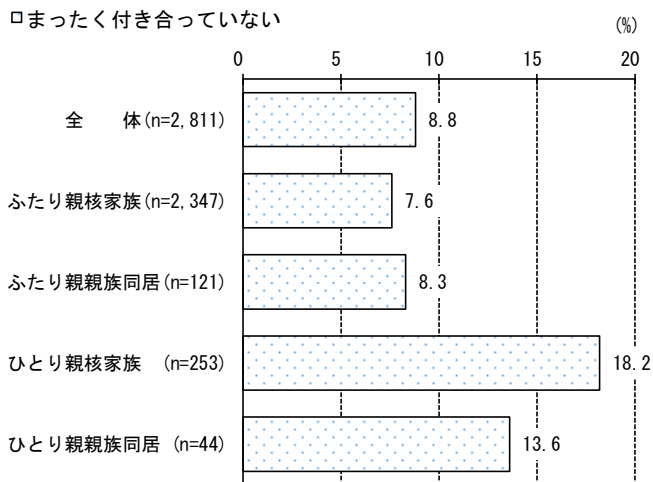
<今回調査>【図表 3-271 近所付き合いの程度『まったく付き合いがない』】

(中学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



<前回調査>【図表 3-272 近所付き合いの程度『まったく付き合いがない』】

(中学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



イ 相談相手の有無【問15】(MA)

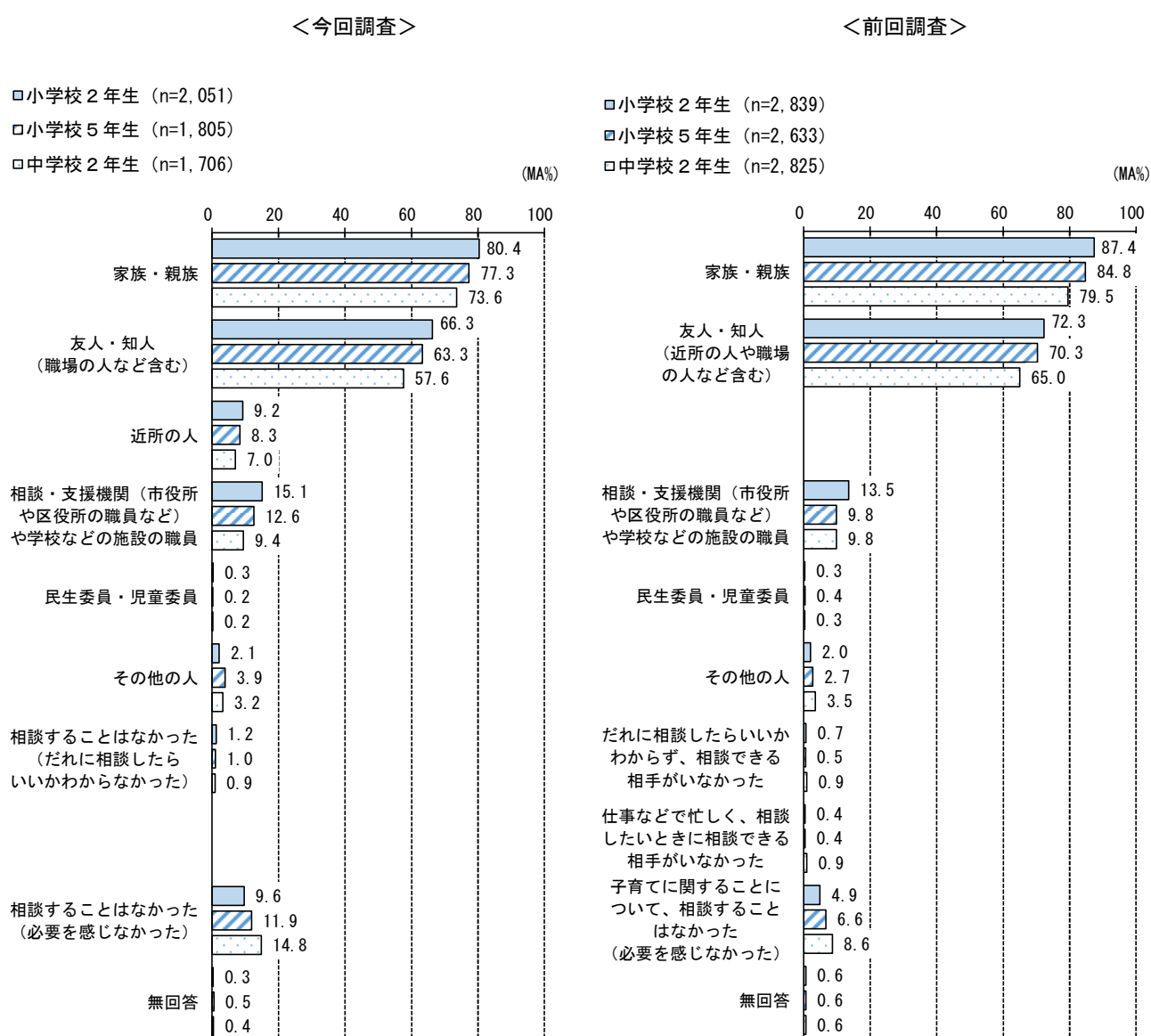
① 子育てに関する相談先

子育てに関する相談先を複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「家族・親族」(小学校2年生: 80.4%、小学校5年生: 77.3%、中学校2年生: 73.6%)が最も高く、次いで「友人・知人(職場の人など含む)」(小学校2年生: 66.3%、小学校5年生: 63.3%、中学校2年生: 57.6%)となっている。

経年でみると、「家族・親族」はいずれの学年でも前回調査に比べて低くなっている。「相談することはなかった(必要を感じなかった)」は小学校5年生、中学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて高くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 3-273 子育てに関する相談先(複数回答)】



小学校2年生のいる世帯の子育てに関する相談先について世帯構成別にみると、「家族・親族」は『ひとり親核家族』が63.9%と全体に比べて低く、「近所の人」は『ふたり親親族同居』が3.8%と全体に比べて低く、「相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校などの施設の職員」は『ふたり親親族同居』が9.5%と全体に比べて低く、『ひとり親核家族』が26.2%と全体に比べて高くなっている。また、「相談することはなかった（だれに相談したらいいかわからなかった）」は『ひとり親核家族』が6.6%と全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、「家族・親族」は『分類Ⅰ』が73.4%と全体に比べて低く、「友人・知人（職場の人など含む）」は『分類Ⅱ』が60.3%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「家族・親族」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校などの施設の職員」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。また、「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。

所得分類別では、「家族・親族」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて低くなっている。また、「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『分類Ⅲ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-274 子育てに関する相談先（複数回答）】（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（職場の人など含む）	近所の人	相談・支援機関（市役所や区役所の職員の施設など）や学校や	民生委員・児童委員	その他の人	相談することはなかった（わからなかった）	相談することはなかった（必要を感じなかった）
全体		2,044	80.7	66.5	9.2	15.1	0.3	2.2	1.2	9.6
世帯構成	ふたり親核家族	1,840	81.1	67.0	9.8	15.0	0.3	2.0	1.1	9.5
	ふたり親親族同居	105	81.0	63.8	▼ 3.8	▼ 9.5	0.0	1.9	1.0	10.5
	ひとり親核家族	61	▼ 63.9	68.9	4.9	△ 26.2	0.0	6.6	△ 6.6	13.1
	ひとり親親族同居	33	84.8	▼ 51.5	6.1	△ 21.2	0.0	6.1	0.0	9.1
所得分類	分類Ⅰ	79	▼ 73.4	68.4	7.6	13.9	－	3.8	2.5	8.9
	分類Ⅱ	219	81.7	▼ 60.3	8.2	18.7	0.5	3.2	1.8	7.3
	分類Ⅲ	1,649	80.9	67.4	9.5	15.0	0.3	1.9	1.0	9.9

＜前回調査＞【図表 3-275 子育てに関する相談先（複数回答）】（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（近所の人や職場の人など含む）	近所の人	相談・支援機関（市役所や区役所の職員の施設など）や学校や	民生委員・児童委員	その他の人	相談することはなかった（わからなかった）	相談することはなかった（必要を感じなかった）	子育てに関することはなかった（必要を感じなかった）
全体		2,823	87.8	72.7		13.6	0.3	2.0	0.7	0.4	4.9
世帯構成	ふたり親核家族	2,560	88.5	73.0		13.6	0.3	2.0	0.6	0.2	4.7
	ふたり親親族同居	99	90.9	△ 78.8		10.1	－	2.0	－	1.0	4.0
	ひとり親核家族	113	▼ 75.2	71.7		17.7	0.9	1.8	1.8	1.8	8.8
	ひとり親親族同居	29	▼ 82.8	▼ 55.2		10.3	－	3.4	△ 6.9	3.4	6.9
所得分類	分類Ⅰ	94	▼ 81.9	▼ 62.8		17.0	2.1	2.1	－	－	7.4
	分類Ⅱ	454	88.1	70.9		15.9	0.9	3.1	1.1	0.4	4.8
	分類Ⅲ	2,106	88.3	73.4		13.1	0.1	1.9	0.7	0.3	4.8

小学校5年生のいる世帯の子育てに関する相談先について世帯構成別にみると、「家族・親族」は『ひとり親核家族』が65.6%と全体に比べて低く、「友人・知人（職場の人など含む）」は『ふたり親親族同居』が68.7%と全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、「友人・知人（職場の人など含む）」は『分類Ⅰ』が72.6%と全体に比べて高く、「相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校などの施設の職員」は『分類Ⅰ』が17.7%と全体に比べて高くなっている。一方、「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『分類Ⅰ』が6.5%と、全体に比べて低くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「家族・親族」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『ふたり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

所得分類別では、「家族・親族」は『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低くなっている。「相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校などの施設の職員」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高く、「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 3-276 子育てに関する相談先（複数回答）】（小学校5年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（職場の人など含む）	近所の人	相談・支援機関（市役所や区役所の職員の施設など）や学校や	民生委員・児童委員	その他の人	相談することはなかった（わからなかった）	相談することはなかった（だれに相談したらいいか）	相談することはなかった（必要を感じなかった）
	全体	1,796	77.7	63.6	8.3	12.7	0.2	3.9	1.0		12.0
世帯構成	ふたり親核家族	1,593	78.2	62.9	8.3	12.4	0.1	4.0	0.8		12.4
	ふたり親親族同居	83	79.5	△ 68.7	7.2	13.3	-	2.4	1.2		8.4
	ひとり親核家族	96	▼ 65.6	66.7	10.4	15.6	1.0	5.2	3.1		10.4
	ひとり親親族同居	22	△ 90.9	△ 77.3	4.5	△ 22.7	4.5	-	4.5		▼ 4.5
所得分類	分類Ⅰ	62	79.0	△ 72.6	8.1	△ 17.7	1.6	1.6	1.6		▼ 6.5
	分類Ⅱ	206	75.2	65.0	7.8	15.5	0.5	2.9	1.0		13.1
	分類Ⅲ	1,452	78.0	62.9	8.3	12.1	0.1	4.2	0.9		12.0

<前回調査>【図表 3-277 子育てに関する相談先（複数回答）】（小学校5年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（近所の人や職場の人など含む）		相談・支援機関（市役所や区役所の職員の施設など）や学校や	民生委員・児童委員	その他の人	相談することはなかった（わからなかった）	相談することはなかった（だれに相談したらいいか）	相談することはなかった（必要を感じなかった）	子育てに関することについて（必要を感じなかった）
	全体	2,617	85.4	70.8		9.9	0.4	2.8	0.5	0.4	6.7	
世帯構成	ふたり親核家族	2,293	86.1	70.8		9.6	0.2	2.9	0.5	0.3	6.6	
	ふたり親親族同居	113	86.7	69.9		11.5	0.9	0.9	-	-	5.3	
	ひとり親核家族	141	▼ 73.0	73.0		13.5	3.5	2.8	1.4	1.4	9.2	
	ひとり親親族同居	46	87.0	△ 76.1		10.9	-	-	-	2.2	2.2	
所得分類	分類Ⅰ	93	80.6	67.7		△ 17.2	1.1	-	2.2	2.2	7.5	
	分類Ⅱ	365	84.1	69.3		10.1	0.8	2.2	0.8	1.4	6.6	
	分類Ⅲ	1,954	86.0	71.4		9.8	0.3	3.0	0.4	0.2	6.5	

中学校2年生のいる世帯の子育てに関する相談先について世帯構成別にみると、「家族・親族」は『ふたり親親族同居』が80.2%と全体に比べて高く、『ひとり親核家族』が62.1%と全体に比べて低くなっている。「近所の人」は『ひとり親核家族』が1.9%と全体に比べて低くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』では「家族・親族」が67.9%、「友人・知人（職場の人など含む）」が50.9%、「近所の人」が1.9%と全体に比べて低く、「相談することはなかった（必要を感じなかった）」が22.6%と、全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「家族・親族」は『ふたり親核家族』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「相談することはなかった（必要を感じなかった）」はいずれの世帯構成でも前回調査に比べて高くなっている。

所得分類別では、「家族・親族」は『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低くなっている。「相談することはなかった（必要を感じなかった）」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-278 子育てに関する相談先（複数回答）】（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）

单位：%

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（職場の人など含む）	近所の人	相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校などの施設の職員	民生委員・児童委員	その他の人	相談することはないか （だれに相談したらいいたかわからなかった）	相談することはないか （必要を感じなかった）
全体		1,700	73.8	57.8	7.1	9.5	0.2	3.2	0.9	14.9
世帯構成	ふたり親核家族	1,476	74.4	58.3	7.7	9.2	0.1	3.2	0.8	14.7
	ふたり親親族同居	86	△ 80.2	61.6	4.7	8.1	－	3.5	－	12.8
	ひとり親核家族	103	▼ 62.1	54.4	▼ 1.9	13.6	1.9	3.9	1.9	19.4
	ひとり親親族同居	30	▼ 66.7	▼ 43.3	－	10.0	－	3.3	3.3	16.7
所得分類	分類Ⅰ	53	▼ 67.9	▼ 50.9	▼ 1.9	13.2	1.9	5.7	－	△ 22.6
	分類Ⅱ	180	71.7	58.3	5.6	12.2	0.6	2.8	1.7	15.6
	分類Ⅲ	1,379	74.3	57.9	7.5	9.1	0.1	3.3	0.7	14.6

＜前回調査＞【図表 3-279 子育てに関する相談先（複数回答）】（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）

单位：%

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（近所の人や職場の人など含む）		相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校などの施設の職員	民生委員・児童委員	その他の人	いなくた	だれに相談したらいいかわからず、相談できない相手が	仕事などで忙しく、相談したいときに相談できる相手が	子育てに関することについて、相談することはなかった（必要を感じなかった）	率 （％）
全体		2,808	80.0	65.4		9.9	0.3	3.6	0.9	0.9		8.7	
世帯構成	ふたり親核家族	2,345	81.3	66.7		9.7	0.1	3.6	0.5	0.8		8.1	
	ふたり親親族同居	121	△ 85.1	62.8		8.3	0.8	3.3	－	－		6.6	
	ひとり親核家族	253	▼ 67.6	▼ 59.3		11.1	2.0	2.4	4.3	2.0	△ 13.8		
	ひとり親親族同居	44	77.3	61.4		△ 18.2	－	6.8	2.3	－	4.5		
所得分類	分類Ⅰ	140	▼ 72.1	▼ 55.7		12.1	0.7	2.9	2.9	1.4	12.9		
	分類Ⅱ	462	▼ 73.4	61.5		12.3	0.6	3.2	1.5	1.7	10.6		
	分類Ⅲ	1,925	82.3	67.1		8.8	0.1	3.8	0.6	0.7	8.0		

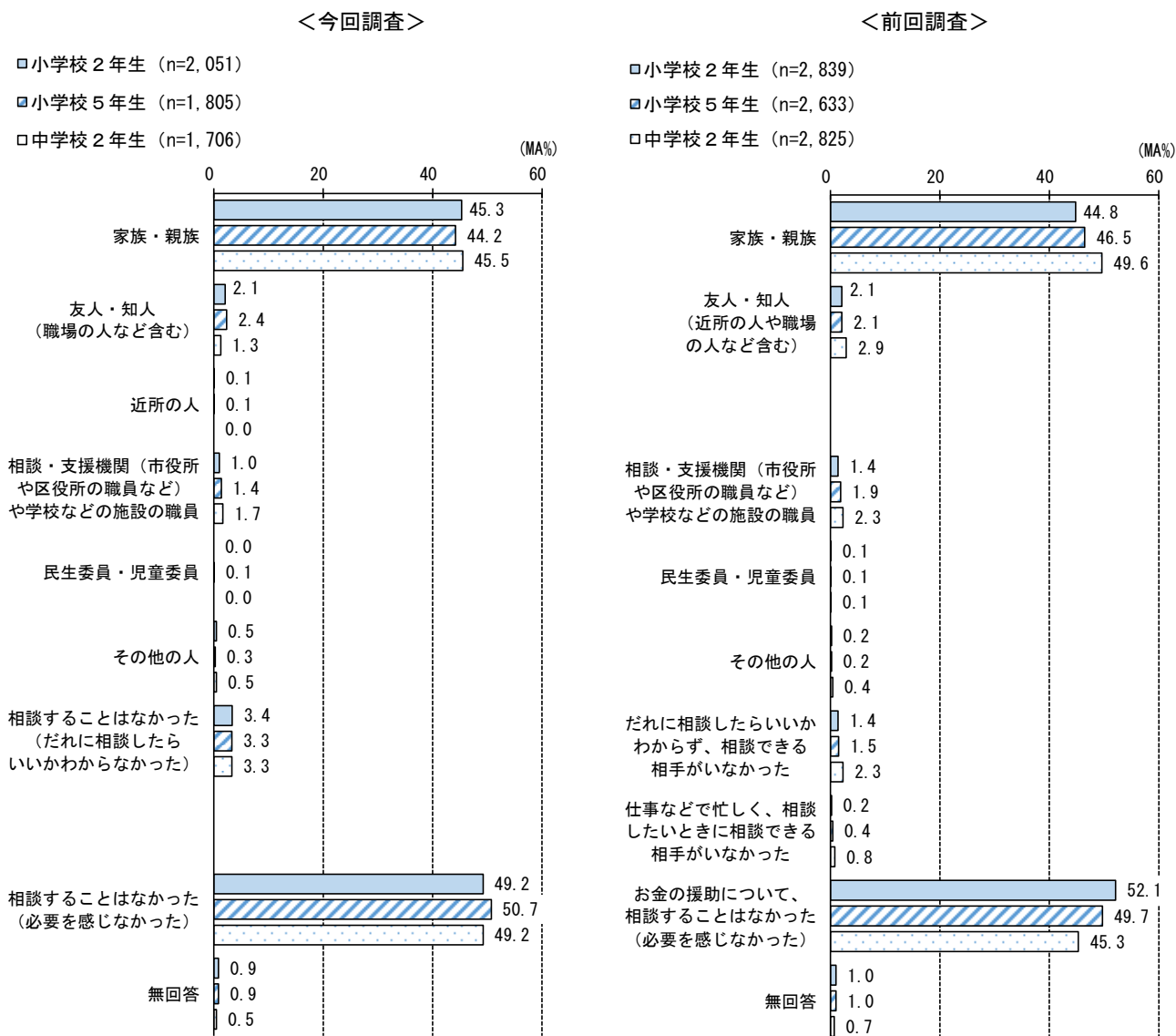
② いざという時のお金の援助相談先

いざという時のお金の援助相談先を複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「相談することはなかった（必要を感じなかった）」（小学校2年生：49.2%、小学校5年生：50.7%、中学校2年生：49.2%）が最も高く、次いで「家族・親族」（小学校2年生：45.3%、小学校5年生：44.2%、中学校2年生：45.5%）となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 3-280 いざという時のお金の援助相談先（複数回答）】



小学校2年生のいる世帯のいざという時のお金の援助相談先について世帯構成別にみると、「家族・親族」は『ふたり親親族同居』が55.2%、「相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校などの施設の職員」は『ひとり親核家族』が12.3%と全体に比べて高くなっている。「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『ふたり親親族同居』が41.9%、『ひとり親核家族』が29.8%と全体に比べて低くなっている。

所得分類別にみると、「家族・親族」は『分類Ⅰ』が66.7%、『分類Ⅱ』が58.8%と全体に比べて高くなっている。また、『分類Ⅰ』では「友人・知人（職場の人など含む）」が7.7%、「相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校などの施設の職員」が9.0%、「相談することはなかった（だれに相談したらいいかわからなかった）」が9.0%と、それぞれ全体に比べて高くなっている。一方、「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『分類Ⅰ』が16.7%、『分類Ⅱ』が31.0%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「家族・親族」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。

所得分類別では「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-281 いざという時のお金の援助相談先（複数回答）】

（小学校２年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（職場の人など含む）	近所の人	相談・支援機関（市役所や区役所の職員の職など）	民生委員・児童委員	その他の人	相談することはなかった（わかれに相談したかった）	相談することはなかった（必要を感じなかった）
全体		2,033	45.7	2.2	0.1	1.0	0.0	0.5	3.4	49.7
世帯構成	ふたり親核家族	1,834	44.9	2.0	0.1	0.7	-	0.3	3.3	51.1
	ふたり親親族同居	105	△ 55.2	1.0	1.9	-	-	1.0	1.9	▼ 41.9
	ひとり親核家族	57	49.1	5.3	-	△ 12.3	1.8	5.3	7.0	▼ 29.8
	ひとり親親族同居	33	△ 60.6	△ 12.1	-	△ 6.1	-	3.0	6.1	▼ 27.3
所得分類	分類Ⅰ	78	△ 66.7	△ 7.7	1.3	△ 9.0	1.3	1.3	△ 9.0	▼ 16.7
	分類Ⅱ	216	△ 58.8	2.3	-	1.9	-	1.4	7.9	▼ 31.0
	分類Ⅲ	1,644	43.7	1.9	0.1	0.5	-	0.4	2.4	53.2

＜前回調査＞【図表 3-282 いざという時のお金の援助相談先（複数回答）】

（小学校２年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（近所の人や職場の人など含む）	相談・支援機関（市役所や区役所の職員の職など）	民生委員・児童委員	その他の人	相談することはなかった（わかれに相談したかった）	相談することはなかった（必要を感じなかった）	相談することはなかった（必要を感じなかった）
全体		2,812	45.2	2.1	1.4	0.1	0.2	1.4	0.2	52.6
世帯構成	ふたり親核家族	2,550	43.8	1.6	0.8	0.1	0.1	1.4	0.3	54.5
	ふたり親親族同居	99	△ 54.5	5.1	1.0	-	-	1.0	-	▼ 43.4
	ひとり親核家族	112	△ 58.9	△ 9.8	△ 13.4	-	1.8	1.8	-	▼ 31.3
	ひとり親親族同居	29	△ 72.4	6.9	△ 6.9	-	-	-	-	▼ 20.7
所得分類	分類Ⅰ	94	△ 70.2	△ 9.6	△ 11.7	1.1	1.1	2.1	1.1	▼ 17.0
	分類Ⅱ	454	△ 55.5	3.1	3.1	0.2	-	3.1	0.2	▼ 39.9
	分類Ⅲ	2,098	41.8	1.5	0.7	-	0.2	1.0	0.2	57.1

小学校5年生のいる世帯のいざという時のお金の援助相談先について世帯構成別にみると、「家族・親族」は『ふたり親親族同居』が53.6%と全体に比べて高く、「相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校などの施設の職員」は『ひとり親核家族』が7.3%と全体に比べて高くなっている。「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『ふたり親親族同居』が41.7%、『ひとり親核家族』が32.3%と全体に比べて低くなっている。

所得分類別にみると、「家族・親族」は『分類Ⅰ』が66.1%、『分類Ⅱ』が56.4%と全体に比べて高く、「友人・知人（職場の人など含む）」は『分類Ⅰ』が8.1%と全体に比べて高くなっている。また、「相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校などの施設の職員」は『分類Ⅰ』が9.7%と全体に比べて高くなっている。「相談することはなかった（だれに相談したらいいかわからなかった）」は『分類Ⅰ』が9.7%と全体に比べて高く、「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『分類Ⅰ』が19.4%、『分類Ⅱ』が31.9%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「家族・親族」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校などの施設の職員」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。

所得分類別では「相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校などの施設の職員」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-283 いざという時のお金の援助相談先（複数回答）】

（小学校５年生・世帯構成別、所得分類）

単位：％

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（職場の人など含む）	近所の人	相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校やなどの施設の職員	民生委員・児童委員	その他の人	相談することはなかった（わかれに相談したかった）	相談することはない（必要を感じなかった）
全体		1,788	44.6	2.4	0.1	1.5	0.1	0.3	3.3	51.2
世帯構成	ふたり親核家族	1,586	43.5	2.0	0.0	0.9	0.0	0.2	2.7	53.3
	ふたり親親族同居	84	△ 53.6	6.0	0.0	2.4	0.0	0.0	4.8	▼ 41.7
	ひとり親核家族	96	47.9	5.2	1.0	△ 7.3	0.0	2.1	△ 12.5	▼ 32.3
	ひとり親親族同居	20	△ 75.0	5.0	0.0	△ 15.0	5.0	0.0	0.0	▼ 25.0
所得分類	分類Ⅰ	62	△ 66.1	△ 8.1	－	△ 9.7	－	－	△ 9.7	▼ 19.4
	分類Ⅱ	204	△ 56.4	3.9	－	3.9	0.5	1.0	7.8	▼ 31.9
	分類Ⅲ	1,448	41.9	2.0	0.1	0.8	－	0.2	2.2	55.6

＜前回調査＞【図表 3-284 いざという時のお金の援助相談先（複数回答）】

（小学校５年生・世帯構成別、所得分類）

単位：％

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（近所の人や職場の人など含む）	近所の人	相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校やなどの施設の職員	民生委員・児童委員	その他の人	相談することはなかった（いざという時に相談したい）	相談することはなかった（相談できなかった）	相談することはない（必要を感じなかった）
全体		2,607	47.0	2.1		1.9	0.1	0.2	1.5	0.4	50.2
世帯構成	ふたり親核家族	2,284	45.6	1.9		0.9	－	0.1	1.4	0.3	52.4
	ふたり親親族同居	113	△ 55.8	1.8		2.7	－	－	0.9	－	▼ 42.5
	ひとり親核家族	141	△ 53.2	5.0		△ 16.3	1.4	1.4	2.1	1.4	▼ 33.3
	ひとり親親族同居	45	△ 62.2	4.4		6.7	－	－	4.4	4.4	▼ 24.4
所得分類	分類Ⅰ	92	△ 63.0	△ 7.6		△ 18.5	3.3	1.1	4.3	4.3	▼ 20.7
	分類Ⅱ	365	△ 58.1	3.6		2.7	－	－	4.1	0.8	▼ 35.6
	分類Ⅲ	1,946	43.0	1.4		0.8	－	0.2	0.9	0.1	△ 55.5

中学校2年生のいる世帯のいざという時のお金の援助相談先について世帯構成別にみると、「家族・親族」は『ふたり親親族同居』が55.8%と全体に比べて高くなっている。「相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校などの施設の職員」は『ひとり親核家族』が8.8%と全体に比べて高く、「相談することはなかった（だれに相談したらいいかわからなかった）」は『ひとり親核家族』が11.8%と全体に比べて高くなっている。「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『ふたり親親族同居』が41.9%、『ひとり親核家族』が30.4%と全体に比べて低くなっている。

所得分類別にみると、「家族・親族」は『分類Ⅰ』が61.1%、『分類Ⅱ』が55.6%と全体に比べて高くなっている。「相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校などの施設の職員」は『分類Ⅰ』が13.0%と全体に比べて高くなっている。一方、「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『分類Ⅰ』が22.2%、『分類Ⅱ』が32.8%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、世帯構成別では大きな差はみられない。

所得分類別では「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-285 いざという時のお金の援助相談先（複数回答）】

（中学校２年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（職場の人など含む）	近所の人	相談・支援機関（市役所や区役所の職員の施設など）	民生委員・児童委員	その他の人	相談することはなかった（相談したがいかなかった）	相談することはなかった（必要を感じなかった）
全体		1,697	45.7	1.3	-	1.7	-	0.5	3.4	49.4
世帯構成	ふたり親核家族	1,474	44.6	1.0	-	1.2	-	0.3	2.8	51.7
	ふたり親親族同居	86	△ 55.8	2.3	-	1.2	-	1.2	1.2	▼ 41.9
	ひとり親核家族	102	48.0	3.9	-	△ 8.8	-	3.9	△ 11.8	▼ 30.4
	ひとり親親族同居	30	△ 63.3	3.3	-	3.3	-	-	6.7	▼ 26.7
所得分類	分類Ⅰ	54	△ 61.1	-	-	△ 13.0	-	1.9	5.6	▼ 22.2
	分類Ⅱ	180	△ 55.6	3.9	-	5.0	-	1.1	7.2	▼ 32.8
	分類Ⅲ	1,377	44.1	0.9	-	0.9	-	0.4	2.8	52.4

＜前回調査＞【図表 3-286 いざという時のお金の援助相談先（複数回答）】

（中学校２年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（近所の人や職場の人など含む）	近所の人	相談・支援機関（市役所や区役所の職員の施設など）	民生委員・児童委員	その他の人	相談することはなかった（相談したがいかなかった）	相談することはなかった（必要を感じなかった）	相談することはなかった（必要を感じなかった）
全体		2,804	50.0	3.0	-	2.3	0.1	0.4	2.4	0.9	45.6
世帯構成	ふたり親核家族	2,344	49.0	2.7	-	1.4	-	0.3	1.7	0.5	47.8
	ふたり親親族同居	121	△ 57.9	1.7	-	0.8	-	0.8	0.8	-	▼ 39.7
	ひとり親核家族	252	52.8	4.4	-	△ 9.9	0.8	1.2	7.1	4.0	▼ 33.3
	ひとり親親族同居	43	△ 60.5	△ 11.6	-	7.0	-	-	7.0	-	▼ 27.9
所得分類	分類Ⅰ	138	△ 57.2	7.2	-	△ 10.1	-	-	7.2	2.9	▼ 27.5
	分類Ⅱ	463	△ 58.1	4.3	-	5.0	0.2	0.2	5.0	1.3	▼ 32.8
	分類Ⅲ	1,923	47.1	2.2	-	0.8	0.1	0.5	1.0	0.6	△ 50.8

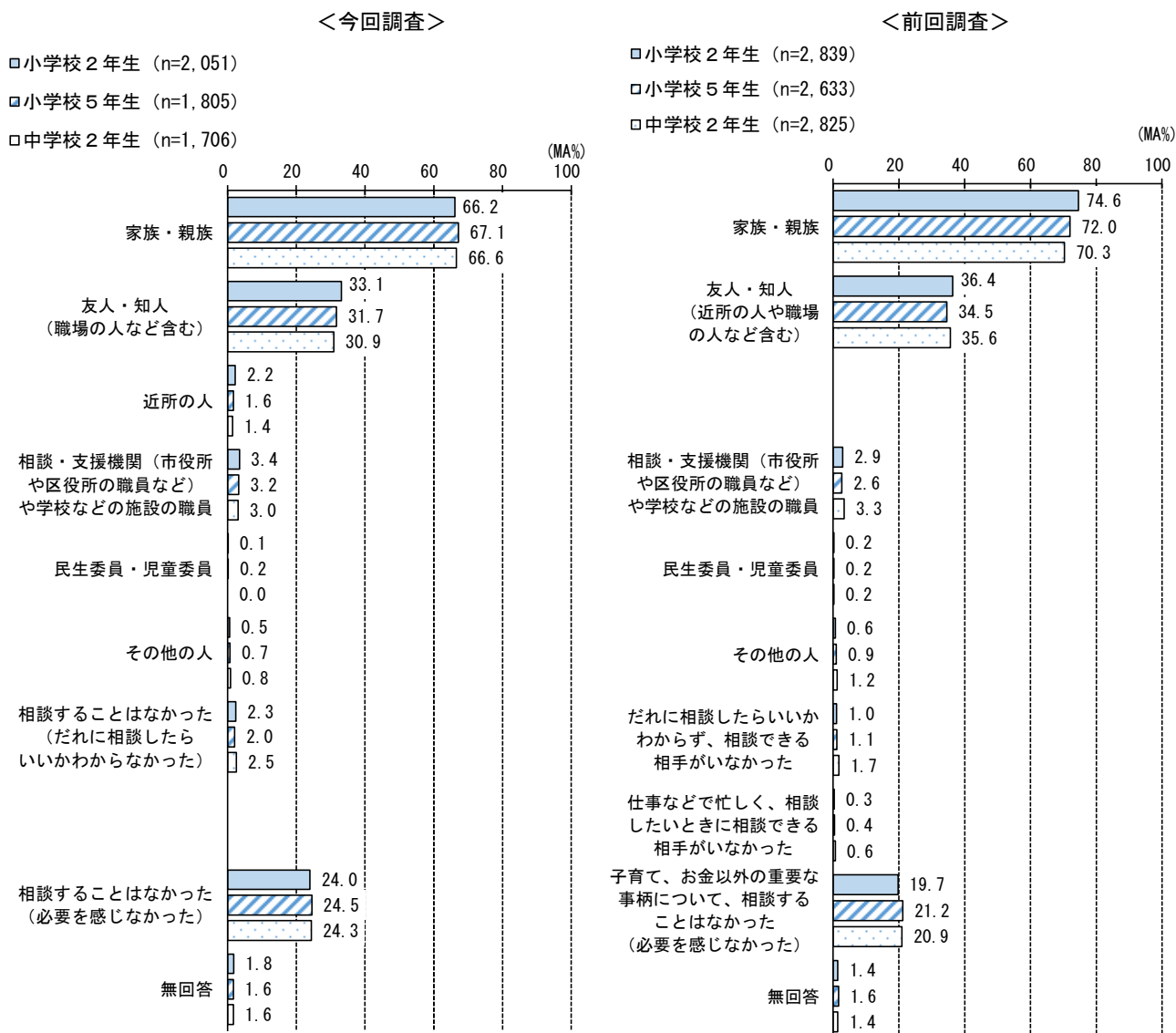
③ 子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先

子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先を複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「家族・親族」（小学校2年生：66.2%、小学校5年生：67.1%、中学校2年生：66.6%）が最も高く、次いで「友人・知人（職場の人など含む）」（小学校2年生：33.1%、小学校5年生：31.7%、中学校2年生：30.9%）となっている。

経年でみると、「家族・親族」は小学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて低くなっている。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 3-287 子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先（複数回答）】



小学校2年生のいる世帯の子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先について世帯構成別にみると、「家族・親族」は『ひとり親核家族』が56.1%と全体に比べて低くなっている。「相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校などの施設の職員」は『ひとり親核家族』が10.5%と全体に比べて高くなっている。「相談することはなかった（だれに相談したらいいかわからなかった）」は『ひとり親核家族』が14.0%と全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、「友人・知人（職場の人など含む）」は『分類Ⅰ』が45.5%と全体に比べて高くなっている。一方、「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『分類Ⅰ』が11.7%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「家族・親族」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

所得分類別では「家族・親族」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-288 子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先（複数回答）】

（小学校２年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（職場の人など含む）	近所の人	相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校やなどの施設の職員	民生委員・児童委員	その他の人	相談することはなかった（わかれなかつた）	相談することはなかった（だれに相談したらいいか）	相談することはなかった（必要を感じなかった）
全体		2,014	67.4	33.7	2.2	3.5	0.1	0.5	2.3		24.4
世帯構成	ふたり親核家族	1,816	67.8	33.6	2.4	3.3	0.1	0.3	2.0		24.4
	ふたり親親族同居	103	67.0	31.1	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0		25.2
	ひとり親核家族	57	▼ 56.1	38.6	0.0	△ 10.5	1.8	5.3	△ 14.0		22.8
	ひとり親親族同居	33	66.7	△ 39.4	0.0	△ 9.1	0.0	3.0	6.1		21.2
所得分類	分類Ⅰ	77	67.5	△ 45.5	3.9	7.8	1.3	2.6	6.5		▼ 11.7
	分類Ⅱ	214	68.2	34.1	3.3	2.8	－	0.9	2.8		20.6
	分類Ⅲ	1,629	68.0	33.7	2.1	3.5	0.1	0.4	2.0		25.0

＜前回調査＞【図表 3-289 子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先（複数回答）】

（小学校２年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（近所の人や職場の人など含む）	近所の人	相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校やなどの施設の職員	民生委員・児童委員	その他の人	相談することはなかった（いなか）	相談することはなかった（だれに相談したらいいか）	相談することはなかった（仕事などで忙しく、相談できなかった）	相談することはなかった（子育て、お金以外重要な事柄について、必要を感じなかった）
全体		2,799	75.6	36.9		2.9	0.2	0.6	1.0	0.3		20.0
世帯構成	ふたり親核家族	2,542	75.1	36.0		2.7	0.2	0.6	1.0	0.3		20.8
	ふたり親親族同居	97	△ 85.6	40.2		2.1	1.0	－	－	－	▼ 12.4	
	ひとり親核家族	112	77.7	△ 56.3		△ 8.0	－	2.7	2.7	1.8	▼ 8.9	
	ひとり親親族同居	29	79.3	37.9		3.4	－	－	－	－	17.2	
所得分類	分類Ⅰ	94	76.6	△ 45.7		4.3	－	－	3.2	1.1	▼ 12.8	
	分類Ⅱ	449	78.2	36.1		3.3	0.2	0.4	0.9	0.7	16.3	
	分類Ⅲ	2,095	74.8	36.6		2.8	0.1	0.7	1.0	0.2	21.2	

小学校5年生のいる世帯の子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先について世帯構成別にみると、「家族・親族」は『ひとり親核家族』が55.8%と全体に比べて低く、「友人・知人（職場の人など含む）」は『ひとり親核家族』が38.9%と全体に比べて高くなっている。

「相談することはなかった（だれに相談したらいいかわからなかった）」は『ひとり親核家族』が7.4%と全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、「相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校などの施設の職員」は『分類Ⅰ』が9.8%と全体に比べて高く、「相談することはなかった（だれに相談したらいいかわからなかった）」は『分類Ⅰ』が9.8%と全体に比べて高くなっている。一方、「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『分類Ⅰ』が13.1%、『分類Ⅱ』が18.6%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「家族・親族」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

所得分類別では「家族・親族」は『分類Ⅱ』が前回調査より低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 3-290 子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先（複数回答）】

（小学校５年生・世帯構成別、所得分類別）】

単位：％

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（職場の人など含む）	近所の人	相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校やなどの施設の職員	民生委員・児童委員	その他の人	相談することはなかった（わかれに相談したらいいかからなかった）	相談することはない（必要を感じなかった）
全体		1,776	68.2	32.2	1.6	3.3	0.2	0.7	2.1	24.9
世帯構成	ふたり親核家族	1,575	68.6	31.3	1.6	2.9	0.1	0.6	1.8	25.6
	ふたり親親族同居	84	69.0	35.7	－	4.8	－	1.2	2.4	20.2
	ひとり親核家族	95	▼ 55.8	△ 38.9	3.2	5.3	1.1	3.2	△ 7.4	22.1
	ひとり親親族同居	20	△ 85.0	△ 55.0	5.0	△ 20.0	5.0	－	－	▼ 5.0
所得分類	分類Ⅰ	61	70.5	36.1	－	△ 9.8	1.6	－	△ 9.8	▼ 13.1
	分類Ⅱ	199	68.3	35.7	1.5	5.0	0.5	0.5	4.5	▼ 18.6
	分類Ⅲ	1,442	68.0	31.5	1.7	2.9	0.1	0.8	1.3	26.4

<前回調査>【図表 3-291 子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先（複数回答）】

（小学校５年生・世帯構成別、所得分類別）】

単位：％

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（近所の人や職場の人など含む）	近所の人	相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校やなどの施設の職員	民生委員・児童委員	その他の人	相談することはなかった（いかならず相談したらいいかからなかった）	相談することはなかった（いかならず相談したらいいかからなかった）	相談することはなかった（いかならず相談したらいいかからなかった）
全体		2,592	73.1	35.1		2.7	0.2	0.9	1.1	0.4	21.5
世帯構成	ふたり親核家族	2,272	73.0	34.6		2.2	0.1	0.7	1.0	0.3	22.6
	ふたり親親族同居	113	77.0	▼ 30.1		1.8	－	2.7	－	0.9	16.8
	ひとり親核家族	139	69.8	△ 45.3		△ 8.6	2.2	3.6	3.6	1.4	▼ 12.9
	ひとり親親族同居	45	77.8	△ 46.7		6.7	－	2.2	－	4.4	▼ 8.9
所得分類	分類Ⅰ	90	70.0	△ 41.1		6.7	1.1	1.1	3.3	1.1	▼ 15.6
	分類Ⅱ	364	74.7	△ 40.4		3.0	0.5	0.5	1.6	1.1	17.0
	分類Ⅲ	1,937	72.8	33.8		2.4	0.2	1.0	0.8	0.3	22.8

中学校2年生のいる世帯の子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先について世帯構成別にみると、「家族・親族」は『ひとり親核家族』が62.7%と全体に比べて低くなっている。「友人・知人（職場の人など含む）」は『ひとり親核家族』が41.2%と全体に比べて高くなっている。「相談することはなかった（必要を感じなかった）」は『ひとり親核家族』が16.7%と全体に比べて低くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』では「家族・親族」が78.8%と全体に比べて高く、「相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校などの施設の職員」が11.5%と全体に比べて高くなっている。一方、「相談することはなかった（必要を感じなかった）」が11.5%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「家族・親族」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。

所得分類別では「家族・親族」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-292 子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先（複数回答）】

（中学校２年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（職場の人など含む）	近所の人	相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校やなどの施設の職員	民生委員・児童委員	その他の人	相談することはなかった（わかれなかつた）	相談することはなかった（相談したがいにか）	相談することはなかった（必要を感じなかった）
全体		1,679	67.7	31.4	1.4	3.1	-	0.8	2.5		24.7
世帯構成	ふたり親核家族	1,458	67.9	30.5	1.5	2.7	-	0.9	2.2		25.7
	ふたり親親族同居	85	71.8	34.1	2.4	4.7	-	-	1.2		21.2
	ひとり親核家族	102	▼ 62.7	△ 41.2	-	6.9	-	-	5.9		▼ 16.7
	ひとり親親族同居	29	65.5	△ 37.9	-	3.4	-	-	△ 10.3		▼ 13.8
所得分類	分類Ⅰ	52	△ 78.8	34.6	-	△ 11.5	-	-	1.9		▼ 11.5
	分類Ⅱ	180	66.1	36.1	1.1	5.6	-	-	4.4		21.1
	分類Ⅲ	1,362	67.4	30.5	1.4	2.5	-	1.0	2.2		25.9

＜前回調査＞【図表 3-293 子育て、お金の援助相談以外の重要な事柄の相談先（複数回答）】

（中学校２年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	家族・親族	友人・知人（近所の人や職場の人など含む）	近所の人	相談・支援機関（市役所や区役所の職員など）や学校やなどの施設の職員	民生委員・児童委員	その他の人	相談することはなかった（いなか）	相談することはなかった（だれに相談したがいにか）	相談することはなかった（仕事などで忙しくて相談できなかった）	相談することはなかった（子育て、お金以外重要な事柄について、必要を感じなかった）
全体		2,785	71.3	36.1		3.4	0.3	1.2	1.7	0.6		21.2
世帯構成	ふたり親核家族	2,326	71.5	35.5		2.8	0.2	1.0	1.2	0.5		22.2
	ふたり親親族同居	119	73.1	37.0		4.2	0.8	1.7	1.7	-		18.5
	ひとり親核家族	252	67.9	△ 42.1		6.7	0.8	2.4	△ 6.7	1.6		16.7
	ひとり親親族同居	44	△ 81.8	40.9		6.8	-	2.3	2.3	-		▼ 4.5
所得分類	分類Ⅰ	139	70.5	38.8		7.9	0.7	1.4	6.5	0.7		▼ 14.4
	分類Ⅱ	457	69.8	38.9		5.0	0.4	0.9	3.5	1.1		19.0
	分類Ⅲ	1,912	72.3	35.6		2.4	0.2	1.2	0.9	0.4		22.3

第4節 子育ての状況

(1) 保護者と子どもとの関わり

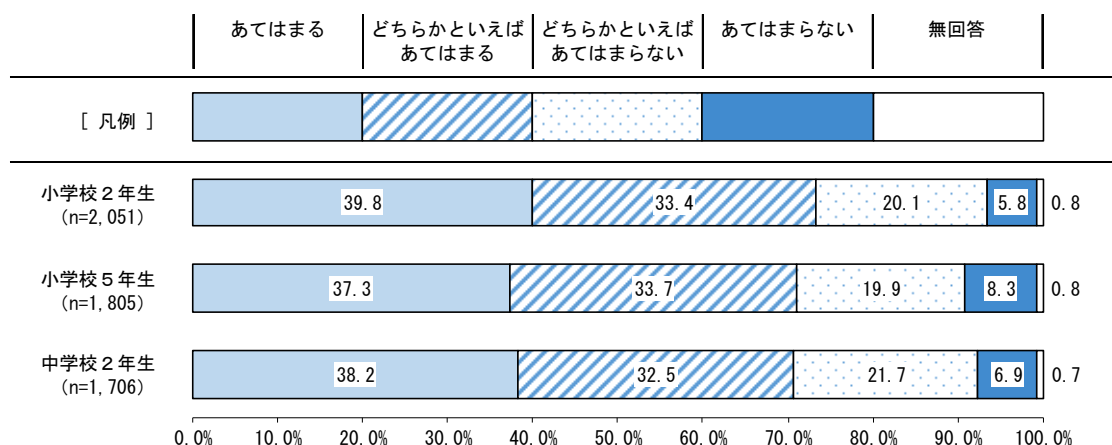
ア これまでの子どもとの関わり方【問5】(SA)

これまでの子どもとの関わり方を聞いたところ、『お子さんが小さいころ（小学校2年生まで）、絵本の読み聞かせをしていた』では「あてはまる」（小学校2年生：39.8%、小学校5年生：37.3%、中学校2年生：38.2%）が最も高く、次いで、「どちらかといえばあてはまる」（小学校2年生：33.4%、小学校5年生：33.7%、中学校2年生：32.5%）、「どちらかといえばあてはまらない」（小学校2年生：20.1%、小学校5年生：19.9%、中学校2年生：21.7%）となっている。

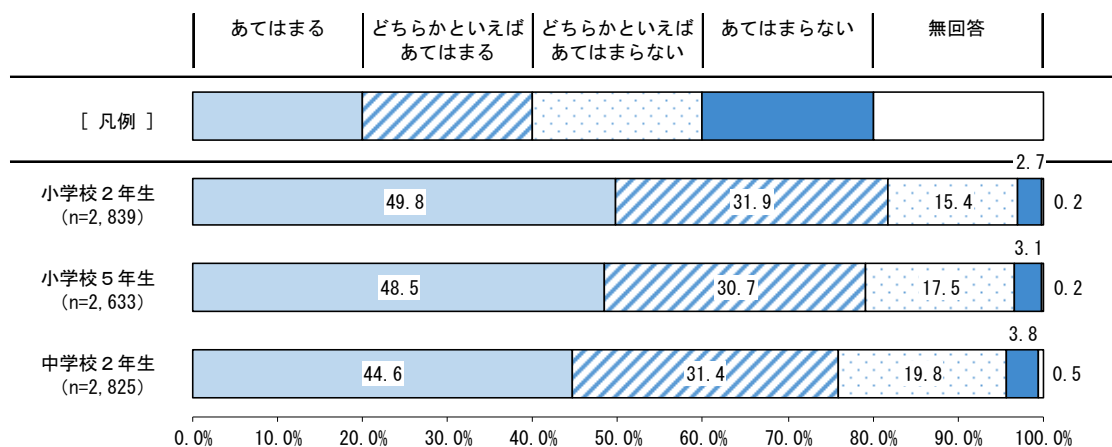
経年でみると、小学校5年生のいる世帯では「あてはまらない」が前回調査に比べて高くなっている。一方、いずれの学年でも「あてはまる」が前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は設問内容が異なるため、参考値とし、経年比較は行わない。

<今回調査>【図表 3-294 (ア) お子さんが小さいころ（小学校2年生まで）、絵本の読み聞かせをしていた】



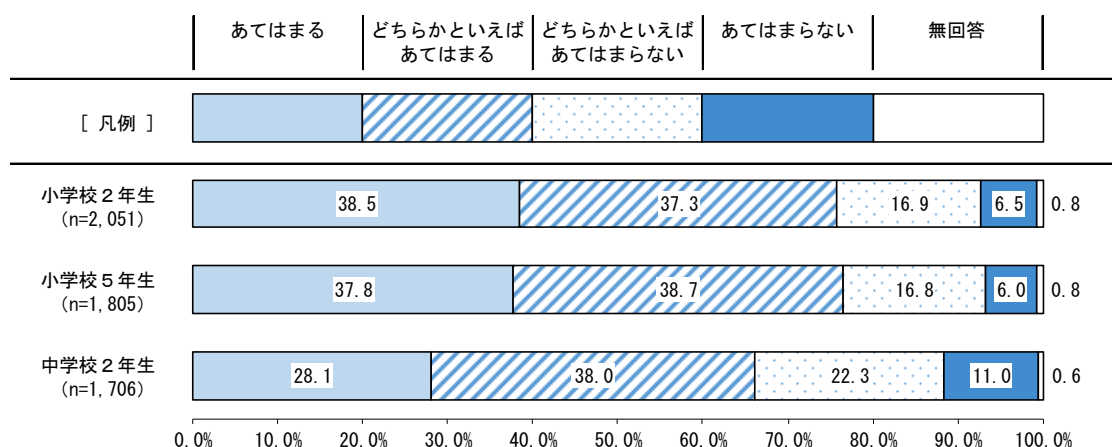
<前回調査>【図表 3-295 (ア) お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた】



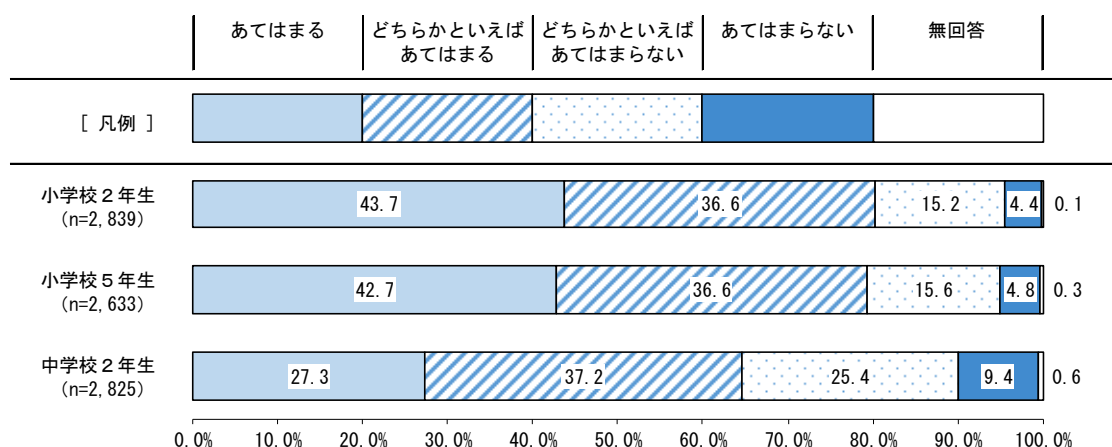
『テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている』では、小学校2年生のいる世帯で「あてはまる」が38.5%と最も高く、次いで「どちらかといえばあてはまる」が37.3%、「どちらかといえばあてはまらない」が16.9%となっている。小学校5年生のいる世帯と中学校2年生のいる世帯では「どちらかといえばあてはまる」（小学校5年生：38.7%、中学校2年生：38.0%）が最も高く、次いで「あてはまる」（小学校5年生：37.8%、中学校2年生：28.1%）、「どちらかといえばあてはまらない」（小学校5年生：16.8%、中学校2年生：22.3%）となっている。

経年でみると、小学校2年生のいる世帯では「あてはまる」が前回調査に比べて低くなっている。

<今回調査>【図表 3-296 (イ) テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている】



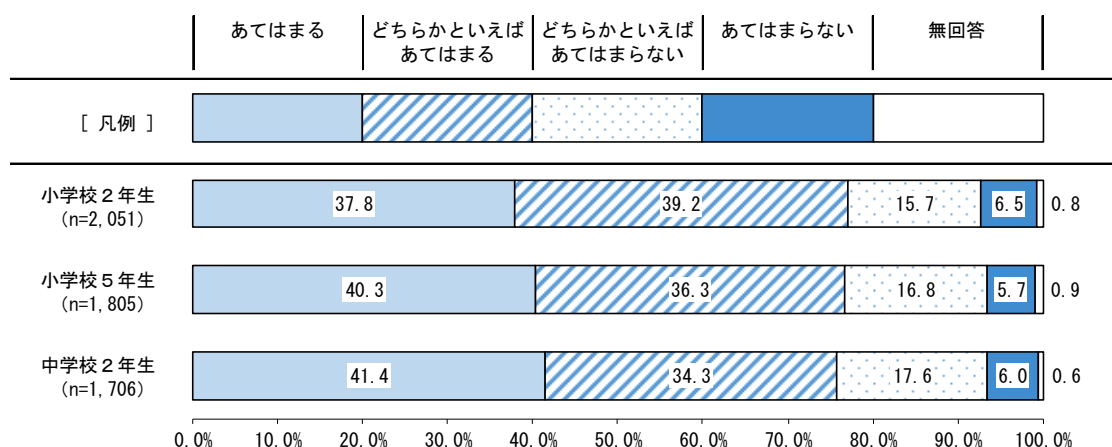
<前回調査>【図表 3-297 (イ) テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている】



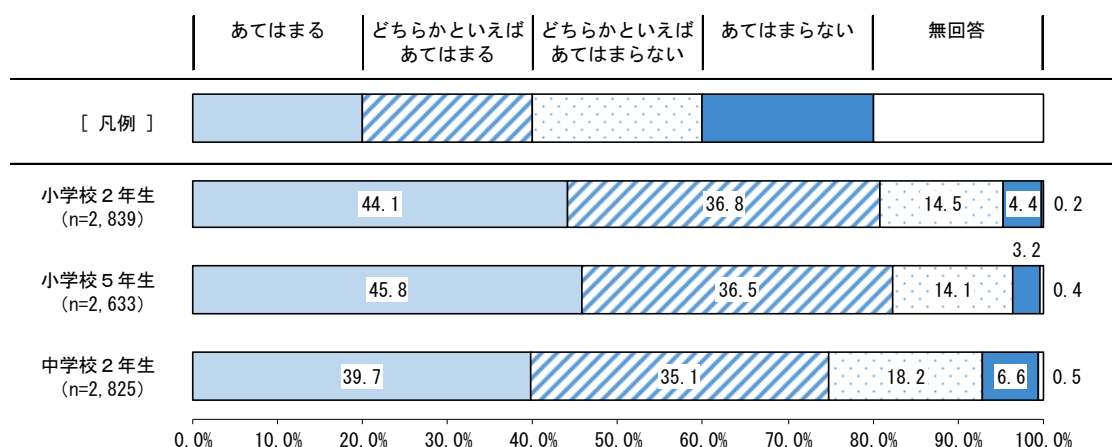
『お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる』では小学校2年生のいる世帯で「どちらかといえばあてはまる」が39.2%と最も高く、次いで「あてはまる」が37.8%、「どちらかといえばあてはまらない」が15.7%となっている。小学校5年生のいる世帯と中学校2年生のいる世帯では「あてはまる」（小学校5年生：40.3%、中学校2年生：41.4%）が最も高く、次いで「どちらかといえばあてはまる」（小学校5年生：36.3%、中学校2年生：34.3%）、「どちらかといえばあてはまらない」（小学校5年生：16.8%、中学校2年生：17.6%）となっている。

経年でみると、小学校2年生、小学校5年生のいる世帯では「あてはまる」が前回調査に比べて低くなっている。

<今回調査>【図表 3-298 (ウ) お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる】



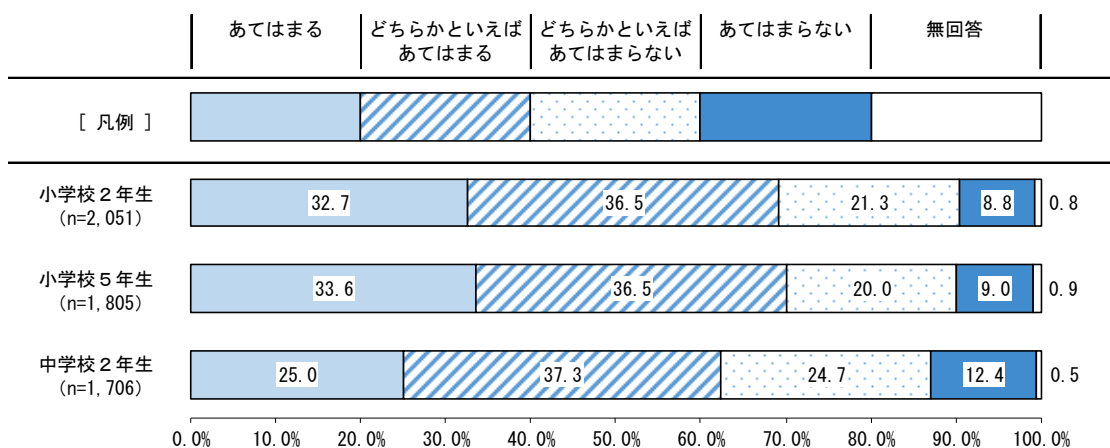
<前回調査>【図表 3-299 (ウ) お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる】



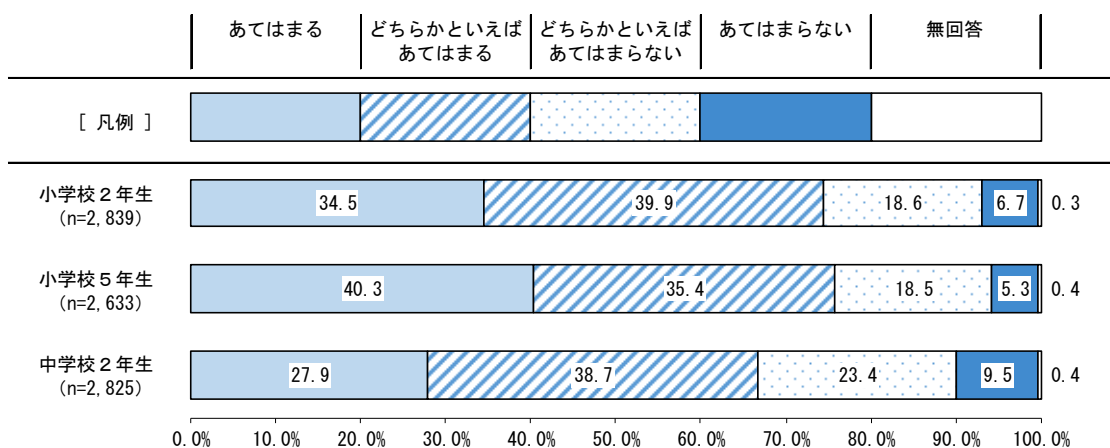
『お子さんに本や新聞を読むように勧めている』では、いずれの学年でも「どちらかといえばあてはまる」（小学校2年生：36.5%、小学校5年生：36.5%、中学校2年生：37.3%）が最も高く、次いで「あてはまる」（小学校2年生：32.7%、小学校5年生：33.6%、中学校2年生：25.0%）、「どちらかといえばあてはまらない」（小学校2年生：21.3%、小学校5年生：20.0%、中学校2年生：24.7%）となっている。

経年でみると、小学校5年生のいる世帯では「あてはまる」が前回調査に比べて低くなっている。

＜今回調査＞【図表 3-300 （エ）お子さんに本や新聞を読むように勧めている】



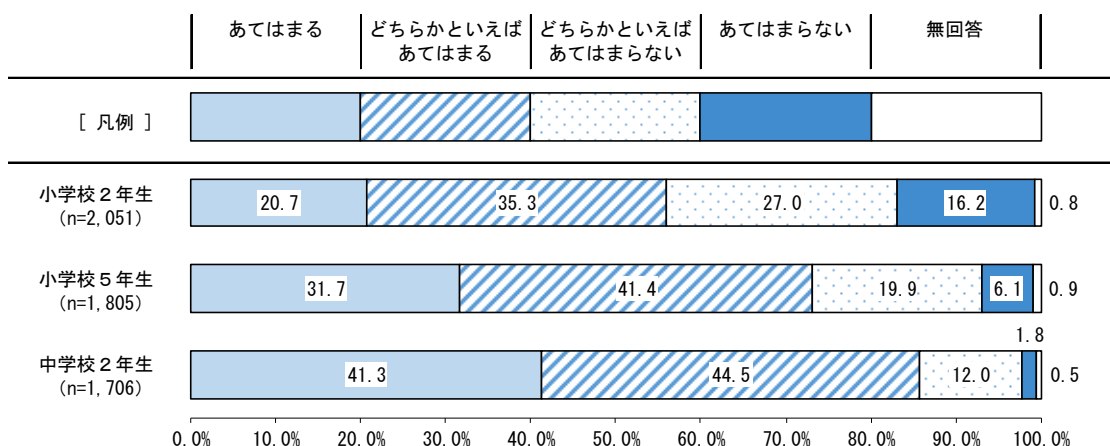
＜前回調査＞【図表 3-301 （エ）お子さんに本や新聞を読むように勧めている】



『進学先や将来の仕事のことについて話をしている』では、いずれの学年でも「どちらかといえばあてはまる」（小学校2年生：35.3%、小学校5年生：41.4%、中学校2年生：44.5%）が最も高く、次いで小学校2年生のいる世帯では「どちらかといえばあてはまらない」が27.0%、「あてはまる」が20.7%となっており、小学校5年生のいる世帯と中学校2年生のいる世帯では「あてはまる」（小学校5年生：31.7%、中学校2年生：41.3%）、「どちらかといえばあてはまる」（小学校5年生：19.9%、中学校2年生：12.0%）となっている。

なお、前回調査では設問がない。

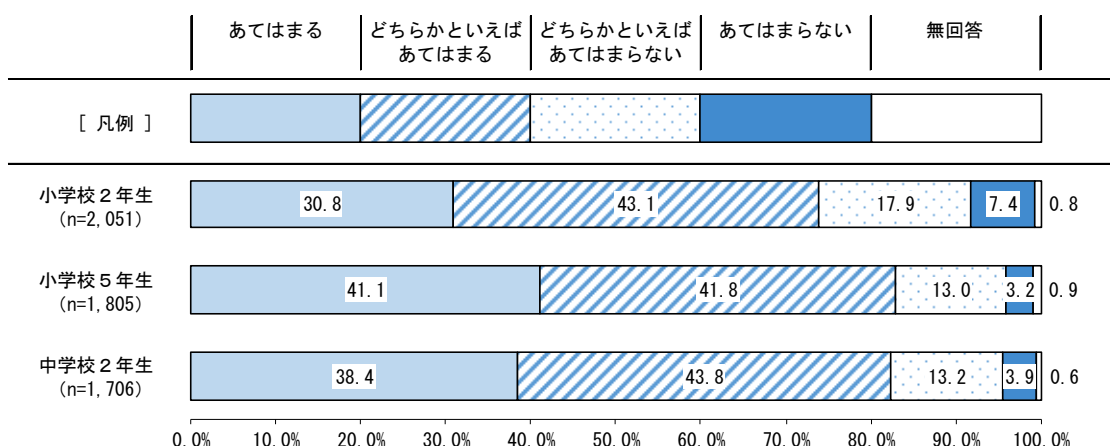
<今回調査>【図表 3-302 （オ）進学先や将来の仕事のことについて話をしている】



『お小遣いの使い方やお金のことについて話をしている』では、いずれの学年でも「どちらかといえばあてはまる」（小学校2年生：43.1%、小学校5年生：41.8%、中学校2年生：43.8%）が最も高く、次いで「あてはまる」（小学校2年生：30.8%、小学校5年生：41.1%、中学校2年生：38.4%）、「どちらかといえばあてはまらない」（小学校2年生：17.9%、小学校5年生：13.0%、中学校2年生：13.2%）となっている。

なお、前回調査では設問がない。

<今回調査>【図表 3-303 （カ）お小遣いの使い方やお金のことについて話をしている】

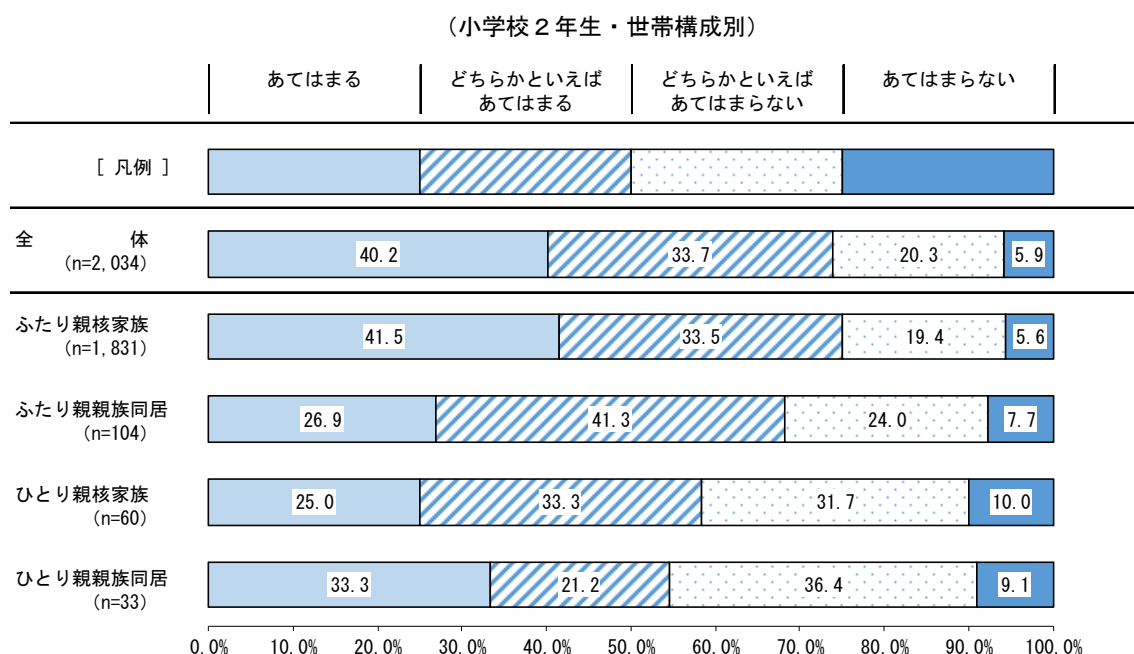


小学校2年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『お子さんが小さいころ（小学校2年生まで）、絵本の読み聞かせをしていた』を世帯構成別にみると、「どちらかといえばあてはまる」は『ふたり親親族同居』が41.3%と全体に比べて高くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『ひとり親核家族』が31.7%と全体に比べて高くなっている。

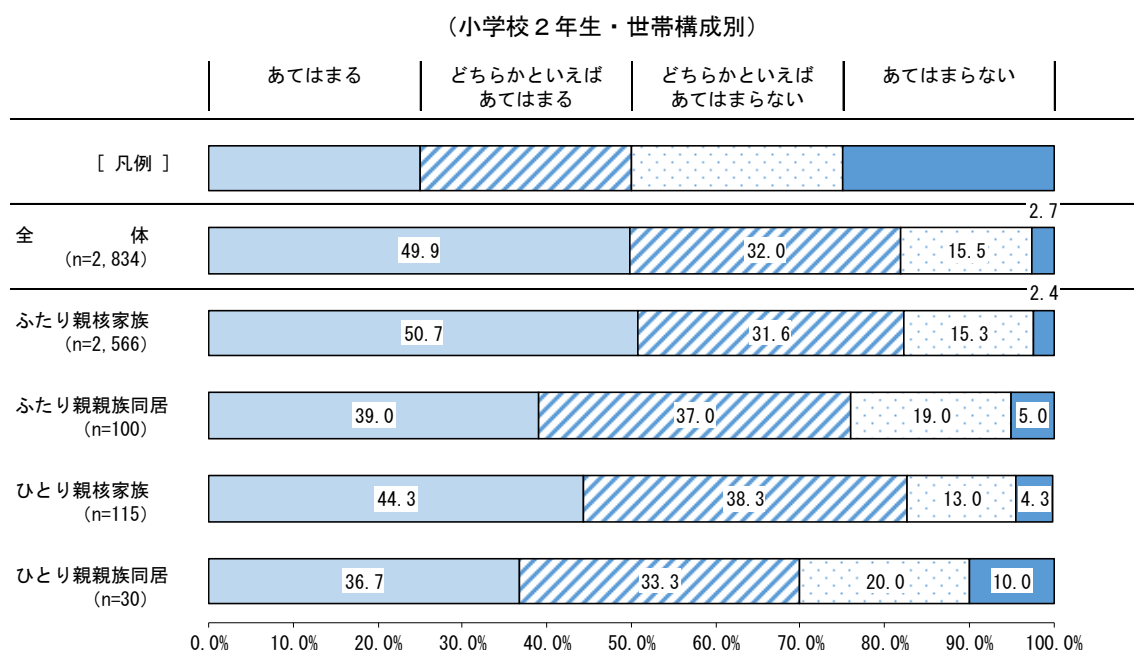
経年でみると、「あてはまる」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまる」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高く、「あてはまらない」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-304 (ア) お子さんが小さいころ（小学校2年生まで）、絵本の読み聞かせをしていた】



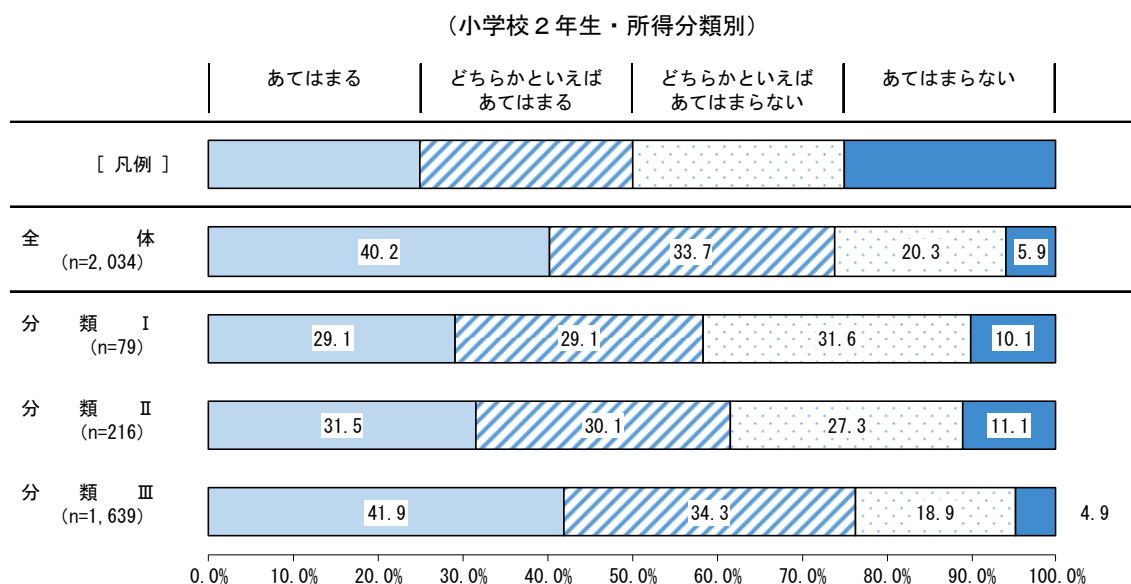
<前回調査>【図表 3-305 (ア) お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた】



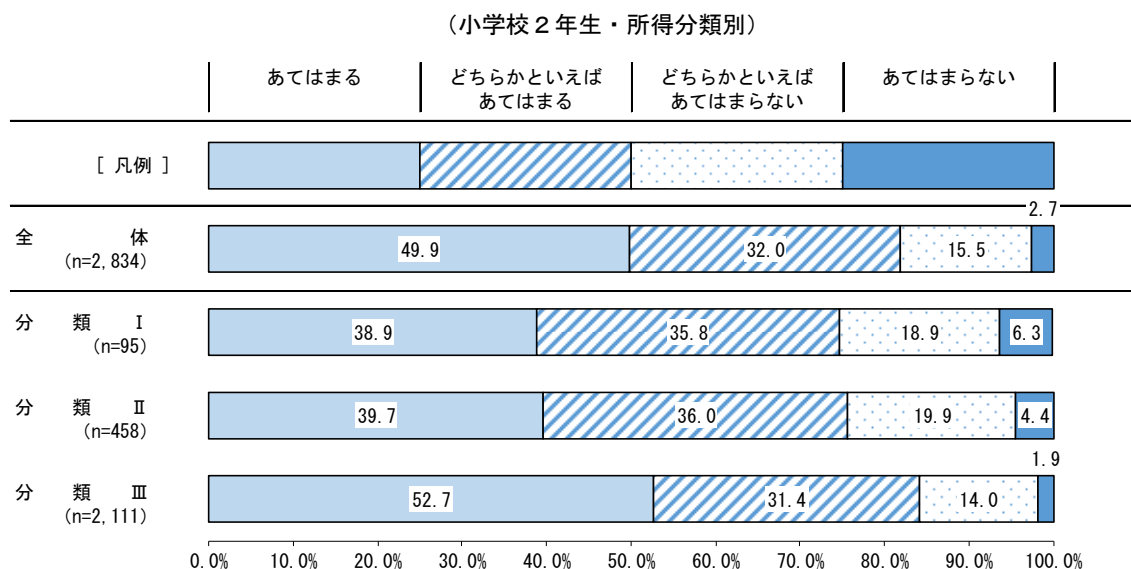
所得分類別にみると、「あてはまる」は『分類Ⅰ』が29.1%、『分類Ⅱ』が31.5%と全体に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『分類Ⅰ』が31.6%、『分類Ⅱ』が27.3%と全体に比べて高く、「あてはまらない」は『分類Ⅱ』が11.1%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「あてはまる」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高く、「あてはまらない」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-306 (ア) お子さんが小さいころ（小学校2年生まで）、絵本の読み聞かせをしていた】



<前回調査>【図表 3-307 (ア) お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた】



※ページ調整のため余白

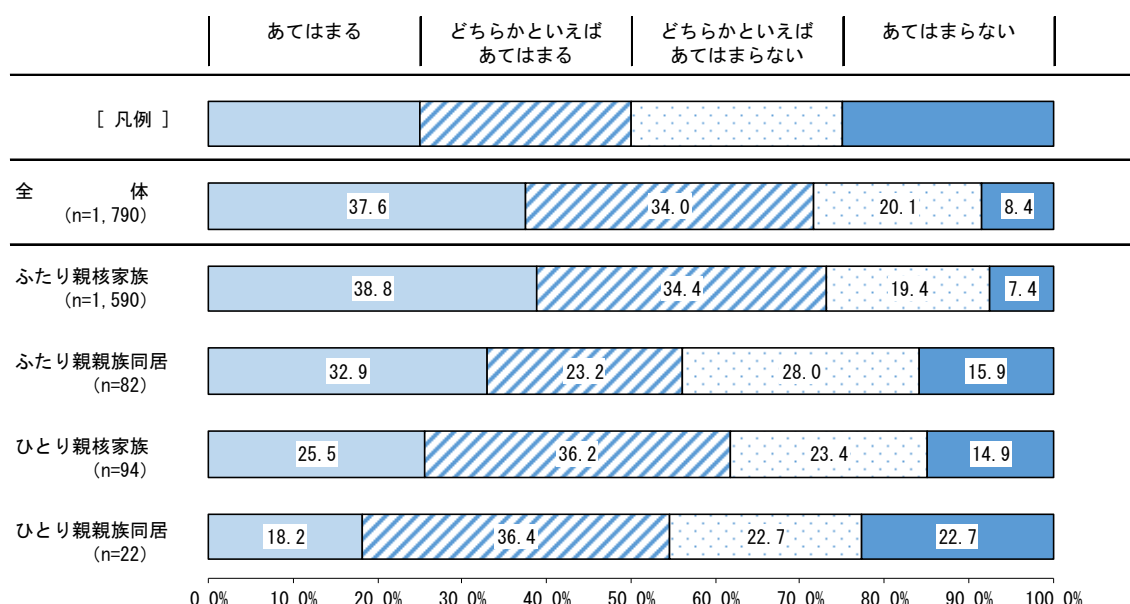
小学校5年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『お子さんが小さいころ（小学校2年生まで）、絵本の読み聞かせをしていた』を世帯構成別にみると、「あてはまる」は『ひとり親核家族』が25.5%と全体に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『ふたり親親族同居』が23.2%と、全体に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『ふたり親親族同居』が28.0%と全体に比べて高く、「あてはまらない」は『ふたり親親族同居』が15.9%、『ひとり親核家族』が14.9%と、全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「あてはまる」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高く、「あてはまらない」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

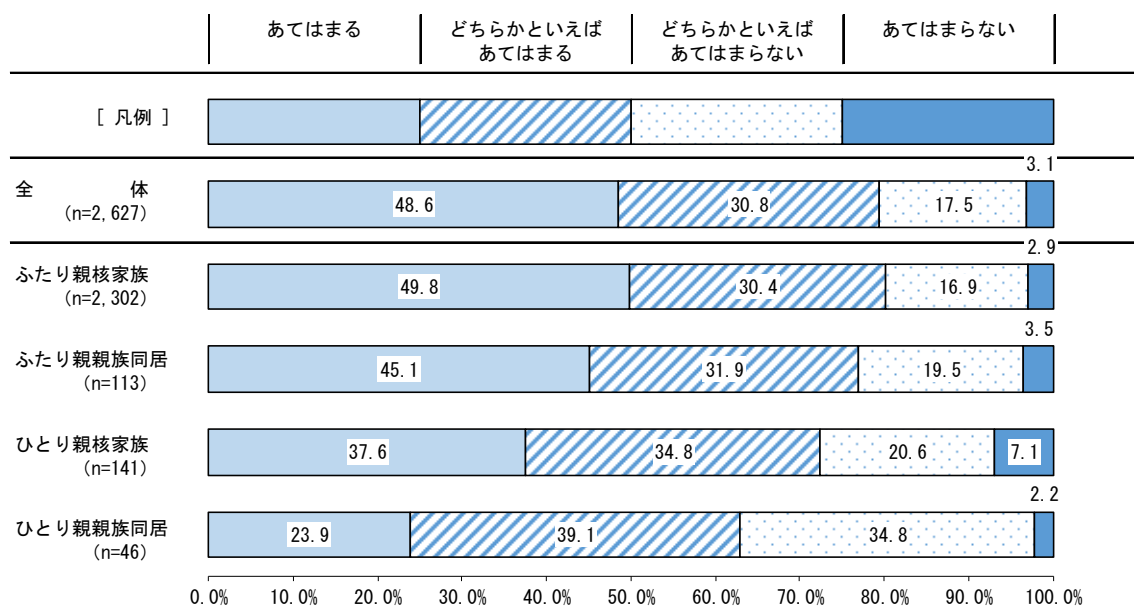
<今回調査>【図表 3-308 (ア) お子さんが小さいころ（小学校2年生まで）、絵本の読み聞かせをしていた】

(小学校5年生・世帯構成別)



＜前回調査＞【図表 3-309 (ア) お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた】

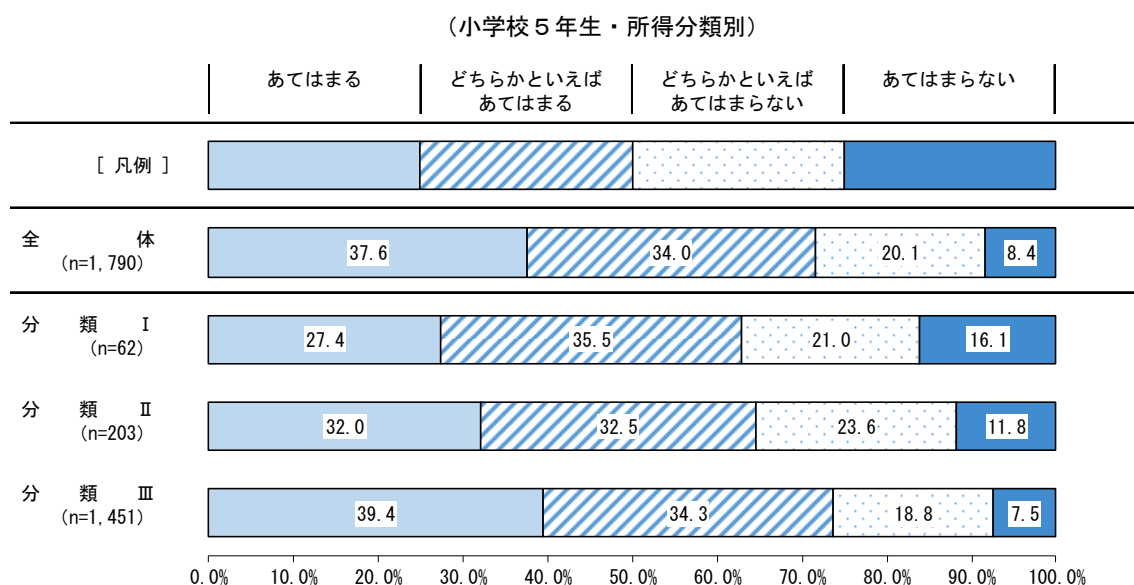
(小学校5年生・世帯構成別)



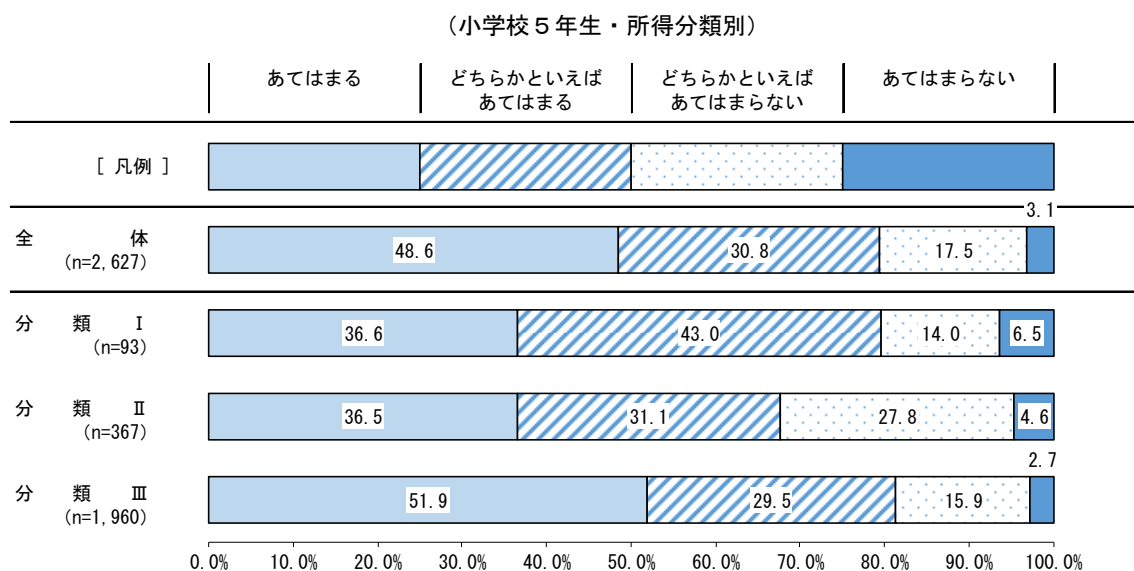
所得分類別にみると、「あてはまる」は『分類Ⅰ』が27.4%、『分類Ⅱ』が32.0%と全体に比べて低くなっている。「あてはまらない」は、『分類Ⅰ』が16.1%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「あてはまる」は『分類Ⅰ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。「あてはまらない」は『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-310 (ア) お子さんが小さいころ（小学校2年生まで）、絵本の読み聞かせをしていた】



<前回調査>【図表 3-311 (ア) お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた】

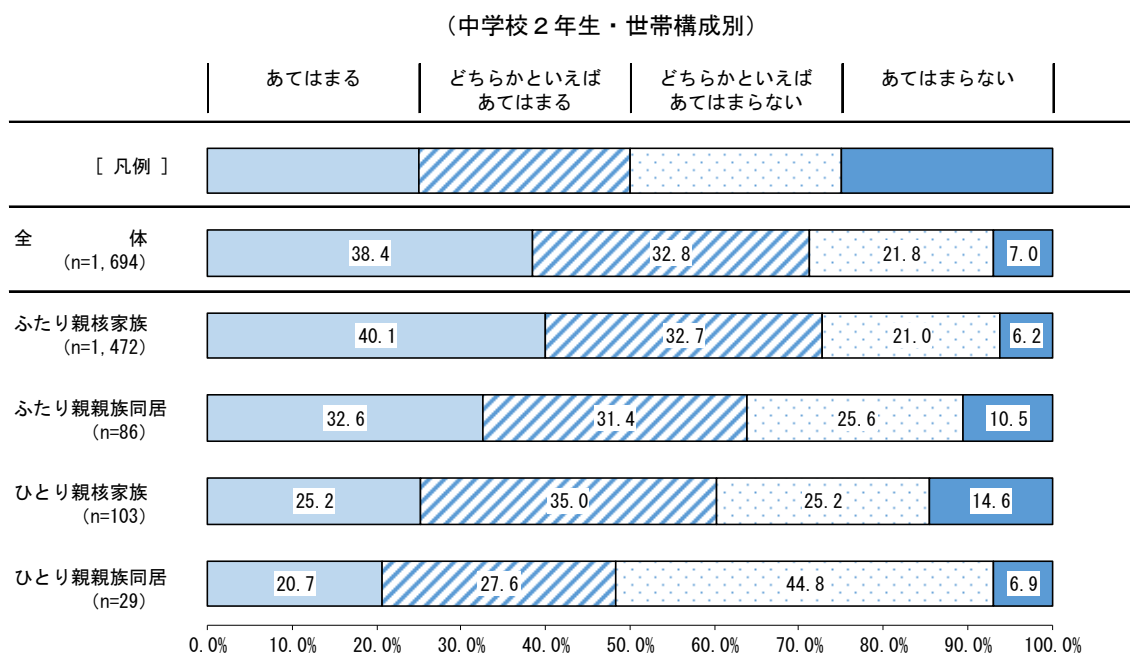


中学校2年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『お子さんが小さいころ（小学校2年生まで）、絵本の読み聞かせをしていた』を世帯構成別にみると、「あてはまる」は『ふたり親親族同居』が32.6%、『ひとり親核家族』が25.2%と全体に比べて低く、「あてはまらない」は『ひとり親核家族』が14.6%と全体に比べて高くなっている。

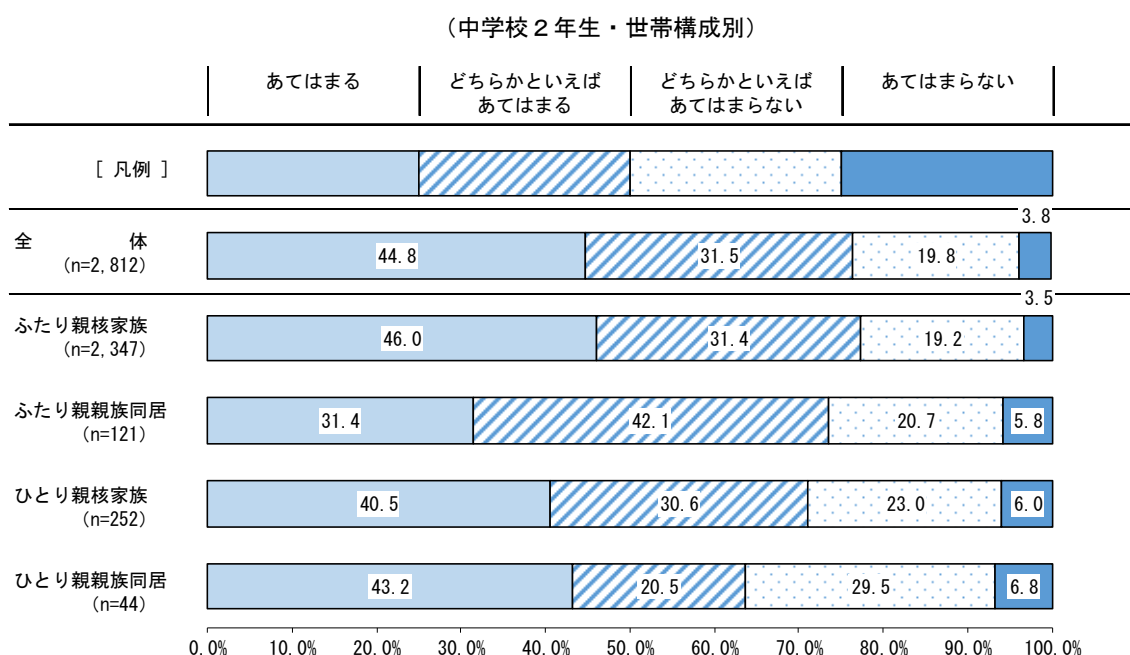
経年でみると、「あてはまる」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。「あてはまらない」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-312 (ア) お子さんが小さいころ（小学校2年生まで）、絵本の読み聞かせをしていた】



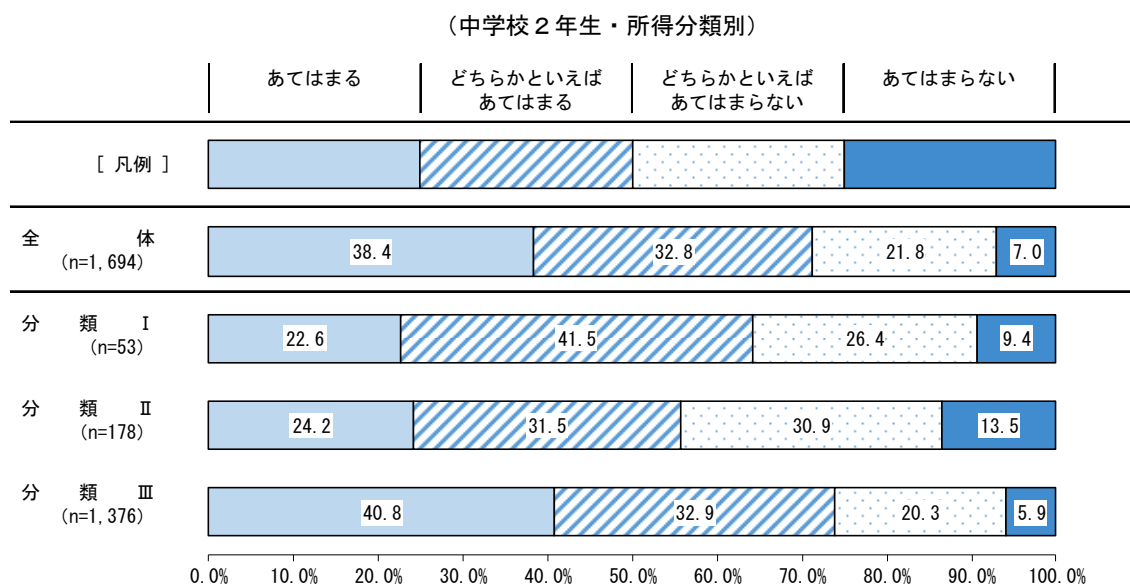
<前回調査>【図表 3-313 (ア) お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた】



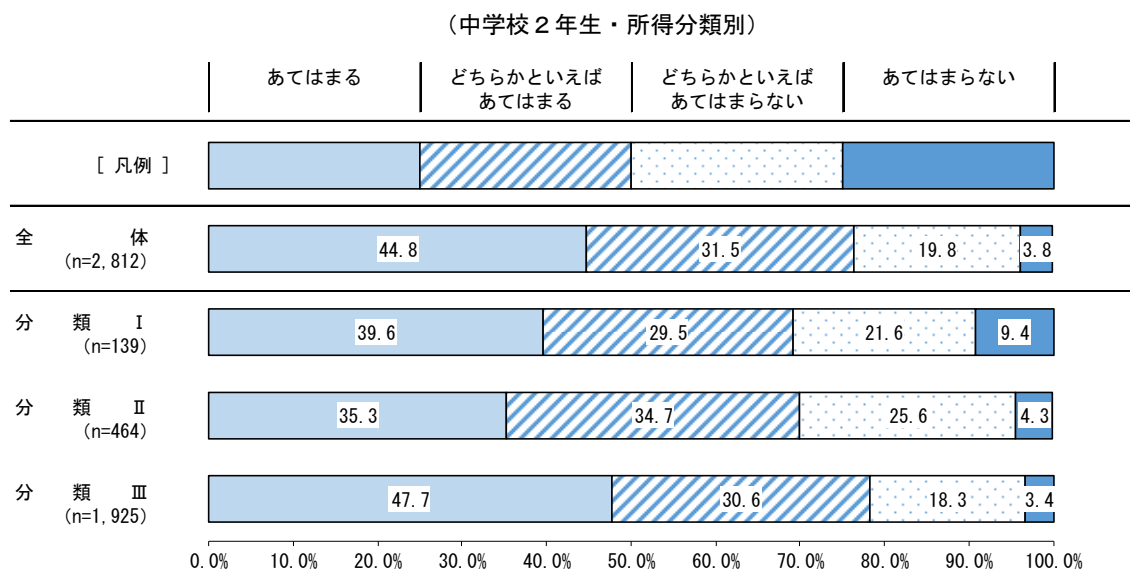
所得分類別にみると、「あてはまる」は『分類Ⅰ』が22.6%、『分類Ⅱ』が24.2%と全体に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまる」は『分類Ⅰ』が41.5%と全体に比べて高くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『分類Ⅱ』が30.9%と全体に比べて高く、「あてはまらない」は『分類Ⅱ』が13.5%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「あてはまる」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高く、「あてはまらない」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-314 (ア) お子さんが小さいころ（小学校2年生まで）、絵本の読み聞かせをしていた】



<前回調査>【図表 3-315 (ア) お子さんが小さいころ（小学校2年生まで）、絵本の読み聞かせをしていた】



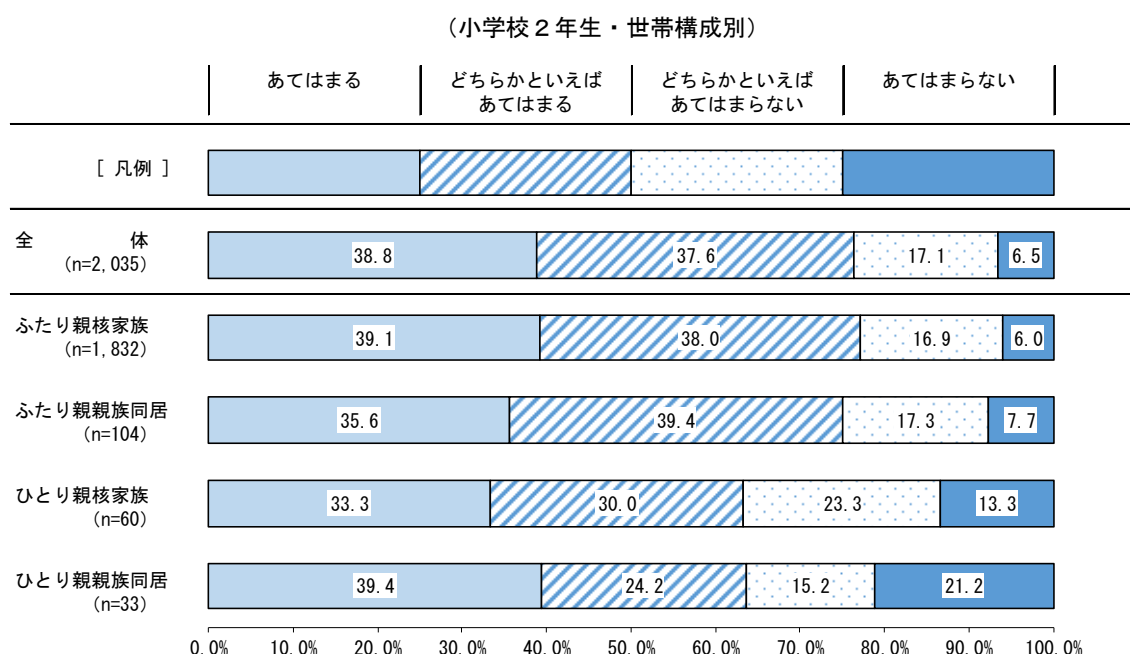
※ページ調整のため余白

小学校2年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている』を世帯構成別にみると、「あてはまる」は『ひとり親核家族』が33.3%と全体に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『ひとり親核家族』が30.0%と全体に比べて低く、「どちらかといえばあてはまらない」は『ひとり親核家族』が23.3%と全体に比べて高く、「あてはまらない」は『ひとり親核家族』が13.3%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「あてはまる」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高く、「あてはまらない」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

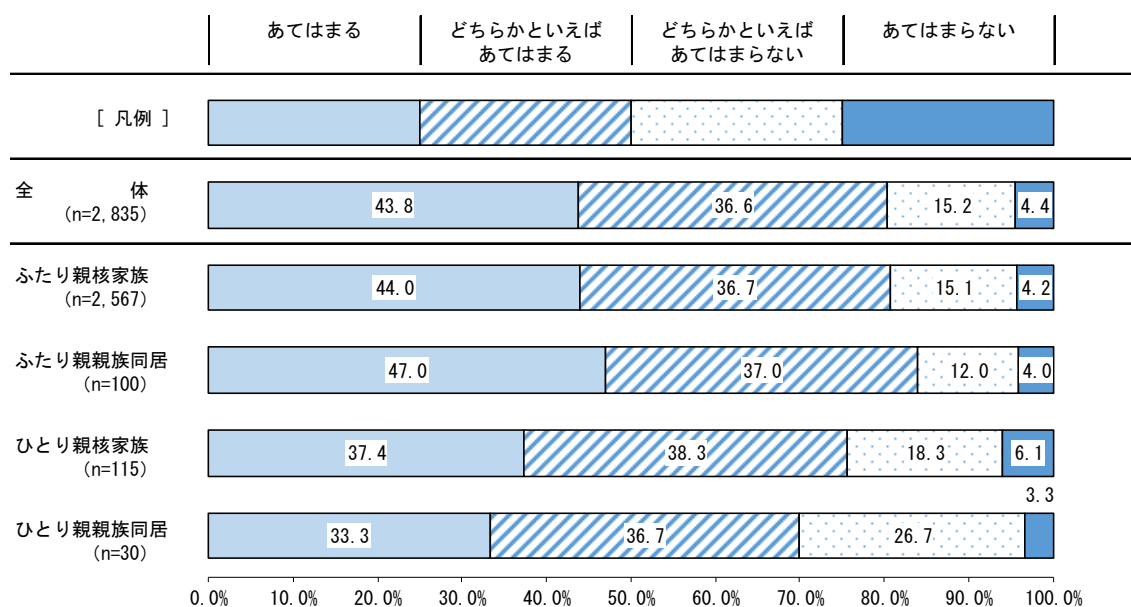
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-316 (イ) テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている】



<前回調査>【図表 3-317 (イ) テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている】

(小学校2年生・世帯構成別)

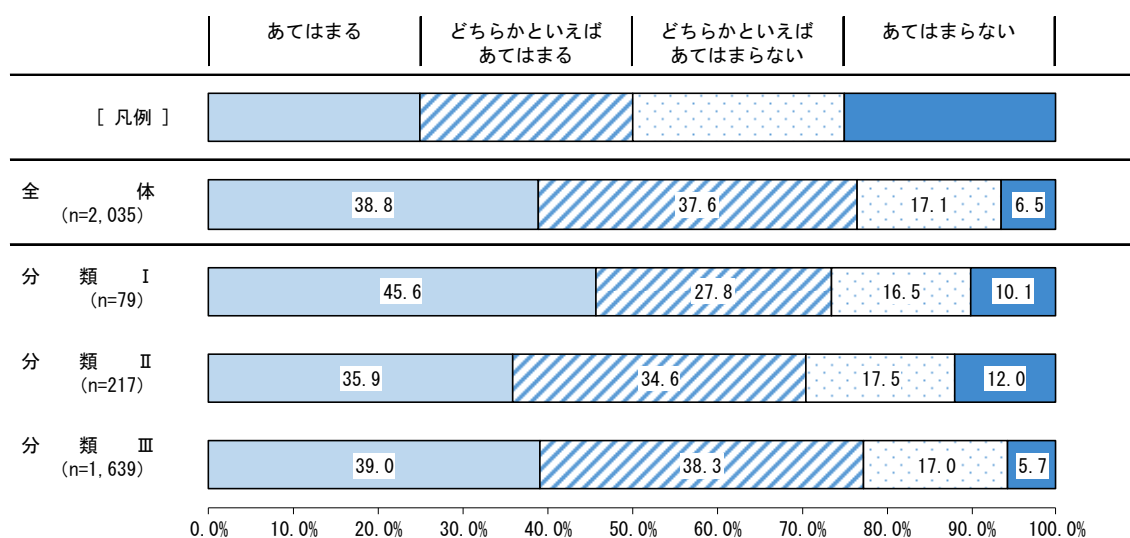


所得分類別にみると、「あてはまる」は『分類Ⅰ』が45.6%と全体に比べて高く、「どちらかといえばあてはまる」は『分類Ⅰ』が27.8%と全体に比べて低くなっている。「あてはまらない」は『分類Ⅱ』が12.0%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「あてはまる」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高く、『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低くなっている。「あてはまらない」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

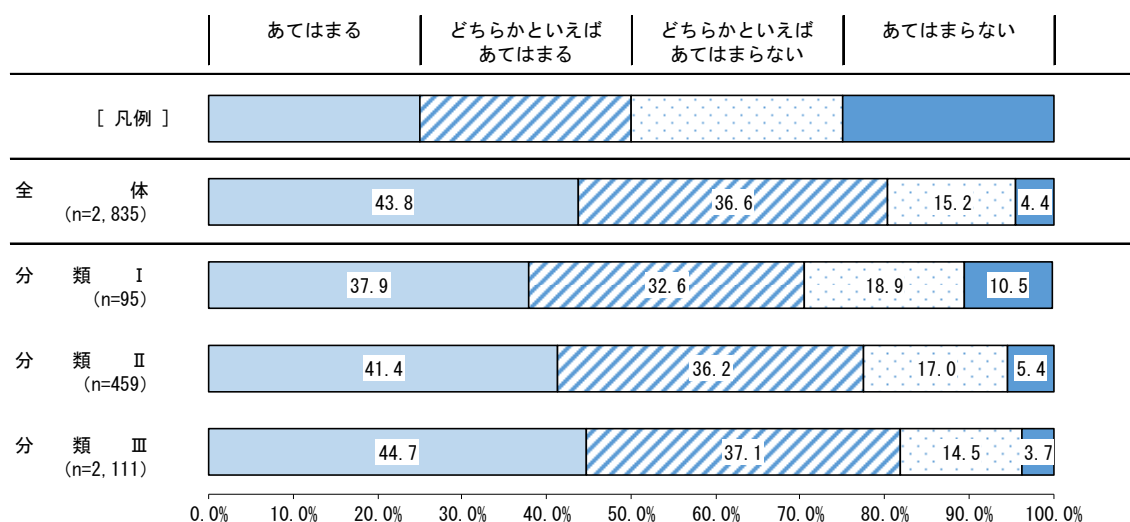
<今回調査>【図表 3-318 (イ) テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている】

(小学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-319 (イ) テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている】

(小学校2年生・所得分類別)



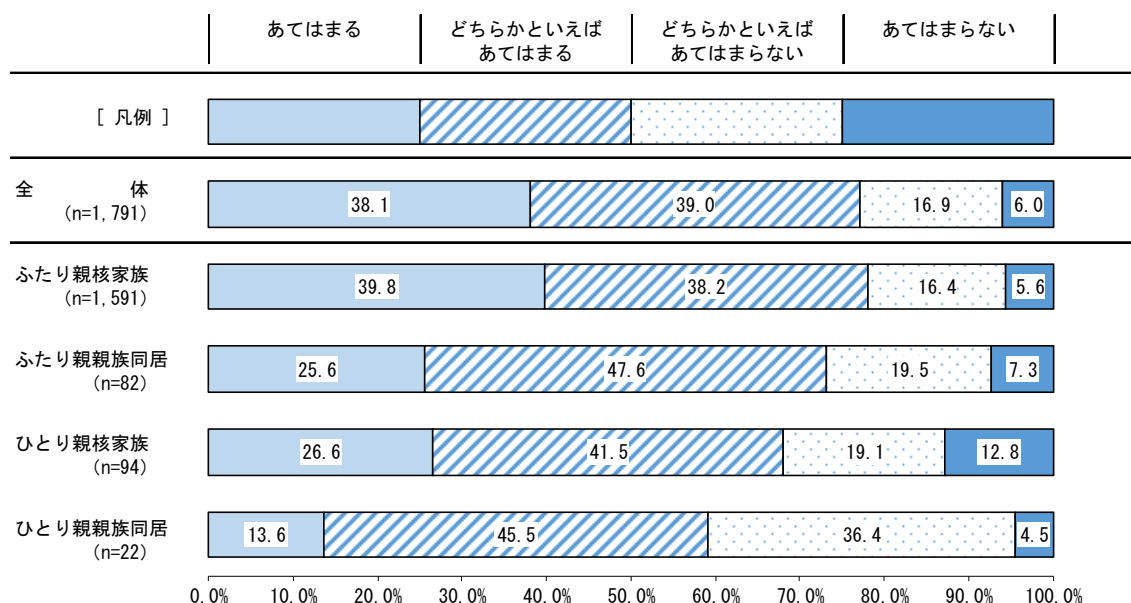
小学校5年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている』を世帯構成別にみると、「あてはまる」は『ふたり親親族同居』が25.6%、『ひとり親核家族』が26.6%と全体に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまる」は『ふたり親親族同居』が47.6%と全体に比べて高く、「あてはまらない」は『ひとり親核家族』が12.8%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「あてはまる」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまる」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高く、「あてはまらない」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

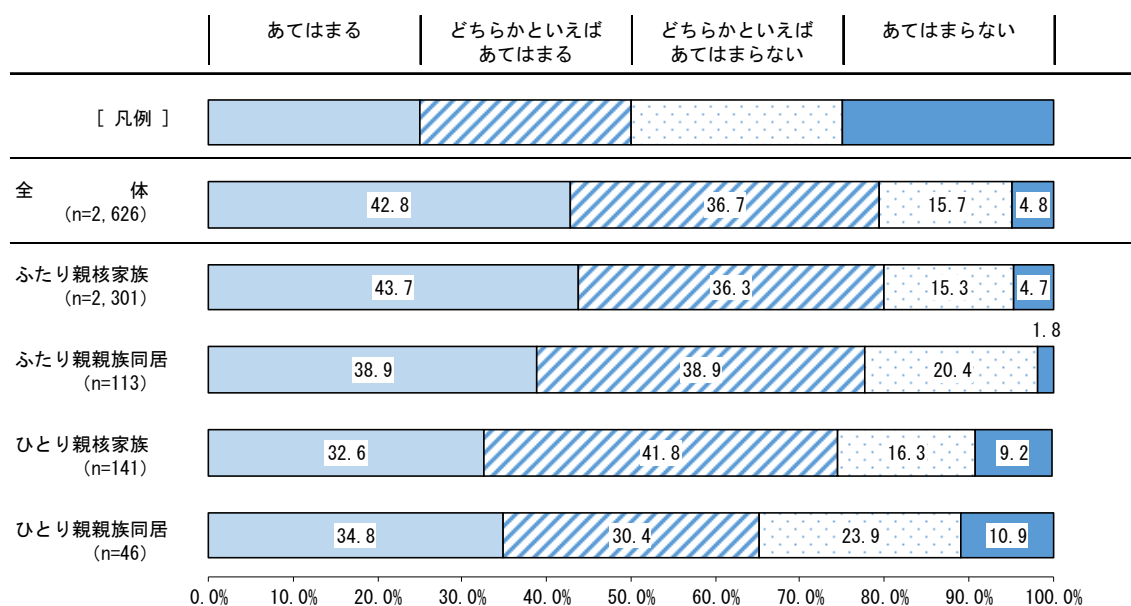
<今回調査>【図表 3-320 (イ) テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている】

(小学校5年生・世帯構成別)



<前回調査>【図表 3-321 (イ) テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている】

(小学校5年生・世帯構成別)

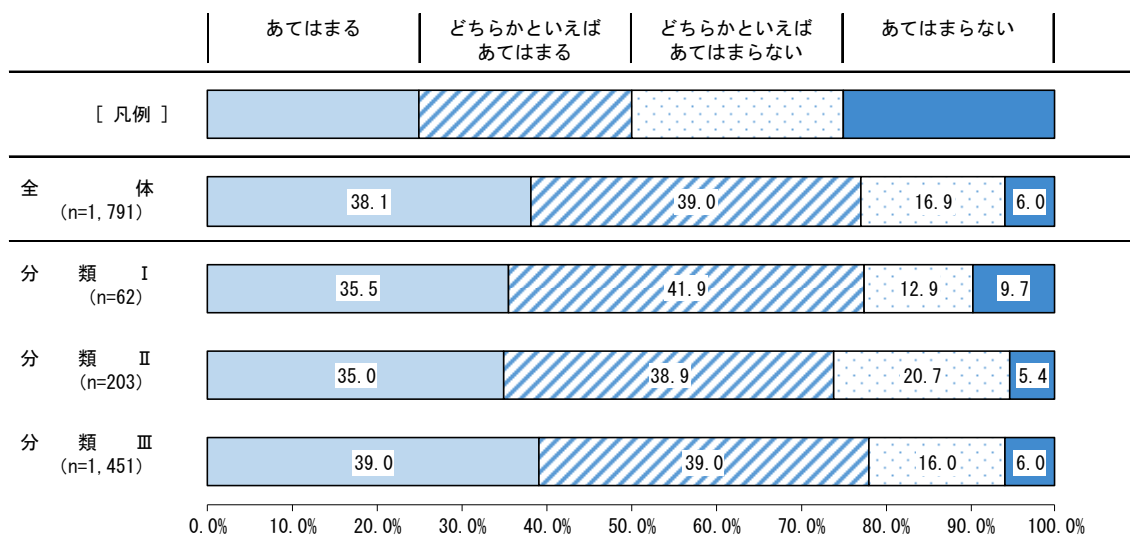


所得分類別にみると、大きな差はみられない。

経年でみると、「あてはまる」は『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低く、「どちらかといえばあてはまらない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

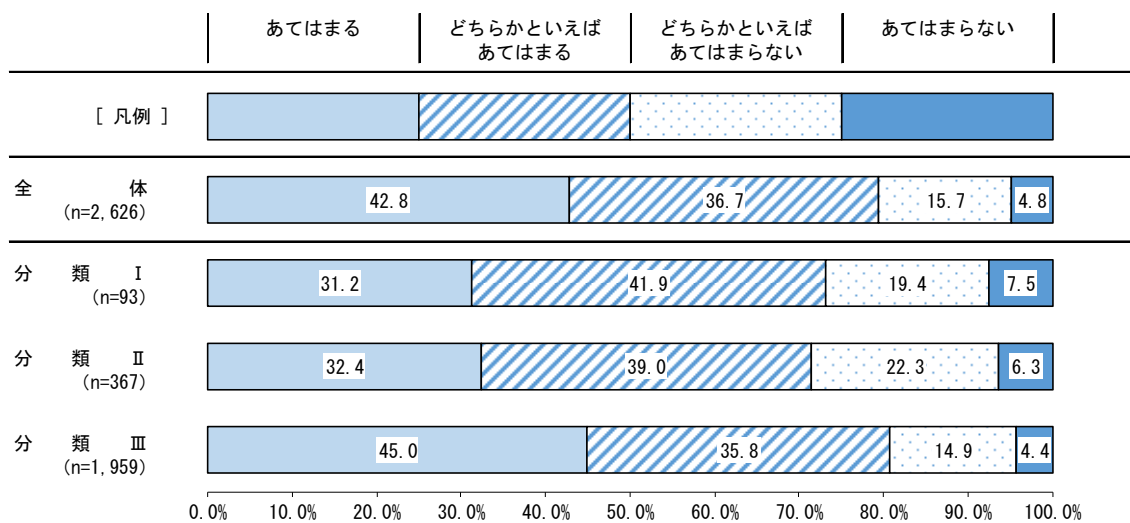
<今回調査>【図表 3-322 (イ) テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている】

(小学校5年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-323 (イ) テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている】

(小学校5年生・所得分類別)

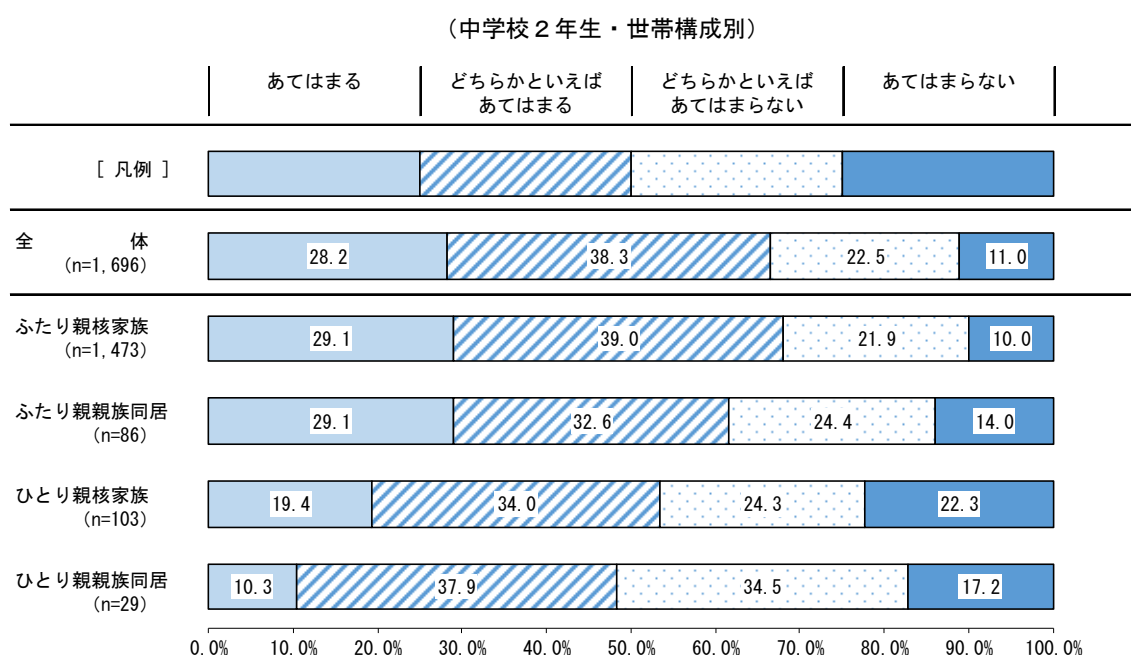


中学校2年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている』を世帯構成別にみると、「あてはまる」は『ひとり親核家族』が19.4%と全体に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『ふたり親親族同居』が32.6%と全体に比べて低くなっている。「あてはまらない」は『ひとり親核家族』が22.3%と全体に比べて高くなっている。

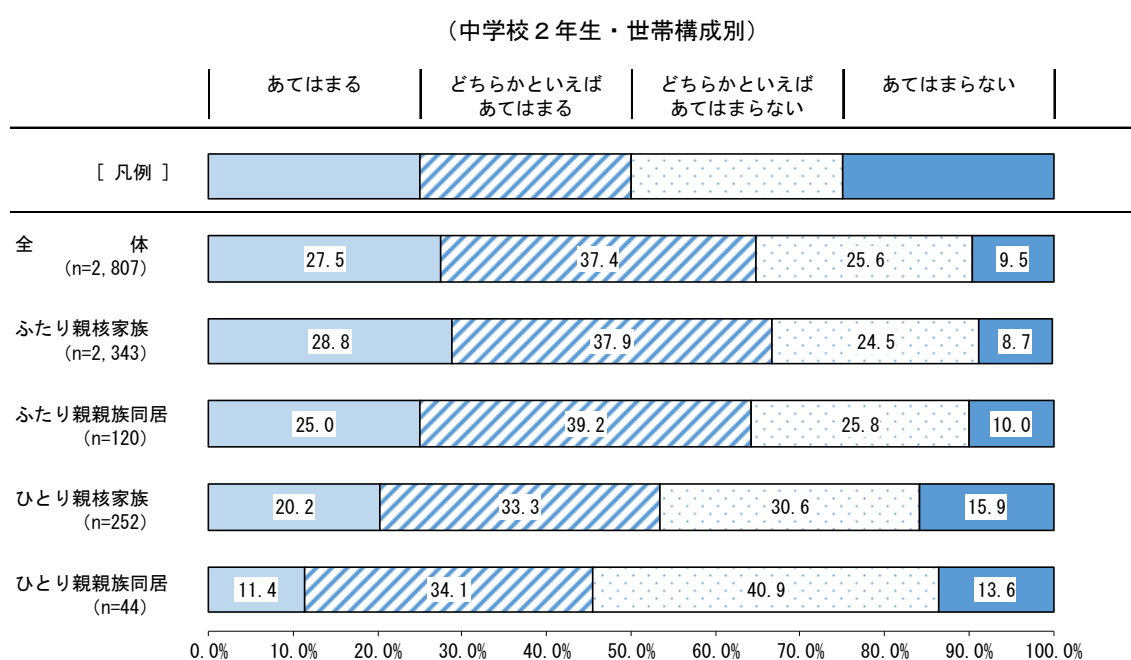
経年でみると、「どちらかといえばあてはまる」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、「どちらかといえばあてはまらない」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「あてはまらない」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-324 (イ) テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている】



<前回調査>【図表 3-325 (イ) テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている】

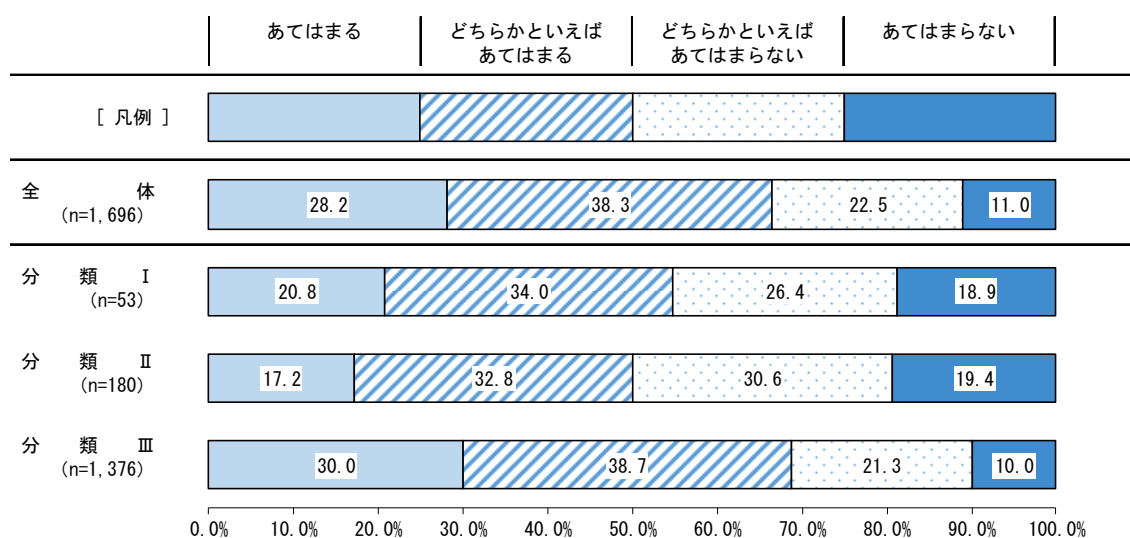


所得分類別にみると、「あてはまる」は『分類Ⅰ』が20.8%、『分類Ⅱ』が17.2%と全体に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『分類Ⅱ』が32.8%と全体に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『分類Ⅱ』が30.6%と全体に比べて高く、「あてはまらない」は『分類Ⅰ』が18.9%、『分類Ⅱ』が19.4%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「どちらかといえばあてはまる」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。「あてはまらない」は『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

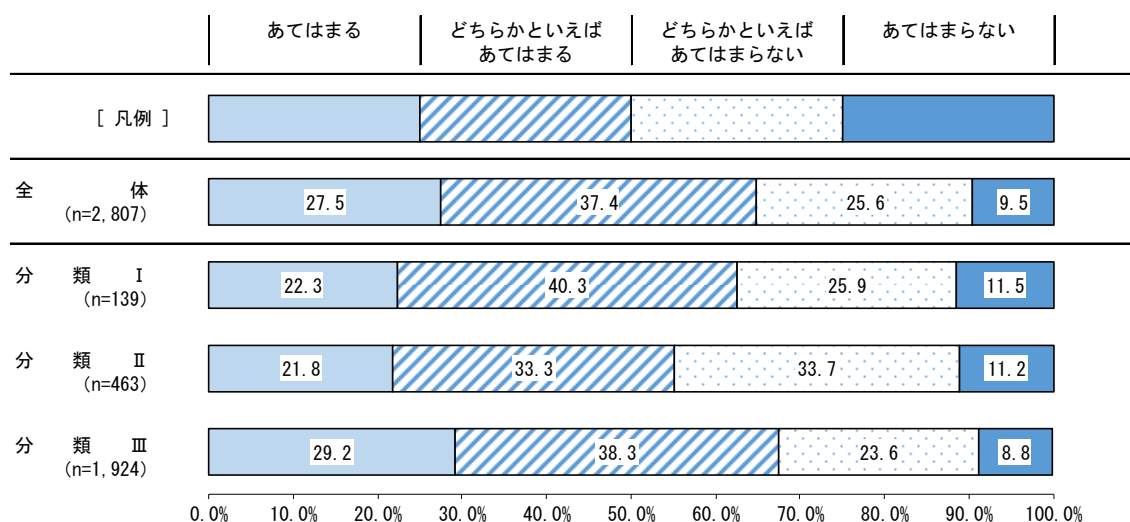
<今回調査>【図表 3-326 (イ) テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている】

(中学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-327 (イ) テレビやゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている】

(中学校2年生・所得分類別)



※ページ調整のため余白

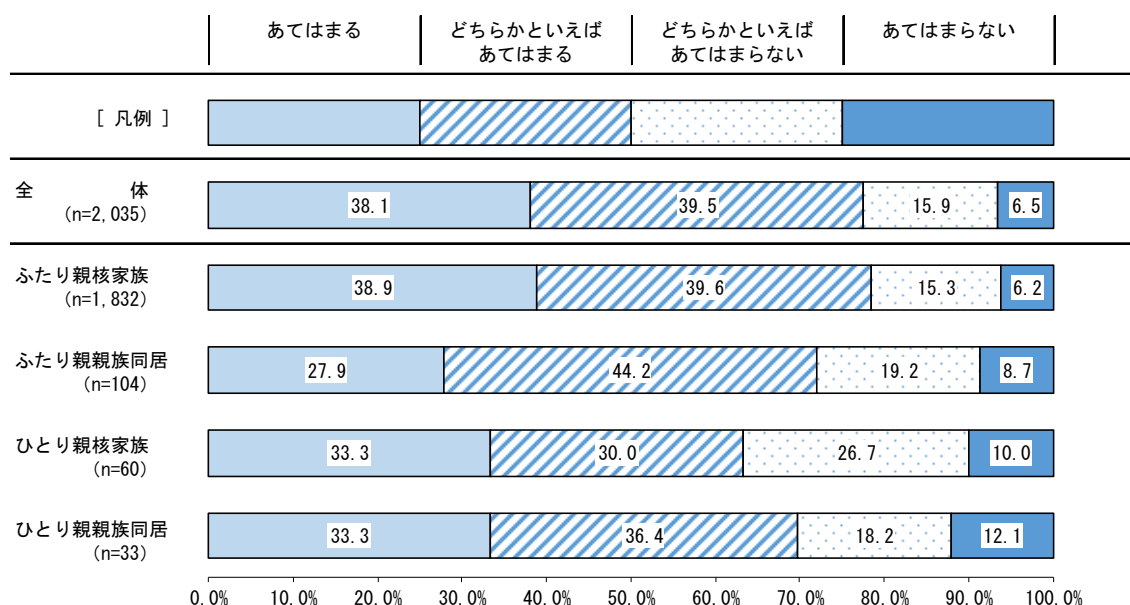
小学校2年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる』を世帯構成別にみると、「あてはまる」は『ふたり親親族同居』が27.9%と全体に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『ひとり親核家族』が30.0%と全体に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『ひとり親核家族』が26.7%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「あてはまる」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が、「どちらかといえばあてはまる」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

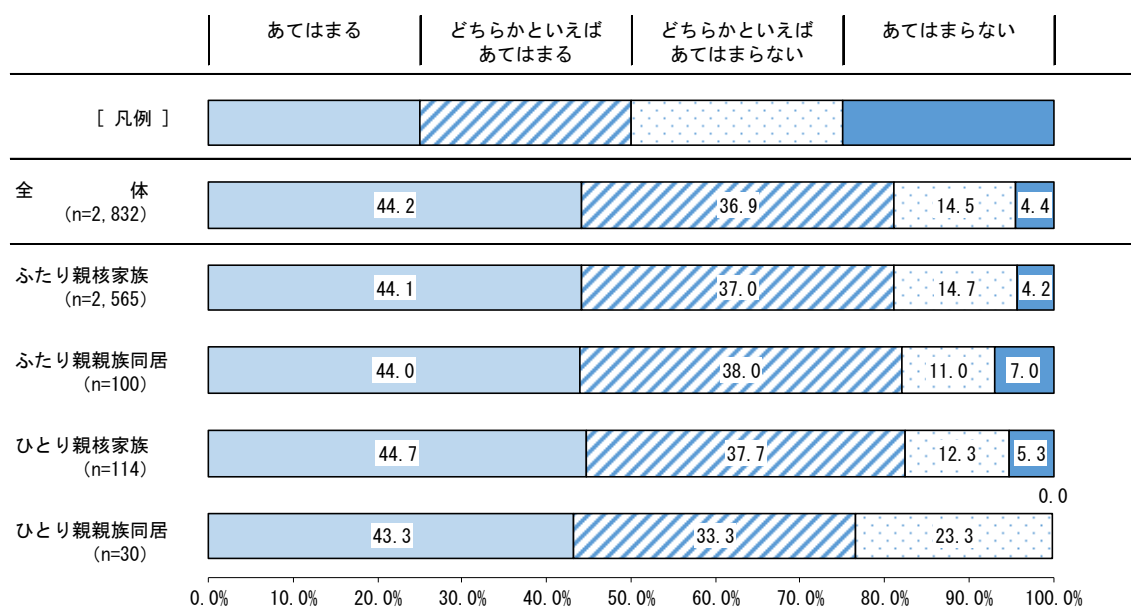
<今回調査>【図表 3-328 (ウ) お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる】

(小学校2年生・世帯構成別)



<前回調査>【図表 3-329 (ウ) お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる】

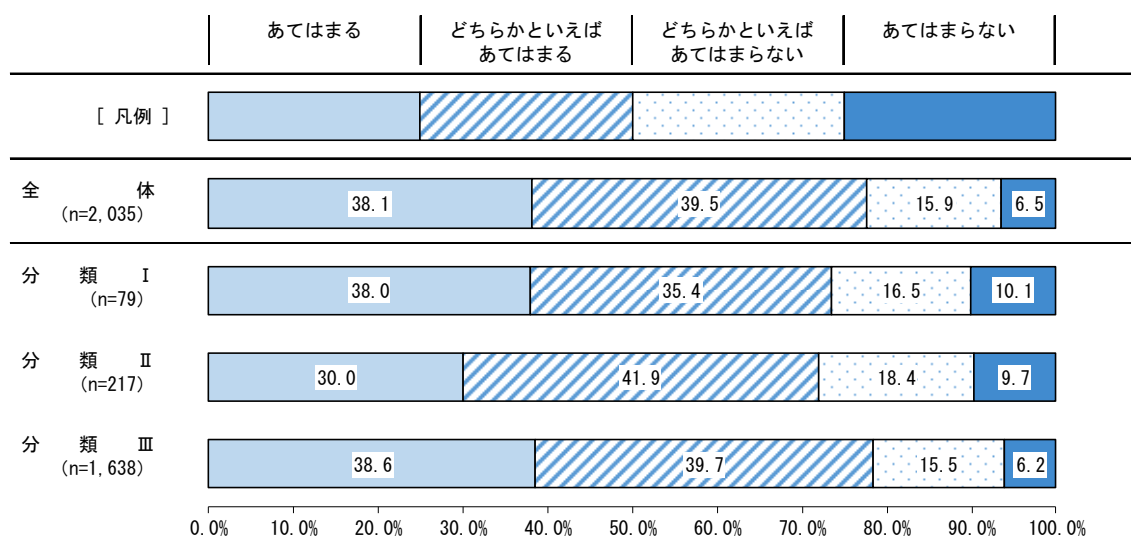
(小学校2年生・世帯構成別)



所得分類別にみると、「あてはまる」は『分類Ⅱ』が 30.0%と全体に比べて低くなっている。
経年でみると、「あてはまる」は『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低くなっている。

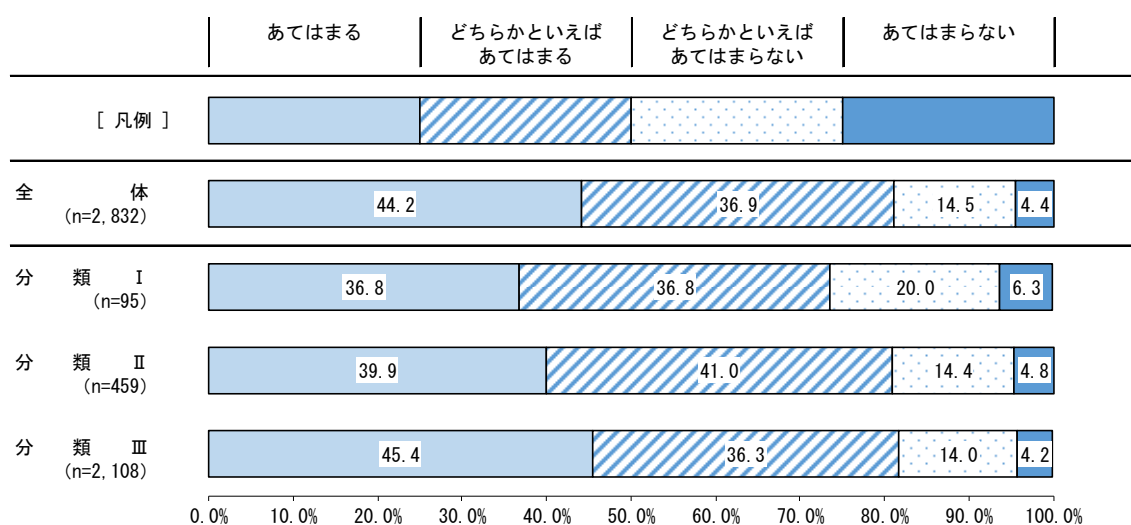
<今回調査>【図表 3-330 (ウ) お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる】

(小学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-331 (ウ) お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる】

(小学校2年生・所得分類別)

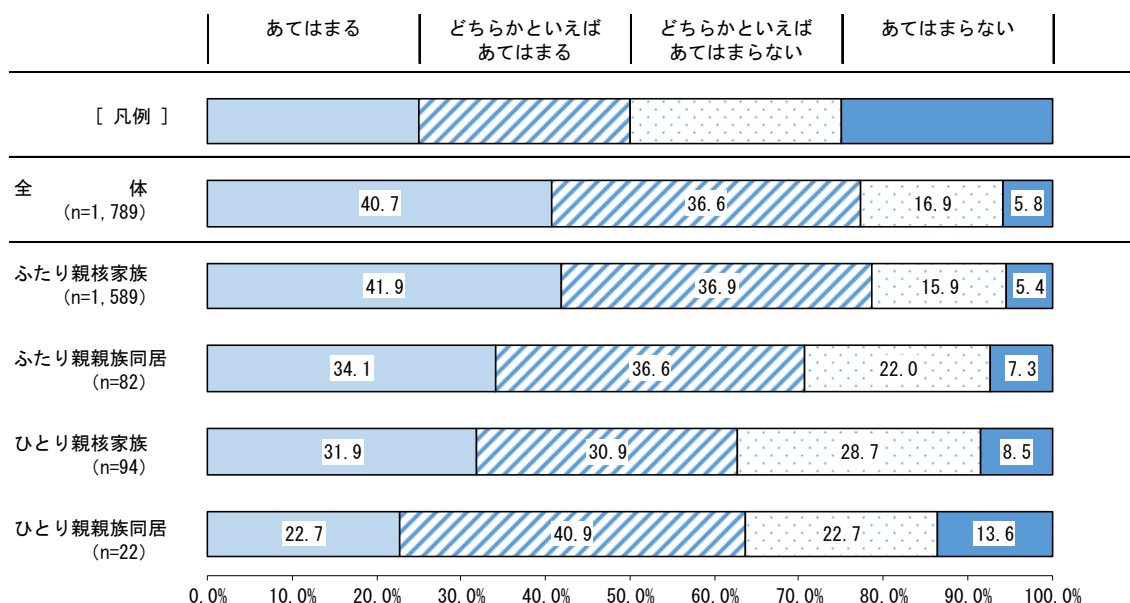


小学校5年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる』を世帯構成別にみると、「あてはまる」は『ふたり親親族同居』が34.1%、『ひとり親核家族』が31.9%と全体に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『ひとり親核家族』が30.9%と全体に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『ふたり親親族同居』が22.0%、『ひとり親核家族』が28.7%と全体に比べて高くなっている。

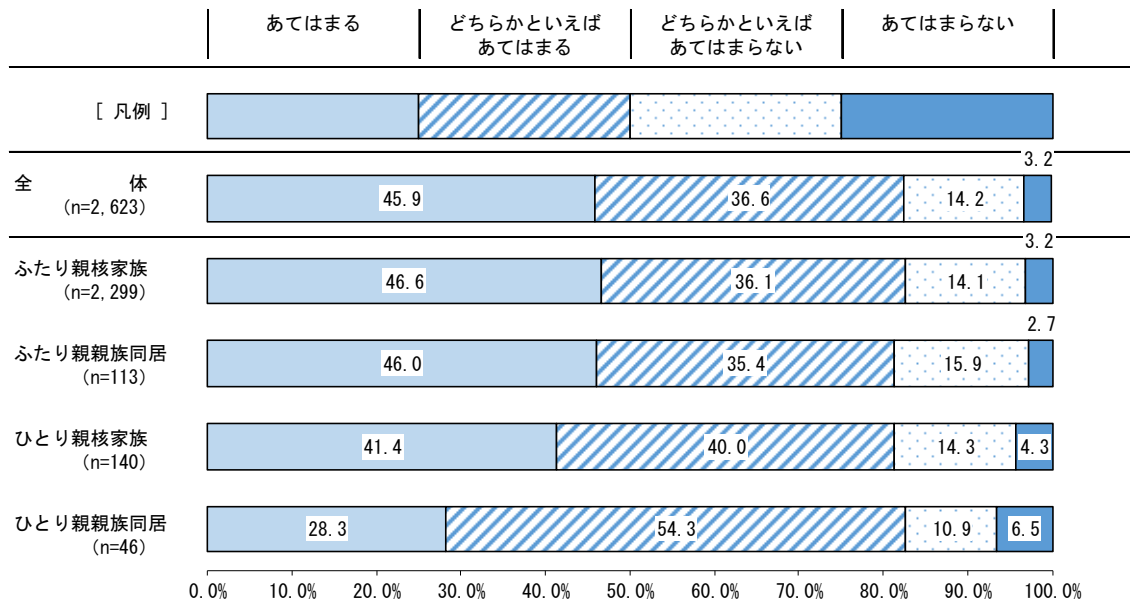
経年でみると、「あてはまる」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-332 (ウ) お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる】
(小学校5年生・世帯構成別)



＜前回調査＞【図表 3-333 (ウ) お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる】
(小学校5年生・世帯構成別)

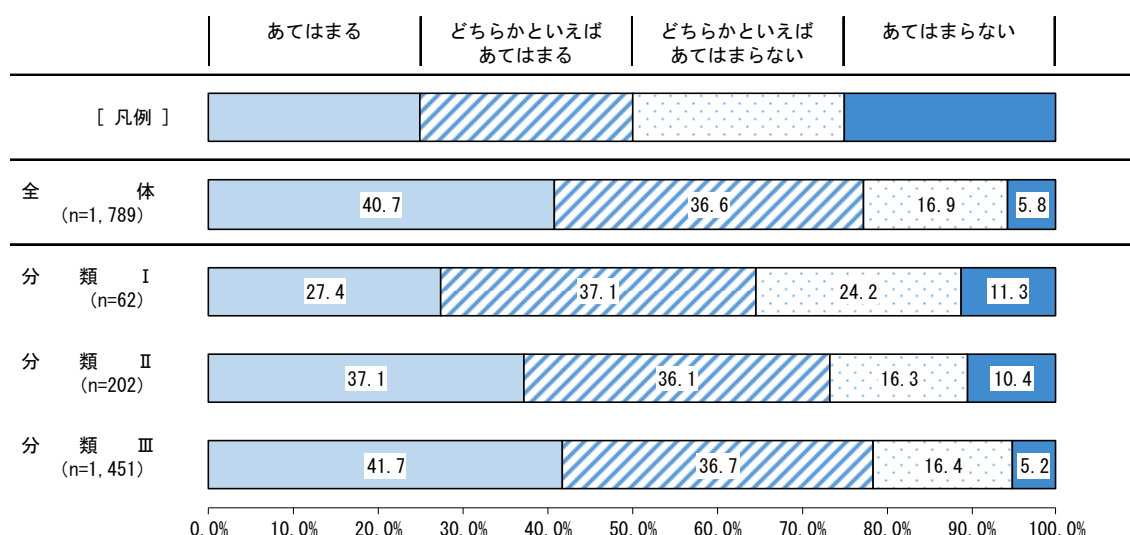


所得分類別にみると、「あてはまる」は『分類Ⅰ』が 27.4%と全体に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『分類Ⅰ』が 24.2%と全体に比べて高く、「あてはまらない」は『分類Ⅰ』が 11.3%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「あてはまる」は『分類Ⅰ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高く、「あてはまらない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

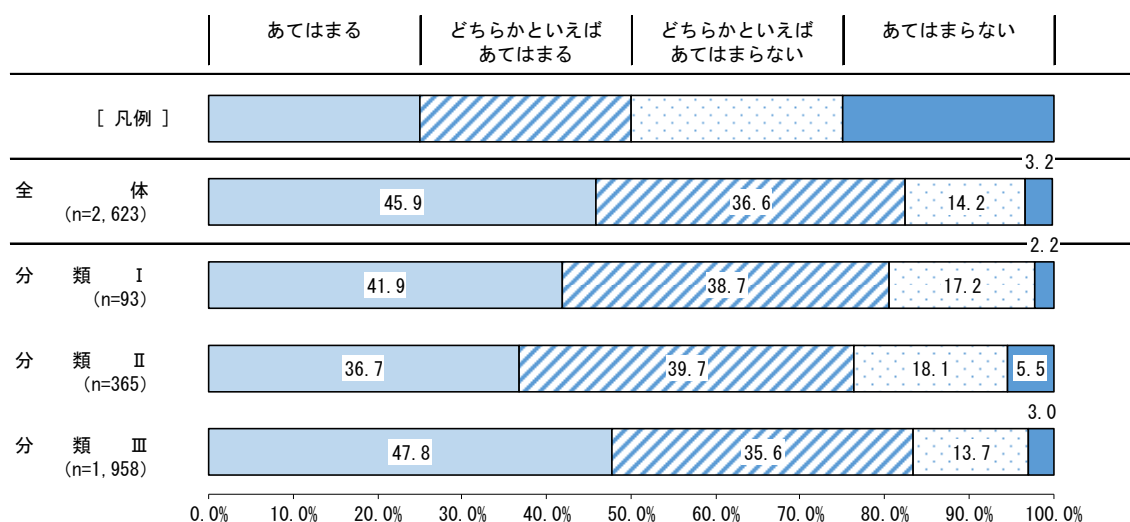
<今回調査>【図表 3-334 (ウ) お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる】

(小学校5年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-335 (ウ) お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる】

(小学校5年生・所得分類別)

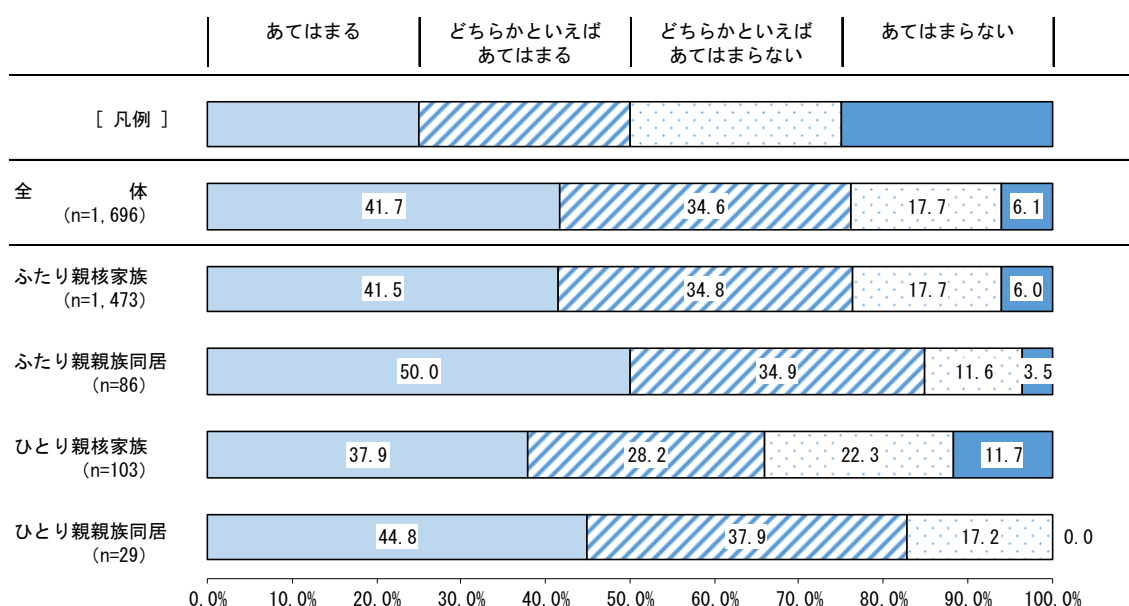


中学校2年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる』を世帯構成別にみると、「あてはまる」は『ふたり親親族同居』が50.0%と全体に比べて高くなっている。「どちらかといえばあてはまる」は『ひとり親核家族』が28.2%と全体に比べて低く、「どちらかといえばあてはまらない」は『ふたり親親族同居』が11.6%と全体に比べて低くなっている。「あてはまらない」は『ひとり親核家族』が11.7%と全体に比べて高くなっている。

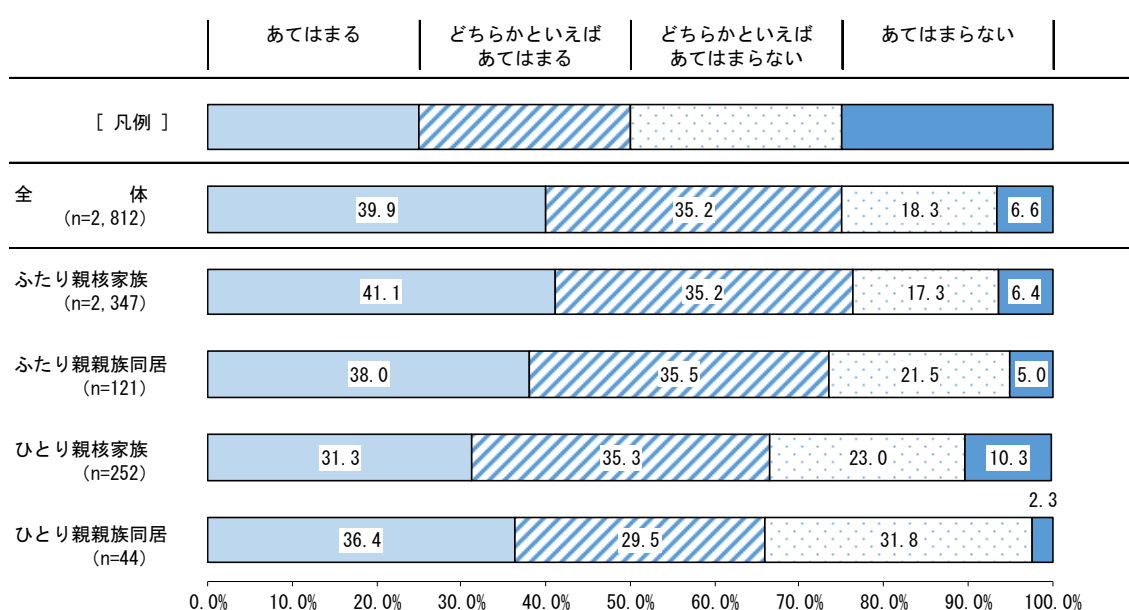
経年でみると、「あてはまる」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。「どちらかといえばあてはまる」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「どちらかといえばあてはまらない」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-336 (ウ) お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる】
(中学校2年生・世帯構成別)



＜前回調査＞【図表 3-337 (ウ) お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる】
(中学校2年生・世帯構成別)

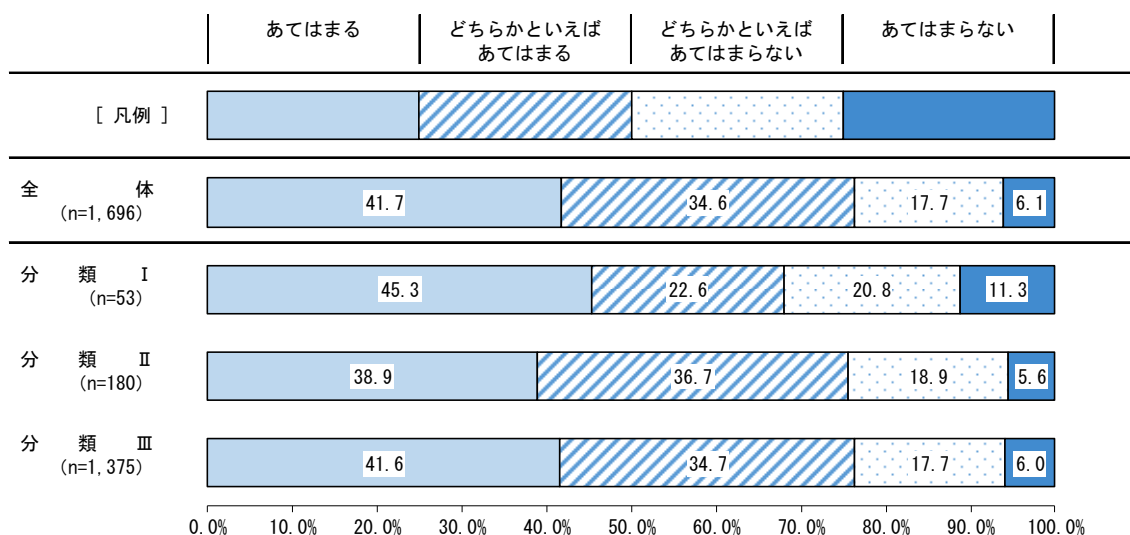


所得分類別にみると、「どちらかといえばあてはまる」は『分類Ⅰ』が 22.6%と全体に比べて低く、「あてはまらない」は『分類Ⅰ』が 11.3%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「あてはまる」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高く、「どちらかといえばあてはまる」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

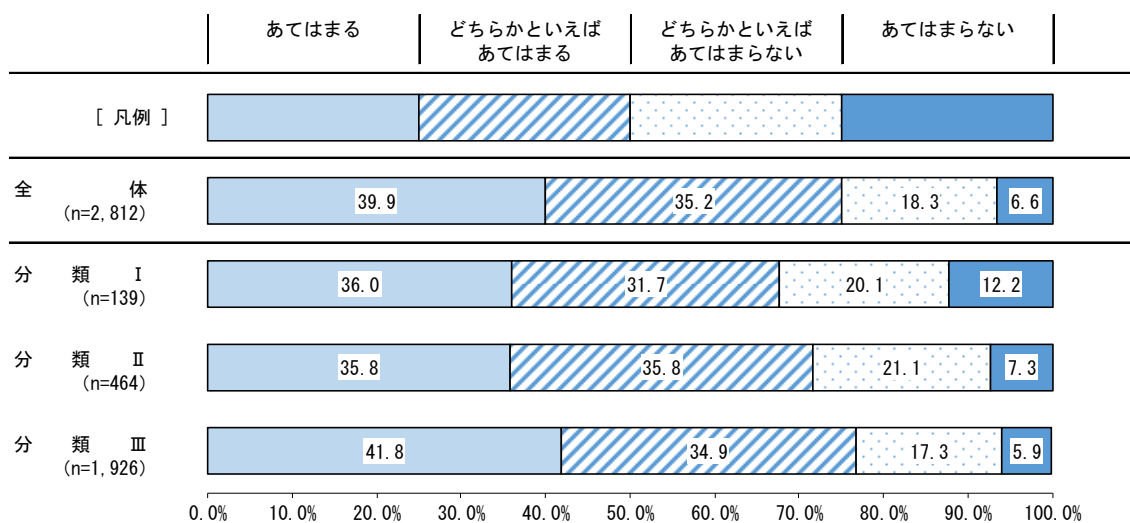
<今回調査>【図表 3-338 (ウ) お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる】

(中学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-339 (ウ) お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる】

(中学校2年生・所得分類別)

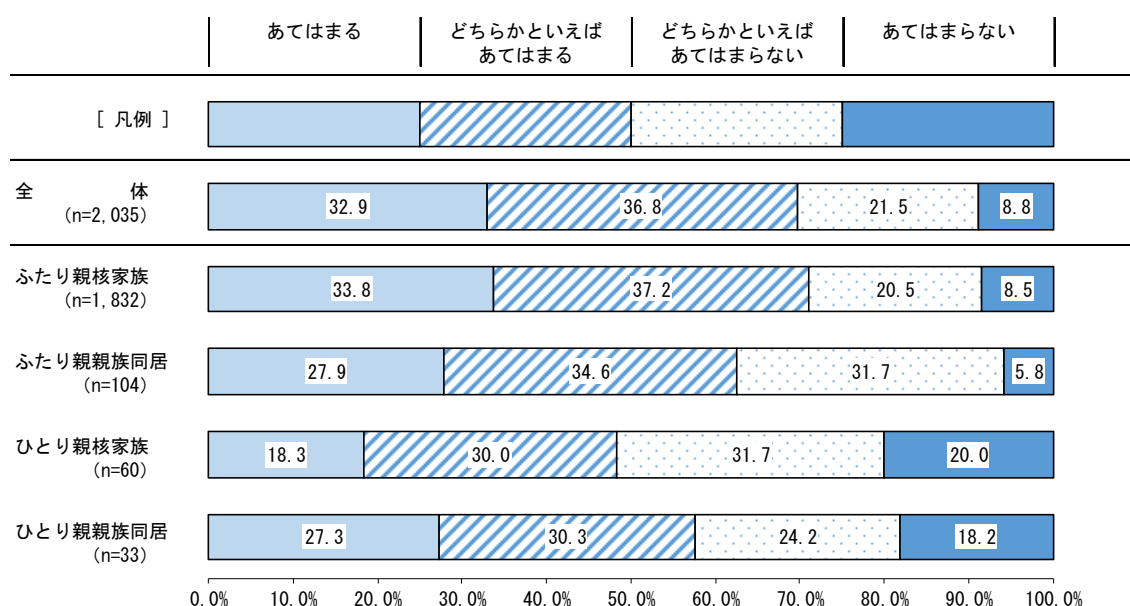


小学校2年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『お子さんに本や新聞を読むように勧めている』を世帯構成別にみると、「あてはまる」は『ふたり親親族同居』が27.9%、『ひとり親核家族』が18.3%と全体に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『ひとり親核家族』が30.0%と全体に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『ふたり親親族同居』が31.7%、『ひとり親核家族』が31.7%と全体に比べて高く、「あてはまらない」は『ひとり親核家族』が20.0%と全体に比べて高くなっている。

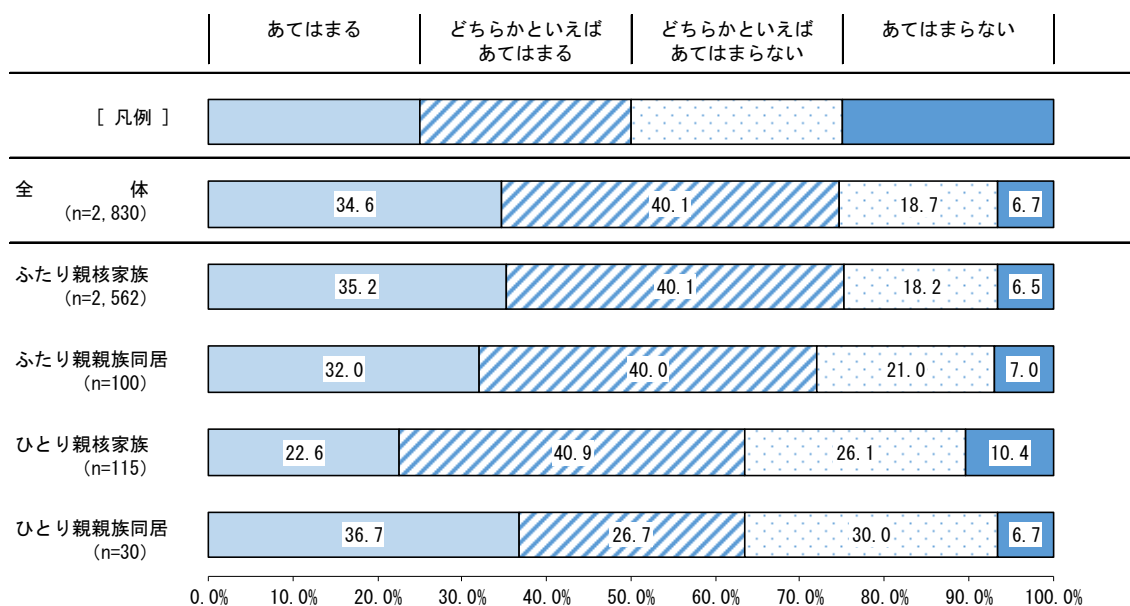
経年でみると、「どちらかといえばあてはまる」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高く、「あてはまらない」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-340 (エ) お子さんに本や新聞を読むように勧めている】
(小学校2年生・世帯構成別)



＜前回調査＞【図表 3-341 (エ) お子さんに本や新聞を読むように勧めている】
(小学校2年生・世帯構成別)

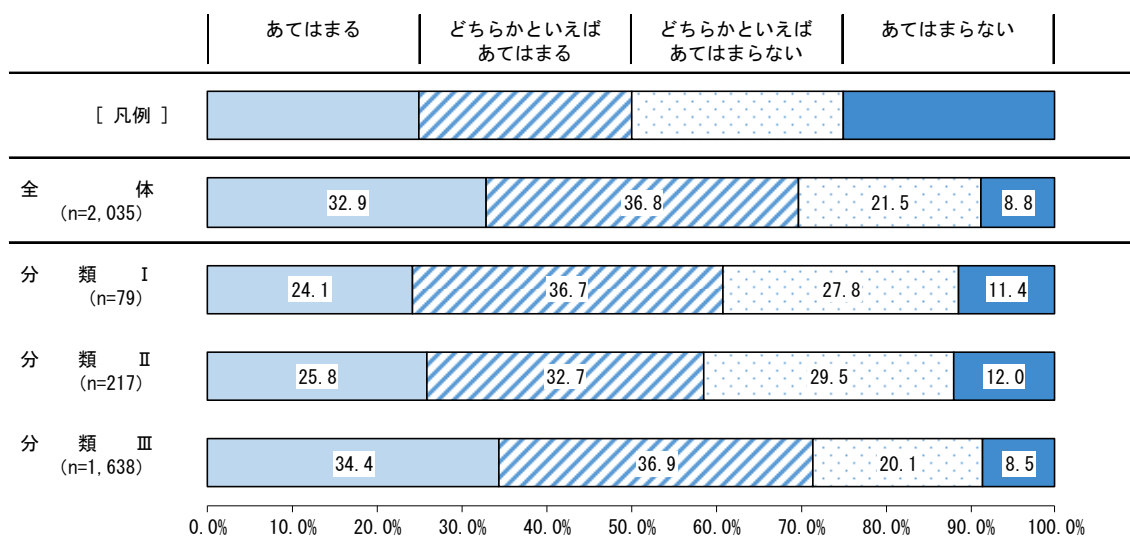


所得分類別にみると、「あてはまる」は『分類Ⅰ』が24.1%、『分類Ⅱ』が25.8%と全体に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『分類Ⅰ』が27.8%、『分類Ⅱ』が29.5%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「どちらかといえばあてはまる」は『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高く、「あてはまらない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

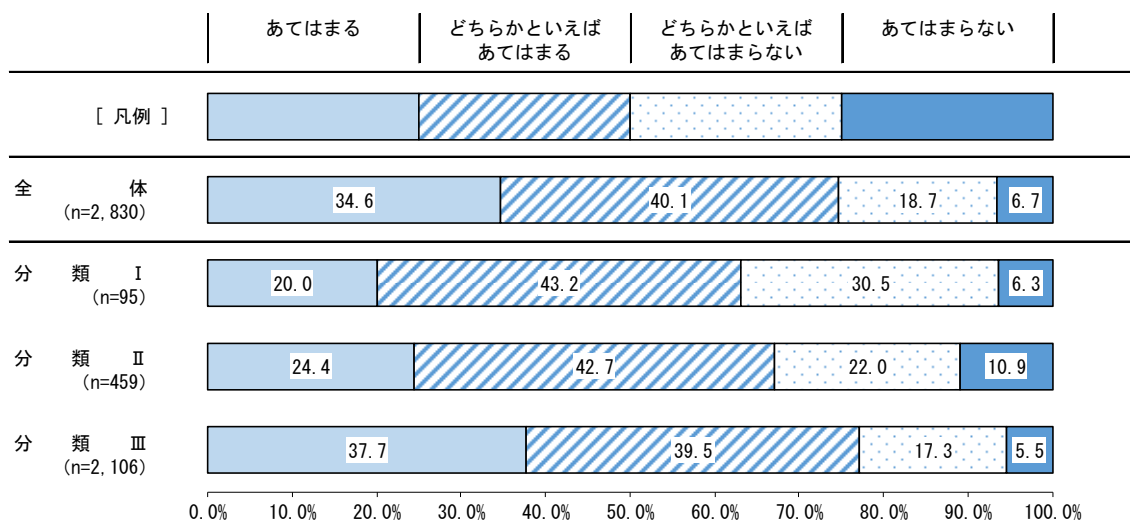
<今回調査>【図表 3-342 (エ) お子さんに本や新聞を読むように勧めている】

(小学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-343 (エ) お子さんに本や新聞を読むように勧めている】

(小学校2年生・所得分類別)

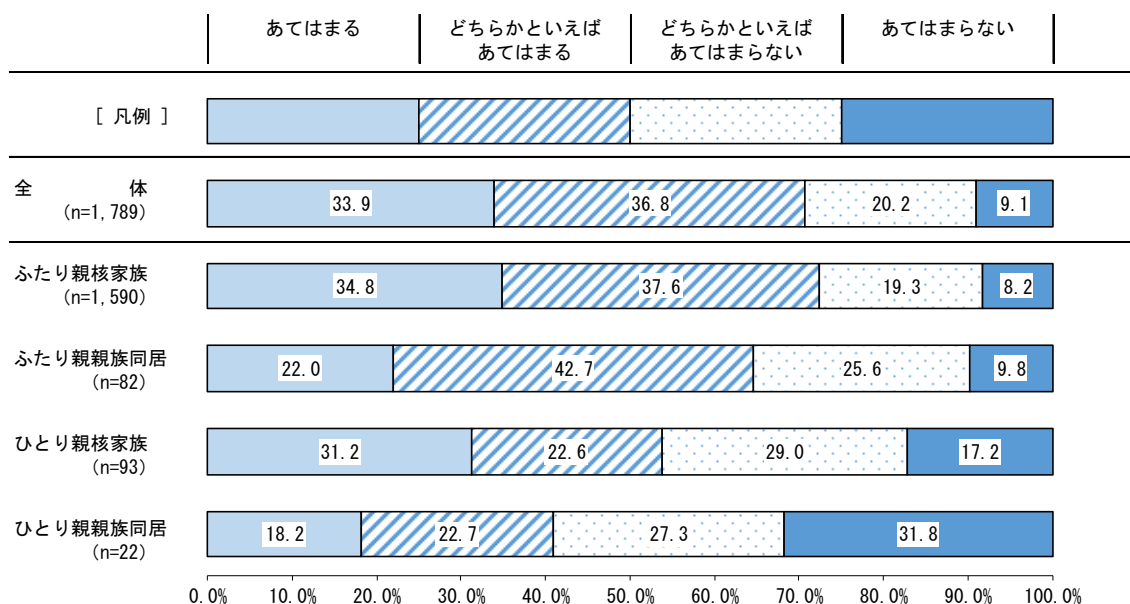


小学校5年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『お子さんに本や新聞を読むように勧めている』を世帯構成別にみると、「あてはまる」は『ふたり親親族同居』が22.0%と全体に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまる」は『ふたり親親族同居』が42.7%と全体に比べて高く、『ひとり親核家族』が22.6%と全体に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『ふたり親親族同居』が25.6%、『ひとり親核家族』が29.0%と全体に比べて高く、「あてはまらない」は『ひとり親核家族』が17.2%と全体に比べて高くなっている。

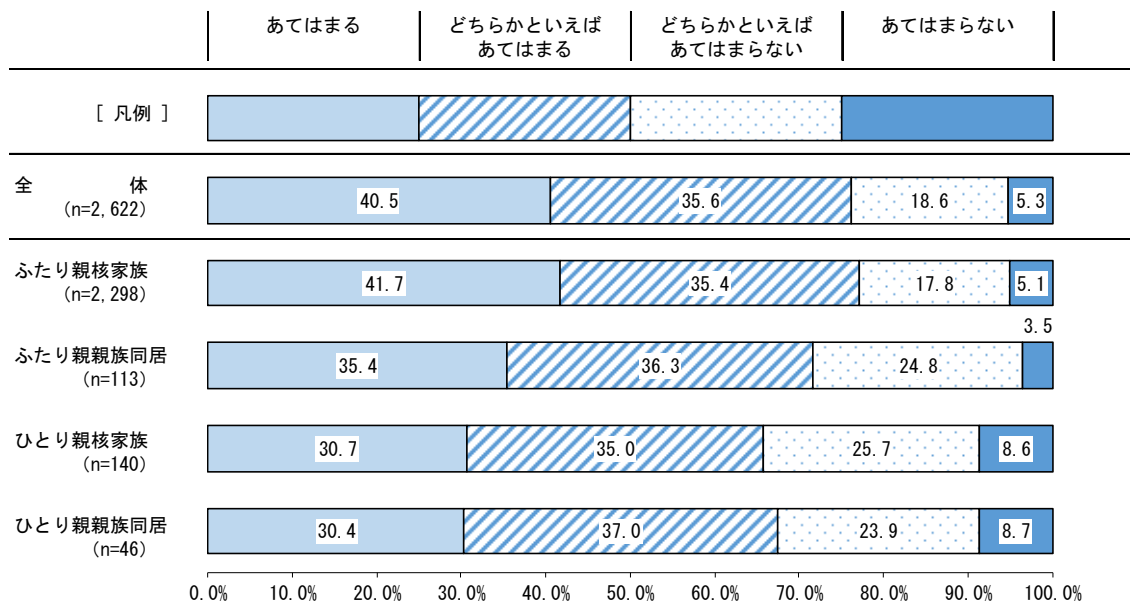
経年でみると、「あてはまる」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまる」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高く、『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「あてはまらない」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-344 (エ) お子さんに本や新聞を読むように勧めている】
(小学校5年生・世帯構成別)



＜前回調査＞【図表 3-345 (エ) お子さんに本や新聞を読むように勧めている】
(小学校5年生・世帯構成別)

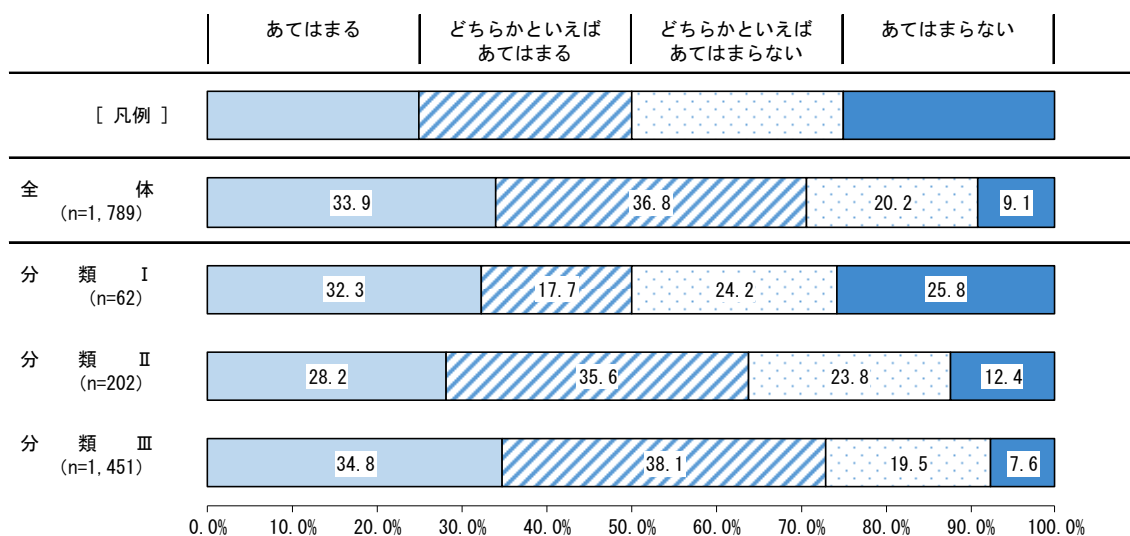


所得分類別にみると、「あてはまる」は『分類Ⅱ』が28.2%と全体に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『分類Ⅰ』が17.7%と全体に比べて低くなっている。「あてはまらない」は『分類Ⅰ』が25.8%と、全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「あてはまる」は『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。「あてはまらない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

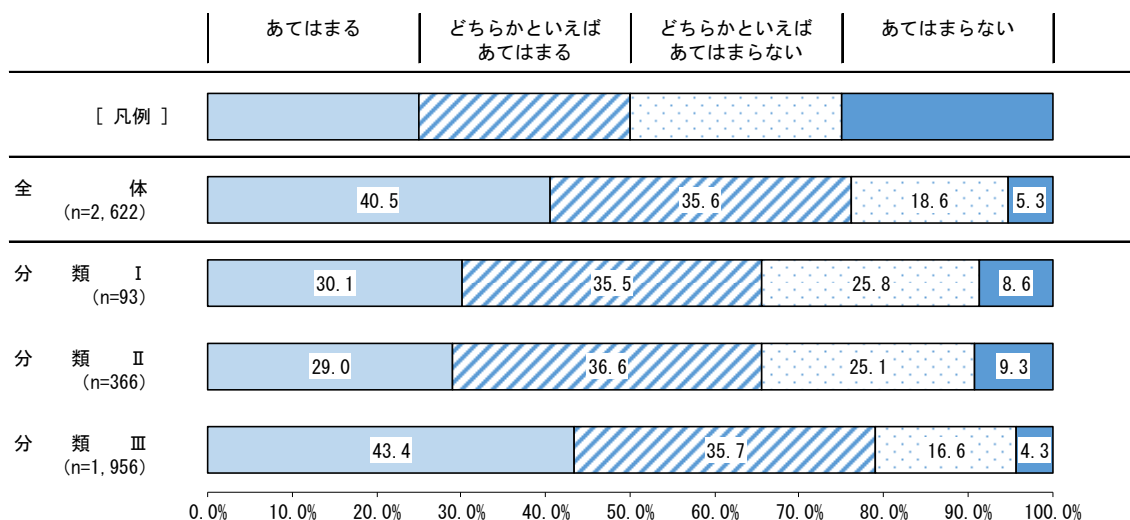
＜今回調査＞【図表 3-346 (エ) お子さんに本や新聞を読むように勧めている】

(小学校5年生・所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-347 (エ) お子さんに本や新聞を読むように勧めている】

(小学校5年生・所得分類別)



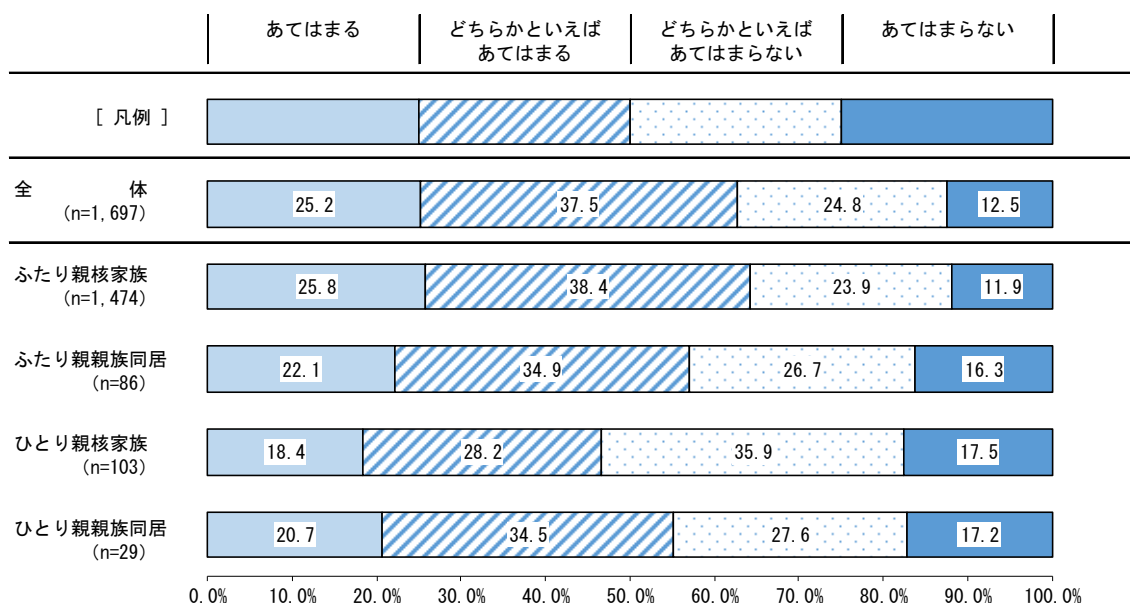
中学校2年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『お子さんに本や新聞を読むように勧めている』を世帯構成別にみると、「あてはまる」は『ひとり親核家族』が18.4%と全体に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『ひとり親核家族』が28.2%と全体に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『ひとり親核家族』が35.9%、「あてはまらない」は『ひとり親核家族』が17.5%と、それぞれ全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「あてはまる」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

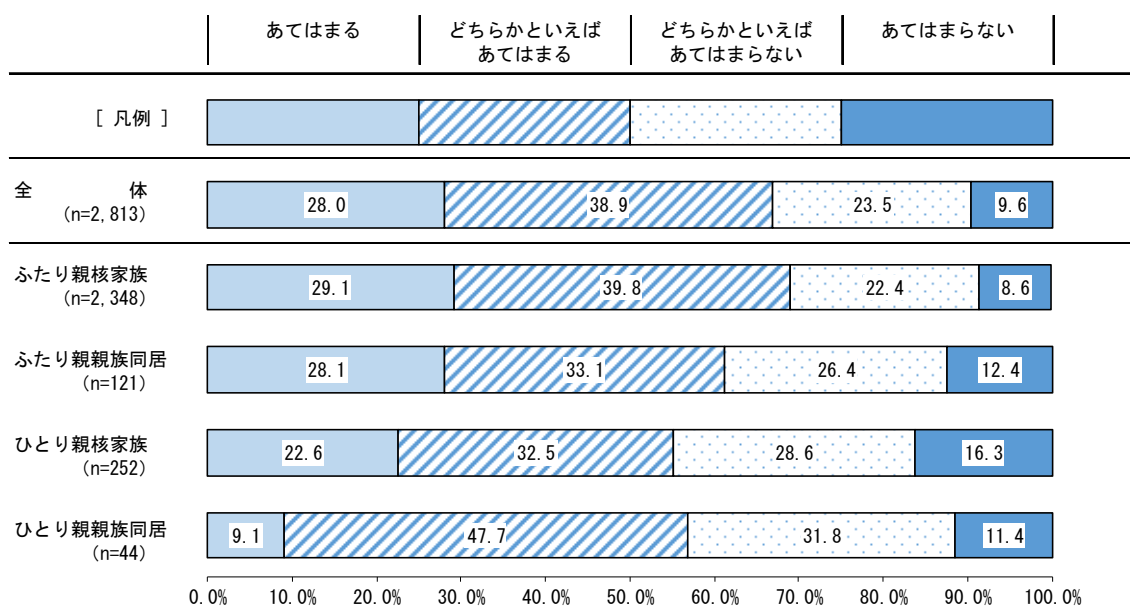
<今回調査>【図表 3-348 (エ) お子さんに本や新聞を読むように勧めている】

(中学校2年生・世帯構成別)



<前回調査>【図表 3-349 (エ) お子さんに本や新聞を読むように勧めている】

(中学校2年生・世帯構成別)

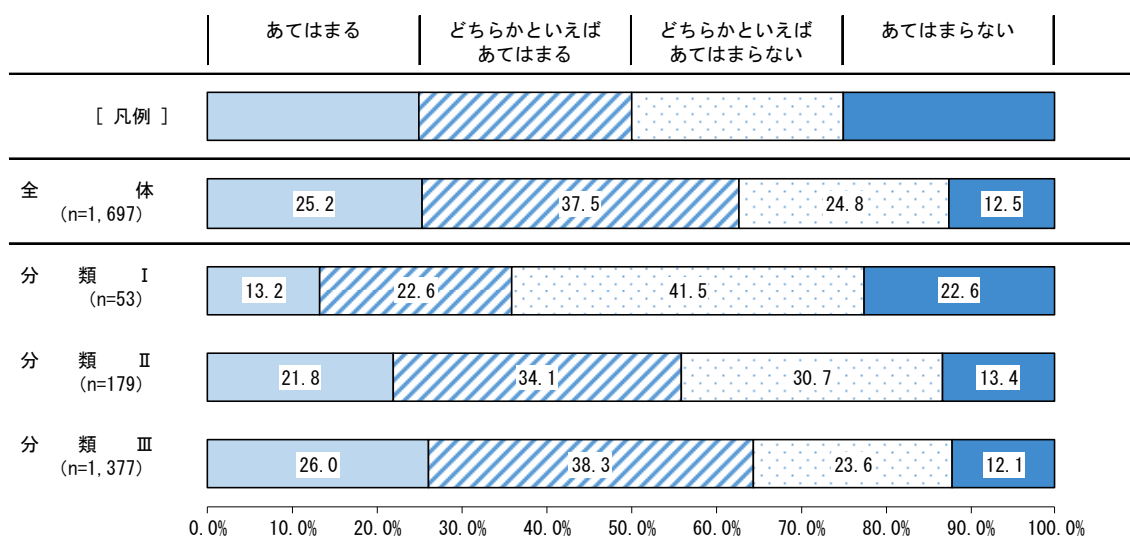


所得分類別にみると、「あてはまる」は『分類Ⅰ』が13.2%と全体に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『分類Ⅰ』が22.6%と全体に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『分類Ⅰ』が41.5%、『分類Ⅱ』が30.7%と全体に比べて高くなっている。「あてはまらない」は『分類Ⅰ』が22.6%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「あてはまる」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、「どちらかといえばあてはまる」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高く、「あてはまらない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

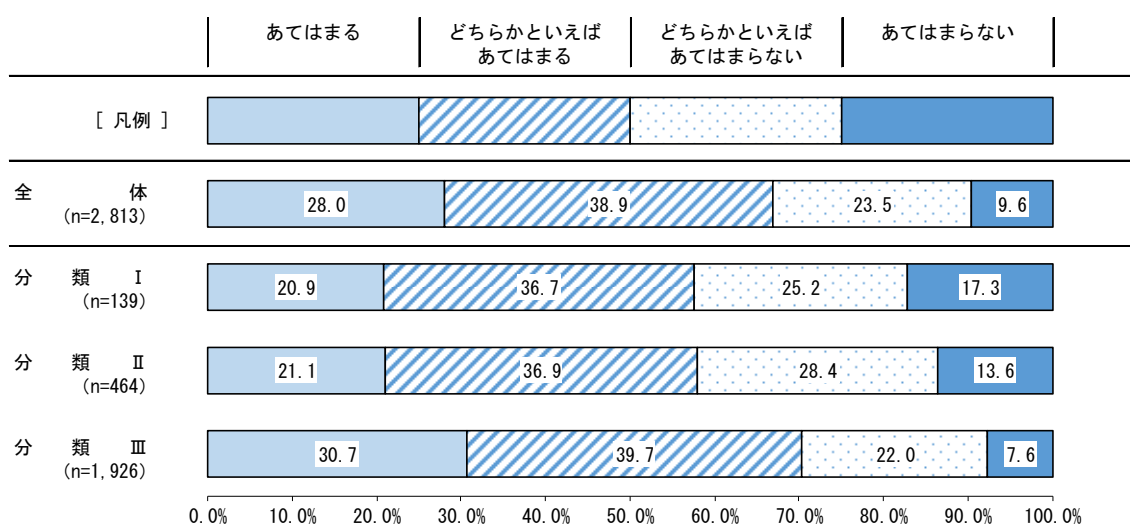
＜今回調査＞【図表 3-350 (エ) お子さんに本や新聞を読むように勧めている】

(中学校2年生・所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-351 (エ) お子さんに本や新聞を読むように勧めている】

(中学校2年生・所得分類別)



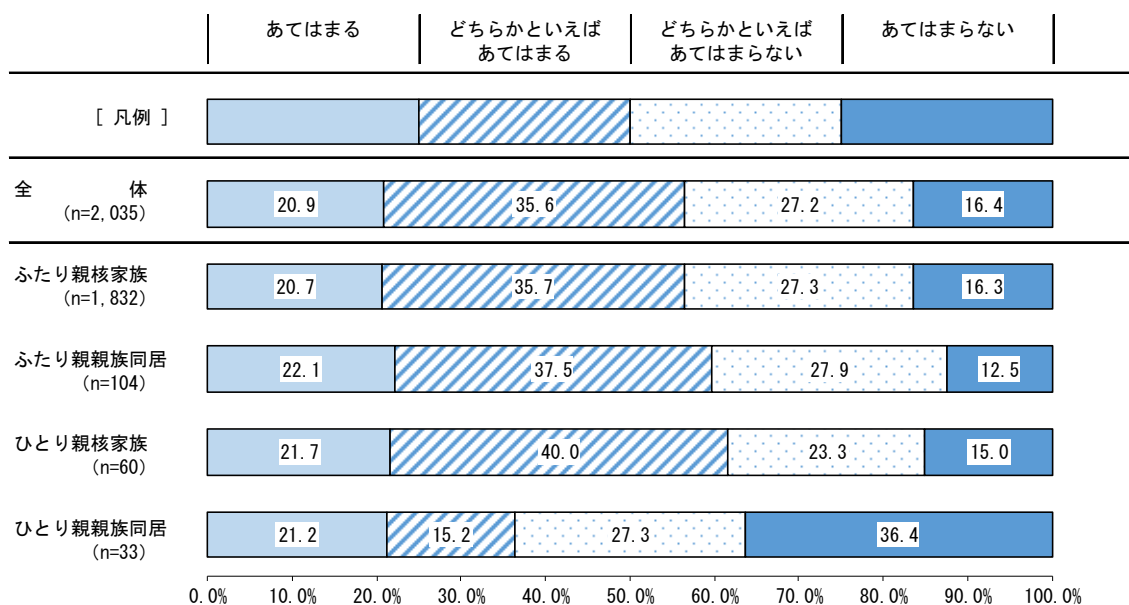
小学校2年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『進学先や将来の仕事のことについて話をしている』を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査には、この設問は含まれていない。

<今回調査>【図表 3-352 (オ) 進学先や将来の仕事のことについて話をしている】

(小学校2年生・世帯構成別)

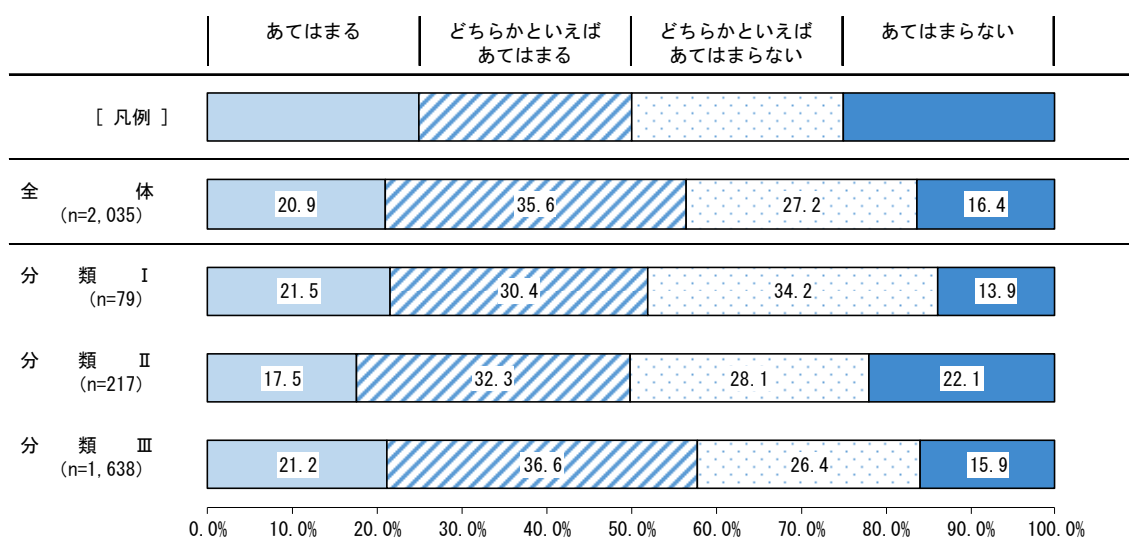


所得分類別にみると、「どちらかといえばあてはまる」は『分類Ⅰ』が30.4%と全体に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『分類Ⅰ』が34.2%と全体に比べて高くなっている。また、「あてはまらない」は『分類Ⅱ』が22.1%と、全体に比べて高くなっている。

なお、前回調査には、この設問は含まれていない。

<今回調査>【図表 3-353 (オ) 進学先や将来の仕事のことについて話をしている】

(小学校2年生・所得分類別)



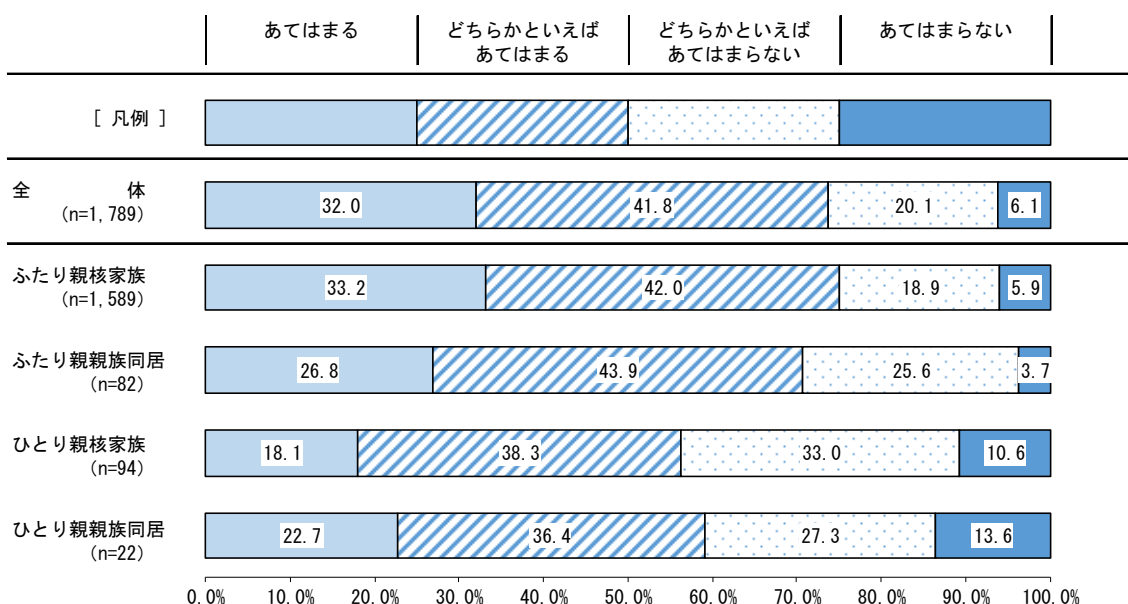
小学校5年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『進学先や将来の仕事のことについて話をしている』を世帯構成別にみると、「あてはまる」は『ふたり親親族同居』が26.8%、『ひとり親核家族』が18.1%と全体に比べて低くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」は『ふたり親親族同居』が25.6%、『ひとり親核家族』が33.0%と全体に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査には、この設問は含まれていない。

＜今回調査＞【図表 3-354 (オ) 進学先や将来の仕事のことについて話をしている】

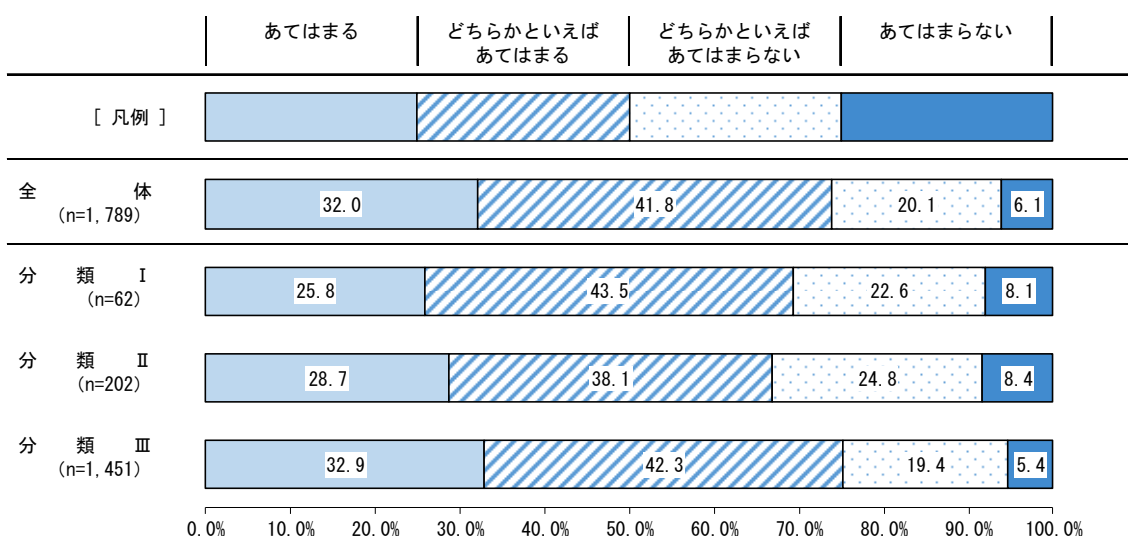
(小学校5年生・世帯構成別)



所得分類別にみると、「あてはまる」は『分類Ⅰ』が25.8%と全体に比べて低くなっている。なお、前回調査には、この設問は含まれていない。

＜今回調査＞【図表 3-355 (オ) 進学先や将来の仕事のことについて話をしている】

(小学校5年生・所得分類別)



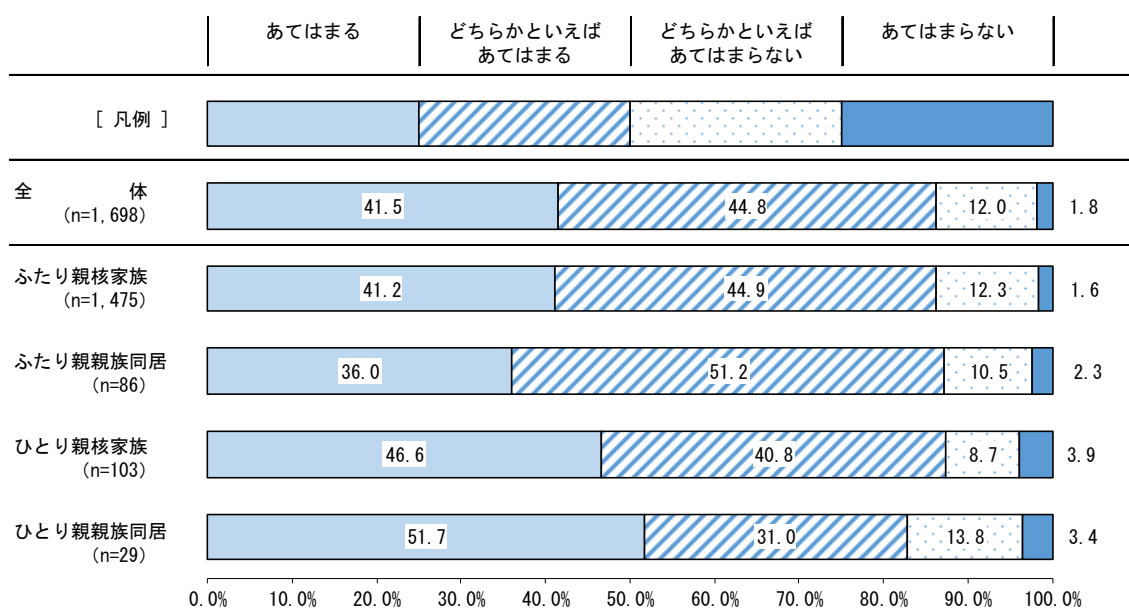
中学校2年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『進学先や将来の仕事のことについて話をしている』を世帯構成別にみると、「あてはまる」は『ふたり親親族同居』が36.0%と全体的に比べて低く、『ひとり親核家族』が46.6%と全体に比べて高くなっている。「どちらかといえばあてはまる」は『ふたり親親族同居』が51.2%と全体に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査には、この設問は含まれていない。

<今回調査>【図表 3-356 (オ) 進学先や将来の仕事のことについて話をしている】

(中学校2年生・世帯構成別)

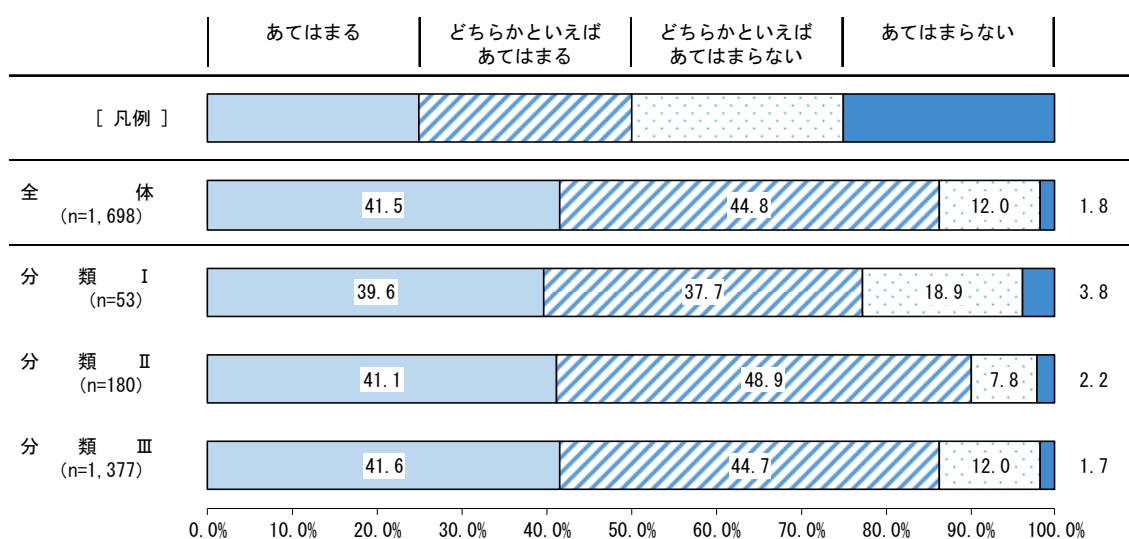


所得分類別にみると、「どちらかといえばあてはまる」は『分類Ⅰ』が37.7%と全体に比べて低く、「どちらかといえばあてはまらない」は『分類Ⅰ』が18.9%と全体に比べて高くなっている。

なお、前回調査には、この設問は含まれていない。

<今回調査>【図表 3-357 (オ) 進学先や将来の仕事のことについて話をしている】

(中学校2年生・所得分類別)



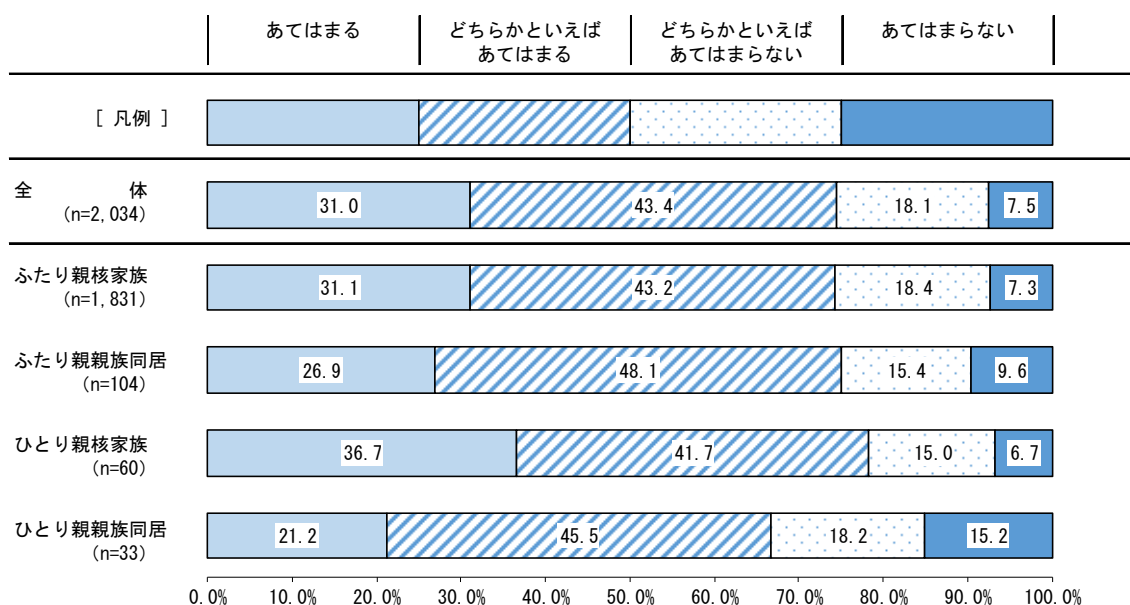
小学校2年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『お小遣いの使い方や金のことについて話をしている』を世帯構成別にみると、「あてはまる」は『ひとり親核家族』が36.7%と全体に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査には、この設問は含まれていない。

＜今回調査＞【図表 3-358 (カ) お小遣いの使い方や金のことについて話をしている】

(小学校2年生・世帯構成別)

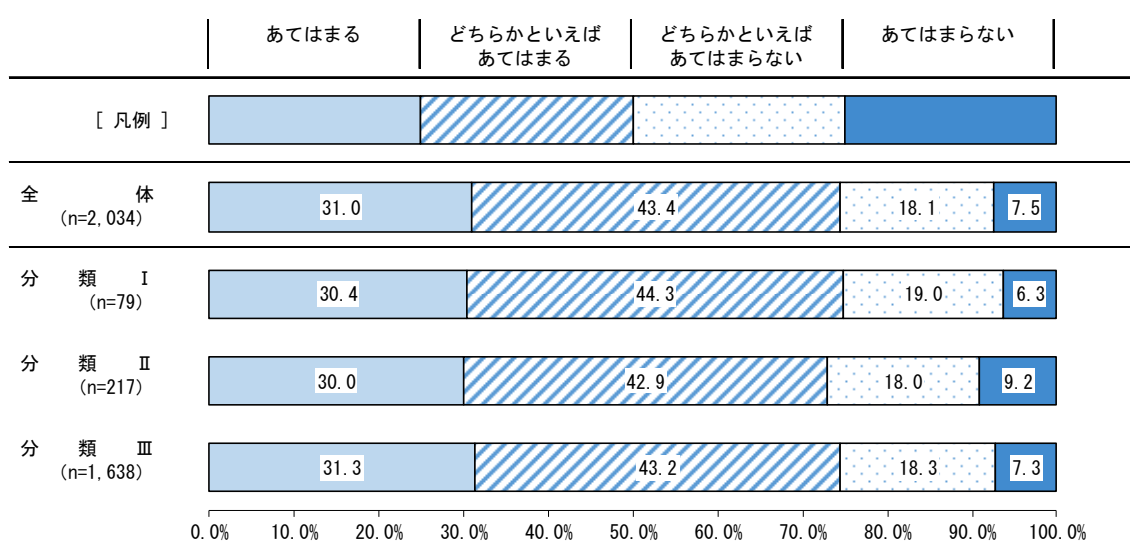


所得分類別にみると、大きな差はみられない。

なお、前回調査には、この設問は含まれていない。

＜今回調査＞【図表 3-359 (カ) お小遣いの使い方や金のことについて話をしている】

(小学校2年生・所得分類別)



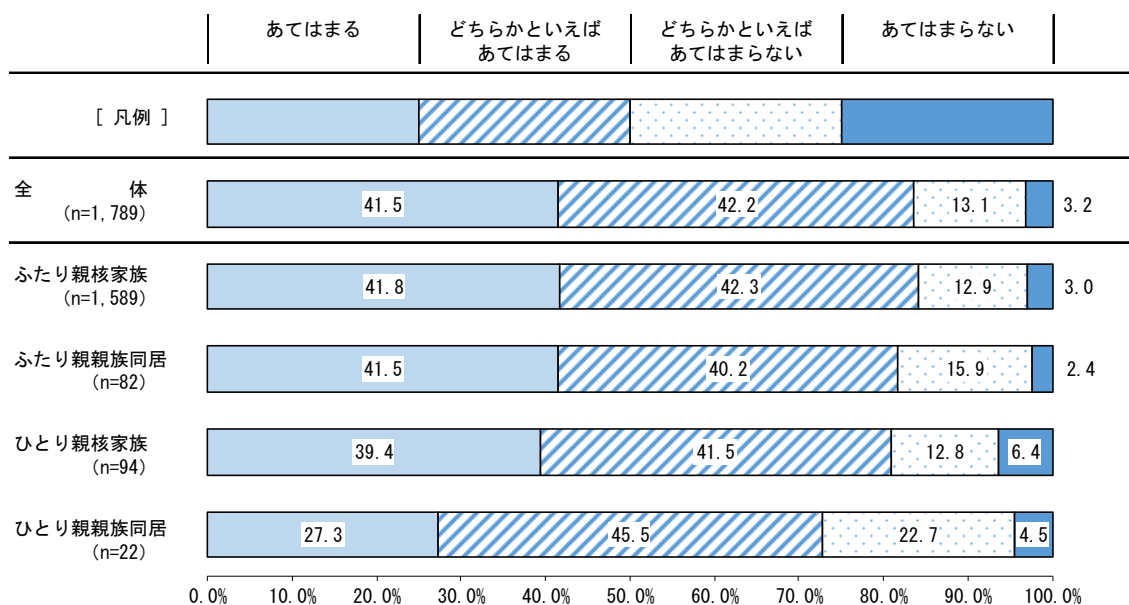
小学校5年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『お小遣いの使い方や金のことについて話をしている』を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査には、この設問は含まれていない。

<今回調査>【図表 3-360 (カ) お小遣いの使い方や金のことについて話をしている】

(小学校5年生・世帯構成別)

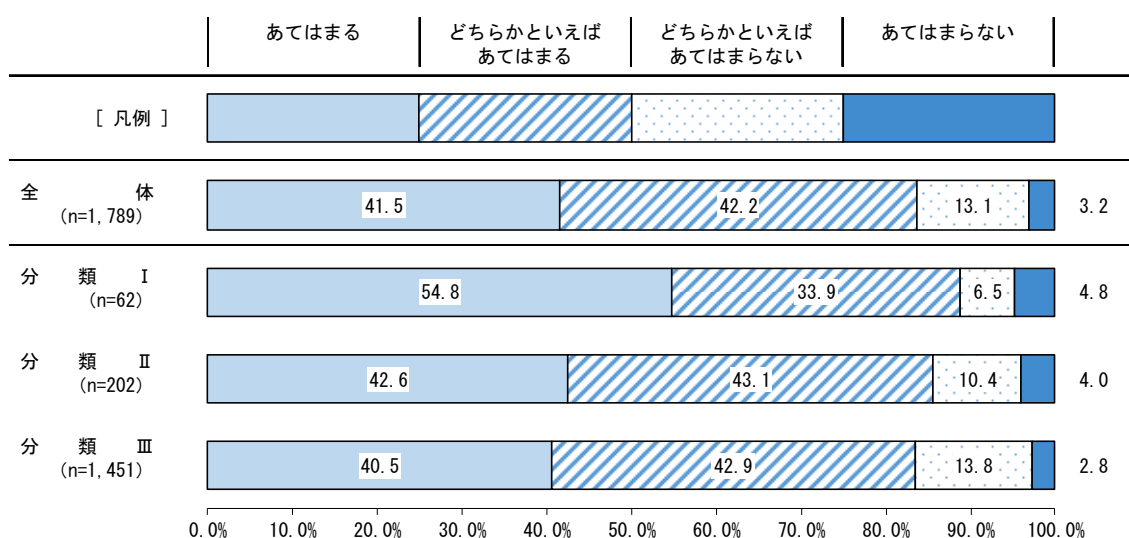


所得分類別にみると、「あてはまる」は『分類Ⅰ』が54.8%と全体に比べて高くなっている。「どちらかといえばあてはまる」は『分類Ⅰ』が33.9%、「どちらかといえばあてはまらない」は『分類Ⅰ』が6.5%と全体に比べて低くなっている。

前回調査には、この設問は含まれていない。

<今回調査>【図表 3-361 (カ) お小遣いの使い方や金のことについて話をしている】

(小学校5年生・所得分類別)



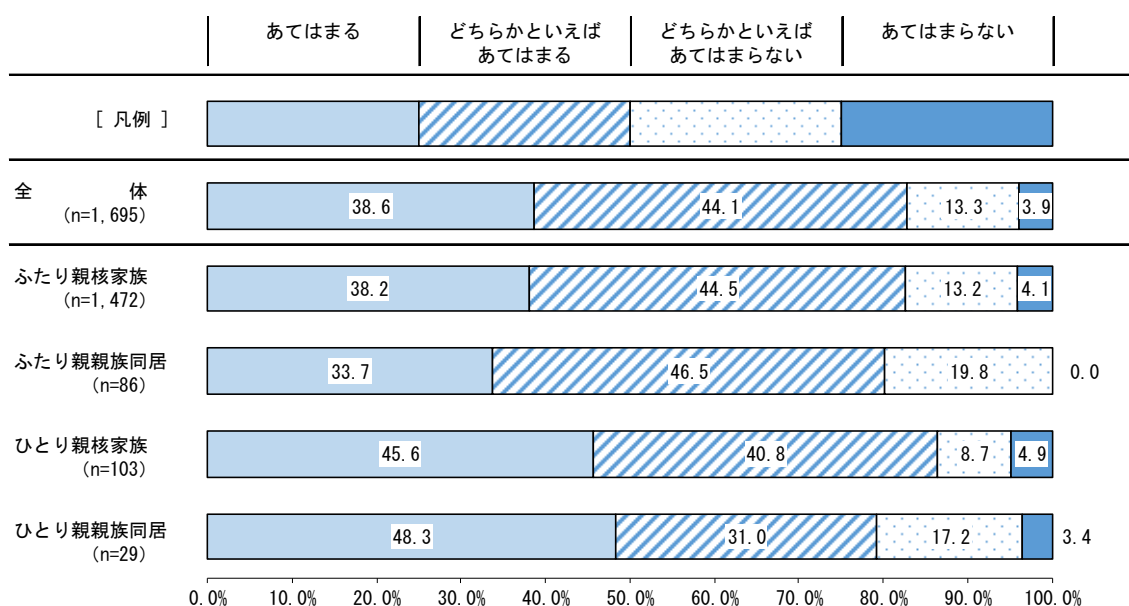
中学校2年生のいる世帯の子どもとの関わり方について、『お小遣いの使い方や金のことについて話をしている』を世帯構成別にみると、「あてはまる」は『ひとり親核家族』が45.6%と全体に比べて高く、「どちらかといえばあてはまらない」は『ふたり親親族同居』が19.8%と全体に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査には、この設問は含まれていない。

＜今回調査＞【図表 3-362 (カ) お小遣いの使い方や金のことについて話をしている】

(中学校2年生・世帯構成別)

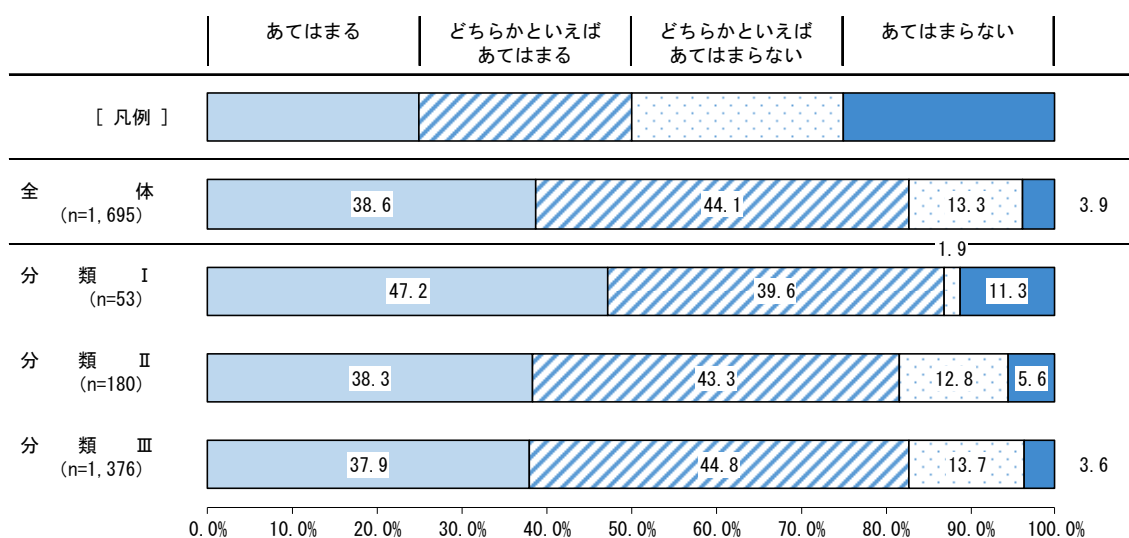


所得分類別にみると、「あてはまる」は『分類Ⅰ』が47.2%と全体に比べて高く、「どちらかといえばあてはまらない」は『分類Ⅰ』が1.9%と全体に比べて低くなっている。「あてはまらない」は『分類Ⅰ』が11.3%と全体に比べて高くなっている。

前回調査には、この設問は含まれていない。

＜今回調査＞【図表 3-363 (カ) お小遣いの使い方や金のことについて話をしている】

(中学校2年生・所得分類別)



イ 普段の子どもとの過ごし方【問6】(SA)

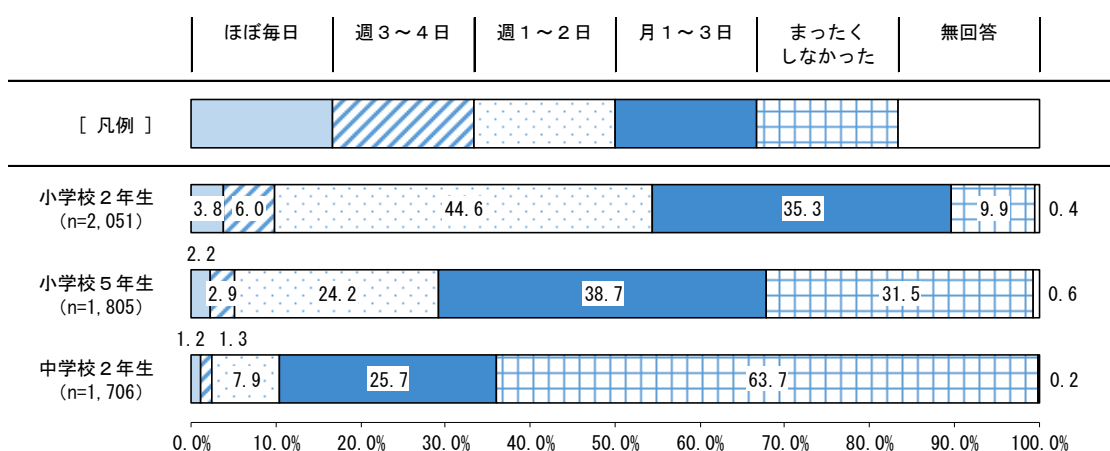
直近1か月の小学生の子どもとの過ごし方を聞いたところ、『子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ』では小学校2年生のいる世帯で「週1～2日」が44.6%と最も高く、次いで「月1～3日」が35.3%、「まったくしなかった」が9.9%、小学校5年生のいる世帯では「月1～3日」が38.7%と最も高く、次いで「まったくしなかった」が31.5%、「週1～2日」が24.2%、中学校2年生のいる世帯では「まったくしなかった」が63.7%と最も高く、次いで「月1～3日」が25.7%、「週1～2日」が7.9%となっている。

経年でみると、「ほぼ毎日」「週3～4日」「週1～2日」に大きな差はみられない。「まったくしなかった」は小学校5年生のいる世帯が前回調査に比べて低くなっている。

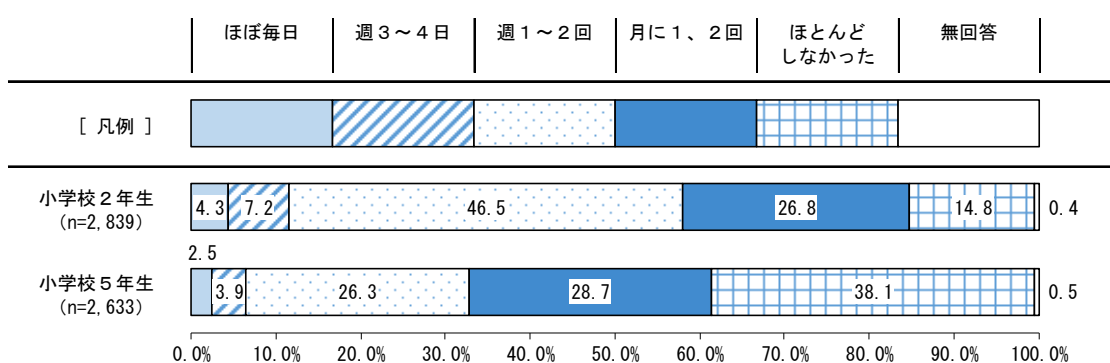
なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

また、前回調査では中学校2年生保護者への設問はない。

＜今回調査＞【図表 3-364 (ア) 子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ】



＜前回調査＞【図表 3-365 (ア) 子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ】



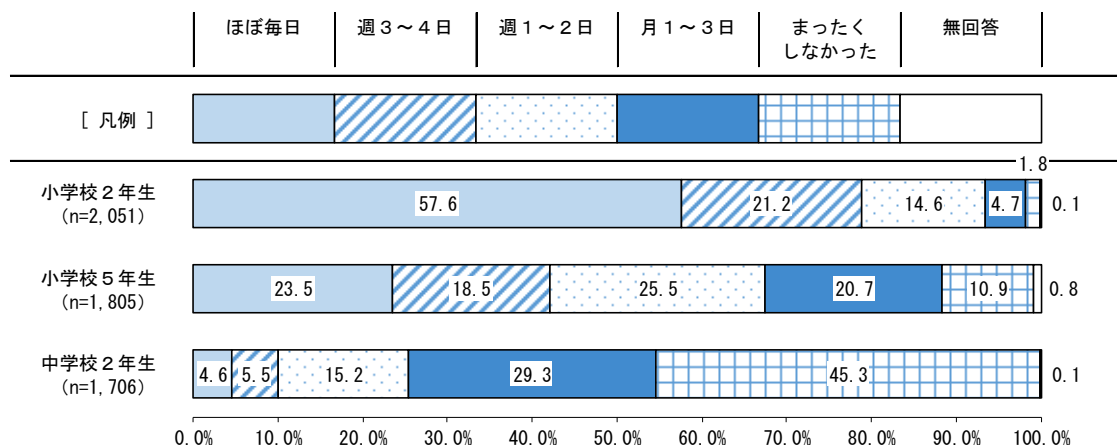
『宿題など、子どもの勉強を見た』では、小学校2年生のいる世帯で「ほぼ毎日」が57.6%と最も高く、次いで「週3～4日」が21.2%、「週1～2日」が14.6%、小学校5年生のいる世帯では「週1～2日」が25.5%と最も高く、次いで「ほぼ毎日」が23.5%、「月1～3日」が20.7%、中学校2年生のいる世帯では「まったくしなかった」が45.3%と最も高く、次いで「月1～3日」が29.3%、「週1～2日」が15.2%となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

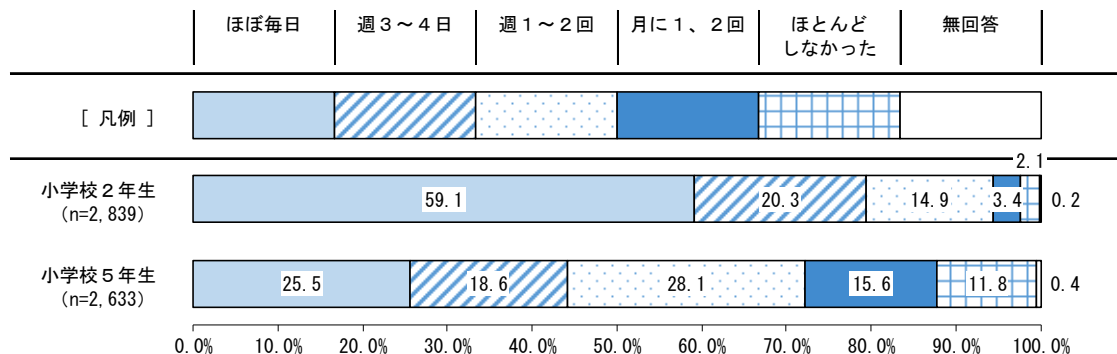
なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

また、前回調査では中学校2年生保護者への設問はない。

<今回調査>【図表 3-366 (イ) 宿題など、子どもの勉強を見た】



<前回調査>【図表 3-367 (イ) 宿題など、子どもの勉強を見た】

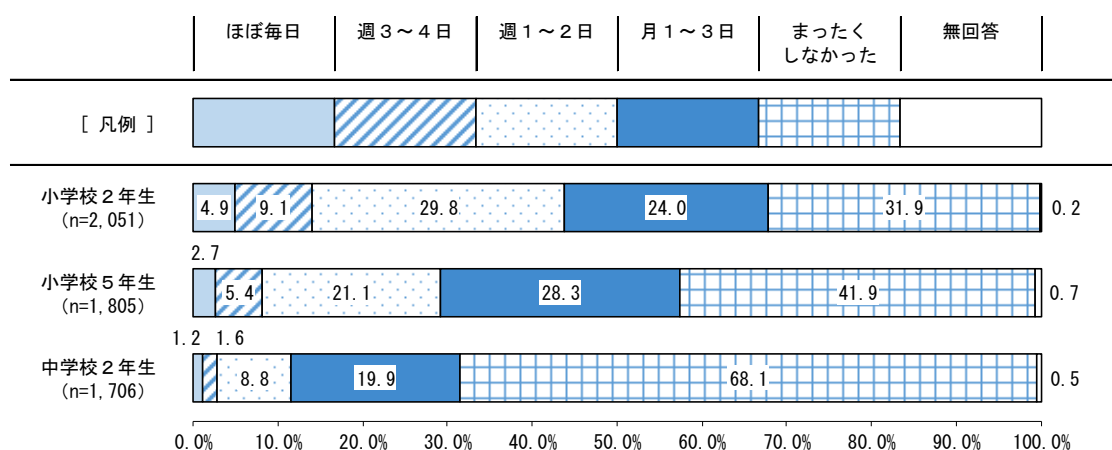


『子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ』では、いずれの学年でも「まったくしなかった」（小学校2年生：31.9%、小学校5年生：41.9%、中学校2年生：68.1%）が最も高くなっている。小学校2年生のいる世帯では、次いで「週1～2日」が29.8%、「月1～3日」が24.0%となっている。小学校5年生、中学校2年生のいる世帯では、次いで「月1～3日」（小学校5年生：28.3%、中学校2年生：19.9%）、「週1～2日」（小学校5年生：21.1%、中学校2年生：8.8%）となっている。

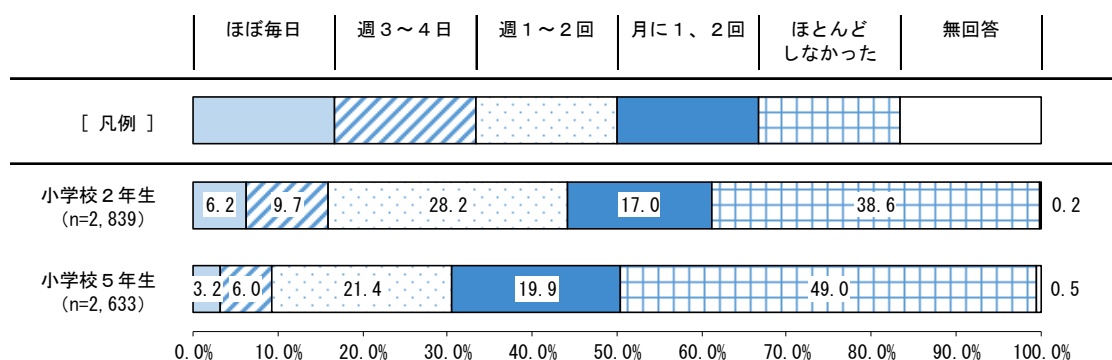
経年でみると、「ほぼ毎日」「週3～4日」「週1～2日」に大きな差はみられない。「まったくしなかった」は小学校2年生、小学校5年生のいる世帯が前回調査に比べて低くなっている。なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

また、前回調査では中学校2年生保護者への設問はない。

＜今回調査＞【図表 3-368 (ウ) 子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ】



＜前回調査＞【図表 3-369 (ウ) 子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ】



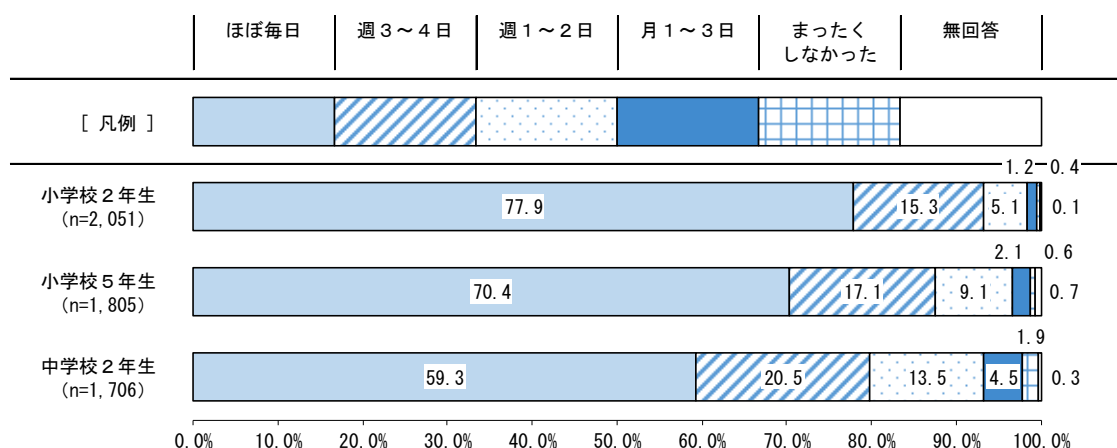
『子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした』では、いずれの学年でも「ほぼ毎日」（小学校2年生：77.9%、小学校5年生：70.4%、中学校2年生：59.3%）が最も高く、次いで「週3～4日」（小学校2年生：15.3%、小学校5年生：17.1%、中学校2年生：20.5%）、「週1～2日」（小学校2年生：5.1%、小学校5年生：9.1%、中学校2年生：13.5%）となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

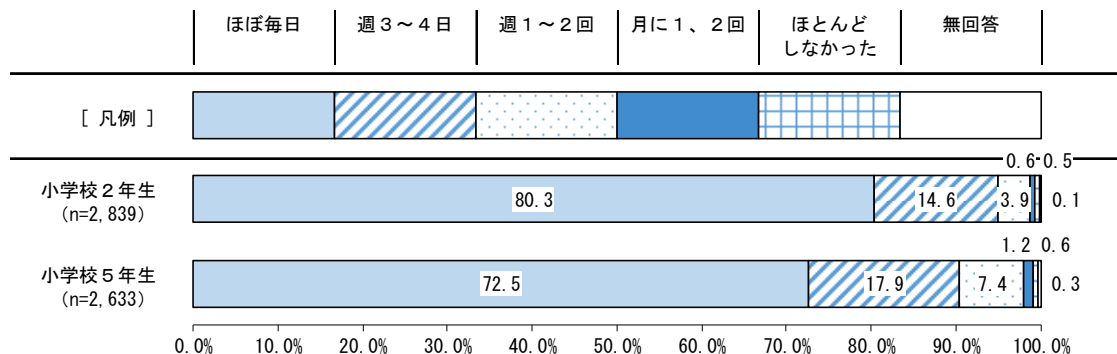
なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

また、前回調査では中学校2年生保護者への設問はない。

<今回調査>【図表 3-370 (エ) 子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした】



<前回調査>【図表 3-371 (エ) 子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした】



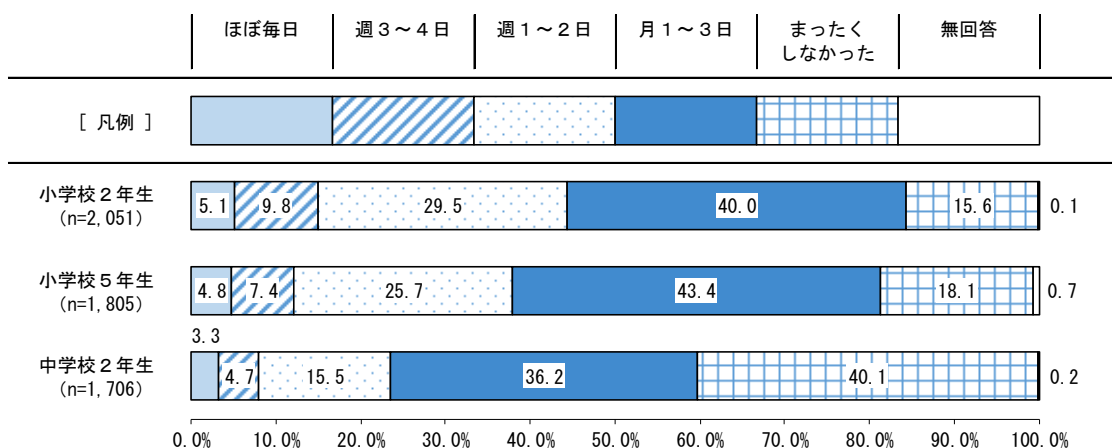
『料理など、子どもと一緒に家事をした』では、小学校2年生のいる世帯と小学校5年生のいる世帯で「月1～3日」（小学校2年生：40.0%、小学校5年生：43.4%）と最も高く、次いで「週1～2日」（小学校2年生：29.5%、小学校5年生：25.7%）、「まったくしなかった」（小学校2年生：15.6%、小学校5年生：18.1%）、中学校2年生のいる世帯では「まったくしなかった」が40.1%と最も高く、次いで「月1～3日」が36.2%、「週1～2日」が15.5%となっている。

経年でみると、「週1～2日」は小学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて低くなっている。

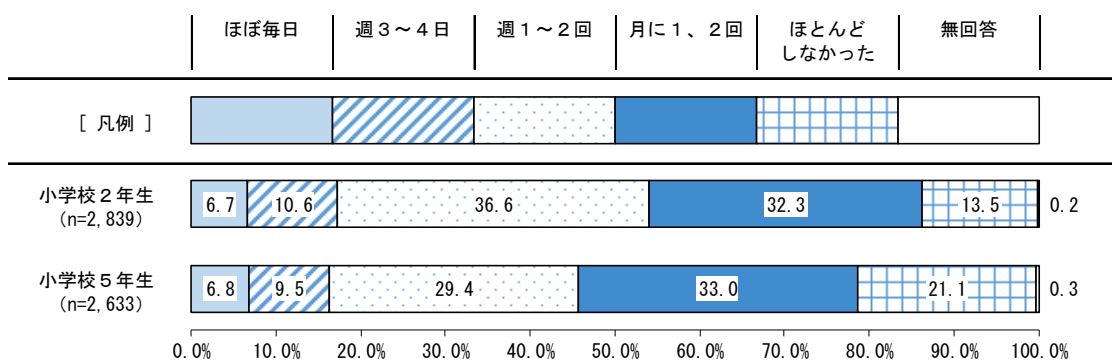
なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

また、前回調査では中学校2年生保護者への設問はない。

<今回調査>【図表 3-372 (オ) 料理など、子どもと一緒に家事をした】



<前回調査>【図表 3-373 (オ) 料理など、子どもと一緒に家事をした】



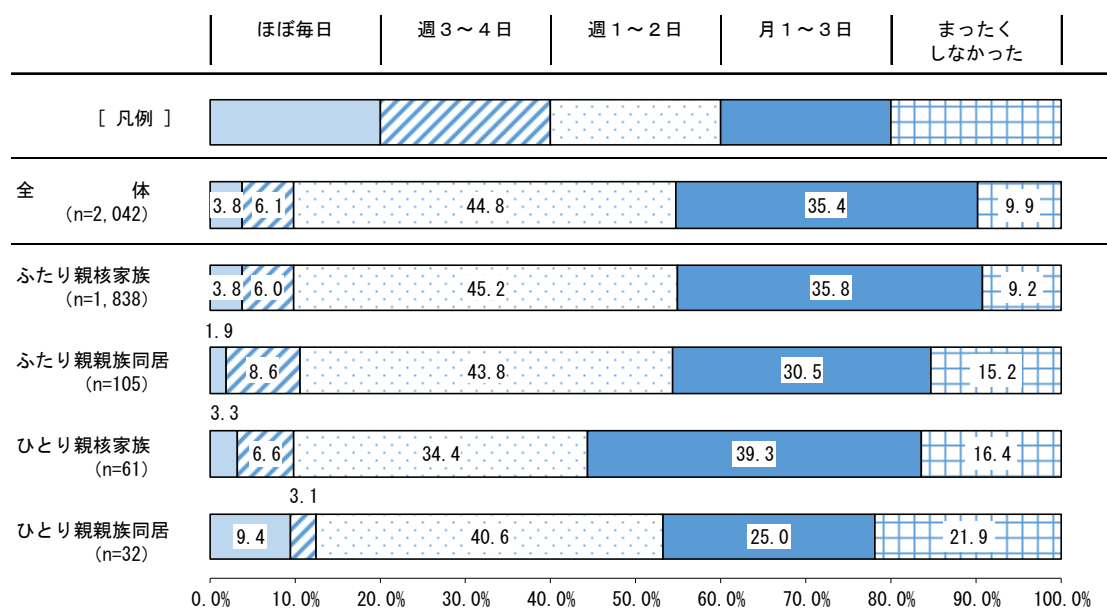
小学校2年生のいる世帯の子どもとの過ごし方について、『子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ』を世帯構成別にみると、「週1～2日」は『ひとり親核家族』が34.4%と全体に比べて低くなっている。「まったくしなかった」は『ふたり親親族同居』が15.2%、『ひとり親核家族』が16.4%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「週1～2日」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。「まったくしなかった」は『ふたり親核家族』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。

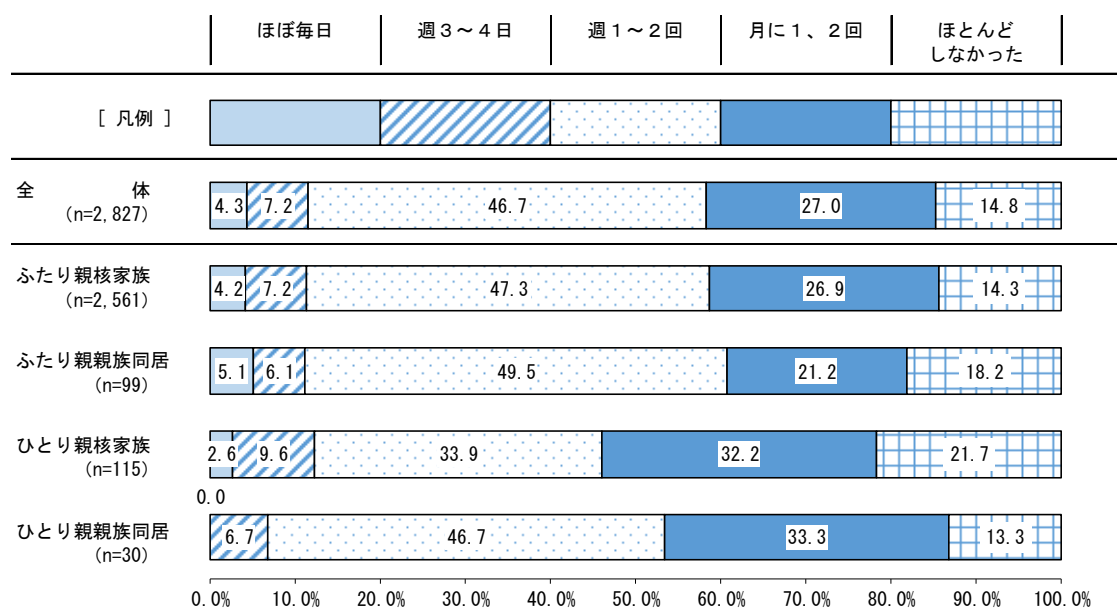
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-374 (ア) 子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ】
(小学校2年生・世帯構成別)



＜前回調査＞【図表 3-375 (ア) 子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ】
(小学校2年生・世帯構成別)



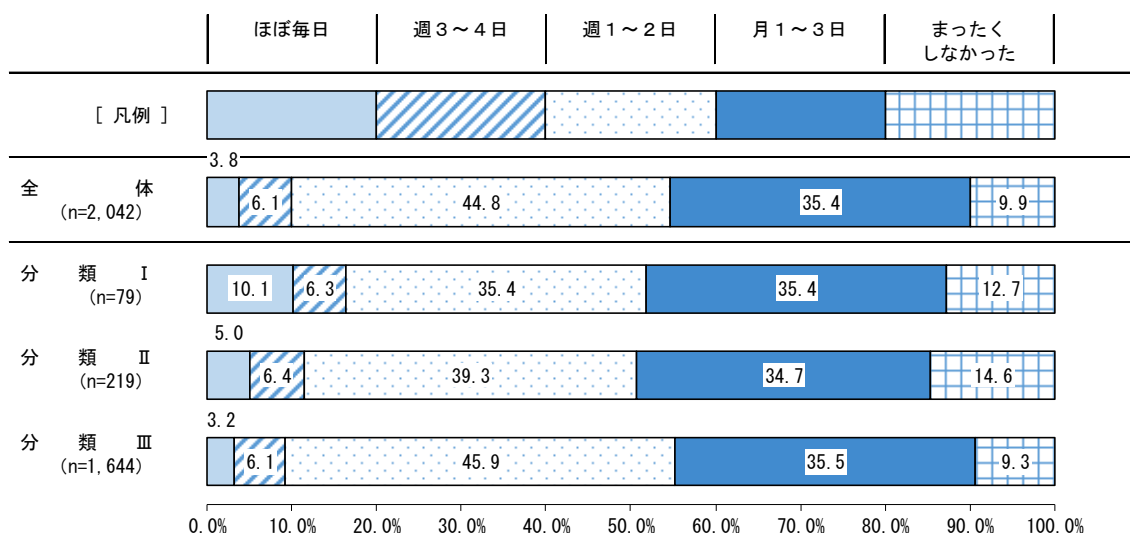
所得分類別にみると、「ほぼ毎日」は『分類Ⅰ』が10.1%と全体に比べて高く、「週1～2日」は『分類Ⅰ』が35.4%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「ほぼ毎日」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高く、「週1～2日」は『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低くなっている。「まったくしなかった」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

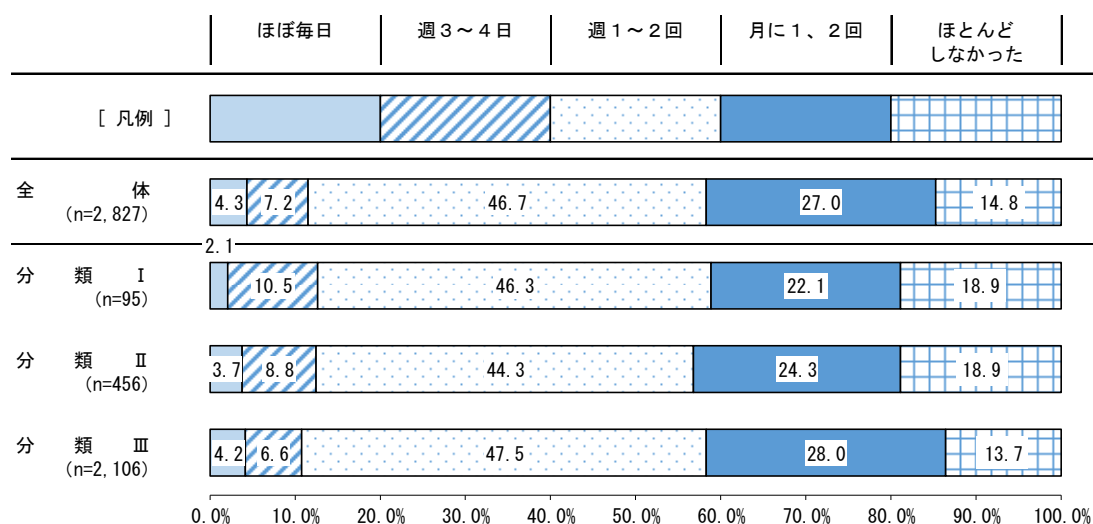
<今回調査>【図表 3-376 (ア) 子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ】

(小学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-377 (ア) 子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ】

(小学校2年生・所得分類別)



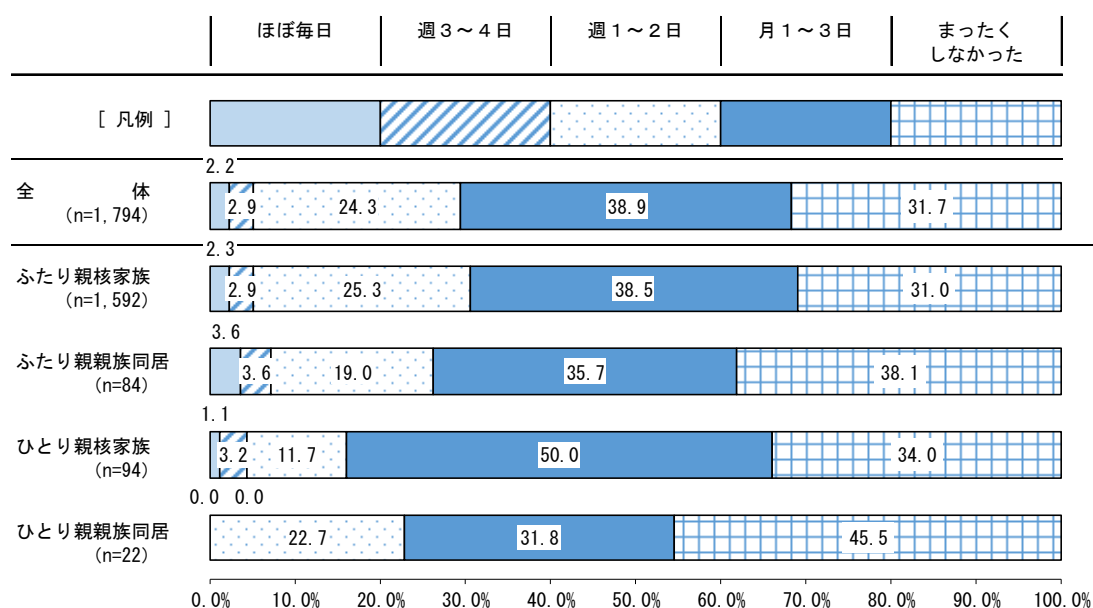
小学校5年生のいる世帯の子どもとの過ごし方について、『子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ』を世帯構成別にみると、「週1～2日」は『ふたり親親族同居』が19.0%、『ひとり親核家族』が11.7%と全体に比べて低くなっている。「月1～3日」は『ひとり親核家族』が50.0%と全体に比べて高く、「まったくしなかった」は『ふたり親親族同居』が38.1%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「週1～2日」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「まったくしなかった」は『ふたり親核家族』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。

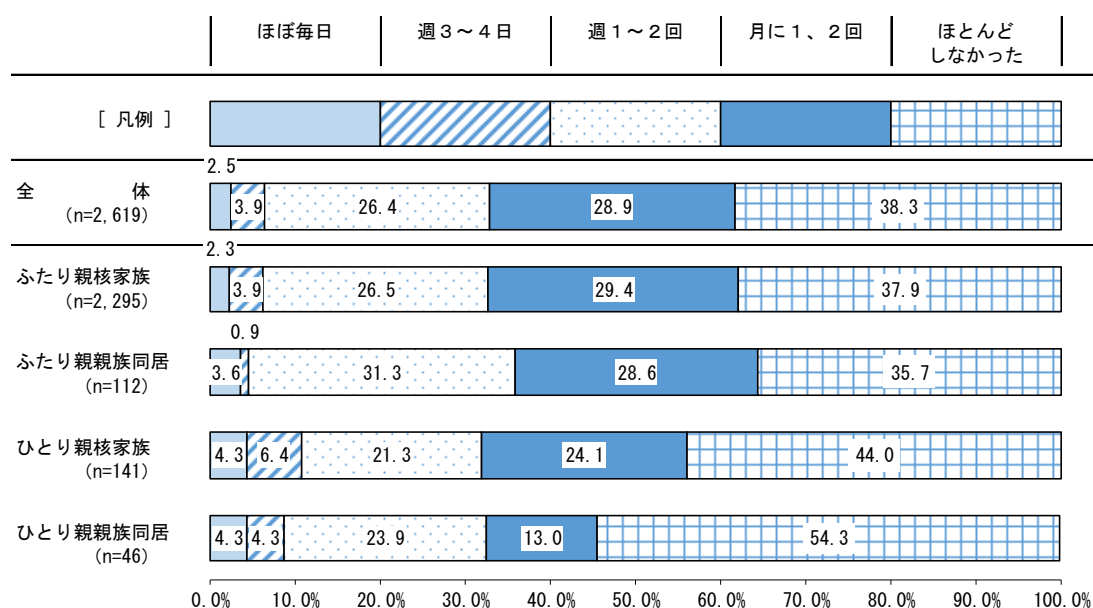
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-378 (ア) 子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ】
(小学校5年生・世帯構成別)



＜前回調査＞【図表 3-379 (ア) 子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ】
(小学校5年生・世帯構成別)



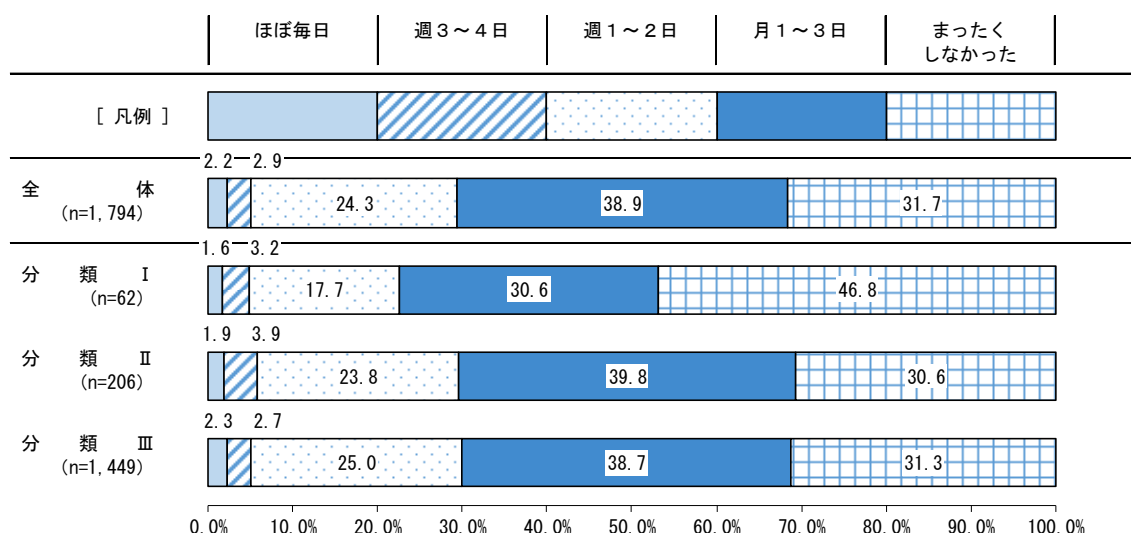
所得分類別にみると、「週１～２日」は『分類Ⅰ』が 17.7%と全体に比べて低く、「月１～３日」は『分類Ⅰ』が 30.6%と、全体に比べて低くなっている。「まったくしなかった」は『分類Ⅰ』が 46.8%と、全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「ほぼ毎日」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、「週１～２日」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。「まったくしなかった」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高く、『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』は前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

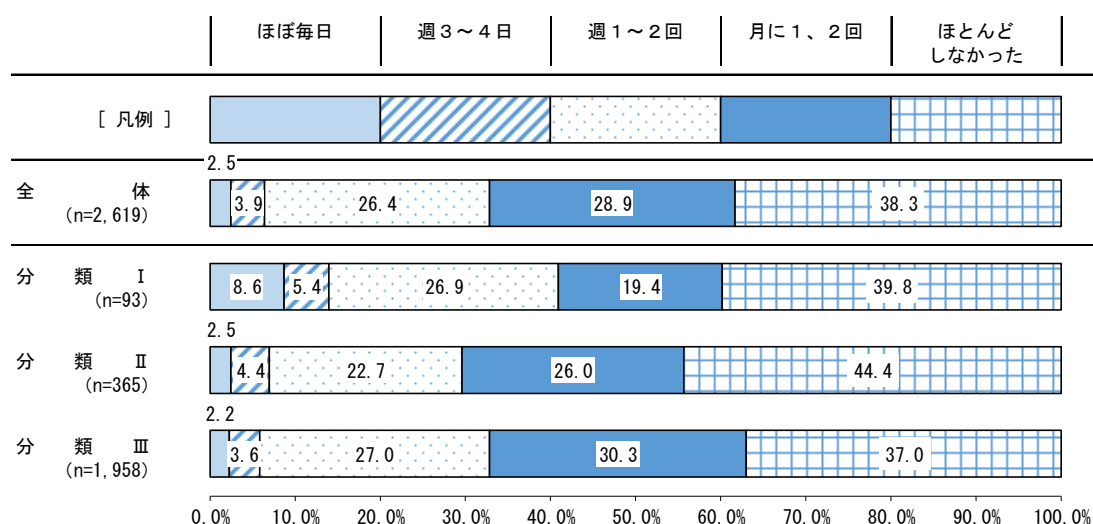
＜今回調査＞【図表 3-380 (ア) 子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ】

(小学校５年生・所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-381 (ア) 子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ】

(小学校５年生・所得分類別)



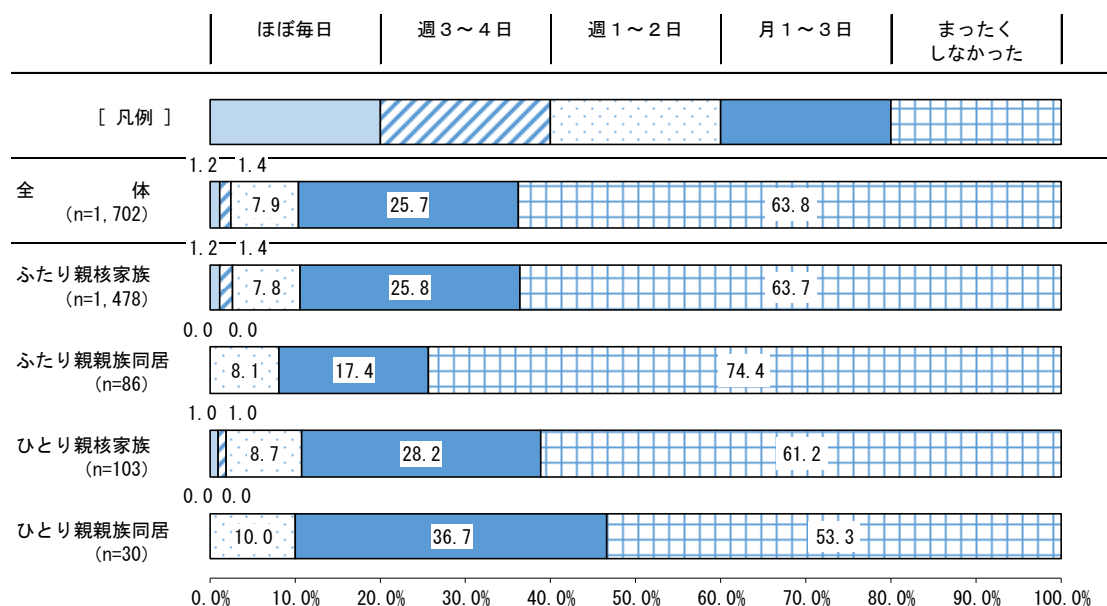
中学校2年生のいる世帯の子どもとの過ごし方について、『子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ』を世帯構成別にみると、「月1～3日」は『ふたり親親族同居』が17.4%と全体に比べて低くなっている。「まったくしなかった」は『ふたり親親族同居』が74.4%と全体に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査では中学校2年生保護者への設問はない。

<今回調査>【図表 3-382 (ア) 子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ】

(中学校2年生・世帯構成別)

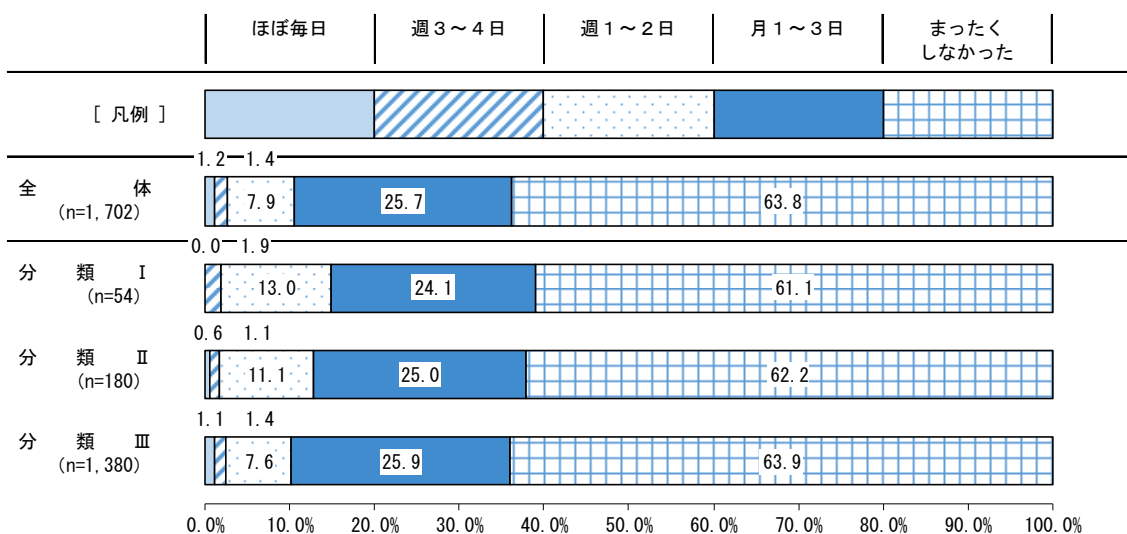


所得分類別にみると、「週1～2日」は『分類Ⅰ』が13.0%と全体に比べて高くなっている。

なお、前回調査では中学校2年生保護者への設問はない。

<今回調査>【図表 3-383 (ア) 子どもと一緒に、からだを動かして遊んだ】

(中学校2年生・所得分類別)



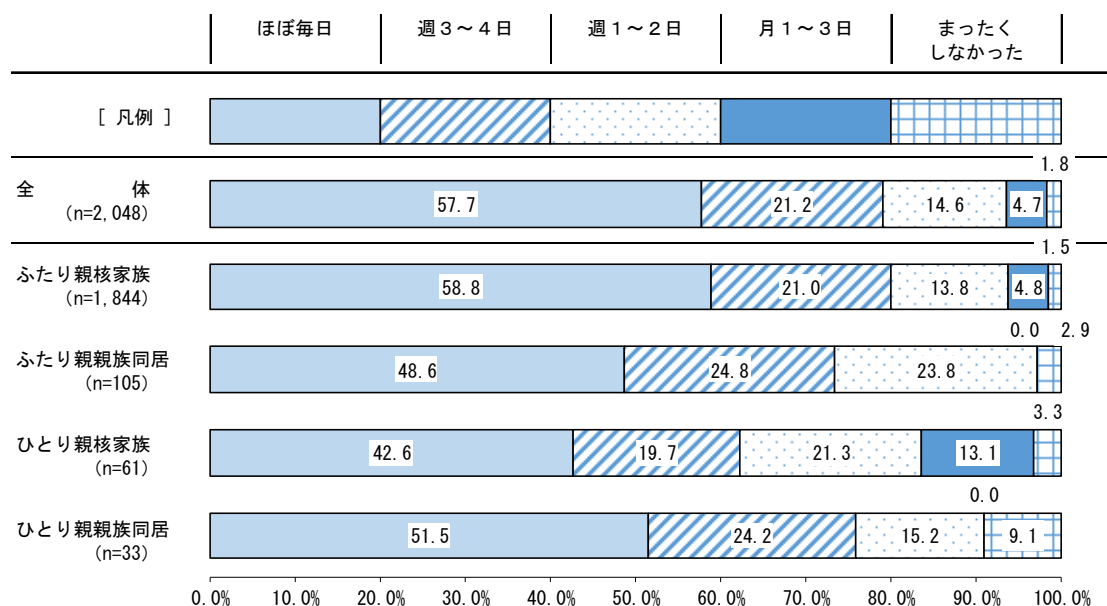
小学校2年生のいる世帯の子どもとの過ごし方について、『宿題など、子どもの勉強を見た』を世帯構成別にみると、「ほぼ毎日」は『ふたり親親族同居』が48.6%、『ひとり親核家族』が42.6%と全体に比べて低くなっている。「週1～2日」は『ふたり親親族同居』が23.8%、『ひとり親核家族』が21.3%と全体に比べて高く、「月1～3日」は『ひとり親核家族』が13.1%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「ほぼ毎日」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、「週3～4日」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「週1～2日」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。

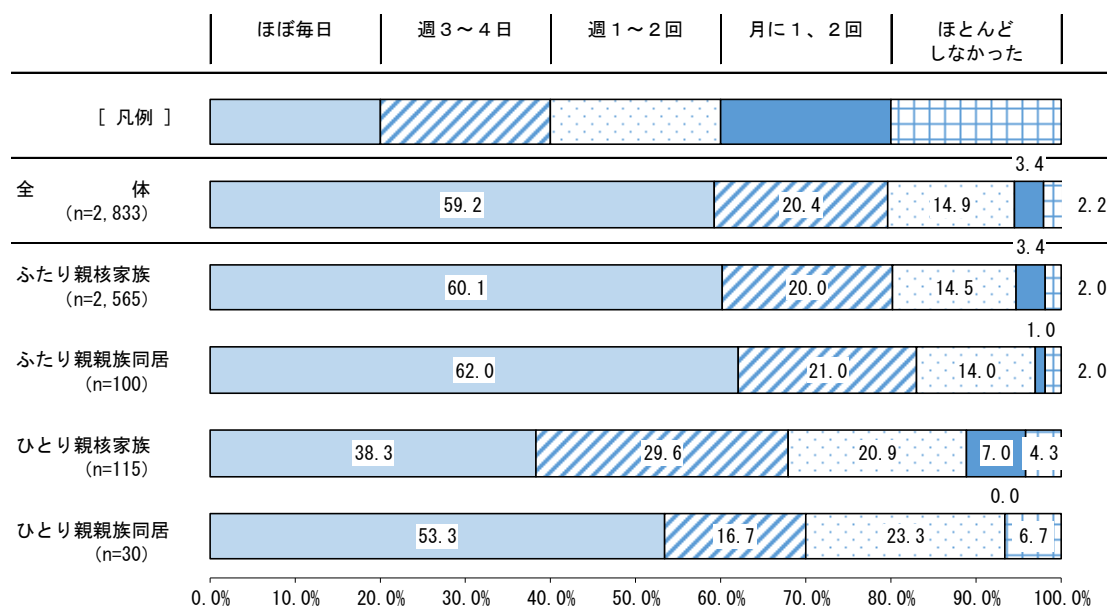
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 3-384 (イ) 宿題など、子どもの勉強を見た】
(小学校2年生・世帯構成別)



<前回調査>【図表 3-385 (イ) 宿題など、子どもの勉強を見た】
(小学校2年生・世帯構成別)



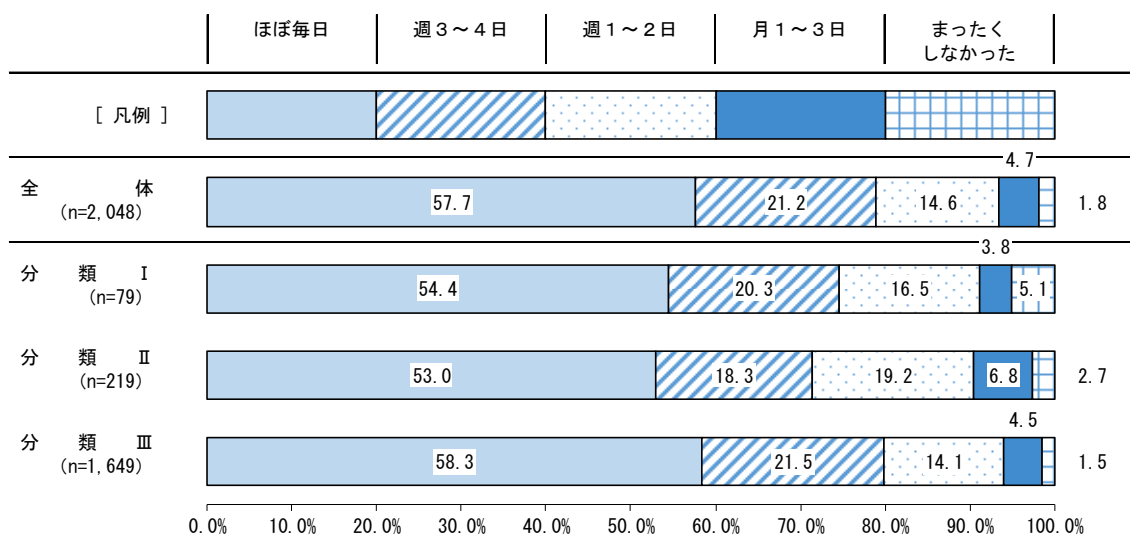
所得分類別にみると、大きな差はみられない。

経年でみると、「ほぼ毎日」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高く、「週１～２日」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

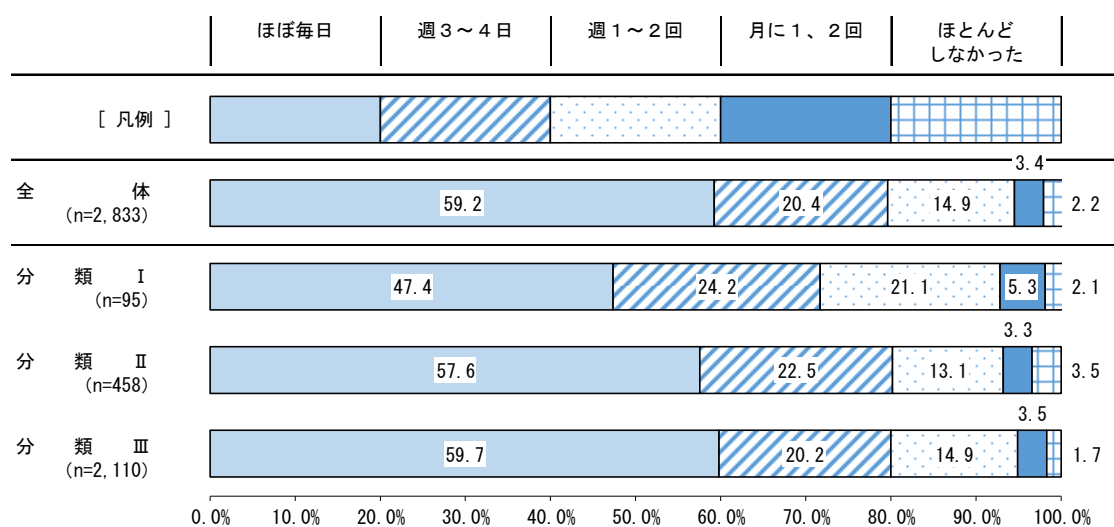
<今回調査>【図表 3-386 (イ)宿題など、子どもの勉強を見た】

(小学校２年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-387 (イ)宿題など、子どもの勉強を見た】

(小学校２年生・所得分類別)



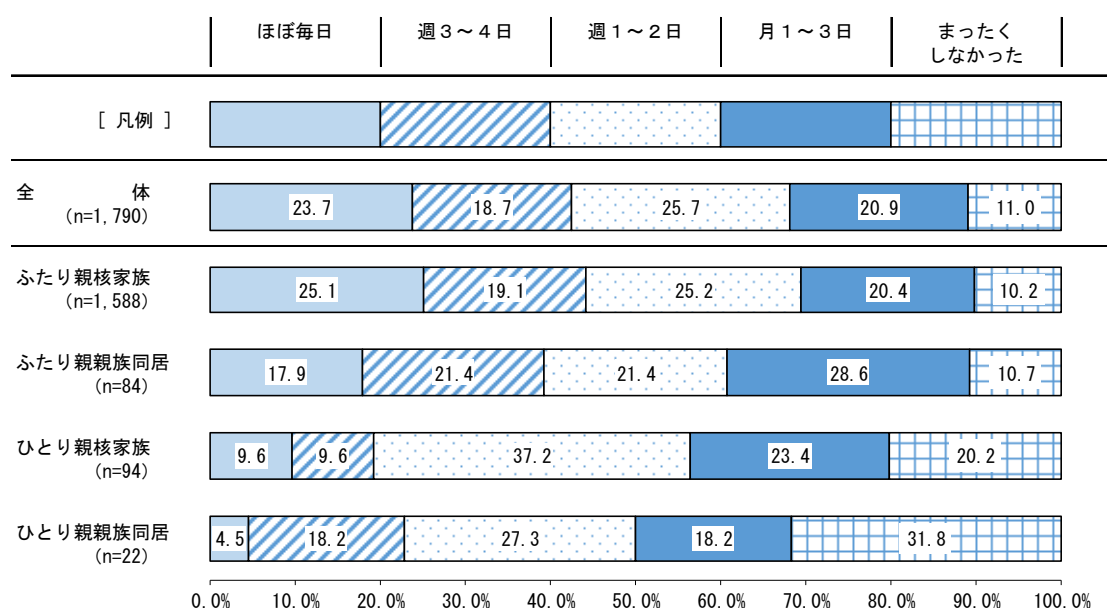
小学校5年生のいる世帯の子どもとの過ごし方について、『宿題など、子どもの勉強を見た』を世帯構成別にみると、「ほぼ毎日」は『ふたり親親族同居』が17.9%、『ひとり親核家族』が9.6%と全体に比べて低くなっている。「週3～4日」は『ひとり親核家族』が9.6%と全体に比べて低くなっている。「週1～2日」は『ひとり親核家族』が37.2%と全体に比べて高く、「月1～3日」は『ふたり親親族同居』が28.6%と全体に比べて高く、「まったくしなかった」は『ひとり親核家族』が20.2%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「ほぼ毎日」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「週1～2日」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

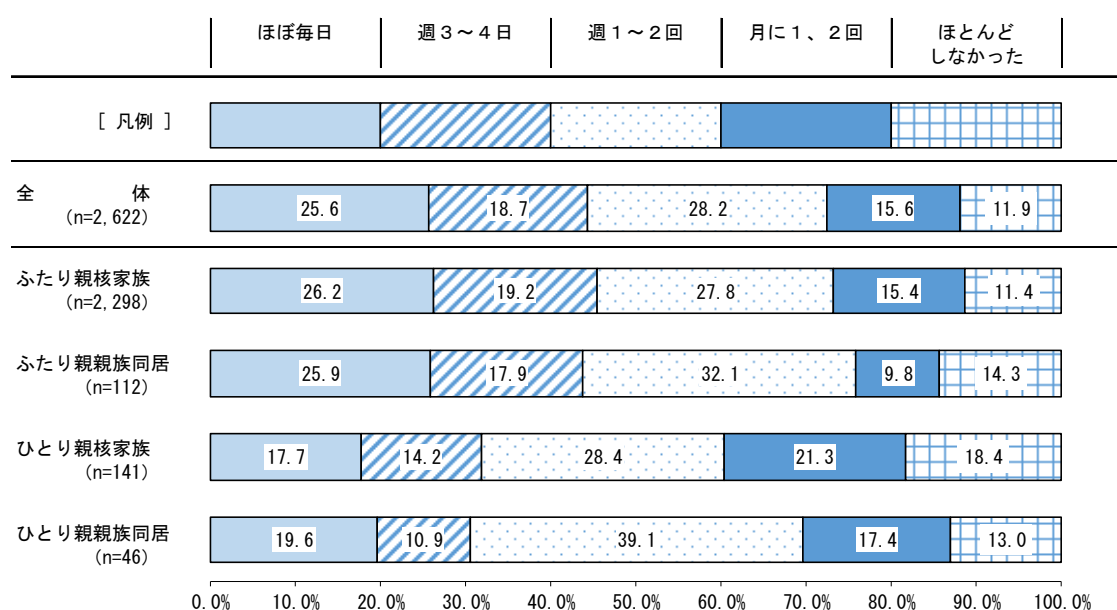
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-388 (イ) 宿題など、子どもの勉強を見た】
(小学校5年生・世帯構成別)



＜前回調査＞【図表 3-389 (イ) 宿題など、子どもの勉強を見た】
(小学校5年生・世帯構成別)



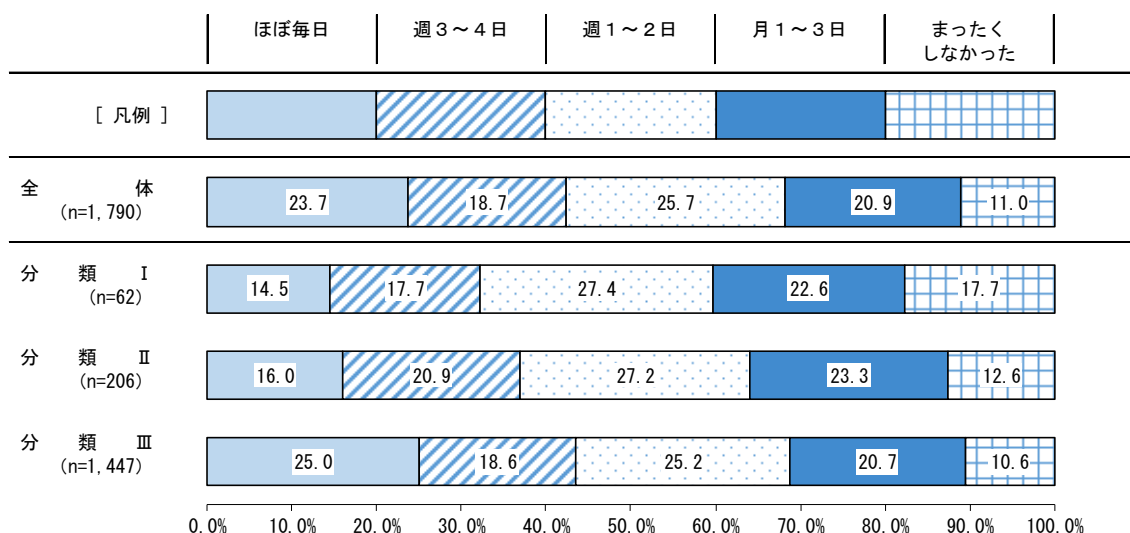
所得分類別にみると、「ほぼ毎日」は『分類Ⅰ』が14.5%、『分類Ⅱ』が16.0%と全体に比べて低くなっている。「まったくしなかった」は『分類Ⅰ』が17.7%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「ほぼ毎日」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。「週1～2日」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

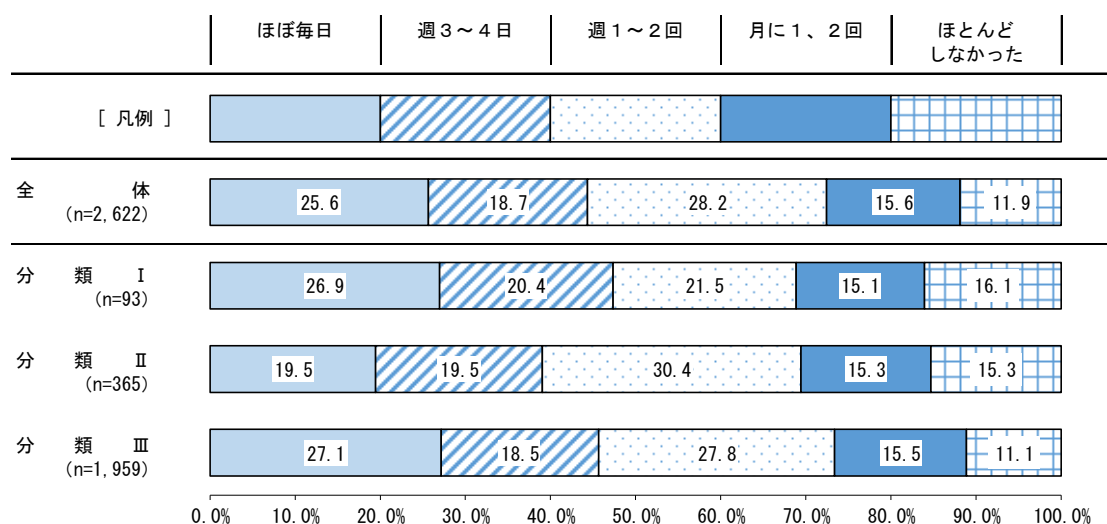
<今回調査>【図表 3-390 (イ) 宿題など、子どもの勉強を見た】

(小学校5年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-391 (イ) 宿題など、子どもの勉強を見た】

(小学校5年生・所得分類別)



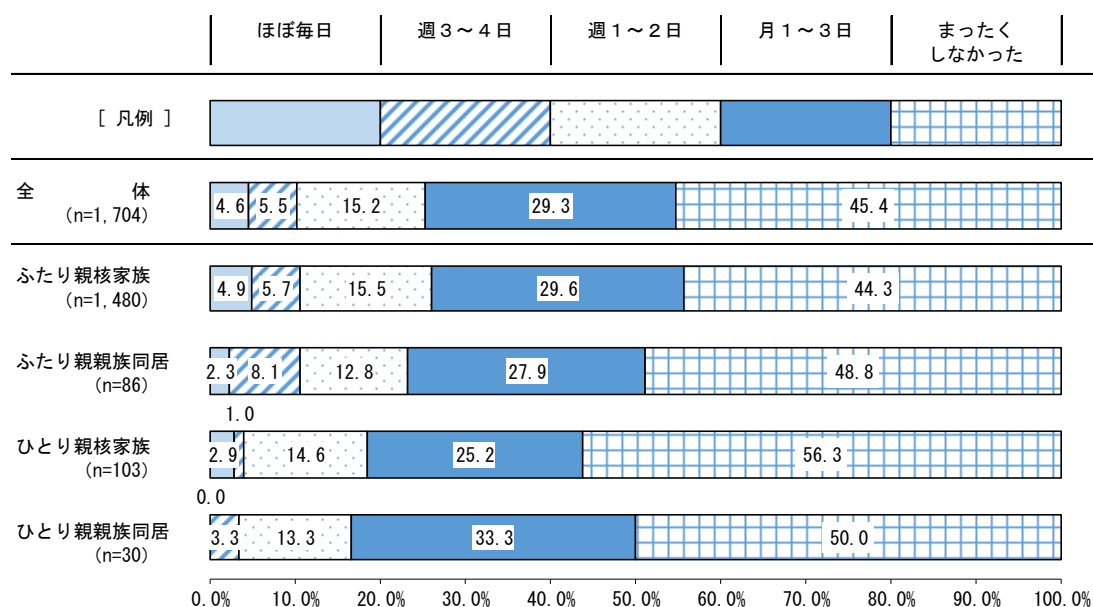
中学校2年生のいる世帯の子どもとの過ごし方について、『宿題など、子どもの勉強を見た』を世帯構成別にみると、「まったくしなかった」は『ひとり親核家族』が56.3%と全体と比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査では中学校2年生保護者への設問はない。

<今回調査>【図表 3-392 (イ) 宿題など、子どもの勉強を見た】

(中学校2年生・世帯構成別)

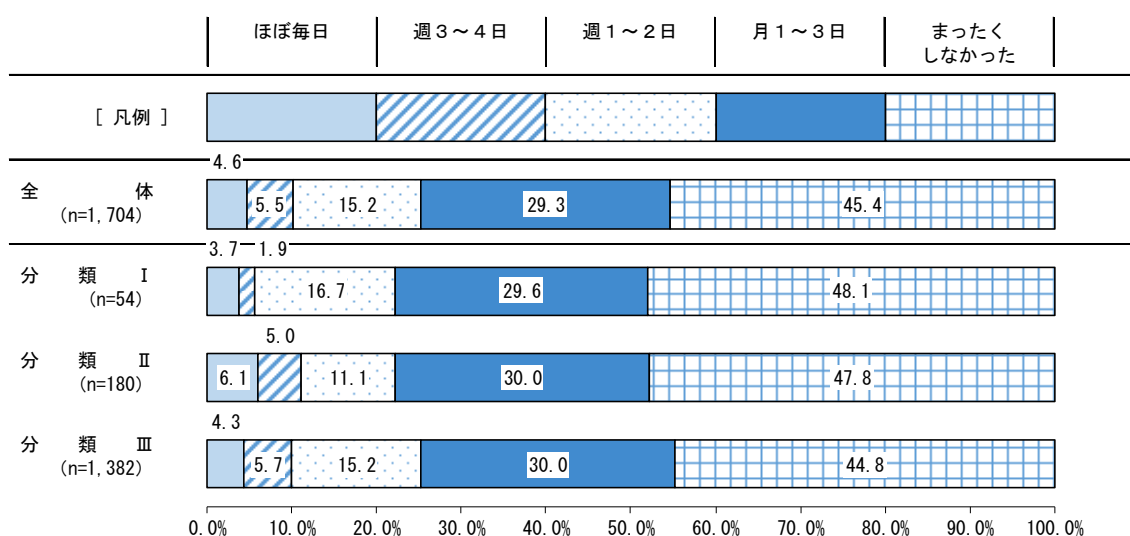


所得分類別にみると、大きな差はみられない。

なお、前回調査では中学校2年生保護者への設問はない。

<今回調査>【図表 3-393 (イ) 宿題など、子どもの勉強を見た】

(中学校2年生・所得分類別)



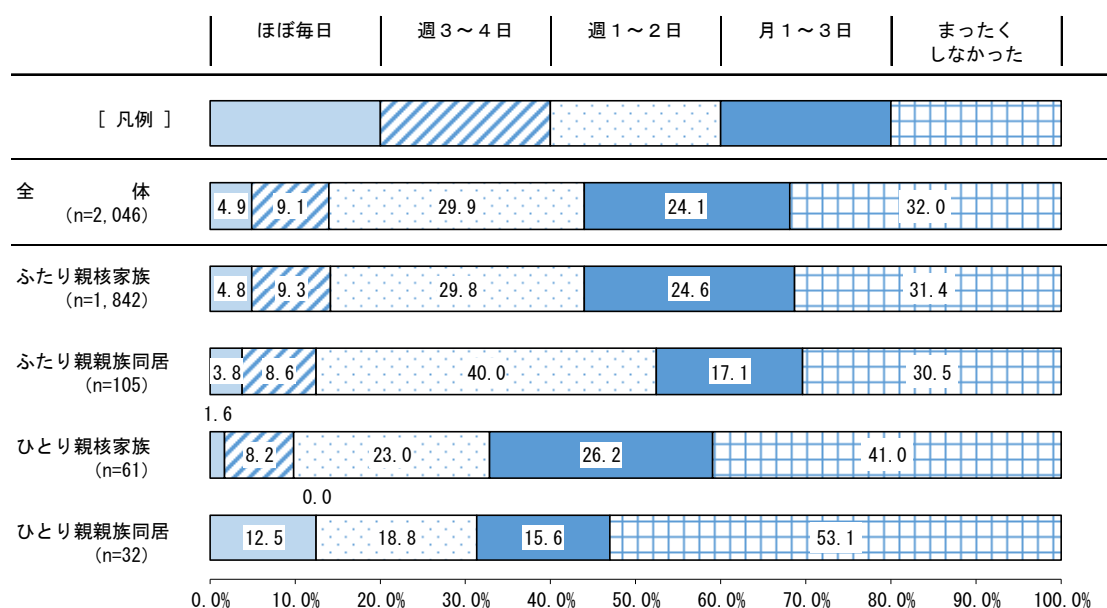
小学校2年生のいる世帯の子どもとの過ごし方について、『子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ』を世帯構成別にみると、「週1～2日」は『ふたり親親族同居』が40.0%と全体に比べて高く、『ひとり親核家族』が23.0%と全体に比べて低く、「月1～3日」は『ふたり親親族同居』が17.1%と全体に比べて低くなっている。「まったくしなかった」は『ひとり親核家族』が41.0%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「週1～2日」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高く、『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「まったくしなかった」は『ふたり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。

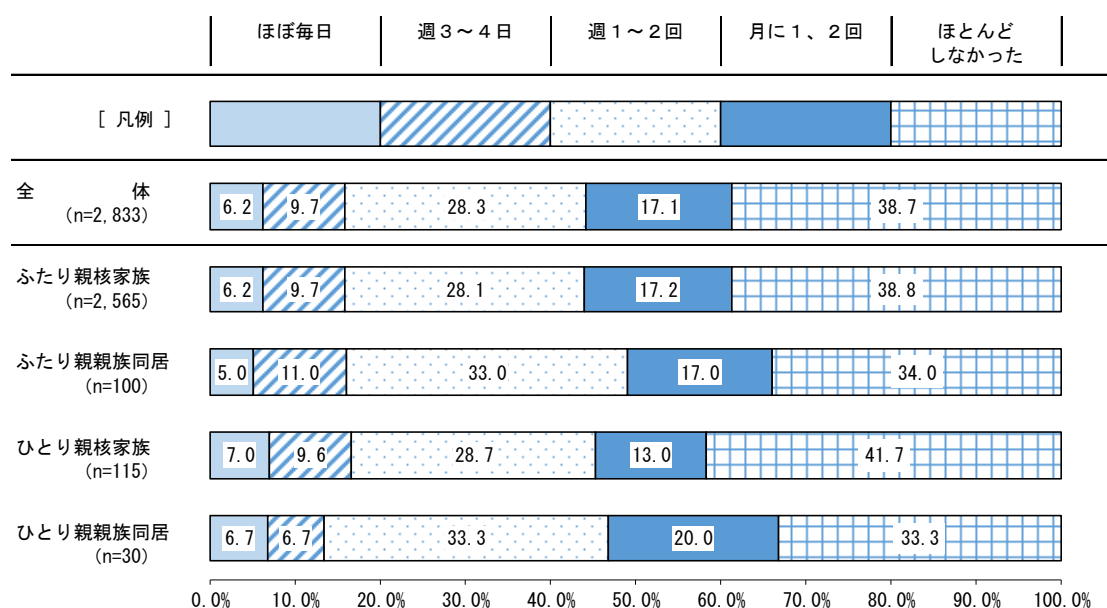
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-394 (ウ) 子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ】
(小学校2年生・世帯構成別)



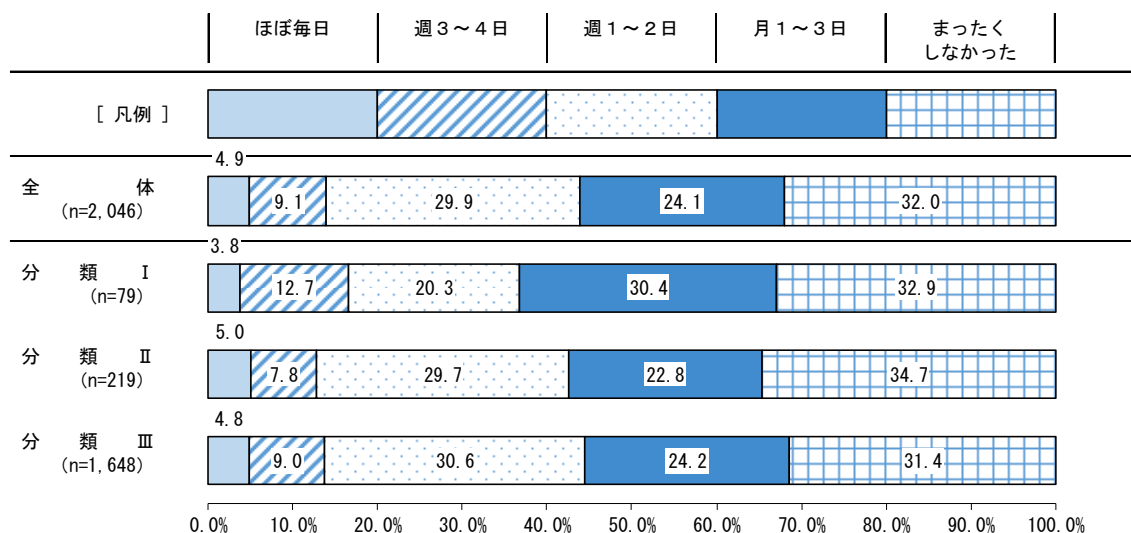
＜前回調査＞【図表 3-395 (ウ) 子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ】
(小学校2年生・世帯構成別)



所得分類別にみると、「週1～2日」は『分類Ⅰ』が20.3%と全体に比べて低くなっている。
「月1～3日」は『分類Ⅰ』が30.4%と全体に比べて高くなっている。
経年でみると、「まったくしなかった」は『分類Ⅰ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低くなっている。
なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

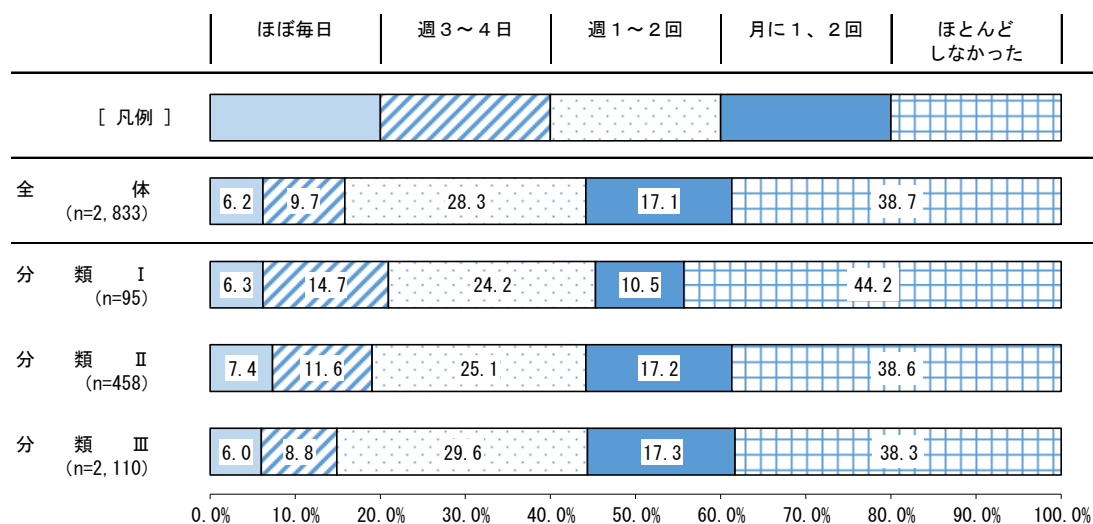
＜今回調査＞【図表 3-396 (ウ) 子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ】

(小学校2年生・所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-397 (ウ) 子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ】

(小学校2年生・所得分類別)

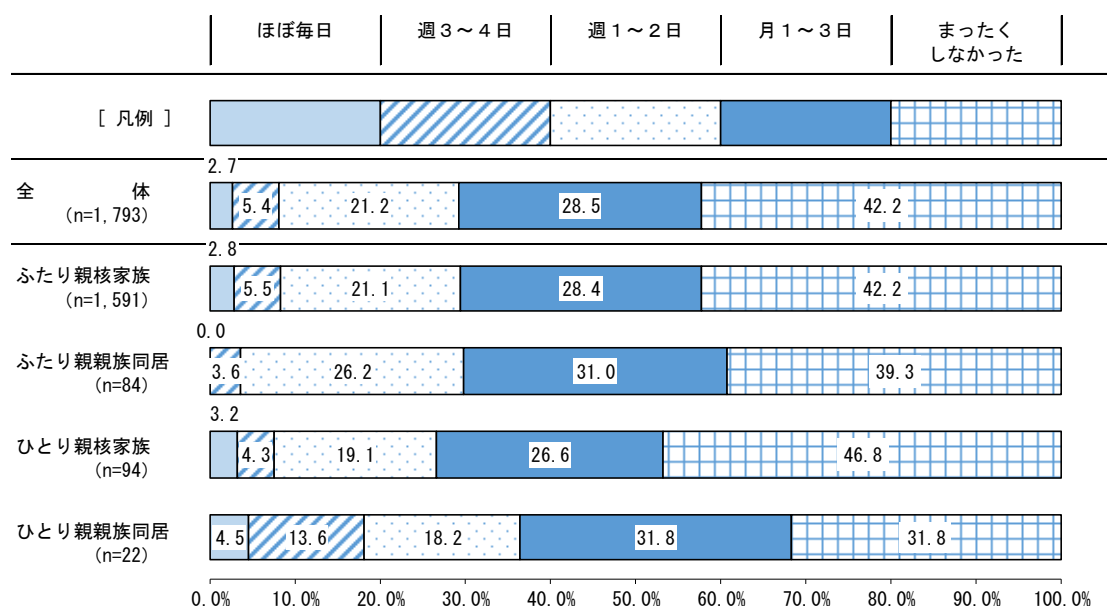


小学校5年生のいる世帯の子どもとの過ごし方について、『子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ』を世帯構成別にみると、「週1～2日」は『ふたり親親族同居』が26.2%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「週1～2日」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高く、「まったくしなかった」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。
 なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。
 前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

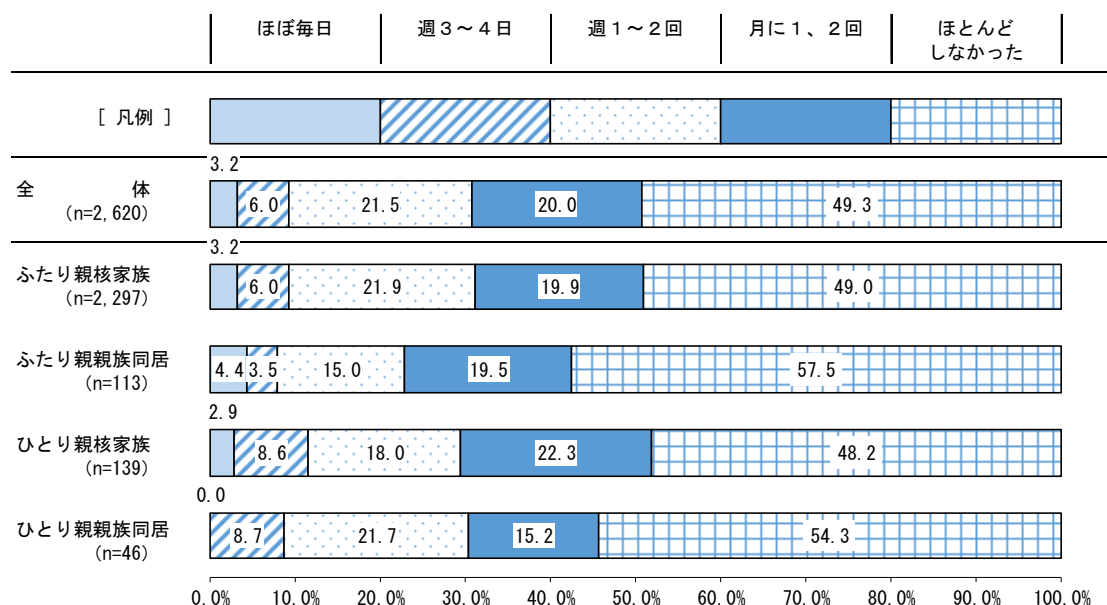
＜今回調査＞【図表 3-398 (ウ) 子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ】

(小学校5年生・世帯構成別)



＜前回調査＞【図表 3-399 (ウ) 子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ】

(小学校5年生・世帯構成別)



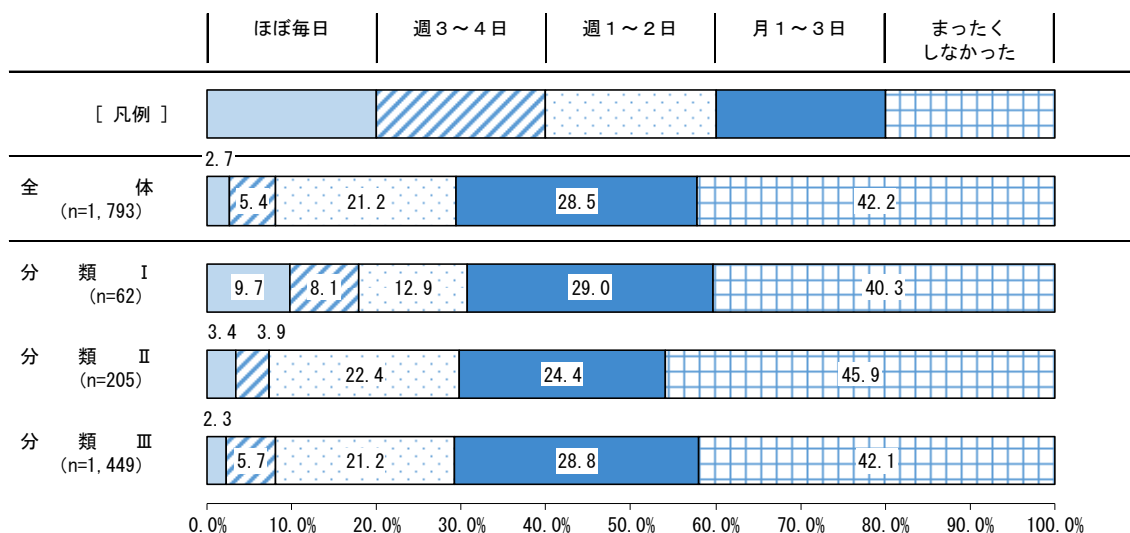
所得分類別にみると、「ほぼ毎日」は『分類Ⅰ』が 9.7%と全体に比べて高く、「週 1～2 日」は『分類Ⅰ』が 12.9%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「週 1～2 日」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。「まったくしなかった」は『分類Ⅰ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

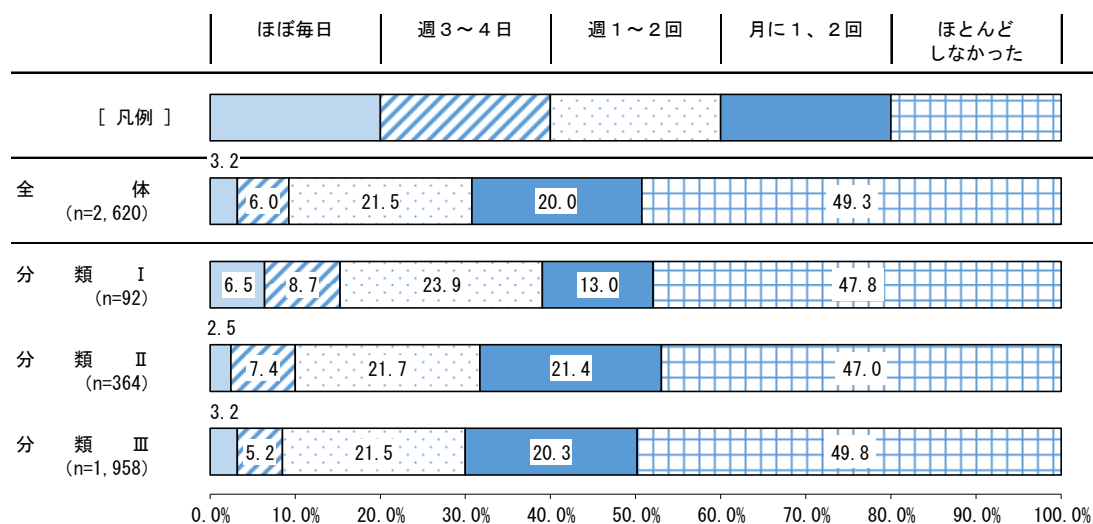
＜今回調査＞【図表 3-400 (ウ) 子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ】

(小学校 5 年生・所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-401 (ウ) 子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ】

(小学校 5 年生・所得分類別)



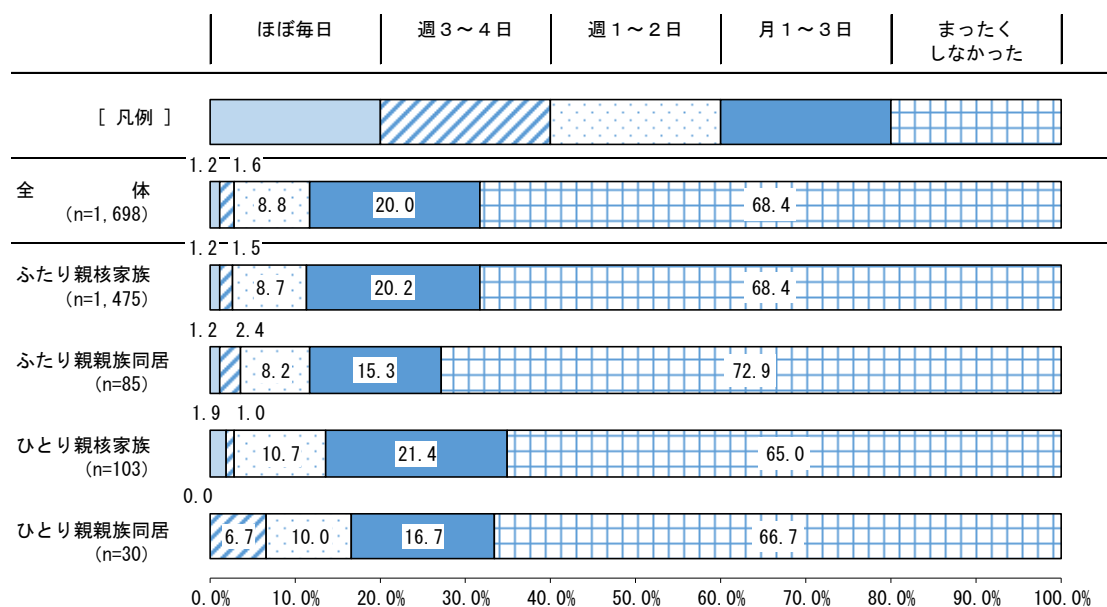
中学校2年生のいる世帯の子どもとの過ごし方について、『子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ』を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査では中学校2年生保護者への設問はない。

＜今回調査＞【図表 3-402 (ウ) 子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ】

(中学校2年生・世帯構成別)

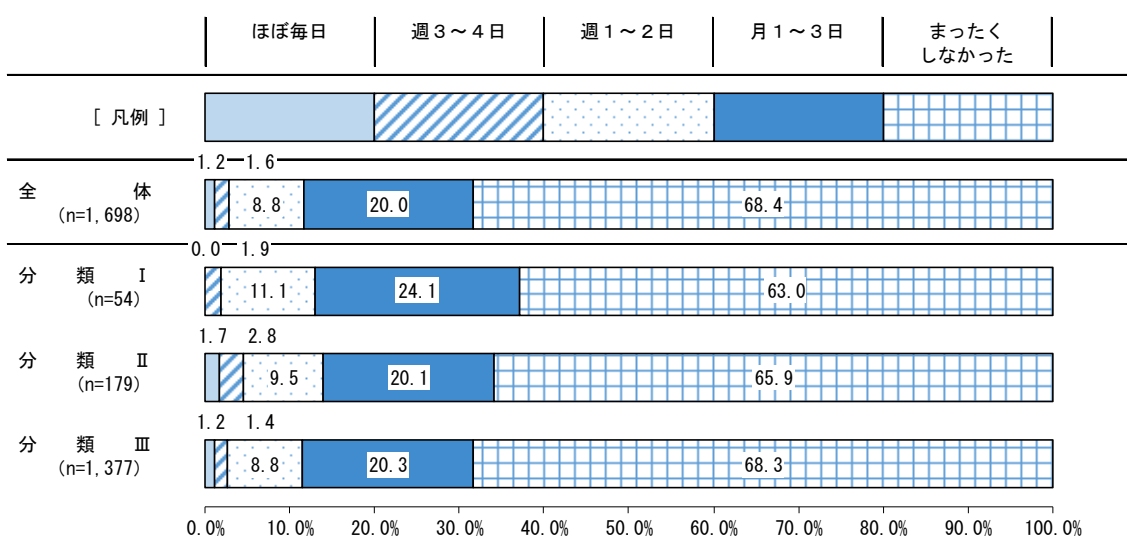


所得分類別にみると、「まったくしなかった」は『分類Ⅰ』が63.0%と全体に比べて低くなっている。

なお、前回調査では中学校2年生保護者への設問はない。

＜今回調査＞【図表 3-403 (ウ) 子どもと一緒に、テレビゲームなどで遊んだ】

(中学校2年生・所得分類別)



小学校2年生のいる世帯の子どもとの過ごし方について、『子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした』を世帯構成別にみると、「ほぼ毎日」は『ふたり親親族同居』が70.5%と全体に比べて低くなっている。

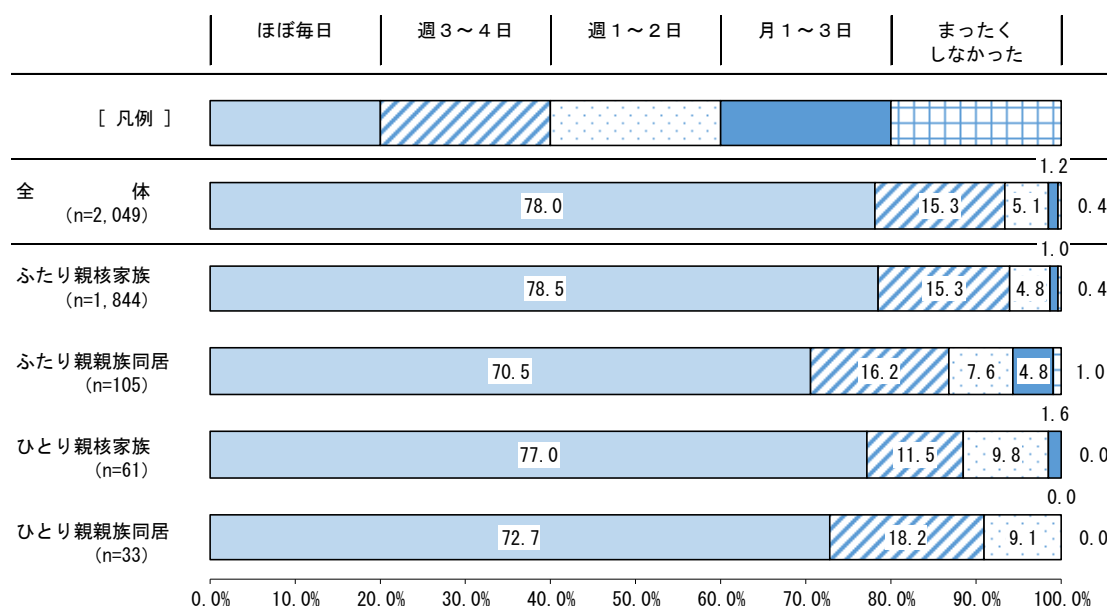
経年でみると、「ほぼ毎日」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、「週3～4日」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

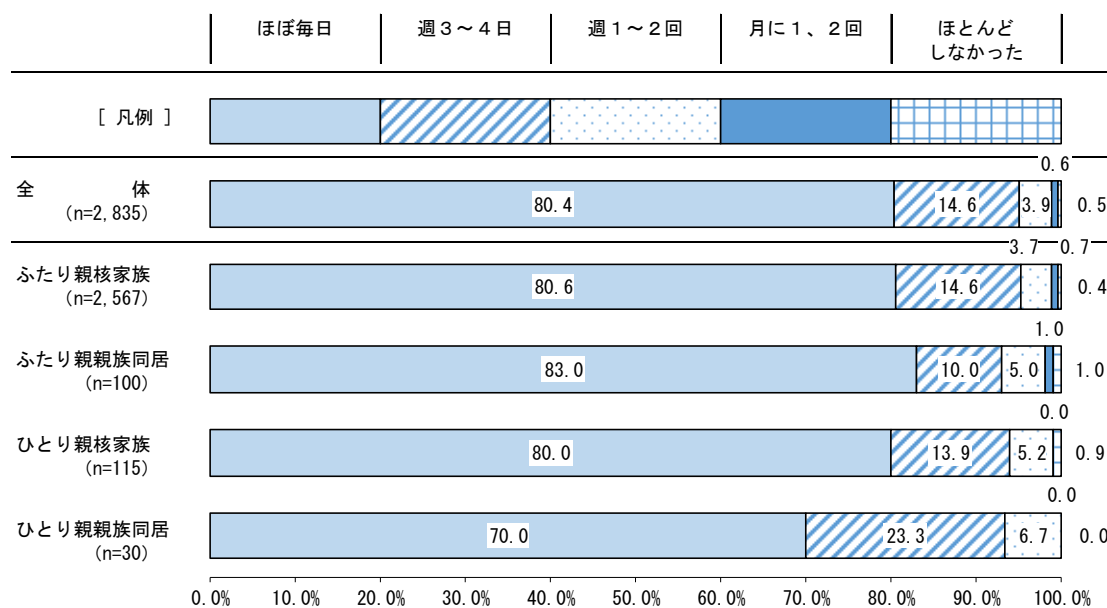
＜今回調査＞【図表 3-404 (エ) 子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした】

(小学校2年生・世帯構成別)



＜前回調査＞【図表 3-405 (エ) 子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした】

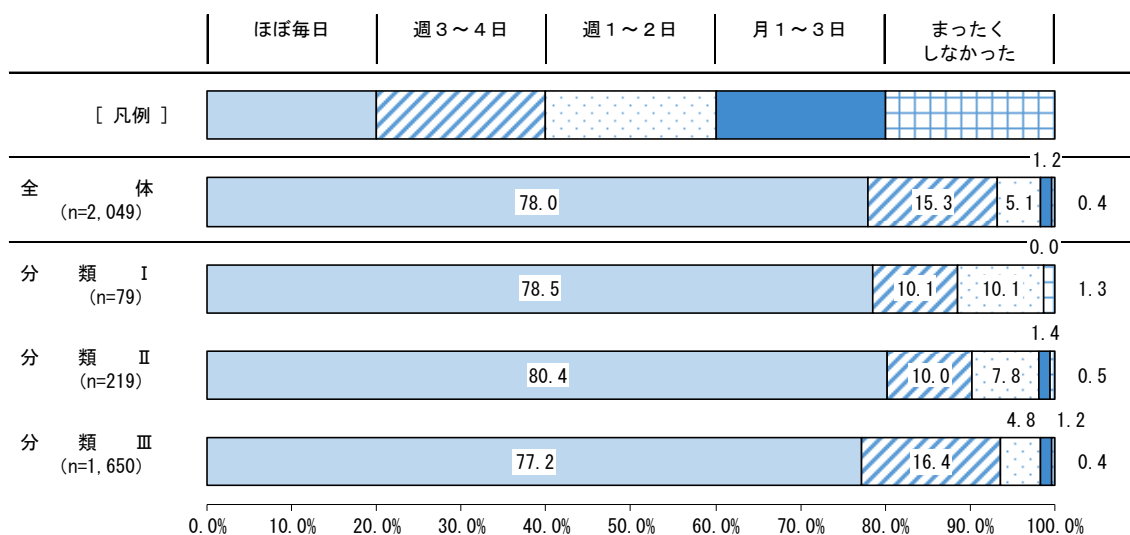
(小学校2年生・世帯構成別)



所得分類別にみると、「週3～4日」は『分類Ⅰ』が10.1%、『分類Ⅱ』が10.0%と全体に比べて低くなっている。「週1～2日」は『分類Ⅰ』が10.1%と全体に比べて高くなっている。経年でみると、「週3～4日」は『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低くなっている。なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

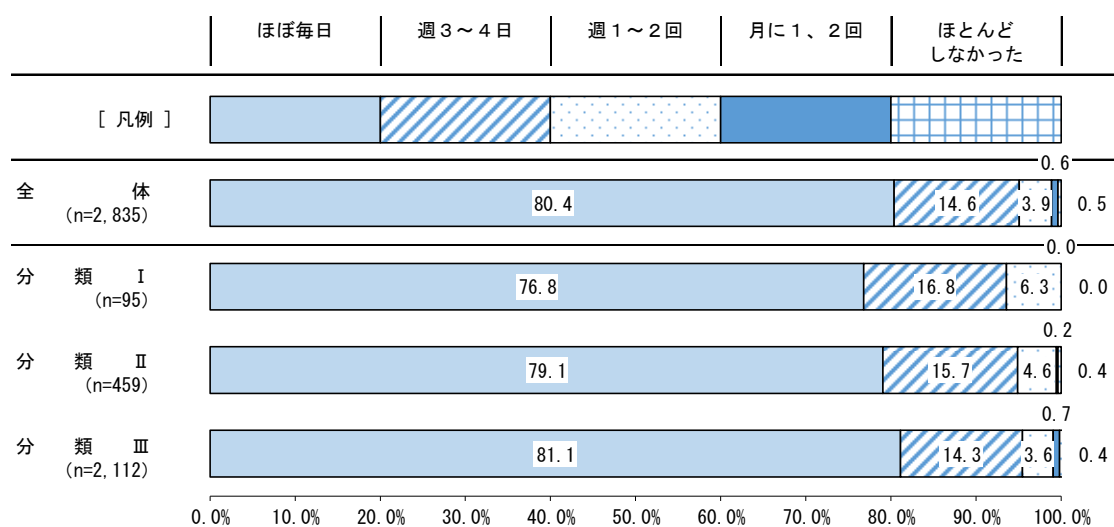
<今回調査>【図表 3-406 (エ) 子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした】

(小学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-407 (エ) 子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした】

(小学校2年生・所得分類別)



小学校5年生のいる世帯の子どもとの過ごし方について、『子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした』を世帯構成別にみると、「ほぼ毎日」は『ふたり親親族同居』が64.3%と全体に比べて低くなっている。「週3～4日」は『ふたり親親族同居』が23.8%と、全体に比べて高くなっている。

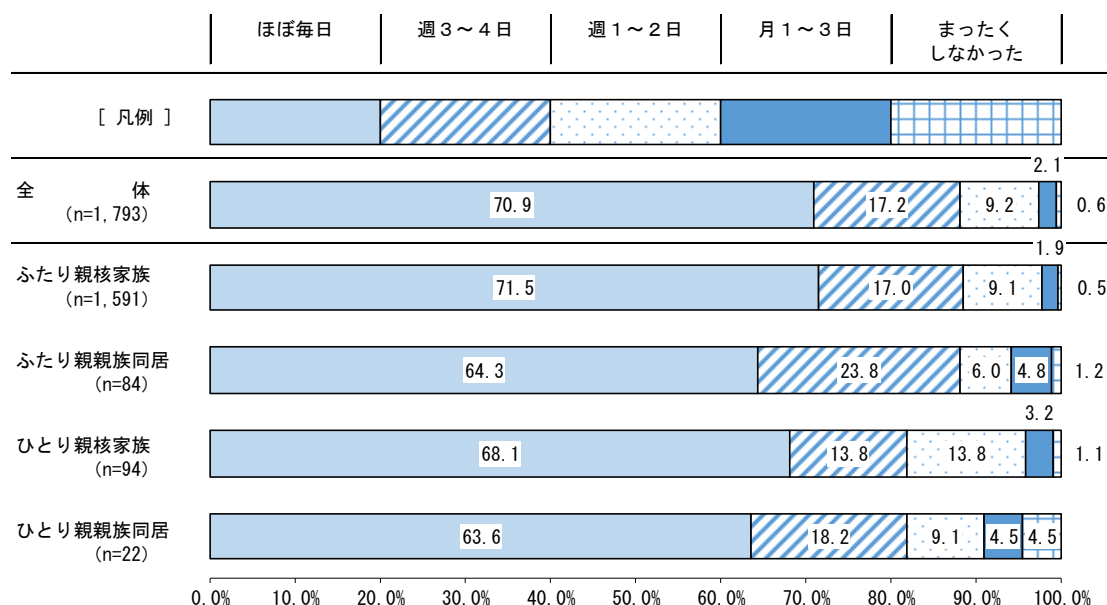
経年でみると、「ほぼ毎日」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。「週3～4日」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高く、『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

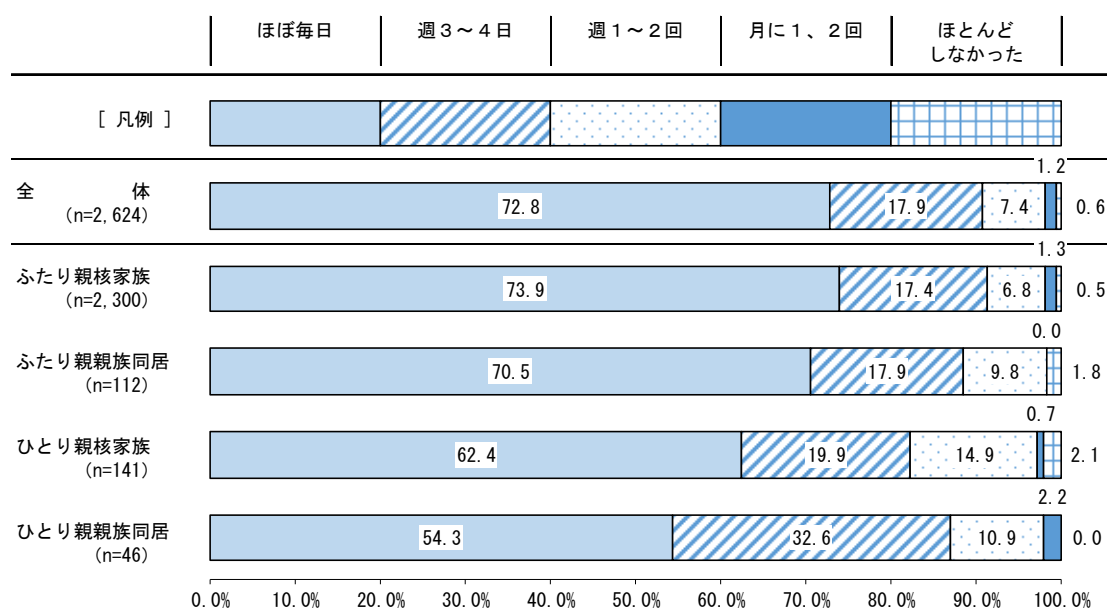
<今回調査>【図表 3-408 (エ) 子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした】

(小学校5年生・世帯構成別)



<前回調査>【図表 3-409 (エ) 子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした】

(小学校5年生・世帯構成別)



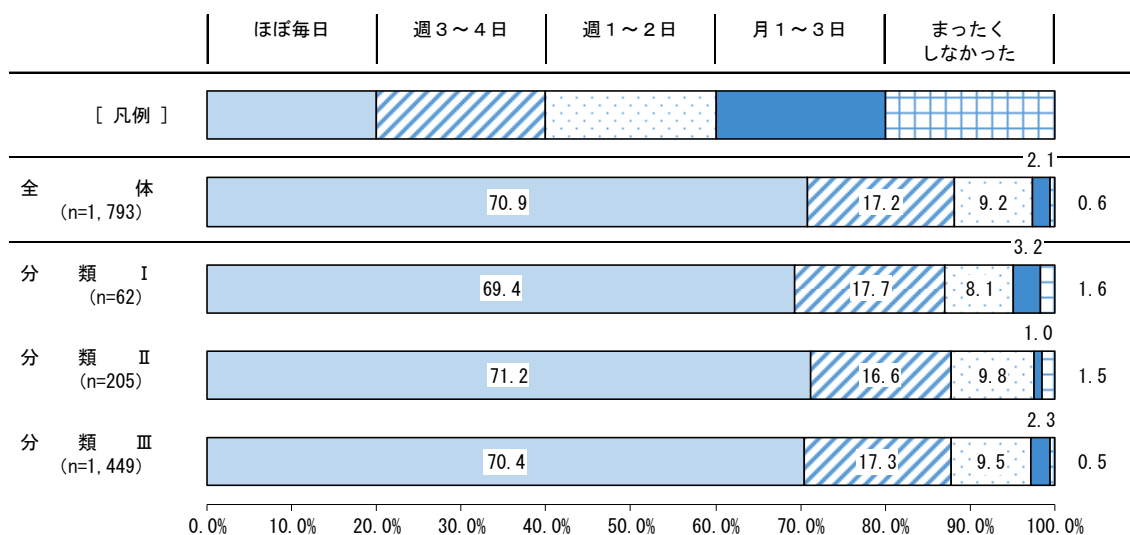
所得分類別にみると、大きな差はみられない。

経年でみると、「ほぼ毎日」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高く、「週3～4日」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

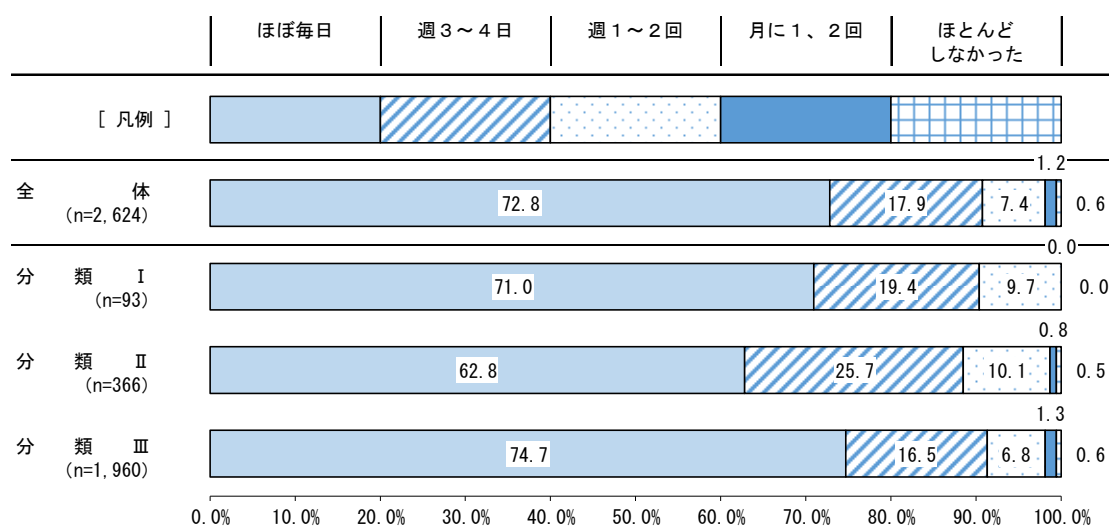
<今回調査>【図表 3-410 (エ) 子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした】

(小学校5年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-411 (エ) 子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした】

(小学校5年生・所得分類別)



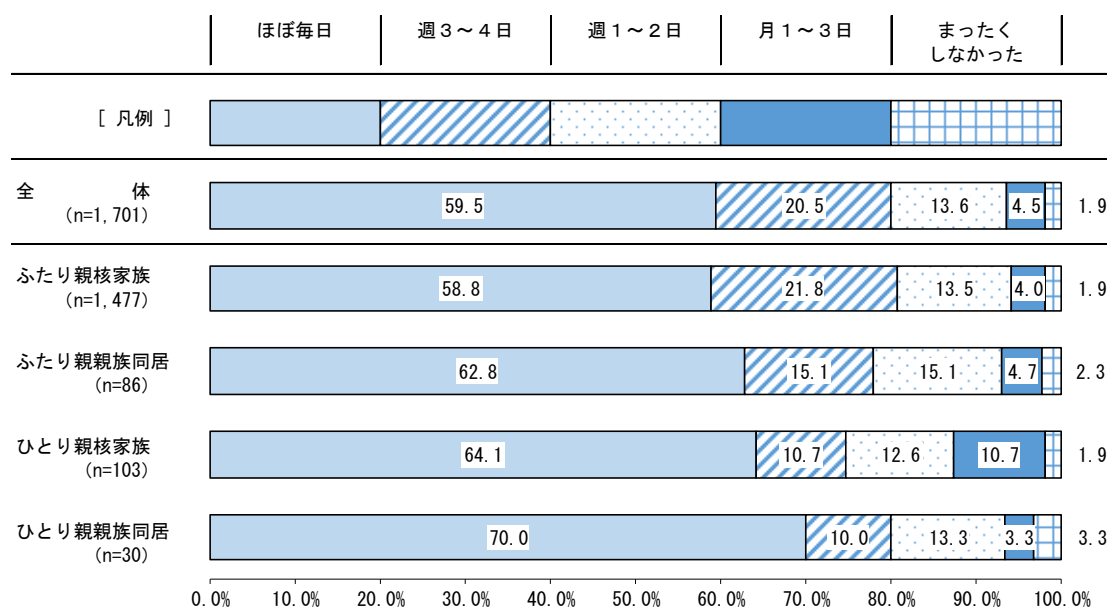
中学校2年生のいる世帯の子どもとの過ごし方について、『子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした』を世帯構成別にみると、「週3～4日」は『ふたり親親族同居』が15.1%、『ひとり親核家族』が10.7%と全体に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査では中学校2年生保護者への設問はない。

<今回調査>【図表 3-412 (エ) 子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした】

(中学校2年生・世帯構成別)

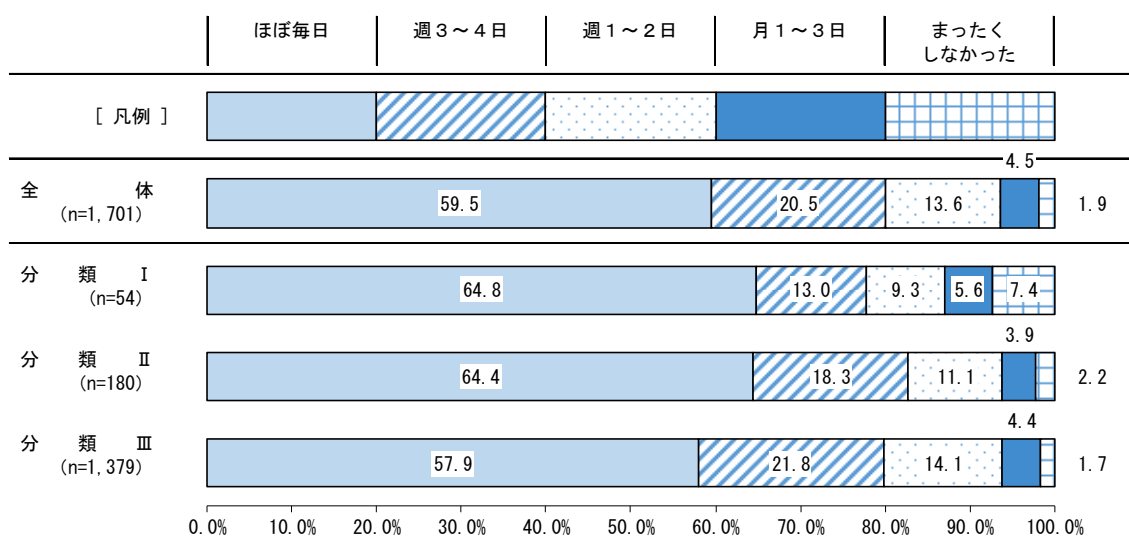


所得分類別にみると、「ほぼ毎日」は『分類Ⅰ』が64.8%と全体に比べて高く、「週3～4日」は『分類Ⅰ』が13.0%と全体に比べて低くなっている。

前回調査では中学校2年生保護者への設問はない。

<今回調査>【図表 3-413 (エ) 子どもと、学校での様子やテレビなどの話をした】

(中学校2年生・所得分類別)



小学校2年生のいる世帯の子どもとの過ごし方について、『料理など、子どもと一緒に家事をした』を世帯構成別にみると、「月1～3日」は『ひとり親核家族』が31.1%と全体に比べて低く、「まったくしなかった」は『ひとり親核家族』が23.0%と全体に比べて高くなっている。

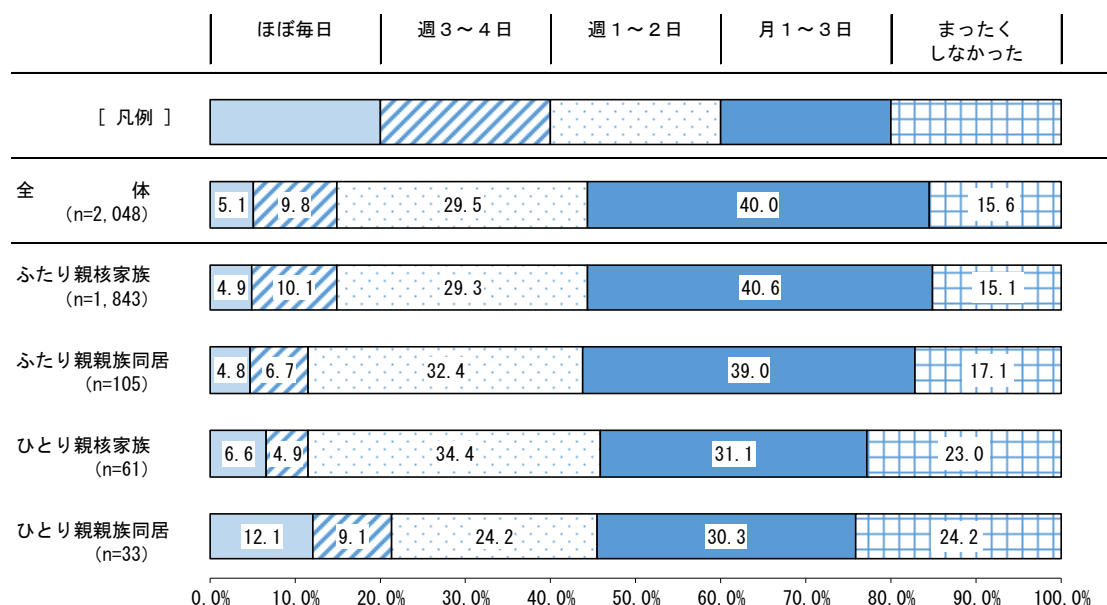
経年でみると、「週3～4日」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「週1～2日」は『ふたり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「まったくしなかった」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

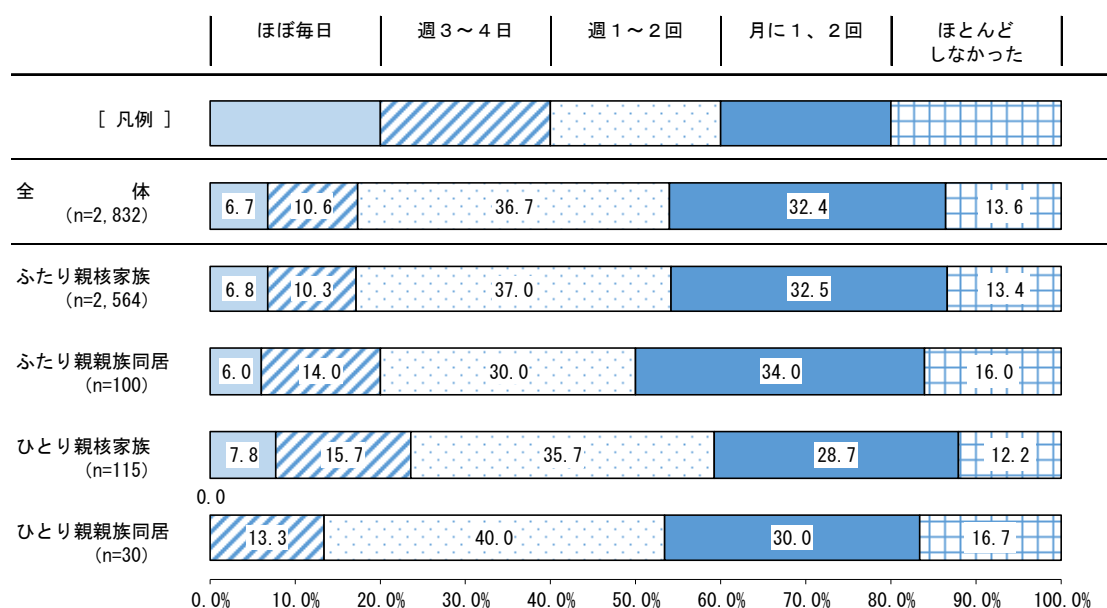
<今回調査>【図表 3-414 (オ) 料理など、子どもと一緒に家事をした】

(小学校2年生・世帯構成別)



<前回調査>【図表 3-415 (オ) 料理など、子どもと一緒に家事をした】

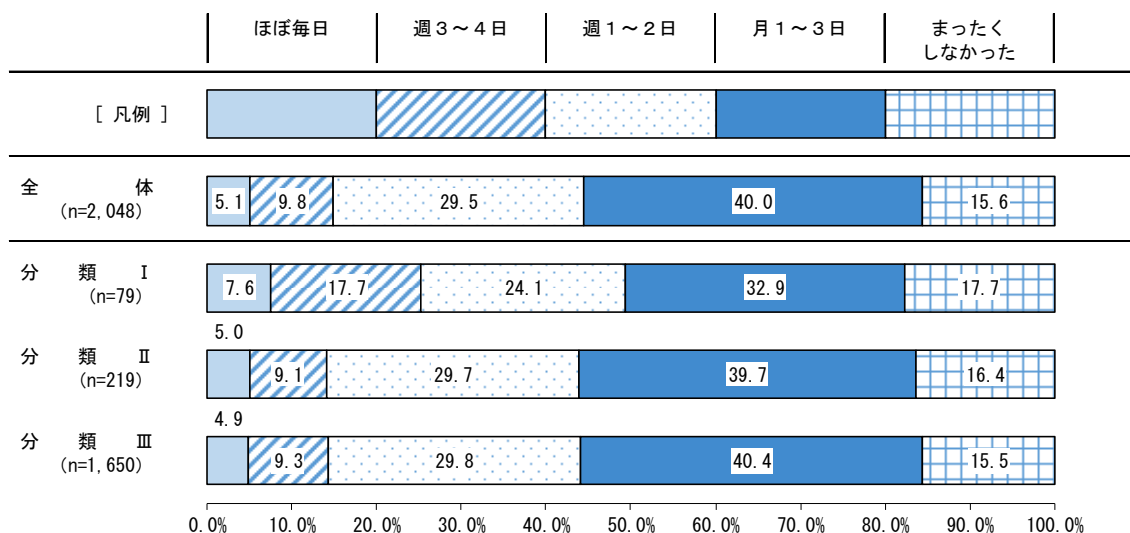
(小学校2年生・世帯構成別)



所得分類別にみると、『分類Ⅰ』では「週3～4日」が17.7%と全体に比べて高く、「週1～2日」が24.1%と全体に比べて低く、「月1～3日」が32.9%と全体に比べて低くなっている。経年でみると、「週1～2日」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて低くなっている。「まったくしなかった」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

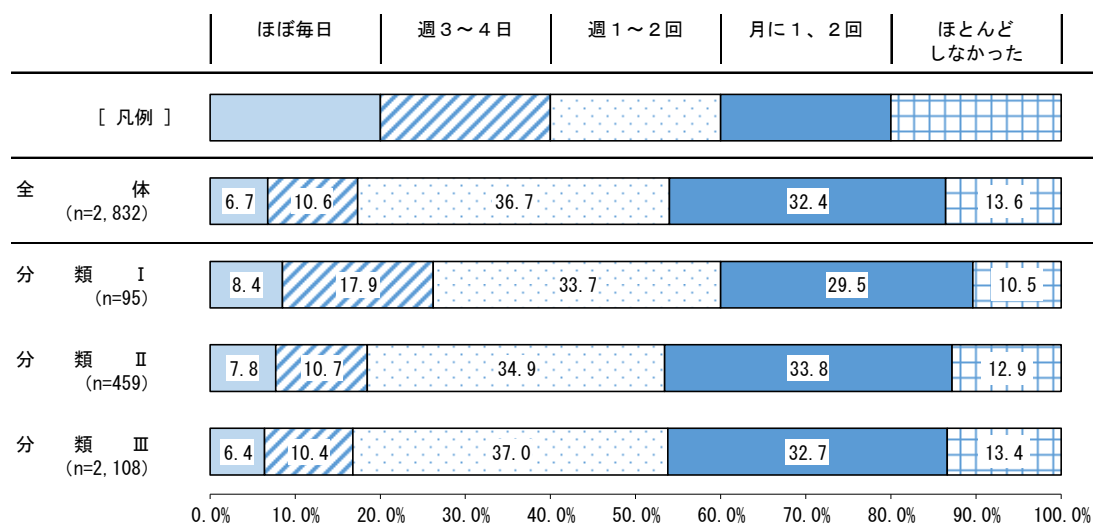
＜今回調査＞【図表 3-416 (オ) 料理など、子どもと一緒に家事をした】

(小学校2年生・所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-417 (オ) 料理など、子どもと一緒に家事をした】

(小学校2年生・所得分類別)



小学校5年生のいる世帯の子どもとの過ごし方について、『料理など、子どもと一緒に家事をした』を世帯構成別にみると、「週3～4日」は『ひとり親核家族』が15.1%と全体に比べて高くなっている。「月1～3日」は『ひとり親核家族』が28.0%と全体に比べて低くなっている。「まったくしなかった」は『ひとり親核家族』が25.8%と全体に比べて高くなっている。

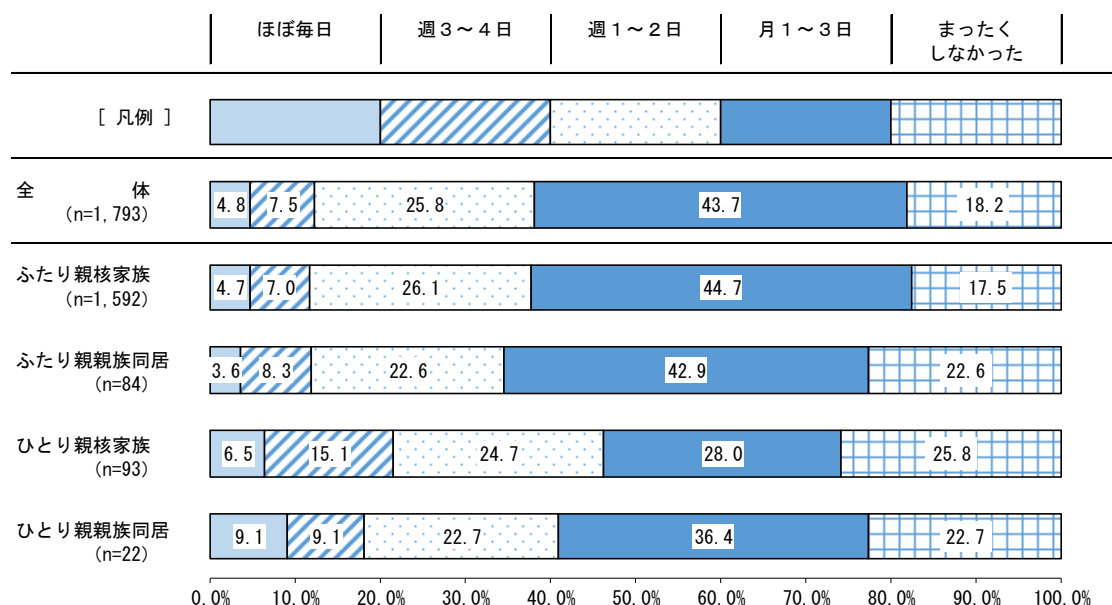
経年でみると、「週1～2日」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。「月1～3日」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

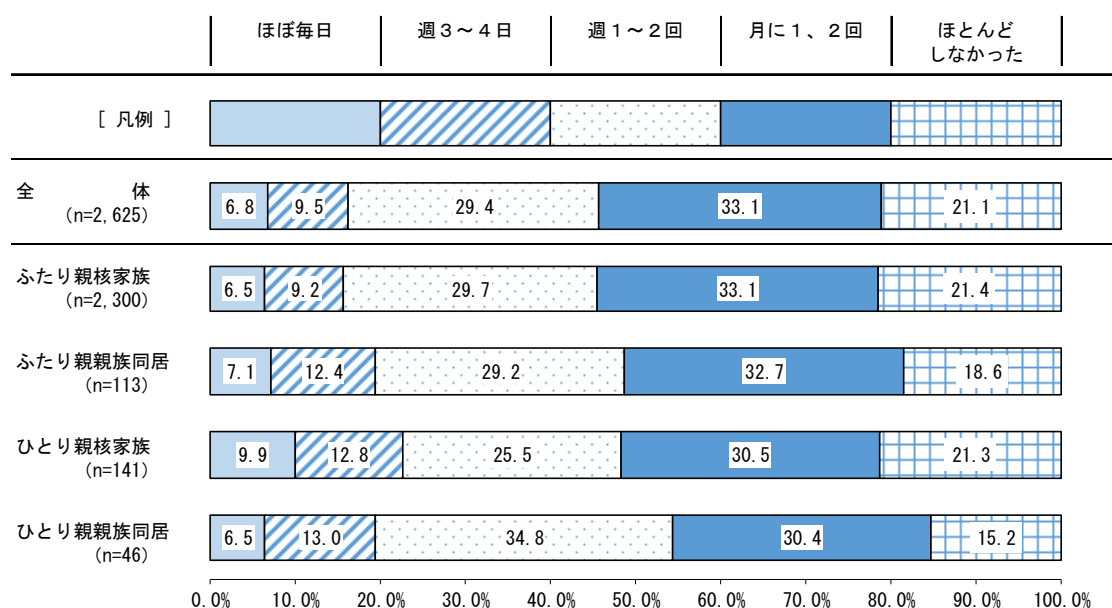
<今回調査>【図表 3-418 (オ) 料理など、子どもと一緒に家事をした】

(小学校5年生・世帯構成別)



<前回調査>【図表 3-419 (オ) 料理など、子どもと一緒に家事をした】

(小学校5年生・世帯構成別)



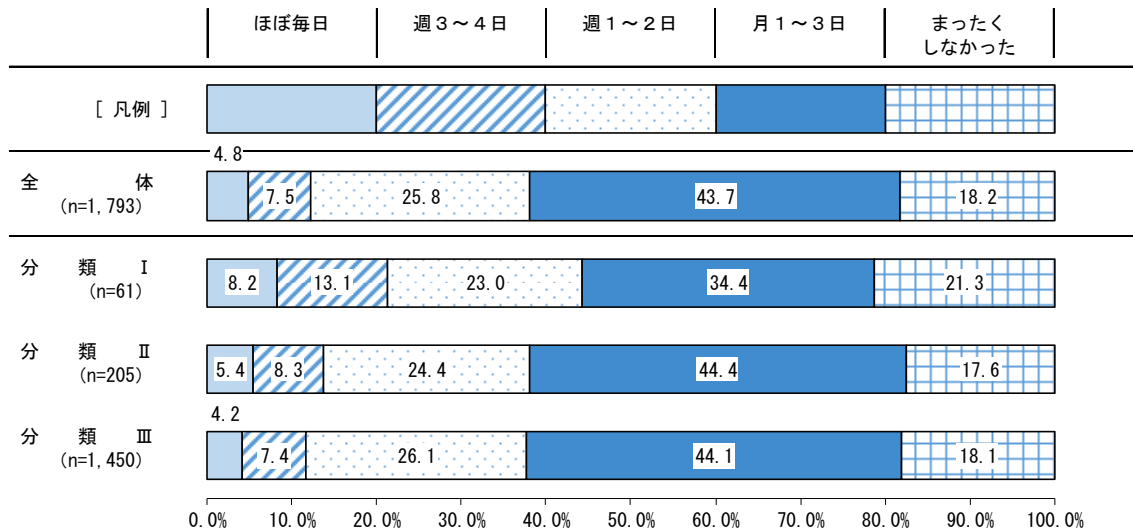
所得分類別にみると、「週3～4日」は『分類Ⅰ』が13.1%と全体に比べて高く、「月1～3日」は『分類Ⅰ』が34.4%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「週1～2日」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、「まったくしなかった」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

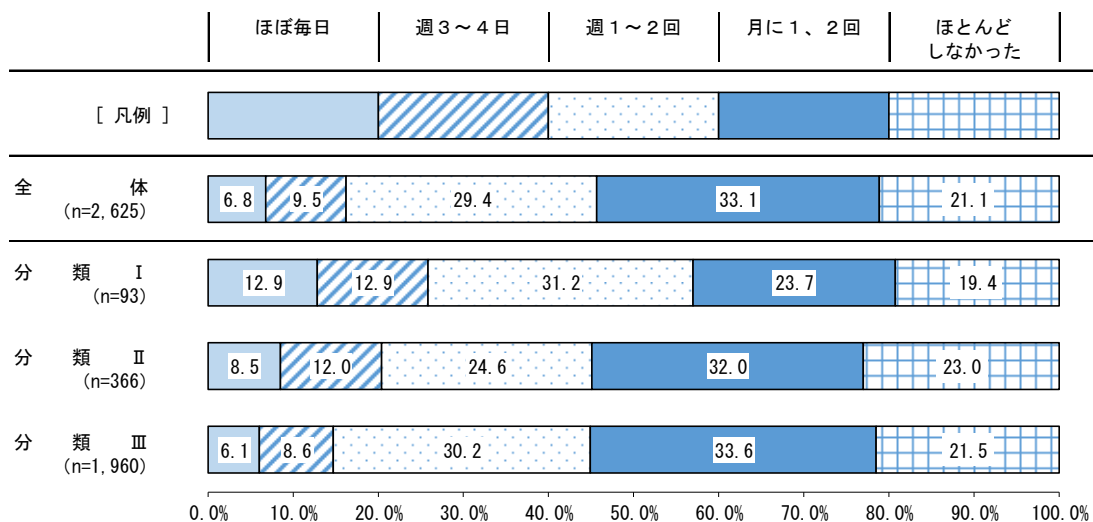
<今回調査>【図表 3-420 (オ) 料理など、子どもと一緒に家事をした】

(小学校5年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-421 (オ) 料理など、子どもと一緒に家事をした】

(小学校5年生・所得分類別)



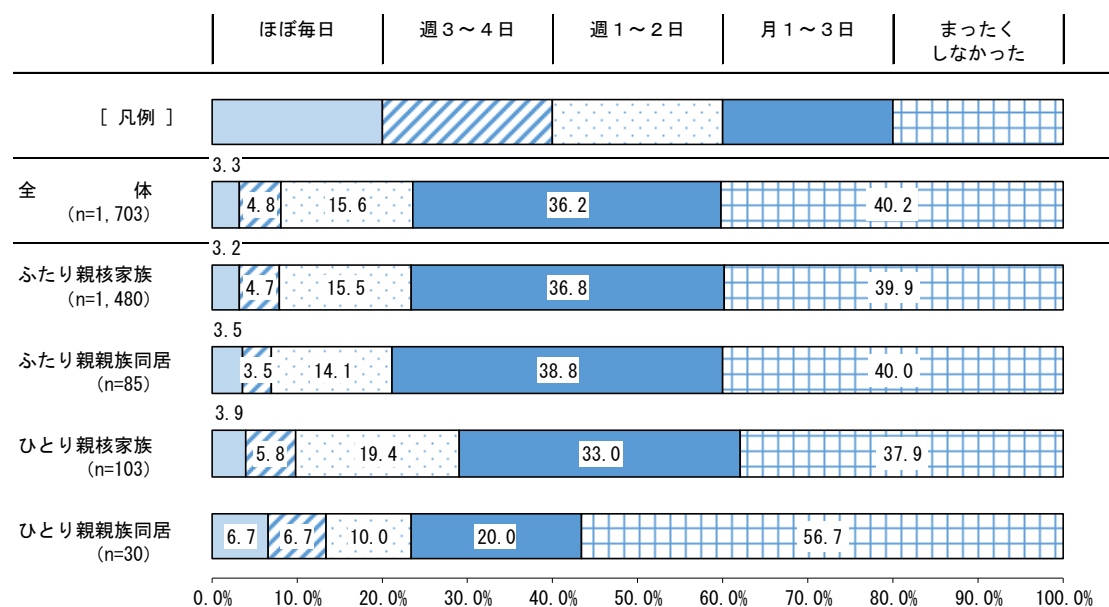
中学校2年生のいる世帯の子どもとの過ごし方について、『料理など、子どもと一緒に家事をした』を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査では中学校2年生保護者への設問はない。

<今回調査>【図表 3-422 (オ) 料理など、子どもと一緒に家事をした】

(中学校2年生・世帯構成別)

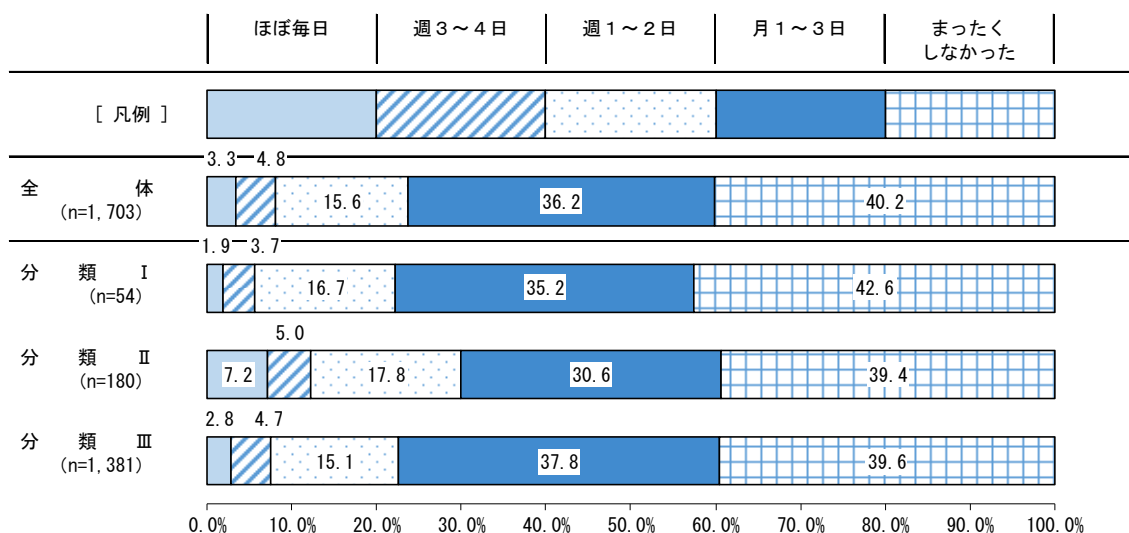


所得分類別にみると、「月1~3日」は『分類Ⅱ』が30.6%と全体に比べて低くなっている。

なお、前回調査では中学校2年生保護者への設問はない。

<今回調査>【図表 3-423 (オ) 料理など、子どもと一緒に家事をした】

(中学校2年生・所得分類別)



※ページ調整のため余白

ウ 子どもに対する機会の提供の有無【問 7】（SA・MA）

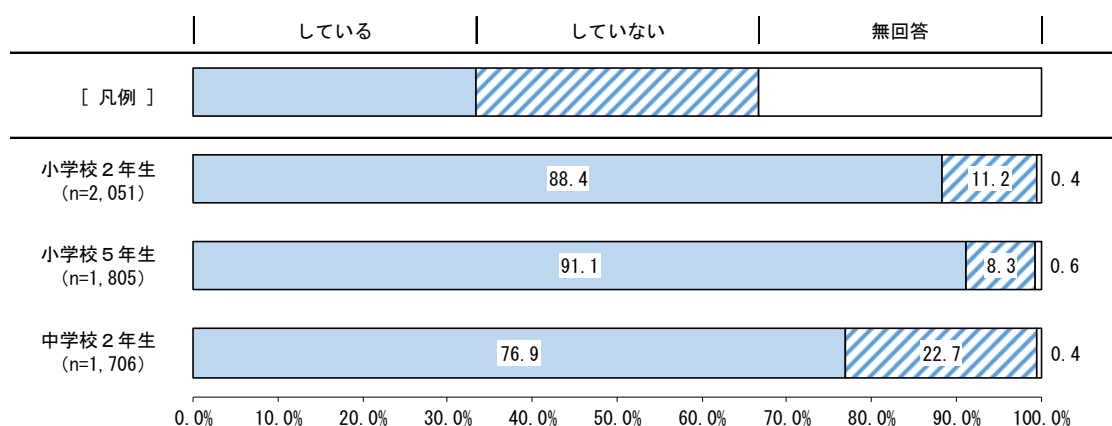
直近 1 年間で、子どもに対して体験等の機会を提供したか聞いたところ、『子どもを有料の学習塾や習い事（スポーツや音楽、英会話など）に通わせる』では、いずれの学年でも「している」（小学校 2 年生：88.4%、小学校 5 年生：91.1%、中学校 2 年生：76.9%）が最も高くなっている。

していない理由では、小学校 2 年生のいる世帯と小学校 5 年生のいる世帯で「経済的にできない」（小学校 2 年生：31.9%、小学校 5 年生：30.7%）が最も高く、中学校 2 年生のいる世帯で「する必要がない」が 32.5%となっている。

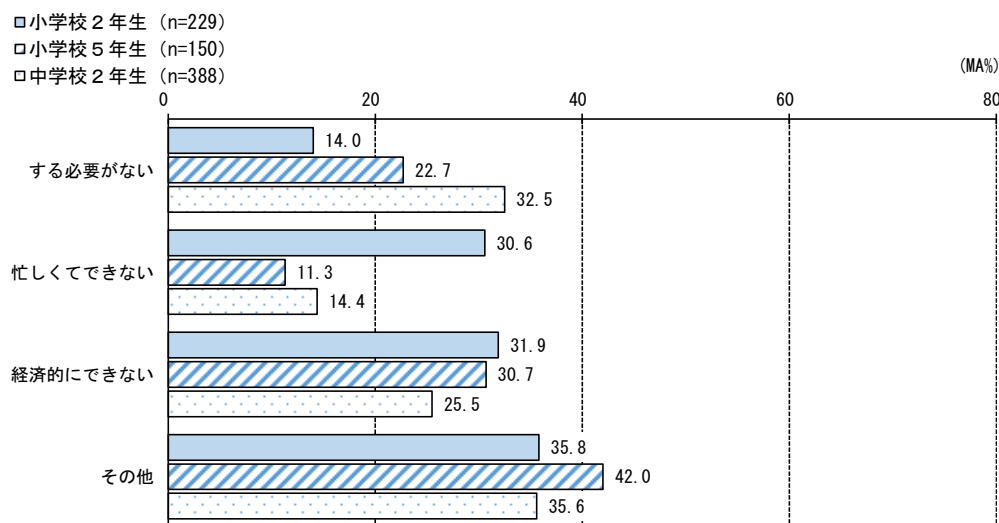
経年でみると、「している」は大きな差はみられない。

なお、前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

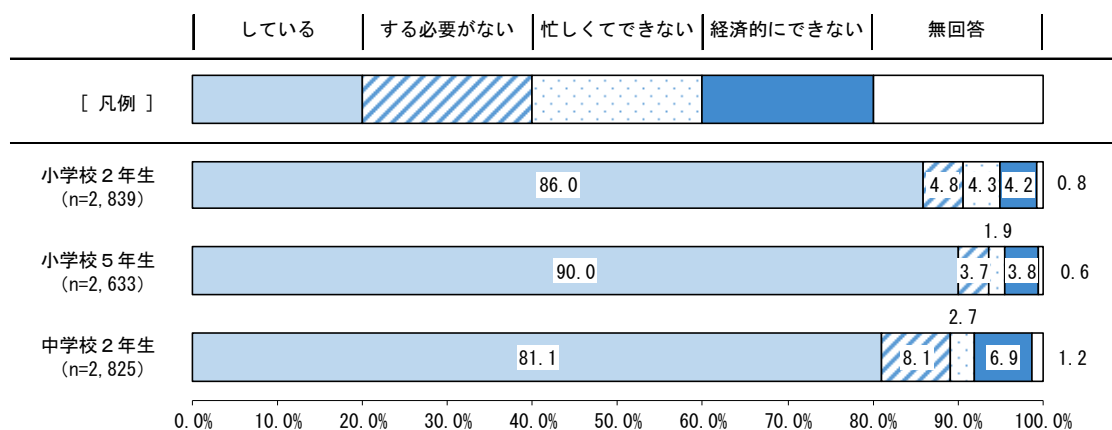
＜今回調査＞【図表 3-424 （ア）子どもを有料の学習塾や習い事（スポーツや音楽、英会話など）に通わせる】



＜今回調査＞【図表 3-425 （ア）していない理由（複数回答）】



<前回調査>【図表 3-426 (ア) 子どもを有料の学習塾や習い事（スポーツや音楽、英会話など）に通わせる】



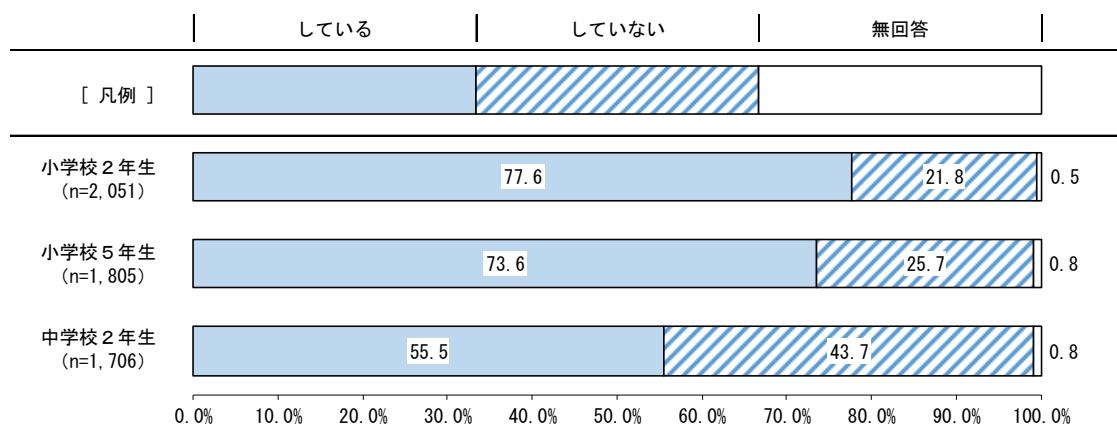
『子どもを博物館や科学館などに連れていく（映画館・美術館なども含む）』では、いずれの学年でも「している」（小学校2年生：77.6%、小学校5年生：73.6%、中学校2年生：55.5%）が最も高くなっている。

していない理由では、いずれの学年でも「忙しくてできない」（小学校2年生：60.5%、小学校5年生：64.6%、中学校2年生：48.8%）が最も高くなっている。

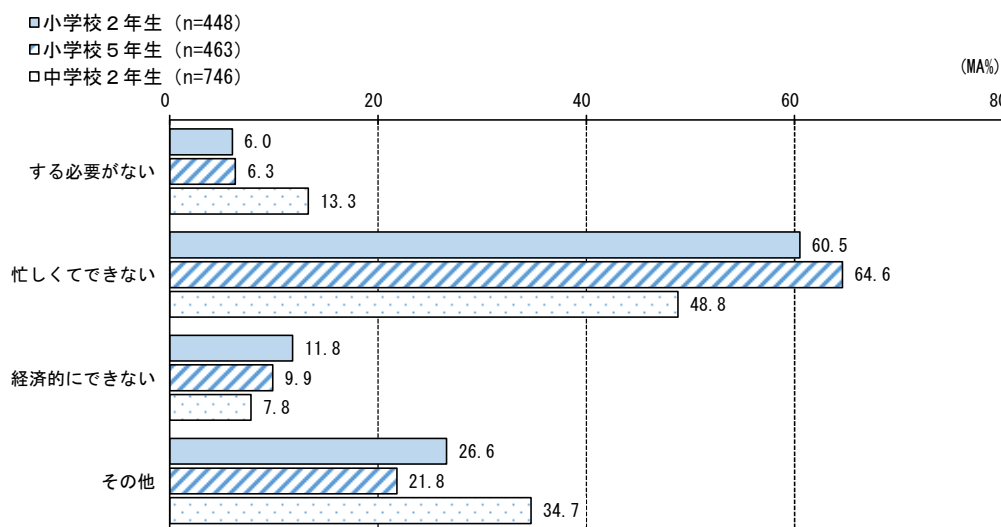
経年でみると、「している」は大きな差はみられない。

なお、前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

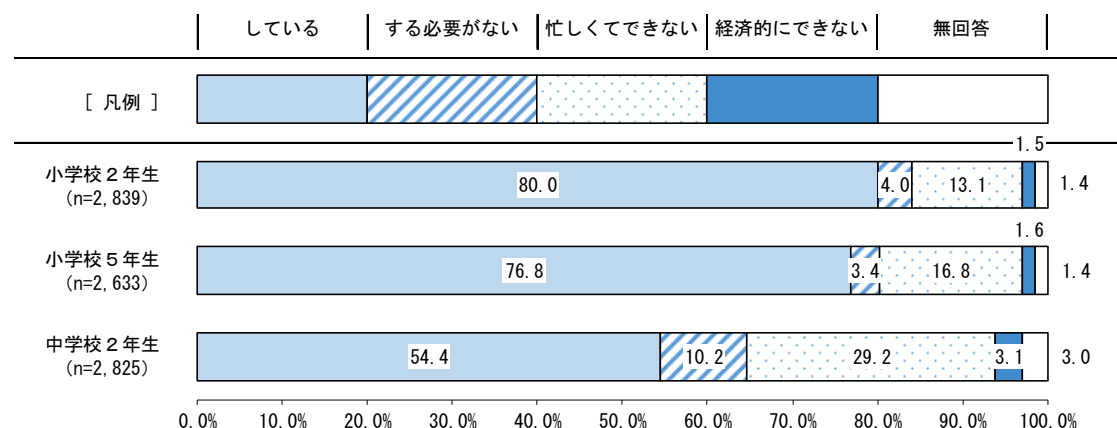
<今回調査>【図表 3-427 (イ) 子どもを博物館や科学館などに連れていく（映画館・美術館なども含む）】



<今回調査>【図表 3-428 (イ) していない理由（複数回答）】



<前回調査>【図表 3-429 (イ) 子どもを博物館や科学館などに連れていく（映画館・美術館なども含む）】



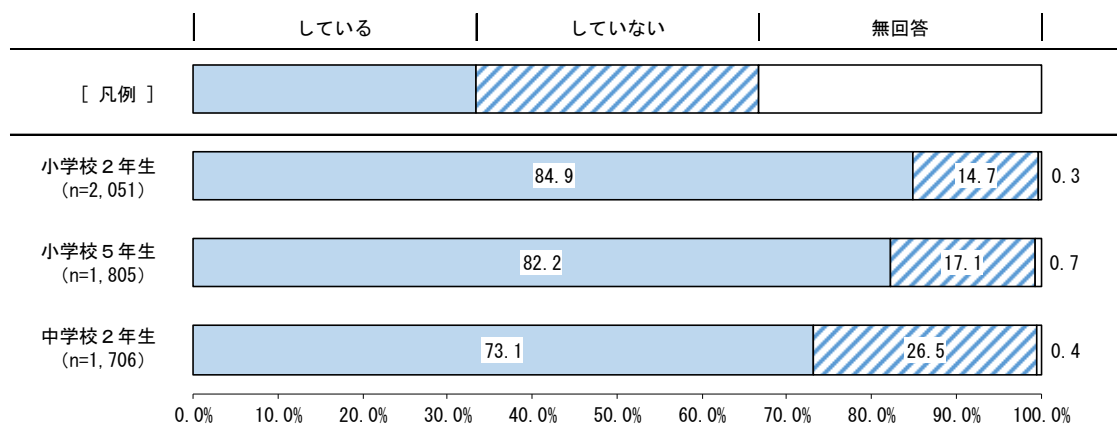
『家族旅行に行く』では、いずれの学年でも「している」（小学校2年生：84.9%、小学校5年生：82.2%、中学校2年生：73.1%）が最も高くなっている。

していない理由では、いずれの学年でも「忙しくてできない」（小学校2年生：49.0%、小学校5年生：49.2%、中学校2年生：51.1%）が最も高くなっている。

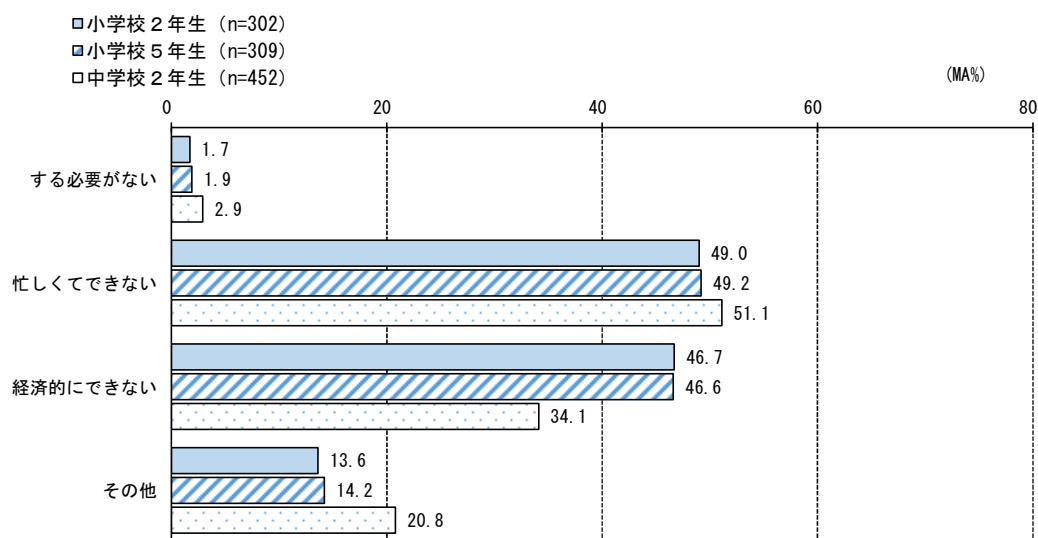
経年でみると、「している」はいずれの学年でも前回調査に比べて高くなっている。

なお、前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

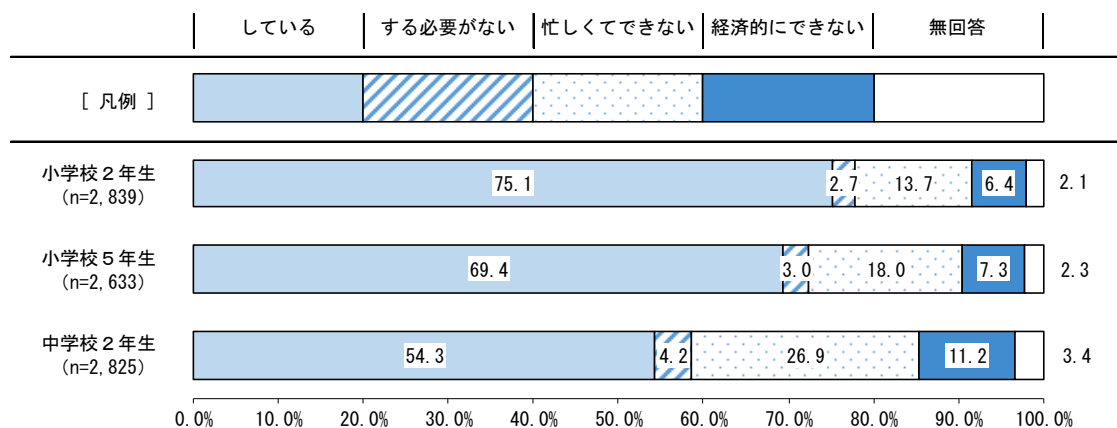
<今回調査>【図表 3-430 (ウ) 家族旅行に行く】



<今回調査>【図表 3-431 (ウ) していない理由（複数回答）】

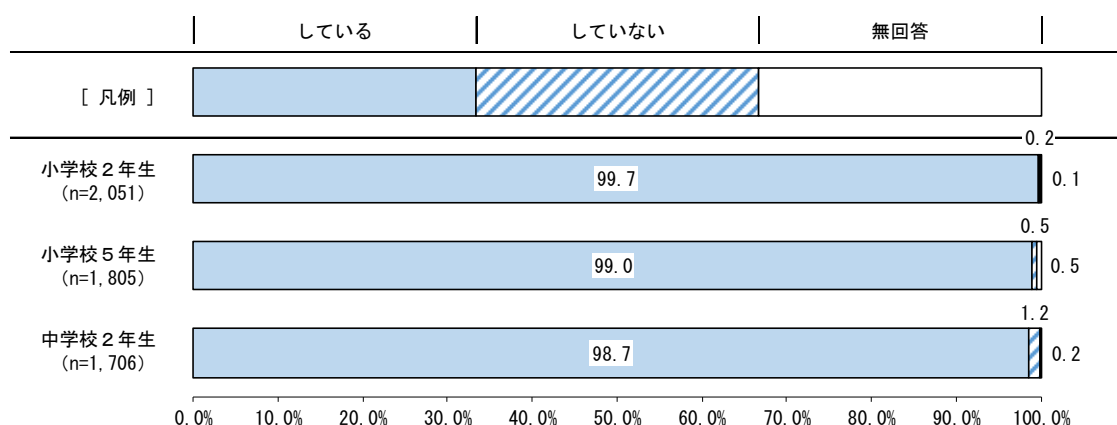


<前回調査>【図表 3-432 (ウ) 家族旅行に行く】

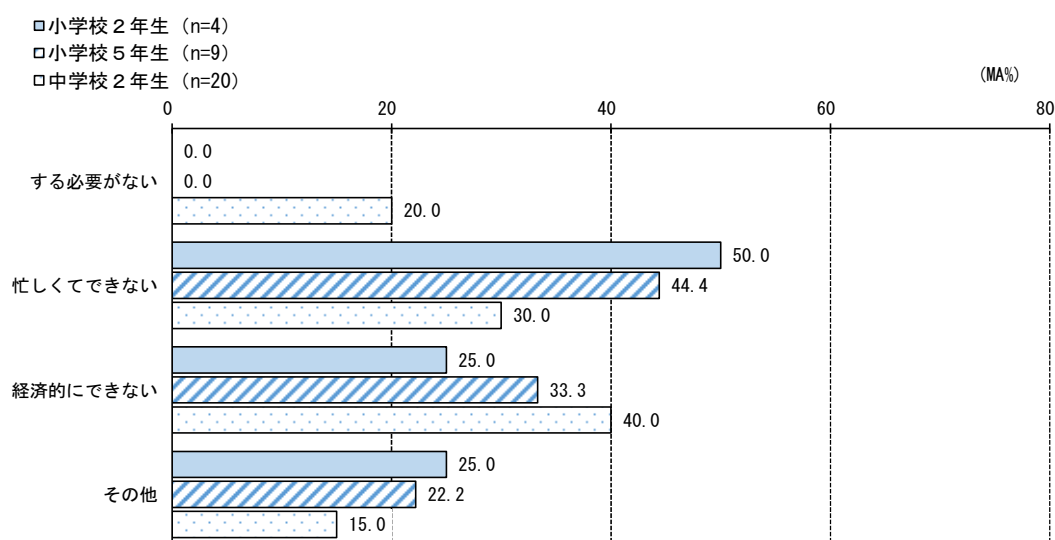


『子どもの誕生日には、お祝いをする』では、いずれの学年でも「している」（小学校2年生：99.7%、小学校5年生：99.0%、中学校2年生：98.7%）が最も高くなっている。
 経年でみると、「している」は大きな差はみられない。
 なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。
 前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

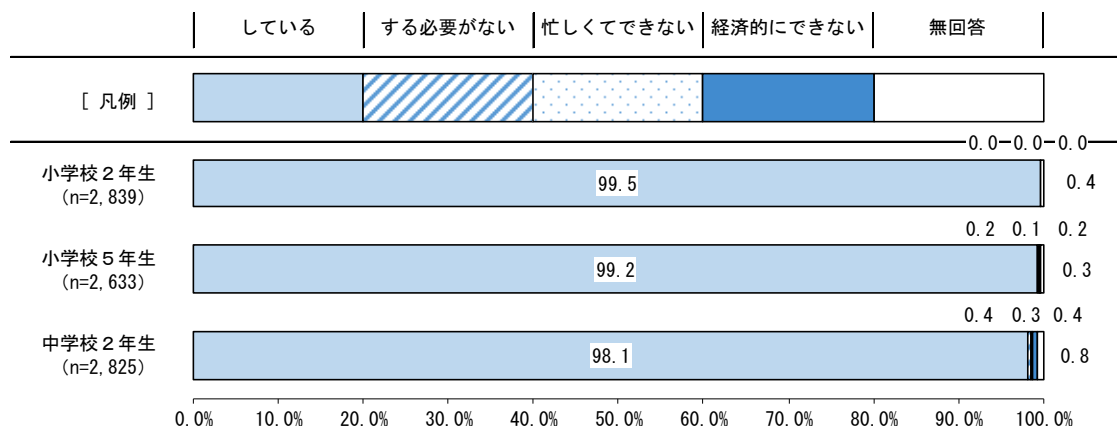
<今回調査>【図表 3-433 (エ) 子どもの誕生日には、お祝いをする】



<今回調査>【図表 3-434 (エ) していない理由（複数回答）】



<前回調査>【図表 3-435 (エ) 子どもの誕生日には、お祝いをする】



『クリスマスプレゼントやお年玉を渡す』では、いずれの学年でも「している」（小学校2年生：99.0%、小学校5年生：98.3%、中学校2年生：96.6%）が最も高くなっている。

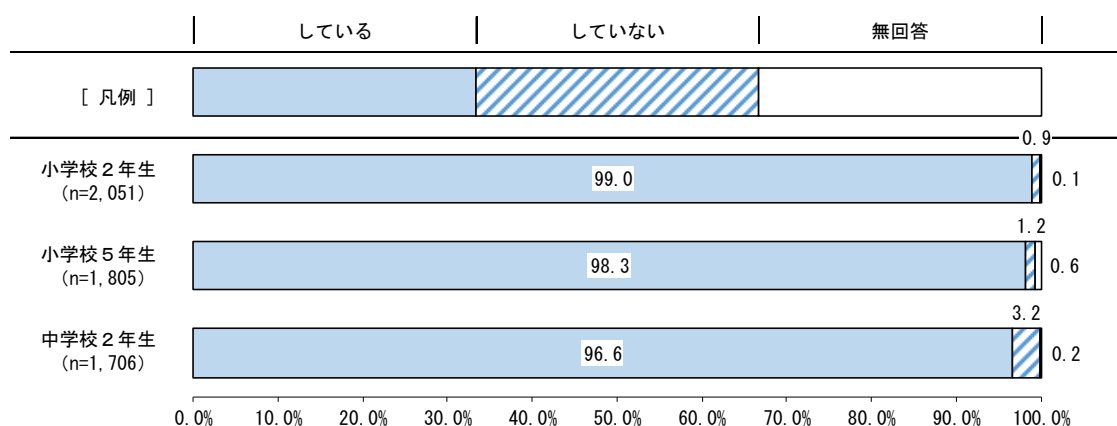
していない理由では、中学校2年生のいる世帯では「する必要がない」が38.9%と最も高くなっている。

経年でみると、「している」は大きな差はみられない。

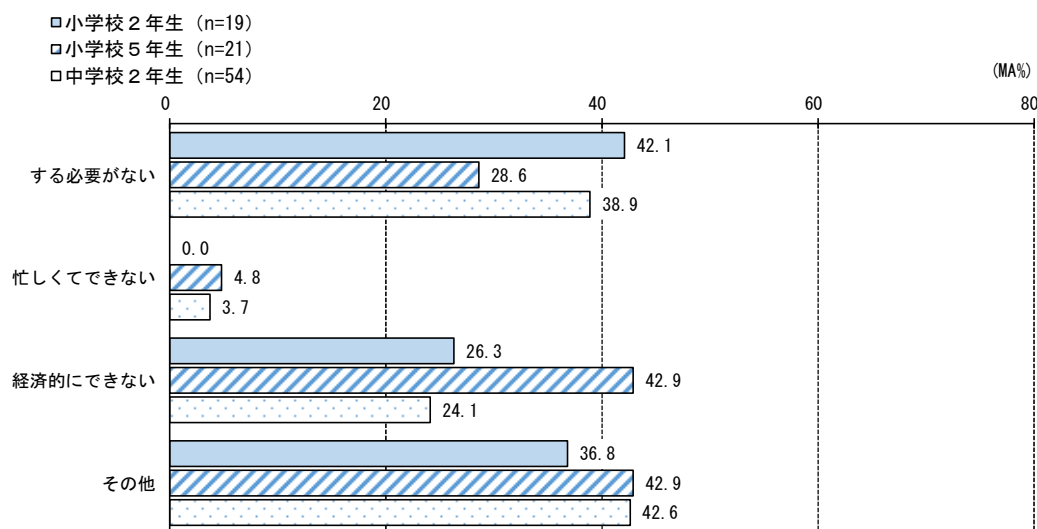
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

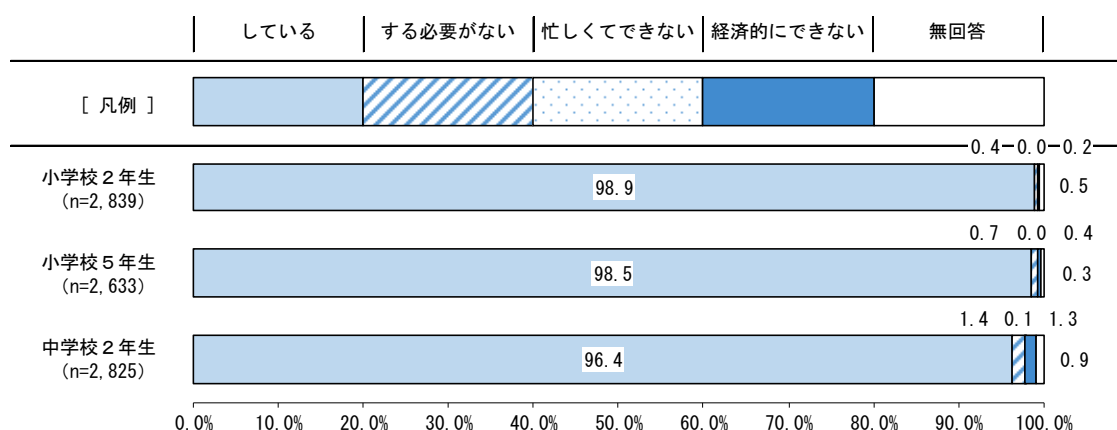
<今回調査>【図表 3-436 (オ) クリスマスプレゼントやお年玉を渡す】



<今回調査>【図表 3-437 (オ) していない理由（複数回答）】



<前回調査>【図表 3-438 (オ) クリスマスプレゼントやお年玉を渡す】



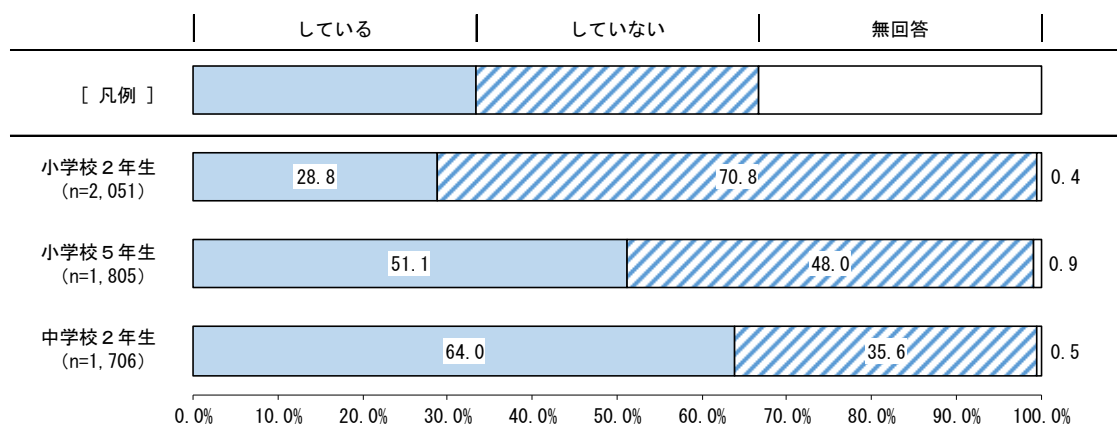
『子どもに毎月お小遣いを渡す』では、小学校2年生のいる世帯で「していない」が70.8%で最も高く、小学校5年生のいる世帯と中学校2年生のいる世帯では「している」（小学校5年生：51.1%、中学校2年生：64.0%）が最も高くなっている。

していない理由では、いずれの学年でも「する必要がない」（小学校2年生：64.3%、小学校5年生：58.9%、中学校2年生：43.7%）が最も高くなっている。

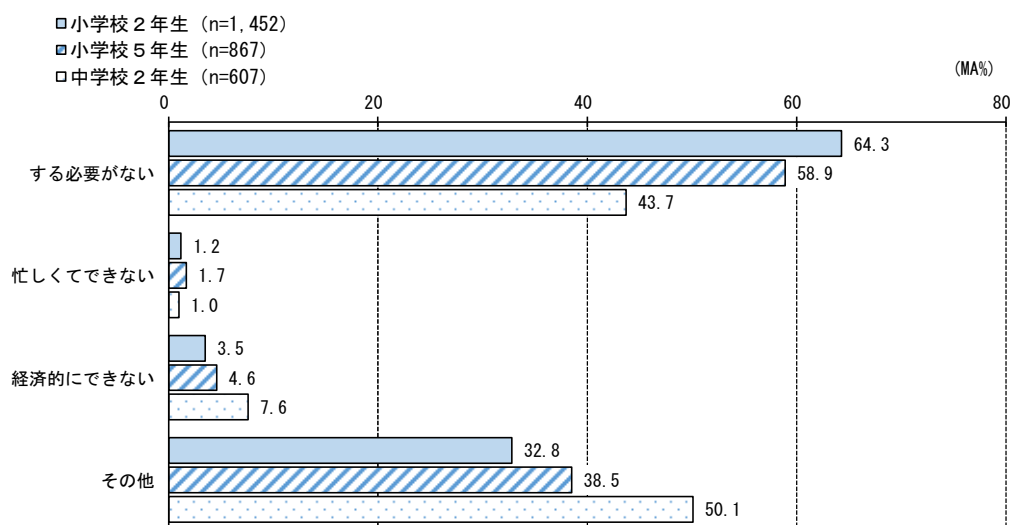
経年でみると、「している」は大きな差はみられない。

なお、前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

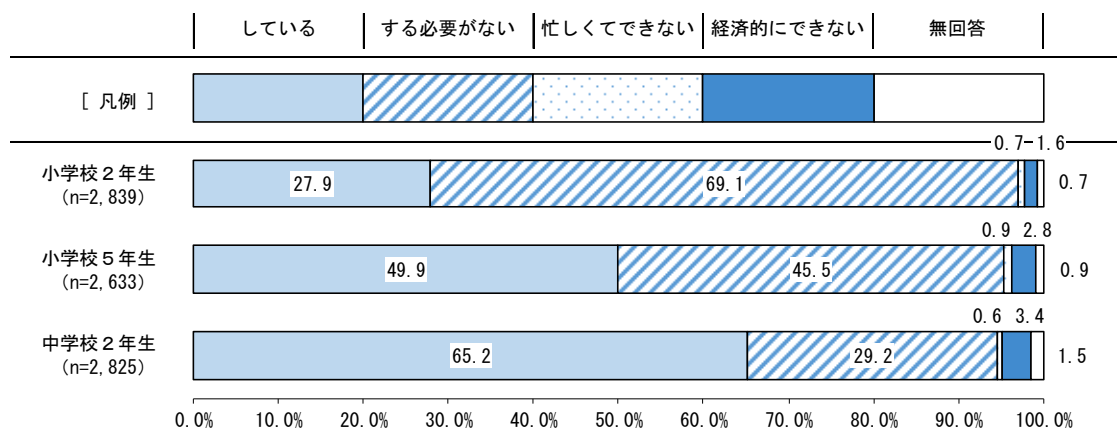
＜今回調査＞【図表 3-439 （カ）子どもに毎月お小遣いを渡す】



＜今回調査＞【図表 3-440 （カ）していない理由（複数回答）】



＜前回調査＞【図表 3-441 （カ）子どもに毎月お小遣いを渡す】

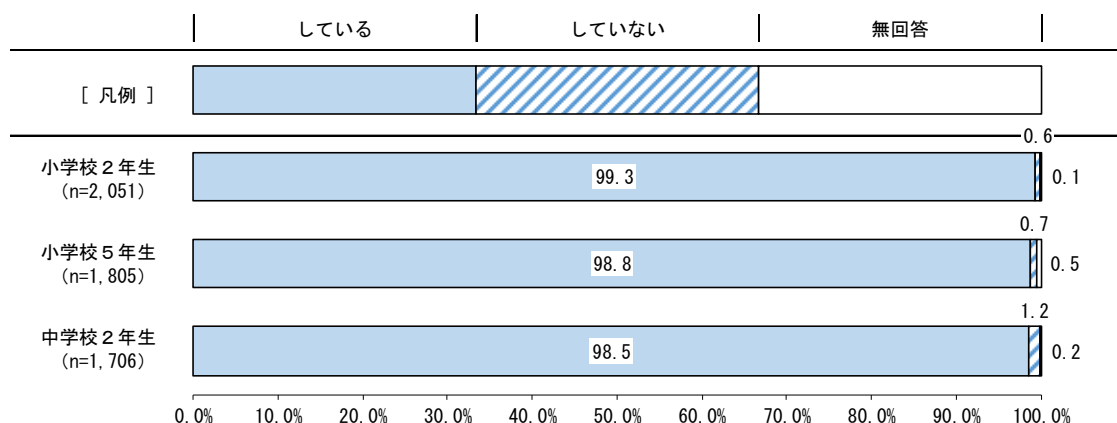


『子どもの成長に合わせ、衣服や靴をそろえる』では、いずれの学年でも「している」（小学校2年生：99.3%、小学校5年生：98.8%、中学校2年生：98.5%）が最も高くなっている。経年でみると、「している」は大きな差はみられない。

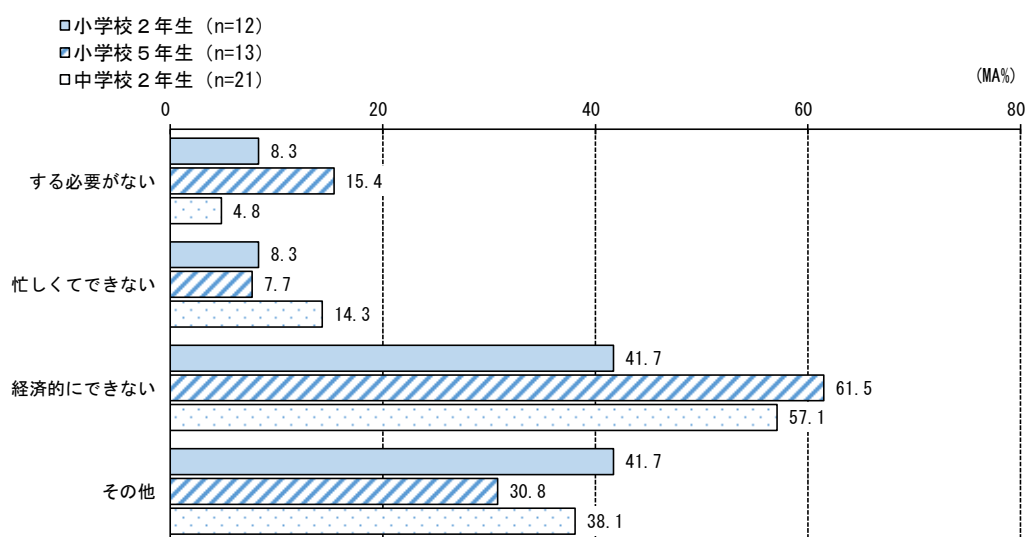
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

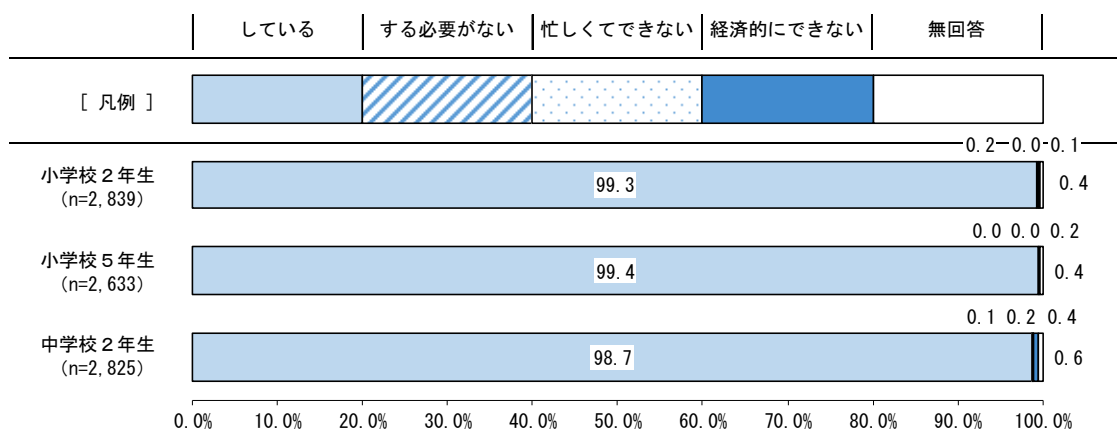
<今回調査>【図表 3-442 (キ) 子どもの成長に合わせ、衣服や靴をそろえる】



<今回調査>【図表 3-443 (キ) していない理由（複数回答）】



<前回調査>【図表 3-444 (キ) 子どもの成長に合わせ、衣服や靴をそろえる】



小学校2年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『子どもを有料の学習塾や習い事（スポーツや音楽、英会話など）に通わせる』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、「経済的にできない」は『ひとり親核家族』が26.2%と全体に比べて高くなっている。

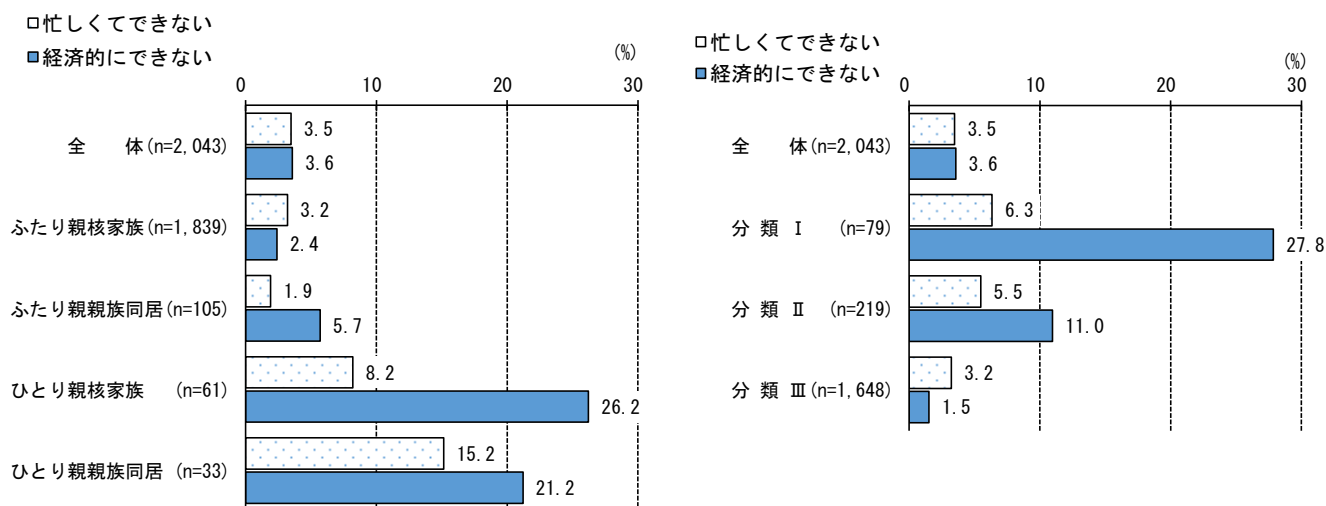
所得分類別にみると、「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が27.8%、『分類Ⅱ』が11.0%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「忙しくてできない」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「経済的にできない」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。所得分類別では大きな差はみられない。

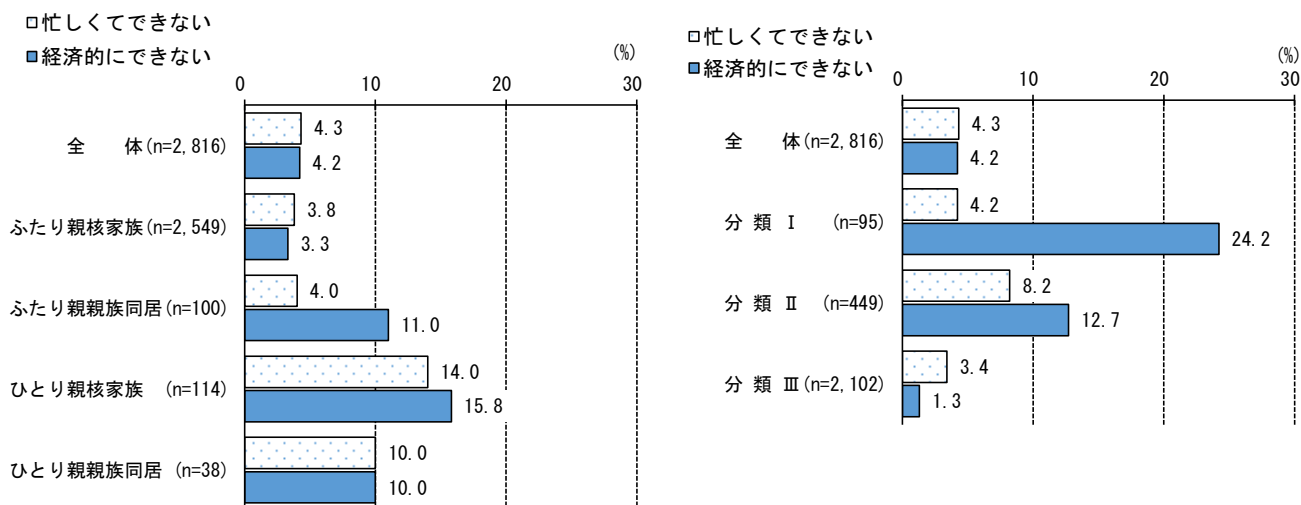
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-445 （ア）子どもを有料の学習塾や習い事（スポーツや音楽、英会話など）に通わせる】
（していない理由・複数回答）（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-446 （ア）子どもを有料の学習塾や習い事（スポーツや音楽、英会話など）に通わせる】
（していない理由・単一回答）（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



小学校5年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『子どもを有料の学習塾や習い事（スポーツや音楽、英会話など）に通わせる』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、「経済的にできない」は『ひとり親核家族』が8.5%と全体に比べて高くなっている。

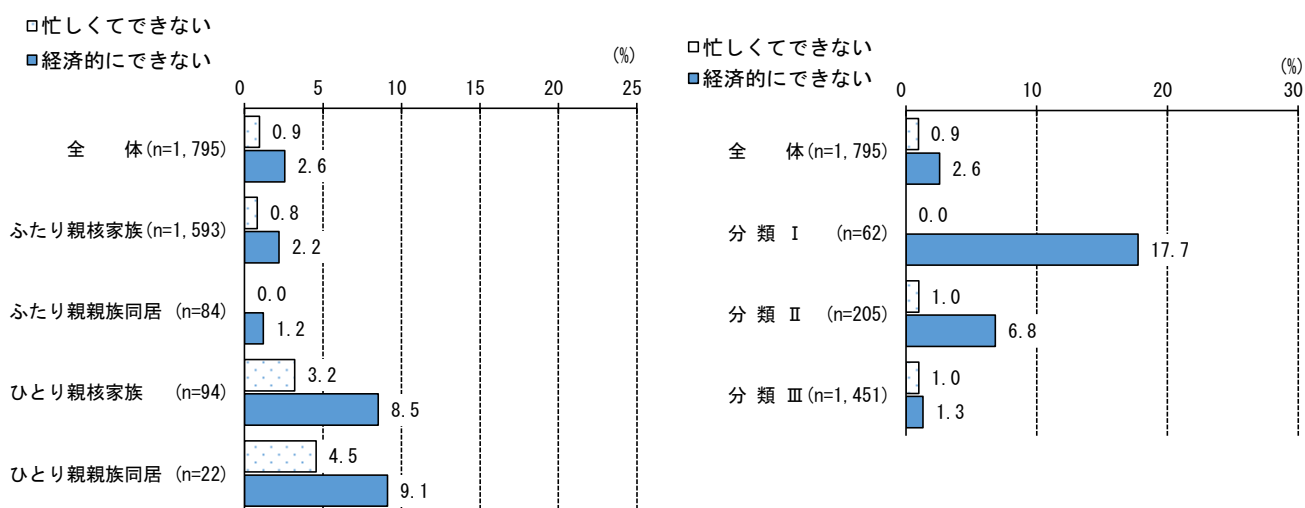
所得分類別にみると、「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が17.7%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「経済的にできない」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。所得分類別では「忙しくてできない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

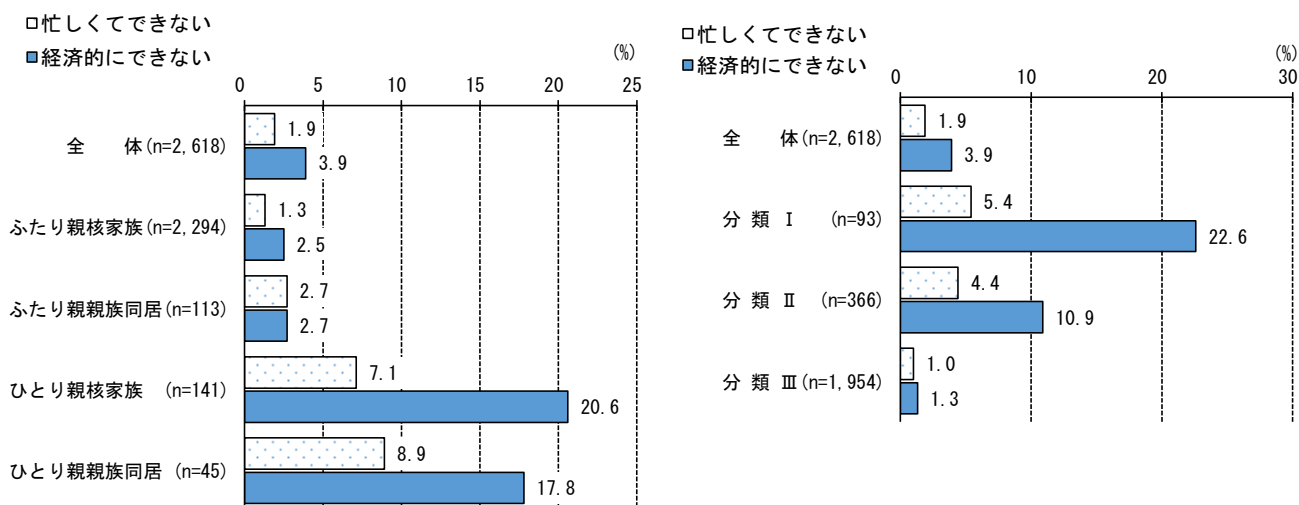
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-447 （ア）子どもを有料の学習塾や習い事（スポーツや音楽、英会話など）に通わせる】
（していない理由・複数回答）（小学校5年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-448 （ア）子どもを有料の学習塾や習い事（スポーツや音楽、英会話など）に通わせる】
（していない理由・単一回答）（小学校5年生・世帯構成別、所得分類別）



中学校2年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『子どもを有料の学習塾や習い事（スポーツや音楽、英会話など）に通わせる』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、「経済的にできない」は『ひとり親核家族』が26.2%と全体に比べて高くなっている。

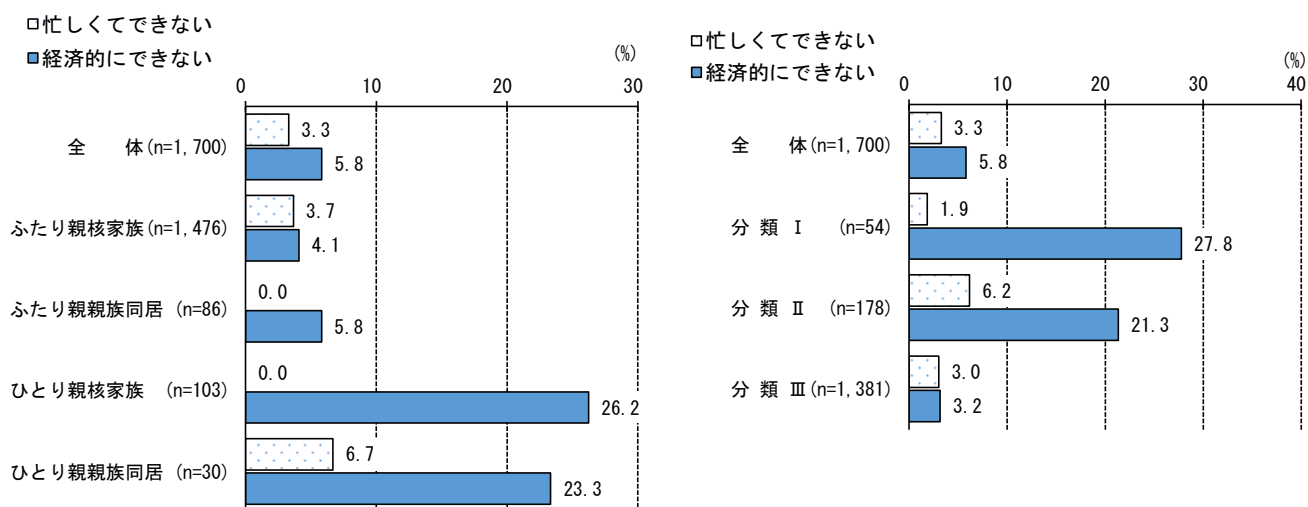
所得分類別にみると、「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が27.8%、『分類Ⅱ』が21.3%とそれぞれ全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

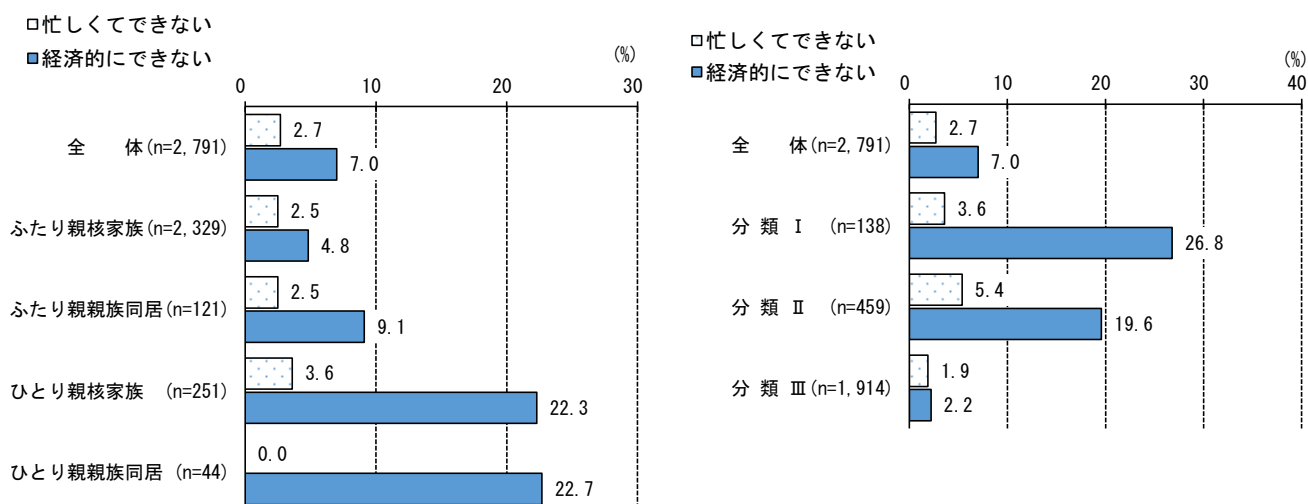
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-449 （ア）子どもを有料の学習塾や習い事（スポーツや音楽、英会話など）に通わせる】
（していない理由・複数回答）（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-450 （ア）子どもを有料の学習塾や習い事（スポーツや音楽、英会話など）に通わせる】
（していない理由・単一回答）（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



小学校2年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『子どもを博物館や科学館などに連れていく（映画館・美術館なども含む）』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』で「忙しくてできない」が21.3%、「経済的にできない」が9.8%と全体に比べて高くなっている。

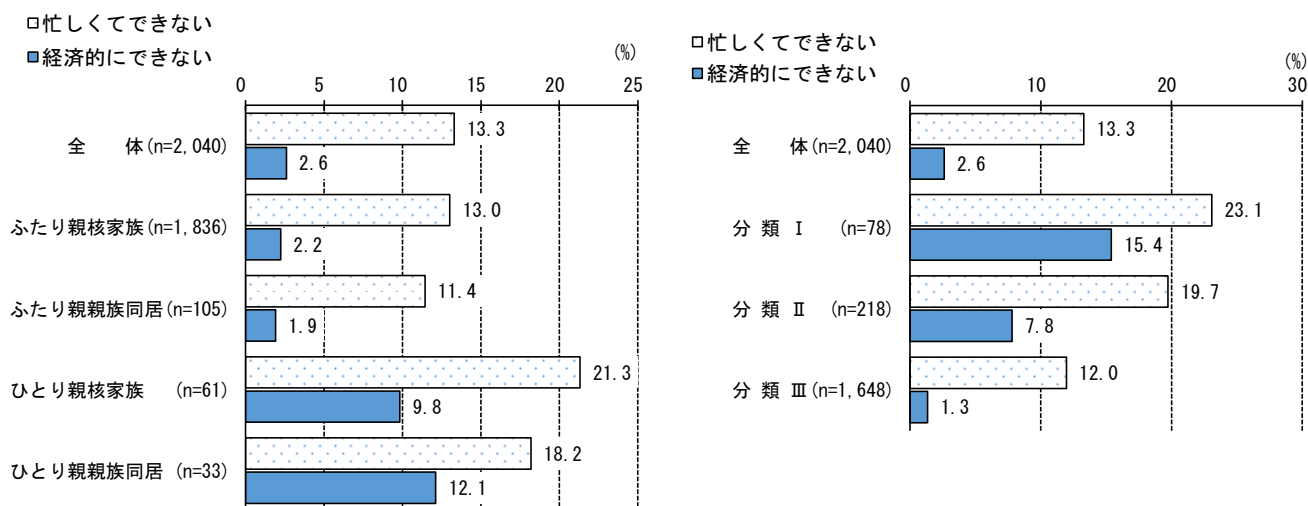
所得分類別にみると、「忙しくてできない」は『分類Ⅰ』が23.1%、『分類Ⅱ』が19.7%と全体に比べて高く、「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が15.4%、『分類Ⅱ』が7.8%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では『ひとり親核家族』で「忙しくてできない」「経済的にできない」が前回調査に比べて高くなっている。所得分類別では『分類Ⅰ』で「忙しくてできない」「経済的にできない」が前回調査に比べて高くなっている。

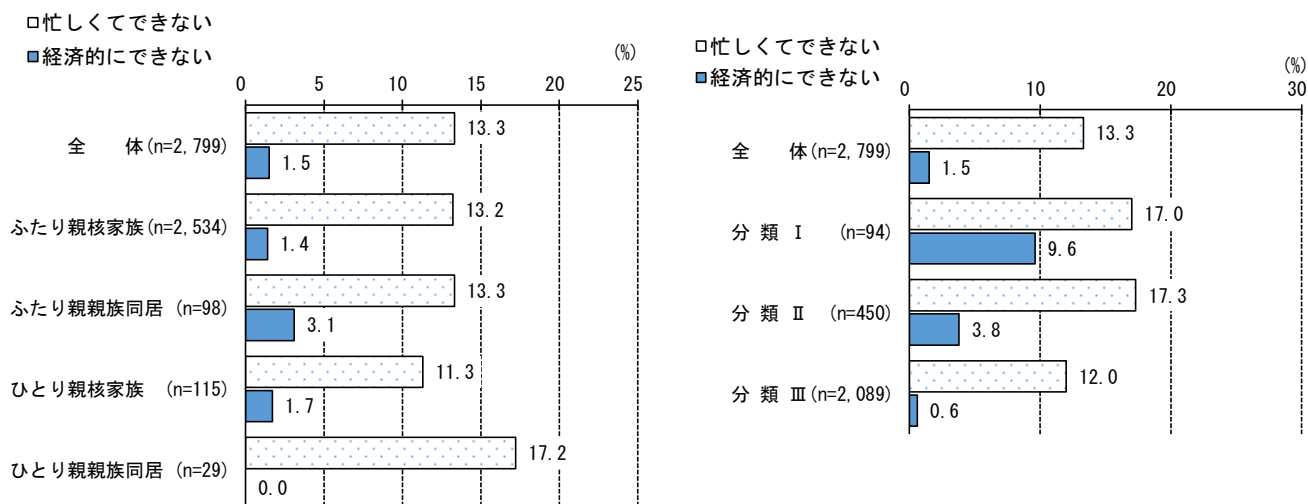
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-451 (イ) 子どもを博物館や科学館などに連れていく（映画館・美術館なども含む）】
（していない理由・複数回答）（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-452 (イ) 子どもを博物館や科学館などに連れていく（映画館・美術館なども含む）】
（していない理由・単一回答）（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



小学校5年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『子どもを博物館や科学館などに連れていく（映画館・美術館なども含む）』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、「忙しくてできない」は『ふたり親親族同居』が25.0%、『ひとり親核家族』が22.3%と全体に比べて高くなっている。「経済的にできない」は『ひとり親核家族』が13.8%と全体に比べて高くなっている。

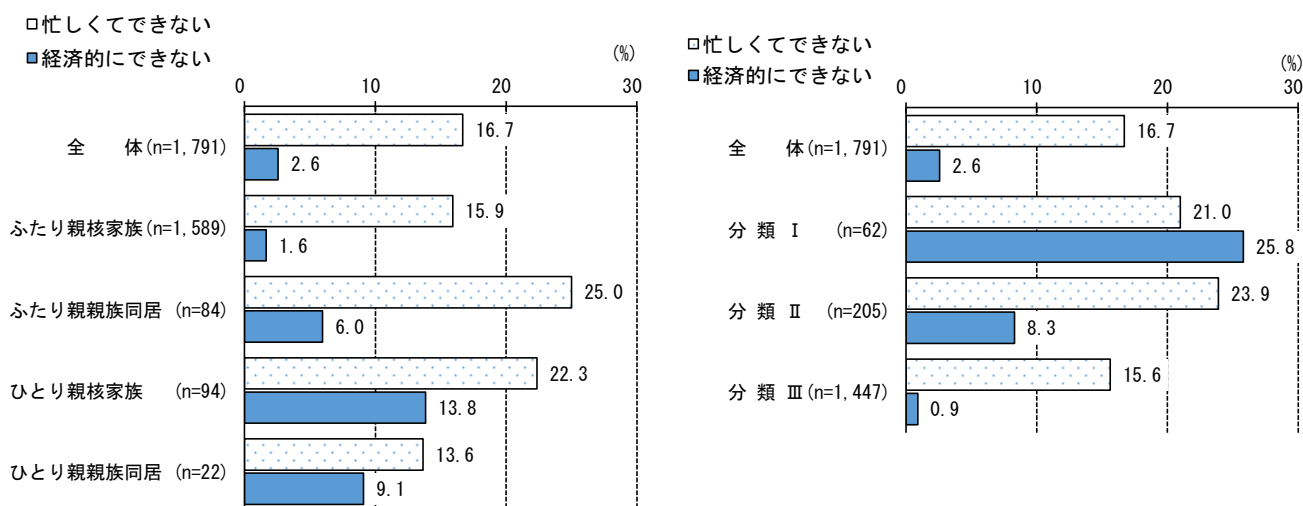
所得分類別にみると、「忙しくてできない」は『分類Ⅱ』が23.9%と全体に比べて高く、「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が25.8%、『分類Ⅱ』が8.3%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「忙しくてできない」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。「経済的にできない」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。所得分類別では「忙しくてできない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

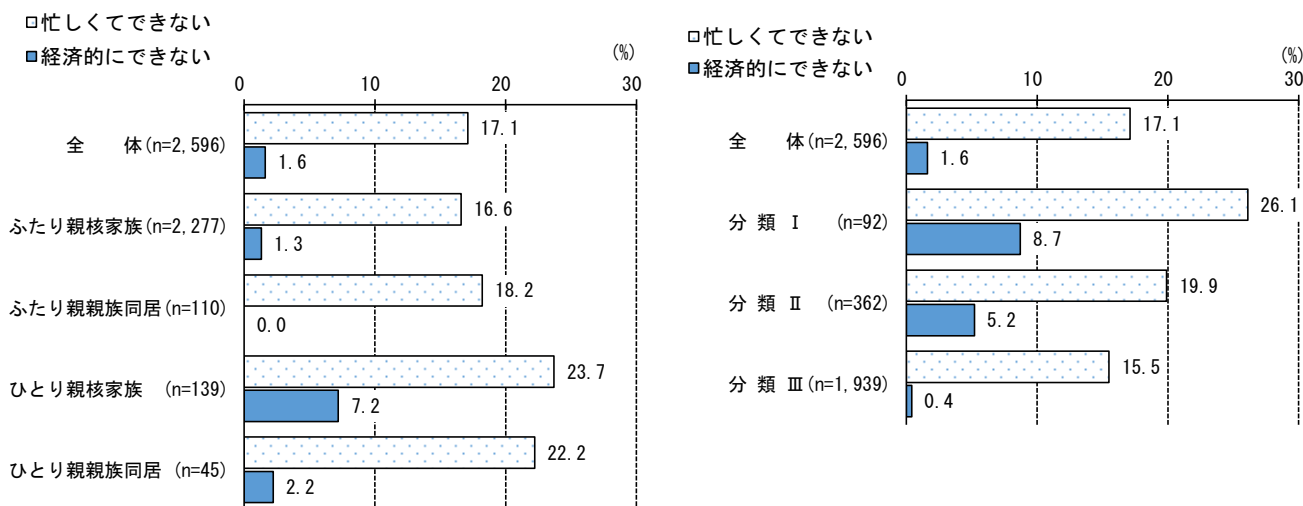
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-453 (イ) 子どもを博物館や科学館などに連れていく（映画館・美術館なども含む）】
（していない理由・複数回答）（小学校5年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-454 (イ) 子どもを博物館や科学館などに連れていく（映画館・美術館なども含む）】
（していない理由・単一回答）（小学校5年生・世帯構成別、所得分類別）



中学校2年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『子どもを博物館や科学館などに連れていく（映画館・美術館なども含む）』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』で「忙しくてできない」が30.7%、「経済的にできない」が10.9%と全体に比べて高くなっている。

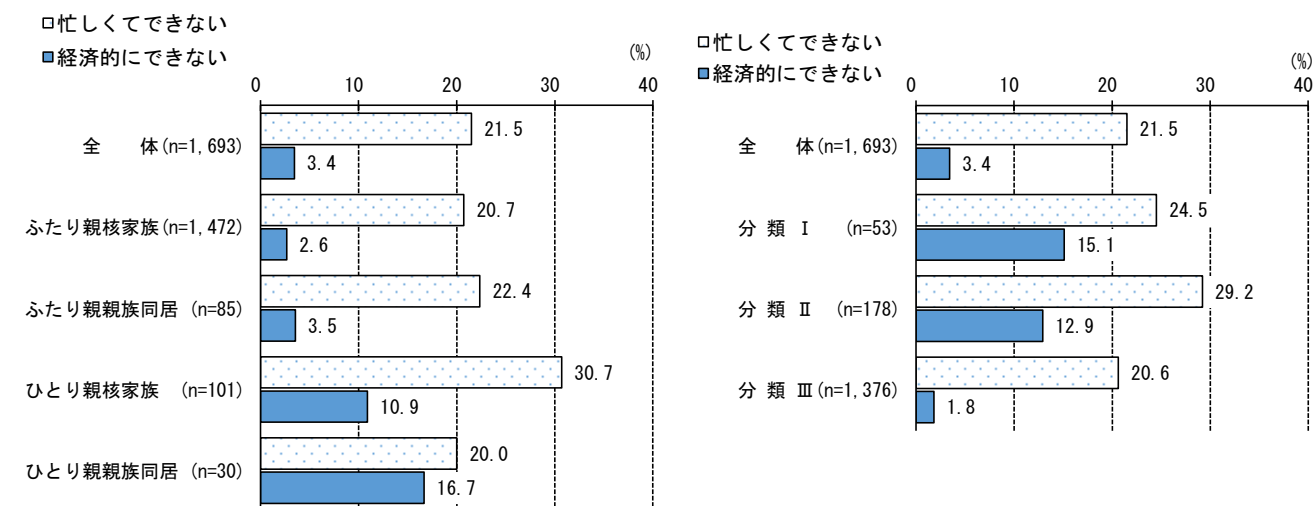
所得分類別にみると、「忙しくてできない」は『分類Ⅱ』が29.2%と全体に比べて高く、「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が15.1%、『分類Ⅱ』が12.9%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「忙しくてできない」は『ふたり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。所得分類別では「忙しくてできない」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて低くなっている。「経済的にできない」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

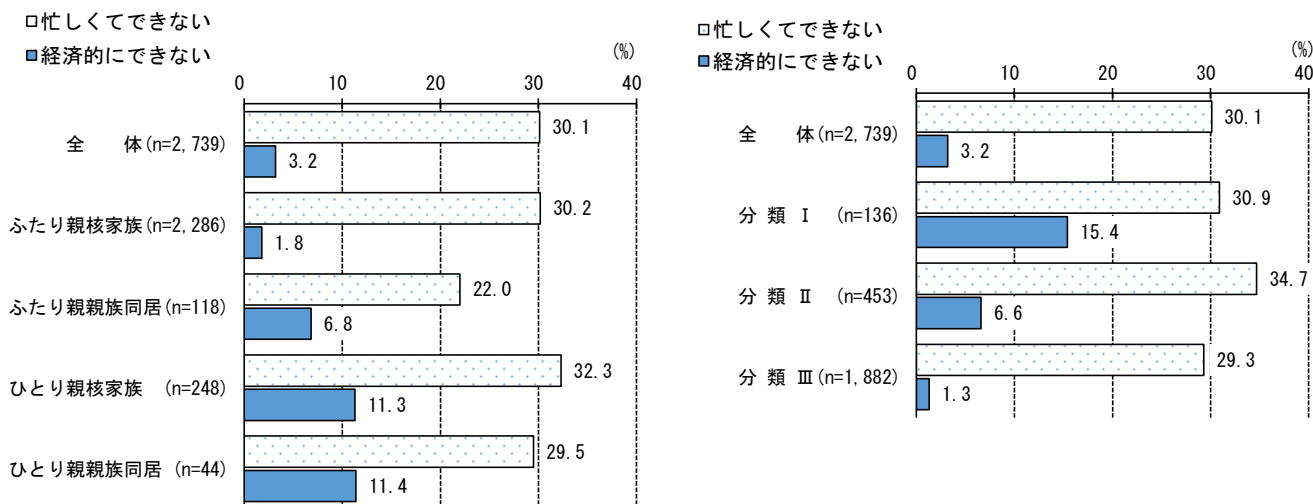
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-455 (イ) 子どもを博物館や科学館などに連れていく（映画館・美術館なども含む）】
（していない理由・複数回答）（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-456 (イ) 子どもを博物館や科学館などに連れていく（映画館・美術館なども含む）】
（していない理由・単一回答）（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



小学校2年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『家族旅行に行く』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、「忙しくてできない」は『ふたり親親族同居』が12.4%と全体に比べて高くなっている。「経済的にできない」は『ひとり親核家族』が23.0%と全体に比べて高くなっている。

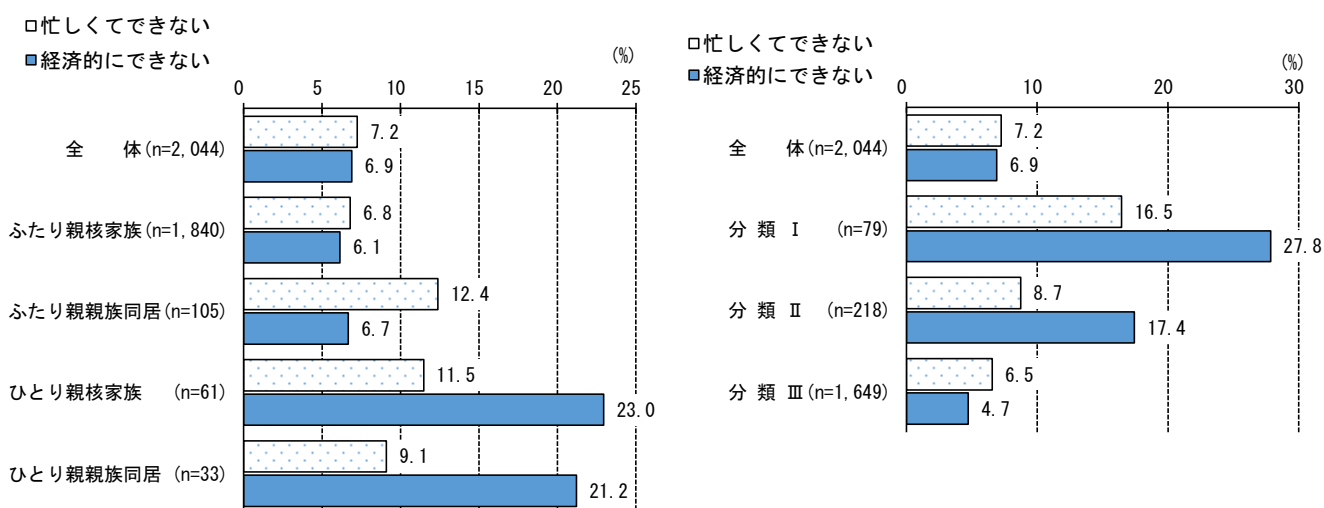
所得分類別にみると、「忙しくてできない」は『分類Ⅰ』が16.5%と全体に比べて高く、「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が27.8%、『分類Ⅱ』が17.4%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「忙しくてできない」は『ふたり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。所得分類別では「忙しくてできない」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低くなっている。

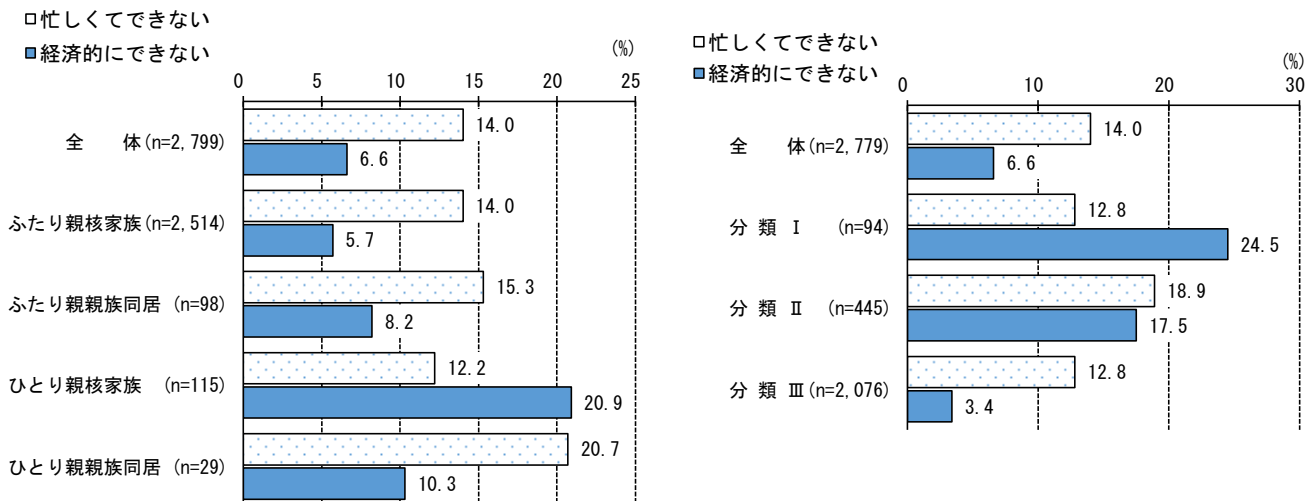
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-457 (ウ) 家族旅行に行く】
(していない理由・複数回答) (小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-458 (ウ) 家族旅行に行く】
(していない理由・単一回答) (小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



小学校5年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『家族旅行に行く』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、「経済的にできない」は『ひとり親核家族』が26.6%と全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、「忙しくてできない」は『分類Ⅱ』が16.1%と全体に比べて高く、「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が38.7%、『分類Ⅱ』が22.4%と全体に比べて高くなっている。

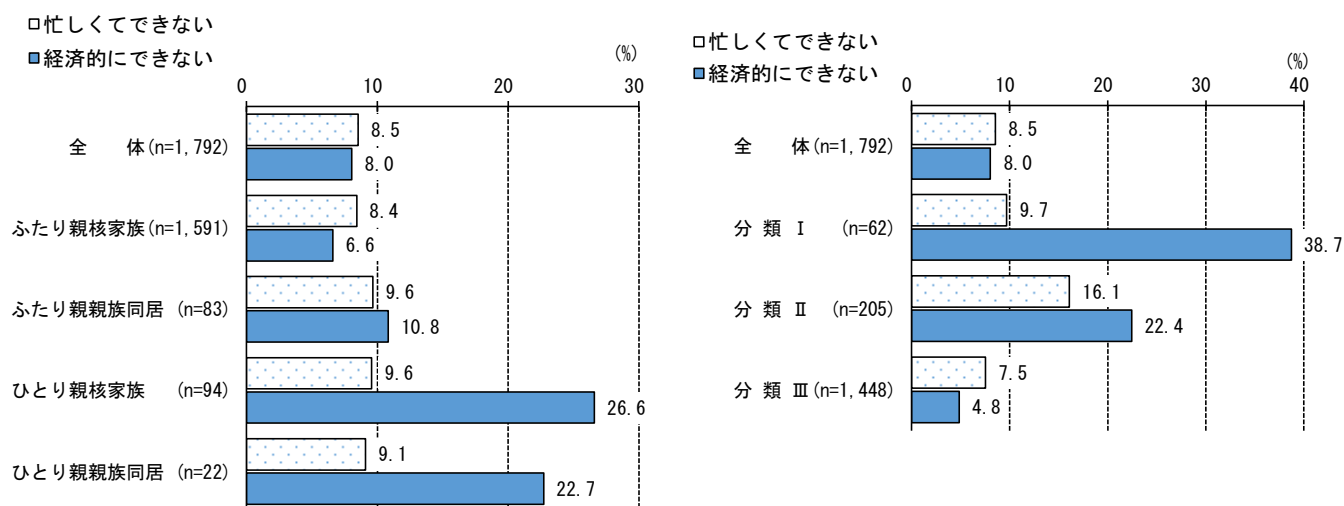
経年でみると、世帯構成別では「忙しくてできない」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。所得分類別では「忙しくてできない」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて低くなっている。「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

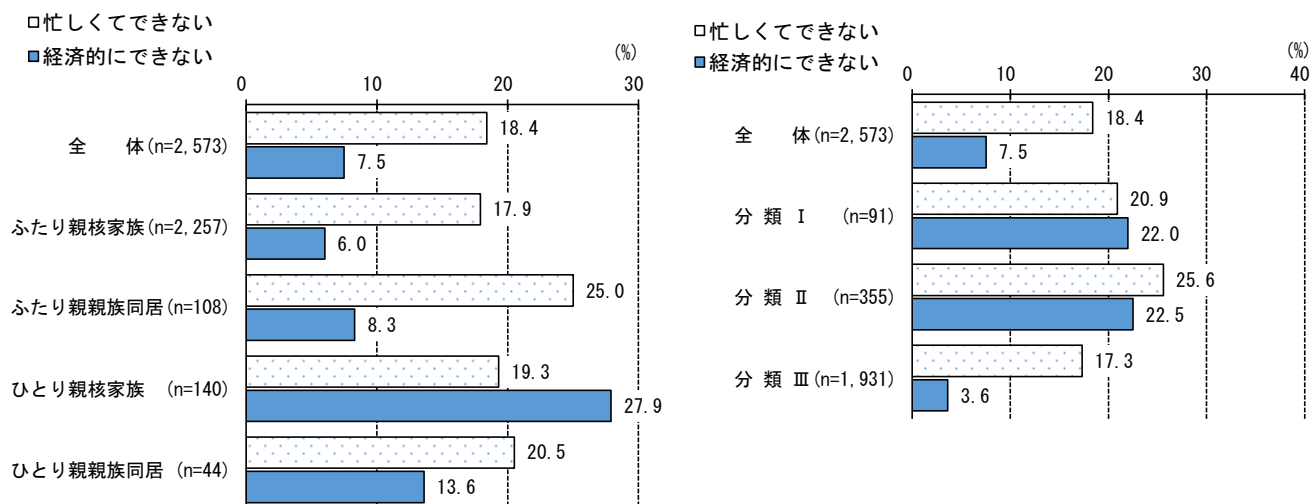
＜今回調査＞【図表 3-459 (ウ) 家族旅行に行く】

(していない理由・複数回答) (小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-460 (ウ) 家族旅行に行く】

(していない理由・単一回答) (小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



中学校2年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『家族旅行に行く』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、「経済的にできない」は『ひとり親核家族』が26.5%と全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が35.2%、『分類Ⅱ』が30.6%と全体に比べて高くなっている。

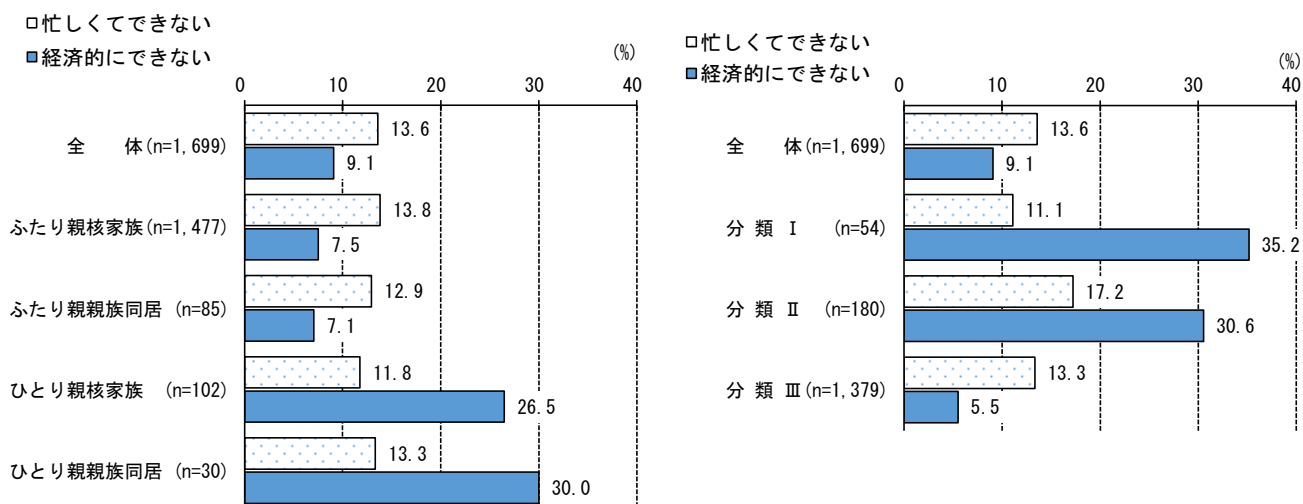
経年でみると、世帯構成別では「忙しくてできない」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「経済的にできない」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。所得分類別では「忙しくてできない」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて低くなっている。「経済的にできない」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

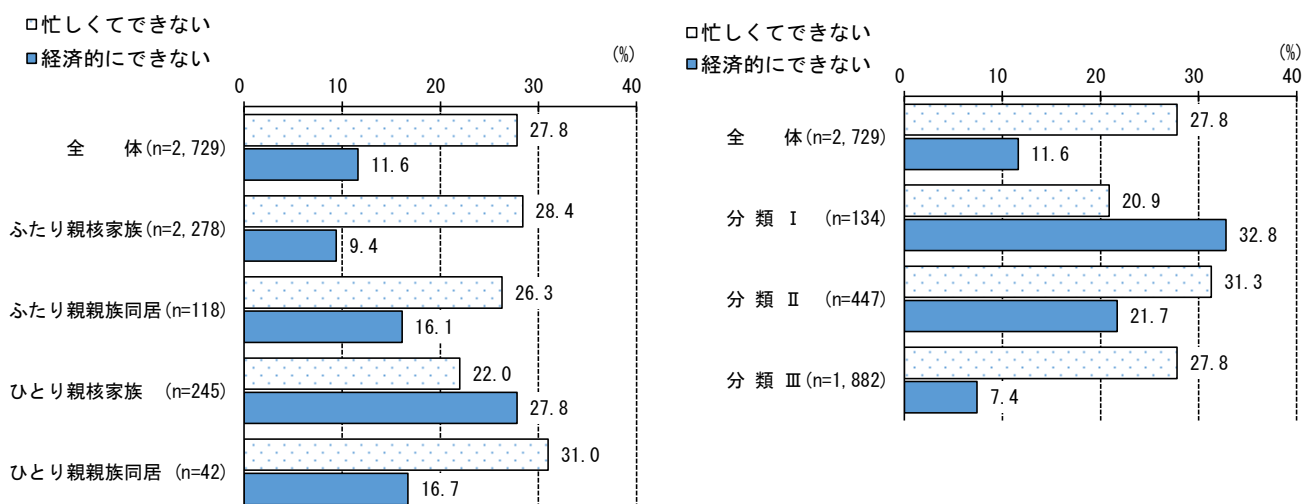
＜今回調査＞【図表 3-461 (ウ) 家族旅行に行く】

(していない理由・複数回答) (中学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-462 (ウ) 家族旅行に行く】

(していない理由・単一回答) (中学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



小学校2年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『子どもの誕生日には、お祝いをする』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、大きな差はみられない。

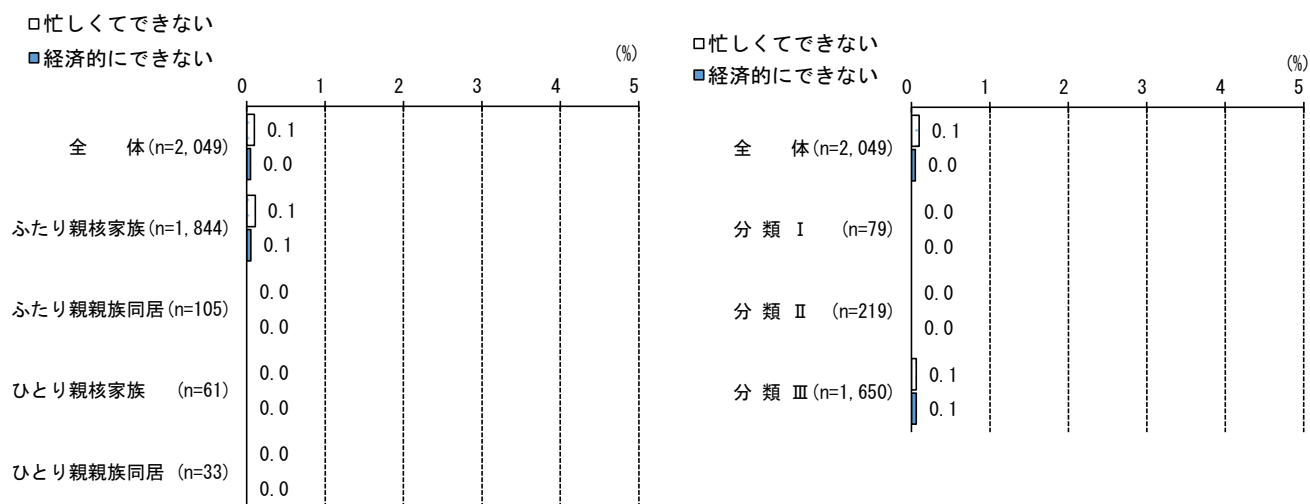
経年で見ると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

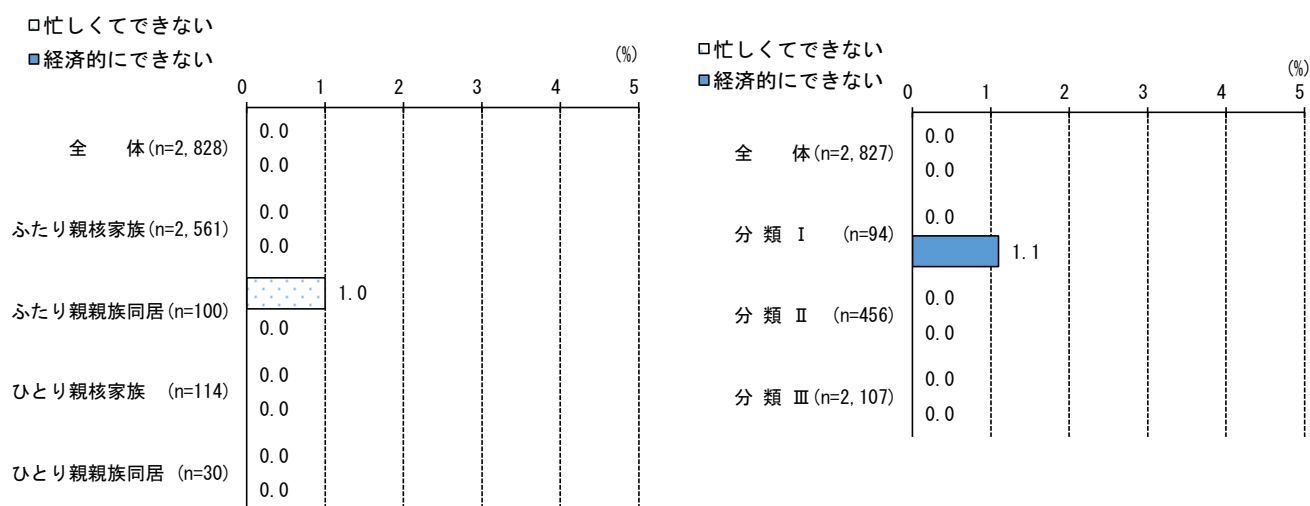
＜今回調査＞【図表 3-463 (エ) 子どもの誕生日には、お祝いをする】

(していない理由・複数回答) (小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-464 (エ) 子どもの誕生日には、お祝いをする】

(していない理由・単一回答) (小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



小学校5年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『子どもの誕生日には、お祝いをする』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、大きな差はみられない。

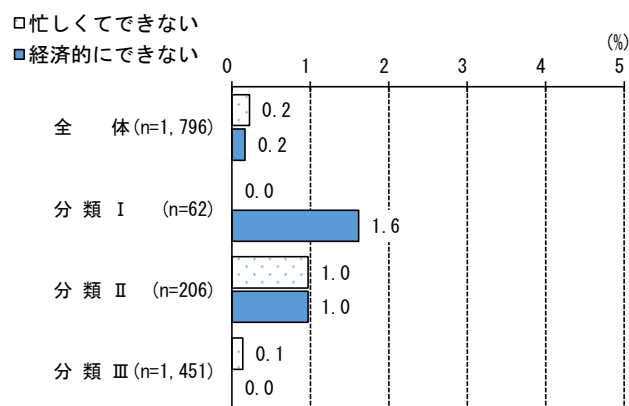
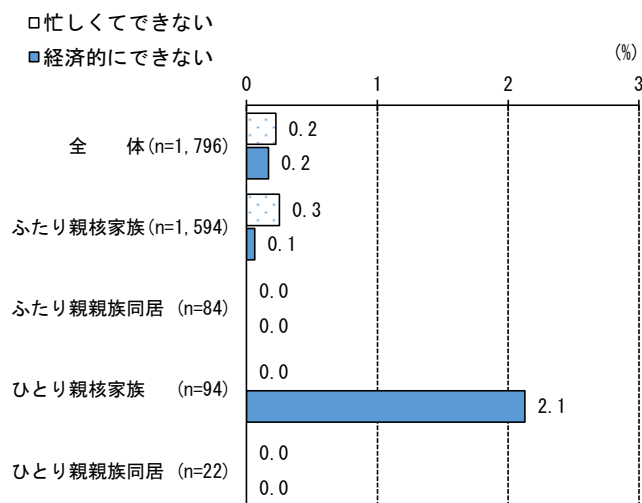
経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

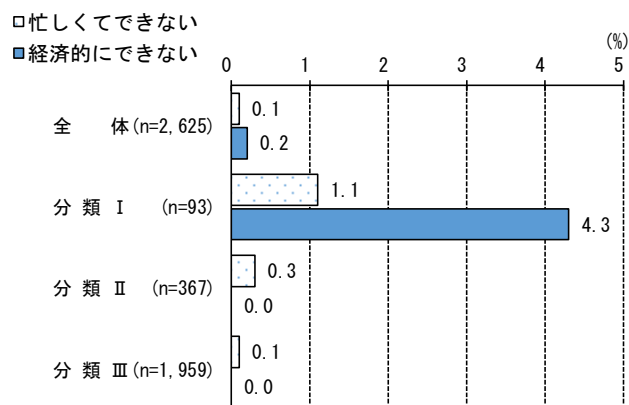
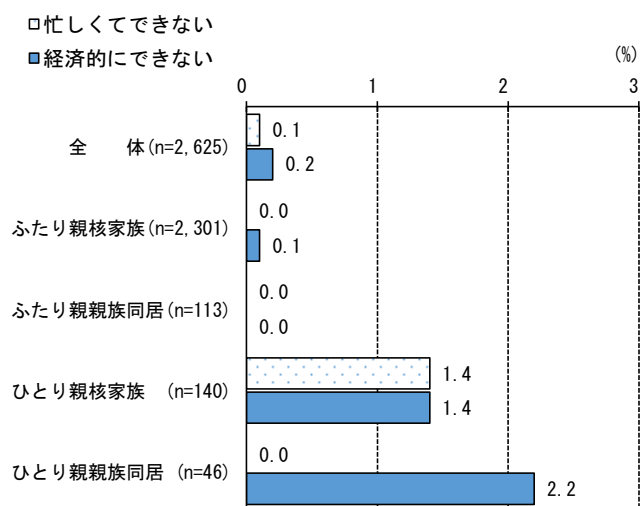
＜今回調査＞【図表 3-465 (エ) 子どもの誕生日には、お祝いをする】

(していない理由・複数回答) (小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-466 (エ) 子どもの誕生日には、お祝いをする】

(していない理由・単一回答) (小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



中学校2年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『子どもの誕生日には、お祝いをする』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、大きな差はみられない。

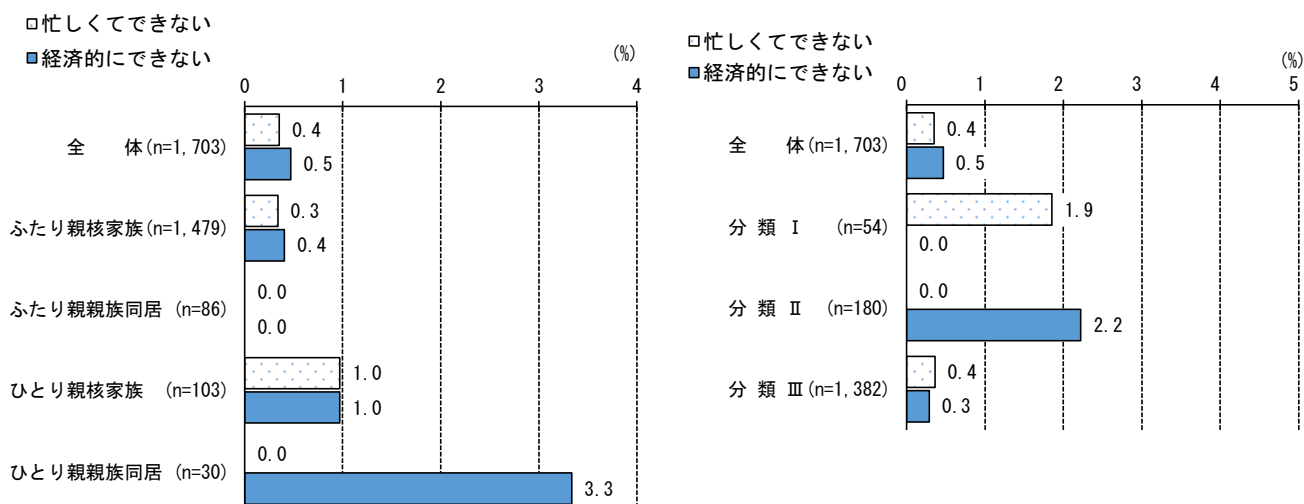
経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

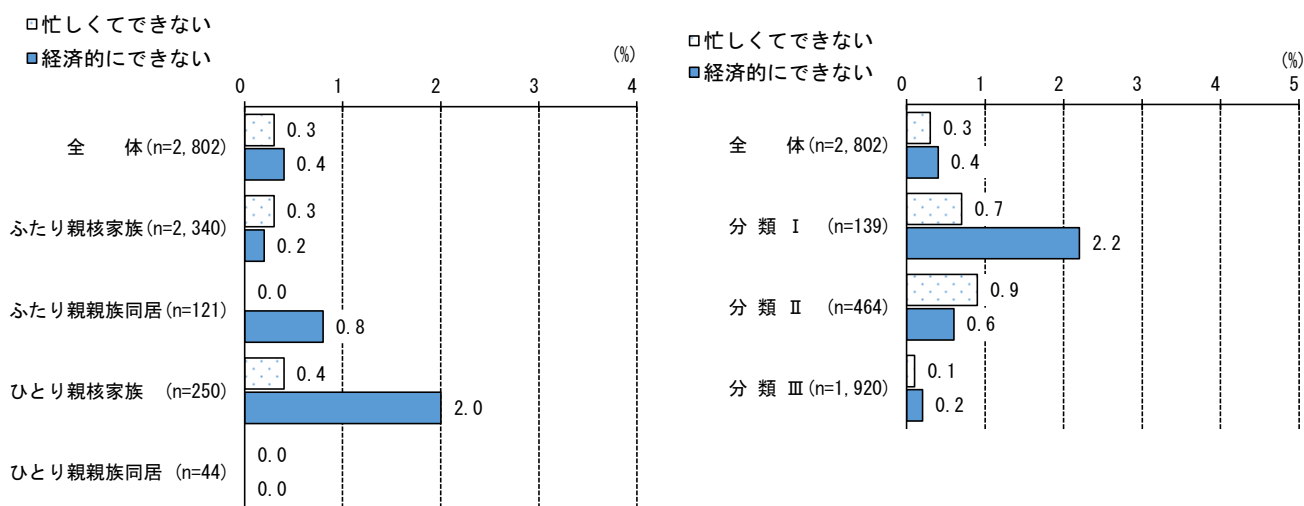
＜今回調査＞【図表 3-467 (エ) 子どもの誕生日には、お祝いをする】

(していない理由・複数回答) (中学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-468 (エ) 子どもの誕生日には、お祝いをする】

(していない理由・単一回答) (中学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



小学校2年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『クリスマスプレゼントやお年玉を渡す』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、大きな差はみられない。

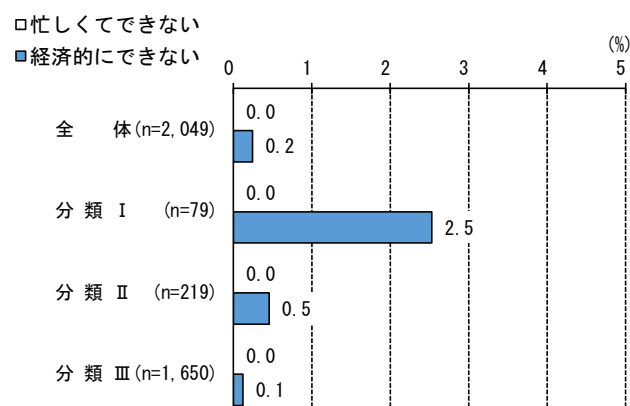
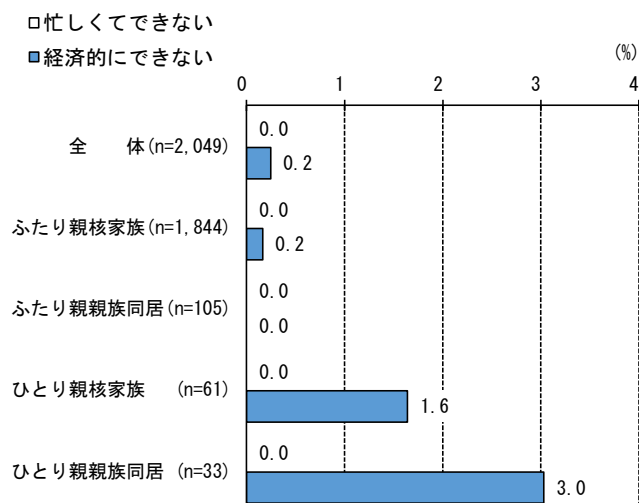
経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

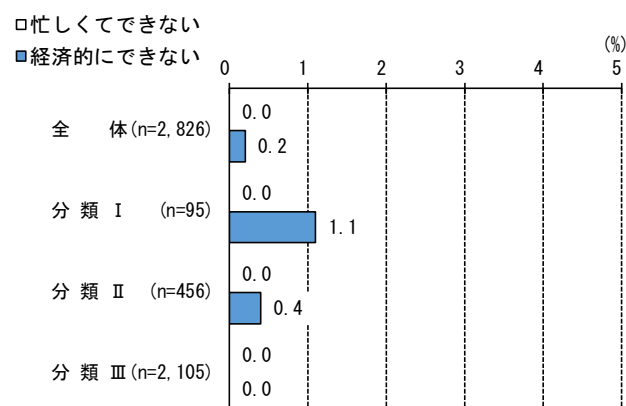
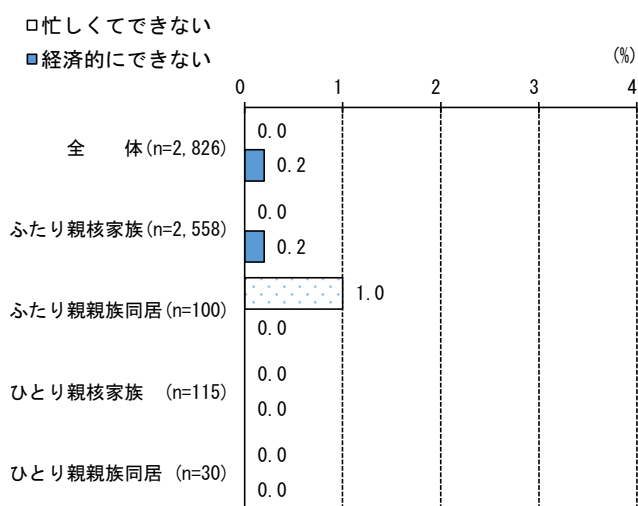
＜今回調査＞【図表 3-469 (オ) クリスマスプレゼントやお年玉を渡す】

(していない理由・複数回答) (小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-470 (オ) クリスマスプレゼントやお年玉を渡す】

(していない理由・単一回答) (小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



小学校5年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『クリスマスプレゼントやお年玉を渡す』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が6.5%と全体に比べて高くなっている。

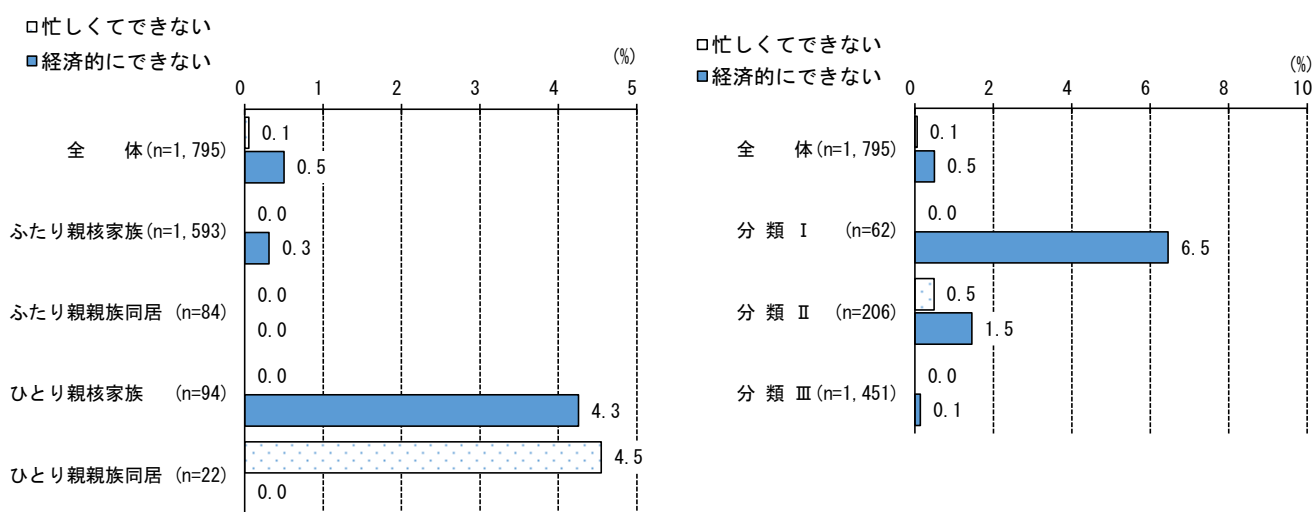
経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

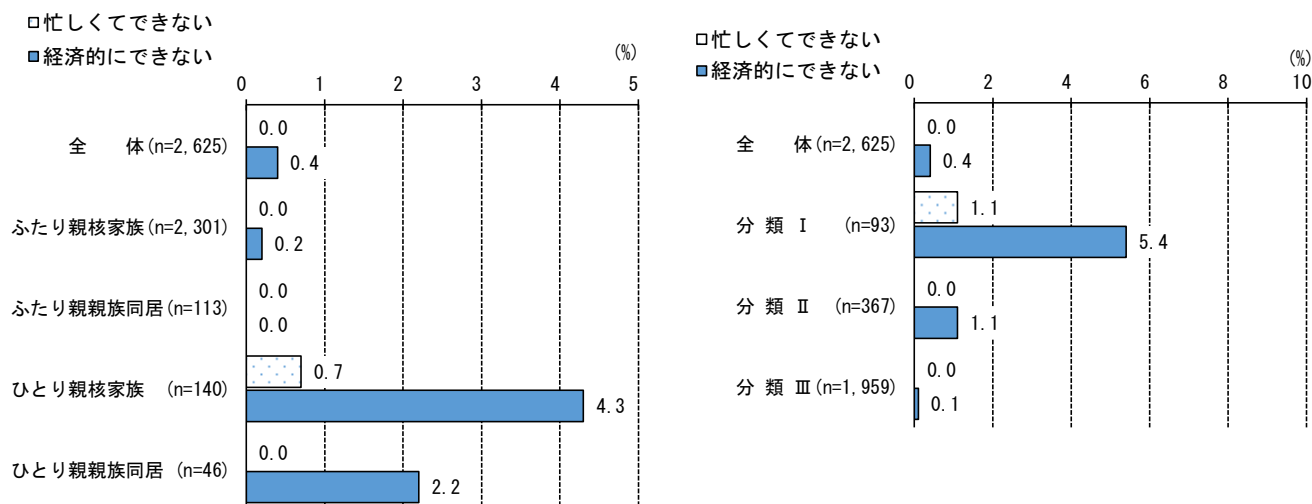
<今回調査>【図表 3-471 (オ) クリスマスプレゼントやお年玉を渡す】

(していない理由・複数回答)(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



<前回調査>【図表 3-472 (オ) クリスマスプレゼントやお年玉を渡す】

(していない理由・単一回答)(小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



中学校2年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『クリスマスプレゼントやお年玉を渡す』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、大きな差はみられない。

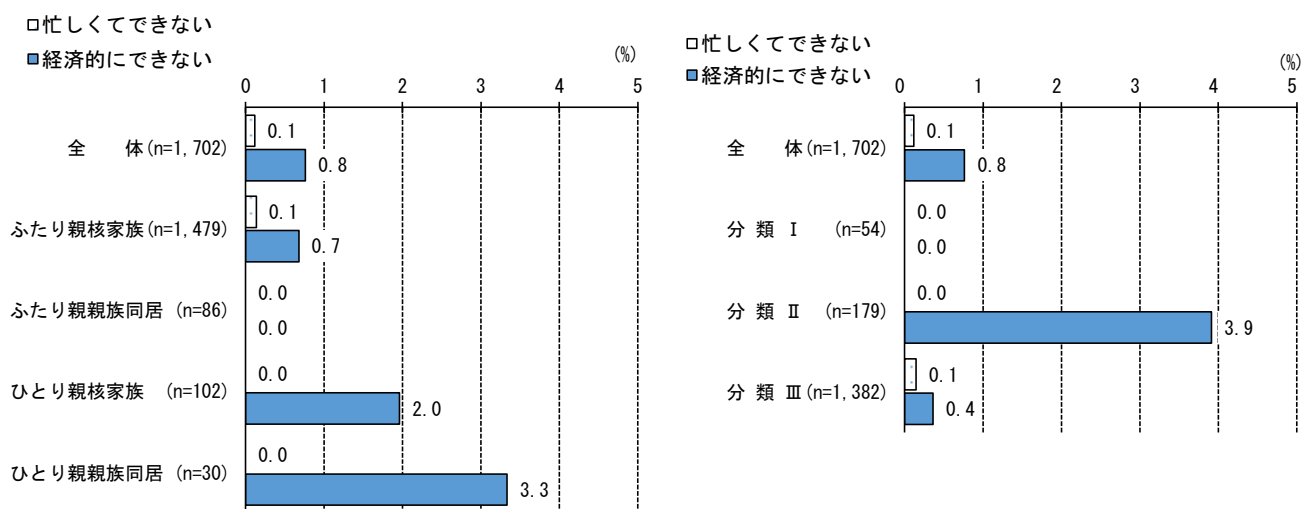
経年でみると、世帯構成別では大きな差はみられない。所得分類別では「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

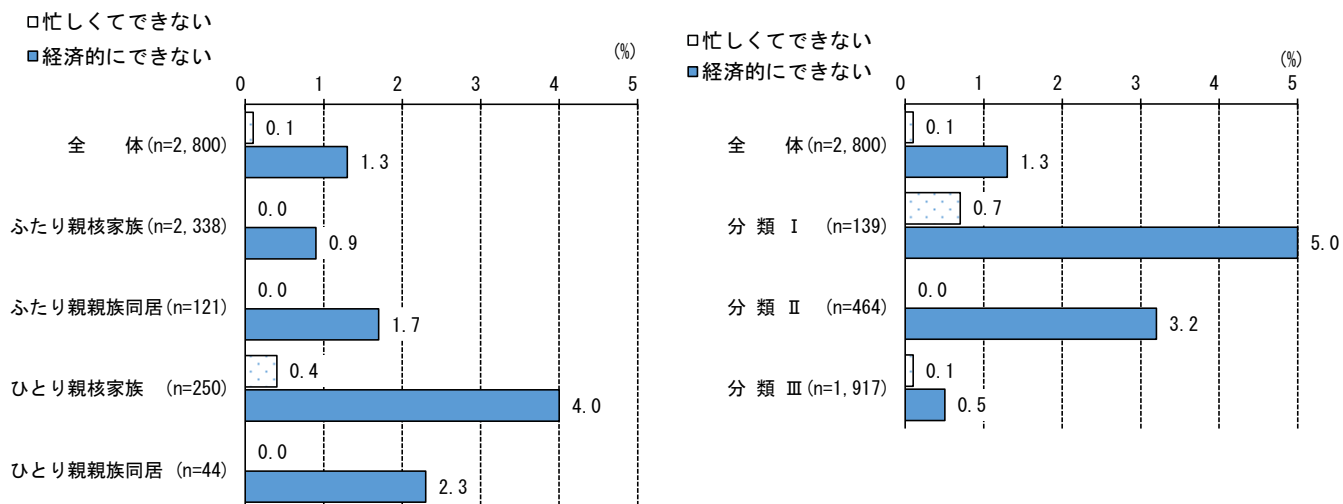
<今回調査>【図表 3-473 (オ) クリスマスプレゼントやお年玉を渡す】

(していない理由・複数回答)(中学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



<前回調査>【図表 3-474 (オ) クリスマスプレゼントやお年玉を渡す】

(していない理由・単一回答)(中学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



小学校2年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『子どもに毎月お小遣いを渡す』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、「経済的にできない」は『ひとり親核家族』が16.7%と全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が16.9%、『分類Ⅱ』が8.2%と全体に比べて高くなっている。

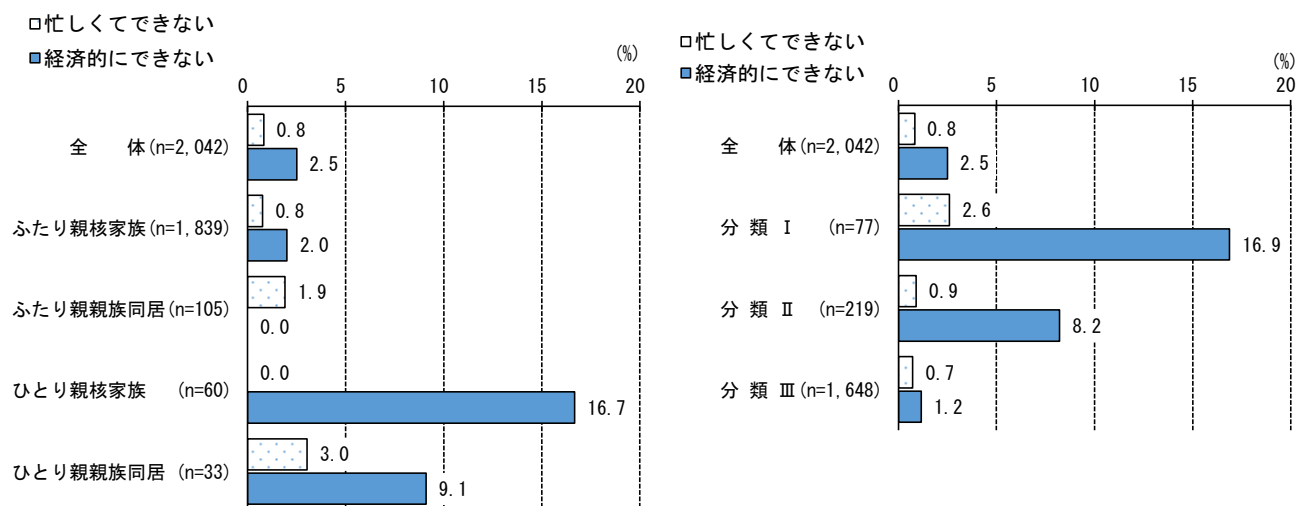
経年でみると、世帯構成別では「経済的にできない」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。所得分類別では「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

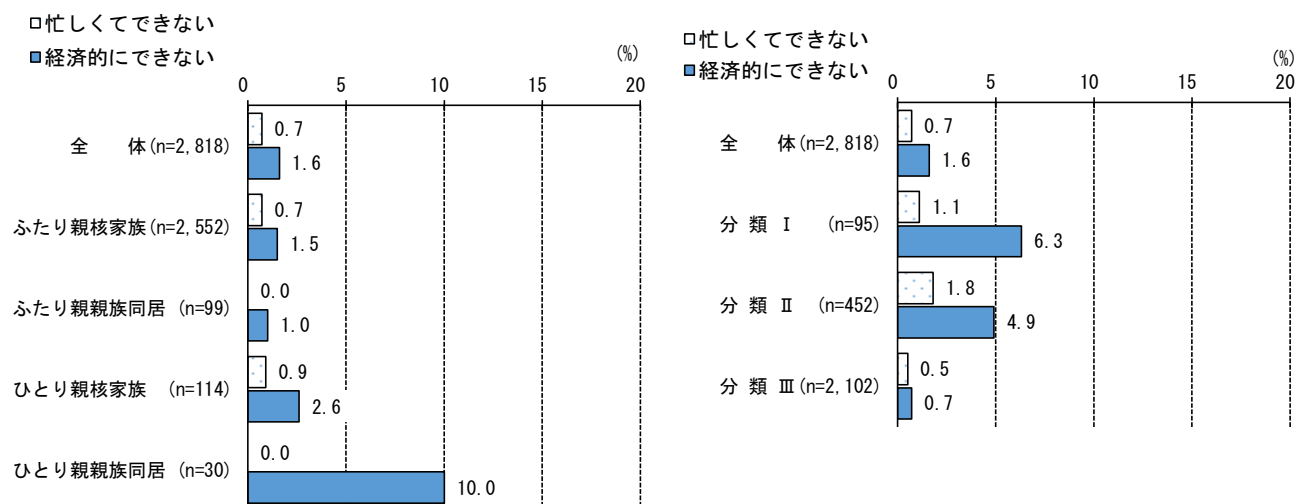
<今回調査>【図表 3-475 (カ) 子どもに毎月お小遣いを渡す】

(していない理由・複数回答) (小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



<前回調査>【図表 3-476 (カ) 子どもに毎月お小遣いを渡す】

(していない理由・単一回答) (小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



小学校5年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『子どもに毎月お小遣いを渡す』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、「経済的にできない」は『ひとり親核家族』が10.6%と全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が16.1%と全体に比べて高くなっている。

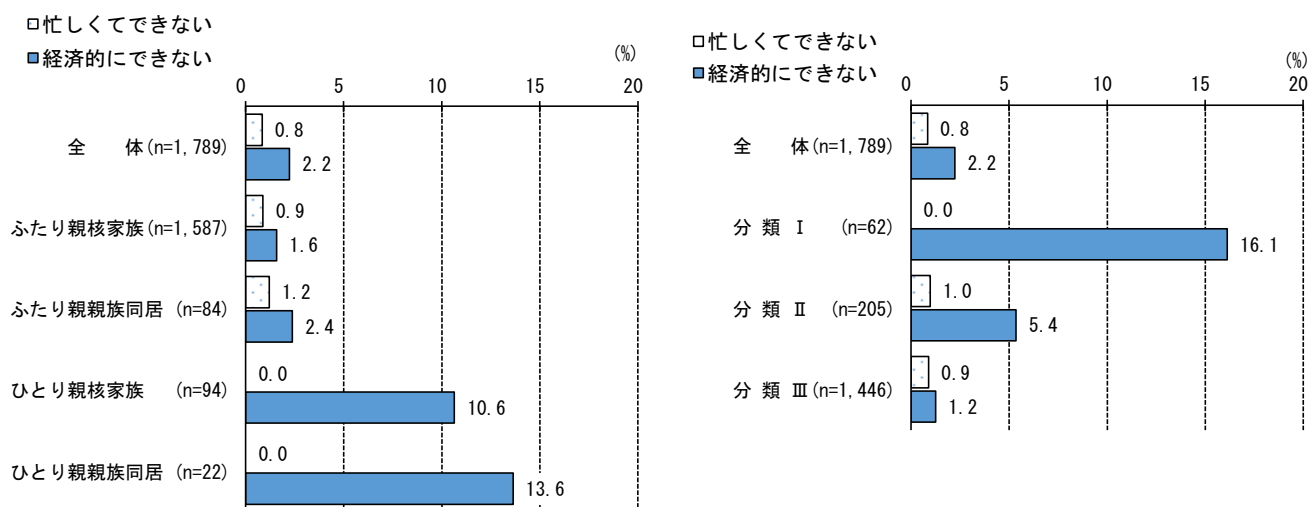
経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

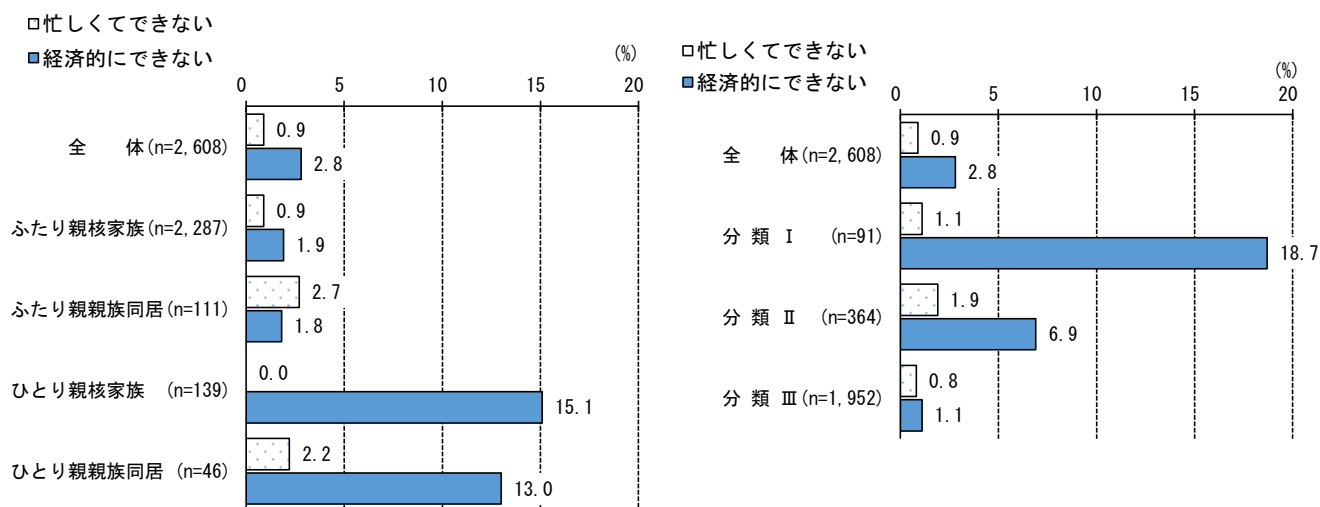
<今回調査>【図表 3-477 (カ) 子どもに毎月お小遣いを渡す】

(していない理由・複数回答) (小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



<前回調査>【図表 3-478 (カ) 子どもに毎月お小遣いを渡す】

(していない理由・単一回答) (小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



中学校2年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『子どもに毎月お小遣いを渡す』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、「経済的にできない」は『ひとり親核家族』が12.6%と全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が11.1%、『分類Ⅱ』が12.2%と全体に比べて高くなっている。

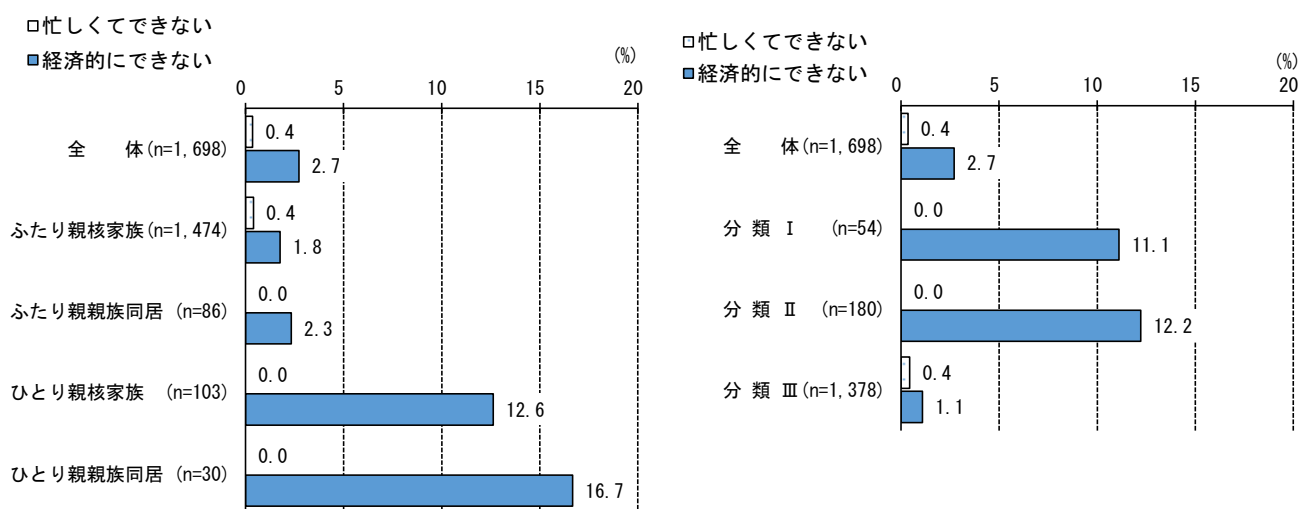
経年でみると、世帯構成別では大きな差はみられない。所得分類別では「経済的にできない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

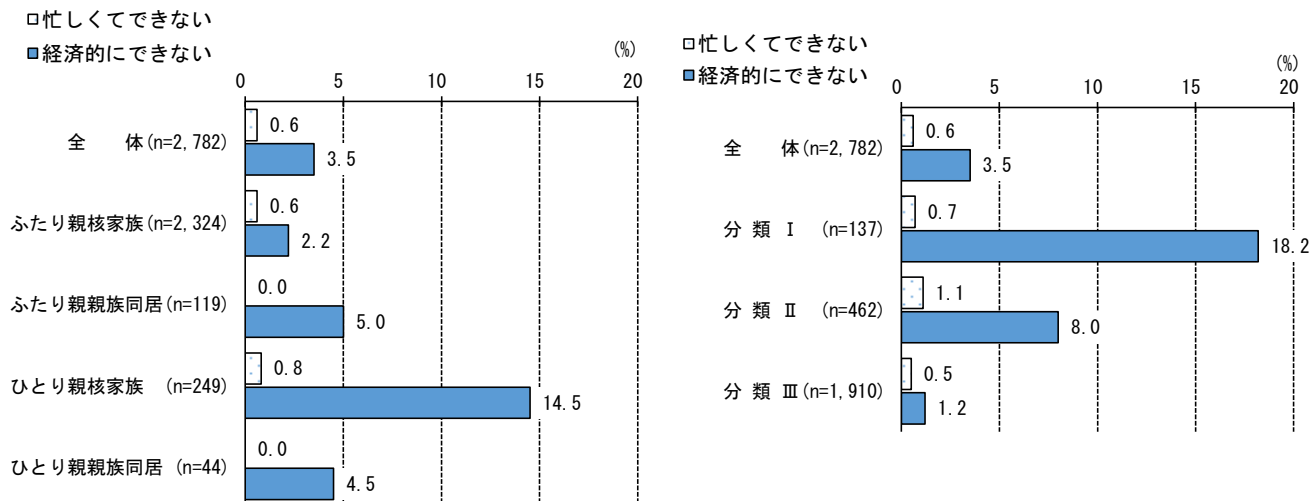
＜今回調査＞【図表 3-479 （カ）子どもに毎月お小遣いを渡す】

（していない理由・複数回答）（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-480 （カ）子どもに毎月お小遣いを渡す】

（していない理由・単一回答）（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）



小学校2年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『子どもの成長に合わせ、衣服や靴をそろえる』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、大きな差はみられない。

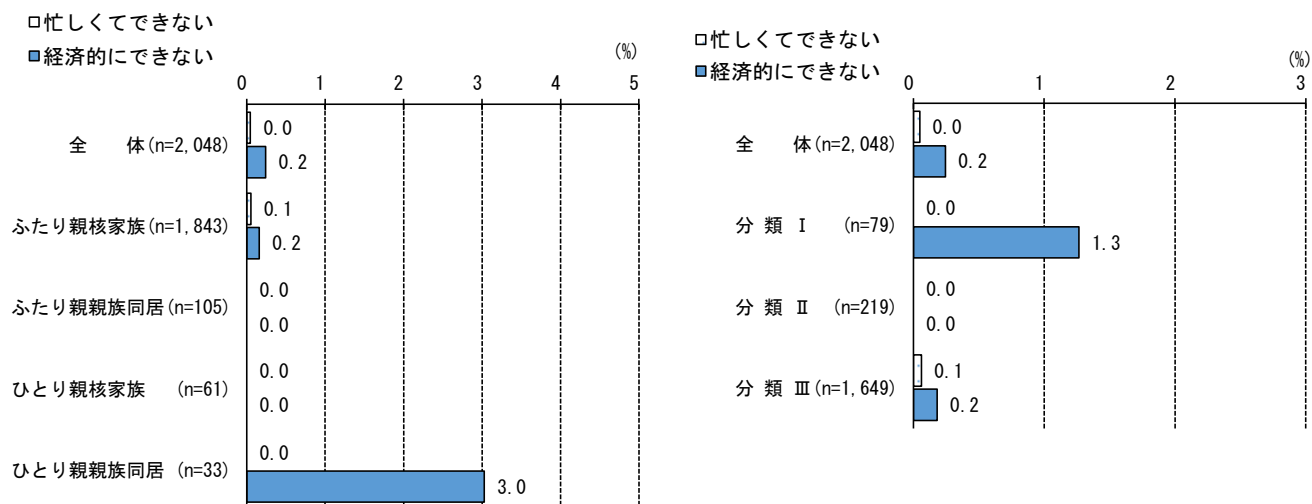
経年で見ると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

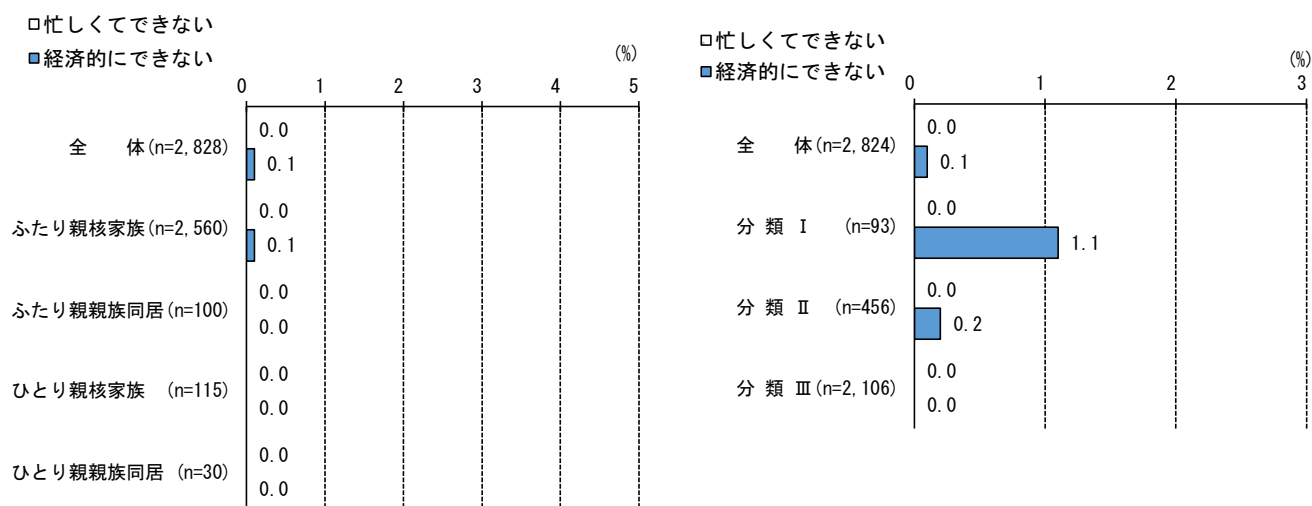
<今回調査>【図表 3-481 (キ) 子どもの成長に合わせ、衣服や靴をそろえる】

(していない理由・複数回答) (小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



<前回調査>【図表 3-482 (キ) 子どもの成長に合わせ、衣服や靴をそろえる】

(していない理由・単一回答) (小学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



小学校5年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『子どもの成長に合わせ、衣服や靴をそろえる』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、大きな差はみられない。

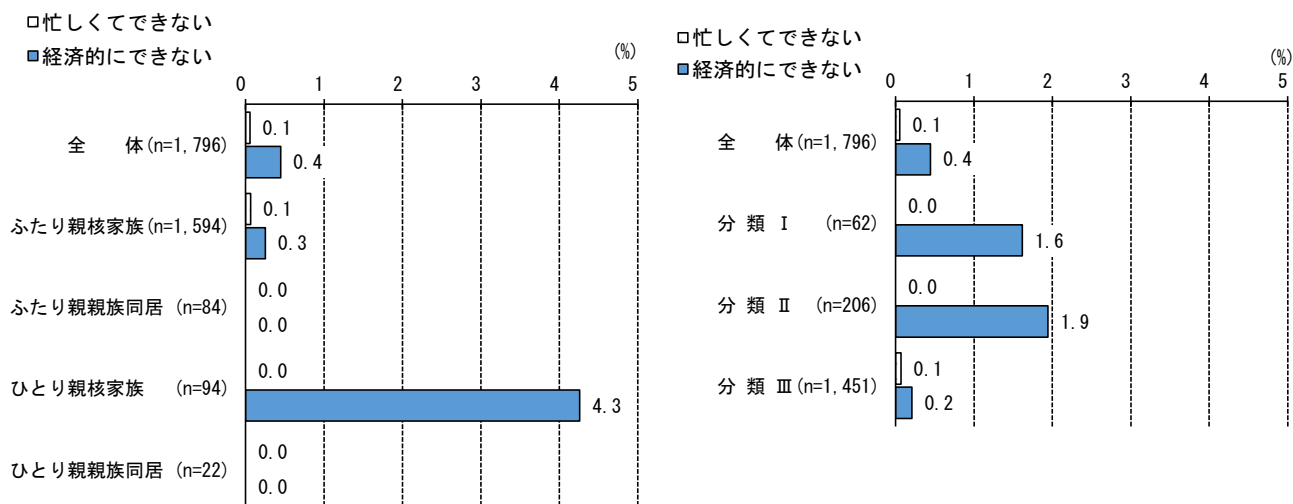
経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

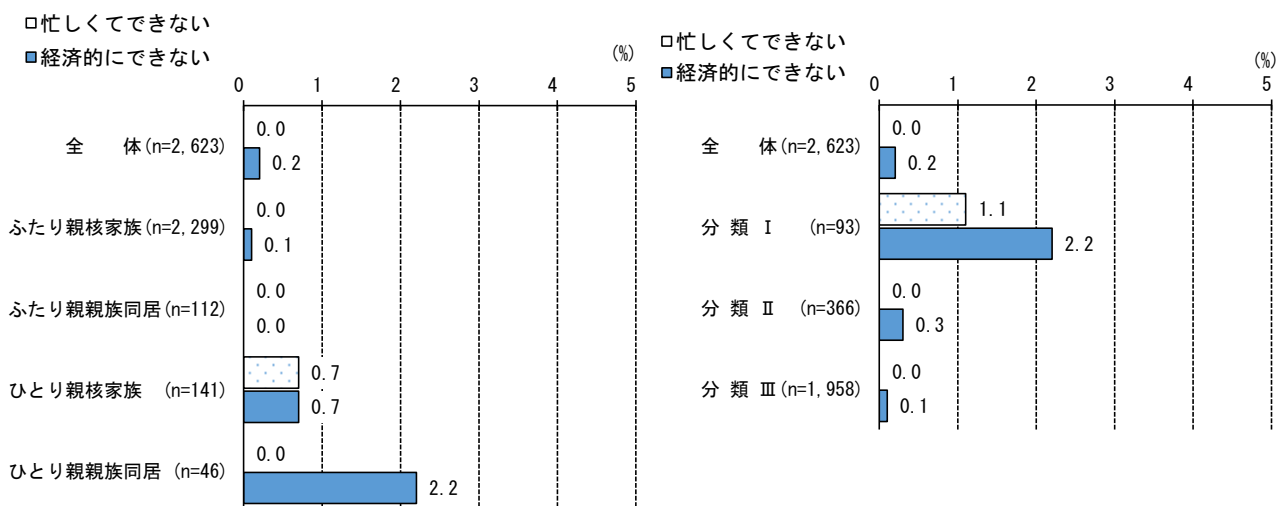
＜今回調査＞【図表 3-483 (キ) 子どもの成長に合わせ、衣服や靴をそろえる】

(していない理由・複数回答) (小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-484 (キ) 子どもの成長に合わせ、衣服や靴をそろえる】

(していない理由・単一回答) (小学校5年生・世帯構成別、所得分類別)



中学校2年生のいる世帯の子どもに対する機会の提供の有無について、『子どもの成長に合わせ、衣服や靴をそろえる』で「していない」理由（複数回答）を「忙しくてできない」、「経済的にできない」と答えた人を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

所得分類別にみると、大きな差はみられない。

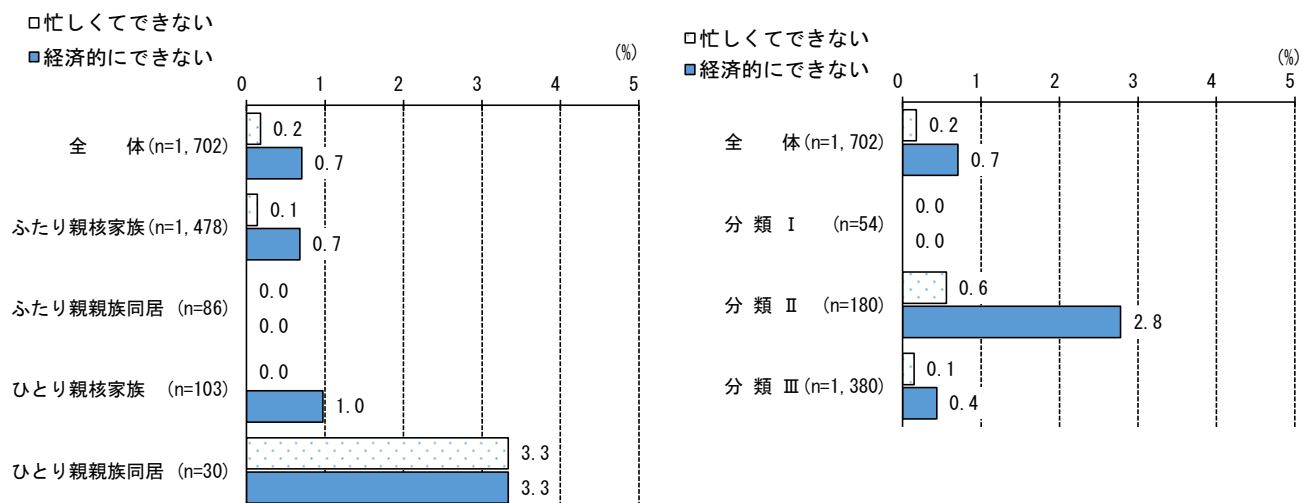
経年でみると、世帯構成別、所得分類別では大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は設問形態が異なるため、参考値とする。

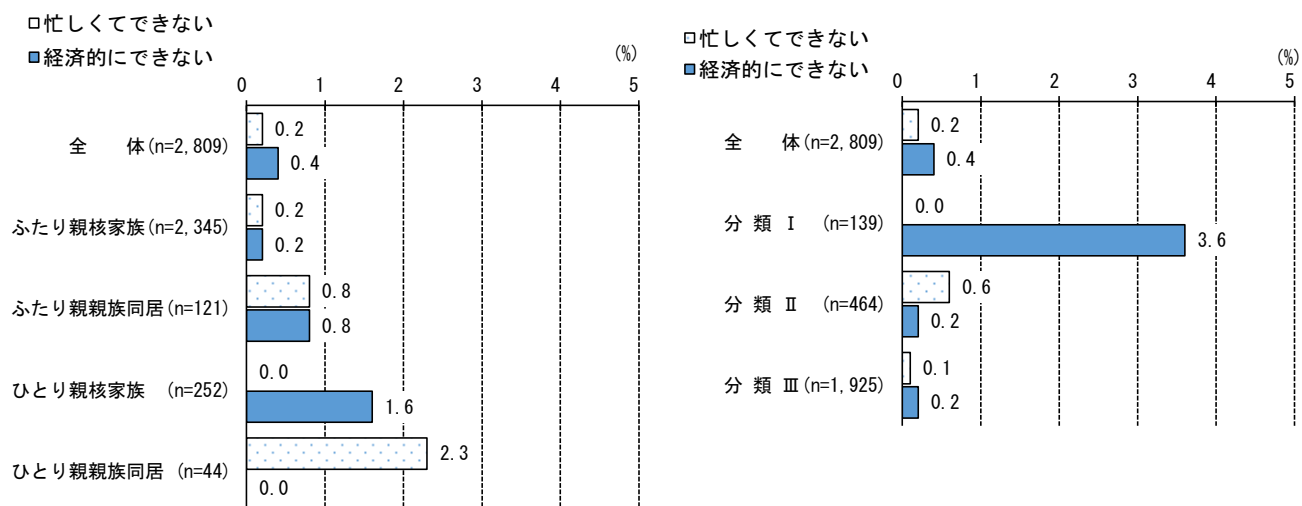
＜今回調査＞【図表 3-485 (キ) 子どもの成長に合わせ、衣服や靴をそろえる】

(していない理由・複数回答) (中学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-486 (キ) 子どもの成長に合わせ、衣服や靴をそろえる】

(していない理由・単一回答) (中学校2年生・世帯構成別、所得分類別)



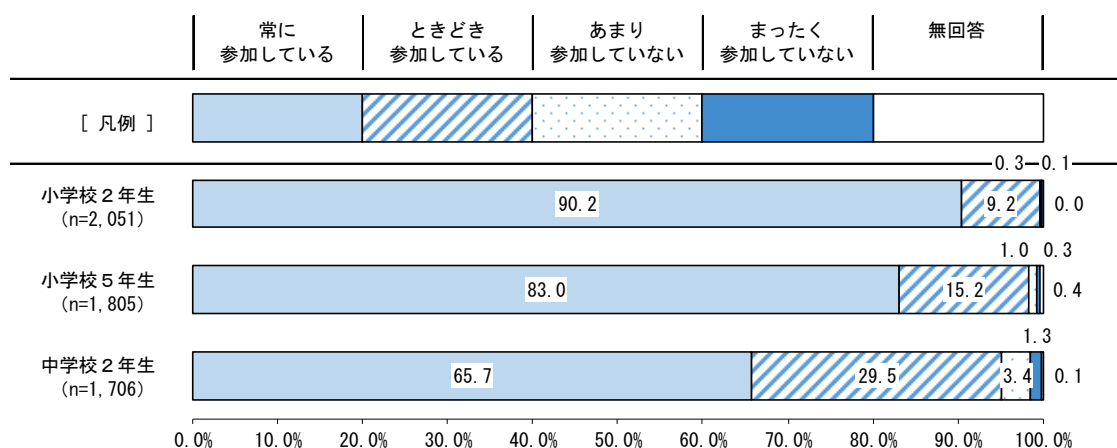
エ 学校行事等への参加程度【問 8】(SA)

学校行事等への参加状況を聞いたところ、『授業参観や運動会などの学校行事への参加』では、いずれの学年でも「常に参加している」(小学校2年生：90.2%、小学校5年生：83.0%、中学校2年生：65.7%)が最も高く、次いで「ときどき参加している」(小学校2年生：9.2%、小学校5年生：15.2%、中学校2年生：29.5%)、「あまり参加していない」(小学校2年生：0.3%、小学校5年生：1.0%、中学校2年生：3.4%)となっている。

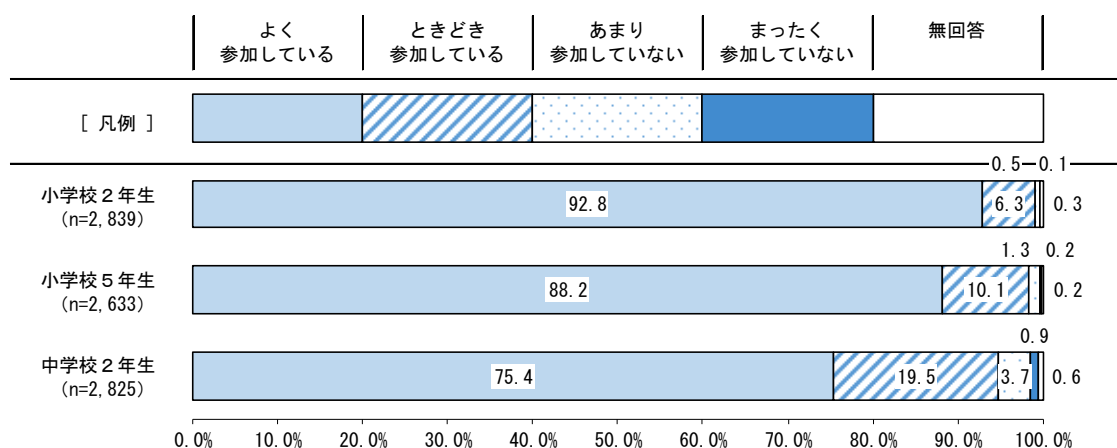
経年でみると、「ときどき参加している」は小学校5年生、中学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて高くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-487 (ア) 授業参観や運動会などの学校行事への参加】



＜前回調査＞【図表 3-488 (ア) 授業参観や運動会などの学校行事への参加】

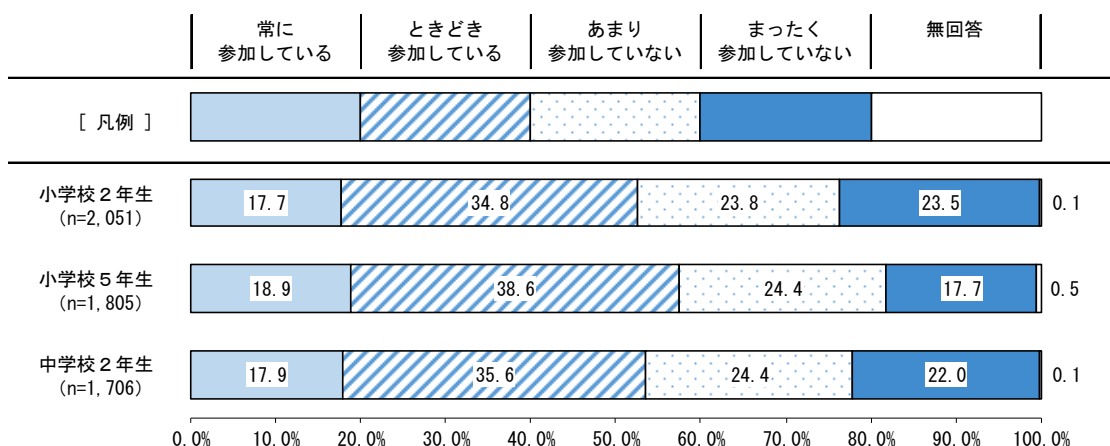


『PTA活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加』では、いずれの学年でも「ときどき参加している」（小学校2年生：34.8%、小学校5年生：38.6%、中学校2年生：35.6%）が最も高く、次いで「あまり参加していない」（小学校2年生：23.8%、小学校5年生：24.4%、中学校2年生：24.4%）となっている。

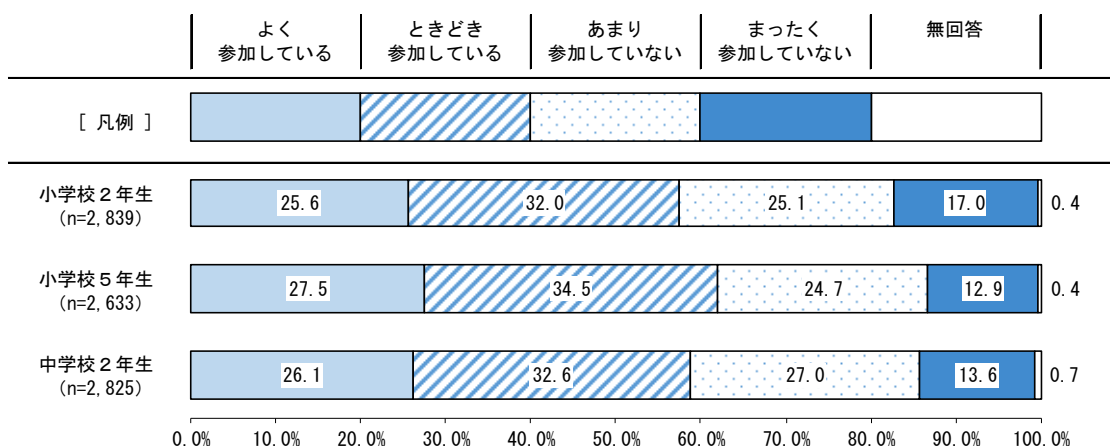
経年でみると、「まったく参加していない」は小学校2年生、中学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて高くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回調査>【図表 3-489 (イ) PTA活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加】



<前回調査>【図表 3-490 (イ) PTA活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加】

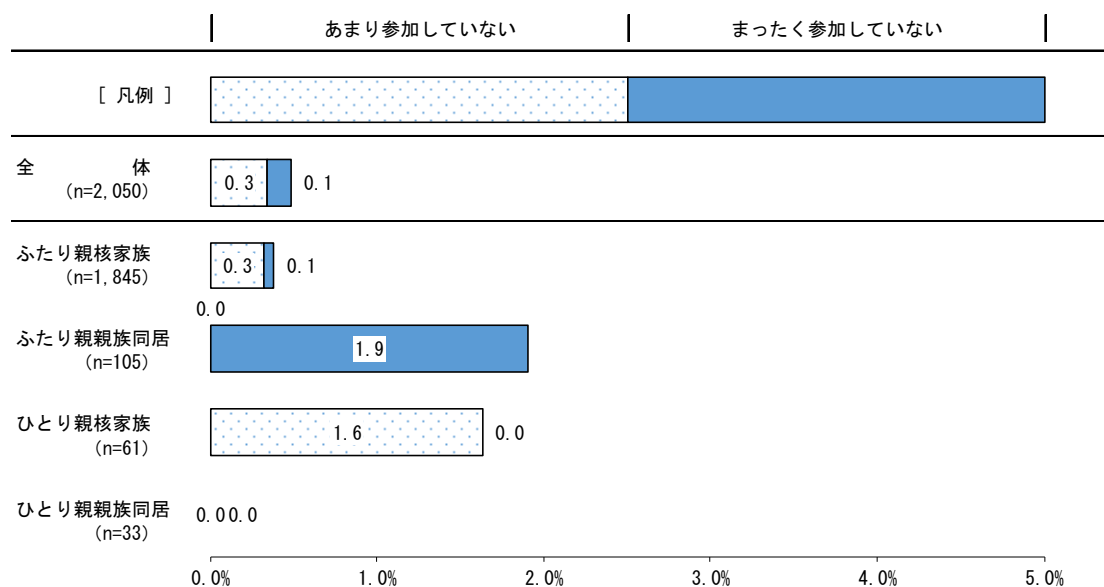


小学校2年生のいる世帯の『授業参観や運動会などの学校行事への参加』で「あまり参加していない」、「まったく参加していない」と答えた人を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

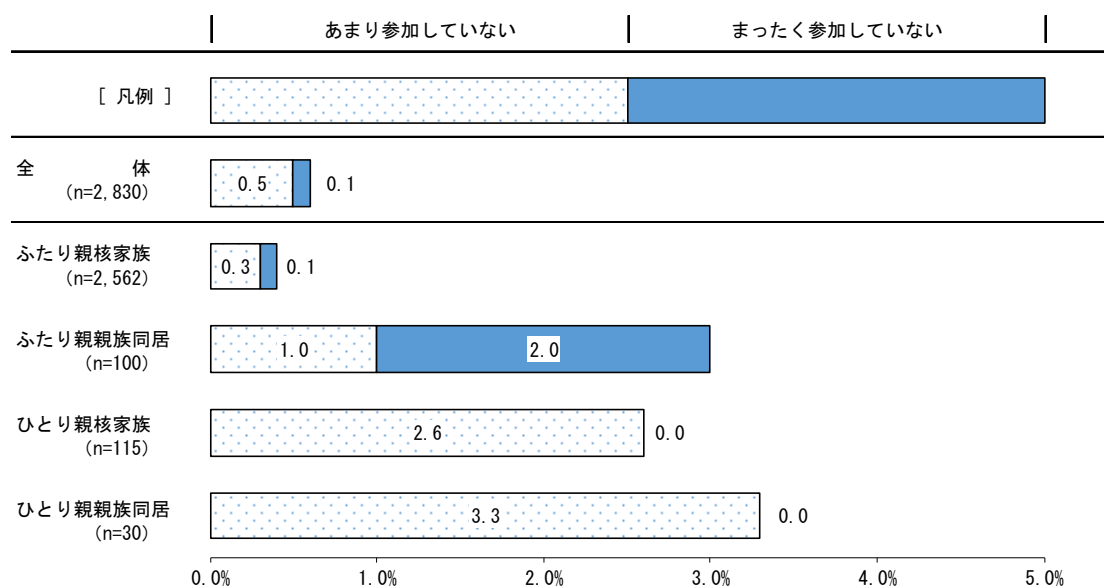
経年でみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-491 (ア) 授業参観や運動会などの学校行事への参加】(小学校2年生・世帯構成別)

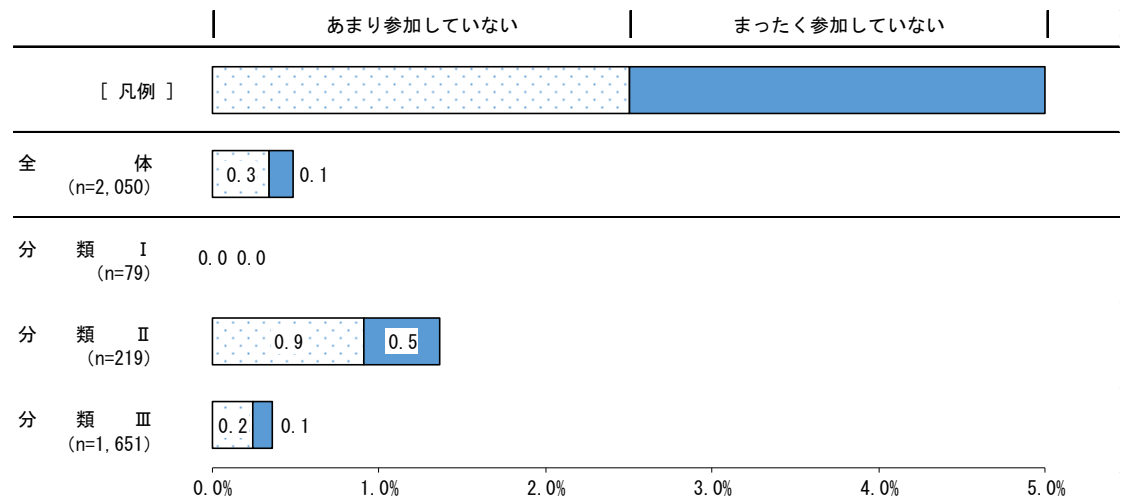


<前回調査>【図表 3-492 (ア) 授業参観や運動会などの学校行事への参加】(小学校2年生・世帯構成別)

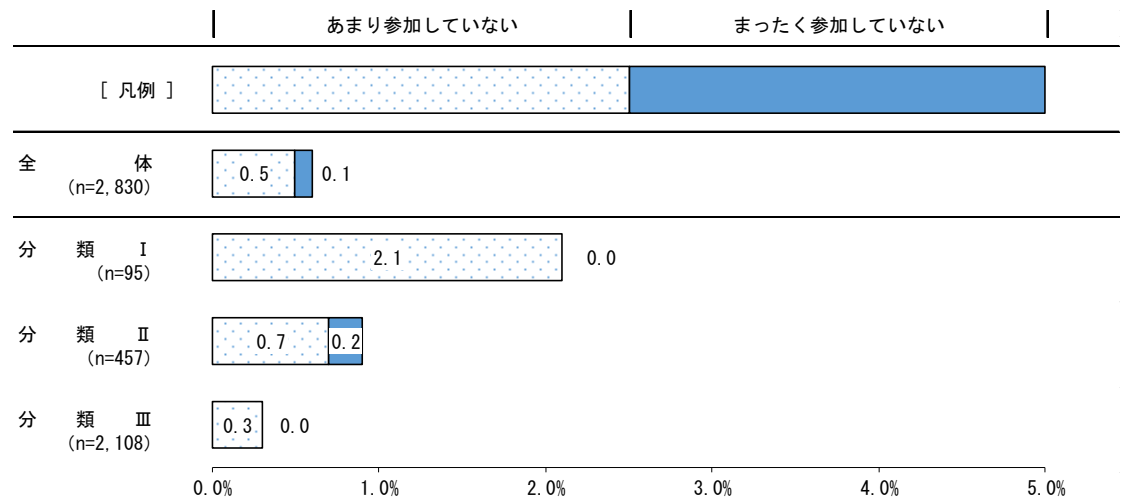


所得分類別にみると、大きな差はみられない。
経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-493 （ア）授業参観や運動会などの学校行事への参加】（小学校2年生・所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-494 （ア）授業参観や運動会などの学校行事への参加】（小学校2年生・所得分類別）

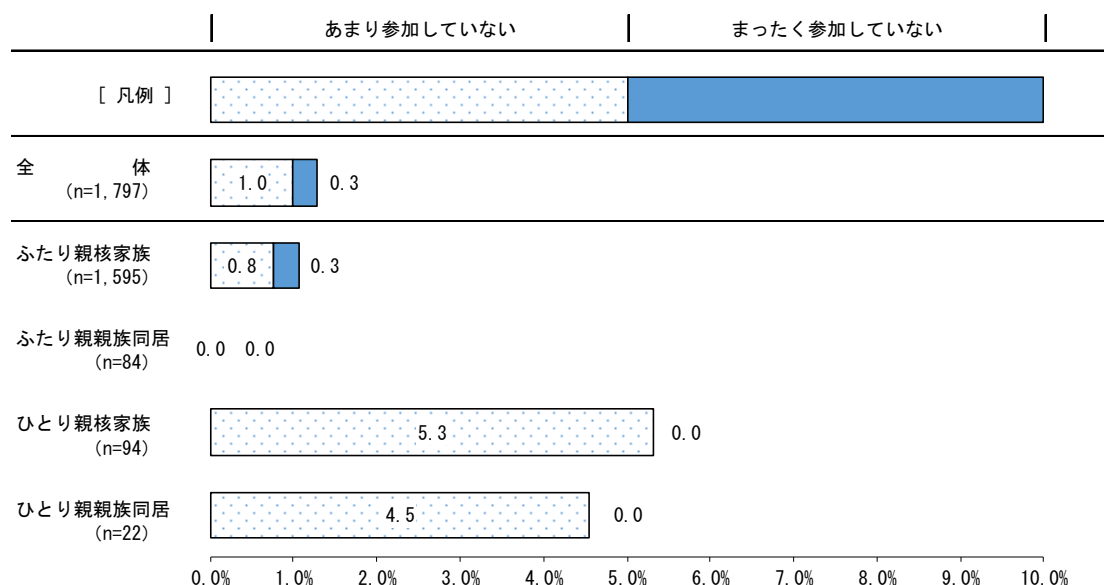


小学校5年生のいる世帯の『授業参観や運動会などの学校行事への参加』で「あまり参加していない」、「まったく参加していない」と答えた人を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

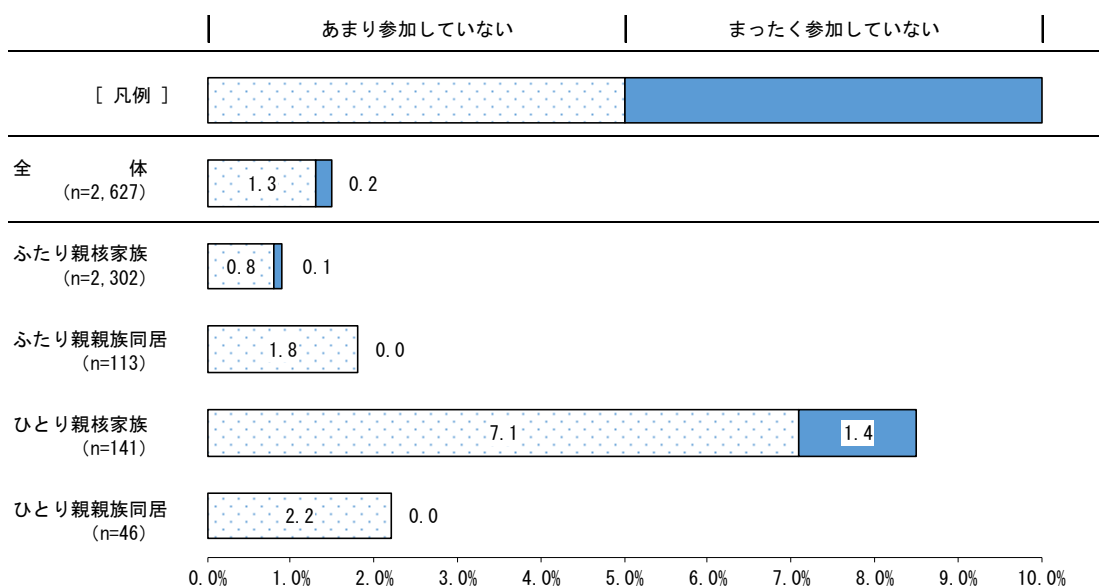
経年でみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-495 (ア) 授業参観や運動会などの学校行事への参加】(小学校5年生・世帯構成別)

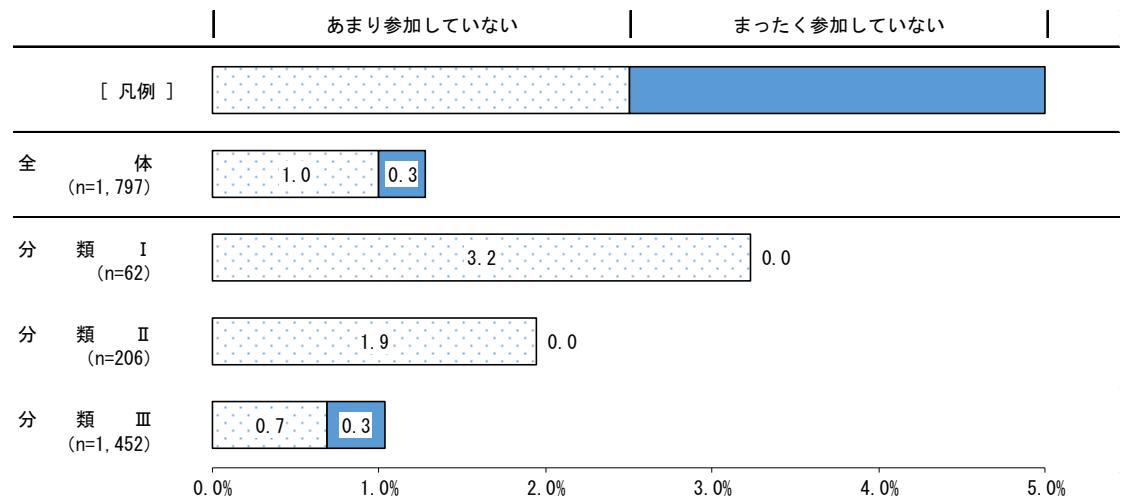


<前回調査>【図表 3-496 (ア) 授業参観や運動会などの学校行事への参加】(小学校5年生・世帯構成別)

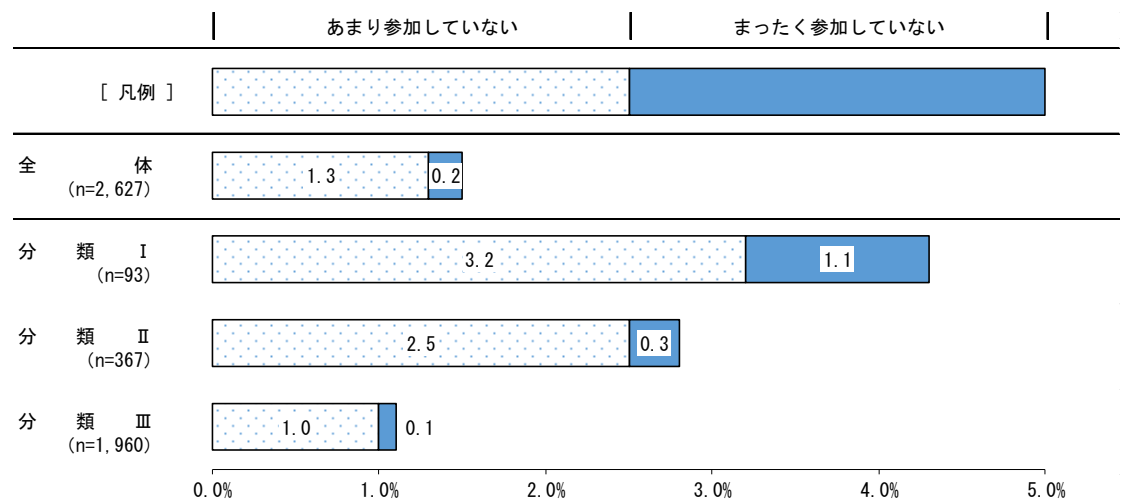


所得分類別にみると、大きな差はみられない。
経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-497 （ア）授業参観や運動会などの学校行事への参加】（小学校5年生・所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-498 （ア）授業参観や運動会などの学校行事への参加】（小学校5年生・所得分類別）

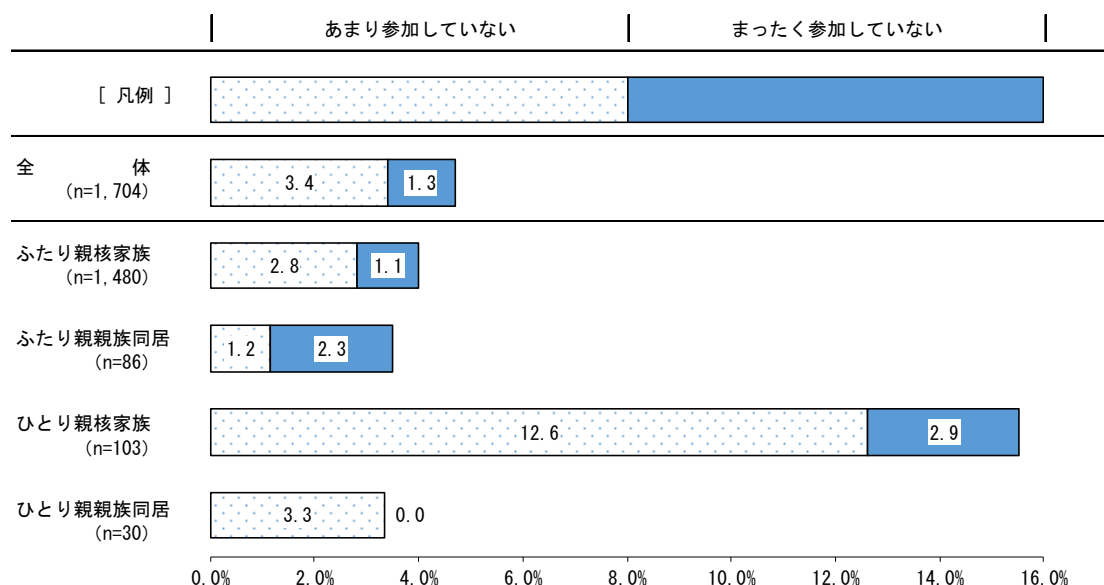


中学校2年生のいる世帯の『授業参観や運動会などの学校行事への参加』で「あまり参加していない」、「まったく参加していない」と答えた人を世帯構成別にみると、「あまり参加していない」は『ひとり親核家族』が12.6%と全体に比べて高くなっている。

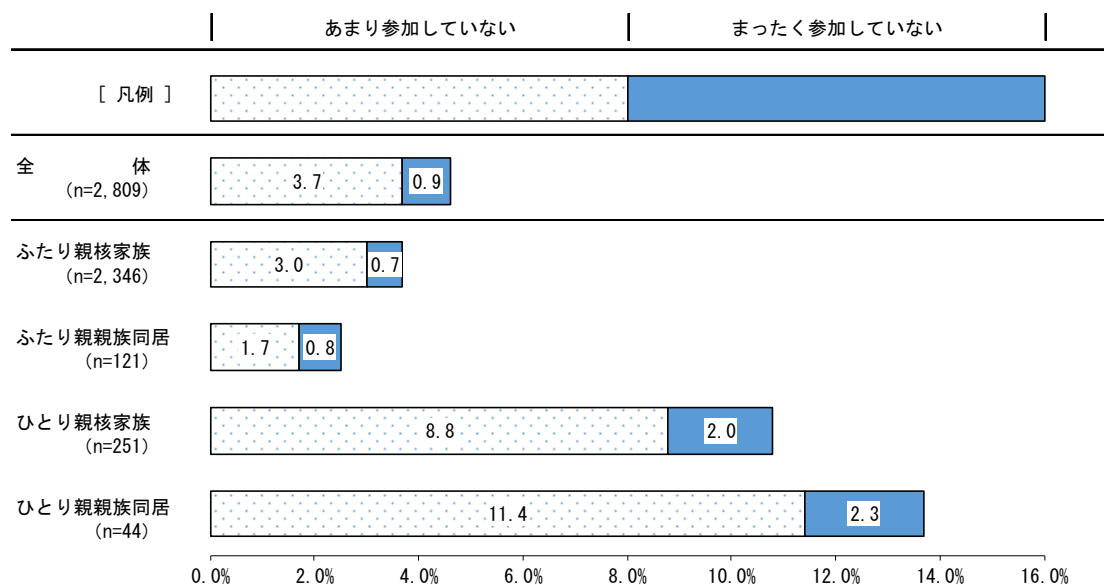
経年でみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-499 (ア) 授業参観や運動会などの学校行事への参加】(中学校2年生・世帯構成別)

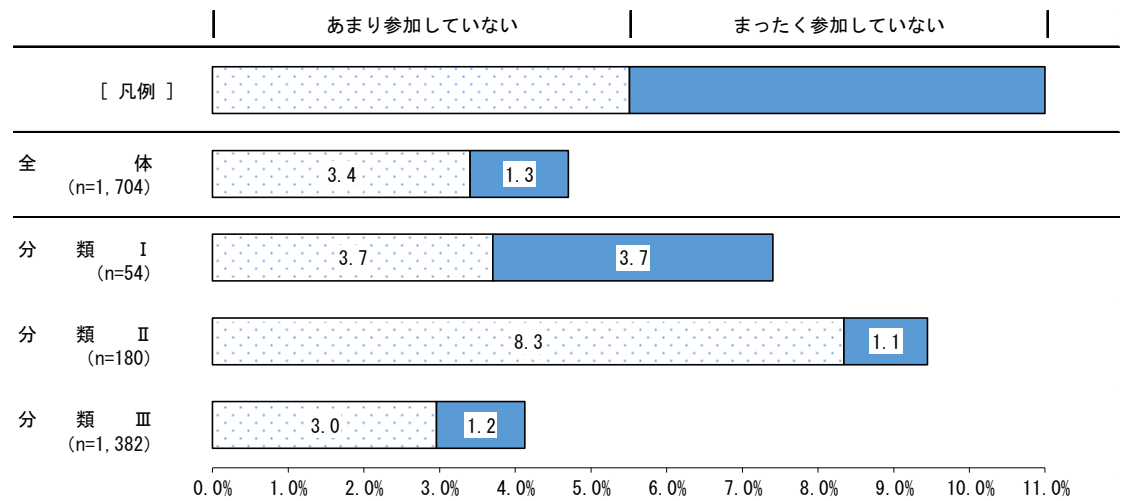


<前回調査>【図表 3-500 (ア) 授業参観や運動会などの学校行事への参加】(中学校2年生・世帯構成別)

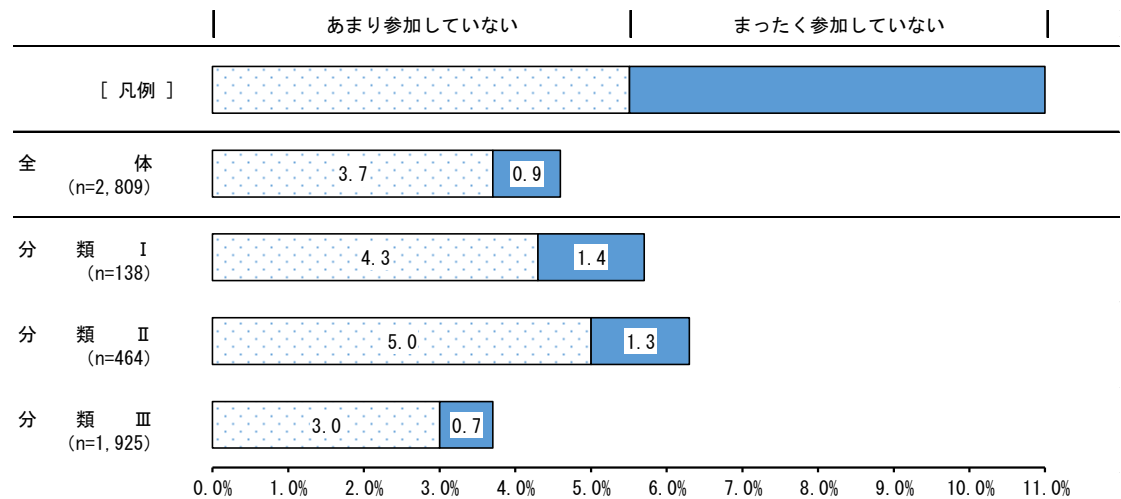


所得分類別にみると、大きな差はみられない。
経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-501 (ア) 授業参観や運動会などの学校行事への参加】(中学校2年生・所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-502 (ア) 授業参観や運動会などの学校行事への参加】(中学校2年生・所得分類別)



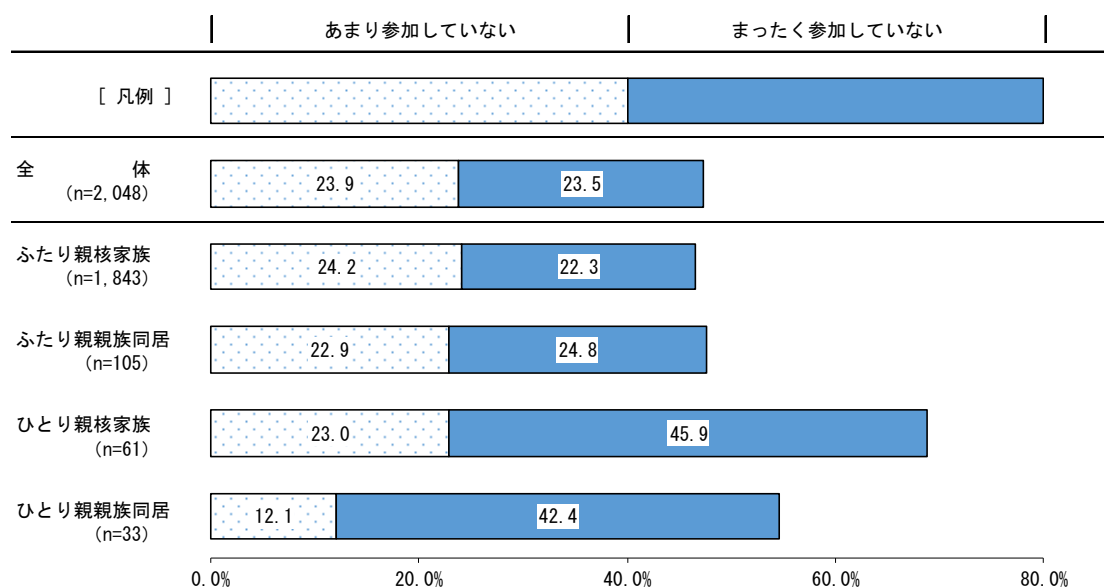
小学校2年生のいる世帯の『PTA活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加』で「あまり参加していない」、「まったく参加していない」と答えた人を世帯構成別にみると、「まったく参加していない」は『ひとり親核家族』が45.9%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「あまり参加していない」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「まったく参加していない」は『ふたり親核家族』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

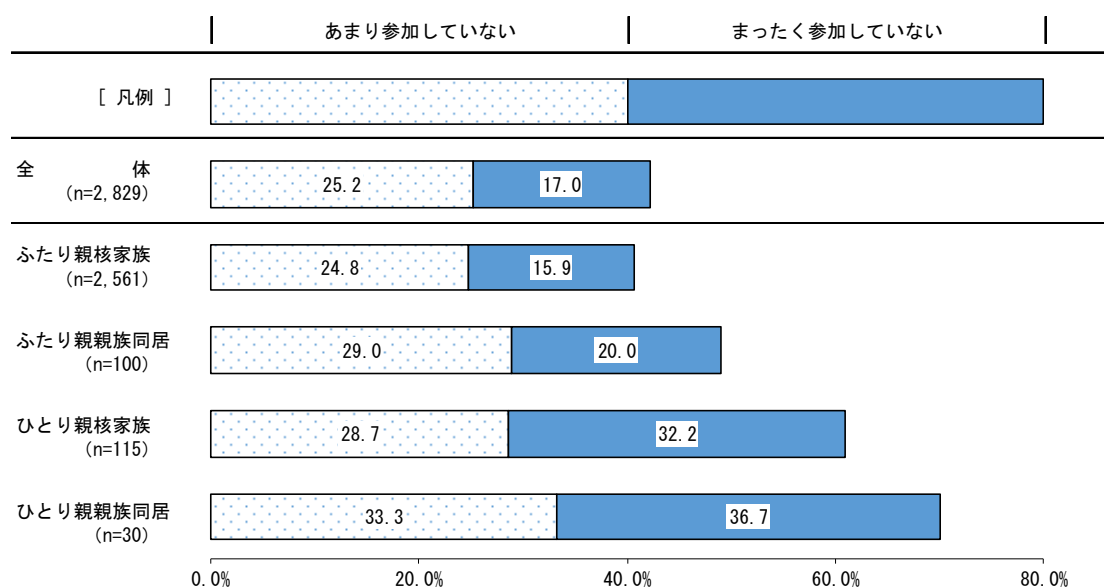
<今回調査>【図表 3-503 (イ) PTA活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加】

(小学校2年生・世帯構成別)



<前回調査>【図表 3-504 (イ) PTA活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加】

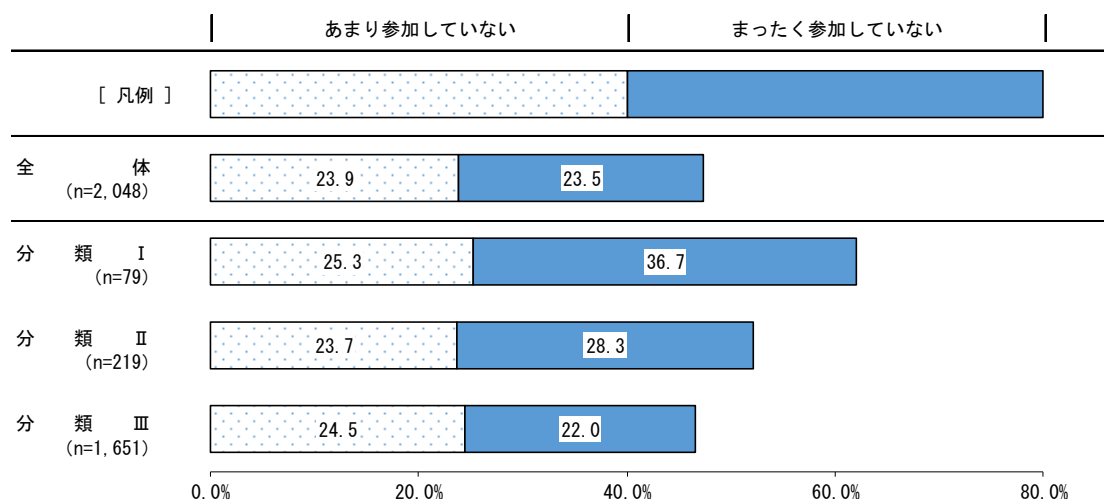
(小学校2年生・世帯構成別)



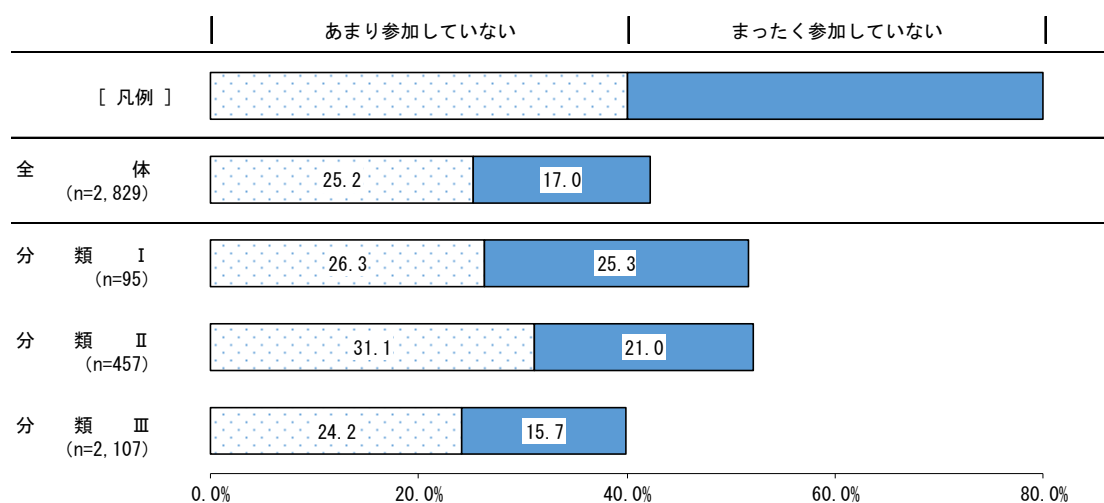
所得分類別にみると、「まったく参加していない」は『分類Ⅰ』が36.7%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「あまり参加していない」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低く、「まったく参加していない」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて高くなっている。

＜今回調査＞【図表 3-505 (イ) P T A活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加】
(小学校2年生・所得分類別)



＜前回調査＞【図表 3-506 (イ) P T A活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加】
(小学校2年生・所得分類別)



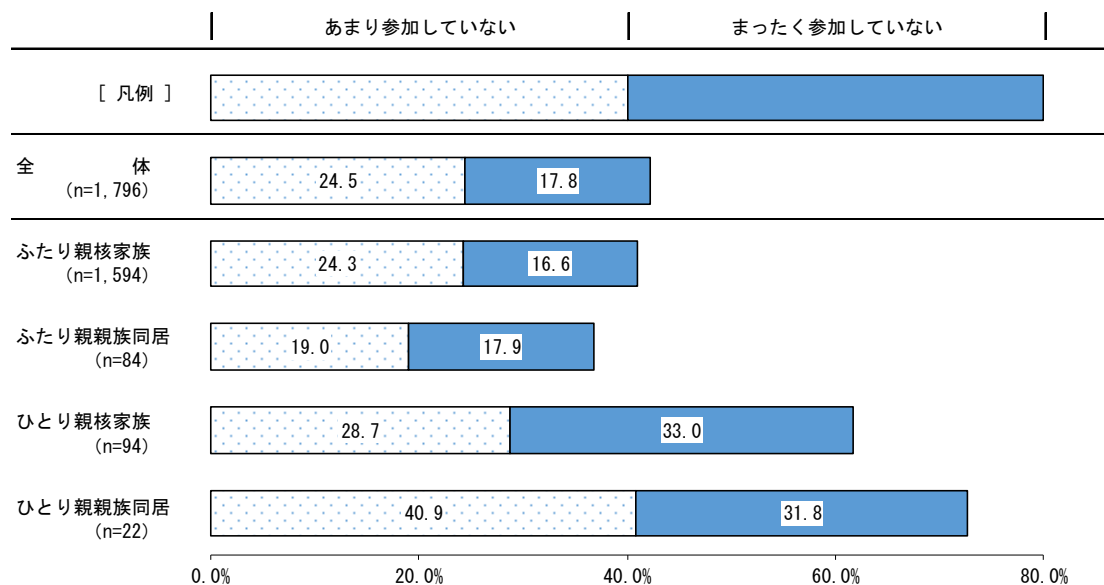
小学校5年生のいる世帯の『PTA活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加』で「あまり参加していない」、「まったく参加していない」と答えた人を世帯構成別にみると、「あまり参加していない」は『ふたり親親族同居』が19.0%と全体に比べて低く、「まったく参加していない」は『ひとり親核家族』が33.0%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「まったく参加していない」は『ふたり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

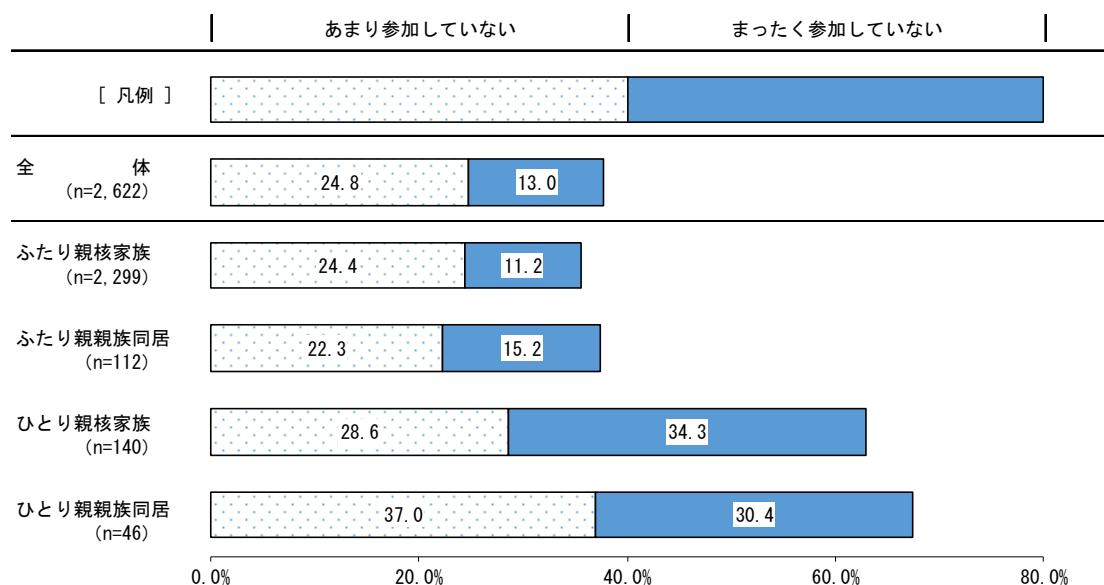
<今回調査>【図表 3-507 (イ) PTA活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加】

(小学校5年生・世帯構成別)



<前回調査>【図表 3-508 (イ) PTA活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加】

(小学校5年生・世帯構成別)

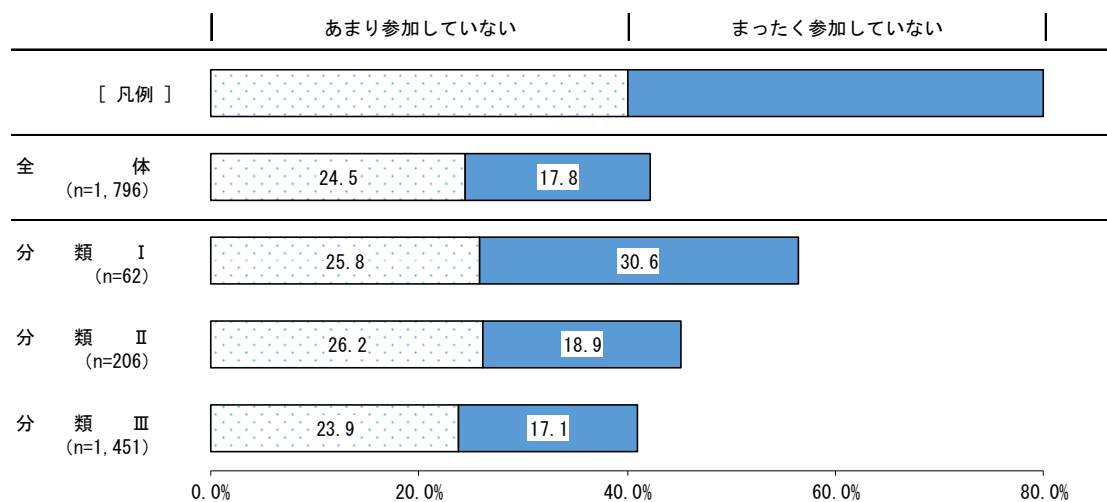


所得分類別にみると、「まったく参加していない」は『分類Ⅰ』が 30.6%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「まったく参加していない」は『分類Ⅲ』が前回調査に比べて高くなっている。

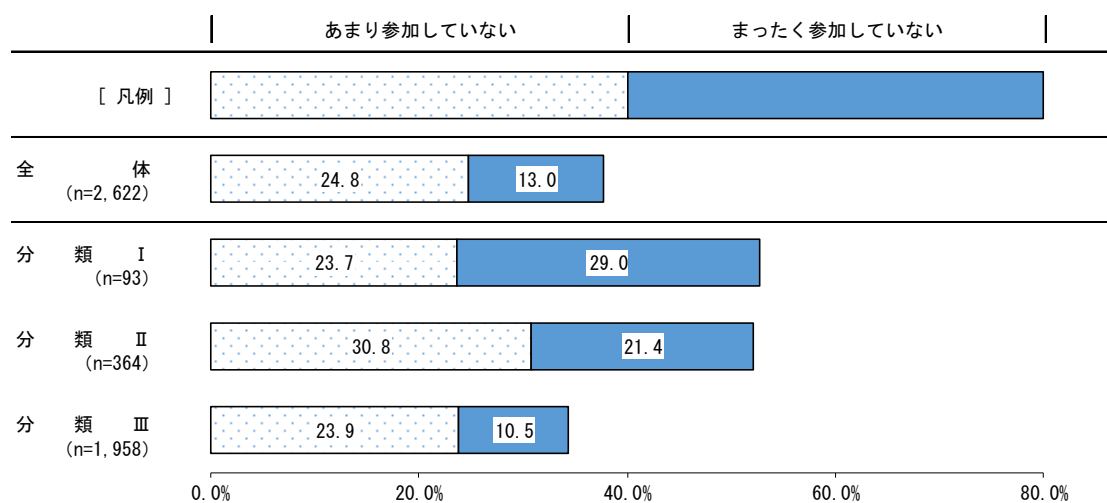
<今回調査>【図表 3-509 (イ) P T A 活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加】

(小学校 5 年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-510 (イ) P T A 活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加】

(小学校 5 年生・所得分類別)



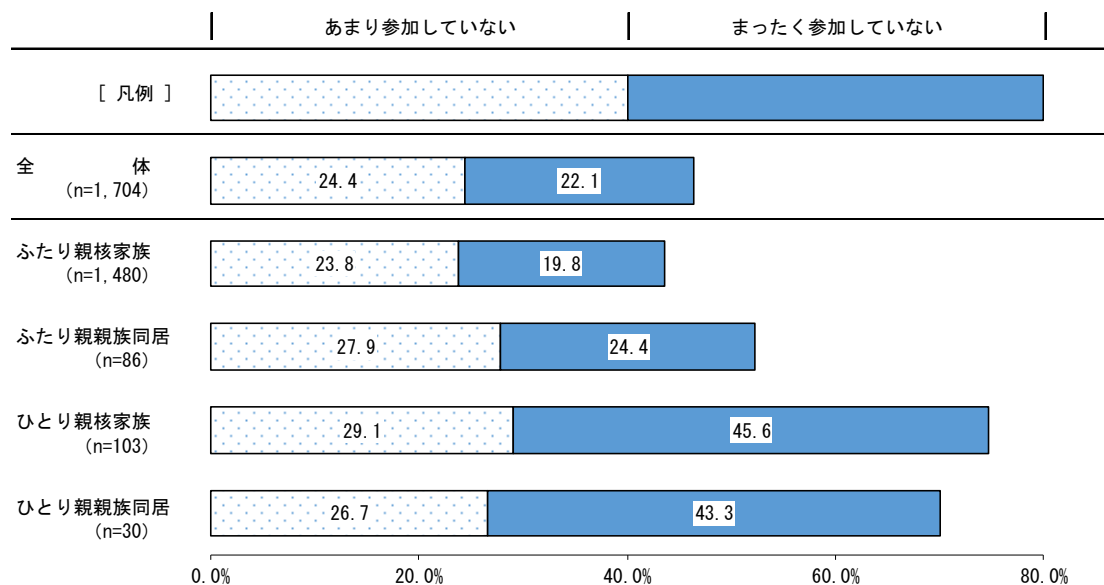
中学校2年生のいる世帯の『PTA活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加』で「あまり参加していない」、「まったく参加していない」と答えた人を世帯構成別にみると、「まったく参加していない」は『ひとり親核家族』が45.6%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「まったく参加していない」はいずれの世帯構成でも前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

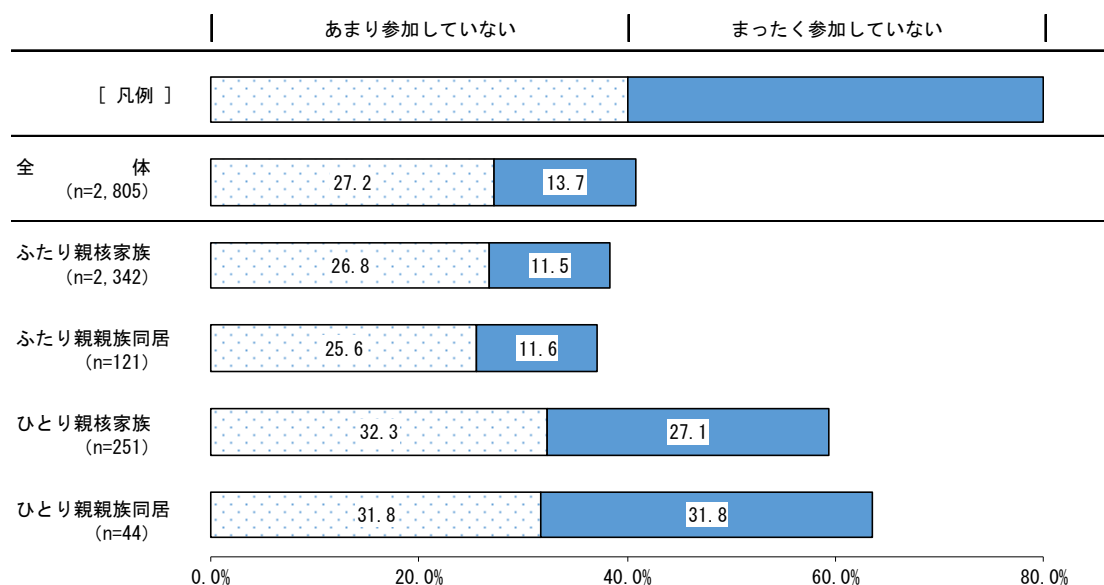
<今回調査>【図表 3-511 (イ) PTA活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加】

(中学校2年生・世帯構成別)



<前回調査>【図表 3-512 (イ) PTA活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加】

(中学校2年生・世帯構成別)

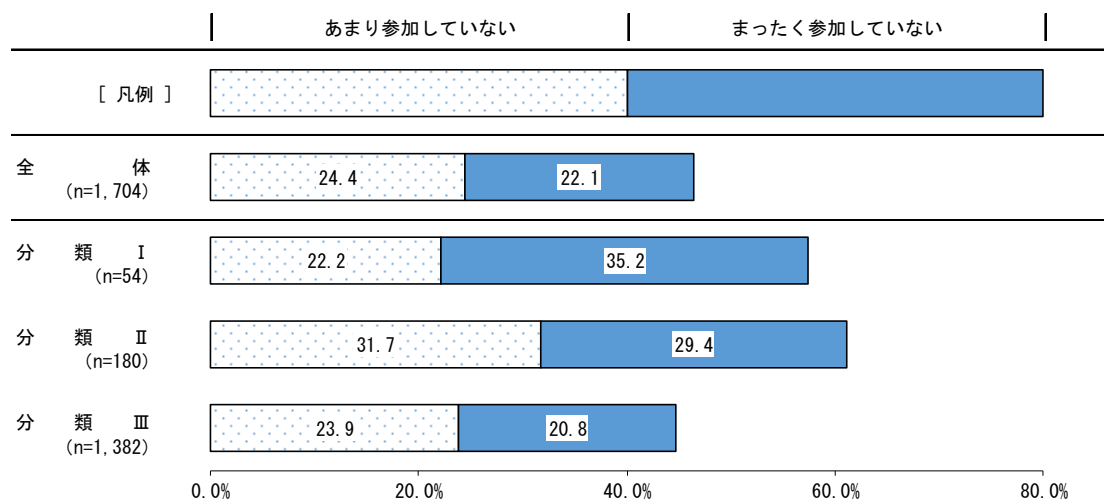


所得分類別にみると、「あまり参加していない」は『分類Ⅱ』が 31.7%と全体に比べて高く、「まったく参加していない」は『分類Ⅰ』が 35.2%、『分類Ⅱ』が 29.4%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「あまり参加していない」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、「まったく参加していない」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて高くなっている。

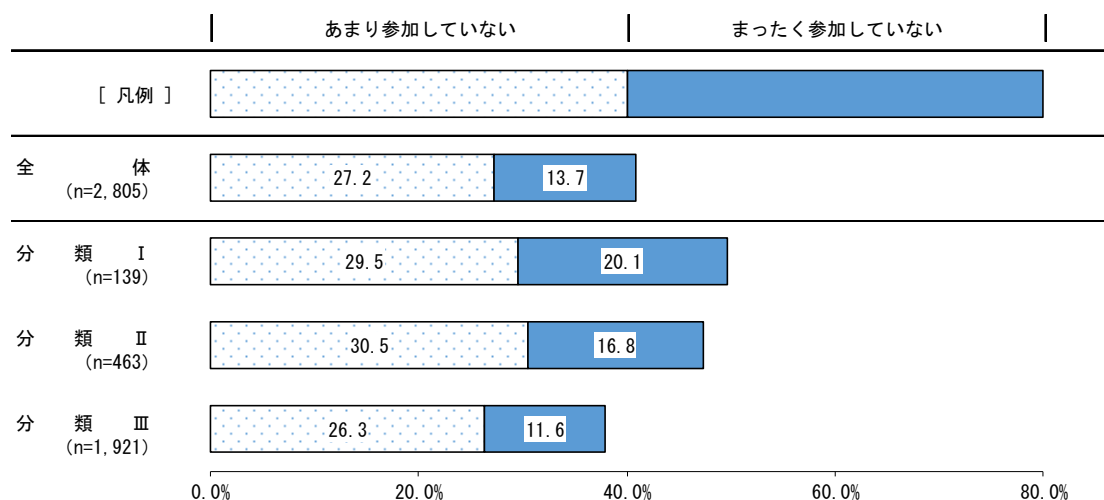
<今回調査>【図表 3-513 (イ) P T A 活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加】

(中学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-514 (イ) P T A 活動や保護者会、放課後学習支援などのボランティアなどへの参加】

(中学校2年生・所得分類別)



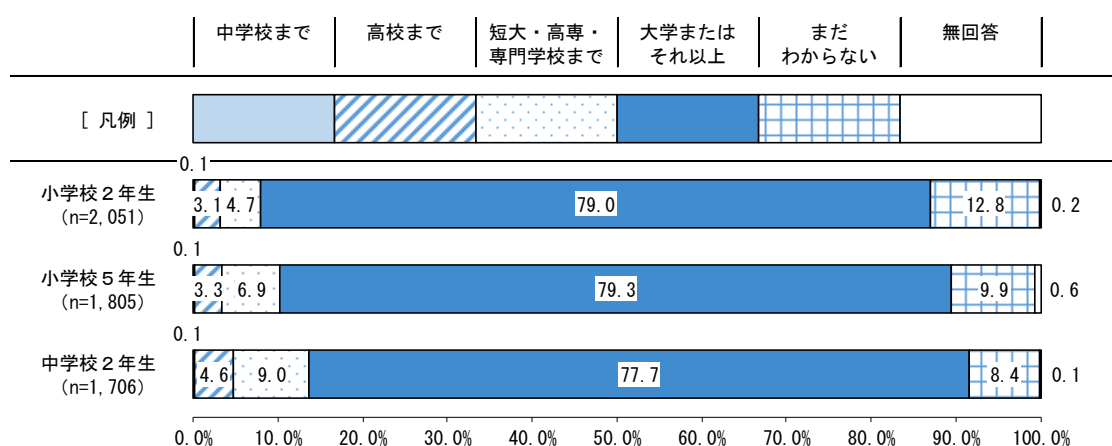
(2) 子どもに対する将来展望

ア 子どもに望む最終学歴【問9】(SA)

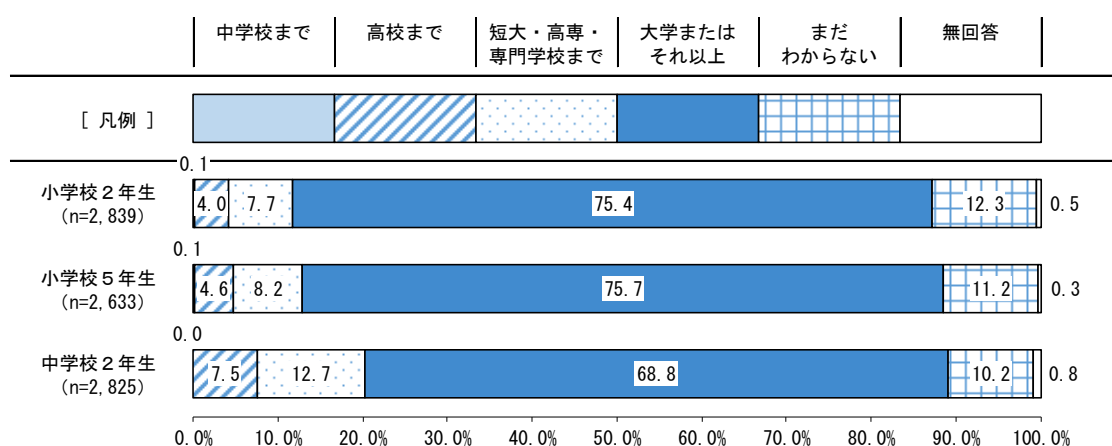
保護者から見た子どもに望む最終学歴を聞いたところ、いずれの学年でも「大学またはそれ以上」(小学校2年生:79.0%、小学校5年生:79.3%、中学校2年生:77.7%)が最も高く、次いで小学校2年生のいる世帯と小学校5年生のいる世帯では「まだわからない」(小学校2年生:12.8%、小学校5年生:9.9%)、「短大・高専・専門学校まで」(小学校2年生:4.7%、小学校5年生:6.9%)、中学校2年生のいる世帯では「短大・高専・専門学校まで」が9.0%、「まだわからない」が8.4%となっている。

経年でみると、中学校2年生のいる世帯では「大学またはそれ以上」が前回調査に比べて高くなっている。

＜今回調査＞【図表 3-515 子どもに望む最終学歴】



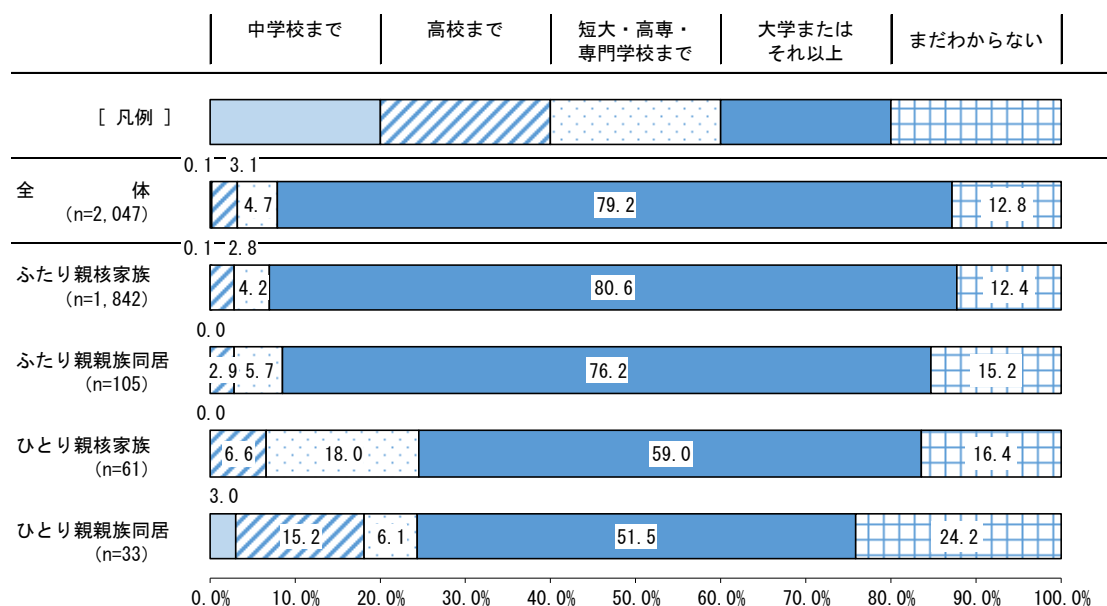
＜前回調査＞【図表 3-516 子どもに望む最終学歴】



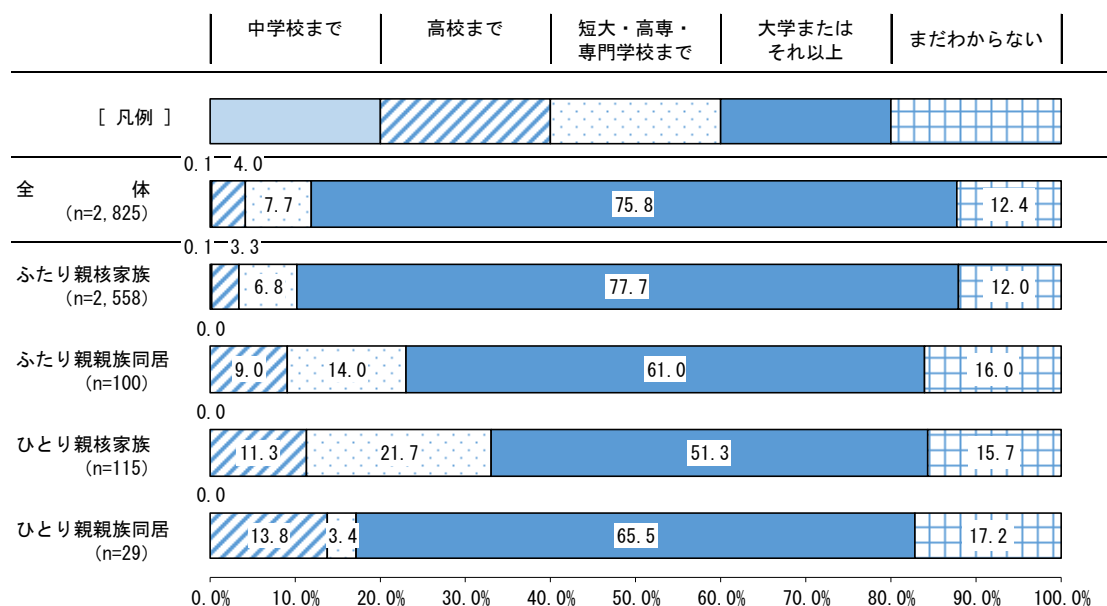
小学校2年生のいる世帯の子どもに望む最終学歴を世帯構成別にみると、『ひとり親核家族』で「短大・高専・専門学校まで」が18.0%と全体に比べて高く、「大学またはそれ以上」が59.0%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「高校まで」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、「短大・高専・専門学校まで」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。「大学またはそれ以上」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。
なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-517 子どもに望む最終学歴】(小学校2年生・世帯構成別)



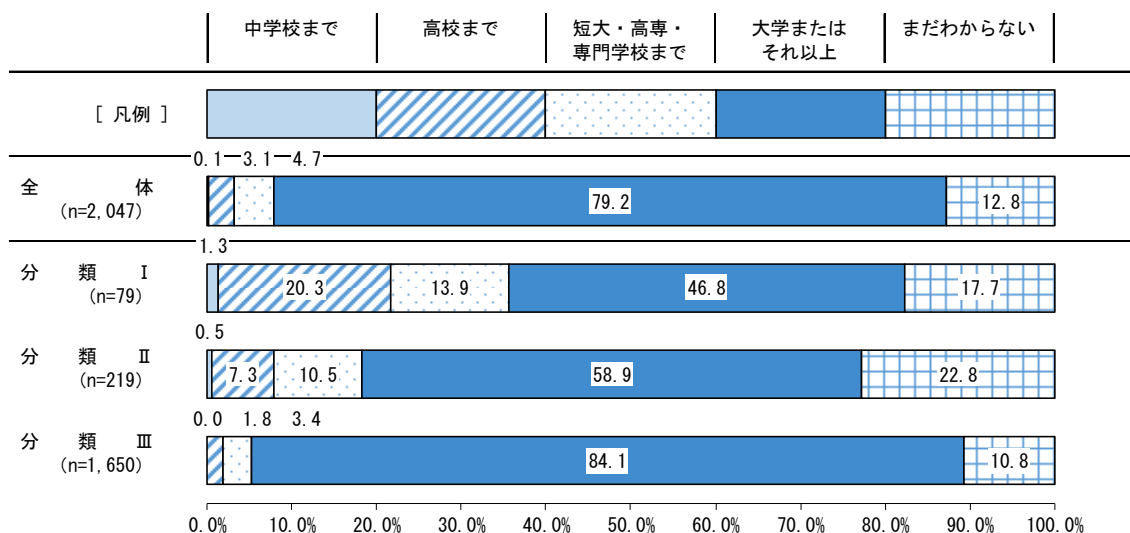
<前回調査>【図表 3-518 子どもに望む最終学歴】(小学校2年生・世帯構成別)



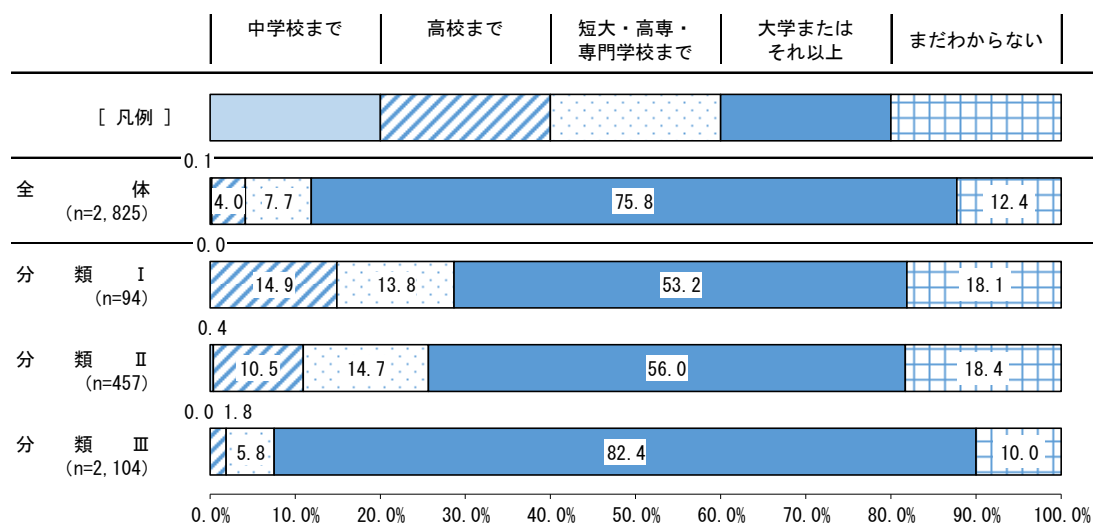
所得分類別にみると、「高校まで」は『分類Ⅰ』が 20.3%と全体に比べて高く、「短大・高専・専門学校まで」は『分類Ⅰ』が 13.9%、『分類Ⅱ』が 10.5%と全体に比べて高くなっている。一方、「大学またはそれ以上」は『分類Ⅰ』が 46.8%、『分類Ⅱ』が 58.9%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「高校まで」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高く、「大学またはそれ以上」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

<今回調査>【図表 3-519 子どもに望む最終学歴】(小学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-520 子どもに望む最終学歴】(小学校2年生・所得分類別)

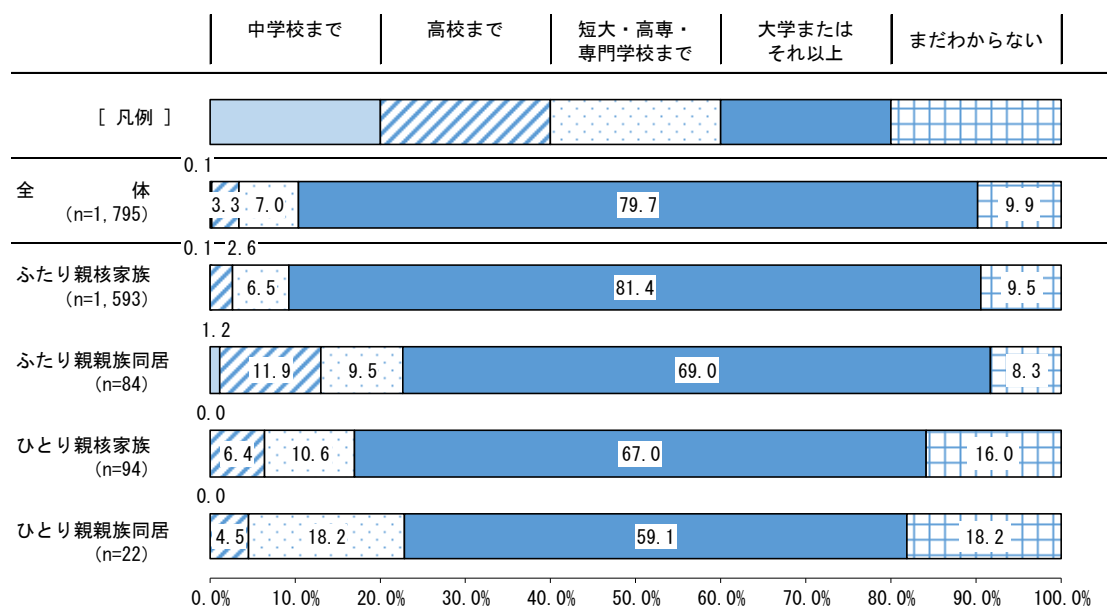


小学校5年生のいる世帯の子どもに望む最終学歴を世帯構成別にみると、「高校まで」は『ふたり親親族同居』が11.9%と全体に比べて高くなっている。「大学またはそれ以上」は『ふたり親親族同居』が69.0%、『ひとり親核家族』が67.0%と全体に比べて低くなっている。

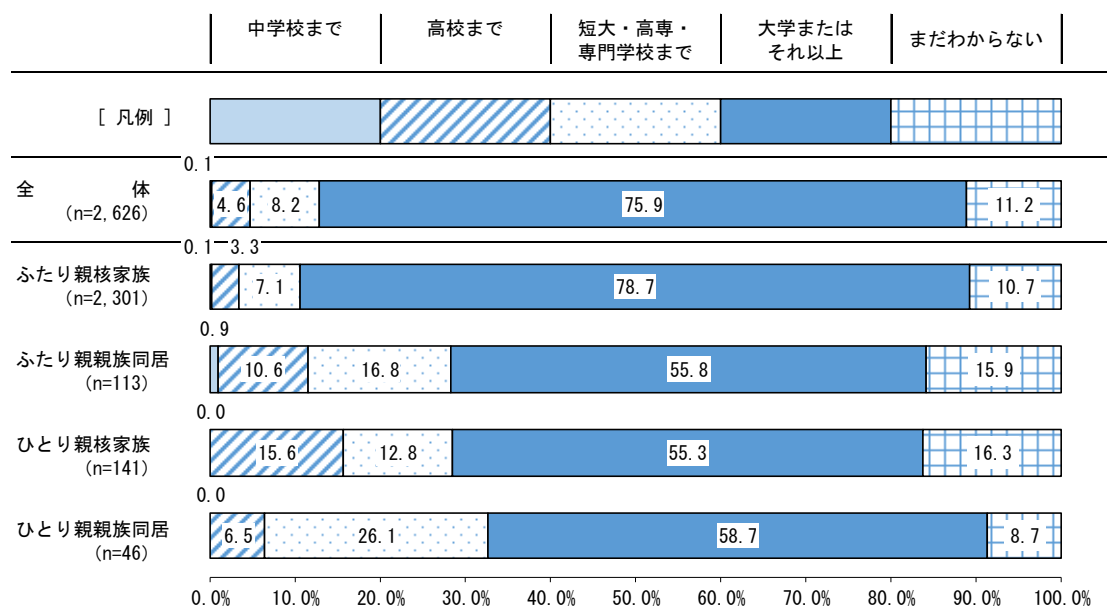
経年でみると、「高校まで」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「短大・高専・専門学校まで」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、「大学またはそれ以上」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-521 子どもに望む最終学歴】(小学校5年生・世帯構成別)



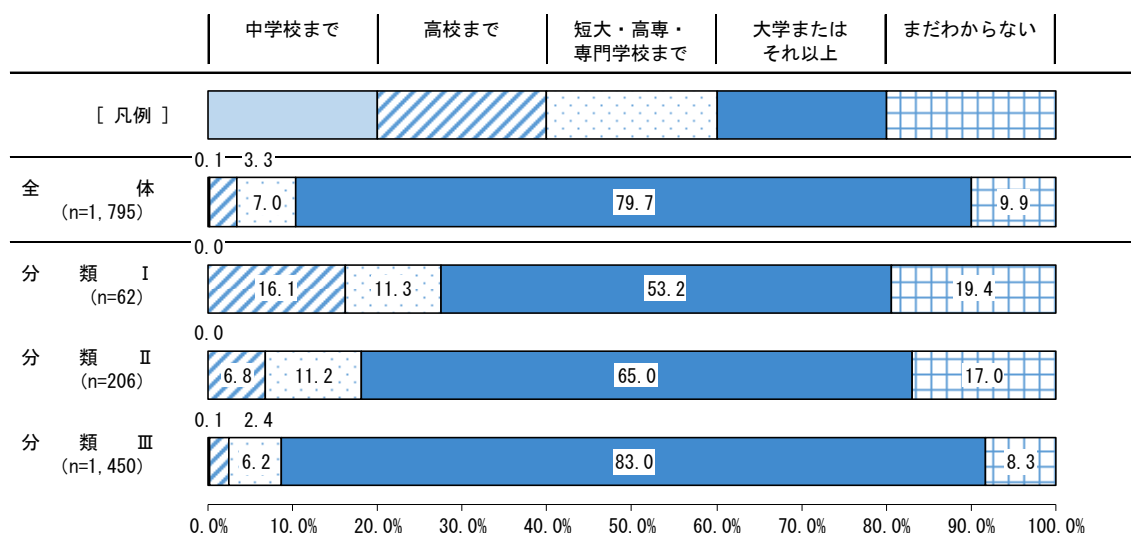
<前回調査>【図表 3-522 子どもに望む最終学歴】(小学校5年生・世帯構成別)



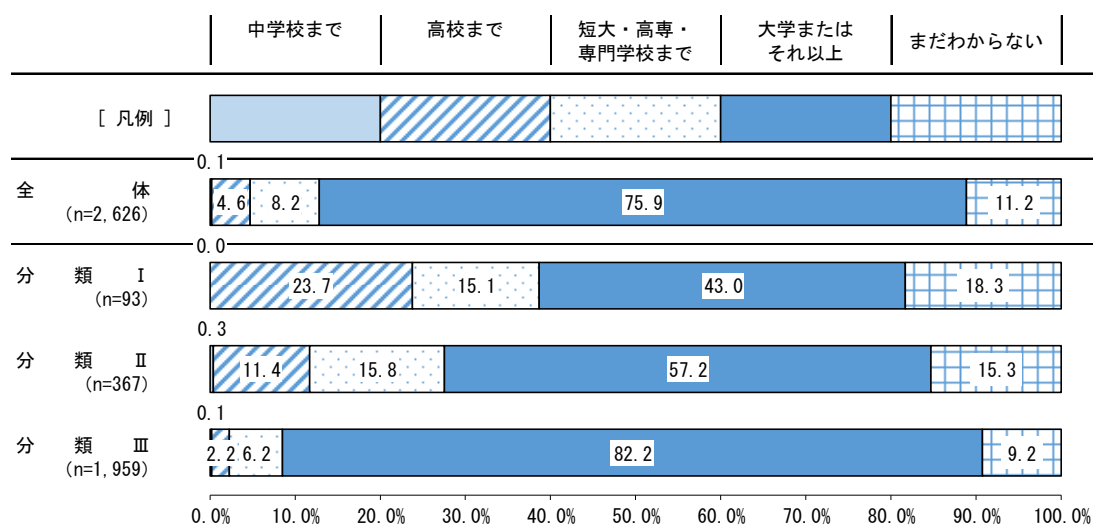
所得分類別にみると、「高校まで」は『分類Ⅰ』が16.1%と全体に比べて高くなっている。一方、「大学またはそれ以上」は『分類Ⅰ』が53.2%、『分類Ⅱ』が65.0%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「高校まで」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。「大学またはそれ以上」は『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-523 子どもに望む最終学歴】（小学校5年生・所得分類別）



<前回調査>【図表 3-524 子どもに望む最終学歴】（小学校5年生・所得分類別）

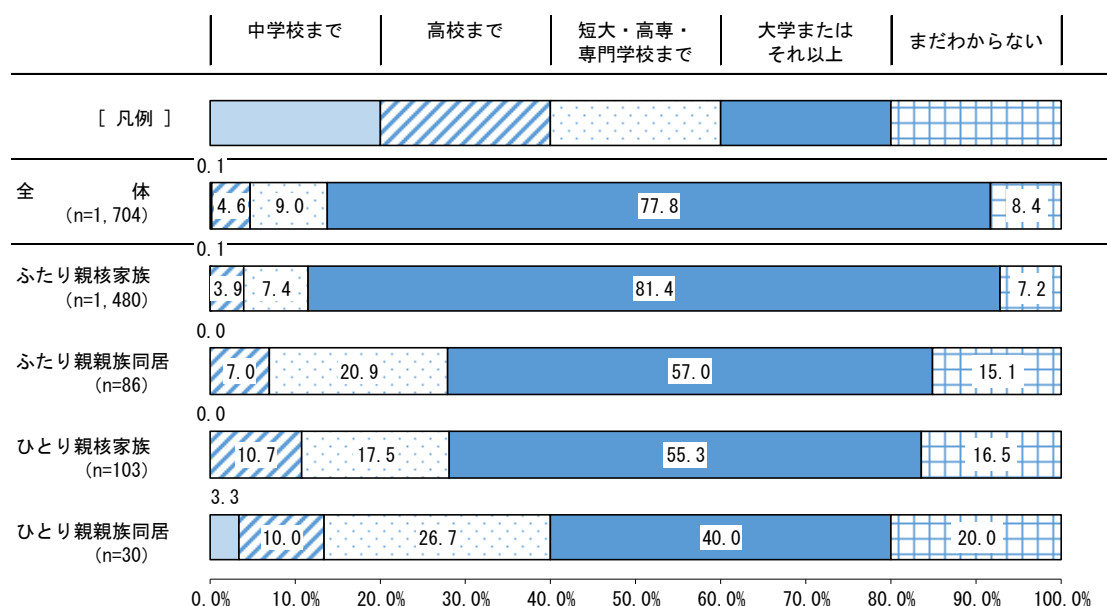


中学校2年生のいる世帯の子どもに望む最終学歴を世帯構成別にみると、「高校まで」は『ひとり親核家族』が10.7%と全体に比べて高く、「短大・高専・専門学校まで」は『ふたり親親族同居』が20.9%、『ひとり親核家族』が17.5%と全体に比べて高くなっている。「大学またはそれ以上」は『ふたり親親族同居』が57.0%、『ひとり親核家族』が55.3%と全体に比べて低くなっている。

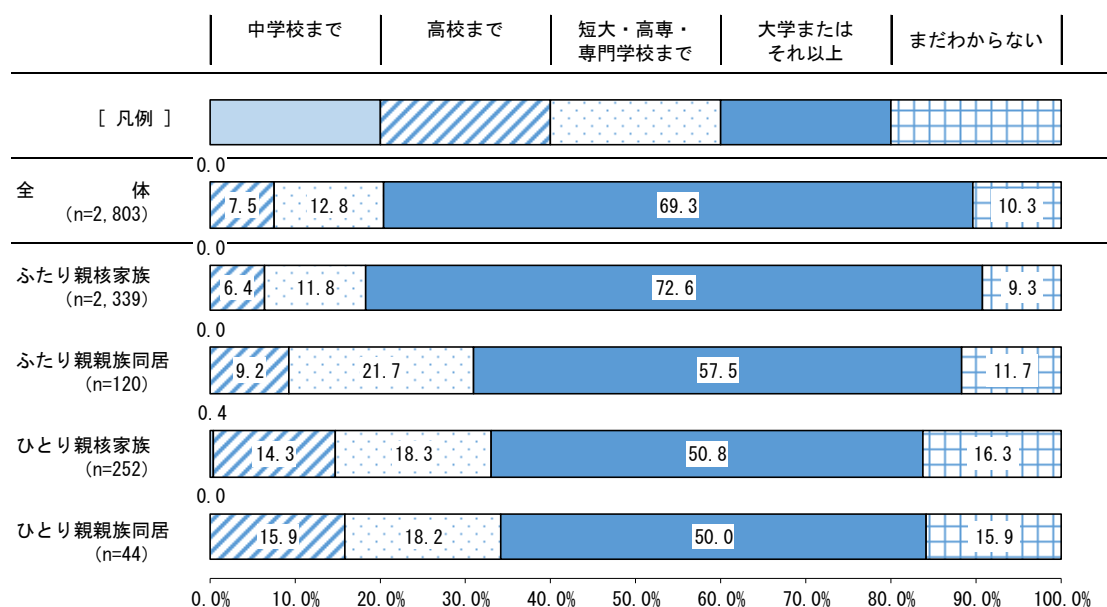
経年でみると、「大学またはそれ以上」は『ふたり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-525 子どもに望む最終学歴】(中学校2年生・世帯構成別)



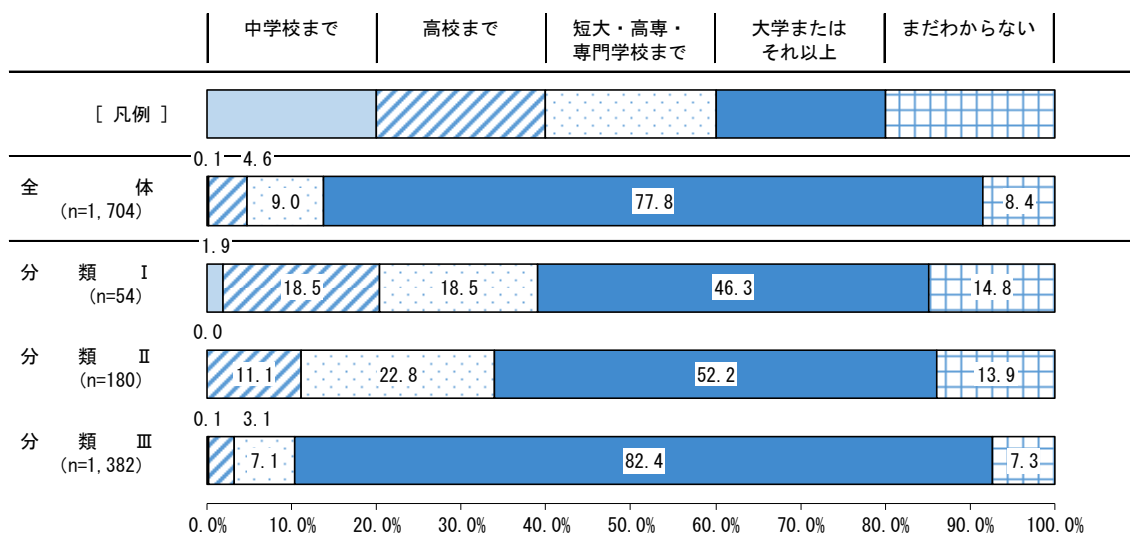
<前回調査>【図表 3-526 子どもに望む最終学歴】(中学校2年生・世帯構成別)



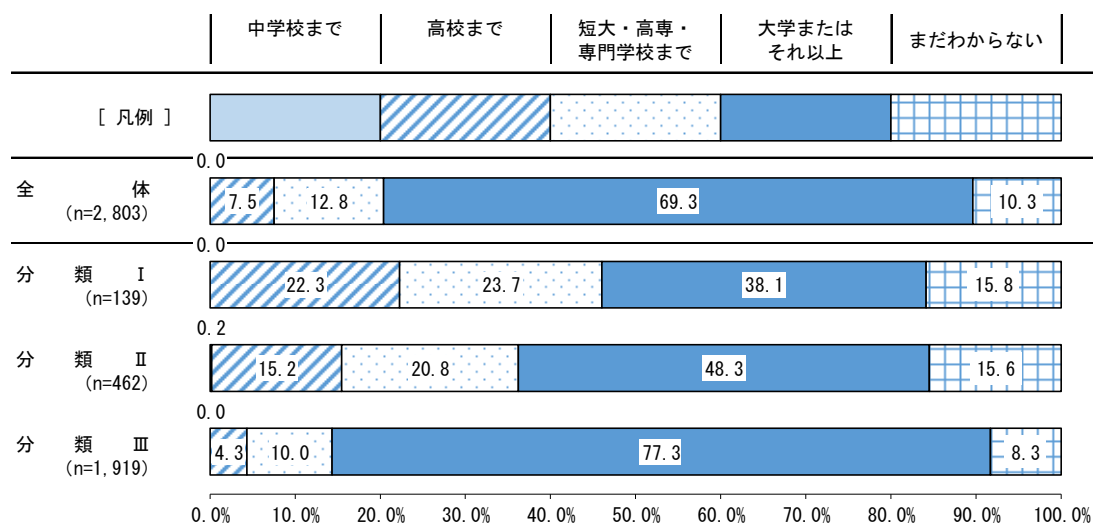
所得分類別にみると、「高校まで」は『分類Ⅰ』が18.5%、『分類Ⅱ』が11.1%と全体に比べて高くなっている。また、「短大・高専・専門学校まで」は『分類Ⅰ』が18.5%、『分類Ⅱ』が22.8%と全体に比べて高くなっている。一方、「大学またはそれ以上」は『分類Ⅰ』が46.3%、『分類Ⅱ』が52.2%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「短大・高専・専門学校まで」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、「大学またはそれ以上」は『分類Ⅰ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-527 子どもに望む最終学歴】(中学校2年生・所得分類別)



<前回調査>【図表 3-528 子どもに望む最終学歴】(中学校2年生・所得分類別)



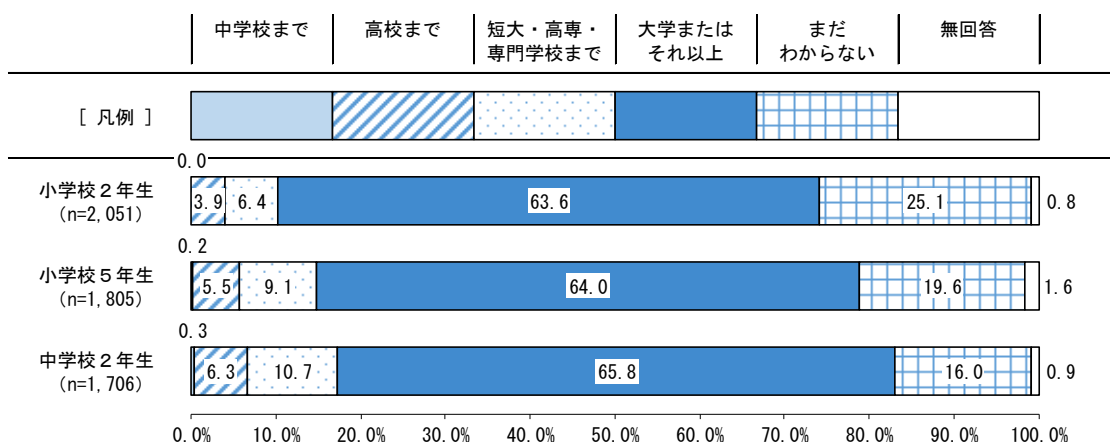
イ 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）

① 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）【問 10】（SA）

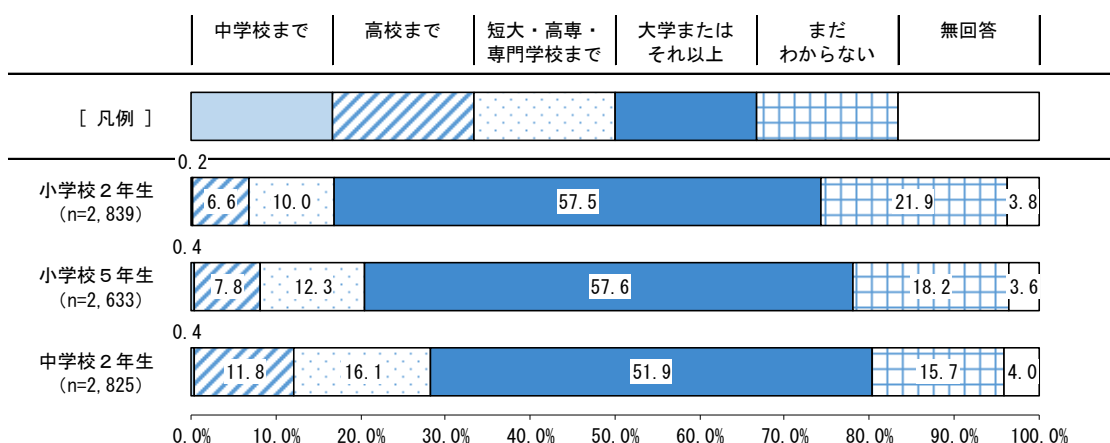
保護者から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）を聞いたところ、いずれの学年でも「大学またはそれ以上」（小学校 2 年生：63.6%、小学校 5 年生：64.0%、中学校 2 年生：65.8%）が最も高く、次いで「まだわからない」（小学校 2 年生：25.1%、小学校 5 年生：19.6%、中学校 2 年生：16.0%）、「短大・高専・専門学校まで」（小学校 2 年生：6.4%、小学校 5 年生：9.1%、中学校 2 年生：10.7%）となっている。

経年でみると、いずれの学年でも「大学またはそれ以上」が前回調査に比べて高くなっている。一方、中学校 2 年生のいる世帯では「高校まで」「短大・高専・専門学校まで」が前回調査に比べて低くなっている。

<今回調査> 【図表 3-529 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】



<前回調査> 【図表 3-530 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】

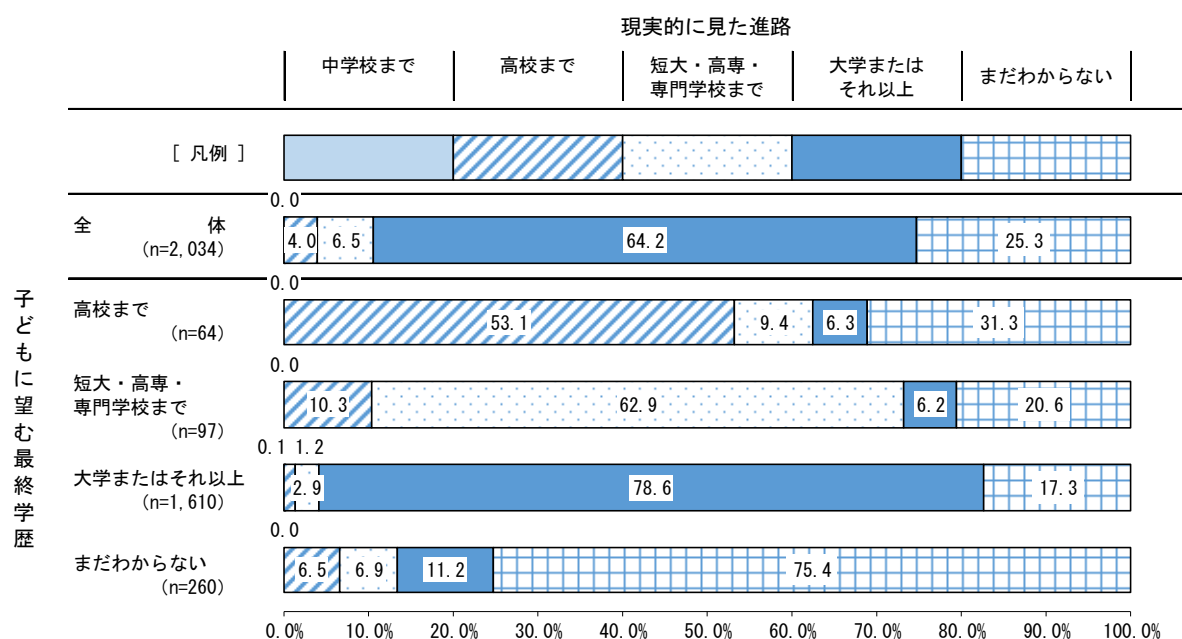


小学校2年生のいる世帯から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）を子どもに望む最終学歴別にみると、『高校まで』を希望している人のうち、現実では「短大・高専・専門学校まで」が9.4%、「大学またはそれ以上」が6.3%となっている。また、『短大・高専・専門学校まで』を希望している人のうち、現実では「大学またはそれ以上」が6.2%となっている。

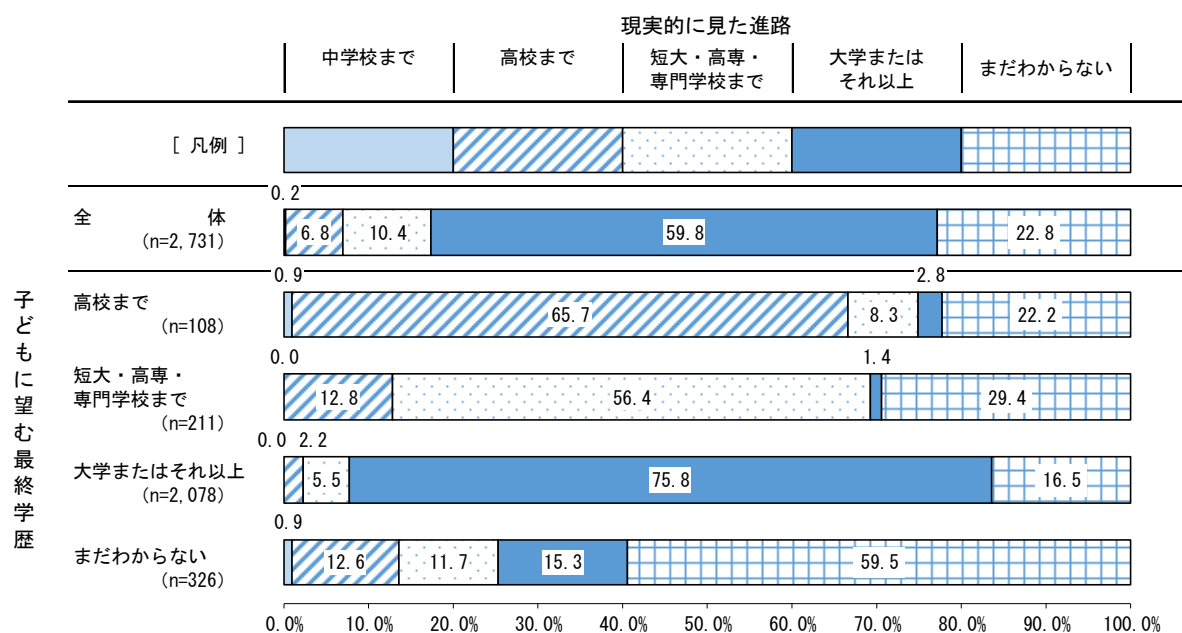
一方、『短大・高専・専門学校まで』を希望している人のうち、現実では「高校まで」が10.3%となっている。また、『大学またはそれ以上』を希望している人のうち、現実では「中学校まで」「高校まで」「短大・高専・専門学校まで」を合わせると4.2%となっている。（クロス軸が「子どもに望む最終学歴」を表す。）

経年でみると、「高校まで」は、希望する最終学歴が『高校まで』が前回調査に比べて低くなっている。「短大・高専・専門学校まで」は、希望する最終学歴が『短大・高専・専門学校まで』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-531 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（小学校2年生・子どもに望む最終学歴別）



<前回調査>【図表 3-532 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（小学校2年生・子どもに望む最終学歴別）

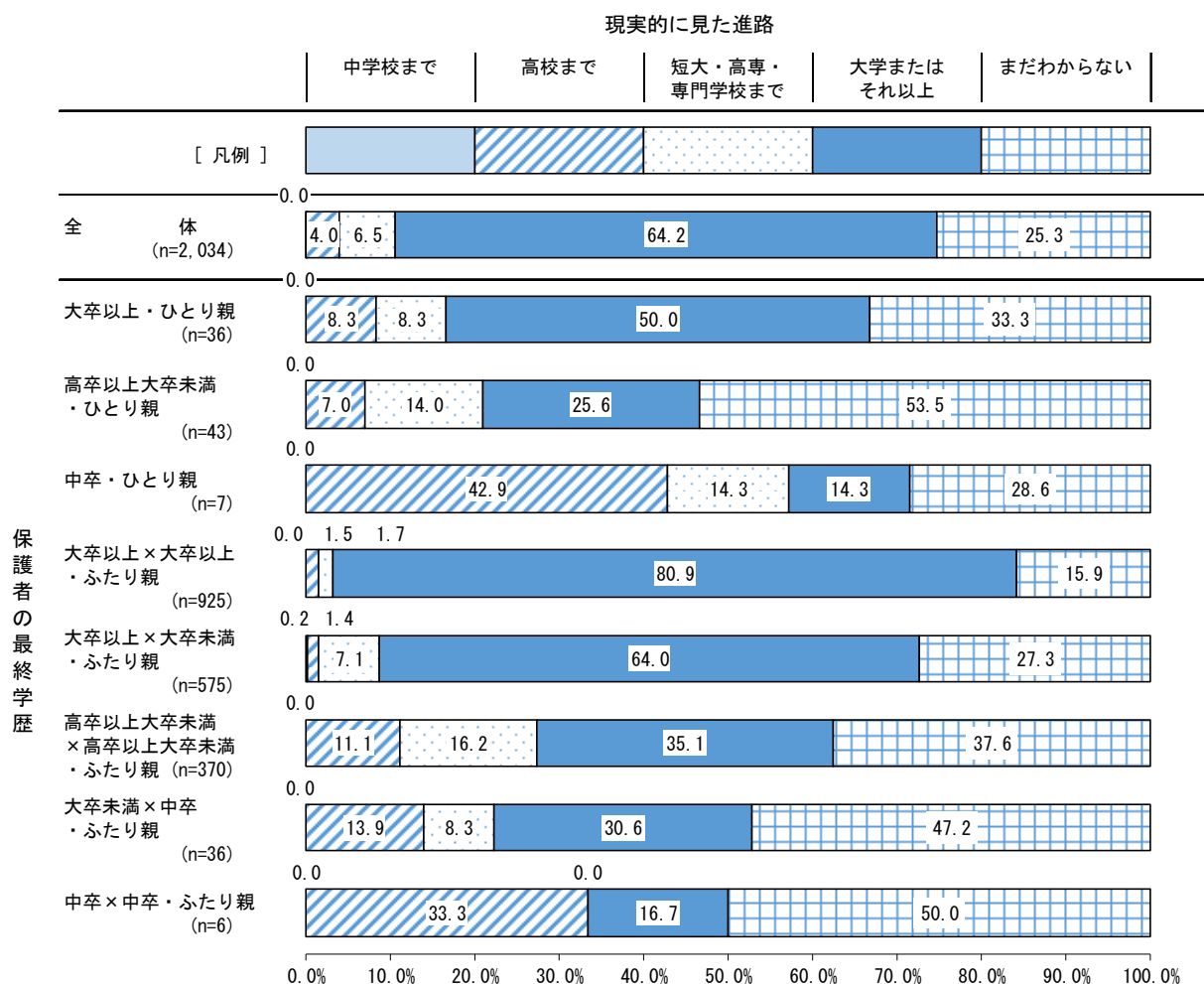


小学校2年生のいる世帯から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）を保護者の最終学歴別にみると、子どもの最終学歴予想が「短大・高専・専門学校まで」は『大卒以上×大卒以上・ふたり親』が1.5%と全体に比べて低く、「大学またはそれ以上」は『大卒以上×大卒以上・ふたり親』が80.9%と全体に比べて高くなっている。

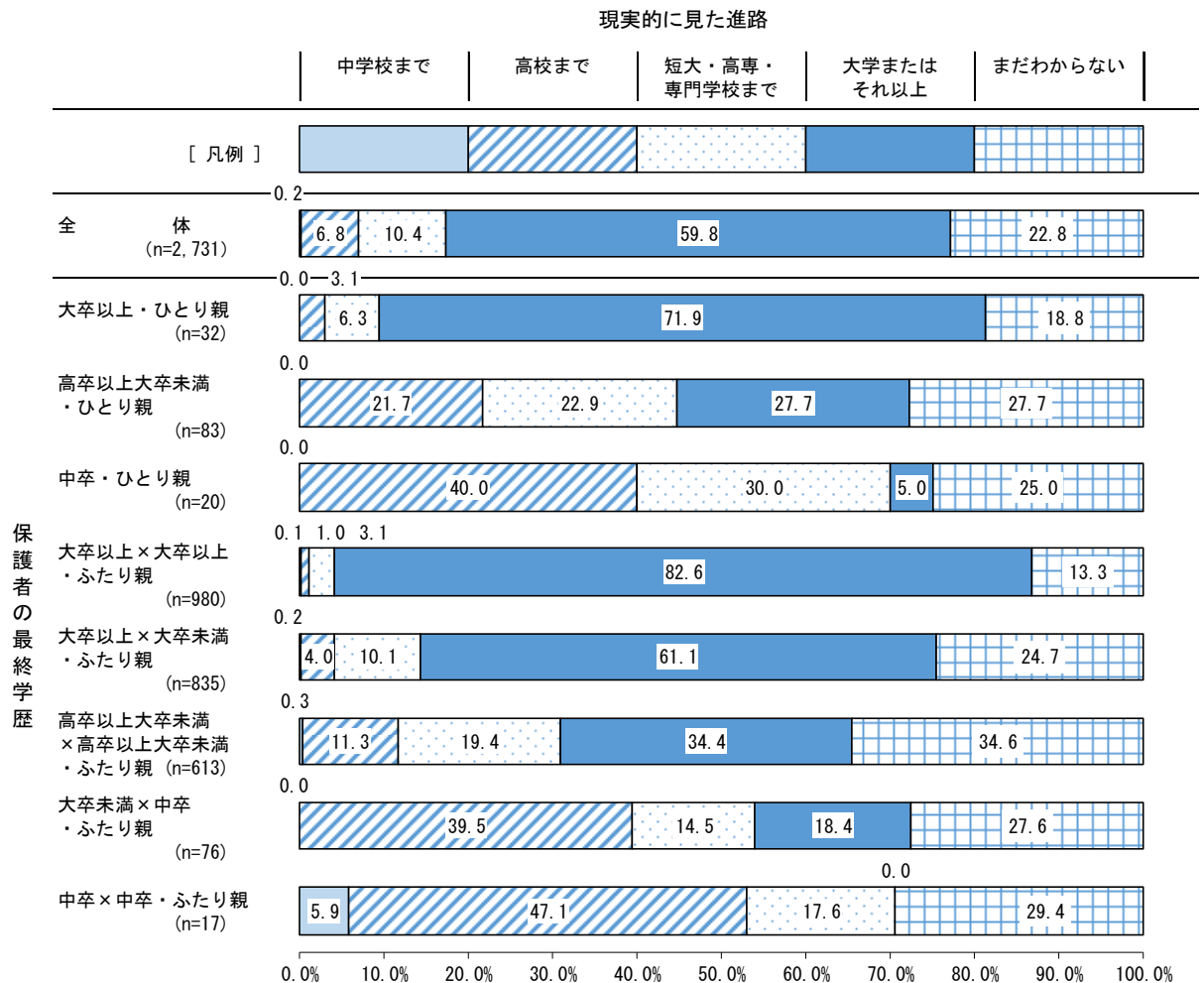
経年でみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-533 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（小学校2年生・保護者の最終学歴別）



<前回調査>【図表 3-534 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（小学校2年生・保護者の最終学歴別）

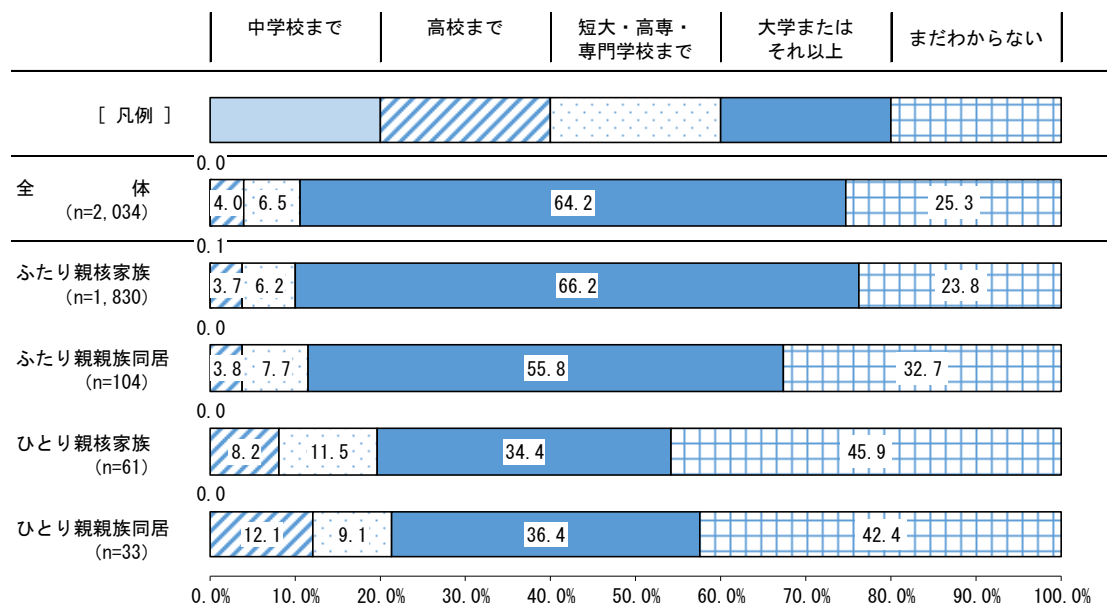


小学校2年生のいる世帯から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）を世帯構成別にみると、「短大・高専・専門学校まで」は『ひとり親核家族』が11.5%と全体に比べて高く、「大学またはそれ以上」は『ふたり親親族同居』が55.8%、『ひとり親核家族』が34.4%と全体に比べて低くなっている。

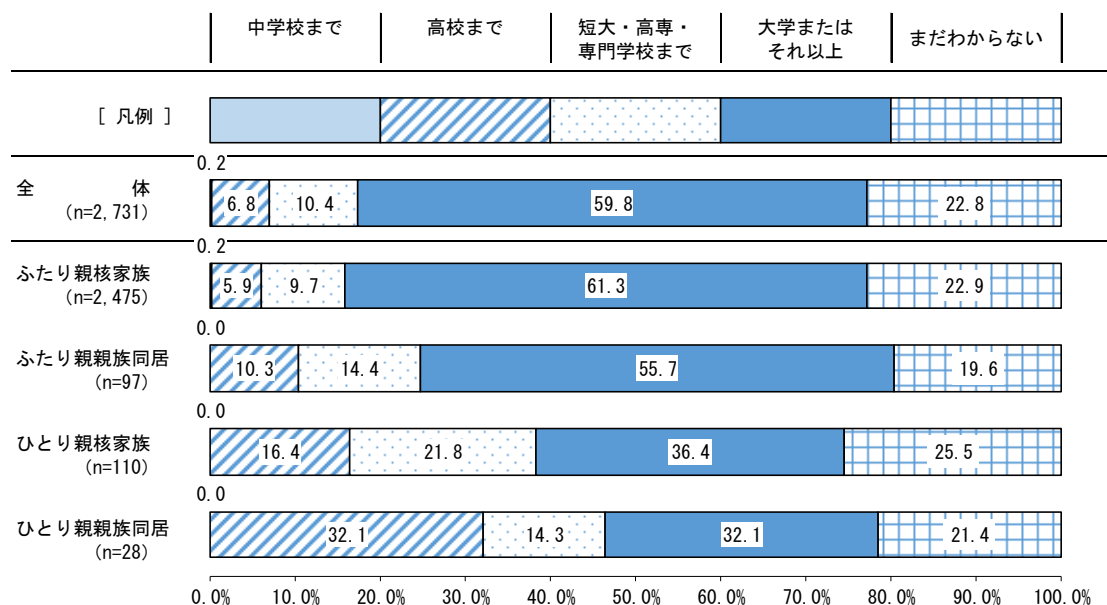
経年でみると、「高校まで」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「短大・高専・専門学校まで」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-535 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（小学校2年生・世帯構成別）



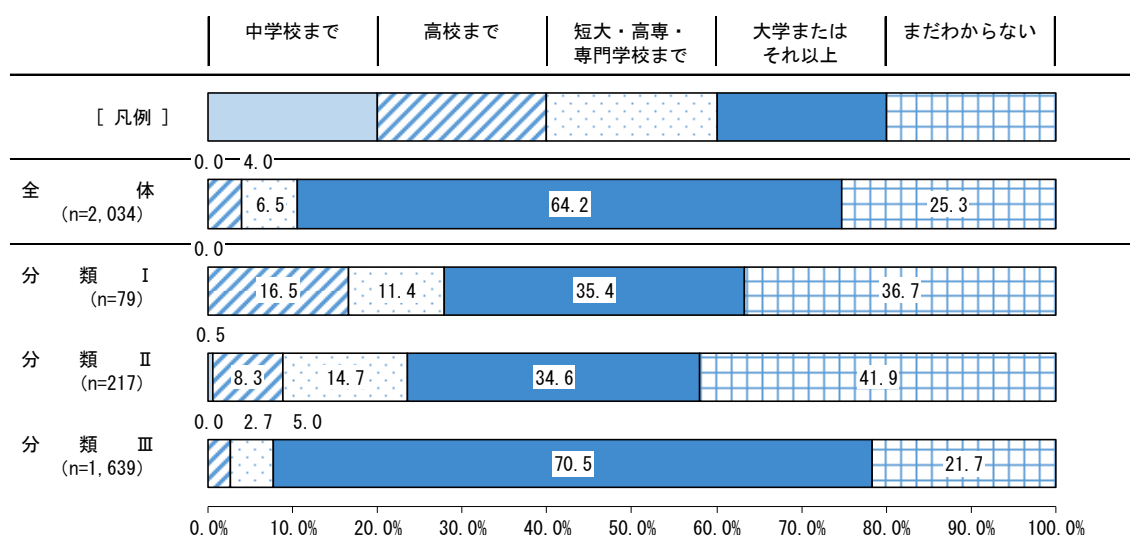
<前回調査>【図表 3-536 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（小学校2年生・世帯構成別）



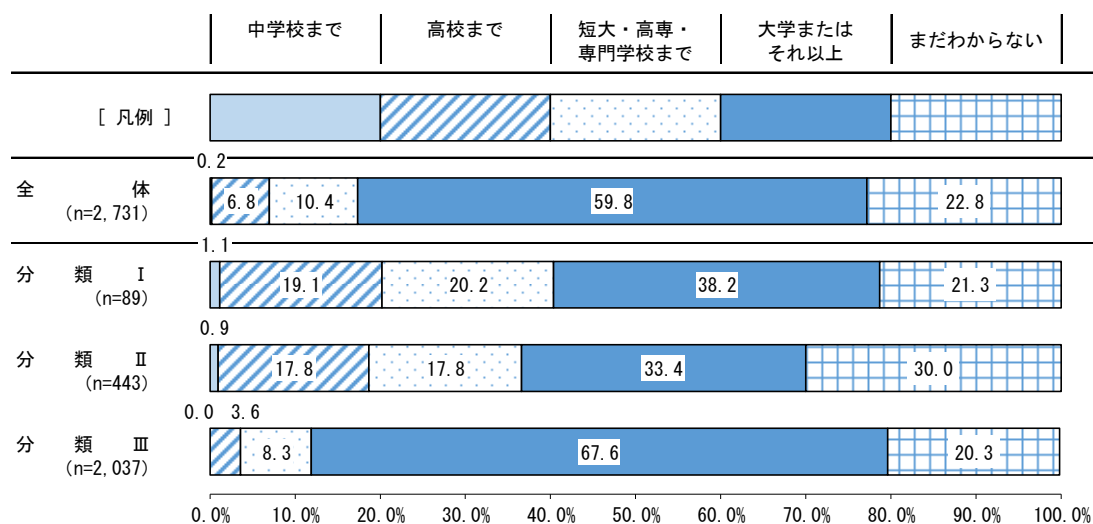
小学校2年生のいる世帯から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）を所得分類別にみると、「高校まで」は『分類Ⅰ』が16.5%と全体に比べて高く、「短大・高専・専門学校まで」は『分類Ⅱ』が14.7%と全体に比べて高くなっている。「大学またはそれ以上」は『分類Ⅰ』が35.4%、『分類Ⅱ』が34.6%と全体に比べて低く、『分類Ⅲ』が70.5%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「高校まで」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低く、「短大・高専・専門学校まで」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

<今回調査>【図表 3-537 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（小学校2年生・所得分類別）



<前回調査>【図表 3-538 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（小学校2年生・所得分類別）

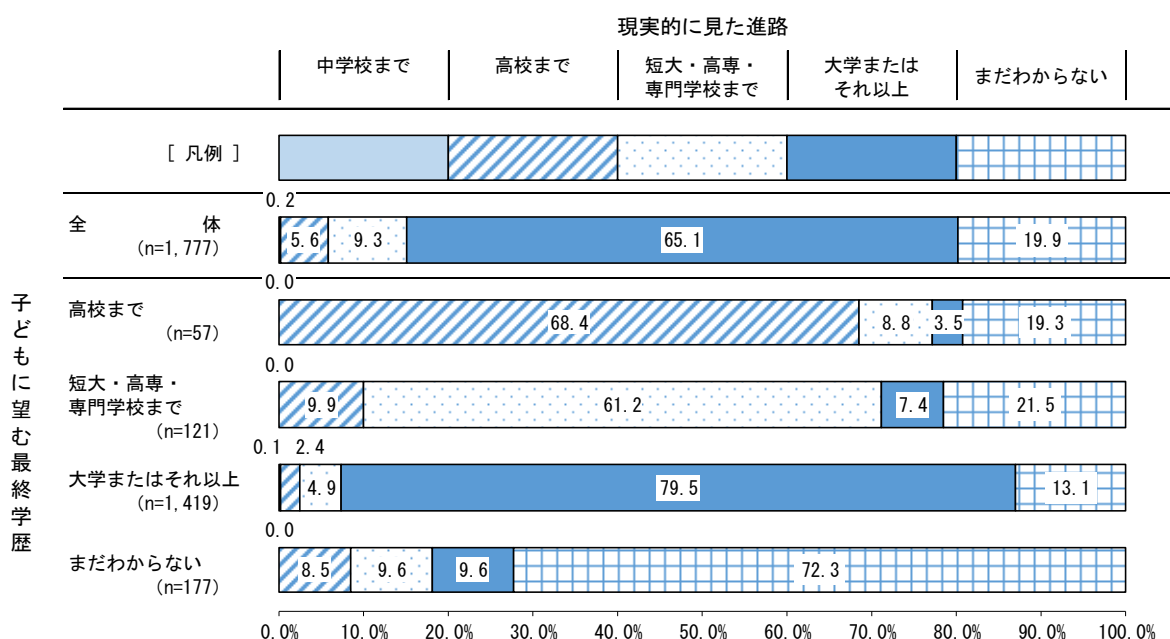


小学校5年生のいる世帯から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）を子どもに望む最終学歴別にみると、『高校まで』を希望している人のうち、現実では「短大・高専・専門学校まで」が8.8%、「大学またはそれ以上」が3.5%となっている。また、『短大・高専・専門学校まで』を希望している人のうち、現実では「大学またはそれ以上」が7.4%となっている。

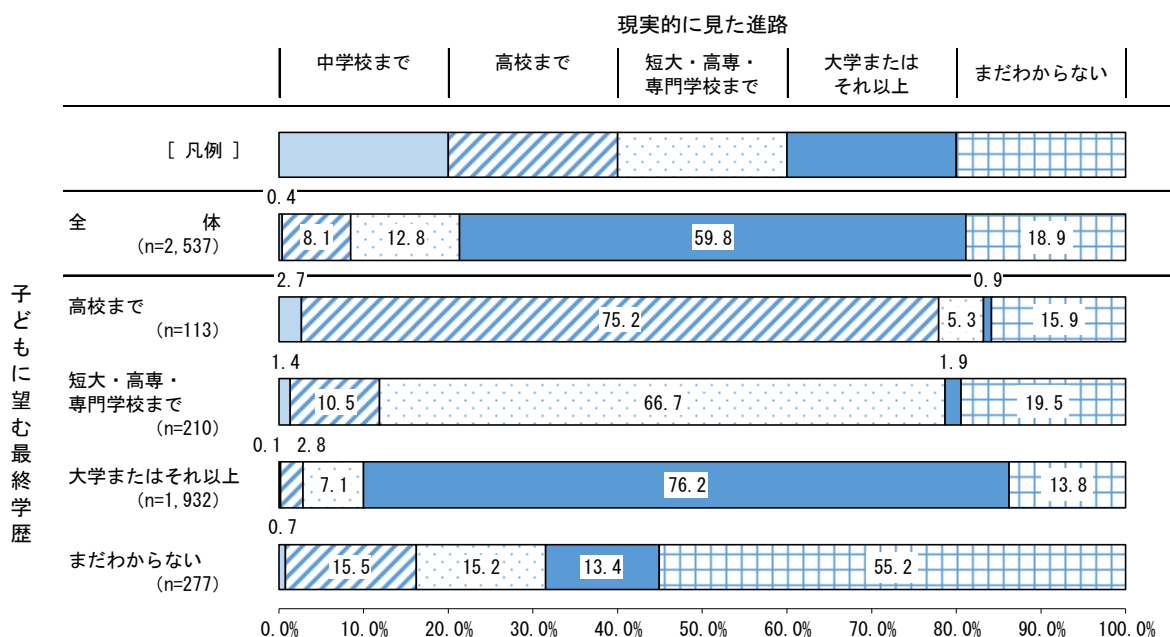
一方、『短大・高専・専門学校まで』を希望している人のうち、現実では「高校まで」が9.9%となっている。また、『大学またはそれ以上』を希望している人のうち、現実では「中学校まで」「高校まで」「短大・高専・専門学校まで」を合わせると7.4%となっている。（クロス軸が「子どもに望む最終学歴」を表す。）

経年でみると、「高校まで」は、希望する最終学歴が『高校まで』が前回調査に比べて低くなっている。「短大・高専・専門学校まで」は、希望する最終学歴が『短大・高専・専門学校まで』が前回調査に比べて低くなっている。「大学またはそれ以上」は、希望する最終学歴が『短大・高専・専門学校まで』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-539 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（小学校5年生・子どもに望む最終学歴別）



<前回調査>【図表 3-540 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（小学校5年生・子どもに望む最終学歴別）



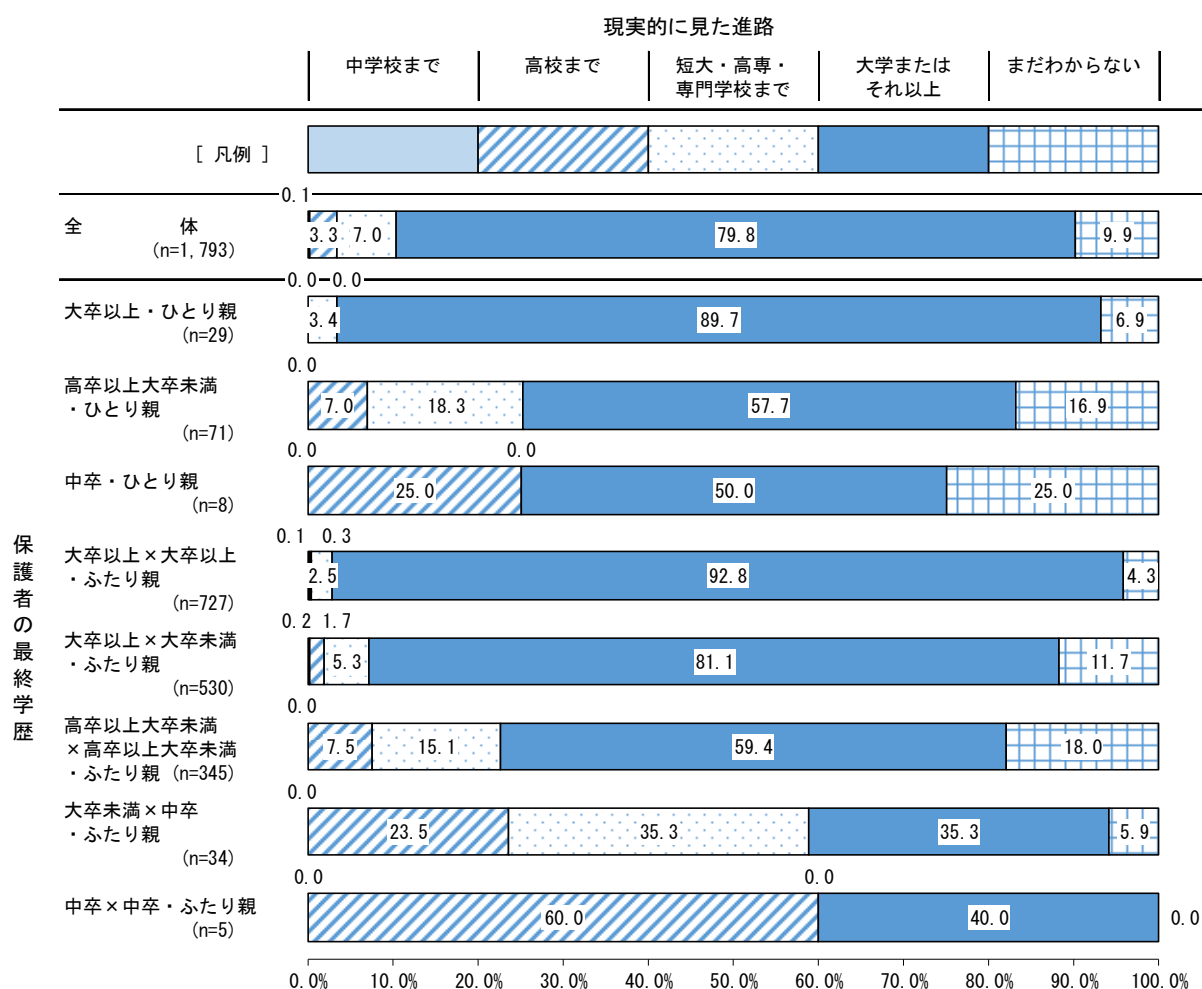
※ページ調整のため余白

小学校5年生のいる世帯から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）を保護者の最終学歴別にみると、子どもの最終学歴予想が「短大・高専・専門学校まで」は『高卒以上大卒未満・ひとり親』が 18.3%、『高卒以上大卒未満×高卒以上大卒未満・ふたり親』が 15.1%と全体に比べて高くなっている。「大学またはそれ以上」は『高卒以上大卒未満・ひとり親』が 57.7%、『高卒以上大卒未満×高卒以上大卒未満・ふたり親』が 59.4%と全体に比べて低く、『大卒以上×大卒以上・ふたり親』が 92.8%と全体に比べて高くなっている。

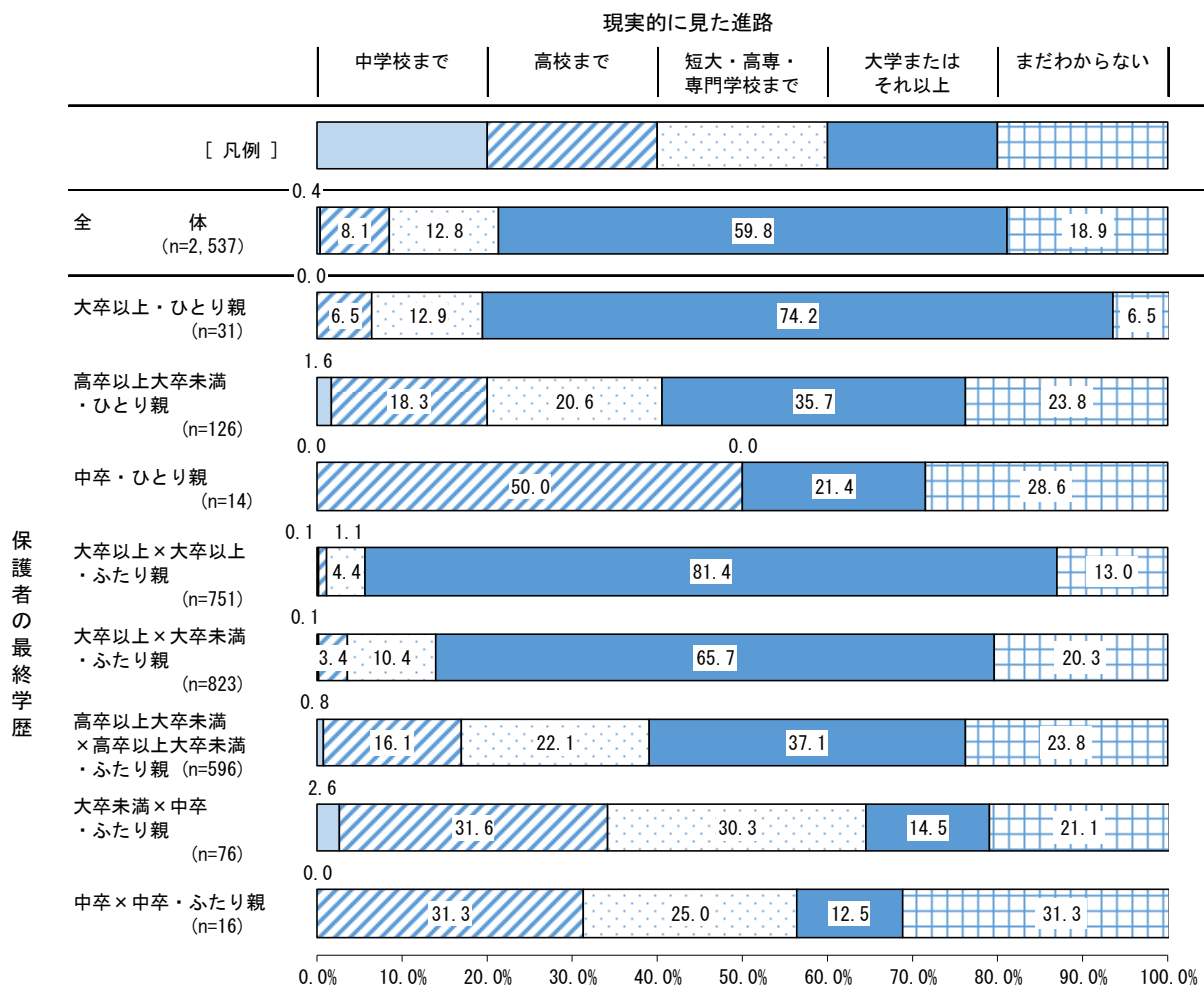
経年でみると、「高校まで」は『高卒以上大卒未満・ひとり親』『高卒以上大卒未満×高卒以上大卒未満・ふたり親』が前回調査に比べて低くなっている。「短大・高専・専門学校まで」は『大卒以上×大卒未満・ふたり親』『高卒以上大卒未満×高卒以上大卒未満・ふたり親』が前回調査に比べて低くなっている。「大学またはそれ以上」は『高卒以上大卒未満・ひとり親』『大卒以上×大卒以上・ふたり親』『大卒以上×大卒未満・ふたり親』『高卒以上大卒未満×高卒以上大卒未満・ふたり親』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が 50 に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-541 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（小学校5年生・保護者の最終学歴別）



＜前回調査＞【図表 3-542 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（小学校5年生・保護者の最終学歴別）

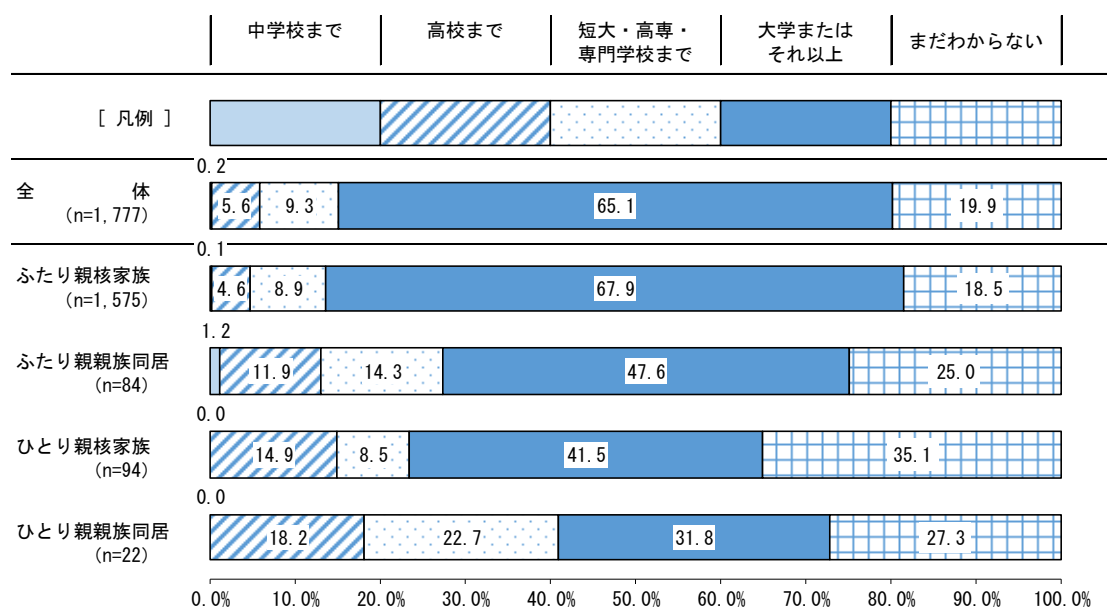


小学校5年生のいる世帯から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）を世帯構成別にみると、「高校まで」は『ふたり親親族同居』が11.9%、『ひとり親核家族』が14.9%と全体に比べて高く、「短大・高専・専門学校まで」は『ふたり親親族同居』が14.3%と全体に比べて高くなっている。「大学またはそれ以上」は『ふたり親親族同居』が47.6%、『ひとり親核家族』が41.5%と全体に比べて低くなっている。

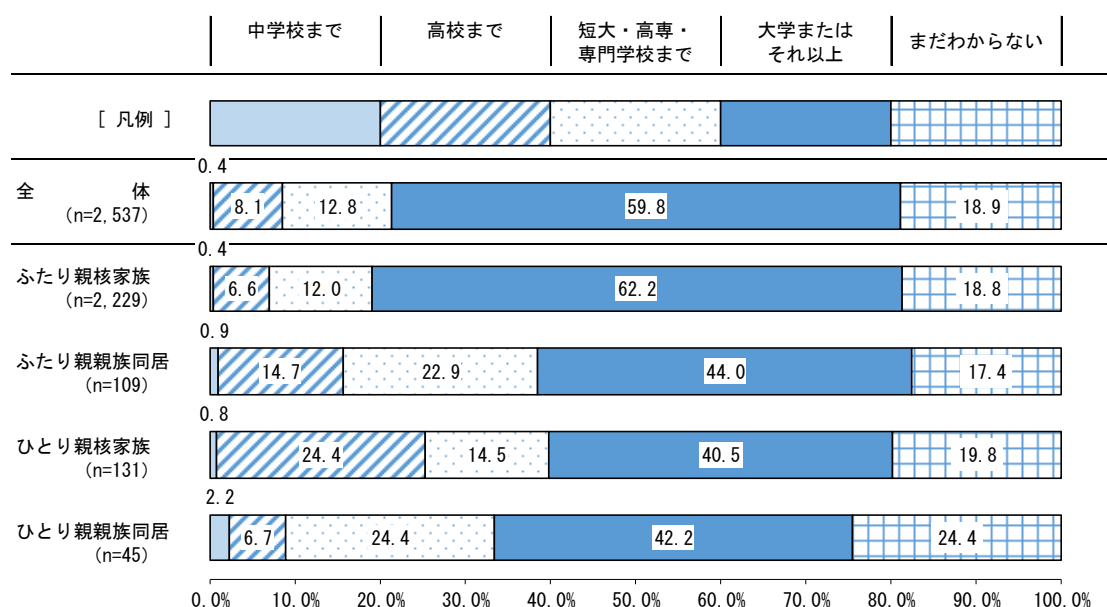
経年でみると、「高校まで」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「短大・高専・専門学校まで」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-543 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（小学校5年生・世帯構成別）



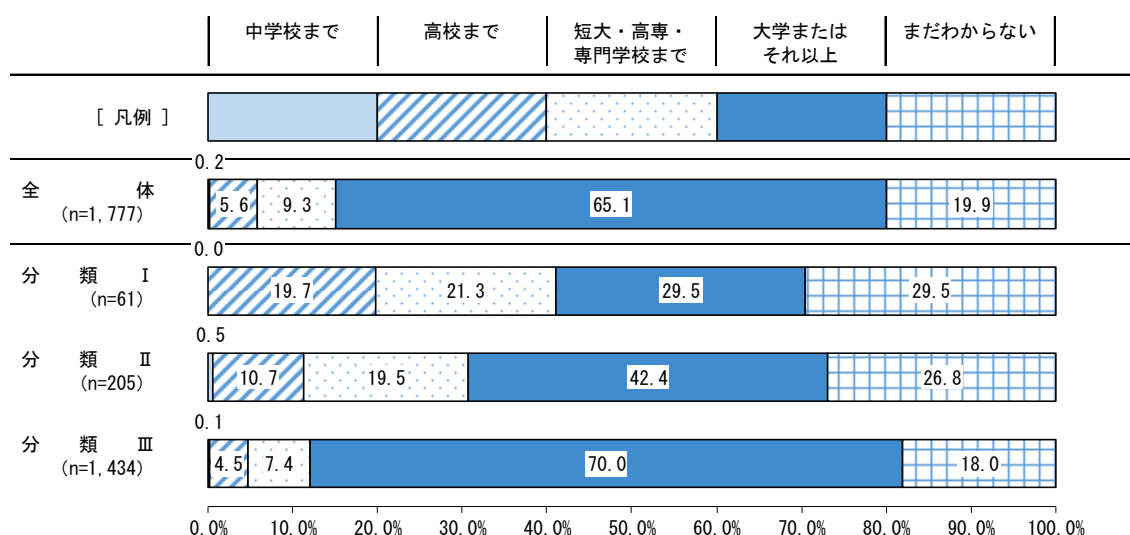
<前回調査>【図表 3-544 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（小学校5年生・世帯構成別）



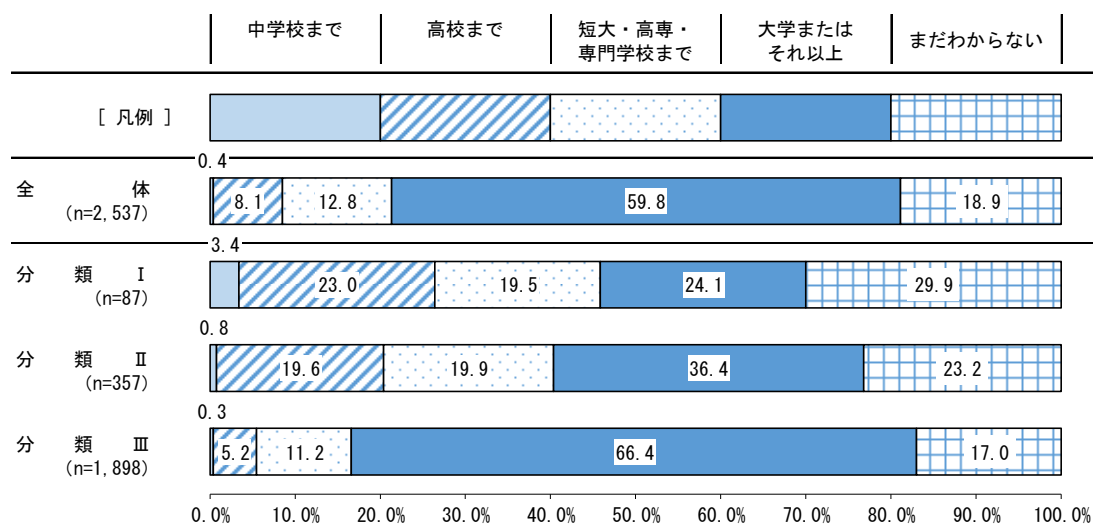
小学校5年生のいる世帯から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）を所得分類別にみると、「高校まで」は『分類Ⅰ』が19.7%、『分類Ⅱ』が10.7%と全体に比べて高くなっている。また、「短大・高専・専門学校まで」は『分類Ⅰ』が21.3%、『分類Ⅱ』が19.5%と全体に比べて高く、「大学またはそれ以上」は『分類Ⅰ』が29.5%、『分類Ⅱ』が42.4%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「高校まで」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低くなっている。「大学またはそれ以上」は『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。

＜今回調査＞【図表 3-545 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（小学校5年生・所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-546 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（小学校5年生・所得分類別）

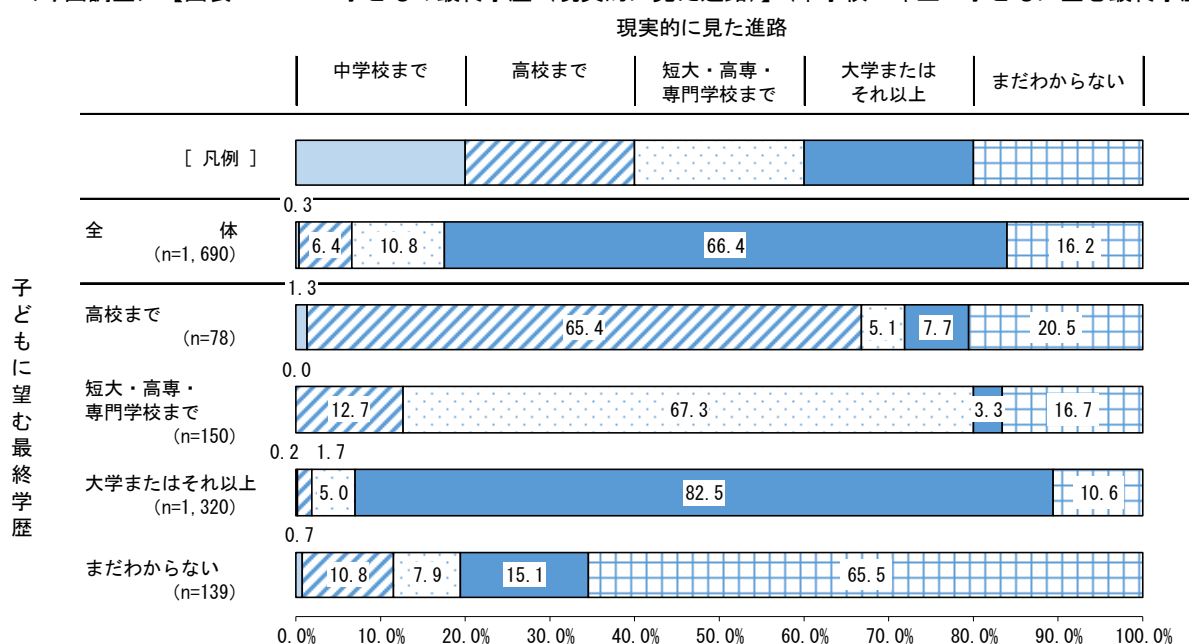


中学校2年生のいる世帯から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）を子どもに望む最終学歴別にみると、『高校まで』を希望している人のうち、現実では「短大・高専・専門学校まで」が5.1%、「大学またはそれ以上」が7.7%となっている。また、『短大・高専・専門学校まで』を希望している人のうち、現実では「大学またはそれ以上」が3.3%となっている。

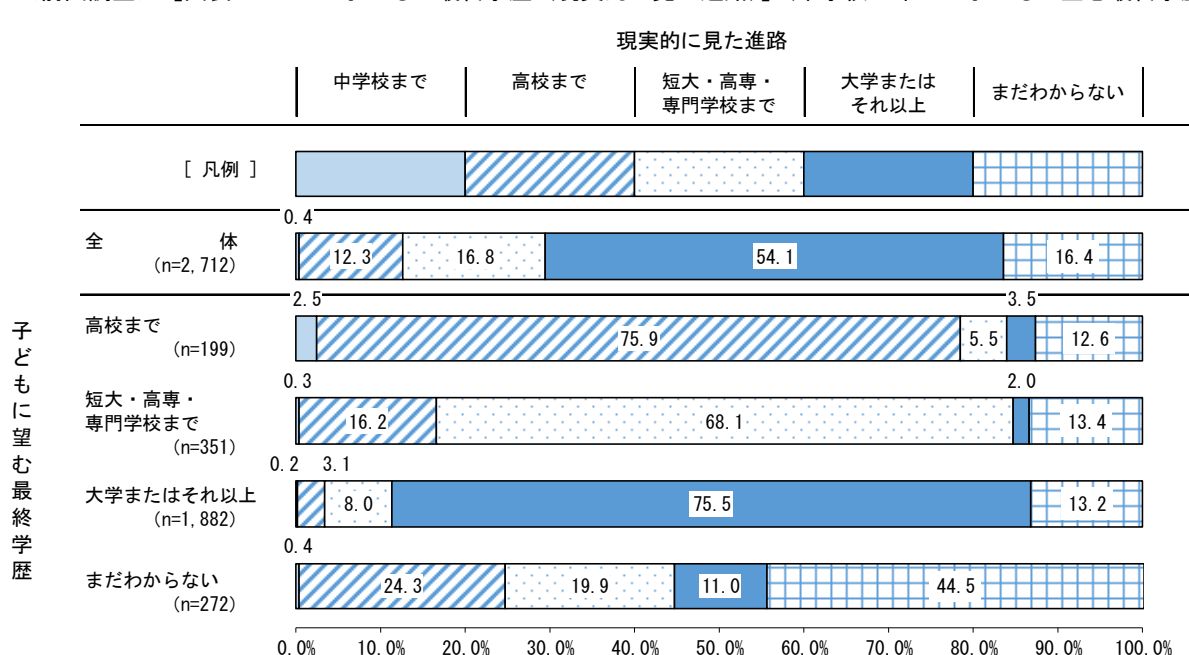
一方、『短大・高専・専門学校まで』を希望している人のうち、現実では「高校まで」が12.7%となっている。また、『大学またはそれ以上』を希望している人のうち、現実では「中学校まで」「高校まで」「短大・高専・専門学校まで」を合わせると6.9%となっている。（クロス軸が「子どもに望む最終学歴」を表す。）

経年でみると、「高校まで」は、希望する最終学歴が『高校まで』が前回調査に比べて低くなっている。「大学またはそれ以上」は、希望する最終学歴が『大学またはそれ以上』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-547 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（中学校2年生・子どもに望む最終学歴別）



<前回調査>【図表 3-548 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（中学校2年生・子どもに望む最終学歴別）



※ページ調整のため余白

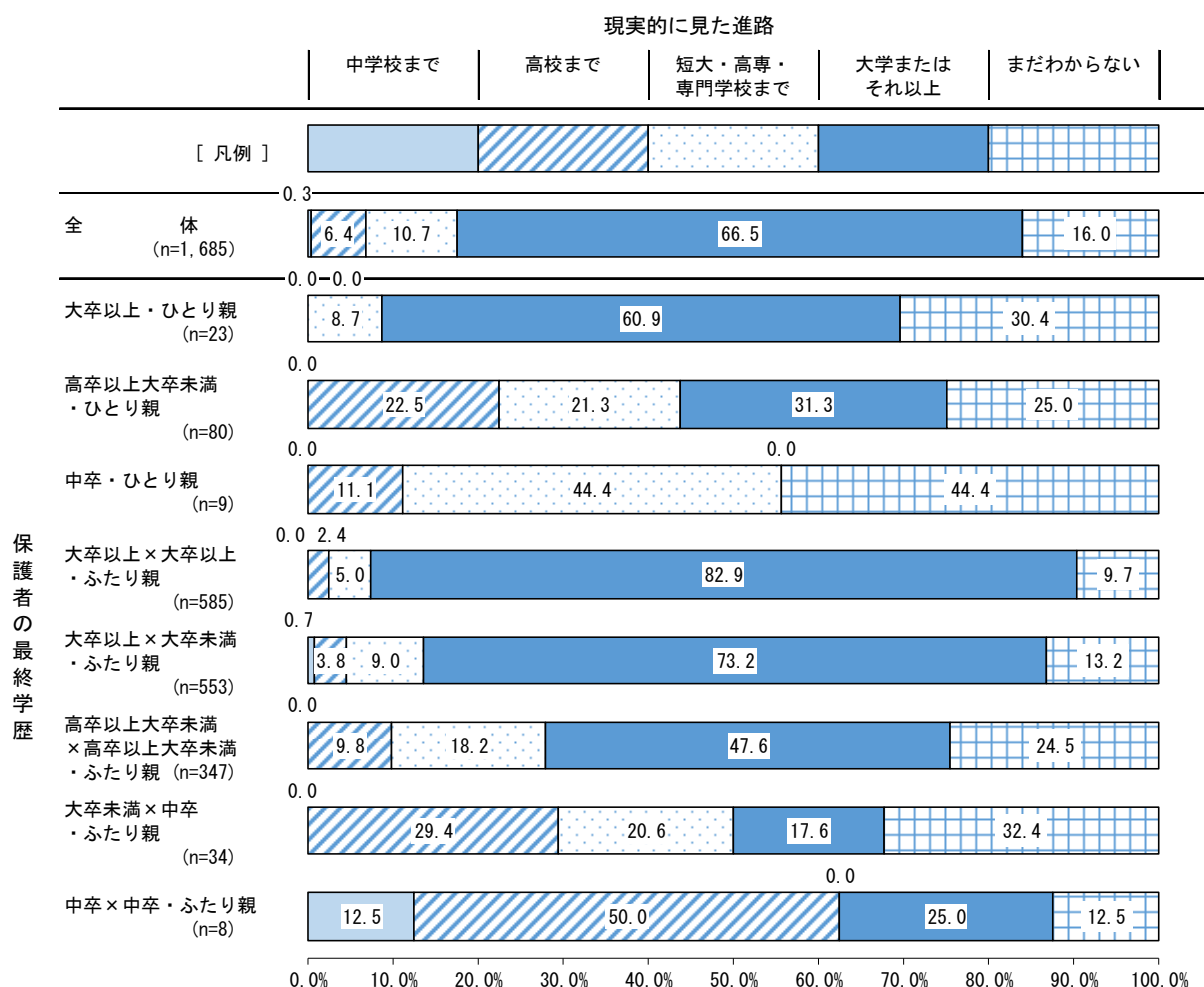
中学校2年生のいる世帯から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）を保護者の最終学歴別にみると、子どもの最終学歴予想が「高校まで」は『高卒以上大卒未満・ひとり親』が22.5%と全体に比べて高くなっている。「短大・高専・専門学校まで」は『高卒以上大卒未満・ひとり親』が21.3%、『高卒以上大卒未満×高卒以上大卒未満・ふたり親』が18.2%と全体に比べて高く、『大卒以上×大卒以上・ふたり親』が5.0%と全体に比べて低くなっている。

「大学またはそれ以上」は『高卒以上大卒未満・ひとり親』が31.3%、『高卒以上大卒未満×高卒以上大卒未満・ふたり親』が47.6%と全体に比べて低く、『大卒以上×大卒以上・ふたり親』が82.9%、『大卒以上×大卒未満・ふたり親』が73.2%と全体に比べて高くなっている。

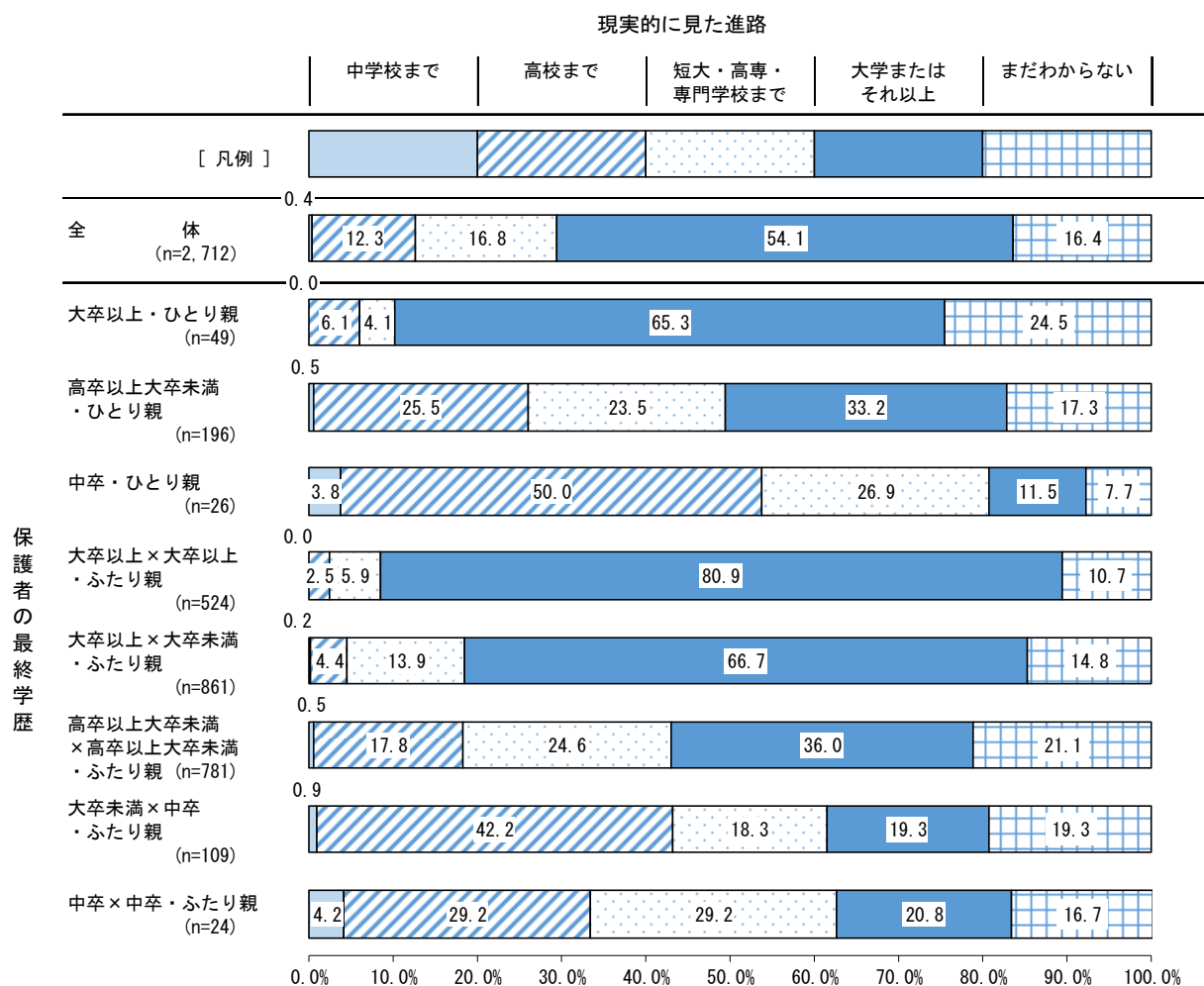
経年でみると、「高校まで」は『高卒以上大卒未満×高卒以上大卒未満・ふたり親』が前回調査に比べて低くなっている。「短大・高専・専門学校まで」は『高卒以上大卒未満×高卒以上大卒未満・ふたり親』が前回調査に比べて低くなっている。「大学またはそれ以上」は『大卒以上×大卒未満・ふたり親』『高卒以上大卒未満×高卒以上大卒未満・ふたり親』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-549 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（中学校2年生・保護者の最終学歴別）



<前回調査>【図表 3-550 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（中学校2年生・保護者の最終学歴別）

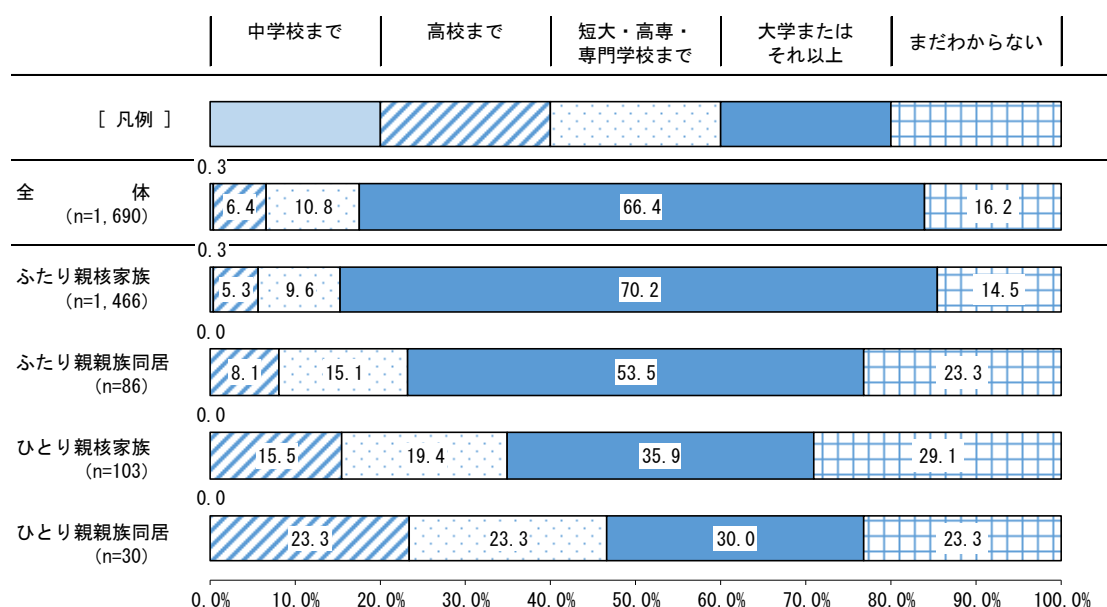


中学校2年生のいる世帯から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）を世帯構成別にみると、「高校まで」は『ひとり親核家族』が15.5%と全体に比べて高く、「短大・高専・専門学校まで」は『ひとり親核家族』が19.4%と全体に比べて高くなっている。「大学またはそれ以上」は『ふたり親親族同居』が53.5%、『ひとり親核家族』が35.9%と全体に比べて低くなっている。

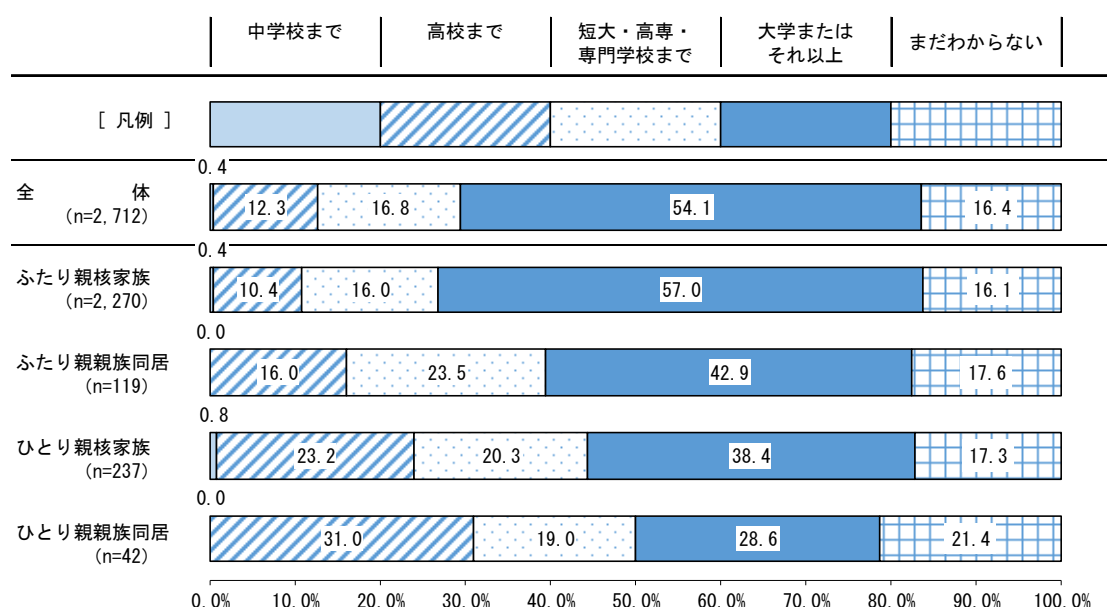
経年でみると、「高校まで」はいずれの世帯構成でも前回調査に比べて低くなっている。「短大・高専・専門学校まで」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。「大学またはそれ以上」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-551 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（中学校2年生・世帯構成別）



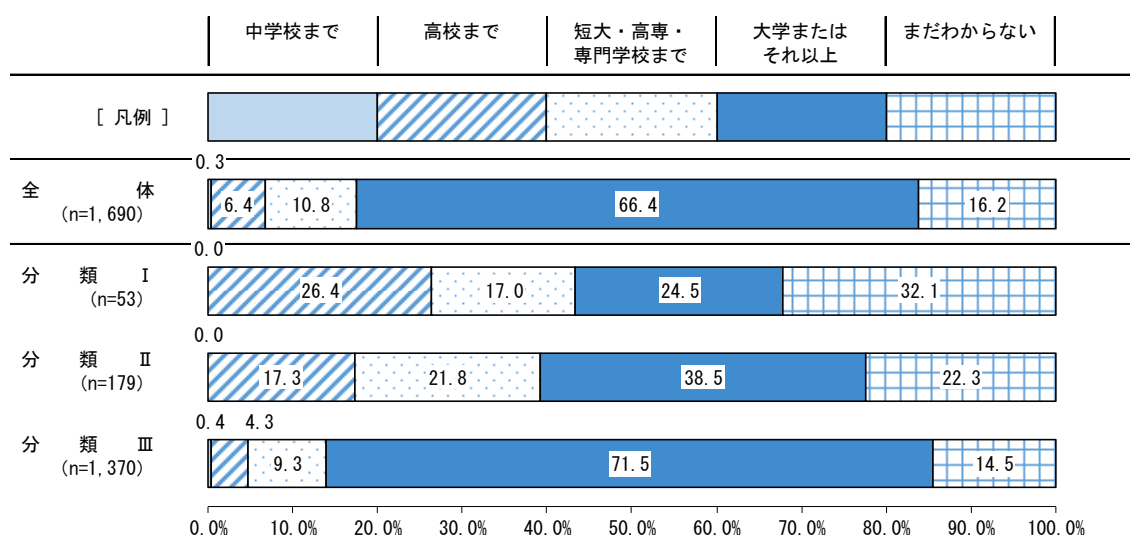
<前回調査>【図表 3-552 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（中学校2年生・世帯構成別）



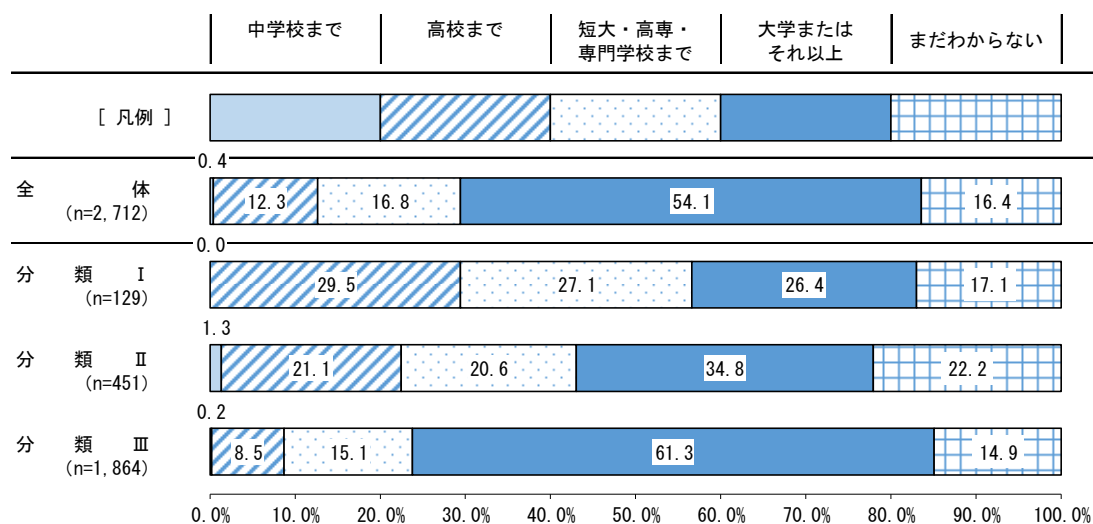
中学校2年生のいる世帯から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）を所得分類別にみると、「高校まで」は『分類Ⅰ』が26.4%、『分類Ⅱ』が17.3%と全体に比べて高くなっている。また、「短大・高専・専門学校まで」は『分類Ⅰ』が17.0%、『分類Ⅱ』が21.8%と全体に比べて高く、「大学またはそれ以上」は『分類Ⅰ』が24.5%、『分類Ⅱ』が38.5%と全体に比べて高く、『分類Ⅲ』が71.5%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「短大・高専・専門学校まで」は『分類Ⅰ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低くなっている。「大学またはそれ以上」は『分類Ⅲ』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-553 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（中学校2年生・所得分類別）



<前回調査>【図表 3-554 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）】（中学校2年生・所得分類別）



② 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）の理由【問11】（MA）

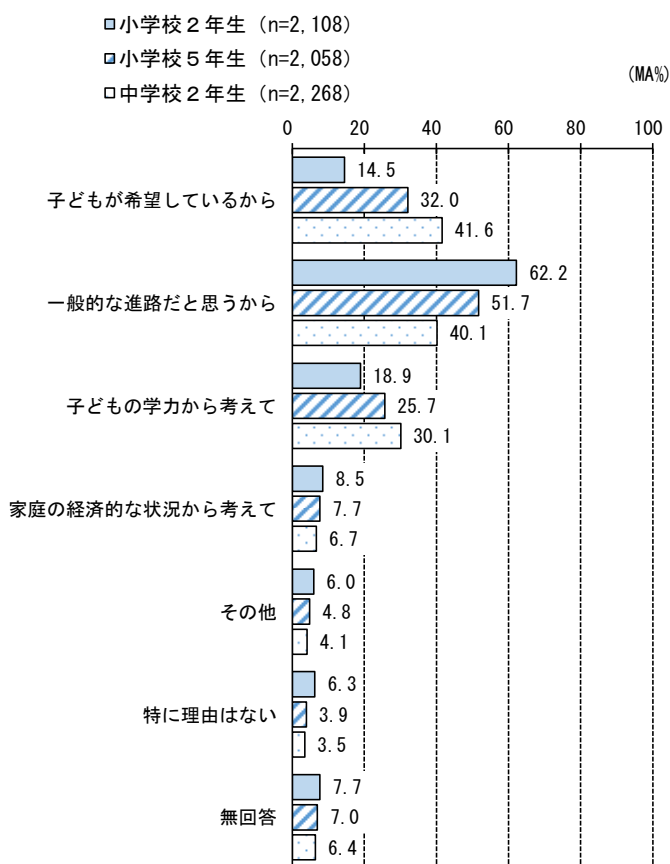
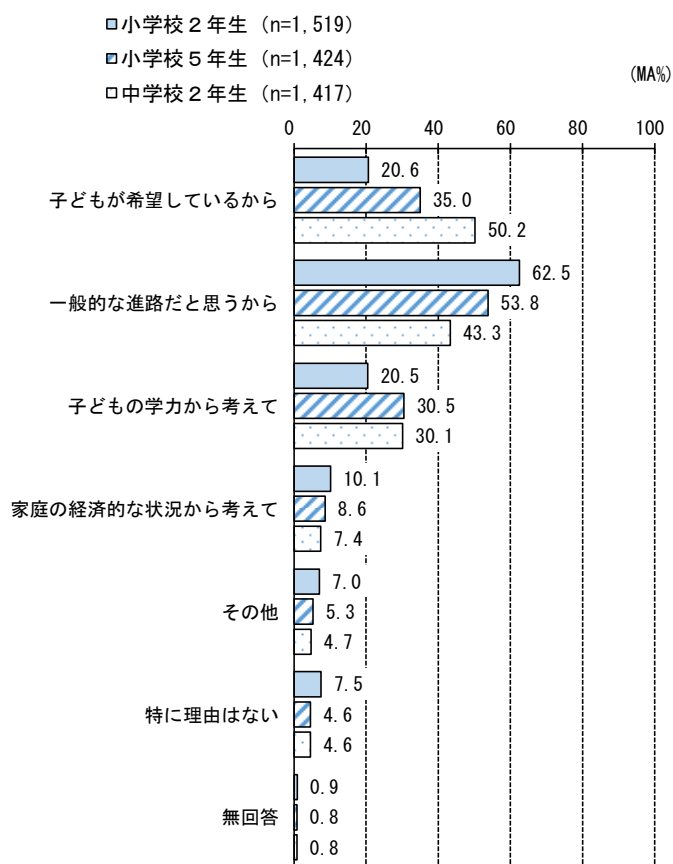
保護者から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）の理由を複数回答で聞いたところ、小学校2年生のいる世帯と小学校5年生のいる世帯では「一般的な進路だと思うから」（小学校2年生：62.5%、小学校5年生：53.8%）が最も高く、次いで「子どもが希望しているから」（小学校2年生：20.6%、小学校5年生：35.0%）、「子どもの学力から考えて」（小学校2年生：20.5%、小学校5年生：30.5%）となっている。中学校2年生のいる世帯では「子どもが希望しているから」が50.2%と最も高く、「一般的な進路だと思うから」が43.3%、「子どもの学力から考えて」が30.1%となっている。

経年でみると、小学校2年生、中学校2年生のいる世帯では「子どもが希望しているから」が前回調査に比べて高くなっている。

【図表 3-555 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）の理由（複数回答）】

<今回調査>

<前回調査>



小学校2年生のいる世帯から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）の理由を世帯構成別にみると、「家庭の経済的な状況から考えて」は『ふたり親親族同居』が15.7%と、全体に比べて高くなっている。一方、「一般的な進路だと思うから」は『ふたり親親族同居』が52.9%と、全体に比べて低くなっている。

所得分類別にみると、「一般的な進路だと思うから」は『分類Ⅱ』が53.6%と全体に比べて低く、「子どもの学力から考えて」は『分類Ⅱ』が15.2%と全体に比べて低くなっている。

最終学歴の予想別にみると、「一般的な進路だと思うから」は『大学またはそれ以上』が68.7%と全体に比べて高くなっている。また、「子どもの学力から考えて」は『高校まで』が33.3%、『短大・高専・専門学校まで』が31.8%、「家庭の経済的な状況から考えて」は『高校まで』が22.2%、『短大・高専・専門学校まで』が17.4%と、それぞれ全体に比べて高くなっている。一方、「子どもが希望しているから」は『高校まで』が8.6%と全体に比べて低くなっている。また、「一般的な進路だと思うから」は『高校まで』が35.8%、『短大・高専・専門学校まで』が24.2%と、それぞれ全体に比べて低くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「一般的な進路だと思うから」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、「子どもが希望しているから」「家庭の経済的な状況から考えて」は『ふたり親親族同居』が高くなっている。

所得分類別では「子どもが希望しているから」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。「一般的な進路だと思うから」は『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低く、「子どもの学力から考えて」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低くなっている。

最終学歴の予想別では、「子どもが希望しているから」は『高校まで』『大学またはそれ以上』が前回調査に比べて高くなっている。「一般的な進路だと思うから」は『高校まで』『短大・高専・専門学校まで』が前回調査に比べて低くなっている。「子どもの学力から考えて」は『高校まで』『短大・高専・専門学校まで』が前回調査に比べて高くなっている。「家庭の経済的な状況から考えて」は『高校まで』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回・前回調査＞【図表 3-556 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）の理由（複数回答）】

（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別、最終学歴の予想別）

単位：％

			母数 (n)	子どもが希望しているから	一般的な進路だと思うから	子どもの学力から考えて	家庭の経済的な状況から	その他	特に理由はない
今回調査	全体		1,506	20.8	63.0	20.7	10.2	7.1	7.6
	世帯構成	ふたり親核家族	1,382	20.7	63.9	20.9	9.6	7.3	7.5
		ふたり親親族同居	70	17.1	▼ 52.9	22.9	△ 15.7	5.7	8.6
		ひとり親核家族	32	25.0	▼ 50.0	21.9	△ 21.9	－	6.3
		ひとり親親族同居	19	△ 36.8	▼ 52.6	－	10.5	10.5	△ 15.8
	所得分類	分類Ⅰ	49	20.4	▼ 49.0	△ 26.5	△ 18.4	6.1	8.2
		分類Ⅱ	125	22.4	▼ 53.6	▼ 15.2	13.6	3.2	7.2
		分類Ⅲ	1,273	20.4	65.0	21.2	9.8	7.5	7.1
	最終学歴の予想	中学校まで	1	－	△ 100.0	－	－	－	－
		高校まで	81	▼ 8.6	▼ 35.8	△ 33.3	△ 22.2	△ 12.3	9.9
		短大・高専・専門学校まで	132	25.0	▼ 24.2	△ 31.8	△ 17.4	△ 12.9	9.8
		大学またはそれ以上	1,292	21.1	△ 68.7	18.8	8.7	6.2	7.2
前回調査	全体		1945	15.7	67.4	20.5	9.2	6.5	6.8
	世帯構成	ふたり親核家族	1762	15.9	68.3	20.7	8.9	6.8	6.5
		ふたり親親族同居	71	▼ 9.9	70.4	23.9	8.5	5.6	4.2
		ひとり親核家族	75	18.7	▼ 53.3	▼ 12.0	12.0	4.0	△ 13.3
		ひとり親親族同居	21	19.0	▼ 42.9	23.8	△ 33.3	4.8	4.8
	所得分類	分類Ⅰ	66	15.2	▼ 54.5	19.7	13.6	3.0	△ 15.2
		分類Ⅱ	291	14.1	▼ 53.3	21.0	13.7	7.2	7.2
		分類Ⅲ	1492	16.2	70.7	20.6	8.2	6.6	6.2
	最終学歴の予想	中学校まで	2	－	▼ 50.0	△ 100.0	－	－	－
		高校まで	80	▼ 2.5	▼ 50.0	23.8	△ 16.3	6.3	△ 15.0
		短大・高専・専門学校まで	130	△ 23.1	▼ 46.2	17.7	△ 19.2	6.9	△ 13.8
		大学またはそれ以上	1606	16.1	71.4	20.6	8.2	6.5	5.2

小学校5年生のいる世帯から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）の理由を世帯構成別にみると、「子どもの学力から考えて」は『ふたり親親族同居』が42.9%と全体に比べて高く、「家庭の経済的な状況から考えて」は『ふたり親親族同居』が15.9%、『ひとり親核家族』が15.0%と全体に比べて高くなっている。一方、「一般的な進路だと思うから」は『ふたり親親族同居』が46.0%、『ひとり親核家族』が41.7%と全体に比べて低くなっている。

所得分類別にみると、「一般的な進路だと思うから」は『分類Ⅱ』が38.5%と全体に比べて低くなっている。

最終学歴の予想別にみると、「子どもが希望しているから」は『高校まで』が20.0%、『短大・高専・専門学校まで』が28.0%と全体に比べて低くなっている。「一般的な進路だと思うから」は『高校まで』が20.0%、『短大・高専・専門学校まで』が19.5%と全体に比べて低く、『大学またはそれ以上』が62.4%と全体に比べて高くなっている。また、「子どもの学力から考えて」は『高校まで』が45.0%、『短大・高専・専門学校まで』が48.2%、「家庭の経済的な状況から考えて」は『高校まで』が24.0%、『短大・高専・専門学校まで』が14.0%と、それぞれ全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「子どもが希望しているから」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。「子どもの学力から考えて」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。「家庭の経済的な状況から考えて」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高く、『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。

所得分類別では「子どもが希望しているから」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。「家庭の経済的な状況から考えて」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低くなっている。

最終学歴の予想別では「子どもが希望しているから」は『高校まで』が前回調査に比べて高く、『短大・高専・専門学校まで』が前回調査に比べて低くなっている。「一般的な進路だと思うから」は『高校まで』『短大・高専・専門学校まで』が前回調査に比べて低くなっている。

「子どもの学力から考えて」は『高校まで』『短大・高専・専門学校まで』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回・前回調査＞【図表 3-557 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）の理由（複数回答）】

（小学校５年生・世帯構成別、所得分類別、最終学歴の予想別）

単位：％

			母数 (n)	子どもが 希望して いるから	一般的 な進路だ と思うから	子ども の学力から 考えて	家庭の 経済的な 状況から 考えて	その他	特に 理由は ない
今回調査	全体		1,412	35.3	54.2	30.8	8.7	5.4	4.7
	世帯 構成	ふたり親核家族	1,273	35.5	55.3	30.5	7.9	5.6	4.7
		ふたり親親族同居	63	36.5	▼ 46.0	△ 42.9	△ 15.9	3.2	1.6
		ひとり親核家族	60	31.7	▼ 41.7	26.7	△ 15.0	3.3	8.3
		ひとり親親族同居	16	▼ 25.0	50.0	▼ 25.0	△ 18.8	6.3	－
	所得 分類	分類Ⅰ	42	▼ 23.8	▼ 40.5	△ 40.5	△ 35.7	4.8	－
		分類Ⅱ	148	33.8	▼ 38.5	27.0	8.8	7.4	5.4
		分類Ⅲ	1,168	36.2	56.8	31.1	7.8	5.2	4.4
	最終 学歴の 予想	中学校まで	3	△ 66.7	－	33.3	－	－	－
		高校まで	100	▼ 20.0	▼ 20.0	△ 45.0	△ 24.0	△ 11.0	6.0
		短大・高専・専門学校まで	164	▼ 28.0	▼ 19.5	△ 48.2	△ 14.0	7.3	5.5
		大学またはそれ以上	1,145	37.6	△ 62.4	27.1	6.6	4.6	4.5
前回調査	全体		1,913	34.4	55.6	27.7	8.3	5.1	4.2
	世帯 構成	ふたり親核家族	1,683	34.1	57.0	28.3	7.5	5.1	4.2
		ふたり親親族同居	79	△ 44.3	▼ 44.3	24.1	5.1	6.3	5.1
		ひとり親核家族	99	31.3	▼ 44.4	24.2	△ 22.2	3.0	3.0
		ひとり親親族同居	32	31.3	▼ 46.9	▼ 21.9	△ 18.8	△ 12.5	6.3
	所得 分類	分類Ⅰ	57	▼ 26.3	▼ 42.1	▼ 17.5	△ 24.6	1.8	3.5
		分類Ⅱ	256	▼ 26.6	▼ 43.0	28.5	△ 17.2	7.4	6.6
		分類Ⅲ	1,463	35.4	58.6	28.4	6.4	5.0	3.7
	最終 学歴の 予想	中学校まで	3	△ 66.7	▼ 33.3	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3	－
		高校まで	90	▼ 14.4	▼ 43.3	31.1	△ 25.6	5.6	7.8
		短大・高専・専門学校まで	155	34.8	▼ 28.4	△ 33.5	△ 16.1	4.5	6.5
		大学またはそれ以上	1,551	35.8	△ 61.4	26.0	6.2	4.8	3.4

中学校2年生のいる世帯から見た子どもの最終学歴（現実的に見た進路）の理由を世帯構成別にみると、「一般的な進路だと思うから」は『ふたり親親族同居』が50.0%、「家庭の経済的な状況から考えて」は『ひとり親核家族』が15.1%と全体に比べて高くなっている。一方、「一般的な進路だと思うから」は『ひとり親核家族』が24.7%と全体に比べて低くなっている。

所得分類別にみると、「子どもが希望しているから」は『分類Ⅱ』が42.4%と全体に比べて低く、「一般的な進路だと思うから」は『分類Ⅱ』が31.7%と全体に比べて低くなっている。

最終学歴の予想別にみると、「子どもが希望しているから」は『高校まで』が29.6%、『短大・高専・専門学校まで』が40.3%と全体に比べて低くなっている。「一般的な進路だと思うから」は『高校まで』が14.8%、『短大・高専・専門学校まで』が17.1%と全体に比べて低く、『大学またはそれ以上』が50.9%と全体に比べて高くなっている。また、「子どもの学力から考えて」は『高校まで』が43.5%、『短大・高専・専門学校まで』が41.4%と全体に比べて高く、「家庭の経済的な状況から考えて」は『高校まで』が18.5%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「子どもが希望しているから」は『ふたり親核家族』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高く、「一般的な進路だと思うから」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高く、『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。「子どもの学力から考えて」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、『ひとり親核家族』が高くなっている。

所得分類別では「子どもが希望しているから」は『分類Ⅲ』が前回調査に比べて高くなっている。

最終学歴の予想別では、「子どもが希望しているから」は『大学またはそれ以上』が前回調査に比べて高くなっている。「一般的な進路だと思うから」は『高校まで』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回・前回調査＞【図表 3-558 子どもの最終学歴（現実的に見た進路）の理由（複数回答）】

（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別、最終学歴の予想別）

単位：％

			母数 (n)	子どもが 希望して いるから	一 般 的 な 進 路 だ と 思 う か ら	子 ど も の 学 力 か ら 考 え て	家 庭 の 経 済 的 な 状 況 か ら	そ の 他	特 に 理 由 は な い
今 回 調 査	全体		1,405	50.7	43.7	30.3	7.5	4.8	4.6
	世 帯 構 成	ふたり親核家族	1,241	50.5	44.6	30.2	6.9	4.4	4.7
		ふたり親親族同居	66	54.5	△ 50.0	25.8	7.6	6.1	3.0
		ひとり親核家族	73	53.4	▼ 24.7	34.2	△ 15.1	△ 11.0	2.7
		ひとり親親族同居	23	▼ 39.1	▼ 34.8	30.4	△ 13.0	4.3	△ 13.0
	所 得 分 類	分類Ⅰ	36	▼ 41.7	▼ 22.2	▼ 13.9	△ 22.2	△ 13.9	5.6
		分類Ⅱ	139	▼ 42.4	▼ 31.7	33.1	10.8	5.0	8.6
		分類Ⅲ	1,160	51.5	45.9	31.1	6.9	4.5	4.1
	最 終 学 歴 の 予 想	中学校まで	5	▼ 20.0	▼ 20.0	▼ 20.0	－	△ 40.0	－
		高校まで	108	▼ 29.6	▼ 14.8	△ 43.5	△ 18.5	△ 22.2	6.5
		短大・高専・専門学校まで	181	▼ 40.3	▼ 17.1	△ 41.4	12.2	2.8	8.3
		大学またはそれ以上	1,111	54.5	△ 50.9	27.3	5.7	3.2	3.9
前 回 調 査	全体		2,122	44.5	42.8	32.1	7.2	4.4	3.7
	世 帯 構 成	ふたり親核家族	1,780	45.1	43.9	32.5	6.1	4.3	3.6
		ふたり親親族同居	96	△ 54.2	▼ 32.3	31.3	9.4	4.2	2.1
		ひとり親核家族	179	▼ 38.5	38.0	29.1	△ 15.1	6.1	3.4
		ひとり親親族同居	33	▼ 27.3	42.4	△ 42.4	△ 15.2	6.1	△ 9.1
	所 得 分 類	分類Ⅰ	96	▼ 37.5	▼ 33.3	30.2	△ 20.8	6.3	4.2
		分類Ⅱ	328	40.5	▼ 36.0	32.3	△ 12.2	4.0	5.5
		分類Ⅲ	1,496	46.1	44.9	32.3	5.3	4.2	3.1
	最 終 学 歴 の 予 想	中学校まで	1	△ 100.0	－	△ 100.0	－	－	－
		高校まで	161	▼ 26.7	▼ 34.8	△ 44.1	△ 21.7	4.3	5.6
		短大・高専・専門学校まで	288	44.4	▼ 20.5	△ 40.3	△ 15.6	3.8	4.2
		大学またはそれ以上	1,521	47.7	50.8	28.0	3.4	4.3	2.8

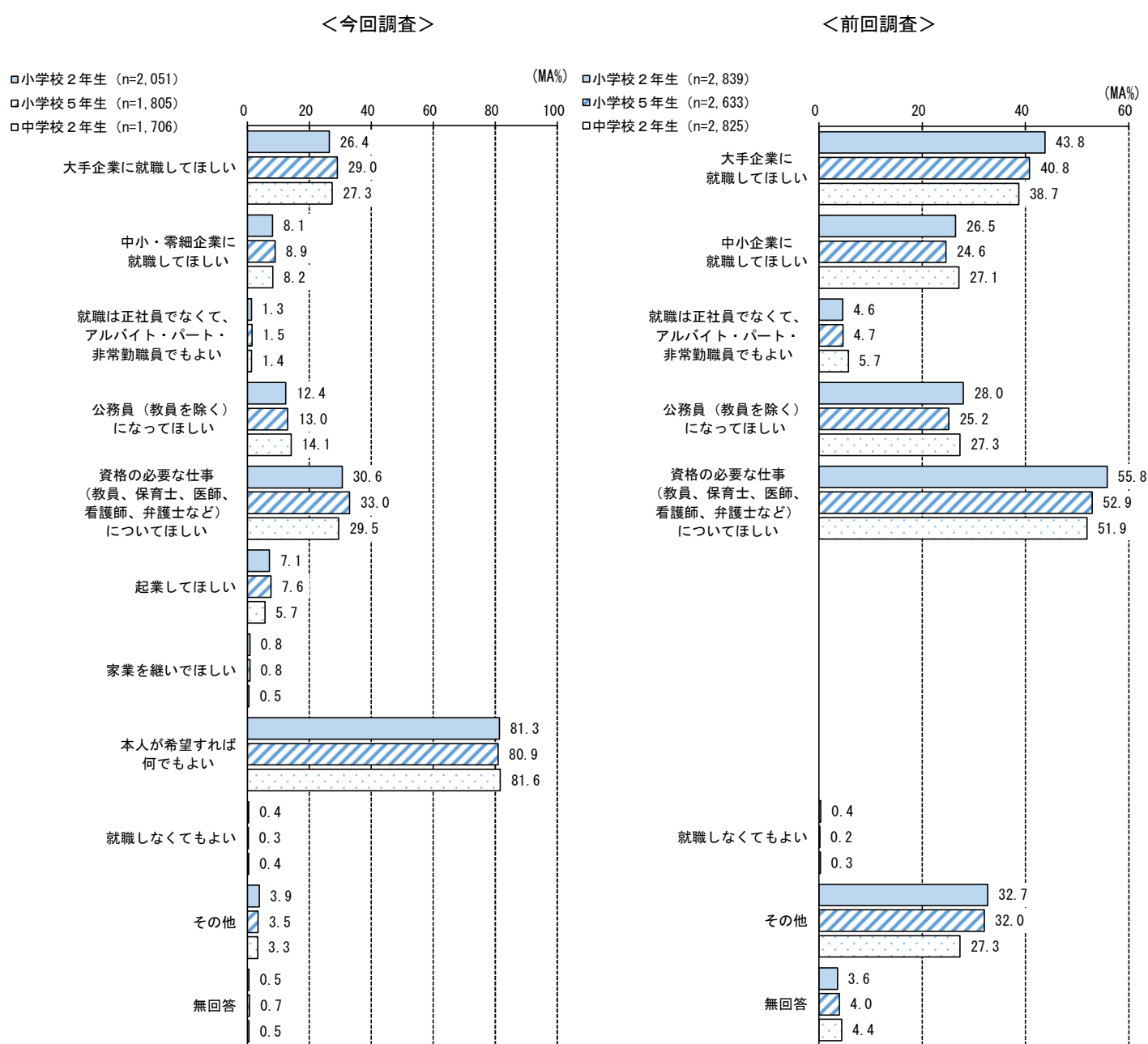
ウ 子どもに望む就職先【問12】(MA)

子どもに望む就職先を複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「本人が希望すれば何でもよい」(小学校2年生:81.3%、小学校5年生:80.9%、中学校2年生:81.6%)が最も高く、次いで「資格の必要な仕事(教員、保育士、医師、看護師、弁護士など)についてほしい」(小学校2年生:30.6%、小学校5年生:33.0%、中学校2年生:29.5%)、「大手企業に就職してほしい」(小学校2年生:26.4%、小学校5年生:29.0%、中学校2年生:27.3%)となっている。

経年でみると、「大手企業に就職してほしい」「中小・零細企業に就職してほしい」「公務員(教員を除く)になってほしい」「資格の必要な仕事(教員、保育士、医師、看護師、弁護士など)についてほしい」はいずれの学年でも前回調査に比べて低くなっている。

なお、前回調査は設問内容が異なるため、参考値とし、経年比較は行わない。

【図表 3-559 子どもに望む就職先(複数回答)】



小学校2年生のいる世帯が子どもに望む就職先を世帯構成別にみると、「大手企業に就職してほしい」は『ふたり親親族同居』が16.2%、「起業してほしい」は『ふたり親親族同居』が1.9%と全体に比べて低くなっている。

所得分類別にみると、「大手企業に就職してほしい」は『分類Ⅰ』が16.5%、『分類Ⅱ』が16.4%と全体に比べて低くなっている。「就職は正社員でなくて、アルバイト・パート・非常勤職員でもよい」は『分類Ⅰ』が6.3%と全体に比べて高くなっている。「資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい」は『分類Ⅱ』が24.2%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、世帯構成別では、「大手企業に就職してほしい」「中小・零細企業に就職してほしい」「公務員（教員を除く）になってほしい」「資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい」はいずれの世帯構成でも前回調査に比べて低くなっている。「就職は正社員でなくて、アルバイト・パート・非常勤職員でもよい」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。

所得分類別では、「大手企業に就職してほしい」「中小・零細企業に就職してほしい」「公務員（教員を除く）になってほしい」「資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて低くなっている。「就職は正社員でなくて、アルバイト・パート・非常勤職員でもよい」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-560 子どもに望む就職先（複数回答）】（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	大手企業に就職してほしい	中小・零細企業に就職してほしい	就職は正社員でなくて、アルバイト・パート・非常勤職員でもよい	公務員（教員を除く）になってもほしい	資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい	起業してほしい	家業を継いでほしい	本人が希望すれば何でもよい	就職しなくてもよい	その他
全体		2,041	26.6	8.2	1.3	12.4	30.8	7.1	0.8	81.7	0.4	3.9
世帯構成	ふたり親核家族	1,837	27.5	8.3	1.3	12.5	31.0	7.5	0.8	81.6	0.4	3.9
	ふたり親親族同居	105	▼ 16.2	5.7	—	13.3	28.6	▼ 1.9	—	83.8	—	2.9
	ひとり親核家族	61	23.0	9.8	3.3	11.5	31.1	6.6	—	85.2	1.6	1.6
	ひとり親親族同居	33	▼ 15.2	6.1	—	12.1	▼ 24.2	—	△ 6.1	▼ 72.7	—	△ 12.1
所得分類	分類Ⅰ	79	▼ 16.5	10.1	△ 6.3	11.4	32.9	3.8	1.3	79.7	—	2.5
	分類Ⅱ	219	▼ 16.4	5.9	0.9	12.8	▼ 24.2	7.3	—	84.5	—	2.7
	分類Ⅲ	1,649	28.6	8.4	1.0	12.4	31.4	7.3	0.9	81.4	0.5	4.2

＜前回調査＞【図表 3-561 子どもに望む就職先（複数回答）】（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	大手企業に就職してほしい	中小企業に就職してほしい	就職は正社員でなくて、アルバイト・パート・非常勤職員でもよい	公務員（教員を除く）になってもほしい	資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい				就職しなくてもよい	その他
全体		2,736	45.5	27.4	4.8	29.0	57.9				0.4	34.0
世帯構成	ふたり親核家族	2,476	46.1	27.5	4.7	29.3	58.0				0.3	34.2
	ふたり親親族同居	97	47.4	28.9	5.2	28.9	56.7				1.0	33.0
	ひとり親核家族	113	▼ 37.2	25.7	5.3	25.7	58.4				—	34.5
	ひとり親親族同居	29	▼ 27.6	△ 34.5	△ 13.8	△ 34.5	58.6				—	▼ 24.1
所得分類	分類Ⅰ	92	▼ 35.9	26.1	7.6	27.2	53.3				2.2	▼ 20.7
	分類Ⅱ	442	▼ 37.3	32.1	7.0	29.4	55.4				0.9	33.0
	分類Ⅲ	2,043	48.0	26.3	4.0	29.0	59.1				0.1	34.7

小学校5年生のいる世帯が子どもに望む就職先を世帯構成別にみると、「大手企業に就職してほしい」は『ふたり親親族同居』が24.1%、『ひとり親核家族』が16.7%と全体に比べて低くなっている。「資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい」は『ふたり親親族同居』が38.6%、『ひとり親核家族』38.5%と全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、「大手企業に就職してほしい」は『分類Ⅰ』が22.6%、『分類Ⅱ』が16.6%と全体に比べて低く、「公務員（教員を除く）になってほしい」は『分類Ⅰ』が8.1%と全体に比べて低くなっている。「資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい」は『分類Ⅰ』が38.7%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では、「中小・零細企業に就職してほしい」「資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい」はいずれの世帯構成でも前回調査に比べて低くなっている。「大手企業に就職してほしい」は『ふたり親核家族』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「就職は正社員でなくて、アルバイト・パート・非常勤職員でもよい」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「公務員（教員を除く）になってほしい」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。

所得分類別では、「中小・零細企業に就職してほしい」「公務員（教員を除く）になってほしい」「資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて低くなっている。「大手企業に就職してほしい」は『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低く、「就職は正社員でなくて、アルバイト・パート・非常勤職員でもよい」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-562 子どもに望む就職先（複数回答）】（小学校5年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	大手企業に就職してほしい	中小・零細企業に就職してほしい	就職は正社員でなくて、アルバイト・パート・非常勤職員でもよい	公務員（教員を除く）になつてほしい	資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい	起業してほしい	家業を継いでほしい	本人が希望すれば何でもよい	就職しなくてもよい	その他
全体		1,793	29.2	8.9	1.5	13.1	33.2	7.7	0.8	81.4	0.3	3.6
世帯構成	ふたり親核家族	1,590	30.4	8.9	1.5	13.1	32.5	7.4	0.7	81.4	0.3	3.5
	ふたり親親族同居	83	▼ 24.1	12.0	1.2	9.6	△ 38.6	9.6	3.6	83.1	—	3.6
	ひとり親核家族	96	▼ 16.7	8.3	1.0	15.6	△ 38.5	11.5	1.0	85.4	—	5.2
	ひとり親親族同居	22	▼ 18.2	4.5	4.5	9.1	△ 40.9	9.1	—	▼ 68.2	—	—
所得分類	分類Ⅰ	62	▼ 22.6	9.7	1.6	▼ 8.1	△ 38.7	4.8	1.6	83.9	—	3.2
	分類Ⅱ	205	▼ 16.6	9.8	2.4	11.2	29.8	9.8	1.5	82.9	0.5	3.4
	分類Ⅲ	1,452	32.0	9.0	1.4	13.7	33.4	7.8	0.8	81.3	0.3	3.4

＜前回調査＞【図表 3-563 子どもに望む就職先（複数回答）】（小学校5年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	大手企業に就職してほしい	中小企業に就職してほしい	就職は正社員でなくて、アルバイト・パート・非常勤職員でもよい	公務員（教員を除く）になつてほしい	資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい				就職しなくてもよい	その他
全体		2,527	42.5	25.7	4.9	26.2	55.2				0.2	33.4
世帯構成	ふたり親核家族	2,214	44.1	25.4	4.4	26.9	55.5				0.1	33.3
	ふたり親親族同居	109	▼ 24.8	21.1	4.6	▼ 19.3	55.0				—	37.6
	ひとり親核家族	137	▼ 35.0	△ 31.4	8.8	▼ 20.4	51.8				1.5	33.6
	ひとり親親族同居	44	▼ 34.1	△ 36.4	△ 15.9	△ 34.1	△ 61.4				—	▼ 18.2
所得分類	分類Ⅰ	91	▼ 19.8	26.4	△ 14.3	▼ 16.5	▼ 49.5				2.2	▼ 26.4
	分類Ⅱ	358	▼ 34.1	29.6	7.3	30.7	58.4				0.3	30.4
	分類Ⅲ	1,887	45.9	25.6	3.7	26.1	55.7				0.1	33.5

中学校2年生のいる世帯の子どもに望む就職先を世帯構成別にみると、「資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい」は『ふたり親親族同居』が35.3%と全体に比べて高くなっている。一方、『ひとり親核家族』では「大手企業に就職してほしい」が17.6%、「公務員（教員を除く）になってほしい」が7.8%、「資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい」が19.6%と、それぞれ全体に比べて低くなっている。

所得分類別にみると、『分類Ⅰ』では「大手企業に就職してほしい」が15.4%、「公務員（教員を除く）になってほしい」が5.8%、「資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい」が21.2%と、それぞれ全体に比べて低くなっている。

経年でみると、世帯構成別では、「大手企業に就職してほしい」「公務員（教員を除く）になってほしい」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「中小・零細企業に就職してほしい」「資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい」はいずれの世帯構成でも前回調査に比べて低くなっている。「就職は正社員でなくて、アルバイト・パート・非常勤職員でもよい」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低くなっている。

所得分類別では、「大手企業に就職してほしい」「中小・零細企業に就職してほしい」「公務員（教員を除く）になってほしい」「資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて低くなっている。「就職は正社員でなくて、アルバイト・パート・非常勤職員でもよい」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-564 子どもに望む就職先（複数回答）】（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	大手企業に就職してほしい	中小・零細企業に就職してほしい	就職は正社員でなくて、アルバイト・パート・非常勤職員でもよい	公務員（教員を除く）になってもほしい	資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい	起業してほしい	家業を継いでほしい	本人が希望すれば何でもよい	就職しなくてもよい	その他
全体		1,697	27.4	8.2	1.4	14.2	29.7	5.7	0.5	82.0	0.4	3.4
世帯構成	ふたり親核家族	1,475	28.3	8.3	1.2	14.3	30.1	5.6	0.5	82.0	0.3	3.2
	ふたり親親族同居	85	23.5	8.2	4.7	17.6	△ 35.3	3.5	1.2	80.0	1.2	4.7
	ひとり親核家族	102	▼ 17.6	5.9	2.0	▼ 7.8	▼ 19.6	8.8	1.0	83.3	2.0	4.9
	ひとり親親族同居	30	26.7	△ 13.3	3.3	△ 23.3	26.7	6.7	－	80.0	－	3.3
所得分類	分類Ⅰ	52	▼ 15.4	7.7	1.9	▼ 5.8	▼ 21.2	7.7	－	80.8	1.9	5.8
	分類Ⅱ	179	23.5	12.3	3.9	18.4	29.6	3.4	－	82.1	0.6	2.2
	分類Ⅲ	1,379	28.7	7.8	1.1	14.4	30.5	6.2	0.7	82.2	0.4	3.1

＜前回調査＞【図表 3-565 子どもに望む就職先（複数回答）】（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	大手企業に就職してほしい	中小企業に就職してほしい	就職は正社員でなくて、アルバイト・パート・非常勤職員でもよい	公務員（教員を除く）になってもほしい	資格の必要な仕事（教員、保育士、医師、看護師、弁護士など）についてほしい				就職しなくてもよい	その他
全体		2,702	40.5	28.3	5.9	28.5	54.2				0.3	28.5
世帯構成	ふたり親核家族	2,252	42.1	28.3	5.6	28.9	54.2				0.1	28.8
	ふたり親親族同居	115	▼ 29.6	28.7	7.8	25.2	52.2				0.9	31.3
	ひとり親核家族	246	▼ 33.3	25.6	7.3	27.6	54.1				1.6	26.8
	ひとり親親族同居	44	▼ 25.0	△ 34.1	△ 11.4	▼ 20.5	59.1				－	▼ 13.6
所得分類	分類Ⅰ	134	▼ 24.6	29.9	△ 15.7	23.9	▼ 48.5				0.7	▼ 23.1
	分類Ⅱ	450	▼ 34.2	29.6	7.3	25.1	53.8				0.2	25.8
	分類Ⅲ	1,854	43.9	27.9	5.0	30.3	55.1				0.3	29.3

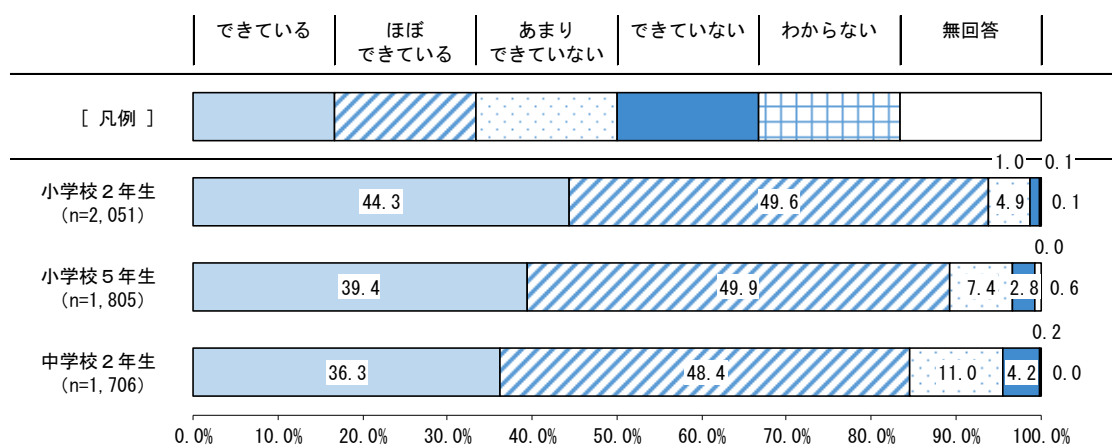
(3) 保護者から見た子どもの状況

ア 子どもの基本生活習慣【問1】(SA)

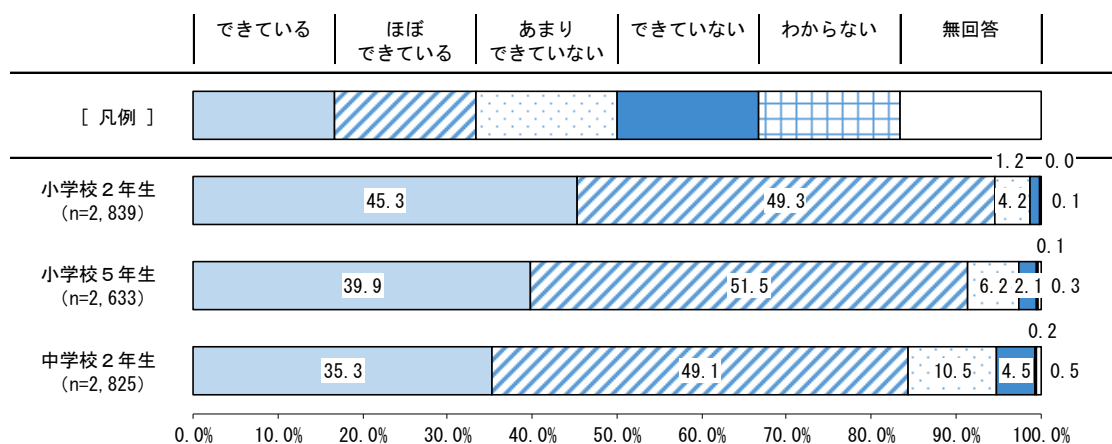
子どもの生活習慣を聞いたところ、『決まった時間に起きる』では、いずれの学年でも「ほぼできている」(小学校2年生:49.6%、小学校5年生:49.9%、中学校2年生:48.4%)が最も高く、次いで「できている」(小学校2年生:44.3%、小学校5年生:39.4%、中学校2年生:36.3%)、「あまりできていない」(小学校2年生:4.9%、小学校5年生:7.4%、中学校2年生:11.0%)となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-566 (ア) 決まった時間に起きる】



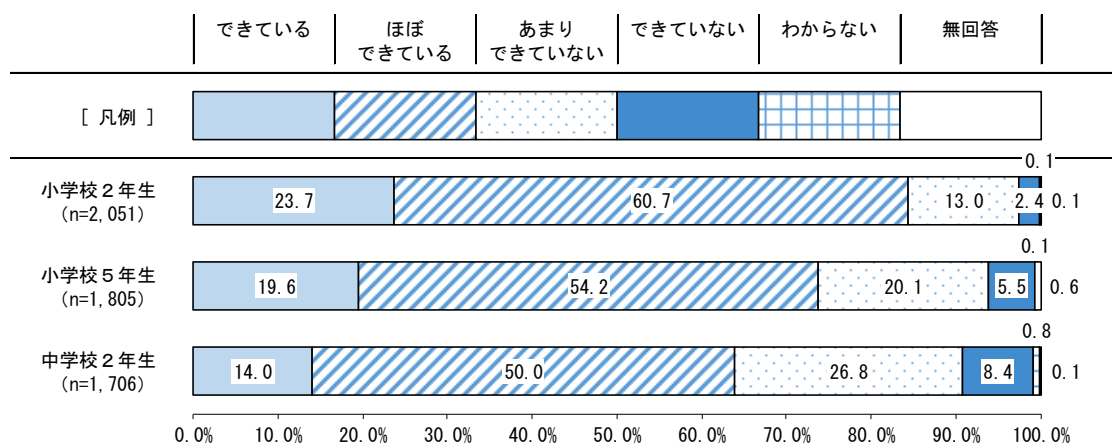
＜前回調査＞【図表 3-567 (ア) 決まった時間に起きる】



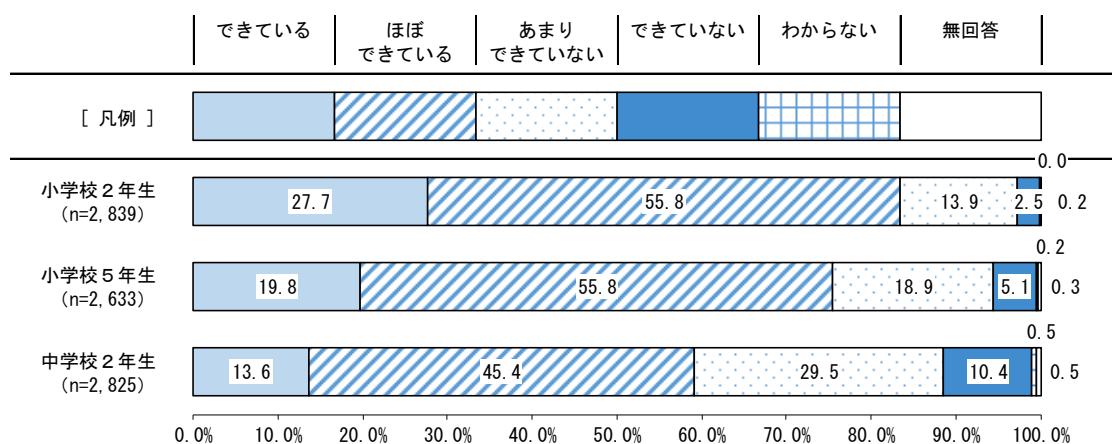
『決まった時間に寝る』では、いずれの学年でも「ほぼできている」（小学校2年生：60.7%、小学校5年生：54.2%、中学校2年生：50.0%）が最も高く、次いで小学校2年生のいる世帯では「できている」が23.7%、「あまりできていない」が13.0%、小学校5年生のいる世帯と中学校2年生のいる世帯では「あまりできていない」（小学校5年生：20.1%、中学校2年生：26.8%）、「できている」（小学校5年生：19.6%、中学校2年生：14.0%）となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

<今回調査>【図表 3-568 (イ) 決まった時間に寝る】



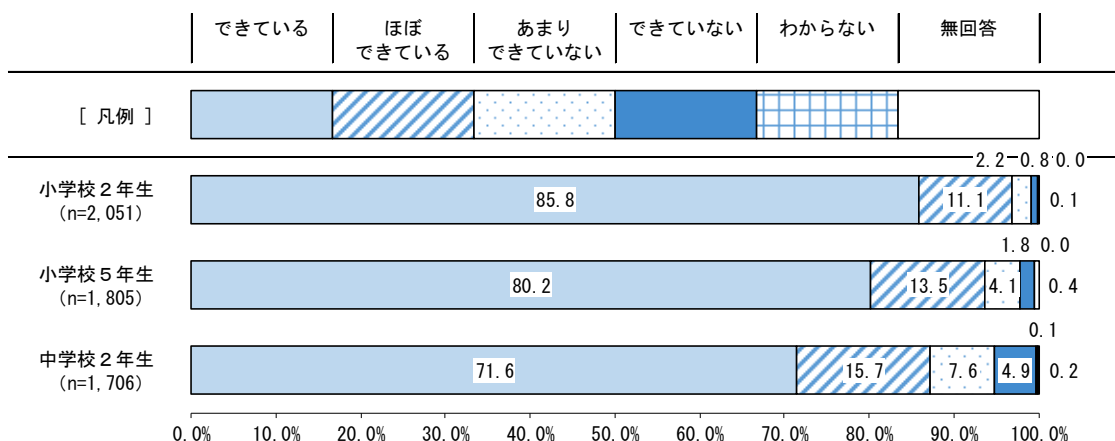
<前回調査>【図表 3-569 (イ) 決まった時間に寝る】



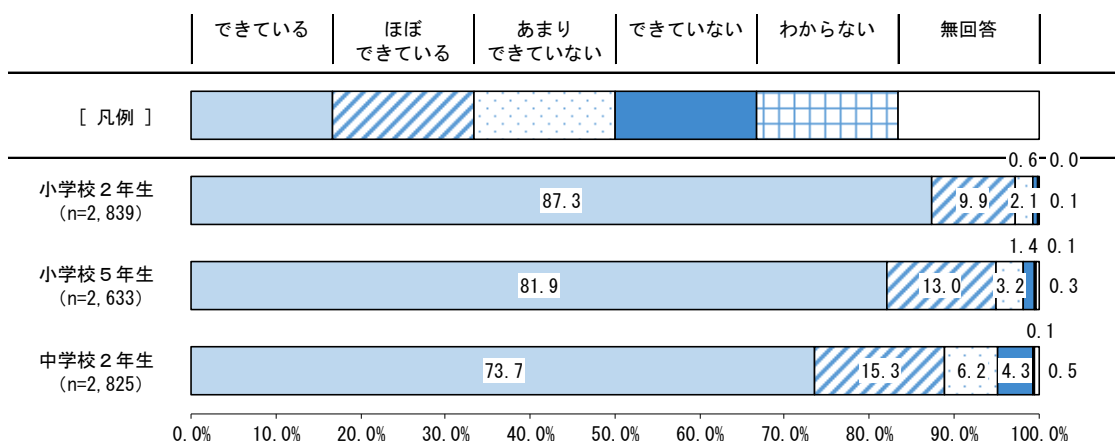
『毎日、朝ごはんを食べる』では、いずれの学年でも「できている」（小学校2年生：85.8%、小学校5年生：80.2%、中学校2年生：71.6%）が最も高く、次いで「ほぼできている」（小学校2年生：11.1%、小学校5年生：13.5%、中学校2年生：15.7%）、「あまりできていない」（小学校2年生：2.2%、小学校5年生：4.1%、中学校2年生：7.6%）となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-570 （ウ）毎日、朝ごはんを食べる】

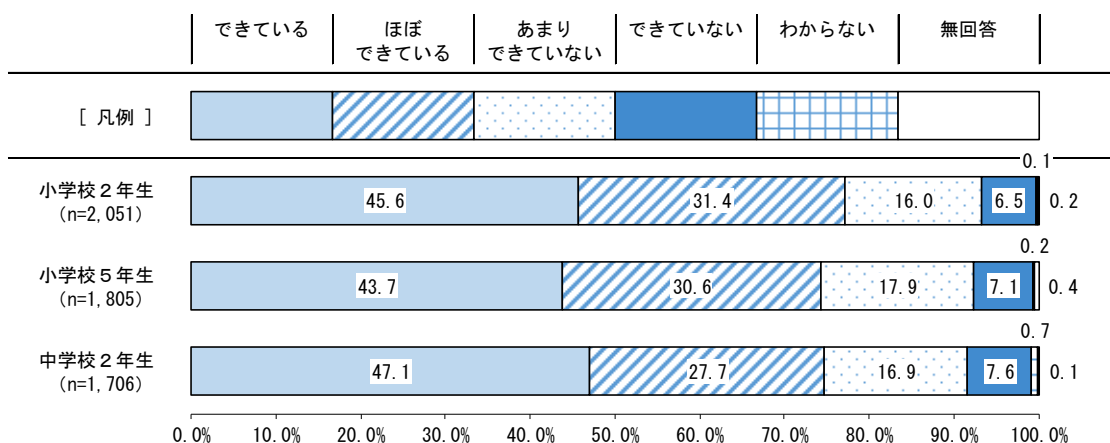


＜前回調査＞【図表 3-571 （ウ）毎日、朝ごはんを食べる】

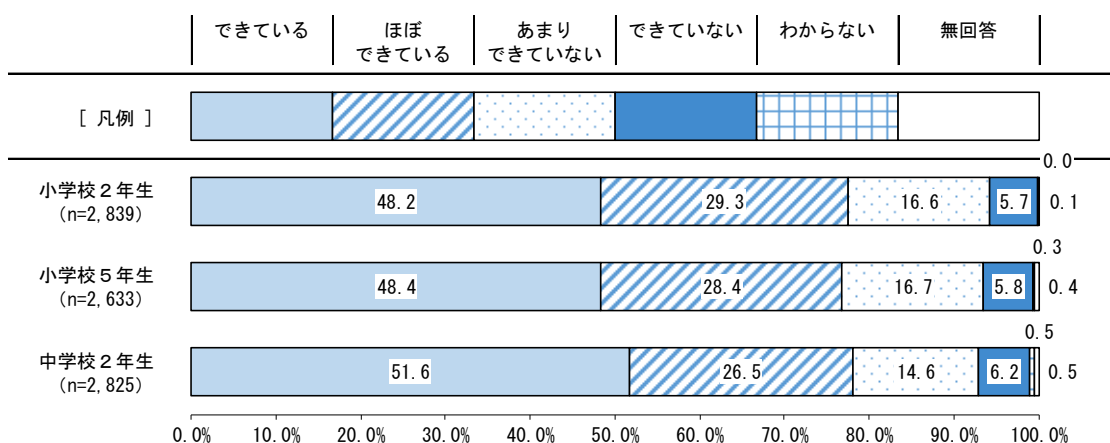


『毎日、食後に歯を磨く』では、いずれの学年でも「できている」（小学校2年生：45.6%、小学校5年生：43.7%、中学校2年生：47.1%）が最も高く、次いで「ほぼできている」（小学校2年生：31.4%、小学校5年生：30.6%、中学校2年生：27.7%）、「あまりできていない」（小学校2年生：16.0%、小学校5年生：17.9%、中学校2年生：16.9%）となっている。経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-572 (エ) 毎日、食後に歯を磨く】

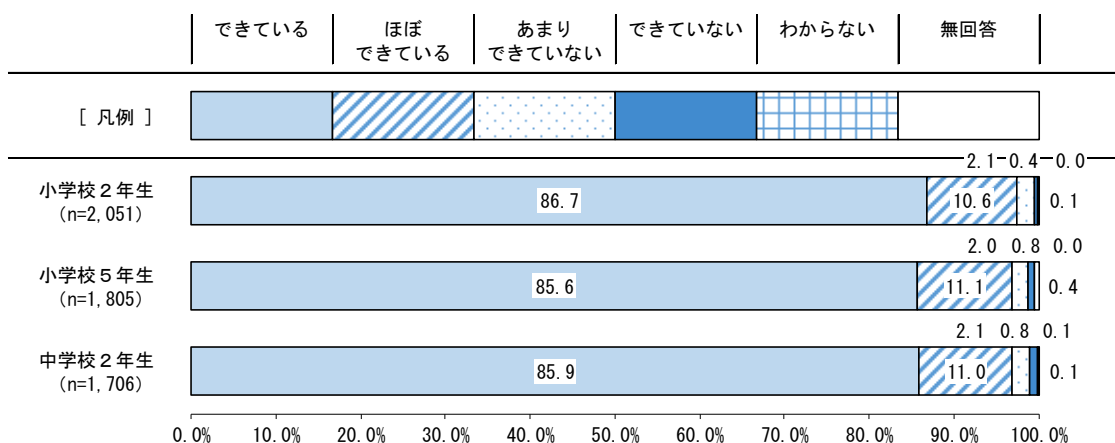


＜前回調査＞【図表 3-573 (エ) 毎日、食後に歯を磨く】

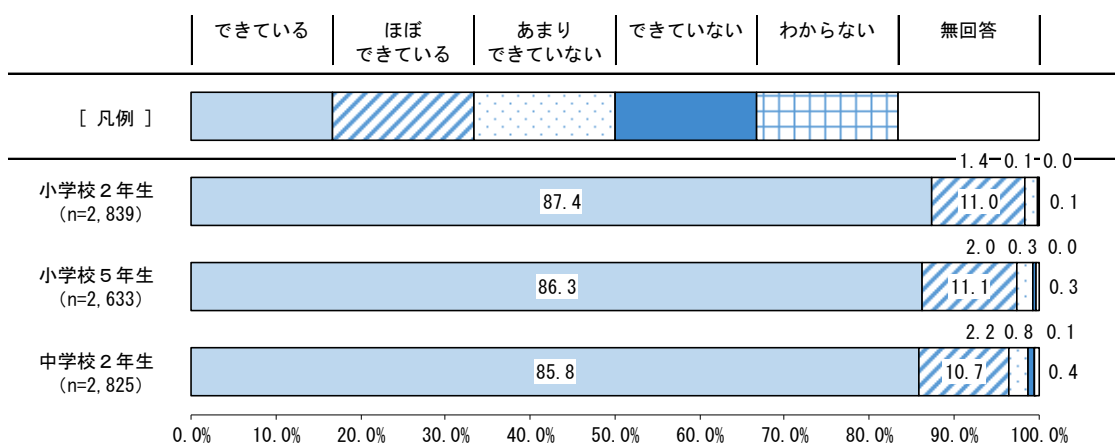


『毎日、お風呂に入る』では、いずれの学年でも「できている」（小学校2年生：86.7%、小学校5年生：85.6%、中学校2年生：85.9%）が最も高く、次いで「ほぼできている」（小学校2年生：10.6%、小学校5年生：11.1%、中学校2年生：11.0%）、「あまりできていない」（小学校2年生：2.1%、小学校5年生：2.0%、中学校2年生：2.1%）となっている。経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-574 （オ）毎日、お風呂に入る】



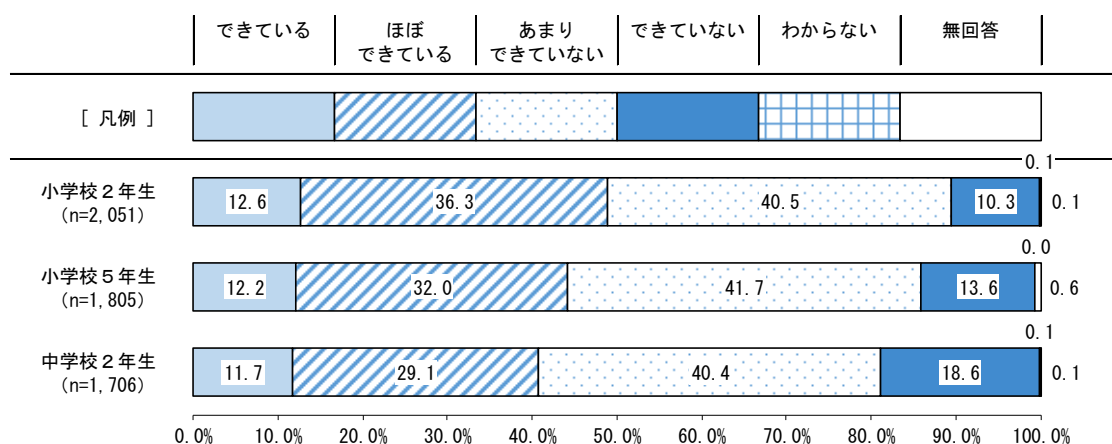
＜前回調査＞【図表 3-575 （オ）毎日、お風呂に入る】



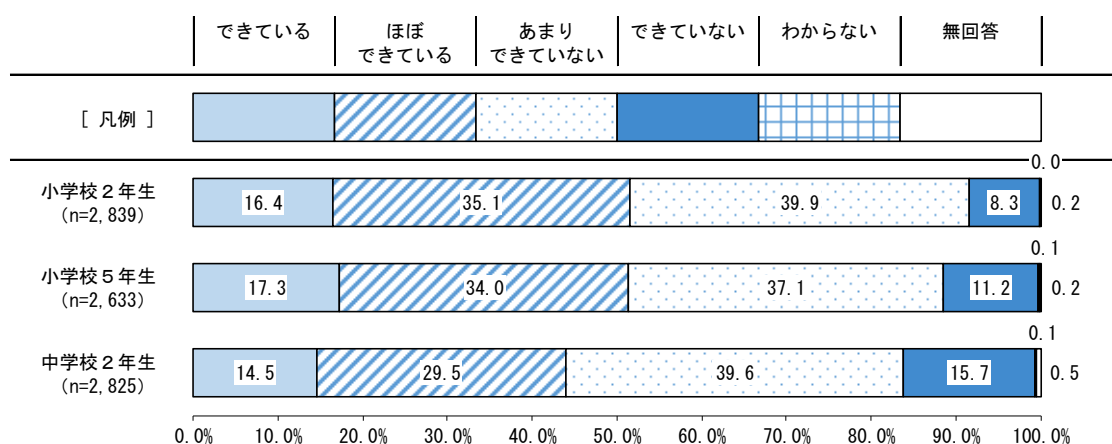
『身の回りを整理整頓する』では、いずれの学年でも「あまりできていない」（小学校2年生：40.5%、小学校5年生：41.7%、中学校2年生：40.4%）が最も高く、次いで「ほぼできている」（小学校2年生：36.3%、小学校5年生：32.0%、中学校2年生：29.1%）となっている。次いで小学校2年生のいる世帯では「できている」が12.6%、小学校5年生、中学校2年生のいる世帯では「できていない」（小学校5年生：13.6%、中学校2年生：18.6%）となっている。

経年でみると、小学校5年生のいる世帯では「できている」が前回調査に比べて低くなっている。

＜今回調査＞【図表 3-576 （力）身の回りを整理整頓する】



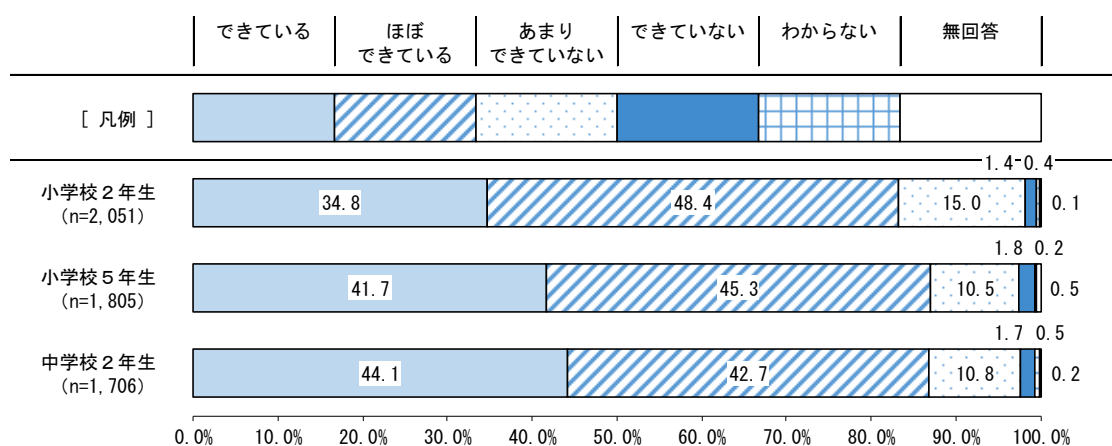
＜前回調査＞【図表 3-577 （力）身の回りを整理整頓する】



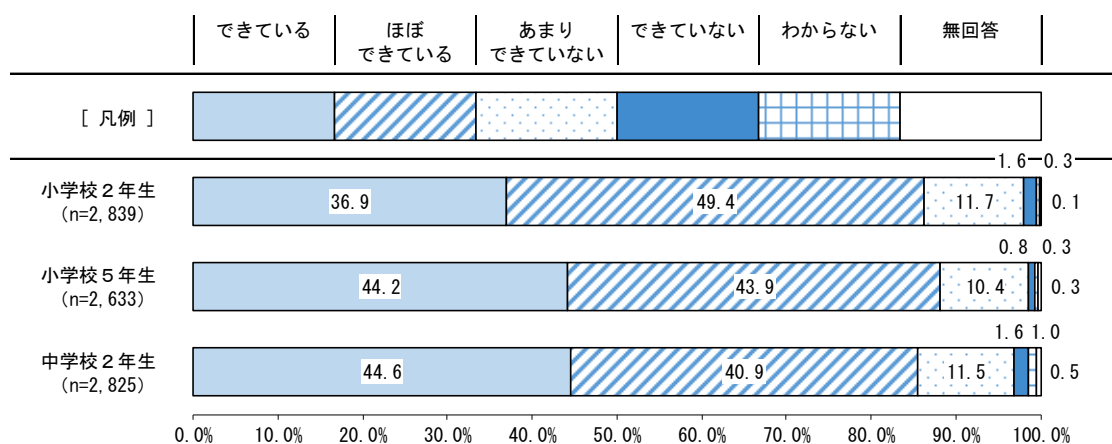
『挨拶をきちんとする』では、小学校2年生のいる世帯と小学校5年生のいる世帯で「ほぼできている」（小学校2年生：48.4%、小学校5年生：45.3%）が最も高く、次いで「できている」（小学校2年生：34.8%、小学校5年生：41.7%）、「あまりできていない」（小学校2年生：15.0%、小学校5年生：10.5%）となっている。中学校2年生のいる世帯では「できている」が44.1%と最も高く、次いで「ほぼできている」が42.7%、「あまりできていない」が10.8%となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-578 （キ）挨拶をきちんとする】



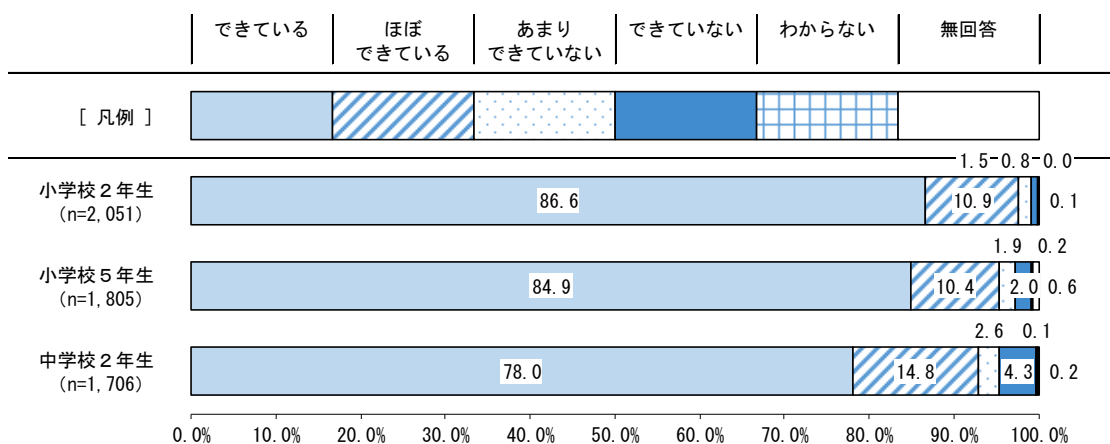
＜前回調査＞【図表 3-579 （キ）挨拶をきちんとする】



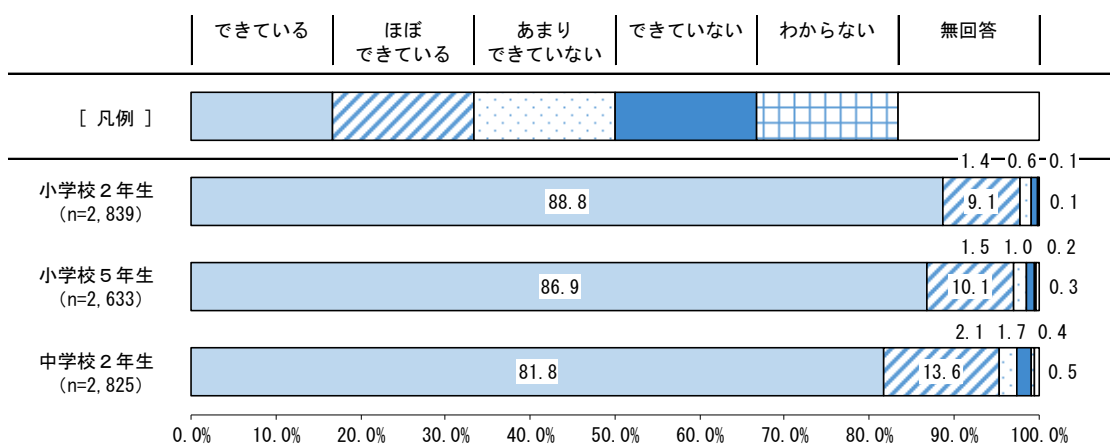
『遅刻をしないで学校に行く』では、いずれの学年でも「できている」（小学校2年生：86.6%、小学校5年生：84.9%、中学校2年生：78.0%）が最も高く、次いで「ほぼできている」（小学校2年生：10.9%、小学校5年生：10.4%、中学校2年生：14.8%）となっている。次いで小学校2年生のいる世帯では「あまりできていない」が1.5%、小学校5年生、中学校2年生のいる世帯では「できていない」（小学校5年生：2.0%、中学校2年生：4.3%）となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-580 （ク）遅刻をしないで学校に行く】



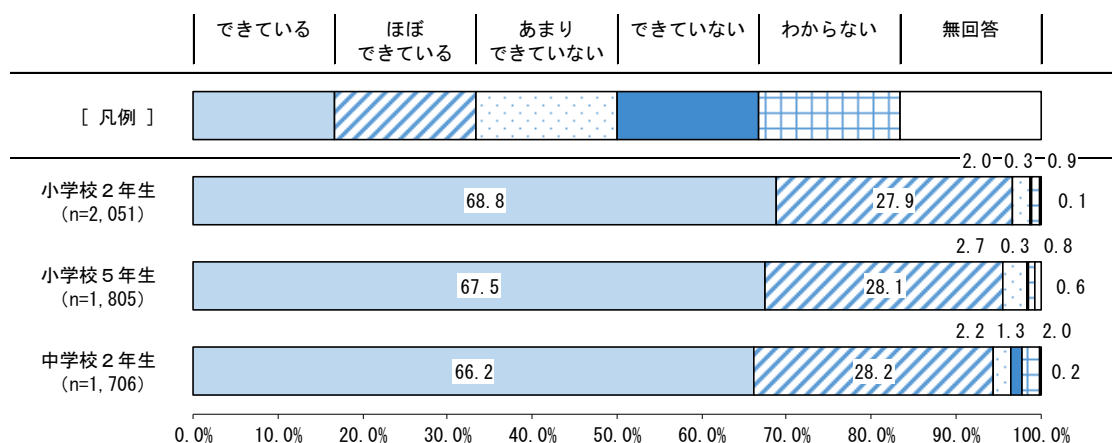
＜前回調査＞【図表 3-581 （ク）遅刻をしないで学校に行く】



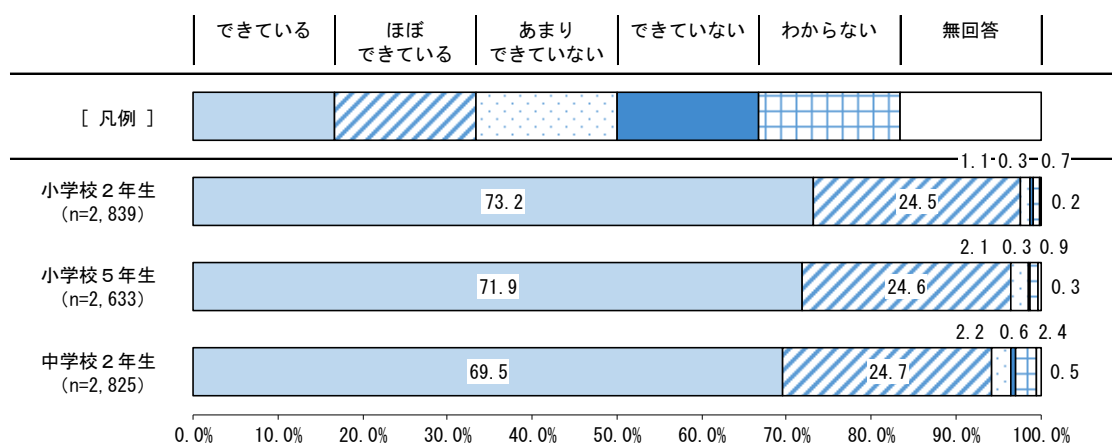
『友達と仲良くする』では、「できている」（小学校2年生：68.8%、小学校5年生：67.5%、中学校2年生：66.2%）が最も高く、次いで「ほぼできている」（小学校2年生：27.9%、小学校5年生：28.1%、中学校2年生：28.2%）、「あまりできていない」（小学校2年生：2.0%、小学校5年生：2.7%、中学校2年生：2.2%）となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-582 (ケ) 友達と仲良くする】



＜前回調査＞【図表 3-583 (ケ) 友達と仲良くする】



イ 子どもの食事状況

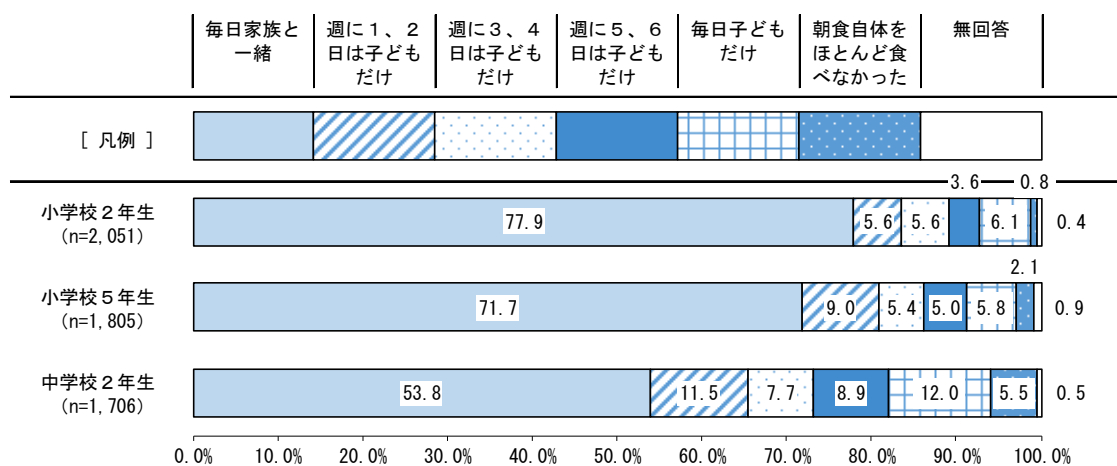
① 子どもの食事の頻度【問2】(SA)

子どもの食事の頻度を聞いたところ、『朝食』では、いずれの学年でも「毎日家族と一緒に」（小学校2年生：77.9%、小学校5年生：71.7%、中学校2年生：53.8%）と最も高く、次いで小学校2年生のいる世帯では「毎日子どもだけ」が6.1%、「週に1、2日は子どもだけ」、「週に3、4日は子どもだけ」が5.6%、小学校5年生のいる世帯では「週に1、2日は子どもだけ」が9.0%、「毎日子どもだけ」が5.8%、中学校2年生のいる世帯では「毎日子どもだけ」が12.0%、「週に1、2日は子どもだけ」が11.5%となっている。

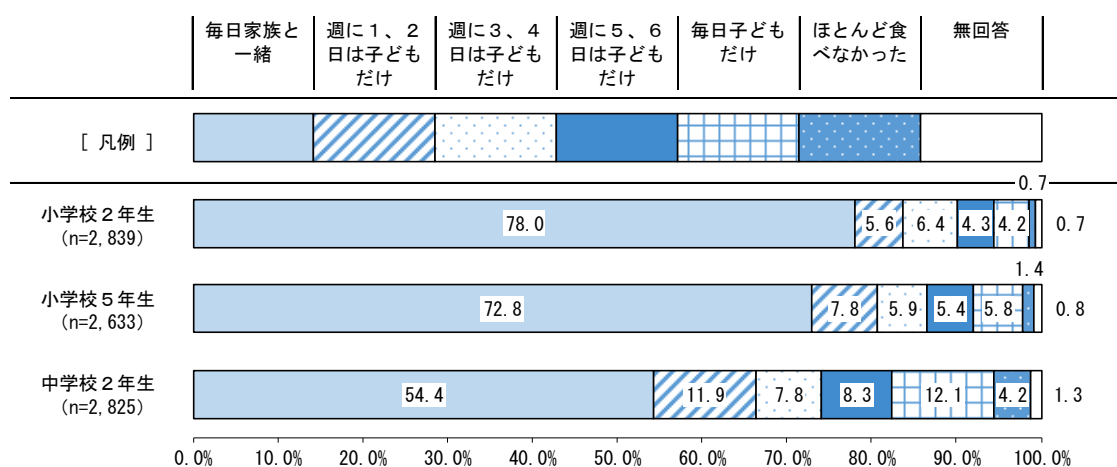
『夕食』では、いずれの学年でも「毎日家族と一緒に」（小学校2年生：93.2%、小学校5年生：80.4%、中学校2年生：61.9%）が最も高く。次いで「週に1、2日は子どもだけ」（小学校2年生：3.9%、小学校5年生：12.0%、中学校2年生：23.4%）、「週に3、4日は子どもだけ」（小学校2年生：1.4%、小学校5年生：4.5%、中学校2年生：10.4%）となっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

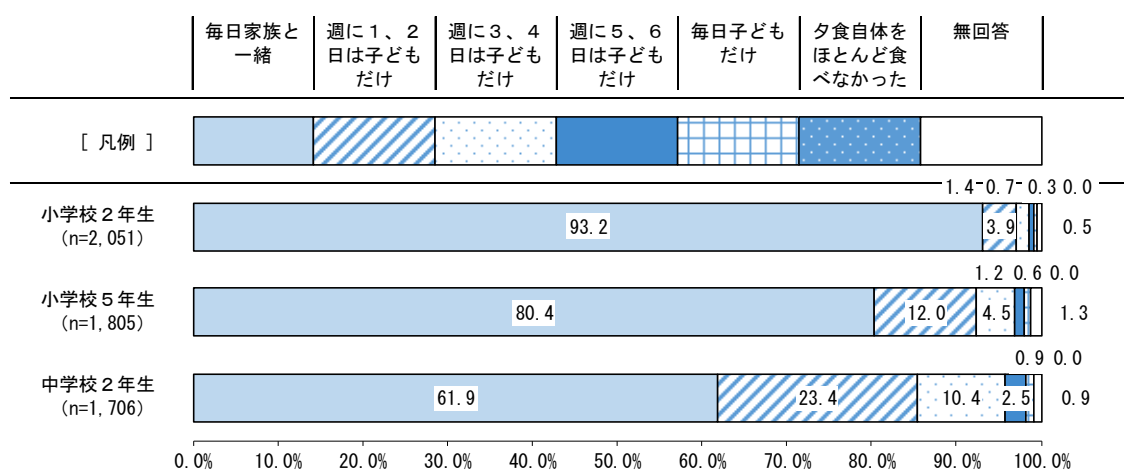
＜今回調査＞【図表 3-584 食事の頻度（朝食）】



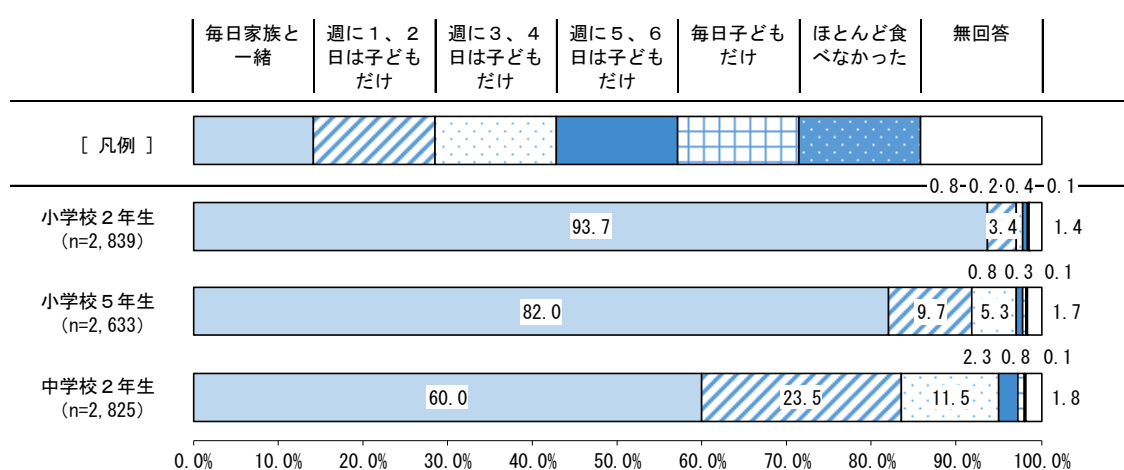
＜前回調査＞【図表 3-585 食事の頻度（朝食）】



＜今回調査＞【図表 3-586 食事の頻度（夕食）】



＜前回調査＞【図表 3-587 食事の頻度（夕食）】

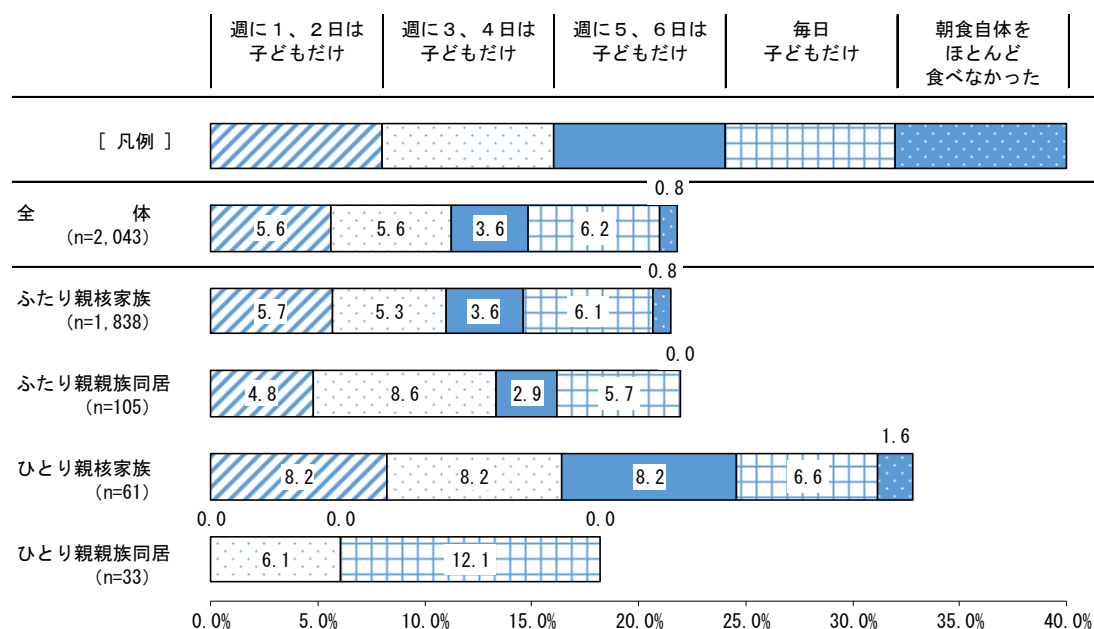


小学校2年生のいる世帯の子どもの『朝食』の頻度（「毎日家族と一緒に」以外）を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

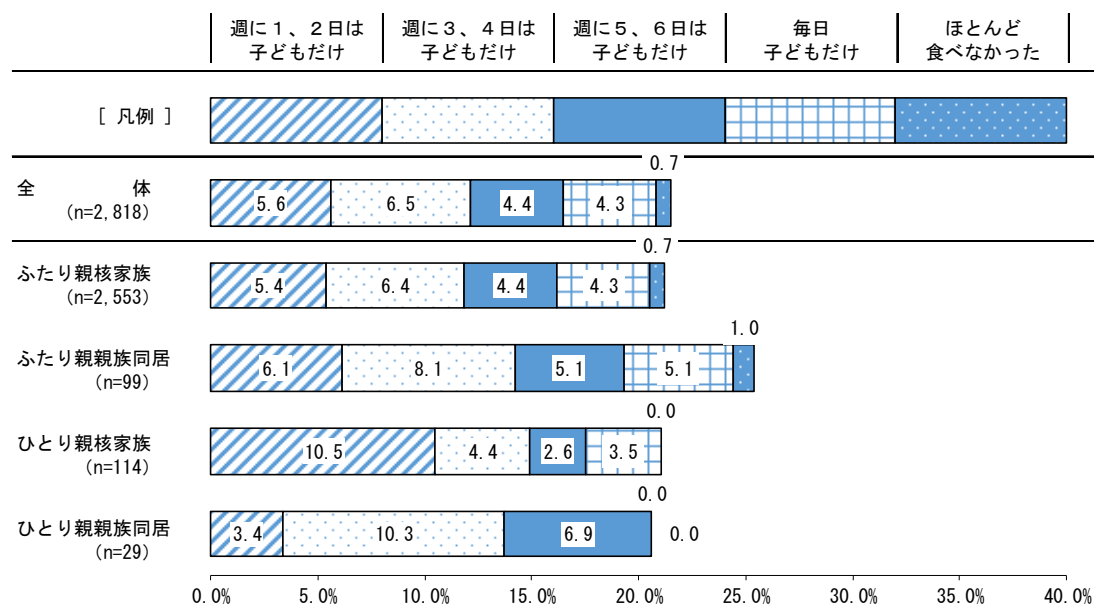
経年でみると、「週に5、6日は子どもだけ」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-588 食事の頻度（朝食）】（小学校2年生・世帯構成別）

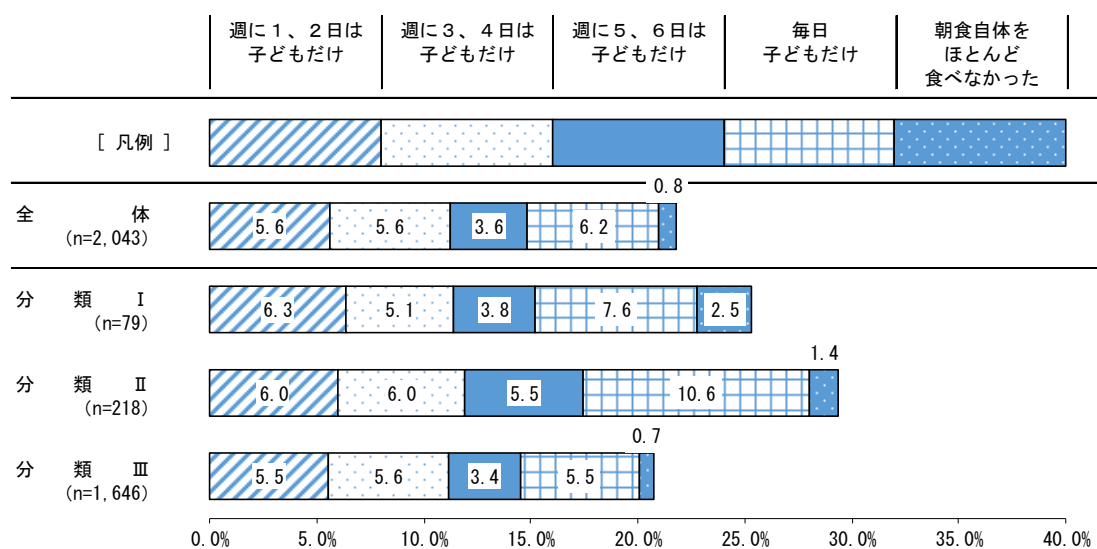


<前回調査>【図表 3-589 食事の頻度（朝食）】（小学校2年生・世帯構成別）

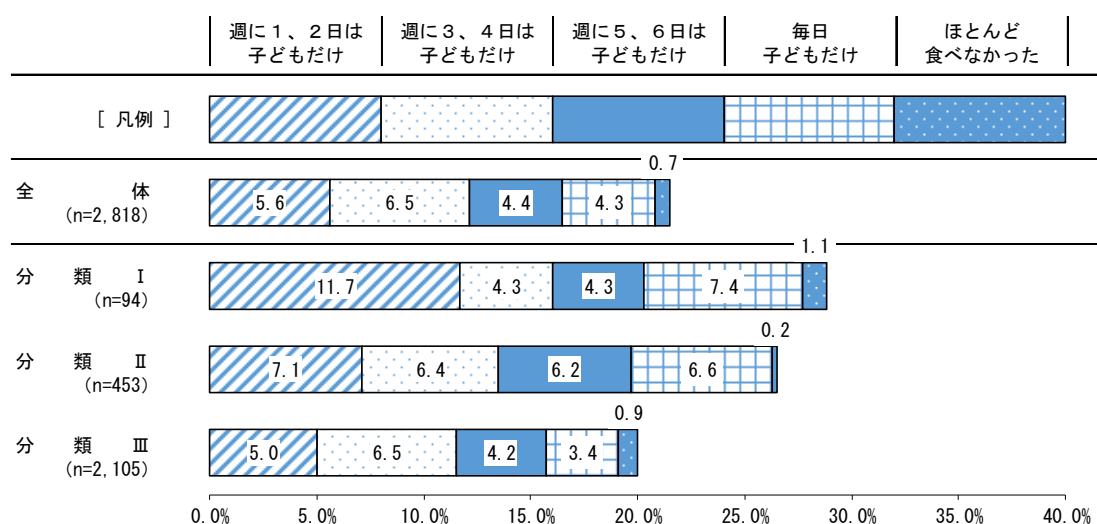


所得分類別にみると、大きな差はみられない。
 経年でみると、「週に1、2日は子どもだけ」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

＜今回調査＞【図表 3-590 食事の頻度（朝食）】（小学校2年生・所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-591 食事の頻度（朝食）】（小学校2年生・所得分類別）

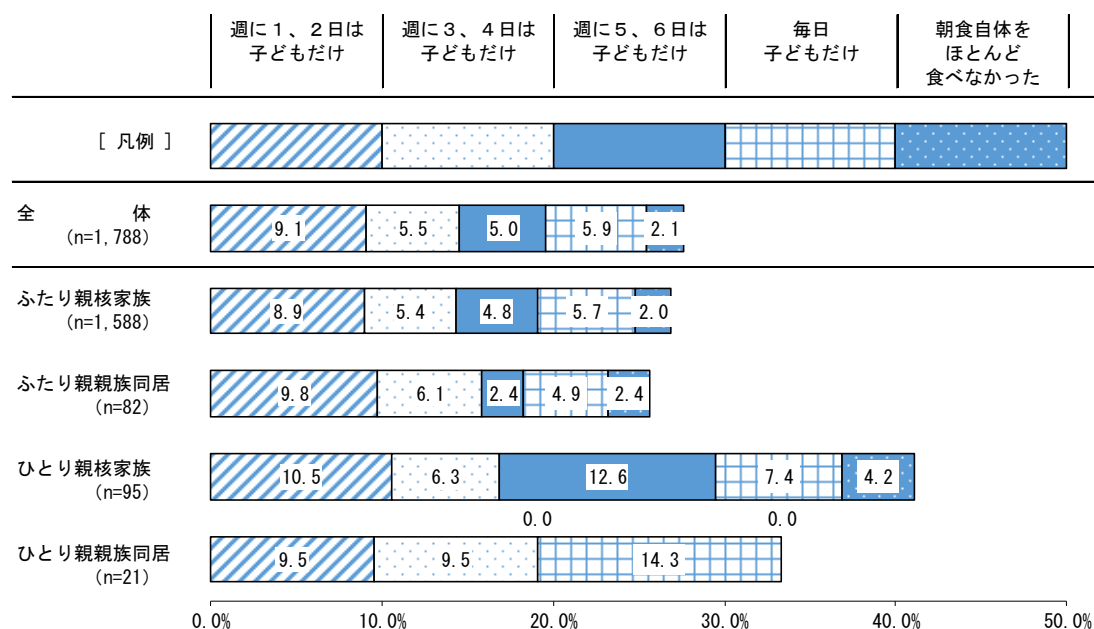


小学校5年生のいる世帯の子どもの『朝食』の頻度（「毎日家族と一緒に」以外）を世帯構成別にみると、「週に5、6日は子どもだけ」は『ひとり親核家族』が12.6%と全体に比べて高くなっている。

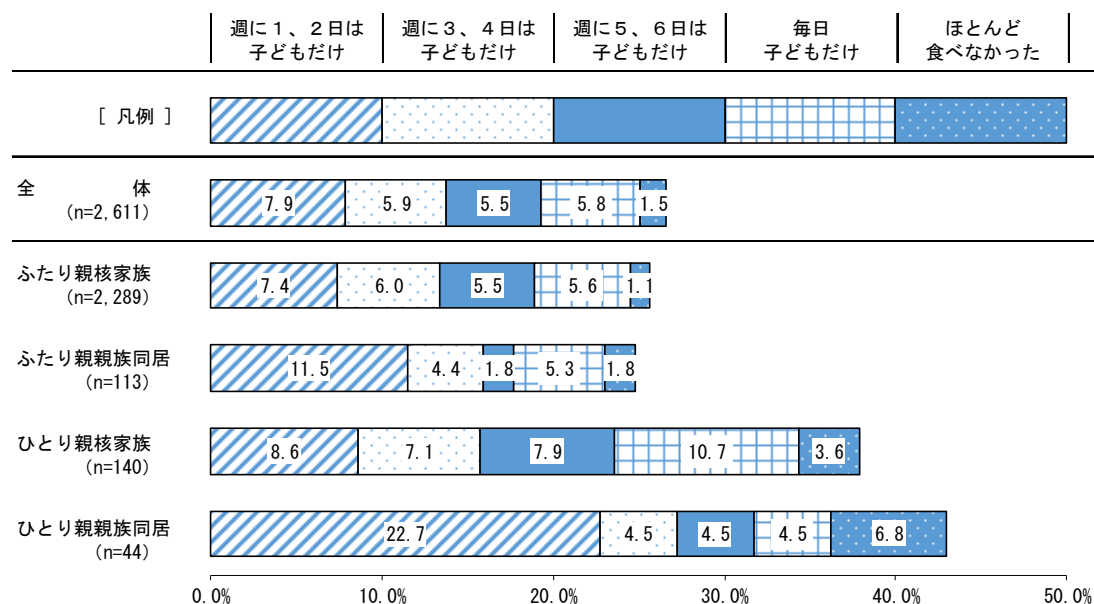
経年でみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-592 食事の頻度（朝食）】（小学校5年生・世帯構成別）



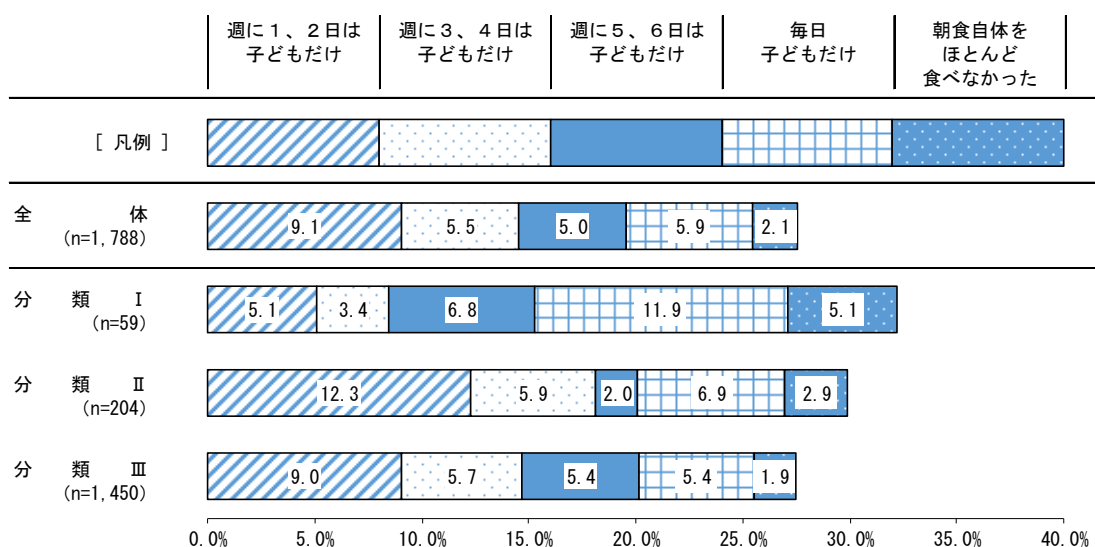
<前回調査>【図表 3-593 食事の頻度（朝食）】（小学校5年生・世帯構成別）



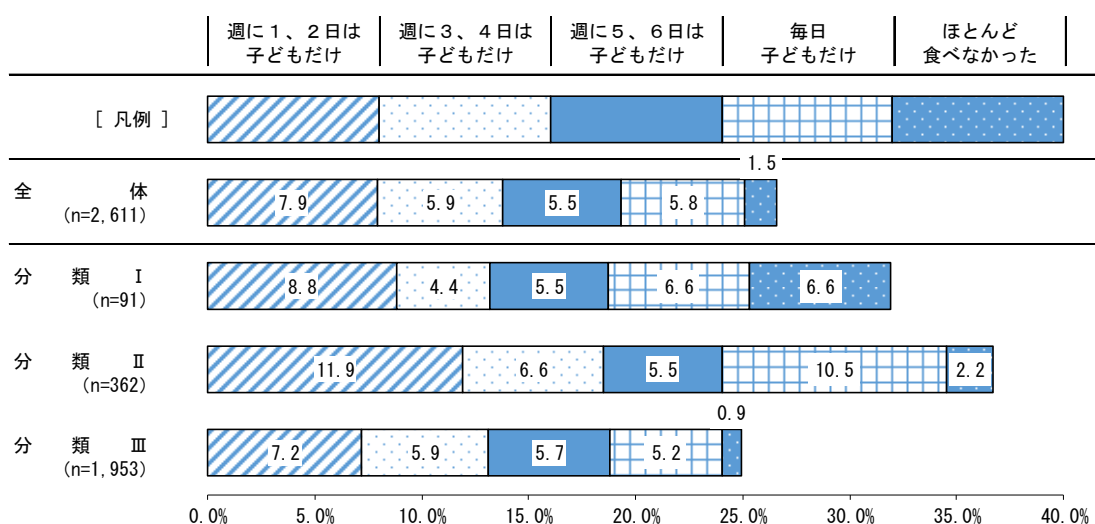
所得分類別にみると、「毎日子どもだけ」は『分類Ⅰ』が11.9%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、「毎日子どもだけ」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

<今回調査>【図表 3-594 食事の頻度（朝食）】（小学校5年生・所得分類別）



<前回調査>【図表 3-595 食事の頻度（朝食）】（小学校5年生・所得分類別）

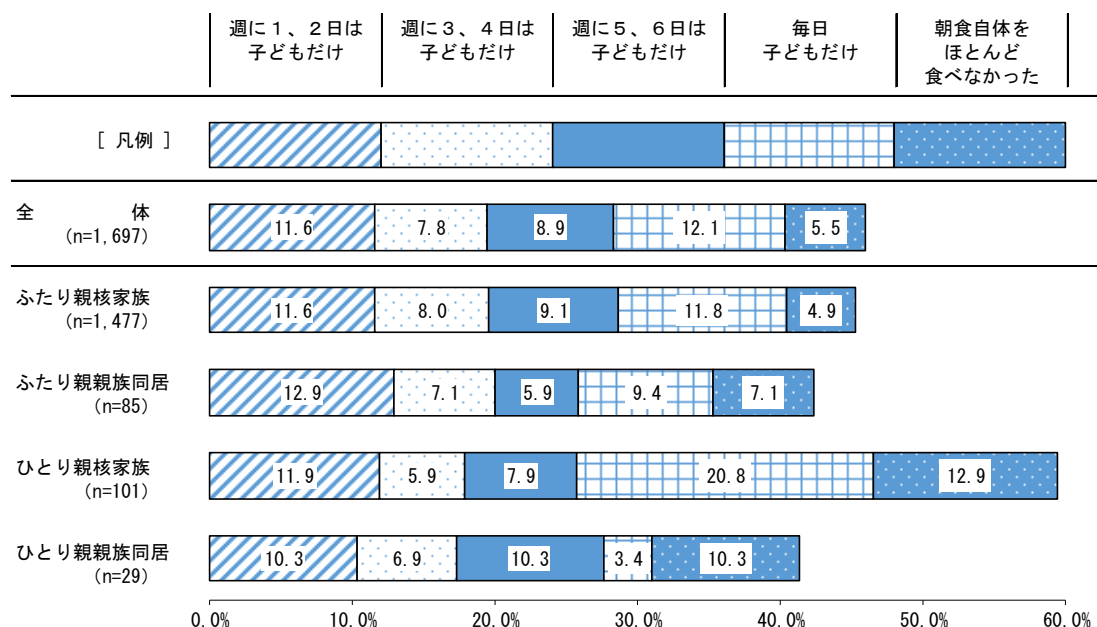


中学校2年生のいる世帯の子どもの『朝食』の頻度（「毎日家族と一緒に」以外）を世帯構成別にみると、「毎日子どもだけ」は『ひとり親核家族』が20.8%、「朝食自体をほとんど食べなかった」は『ひとり親核家族』が12.9%と全体に比べて高くなっている。

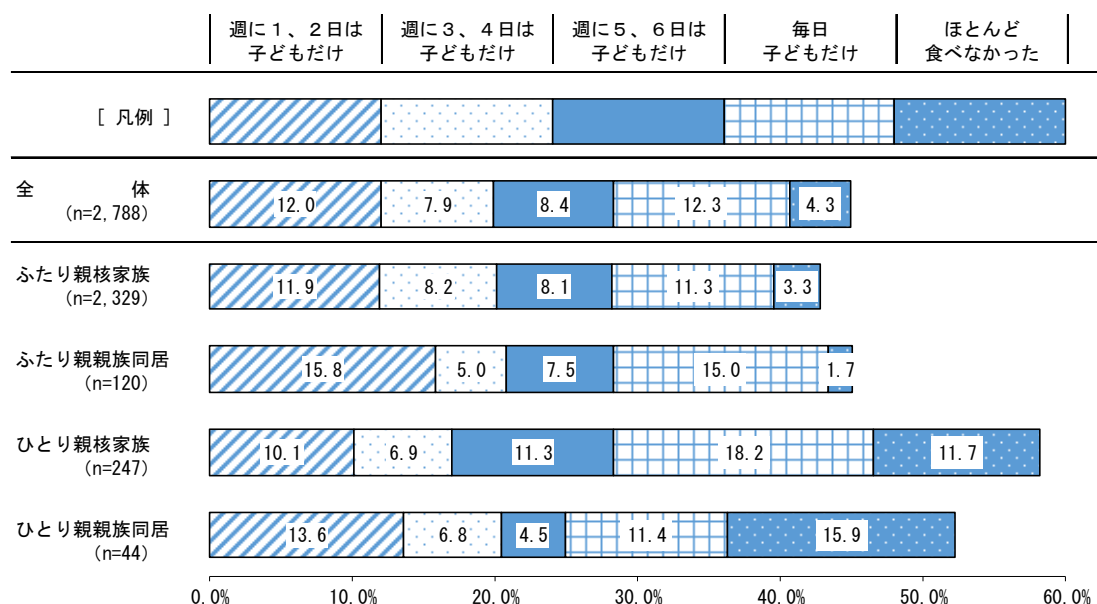
経年でみると、「毎日子どもだけ」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、「朝食自体をほとんど食べなかった」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-596 食事の頻度（朝食）】（中学校2年生・世帯構成別）



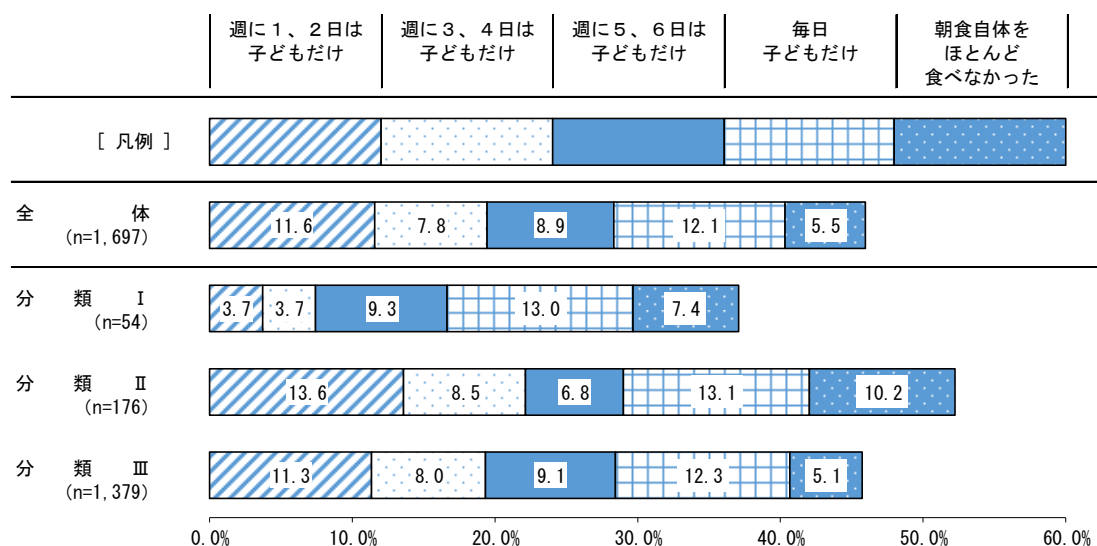
<前回調査>【図表 3-597 食事の頻度（朝食）】（中学校2年生・世帯構成別）



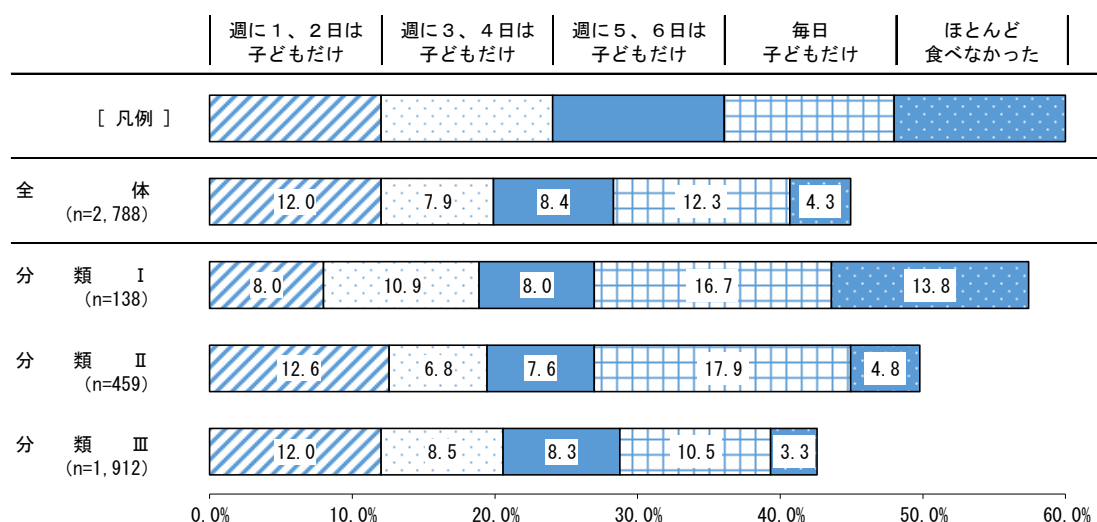
所得分類別にみると、「週に1、2日は子どもだけ」は『分類Ⅰ』が3.7%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、「週に3、4日は子どもだけ」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、「朝食自体をほとんど食べなかった」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、『分類Ⅱ』が高くなっている。

<今回調査>【図表 3-598 食事の頻度（朝食）】（中学校2年生・所得分類別）



<前回調査>【図表 3-599 食事の頻度（朝食）】（中学校2年生・所得分類別）

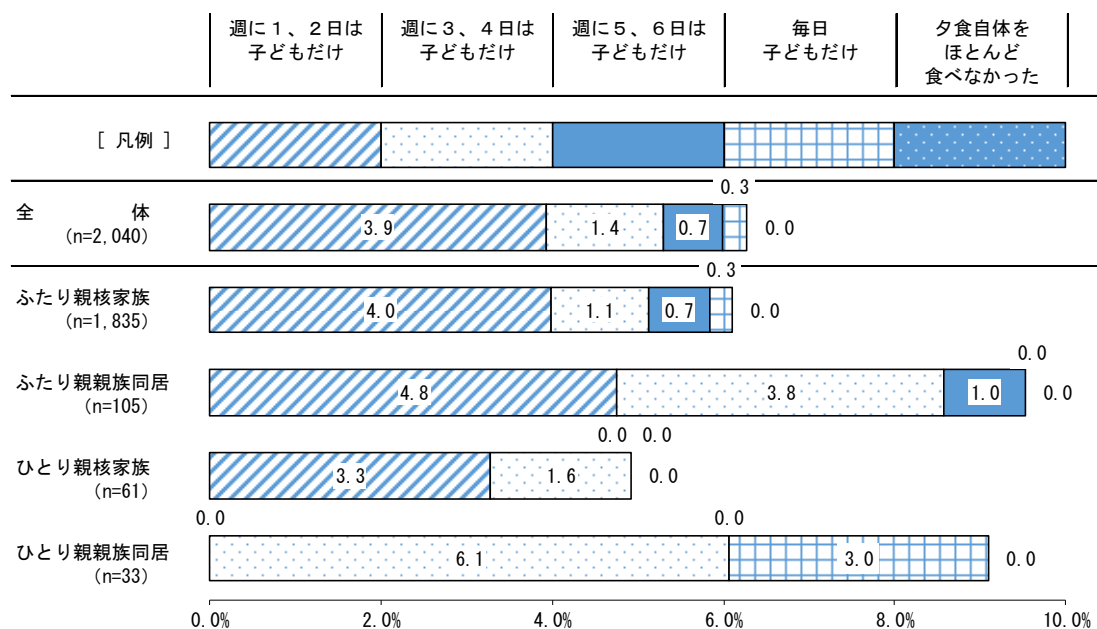


小学校2年生のいる世帯の子どもの『夕食』の頻度（「毎日家族と一緒に」以外）を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

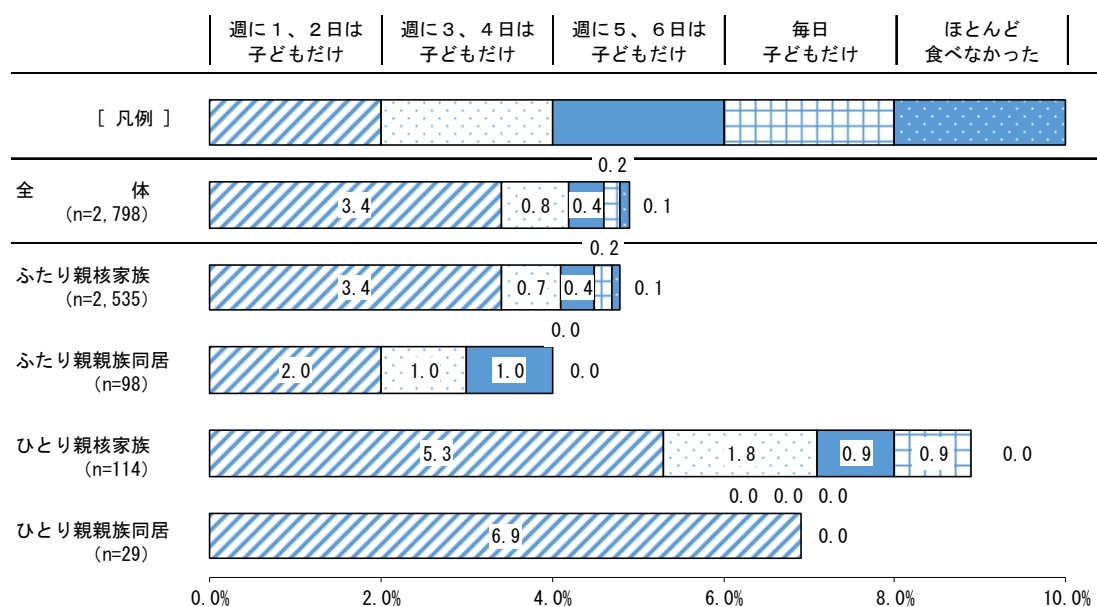
経年でみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-600 食事の頻度（夕食）】（小学校2年生・世帯構成別）

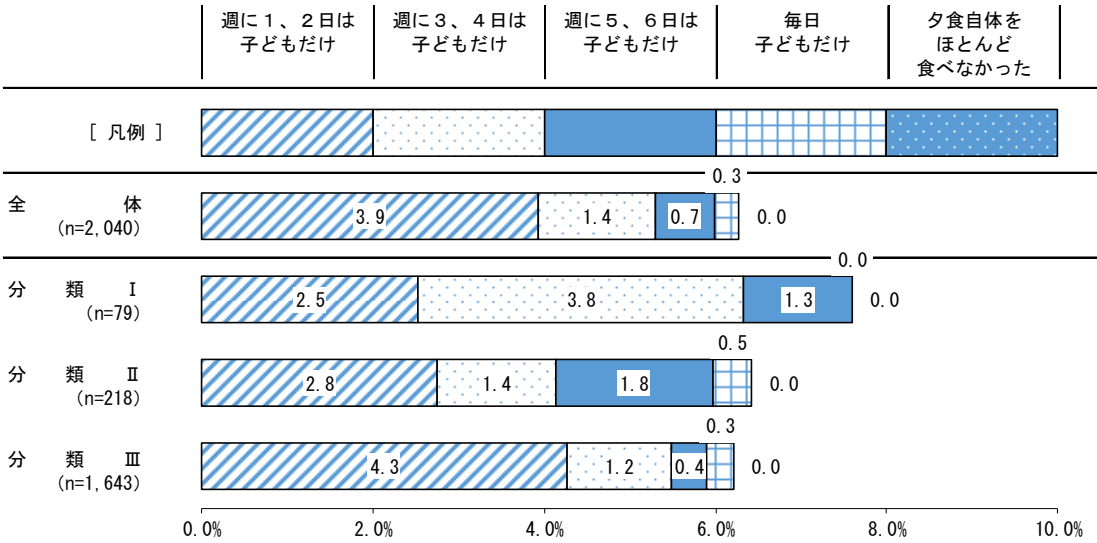


<前回調査>【図表 3-601 食事の頻度（夕食）】（小学校2年生・世帯構成別）

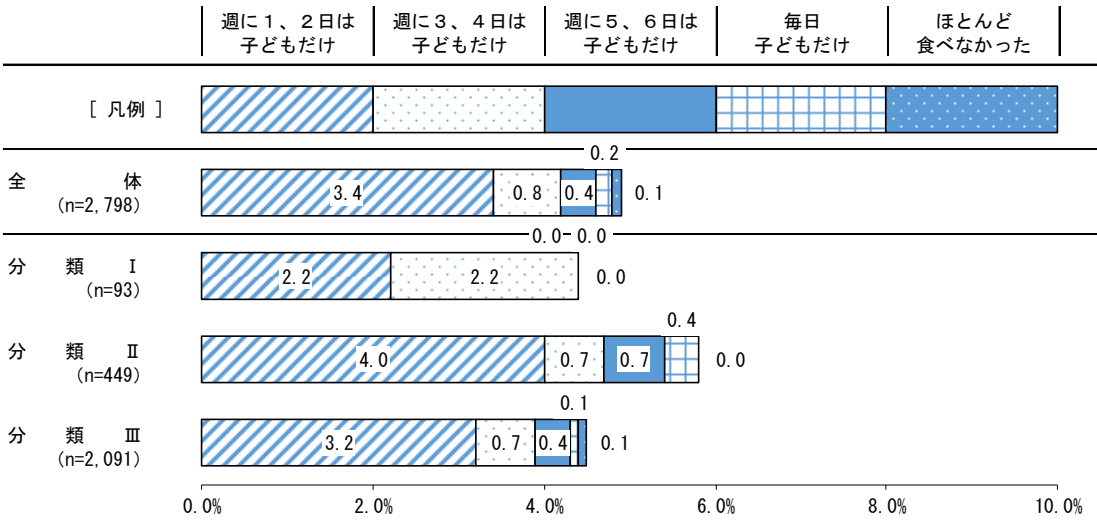


所得分類別にみると、大きな差はみられない。
経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-602 食事の頻度（夕食）】（小学校２年生・所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-603 食事の頻度（夕食）】（小学校２年生・所得分類別）

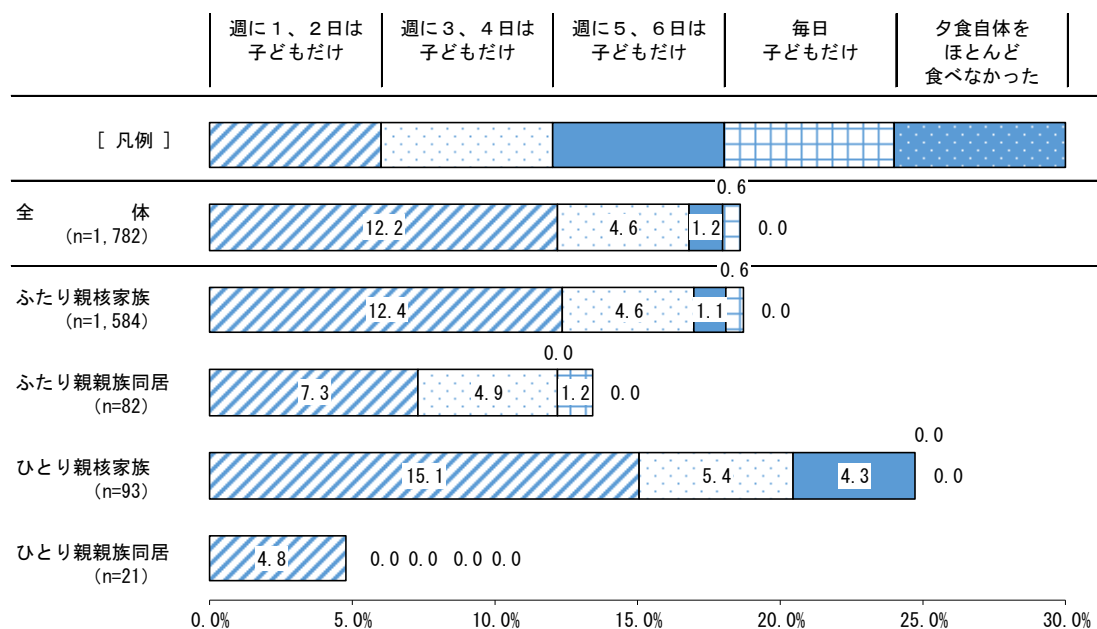


小学校5年生のいる世帯の子どもの『夕食』の頻度（「毎日家族と一緒に」以外）を世帯構成別にみると、大きな差はみられない。

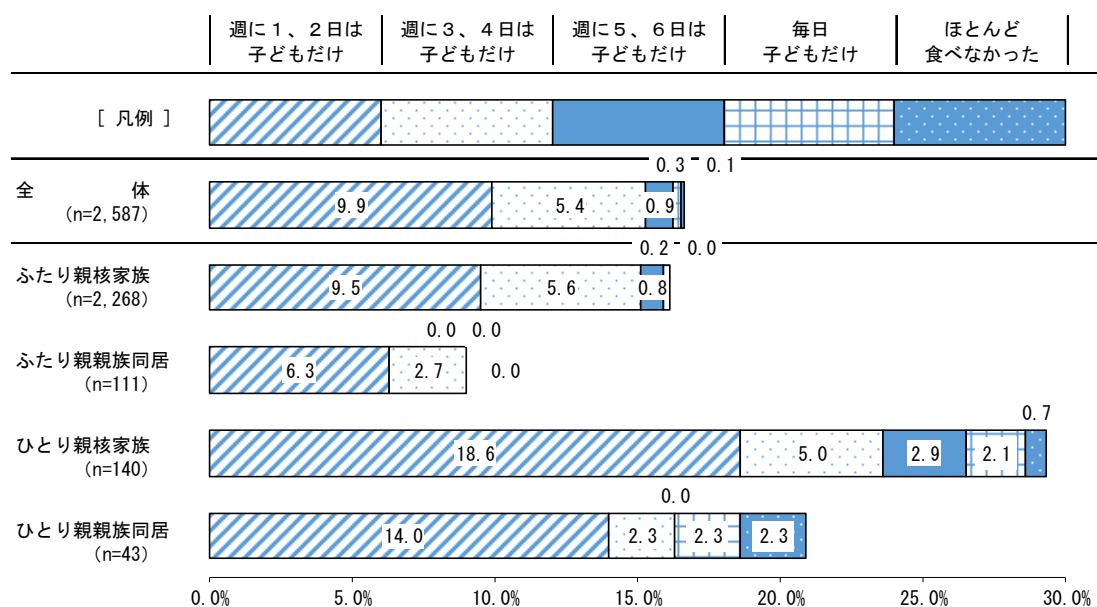
経年でみると、大きな差はみられない。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-604 食事の頻度（夕食）】（小学校5年生・世帯構成別）

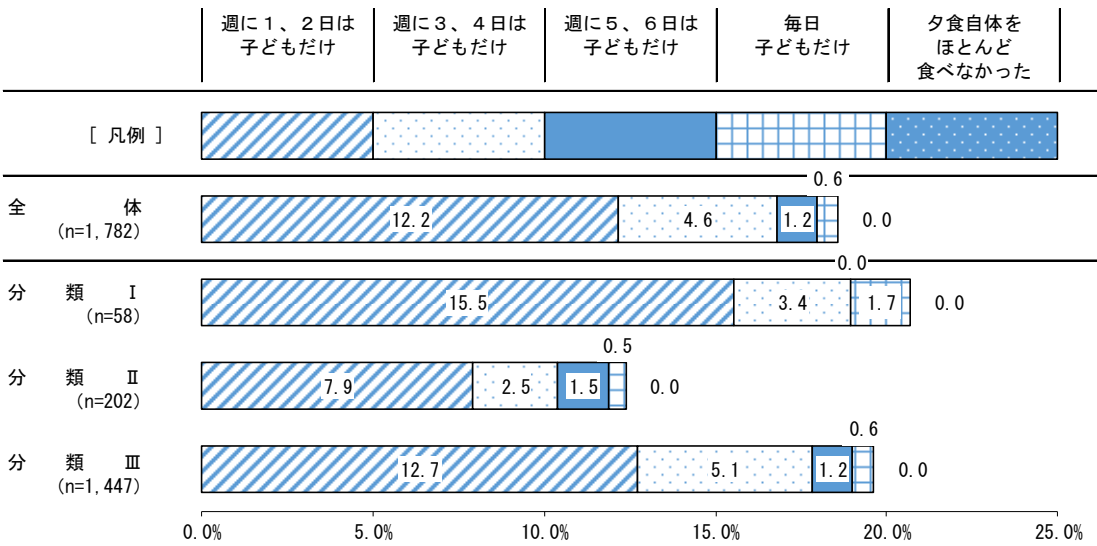


<前回調査>【図表 3-605 食事の頻度（夕食）】（小学校5年生・世帯構成別）

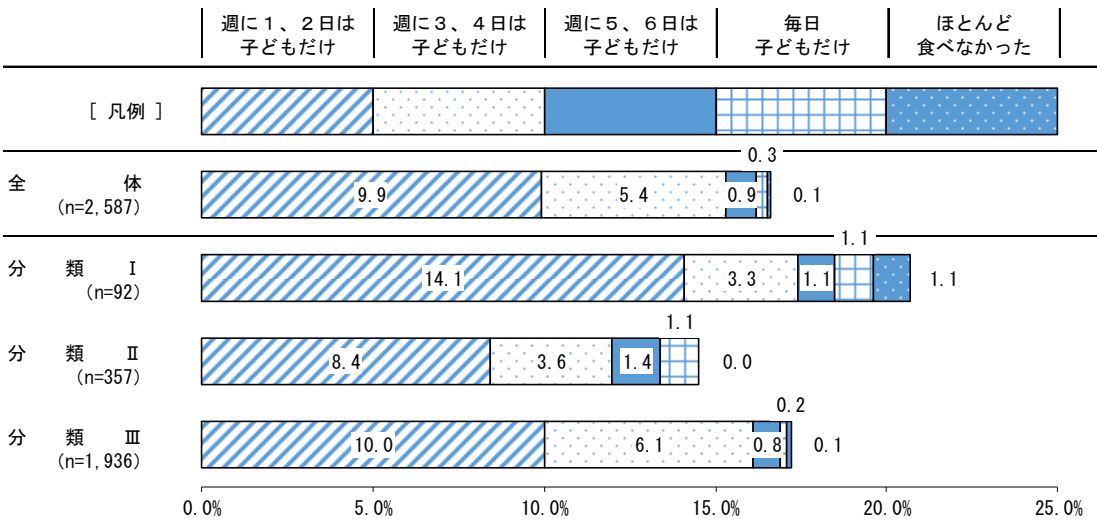


所得分類別にみると、大きな差はみられない。
経年でみると、大きな差はみられない。

＜今回調査＞【図表 3-606 食事の頻度（夕食）】（小学校5年生・所得分類別）



＜前回調査＞【図表 3-607 食事の頻度（夕食）】（小学校5年生・所得分類別）

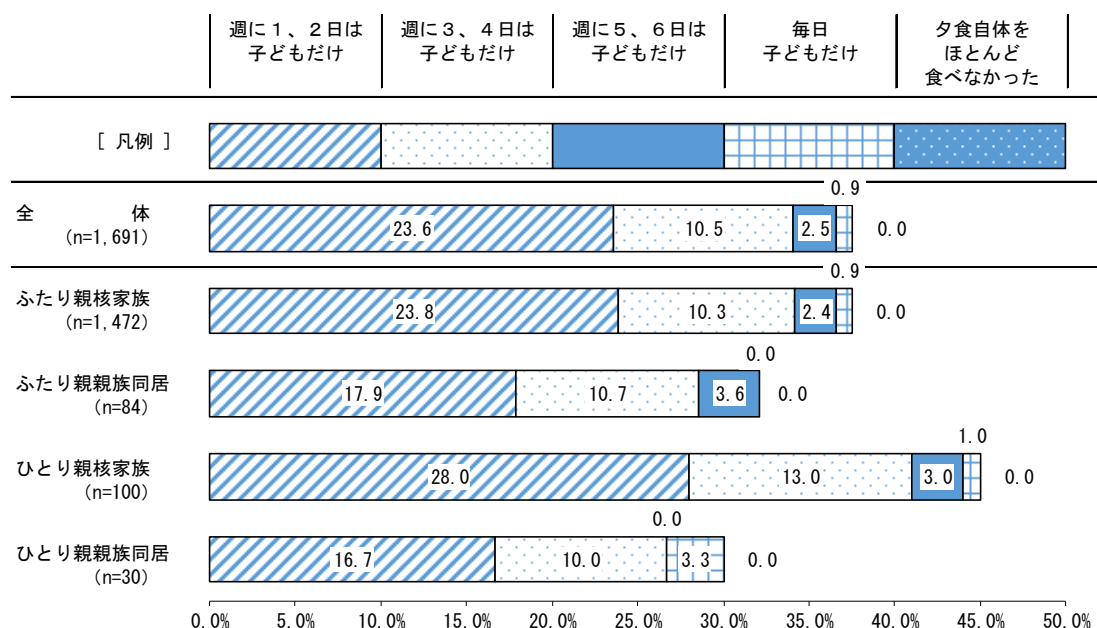


中学校2年生のいる世帯の子どもの『夕食』の頻度（「毎日家族と一緒に」以外）を世帯構成別にみると、「週に1、2日は子どもだけ」は『ふたり親親族同居』が17.9%と全体に比べて低くなっている。

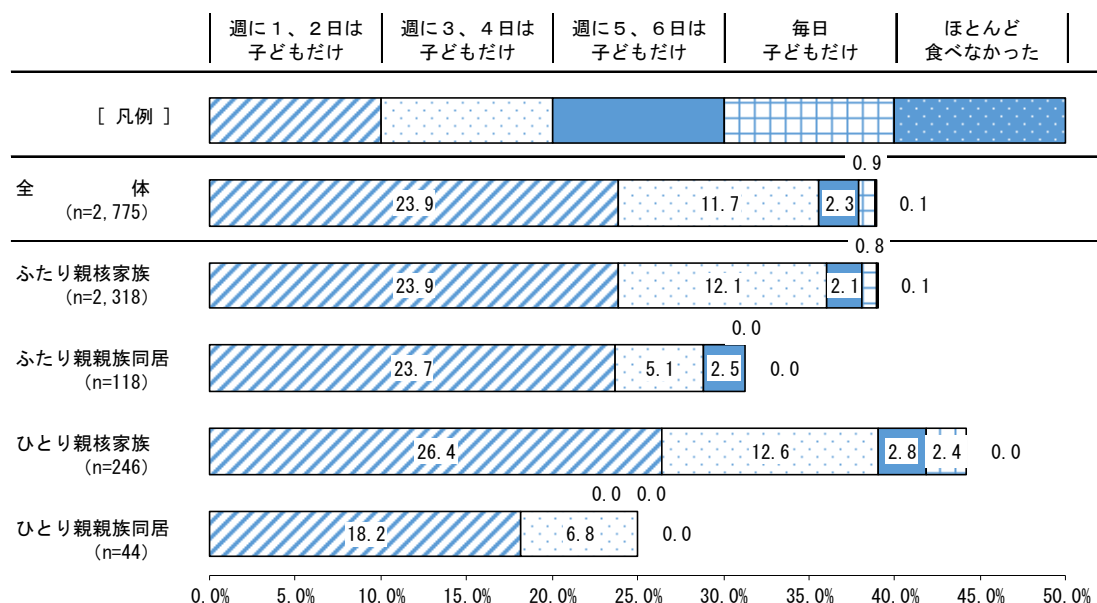
経年でみると、「週に1、2日は子どもだけ」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、「週に3、4日は子どもだけ」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回調査>【図表 3-608 食事の頻度（夕食）】（中学校2年生・世帯構成別）



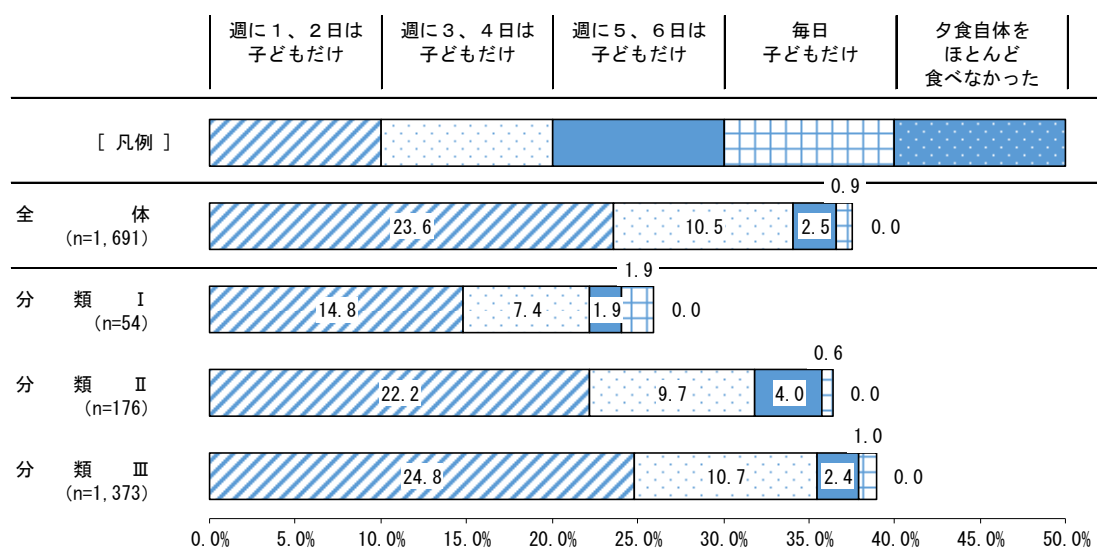
<前回調査>【図表 3-609 食事の頻度（夕食）】（中学校2年生・世帯構成別）



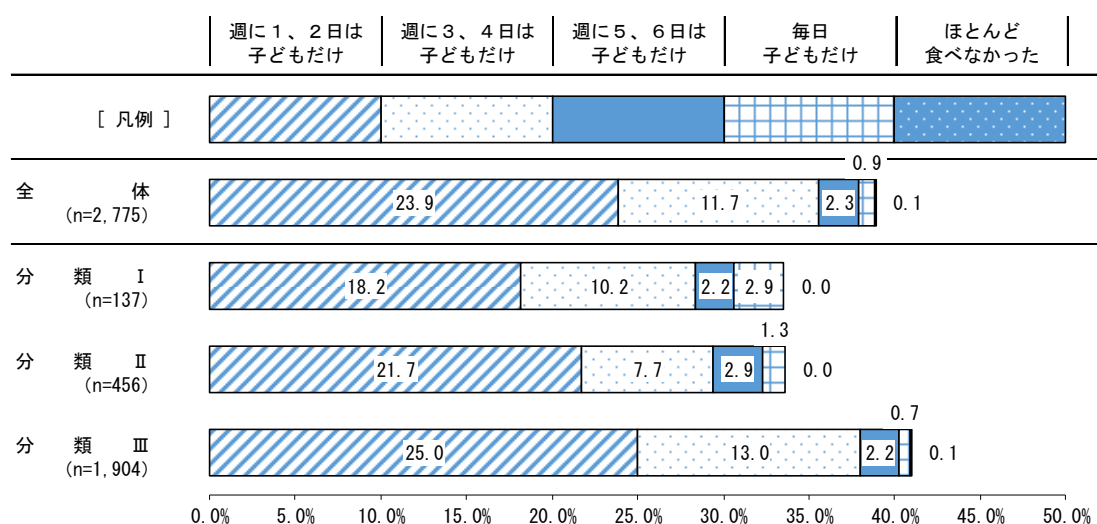
所得分類別にみると、「週に1、2日は子どもだけ」は『分類Ⅰ』が14.8%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、大きな差はみられない。

<今回調査>【図表 3-610 食事の頻度（夕食）】（中学校2年生・所得分類別）



<前回調査>【図表 3-611 食事の頻度（夕食）】（中学校2年生・所得分類別）

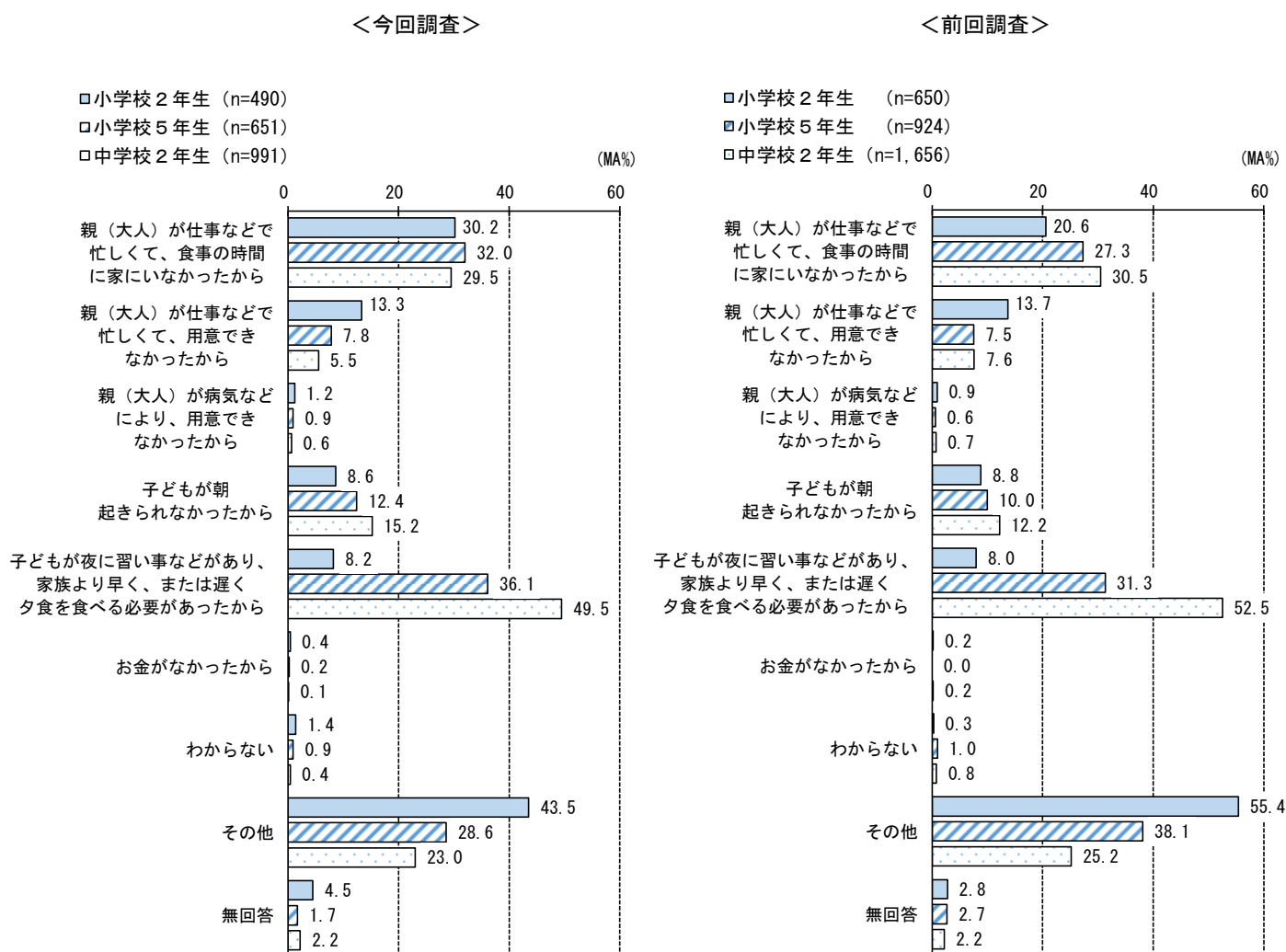


② 子どもの食事状況の理由【問2-1】(MA)

週に1日以上お子さんだけで食事をすることがあると回答した方に、その理由を複数回答で聞いたところ、小学校2年生のいる世帯では「親（大人）が仕事などで忙しくて、食事の時間に家にいなかったから」が30.2%と最も高く、次いで「親（大人）が仕事などで忙しくて、用意できなかったから」が13.3%、「子どもが朝起きられなかったから」が8.6%となっている。小学校5年生のいる世帯では「子どもが夜に習い事などがあり、家族より早く、または遅く夕食を食べる必要があったから」が36.1%と最も高く、次いで「親（大人）が仕事などで忙しくて、食事の時間に家にいなかったから」が32.0%、「子どもが朝起きられなかったから」が12.4%となっている。中学校2年生のいる世帯では「子どもが夜に習い事などがあり、家族より早く、または遅く夕食を食べる必要があったから」が49.5%と最も高く、次いで「親（大人）が仕事などで忙しくて、食事の時間に家にいなかったから」が29.5%、「子どもが朝起きられなかったから」が15.2%となっている。

経年でみると、小学校2年生のいる世帯では「親（大人）が仕事などで忙しくて、食事の時間に家にいなかったから」が前回調査に比べて高くなっている。

【図表 3-612 子どもだけで食事をする理由（複数回答）】



ウ 子どもの平日放課後の過ごし方

① 子どもが放課後一緒に過ごす人【問3a】(MA)

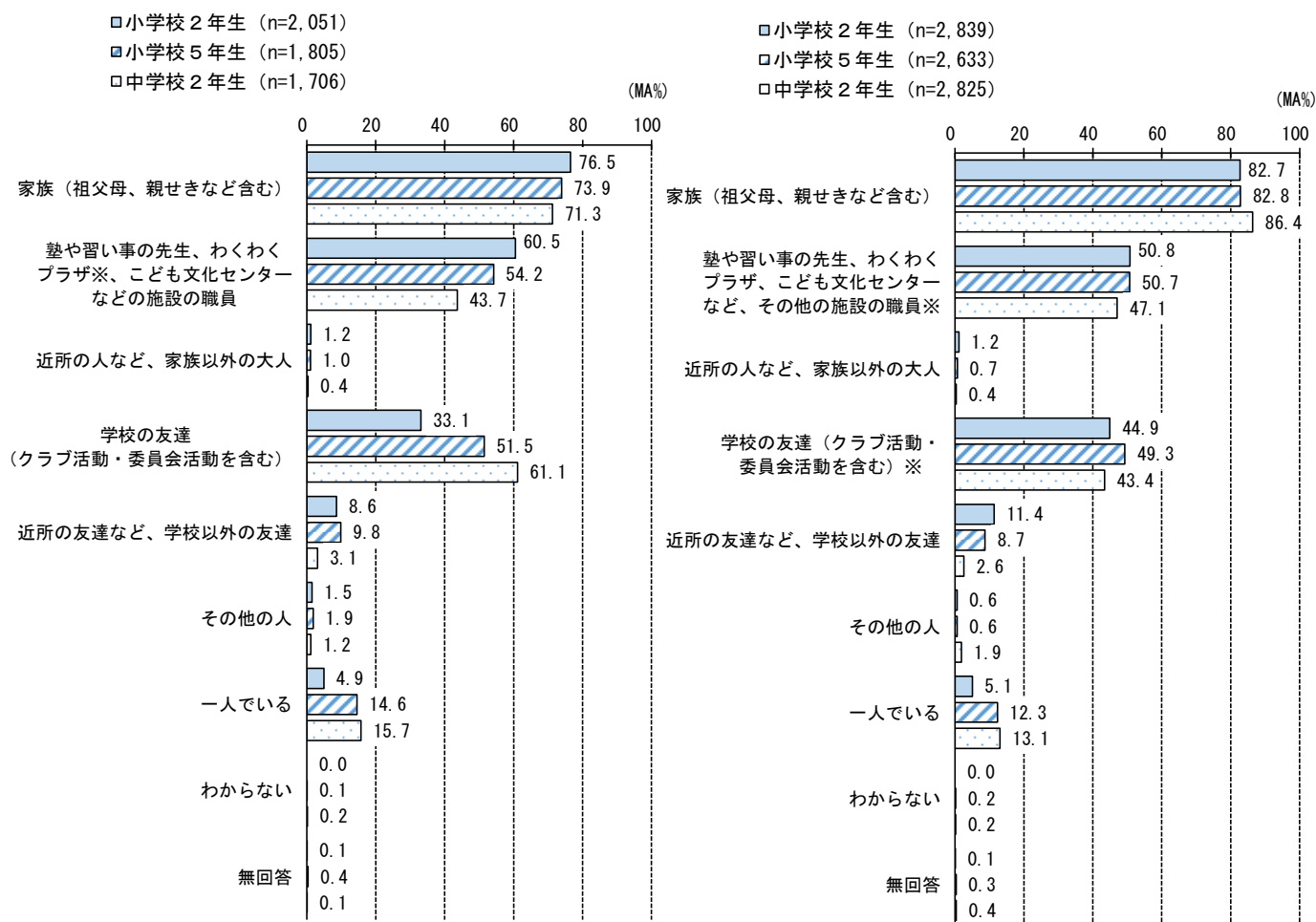
子どもが放課後一緒に過ごす人を複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「家族（祖父母、親せきなど含む）」（小学校2年生：76.5%、小学校5年生：73.9%、中学校2年生：71.3%）が最も高く、次いで小学校2年生のいる世帯と小学校5年生のいる世帯では「塾や習い事の先生、わくわくプラザ、こども文化センターなどの施設の職員」（小学校2年生：60.5%、小学校5年生：54.2%）、「学校の友達（クラブ活動、委員会活動を含む）」（小学校2年生：33.1%、小学校5年生：51.5%）、中学校2年生のいる世帯では「学校の友達（クラブ活動、委員会活動を含む）」が61.1%、「塾や習い事の先生、こども文化センターなどの施設の職員」が43.7%となっている。

経年でみると、小学校2年生のいる世帯では「塾や習い事の先生、わくわくプラザ、こども文化センターなどの施設の職員」が前回調査に比べて高く、中学校2年生のいる世帯では「学校の友達（クラブ活動、委員会活動を含む）」が前回調査に比べて高くなっている。一方、いずれの学年も「家族（祖父母、親せきなど含む）」が前回調査に比べて低く、小学校2年生のいる世帯では「学校の友達（クラブ活動、委員会活動を含む）」が前回調査に比べて低くなっている。

【図表 3-613 子どもが放課後一緒に過ごす人（複数回答）】

<今回調査>

<前回調査>



※中学校2年生：
「塾や習い事の先生、こども文化センターなどの施設の職員」

※中学校2年生：
「塾や習い事の先生、こども文化センターなど、
その他の施設の職員」
「学校の友達・先輩・後輩」

小学校2年生の子どもが放課後一緒に過ごす人を世帯構成別にみると、「家族（祖父母、親せきなど含む）」は『ふたり親親族同居』が87.6%と、全体に比べて高くなっている。一方、「塾や習い事の先生、わくわくプラザ、こども文化センターなどの施設の職員」は『ふたり親親族同居』が42.9%と、全体に比べて低くなっている。

所得分類別にみると、「家族（祖父母、親せきなど含む）」は『分類Ⅰ』が86.1%と全体に比べて高くなっている。「塾や習い事の先生、わくわくプラザ、こども文化センターなどの施設の職員」は『分類Ⅰ』が38.0%、『分類Ⅱ』が47.7%と全体に比べて低くなっている。「学校の友達（クラブ活動・委員会活動を含む）」は『分類Ⅰ』が39.2%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「家族（祖父母、親せきなど含む）」は前回調査に比べて『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』で低く、『ひとり親核家族』で高くなっている。「塾や習い事の先生、わくわくプラザ、こども文化センターなどの施設の職員」は、いずれの世帯でも高く、「学校の友達（クラブ活動・委員会活動を含む）」は、いずれの世帯でも低くなっている。

所得分類別では「家族（祖父母、親せきなど含む）」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高く、『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低くなっている。「塾や習い事の先生、わくわくプラザ、こども文化センターなどの施設の職員」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低く、『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて高くなっている。「学校の友達（クラブ活動・委員会活動を含む）」は『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低く、「近所の友達など、学校以外の友達」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。「一人である」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

<今回・前回調査>【図表 3-614 子どもが放課後一緒に過ごす人（複数回答）】
（小学校2年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

			母数 (n)	家族 （祖 父母、 親せ きなど 含む）	塾や 習い 事の 先生、 文化 セン ター などの 施設の 職員	近 所 の人 など、 家族 以外 の 大 人	学 校 の 友 達 （ク ラ ブ 活 動・ 委員 会 活 動 を 含む）	近 所 の 友 達 な ど、 学 校 以 外 の 友 達	そ の 他 の 人	一 人 で い る	わ か ら な い
今回調査	全体		2,048	76.6	60.5	1.2	33.2	8.6	1.5	4.9	-
	世帯構成	ふたり親核家族	1,844	75.8	61.9	1.2	32.9	8.8	1.5	5.2	-
		ふたり親親族同居	105	△ 87.6	▼ 42.9	1.0	35.2	5.7	1.0	1.0	-
		ひとり親核家族	61	73.8	57.4	-	31.1	8.2	1.6	4.9	-
		ひとり親親族同居	33	△ 90.9	▼ 51.5	-	△ 42.4	12.1	3.0	3.0	-
	所得分類	分類Ⅰ	79	△ 86.1	▼ 38.0	2.5	△ 39.2	5.1	2.5	2.5	-
		分類Ⅱ	218	76.6	▼ 47.7	0.9	37.2	10.6	1.8	2.8	-
		分類Ⅲ	1,652	75.5	64.0	1.0	32.1	8.7	1.5	5.4	-
前回調査	全体		2,836	82.8	50.8	1.2	45.0	11.4	0.6	5.1	-
	世帯構成	ふたり親核家族	2,569	83.0	51.8	1.3	45.2	11.4	0.6	5.1	-
		ふたり親親族同居	100	△ 96.0	▼ 33.0	-	△ 52.0	9.0	-	3.0	-
		ひとり親核家族	115	▼ 65.2	50.4	0.9	▼ 38.3	7.8	-	8.7	-
		ひとり親親族同居	30	△ 93.3	46.7	-	▼ 40.0	△ 26.7	3.3	3.3	-
	所得分類	分類Ⅰ	95	▼ 74.7	47.4	-	▼ 40.0	11.6	-	9.5	-
		分類Ⅱ	460	85.2	▼ 36.7	1.1	48.3	11.3	0.4	3.3	-
		分類Ⅲ	2,112	83.0	54.5	1.3	43.8	11.5	0.6	5.2	-

小学校5年生の子どもが放課後一緒に過ごす人を世帯構成別にみると、「家族（祖父母、親せきなど含む）」は『ふたり親親族同居』が86.7%と全体に比べて高く、『ひとり親核家族』が57.9%と全体に比べて低くなっている。「塾や習い事の先生、わくわくプラザ、こども文化センターなどの施設の職員」は『ひとり親核家族』が42.1%と全体に比べて低くなっている。また、「一人でいる」は『ふたり親親族同居』が7.2%と全体に比べて低く、『ひとり親核家族』が24.2%と全体に比べて高くなっている。

所得分類別にみると、「塾や習い事の先生、わくわくプラザ、こども文化センターなどの施設の職員」は『分類Ⅰ』が35.0%、『分類Ⅱ』が41.1%と全体に比べて低くなっている。「近所の人など、家族以外の大人」は『分類Ⅰ』が6.7%と全体に比べて高くなっている。「学校の友達（クラブ活動・委員会活動を含む）」は『分類Ⅱ』が58.9%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「家族（祖父母、親せきなど含む）」は、『ふたり親核家族』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて低く、「塾や習い事の先生、わくわくプラザ、こども文化センターなどの施設の職員」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高く、「学校の友達（クラブ活動・委員会活動を含む）」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

所得分類別では「家族（祖父母、親せきなど含む）」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて低くなっている。『分類Ⅰ』では「塾や習い事の先生、わくわくプラザ、こども文化センターなどの施設の職員」「近所の人など、家族以外の大人」が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

＜今回・前回調査＞【図表 3-615 子どもが放課後一緒に過ごす人（複数回答）】

（小学校５年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	家族（祖 父母、親 せきなど 含む）	塾や習い 事、文化 センター などの施 設の職員	近所の人 など、家 族以外の 大人	学校の友 達（クラ ブ活動・ 委員会活 動を含む）	近所の友 達など、 学校以外 の友達	その他の 人	一人 でいる	わ か ら な い
今回調査	全体	1,797	74.2	54.4	1.0	51.8	9.8	1.9	14.6	0.1
	世帯構成									
	ふたり親核家族	1,596	74.5	55.5	1.0	51.3	9.8	1.8	14.6	0.1
	ふたり親親族同居	83	△ 86.7	51.8	－	56.6	10.8	2.4	▼ 7.2	－
	ひとり親核家族	95	▼ 57.9	▼ 42.1	2.1	55.8	9.5	2.1	△ 24.2	－
	ひとり親親族同居	21	△ 81.0	▼ 42.9	－	△ 57.1	▼ 4.8	4.8	▼ 4.8	－
	所得分類									
	分類Ⅰ	60	78.3	▼ 35.0	△ 6.7	50.0	11.7	3.3	16.7	－
前回調査	分類Ⅱ	207	72.0	▼ 41.1	1.4	△ 58.9	7.7	1.4	13.0	－
	分類Ⅲ	1,454	74.1	57.0	0.7	50.6	10.0	1.9	14.9	0.1
	全体	2,625	83.0	50.8	0.7	49.4	8.8	0.6	12.3	0.2
	世帯構成									
	ふたり親核家族	2,300	83.3	52.9	0.7	49.5	8.7	0.7	12.1	0.2
	ふたり親親族同居	113	△ 90.3	▼ 39.8	－	53.1	11.5	0.9	8.0	－
	ひとり親核家族	141	▼ 70.2	▼ 31.9	1.4	49.6	5.0	－	△ 21.3	0.7
	ひとり親親族同居	46	87.0	▼ 45.7	－	▼ 39.1	△ 15.2	－	▼ 6.5	－
今回調査	所得分類									
	分類Ⅰ	93	83.9	▼ 19.4	1.1	49.5	11.8	1.1	11.8	－
	分類Ⅱ	367	81.7	▼ 36.8	0.8	▼ 56.7	7.6	0.5	11.2	－
前回調査	分類Ⅲ	1,959	83.0	55.3	0.6	48.6	8.5	0.7	12.6	0.2

中学校2年生の子どもが放課後一緒に過ごす人を世帯構成別にみると、「家族（祖父母、親せきなど含む）」は『ふたり親親族同居』が80.2%と全体に比べて高くなっている。一方、「塾や習い事の先生、わくわくプラザ、こども文化センターなどの施設の職員」は『ひとり親核家族』が31.1%と全体に比べて低くなっている

所得分類別にみると、「家族（祖父母、親せきなど含む）」は『分類Ⅰ』が81.5%と全体に比べて高くなっている。「塾や習い事の先生、わくわくプラザ、こども文化センターなどの施設の職員」は『分類Ⅰ』が25.9%、『分類Ⅱ』が33.9%と全体に比べて低く、「学校の友達（部活動・委員会活動を含む）」は『分類Ⅰ』が50.0%と全体に比べて低くなっている。また、「一人である」は『分類Ⅰ』が5.6%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「家族（祖父母、親せきなど含む）」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』で前回調査より低く、「塾や習い事の先生、わくわくプラザ、こども文化センターなどの施設の職員」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』で低く、「学校の友達（部活動・委員会活動を含む）」はいずれの世帯でも前回調査に比べて高くなっている。

所得分類別では「家族（祖父母、親せきなど含む）」は『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低くなっている。「塾や習い事の先生、わくわくプラザ、こども文化センターなどの施設の職員」は『分類Ⅰ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低くなっている。「学校の友達（部活動・委員会活動を含む）」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

中学校2年生は前回調査の選択肢が異なるため、参考値とする。

<今回・前回調査>【図表 3-616 子どもが放課後一緒に過ごす人（複数回答）】

（中学校2年生・世帯構成別、所得分類別）

			母数 (n)	家族 (祖父母、 親せきなど 含む)	塾や習 い事の 先生、こ どもの 施設	近 所の人 など、 家族以 外の	学 校の友 達（部 活動・ 委員 会）	近 所 の友 達な ど、 学 校以 外	そ の 他 の 人	一 人 で い る	わ か ら な い
今回調査	全体		1,705	71.4	43.7	0.4	61.2	3.1	1.2	15.7	0.2
	世帯構成	ふたり親核家族	1,481	70.7	44.8	0.4	61.7	3.0	1.3	15.9	0.2
		ふたり親親族同居	86	△ 80.2	44.2	-	60.5	5.8	1.2	11.6	-
		ひとり親核家族	103	72.8	▼ 31.1	-	57.3	2.9	1.0	17.5	-
		ひとり親親族同居	30	△ 80.0	▼ 26.7	-	▼ 50.0	-	-	▼ 6.7	-
		分類Ⅰ	54	△ 81.5	▼ 25.9	-	▼ 50.0	3.7	1.9	▼ 5.6	-
		分類Ⅱ	180	73.9	▼ 33.9	-	57.2	5.0	0.6	13.9	-
		分類Ⅲ	1,383	70.4	45.8	0.4	62.6	3.0	1.3	16.6	0.2
前回調査	全体		2,813	86.8	47.3	0.4	43.5	2.6	1.9	13.2	0.2
	世帯構成	ふたり親核家族	2,347	87.7	48.7	0.4	43.8	2.6	1.8	12.4	0.2
		ふたり親親族同居	121	△ 92.6	49.6	-	46.3	1.7	1.7	10.7	-
		ひとり親核家族	252	▼ 76.2	▼ 36.9	0.4	41.3	2.8	2.4	△ 20.2	0.4
		ひとり親親族同居	44	90.9	▼ 36.4	-	40.9	4.5	-	15.9	-
		分類Ⅰ	140	84.3	▼ 33.6	1.4	40.7	3.6	2.9	9.3	1.4
		分類Ⅱ	464	85.6	▼ 34.9	0.9	40.7	2.2	1.9	12.9	0.2
		分類Ⅲ	1,926	87.1	51.8	0.2	45.4	2.8	1.8	13.6	0.1

単位：%

② 子どもが放課後過ごす場所【問3 b】(MA)

子どもが放課後過ごす場所を複数回答で聞いたところ、いずれの学年でも「自分の家・祖父母や親戚の家」(小学校2年生:77.0%、小学校5年生:80.9%、中学校2年生:78.4%)が最も高く、次いで小学校2年生のいる世帯と小学校5年生のいる世帯では「塾や習い事(スポーツの教室など含む)」(小学校2年生:42.9%、小学校5年生:57.1%)、中学校2年生のいる世帯では、「学校(クラブ活動・委員会活動を含む)」が52.4%、「塾や習い事(スポーツの教室など含む)」が46.7%となっている。

経年でみると、「自分の家・祖父母や親せきの家」はいずれの学年でも前回調査に比べて低くなっている。「こども文化センター」は小学校5年生のいる世帯が前回調査に比べて高くなっている。「公園」は小学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて低くなっている。「学校(クラブ活動・委員会活動を含む)」は中学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて高くなっている。「わくわくプラザ」は小学校2年生のいる世帯が前回調査に比べて高くなっている。

なお、前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

【図表 3-617 子どもが放課後過ごす場所（複数回答）】

<今回調査>

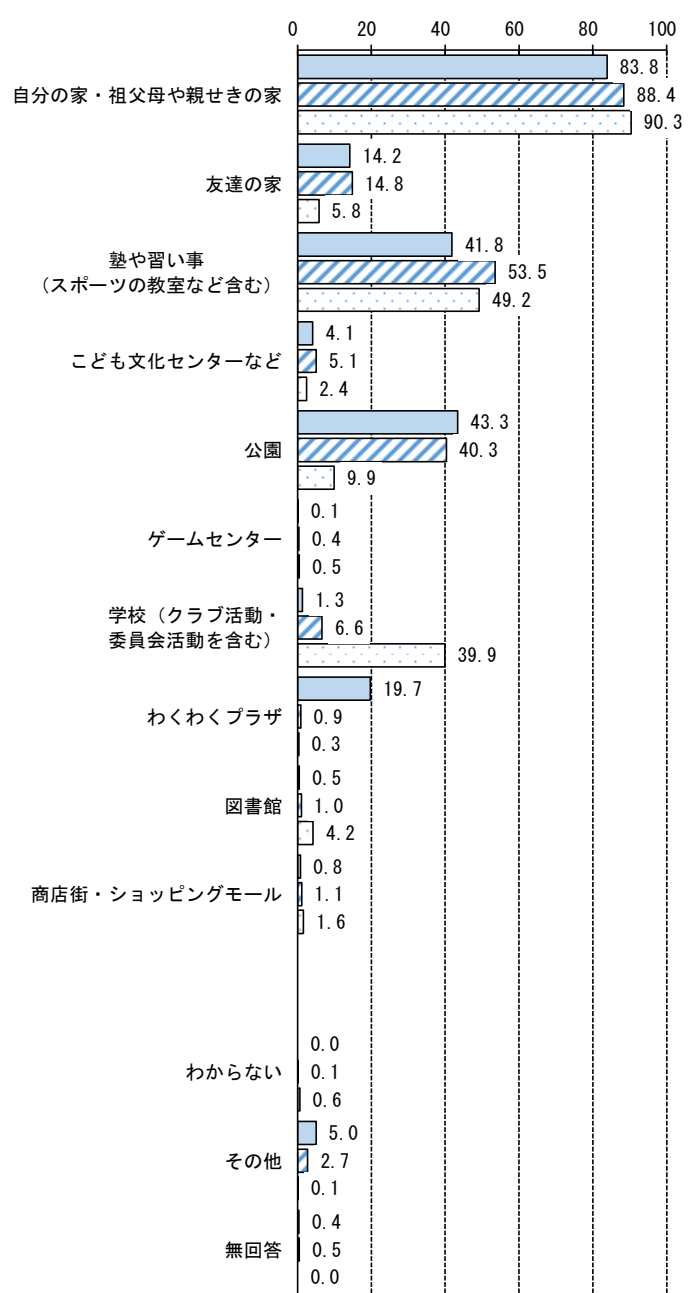
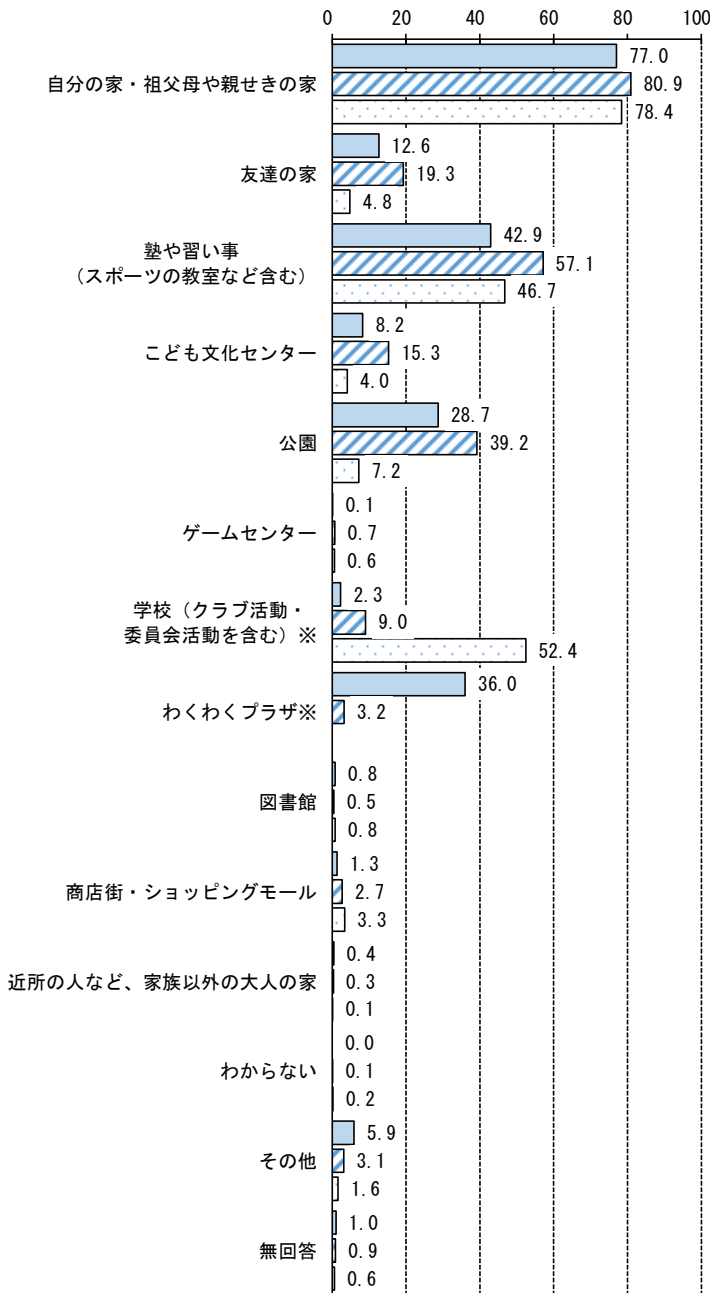
<前回調査>

□小学校2年生（n=2,051）
 ■小学校5年生（n=1,805）
 □中学校2年生（n=1,706）

□小学校2年生（n=2,839）
 ■小学校5年生（n=2,633）
 □中学校2年生（n=2,825）

(MA%)

(MA%)



※中学校2年生：「学校（部活動・委員会活動を含む）」、
 ※「わくわくプラザ」は中学校2年生の選択肢にはない

小学校2年生の子どもが放課後過ごす場所を世帯構成別にみると、「自分の家・祖父母や親せきの家」は『ふたり親親族同居』が86.5%、「友達の家」は『ふたり親親族同居』が18.3%、「公園」は『ふたり親親族同居』が34.6%と、それぞれ全体に比べて高くなっている。一方、「塾や習い事（スポーツの教室など含む）」は『ふたり親親族同居』で34.6%、『ひとり親核家族』28.3%、「わくわくプラザ」は『ふたり親親族同居』が21.2%と、それぞれ全体に比べて低くなっている。

所得分類別にみると、「自分の家・祖父母や親せきの家」は『分類Ⅰ』が83.5%と全体に比べて高く、「公園」は『分類Ⅰ』が41.8%、『分類Ⅱ』が37.5%と全体に比べて高くなっている。「塾や習い事（スポーツの教室など含む）」は『分類Ⅰ』が20.3%、『分類Ⅱ』が30.1%と全体に比べて低く、「わくわくプラザ」は『分類Ⅱ』が30.1%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、世帯分類別では「自分の家・祖父母や親せきの家」は『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高く、『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低くなっている。「公園」はいずれの世帯でも前回調査に比べて低く、「わくわくプラザ」はいずれの世帯でも前回調査に比べて高くなっている。

所得分類別では「自分の家・祖父母や親せきの家」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高く、『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低くなっている。「塾や習い事（スポーツの教室など含む）」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて低くなっている。「こども文化センター」は『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。「公園」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて低く、「わくわくプラザ」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-618 子どもが放課後過ごす場所（複数回答）】
（小学校２年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	自分の家・祖 父母や親せき の家	友 達の 家	塾や習い事 （スポー ツの教室 など含む）	こ ども 文化セ ンター	公 園	ゲ ー ム セ ン ター	学 校（クラ ブ活動・ 委員会活 動 を含む）	わ く わ く プラ ザ	図 書 館	商 店 街・シ ョッピ ングモ ール	近 所の人 など、 家族以 外の大 人	わ か ら な い	そ の 他
	全体	2,031	77.7	12.7	43.3	8.3	29.0	0.1	2.3	36.3	0.8	1.3	0.4	-	6.0
世帯 構成	ふたり親核家族	1,829	77.0	12.2	44.7	8.3	28.5	0.2	2.4	37.1	0.9	1.4	0.4	-	6.3
	ふたり親親族同居	104	△ 86.5	△ 18.3	▼ 34.6	8.7	△ 34.6	-	1.9	▼ 21.2	-	1.0	-	-	1.9
	ひとり親核家族	60	78.3	11.7	▼ 28.3	10.0	30.0	-	-	40.0	-	-	-	-	3.3
	ひとり親親族同居	33	△ 87.9	△ 24.2	▼ 24.2	6.1	△ 36.4	-	6.1	33.3	-	3.0	-	-	6.1
所得 分類	分類Ⅰ	79	△ 83.5	16.5	▼ 20.3	8.9	△ 41.8	-	2.5	34.2	-	2.5	-	-	2.5
	分類Ⅱ	216	75.5	13.0	▼ 30.1	11.1	△ 37.5	-	1.9	▼ 30.1	0.5	0.5	0.9	-	4.6
	分類Ⅲ	1,637	77.2	12.1	46.4	7.9	26.8	0.2	2.4	37.7	0.9	1.5	0.4	-	6.6

＜前回調査＞【図表 3-619 子どもが放課後過ごす場所（複数回答）】
（小学校２年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	自分の家・祖 父母や親せき の家	友 達の 家	塾や習い事 （スポー ツの教室 など含む）	こ ども 文化セ ンター など	公 園	ゲ ー ム セ ン ター	学 校（クラ ブ活動・ 委員会活 動 を含む）	わ く わ く プラ ザ	図 書 館	商 店 街・シ ョッピ ングモ ール		わ か ら な い	そ の 他
	全体	2,827	84.2	14.2	42.0	4.1	43.4	0.1	1.3	19.8	0.5	0.8		-	5.0
世帯 構成	ふたり親核家族	2,562	84.5	13.9	43.5	4.1	43.5	0.1	1.2	19.5	0.5	0.8		-	5.3
	ふたり親親族同居	99	△ 96.0	△ 21.2	▼ 31.3	6.1	△ 49.5	-	4.0	▼ 10.1	-	1.0		-	1.0
	ひとり親核家族	114	▼ 67.5	14.0	▼ 24.6	2.6	39.5	-	0.9	△ 34.2	-	-		-	1.8
	ひとり親親族同居	30	△ 90.0	△ 23.3	40.0	3.3	40.0	-	-	△ 26.7	-	3.3		-	-
所得 分類	分類Ⅰ	95	▼ 76.8	14.7	▼ 29.5	4.2	47.4	-	4.2	△ 25.3	1.1	-		-	1.1
	分類Ⅱ	456	85.5	15.8	▼ 27.0	3.9	48.2	0.2	2.0	17.8	-	1.5		-	2.9
	分類Ⅲ	2,107	84.4	13.8	46.0	3.9	41.4	0.1	1.0	20.4	0.6	0.7		-	5.6

小学校5年生の子どもが放課後過ごす場所を世帯構成別にみると、「自分の家・祖父母や親せきの家」は『ふたり親親族同居』で86.6%、「学校（クラブ活動・委員会活動を含む）」は『ふたり親親族同居』が14.6%、『ひとり親核家族』は「こども文化センター」22.6%、「公園」は51.6%で全体に比べて高くなっている。一方、「友達の家」は『ひとり親核家族』が14.0%、「塾や習い事（スポーツの教室など含む）」は『ひとり親核家族』が44.1%と、それぞれ全体に比べて低くなっている。

所得分類別にみると、「友達の家」は『分類Ⅰ』が14.5%と全体に比べて低く、「塾や習い事（スポーツの教室など含む）」は『分類Ⅰ』が37.1%、『分類Ⅱ』が44.3%と全体に比べて低くなっている。「こども文化センター」は『分類Ⅰ』が21.0%と全体に比べて高く、「公園」は『分類Ⅰ』が50.0%、『分類Ⅱ』が45.3%と全体に比べて高くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「自分の家・祖父母や親せきの家」は『ふたり親核家族』が前回調査に比べて低く、「塾や習い事（スポーツの教室など含む）」は『ふたり親親族同居』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高く、「公園」は『ひとり親核家族』、「こども文化センター」はいずれの世帯でも前回調査に比べて高くなっている。

所得分類別では「自分の家・祖父母や親せきの家」は『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低くなっている。「塾や習い事（スポーツの教室など含む）」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。「こども文化センター」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて高くなっている。「わくわくプラザ」は『分類Ⅰ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-620 子どもが放課後過ごす場所（複数回答）】
（小学校５年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	自分の家・祖 父母や親せき の家	友 達の 家	塾や習い事 （スポー ツの教室 など含む）	こ ども 文化 セン ター	公 園	ゲ ー ム セ ン タ ー	学 校 （ク ラ ブ 活 動・ 委 員 会 活 動 を 含 む）	わ く わ く プ ラ ザ	図 書 館	商 店 街・ ショ ッ ピ ン グ モ ー ル	近 所 の 人 な ど、 家 族 以 外 の 大 人	わ か ら な い	そ の 他
	全体	1,789	81.6	19.5	57.6	15.5	39.5	0.7	9.1	3.2	0.5	2.7	0.3	0.1	3.1
世帯 構成	ふたり親核家族	1,590	81.6	19.9	58.6	14.7	38.6	0.7	8.9	2.8	0.5	2.8	0.3	0.1	3.0
	ふたり親親族同居	82	△ 86.6	17.1	57.3	18.3	43.9	－	△ 14.6	6.1	－	1.2	－	－	4.9
	ひとり親核家族	93	77.4	▼ 14.0	▼ 44.1	△ 22.6	△ 51.6	2.2	7.5	5.4	1.1	2.2	1.1	－	2.2
	ひとり親親族同居	22	81.8	22.7	▼ 45.5	△ 31.8	△ 45.5	－	9.1	△ 9.1	－	△ 9.1	－	－	△ 9.1
所得 分類	分類Ⅰ	62	85.5	▼ 14.5	▼ 37.1	△ 21.0	△ 50.0	－	9.7	8.1	－	4.8	1.6	－	3.2
	分類Ⅱ	203	78.8	21.7	▼ 44.3	20.2	△ 45.3	－	9.4	4.9	－	0.5	－	0.5	2.5
	分類Ⅲ	1,449	81.6	19.0	60.2	14.3	38.7	0.8	9.0	2.8	0.6	2.9	0.3	－	3.3

＜前回調査＞【図表 3-621 子どもが放課後過ごす場所（複数回答）】
（小学校５年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	自分の家・祖 父母や親せき の家	友 達の 家	塾や習い事 （スポー ツの教室 など含む）	こ ども 文化 セン ター など	公 園	ゲ ー ム セ ン タ ー	学 校 （ク ラ ブ 活 動・ 委 員 会 活 動 を 含 む）	わ く わ く プ ラ ザ	図 書 館	商 店 街・ ショ ッ ピ ン グ モ ー ル		わ か ら な い	そ の 他
	全体	2,621	88.8	14.8	53.8	5.1	40.5	0.4	6.6	0.9	1.0	1.1		0.1	2.7
世帯 構成	ふたり親核家族	2,298	89.2	15.1	56.3	5.1	40.0	0.3	6.7	0.7	1.0	1.1		－	2.7
	ふたり親親族同居	113	91.2	18.6	▼ 40.7	3.5	43.4	1.8	9.7	1.8	0.9	－		－	5.3
	ひとり親核家族	139	▼ 81.3	10.1	▼ 31.7	7.2	43.9	0.7	3.6	0.7	1.4	1.4		0.7	1.4
	ひとり親親族同居	46	89.1	13.0	▼ 43.5	2.2	△ 45.7	2.2	6.5	△ 8.7	－	2.2		－	2.2
所得 分類	分類Ⅰ	93	87.1	16.1	▼ 24.7	1.1	△ 48.4	2.2	9.7	2.2	2.2	4.3		－	1.1
	分類Ⅱ	367	89.4	18.8	▼ 39.5	7.9	△ 48.2	0.5	5.7	2.5	－	1.4		－	1.9
	分類Ⅲ	1,957	88.7	14.1	58.5	4.6	38.8	0.3	6.7	0.6	1.0	0.8		0.1	2.9

中学校2年生の子どもが放課後過ごす場所を世帯構成別にみると、「自分の家・祖父母や親せきの家」は『ふたり親親族同居』が84.9%、「こども文化センター」は『ひとり親核家族』が9.7%、「商店街・ショッピングモール」は『ふたり親親族同居』が9.3%と、全体に比べて高くなっている。一方、「学校（部活動・委員会活動を含む）」は『ふたり親親族同居』が47.7%、『ひとり親核家族』で43.7%と全体に比べ低くなっている。

所得分類別にみると、「塾や習い事（スポーツの教室など含む）」は『分類Ⅰ』が32.1%、『分類Ⅱ』が37.2%と全体に比べて低くなっている。「こども文化センター」は『分類Ⅰ』が9.4%と全体に比べて高くなっている。「学校（部活動・委員会活動を含む）」は『分類Ⅰ』が30.2%、『分類Ⅱ』が43.9%と全体に比べて低くなっている。

経年でみると、世帯構成別では「自分の家・祖父母や親せきの家」は『ふたり親核家族』『ふたり親親族同居』が前回調査に比べて低く、「塾や習い事（スポーツの教室など含む）」は『ふたり親親族同居』が前回調査に比べ低くなっている。「学校（部活動・委員会活動を含む）」は『ふたり親核家族』『ひとり親核家族』が前回調査に比べて高くなっている。

所得分類別では「自分の家・祖父母や親せきの家」はいずれの所得分類でも前回調査に比べて低くなっている。「塾や習い事（スポーツの教室など含む）」は『分類Ⅲ』が前回調査に比べて低くなっている。「こども文化センター」は『分類Ⅰ』『分類Ⅱ』が前回調査に比べて高くなっている。「学校（部活動・委員会活動を含む）」は『分類Ⅱ』『分類Ⅲ』が前回調査に比べて高くなっている。

なお、サンプル数が50に満たないものは参考値とする。

前回調査は選択肢が異なるため、参考値とする。

＜今回調査＞【図表 3-622 子どもが放課後過ごす場所（複数回答）】
（中学校２年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	自分の家・祖父母や親せきの家	友達の家	塾や習い事 （スポーツの教室など含む）	こども文化センター	公園	ゲームセンター	学校 （部活動・委員会活動を含む）	図書館	商店街・ショッピングモール	近所の人など、家族以外の大人	わからない	その他
	全体	1,696	78.9	4.8	46.9	4.1	7.2	0.6	52.7	0.8	3.3	0.1	0.2	1.6
世帯構成	ふたり親核家族	1,473	78.4	4.8	47.9	3.7	6.7	0.5	54.0	0.8	2.9	0.1	0.2	1.3
	ふたり親親族同居	86	△ 84.9	4.7	45.3	3.5	11.6	－	▼ 47.7	1.2	△ 9.3	－	－	5.8
	ひとり親核家族	103	81.6	4.9	▼ 37.9	△ 9.7	9.7	1.9	▼ 43.7	－	5.8	－	－	2.9
	ひとり親親族同居	29	75.9	△ 10.3	▼ 34.5	6.9	6.9	3.4	▼ 37.9	－	－	－	－	－
所得分類	分類Ⅰ	53	79.2	7.5	▼ 32.1	△ 9.4	11.3	1.9	▼ 30.2	－	7.5	－	－	1.9
	分類Ⅱ	180	80.6	5.6	▼ 37.2	7.2	11.1	1.1	▼ 43.9	1.1	3.9	－	－	1.7
	分類Ⅲ	1,375	78.5	4.7	48.8	3.6	6.6	0.5	55.1	0.8	3.2	0.1	0.2	1.6

＜前回調査＞【図表 3-623 子どもが放課後過ごす場所（複数回答）】
（中学校２年生・世帯構成別、所得分類別）

単位：％

		母数 (n)	自分の家・祖父母や親せきの家	友達の家	塾や習い事 （スポーツの教室など含む）	こども文化センターなど	公園	ゲームセンター	学校 （部活動を含む）	図書館	商店街・ショッピングモール		わからない	その他
	全体	2,808	90.9	5.8	49.5	2.4	10.0	0.5	40.1	0.3	4.2		0.1	1.6
世帯構成	ふたり親核家族	2,343	91.3	5.4	51.0	2.2	9.5	0.5	41.6	0.3	3.9		0.1	1.6
	ふたり親親族同居	121	94.2	5.0	52.1	1.7	14.0	0.8	44.6	－	7.4		－	2.5
	ひとり親核家族	252	▼ 84.9	9.5	▼ 38.5	4.8	12.7	0.4	▼ 28.2	－	5.2		0.4	1.6
	ひとり親親族同居	44	95.5	△ 11.4	▼ 34.1	－	6.8	－	▼ 27.3	－	6.8		－	2.3
所得分類	分類Ⅰ	139	88.5	7.2	▼ 34.5	2.2	11.5	0.7	▼ 30.9	－	5.0		1.4	－
	分類Ⅱ	464	90.3	7.5	▼ 35.6	1.9	10.8	0.4	36.0	0.2	5.4		0.2	1.1
	分類Ⅲ	1,924	90.7	5.4	△ 54.8	2.3	9.8	0.5	43.2	0.3	4.2		－	1.9

※ページ調整のため余白